

SAS[®] 9.3 Output Delivery System ユーザーガイド

The correct bibliographic citation for this manual is as follows: SAS Institute Inc. 2011. *SAS® 9.3 Output Delivery System: ユーザーガイド*. Cary, NC: SAS Institute Inc.

SAS® 9.3 Output Delivery System: ユーザーガイド

Copyright © 2011, SAS Institute Inc., Cary, NC, USA

All rights reserved. Produced in the United States of America.

For a hardcopy book: No part of this publication may be reproduced, stored in a retrieval system, or transmitted, in any form or by any means, electronic, mechanical, photocopying, or otherwise, without the prior written permission of the publisher, SAS Institute Inc.

For a Web download or e-book: Your use of this publication shall be governed by the terms established by the vendor at the time you acquire this publication.

The scanning, uploading, and distribution of this book via the Internet or any other means without the permission of the publisher is illegal and punishable by law. Please purchase only authorized electronic editions and do not participate in or encourage electronic piracy of copyrighted materials. Your support of others' rights is appreciated.

U.S. Government Restricted Rights Notice: Use, duplication, or disclosure of this software and related documentation by the U.S. government is subject to the Agreement with SAS Institute and the restrictions set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software-Restricted Rights (June 1987).

SAS Institute Inc., SAS Campus Drive, Cary, North Carolina 27513.

Electronic book 1, 2011 July

SAS® Publishing provides a complete selection of books and electronic products to help customers use SAS software to its fullest potential. For more information about our e-books, e-learning products, CDs, and hard-copy books, visit the SAS Publishing Web site at support.sas.com/publishing or call 1-800-727-3228.

SAS® and all other SAS Institute Inc. product or service names are registered trademarks or trademarks of SAS Institute Inc. in the USA and other countries. ® indicates USA registration.

Other brand and product names are registered trademarks or trademarks of their respective companies.

目次

このドキュメントについて.....	vii
Output Delivery System の新機能.....	xi
Output Delivery System のユーザー補助.....	xvii
推奨資料.....	xix

1 部 概要 1

1 章・SAS 9.3 の新しい出力デフォルト	3
SAS 9.3 の出力デフォルトの操作.....	3
追加情報.....	7
2 章・入門ガイド: Output Delivery System	9
Output Delivery System へようこそ.....	9
クイックスタート: ODS の使い方.....	9
追加情報.....	15

2 部 概念 17

3 章・Output Delivery System: 基本概念	19
Output Delivery System へようこそ.....	20
ODS サンプルのギャラリー.....	20
ODS の機能の概要.....	31
ODS 出力先について.....	33
テーブルテンプレート、テーブル要素、テーブル属性について.....	38
スタイル、スタイル要素、スタイル属性について.....	39
アイテムストア、テンプレートストア、ディレクトリについて.....	43
ODS の SAS レジストリ設定の変更.....	44
カスタマイズされた ODS 出力.....	49
ODS の概要.....	52

3 部 Output Delivery System と DATA ステップ 55

4 章・DATA ステップでの ODS の使用	57
DATA ステップでの ODS の使用.....	57
DATA ステップでの ODS の機能.....	58
DATA ステップでの ODS 拡張機能の構文.....	59
ディクショナリ.....	59
例.....	72

4 部 ODS ステートメント 93

5 章・ODS 言語ステートメントについて	95
ODS ステートメントの定義.....	95
ODS ステートメントの種類.....	95
6 章・ODS 言語ステートメントの字引	97
ODS ステートメントのカテゴリ説明.....	98
カテゴリ別の ODS ステートメント.....	98
ディクショナリ.....	103
5 部 ODS のシステムオプション 743	
7 章・ODS のシステムオプション	745
ディクショナリ.....	745
6 部 DOCUMENT プロシジャ 749	
8 章・DOCUMENT プロシジャ	751
概要: DOCUMENT プロシジャ.....	752
概念: DOCUMENT プロシジャ.....	753
構文: DOCUMENT プロシジャ.....	757
グラフィックの再表示.....	801
BY 変数を使用したラベル、タイトル、フットノートのカスタマイズ.....	801
結果: DOCUMENT プロシジャ.....	803
例: DOCUMENT プロシジャ.....	810
7 部 TEMPLATE プロシジャ 839	
9 章・TEMPLATE プロシジャ: 概要	841
TEMPLATE プロシジャについて.....	841
構文: TEMPLATE プロシジャ: 概要.....	845
TEMPLATE プロシジャの使用.....	846
カテゴリ別の PROC TEMPLATE ステートメント.....	852
追加情報.....	853
10 章・TEMPLATE プロシジャ: テンプレートストアの管理	855
概要: テンプレートストア.....	855
概念: テンプレートストアおよび TEMPLATE プロシジャ.....	856
構文: TEMPLATE プロシジャ: テンプレートストアの管理.....	858
例: TEMPLATE プロシジャ: テンプレートストアの管理.....	871
11 章・TEMPLATE プロシジャ: クロス集計表テンプレートの作成	877
概要: ODS クロス集計表テンプレート.....	877
概念: クロス集計表出力と TEMPLATE プロシジャ.....	881
構文: TEMPLATE プロシジャ: クロス集計表テンプレートの作成.....	882
クロス集計表のテンプレートの使用.....	903
例: TEMPLATE プロシジャ: クロス集計表テンプレートの作成.....	905
12 章・TEMPLATE プロシジャ: ODS グラフの作成	935
グラフテンプレート言語について.....	935

構文: TEMPLATE プロシジャ: ODS グラフの作成	938
追加情報	938
13 章・TEMPLATE プロシジャ: スタイルテンプレートの作成	941
概要: ODS スタイルテンプレート	942
概念: スタイルと TEMPLATE プロシジャ	944
構文: TEMPLATE プロシジャ: スタイルテンプレートの作成	957
スタイル属性の概要	968
スタイル属性テーブル	969
すべてのスタイル属性の詳細情報	978
スタイル属性値	1004
例: TEMPLATE プロシジャ: スタイルテンプレートの作成	1008
14 章・TEMPLATE プロシジャ: テーブルテンプレートの作成	1059
概要: ODS テーブルテンプレート	1060
概念: テーブル出力および TEMPLATE プロシジャ	1063
構文: TEMPLATE プロシジャ: テーブルテンプレートの作成	1064
TEMPLATE プロシジャを使用したテーブル出力の作成	1122
例: TEMPLATE プロシジャ: テーブルテンプレートの作成	1125
15 章・TEMPLATE プロシジャ: マークアップ言語のタグセットの作成	1165
概要: ODS タグセットと TEMPLATE プロシジャ	1166
概念: マークアップ言語と TEMPLATE プロシジャ	1166
構文: TEMPLATE プロシジャ: マークアップ言語のタグセットの作成	1174
イベント変数	1211
イベントステートメントの条件	1216
例: TEMPLATE プロシジャ: マークアップ言語のタグセットの作成	1218
8 部 付録 1245	
付録 1・出力オブジェクトのテーブル名	1247
ODS テーブル名とこれらのテーブルを作成する SAS プロシジャ	1247
ODS テーブル名とこれらのテーブルを作成する Base SAS プロシジャ	1247
ODS テーブル名とこれらのテーブルを作成する SAS/STAT プロシジャ	1257
ODS テーブル名とこれらのテーブルを作成する SAS/ETS プロシジャ	1319
付録 2・サンプルプログラム	1345
ODS サンプルのギャラリからの例	1346
\$COUNTRY 出力形式の作成	1352
Charity データセットの作成	1352
DIVFMT.出力形式と USETYPE.出力形式の作成出力形式	1354
DistrData データセットの作成	1355
単変量の ODS ドキュメントの作成	1355
Employee_Data データセットの作成	1355
Energy データセットの作成	1357
ExpPrev データセットの作成	1358
Gov データセットの作成	1359
Grain_Production データセットの作成	1359
Iron データセットの作成	1360
Model データセットの作成	1361
Neuralgia データセットの作成	1362
Plants データセットの作成	1362
Plant_Stat データセットの作成	1363
StatePop データセットの作成	1363

Stats データセットと Stats2 データセットの作成	1364
Table1 テーブル定義の作成	1365
継承を表すプログラム	1365
付録 3 • ODS 出力先および HTML 出力先	1373
HTML 出力先で作成される HTML リンクと参照	1373
HTML 出力先で作成されるファイル	1378
付録 4 • 異なる動作環境で例を実行する ODS HTML ステートメント	1385
HTML 出力に z/OS UNIX System Services HFS ディレクトリを使用	1385
EBCDIC HTML 出力に z/OS PDSE を使用	1385
ASCII HTML 出力に z/OS PDSE を使用	1386
付録 5 • ODS スタイル要素	1387
一般的な ODS スタイル要素	1387
テンプレートベースのグラフィックに影響するスタイル要素	1398
デバイスベースのグラフィックに影響するスタイル要素	1405
用語集	1415
キーワード	1423

このドキュメントについて

SAS 言語の構文技法

SAS 言語の構文技法概要

SAS では、SAS 言語要素の構文ドキュメントに共通の規則を使用しています。これらの規則により、SAS 構文の構成要素を簡単に識別できます。規則は、次の項目に分類されます。

- 構文の構成要素
- スタイル規則
- 特殊文字
- SAS ライブラリと外部ファイルの参照

構文構成要素

言語要素の多くでは、その構文の構成要素はキーワードと引数から構成されます。キーワードのみ必要な言語要素もあります。また、キーワードに等号(=)が続く言語要素もあります。

キーワード

プログラムの作成時に使用する SAS 言語要素名です。キーワードはリテラルであり、通常、構文の先頭の単語です。CALL ルーチンでは、最初の 2 つの単語がキーワードです。

次の SAS 構文の例では、構文の最初の単語がキーワードです。

```
CHAR (string, position)
CALL RANBIN (seed, n, p, x);
ALTER (alter-password)
BEST w.
REMOVE <data-set-name>
```

次の例では、CALL ルーチンの最初の 2 つの単語がキーワードです。

```
CALL RANBIN(seed, n, p, x)
```

引数なしで 1 つのキーワードから構成される SAS ステートメント構文もあります。

```
DO;
... SAS code ...
END;
```

2つのキーワード値のいずれか1つの指定が必要なシステムオプションもあります。

DUPLEX | NODUPLEX

引数

数値定数、文字定数、変数、式のいずれかです。引数は、キーワードに続くか、キーワードの後ろの等号に続きます。SASでは、引数を使用して、言語要素を処理します。引数が必須の場合もオプションの場合もあります。構文では、オプションの引数にはかぎっこが付けられます。

次の例では、*string* と *position* がキーワード CHAR に続きます。これらの引数は、CHAR 関数の必須引数です。

CHAR (*string*, *position*)

引数ごとに値が指定されます。次の例の SAS コードでは、引数 *string* の値として 'summer'、引数 *position* の値として 4 が指定されています。x=char ('summer', 4);

次の例では、*string* と *substring* は必須引数ですが、*modifiers* と *startpos* はオプションの引数です。

FIND(*string*, *substring* <*modifiers*> <*startpos*>)

注: 通常、SASドキュメントのサンプルコードは、小文字の固定幅フォントを使用して表記されます。コードの作成には、大文字も、小文字も、大文字と小文字の両方も使用できます。

スタイル技法

SAS 構文の説明に使用されるスタイル規則には、大文字太字、大文字、斜体の規則も含まれます。

大文字太字

関数名やステートメント名などの SAS キーワードを示します。次の例では、キーワード ERROR の表記には大文字太字が使用されています。

```
ERROR<message>;
```

大文字

リテラルの引数を示します。

次の CMPMODEL=システムオプションの例では、BOTH、CATALOG、XML がリテラルです。

```
CMPMODEL = BOTH | CATALOG | XML
```

斜体

ユーザー指定の引数または値を示します。斜体表記の項目は、ユーザー指定値であり、次のいずれかを表します。

- 非リテラルの引数。次の LINK ステートメントの例では、引数 *label* はユーザー指定値であるため、斜体で表記されています。

```
LINK label;
```

- 引数に割り当てられる非リテラル値。

次の FORMAT ステートメントの例では、引数 DEFAULT に変数の *default-format* が割り当てられます。

```
FORMAT = variable-1 <, ..., variable-nformat><DEFAULT = default-format>;
```


斜体表記の項目は、選択可能な引数リストの総称でもあります(*attribute-list* など)。複数の斜体表記の項目が使用される場合、項目は *item-1, ..., item-n* という形式で表記されます。

特殊文字

SAS 言語要素の構文には、次の特殊文字も使用されます。

=

等号は、一部の言語要素(システムオプションなど)のリテラル値を示します。

次の MAPS システムオプションの例では、等号は MAPS の値を設定します。

MAPS = *location-of-maps*

<>

かぎかっこはオプションの引数を示します。かぎかっこ付きでない引数は必須引数です。

次の CAT 関数の例では、少なくとも項目が 1 つ必要です。

CAT (*item-1* <, ..., *item-n*>)

|

縦棒は、値グループから 1 つの値を選択できることを示します。縦棒で区切られている値は、相互排他です。

次の CMPMODEL=システムオプションの例では、属性を 1 つのみ選択できます。

CMPMODEL = BOTH | CATALOG | XML

...

省略記号は、省略記号に続く引数や引数グループの繰り返しを示します。省略記号とその後の引数にかぎかっこが付けられている場合、その引数はオプションです。

次の CAT 関数の例では、省略記号はオプションの項目を複数指定できることを示しています。

CAT (*item-1* <, ..., *item-n*>)

'value' or "value"

単一引用符や二重引用符付きの引数は、その値も単一引用符または二重引用符を付ける必要があることを示します。

次の FOOTNOTE ステートメントの例では、引数 *text* には引用符が付けられています。

FOOTNOTE <*n*> <*ods-format-options* 'text' | "text">;

;

セミコロンは、ステートメントまたは CALL ルーチンの終わりを示します。

次の例では、それぞれのステートメントはセミコロンで終了しています。data namegame; length color name \$8; color = 'black'; name = 'jack'; game = trim(color) || name; run;

SAS ライブラリと外部ファイルへの参照

多くの SAS ステートメントなどの言語要素では、SAS ライブラリと外部ファイルを参照します。論理名(ライブラリ参照名またはファイル参照名)から参照を作成するのか、引用符付きの物理ファイル名を使用するかを選択できます。論理名を使用する場合、通

x このドキュメントについて

常、関連付けに SAS ステートメント(LIBNAME または FILENAME)を使用するのか、動作環境のコントロール言語を使用するのかを選択します。複数の方法を使用して、SAS ライブラリと外部ファイルを参照できます。動作環境によっては使用できない方法があります。

SAS ドキュメントでは、外部ファイルを使用する例には斜体のフレーズ *file-specification* を使用します。また、SAS ライブラリを使用する例には斜体フレーズ *SAS-library* を使用します。*SAS-library* は引用符付きであることに注意してください。

```
infile file-specification obs = 100;  
libname libref 'SAS-library';
```

Output Delivery System の新機能

概要

次の拡張機能が Output Delivery System に追加されました。

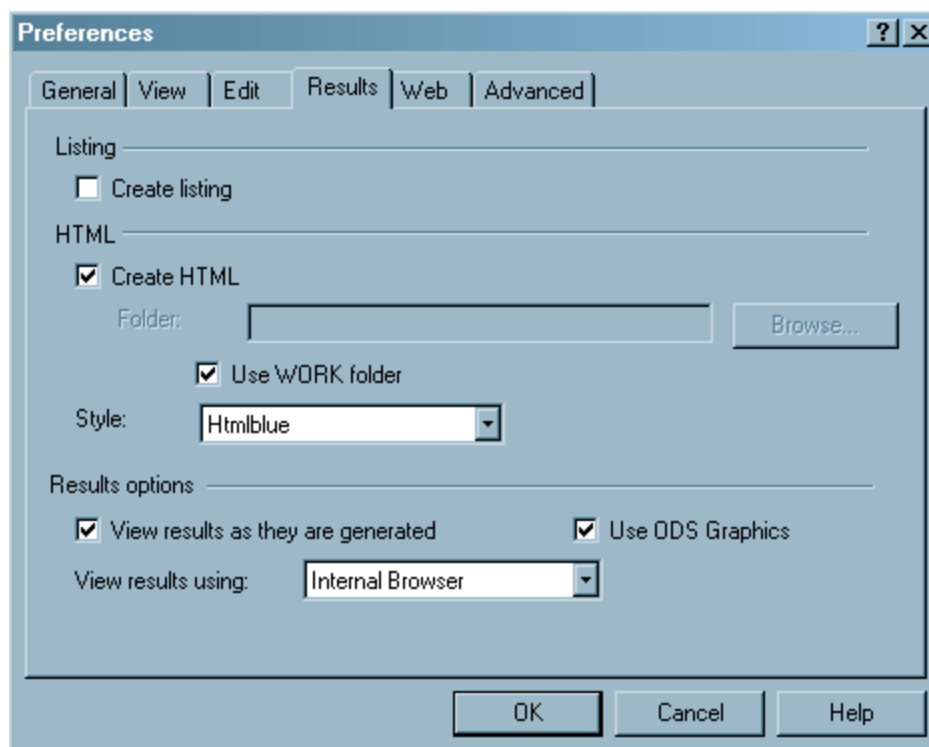
- SAS 9.3 では、Microsoft Windows/UNIX 上の SAS ウィンドウ環境の出力デフォルトが変更されました。
- ODS Graphics Editor、ODS Graphics Designer および ODS Graphics Procedure は、SAS/GRAPH から Base SAS へ移動しました。
- プリンタ、PDF、PS および PCL のデフォルトプリンタ値は SAS レジストリで変更できるようになりました。
- DOCUMENT プロシジャが拡張されました。
- TEMPLATE プロシジャが拡張されました。
- ODS ステートメントが拡張されました。
- 3 つの新しいシステムオプションがあります。

UNIX/Windows 上の SAS ウィンドウ環境の出力デフォルトの変更

SAS ウィンドウ環境の HTML 出力

SAS 9.3 の SAS ウィンドウ環境では、デフォルトの出力先は HTML です。また、ODS Graphics はデフォルトで有効化されています。これらの新しいデフォルト値には、いくつかの利点があります。グラフがテーブルと統合され、すべての出力が新しいスタイルで HTML ファイルに表示されます。この新しいスタイルは、HTMLBlue という、テーブルと最新の統計グラフとが統合された全色スタイルです。この変更に関する詳細については、1 章、「SAS 9.3 の新しい出力デフォルト」(3 ページ)を参照してください。

デフォルト設定を表示、変更するには、メイン SAS ウィンドウの上部にあるメニューから **ツール** ⇒ **オプション** ⇒ **プリファレンス** を選択します。次に、**結果タブ** を開きます。二一モニックの TOPR (“topper” と発音) を使用して、この順序を覚えることができます。次の図に、新しいデフォルト設定が指定された SAS **結果タブ** を示します。



結果タブのデフォルト設定は次のとおりです。

- リストを作成するチェックボックスは選択されていないため、LISTING 出力は作成されません。
- HTML を作成するチェックボックスは選択されているため、HTML 出力は作成されます。
- WORK フォルダを使用するチェックボックスが選択されているため、HTML ファイルとグラフ画像ファイルは WORK フォルダ(現在のディレクトリではなく)に保存されます。
- デフォルトスタイルの HTMLBlue が、スタイルドロップダウンリストから選択されています。
- ODS Graphics を使用するチェックボックスが選択されているため、ODS Graphics が有効化されます。
- 内部ブラウザがブラウザの選択:ドロップダウンリストから選択されているため、結果は SAS 結果ビューアに表示されます。

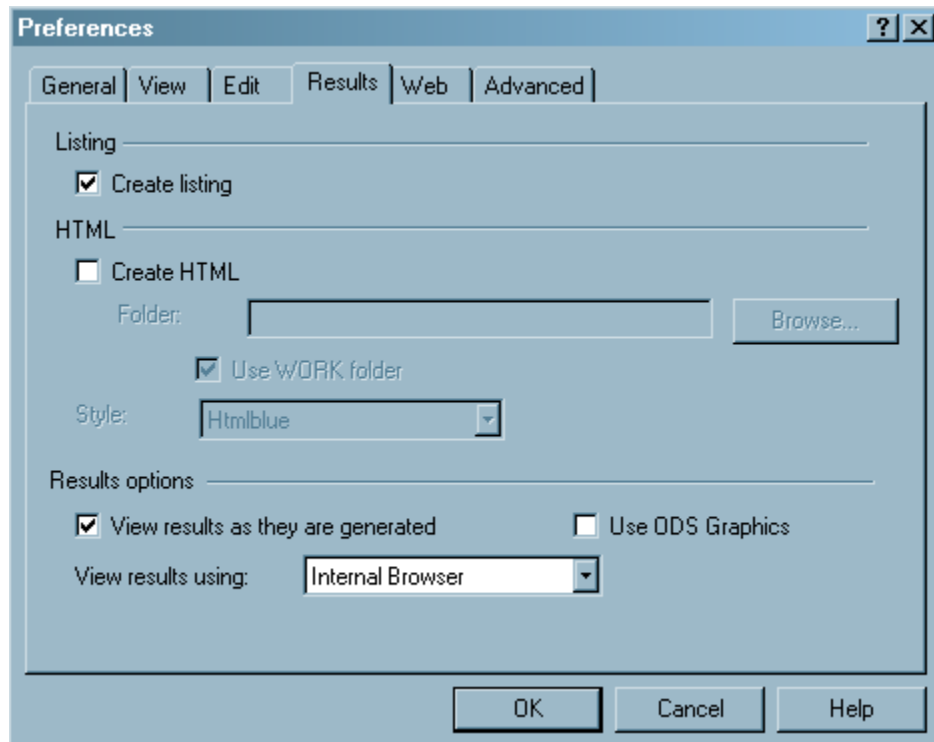
多くの場合、グラフはデータ分析の重要な部分を占めます。ただし、大規模な計算プログラムを実行するとき(多くの By グループとともにプロシジャを使用するときなど)は、グラフを作成できません。そうした場合は、ODS Graphics を無効にすることで、お使いのプログラムのパフォーマンスが向上します。ODS GRAPHICS OFF ステートメントおよび ODS GRAPHICS ON ステートメントを使用して、お使いの SAS プログラムで ODS Graphics を無効化/再有効化できます。また、ODS Graphics のデフォルト値を結果タブで変更できます。

SAS ウィンドウ環境のリスト出力

SAS 9.3 以前では、デフォルトでは LISTING 出力先内で SAS ウィンドウ環境の SAS 出力が作成されていました。LISTING 出力先では、テーブルがモノスペースで表示され、グラフとテーブルは統合されません。この変更に関する詳細については、1 章、“SAS 9.3 の新しい出力デフォルト”(3 ページ)を参照してください。

LISTING 出力を作成するには、メイン SAS ウィンドウの上部にあるメニューからツール ⇒ オプション ⇒ プリファレンスを選択できます。次に、結果タブを開きます。リストを作成するチェックボックスを選択します。HTML 出力が必要はない場合 HTML を作成するチェックボックスを選択しないでください。

SAS 9.3 以前では、ODS Graphics はデフォルトでは無効になっていました。デフォルトでは、結果タブのチェックボックスを使用して ODS Graphics を有効化/無効化できます。また、ODS GRAPHICS ON ステートメントと ODS GRAPHICS OFF ステートメントを使用して、お使いの SAS プログラムの ODS Graphics を有効化/無効化できます。次の図に、旧バージョンのデフォルト設定が指定された SAS 結果タブを示します。



Base SAS ソフトウェアに含める SAS/GRAPH 製品の選択

SAS/GRAPH ライセンスは、ODS Graphics には不要になりました。Graph Template Language (GTL)、ODS Graphics Procedures、ODS Graphics Editor および ODS Graphics Designer は、すべて Base SAS ソフトウェアで使用できるようになりました。これらの製品に関するドキュメントは、SAS 9.3 ヘルプとドキュメントの Base SAS の項目に含まれています。前述のアプリケーションの詳細については、次のドキュメントを参照してください。

- SAS ODS Graphics: プロシジャガイド
- SAS Graph Template Language: ユーザーガイド
- SAS Graph Template Language: リファレンス
- SAS ODS Graphics Designer: ユーザーガイド
- SAS ODS Graphics Editor: ユーザーガイド

PRINTER レジストリの変更

プリンタ、PDF、PS、PCL のデフォルトプリンタ値は、SAS レジストリで変更できるようになりました。この"デフォルトプリンタ"属性およびその変更方法に関する詳細については、1 章、“SAS 9.3 の新しい出力デフォルト” (3 ページ)を参照してください。

DOCUMENT プロシジャの拡張

DOCUMENT プロシジャでは、次の拡張が行われました。

SAS/GRAPH 外部グラフタイトルが、ODS ドキュメントに含まれるようになりました。

PRINT プロシジャが、DOCUMENT プロシジャによって完全にサポートされるようになりました。

REPLAY ステートメントの WHERE オプションでは、次の拡張が行われました。

新しいサブセット変数が REPLAY ステートメントの WHERE オプションに追加されました。

[_MAX_](#) (p. 762)
最終オブザベーションです。

[_MIN_](#) (p. 763)
最初のオブザベーションです。

[_OBS_](#) (p. 763)
出力オブジェクトにおける現在のオブザベーション数です。

[observation-number](#) (p. 764)
再生されるオブザベーション数です。

[observation-variable](#) (p. 764)
オブザベーション名です。

REPLAY ステートメントの WHERE オプションは、出力オブジェクトおよびディレクトリに適用されるようになりました。詳細については、“[REPLAY ステートメント](#)” (794 ページ)を参照してください。

次のオプションが追加されました。

[TEXTFILE=オプション](#) (p. 774)
IMPORT TO ステートメントに使用して、テキストファイルを ODS ドキュメントにインポートします。この ODS ドキュメントは再生されて、ODS 出力先が開かれます。

[BYGROUPS オプション](#) (p. 776)
LIST ステートメントに使用して、エントリリストに BY 変数の列を作成します。

[SHOW オプション](#) (p. 789)
OBANOTE ステートメントに使用して、出力オブジェクトのノート以降を含むテーブルをアクティブな出力先に書き込むように指定します。

[SHOW オプション](#) (p. 790)
OBBNOTE ステートメントに使用して、出力オブジェクトのノート以前を含むテーブルをアクティブな出力先に書き込むように指定します。

SHOW オプション (p. 791)

OBFOOTN ステートメントに使用して、出力オブジェクトのフットノートを含むテーブルをアクティブな出力先に書き込むように指定します。

SHOW オプション (p. 792)

OBSTITLE ステートメントに使用して、出力オブジェクトのサブタイトルを含むテーブルをアクティブな出力先に書き込むように指定します。

SHOW オプション (p. 794)

OBTITLE ステートメントに使用して、出力オブジェクトのタイトルを含むテーブルをアクティブな出力先に書き込むように指定します。

テンプレートプロシジャの拡張

テーブルテンプレートの拡張

動的変数のデフォルト値が、テーブル出力の DYNAMIC、MVAR、NMVAR ステートメントに提供されるようになりました。詳細については、[Chapter 14, “TEMPLATE プロシジャ: テーブルテンプレートの作成,” \(1060 ページ\)](#)を参照してください。

スタイルテンプレートの拡張

- 次のスタイル属性が追加されました。詳細については、“[すべてのスタイル属性の詳細情報](#)” (978 ページ)を参照してください。

BACKGROUNDPOSITION= *位置*

テーブル、セル、グラフの背景の位置を指定します。

BORDERCOLLAPSE= COLLAPSE | SEPARATE

外枠を重ねて表示するか、間隔をあけて表示するかを指定します。

PADDING= *ディメンション* | *ディメンション%*

セルと外枠のコンテンツ間の余白量を指定します。

PADDINGBOTTOM= *ディメンション* | *ディメンション%*

テーブルセルのコンテンツの下余白量を指定します。

PADDINGLEFT= *ディメンション* | *ディメンション%*

テーブルセルのコンテンツの左余白量を指定します。

PADDINGRIGHT= *ディメンション* | *ディメンション%*

テーブルセルのコンテンツの右余白量を指定します。

PADDINGTOP= *ディメンション* | *ディメンション%*

テーブルセルのコンテンツの上余白量を指定します。

WHITESPACE= NORMAL | NOWRAP | PRE | PRE_LINE | PRE_WRAP

テキスト行を折り返す方法を指定します。

- RGBA (赤/緑/青/透明)および CMYK (シアン/マゼンタ/黄/黒)カラーをスタイル属性とともに使用できます。詳細については、“[すべてのスタイル属性の詳細情報](#)” (978 ページ)を参照してください。

ODS ステートメントの拡張

- HTML、PDF、PCL および LISTING の各出力先で、SVG (Scalable Vector Graphics)がサポートされるようになりました。SVG の詳細については、“Using Scalable Vector Graphics” in Chapter 7 of *SAS/GRAPH: Reference* を参照してください。
- PDF 出力先と PCL 出力先では、デフォルトで SVG (Scalable Vector Graphics)が作成されるようになりました。
- HTML 出力先で、BMP イメージタイプがサポートされるようになりました。
- ODS PRINTER ステートメントでは、GTITLE オプションと GFOOTNOTE オプションがサポートされるようになりました。詳細については、“[ODS PRINTER ステートメント](#)” (536 ページ)を参照してください。
- ODS TAGSETS.RTF ステートメントでは、次の拡張が行われました。詳細については、“[ODS TAGSETS.RTF ステートメント](#)” (653 ページ)を参照してください。
 - 測定タグセットの TAGSETS.MEAS_EVENT_MAP、TAGSETS.MEAS_SHORT_MAP、TAGSET.MEAS_TEXT_MAP をサポートするために、次の新しいイベントタグセットが追加されました。
 - OPTIONS (DOC=“changelog”)は、測定タグセットのバージョンコントロール情報を提供します。指定されると、情報が SAS ログに印刷されます。
 - OPTIONS (TOC_LEVEL=)は、ユーザーが目次に表示するレベル数を設定できるようにします。

新しいシステムオプション

次のシステムオプションが ODS に追加されました。

- 新しいシステムオプションの ODSDEST=は、SAS ウィンドウ環境で SAS バージョン 9.2 の出力動作を復元します。詳細については、“[ODSDEST=システムオプション](#)” (745 ページ)を参照してください。
- 新しいシステムオプションの ODSGRAPHICS=は、ODS Graphics のディスプレイマネージャでデフォルトの 9.2 の動作を復元します。詳細については、“[ODSGRAPHICS=システムオプション](#)” (746 ページ)を参照してください。
- 新しいシステムオプションの ODSSTYLE=は、デフォルトの 9.2 HTML スタイルを復元します。詳細については、“[ODSSTYLE=システムオプション](#)” (747 ページ)を参照してください。

Output Delivery System のユーザー補助

Output Delivery System は、ウェブベースコンテンツの U.S. セクション 508 ガイドラインに従います。SAS 製品のユーザー補助についての質問は、accessibility@sas.com へのメールか、または SAS Technical Support への電話にてお寄せください。

次の追加ユーザー補助アイテムが、プログラミングオプションとして利用可能です。

イベント変数

TIP 次のイベント変数の詳細については、“[イベント変数](#)” on page 1211 を参照してください。

省略形

イベント変数の略語を指定します。

ACRONYM

イベント変数の頭字語を指定します。

ALT

イベント変数の別の説明を指定します。

CAPTION

表のキャプションを指定します。

LONGDESC

イベント変数の詳細説明を指定します。

SUMMARY

表の要約を指定します。

スタイルテンプレート

STYLES.HIGHCONTRAST

全色が白と黒の場合を除いて、デフォルト出力と同じ出力を作成します。

ヘッダー属性

TIP 次のヘッダー属性の詳細については、“[イベント変数](#)” on page 1211 を参照してください。

ABBR=

ヘッダーの略語を指定します。

ACRONYM=

ヘッダーの頭字語を指定します。

ALT=

ヘッダーの代替説明を指定します。

GENERIC

複数列でヘッダーを使用できるかどうかを指定します。

LONGDESC=

ヘッダーの詳細説明を指定します。

表属性

LONGDESC=

表の詳細説明を指定します。

ALT=

表の代替説明を指定します。

次のタグセットと ODS ステートメントでは、508 が順守されています。

ODS PHTML ステートメント

12 のスタイルエレメントと 非クラス属性を使用する単純な HTML 出力を作成する PHTML 出力先を、開き、管理し、閉じます。ODS PHTML ステートメントの詳細については、“[ODS PHTML ステートメント](#)” on page 503 を参照してください。

ODS HTMLCSS ステートメント

カスケードスタイルシート式の HTML 出力を作成する HTMLCSS 出力先に対して開く、管理するまたは閉じる処理を行います。ODS HTMLCSS ステートメントの詳細については、“[ODS HTMLCSS ステートメント](#)” on page 334 を参照してください。

ODS HTML ステートメント

組込スタイルシートを含む HTML 4.0 出力を作成する HTML 出力先を起動、管理または終了します。ODS HTML ステートメントの詳細については、“[ODS HTML ステートメント](#)” on page 283 を参照してください。

MSOFFICE2K タグセット

Microsoft Office 製品 ODS で生成される出力の HTML コードを、作成します。MSOFFICE2K タグセットの詳細については、“[MSOFFICE2K](#)” on page 619 を参照してください。

SAS 9.1 以降のリリースでは、すべてのユーザー補助強化が、ODS HTML タグセットに取り込まれてきました。追加ステップの必要はありません。

推奨資料

ここに、このタイトルに対する推奨読書リストがあります。SAS 出版物の全リストについては、次を参照してください。<http://support.sas.com/publishing/index.html>.

- *Base SAS プロシジャガイド*
- *SAS 言語リファレンス: 解説編*
- *SAS データセットオプション: リファレンス*
- *SAS 関数と CALL ルーチン: リファレンス*
- *SAS ステートメント: リファレンス*
- *SAS システムオプション: リファレンス*
- *Step-by-Step Programming with Base SAS Software*

からの推奨読書リスト SAS 出版には、次のものが含まれます。

- *The Little SAS Book: A Primer, Revised Second Edition*
- *Output Delivery System: The Basics and Beyond*
- *Output Delivery System: The Basics*
- *Instant ODS: Style Templates for the SAS Output Delivery System*

SAS の刊行物の総一覧については、support.sas.com/bookstore にてご確認ください。必要な書籍についてのご質問は、下記までお寄せください。

SAS Publishing Sales
SAS Campus Drive
Cary, NC 27513-2414
電話: 1-800-727-3228
ファクシミリ: 1-919-677-8166
電子メール: sasbook@sas.com
Web アドレス: support.sas.com/bookstore

1 部

概要

1 章	
SAS 9.3 の新しい出力デフォルト	3
2 章	
入門ガイド: Output Delivery System	9

1 章

SAS 9.3 の新しい出力デフォルト

SAS 9.3 の出力デフォルトの操作	3
概要	3
ODS Graphics	3
デフォルトの出力先	3
9.2 の動作をリストアする方法	4
追加情報	7

SAS 9.3 の出力デフォルトの操作

概要

SAS 9.3 以降は、Windows と UNIX オペレーティングシステムの SAS ウィンドウ環境において SAS に新しいデフォルトが導入されました。

- ODS Graphics は SAS スタートアップから利用可能になりました。
- リスト出力先が閉じ、HTML 出力先が開かれます。
- HTML 出力先のデフォルトのスタイルは、HTMLBlue です。

ODS Graphics

SAS 9.3 以降は、テンプレートベースのグラフ (ODS Graphics とよく呼ばれる) は、デフォルトで作成されます。ODS Graphics には、グラフ出力がすべて含まれ、STATGRAPH 型のコンパイルされた ODS テンプレートを使用して、グラフ出力を作成します。提供されたテンプレートは、Sashelp.Tmplmst に保存されます。ODS Graphics では、ODS GRAPHICS ステートメントを使用してグラフ環境を制御します。Window と UNIX オペレーティングシステムの SAS ウィンドウ環境において、ODS Graphics を有効にするために、ODS GRAPHICS ON ステートメントを指定する必要はありません。

Note: SGSCATTER、SGRENDER、SGPLOT および SGPANEL プロシジャは、ODS Graphics が有効でない場合でも、常にグラフを出力します。

デフォルトの出力先

SAS 9.3 以降、デフォルトで、Windows と UNIX 動作環境のウィンドウ環境では、リスト出力先はクローズされ、HTML 出力先がオープンします。ODS HTML ステートメントをサブミットして、HTML 出力を作成したり、ODS HTML CLOSE ステートメントを使用

して出力を表示する必要はありません。ただし、リスト出力を作成するために、ODS LISTING ステートメントの発行またはその他の方法で LISTING の出力先を有効にする必要があります。(次を参照“9.2 の動作をリストアする方法” on page 4)

HTML の出力先は、次の処理を行います。

- HTML4.0 埋め込みスタイルシートを出力します。
- Work ディレクトリに出力ファイルを書き込みます。
- ODS HTML CLOSE ステートメントを指定して出力を表示する必要はありません。

これらの動作は、ODS HTML CLOSE ステートメントを指定して ODS HTML の出力先を完全に閉じるまで続き、その後 HTML の出力先を再度開きます。HTML のステートメントを閉じ、新しい ODS HTML ステートメントを発行した後に HTML の出力先は次の動作を行います：

- 現在のディレクトリに出力ファイルを書き込みます。
- ODS HTML CLOSE ステートメントを指定して出力を表示します。

これらの動作は、SAS セッションを閉じ、新たなセッションを開くまで存続します。

CAUTION:

SAS ウィンドウ環境の HTML 出力は、Microsoft Windows 版と UNIX 版の SAS9.3 のデフォルトであり、他のオペレーティングシステム版やバッチモードではデフォルトではありません。バッチモードまたはその他のオペレーティングシステムで SAS を実行しているとき、リスト出力先が開き、デフォルトとなります。ODS Graphics はデフォルトでは有効とはならず、HTML 出力のデフォルトのスタイルは Styles.Default です。実際のデフォルトは、レジストリや構成ファイルの設定により異なります。

9.2 の動作をリストアする方法

概要

次の3つの方法の内、1つを使用して、出力デフォルトを 9.2 の動作に戻すことができます。

- プリファレンスウィンドウの結果タブを使用します。これにより、動作がそれに戻すまで変更されます。
- ODS ステートメントを使用します。この変更は、現在の SAS セッションの間のみ続きます。
- ODSSTYLE、ODSDEST および ODSGRAPHICS のシステムオプションを使用します。

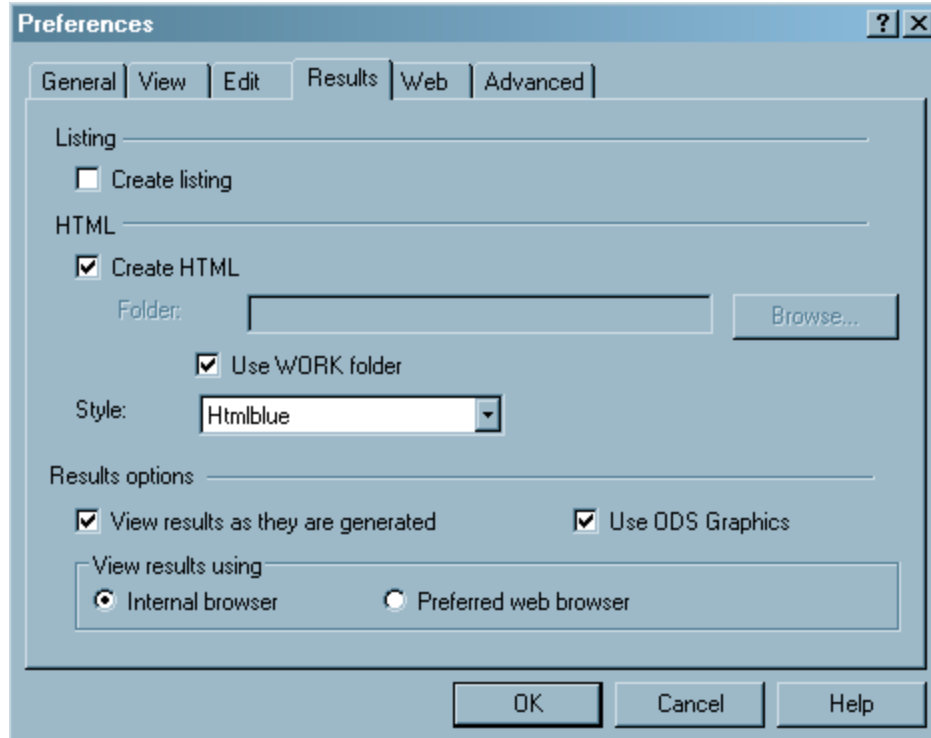
プリファレンスウィンドウの使用法

SAS 9.3 の SAS ウィンドウ環境では、デフォルトの出力先は HTML です。また、ODS Graphics はデフォルトで有効化されています。これらの新しいデフォルト設定には、いくつかの利点があります。グラフはテーブルと組み合わせられ、すべての出力は新しいスタイルを使用して同じ HTML ファイルに表示されます。この新しいスタイル、HTMLBlue は、オールカラースタイルで、テーブルとモダンな統計グラフを組み合わせるために使用されます。

デフォルト設定を表示および変更するには、メイン SAS ウィンドウの上部にあるメニューから ツール ⇒ オプション ⇒ プリファレンス を選択します。次に、結果タブを開きます。プリファレンスウィンドウの設定は、それを完全に変更するまで、存続します。次の図に、新しいデフォルト設定が指定された SAS 結果タブを示します。

プリファレンス ウィンドウの**結果タブ**の設定は、デフォルトで次のように表示されます。リスト出力をデフォルトのみで作成する場合は、**リストを作成する**を選択して、**HTMLを作成する**を選択しません。ODS Graphics を無効にするには、”ODS Graphics を使用する”を選択しません。

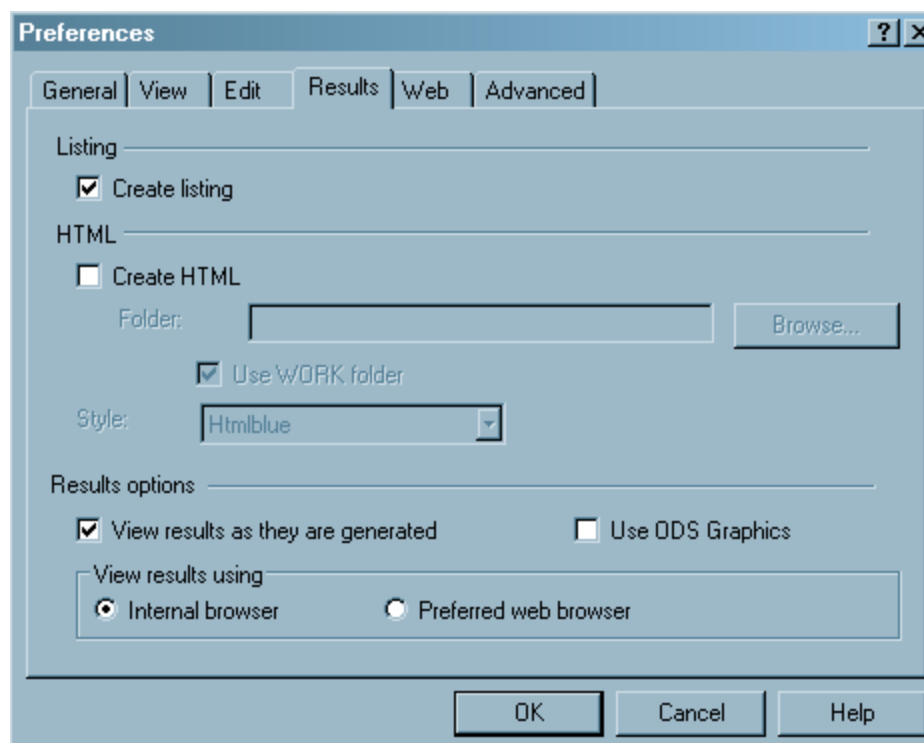
Output 1.1 プリファレンス ウィンドウのデフォルトの結果 タブ



次の選択セットが利用可能な場合、ODS ステートメント、ODSDEST システムオプション、またはプリファレンスウィンドウを使用して完全に変更するまでは、デフォルトの出力の出力先は LISTING となります。デフォルトで次の選択セットが利用可能な場合、ODS GRAPHICSON ステートメントの指定、ODSGRAPHICS システムオプションの使

用、またはプリファレンスウィンドウの設定を変更して、ODS Graphics を有効にしない限り、ODS Graphics は常に無効となります。

Output 1.2 9.3 デフォルトの以前に設定された結果タブ



ODS ステートメントの使用方法

次の ODS ステートメントを使用して、デフォルトの出力先を HTML からリストに変更し、ODS Graphics を無効にします。

```
ods graphics off;
ods html close;
ods listing;
```

これらのステートメントは、現在の SAS セッションの動作を変更します。新しい SAS セッションを開始した場合、デフォルトは SAS 9.3 の動作に戻ります。

システムオプションの使用方法

SAS 9.3 では、デフォルトの出力を制御する3つの新しいシステムオプションがあります。

ODSSTYLE=システムオプション

デフォルトのスタイルを指定します。ODSSTYLE=styles.default を指定して、デフォルトのスタイルを Styles.Default に変更します。ODSSTYLE=システムオプションに関する詳細については、“ODSSTYLE=システムオプション” on page 747 を参照してください。

ODSGRAPHICS=システムオプション

ODSGraphics がデフォルトで有効にされているか指定します。ODSGRAPHICS=OFF を指定して、デフォルトで ODSGraphics を無効にします。ODSGRAPHICS=システムオプションに関する詳細については、“ODSGRAPHICS=システムオプション” on page 746 を参照してください。

ODSDEST=システムオプション

SAS ウィンドウ環境のデフォルトの出力先を指定します。ODSDEST=LISTING を指定して、デフォルトの出力先をリストに変更します。ODSDEST=システムオプションに関する詳細については、“ODSDEST=システムオプション” on page 745 を参照してください。

追加情報

- ODS GRAPHICS ステートメントの詳細については、“ODS GRAPHICS ステートメント” on page 239 を参照してください。
- ODS Graphics テンプレートの作成に関する詳細については、Chapter 12, “TEMPLATE プロシジャ: ODS グラフの作成,” on page 935 を参照してください。
- *SAS ODS Graphics: プロシジャガイド*
- *SAS Graph Template Language: ユーザーガイド*
- *SAS Graph Template Language: リファレンス*
- *SAS ODS Graphics Designer: ユーザーガイド*
- *SAS ODS Graphics Editor: ユーザーガイド*

2 章

入門ガイド: Output Delivery System

Output Delivery System へようこそ	9
クイックスタート: ODS の使い方	9
これらの例の意味	9
HTML 出力の作成	10
リスト出力の作成	11
同時に複数の出力形式で出力を作成する	12
追加情報	15

Output Delivery System へようこそ

SAS 7 が開発される前は、ほとんどの SAS プロシジャでは、従来のラインプリンタ用に設計された出力が作成されました。この種類の出力の制限により、期待どおりの結果が得られない場合があります。

- 従来の SAS 出力は、モノスペースフォントに限定されます。デスクトップドキュメントエディタやパブリッシング システムの時代では、印刷された出力に対してより多様性が求められています。
- 一般的に使用されているプロシジャにより、印刷された出力は作成されますが、出力データセットは作成されません。多くの場合、印刷された出力以外に、他の SAS プロシジャまたは DATA ステップの入力として使用できる出力データ・セットも作成されると非常に便利です。

ODS は、これらの限界を乗り越えるために設計されており、出力のフォーマットを簡単にします。SAS Output Delivery System (ODS) は、SAS プロシジャと DATA ステップの出力の作成、保存、複製において自由度を高めるとともに、フォーマットオプションも拡げます。個々のプロシジャまたは ODS のない DATA ステップを使う際に、ODS のフォーマット機能は使用できません。

クイックスタート: ODS の使い方

これらの例の意味

次の例は、ODS をすぐに利用するためにデザインされています。それらを使って、より興味深いフォーマットを含む出力を生成するためのヒントにしてください。“[Output](#)

[Delivery System へようこそ](#) on page 20. 次に、ODS の深さ、広さおよび協力さを知るために、次を参照してください。

HTML 出力の作成

HTML 出力の作成は簡単です。DATA ステップまたは PROC ステップを通常通り実行するだけです。デフォルトで HTML の出力先がオンとなっており、ODS を介して DATA ステップと Base SAS プロシジャが HTML 出力を作成します。この出力を Internet Explorer、Netscape または HTML 3.2 またはそれ以降をサポートするその他のブラウザでも表示できます。Results 画面で表示する出力を選択できます。

```
options source pagesize=60 linesize=80 nodate;

data employee_data;
input IDNumber $ 1-4 LastName $ 9-19 FirstName $ 20-29
City $ 30-42 State $ 43-44 /
Gender $ 1 JobCode $ 9-11 Salary 20-29 @30 Birth date9.
@43 Hired date9. HomePhone $ 54-65;
format birth hired date9.;

datalines;
1919 Adams Gerald Stamford CT
M TA2 34376 15SEP48 07JUN75 203/781-1255
1653 Alexander Susan Bridgeport CT
F ME2 35108 18OCT52 12AUG78 203/675-7715
1400 Apple Troy New York NY
M ME1 29769 08NOV55 19OCT78 212/586-0808
1350 Arthur Barbara New York NY
F FA3 32886 03SEP53 01AUG78 718/383-1549
1401 Avery Jerry Paterson NJ
M TA3 38822 16DEC38 20NOV73 201/732-8787
1499 Barefoot Joseph Princeton NJ
M ME3 43025 29APR42 10JUN68 201/812-5665
1101 Baucom Walter New York NY
M SCP 18723 09JUN50 04OCT78 212/586-8060
1333 Blair Justin Stamford CT
M PT2 88606 02APR49 13FEB69 203/781-1777
1402 Blalock Ralph New York NY
M TA2 32615 20JAN51 05DEC78 718/384-2849
1479 Bostic Marie New York NY
F TA3 38785 25DEC56 08OCT77 718/384-8816
1403 Bowden Earl Bridgeport CT
M ME1 28072 31JAN57 24DEC79 203/675-3434
1739 Boyce Jonathan New York NY
M PT1 66517 28DEC52 30JAN79 212/587-1247
1658 Bradley Jeremy New York NY
M SCP 17943 11APR55 03MAR80 212/587-3622
1428 Brady Christine Stamford CT
F PT1 68767 07APR58 19NOV79 203/781-1212
1407 Grant Daniel Mt. Vernon NY
M PT1 68096 26MAR57 21MAR78 914/468-1616
1114 Green Janice New York NY
F TA2 32928 21SEP57 30JUN75 212/588-1092
;

proc print data=employee_data(obs=12);
```

```

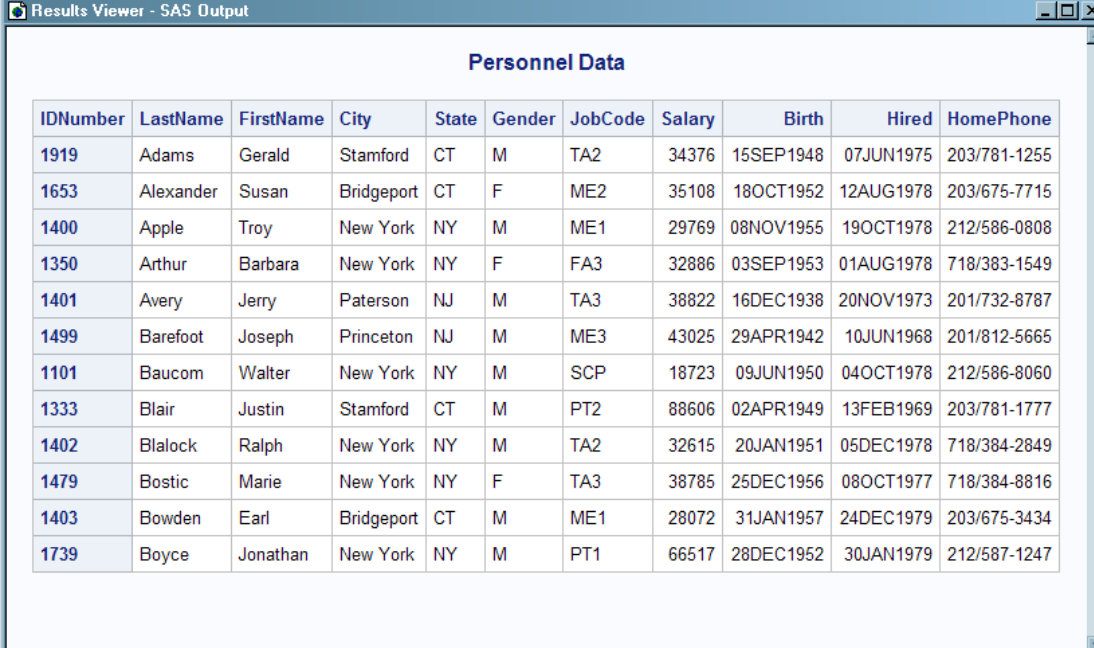
id idnumber;
title 'Personnel Data';
run;

```

HTML 出力は、デフォルトのフォーマットです。そのため、他のフォーマットを要求すると、プログラムにより HTML 出力と要求されたフォーマットの出力の両方を作成されます。HTML 出力が作成されるのを防ぐために、次のステートメントを使用してください。

```
ods html close;
```

Output 2.1 デフォルトの HTML 出力



IDNumber	LastName	FirstName	City	State	Gender	JobCode	Salary	Birth	Hired	HomePhone
1919	Adams	Gerald	Stamford	CT	M	TA2	34376	15SEP1948	07JUN1975	203/781-1255
1653	Alexander	Susan	Bridgeport	CT	F	ME2	35108	18OCT1952	12AUG1978	203/675-7715
1400	Apple	Troy	New York	NY	M	ME1	29769	08NOV1955	19OCT1978	212/586-0808
1350	Arthur	Barbara	New York	NY	F	FA3	32886	03SEP1953	01AUG1978	718/383-1549
1401	Avery	Jerry	Paterson	NJ	M	TA3	38822	16DEC1938	20NOV1973	201/732-8787
1499	Barefoot	Joseph	Princeton	NJ	M	ME3	43025	29APR1942	10JUN1968	201/812-5665
1101	Baucom	Walter	New York	NY	M	SCP	18723	09JUN1950	04OCT1978	212/586-8060
1333	Blair	Justin	Stamford	CT	M	PT2	88606	02APR1949	13FEB1969	203/781-1777
1402	Blalock	Ralph	New York	NY	M	TA2	32615	20JAN1951	05DEC1978	718/384-2849
1479	Bostic	Marie	New York	NY	F	TA3	38785	25DEC1956	08OCT1977	718/384-8816
1403	Bowden	Earl	Bridgeport	CT	M	ME1	28072	31JAN1957	24DEC1979	203/675-3434
1739	Boyce	Jonathan	New York	NY	M	PT1	66517	28DEC1952	30JAN1979	212/587-1247

リスト出力の作成

ODS LISTING のステートメントを使用することにより、モノスペースフォント (LISTING 出力) で従来の SAS 出力を作成できます。

次のプログラムには、LISTING 出力を作成する PROC PRINT ステップが含まれますが、デフォルトの HTML 出力は作成されません。

```

ods html close;
ods listing;

proc print data=employee_data(obs=12);
id idnumber;
title 'Personnel Data';
run;

ods listing close;
ods html;

```

PROC PRINT ステートメントに続く2つの ODS ステートメントに注意してください。リスト出力を表示するためには、ODS LISTING CLOSE ステートメントを実行する必要があります。

あります。ODS をデフォルトの設定である HTML 出力にリセットすることをお勧めします。

Output 2.2 デフォルトのリスト出力

```

Personnel Data 1

First Job
IDNumber LastName Name City State Gender Code

1919 Adams Gerald Stamford CT M TA2
1653 Alexander Susan Bridgeport CT F ME2
1400 Apple Troy New York NY M ME1
1350 Arthur Barbara New York NY F FA3
1401 Avery Jerry Paterson NJ M TA3
1499 Barefoot Joseph Princeton NJ M ME3
1101 Baucom Walter New York NY M SCP
1333 Blair Justin Stamford CT M PT2
1402 Blalock Ralph New York NY M TA2
1479 Bostic Marie New York NY F TA3
1403 Bowden Earl Bridgeport CT M ME1
1739 Boyce Jonathan New York NY M PT1

IDNumber Salary Birth Hired HomePhone

1919 34376 15SEP1948 07JUN1975 203/781-1255
1653 35108 18OCT1952 12AUG1978 203/675-7715
1400 29769 08NOV1955 19OCT1978 212/586-0808
1350 32886 03SEP1953 01AUG1978 718/383-1549
1401 38822 16DEC1938 20NOV1973 201/732-8787
1499 43025 29APR1942 10JUN1968 201/812-5665
1101 18723 09JUN1950 04OCT1978 212/586-8060
1333 88606 02APR1949 13FEB1969 203/781-1777
1402 32615 20JAN1951 05DEC1978 718/384-2849
1479 38785 25DEC1956 08OCT1977 718/384-8816
1403 28072 31JAN1957 24DEC1979 203/675-3434
1739 66517 28DEC1952 30JAN1979 212/587-1247

```

同時に複数の出力形式で出力を作成する

複数のフォーマットの出力を一度に簡単に作成するためには、デフォルトの LISTING 出力を作成し、HTML、PDF、RTF、または PostScript などの追加のフォーマットを要求します。

```

ods html
file='HTML-file-pathname.html';
ods pdf file='PDF-file-pathname.pdf';
ods rtf file='RTF-file-pathname.rtf';
ods ps file='PS-file-pathname.ps';

proc print data=employee_data(obs=12);
id idnumber;
title 'Personnel Data';
run;

ods _all_ close;
ods listing;

```

PROC ステートメントに続く2つの ODS ステートメントに注意してください。最初のステートメントによりすべてのファイルを閉じられ、それを利用可能にします(例えば、

HTML ファイルを表示、またはプリンタに PDF ファイルを送ることができます)。最後のステートメントにより LISTING の出力先が開かれ、ODS が後続の DATA 用に LISTING 出力、または現行セッションでの PROC ステップの作成に戻る可能性があります。

次の出力は HTML 3.2 出力でフォーマットされ、インターネット・エクスプローラのブラウザで表示できます。

Display 2.1 HTML 3.2 出力

IDNumber	LastName	FirstName	City	State	Gender	JobCode	Salary	Birth	Hired	HomePhone
1919	Adams	Gerald	Stamford	CT	M	TA2	34376	15SEP1948	07JUN1975	203/781-1255
1653	Alexander	Susan	Bridgeport	CT	F	ME2	35108	18OCT1952	12AUG1978	203/675-7715
1400	Apple	Troy	New York	NY	M	ME1	29769	08NOV1955	19OCT1978	212/586-0808
1350	Arthur	Barbara	New York	NY	F	FA3	32886	03SEP1953	01AUG1978	718/383-1549
1401	Avery	Jerry	Paterson	NJ	M	TA3	38822	16DEC1938	20NOV1973	201/732-8787
1499	Barefoot	Joseph	Princeton	NJ	M	ME3	43025	29APR1942	10JUN1968	201/812-5665
1101	Baucum	Walter	New York	NY	M	SCP	18723	09JUN1950	04OCT1978	212/586-8060
1333	Blair	Justin	Stamford	CT	M	PT2	88606	02APR1949	13FEB1969	203/781-1777
1402	Bialock	Ralph	New York	NY	M	TA2	32615	20JAN1951	05DEC1978	718/384-2849
1479	Bostic	Marie	New York	NY	F	TA3	38785	25DEC1956	08OCT1977	718/384-8816
1403	Bowden	Earl	Bridgeport	CT	M	ME1	28072	31JAN1957	24DEC1979	203/675-3434
1739	Boyce	Jonathan	New York	NY	M	PT1	66517	28DEC1952	30JAN1979	212/587-1247

次の出力は、PDF 形式のため、Adobe Acrobat Reader で表示できます。

Display 2.2 PDF 出力

IDNumber	LastName	FirstName	City	State	Gender	JobCode	Salary	Birth	Hired	HomePhone
1919	Adams	Gerald	Stamford	CT	M	TA2	34376	15SEP1948	07JUN1975	203/781-1255
1653	Alexander	Susan	Bridgeport	CT	F	ME2	35108	18OCT1952	12AUG1978	203/675-7715
1400	Apple	Troy	New York	NY	M	ME1	29769	08NOV1955	19OCT1978	212/586-0808
1350	Arthur	Barbara	New York	NY	F	FA3	32886	03SEP1953	01AUG1978	718/383-1549
1401	Avery	Jerry	Paterson	NJ	M	TA3	38822	16DEC1938	20NOV1973	201/732-8787
1499	Barefoot	Joseph	Princeton	NJ	M	ME3	43025	29APR1942	10JUN1968	201/812-5665
1101	Baucum	Walter	New York	NY	M	SCP	18723	09JUN1950	04OCT1978	212/586-8060
1333	Blair	Justin	Stamford	CT	M	PT2	88606	02APR1949	13FEB1969	203/781-1777
1402	Bialock	Ralph	New York	NY	M	TA2	32615	20JAN1951	05DEC1978	718/384-2849
1479	Bostic	Marie	New York	NY	F	TA3	38785	25DEC1956	08OCT1977	718/384-8816
1403	Bowden	Earl	Bridgeport	CT	M	ME1	28072	31JAN1957	24DEC1979	203/675-3434
1739	Boyce	Jonathan	New York	NY	M	PT1	66517	28DEC1952	30JAN1979	212/587-1247

次の RTF 出力は、Microsoft Word で表示できます。

Display 2.3 RTF 出力

IDNumber	LastName	FirstName	City	State	Gender	JobCode	Salary	Birth	Hired	HomePhone
1919	Adams	Gerald	Stamford	CT	M	TA2	34376	15SEP1948	07JUN1975	203/781-1255
1653	Alexander	Susan	Bridgeport	CT	F	ME2	35108	18OCT1952	12AUG1978	203/675-7715
1400	Apple	Troy	New York	NY	M	ME1	29769	08NOV1955	19OCT1978	212/586-0808
1350	Arthur	Barbara	New York	NY	F	FA3	32886	03SEP1953	01AUG1978	718/383-1549
1401	Avery	Jery	Paterson	NJ	M	TA3	38822	16DEC1938	20NOV1973	201/732-8787
1499	Barefoot	Joseph	Princeton	NJ	M	ME3	43025	29APR1942	10JUN1968	201/812-5665
1101	Baucom	Walter	New York	NY	M	SCP	18723	09JUN1950	04OCT1978	212/586-8060
1333	Blair	Justin	Stamford	CT	M	PT2	88606	02APR1949	13FEB1969	203/781-1777
1402	Blalock	Ralph	New York	NY	M	TA2	32615	20JAN1951	05DEC1978	718/384-2849
1479	Bostic	Marie	New York	NY	F	TA3	38785	25DEC1956	08OCT1977	718/384-8816
1403	Bowden	Earl	Bridgeport	CT	M	ME1	28072	31JAN1957	24DEC1979	203/675-3434
1739	Boyce	Jonathan	New York	NY	M	PT1	66517	28DEC1952	30JAN1979	212/587-1247

次の出力は、従来の SAS LISTING 出力です。

Output 2.3 リスト出力

IDNumber	LastName	First Name	City	State	Gender	Job Code
1919	Adams	Gerald	Stanford	CT	M	TA2
1653	Alexander	Susan	Bridgeport	CT	F	ME2
1400	Apple	Troy	New York	NY	M	ME1
1350	Arthur	Barbara	New York	NY	F	FA3
1401	Avery	Jerry	Paterson	NJ	M	TA3
1499	Barefoot	Joseph	Princeton	NJ	M	ME3
1101	Baucom	Walter	New York	NY	M	SCP
1333	Blair	Justin	Stamford	CT	M	PT2
1402	Blalock	Ralph	New York	NY	M	TA2
1479	Bostic	Marie	New York	NY	F	TA3
1403	Bowden	Earl	Bridgeport	CT	M	ME1
1739	Boyce	Jonathan	New York	NY	M	PT1

IDNumber	Salary	Birth	Hired	HomePhone
1919	34376	15SEP1948	07JUN1975	203/781-1255
1653	35108	18OCT1952	12AUG1978	203/675-7715
1400	29769	08NOV1955	19OCT1978	212/586-0808
1350	32886	03SEP1953	01AUG1978	718/383-1549
1401	38822	16DEC1938	20NOV1973	201/732-8787
1499	43025	29APR1942	10JUN1968	201/812-5665
1101	18723	09JUN1950	04OCT1978	212/586-8060
1333	88606	02APR1949	13FEB1969	203/781-1777
1402	32615	20JAN1951	05DEC1978	718/384-2849
1479	38785	25DEC1956	08OCT1977	718/384-8816
1403	28072	31JAN1957	24DEC1979	203/675-3434
1739	66517	28DEC1952	30JAN1979	212/587-1247

追加情報

ODS 出力の例:

ODS を使用して作成できる出力の種類については、“[ODS サンプルのギャラリー](#)” on page 20 を参照してください。

ODS における必須概念

ODS をよくの理解し、最も有利に利用するための概念は、“[Output Delivery System へようこそ](#)” on page 20 を参照してください。

より複雑な HTML ページの作成:

ODS を使用して、フレームや目次を含む HTML ページの作成ができます。詳細は“[ODS HTML ステートメント](#)” on page 283 および “[ODS 出力先および HTML 出力先](#)” on page 1373 を参照してください。次のオンラインの資料で、HTML 出力の多くの例を参照できます。*Base SAS プロシジャガイド*

ODS ステートメント

ODS ステートメントの詳細については、6 章、“[ODS 言語ステートメントの字引](#)” on page 97 を参照してください。これらのステートメントにより、Output Delivery System の多くの機能が制御されます。

DATA ステップを伴う ODS の使用方法

FILE および PUT ステートメントへの ODS 関連のオプションの追加により、ODS を利用してより高度な DATA ステップを作成できます。次を参照してください。4 章、“[DATA ステップでの ODS の使用](#)” on page 57

テンプレートの作成方法:

フォーマット出力用のテンプレートを作成することにより、フォーマットをさらに制御することができます。9 章、“[TEMPLATE プロシジャ: 概要](#)” on page 841 を参照してください。

2 部

概念

3 章

Output Delivery System: 基本概念 19

3 章

Output Delivery System: 基本概念

Output Delivery System へようこそ	20
ODS サンプルのギャラリー	20
ODS サンプルについて	20
リスト出力	20
PostScript 出力	22
HTML 出力	23
RTF 出力	24
PDF 出力	25
XML 出力	26
Excel 出力	28
グラフィカル出力	28
ODS の機能の概要	31
SAS 出力の構成要素	31
ODS の機能	33
ODS 出力先について	33
ODS 出力先カテゴリの概要	33
出力先固有の入力の定義	34
SAS 出力形式が使用される出力先	34
サードパーティフォーマットの出力先	35
サードパーティフォーマットのフォーマット機能の制御	37
ODS 出力先とシステムリソース	38
テーブルテンプレート、テーブル要素、テーブル属性について	38
スタイル、スタイル要素、スタイル属性について	39
概要	39
テンプレートブラウザウィンドウの使用	39
SAS 提供のスタイル	42
Base SAS プロシジャでスタイルを使用する	43
アイテムストア、テンプレートストア、ディレクトリについて	43
ODS の SAS レジストリ設定の変更	44
ODS と SAS レジストリの概要	44
デフォルトの HTML バージョン設定の変更	45
ODS 出力先のデフォルト設定の変更	46
ODS プリンタ出力先のデフォルトプリンタ値の変更	47
カスタマイズされた ODS 出力	49
SAS 出力	49
選択リストと除外リスト	49
ODS による出力オブジェクトの出力先の設定法	50

出力オブジェクトの出力のカスタマイズ	50
タイトルと脚注のカスタマイズ	51
ODS によって生成された PDF ファイルの保護	51
ODS の概要	52

Output Delivery System へようこそ

ODS (SAS Output Delivery System)は、SAS プロシジャと DATA ステップの出力の作成、保存、複製において自由度を高めるとともに、フォーマットオプションも拡げます。個々のプロシジャまたは ODS のない DATA ステップを使う際に、ODS のフォーマット機能は使用できません。ODS を利用するとそのような制約を超え、出力をもっと簡単にフォーマットできるようになります。

SAS 7 が開発される前は、ほとんどの SAS プロシジャでは、従来のラインプリンタ用に設計された出力が作成されました。この種類の出力の制限により、期待どおりの結果が得られない場合があります。

- 従来の SAS 出力は、モノスペースフォントに限定されます。デスクトップドキュメントエディタやパブリッシング システムの時代では、印刷された出力に対してより多様性が求められています。
- 一般的に使用されているプロシジャにより、出力データセットは作成されません。ODS 以前では、別のプロシジャへの入力としてこれらのプロシジャのいずれかから出力を使用したかった場合、結果の取得に当たっては PROC PRINTTO と DATA ステップに依存していました。

ODS サンプルのギャラリー

ODS サンプルについて

このセクションでは、ODS を使用して生成できる、フォーマットされた出力の各種サンプルを示します。入力ファイルには、コーヒーマシン販売会社の TruBlend Coffee Makers の販売記録が含まれます。

リスト出力

従来の SAS 出力はリスト出力です。

アウトプット 3.1 リスト出力

Average Quarterly Sales Amount by Each Sales Representative 1

----- Quarter=1 -----

The MEANS Procedure

Analysis Variable : AmountSold

N

SalesRep Obs N Mean Std Dev Minimum Maximum

Garcia 8 8 14752.5 22806.1 495.0 63333.7

Hollingsworth 5 5 11926.9 12165.2 774.3 31899.1

Jensen 5 5 10015.7 8009.5 3406.7 20904.8

Average Quarterly Sales Amount by Each Sales Representative 2

----- Quarter=2 -----

The MEANS Procedure

Analysis Variable : AmountSold

N

SalesRep Obs N Mean Std Dev Minimum Maximum

Garcia 6 6 18143.3 20439.6 1238.8 53113.6

Hollingsworth 6 6 16026.8 14355.0 1237.5 34686.4

Jensen 6 6 12455.1 12713.7 1393.7 34376.7

Average Quarterly Sales Amount by Each Sales Representative 3

----- Quarter=3 -----

The MEANS Procedure

Analysis Variable : AmountSold

N

SalesRep Obs N Mean Std Dev Minimum Maximum

Garcia 21 21 10729.8 11457.0 2787.3 38712.5

Hollingsworth 15 15 7313.6 7280.4 1485.0 30970.0

Jensen 21 21 10585.3 7361.7 2227.5 27129.7

```
Average Quarterly Sales Amount by Each Sales Representative 4
```

```
----- Quarter=4 -----
```

```
The MEANS Procedure
```

```
Analysis Variable : AmountSold
```

```
N
```

```
SalesRep Obs N Mean Std Dev Minimum Maximum
```

```
Garcia 5 5 11973.0 10971.8 3716.4 30970.0
```

```
Hollingsworth 6 6 13624.4 12624.6 5419.8 38093.1
```

```
Jensen 6 6 19010.4 15441.0 1703.4 38836.4
```

PostScript 出力

ODS では、PostScript 形式で出力を作成できます。

画面 3.1 PostScript 出力

Sales for Malik and Chang

Manager	Department	Sales
Chang	<i>Paper</i>	40
	<i>Canned</i>	220
	<i>Meat/Dairy</i>	300
	<i>Produce</i>	70
<i>Chang</i>		630
Subtotal for Chang is \$630.00.		
Malik	<i>Paper</i>	50
	<i>Canned</i>	120
	<i>Meat/Dairy</i>	100
	<i>Produce</i>	80
<i>Malik</i>		350
Subtotal for Malik is \$350.00.		
Total for all departments: \$980.00		

HTML 出力

ODS では、HTML (ハイパーテキストマークアップ言語) で出力を作成できます。これらのファイルは、Internet Explorer、Netscape または HTML 4.0 またはそれ以降をサポートするその他のブラウザでも表示できます。埋め込み式のスタイルシートを含む HTML 4.0 出力を作成するのに、SAS プログラムを変更する必要はありません。デフォルトでは、異なるフォーマットを含む出力の種類を作成する場合でも、この種の出力を作成し続けることができます。ただし、HTML にさらにフォーマットを追加する場合、ODS HTML ステートメントを使用してください。

注: HTML 3.2 出力を作成するには、ODS HTML3 ステートメントを使用します。

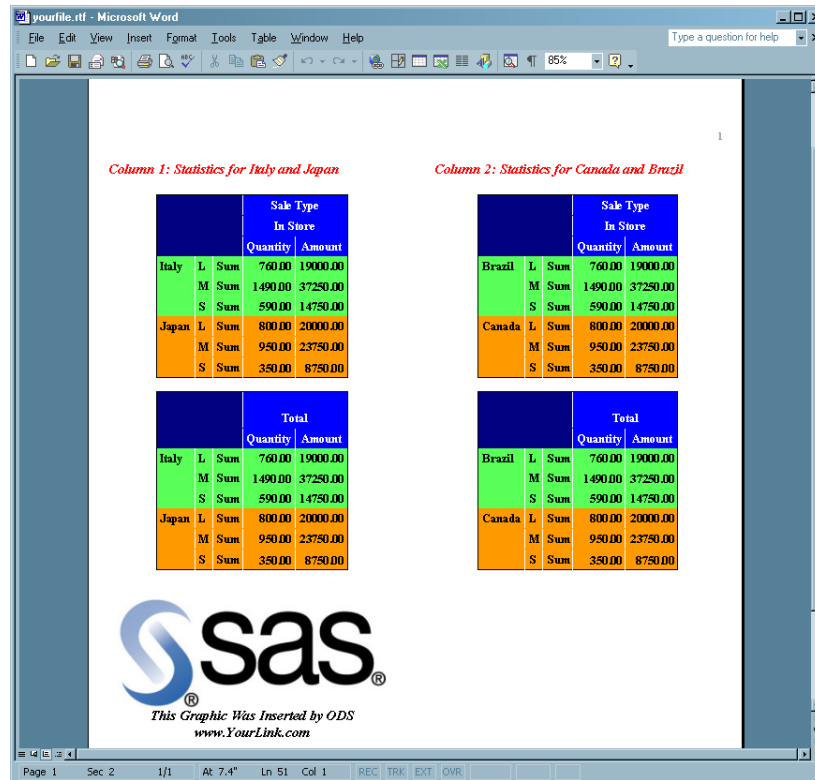
画面3.2 HTML 出力 (Microsoft Internet Explorer で表示)

Region by Citysize by Saletype		Saletype				Total	
		Retail		Wholesale			
		Quantity	Amount	Quantity	Amount	Quantity	Amount
		Sum	Sum	Sum	Sum	Sum	Sum
Region	Citysize						
Brazil	L	Missing	Missing	2,272	\$45,440	2,272	\$45,440
	M	1,066	\$26,600	1,066	\$21,320	2,132	\$47,920
	S	472	\$11,800	472	\$9,440	944	\$21,240
	Total	1,538	\$38,400	3,810	\$76,200	5,348	\$114,600
Canada	Citysize						
	L	2,421	\$60,525	2,421	\$48,420	4,842	\$108,945
	M	1,825	\$45,625	1,825	\$36,500	3,650	\$82,125
	S	623	\$15,575	623	\$12,460	1,246	\$28,035
	Total	4,869	\$121,725	4,869	\$97,380	9,738	\$219,105
France	Citysize						
	L	2,303	\$57,575	2,303	\$46,060	4,606	\$103,635
	M	2,149	\$54,725	2,149	\$42,980	4,298	\$97,705
	S	1,254	\$31,150	Missing	Missing	1,254	\$31,150
	Total	5,706	\$143,450	4,452	\$89,040	10,158	\$232,490
Mexico	Citysize						
	L	2,655	\$66,375	2,655	\$53,100	5,310	\$119,475
	M	2,360	\$59,000	2,360	\$47,200	4,720	\$106,200
	S	561	\$14,025	561	\$11,220	1,122	\$25,245
	Total	5,576	\$139,400	5,576	\$111,520	11,152	\$250,920
Total	Citysize						
	L	7,379	\$184,475	9,651	\$193,020	17,030	\$377,495
	M	7,400	\$185,950	7,400	\$148,000	14,800	\$333,950
	S	2,910	\$72,550	1,656	\$33,120	4,566	\$105,670
	Total	17,689	\$442,975	18,707	\$374,140	36,396	\$817,115

RTF 出力

ODS では、Microsoft Word で使用される RTF (Rich Text Format リッチテキスト形式) 出力を作成できます。

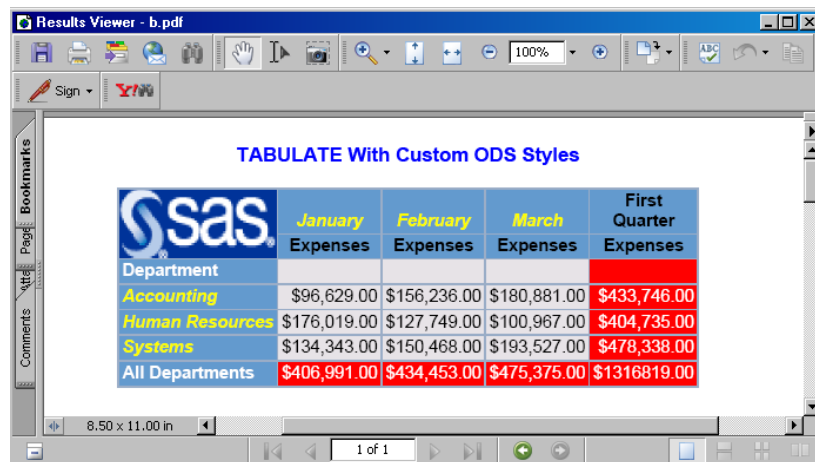
画面 3.3 Microsoft Word で表示される RTF 出力



PDF 出力

ODS では、Adobe Acrobat で表示できる PDF (Portable Document Format) で出力を作成できます。

画面 3.4 PDF 出力



XML 出力

ODS では、拡張マークアップ言語(XML)タグでタグが設定された出力を作成できます。

アウトプット 3.2 XML 出カファイル

```

<?xml version="1.0" encoding="windows-1252"?>

<odsxml>
<head>
<meta operator="user"/>
</head>
<body>
<proc name="Print">
<label name="IDX"/>
<title class="SystemTitle" toc-level="1">US Census of Population and
Housing</title>
<branch name="Print" label="The Print Procedure" class="ContentProcName"
toc-level="1">
<leaf name="Print" label="Data Set Sashelp.Class" class="ContentItem"
toc-level="2">
<output name="Print" label="Data Set Sashelp.Class" clabel="Data Set
Sashelp.Class">
<output-object type="table" class="Table">

<style>
<border spacing="1" padding="7" rules="groups" frame="box"/>
</style>
<colspecs columns="6">
<colgroup>
<colspec name="1" width="2" align="right" type="int"/>
</colgroup>
<colgroup>
<colspec name="2" width="7" type="string"/>
<colspec name="3" width="1" type="string"/>
<colspec name="4" width="2" align="decimal" type="double"/>
<colspec name="5" width="4" align="decimal" type="double"/>
<colspec name="6" width="5" align="decimal" type="double"/>
</colgroup>
</colspecs>
<output-head>
<row>
<header type="string" class="Header" row="1" column="1">
<value>Obs</value>
</header>
<header type="string" class="Header" row="1" column="2">
<value>Name</value>
</header>
<header type="string" class="Header" row="1" column="3">
<value>Sex</value>
</header>
<header type="string" class="Header" row="1" column="4">
<value>Age</value>
</header>
<header type="string" class="Header" row="1" column="5">
<value>Height</value>
</header>
<header type="string" class="Header" row="1" column="6">
<value>Weight</value>
</header>
</row>
</output-head>
<output-body>
<row>
<header type="double" class="RowHeader" row="2" column="1">
<value>1</value>
</header>
<data type="string" class="Data" row="2" column="2">
<value>Alfred</value>
</data>
... more xml tagged output...
<
/odsxml>

```

Excel 出力

ODS では、Excel で表示できる表形式出力を作成できます。

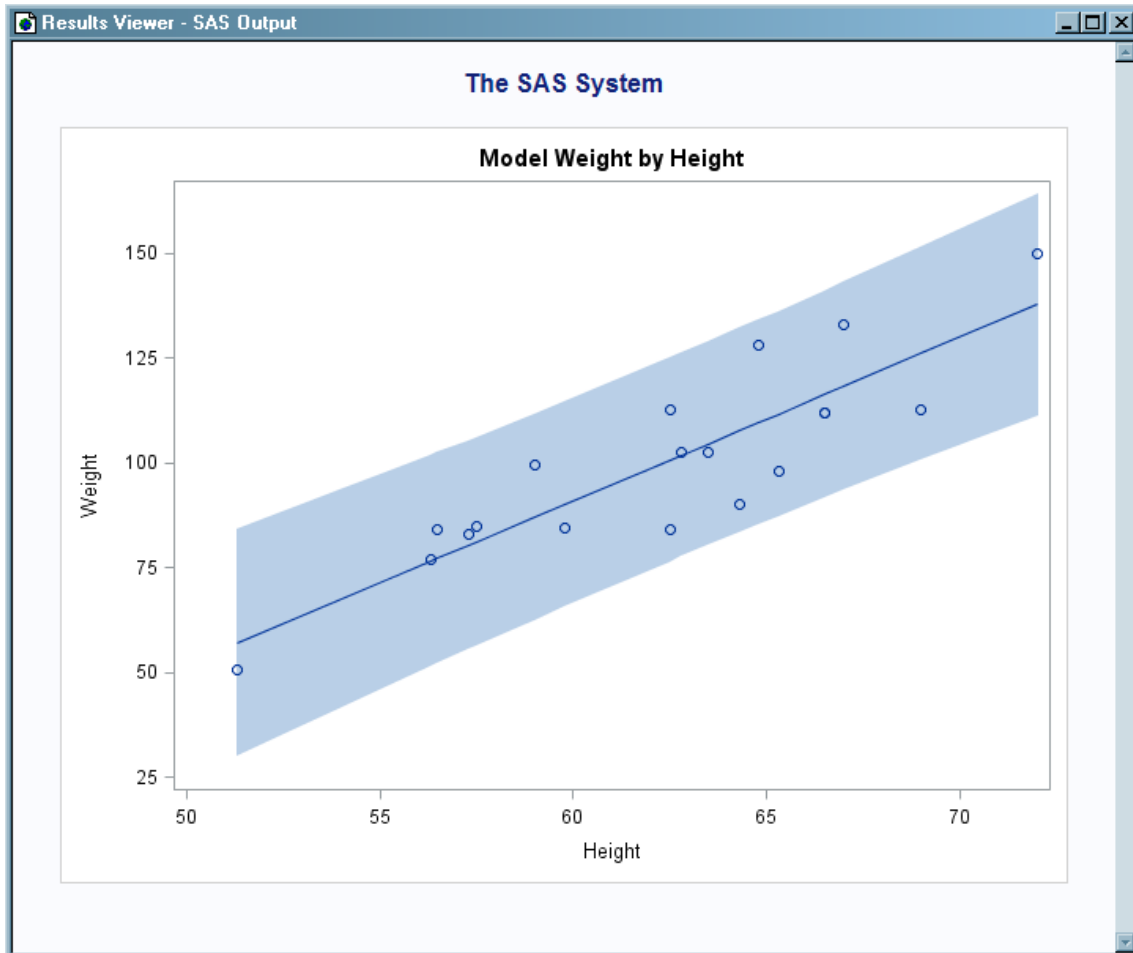
画面 3.5 Excel で表示できるマークアップ出力先出力

	A	B	C	D	E
1	Order Type	Country	Order Date		
2	Internet	Antarctica	1/1/05		
3	Catalog	Puerto Rico	1/1/05		
4	In Store	Virgin Islands (U.S.)	1/1/05		
5	Catalog	Aruba	1/1/05		
6	Catalog	Bahamas	1/1/05		
7	Catalog	Bermuda	1/1/05		
8	In Store	Belize	1/2/05		
9	Catalog	British Virgin Islands	1/2/05		
10	Catalog	Canada	1/2/05		
11	In Store	Cayman Islands	1/2/05		
12	Internet	Costa Rica	1/2/05		
13	Internet	Cuba	1/2/05		
14	Internet	Dominican Republic	1/2/05		
15	Catalog	El Salvador	1/2/05		
16	In Store	Guatemala	1/2/05		

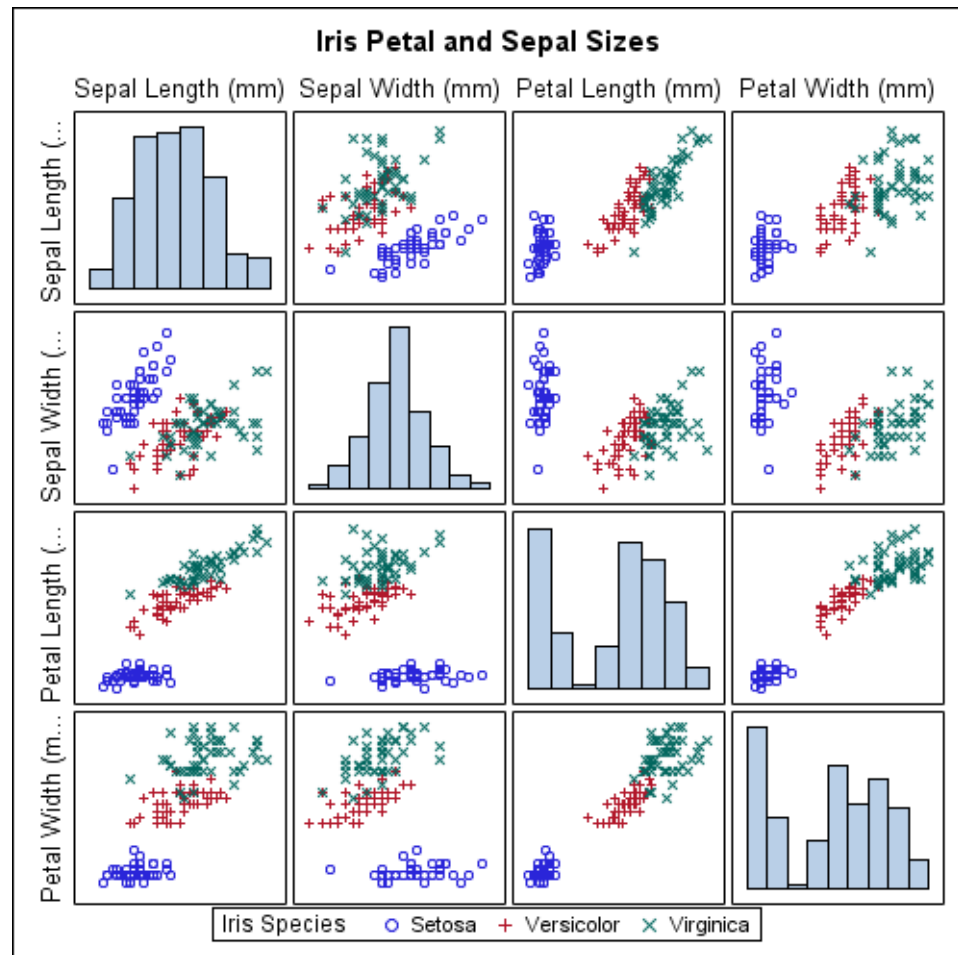
グラフィカル出力

ODS グラフテンプレート言語 (GTL)では、明白で整理された図を作成するために、一般的に認められたグラフィックデザインの原理が適用されます。ODS グラフに関する詳細は、Chapter 12, “TEMPLATE プロシジャ: ODS グラフの作成,” (935 ページ)を参照してください。

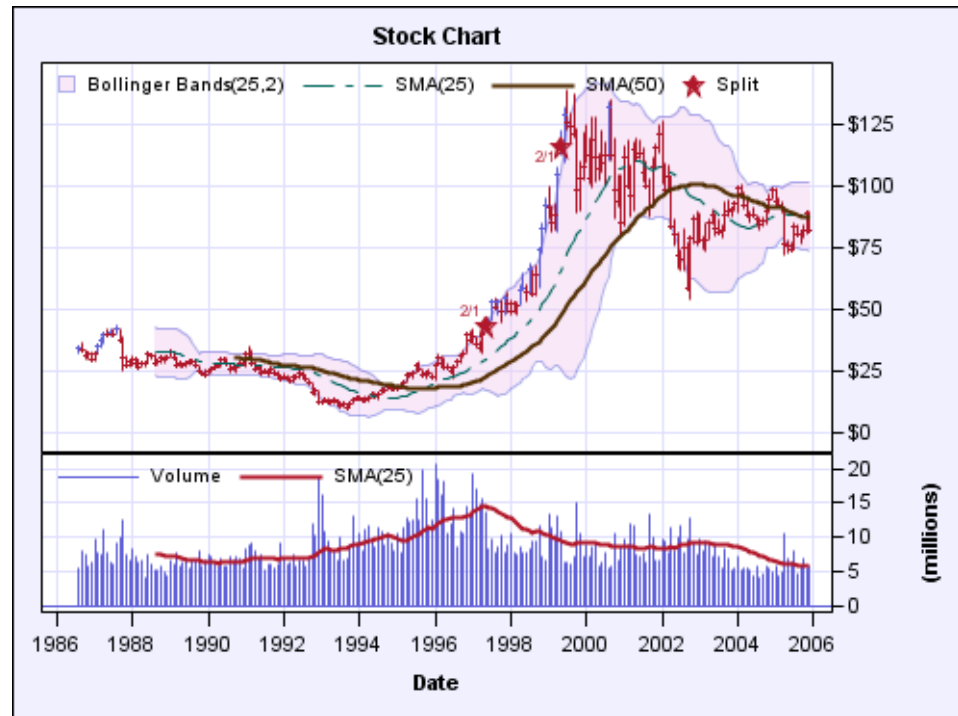
画面 3.6 Mytemplate および Sashelp.ClassFit を使用したモデルフィット図



画面3.7 LISTING スタイルによるPROC SGSCATTER (SAS)



画面 3.8 PROC SGRENDER (SAS) およびカスタムスタイルによってレンダリングされたカスタムテンプレート



ODS の機能の概要

SAS 出力の構成要素

PROC または DATA ステップによって、生データや、フォーマットに関する指示を含むテーブルテンプレートが提供されます。ODS によって出力がフォーマットされます。ODS を使用して、個々のプロシジャや、DATA ステップから HTML 出力以外の多種多様な形式出力をフォーマットできます。

次の図は、SAS プロシジャによって ODS 出力が作成される仕組みを示します。

図3.1 ODS 処理: 入力と出力

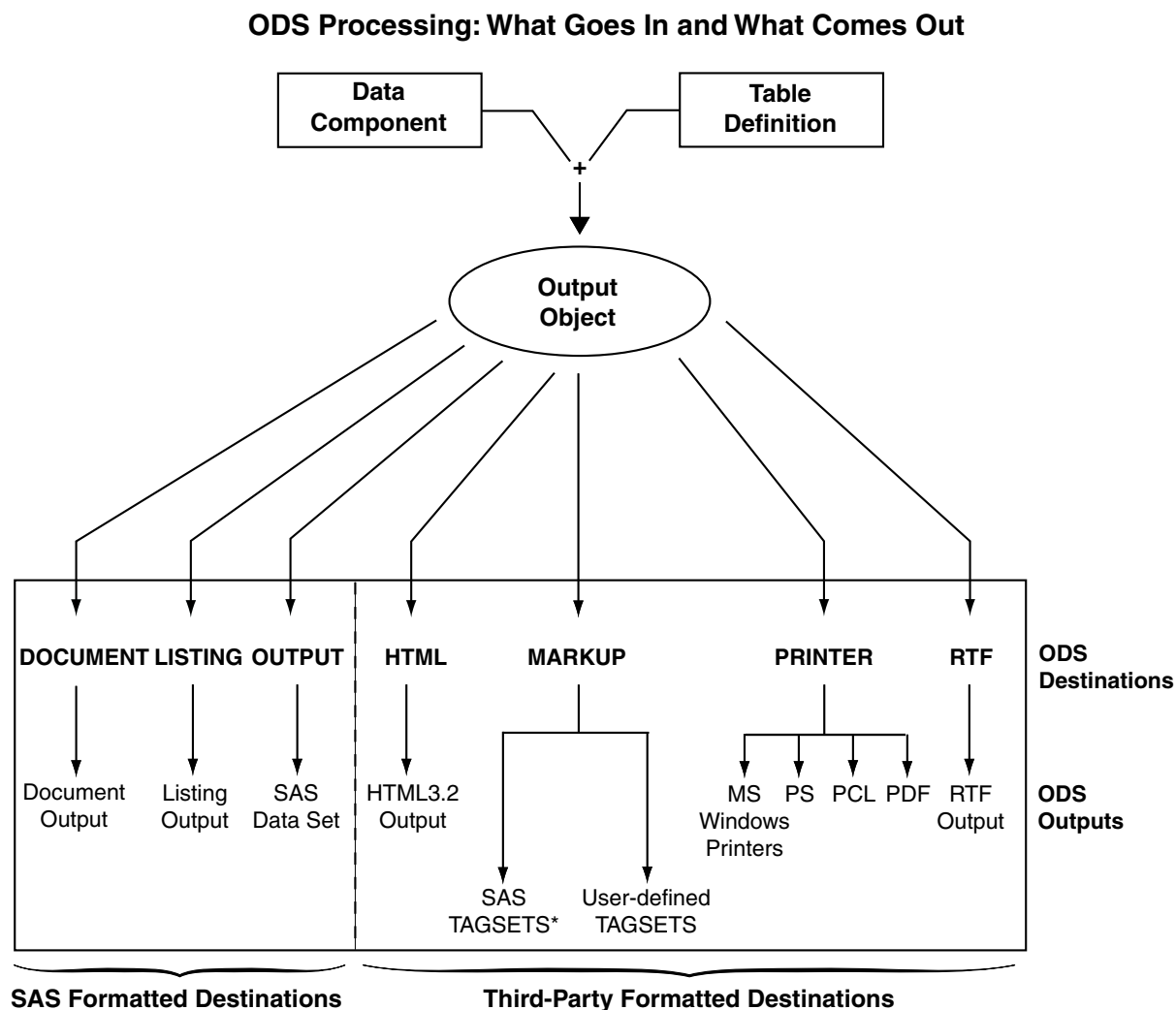


表 3.1 * SAS によって提供およびサポートされるタグセットのリスト

CHTML	CSV	CSVALL	CSVBYLINE
DEFAULT	DOCBOOK	EXCELXP	HTML4
HTMLCSS	HTMLPANEL	IMODE	MSOFFICE2K
PHTML	PYX	RTF	SASREPORT
WML	WMLLIST	XHTML	

表 3.2 * SAS によってサポートされる追加診断用タグセット

EVENT_MAP	NAMEDHTML	SHORT_MAP	STYLE_DISPLAY
STYLE_POPUP	TEXT_MAP	TPL_STYLE_LIST	TPL_SYLE_MAP

注: 製作前に使うタグセットも提供されています。これらのタグセットは、<http://support.sas.com> にあり、SAS によってサポートされていません。

ODS の機能

ODS では、従来の SAS 出力の制限が克服され、出力へのアクセスが簡単になり、新しいフォーマットオプションが容易に作成できるようになっています。ODS では、各種の形式で出力を作成する方法を利用できると共に、フォーマットされた出力へのアクセスが簡単になります。

ODS の重要な機能は次のようです。

- ODS は、生データを複数のテーブルテンプレートと組み合わせて、複数の出力オブジェクトを作成します。これらのオブジェクトは、任意または全部の ODS 出力先に送信できます。ODS 出力先を選択することで、ODS から特定の種類の出力を制御できます。現在利用可能な ODS 出力先は、次の種類の出力を作成できます。
 - 従来のモノスペース出力
 - 出力データセット
 - 出力オブジェクトの階層ファイルを含む ODS ドキュメント
 - PostScript や PDF などのような高解像度プリンタ用にフォーマットされる出力
 - HTML などのような各種マークアップ言語でフォーマットされる出力
 - Microsoft Word で使用するようフォーマットされる RTF 出力
- ODS では、SAS プロシジャおよび DATA ステップからの出力構造を定義するテーブルテンプレートが提供されます。これらのテンプレートを変更したり、独自のテンプレートを作成することで、出力をカスタマイズできます。
- ODS では、ODS 出力先に送信する個別の出力オブジェクトを選択できます。たとえば、PROC UNIVARIATE によって 5 つの出力オブジェクトが作成されます。任意または全部の出力オブジェクトから、HTML 出力、出力データセット、リスト出力、プリンタ出力を簡単に作成できます。各種出力オブジェクトを別々の出力先に送信できます。
- SAS ウィンドウ環境では、ODS によって**結果**ウィンドウの Results フォルダ内の各出力オブジェクトへのリンクが保存されます。
- フォーマット設定は ODS に集約されているため、新しい ODS 出力先を追加してもプロシジャや DATA ステップには影響を与えません。将来的に出力先が ODS に追加されると、DATA ステップや、ODS をサポートするすべてのプロシジャで自動的に利用できるようになります。
- ODS では、1 つのソースから無数の出力先に対して出力を作成できますが、各出力先に対して個別のソースを保持する必要はありません。この機能によって、プロシジャやデータクエリを 1 回実行すると複数の種類の出力を生成できるようになるため、時間とシステムリソースを節約できます。

ODS 出力先について

ODS 出力先カテゴリの概要

ODS によって、多種多様な出力先に対して SAS プロシジャと DATA ステップを作成できます。ODS 出力先は、2 つのカテゴリに分類されます。

SAS 出力形式が使用される出力先

SAS データセット、SAS 出力リスト、ODS ドキュメントなど、SAS によって制御および解釈される出力を作成します。

サードパーティフォーマットの出力先

スタイルやマークアップ言語を適用できるようにするか、またはページ記述言語を使用して実際のプリンタに印刷できるようにする出力を作成します。たとえば、PostScript、HTML、XML または作成したスタイルやマークアップ言語の各形式で出力を作成できます。

次の表は、ODS 出力先カテゴリ、各カテゴリに含まれる出力先、各出力先の結果のフォーマット出力を一覧表示します。

表 3.3 出力先カテゴリ表

カテゴリ	出力先	結果
SAS 出力形式	DOCUMENT	ODS ドキュメント
	LISTING	SAS 出力リスト
	OUTPUT	SAS データセット
サードパーティフォーマット	HTML	オンライン表示用 HTML ファイル
	MARKUP	マークアップ言語タグセット
	PRINTER	PCL、PDF、PS (PostScript) の 3 種類の形式のいずれかによる印刷可能出力
	RTF	Microsoft Word 2000 で使用されるリッチテキスト形式で記述された出力

将来的に出力先が ODS に追加されると、DATA ステップや、ODS をサポートするすべてのプロシジャで自動的に利用できるようになります。

出力先固有の入力の定義

出力非依存の入力とは、別の出力先でサポートされない場合でも、ある出力先が機能をサポートできることです。この場合、リクエストは、それをサポートしない出力先によって無視されます。それ以外の場合は、ODS によってすべての出力先に共通する機能の小規模なサブセットがサポートされます。これが真である場合、レポートをある出力形式から別の出力形式に変えることが困難になります。ODS には多数の出力フォーマットオプションがあるので、好みに応じて出力に適切な形式を使用できます。目的に応じて適切な出力先を使用することをお勧めします。

SAS 出力形式が使用される出力先

SAS 出力形式が使用される出力先によって、SAS データセット、SAS 出力リスト、ODS ドキュメントなどの SAS エンティティが作成されます。ODS の SAS 出力形式カテゴリのステートメントによって、SAS エンティティが作成されます。

次の 3 種類の SAS 出力形式が使用される出力先があります。

- DOCUMENT 出力先

DOCUMENT 出力先では、好みに応じてさまざまな方法でさまざまな出力先に対してデータを再構築、移動、再生することができます。分析を再実行したりデータベースクエリを繰り返したりする必要はありません。DOCUMENT 出力先によって、全体の出力ストリームが"生の"形式で使用できるようになり、カスタマイズできます。この出力は、データコンポーネントにテーブルテンプレートを加えた元の内部表示の状態で作成されます。出力が DOCUMENT 形式の場合、分析を再実行しなくても再整理、再構築、再フォーマットすることが可能です。他の ODS 出力先とは異なり、DOCUMENT 出力先には GUI インターフェイスがあります。ただし、GUI を介して実行できる操作は、ODS DOCUMENT ステートメントおよび DOCUMENT プロシジャを用いてバッチコマンドを実行しても可能です。

SAS 9 以前では、各プロシジャまたは DATA ステップによって、指定した各出力先に送信される出力が生成されました。必要な数の出力先に出力を常に送信できましたが、元々指定していなかった出力先を使用する場合には、プロシジャまたはデータクエリを再実行する必要があります。DOCUMENT 出力先では、出力オブジェクトを保存し、別々の出力先に対して再生できるため、プロシジャを再実行したりデータクエリを繰り返したりする必要がなくなりました。

- リスト出力先

リスト出力先によって、従来の SAS 出力と見た目は同じ出力が作成されます。

リスト出力先では、以前のバージョンの SAS 出力と見た目は同じ従来の SAS 出力を作成できます。

大部分のプロシジャは同じテーブルテンプレートの一部を共有しているため、出力の整合性が増します。たとえば、ANOVA テーブルを作成する 2 種類のプロシジャがある場合、各プロシジャによってテーブルの記述に使用されるテンプレートは同じであるため、それぞれの作成方法も同じになります。ただし、3 種類のプロシジャ (PRINT プロシジャ、REPORT プロシジャ、TABULATE プロシジャの n 通りのテーブルは、出力を作成する上でデフォルトのテーブルテンプレートを使用しません。これらのプロシジャは、ユーザーがプログラムコードで指定する構造を使用してテーブルを定義します。

- OUTPUT 出力先

OUTPUT 出力先によって、SAS 出力データセットが作成されます。ODS では、データとそのネイティブ形式の論理構造が既に設定済みのため、プロシジャが内部で処理する際に用いた結果のデータセットとまったく同一の SAS データセットが作成されます。この出力データセットは、さまざまなデータセットに渡す同様の統計情報を 1 つのテーブルに組み合わせる場合に、追加分析や詳細レポートで使用できます。SAS データセットの全機能を使用すると、出力データセットに簡単にアクセスしたり生成したりできます。たとえば、他の SAS データセットからデータを処理する場合と同様に、変数名を使用して出力にアクセスし、WHERE 式処理を実行できます。

サードパーティフォーマットの出力先

サードパーティフォーマットの出力先によって、SAS 以外のアプリケーションによって使用される出力オブジェクトにスタイルが適用されます。たとえば、これらの出力先では、フォントや色などの属性がサポートされます。

注: スタイル属性と有効な値のリストについては、“[スタイル属性テーブル](#)” (969 ページ)のスタイル属性表を参照してください。

サードパーティフォーマットの出力先の 4 つのカテゴリは次のとおりです。

- HTML (ハイパーテキストマークアップ言語)

HTML 出力先によって、埋め込み型のスタイルシートを含む HTML 4.0 出力が作成されます。ただし、HTML3 ステートメントを使用すると、HTML 3.2 出力を作成できます。HTML 出力先は、SAS セッションの開始時に開くデフォルトの出力先です。そのため、明示的に ODS を呼び出さなくても、常に ODS が使用されています。

HTML 出力先は、次の一部または全部を作成できます。

- プロシジャからの結果を含む HTML ファイル(ボディファイルと呼ばれます)
- ボディファイルにリンクする目次
- ボディファイルにリンクするページテーブル
- 目次、ページテーブル、ボディファイルを表示するフレーム

出力にリンクを張りたくない場合は、目次、ページテーブル、フレームファイルを作成する必要はありません。ただし、出力サイズが極めて大きいと、読みやすくしたりファイル内の移動を簡易化したりするため、目次やページテーブルを作成したい場合があります。

HTML 出力先はオンライン専用で、印刷向きではありません。出力オブジェクトのハードコピーを印刷するには、PRINTER 出力先を使用してください。

- マークアップ言語(マークアップ)ファミリ

テーブルテンプレートがテーブルレイアウトを記述し、スタイル属性が出力スタイルを記述するのと同様に、タグセットはマークアップ言語出力の作成方法を記述します。SAS によって提供されるタグセットを使用することもできれば、TEMPLATE プロシジャを実行して独自のタグセットを作成することもできます。SAS によって提供されるタグセットを使用するか、TEMPLATE プロシジャを実行して独自のタグセットも作成できます。テーブルテンプレートやスタイル属性と同様、タグセットによって、マークアップ言語出力を変更できます。たとえば、各種の XML を新しいタグセットとして指定できます。SAS によって XML タグセットの集合が提供されるので、カスタマイズした各種の XML を作成できます。

ここで重要なのは、SAS によって提供されるタグセットか、または作成したカスタマイズ版タグセットのいずれかを実装できるということです。次のリリース版の SAS を待つ必要はありません。PROC TEMPLATE を使用すると、独自のタグセットを変更および作成する追加機能を使用できるため、出力をカスタマイズする際の柔軟性が高まります。

MARKUP 出力先は柔軟性がかなり高いため、SAS タグセットまたは作成したタグセットのいずれかを使用できます。SAS によって提供されるマークアップ言語の詳細リストについては、“[ODS MARKUP ステートメント](#)”(404 ページ)のタグセット名のリストに関する項を参照してください。独自のタグセットを定義する方法については、15 章、“[TEMPLATE プロシジャ: マークアップ言語のタグセットの作成](#)”(1166 ページ)の独自のタグセットの作成方法に関する項を参照してください。

MARKUP 出力先は、テキスト測定を実行しないため、ODS PRINTER や ODS RTF 出力先の代わりにはなりません。そのため、ページ記述言語や、RTF などのハイブリッド言語用の出力を生成することはできません。このような出力では、すべてのテキストが測定され、ページ上の特定の位置に配置される必要があるからです。

ただし、SAS 9.2 では、従来のマークアップと従来のページレイアウト出力先に基づいた、測定マークアップ出力先が導入されています。この出力先の最初のプロダクションタグセットは、RTF 向けです。その他は計画中です。このタグセットの主な特徴は、マークアップ言語の実装において改ページが起こる場所が SAS によって決まる点にあります。具体的な情報は、“[ODS TAGSETS.RTF ステートメント](#)”(653 ページ)を参照してください。

- プリンタファミリ

PRINTER 出力先によって、次の出力が作成されます。

- Windows プリンタ(Windows 用)、PCL および PostScript プリンタ(その他の動作環境用)などの実際のプリンタへの印刷
- ポータブル PostScript、PCL、PDF ファイルの作成

PRINTER 出力先によって、ページ記述言語を含む ODS 出力が作成されます。このような言語は、各テキスト行、各ルール、各グラフィック要素がページ上に配置される正確な位置を記述します。通常、これらの形式を編集したり変更したりすることはできません。そのため、ODS PRINTER からの出力は、レポートの最終的な形式とみなされます。

- リッチテキスト形式(RTF)

RTF によって、Microsoft Word 用の出力が作成されます。その他のアプリケーションは RTF ファイルを読み取ることはできますが、RTF 出力が正常に機能しない場合があります。

RTF 出力先によって、RTF 出力を表示し、編集することが可能です。ODS では、垂直寸法測定が定義されません。つまり、SAS によって、ページ内に各項目を配置する最適な場所が決定されることはありません。たとえば、改ページは常に固定されているとは限りません。これは、テキストの編集時に RTF 出力テーブルが不適切な位置で改ページされないように考慮されているからです。テーブルを改ページせずにページ内に留めるか、または指定した位置で適切に改ページを入れることができます。

Microsoft Word では、テーブルの列の幅を認識することが必要で、ページに対して列幅が広すぎるとテーブルを調整できないため、ODS によってテキストとテーブルの幅が測定されます(横方向の測定)。そのため、SAS はすべての列幅を適切に設定し、1 ページ内に収まらないほど広い場合は、テーブルを複数のパネルに分割することができます。

つまり、SAS によって RTF 出力が Microsoft Word の入力用に作成される場合、横方向の測定が判定されます。Microsoft Word によって、縦方向の測定が制御されます。Microsoft Word によって、ページ上にどのくらいの余白を作るかを決定できますので、表は、たとえ RTF ファイルを修正した後でも、常に表示されます。

ただし、ODS TAGSETS.RTF ステートメントを使用すると実装される測定済みの RTF を使用する場合は、どのように、どこで改ページが起きるかを指定できます。また、いつタイトルと脚注をページ本体に付けるかを指定できます。暗示的な改ページは Microsoft Word の代わりに、SAS の責任範囲となります。具体的な情報は、“ODS TAGSETS.RTF ステートメント”(653 ページ)を参照してください。

サードパーティフォーマットのフォーマット機能の制御

リスト出力先の機能を超えてサードパーティフォーマットの出力先の表示設定を制御する全フォーマット機能は、2 つのメカニズムで制御されます。

- ODS ステートメントオプション
- スタイル属性

ODS ステートメントオプションによって、次の 3 つの機能が制御されます。

1. HTML 用スタイルシートなどの特定の出力先専用の機能
2. AUTHOR や目次生成などのドキュメントに共通する機能
3. 出力ファイル名など、各ドキュメントについてプログラマが変更するものと予想される機能

ODS スタイル属性によって、個別の要素の作成方法が制御されます。属性は、タイプフェイス、ウェイト、フォントサイズ、色などの特定のスタイルの特徴(一部)です。属性値によって、スタイル適用先のドキュメントの各パートの表示設定が集合的に決定されます。スタイル属性を使用すると、出力先専用コード(生の HTML など)をドキュメントに挿入する必要はありません。各出力先によって、ドキュメントの表示を生成する上で必要な属性が解釈されます。出力先はすべて同じとは限らないため、すべての出力先がすべての属性が解釈できるとは限りません。選択した出力先と互換性のないスタイル属性は無視されます。たとえば、PostScript はアクティブリンクをサポートしないため、PostScript 出力の作成時に URL=属性は無視されます。

ODS 出力先とシステムリソース

ODS 出力先は、開いているまたは閉じている場合があります。適切な ODS ステートメントを使用して出力先を開いたり閉じたりすることができます。出力先が開いていると、ODS によって出力オブジェクトが出力先に送信されます。開いている出力先では、ODS の選択/除外機能を使用してすべてのオブジェクトを出力先から選択/除外する場合でも、システムリソースが使用されます。そのため、リソースを節約するには、不要な出力先を閉じてください。詳細は、各 ODS ステートメントを参照してください。

デフォルトでは、HTML 出力先が開いており、他のすべての出力先は閉じています。つまり、何も設定しなければ、SAS プログラムが実行され、HTML 出力が作成されず。

テーブルテンプレート、テーブル要素、テーブル属性について

テーブルテンプレートは、表形式出力オブジェクトの出力を生成する方法が記述されます。(大半の ODS 出力は表形式です。)テーブルテンプレートによって、列ヘッダーの順序、変数の順序、テンプレートを使用する出力オブジェクトの全体表示が決定されます。テーブルテンプレートのカスタマイズに関する詳細は、[Chapter 14, “TEMPLATE プロシジャ: テーブルテンプレートの作成,” \(1060 ページ\)](#)の TEMPLATE プロシジャに関するトピックを参照してください。

ヘッダーと列の順序を決定するテーブルテンプレートのパートに加え、各テーブルテンプレートには**テーブル要素**が含まれるか、またはそれを参照します。テーブル要素は、特定の列、ヘッダー、フッターに適用される属性の集合です。通常、**テーブル属性**によって指定されるのは、そのプレゼンテーションや表示ではなく、データに関するものです。たとえば、FORMAT では、小数点の位置などの SAS フォーマットが指定されます。ただし、一部のテーブル属性によって、列と列との間に空白文字がいくつ置かれるかななどのデータの表示特性が記述されます。

注: データの表示を制御するテーブルテンプレートの属性によって、リストまたは出力先に送信される出力オブジェクトは影響を受けません。ただし、テーブル構造とデータ値を制御する属性によって、リスト出力は影響を受けます。

テーブル属性の詳細は、“[テーブル属性ステートメント](#)” (1100 ページ)を参照してください。

スタイル、スタイル要素、スタイル属性について

概要

SAS セッションで出力ストリーム全体のレベルで出力をカスタマイズするには、スタイルを指定します。スタイルによって、SAS 出力全体の表示部分(色、フォントフェイス、フォントサイズなど)を生成する方法が記述されます。スタイルによって、そのスタイルを使用するドキュメントの全体の表示設定が決定されます。

各スタイルはスタイル要素によって構成されます。スタイル要素は、出力の特定の一部に適用されるスタイル属性の集合です。たとえば、スタイル要素には、列見出しの表示またはセル内のデータの表示に関する命令が含まれる場合があります。また、スタイル要素によって、スタイルを使用する出力のデフォルトの色およびフォントが指定される場合があります。

各スタイル属性によって、1つの表示部分の値が指定されます。たとえば、BACKGROUND=属性によって HTML テーブルの背景や印刷出力のカラーテーブルの色が指定されます。FONTSTYLE=属性によって、英字下揃えまたはイタリックフォントを使用するかどうか指定されます。スタイル属性の詳細は、[13 章, “TEMPLATE プロシジャ: スタイルテンプレートの作成” \(942 ページ\)](#)のスタイル属性に関する項を参照してください。

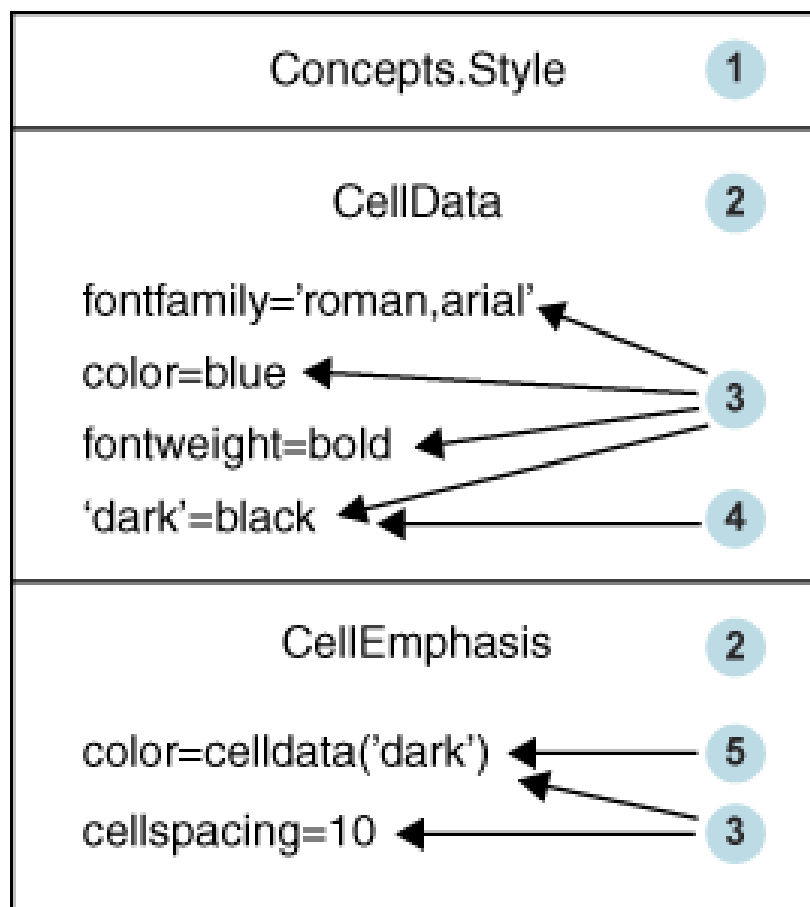
注: スタイルによってデータの表示が制御されるため、リストまたは出力出力先に送信される出力オブジェクトは影響を受けません。

テンプレートブラウザウィンドウの使用

スタイル、スタイル要素、スタイル属性の扱いに慣れるには、それらの関係性に注目します。次のプログラムによって、スタイル Concepts.Style が作成されます。プログラムの後の図によって、スタイル、スタイル要素、スタイル属性間の関係性が示されています。

```
proc template;  
define style concepts.style;  
style celldata /  
fontfamily="roman, arial"  
color=blue  
fontweight =bold  
"dark"=black;  
style cellemphasis from celldata /  
color=celldata("dark")  
borderspacing=10;  
end;  
run;
```

図 3.2 スタイル、スタイル要素、スタイル属性の図



次のリストは、前の図中の番号付き項目に対応します。

- 1 Concepts.Style は**スタイル**です。スタイルによって、SAS ジョブ全体の出力の表示部分(色、フォントフェイス、フォントサイズなど)を表示する方法を記述します。スタイルによって、そのスタイルを使用する ODS ドキュメントの全体の表示設定が決定されます。各スタイルはスタイル要素によって構成されます。スタイルは“[DEFINE STYLE ステートメント](#)” (958 ページ)によって作成されます。新しいスタイルは、個別に作成するか、または既存のスタイルからも作成できます。“[PARENT= ステートメント](#)” (964 ページ)を使用すると、既存のスタイルから新しいスタイルを作成できます。
- 2 CellData と CellEmphasis は**スタイル要素**です。スタイル要素は、SAS プログラム用出力の特定の一部に適用されるスタイル属性の集合です。たとえば、スタイル要素には、列見出しの表示またはテーブルセル内のデータの表示に関する指示が含まれる場合があります。また、スタイル要素によって、スタイルを使用する出力のデフォルトの色およびフォントが指定される場合があります。スタイル要素はスタイル内に存在し、“[STYLE ステートメント](#)” (965 ページ)によって定義されます。
 注: HTML およびマークアップ言語に使用されるデフォルトスタイル要素とその継承に関するリストは、“[ODS スタイル要素](#)” (1387 ページ)を参照してください。
- 3 次は、**スタイル属性と値のペア**です。
 - fontfamily="roman, arial"
 - color=blue

- `fontweight=bold`
- `"dark"=black`
- `color=celldata("dark")`
- `borderspacing=10`

スタイル属性によって、1つの表示部分の値が指定されます。たとえば、`COLOR=`属性によって、`blue`がテーブルの前景色の値として指定され、`FONTFAMILY=`属性によって値 `roman`と `arial`が使用するフォントとして指定されます。スタイル属性はスタイル要素内に存在し、SASによって提供されるか、ユーザーが定義することもできます。`FONTFAMILY=`、`COLOR=`、`FONTWEIGHT=`、`BORDERSPACING=`は、SASによって提供されるスタイル属性です。SASによって提供されるスタイル属性のリストは、“[スタイル属性テーブル](#)”(969ページ)を参照してください。

- 4 "Dark"は、**ユーザー定義スタイル属性**です。これによって、値 `black`が"dark"を指定すると代入されるようになります。
- 5 値 `celldata("dark")`は、**スタイル参照**です。スタイル属性は、スタイル参照を使用して参照できます。このスタイル参照によって、`PROC TEMPLATE`が `CellData`スタイル要素に送信され、"dark"スタイル属性に指定された値を使用するよう指定されます。スタイル参照の詳細は、“[style-reference](#)”(1007ページ)を参照してください。

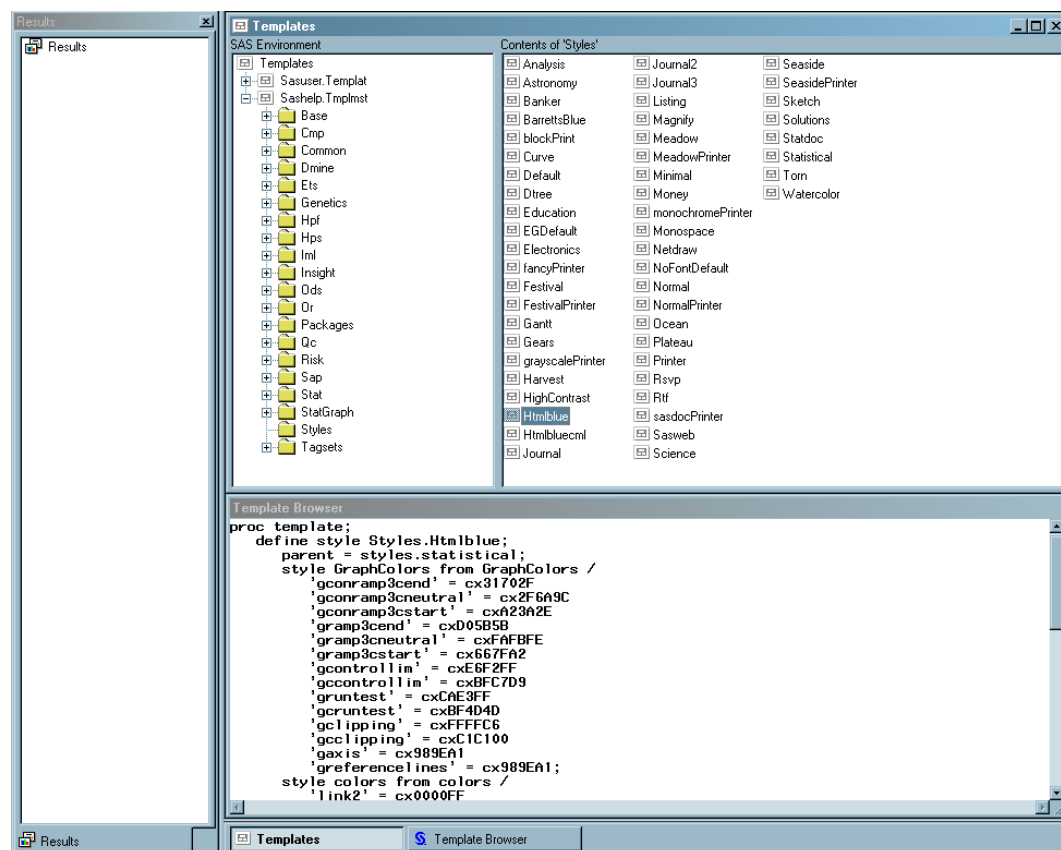
スタイル要素とスタイル属性は、SAS ウィンドウ環境の**テンプレートブラウザ**ウィンドウから任意のスタイルで表示できます。**テンプレートブラウザ**を表示する手順は、次のとおりです。

1. インタラクティブな SAS セッションのウィンドウから、**表示** ⇨ **結果**を選択します。
2. **結果**ウィンドウで、**表示** ⇨ **テンプレート**を選択します。
3. **テンプレート**ウィンドウで、`Sashelp.Tmplmst`を選択して開きます。
4. `styles` 使用可能なスタイルのリストを含むフォルダを選択して開きます。スタイルの基礎的な SAS コードを表示する場合は、スタイルを選択して開きます。

Windows 固有

エクスプローラウィンドウでマウスを使用せずに移動する方法に関する詳細は、ご使用の動作環境に合わせて SAS マニュアルの“**ウィンドウ制御と一般的なナビゲーション**”に関する項を参照してください。

アウトプット 3.3 テンプレートブラウザにおける HTMLBlue スタイルの表示



SAS 提供のスタイル

Base SAS ソフトウェアには、多数のスタイルが同梱されています。このようなスタイルのリストを確認するには、SAS エクスプローラウィンドウを表示する、TEMPLATE プロシジャを使用する、SQL プロシジャを使用するという 3 つの方法があります。

- SAS エクスプローラウィンドウ:

SAS エクスプローラウィンドウを使用して利用可能なスタイルのリストを表示するには、次の手順に従います。

- TEMPLATE プロシジャ:

また、次の PROC TEMPLATE ステートメントを送信しても、利用可能なスタイルのリストを表示できます。

```
proc template;
list styles;
run;
```

- SQL プロシジャ:

また、次の PROC SQL ステートメントを送信しても、利用可能なスタイルのリストを表示できます。

```
proc sql;
select * from dictionary.styles;
quit;
```

ODS 出力先によってどのようにスタイルが使用されるか、どのようにスタイルをカスタマイズできるかの詳細は、“[DEFINE STYLE ステートメント](#)” (958 ページ)を参照してください。

Base SAS プロシジャでスタイルを使用する

- 大半の Base SAS プロシジャ

ODS をサポートする大半の Base SAS プロシジャでは、出力オブジェクトの作成に複数のテーブルテンプレートが使用されます。このようなテーブルテンプレートには、列、ヘッダー、フッターのテーブル要素用のテンプレートが含まれます。各テーブル要素は、出力のさまざまな部分用の複数のスタイル要素の使用を指定できます。このようなスタイル要素は、プロシジャの構文内で指定できませんが、使用する ODS 出力先にカスタマイズしたスタイルを使用できます。テーブルとスタイルのカスタマイズに関する詳細は、13 章、“[TEMPLATE プロシジャ: スタイルテンプレートの作成](#)” (942 ページ)を参照してください。

- PRINT、REPORT、TABULATE プロシジャ

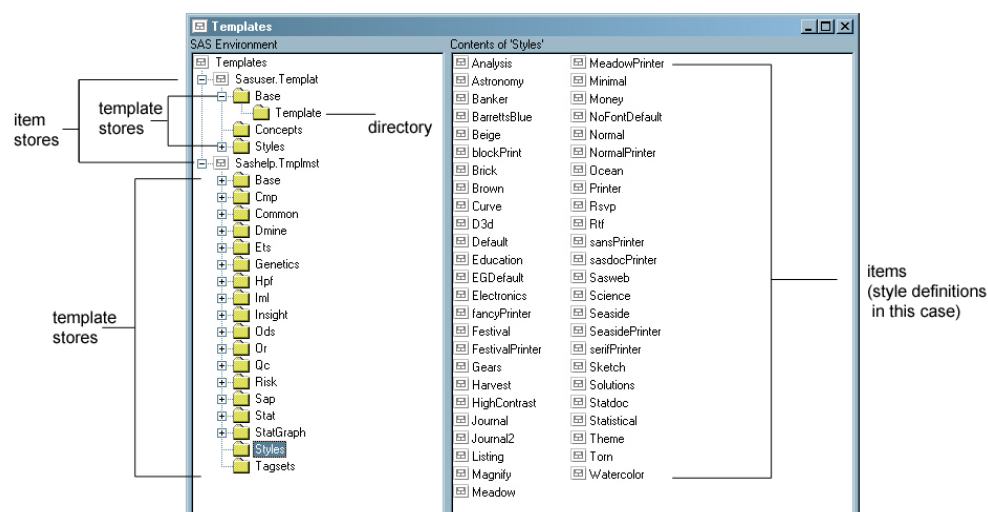
PRINT、REPORT、TABULATE プロシジャを使用して、プロシジャ手順そのものからテーブル要素にアクセスできます。テーブル要素にアクセスすると、特定のセルの背景色の指定や、列見出しのフォントフェイスの変更などを実行できます。PRINT、REPORT、TABULATE プロシジャでは、マークアップ言語や、レポートを作成するプロシジャステートメントから直接印刷した出力をカスタマイズできます。これらのプロシジャのカスタマイズに関する詳細は、*Base SAS プロシジャガイド*を参照してください。

アイテムストア、テンプレートストア、ディレクトリについて

テンプレートストアは、TEMPLATE プロシジャによって作成されたアイテムを保存するアイテムストアです。SAS によって提供されるアイテムは、アイテムストア `Sashelp.Tmplmst` 内にあります。コンパイル済みのテンプレートは、デフォルトで `Sasuser.Templat` アイテムストアに物理的に保存されます。ただし、作成するアイテムは、書き込みアクセス権を持つテンプレートストアに保存できます。

テンプレートストアには、ディレクトリとして認識される複数のレベルが含まれます。ただし、ODS PATH ステートメントでテンプレートストアを指定する場合、ライブラリ参照およびライブラリ参照によって参照される SAS ライブラリ内のテンプレートストア名が含まれる 2 レベルの名前を指定します。

画面 3.9 アイテムストア、テンプレートストア、ディレクトリおよびアイテムを表示するテンプレートウィンドウ



デフォルトの地域設定と異なる地域設定を使用する場合や、Sashelp.Tmplmst の外部で保存されたテンプレートを含む製品を使用する場合には、必要に応じてその地域設定と製品用のテンプレートストアが自動的に ODS パスに挿入されます。これらの追加テンプレートストアは、Sashelp.Tmplmst への変数または拡張機能であるため、現在の ODS パス内の Sashelp.Tmplmst の直前に挿入されます。たとえば、日本の地域設定を選択した場合、デフォルトの ODS パスは、Sasuser.Templat(update) Sashelp.Tmplmst(read)ではなく、Sasuser.Templat(update) Sashelp.TMPL_JA(read) Sashelp.Tmplmst(read)となります。

それぞれのテンプレートに Sashelp.Tmplmst 以外のテンプレートストアを使用する製品またはプロシジャの場合、同様の処理が発生します。テンプレートストア名はテンプレートパスに基づきます。たとえば、SAS/STAT によって個別のテンプレートストアが配布され、Stat.GLM.Anova 出力オブジェクトが提供されている場合、ODS パスは Sasuser.Templat(update) Sashelp.TMPLPROCGLM(read) Sashelp.Tmplstat(read) Sashelp.Tmplmst(read)となります。

Sashelp.Tmplmst 以外のテンプレートストアを使用する製品とデフォルト以外の地域設定の両方を使用する場合、処理は組み合わせられます。上記の SAS/STAT の例を日本の地域設定と組み合わせる場合、ODS パスは Sasuser.Templat(update) Sashelp.Tmplprocglm_jp(read) Sashelp.Tmplprocglm(read) Sashelp.Tmplstat_jp(read) Sashelp.Tmplstat(read) Sashelp.Tmplmst(read)となります。

これらの追加テンプレートストアは、出力オブジェクトの作成時に一時的に挿入されるため、ODS PATH ステートメントの使用時にそのテンプレートストアは表示されません。

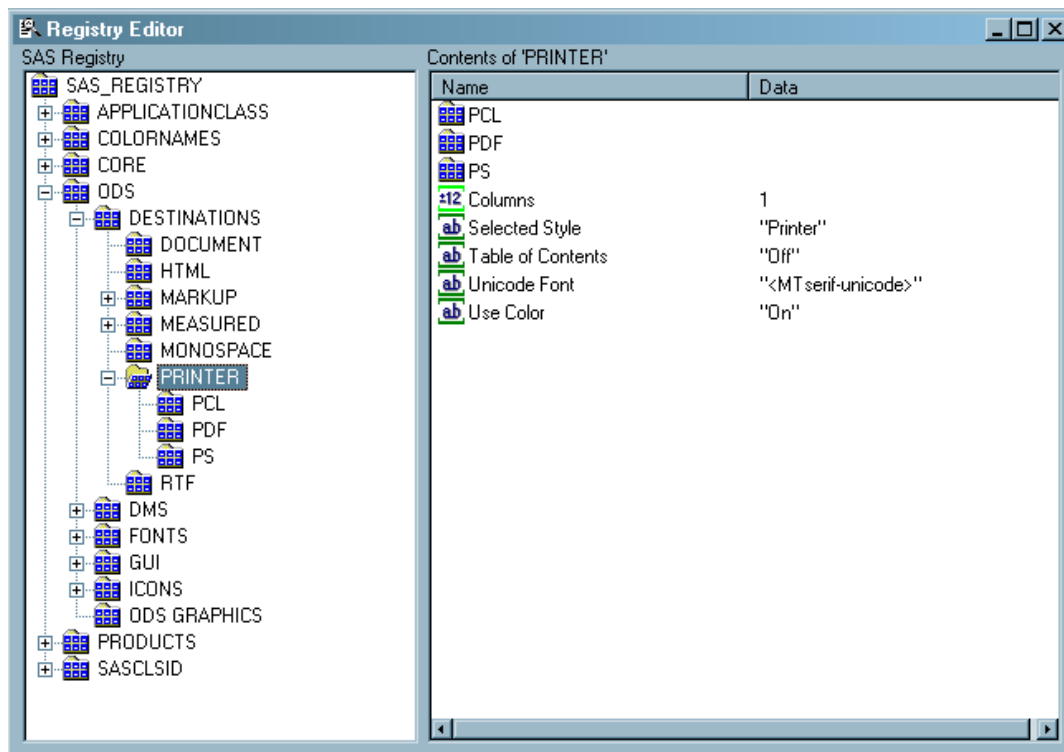
ODS の SAS レジストリ設定の変更

ODS と SAS レジストリの概要

SAS レジストリは、ODS によって使用される設定データ用の中央保存領域です。この設定データは階層形式で保存され、UNIX、Windows、VMS、z/OS UNIX システム環境で機能するディレクトリベースのファイル構造と同様に機能します。ただし、SAS レジストリでは、その構造の基本としてディレクトリとサブディレクトリではなく、キーとサブ

キーが使用されます。キーは、SAS の特定の特性を参照するワードまたはテキスト文字列です。各キーは、関連付けられた値やサブキーを含まないプレースホルダになるか、または関連付けられた値を持つ多数のサブキーが含まれる場合があります。たとえば、ODS キーには DESTINATIONS、GUI、ICONS、PREFERENCES サブキーが含まれます。サブキーは、別のキー内に含まれるキーです。次の例では、PRINTER が DESTINATIONS サブキーのサブキーになっていることがわかります。

画面 3.10 ODS サブキーの SAS レジストリ



デフォルトの HTML バージョン設定の変更

デフォルトでは、ODS HTML ステートメントを指定した場合、SAS レジストリは HTML4 出力を生成するように設定されます。デフォルトの HTML バージョンを恒久的に変更するには、SAS レジストリ内の HTML バージョンの設定を変更します。

注意:

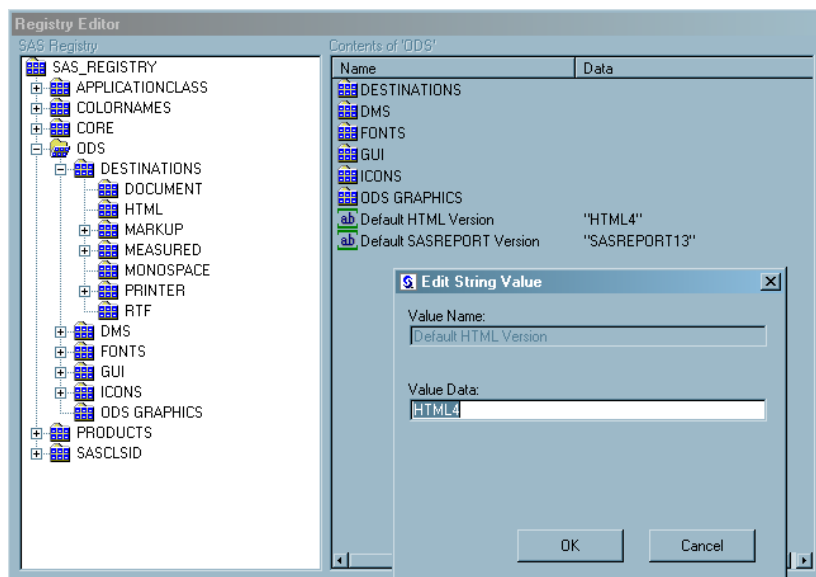
SAS レジストリを変更したときに誤りがある場合には、システムが不安定になったり使用できなくなったりする場合があります。不正確なエントリの場合、警告が表示されません。エントリが不正確な場合にはエラーが発生したり、さらには SAS セッションを起動できなくなったりする可能性があります。レジストリの設定に関する項を参照してください。参照先は、*SAS 言語リファレンス: 解説編*です。

SAS レジストリ内の HTML バージョンのデフォルト設定を変更する手順は、次のとおりです。

1. ソリューション ⇒ アクセサリ ⇒ レジストリエディタを選択するか、次のコマンドを実行します REGEDIT。
2. ODS ⇒ デフォルト HTML バージョンを選択します。
3. 編集 ⇒ 変更を選択するか、またはマウスボタンを右クリックして MODIFY を選択します。文字列値の編集ウィンドウが表示されます。

4. 値データテキストボックスに HTML バージョンを入力し、OK を選択します。

画面 3.11 HTML バージョン設定を表示する SAS レジストリ

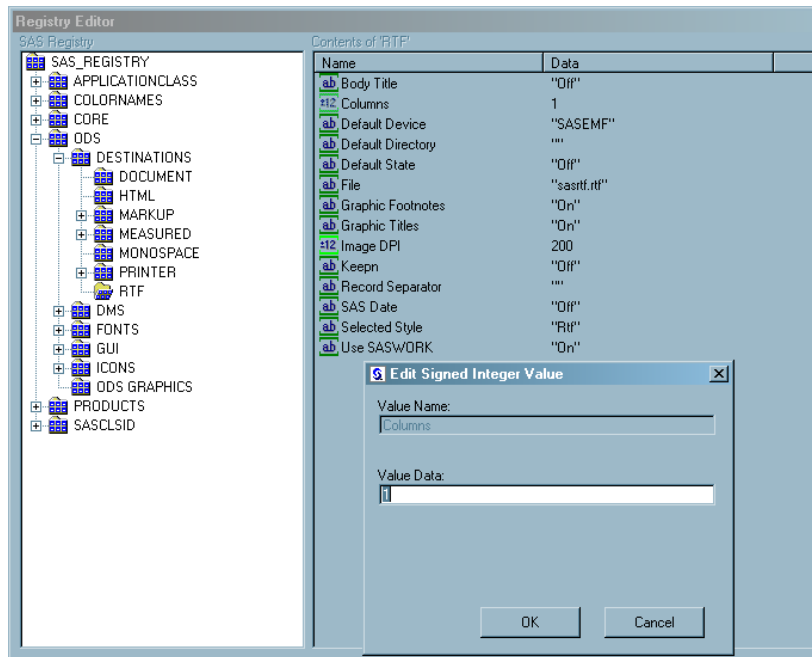


ODS 出力先のデフォルト設定の変更

ODS 出力先サブキーは、SAS レジストリ内に保存されます。これらの出力先サブキーの値を変更する手順は、次のとおりです。

1. **ODS** ⇒ **出力先**を選択します。
2. 出力先サブキーを選択します。
3. **コンテンツペイン内のサブキー**を選択します。
4. **編集** ⇒ **変更**を選択するか、またはマウスボタンを右クリックして **MODIFY** を選択します。
5. **値文字列の編集**または**符号付き整数値の編集**ダイアログボックスの**値データ**テキストボックスに値を入力し、**OK** を選択します。

画面 3.12 レジストリエディタウィンドウ



ODS プリンタ出力先のデフォルトプリンタ値の変更

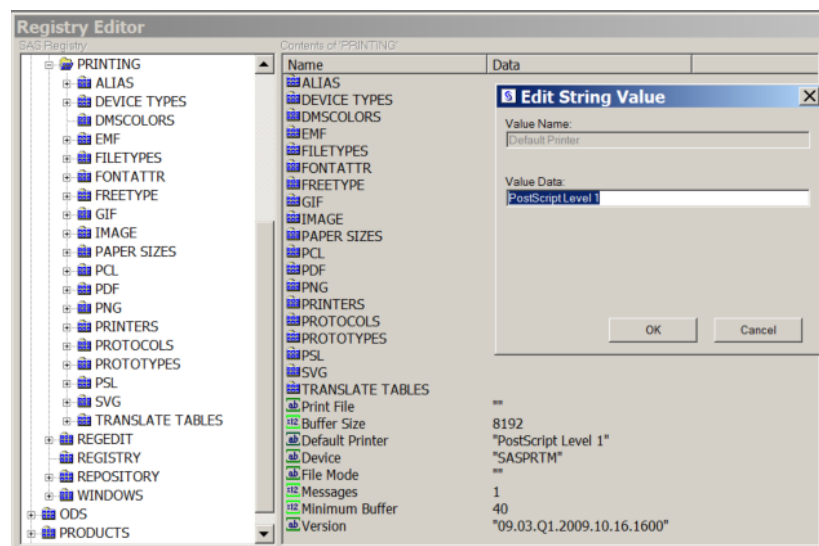
システムオプション NOUNIVERSALPRINT を設定した状態で Microsoft Windows プラットフォームが稼働中の場合、ODS PRINTER 用の SAS レジストリで表示されるデフォルトプリンタは、Windows システムオプション SYSPRINT によって指定される値です。それ以外の場合、デフォルトプリンタは、SAS レジストリ内の CORE ⇒ PRINTING キーで設定される"Default Printer"です。SAS 9.3 では、この"Default Printer"値を設定できるようになりました。

注: CORE ⇒ PRINTING レジストリキーの設定は、SAS システムの印刷設定ウィンドウでデフォルトプリンタが変更されると自動的に変更されます。

ODS PRINTER 出力先のレジストリの"Default Printer"値を変更するには、次の手順を実行します。

1. CORE ⇒ PRINTING を選択します。
2. 'Printing' のコンテンツペインで、Default Printer 値を選択します。
3. 編集 ⇒ 変更を選択するか、またはマウスポタンを右クリックして MODIFY を選択します。
4. 値文字列の編集または符号付き整数値の編集ダイアログボックスの値データテキストボックスに値を入力し、OK を選択します。

画面 3.13 レジストリエディタウィンドウにおけるデフォルトプリンタ値の変更

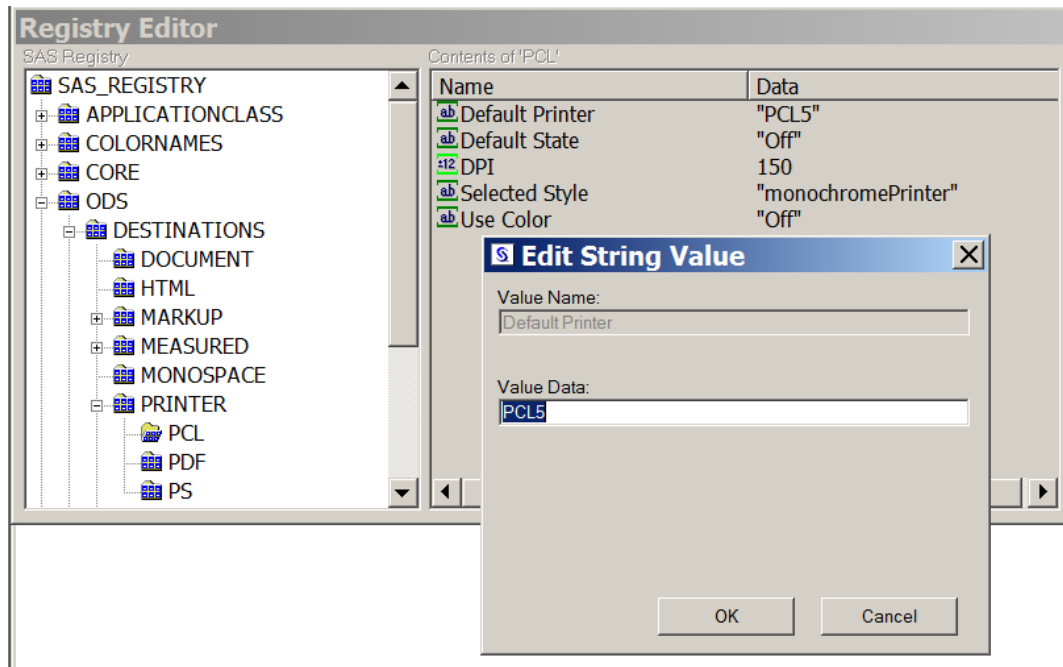


デフォルトの PCL プリンタは、SAS レジストリの PCL キーにおける“Default Printer”設定によって決まります。SAS 9.3 では、PCL、PDF、PS キー用レジストリ“Default Printer”値を変更できます。ODS PCL “Default Printer”キーを変更するには、レジストリエディタウィンドウで次の手順を実行します。

1. ODS ⇒ DESTINATIONS ⇒ PRINTER ⇒ PCL を選択します。
2. ‘PCL’ のコンテンツペインで、Default Printer 値を選択します。
3. 編集 ⇒ 変更を選択するか、またはマウスボタンを右クリックして MODIFY を選択します。
4. 値文字列の編集または符号付き整数値の編集ダイアログボックスの値データテキストボックスに値を入力し、OK を選択します。

注: また、レジストリエディタウィンドウの“Default Printer”は、ODS PDF および ODS PS 出力先用に変更することもできます。

画面 3.14 レジストリエディタウィンドウにおけるデフォルト PCL プリンタ値の変更



カスタマイズされた ODS 出力

SAS 出力

デフォルトでは、ODS 出力は、PROC ステップまたは DATA ステップによって定義される指示に従いフォーマットされます。ただし、ODS によって出力をカスタマイズできます。SAS ジョブ全体の出力をカスタマイズしたり、単体の出力オブジェクトの出力をカスタマイズしたりすることができます。

選択リストと除外リスト

各 ODS 出力先について、出力オブジェクトの選択リストまたは除外リストのいずれかが ODS によって管理されます。各出力先について選択/除外したデフォルトの出力オブジェクトを使用したり、あるいはリストから選択/除外してどの出力オブジェクトを生成するか指定することもできます。

選択リストは、ODS 出力先に送信される出力オブジェクトのリストです。除外リストは、ODS 出力先から除外される出力オブジェクトのリストです。また、ODS では出力オブジェクトの全体選択/除外リストが管理されます。出力先専用のリストと全体リストを確認することで、ODS は生成する出力オブジェクトの種類を決定します。ODS SELECT ステートメントと ODS EXCLUDE ステートメントを使用すると、これらのリストを変更できます。

ODS SHOW ステートメントを使用すると、選択/除外リストのコンテンツを表示できます。コンテンツ情報は SAS ログに書き込まれます。

ODS OUTPUT 出力先のデフォルト設定は、EXCLUDE ALL です。その他すべての出力先のデフォルト設定は、SELECT ALL です。デフォルトの選択/除外リストを変更するには、ODS SELECT または ODS EXCLUDE ステートメントを使用するか、あるいは

は一部の ODS ステートメントの場合には、利用できる選択/除外処理を実行します。ただし、OUTPUT 出力先の除外リストをデフォルト以外に設定するには、“[ODS OUTPUT ステートメント](#)” (455 ページ)を使用してください。ODS 出力先のリストとそれぞれの説明については、“[ODS 出力先について](#)” (33 ページ)を参照してください。

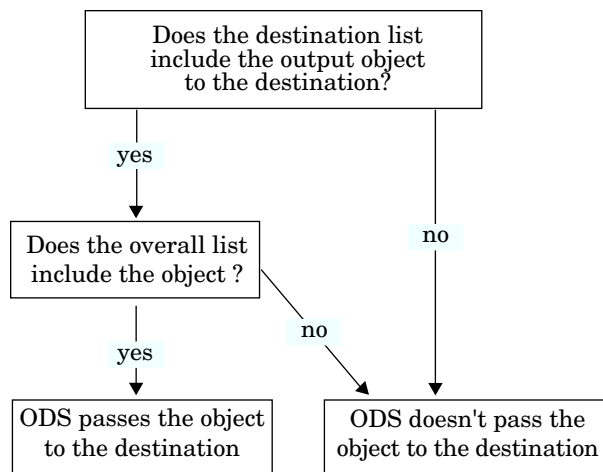
プログラムから選択/除外される出力オブジェクトを表示するには、ODS TRACE ステートメントを使用します。ODS TRACE ステートメントによって、選択/除外される出力オブジェクトが印刷され、SAS ログに書き込まれるトレースレコードに情報が入力されます。トレースによって、パスやラベル、それに選択/除外される出力オブジェクトに関するその他の情報が提供されます。出力オブジェクトの表示および選択に関する詳細な説明は、“[ODS SELECT ステートメント](#)” (598 ページ)、“[ODS EXCLUDE ステートメント](#)” (232 ページ)、“[ODS TRACE ステートメント](#)” (696 ページ)を参照してください。

ODS による出力オブジェクトの出力先の設定法

各出力オブジェクトが生成されると、ODS では選択/除外リストを使用して出力オブジェクトの送信先となる出力先の種類が決定されます。図 3.3 (50 ページ)はこのプロセスを図示したものです。

各出力先について、最初に ODS によって当該出力先のリストにオブジェクトが含まれるかどうかを確認されます。含まれない場合、ODS によってその送信先には出力オブジェクトが送信されません。当該出力先のリストにオブジェクトが含まれる場合には、ODS によってリスト全体が読み取られます。全体のリストにオブジェクトが含まれる場合、ODS によって出力先にそのオブジェクトが送信されます。全体のリストにオブジェクトが含まれない場合、ODS によってそのオブジェクトは送信先に送信されません。

図 3.3 出力先への出力オブジェクトの送信



注: 出力先に応じて選択リストと除外リストを別々に管理することはできますが、出力送信先の出力先すべてのリストについて同じ種類のものを管理すると、結果を把握する上で便利です。

出力オブジェクトの出力のカスタマイズ

プロシジャの場合、出力オブジェクトに使用されるテーブルテンプレートの名前は、プロシジャコードから取得されます。DATA ステップでは、FILE ステートメント内の ODS オプションで TEMPLATE=サブオプションを使用して別のテンプレートを指定しない限り、デフォルトのテンプレートが使用されます。詳細については、“[ODS の FILE ステートメント](#)” (62 ページ)の TEMPLATE= サブオプションに関する項を参照してください。

プロシジャまたは DATA ステップによって出力オブジェクトにどのテーブルテンプレートが使用されるかを確認する場合、トレースレコードに注目してください。SAS ログでトレースレコードを生成するには、次の SAS ステートメントを送信します。

```
ods trace on;
your-proc-or-DATA-step
ods trace off;
```

ただし、すべてのプロシジャでテーブルテンプレートが使用されるとは限りません。当該プロシジャのいずれかに対してトレースレコードを生成する場合、トレースレコードにはテンプレートが表示されません。逆に、一部のプロシジャでは出力の生成に複数のテーブルテンプレートが使用されます。ログで生成されるトレースレコードには、複数のテンプレートが表示されます。

トレースレコードの詳細は、“[ODS TRACE ステートメント](#)” (696 ページ)を参照してください。

PROC TEMPLATE を使用すると、テーブルテンプレート全体を変更できます。プロシジャまたは DATA ステップがテーブルテンプレートを使用する際には、そのテーブルテンプレートで定義または参照される要素が使用されます。通常、テンプレート自体を変更せずに使用するプロシジャまたは DATA ステップに対して、テーブル要素を直接指定することはできません。

注: 3 つの Base SAS プロシジャ(PROC PRINT、PROC REPORT、PROC TABULATE)では、プロシジャステップ自体からテーブル要素にアクセスすることはできます。テーブル要素にアクセスすると、レポートをカスタマイズできます。これらのプロシジャの詳細は、*Base SAS プロシジャガイド*を参照してください。

タイトルと脚注のカスタマイズ

グローバル TITLE および FOOTNOTE ステートメントを使用すると、レポートをさらに読みやすいものに上げることができます。これらのステートメントは、ODS で使用する場合、タイトルと脚注のスタイルをカスタマイズできるオプションを関連付けます。これらのオプションによって制御されるのはタイトルと脚注の表示のみであるため、リストまたは出力出力先に送信される出力オブジェクトは影響を受けません。このようなスタイルオプションの例として、BOLD、COLOR=、FONT=が挙げられます。スタイルオプションの詳細リスト、スタイルオプションの詳細説明、サンプルコードについては、TITLE ステートメント および FOOTNOTE ステートメント (*SAS ステートメント: リファレンス*)を参照してください。

SAS/GRAPH と共に使用する場合、タイトルと脚注をレンダリングするに当たり、ドキュメント本文の一部にするか、あるいはグラフィック画像の一部にするかを選択できます。タイトルと脚注をレンダリングする場所によって、タイトルと脚注のテキストのフォント、サイズ、色を制御する方法が決まります。このような ODS と SAS/GRAPH の相互作用に関する詳細は、タイトルと脚注の制御(*SAS/GRAPH: Reference*)を参照してください。

グラフィックオプション USEGOPT を使用する場合および使用しない場合のレンダリングされたタイトルと脚注の詳細は、“[ODS USEGOPT ステートメント](#)” (701 ページ)を参照してください。

ODS によって生成された PDF ファイルの保護

“[ODS PRINTER ステートメント](#)” (536 ページ) または “[ODS PDF ステートメント](#)” (487 ページ) を使用すると、PDF 出力を生成できます。こうして生成された PDF ファイルは、パスワードによって保護されていない場合、どのユーザーでも Acrobat を使用すれば PDF ファイルを表示したり編集したりすることができます。ただし、SAS システムオプションを使用すると、ユーザーが ODS PDF ファイルにアクセスしたり、アセンブ

ル、コピー、変更したりする操作を制限または許可できます。その他の SAS システムオプションでは、ユーザーがフォームに記入したり、印刷解像度を設定したりできるかどうかを制御できます。次の SAS システムオプションの説明は、*SAS システムオプション: リファレンス*を参照してください。

表 3.4 PDF システムオプション

タスク	システムオプション
PDF ドキュメントのテキストとグラフィックが、表示を劣化させずにスクリーンリーダーによって読み取ることができるかを指定します。PDF ドキュメントのテキストとグラフィックが、視覚障害者用スクリーンリーダーによって読み取ることができるかを指定します。	“PDFACCESS System Option” in <i>SAS System Options: Reference</i>
PDF ドキュメントがアセンブル可能かどうかを制御します。	“PDFASSEMBLY System Option” in <i>SAS System Options: Reference</i>
PDF ドキュメントのコメントが変更可能かどうかを制御します。	“PDFCOMMENT System Option” in <i>SAS System Options: Reference</i>
PDF ドキュメントのコンテンツが変更可能かどうかを制御します。	“PDFCONTENT System Option” in <i>SAS System Options: Reference</i>
PDF ドキュメントのテキストとグラフィックがコピー可能かどうかを制御します。	“PDFCOPY System Option” in <i>SAS System Options: Reference</i>
PDF フォームが記入可能かどうかを制御します。	“PDFFILLIN System Option” in <i>SAS System Options: Reference</i>
PDF ドキュメントを開くために使用するパスワードと、PDF ドキュメントの所有者によって使用されるパスワードを指定します。	“PDFPASSWORD= System Option” in <i>SAS System Options: Reference</i>
PDF ドキュメントの印刷に使用される解像度を制御します。	“PDFPRINT= System Option” in <i>SAS System Options: Reference</i>
PDF ドキュメントの印刷許可権限を制御します。	“PDFSECURITY= System Option” in <i>SAS System Options: Reference</i>

注: SAS/SECURE SSL ソフトウェアが同梱されるのは、暗号化ソフトウェア輸入を認めている国向けの SAS インストールソフトウェアのみです。

ODS の概要

これまでは、一般的に“出力”という用語の意味は、SAS プロシジャおよび DATA ステップの結果を示していました。Output Delivery System の登場に伴い、出力の意味はかなり幅広いものになりました。ODS によって、SAS プロシジャおよび DATA ステップからの出力が最適化されます。ODS では、フォーマットオプションの幅が広がると同時に、SAS 出力の生成、保存、再生成における柔軟性も向上しました。

ODS の重要な機能は次のようです。

- ODS は、生データを複数のテーブルテンプレートと組み合わせて、複数の出力オブジェクトを作成します。出力オブジェクトによって、プロシジャまたは DATA ステップの結果をフォーマットする方法が ODS に指示されます。
- ODS では、SAS プロシジャおよび DATA ステップからの出力構造を定義するテーブルテンプレートが提供されます。これらのテンプレートを変更したり、独自のテンプレートを作成したりして、出力をカスタマイズできます。これらのテンプレートを変更するか、独自のテンプレートを作成して、出力をカスタマイズできます。
- ODS では、ODS 出力先に送信する個別の出力オブジェクトを選択できます。
- ODS によって、Results フォルダに各出力オブジェクトへのリンクが保存されるので、取得やアクセスを簡単に行うことができます。
- 将来的に出力先が ODS に追加されると、DATA ステップや、ODS をサポートするすべてのプロシジャでその出力先が自動的に使用できるようになります。

ODS の主な目標の 1 つは、各出力先の個別のソースを必要とせずに、1 つのソースから多数の出力先に対して出力を生成できるようにすることです。ODS では次の出力先がサポートされます。

DOCUMENT

分析を 1 回実行するだけで出力オブジェクトを取得したり、各種形式で複数のレポートを生成したりすることができます。その際、SAS プログラムを再実行する必要はありません。

リスト

従来の SAS 出力と見た目は同じ出力を生成します。

HTML

オンライン表示用の出力を生成します。

MARKUP

マークアップ言語タグセット用の出力を生成します。

MEASURED MARKUP

ページ指向マークアップ言語用の出力を生成します。

OUTPUT

SAS 出力データセットを生成し、それで PROC PRINTTO 出力を解析する必要がなくなります。

PRINTER

表示準備が完了した印刷済みのレポートを生成します。

RTF

Microsoft Word レポートに適した出力を生成します。

デフォルトでは、ODS 出力は、プロシジャまたは DATA ステップによって定義される指示に従いフォーマットされます。ただし、ODS によって出力の表示をカスタマイズできます。SAS 出力の表示をカスタマイズしたり、単体の出力オブジェクトの表示設定をカスタマイズしたりすることができます。SAS ODS (Output Delivery System) は、SAS プロシジャと DATA ステップの出力の作成、保存、複製において自由度を高めるとともに、フォーマットオプションも拡げます。

3 部

Output Delivery System と DATA ステップ

4 章	DATA ステップでの ODS の使用	57
-----	---------------------------	----

4 章

DATA ステップでの ODS の使用

DATA ステップでの ODS の使用	57
DATA ステップでの ODS の機能	58
DATA ステップでの ODS 拡張機能の構文	59
ディクショナリ	59
ODS の PUT ステートメント	59
ODS の FILE ステートメント	62
例	72
例 1: DATA ステップとデフォルトのテーブルの定義を使用したレポートの作成	72
例 2: 選択した変数を含む ODS 出力の作成	75
例 3: ODS 出力における列への属性の割り当て	80
例 4: ユーザー定義のテーブル定義テンプレートの作成と使用	87

DATA ステップでの ODS の使用

現在 DATA ステップレポートを記述中の場合、ODS をすでに使用していることとなります。デフォルトでは、HTML 出力と DATA ステップ出力は、ODS を介してルーティングされます。過去 20 年以上に渡り、SAS ユーザーは高度にカスタマイズされたレポートをシンプルな LISTING 出力(モノスペース型フォントを使用)として作成することができました。ところが ODS の登場に伴い、自分でカスタマイズした DATA ステップレポートを出力する場合に選択肢の幅が広がりました。

- DATA ステップレポートは、HTML、RTF、PS (PostScript)、PDF など、多種多様な形式で生成できます。
- レポートは複数の形式で同時に作成できます。
- また、DATA ステップを再度実行しなくても、後からさまざまな形式でレポートを作成できます。

このような強化されたレポート作成機能を利用するには、DATA ステッププログラミングを ODS のフォーマット機能と組み合わせます。たとえば、PDF 出力を作成する場合、すでに使い慣れた DATA ステップツールを使用して開始します。

- DATA _NULL_ ステートメント
- FILE ステートメント
- PUT ステートメント

次に、いくつかのシンプルな ODS ステートメントとオプションを追加します。さらに、数種類の ODS フォーマット用ステートメントから選択し、その他の表示スタイル(HTML、RTF、PS など)で出力をフォーマットできます。ODS ステートメントに関する詳細は、次を参照してください。“[ODS 言語ステートメントについて](#)” (95 ページ)

DATA ステップでの ODS の機能

ここでは、拡張フォーマットを使用してレポートを作成するために、DATA ステップと連動して ODS を使用する場合の基本ステップについて説明します。

表 4.1 DATA ステップを使用して拡張 ODS 出力を生成する手順

手順	ツール	コメント
出力用フォーマットを指定します。	ODS フォーマット用ステートメントによって、LISTING、HTML、RTF、PS、PDF などの形式が指定されます。	複数の形式を指定すると、同時に複数の形式で出力を生成できます。 注: デフォルトの出力のみを生成する場合、出力先 ODS ステートメントは不要です。
構造を指定します。	FILE ステートメントの ODS オプションによって、変数と出力内での順序がリストで表示されます。	追加サブオプションを利用すると、結果として出力される構造をさらに細かく制御できるようになります。
データをテンプレートに接続します。	FILE PRINT ODS ステートメントによって、データコンポーネントをテーブル定義(テンプレート)に結合することで、出力オブジェクトが作成されます。	FILE PRINT ODS ステートメントで各種 ODS サブオプションを使用すると、その他の詳細を指定できます。
データを出力します。	PUT ステートメントによって、変数値がデータコンポーネントに書き込まれます。	全変数を簡単に出力する場合は、PUT_ODS_を使用します。

まず、ODS ステートメントを使用して、ODS で出力をどのようにフォーマットするか指定します(HTML、RTF、PDF など)。次に、DATA ステップで、FILE PRINT ODS および PUT ステートメントと共に ODS 専用サブオプションを使用し、レポートを作成します。

PUT ステートメントによって変数値が書き込まれ、FILE PRINT ODS ステートメントによって出力が指示されます。¹ODS を使用すると、同一の出力を複数の形式で生成したり、DATA ステップを再度実行しなくても、後から異なる形式で出力を生成できます。

ODS フォーマット用ステートメントを使用し、レポートに適用されるフォーマット設定を制御します。このステートメントによって、ODS と DATA ステップを使用して作成した出力オブジェクトの書式を設定する ODS 出力先の開閉が制御されます。

次はトピックの一覧で、追加情報へのリンクが記載されています。

¹ FILE ステートメントを指定しない場合、PUT ステートメントによってデフォルトで SAS ログに書き込まれます。複数の PUT および FILE ステートメントを使用する場合、ODS 拡張出力の作成のほか、ログへの書き込み、通常の DATA ステップ出力バッファへの書き込み、同一の DATA ステップ内の別の外部ファイルへの書き込みが可能です。

表 4.2 DATA ステップにおける ODS の使い方に関する詳細の提供

トピック	詳細情報の提供
ODS フォーマット用ステートメント	“ODS 言語ステートメントについて” (95 ページ)
ODS 出力先	“ODS 出力先について” (33 ページ)
ODS の機能	“ODS の機能の概要” (31 ページ)

DATA ステップでの ODS 拡張機能の構文

DATA ステップと ODS を使用し、デフォルト出力よりも多くの拡張フォーマット設定機能を含む出力を生成する場合、FILE PRINT ODS ステートメントと PUT ステートメントの両方を使用する必要があります。

ディクショナリ

ODS の PUT ステートメント

データコンポーネントに書き込みでき、次いで ODS によってフォーマットできる特別なバッファにデータ値を書き込みます。

- 該当要素:** DATA ステップ
- カテゴリ:** ファイル操作
- 種類:** 実行ファイル
- 要件:** PUT ステートメントにおいて `_ODS_` オプションを使用した場合、FILE PRINT ODS ステートメントを使用してください。
- 注:** テンプレートを使用している場合、この構文は PUT ステートメントの ODS フォームのみを表示します。完全な構文に関しては、次を参照。“PUT ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)

構文

```
PUT <仕様> <_ODS_> <@|@@>;
```

オプション引数

仕様

1 つ以上の変数を指定して、書き込み場所に書き込みます。仕様には、次のフォームがあります。

```
<ODS ポインタコントロール 1> 変数 1 <...> <ODS ポインタコントロール n> 変数 n
```

ODS ポインタコントロール

バッファ内のポインタを 指定の行または列に移動します。

参照項目: “ポインタが行端を超えて移動した場合” (61 ページ)

変数

書き込む変数を識別します。

例: “例 4: ユーザー定義のテーブル定義テンプレートの作成と使用” (87 ページ)

ODS

FILE PRINT ODS COLUMNS =ステートメントで 列に定義されたそれぞれの変数のデータコンポーネントに、PUT ステートメントが値を書き込むことを 指定します。

デフォルト: これらの列の順序は、FILE PRINT ODS ステートメントの COLUMNS=サブオプションによって指定された順序によって、決定されます。COLUMNS=サブオプションを省略した場合は、プログラムデータベクトル内の変数の順序によって出力オブジェクトの順序が決定されます。

要件 **_ODS_** オプションを指定する場合、FILE PRINT ODS ステートメントを使用し、FILE PRINT ODS ステートメントは PUT **_ODS_** ステートメントに 先行するようにしてください。

操作: 個々の変数の配置を指定する PUT ステートメントにおいて、**_ODS_** を使用できます。別の PUT ステートメントが同じ行と列に変数をまだ書き込んでいない場合のみ、**_ODS_** が一定の行と列に書き込みます。PUT ステートメントにおける **_ODS_** の位置は、データコンポーネントの結果に影響を与えません。

ヒント: デフォルトでは、データコンポーネントの列の順序は バッファ内の列の順序と一致します。ただし、表定義を指定していれば、この順序はオーバーライドされることがあります。詳細は、**ORDER_DATA (1106 ページ)**の説明を参照。

参照項目: 詳細は、**ODS<=(ODS-suboptions)>**を参照。(63 ページ)

@ | @@

反復する DATA ステップを通して、次の PUT ステートメントの実行用の出力行を保持します。ラインホールド指定子はトレーリング@ および ダブルトレーリング@@と呼ばれます。

デフォルト: @または@@を使用しない場合、データステップの 各 PUT ステートメントによってバッファに新しい行が書き込まれます。

参照項目: “ポインタが行端を超えて移動した場合” (61 ページ)

詳細**ODS の列ポインタコントロール**

ODS の列ポインタコントロールは、ODS を使用しない PUT ステートメントの列ポインタとやや異なります。ODS の列は、1 文字のスペースではなく、変数値全体を含む列を示します。したがって、ODS 列ポインタコントロールは、1 つの文字スペースから別の文字スペースへではなく、ある値全体から次の値へ移動します。列 1 には出力の最初の変数の値が含まれ、列 2 には 2 番目の値が含まれます。以降同様です。

ODS 列ポインタコントロールには 次の一般的形態があります。

@ods 列

ポインタを指定された ODS の列に移動します。*ods* 列は番号、数値変数または書き込む列を識別する数式です。

デフォルト: もし *ods* 列がデータコンポーネントの列の数を超えた場合は、ODS によって現在の行が書き込まれ、ポインタが次行の最初の ODS の列に移動され、PUT ステートメントの処理が続けられます。

要件 もし *ods* 列が数の場合は、正の整数にしてください。もし *ods* 列が数値変数または数式の場合は、SAS によって次の処理が行われます。もし *ods* 列が整

数でない場合は、SAS によって小数点以下が切り捨てられ、整数値のみが使用されます。もし *ods 列* が 0 または負の数の場合は、SAS によって、ポインタが列 1 に移動されます。

ヒント: デフォルト動作は、FILE PRINT ODS ステートメントの オプションで変更できません。詳細は、[オーバーフローコントロール \(63 ページ\)](#)の説明を参照。

例: “[例 4: ユーザー定義のテーブル定義テンプレートの作成と使用](#)” (87 ページ)

+*ods 列*

ODS の列の指定された番号を使用して、ポインタを移動します。*ods 列*は、数、数値変数、またはポインタを移動するために列の数を指定する数式です。

要件 もし *ods 列* が数の場合は、整数にしてください。もし *ods 列* が数値変数または数式の場合は、整数にする必要はありません。それが整数でない場合は、SAS によって小数点以下が切り捨てられ、整数値のみが使用されます。もし *ods 列* が正の整数の場合は、SAS によってポインタが右に移動されます。もし *ods 列* が負の整数の場合は、SAS によってポインタが左に移動されます。もし *ods 列* が 0 の場合は、SAS によってポインタが移動されません。

ヒント: 現在の列の位置が 1 より小さくなった場合は、ポインタを列 1 まで移動します。現在の列の位置がデータコンポーネントの列の数を超えた場合は、ODS によって現在の行が書き込まれ、ポインタが次行の最初の ODS 列に移動され、PUT ステートメントの処理が続けられます。

例: “[例 4: ユーザー定義のテーブル定義テンプレートの作成と使用](#)” (87 ページ)

@ '*column-name*'

ポインタを '*column-name*' によって識別された ODS の列まで移動します。列の名前は、データコンポーネントの変数の名前です。

要件 *column-name* は 引用符で括ってください。

ODS のラインポインタコントロール

ODS を使用する データステップの ラインポインタコントロールは、ODS を使用しない データステップの ラインポインタコントロールと同じです。しかし、ODS の次のリストのみ使用可能です。ラインポインタコントロールには、次の一般的な形態があります。

#*line*

ポインタを指定の行まで 移動します。*line* は 数、数値変数、または書き込む行を識別する数式です。

要件 もし *line* が数の場合は、整数にしてください。もし *line* が数値変数または数式の場合は、整数にする必要はありません。それが整数でない場合は、SAS によって小数点以下が切り捨てられ、整数値のみが使用されます。

/

ポインタを次行の 最初の列まで移動します。

例: “[例 4: ユーザー定義のテーブル定義テンプレートの作成と使用](#)” (87 ページ)

注: ODS 出力の行をスキップするために ラインポインタコントロールを使用した場合は、現在の行またはスキップした行にない列は、欠損値として 設定されます。数値が含まれる列には、欠損値に対してピリオドが 表示されます。ODS 出力にこれらのピリオドを表示したくない場合は、MISSING ステートメント(または MISSING= システムオプション) を使用して、不明の数値を空白に表示できます。ステートメントに関する詳細は、次を参照。“MISSING ステートメント” (*SAS ステートメント: リファレンス*) システムオプションに関する詳細は、次を参照。“MISSING= System Option” in *SAS System Options: Reference*

ポインタが行端を超えて移動した場合

ODS を使用するデータステップでは、バッファ内およびデータコンポーネント内の列の数が、次の 3 つの方法のいずれかで決定されます。

- デフォルトでは、プログラムデータベクトル内の変数の数によって、ODS の列の数が決定されます。
- FILE PRINT ODS ステートメントにおける COLUMNS=サブオプションで ODS の列を定義して、デフォルトをオーバーライドできます。
- テンプレートをデータコンポーネントに関連づけた場合は、テンプレートの仕様を優先させます。その結果、実際に出カオブジェクトに現れる列の数が、変更されることがあります。

ポインタコントロールと@または@@を使用するときは、不注意でポインタを ODS の最後の列を超えて配置してしまうこともあります。FILE PRINT ODS ステートメントのオプションを使用して、SAS によるこの状況の処理方法をコントロールできます。詳細は、[オーバーフローコントロール \(63 ページ\)](#)の説明を参照。

関連項目:

- [ODS とデータステップ \(57 ページ\)](#)
- [例 \(72 ページ\)](#)

ステートメント

- [“ODS の FILE ステートメント” \(62 ページ\)](#)

ODS の FILE ステートメント

データコンポーネントとテーブル定義(テンプレート)をバインドし、ODS 出カオブジェクトを作成します。オプションとして、FILE ステートメントは変数をリストにして ODS 出力に含め、変数のフォーマット方法を制御するオプションを指定します。

該当要素: DATA ステップ

カテゴリ: ファイル処理

種類: 実行可能

デフォルト: ODS によって、出カオブジェクトは開いているすべての ODS 出力先に送信されます。

注: この構文で示されるのは、FILE ステートメントの ODS 形式のみです。完全な構文については、“FILE ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)を参照してください。

構文

```
FILE PRINTODS <=(ODS-suboption(s))> <オプション>;
```

必須引数

PRINT

予約済みの fileref。出力先を ODS にする場合に使用する必要があります。

要件 PRINT は、ODS オプションを使用する FILE ステートメント内で使用する必要があります。

参照項目: “[例 1: DATA ステップとデフォルトのテーブルの定義を使用したレポートの作成](#)” (72 ページ)

ODS<=(ODS-suboptions)>

データコンポーネントの構造を定義し、データコンポーネントをテーブル定義にバインドします。結果は ODS 出力オブジェクトとなります。ODS によって、このオブジェクトは開いているすべての ODS 出力先に送信されます。

参照項目: “ODS サブオプション” (63 ページ) ODS サブオプションの詳細について

オプション引数**N=number**

DATA ステップの現在の反復で出力ポインタに利用可能な行数を指定します。

overflow-control

出力ポインタがバッファ内の最後の ODS 行を通過しようと試みる場合に、PUT ステートメントの動作を決定します。

overflow-control は次のいずれかです。

DROPOVER

PUT ステートメントがバッファ内の最後の ODS 列を超えて書き込もうと試みる場合に、アイテムを破棄します。DATA ステップの最後でログ内のメッセージによって、データがバッファに書き込まれたかどうかが通知されます。

FLOWOVER

PUT ステートメントがバッファ内の最後の ODS 列を超えてアイテムを書き込もうと試みる場合に、出力ポインタを新しい行に移動します。PUT ステートメントによって、次のアイテムが新しい行の最初の ODS 列に書き込まれます。

STOPOVER

PUT ステートメントがバッファ内の最後の ODS 列を超えて書き込もうと試みる場合に、DATA ステップの処理を直ちに停止してください。SAS は、データアイテムを破棄し、エラーが発生する前に作成されたバッファの一部を書き込み、エラーメッセージを出力します。

デフォルト: FLOWOVER

ODS サブオプション

表 4.3 ODS サブオプション

タスク	サブオプション
データコンポーネントの 1 つ以上の列を指定します。	COLUMNS=または VARIABLES= (64 ページ)
動的属性値のデフォルト値を指定します	DYNAMIC= (65 ページ)
テーブル定義内のすべての列定義を 1 つ以上の変数が使用できるかどうかを指定します	“GENERIC=ON OFF” (66 ページ) GENERIC=
COLUMNS=または VARIABLES=サブオプションで指定された列ヘッダーを持たない任意の列に使用する列ヘッダーを指定します	LABEL= (66 ページ)
DATA ステップによって生成される出力オブジェクトの名前を指定します	OBJECT= (66 ページ)
DATA ステップによって生成される出力オブジェクトのラベルを指定します	OBJECTLABEL= (67 ページ)

タスク	サブオプション
出力オブジェクトを生成するためにデータコンポーネントと共に使用するテーブル定義を指定します	TEMPLATE= (67 ページ)

COLUMNS=(column-specification(s))

データコンポーネントの 1 つ以上の列を指定し、データコンポーネント内での順序を決定します。

それぞれの *column-specification* によって、DATA ステップ変数はテーブル定義で定義される列に関連付けられます。*column-specification* の一般的な形式は次のとおりです。

```
(column-name-1<=variable-name-1<(attribute-suboptions)>>
<... column-name-n<=variable-name-n<(attribute-suboptions)>>> )
```

column-name

列名です。この名前は、使用するテーブル定義で定義される名前と一致する必要があります。

制限事項: *column-name* は、SAS 変数名のルールに準拠している必要があります。

要件 *column-name* は、丸かっこで囲んでください。

ヒント: リスト表記(たとえば、*score1-score5*)を使用すると、複数の列名を指定できます。

例: “例 4: ユーザー定義のテーブル定義テンプレートの作成と使用” (87 ページ)

variable-name

指定した列内に配置する DATA ステップでの変数を指定します。

デフォルト: *variable-name* を省略する場合、ODS によって、指定した列内に配置する *column-name* という名前の DATA ステップ変数が検索されます。該当する変数が存在しない場合、ODS によってエラーが返されます。

ヒント: リスト表記(たとえば、*score1-score5*)を使用すると、変数名の範囲を指定できます。

例: “例 4: ユーザー定義のテーブル定義テンプレートの作成と使用” (87 ページ)

(属性サブオプション)

ラベルや形式などの特性をデータコンポーネント内の特定の列に割り当てます。これらの個別の指定は、DATA ステップによって設定されるあらゆる属性より優先されます。

次の表は、COLUMNS=サブオプションに使用可能な属性サブオプションの一覧です。詳細については、“属性サブオプション” (69 ページ)を参照してください。

タスク	属性のサブオプション
テーブルテンプレート内の DYNAMIC ステートメントによって定義される変数の値を指定します	DYNAMIC= (69 ページ)
現在の列の形式を指定します	FORMAT= (69 ページ)
この列定義が DATA ステップによって複数の変数に使用されるかどうかを指定します	GENERIC= (69 ページ)

タスク	属性のサブオプション
特定の列のラベルを指定します	LABEL= (69 ページ)

要件 属性サブオプションは、丸かっこで囲んでください。

制限事項:

FILE PRINT ODS ステートメントで使用できるのは、1 つの COLUMNS=サブオプションのみです。

1 つの FILE PRINT ODS ステートメントでは、COLUMNS=サブオプションまたは VARIABLES=サブオプションのいずれかを使用できますが、両方同時には使用できません。

要件 *column-specification* は、丸かっこで囲んでください。

ヒント:

出力オブジェクトの列の順序を決定するのは、テーブル定義内の順序であって、データコンポーネント内の順序ではありません。

デフォルトの順序を上書きするには、定義を作成する PROC TEMPLATE ステップ内の ORDER_DATA=テーブル属性を使用します。デフォルトの DATA ステップ定義によって、次の属性が使用されます。詳細は、[ORDER_DATA= \(1106 ページ\)](#)に関する説明を参照してください。

COLUMNS=も VARIABLES=も指定しない場合、データコンポーネント内の列の順序は、プログラムデータベクトル内の対応変数の順序と一致します。

DYNAMIC=(dynamic-specification(s))

動的属性値のデフォルト値を指定します。

動的属性値は、テーブル定義内で定義されます。その名前は、DYNAMIC=サブオプションと共にデータコンポーネントに提供される値のプレースホルダとして機能します。ODS によってテーブル定義とデータコンポーネントから出力オブジェクトが作成される場合、データコンポーネントからの適切な値はテーブル定義内の値の名前に代入されます。

それぞれの *dynamic-specification* は次の形式となります。

dynamic-value-name<=*variable-name* | *constant*>

dynamic-value-name

テーブル定義によって動的属性値に付与される名前。

variable-name

変数を指定します。その変数の値は、*dynamic-value-name* に割り当てられると共に ODS に渡され、ODS によって出力オブジェクトが作成される場合にテーブル定義でプレースホルダに代入されます。

constant

定数を指定します。この定数は、*dynamic-value-name* に割り当てられると共に ODS に渡され、ODS によって出力オブジェクトが作成される場合にテーブル定義でプレースホルダに代入されます。

デフォルト: デフォルトでは、DYNAMIC=サブオプションはデータコンポーネント内のすべての列に適用されます。

操作: 独自の DYNAMIC=サブオプション指定を含まない列では、*dynamic-specifications* が使用されます。

ヒント: DYNAMIC=サブオプションを、COLUMNS=または VARIABLES=サブオプション内の列の属性として指定すると、各列のデフォルト指定を上書きできます。

参照項目: [“DYNAMIC Statement” \(1110 ページ\)](#)

GENERIC=ON | OFF

DATA ステップによってすべての列定義が複数の変数に使用されるかどうかを指定します。

ON

DATA ステップによってすべての列定義が複数の変数に使用されることを示します。

OFF

DATA ステップによって列定義が複数の変数に使用されないことを示します。

デフォルト: OFF

デフォルトでは、GENERIC=サブオプションはデータコンポーネント内のすべての列に適用されます。

制限事項: (COLUMNS=(GENERIC=ON))サブオプションを指定しない場合、ODS によって列名が一致として認識されません。

操作: テーブル定義を指定しない場合、GENERIC=サブオプションは ON に設定されます。

ヒント:

個別の列のデフォルト指定を上書きするには、GENERIC=サブオプションを COLUMNS=または VARIABLES=サブオプション内の当該列の属性として指定します。

DATA ステップの GENERIC=オプションは、テーブルテンプレート内の GENERIC=列属性と連動して使用されます。“[列属性ステートメント](#)” (1073 ページ)の GENERIC=列属性を参照してください。

LABEL='column-label'

COLUMNS=または VARIABLES=サブオプションで指定されたラベルを持たない列にラベルを指定します。

デフォルト: LABEL=サブオプションを使用する場合、ODS によって検索される次のラベルのうち最初のものが使用されます。

1. テーブル定義内の特定の列の HEADER=属性によって指定されるラベル ([HEADER= \(1080 ページ\)](#)を参照)
2. COLUMNS=または VARIABLES=サブオプション内の LABEL=サブオプションによって特定の列に指定されるラベル
3. ODS=オプション内の LABEL=サブオプションによって指定されるラベル
4. DATA ステップの LABEL ステートメントに割り当てられるラベル

ヒント: LABEL=サブオプションを省略する場合、テーブル定義のコンテンツによって列ヘッダーに変数名を含めるか、それとも空白にするかが決まります。

例: “[例 3: ODS 出力における列への属性の割り当て](#)” (80 ページ)

OBJECT= object-name

出力オブジェクトの名前を指定します。

結果ウィンドウおよび HTML コンテンツファイルには、各出力オブジェクトの説明と各出力オブジェクトへのリンクの両方が含まれます。説明には、ODS によって検索される次のアイテムのうち最初のものが記載されます。

- オブジェクトのラベル
- デフォルトタイトルの“The SAS System”ではない場合、現在のタイトル
- オブジェクトの名前
- 文字列 FilePrint# (オブジェクト名またはオブジェクトラベルを指定せずに現在の SAS プロセスで実行する各 DATA ステップに対して、#は 1 ずつ増えます)

制限事項: *object-name* は、SAS 変数名のルールに準拠している必要があります。これらのルールの詳細は、3 章: “SAS 言語のワードと命名規則について” (*SAS 言語リファレンス: 解説編*)を参照してください。

OBJECTLABEL='object-label'

出力オブジェクトのラベルを指定します。

結果ウィンドウおよび HTML コンテンツファイルには、各出力オブジェクトの説明と各出力オブジェクトへのリンクの両方が含まれます。説明には、ODS によって検索される次のアイテムのうち最初のものが記載されます。

- オブジェクトのラベル
- デフォルトタイトルの“The SAS System”ではない場合、現在のタイトル
- オブジェクトの名前(OBJECT=(66 ページ)を参照)
- 文字列 FilePrint# (オブジェクト名またはオブジェクトラベルを指定せずに現在の SAS プロセスで実行する各 DATA ステップに対して、#は 1 ずつ増えます)

要件 *object-label* は、引用符で囲んでください。

例: “例 3: ODS 出力における列への属性の割り当て” (80 ページ)

TEMPLATE= 'table-definition-name'

出力オブジェクトを生成するためにデータコンポーネントと共に使用するテーブル定義を指定します。

table-definition-name

テーブル定義へのパス。SAS によって、テーブル定義はアイテムストア内のアイテムとして保存されます。

デフォルト: TEMPLATE=オプションを指定する場合、ODS によってデフォルトテーブル定義の BASE.DATASTEP.TABLE が使用されます。

TEMPLATE=サブオプションを指定する場合、ODS によって最初に Sasuser.Templat 内の *table-definition-name* が検索され、次に Sashelp.Tmplmst が参照されます。

要件 *table-definition-name* は、引用符で囲んでください。

操作: デフォルトのテーブル定義を使用する場合、GENERIC=サブオプションは、データコンポーネント内のすべての列に対して ON に設定されます。詳細は、GENERIC=(66 ページ)を参照してください。

ヒント:

BASE.DATASTEP.TABLE テンプレートを使用する場合、文字値は左揃えになります。文字値を右揃えにする場合には、BASE.DATASTEP.TABLENOJUST テンプレートを指定してください。

ODS PATH (477 ページ)ステートメントを使用すると、ODS によって *table-definition-name* が検索される場所を変更できます。

例: “例 4: ユーザー定義のテーブル定義テンプレートの作成と使用” (87 ページ)

VARIABLES=(variable-specification(s))

出力オブジェクトのデータコンポーネントに関する 1 つ以上の列を指定します。それぞれの *variable-specification* によって、DATA ステップ変数はテーブル定義内で定義される列に関連付けられます。*variable-specification* 値には、次の一般的な形式が含まれます。

(*variable-name-1*<=*column-name-1*<(attribute-suboptions)>>

<... *variable-name-n*<=*column-name-n*<(attribute-suboptions)>>>)

variable-name

データコンポーネント内の列として使用する DATA ステップでの変数を指定します。

ヒント: リスト表記(たとえば、*score1-score5*)を使用すると、変数名の範囲を指定できます。

例:

“例 2: 選択した変数を含む ODS 出力の作成” (75 ページ)

“例 3: ODS 出力における列への属性の割り当て” (80 ページ)

column-name

列名です。この名前は、テーブル定義で定義される名前と一致する必要があります。

デフォルト: デフォルトのテーブル定義を使用しており、*column-name* を省略する場合、ODS によって列の名前をつけるのに変数ラベルが使用されます。変数にラベルがない場合、ODS によって変数名が使用されます。

デフォルトのテーブル定義以外のテーブル定義を使用し、*column-name* を省略する場合、ODS によって *variable-name* という名前の列のテーブル定義が参照され、その列に変数が配置されます。該当する列が存在しない場合、ODS によってエラーが返されます。

制限事項: *column-name* は、使用しているテーブル定義内の列名に一致する必要があります。また、SAS 変数名のルールに準拠している必要もあります。これらのルールの詳細は、3 章: “SAS 言語のワードと命名規則について” (*SAS 言語リファレンス: 解説編*)を参照してください。

ヒント: リスト表記(たとえば、*score1-score5*)を使用すると、列名の範囲を指定できます。

(attribute-suboptions)

ラベルや形式などの特性をデータコンポーネント内の特定の列に割り当てます。これらの個別の指定は、DATA ステップでデータコンポーネント全体に設定されるあらゆる属性より優先されます。

次の表は、VARIABLES=サブオプションに使用可能な属性サブオプションの一覧です。詳細については、“属性サブオプション” (69 ページ)を参照してください。

タスク	属性のサブオプション
テーブルテンプレート内の DYNAMIC ステートメントによって定義される変数の値を指定します	DYNAMIC= (69 ページ)
現在の列の形式を指定します	FORMAT= (69 ページ)
この列定義が DATA ステップによって複数の変数に使用されるかどうかを指定します	GENERIC= (69 ページ)
特定の列のラベルを指定します	LABEL= (69 ページ)

デフォルト: VARIABLES=サブオプションを指定する場合、出力オブジェクト内の列の順序を決定するのは、テーブル定義内の順序であって、データコンポーネント内の順序ではありません。COLUMNS=も VARIABLES=サブオプションも指定しない場合、データコンポーネント内の列の順序は、プログラムデータベクトル内の対応変数の順序と一致します。

制限事項:

FILE PRINT ODS ステートメントで使用できるのは、1 つの VARIABLES=サブオプションのみです。

変数を列に関連付けるために COLUMNS=サブオプションまたは VARIABLES=サブオプションのいずれかを使用できますが、両方のサブオプションを同一の FILE PRINT ODS ステートメントで使用することはできません。

ヒント:

デフォルトの順序を上書きするには、定義を作成する PROC TEMPLATE ステップ内の ORDER_DATA テーブル属性を使用します。デフォルトの DATA ステップ定義によって、次の属性が使用されます。詳細は、[ORDER_DATA=\(1106 ページ\)](#)を参照してください。

VARIABLES=サブオプションは、主にデフォルトの DATA ステップテーブル定義と共に使用されます。デフォルト定義を使用する場合、DATA ステップによって変数が定義内の適切な列にマッピングされるため、列名を指定する必要はありません。

例:

“例 2: 選択した変数を含む ODS 出力の作成” (75 ページ)

“例 3: ODS 出力における列への属性の割り当て” (80 ページ)

属性サブオプション

DYNAMIC=*dynamic-specification(s)*

テーブルテンプレート内の DYNAMIC ステートメントによって定義される変数の値を指定します。

参照項目:

DYNAMIC=サブオプション (65 ページ)

DYNAMIC ステートメント (1110 ページ)

例: “例 4: ユーザー定義のテーブル定義テンプレートの作成と使用” (87 ページ)

FORMAT=*format-name*

現在の列の形式を指定します。

デフォルト: ODS によって検索される変数に対して次の形式のうち最初のものが使用されます。

1. 非ジェネリック列の場合、列定義で指定される形式
2. FORMAT=列属性で指定される形式
3. FORMAT ステートメントで指定される形式
4. デフォルト形式(文字変数の場合は \$w.、数値変数の場合は BEST12.)

注: テーブル定義で指定されるジェネリック列の形式は、ODS への DATA ステップインターフェイスによって無視されます。

例: “例 4: ユーザー定義のテーブル定義テンプレートの作成と使用” (87 ページ)

GENERIC=ON | OFF

この列定義が DATA ステップによって複数の変数に使用されるかどうかを指定します。

デフォルト: OFF

ヒント: DATA ステップの GENERIC=オプションは、テーブルテンプレート内の GENERIC=列属性と連動して使用されます。“[列属性ステートメント](#)” (1073 ページ)の GENERIC=列属性を参照してください。

参照項目: GENERIC=サブオプション (66 ページ)

例: “例 4: ユーザー定義のテーブル定義テンプレートの作成と使用” (87 ページ)

LABEL=*'column-label'*

指定した列のラベルを指定します。

参照項目:

LABEL=サブオプション (66 ページ)

“例 3: ODS 出力における列への属性の割り当て” (80 ページ)

詳細

FILE ステートメントと ODS を使用する際の制限事項

FILE ステートメントを ODS で使用する場合、次の制限が適用されます。

- 次の引数によって影響を受けるのは、リスト出力のみです。
 - FOOTNOTES および NOFOOTNOTES
 - LINESIZE
 - PAGESIZE
 - TITLE および NOTITLES
- 次の引数は使用しないでください。
 - DELIMITER=
 - DLMSTR=
 - DSD
 - _FILE_=
 - FILEVAR=
 - HEADER=
 - PAD

オプションとサブオプションの使用

オプションはすべての列に適用されますが、サブオプションが適用されるのは特定の列のみです。

たとえば、次の両方の DATA ステップでは同一の出力が生成されます。次の DATA ステップによって、すべての列にサブオプション GENERIC=ON が指定されます。

例のコード 4.1 GENERIC=ON サブオプションを使用する DATA ステップ

```
data _null_;
set top3list;
file print ods = (
template='means.topn'
columns=(
class=school (generic=on)
class=year (generic=on)
sum=moneyRaised_sum (generic=on)
mean=moneyRaised_mean (generic=on)
raised=moneyRaised_1 (generic=on)
raised=moneyRaised_2 (generic=on)
raised=moneyRaised_3 (generic=on)
name=name_1 (generic=on)
name=name_2 (generic=on)
name=name_3 (generic=on)
school=school_1 (generic=on)
school=school_2 (generic=on)
school=school_3 (generic=on)
year=year_1 (generic=on)
year=year_2 (generic=on)
year=year_3 (generic=on)
)
)
```

```
);
put _ods_;
run;
```

次の DATA ステップでは GENERIC=ON オプションが使用されますが、その指定は 1 回のみ限定する必要があります。

例のコード 4.2 GENERIC=ON オプションを使用する DATA ステップ

```
data _null_;
set top3list;
file print ods = (
template='means.topn'
generic=on
columns=(
class=school
class=year
sum=moneyRaised_sum
mean=moneyRaised_mean
raised=moneyRaised_1
raised=moneyRaised_2
raised=moneyRaised_3
name=name_1
name=name_2
name=name_3
school=school_1
school=school_2
school=school_3
year=year_1
year=year_2
year=year_3
)
);
put _ods_;
run;
```

ODS サブオプションを使用しない

ODS サブオプションを指定しない場合、DATA ステップによってデフォルトテーブル定義(BASE.DATASSTEP.TABLE)が使用されます。これは、Sashelp.Tmplmst テンプレートストアに保存されています。この定義によって、2つのジェネリック列が定義されます。1つは文字変数用、もう1つは数値変数用です。ODSによって、DATA ステップ内の各変数がこれらの列のいずれかに関連付けられ、DATA ステップ内で定義される順序に従い変数が表示されます。

サブオプションがない場合、デフォルトのテーブル定義によって変数のラベルがその列ヘッダーとして使用されます。ラベルがない場合、定義によって変数の名前がその列ヘッダーとして使用されます。

関連項目:

- [4章, “DATA ステップでの ODS の使用” \(57 ページ\)](#)
- [例 \(72 ページ\)](#)

ステートメント

- [“ODS の PUT ステートメント” \(59 ページ\)](#)

例

例 1: DATA ステップとデフォルトのテーブルの定義を使用したレポートの作成

要素: FILE PRINT ODS ステートメント
PUT _ODS_ステートメント

ODS 出力先: HTML

詳細

この例では、DATA ステップと ODS を使用して HTML レポートが作成されます。DATA ステップのデフォルトのテーブル定義(テンプレート)が使用され、出力オブジェクトが HTML 出力先(デフォルト)に書き込まれます。

プログラム

```
options nodate pageno=1 linesize=64 pagesize=60 obs=15;

title 'Leading Grain Producers';

proc format;
value $cntry 'BRZ'='Brazil'
'CHN'='China'
'IND'='India'
'INS'='Indonesia'
'USA'='United States';
run;

data _null_;

  length Country $ 3 Type $ 5;
  format country $cntry.;
  label type='Grain';
  input Year country $ type $ Kilotons;

  file print ods;

  put _ods_;

  datalines;
1995 BRZ Wheat 1516
1995 BRZ Rice 11236
1995 BRZ Corn 36276
1995 CHN Wheat 102207
1995 CHN Rice 185226
1995 CHN Corn 112331
1995 IND Wheat 63007
1995 IND Rice 122372
1995 IND Corn 9800
1995 INS Wheat .
1995 INS Rice 49860
1995 INS Corn 8223
```

```

1995 USA Wheat 59494
1995 USA Rice 7888
1995 USA Corn 187300
1996 BRZ Wheat 3302
1996 BRZ Rice 10035
1996 BRZ Corn 31975
1996 CHN Wheat 109000
1996 CHN Rice 190100
1996 CHN Corn 119350
1996 IND Wheat 62620
1996 IND Rice 120012
1996 IND Corn 8660
1996 INS Wheat .
1996 INS Rice 51165
1996 INS Corn 8925
1996 USA Wheat 62099
1996 USA Rice 7771
1996 USA Corn 236064
;
run;

```

プログラムの説明

SAS システムオプションを設定します。 NODATE オプションによって出力内の日付と時刻の表示が非表示にされます。PAGENO=オプションによって開始ページ番号が指定されます。LINESIZE=オプションによって出カラインの長さが指定され、PAGESIZE=オプションによって出カページのライン数が指定されます。OBS=オプションによって、出力するオブザベーションの件数が指定されます。

```
options nodate pageno=1 linesize=64 pagesize=60 obs=15;
```

タイトルを指定します。 TITLE ステートメントによって、出力のタイトルが指定されます。

```
title 'Leading Grain Producers';
```

ユーザー定義形式を作成します。 PROC FORMAT によって、変数 COUNTRY の形式 \$CNTRY. が作成されます。

```

proc format;
value $cntry 'BRZ'='Brazil'
'CHN'='China'
'IND'='India'
'INS'='Indonesia'
'USA'='United States';
run;

```

出力データセットを作成しない DATA ステップを開始します。 _NULL_ を使用すると、DATA ステップで出力データセットが作成されなくなるため、コンピュータのリソースを節約できます。

```
data _null_;
```

変数の定義、長さ形式の割り当て、レコードの読み取り、4 つの変数への値の割り当てを実行します。 LENGTH ステートメントによって、デフォルトより短い長さが 2 つの文字変数に定義されます。FORMAT ステートメントによって、ユーザー定義形式が変数 COUNTRY に割り当てられます。LABEL ステートメントによって、ラベルが変数

TYPE に割り当てられます。INPUT ステートメントによって、データラインからレコードが読み取られ、値が 4 つの変数に割り当てられます。

```
length Country $ 3 Type $ 5;
format country $cntry.;
label type='Grain';
input Year country $ type $ Kilotons;
```

デフォルトのテーブル定義(テンプレート)を使用して、HTML 出力を作成します。FILE ステートメント内の ODS オプションと fileref PRINT を組み合わせると、DATA ステップ出力が ODS にルーティングされます。開いている ODS 出力先のみが HTML 出力先となりますが、これは SAS セッション開始時にデフォルトで開いた状態となっています。サブオプションが指定されていないため、ODS によってデフォルトの DATA ステップテーブル定義(テンプレート)が使用されます。この FILE PRINT ODS ステートメントによって、出力オブジェクトが作成され、それがデフォルトテンプレートに結合されます。

```
file print ods;
```

変数をデータコンポーネントに書き込みます。PUT ステートメント内の _ODS_ オプションによって、すべての変数がバッファ(PUT ステートメントによってデータコンポーネントに書き込まれる)に書き込まれます。各列には形式もラベルも指定されていないため、ODS によってデフォルトが使用されます。

```
put _ods_;
```

データによって、5 大穀物生産国が 1995 年から 1996 年に生産した小麦、米、コーンの量に関する情報が示されます。

```
datalines;
1995 BRZ Wheat 1516
1995 BRZ Rice 11236
1995 BRZ Corn 36276
1995 CHN Wheat 102207
1995 CHN Rice 185226
1995 CHN Corn 112331
1995 IND Wheat 63007
1995 IND Rice 122372
1995 IND Corn 9800
1995 INS Wheat .
1995 INS Rice 49860
1995 INS Corn 8223
1995 USA Wheat 59494
1995 USA Rice 7888
1995 USA Corn 187300
1996 BRZ Wheat 3302
1996 BRZ Rice 10035
1996 BRZ Corn 31975
1996 CHN Wheat 109000
1996 CHN Rice 190100
1996 CHN Corn 119350
1996 IND Wheat 62620
1996 IND Rice 120012
1996 IND Corn 8660
1996 INS Wheat .
1996 INS Rice 51165
1996 INS Corn 8925
1996 USA Wheat 62099
1996 USA Rice 7771
```

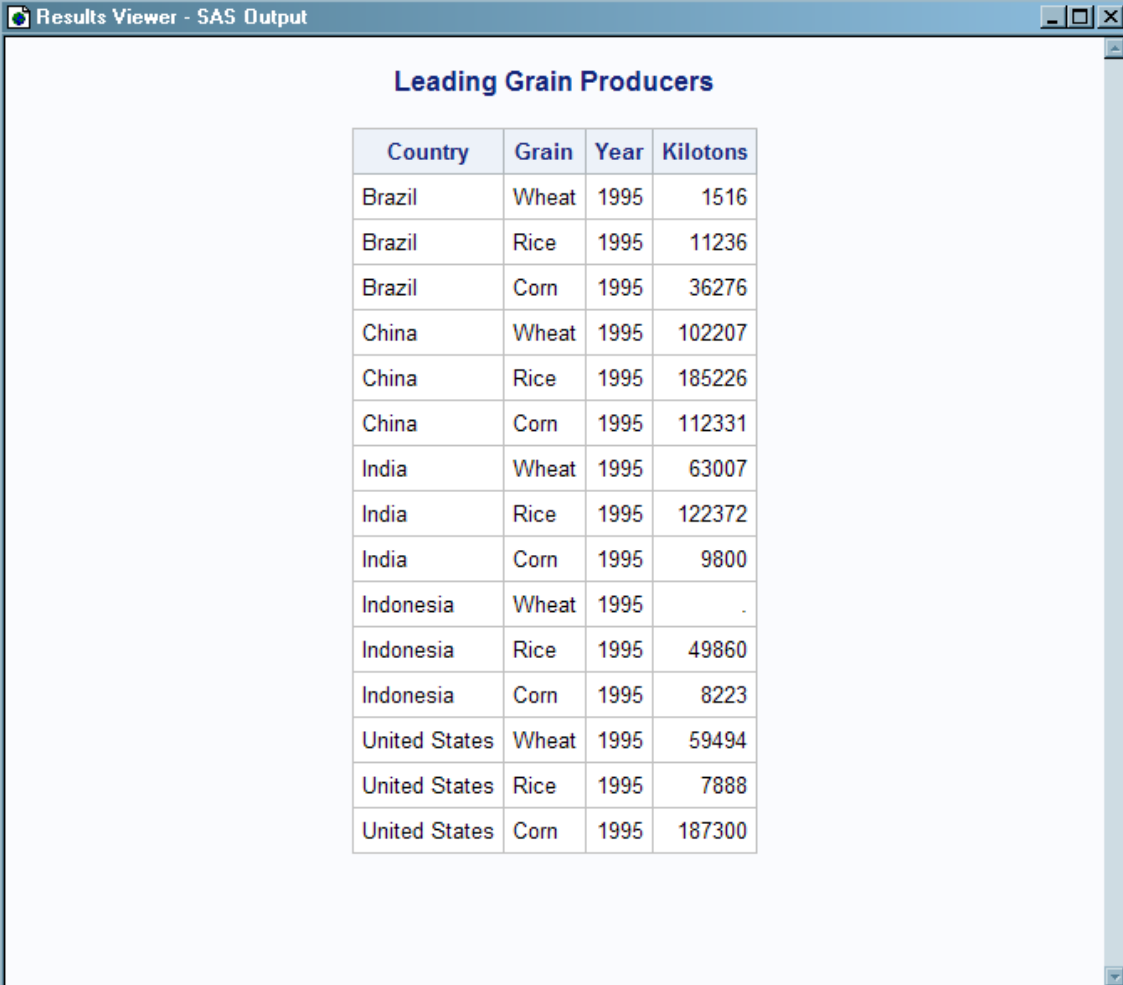
```
1996 USA Corn 236064
```

```
;  
run;
```

HTML 出力

デフォルトのテーブル定義によって、DATA ステップで各変数の列が生成されます。列の順序は、プログラムのデータベクトル内の順序によって決定されます。各列には属性が指定されていないため、ODS によってデフォルトの列見出しと形式が使用されます。

アウトプット 4.1 デフォルトの HTML 出力



The screenshot shows a window titled "Results Viewer - SAS Output" containing a table with the following data:

Country	Grain	Year	Kilotons
Brazil	Wheat	1995	1516
Brazil	Rice	1995	11236
Brazil	Corn	1995	36276
China	Wheat	1995	102207
China	Rice	1995	185226
China	Corn	1995	112331
India	Wheat	1995	63007
India	Rice	1995	122372
India	Corn	1995	9800
Indonesia	Wheat	1995	.
Indonesia	Rice	1995	49860
Indonesia	Corn	1995	8223
United States	Wheat	1995	59494
United States	Rice	1995	7888
United States	Corn	1995	187300

例 2: 選択した変数を含む ODS 出力の作成

要素: FILE PRINT ODS ステートメント:

VARIABLES=サブオプション

ODS PDF ステートメント:

FILE=オプション

PUT _ODS_ステートメント

出力形式: \$CNTRY.

ODS 出力先: HTML, PRINTER (PDF)

詳細

この例では、出力に含める変数を選択しています。結果として生成される出力は、PDF と HTML の 2 つの形式となります。HTML 出力はデフォルトで生成されますが、PDF 出力は ODS PDF ステートメントによってリクエストされます。この例では、一部の動作環境では無効になる可能性があるファイル名が使用されています。ご使用の動作環境でサンプルプログラムを正常に実行するには、場合によってファイル指定を変更する必要があります。付録 4, “異なる動作環境で例を実行する ODS HTML ステートメント” (1385 ページ)を参照してください。

プログラム

```
options nodate pageno=1 linesize=64 pagesize=60;

ods pdf
file='your-html-file.pdf';

title 'Leading Grain Producers';
title2 'for 1996';

data _null_;

  length Country $ 3 Type $ 5;
  format country $cntry.;
  label type='Grain';

  input Year country $ type $ Kilotons;
  if year=1996;

  file print ods=(variables=(country
type
kilotons));

  put _ods_;

  datalines;
1995 BRZ Wheat 1516
1995 BRZ Rice 11236
1995 BRZ Corn 36276
1995 CHN Wheat 102207
1995 CHN Rice 185226
1995 CHN Corn 112331
1995 IND Wheat 63007
1995 IND Rice 122372
1995 IND Corn 9800
1995 INS Wheat .
1995 INS Rice 49860
1995 INS Corn 8223
1995 USA Wheat 59494
1995 USA Rice 7888
1995 USA Corn 187300
1996 BRZ Wheat 3302
1996 BRZ Rice 10035
1996 BRZ Corn 31975
1996 CHN Wheat 109000
1996 CHN Rice 190100
```



```

1996 CHN Corn 119350
1996 IND Wheat 62620
1996 IND Rice 120012
1996 IND Corn 8660
1996 INS Wheat .
1996 INS Rice 51165
1996 INS Corn 8925
1996 USA Wheat 62099
1996 USA Rice 7771
1996 USA Corn 236064
;
run;

ods pdf close;

```

プログラムの説明

SAS システムオプションを設定します。 NODATE オプションによって出力内の日付と時刻の表示が非表示にされます。PAGENO=オプションによって開始ページ番号が指定されます。LINESIZE=オプションによって出力ラインのレングスが指定され、PAGESIZE=オプションによって出力ページのライン数が指定されます。いずれのオプションによっても、HTML 出力が影響を受けることはありません。

```
options nodate pageno=1 linesize=64 pagesize=60;
```

ODS で PDF 出力を作成し、それを指定したファイルに保存するように指定します。 ODS PDF ステートメントによって、PDF 出力先が開かれます。任意のプロシジャまたは作成される DATA ステップは、この出力先(および開いている他の出力先)にルーティングされるため、形式は PDF となります。FILE=オプションによって、すべての出力オブジェクトは指定する PDF ファイルに送信されます。

```
ods pdf
file='your-html-file.pdf';
```

ファイルタイトルを指定します。 TITLE ステートメントによって、出力のタイトルが指定されます。

```
title 'Leading Grain Producers';
title2 'for 1996';
```

出力データセットを作成しない DATA ステップを開始します。 _NULL_ を使用すると、DATA ステップで出力データセットが作成されなくなるため、コンピュータのリソースを節約できます。

```
data _null_;
```

デフォルト以外のレングスを 2 つの文字変数に割り当てます。また、1 つの変数にユーザー定義形式を、別の変数にラベルを割り当てます。 FORMAT ステートメントによって、形式が変数 COUNTRY に割り当てられます。LABEL ステートメントによって、ラベルが変数 TYPE に割り当てられます。

```
length Country $ 3 Type $ 5;
format country $cntry.;
label type='Grain';
```

入力データからレコードを読み取り、値を 4 つの変数に割り当てます。条件を満たすオブザベーションのみに対して処理を続けます。 INPUT ステートメントによって、1 つのレコードが読み取られ、値が 4 つの変数に割り当てられます。サブセット IF ステートメントを使用す

ると、DATA ステップは、YEAR の値として 1996 を持つオブザベーションのみに対して処理を継続します。

```
input Year country $ type $ Kilotons;
if year=1996;
```

DATA ステップ出力を、開いているすべての ODS 出力先に送信します。作成されるデータコンポーネントにおける変数とその順序を指定します。 FILE ステートメント内の ODS オプションと fileref PRINT を組み合わせると、DATA ステップの結果が ODS に送信されます。2 つの ODS 出力先、PDF と HTML の出力先が開かれます。テーブル定義が指定されていないため、ODS によってデフォルトの DATA ステップ定義が使用されます。VARIABLES=サブオプションによって、結果として生成されるデータコンポーネントにはリストの順序で 3 つの列が含まれることが指定されます。

```
file print ods=(variables=(country
type
kilotons));
```

FILE ステートメント内の VARIABLES=サブオプションによって指定される全変数の値を書き込みます。 PUT ステートメント内の _ODS_ オプションによって、変数値がデータコンポーネントに書き込まれます。書き込まれるのは、FILE ステートメント内の VARIABLES=サブオプションによって指定された変数のみです。これらの ODS 列には形式ラベルも指定されていないため、ODS によってデフォルトが使用されます。

```
put _ods_;
```

データによって、5 大穀物生産国が 1995 年から 1996 年に生産した小麦、米、コーンの量に関する情報が示されます。

```
datalines;
1995 BRZ Wheat 1516
1995 BRZ Rice 11236
1995 BRZ Corn 36276
1995 CHN Wheat 102207
1995 CHN Rice 185226
1995 CHN Corn 112331
1995 IND Wheat 63007
1995 IND Rice 122372
1995 IND Corn 9800
1995 INS Wheat .
1995 INS Rice 49860
1995 INS Corn 8223
1995 USA Wheat 59494
1995 USA Rice 7888
1995 USA Corn 187300
1996 BRZ Wheat 3302
1996 BRZ Rice 10035
1996 BRZ Corn 31975
1996 CHN Wheat 109000
1996 CHN Rice 190100
1996 CHN Corn 119350
1996 IND Wheat 62620
1996 IND Rice 120012
1996 IND Corn 8660
1996 INS Wheat .
1996 INS Rice 51165
1996 INS Corn 8925
1996 USA Wheat 62099
```

```

1996 USA Rice 7771
1996 USA Corn 236064
;
run;

```

出力を表示できるように PDF 出力先を閉じます。ODS PDF ステートメントによって、PDF 出力先とその関連ファイルすべてが閉じられます。出力を表示する前に出力先を閉じる必要があります。また、出力先を閉じると、今後の ODS ジョブすべてでは、自動的に PDF 出力が生成されなくなります。

```
ods pdf close;
```

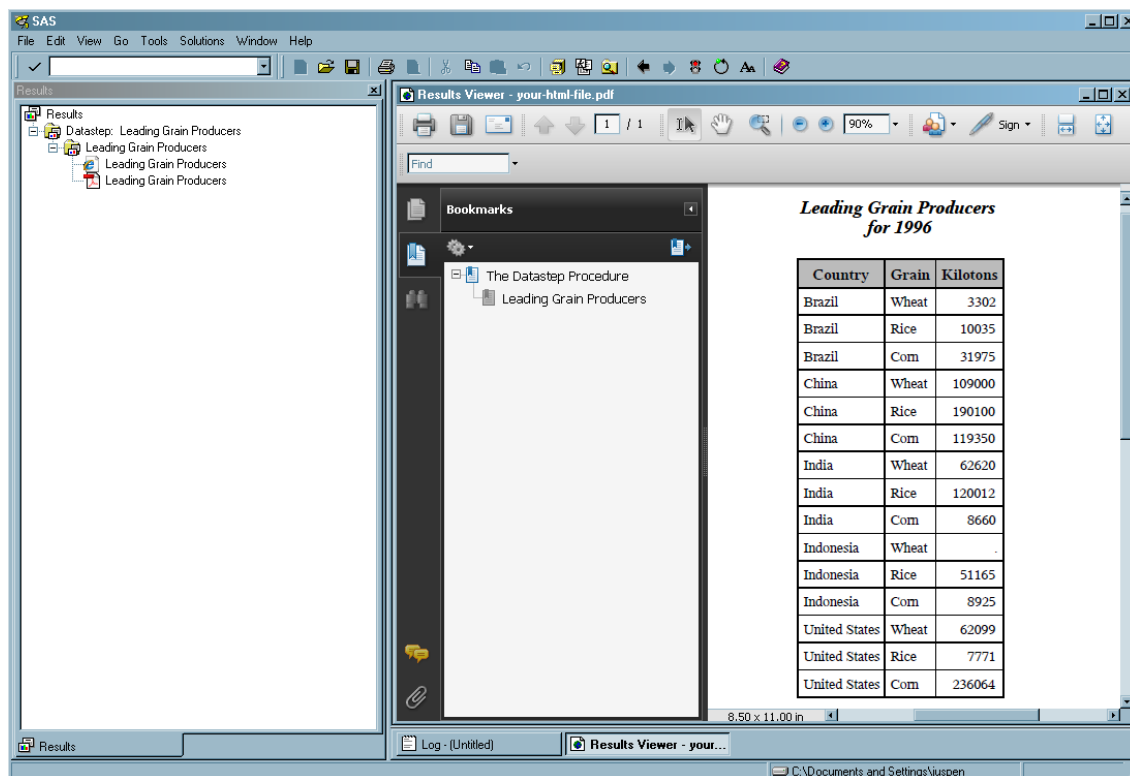
出力

アウトプット 4.2 ODS によって生成された HTML ボディファイル

The screenshot shows the SAS Results Viewer window displaying the following table:

Country	Grain	Kilotons
Brazil	Wheat	3302
Brazil	Rice	10035
Brazil	Corn	31975
China	Wheat	109000
China	Rice	190100
China	Corn	119350
India	Wheat	62620
India	Rice	120012
India	Corn	8660
Indonesia	Wheat	.
Indonesia	Rice	51165
Indonesia	Corn	8925
United States	Wheat	62099
United States	Rice	7771
United States	Corn	236064

アウトプット 4.3 PDF 出力



例 3: ODS 出力における列への属性の割り当て

要素: FILE PRINT ODS ステートメント:
 OBJECTLABEL=サブオプション
 VARIABLES=サブオプション
 LABEL=サブオプション
 FORMAT=サブオプション

PUT _ODS_ ステートメント

出力形式: \$CNTRY.

ODS 出力先: HTML, RTF, PRINTER (PDF)

詳細

この例では、作成する出力オブジェクトにラベルが割り当てられます。また、各列のラベルと形式も指定されます。この例では、一部の運用環境では無効になる可能性があるファイル名が使用されています。ご使用の動作環境でサンプルプログラムを正常に実行するには、場合によってファイル指定を変更する必要があります。付録 4, “異なる動作環境で例を実行する ODS HTML ステートメント” (1385 ページ)を参照してください。

プログラム

```
options pagesize=60 linesize=64 nodate pageno=1;
ods html body='your_body_file.html'
```

```

contents='your_contents_file.html'

frame='your_frame_file.html';

ods printer
file='your_postscript_file.ps';

title 'Leading Grain Producers';
title2 'for 1996';

data _null_;

  length Country $ 3 Type $ 5;
  format country $cntry.;
  label type='Grain';

  input Year country $ type $ Kilotons;
  if year=1996;

  file print ods= (objectlabel='1996 Grain Production'
variables=(country
type(label='Type of Grain')
kilotons(format=comma12.))
);

  put _ods_;

  datalines;
1995 BRZ Wheat 1516
1995 BRZ Rice 11236
1995 BRZ Corn 36276
1995 CHN Wheat 102207
1995 CHN Rice 185226
1995 CHN Corn 112331
1995 IND Wheat 63007
1995 IND Rice 122372
1995 IND Corn 9800
1995 INS Wheat .
1995 INS Rice 49860
1995 INS Corn 8223
1995 USA Wheat 59494
1995 USA Rice 7888
1995 USA Corn 187300
1996 BRZ Wheat 3302
1996 BRZ Rice 10035
1996 BRZ Corn 31975
1996 CHN Wheat 109000
1996 CHN Rice 190100
1996 CHN Corn 119350
1996 IND Wheat 62620
1996 IND Rice 120012
1996 IND Corn 8660
1996 INS Wheat .
1996 INS Rice 51165
1996 INS Corn 8925
1996 USA Wheat 62099
1996 USA Rice 7771
1996 USA Corn 236064
;
run;

```

```
ods _all_ close;
```

プログラムの説明

SAS システムオプションを設定します。 NODATE オプションによって出力内の日付と時刻の表示が非表示にされます。PAGENO=オプションによって開始ページ番号が指定されます。LINESIZE=オプションによって出力ラインのレングスが指定され、PAGESIZE=オプションによって出力ページのライン数が指定されます。これらのオプションによって LISTING 出力は影響を受けますが、いずれのオプションによっても、HTML 出力が影響を受けることはありません。

```
options pagesize=60 linesize=64 nodate pageno=1;
```

HTML 出力を作成することを指定します。また、HTML 出力を保存する場所(ボディファイル、コンテンツファイル、フレームファイル)も指定します。 ODS PDF ステートメントによって、HTML 出力先が開かれ、HTML 出力が作成されます。BODY=オプションによって、HTML 出力を含むファイルが識別されます。CONTENTS オプションによって、HTML 出力の目次を含むファイルが識別されます。コンテンツファイルは、ボディファイルにリンクされています。FRAME=オプションによって、目次、ページコンテンツ、ボディファイルを統合するファイルが識別されます。フレームファイルを開くと、目次、ページ表、またはその両方と共に、ボディファイルが表示されます。

```
ods html body='your_body_file.html'
```

```
contents='your_contents_file.html'
```

```
frame='your_frame_file.html';
```

PostScript 出力を希望していることを指定します。また、PostScript 出力を保存する場所も指定します。 ODS PRINTER ステートメントによって、PRINTER 出力先が開かれ、デフォルトで PostScript 出力が作成されます。FILE= オプションによって、すべての出力オブジェクトは、現在のディレクトリ内の外部ファイルに送信されます。

```
ods printer
file='your_postscript_file.ps';
```

タイトルを指定します。 TITLE ステートメントによって、出力のタイトルが指定されます。

```
title 'Leading Grain Producers';
title2 'for 1996';
```

出力データセットを作成しない DATA ステップを開始します。 _NULL_ を使用すると、DATA ステップで出力データセットが作成されなくなるため、コンピュータのリソースを節約できます。

```
data _null_;
```

デフォルト以外のレングスを 2 つの文字変数に割り当てます。また、1 つの変数にユーザ定義形式を、別の変数にラベルを割り当てます。 LENGTH ステートメントによって、長さが COUNTRY と TYPE に割り当てられます。FORMAT ステートメントによって、形式が変数 COUNTRY に割り当てられます。LABEL ステートメントによって、ラベルが変数 TYPE に割り当てられます。

```
length Country $ 3 Type $ 5;
format country $cntry.;
label type='Grain';
```

入力データからレコードを読み取り、値を4つの変数に割り当てます。条件を満たすオブザベーションのみに対して処理を続けます。INPUT ステートメントによって、1つのレコードが読み取られ、値が4つの変数に割り当てられます。サブセット IF ステートメントを使用すると、DATA ステップは、YEAR の値として 1996 を持つオブザベーションのみに対して処理を継続します。

```
input Year country $ type $ Kilotons;
if year=1996;
```

DATA ステップ出力を開いている出力先に送信し、出力オブジェクトにラベルを指定して、データコンポーネントに書き込む変数とその書き込み順序を指定します。FILE ステートメント内の ODS オプションと fileref PRINT を組み合わせると、DATA ステップの結果が ODS に送信されます。LISTING、HTML、PRINTER の各出力先は開いています。テーブル定義が指定されていないため、ODS によってデフォルトの DATA ステップ定義が使用されます。OBJECTLABEL=サブオプションによって、ラベル'1996 Grain Production'が出力オブジェクトに指定されます。このラベルは、結果フォルダと HTML コンテンツファイル内で表示されます。VARIABLES=サブオプションによってデータコンポーネントに書き込む変数とその書き込み順序が指定されます。LABEL=サブオプションによって、変数 TYPE のラベルが指定されます。ここで指定されるラベルは、前に DATA ステップで実行された LABEL ステートメントの割り当てよりも優先されるため、TYPE の列見出しとして使用されます。FORMAT=サブオプションによって、変数 KILOTONS の形式が割り当てられます。

```
file print ods= (objectlabel='1996 Grain Production'
variables=(country
type(label='Type of Grain')
kilotons(format=comma12.))
);
```

変数をバッファに書き込みます。PUT ステートメント内の _ODS_ オプションによって、ODS (FILE PRINT ODS ステートメント内)に定義されるすべての変数が特別なバッファに書き込まれます。COUNTRY にはデフォルト属性が使用され、その他の変数には VARIABLES=サブオプションで指定した属性が使用されます。DATA ステップ内の別の場所で指定しても VARIABLES=では指定していない属性の場合、デフォルトが使用されます。

```
put _ods_;
```

データによって、5 大穀物生産国が 1995 年から 1996 年に生産した小麦、米、コーンの量に関する情報が示されます。

```
datalines;
1995 BRZ Wheat 1516
1995 BRZ Rice 11236
1995 BRZ Corn 36276
1995 CHN Wheat 102207
1995 CHN Rice 185226
1995 CHN Corn 112331
1995 IND Wheat 63007
1995 IND Rice 122372
1995 IND Corn 9800
1995 INS Wheat .
1995 INS Rice 49860
1995 INS Corn 8223
1995 USA Wheat 59494
1995 USA Rice 7888
1995 USA Corn 187300
```

```

1996 BRZ Wheat 3302
1996 BRZ Rice 10035
1996 BRZ Corn 31975
1996 CHN Wheat 109000
1996 CHN Rice 190100
1996 CHN Corn 119350
1996 IND Wheat 62620
1996 IND Rice 120012
1996 IND Corn 8660
1996 INS Wheat .
1996 INS Rice 51165
1996 INS Corn 8925
1996 USA Wheat 62099
1996 USA Rice 7771
1996 USA Corn 236064
;
run;

```

HTML 出力を表示して PostScript 出力を印刷するには、HTML および PRINTER 出力先を両方とも閉じます。このステートメントによって、LISTING、HTML、PRINTER の各出力先とそれに関連するすべてのファイルが閉じられます。出力をブラウザで表示する前に HTML 出力先を閉じる必要があります。実際のプリンタに出力を印刷する前に PRINTER 出力先を閉じる必要があります。これらの出力先を閉じないと、今後のセッションで作成される出力は、その出力先にルーティングされることになり、場合によって気付かずに HTML および PostScript 出力を生成し続ける可能性があります。

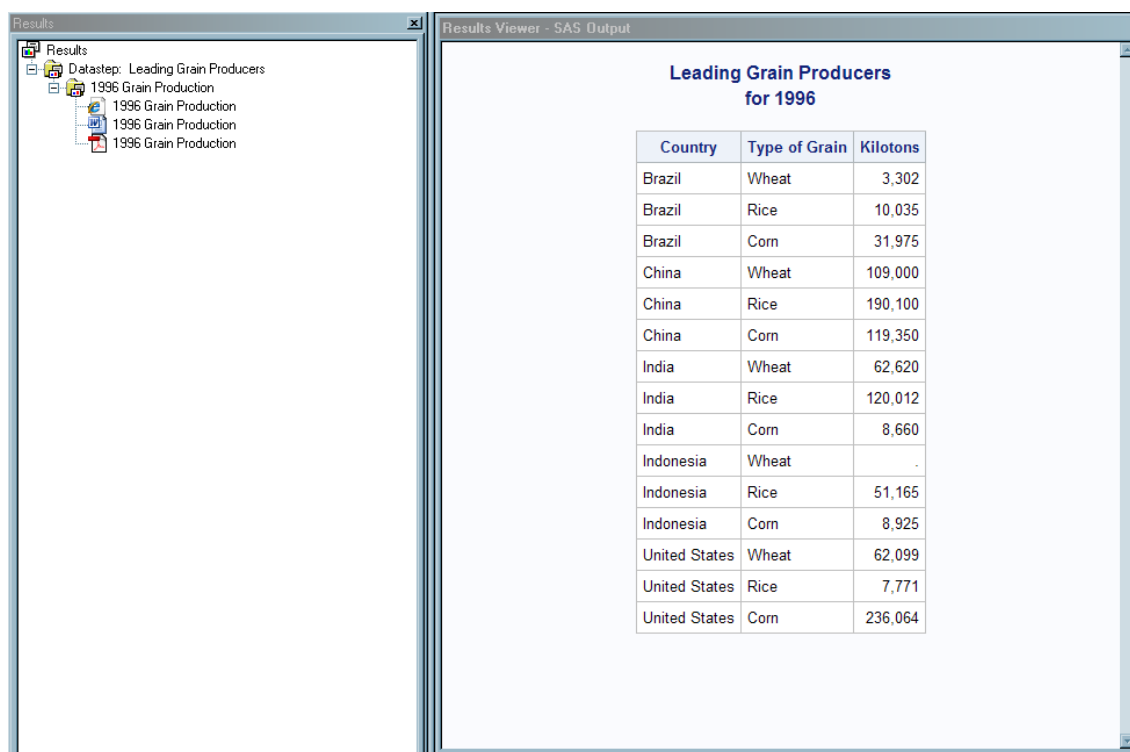
```
ods _all_ close;
```

出力

この HTML フレームファイルでは、オブジェクトのラベル'1996 Grain Production'は OBJECTLABEL=サブオプションによって指定されます。このラベルは、出力オブジェクトへのリンクとして目次に表示されます。ボディファイルでは、LABEL=サブオプションによって変数 TYPE に指定されたラベル'Type of Grain'がその列見出しになります。

KILOTONS の形式は、FILE ステートメント内の FORMAT=サブオプションによって指定されました。

アウトプット 4.4 ODS によって作成された HTML フレームファイル



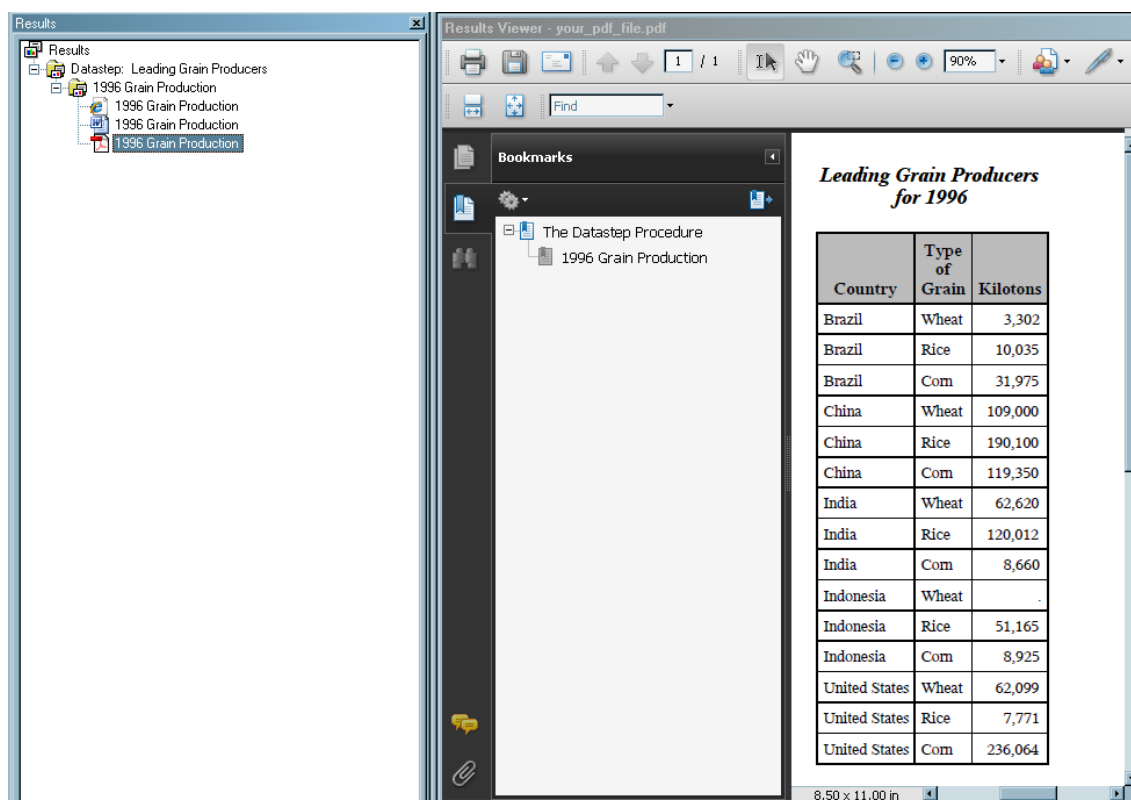
The screenshot shows the SAS Results Viewer interface. On the left, a tree view displays the output structure: Results > Datasets: Leading Grain Producers > 1996 Grain Production. The main window displays an HTML table titled "Leading Grain Producers for 1996". The table has three columns: Country, Type of Grain, and Kilotons. The data is as follows:

Country	Type of Grain	Kilotons
Brazil	Wheat	3,302
Brazil	Rice	10,035
Brazil	Corn	31,975
China	Wheat	109,000
China	Rice	190,100
China	Corn	119,350
India	Wheat	62,620
India	Rice	120,012
India	Corn	8,660
Indonesia	Wheat	.
Indonesia	Rice	51,165
Indonesia	Corn	8,925
United States	Wheat	62,099
United States	Rice	7,771
United States	Corn	236,064

HTML ボディファイルと LISTING 出力内と同様に、PostScript 出力では、LABEL=サブオプションによって変数 TYPE に指定されたラベル 'Type of Grain' がその列見出しと

して表示されます。KILOTONS の形式は、FILE ステートメント内の FORMAT=サブオプションによって指定されました。

アウトプット 4.5 PDF 出力



The screenshot shows the SAS Results Viewer interface. On the left, a tree view shows the data step 'Leading Grain Producers' and its output '1996 Grain Production'. The main window displays a PDF document with the following table:

Country	Type of Grain	Kilotons
Brazil	Wheat	3,302
Brazil	Rice	10,035
Brazil	Com	31,975
China	Wheat	109,000
China	Rice	190,100
China	Com	119,350
India	Wheat	62,620
India	Rice	120,012
India	Com	8,660
Indonesia	Wheat	.
Indonesia	Rice	51,165
Indonesia	Com	8,925
United States	Wheat	62,099
United States	Rice	7,771
United States	Com	236,064

HTML ボディファイルと PostScript 出力内と同様に、LISTING 出力では、LABEL=サブオプションによって変数 TYPE に指定されたラベル 'Type of Grain' が表示されます。

KILOTONS の形式は、FILE ステートメント内の FORMAT=サブオプションによって指定されました。

アウトプット 4.6 RTF 出力

*Leading Grain Producers
for 1996*

Country	Type of Grain	Kilotons
Brazil	Wheat	3,302
Brazil	Rice	10,035
Brazil	Com	31,975
China	Wheat	109,000
China	Rice	190,100
China	Com	119,350
India	Wheat	62,620
India	Rice	120,012
India	Com	8,660
Indonesia	Wheat	.
Indonesia	Rice	51,165
Indonesia	Com	8,925
United States	Wheat	62,099
United States	Rice	7,771
United States	Com	236,064

例 4: ユーザー定義のテーブル定義テンプレートの作成と使用

要素: PROC TEMPLATE

FILE PRINT ODS ステートメント:

COLUMNS=サブオプション:

FORMAT=サブオプション

DYNAMIC=サブオプション

GENERIC=サブオプション

TEMPLATE=

PUT _ODS_ステートメント:

カラムポインタコントロール

行ポインタコントロール

ODS 出力先: RTF

詳細

この例は、次の操作方法を示します。

- PROC TEMPLATE を使用してシンプルなユーザー定義テンプレート(テーブル定義)の作成
- DATA ステップでシンプルなユーザー定義テンプレートの使用
- PUT_ODS_ステートメントでポインタコントロールの使用

プログラム: ユーザーが定義したテーブル定義(テンプレート)の作成

```
proc template;
define table phonelist;
column name phone;
dynamic colheader;
define name;
generic=on;
header=colheader;

style=data{fontstyle=italic fontsize=5};
end;

define phone;
header='Telephone';
style=datafixed;
end;
end;
run;

ods html close;

ods rtf body='your_rtf_file.rtf';

title 'New Subscriber Telephone List';

proc format;
picture phonenum .='Not available'
other='0000)000-0000' (prefix='(');
run;

data phones;
length first_name $20 last_name $25;
input first_name $ last_name $ business_phone home_phone;
datalines;
Jerome Johnson 9193191677 9198462198
Romeo Montague 8008992164 3609736201
Imani Rashid 5088522146 5083669821
Palinor Kent . 9197823199
Ruby Archuleta . .
Takei Ito 7042982145 .
Tom Joad 2099632764 2096684741
;

proc sort data=phones;
by last_name;
run;
```

```

data
  _null_;
set phones;

file print
ods=(template='phonelist'

  columns=
(name=last_name
(generic=on
dynamic=(colheader='Last Name'))
name=first_name
(generic=on
dynamic=(colheader='First Name'))
phone=business_phone
(format=phonenum.)
)
);

if
(missing(business_phone)) then
put _ods_ @3 home_phone;
else if (missing(home_phone)) then
put _ods_;
else
put _ods_ / @3 home_phone;
run;

ods RTF close;

```

プログラムの説明

テーブル定義 **PHONELIST** を定義します。この PROC TEMPLATE ステップによって、PHONELIST というテーブル定義が定義されます。このテンプレートでは、NAME と PHONE という 2 つの列が定義されます。GENERIC=ON 属性によって、DATA ステップで複数の変数に使用可能な列の 1 つとして NAME の列が定義されます。列定義では動的ヘッダーが使用されます。つまり、この列定義を使用する変数は、このテンプレートを使用する DATA ステップから実行時にヘッダーの値を取り込みます。そのため、各変数には別々の列見出しが含まれます。STYLE=属性によって、スタイル要素 DATA がこの列内のデータ生成用の基本として使用されることが指定されます。DATA によって通常使用されるフォントフェイスとフォントサイズは、STYLE=属性によって指定されるものに置換されます。PHONE のヘッダーは Telephone としてハードコードされます。STYLE= 属性によって、この列内のデータに使用するスタイル要素が指定されます。

```

proc template;
define table phonelist;
column name phone;
dynamic colheader;
define name;
generic=on;
header=colheader;

style=data{fontstyle=italic fontsize=5};
end;

define phone;

```

```

header='Telephone';
style=datafixed;
end;
end;
run;

```

デフォルト HTML 出力を生成しないことを指定します。 ODS HTML CLOSE ステートメントによって、リソースを節約するために HTML 出力が閉じられます。SAS セッションを開くと、HTML 出力先はデフォルトで開いています。

```
ods html close;
```

出力を RTF 形式にするように指定します。 ODS RTF ステートメントによって、RTF 出力先が開かれ、Microsoft Word で使用する RTF 出力が作成されます。今後の出力オブジェクトは、ボディファイルに送信されます。

```
ods rtf body='your_rtf_file.rtf';
```

タイトルを指定します。 TITLE ステートメントによって、出力のタイトルが指定されます。

```
title 'New Subscriber Telephone List';
```

電話番号用の形式を作成します。 PROC FORMAT によって、電話番号のユーザー定義形式が作成されます。

```

proc format;
picture phonenumber .='Not available'
other='0000)000-0000' (prefix='(');
run;

```

PHONES データセットを作成します。 データセット PHONES には、名前とそれに対応する電話番号が含まれます。会社または自宅の電話番号に対して、一部のオブザベーションが欠損します。

```

data phones;
length first_name $20 last_name $25;
input first_name $ last_name $ business_phone home_phone;
datalines;
Jerome Johnson 9193191677 9198462198
Romeo Montague 8008992164 3609736201
Imani Rashid 5088522146 5083669821
Palinor Kent . 9197823199
Ruby Archuleta . .
Takei Ito 7042982145 .
Tom Joad 2099632764 2096684741
;

```

姓で PHONES データセットをソートします。 PROC SORT によって、データセット PHONES が LAST_NAME 別にソートされ、元のデータセットがソート後のデータセットに置き換えられます。

```

proc sort data=phones;
by last_name;
run;

```

出力データセットを作成しない DATA ステップを開始します。 PHONES データセットから 1 つのオブザベーションを読み取ります。_NULL_ を使用すると、DATA ステップで出力データセットが作成されなくなるため、コンピュータのリソースを節約できます。

```
data
  _null_;
set phones;
```

ODS 出力の作成を要求し、PHONELIST という名前のテンプレートを使用します。 FILE ステートメント内の ODS オプションと fileref PRINT を組み合わせると、DATA ステップの結果が ODS に送信されます。ODS によって出力オブジェクトが作成され、それが PHONELIST テンプレートに結合されます。開いているのが RTF 出力先のみであるため、RTF 出力のみが作成されます。TEMPLATE=サブオプションによって、ODS がテンプレート PHONELIST (PROC TEMPLATE で前に作成済み)を使用するように指示されます。

```
file print
ods=(template='phonelist')
```

変数値を列内に配置します。 COLUMNS=サブオプションによって、変数の値がテンプレートで定義される列内に配置されます。LAST_NAME と FIRST_NAME 変数の両方の値が、テンプレート内で NAME として定義される列に書き込まれます。複数の列に対して 1 つの列定義を使用するには、GENERIC=ON サブオプションをテンプレートと ODS=オプションの両方で設定する必要があります。変数 BUSINESS_PHONE の値は、PHONE として定義される列内に配置されます。DYNAMIC=サブオプションによって、値が変数 COLHEADER に割り当てられます。この値は、出力オブジェクトの作成時にテンプレートに渡され、テンプレートによって列見出しに使用されます。このため、変数でテンプレートから同じ列定義が使用されるとしても、出力オブジェクト内の列には別々の列見出しが含まれます。FORMAT=サブオプションによって、形式 PHONENUM. が PHONE という名前の列に割り当てられます。

```
columns=
(name=last_name
(generic=on
dynamic=(colheader='Last Name'))
name=first_name
(generic=on
dynamic=(colheader='First Name'))
phone=business_phone
(format=phonenum.)
);
```

次の IF/THEN-ELSE ステートメントによって、指定した条件に基づき異なる PUT _ODS_ ステートメントが実行されます。 BUSINESS_PHONE で値が欠損している場合、PUT ステートメントによって LAST_NAME、FIRST_NAME、BUSINESS_PHONE (ODS=オプション内で定義される列)の各値が出力バッファに書き込まれます。次に、PUT ステートメントによって HOME_PHONE の値が列 3 内に書き込まれ、BUSINESS_PHONE に対しての欠損値が上書きされます。HOME_PHONE で値が欠損している場合、PUT ステートメントによって LAST_NAME、FIRST_NAME、BUSINESS_PHONE の各値がバッファに書き込まれます。最後に、両方の電話番号に値が含まれる場合、PUT ステートメントによって LAST_NAME、FIRST_NAME、BUSINESS_PHONE の各値が最初の行のバッファに書き込まれます。次に、(行ポインタコントロール (/) による指示に従い)SAS は次の行に移動し、HOME_PHONE の値を次の行の列 3 に書き込みます。

```
if
(missing(business_phone)) then
put _ods_ @3 home_phone;
else if (missing(home_phone)) then
put _ods_;
```

```

else
put _ods_ / @3 home_phone;
run;

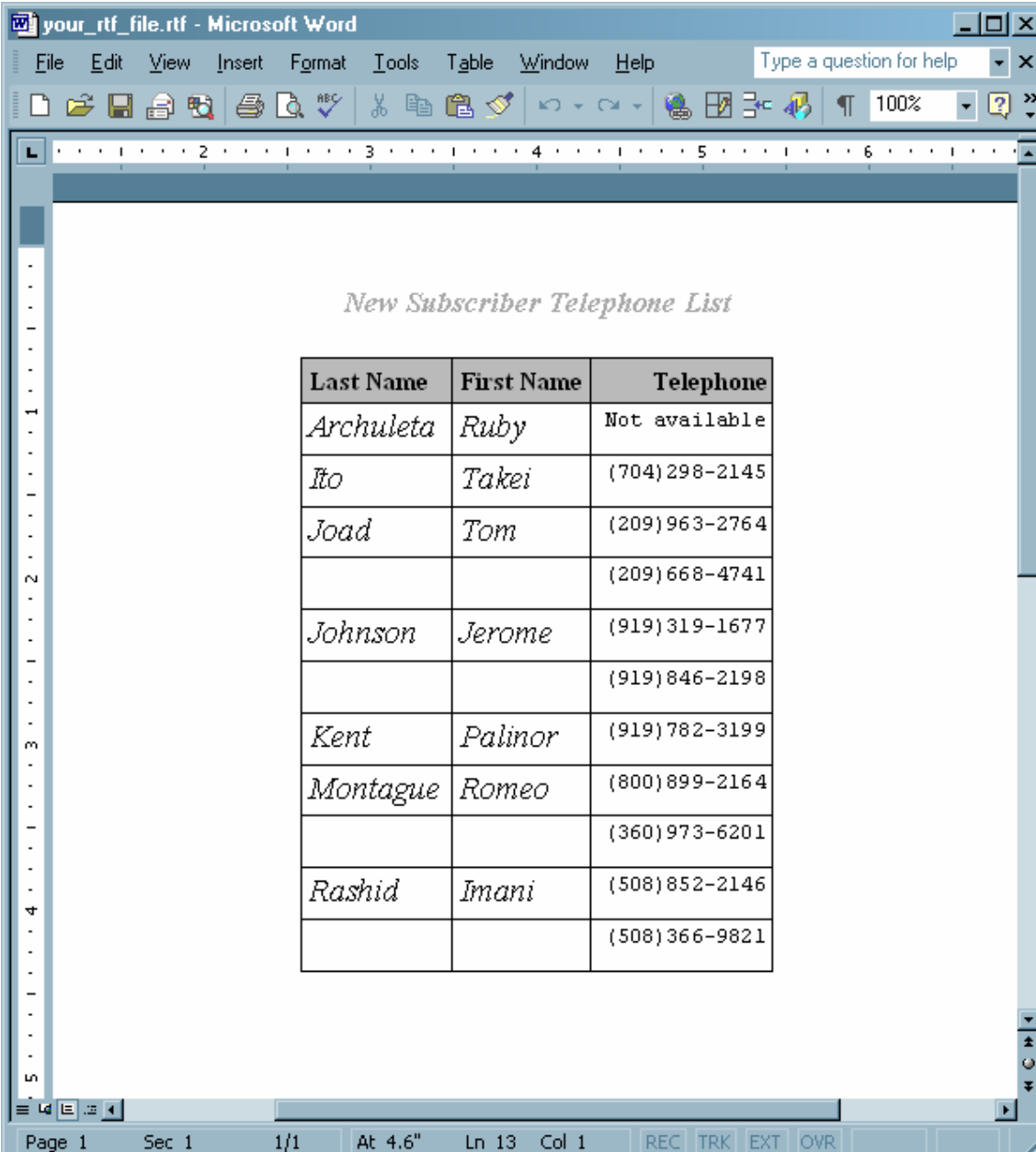
```

出力を表示できるように RTF 出力先を閉じます。ODS RTF ステートメントによって、RTF 出力先とその関連ファイルすべてが閉じられます。Microsoft Word で出力を表示する前に出力先を閉じる必要があります。また、出力先を閉じると、今後の ODS ジョブすべてでは、自動的に RTF 出力が生成されなくなります。

```
ods RTF close;
```

RTF 出力

アウトプット 4.7 Microsoft Word で表示される RTF 出力



The screenshot shows a Microsoft Word window titled "your_rtf_file.rtf - Microsoft Word". The document content is centered and reads "New Subscriber Telephone List" in italics. Below the title is a table with three columns: Last Name, First Name, and Telephone. The table contains ten rows of data, including names like Archuleta, Ito, Joad, Johnson, Kent, Montague, and Rashid, along with their respective telephone numbers.

Last Name	First Name	Telephone
<i>Archuleta</i>	<i>Ruby</i>	Not available
<i>Ito</i>	<i>Takei</i>	(704) 298-2145
<i>Joad</i>	<i>Tom</i>	(209) 963-2764
		(209) 668-4741
<i>Johnson</i>	<i>Jerome</i>	(919) 319-1677
		(919) 846-2198
<i>Kent</i>	<i>Palinor</i>	(919) 782-3199
<i>Montague</i>	<i>Romeo</i>	(800) 899-2164
		(360) 973-6201
<i>Rashid</i>	<i>Imani</i>	(508) 852-2146
		(508) 366-9821

4 部

ODS ステートメント

5 章	ODS 言語ステートメントについて.....	95
6 章	ODS 言語ステートメントの字引.....	97

5 章

ODS 言語ステートメントについて

ODS ステートメントの定義	95
ODS ステートメントの種類	95
DATA ステップステートメント	95
グローバルステートメント	95
プロシジャステートメント	96

ODS ステートメントの定義

ODS ステートメントでは、SAS プロシジャの生成、保存および再生と、DATA ステップ出力における柔軟性が飛躍的に高まります。ODS ステートメントを使用して、Output Delivery System のさまざまな機能を制御することができます。ODS ステートメントは、お使いの SAS プログラムのどこでも使用できます。一部の ODS ステートメントは、明示的に変更するまでは有効です。その他のステートメントは一定のタイミングで自動的に削除されます(各ステートメントに関するドキュメントを参照してください)。

ODS ステートメントの種類

DATA ステップステートメント

DATA ステップステートメントとは、DATA ステップに出現する実行可能または宣言型のステートメントのことです。DATA ステップで使用される ODS ステートメントは、実行可能なステートメントです。実行可能ステートメントは、DATA ステップが反復する毎になんらかのアクションを起こします。詳細については、“実行ステートメントと宣言ステートメント”(SAS ステートメント: リファレンス 1 章)を参照してください。

グローバルステートメント

グローバルステートメントは、次のアクションを実行します。

- SAS への情報の提供
- 情報またはデータの要求
- 異なる実行モード間の移行
- システムオプションの値の設定

グローバル ODS ステートメントは、さまざまなフォーマットで出力を表示または保存します。グローバルステートメントは、SAS プログラムのどのどこでも使用できます。グローバルステートメントは、実行可能ではなく、SAS でプログラムステートメントがコンパイルされると同時に有効になります。

グローバル ODS ステートメントは、3 つのカテゴリに分類されます。

ODS: 出力制御

指定された出力オブジェクトに関する詳細情報を提供し、スタイル定義またはテーブル定義が SAS から提供されているかどうかを示すステートメントです。出力制御ステートメントには、次の機能があります。

- 特定の出力先に対して特定の出力オブジェクトの選択または除外
- スタイル定義またはテーブル定義の検索・保存場所の指定
- SAS から提供されたスタイル定義またはテーブル定義を使用しているかどうかの確認
- 各指定出力オブジェクト(たとえば、名前、ラベル、テンプレート、パス、ラベルパスなど)に関する詳細情報の提供

ODS: SAS 出力形式を使用

SAS に固有の項目(SAS データセット、SAS 出力リスト、ODS ドキュメントなど)を生成できるステートメントです。ODS SAS 出力形式使用のカテゴリのステートメントは、SAS エンティティを作成します。詳細については、“[SAS 出力形式が使用される出力先](#)” (34 ページ)を参照してください。

ODS: サードパーティ製の出力形式を使用

ページ記述言語を使用して、スタイルおよびマークアップ言語の適用を可能にしたり、物理プリンタへの出力を生成したりできるステートメントです。詳細については、“[サードパーティフォーマットの出力先](#)” (35 ページ)を参照してください。

プロシジャステートメント

TEMPLATE プロシジャの詳細については、9 章、“[TEMPLATE プロシジャ: 概要](#)” (841 ページ)を参照してください。DOCUMENT プロシジャの詳細については、8 章、“[DOCUMENT プロシジャ](#)” (752 ページ)を参照してください。

6 章

ODS 言語ステートメントの字引

ODS ステートメントのカテゴリ説明	98
カテゴリ別の ODS ステートメント	98
ディクショナリ	103
ODS の FILE ステートメント	103
LIBNAME ステートメント, SASDOC	113
ODS _ALL_ CLOSE ステートメント	117
ODS CHTML ステートメント	117
ODS CSVALL ステートメント	150
ODS DECIMAL_ALIGN ステートメント	182
ODS DOCBOOK ステートメント	183
ODS DOCUMENT ステートメント	216
ODS ESCAPECHAR ステートメント	219
ODS EXCLUDE ステートメント	232
ODS GRAPHICS ステートメント	239
ODS HTML3 ステートメント	250
ODS HTML ステートメント	283
ODS HTMLCSS ステートメント	334
ODS IMODE ステートメント	367
ODS LISTING ステートメント	400
ODS MARKUP ステートメント	404
ODS NO_DECIMAL_ALIGN ステートメント	454
ODS OUTPUT ステートメント	455
ODS PACKAGE ステートメント	469
ODS PATH ステートメント	477
ODS PCL ステートメント	478
ODS PDF ステートメント	487
ODS PHTML ステートメント	503
ODS PRINTER ステートメント	536
ODS PROCLABEL ステートメント	559
ODS PROCTITLE ステートメント	560
ODS PS ステートメント	561
ODS RESULTS ステートメント	573
ODS RTF ステートメント	573
ODS SELECT ステートメント	598
ODS SHOW ステートメント	614
ODS タグセットステートメント	614
ODS TAGSETS.RTF ステートメント	653
ODS TEXT=ステートメント	692
ODS TRACE ステートメント	696
ODS USEGOPT ステートメント	701

ODS VERIFY ステートメント	704
ODS WML ステートメント	705
ODS の PUT ステートメント	738

ODS ステートメントのカテゴリ説明

次の表では、ODS グローバルステートメントのカテゴリについて説明します。

Table 6.1 カテゴリ毎のグローバルステートメント

ステートメントカテゴリ	機能
ODS: 出力制御	指定された出力オブジェクトとおよびそのロケーションについての説明情報を提供してください。
ODS: SAS フォーマット 済み	LISTING 出力、SAS 出力データセット、または階層ファイルを生成してください。
ODS: サードパーティフォーマット	適切な出力先フォーマットで、フォーマットされているファイルを作成してください。

カテゴリ別の ODS ステートメント

カテゴリ	言語要素	説明
ODS: SAS 出力形式を使用	ODS LISTING ステートメント (p. 400)	LISTING 出力先を開く、管理する、もしくは閉じます。
ODS: SAS フォーマット	ODS DECIMAL_ALIGN ステートメント (p. 182)	両端揃えが指定されていない場合、数値列の両端揃えを制御します。
	ODS NO_DECIMAL_ALIGN ステートメント (p. 454)	両端揃えが指定されていない場合、数値列を右揃えにします。
ODS: サードパーティにフォーマットされた	ODS PS ステートメント (p. 561)	PostScript (PS)出力を作成する PS 出力先に対して開く、管理するおよび閉じる処理を行います。
ODS: サードパーティのフォーマット	ODS RTF ステートメント (p. 573)	RTF 出力先に対して開く、管理するまたは閉じる処理を行います。RTF 出力先は、Microsoft Word 2002 で使用可能なリッチテキスト出力形式で書かれた、規則的な出力を作成します。
ODS: サードパーティフォーマット	ODS CHTML ステートメント (p. 117)	スタイル情報を使用しないコンパクトで最小の HTML 出力を作成する CHTML 出力先に対して開く、管理する、閉じる処理を行います。

カテゴリ	言語要素	説明
	ODS CSVALL ステートメント (p. 150)	カンマ区切りのデータ値の列を含む HTML 出力とタイトル、注釈および署名欄の表形式出力を作成する CSVALL 出力先に対して開く、管理するまたは閉じる処理を行います。
	ODS DOCBOOK ステートメント (p. 183)	OASIS の DocBook DTD に準拠する XML 出力を作成する DOCBOOK 出力先に対して開いたり、管理または閉じたりします。
	ODS HTML3 ステートメント (p. 250)	フォーマットされた HTML 3.2 出力を生成する HTML3 出力先を開いたり、管理または閉じたりします。
	ODS HTML ステートメント (p. 283)	埋め込みスタイルシートを含む HTML 4.0 出力を作成する HTML 出力先を開いたり、管理または閉じたりします。
	ODS HTMLCSS ステートメント (p. 334)	カスケードスタイルシート式の HTML 出力を作成する HTMLCSS 出力先に対して開く、管理するまたは閉じる処理を行います。
	ODS IMODE ステートメント (p. 367)	行で区分された出力の列として HTML を作成する IMODE 出力先に対して開く、管理するまたは閉じる処理を行います。
	ODS MARKUP ステートメント (p. 404)	さまざまな異なるマークアップ言語を使用してフォーマットされた SAS 出力を作成する MARKUP 出力先に対して開く、管理するまたは閉じる処理を行います。
	ODS PCL ステートメント (p. 478)	PCL (HP LaserJet) ファイル用に印刷可能な出力を作成する PCL 出力先に対して開く、管理するまたは閉じる処理を行います。
ODS: サードパーティフォーマット	ODS PDF ステートメント (p. 487)	PDF 出力を生成する PDF 出力先を開き、管理し、閉じます。ここで、PDF 出力とは Adobe Acrobat およびその他のアプリケーションによって読み取られる出力形式です。
ODS: サードパーティフォーマット	ODS PHTML ステートメント (p. 503)	12 のスタイル要素を使用し、またプレゼンテーション用のクラス属性を使用しない単純な

カテゴリ	言語要素	説明
		HTML 出力を作成する PHTML 出力先に対して開く、管理するまたは閉じる処理を行います。クラス属性は行揃えにのみ使用します。
	ODS PRINTER ステートメント (p. 536)	印刷可能な出力を作る PRINTER 出力先に対して、開く、管理する、あるいは閉じる処理を行います。
	ODS タグセットステートメント (p. 614)	指定のタグセット出力先に対して、開く、管理するまたは閉じる処理を行います。
	ODS TAGSETS.RTF ステートメント (p. 653)	RTF 出力先に対して開く、管理するまたは閉じる処理を行います。RTF 出力先は、Microsoft Word 2002 で使用可能なリッチテキスト出力形式で書かれた、メジャー出力を作成します。
ODS WML ステートメント (p. 705)		簡単なリストを目次とした Wireless Markup Language (WML)DTD を作成するために、Wireless Application Protocol (WAP) を使用する WML 出力先に対して、開く、管理するまたは閉じる処理を行います。
ODS: 出力形式を使用	ODS OUTPUT ステートメント (p. 455)	出力オブジェクトから SAS データ

カテゴリ	言語要素	説明	
ODS: 出力制御	LIBNAME ステートメント, SASEDOC (p. 113)	SASEDOC エンジンを使用して、SAS libref (ライブラリ参照) と ODS 文書に保存されている1つ以上の ODS 出力オブジェクトの関連付けをします。	を作成し、出力先の選択リストと除外リストを管理します。
	ODS _ALL_ CLOSE ステートメント (p. 117)	開いている ODS 出力先のすべてを閉じます。	
	ODS ESCAPECHAR ステートメント (p. 219)	出力文字列で使用する代理文字を定義します。	
	ODS EXCLUDE ステートメント (p. 232)	ODS 出力先から除外する出力オブジェクトを指定します。	
	ODS GRAPHICS ステートメント (p. 239)	グラフ処理を有効または無効にし、グラフ環境オプションを設定します。このステートメントは、ODS テンプレートベースのグラフ(ODS Graphics)にのみ影響します。ODS GRAPHICS ステートメントは、デバイススペースのグラフ	

カテゴリ	言語要素	説明
		(SAS/GRAPH) に影響しません。
	ODS PATH ステートメント (p. 477)	PROC TEMPLATE 定義を作成または使用する場合の書き込み先/読み取り元の場所および定義を検索する順序を指定します。
	ODS PROCTITLE ステートメント (p. 560)	出力の結果を生成するプロシジャを識別するタイトルを書き込むか決定します。
	ODS RESULTS ステートメント (p. 573)	結果ウィンドウの ODS 出力をトラッキングします。
	ODS SELECT ステートメント (p. 598)	ODS 出力先の出力オブジェクトを指定します。
	ODS SHOW ステートメント (p. 614)	指定した選択/除外リストを SAS ログに書き込みます。
	ODS TEXT=ステートメント (p. 692)	ODS 出力にテキストを挿入します。
	ODS TRACE ステートメント (p. 696)	作成した各出力オブジェクトのレコードを SAS ログに書き込むか、レコードの書き込みを非表示にします。
	ODS USEGOPT ステートメント (p. 701)	ODS で従来の SAS/GRAPH オプション設定を使用するかどうかを決定します。
ODS: 出力制御 1	ODS PROCLABEL ステートメント (p. 559)	プロシジャラベルの変更を可能にします。
	ODS VERIFY ステートメント (p. 704)	スタイル定義または使用されている表の定義が SAS により提供されていないことを示すメッセージを印刷または非表示にします。
ODS:出力制御	ODS DOCUMENT ステートメント (p. 216)	出力オブジェクトの階層を作成し、PROC または DATA ステップを再実行せずに複数の ODS 出力フォーマット

カテゴリ	言語要素	説明
		の作成を可能にする DOCUMENT の出力先を開いたり、管理、または閉じたりします。
データアクセス	ODS PACKAGE ステートメント (p. 469)	ODS PACKAGE ステートメントを使用して、単一の SAS Output Delivery System (ODS) パッケージオブジェクトを開いたり、オブジェクトに追加したり、オブジェクトをパブリッシュまたは閉じたりできます。
ファイル処理	ODS の FILE ステートメント (p. 103)	データコンポーネントとテーブル定義(テンプレート)をバインドし、ODS 出力オブジェクトを作成します。オプションとして、FILE ステートメントは変数をリストにして ODS 出力に含め、変数のフォーマット方法を制御するオプションを指定します。
ファイル操作	ODS の PUT ステートメント (p. 738)	データコンポーネントに書き込みでき、次いで ODS によってフォーマットできる特別なバッファにデータ値を書き込みます。

ディクショナリ

ODS の FILE ステートメント

データコンポーネントとテーブル定義(テンプレート)をバインドし、ODS 出力オブジェクトを作成します。オプションとして、FILE ステートメントは変数をリストにして ODS 出力に含め、変数のフォーマット方法を制御するオプションを指定します。

該当要素: DATA ステップ

カテゴリ: ファイル処理

種類: 実行可能

デフォルト: ODS によって、出力オブジェクトは開いているすべての ODS 出力先に送信されます。

注: この構文で示されるのは、FILE ステートメントの ODS 形式のみです。完全な構文については、“FILE ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)を参照してください。

構文

```
FILE PRINTODS <=(ODS-suboption(s))> <オプション>;
```

必須引数

PRINT

予約済みの fileref。出力先を ODS にする場合に使用する必要があります。

要件 PRINT は、ODS オプションを使用する FILE ステートメント内で使用する必要があります。

参照項目: “例 1: DATA ステップとデフォルトのテーブルの定義を使用したレポートの作成” (72 ページ)

ODS<=(ODS-suboptions)>

データコンポーネントの構造を定義し、データコンポーネントをテーブル定義にバインドします。結果は ODS 出力オブジェクトとなります。ODS によって、このオブジェクトは開いているすべての ODS 出力先に送信されます。

参照項目: “ODS サブオプション” (63 ページ) ODS サブオプションの詳細について

オプション引数**N=number**

DATA ステップの現在の反復で出力ポインタに利用可能な行数を指定します。

overflow-control

出力ポインタがバッファ内の最後の ODS 行を通過しようと試みる場合に、PUT ステートメントの動作を決定します。

overflow-control は次のいずれかです。

DROPOVER

PUT ステートメントがバッファ内の最後の ODS 列を超えて書き込もうと試みる場合に、アイテムを破棄します。DATA ステップの最後でログ内のメッセージによって、データがバッファに書き込まれたかどうかが通知されます。

FLOWOVER

PUT ステートメントがバッファ内の最後の ODS 列を超えてアイテムを書き込もうと試みる場合に、出力ポインタを新しい行に移動します。PUT ステートメントによって、次のアイテムが新しい行の最初の ODS 列に書き込まれます。

STOPOVER

PUT ステートメントがバッファ内の最後の ODS 列を超えて書き込もうと試みる場合に、DATA ステップの処理を直ちに停止してください。SAS は、データアイテムを破棄し、エラーが発生する前に作成されたバッファの一部を書き込み、エラーメッセージを出力します。

デフォルト: FLOWOVER

ODS サブオプション

表 6.2 ODS サブオプション

タスク	サブオプション
データコンポーネントの 1 つ以上の列を指定します。	COLUMNS= または VARIABLES= (64 ページ)
動的属性値のデフォルト値を指定します	DYNAMIC= (65 ページ)
テーブル定義内のすべての列定義を 1 つ以上の変数が使用できるかどうかを指定します	“ GENERIC=ON OFF ” (66 ページ) GENERIC=
COLUMNS= または VARIABLES= サブオプションで指定された列ヘッダーを持たない任意の列に使用する列ヘッダーを指定します	LABEL= (66 ページ)
DATA ステップによって生成される出力オブジェクトの名前を指定します	OBJECT= (66 ページ)
DATA ステップによって生成される出力オブジェクトのラベルを指定します	OBJECTLABEL= (67 ページ)

タスク	サブオプション
出力オブジェクトを生成するためにデータコンポーネントと共に使用するテーブル定義を指定します	TEMPLATE= (67 ページ)

COLUMNS=(column-specification(s))

データコンポーネントの 1 つ以上の列を指定し、データコンポーネント内での順序を決定します。

それぞれの *column-specification* によって、DATA ステップ変数はテーブル定義で定義される列に関連付けられます。*column-specification* の一般的な形式は次のとおりです。

```
(column-name-1<=variable-name-1<(attribute-suboptions)>>
<... column-name-n<=variable-name-n<(attribute-suboptions)>>> )
```

column-name

列名です。この名前は、使用するテーブル定義で定義される名前と一致する必要があります。

制限事項: *column-name* は、SAS 変数名のルールに準拠している必要があります。

要件 *column-name* は、丸かっこで囲んでください。

ヒント: リスト表記(たとえば、*score1-score5*)を使用すると、複数の列名を指定できます。

例: “例 4: ユーザー定義のテーブル定義テンプレートの作成と使用” (87 ページ)

variable-name

指定した列内に配置する DATA ステップでの変数を指定します。

デフォルト: *variable-name* を省略する場合、ODS によって、指定した列内に配置する *column-name* という名前の DATA ステップ変数が検索されます。該当する変数が存在しない場合、ODS によってエラーが返されます。

ヒント: リスト表記(たとえば、*score1-score5*)を使用すると、変数名の範囲を指定できます。

例: “例 4: ユーザー定義のテーブル定義テンプレートの作成と使用” (87 ページ)

(属性サブオプション)

ラベルや形式などの特性をデータコンポーネント内の特定の列に割り当てます。これらの個別の指定は、DATA ステップによって設定されるあらゆる属性より優先されます。

次の表は、COLUMNS=サブオプションに使用可能な属性サブオプションの一覧です。詳細については、“属性サブオプション” (69 ページ)を参照してください。

タスク	属性のサブオプション
テーブルテンプレート内の DYNAMIC ステートメントによって定義される変数の値を指定します	DYNAMIC= (69 ページ)
現在の列の形式を指定します	FORMAT= (69 ページ)
この列定義が DATA ステップによって複数の変数に使用されるかどうかを指定します	GENERIC= (69 ページ)

タスク	属性のサブオプション
特定の列のラベルを指定します	LABEL= (69 ページ)

要件 属性サブオプションは、丸かっこで囲んでください。

制限事項:

FILE PRINT ODS ステートメントで使用できるのは、1 つの COLUMNS=サブオプションのみです。

1 つの FILE PRINT ODS ステートメントでは、COLUMNS=サブオプションまたは VARIABLES=サブオプションのいずれかを使用できますが、両方同時には使用できません。

要件 *column-specification* は、丸かっこで囲んでください。

ヒント:

出力オブジェクトの列の順序を決定するのは、テーブル定義内の順序であって、データコンポーネント内の順序ではありません。

デフォルトの順序を上書きするには、定義を作成する PROC TEMPLATE ステップ内の ORDER_DATA=テーブル属性を使用します。デフォルトの DATA ステップ定義によって、次の属性が使用されます。詳細は、[ORDER_DATA= \(1106 ページ\)](#)に関する説明を参照してください。

COLUMNS=も VARIABLES=も指定しない場合、データコンポーネント内の列の順序は、プログラムデータベクトル内の対応変数の順序と一致します。

DYNAMIC=(dynamic-specification(s))

動的属性値のデフォルト値を指定します。

動的属性値は、テーブル定義内で定義されます。その名前は、DYNAMIC=サブオプションと共にデータコンポーネントに提供される値のプレースホルダとして機能します。ODS によってテーブル定義とデータコンポーネントから出力オブジェクトが作成される場合、データコンポーネントからの適切な値はテーブル定義内の値の名前に代入されます。

それぞれの *dynamic-specification* は次の形式となります。

dynamic-value-name<=*variable-name* | *constant*>

dynamic-value-name

テーブル定義によって動的属性値に付与される名前。

variable-name

変数を指定します。その変数の値は、*dynamic-value-name* に割り当てられると共に ODS に渡され、ODS によって出力オブジェクトが作成される場合にテーブル定義でプレースホルダに代入されます。

constant

定数を指定します。この定数は、*dynamic-value-name* に割り当てられると共に ODS に渡され、ODS によって出力オブジェクトが作成される場合にテーブル定義でプレースホルダに代入されます。

デフォルト: デフォルトでは、DYNAMIC=サブオプションはデータコンポーネント内のすべての列に適用されます。

操作: 独自の DYNAMIC=サブオプション指定を含まない列では、*dynamic-specifications* が使用されます。

ヒント: DYNAMIC=サブオプションを、COLUMNS=または VARIABLES=サブオプション内の列の属性として指定すると、各列のデフォルト指定を上書きできません。

参照項目: [“DYNAMIC Statement” \(1110 ページ\)](#)

GENERIC=ON | OFF

DATA ステップによってすべての列定義が複数の変数に使用されるかどうかを指定します。

ON

DATA ステップによってすべての列定義が複数の変数に使用されることを示します。

OFF

DATA ステップによって列定義が複数の変数に使用されないことを示します。

デフォルト: OFF

デフォルトでは、GENERIC=サブオプションはデータコンポーネント内のすべての列に適用されます。

制限事項: (COLUMNS=(GENERIC=ON))サブオプションを指定しない場合、ODS によって列名が一致として認識されません。

操作: テーブル定義を指定しない場合、GENERIC=サブオプションは ON に設定されます。

ヒント:

個別の列のデフォルト指定を上書きするには、GENERIC=サブオプションを COLUMNS=または VARIABLES=サブオプション内の当該列の属性として指定します。

DATA ステップの GENERIC=オプションは、テーブルテンプレート内の GENERIC=列属性と連動して使用されます。“[列属性ステートメント](#)” (1073 ページ)の GENERIC=列属性を参照してください。

LABEL='column-label'

COLUMNS=または VARIABLES=サブオプションで指定されたラベルを持たない列にラベルを指定します。

デフォルト: LABEL=サブオプションを使用する場合、ODS によって検索される次のラベルのうち最初のもので使用されます。

1. テーブル定義内の特定の列の HEADER=属性によって指定されるラベル (HEADER= (1080 ページ)を参照)
2. COLUMNS=または VARIABLES=サブオプション内の LABEL=サブオプションによって特定の列に指定されるラベル
3. ODS=オプション内の LABEL=サブオプションによって指定されるラベル
4. DATA ステップの LABEL ステートメントに割り当てられるラベル

ヒント: LABEL=サブオプションを省略する場合、テーブル定義のコンテンツによって列ヘッダーに変数名を含めるか、それとも空白にするかが決まります。

例: “[例 3: ODS 出力における列への属性の割り当て](#)” (80 ページ)

OBJECT= object-name

出力オブジェクトの名前を指定します。

結果ウィンドウおよび HTML コンテンツファイルには、各出力オブジェクトの説明と各出力オブジェクトへのリンクの両方が含まれます。説明には、ODS によって検索される次のアイテムのうち最初のもので記載されます。

- オブジェクトのラベル
- デフォルトタイトルの“The SAS System”ではない場合、現在のタイトル
- オブジェクトの名前
- 文字列 FilePrint# (オブジェクト名またはオブジェクトラベルを指定せずに現在の SAS プロセスで実行する各 DATA ステップに対して、#は 1 ずつ増えます)

制限事項: *object-name* は、SAS 変数名のルールに準拠している必要があります。これらのルールの詳細は、3章: “SAS 言語のワードと命名規則について” (*SAS 言語リファレンス: 解説編*)を参照してください。

OBJECTLABEL='object-label'

出力オブジェクトのラベルを指定します。

結果ウィンドウおよび HTML コンテンツファイルには、各出力オブジェクトの説明と各出力オブジェクトへのリンクの両方が含まれます。説明には、ODS によって検索される次のアイテムのうち最初のものが記載されます。

- オブジェクトのラベル
- デフォルトタイトルの“The SAS System”ではない場合、現在のタイトル
- オブジェクトの名前(OBJECT=(66 ページ)を参照)
- 文字列 FilePrint# (オブジェクト名またはオブジェクトラベルを指定せずに現在の SAS プロセスで実行する各 DATA ステップに対して、#は 1 ずつ増えます)

要件 *object-label* は、引用符で囲んでください。

例: “例 3: ODS 出力における列への属性の割り当て” (80 ページ)

TEMPLATE= 'table-definition-name'

出力オブジェクトを生成するためにデータコンポーネントと共に使用するテーブル定義を指定します。

table-definition-name

テーブル定義へのパス。SAS によって、テーブル定義はアイテムストア内のアイテムとして保存されます。

デフォルト: TEMPLATE=オプションを指定する場合、ODS によってデフォルトテーブル定義の BASE.DATASTEP.TABLE が使用されます。

TEMPLATE=サブオプションを指定する場合、ODS によって最初に Sasuser.Templat 内の *table-definition-name* が検索され、次に Sashelp.Tmplmst が参照されます。

要件 *table-definition-name* は、引用符で囲んでください。

操作: デフォルトのテーブル定義を使用する場合、GENERIC=サブオプションは、データコンポーネント内のすべての列に対して ON に設定されます。詳細は、GENERIC=(66 ページ)を参照してください。

ヒント:

BASE.DATASTEP.TABLE テンプレートを使用する場合、文字値は左揃えになります。文字値を右揃えにする場合には、BASE.DATASTEP.TABLENOJUST テンプレートを指定してください。

ODS PATH (477 ページ)ステートメントを使用すると、ODS によって *table-definition-name* が検索される場所を変更できます。

例: “例 4: ユーザー定義のテーブル定義テンプレートの作成と使用” (87 ページ)

VARIABLES=(variable-specification(s))

出力オブジェクトのデータコンポーネントに関する 1 つ以上の列を指定します。それぞれの *variable-specification* によって、DATA ステップ変数はテーブル定義内で定義される列に関連付けられます。*variable-specification* 値には、次の一般的な形式が含まれます。

```
(variable-name-1<=column-name-1<(attribute-suboptions)>>
<... variable-name-n<=column-name-n<(attribute-suboptions)>>> )
```


variable-name

データコンポーネント内の列として使用する DATA ステップでの変数を指定します。

ヒント: リスト表記(たとえば、*score1-score5*)を使用すると、変数名の範囲を指定できます。

例:

“例 2: 選択した変数を含む ODS 出力の作成” (75 ページ)

“例 3: ODS 出力における列への属性の割り当て” (80 ページ)

column-name

列名です。この名前は、テーブル定義で定義される名前と一致する必要があります。

デフォルト: デフォルトのテーブル定義を使用しており、*column-name* を省略する場合、ODS によって列の名前をつけるのに変数ラベルが使用されます。変数にラベルがない場合、ODS によって変数名が使用されます。

デフォルトのテーブル定義以外のテーブル定義を使用し、*column-name* を省略する場合、ODS によって *variable-name* という名前の列のテーブル定義が参照され、その列に変数が配置されます。該当する列が存在しない場合、ODS によってエラーが返されます。

制限事項: *column-name* は、使用しているテーブル定義内の列名に一致する必要があります。また、SAS 変数名のルールに準拠している必要もあります。これらのルールの詳細は、3 章: “SAS 言語のワードと命名規則について” (*SAS 言語リファレンス: 解説編*)を参照してください。

ヒント: リスト表記(たとえば、*score1-score5*)を使用すると、列名の範囲を指定できます。

(attribute-suboptions)

ラベルや形式などの特性をデータコンポーネント内の特定の列に割り当てます。これらの個別の指定は、DATA ステップでデータコンポーネント全体に設定されるあらゆる属性より優先されます。

次の表は、VARIABLES=サブオプションに使用可能な属性サブオプションの一覧です。詳細については、“属性サブオプション” (69 ページ)を参照してください。

タスク	属性のサブオプション
テーブルテンプレート内の DYNAMIC ステートメントによって定義される変数の値を指定します	DYNAMIC= (69 ページ)
現在の列の形式を指定します	FORMAT= (69 ページ)
この列定義が DATA ステップによって複数の変数に使用されるかどうかを指定します	GENERIC= (69 ページ)
特定の列のラベルを指定します	LABEL= (69 ページ)

デフォルト: VARIABLES=サブオプションを指定する場合、出力オブジェクト内の列の順序を決定するのは、テーブル定義内の順序であって、データコンポーネント内の順序ではありません。COLUMNS=も VARIABLES=サブオプションも指定しない場合、データコンポーネント内の列の順序は、プログラムデータベクトル内の対応変数の順序と一致します。

制限事項:

FILE PRINT ODS ステートメントで使用できるのは、1 つの VARIABLES=サブオプションのみです。

変数を列に関連付けるために COLUMNS=サブオプションまたは VARIABLES=サブオプションのいずれかを使用できますが、両方のサブオプションを同一の FILE PRINT ODS ステートメントで使用することはできません。

ヒント:

デフォルトの順序を上書きするには、定義を作成する PROC TEMPLATE ステップ内の ORDER_DATA テーブル属性を使用します。デフォルトの DATA ステップ定義によって、次の属性が使用されます。詳細は、ORDER_DATA=(1106 ページ)を参照してください。

VARIABLES=サブオプションは、主にデフォルトの DATA ステップテーブル定義と共に使用されます。デフォルト定義を使用する場合、DATA ステップによって変数が定義内の適切な列にマッピングされるため、列名を指定する必要はありません。

例:

“例 2: 選択した変数を含む ODS 出力の作成” (75 ページ)

“例 3: ODS 出力における列への属性の割り当て” (80 ページ)

属性サブオプション

DYNAMIC=*dynamic-specification(s)*

テーブルテンプレート内の DYNAMIC ステートメントによって定義される変数の値を指定します。

参照項目:

DYNAMIC=サブオプション (65 ページ)

DYNAMIC ステートメント (1110 ページ)

例: “例 4: ユーザー定義のテーブル定義テンプレートの作成と使用” (87 ページ)

FORMAT=*format-name*

現在の列の形式を指定します。

デフォルト: ODS によって検索される変数に対して次の形式のうち最初のものが使用されます。

1. 非ジェネリック列の場合、列定義で指定される形式
2. FORMAT=列属性で指定される形式
3. FORMAT ステートメントで指定される形式
4. デフォルト形式(文字変数の場合は\$w.、数値変数の場合は BEST12.)

注: テーブル定義で指定されるジェネリック列の形式は、ODS への DATA ステップインターフェイスによって無視されます。

例: “例 4: ユーザー定義のテーブル定義テンプレートの作成と使用” (87 ページ)

GENERIC=ON | OFF

この列定義が DATA ステップによって複数の変数に使用されるかどうかを指定します。

デフォルト: OFF

ヒント: DATA ステップの GENERIC=オプションは、テーブルテンプレート内の GENERIC=列属性と連動して使用されます。“列属性ステートメント” (1073 ページ)の GENERIC=列属性を参照してください。

参照項目: GENERIC=サブオプション (66 ページ)

例: “例 4: ユーザー定義のテーブル定義テンプレートの作成と使用” (87 ページ)

LABEL=*'column-label'*

指定した列のラベルを指定します。

参照項目:

LABEL=サブオプション (66 ページ)

“例 3: ODS 出力における列への属性の割り当て” (80 ページ)

詳細

FILE ステートメントと ODS を使用する際の制限事項

FILE ステートメントを ODS で使用する場合、次の制限が適用されます。

- 次の引数によって影響を受けるのは、リスト出力のみです。
 - FOOTNOTES および NOFOOTNOTES
 - LINESIZE
 - PAGESIZE
 - TITLE および NOTITLES
- 次の引数は使用しないでください。
 - DELIMITER=
 - DLMSTR=
 - DSD
 - _FILE_=
 - FILEVAR=
 - HEADER=
 - PAD

オプションとサブオプションの使用

オプションはすべての列に適用されますが、サブオプションが適用されるのは特定の列のみです。

たとえば、次の両方の DATA ステップでは同一の出力が生成されます。次の DATA ステップによって、すべての列にサブオプション GENERIC=ON が指定されます。

例のコード 6.1 GENERIC=ON サブオプションを使用する DATA ステップ

```

data _null_;
set top3list;
file print ods = (
template='means.topn'
columns=(
class=school (generic=on)
class=year (generic=on)
sum=moneyRaised_sum (generic=on)
mean=moneyRaised_mean (generic=on)
raised=moneyRaised_1 (generic=on)
raised=moneyRaised_2 (generic=on)
raised=moneyRaised_3 (generic=on)
name=name_1 (generic=on)
name=name_2 (generic=on)
name=name_3 (generic=on)
school=school_1 (generic=on)
school=school_2 (generic=on)
school=school_3 (generic=on)
year=year_1 (generic=on)
year=year_2 (generic=on)
year=year_3 (generic=on)
)
)

```

```
);
put _ods_;
run;
```

次の DATA ステップでは GENERIC=ON オプションが使用されますが、その指定は 1 回のみ限定する必要があります。

例のコード 6.2 GENERIC=ON オプションを使用する DATA ステップ

```
data _null_;
set top3list;
file print ods = (
template='means.topn'
generic=on
columns=(
class=school
class=year
sum=moneyRaised_sum
mean=moneyRaised_mean
raised=moneyRaised_1
raised=moneyRaised_2
raised=moneyRaised_3
name=name_1
name=name_2
name=name_3
school=school_1
school=school_2
school=school_3
year=year_1
year=year_2
year=year_3
)
);
put _ods_;
run;
```

ODS サブオプションを使用しない

ODS サブオプションを指定しない場合、DATA ステップによってデフォルトテーブル定義(BASE.DATASSTEP.TABLE)が使用されます。これは、Sashelp.Tmplmst テンプレートストアに保存されています。この定義によって、2つのジェネリック列が定義されます。1つは文字変数用、もう1つは数値変数用です。ODSによって、DATA ステップ内の各変数がこれらの列のいずれかに関連付けられ、DATA ステップ内で定義される順序に従い変数が表示されます。

サブオプションがない場合、デフォルトのテーブル定義によって変数のラベルがその列ヘッダーとして使用されます。ラベルがない場合、定義によって変数の名前がその列ヘッダーとして使用されます。

関連項目:

- [4章, “DATA ステップでの ODS の使用” \(57 ページ\)](#)
- [例 \(72 ページ\)](#)

ステートメント

- [“ODS の PUT ステートメント” \(59 ページ\)](#)

LIBNAME ステートメント, SASDOC

SASEDOC エンジンを使用して、SAS libref (ライブラリー参照) と ODS 文書に保存されている1つ以上の ODS 出力オブジェクトの関連付けをします。

- 該当要素:** どこでも可能
- カテゴリ:** ODS: 出力制御
- 制限事項:** SASEDOC エンジンと共に使用される LIBNAME ステートメントは、出力オブジェクトに Read アクセスを提供します。SASEDOC エンジンを伴うライブラリに出力オブジェクトを書き込むことはできませんが、データセットの削除または名称の変更は可能です。

構文

```
LIBNAME libref SASEDOC 'path' <sasedoc-engine-option> <オプション>;
```

必須引数

libref

SAS ファイルが保存されている集計保存場所のショートカット名またはニックネームです。新たな libref を割り当てる際に選択する任意の SAS 名です。SAS ライブラリから libref を切り離す場合、または、属性を列挙する場合に過去の割り当てられた libref を指定するか、CLEAR 引数を使用します。

ヒント: libref および SAS ライブラリの関連付けは、SAS セッションの間のみ、またはそれを変更するまで、あるいは、同じ libref 用の他の LIBNAME ステートメントで中断するまで継続します。

SASEDOC

SAS libref (ライブラリー参照) を、ODS 文書に保存された1つ以上の ODS 出力オブジェクトと関連付けるエンジン名です。

path

十分に規定された ODS 文書ディレクトリの場所です。

SASEDOC Engine オプション

DOC_SEQNO=*sequence-number*

関連付ける出力オブジェクトのシーケンス番号の指定を許可します。これは、同じディレクトリ内の複数の出力オブジェクトが同名の場合に必要です。SASEDOC LIBNAME エンジンには、デフォルトで、アクセスする対象である可能性のある最も新しく作成された出力オブジェクトにのみアクセスできます。デフォルトをオーバーライドする DOC_SEQNO を指定します。

sequence-number

パス名と組み合わせた場合、ディレクトリ内のエントリーを独自に識別する番号です。

参照項目: “連番について” (754 ページ)

補足的な LIBNAME ステートメントの引数およびオプション

LIBNAME ステートメント用に有効な補足的な引数およびオプションの詳細については、LIBNAME を SAS ステートメント: リファレンスで参照してください。

詳細

SASEDOC LIBNAME エンジン、ODS 文書内の保存されている出力オブジェクトのアクセスを許可します。SASEDOC LIBNAME エンジンを使用してアクセスされたデータセットは、ODS OUTPUT の出力先に ODS 文書の出力オブジェクトを再生して作成された物と比較して構造的に異なる場合があります。これは、ODS OUTPUT の出力先が出力オブジェクトのテンプレートを認識するが、SASEDOC LIBNAME エンジンは認識しないためです。

例: ODS DOCUMENT への LIBNAME の割り当て

要素:

ODS DOCUMENT ステートメント: NAME= オプション option

他の要素:

LIBNAME statement: DOC_SEQNO オプション

PROC DATASETS

PROC GLM

PROC PRINT

データセット:

[プラント](#)

[Plant_Stat](#)

詳細

この例は、libref を PROC GLM で作成された出力オブジェクトを4つ含む ODS 文書ディレクトリに割り当てます。4つの出力オブジェクトは表です。

- 完全 ANOVA
- 当てはめの統計量
- タイプ I モデル ANOVA
- タイプ III モデル ANOVA

プログラム

```
ods document name=sasuser.odsglm(write);

proc glm data=plant_stats;
class month;
model age age2 age3=month / nouni;
manova h=month /print;
run;

proc glm data=plants order=data;
class type block;
model stemleng=type block;
means type;
contrast 'compost vs others' type -1 -1 -1 -1 6 -1 -1;
contrast 'river soils vs.non' type -1 -1 -1 -1 0 5 -1,
type -1 4 -1 -1 0 0 -1;
contrast 'glacial vs drift' type -1 0 1 1 0 0 -1;
contrast 'clarion vs webster' type -1 0 0 0 0 0 1;
contrast 'knox vs oneill' type 0 0 1 -1 0 0 0;
quit;

ods document close;
```

```
libname mylib sasedoc '\sasuser.odsglm\glm\anova#1\stemleng';

proc datasets lib=mylib;
run;
quit;

proc print data=mylib.modelanova;
run;
proc print data=mylib.modelanova(doc_seqno=1);
run;
```

プログラムの説明

ODS 文書を作成して、DOCUMENT の出力先を開きます。 ODS DOCUMENT ステートメントは、DOCUMENT の出力先を開きます。NAME= オプションは、*sasuser.odsglm* という名称を PROC GLM プログラムからの出力を含む ODS 文書を割り当てます。アクセスオプション WRITE は、文書に Write アクセスを提供します。なお、*odsglm* は Sasuser ライブラリで作成されます。

```
ods document name=sasuser.odsglm(write);
```

出力オブジェクトを作成します。 GLM プロシジャが出力オブジェクトを作成します。Plant_Stats データセットには、PROC GLM が出力オブジェクトを作成するために使用する統計的な情報を含みます。

作成された各出力オブジェクトの記録の表示に関する詳細については、“[ODS TRACE ステートメント](#)” (696 ページ)を参照してください。

```
proc glm data=plant_stats;
class month;
model age age2 age3=month / nouni;
manova h=month /print;
run;
```

出力オブジェクトを作成します。 GLM プロシジャが出力オブジェクトを作成します。Plants データセットには、PROC GLM が出力オブジェクトを作成するために使用する統計的な情報を含みます。

作成された各出力オブジェクトの記録の表示に関する詳細については、“[ODS TRACE ステートメント](#)” (696 ページ)を参照してください。

```
proc glm data=plants order=data;
class type block;
model stemleng=type block;
means type;
contrast 'compost vs others' type -1 -1 -1 -1 6 -1 -1;
contrast 'river soils vs.non' type -1 -1 -1 -1 0 5 -1,
type -1 4 -1 -1 0 0 -1;
contrast 'glacial vs drift' type -1 0 1 1 0 0 -1;
contrast 'clarion vs webster' type -1 0 0 0 0 0 1;
contrast 'knox vs oneill' type 0 0 1 -1 0 0 0;
quit;
```

DOCUMENT の出力先を閉じます。 DOCUMENT の出力先を終了しない場合、DOCUMENT プロシジャの出力を参照できません。

```
ods document close;
```

libref mylib と **stemleng** ディレクトリを関連付けます。LIBNAME ステートメントは、SASEDOC エンジンを使用し、SAS librefmylib を stemleng ディレクトリと関連付けます。このディレクトリは、ODS ドキュメント sasuser.odsglm に格納されています。なお、パスには anova#1 と anova の両方が含まれます。これは、2つの anova ディレクトリがあるため、このコードは最初のディレクトリを指定しているからです。シーケンス番号が削除された場合、ODS は2番目のディレクトリで libref と関連付けます。

```
libname mylib sasedoc '\sasuser.odsglm\glm\anova#1\stemleng';
```

LIBRARY=オプションは、mylib をプロシジャ入カライブラリとして指定します。QUIT ステートメントは、DATASETS プロシジャを終了します。

```
proc datasets lib=mylib;
run;
quit;
```

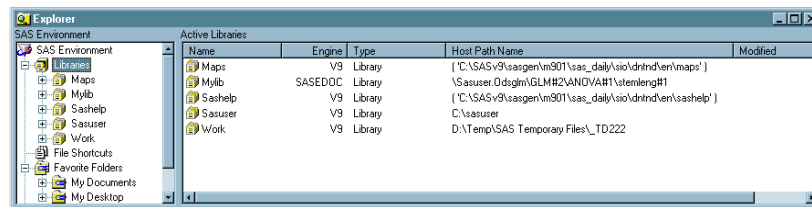
データセットを印刷します。2つの出力オブジェクトが同じ名称(ModelANOVA)を持つために、SASEDOC LIBNAME エンジン、それが1番目より先に作成されたため2番目の表だけ認識します。DOC_SEQNO= データセットオプションは、最初の表にアクセスするために、シーケンス番号1を指定します。

```
proc print data=mylib.modelanova;
run;
proc print data=mylib.modelanova(doc_seqno=1);
run;
```

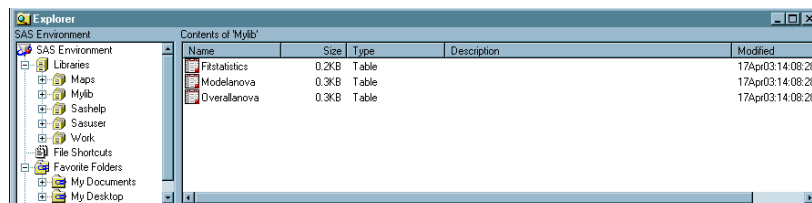
出力

最初の画面は、Explorer ウィンドウを表示します。ウィンドウには、SAS ライブラリの Mylib が含まれ、このライブラリはディレクトリ stemleng と関連付けられています。この stemleng ディレクトリは、ODS 文書 sasuser.odsglm に保存されています。2番目の画面には、Explorer ウィンドウが表示され、このウィンドウに SAS ライブラリの Mylib の内容が含まれています。3つの出力オブジェクトは、実際は ODS 文書に含まれています。

アウトプット 6.1 Explorer ウィンドウ



アウトプット 6.2 Mylib のコンテンツ



関連項目:**プロシジャ**

- 8 章, “DOCUMENT プロシジャ” (752 ページ)

ステートメント

- “ODS DOCUMENT ステートメント” (216 ページ)
- “ODS TRACE ステートメント” (696 ページ)

ODS _ALL_ CLOSE ステートメント

開いている ODS 出力先のすべてを閉じます。

該当要素: どこでも可能

カテゴリ: ODS: 出力制御

構文

```
ODS _ALL_ CLOSE;
```

詳細

ODS _ALL_ CLOSE ステートメントによって、開いている ODS 出力先のすべてが閉じられます。

注: 同一の SAS セッション内で出力を表示または出力できるように、次のプログラムを実行する前に必ず複数の ODS 出力先を開いてください。

ODS CHTML ステートメント

スタイル情報を使用しないコンパクトで最小の HTML 出力を作成する CHTML 出力先に対して開く、管理する、閉じる処理を行います。

Valid in: どこでも可能

Category: ODS: サードパーティフォーマット

Syntax

```
ODS CHTML<(<ID=>識別子)> <アクション>;
```

```
ODS CHTML <(<ID=>識別子)> <オプション>;
```

Summary of Optional Arguments

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送ります。

(ID= *identifier*)

同時に同出力先の複数のインスタンスを開いてください。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定してください。

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定してください。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入してください。

(URL='Uniform-Resource-Locator')

URL として *file-specification* の URL を指定してください。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます。

ANCHOR='anchor-name'

現行のボディファイルの各出力オブジェクトを識別するアンカータグに最適な独自のベース名を指定してください。

ARCHIVE='string'

ODS HTML 出力を閲覧するために使用するアプレットを指定してください。

ATTRIBUTES=(attribute-pair-1 ... attribute-pair-n)

動的なグラフィックス出力を生成するタグの間に書き込む属性を指定します。

BASE='base-text'

すべてのリンクの最初の部分として使用するテキストおよび出力ファイルにおいて ODS が作成したリファレンスを指定してください。

BODY='file-specification' (サブオプション)

マークアップファミリーの出力先を開き、ODS ステートメントにより作成された主な出力を含むファイルを指定してください。

CHARSET= character-set

HTML 出力用の META 宣言で生成される文字セットを指定してください。

CLOSE

出力先およびそれに関連するファイルを終了してください。

CODE='file-specification' <(サブオプション)>

HTML 出力先を開き、関連するスタイル情報を含むファイルを指定してください。

CODEBASE='string'

GOPTIONS デバイスが使用可能なファイルパスを作成してください。

CONTENTS='file-specification' <(サブオプション)>

HTML 出力先を開き、出力用の目次を含むファイルを指定してください。

CSSSTYLE='file-specification'<(media-type-1<...media-type-10)>

出力に適用するカスケードスタイルシートを指定してください。

ENCODING= local-character-set-encoding

入力用のエンコーディングまたは、外部ファイルの出力処理(トランスコード)をオーバーライドしてください。

EVENT=event-name (FILE= | FINISH | LABEL= | NAME= | START | STYLE= | TARGET= | TEXT= | URL=)

イベントおよびイベントに関連するイベント変数用の値を指定してください。

EXCLUDE 除外 ALL | NONE

出力先から出力オブジェクトを除外してください。

FRAME='file-specification' <(サブオプション)>

目次、ページコンテンツ、およびボディファイルを統合するファイルを指定してください。

GFOOTNOTE | NOGFOOTNOTE

グラフィックス出力においてフットノートがプリントされるロケーションを制御してください。

GPATH= *'aggregate-file-storage-specification'* | [ファイル参照](#) | [libref.catalog](#)

(URL= *'Uniform-Resource-Locator'* | NONE)

出力先が開いている間に生成されたすべてのグラフィックス出力のロケーションを指定してください。

GTITLE | NOGTITLE

グラフィック出力のタイトルがプリントされているロケーションを制御してください。

HEADTEXT= *'markup-document-head'*

出力先が書き込むすべてのファイルのタグ< HEAD> および </HEAD> の間に配置する HTML タグを指定してください。

METATEXT= *'metatext-for-document-head'*

<META><>の間、HEAD>HEAD>および<HEAD>出力先が書き込む先のすべてのファイルのタグとして使用する HTML コードを指定してください。

NEWFILE= *starting-point*

新しいボディファイルを指定された開始点に作成してください。

OPTIONS (DOC= | <サブオプション>)

tagset-specific サブオプションおよび名付けられた値を指定してください。

PACKAGE *<package-name>*

出力先からの出力を ODS パッケージに追加することを指定してください。

PAGE= *'file-specification'* <(サブオプション)>

HTML 出力先を開き、ボディファイルの各ページの説明およびボディファイルへのリンクを含むファイルを指定してください。

PARAMETERS= (*parameter-pair-1 ... parameter-pair-n*)

動的グラフィックス出力を生成するタグの間に指定されたパラメータを書き込んでください。

PATH= *'aggregate-file-storage-specification'* | [ファイル参照](#) | [libref.catalog](#) (URL= *'Uniform-Resource-Locator'* | NONE)

累積保管場所のロケーションまたはすべてのマークアップファイル用の SAS カタログを指定してください。

RECORD_SEPARATOR= *'alternative-separator'* | NONE

出力ファイルのラインを分離するために代替の文字または文字列を指定してください。

SELECT [選択](#) | ALL | NONE

出力先用に出力オブジェクトを選択してください。

SHOW

SAS ログに出力先用の現行の選択または除外リストを書き込んでください。

STYLE= *style-definition*

出力ファイルを書く場合に使用するスタイル定義を指定してください。

STYLESHEET= *'file-specification'* <(サブオプション)>

HTML の出力先を開き、出力用のスタイル情報を外部ファイルに配置、または既存のファイルからスタイルシートを読み込んでください。

TEXT= *text-string*

文書にテキストを挿入してください。

TRANTAB= *'translation-table'*

出力用のファイルをトランスコーディングする際に変換表を指定してください。

Without Arguments

操作やオプションを含まない ODS CHTML ステートメントを使用した場合、ODS CHTML ステートメントによって CHTML 出力先が開かれ、CHTML 出力が作成されます。

Actions

ODS CHTML ステートメントでは、次の操作が利用可能です。

CLOSE

出力先およびそれに関連するファイルを終了します。プリンタの出力先の場合、出力先を終了するまでファイルをプリントできません。

Tip: ODS 出力先が終了した場合、ODS は、その出力先に出力を送りません。不要な出力先を終了することで、システムリソースの節減します。

EXCLUDE 除外 | ALL | NONE

出力先から1つまたはそれ以上の出力オブジェクトを除外します。

Default: NONE

Restriction: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

See: “ODS EXCLUDE ステートメント” on page 232

SELECT 選択 | ALL | NONE

指定された出力先用に出力オブジェクトを選択します。

Default: ALL

Restriction: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

See: “ODS SELECT ステートメント” on page 598

SHOW

SAS ログに出力先用の現行の選択または除外リストを書き込みます。

Restriction: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

Tip: 選択または除外リストがデフォルトのリスト(SELECT ALL)である場合、SHOW は、全体の選択または除外リストも書きます。選択または除外リストに関する詳細は、を“[選択リストと除外リスト](#)” on page 49 参照してください。

See: “ODS SHOW ステートメント” on page 614

Optional Arguments

ステートメントのマークアップファミリの一部である ODS CHTML ステートメントで、次のオプションが利用可能です。

ANCHOR= 'anchor-name'

現行のボディファイルの各出力オブジェクトを識別するアンカータグに最適な独自のベース名を指定します。

各出力オブジェクトは、参照するためにコンテンツ、ページ、およびフレームファイル用にアンカータグを持ちます。ODS により自動的に作成されたリンクとレファレンスは、アンカー名を指します。そのため、ファイルの各アンカー名は、固有名でなければなりません。

anchor-name

現行の ボディファイルにおいて、各出力オブジェクトを識別するアンカータグのベース名です。

ODS は、指定した名称をインクリメントすることで独自のアンカー名を作成します。例えば、ANCHOR='TABULATE'を指定した場合、ODS は最初のアンカーに `tabulate` と名前を付けます。2番目のアンカー名が `tabulate1` で、3番目が `tabulate2`、と名称が続きます。

Restriction: ファイルのアンカー名は、ユニークでなければなりません。

Requirement: 引用符で *anchor-name* を囲まなければなりません。

Interaction: 追加するためにファイルを開いた場合、ファイルに再度同じアンカーを書き込むことを防ぐために、新しいアンカー名を必ず指定してください。ODS は、ファイルを開いた際に、既にファイルに存在するアンカーは、識別しません。

Tips:

プログラムのどこかにマークアップファミリーの ANCHOR=オプションを指定することで、アンカー名を変更できます。アンカー名を指定した後に、新しいものを指定するまで有効になります。

プログラムのさまざまなポイントに新しいアンカー名を指定することで、他のウェブページをマークアップ言語の出力の特定の箇所にリンクできるようになります。アンカー名が変更された箇所を制御できるため、それらのポイントにおけるアンカー名を事前に知ることができます。

ARCHIVE='string'

ODS HTML 出力を閲覧するために使用するアプレットを指定します。

ARCHIVE= オプションは、GOPTIONS java デバイス用にのみ有効です。

文字列は、ブラウザが認識できるものでなければなりません。例えば、アーカイブファイルが SAS で実行中のコンピューターに対してローカルな場合、ファイルを識別するために FILE プロトコルを使用できます。Web サーバーのアーカイブファイルを指したい場合、HTTP プロトコルを使用してください。

Default: ARCHIVE=を指定せず、JAVA デバイスドライバを使用している場合、ODS は SAS システムオプションの値である APPLETOC=を使用します。ACTIVEX デバイスドライバを使用している場合、デフォルトはありません。

Requirements:

引用符で *string* を囲まなければなりません。

ARCHIVE 属性は、Java 1.1 の機能です。そのため Java デバイスドライバを使用している場合、ブラウザは、この Java バージョンをサポートしていなければなりません。Internet Explorer 4.01 と Netscape 4.05 の両方が、Java 1.1 をサポートします。

Interaction: ARCHIVE= を SAS/GRAPH プロシジャと共に使用し、GOPTIONS ステートメントにおいて DEVICE=JAVA または DEVICE=ACTIVEX オプションを使用してください。

Tips:

ODS HTML 出力を閲覧するための SAS/GRAPH アプレットを SAS サーバーが、自動的に判断するため、このオプションを通常使用してはいけません。しかし JAR ファイルの名称を変更した場合、または ODS HTML 出力を閲覧するためのその他のアプレットを有する場合、このオプションはこれらのアプレットにアクセス可能にします。

ファイルパスを指定するために、CODEBASE= オプションを使用してください。ARCHIVE= オプションにファイルパスを置かないことが推奨されます。

APPLETOC= の値は、SAS システムと一緒に送られる Java アーカイブのローケーションを指します。オプションの値を知るために、Environment Control の

下の Files フォルダの Options ウィンドウを参照するか、次のプロシジャステップを発行できます。

```
proc options option=appletloc;
run;
```

ATTRIBUTES= (*attribute-pair-1 ... attribute-pair-n*)

動的なグラフィックス出力を生成するタグの間に指定された属性を書き込みます。

attribute-pair

各属性の名称および値を指定します。*attribute-pair* は、次のフォームを有しません。

```
'attribute-name'='attribute-value'
```

attribute-name

属性の名称です。

attribute-value

属性の値です。

Requirement: 引用符で *attribute-name* と *attribute-value* を囲まなければなりません。

Interaction: ATTRIBUTES=オプションを SAS/GRAPH プロシジャ および GOPTIONS ステートメントの DEVICE=JAVA、JAVAMETA、または ACTIVEX オプションと一緒に使用してください。

See: SAS/GRAPH: Reference グラフアプレット、マップアプレット、コンターアプレット、および MetaView アプレット用の有効な属性

BASE= '*base-text*'

すべてのリンクの最初の部分として使用するテキストおよび出力ファイルにおいて ODS が作成したレファレンスを指定します。

base-text

ODS が、すべてのリンクの最初の部分として使用するテキストおよびファイルにおいて ODS が作成したレファレンスです。

次の仕様を考慮してください。

```
BASE= 'http://www.your-company.com/local-url/'
```

この場合、ODS は、<http://www.your-company.com/local-url/>文字列で始まるリンクを作成します。適切な *anchor-name* でリンクが完成します。

Requirement: 引用符で *base-text* を囲まなければなりません。

BODY= '*file-specification*' (サブオプション)

マークアップファミリーの出力先を開き ODS ステートメントにより作成された主な出力を含むファイルを指定してください。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態になります。。

- *ODS markup-family-destination* CLOSE ステートメントまたは ODS _ALL_ CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーステートメントを使用して、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照、または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

external-file

書き込み先の外部ファイルの名称です。

Requirement: 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイル参照です。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

Restriction: BODY=ファイル参照オプションは、NEWFILE= オプションと一緒に使用することはできません。

See: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)を参照してください。

エントリー。マークアップ

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

Interaction: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

(サブオプション)

カッコ内に1つまたはそれ以上のサブオプションを指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次のようになります。

(DYNAMIC)

ファイルに書き込むのではなく、出力をウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE で [CONTENTTYPE= on page 987](#) を参照してください。

Default: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

Restriction: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

Requirements:

DYNAMIC を、括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

Alias: NOBOT

Requirements:

NO_BOTTOM_MATTER を 括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加する場合、動作環境に対して適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_BOTTOM_MATTER サブオプションは、NO_TOP_MATTER サブオプションを伴うことで、既存のファイルに出力を追加することを可能にし、ファイルの出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置できます。

ODS が、過去に書き込んだファイルを開く場合、アンカー用に新しいベース名を指定するために ANCHOR= オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

Tip: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、マークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

See: NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの先頭にどのような開始マークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

Alias: NOTOP

Requirements:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

The NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

See: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR= オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

Requirements:

TITLE= を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

Tip: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されます。

Example: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” on page 443

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

Requirements:

括弧で URL= 'Uniform-Resource-Locator' を囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL=*Uniform-Resource-Locator* は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

Tips:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをレファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

Example: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” on page 446

Alias: FILE=

Interaction: ODS マークアップの出力先に言及する ODS マークアップファミリーステートメントの BODY= オプションを使用することにより、ODS に出力先および関連するすべてのファイルを終了した後、出力先の新しいインスタンスを開くことを強制します。詳細は、“MARKUP 出力先を開く/閉じる” on page 438 を参照してください。

Note: いくつかの TAGSET= の値に対して、出力は HTML ファイルで、他の TAGSET= の値に対して、出力は XML ファイルなどになります。

CHARSET= *character-set*

HTML 出力用の META 宣言で生成される文字セットを指定します。

See: 詳細は、“CHARSET=オプション” (*SAS 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド*)を参照してください。

CODE= '*file-specification*' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、XSL (Extensible Stylesheet Language)等の関連するスタイル情報を含むファイルを指定します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります。

- ODS *markup-family-destination* CLOSE ステートメントまたは ODS *_ALL_* CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

Requirement: 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

See: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS ステートメント: リファレンス*)を参照してください。

entrymarkup

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

Interaction: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論も参照してください。

サブオプション

1つまたはそれ以上のサブオプション を括弧で指定します。サブオプション は、出力ファイルを書くための指示です。サブオプション は、次のようになります。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE= スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の [CONTENTTYPE= on page 987](#) を参照してください。

Default: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

Restriction: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

Requirements:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

Alias: NOBOT

Requirements:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

Tip: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、マークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

See: NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

Alias: NOTOP

Requirements:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

See: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR= オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

Requirements:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

Tip: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されます。

Example: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” on page 443

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

Requirements:

括弧で URL='Uniform-Resource-Locator'を囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator'は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

Tips:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをレファレンスしないため、FRAME=オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

Example: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” on page 446

CODEBASE='string'

実行可能な Java アプレットまたは、ActiveX コントロールファイルのロケーションを指定します。*string* は、パス名または URL を指定します。使用される GOPTIONS により、CODEBASE ファイルパスには、2つの出力先があります。

JAVA および ActiveX デバイスドライバでウェブプレゼンテーションを生成した場合に、SAS は、JAVA アーカイブファイルを自動的に検索する HTML ページまたは、デフォルトインストールロケーションに ActiveX コントロールファイルを生成します。

ActiveX デバイス用

ActiveX コントロールを含む出力を生成する際に ODS を伴う ActiveX デバイスドライバを使用する場合、ODS の CODEBASE= オプションを指定してください。CODEBASE=オプションの値は、ロケーションおよび EXE ファイルのバージョンを含むべきです。

Tip: 出力を閲覧するユーザーがマシンに ActiveX コントロールをインストールしていない場合を除き DEVICE=ACTIVEX オプションで CODEBASE= オプションを指定する必要はありません。コントロールをインストールしていないユーザーが出力を閲覧する場合、コントロールをダウンロードすることを促されます。

See: *SAS/GRAPH: Reference* CODEBASE= および ARCHIVE= オプションを使用したコントロールおよびアプレットのロケーションの指定に関する詳細は、次を参照してください。

Java デバイス用

SAS/GRAPH アプレットを含む出力を生成するために、デバイスドライバを使用する場合、ODS ステートメントの CODEBASE= オプションを使用して JAR ファイルへのパスを指定してください。

DEVICE=JAVA を指定した場合、出力を閲覧するユーザーは、適切な Java アプレットにアクセスを有する必要があります。SAS は、デフォルトで、SAS により自動的にインストールされたアプレット用の実行可能ファイルに言及するために、CODEBASE= 値を設定します。SAS Java アーカイブファイルのデフォルトのロケーションは、APPLETLOC= システムオプションにより指定されています。次の両条件を満たしている場合、CODEBASE=オプションを指定する必要はありません。

- デフォルトのロケーションは、ウェブプレゼンテーションを閲覧するユーザーにより、アクセス可能です。
- SAS Java アーカイブは、そのロケーションにインストールされています。

Tip: JAR ファイルのディレクトリのみ指定してください。CODEBASE=ロケーションは、パス名または URL として指定できます。

See: *SAS/GRAPH: Reference* CODEBASE= および ARCHIVE= オプションを使用したコントロールおよびアプレットファイルのロケーションの指定に関する詳細は、次を参照してください。

CONTENTS= 'file-specification' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、出力用の目次を含むファイルを指定します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります。:

- ODS *markup-family-destination* CLOSE ステートメント または ODS *_ALL_* CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。

- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

Requirement: 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルリファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

See: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)を参照してください。

entry.markup

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

Interaction: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

サブオプション

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次のようになります。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。この設定は、CONTENTTYPE= スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の [CONTENTTYPE= on page 987](#) を参照してください。

Default: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

Restriction: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

Requirements:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣、あるいは、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

Alias: NOBOT

Requirements:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

Tip: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

See: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

Alias: NOTOP

Requirements:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

See: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR= オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

Requirements:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

Tip: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されます。

Example: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” on page 443

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

Requirements:

URL='Uniform-Resource-Locator' を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

Tips:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

Example: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” on page 446

CSSSTYLE='file-specification'<(media-type-1<...media-type-10)>>

出力に適用するカスケードスタイルシートを指定します。

file-specification

CSS コードを含むファイル、ファイル参照、または、URL を指定します。

file-specification は、次の内の 1 つです。

"external-file"

外部ファイルの名称です。

Requirement: 括弧で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルリファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

See: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス) を参照してください。

"URL"

外部ファイルへの URL です。

Requirement: 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

(media-type-1< media-type-10>)

出力にレンダリングされるメディアの種類に対応する 1 つまたはそれ以上のメディアブロックを指定します。文書が、スクリーン、紙、スピーチシンセサイザー、点字装置、等々の異なるメディアにどのように提示されるか指定するために、CSS は、メディアタイプを使用します。

メディアブロックは、いかなるメディアブロックに含まれていない CSS コードを伴い出力に追加されます。 *media-type* サブオプションを使用することで一般の CSS コードを伴い、特定のメディアタイプを対象とする CSS ファイルの項目をインポートできます。

Default: ODS ステートメントにいかなる *media-type* が指定されてないが、CSS ファイルにメディアタイプが指定されている場合、ODS は、Screen メディアタイプを使用します。

Range: 異なる10個のメディアタイプを指定できます。

Requirements:

括弧で *media-type* を囲まなければなりません。

CSSSTYLE= オプションで指定された *file-specification* の隣に、*media-type* を指定しなければなりません。

Tip: 複数のメディアタイプを指定した場合、出力にすべてのメディアタイプのすべてのスタイル情報が適用されます。しかし、異なるメディアブロックにおいて重複するスタイル情報が存在する場合、最後のメディアブロックのスタイルが使用されます。

Restriction: CSSSTYLE= オプションは、SAS/GRAPH 出力に影響を与えません。

Requirement: CSS ファイルは、ODS HTML ステートメントにより作成された CSS と同じ種類で書き込まなければなりません。ID や文脈ベースのセレクターの無いクラス名のみがサポートされます。ODS が作成する CSS コードを閲覧するには、次の内の1つを行ってください。

- STYLESHEET= オプションを指定してください。
- HTML ファイルのソースを閲覧して、ファイルの上部の <STYLE> </STYLE> タグの間のソースを閲覧してください。

有効な ODS CSS ファイルの例は、“[例 6: ODS 出力へ CSS ファイルの適用](#)” on page 448 を参照してください。

Interaction: STYLE= オプションおよび CSSSTYLE= オプションの両方が、ODS ステートメントに指定されている場合、最後に指定されたオプションが使用されます。

Example: “[例 6: ODS 出力へ CSS ファイルの適用](#)” on page 448

ENCODING= *local-character-set-encoding*

入力用のエンコーディングまたは、外部ファイルの出力処理(トランスコード)をオーバーライドします。

See: ENCODING= オプションに関する詳細は、“ENCODING システムオプション: UNIX、Windows、および z/OS” (*SAS 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド*)次を参照してください。

EVENT= *event-name* (FILE= | FINISH | LABEL= | NAME= | START | STYLE= | TARGET= | TEXT= | URL=)

イベントおよびイベントに関連するイベント変数用の値を指定します。

(FILE= BODY | CODE | CONTENTS | DATA | FRAME | PAGES | STYLESHEET);

BODY=、CODE=、CONTENTS=、FRAME=、PAGES=、および STYLESHEET= オプションに対応する出力ファイルの既知の種類の中の1つをトリガーします。

(FINISH)

イベントの終了項目をトリガーします。

See: 詳細は、“[イベントについて](#)” on page 1167 を参照してください。

(LABEL=*'variable-value'*)

LABEL イベント変数用の値を指定します。

Requirement: *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

See: LABEL イベント変数に関する詳細は、“[イベント変数](#)” on page 1211 次を参照してください。

(NAME=*variable-value*)

NAME イベント変数用の値を指定します。

Requirement: *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

See: NAME イベント変数に関する詳細は、“イベント変数” on page 1211 を参照してください。

(START)

イベントの開始項目をトリガーします。

See: イベントに関する詳細は、“イベントについて” on page 1167 次を参照してください。

(STYLE=*style-element*)

スタイルエレメントを指定します。

See: スタイルエレメントに関する詳細は、“スタイル属性の概要” on page 968 次を参照してください。

(TARGET=*variable-value*)

TARGET イベント変数用の値を指定します。

Requirement: *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

See: TARGET イベント変数に関する詳細は、“イベント変数” on page 1211 次を参照してください。

(TEXT=*variable-value*)

TEXT イベント変数用の値を指定します。

Requirement: *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

See: TEXT イベント変数に関する詳細は、“イベント変数” on page 1211 を参照してください。

(URL=*variable-value*)

URL イベント変数用の値を指定します。

Requirement: *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

See: URL イベント変数に関する詳細は、“イベント変数” on page 1211 を参照してください。

Default: (FILE='BODY')

Requirement: The EVENT= オプションのサブオプションを括弧で囲まなければなりません。

FRAME= '*file-specification*' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、HTML 出力用に、目次、ページコンテンツ、およびボディファイルを統合するファイルを指定します。フレームファイルを開くと目次、ページコンテンツ、またはその両方、およびボディファイルを閲覧できます。XML 出力用に、FRAME= は、DTD を含むファイルを指定します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります

- ODS *markup-family-destination* CLOSE ステートメント または ODS *_ALL_* CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

Requirement: 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

See: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS ステートメント: リファレンス*)次を参照してください。

entry.markup

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

Interaction: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

サブオプション(s)

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次の内の1つになります。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の [CONTENTTYPE= on page 987](#) を参照してください。

Default: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

Restriction: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

Requirements:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

Alias: NOBOT

Requirements:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

Tip: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

See: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

Alias: NOTOP

Requirements:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

See: NO_BOTTOM_MATTER サブオプションおよび ANCHOR= オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

Requirements:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

Tip: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されます。

Example: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” on page 443

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます。

Requirements:

URL= 'Uniform-Resource-Locator' を括弧で囲まなければなりません。'

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL= '*Uniform-Resource-Locator* は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

Tips:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをレファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

Example: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” on page 446

Restriction: FRAME=オプションを指定した場合、CONTENTS= オプション、PAGE= オプション、または両方を指定しなければなりません。

Example: “例 2: XML ファイルと DTD の作成” on page 441

GFOOTNOTE | NOGFOOTNOTE

グラフィックス出力においてフットノートがプリントされるロケーションを制御します。

GFOOTNOTE

SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたフットノートをプリントします。フットノートは、グラフのボーダー内に表示されます。

NOGFOOTNOTE

グラフのボーダー外に表示される ODS により作成されたフットノートをプリントします。

Default: GFOOTNOTE

Restrictions:

マークアップ言語により表示されるフットノートは、すべての SAS/GRAPH FOOTNOTE ステートメントオプションをサポートします。フォントは、ブラウザ用に有効でなければなりません。テキスト角度の仕様など ODS が扱えないオプションは無視されます。SAS/GRAPH FOOTNOTE ステートメントに関する詳細は、“FOOTNOTE Statement” in *SAS/GRAPH: Reference* を参照してください。

このオプションは、1つまたはそれ以上のデバイススペースのグラフィックスを作成する SAS プログラム または、SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたグラフィックスにのみ適用されます。

GPATH= 'aggregate-file-storage-specification' | ファイル参照 | libref.catalog (URL= 'Uniform-Resource-Locator' | NONE)

出力先が開いている間に生成されたすべてのグラフィックス出力のロケーションを指定します。マークアップファイル用の PATH= オプションで指定されたものとは異なるロケーションにグラフィックス出力を書き込みたい場合にこのオプションを使用してください。無効なファイル名を指定した場合、ActiveX および Java デバイスはデフォルトのファイル名に出力を送ります。その他のデバイスはファイルをディレクトリとして作成して、そのディレクトリに出力を書き込みます。ODS が、カタログエンタリおよび外部ファイルに名称を付ける方法に関する 詳細は、次を参照してください。*SAS/GRAPH: Reference*

'aggregate-file-storage-location'

ディレクトリ、フォルダ、または分割されたデータセット等の累積保存ロケーションを指定します。

Requirement: 引用符で *aggregate-file-storage-location* を囲まなければなりません。

ファイル参照

累積保存ロケーションに割り当てられたファイル参照です。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメント を使用してください。

Interaction: GPATH= オプションにおいてファイル参照を指定した場合、ODS は、リンクを構築する際に、GPATH=オプションからの情報を使用しません。

See: FILENAME ステートメントに関する詳細は、“FILENAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)次を参照してください。

ライブラリ参照。 *catalog*

書き込む先の SAS カタログを指定します。

URL= '*Uniform-Resource-Locator*' | NONE
file-specification の URL を指定します。

Uniform-Resource-Locator

指定した URL です。ODS は、ファイルに作成するすべてのリンクおよびリファレンスにおいて ファイル名ではなくこの URL を使用します。

Requirement: 引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

NONE

リンクまたはリファレンスに GPATH=オプションからのいかなる情報が表示されないことを指定します。

Tip: このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツまたはページファイルからのリンクが簡単な URL (単一名) で構築されている場合、コンテンツ、ページ、およびボディファイルさえ同一のロケーションにあれば、それらは解決します。

Default: GPATH= オプションを除外すると、ODS は、PATH= オプションにより指定されたロケーションにグラフィックスを保存します。PATH=オプションを指定しない場合、ODS は、グラフィックスを現行のディレクトリに保存します。詳細は、PATH= オプションを参照してください。

GTITLE | NOGTITLE

グラフィック出力のタイトルがプリントされているロケーションを制御します。

GTITLE

SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたフタイトルをプリントします。タイトルは、グラフボーダーの内部に表示されます。

NOGTITLE

グラフボーダーの外部的に表示される ODS により作成されたタイトルをプリントします。

Default: GTITLE

Restrictions:

いかなるマークアップ言語のステートメントにより表示されるタイトルは、大部分の SAS/GRAPH TITLE ステートメントオプションをサポートします。フォントは、ブラウザ用に有効でなければなりません。テキスト角度の仕様など ODS

が扱えないオプションは無視されます。SAS/GRAPH TITLE ステートメントに関する詳細は、TITLE ステートメントを参照してください。

このオプションは、1つまたはそれ以上のデバイスベースのグラフィックスを作成する SAS プログラム または、SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたグラフィックスにのみ適用されます。

HEADTEXT= '*markup-document-head*'

出力先が書き込むすべてのファイルのタグ< HEAD> および </HEAD> の間に配置する HTML タグを指定します。

markup-document-head

< HEAD> および </HEAD>の間に配置するマークアップタグを指定します。

Restriction: HEADTEXT= は、256 文字を超えてはなりません。

Requirement: *markup-document-head* を引用符で囲まなければなりません。

Tips:

ODS は、提供するマークアップを解析できません。それは、< HEAD>および </HEAD>タグとの関連で、well-formed マークアップでなければなりません。

後で、ファイルで使用できるプログラム(JavaScript) 等を定義するために HEADTEXT=オプションを使用してください。

(ID= *identifier*)

同時に同出力先の複数のインスタンスの実行を可能にします。各インスタンスは、異なるオプションを有します。

identifier

既にかかれた出力先のもう1つのインスタンスを指定します。*identifier* は、文字または、アンダーラインで始まる数字または連続した文字です。後続の文字は、文字、アンダーライン、および数字を含むことができます。

Restriction: もし *identifier* が数値の場合、正の整数にする必要があります。

Requirement: ID= オプションは、ODS MARKUP/TAGSET ステートメントキーワードの直後に指定しなければなりません。

Tip: ID= オプションを除外し、インスタンスを識別するために代わりに名前または数字を使用できます。

Example: “例: 同時に同じ出力先のインスタンスを複数開く” on page 499

METATEXT= '*metatext-for-document-head*'

<META><<の間、HEAD>HEAD>および<HEAD>出力先が書き込む先のすべてのファイルのタグとして使用する HTML コードを指定します。

'metatext-for-document-head'

ブラウザにロードする文書に関する情報を提供する HTML コードを指定します。例えば、この属性は、コンテンツの種類および使用される文字セットを指定できます。

Requirement: 引用符で *metatext-for-document-head* を囲まなければなりません。

Default: METATEXT=を指定しない場合、ODS は、作成するすべての HTML ファイルに文書のコンテンツの種類および使用する文字セットを含む簡単な <META> タグを書きます。

Restriction: METATEXT= は、256 文字を超えてはなりません。

Tip: ODS は、提供する HTML コードを解析できません。HTML コードは、<HEAD>タグの脈絡において正確で、良く構築されていなければなりません。METATEXT= を意図された通りに使用した場合、META タグは次のように見えます。

```
<META your-metatext-is-here>
```

NEWFILE= *starting-point*

新しいボディファイルが指定された *starting-point* に作成します。

starting-point

新しいボディファイルを作成するのに適した出力のロケーションです。

ODS は、ボディファイル名をインクリメントすることで自動的に新しいファイル名を付けます。次の例で、ODS は、初めのボディファイルの名付けます。

REPORT.XML 追加のボディファイルが名付けられます。REPORT1.XML, REPORT2.XML, 等

例

```
BODY= 'REPORT.XML'
```

starting-point は、次の内の1つです。

BYGROUP

各 BY グループの結果用に新たなファイルを開始します。

NONE

現在開かれているボディファイルにすべての出力を書き込みます。

OUTPUT

各出力オブジェクト用に新たなファイルを開始します。SAS/GRAPH に対して、これは、ODS がプログラムが生成した各 SAS/GRAPH 出力ファイル用に新たなファイルを作成することを意味します。

Alias: TABLE

PAGE

出力の各ページ用に新たなボディファイルを開始します。改ページは、手順が明示的に新たなページを開始(ページのサイズが足りないからではなく)または、新たなプロシジャを開始する時点で発生します。

PROC

新たな手順を開始する度に新たなボディファイルを開始します。

Default: NONE

Restriction: NEWFILE= オプションは、BODY=ファイル参照 オプションと一緒に使用できません。

Tips:

ファイル名を数字で終了した場合、ODS はその数字の増加を開始します。次の例で、ODS は、最初のボディファイル *MAY5.XML* の名付けをします。追加のボディファイル名は、*MAY6.XML*, *MAY7.XML*, 等となります。

例

```
BODY= 'MAY5.XML'
```

OPTIONS (DOC= |<サブオプション>)

tagset-specific サブオプションおよび名付けられた値を指定します。

(DOC= 'HELP' | 'QUICK' | 'SETTINGS' | 'CHANGELOG')

指定されたタグセットについての情報を提供します。

HELP

簡易参照で、一般的なヘルプおよび情報を提供します。

QUICK

このタグセットで利用可能なオプションを説明します。

SETTINGS

現行のオプション設定を提供します。

CHANGELOG

タグセットへの変更履歴をリストします。このサブオプションは、RTF タグセットにおいてのみサポートされています。

Requirement: すべての値は、引用符で囲まなければなりません。

サブオプション(s)

指定されたタグセットに有効な1つまたはそれ以上のサブオプションを指定します。サブオプションは、次のフォーマットを有します。

keyword='value'

タグセット用のサブオプションの情報を得るために、ODS タグセットステートメントを開く時、または出力先が開かれたいかなる時に、次のオプションの内の1つを指定してください。

- オプション (doc='help');
- オプション (doc='quick');
- オプション (doc='settings');

Requirement: OPTION サブオプションを括弧で囲まなければなりません。

Example: “例: ODS TAGSETS.HTMLPANEL 情報を得るために DOC サブオプションを使用。” on page 651

PACKAGE <package-name>

出力先からの出力を ODS パッケージに追加することを指定します。

package-name

ODS PACKAGE ステートメントで作成されたパッケージの名称を指定します。指定された名称が無い場合、出力は最後に開かれた名称の付けられていないパッケージに追加されます。

See: “ODS PACKAGE ステートメント” on page 469

Example: “例 1: ODS パッケージの作成” on page 473

PAGE= 'file-specification' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、ボディファイルの各ページの説明およびボディファイルへのリンクを含むファイルを指定します。ODS は、手順が新たなページを要求した際に、出力の新しいページを作成します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります

- ODS markup-family-destination CLOSE ステートメントまたは ODS _ALL_ CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の 1 つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

Requirement: 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

See: FILENAME ステートメントに関する詳細は、“FILENAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)次を参照してください。

入力。マークカップ

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

Interaction: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

サブオプション

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次のようになります。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の [CONTENTTYPE= on page 987](#) を参照してください。

Default: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

Restriction: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

Requirements:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

Alias: NOBOT

Requirements:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

Tip: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification*

BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

See: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

Alias: NOTOP

Requirements:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

See: The NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR=option

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

Requirements:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

Tip: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されます。

Example: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” on page 443

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

Requirements:

URL='Uniform-Resource-Locator'を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

Tips:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをレファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

Example: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” on page 446

Interaction: SAS システムオプションの PAGESIZE= は、バッチ出力を作成する時以外は、HTML 出力のページに影響を与えません。PAGESIZE= オプションに関する詳細は、“PAGESIZE= System Option” in *SAS System Options: Reference* を参照してください。

PARAMETERS= (*parameter-pair-1 ... parameter-pair-n*)

動的グラフィックス出力を生成するタグの間に指定されたパラメータを書き込みます。

parameter-pair

各パラメータの名称および値を指定します。*parameter-pair* は、次の形態を有します。

'*parameter-name*'= '*parameter-value*'

parameter-name

パラメータの名称です。

parameter-value

パラメータの値です。

Requirement: 引用符で *parameter-name* および *parameter-value* を囲まなければなりません。

Interaction: PARAMETERS= を SAS/GRAPH プロシジャおよび GOPTIONS ステートメントの DEVICE=JAVA、JAVAMETA、または ACTIVEX オプションと一緒に使用してください。

See: *SAS/GRAPH: Reference* グラフアプレット、マップアプレット、カンターアプレット、およびメタビューアプレット用に有効なパラメータ

PATH= '*aggregate-file-storage-specification*' | **ファイル参照** | *libref.catalog* (URL= '*Uniform-Resource-Locator*' | NONE)

累積保管場所のロケーションまたはすべてのマークアップファイル用の SAS カタログを指定します。GPATH= オプションが指定されていない場合、すべてのグラフィックスファイルは、“*aggregate-file-storage-specification*”または、**ライブラリ参照**に書き込まれます。

'*aggregate-file-storage-location*'

ディレクトリ、フォルダ、または分割されたデータセット等の累積保存ロケーションを指定します。

Requirement: 引用符で *aggregate-file-storage-location* を囲まなければなりません。

ファイル参照

累積保存ロケーションに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

Interaction: PATH= オプションのを使用した場合、ODS は、リンクを構築する際に PATH= からの情報を使用しません。

See: FILENAME ステートメントに関する詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS ステートメント: リファレンス*)を参照してください。

ライブラリ参照。 *catalog*

書き込む先の SAS カタログを指定します。

See: LIBNAME ステートメント に関する詳細は、“LIBNAME ステートメント” (*SAS ステートメント: リファレンス*)を参照してください。

URL= '*Uniform-Resource-Locator*' | NONE
file-specification の URL を指定します。

Uniform-Resource-Locator

指定した URL です。ODS は、ファイルに作成するすべてのリンクおよびリファレンスにおいて ファイル名ではなくこの URL を使用します。

NONE

リンクまたはリファレンスに GPATH=オプションからのいかなる情報が表示されないことを指定します。

Tip: このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは、single-name URL で構築しなければならず、コンテンツ、ページ、およびボディファイルは、同じロケーションになければなりません。

Interaction: BODY= または、FILE=外部ファイルオプションを PATH= オプションと一緒に使用した場合、外部ファイル仕様にパス情報を含めるべきではありません。

RECORD_SEPARATOR= '*alternative-separator*' | NONE

出力ファイルのラインを分離するために代替の文字または文字列を指定します。

異なる動作環境において、異なるセパレーター文字を使用します。レコードセパレーターを指定しない場合、SAS ジョブを起動する環境用にファイルをフォーマットします。しかし、異なるセパレーター文字を使用する異なる動作環境で閲覧するためにファイルを生成する場合、対象の環境に適切なレコードセパレータを指定できます。

alternative-separator

1またはそれ以上の文字を 16 進または ASCII フォーマットで表わします。例えば、次のオプションは、キャリッジリターン文字用のレコードセパレータ および ASCII ファイルシステムで使用するラインフィード文字を指定します。

```
RECORD_SEPARATOR= '0D0A'x
```

Operating Environment Information

メインフレーム環境において、次のオプションは、キャリッジリターン文字用のレコードセパレータ および ASCII ファイルシステムで使用するラインフィード文字を指定します。

```
RECORD_SEPARATOR= '0D25'x
```

Requirement: 引用符で *alternative-separator* を囲まなければなりません。

NONE

SAS ジョブを実行する環境に適切なマークアップ言語を作成します。

Windows Specifics

メインフレーム環境において、デフォルトで、ODS は、組み込み式レコードセパレーター文字を含むバイナリファイルを作成します。バイナリファイルは、ASCII ファイルのラインの長さ制限により制限されていません。しかし、テキストエディタのバイナリファイルを閲覧すると、ラインは一緒に実行されます。テキストエディタでファイルを読むことを可能にするためにファイルをフォーマットしたい場合、RECORD_SEPARATOR= NONE を使用してください。この場合、ODS は、一度に1行のマークアップ言語をファイルに書き込みます。NONE の値を使用する場合、書き込む先のファイルの論理的レコードの長さは、最低でも ODS が作成するラインの最長の長さでなければな

りません。ファイルの論理的レコードの長さが十分でない場合、マークアップ言語は、適切な場所でその他のラインにラップする可能性があります。

Aliases:

RECSEP=

RS=

STYLE= style-definition

出力ファイルを書く場合に使用するスタイル定義を指定します。

style-definition

SAS 出力の体裁特徴(色、フォントファース、フォントサイズ、等々)の表示方法を説明します。スタイル定義は、それを使用する文書の全体の体裁を決定します。各スタイル定義は、スタイル要素で構成されます。

Interaction: STYLE= オプションは、XML 出力を作成している場合は、無効となります。

See: スタイル定義に関する完全な討議は、13 章、“[TEMPLATE プロシジャ: スタイルテンプレートの作成](#)” on page 942 を参照してください。

Default: スタイル定義を指定しない場合は、ODS は、SAS レジストリのサブキー ODS ⇒ DESTINATIONS ⇒ MARKUP に指定されているファイルを使用します。この値は、デフォルトで、*Default* を指定します。

Interaction: ODS HTML4 ステートメントで STYLE= オプションを指定した場合、続いて、もう1つの ODS HTML4 ステートメントで新しいスタイル定義を使用するために PROC PRINT 出力が必要な場合、2番目のステートメントを指定する前に、最初のステートメントを終了してください。

STYLESHEET= 'file-specification' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、マークアップ出力用のスタイル情報を外部ファイルに配置、または既存のファイルからスタイルシート of 情報を読み込みます。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります。

- ODS markup-family-destination CLOSE ステートメント または ODS _ALL_ CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の 1 つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

Requirement: 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

See: FILENAME ステートメントに関する詳細は、“[FILENAME ステートメント](#)” (SAS ステートメント: リファレンス)を参照してください。

entry, markup

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

Interaction: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

サブオプション

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。次のサブオプションが利用可能です。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の CONTENTTYPE= on page 987 を参照してください。

Default: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

Restriction: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

Requirements:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

Alias: NOBOT

Requirements:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

Tip: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

See: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

Alias: NOTOP

Requirements:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

See: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR=オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

Requirements:

TITLE= を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

Tip: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されます。

Example: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” on page 443

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます。

Requirements:

URL='Uniform-Resource-Locator' を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

Tips:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

Example: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” on page 446

Note: デフォルトで、別のファイルに特に情報を送らない場合、スタイルシート情報は指定された HTML ファイルに含まれます。

Example: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” on page 446

TEXT=*text-string*

パラグラフのイベントをトリガーすることで文書にテキストを挿入し、VALUE イベント変数に割り当てられるテキストの文字列を指定します。

Default: デフォルトで、TEXT=オプションは、パラグラフイベントで使用されていません。

Tip: 次の構文を使用することで、EVENT= オプションを伴う TEXT= オプションを使って特定のイベント用の *text-string* を指定できます。

EVENT=*event-name* (TEXT=*text-string*)

See: イベントおよびイベント変数に関する詳細は、15 章、“TEMPLATE プロシジャ: マークアップ言語のタグセットの作成” on page 1166 を参照してください。

Example: “例: 出力オブジェクトを条件付きで除外し、別の出力先に送信する” on page 235

TRANTAB= '*translation-table*'

出力用のファイルをトランスコーディングする際に変換表を指定します。

See: TRANTAB= オプションに関する詳細は、“TRANTAB=システムオプション” (SAS 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド)を参照してください。

サブオプション

これらのオプションで使用できるサブオプションは次のとおりです。BODY= on page 122、CODE= on page 125、CONTENTS= on page 128、FRAME= on page 133、PAGE= on page 140 および STYLESHEET= on page 145

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE のを参照してください。CONTENTTYPE= on page 987

Default: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

Restriction: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

Requirements:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

Alias: NOBOT

Requirements:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

Tip: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

See: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

Alias: NOTOP

Requirements:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

See: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR=オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

Requirements:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

Tip: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されます。

Example: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” on page 443

(URL= 'Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

Requirements:

URL= 'Uniform-Resource-Locator' を括弧で囲まなければなりません。

Uniform-Resource-Locator を引用符で囲まなければなりません。

URL= 'Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

Tips:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

Example: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” on page 446

Details

ODS CHTML ステートメントは、ステートメントの ODS マークアップファミリーの一部です。マークアップファミリーの ODS ステートメントでは、HTML (Hypertext Markup Language)、XML (Extensible Markup Language) または LaTeX などのさまざまなマークアップ言語のいずれかを使用してフォーマットされた出力が生成されます。SAS 提供のマークアップ言語を指定するか、独自の言語を作成し、ユーザー定義のマークアップ言語として保存できます。

ODS CSVALL ステートメント

カンマ区切りのデータ値の列を含む HTML 出力とタイトル、注釈および署名欄の表形式出力を作成する CSVALL 出力先に対して開く、管理するまたは閉じる処理を行います。

該当要素: どこでも可能

カテゴリ: ODS: サードパーティフォーマット

構文

ODS CSVALL <(<ID=>識別子)> <操作>

ODS CSVALL <(<ID=>識別子)> <オプション(s)>;

オプション引数の要約

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送ります。

(ID= identifier)

同時に同出力先の複数のインスタンスを開いてください。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定してください。

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定してください。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入してください。

(URL='Uniform-Resource-Locator')

URL として *file-specification* の URL を指定してください。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます。

ANCHOR='anchor-name'

現行のボディファイルの各出力オブジェクトを識別するアンカータグに最適な独自のベース名を指定してください。

ARCHIVE='string'

ODS HTML 出力を閲覧するために使用するアプレットを指定してください。

ATTRIBUTES=(attribute-pair-1 ... attribute-pair-n)

動的なグラフィックス出力を生成するタグの間に書き込む属性を指定します。

BASE='base-text'

すべてのリンクの最初の部分として使用するテキストおよび出力ファイルにおいて ODS が作成したリファレンスを指定してください。

BODY='file-specification' (サブオプション)

マークアップファミリーの出力先を開き、ODS ステートメントにより作成された主な出力を含むファイルを指定してください。

CHARSET=character-set

HTML 出力用の META 宣言で生成される文字セットを指定してください。

CLOSE

出力先およびそれに関連するファイルを終了してください。

CODE='file-specification' <(サブオプション)>

HTML 出力先を開き、関連するスタイル情報を含むファイルを指定してください。

CODEBASE='string'

GOPTIONS デバイスが使用可能なファイルパスを作成してください。

CONTENTS='file-specification' <(サブオプション)>

HTML 出力先を開き、出力用の目次を含むファイルを指定してください。

CSSSTYLE='file-specification' <(media-type-1<...media-type-10)>

出力に適用するカスケードスタイルシートを指定してください。

ENCODING=local-character-set-encoding

入力用のエンコーディングまたは、外部ファイルの出力処理(トランスコード)をオーバーライドしてください。

EVENT=event-name (FILE= | FINISH | LABEL= | NAME= | START | STYLE= | TARGET= | TEXT= | URL=)

イベントおよびイベントに関連するイベント変数用の値を指定してください。

EXCLUDE 除外 | ALL | NONE

出力先から出力オブジェクトを除外してください。

FRAME='file-specification' <(サブオプション)>

目次、ページコンテンツ、およびボディファイルを統合するファイルを指定してください。

GFOOTNOTE | NOGFOOTNOTE

グラフィックス出力においてフットノートがプリントされるロケーションを制御してください。

GPATH= 'aggregate-file-storage-specification' | ファイル参照 | libref.catalog

(URL= 'Uniform-Resource-Locator' | NONE)

出力先が開いている間に生成されたすべてのグラフィックス出力のロケーションを指定してください。

GTITLE | NOGTITLE

グラフィック出力のタイトルがプリントされているロケーションを制御してください。

HEADTEXT= 'markup-document-head'

出力先が書き込むすべてのファイルのタグ< HEAD> および </HEAD> の間に配置する HTML タグを指定してください。

NEWFILE= starting-point

新しいボディファイルを指定された開始点に作成してください。

OPTIONS (DOC= | <サブオプション>)

tagset-specific サブオプションおよび名付けられた値を指定してください。

PACKAGE <package-name>

出力先からの出力を ODS パッケージに追加することを指定してください。

PAGE= 'file-specification' <(サブオプション)>

HTML 出力先を開き、ボディファイルの各ページの説明およびボディファイルへのリンクを含むファイルを指定してください。

PARAMETERS= (parameter-pair-1 ... parameter-pair-n)

動的グラフィックス出力を生成するタグの間に指定されたパラメータを書き込んでください。

PATH= 'aggregate-file-storage-specification' | ファイル参照 | libref.catalog (URL=

'Uniform-Resource-Locator' | NONE)

累積保管場所のロケーションまたはすべてのマークアップファイル用の SAS カタログを指定してください。

RECORD_SEPARATOR= 'alternative-separator' | NONE

出力ファイルのラインを分離するために代替りの文字または文字列を指定してください。

SELECT 選択 | ALL | NONE

出力先に出カオブジェクトを選択してください。

SHOW

SAS ログに出力先用の現行の選択または除外リストを書き込んでください。

STYLE= style-definition

出力ファイルを書く場合に使用するスタイル定義を指定してください。

STYLESHEET= 'file-specification' <(サブオプション)>

HTML の出力先を開き、出力用のスタイル情報を外部ファイルに配置、または既存のファイルからスタイルシートを読み込んでください。

TRANTAB= 'translation-table'

出力用のファイルをトランスコーディングする際に変換表を指定してください。

引数なし

操作やオプションを含まない ODS CSVALL ステートメントを使用した場合、ODS CSVALL ステートメントによって CSVALL 出力先が開かれ、CSVALL 出力が作成されます。

アクション

ODS CSVALL ステートメントでは、次の操作が利用可能です。

CLOSE

出力先およびそれに関連するファイルを終了します。プリンタの出力先の場合、出力先を終了するまでファイルをプリントできません。

ヒント: ODS 出力先が終了した場合、ODS は、その出力先に出力を送りません。不要な出力先を終了することで、システムリソースの節減します。

EXCLUDE 除外 ALL | NONE

出力先から1つまたはそれ以上の出力オブジェクトを除外します。

デフォルト: NONE

制限事項: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

参照項目: “ODS EXCLUDE ステートメント” (232 ページ)

SELECT 選択 ALL | NONE

指定された出力先用に出力オブジェクトを選択します。

デフォルト: ALL

制限事項: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

参照項目: “ODS SELECT ステートメント” (598 ページ)

SHOW

SAS ログに出力先用の現行の選択または除外リストを書き込みます。

制限事項: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

ヒント: 選択または除外リストがデフォルトのリスト(SELECT ALL)である場合、SHOW は、全体の選択または除外リストも書きます。選択または除外リストに関する詳細は、を“[選択リストと除外リスト](#)” (49 ページ)参照してください。

参照項目: “ODS SHOW ステートメント” (614 ページ)

オプション引数

ODS CSVALL ステートメントでは、次の操作が利用可能です。

ANCHOR= 'anchor-name'

現行のボディファイルの各出力オブジェクトを識別するアンカータグに最適な独自のベース名を指定します。

各出力オブジェクトは、参照するためにコンテンツ、ページ、およびフレームファイル用にアンカータグを持ちます。ODS により自動的に作成されたリンクとレファレンスは、アンカー名を指します。そのため、ファイルの各アンカー名は、固有名でなければなりません。

anchor-name

現行のボディファイルにおいて、各出力オブジェクトを識別するアンカータグのベース名です。

ODS は、指定した名称をインクリメントすることで独自のアンカー名を作成します。例えば、ANCHOR='TABULATE'を指定した場合、ODS は最初のアンカーに `tabulate` と名前を付けます。2番目のアンカー名が `tabulate1` で、3番目が `tabulate2`、と名称が続きます。

制限事項: ファイルのアンカー名は、ユニークでなければなりません。

要件 引用符で *anchor-name* を囲まなければなりません。

操作: 追加するためにファイルを開いた場合、ファイルに再度同じアンカーを書き込むことを防ぐために、新しいアンカー名を必ず指定してください。ODS は、ファイルを開いた際に、既にファイルに存在するアンカーは、識別しません。

ヒント:

プログラムのどこかにマークアップファミリーの ANCHOR=オプションを指定することで、アンカー名を変更できます。アンカー名を指定した後に、新しいものを指定するまで有効になります。

プログラムのさまざまなポイントに新しいアンカー名を指定することで、他のウェブページをマークアップ言語の出力の特定の箇所にリンクできるようになります。アンカー名が変更された箇所を制御できるため、それらのポイントにおけるアンカー名を事前に知ることができます。

ARCHIVE='string'

ODS HTML 出力を閲覧するために使用するアプレットを指定します。
ARCHIVE= オプションは、GOPTIONS java デバイス用にのみ有効です。

文字列は、ブラウザが認識できるものでなければなりません。例えば、アーカイブファイルが SAS で実行中のコンピューターに対してローカルな場合、ファイルを識別するために FILE プロトコルを使用できます。Web サーバーのアーカイブファイルを指したい場合、HTTP プロトコルを使用してください。

デフォルト: ARCHIVE=を指定せず、JAVA デバイスドライバを使用している場合、ODS は SAS システムオプションの値である APPLETOC=を使用します。
ACTIVEX デバイスドライバを使用している場合、デフォルトはありません。

要件:

引用符で *string* を囲まなければなりません。

ARCHIVE 属性は、Java 1.1 の機能です。そのため Java デバイスドライバを使用している場合、ブラウザは、この Java バージョンをサポートしていなければなりません。Internet Explorer 4.01 と Netscape 4.05 の両方が、Java 1.1 をサポートします。

操作: ARCHIVE= を SAS/GRAPH プロシジャと共に使用し、GOPTIONS ステートメントにおいて DEVICE=JAVA または DEVICE=ACTIVEX オプションを使用してください。

ヒント:

ODS HTML 出力を閲覧するための SAS/GRAPH アプレットを SAS サーバーが、自動的に判断するため、このオプションを通常使用してはいけません。しかし JAR ファイルの名称を変更した場合、または ODS HTML 出力を閲覧するためのその他のアプレットを有する場合、このオプションはこれらのアプレットにアクセス可能にします。

ファイルパスを指定するために、CODEBASE= オプションを使用してください。
ARCHIVE= オプションにファイルパスを置かないことが推奨されます。

APPLETOC= の値は、SAS システムと一緒に送られる Java アーカイブのローケーションを指します。オプションの値を知るために、Environment Control の下の Files フォルダの Options ウィンドウを参照するか、次のプロシジャステップを発行できます。

```
proc options option=appletloc;
run;
```

ATTRIBUTES= (attribute-pair-1 ... attribute-pair-n)

動的なグラフィックス出力を生成するタグの間に指定された属性を書き込みます。

attribute-pair

各属性の名称および値を指定します。*attribute-pair* は、次のフォームを有します。

'attribute-name'='attribute-value'

attribute-name
属性の名称です。

attribute-value
属性の値です。

要件 引用符で *attribute-name* と *attribute-value* を囲まなければなりません。

操作: ATTRIBUTES=オプションを SAS/GRAPH プロシジャ および GOPTIONS ステートメントの DEVICE=JAVA、JAVAMETA、または ACTIVEX オプションと一緒に使用してください。

参照項目: *SAS/GRAPH: Reference* グラフアプレット、マップアプレット、コンターアプレット、および MetaView アプレット用の有効な属性

BASE= 'base-text'

すべてのリンクの最初の部分として使用するテキストおよび出力ファイルにおいて ODS が作成したレファレンスを指定します。

base-text
ODS が、すべてのリンクの最初の部分として使用するテキストおよびファイルにおいて ODS が作成したレファレンスです。

次の仕様を考慮してください。

```
BASE= 'http://www.your-company.com/local-url/'
```

この場合、ODS は、`http://www.your-company.com/local-url/`文字列で始まるリンクを作成します。適切な *anchor-name* でリンクが完成します。

要件 引用符で *base-text* を囲まなければなりません。

BODY= 'file-specification' (サブオプション)

マークアップファミリーの出力先を開き ODS ステートメントにより作成された主な出力を含むファイルを指定してください。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態になります。。

- *ODS markup-family-destination* CLOSE ステートメントまたは ODS _ALL_ CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーステートメントを使用して、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification
書き込み先のファイル、ファイル参照、または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

external-file
書き込み先の外部ファイルの名称です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

制限事項: BODY=ファイル参照オプションは、NEWFILE= オプションと一緒に使用することはできません。

参照項目: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS ステートメント: リファレンス*)を参照してください。

エントリー。マークアップ

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

操作: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

(サブオプション)

カッコ内に1つまたはそれ以上のサブオプションを指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次のようになります。

(DYNAMIC)

ファイルに書き込むのではなく、出力をウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE で [CONTENTTYPE=\(987 ページ\)](#)を参照してください。

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を、括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を 括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加する場合、動作環境に対して適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_BOTTOM_MATTER サブオプションは、NO_TOP_MATTER サブオプションを伴うことで、既存のファイルに出力を追加することを可能にし、ファイルの出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置できます。

ODS が、過去に書き込んだファイルを開く場合、アンカー用に新しいベース名を指定するために ANCHOR= オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、マークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの先頭にどのような開始マークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

The NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR= オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE= を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されません。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

要件:

括弧で URL='Uniform-Resource-Locator' を囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをレファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

別名: FILE=

操作: ODS マークアップの出力先に言及する ODS マークアップファミリーステートメントの BODY= オプションを使用することにより、ODS に出力先および関連するすべてのファイルを終了した後、出力先の新しいインスタンスを開くことを強制します。詳細は、“MARKUP 出力先を開く/閉じる” (438 ページ)を参照してください。

注: いくつかの TAGSET= の値に対して、出力は HTML ファイルで、他の TAGSET= の値に対して、出力は XML ファイルなどになります。

CHARSET= *character-set*

HTML 出力用の META 宣言で生成される文字セットを指定します。

参照項目: 詳細は、“CHARSET=オプション” (*SAS 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド*)を参照してください。

CODE= '*file-specification*' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、XSL (Extensible Stylesheet Language)等の関連するスタイル情報を含むファイルを指定します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります。

- ODS *markup-family-destination* CLOSE ステートメント または ODS *_ALL_* CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

参照項目: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS ステートメント: リファレンス*)を参照してください。

entrymarkup

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

操作: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論も参照してください。

サブオプション

1つまたはそれ以上のサブオプション を括弧で指定します。サブオプション は、出力ファイルを書くための指示です。サブオプション は、次のようになります。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE= スタイル属性の値を設定しま

す。詳細は、PROC TEMPLATE の [CONTENTTYPE= \(987 ページ\)](#) を参照してください。

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、マークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR= オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されません。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

要件:

括弧で URL='Uniform-Resource-Locator'を囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator'は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME=オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

CODEBASE='string'

実行可能な Java アプレットまたは、ActiveX コントロールファイルのロケーションを指定します。*string* は、パス名または URL を指定します。使用される GOPTIONS により、CODEBASE ファイルパスには、2つの出力先があります。

JAVA および ActiveX デバイスドライバでウェブプレゼンテーションを生成した場合に、SAS は、JAVA アーカイブファイルを自動的に検索する HTML ページまたは、デフォルトインストールロケーションに ActiveX コントロールファイルを生成しません。

ActiveX デバイス用

ActiveX コントロールを含む出力を生成する際に ODS を伴う ActiveX デバイスドライバを使用する場合、ODS の CODEBASE= オプションを指定してください。CODEBASE=オプションの値は、ロケーションおよび EXE ファイルのバージョンを含むべきです。

ヒント: 出力を閲覧するユーザーがマシンに ActiveX コントロールをインストールしていない場合を除き DEVICE=ACTIVEX オプションで CODEBASE= オプションを指定する必要はありません。コントロールをインストールしていないユーザーが出力を閲覧する場合、コントロールをダウンロードすることを促されます。

参照項目: SAS/GRAPH: Reference CODEBASE= および ARCHIVE=オプションを使用したコントロールおよびアプレットのロケーションの指定に関する詳細は、次を参照してください。

Java デバイス用

SAS/GRAPH アプレットを含む出力を生成するために、デバイスドライバを使用する場合、ODS ステートメントの CODEBASE= オプションを使用して JAR ファイルへのパスを指定してください。

DEVICE=JAVA を指定した場合、出力を閲覧するユーザーは、適切な Java アプレットにアクセスを有する必要があります。SAS は、デフォルトで、SAS により自動的にインストールされたアプレット用の実行可能ファイルに言及するために、CODEBASE= 値を設定します。SAS Java アーカイブファイルのデフォルトのロケーションは、APPLETLOC= システムオプションにより指定されています。次の両条件を満たしている場合、CODEBASE=オプションを指定する必要はありません。

- デフォルトのロケーションは、ウェブプレゼンテーションを閲覧するユーザーにより、アクセス可能です。
- SAS Java アーカイブは、そのロケーションにインストールされています。

ヒント: JAR ファイルのディレクトリのみ指定してください。CODEBASE=ロケーションは、パス名または URL として指定できます。

参照項目: SAS/GRAPH: Reference CODEBASE= および ARCHIVE= オプションを使用したコントロールおよびアプレットファイルのロケーションの指定に関する詳細は、次を参照してください。

CONTENTS= 'file-specification' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、出力用の目次を含むファイルを指定します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります。:

- ODS *markup-family-destination* CLOSE ステートメントまたは ODS *_ALL_* CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

参照項目: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS* ステートメント: リファレンス)を参照してください。

entry.markup

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

操作: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

サブオプション

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次のようになります。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。この設定は、CONTENTTYPE= スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の CONTENTTYPE= (987 ページ)を参照してください。

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣、あるいは、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR= オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されません。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを目指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

要件:

URL='Uniform-Resource-Locator'を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

CSSSTYLE='file-specification'<(media-type-1<...media-type-10)>
出力に適用するカスケードスタイルシートを指定します。

file-specification

CSS コードを含むファイル、ファイル参照、または、URL を指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

"external-file"

外部ファイルの名称です。

要件 括弧で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルリファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

参照項目: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS* ステートメント: リファレンス)を参照してください。

"URL"

外部ファイルへの URL です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

(*media-type-1*< *media-type-10*>)

出力にレンダリングされるメディアの種類に対応する1つまたはそれ以上のメディアブロックを指定します。文書が、スクリーン、紙、スピーチシンセサイザー、点字装置、等々の異なるメディアにどのように提示されるか指定するために、CSS は、メディアタイプを使用します。

メディアブロックは、いかなるメディアブロックに含まれていないCSSコードを伴い出力に追加されます。*media-type* サブオプションを使用することで一般のCSSコードを伴い、特定のメディアタイプを対象とするCSSファイルの項目をインポートできます。

デフォルト: ODS ステートメントにいかなる *media-type* が指定されていないが、CSS ファイルにメディアタイプが指定されている場合、ODS は、Screen メディアタイプを使用します。

範囲: 異なる10個のメディアタイプを指定できます。

要件:

括弧で *media-type* を囲まなければなりません。

CSSSTYLE= オプションで指定された *file-specification* の隣に、*media-type* を指定しなければなりません。

ヒント: 複数のメディアタイプを指定した場合、出力にすべてのメディアタイプのすべてのスタイル情報が適用されます。しかし、異なるメディアブロックにおいて重複するスタイル情報が存在する場合、最後のメディアブロックのスタイルが使用されます。

制限事項: CSSSTYLE= オプションは、SAS/GRAPH 出力に影響を与えません。

要件 CSS ファイルは、ODS HTML ステートメントにより作成された CSS と同じ種類で書き込まなければなりません。ID や文脈ベースのセレクターの無いクラス名のみがサポートされます。ODS が作成する CSS コードを閲覧するには、次の内の1つを行ってください。

- STYLESHEET= オプションを指定してください。
- HTML ファイルのソースを閲覧して、ファイルの上部の < STYLE> </STYLE> タグの間のソースを閲覧してください。

有効な ODS CSS ファイルの例は、“[例 6: ODS 出力へ CSS ファイルの適用](#)” (448 ページ)を参照してください。

操作: STYLE= オプションおよび CSSSTYLE= オプションの両方が、ODS ステートメントに指定されている場合、最後に指定されたオプションが使用されます。

例: “[例 6: ODS 出力へ CSS ファイルの適用](#)” (448 ページ)

ENCODING= *local-character-set-encoding*

入力用のエンコーディングまたは、外部ファイルの出力処理(トランスコード)をオーバーライドします。

参照項目: ENCODING= オプションに関する詳細は、“ENCODING システムオプション: UNIX、Windows、および z/OS” (*SAS 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド*)次を参照してください。

EVENT= *event-name* (FILE= | FINISH | LABEL= | NAME= | START | STYLE= | TARGET= | TEXT= | URL=)

イベントおよびイベントに関連するイベント変数用の値を指定します。

(FILE= BODY | CODE | CONTENTS | DATA | FRAME | PAGES | STYLESHEET);

BODY=、CODE=、CONTENTS=、FRAME=、PAGES=、および STYLESHEET= オプションに対応する出力ファイルの既知の種類の中の1つをトリガーします。

(FINISH)

イベントの終了項目をトリガーします。

参照項目: 詳細は、“[イベントについて](#)” (1167 ページ)を参照してください。

(LABEL=*'variable-value'*)

LABEL イベント変数用の値を指定します。

要件 *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

参照項目: LABEL イベント変数に関する詳細は、“[イベント変数](#)” (1211 ページ)次を参照してください。

(NAME=*'variable-value'*)

NAME イベント変数用の値を指定します。

要件 *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

参照項目: NAME イベント変数に関する詳細は、“[イベント変数](#)” (1211 ページ)を参照してください。

(START)

イベントの開始項目をトリガーします。

参照項目: イベントに関する詳細は、“イベントについて” (1167 ページ)次を参照してください。

(STYLE=*style-element*)

スタイルエレメントを指定します。

参照項目: スタイルエレメントに関する詳細は、“スタイル属性の概要” (968 ページ)次を参照してください。

(TARGET=*variable-value*)

TARGET イベント変数用の値を指定します。

要件 *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

参照項目: TARGET イベント変数に関する詳細は、“イベント変数” (1211 ページ)次を参照してください。

(TEXT=*variable-value*)

TEXT イベント変数用の値を指定します。

要件 *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

参照項目: TEXT イベント変数に関する詳細は、“イベント変数” (1211 ページ)を参照してください。

(URL=*variable-value*)

URL イベント変数用の値を指定します。

要件 *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

参照項目: URL イベント変数に関する詳細は、“イベント変数” (1211 ページ)を参照してください。

デフォルト: (FILE='BODY')

要件 The EVENT= オプションのサブオプションを括弧で囲まなければなりません。

FRAME= '*file-specification*' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、HTML 出力用に、目次、ページコンテンツ、およびボディファイルを統合するファイルを指定します。フレームファイルを開くと目次、ページコンテンツ、またはその両方、およびボディファイルを閲覧できます。XML 出力用に、FRAME= は、DTD を含むファイルを指定します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります

- ODS *markup-family-destination* CLOSE ステートメント または ODS *_ALL_* CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

参照項目: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)次を参照してください。

entry.markup

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

操作: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

サブオプション(s)

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次の内の1つになります。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の [CONTENTTYPE= \(987 ページ\)](#) を参照してください。

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification*

BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: NO_BOTTOM_MATTER サブオプションおよび ANCHOR= オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されません。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます。

要件:

URL='Uniform-Resource-Locator' を括弧で囲まなければなりません。'

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをレファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

制限事項: FRAME=オプションを指定した場合、CONTENTS= オプション、PAGE= オプション、または両方を指定しなければなりません。

例: “例 2: XML ファイルと DTD の作成” (441 ページ)

GFOOTNOTE | NOGFOOTNOTE

グラフィックス出力においてフットノートがプリントされるロケーションを制御します。

GFOOTNOTE

SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたフットノートをプリントします。フットノートは、グラフのボーダー内に表示されます。

NOGFOOTNOTE

グラフのボーダー外に表示される ODS により作成されたフットノートをプリントします。

デフォルト: GFOOTNOTE

制限事項:

マークアップ言語により表示されるフットノートは、すべての SAS/GRAPH FOOTNOTE ステートメントオプションをサポートします。フォントは、ブラウザ用に有効でなければなりません。テキスト角度の仕様など ODS が扱えないオプションは無視されます。SAS/GRAPH FOOTNOTE ステートメントに関する詳細は、“FOOTNOTE Statement” in *SAS/GRAPH: Reference* を参照してください。

このオプションは、1つまたはそれ以上のデバイスベースのグラフィックスを作成する SAS プログラム または、SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたグラフィックスにのみ適用されます。

GPATH= 'aggregate-file-storage-specification' | **ファイル参照** | libref.catalog (URL= 'Uniform-Resource-Locator' | NONE)

出力先が開いている間に生成されたすべてのグラフィックス出力のロケーションを指定します。マークアップファイル用の PATH= オプションで指定されたものとは異なるロケーションにグラフィックス出力を書き込みたい場合にこのオプションを使用してください。無効なファイル名を指定した場合、ActiveX および Java デバイスはデフォルトのファイル名に出力を送ります。その他のデバイスはファイルをディレクトリとして作成して、そのディレクトリに出力を書き込みます。ODS が、カタログエントリおよび外部ファイルに名称を付ける方法に関する 詳細は、次を参照してください。 *SAS/GRAPH: Reference*

'aggregate-file-storage-location'

ディレクトリ、フォルダ、または分割されたデータセット等の累積保存ロケーションを指定します。

要件 引用符で *aggregate-file-storage-location* を囲まなければなりません。

ファイル参照

累積保存ロケーションに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメント を使用してください。

操作: GPATH= オプションにおいてファイル参照を指定した場合、ODS は、リンクを構築する際に、GPATH=オプションからの情報を使用しません。

参照項目: FILENAME ステートメントに関する詳細は、“FILENAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)次を参照してください。

ライブラリ参照. *catalog*

書き込む先の SAS カタログを指定します。

URL= 'Uniform-Resource-Locator' | NONE
file-specification の URL を指定します。

Uniform-Resource-Locator

指定した URL です。ODS は、ファイルに作成するすべてのリンクおよびレファレンスにおいてファイル名ではなくこの URL を使用します。

要件 引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

NONE

リンクまたはレファレンスに GPATH=オプションからのいかなる情報が表示されないことを指定します。

ヒント: このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツまたはページファイルからのリンクが簡単な URL (単一名)で構築されている場合、コンテンツ、ページ、およびボディファイルさえ同一のロケーションにあれば、それらは解決します。

デフォルト: GPATH= オプションを除外すると、ODS は、PATH= オプションにより指定されたロケーションにグラフィックスを保存します。PATH=オプションを指定しない場合、ODS は、グラフィックスを現行のディレクトリに保存します。詳細は、PATH= オプションを参照してください。

GTITLE | NOGTITLE

グラフィック出力のタイトルがプリントされているロケーションを制御します。

GTITLE

SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたフタイトルをプリントします。タイトルは、グラフボーダーの内部に表示されます。

NOGTITLE

グラフボーダーの外部に表示される ODS により作成されたタイトルをプリントします。

デフォルト: GTITLE

制限事項:

いかなるマークアップ言語のステートメントにより表示されるタイトルは、大部分の SAS/GRAPH TITLE ステートメントオプションをサポートします。フォントは、ブラウザ用に有効でなければなりません。テキスト角度の仕様など ODS が扱えないオプションは無視されます。SAS/GRAPH TITLE ステートメントに関する詳細は、TITLE ステートメントを参照してください。

このオプションは、1つまたはそれ以上のデバイススペースのグラフィックスを作成する SAS プログラム または、SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたグラフィックスにのみ適用されます。

HEADTEXT= 'markup-document-head'

出力先が書き込むすべてのファイルのタグ < HEAD> および < /HEAD> の間に配置する HTML タグを指定します。

markup-document-head

< HEAD> および < /HEAD>の間に配置するマークアップタグを指定します。

制限事項: HEADTEXT= は、256 文字を超えてはなりません。

要件 *markup-document-head* を引用符で囲まなければなりません。

ヒント:

ODS は、提供するマークアップを解析できません。それは、<HEAD>および </HEAD>タグとの関連で、well-formed マークアップでなければなりません。

後で、ファイルで使用できるプログラム(JavaScript) 等を定義するために HEADTEXT=オプションを使用してください。

(ID= identifier)

同時に同出力先の複数のインスタンスの実行を可能にします。各インスタンスは、異なるオプションを有します。

identifier

既にかかれた出力先のもう1つのインスタンスを指定します。*identifier* は、文字または、アンダーラインで始まる数字または連続した文字です。後続の文字は、文字、アンダーライン、および数字を含むことができます。

制限事項: もし *identifier* が数値の場合、正の整数にする必要があります。

要件 ID= オプションは、ODS *MARKUP/TAGSET* ステートメントキーワードの直後に指定しなければなりません。

ヒント: ID= オプションを除外し、インスタンスを識別するために代わりに名前または数字を使用できます。

例: “例: 同時に同じ出力先のインスタンスを複数開く” (499 ページ)

NEWFILE= starting-point

新しいボディファイルを指定された *starting-point* に作成します。

starting-point

新しいボディファイルを作成するのに適した出力のロケーションです。

ODS は、ボディファイル名をインクリメントすることで自動的に新しいファイル名を付けます。次の例で、ODS は、初めのボディファイルの名付けます。

REPORT.XML 追加のボディファイルが名付けられます。REPORT1.XML, REPORT2.XML, 等

例

```
BODY= 'REPORT.XML'
```

starting-point は、次の内の1つです。

BYGROUP

各 BY グループの結果用に新たなファイルを開始します。

NONE

現在開かれているボディファイルにすべての出力を書き込みます。

OUTPUT

各出力オブジェクト用に新たなファイルを開始します。SAS/GRAPH に対して、これは、ODS がプログラムが生成した各 SAS/GRAPH 出力ファイル用に新たなファイルを作成することを意味します。

別名: TABLE

PAGE

出力の各ページ用に新たなボディファイルを開始します。改ページは、手順が明示的に新たなページを開始(ページのサイズが足りないからではなく)または、新たなプロシジャを開始する時点で発生します。

PROC

新たな手順を開始する度に新たなボディファイルを開始します。

デフォルト: NONE

制限事項: NEWFILE= オプションは、BODY=ファイル参照 オプションと一緒に使用できません。

ヒント:

ファイル名を数字で終了した場合、ODS はその数字の増加を開始します。次の例で、ODS は、最初のボディファイル *MAY5.XML* の名付けをします。追加のボディファイル名は、*MAY6.XML*、*MAY7.XML*、等となります。

例

```
BODY= 'MAY5.XML'
```

OPTIONS (DOC= |<サブオプション>)

tagset-specific サブオプションおよび名付けられた値を指定します。

(DOC= 'HELP' | 'QUICK' | 'SETTINGS' | 'CHANGELOG')

指定されたタグセットについての情報を提供します。

HELP

簡易参照で、一般的なヘルプおよび情報を提供します。

QUICK

このタグセットで利用可能なオプションを説明します。

SETTINGS

現行のオプション設定を提供します。

CHANGELOG

タグセットへの変更履歴をリストします。このサブオプションは、RTF タグセットにおいてのみサポートされています。

要件 すべての値は、引用符で囲まなければなりません。

サブオプション(s)

指定されたタグセットに有効な1つまたはそれ以上のサブオプションを指定します。サブオプションは、次のフォーマットを有します。

keyword='value'

タグセット用のサブオプションの情報を得るために、ODS タグセットステートメントを開く時、または出力先が開かれないかなる時に、次のオプションの内の1つを指定してください。

- オプション (doc='help');
- オプション (doc='quick');
- オプション (doc='settings');

要件 OPTION サブオプションを括弧で囲まなければなりません。

例: “例: ODS TAGSETS.HTMLPANEL 情報を得るために DOC サブオプションを使用。” (651 ページ)

PACKAGE <package-name>

出力先からの出力を ODS パッケージに追加することを指定します。

package-name

ODS PACKAGE ステートメントで作成されたパッケージの名称を指定します。指定された名称が無い場合、出力は最後に開かれた名称の付けられていないパッケージに追加されます。

参照項目: “ODS PACKAGE ステートメント” (469 ページ)

例: “例 1: ODS パッケージの作成” (473 ページ)

PAGE= 'file-specification' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、ボディファイルの各ページの説明およびボディファイルへのリンクを含むファイルを指定します。ODS は、手順が新たなページを要求した際に、出力の新しいページを作成します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります

- *ODS markup-family-destination* CLOSE ステートメントまたは *ODS _ALL_* CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の 1 つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイル参照です。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

参照項目: FILENAME ステートメントに関する詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS ステートメント: リファレンス*)次を参照してください。

入力。マークアップ

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

操作: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

サブオプション

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次のようになります。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の [CONTENTTYPE= \(987 ページ\)](#)を参照してください。

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: The NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR= option

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されません。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます。

要件:

URL='Uniform-Resource-Locator'を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

操作: SAS システムオプションの PAGESIZE=は、バッチ出力を作成する時以外は、HTML 出力のページに影響を与えません。PAGESIZE= オプションに関する詳細は、“PAGESIZE= System Option” in *SAS System Options: Reference* を参照してください。

PARAMETERS= (*parameter-pair-1 ... parameter-pair-n*)

動的グラフィックス出力を生成するタグの間に指定されたパラメータを書き込みます。

parameter-pair

各パラメータの名称および値を指定します。*parameter-pair* は、次の形態を有します。

'parameter-name'='parameter-value'

parameter-name

パラメータの名称です。

parameter-value

パラメータの値です。

要件 引用符で *parameter-name* および *parameter-value* を囲まなければなりません。

操作: PARAMETERS=を SAS/GRAPH プロシジャおよび GOPTIONS ステートメントの DEVICE=JAVA、JAVAMETA、または ACTIVEX オプションと一緒に使用してください。

参照項目: SAS/GRAPH: Reference グラフアプレット、マップアプレット、カンターアプレット、およびメタビューアプレット用に有効なパラメータ

PATH= 'aggregate-file-storage-specification' | **ファイル参照** | libref.catalog (URL= 'Uniform-Resource-Locator' | NONE)

累積保管場所のロケーションまたはすべてのマークアップファイル用の SAS カタログを指定します。GPATH= オプションが指定されていない場合、すべてのグラフィックスファイルは、“aggregate-file-storage-specification”または、**ライブラリ参照**に書き込まれます。

'aggregate-file-storage-location'

ディレクトリ、フォルダ、または分割されたデータセット等の累積保存ロケーションを指定します。

要件 引用符で aggregate-file-storage-location を囲まなければなりません。

ファイル参照

累積保存ロケーションに割り当てられたファイル参照です。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

操作: PATH= オプションのを使用した場合、ODS は、リンクを構築する際に PATH= からの情報を使用しません。

参照項目: FILENAME ステートメントに関する詳細は、“FILENAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)を参照してください。

ライブラリ参照. catalog

書き込む先の SAS カタログを指定します。

参照項目: LIBNAME ステートメントに関する詳細は、“LIBNAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)を参照してください。

URL= 'Uniform-Resource-Locator' | NONE

file-specification の URL を指定します。

Uniform-Resource-Locator

指定した URL です。ODS は、ファイルに作成するすべてのリンクおよびリファレンスにおいてファイル名ではなくこの URL を使用します。

NONE

リンクまたはリファレンスに GPATH=オプションからのいかなる情報が表示されないことを指定します。

ヒント: このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは、single-name URL で構築しなければならず、コンテンツ、ページ、およびボディファイルは、同じロケーションになければなりません。

操作: BODY= または、FILE=外部ファイルオプションを PATH= オプションと一緒に使用した場合、外部ファイル仕様にパス情報を含めるべきではありません。

RECORD_SEPARATOR= 'alternative-separator' | NONE

出力ファイルのラインを分離するために代替の文字または文字列を指定します。

異なる動作環境において、異なるセパレーター文字を使用します。レコードセパレーターを指定しない場合、SAS ジョブを起動する環境用にファイルをフォーマットします。しかし、異なるセパレーター文字を使用する異なる動作環境で閲覧するためにファイルを生成する場合、対象の環境に適切なレコードセパレータを指定できません。

alternative-separator

1 またはそれ以上の文字を 16 進または ASCII フォーマットで表わします。例えば、次のオプションは、キャリッジリターン文字用のレコードセパレータ および ASCII ファイルシステムで使用するラインフィード文字を指定します。

```
RECORD_SEPARATOR= '0D0A'x
```

動作環境の情報

メインフレーム環境において、次のオプションは、キャリッジリターン文字用のレコードセパレータ および ASCII ファイルシステムで使用するラインフィード文字を指定します。

```
RECORD_SEPARATOR= '0D25'x
```

要件 引用符で *alternative-separator* を囲まなければなりません。

NONE

SAS ジョブを実行する環境に適切なマークアップ言語を作成します。

Windows 固有

メインフレーム環境において、デフォルトで、ODS は、組み込み式レコードセパレータ文字を含むバイナリファイルを作成します。バイナリファイルは、ASCII ファイルのラインの長さ制限により制限されていません。しかし、テキストデータのバイナリファイルを開くと、ラインは一緒に実行されます。テキストデータでファイルを読むことを可能にするためにファイルをフォーマットしたい場合、RECORD_SEPARATOR= NONE を使用してください。この場合、ODS は、一度に1行のマークアップ言語をファイルに書き込みます。NONE の値を使用する場合、書き込む先のファイルの論理的レコードの長さは、最低でも ODS が作成するラインの最長の長さでなければなりません。ファイルの論理的レコードの長さが十分でない場合、マークアップ言語は、適切な場所でその他のラインにラップする可能性があります。

別名:

RECSEP=

RS=

STYLE= style-definition

出力ファイルを書く場合に使用するスタイル定義を指定します。

style-definition

SAS 出力の体裁特徴(色、フォントファース、フォントサイズ、等々)の表示方法を説明します。スタイル定義は、それを使用する文書の全体の体裁を決定します。各スタイル定義は、スタイル要素で構成されます。

操作: STYLE= オプションは、XML 出力を作成している場合は、無効となります。

参照項目: スタイル定義に関する完全な討議は、13 章、“[TEMPLATE プロシジャ: スタイルテンプレートの作成](#)” (942 ページ)を参照してください。

デフォルト: スタイル定義を指定しない場合は、ODS は、SAS レジストリのサブキー ODS ⇒ DESTINATIONS ⇒ MARKUP に指定されているファイルを使用します。この値は、デフォルトで、*Default* を指定します。

操作: ODS HTML4 ステートメントで STYLE= オプションを指定した場合、続いて、もう1つの ODS HTML4 ステートメントで新しいスタイル定義を使用するために PROC PRINT 出力が必要な場合、2番目のステートメントを指定する前に、最初のステートメントを終了してください。

STYLESHEET= 'file-specification' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、マークアップ出力用のスタイル情報を外部ファイルに配置、または既存のファイルからスタイルシートの情報を読み込みます。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります。

- *ODS markup-family-destination* CLOSE ステートメント または *ODS _ALL_* CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の 1 つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

参照項目: FILENAME ステートメントに関する詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS ステートメント: リファレンス*)を参照してください。

entry.markup

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

操作: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

サブオプション

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。次のサブオプションが利用可能です。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の [CONTENTTYPE= \(987 ページ\)](#)を参照してください。

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR=オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE= を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されません。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

要件:

URL='Uniform-Resource-Locator' を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

注: デフォルトで、別のファイルに特に情報を送らない場合、スタイルシート情報は指定された HTML ファイルに含まれます。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

TRANTAB='translation-table'

出力用のファイルをトランスコーディングする際に変換表を指定します。

参照項目: TRANTAB= オプションに関する詳細は、“TRANTAB=システムオプション” (*SAS 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド*)を参照してください。

サブオプション

これらのオプションで使用できるサブオプションは次のとおりです。BODY= (155 ページ)、CODE= (158 ページ)、CONTENTS= (161 ページ)、FRAME= (166 ページ)、PAGE= (173 ページ)、STYLESHEET= (177 ページ)。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE のを参照してください。CONTENTTYPE= (987 ページ)

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=

- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR=オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されます。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

要件:

URL='Uniform-Resource-Locator' を括弧で囲まなければなりません。

Uniform-Resource-Locator を引用符で囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

詳細

ODS CSVALL ステートメントは、ステートメントの ODS マークアップファミリの一部です。マークアップファミリ内の ODS ステートメントによってマークアップ出力先が開かれ、さまざまなマークアップ言語のいずれかを使用してフォーマットした出力が生成されます。サポートされるマークアップ言語には、HTML (Hypertext Markup Language)、XML (Extensible Markup Language) および LaTeX が含まれます。SAS 提供のマークアップ言語を指定するか、独自の言語を作成し、ユーザー定義のマークアップ言語として保存できます。

ODS DECIMAL_ALIGN ステートメント

両端揃えが指定されていない場合、数値列の両端揃えを制御します。

該当要素: 任意の場所

カテゴリ:	ODS: SAS フォーマット
デフォルト:	ODS NO_DECIMAL_ALIGN
操作:	ODS DECIMAL_ALIGN ステートメントによって影響を受けるのは、RTF 出力先と出力先のプリンタファミリーのみです。
参照項目:	“テーブル列の値と位置調整法” (1122 ページ)

構文

ODS DECIMAL_ALIGN;
ODS NO_DECIMAL_ALIGN;

必須引数

ODS DECIMAL_ALIGN
 両端揃えが指定されていない場合、数値列の小数点ごとに値の位置を揃えます。
 別名: ODS DECIMAL_ALIGN=YES

ODS NO_DECIMAL_ALIGN
 両端揃えが指定されていない場合、数値列を右揃えにします。
 別名: ODS DECIMAL_ALIGN=NO

詳細

プロシジャまたは列定義から両端揃えを割り当てられる列は、ODS DECIMAL_ALIGN ステートメントによってまったく影響を受けません。

ODS DOCBOOK ステートメント

OASIS の DocBook DTD に準拠する XML 出力を作成する DOCBOOK 出力先に対して開いたり、管理または閉じたりします。

該当要素:	任意の場所
カテゴリ:	ODS: サードパーティフォーマット

構文

ODS DOCBOOK <(<ID=>識別子)> <アクション>;
ODS DOCBOOK <(<ID=>識別子)> <オプション>;

オプション引数の要約

(DYNAMIC)
 出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送ります。

(ID= identifier)
 同時に同出力先の複数のインスタンスを開いてください。

(NO_BOTTOM_MATTER)
 出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定してください。

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定してください。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入してください。

(URL='Uniform-Resource-Locator')

URL として *file-specification* の URL を指定してください。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます。

ANCHOR='anchor-name'

現行のボディファイルの各出力オブジェクトを識別するアンカータグに最適な独自のベース名を指定してください。

ARCHIVE='string'

ODS HTML 出力を閲覧するために使用するアプレットを指定してください。

ATTRIBUTES=(attribute-pair-1 ... attribute-pair-n)

動的なグラフィックス出力を生成するタグの間に書き込む属性を指定します。

BASE='base-text'

すべてのリンクの最初の部分として使用するテキストおよび出力ファイルにおいて ODS が作成したリファレンスを指定してください。

BODY='file-specification' (サブオプション)

マークアップファミリーの出力先を開き、ODS ステートメントにより作成された主な出力を含むファイルを指定してください。

CHARSET= character-set

HTML 出力用の META 宣言で生成される文字セットを指定してください。

CLOSE

出力先およびそれに関連するファイルを終了してください。

CODE='file-specification' <(サブオプション)>

HTML 出力先を開き、関連するスタイル情報を含むファイルを指定してください。

CODEBASE='string'

GOPTIONS デバイスが使用可能なファイルパスを作成してください。

CONTENTS='file-specification' <(サブオプション)>

HTML 出力先を開き、出力用の目次を含むファイルを指定してください。

CSSSTYLE='file-specification'<(media-type-1<...media-type-10)>>

出力に適用するカスケードスタイルシートを指定してください。

ENCODING= local-character-set-encoding

入力用のエンコーディングまたは、外部ファイルの出力処理(トランスコード)をオーバーライドしてください。

EVENT=event-name (FILE= | FINISH | LABEL= | NAME= | START | STYLE= | TARGET= | TEXT= | URL=)

イベントおよびイベントに関連するイベント変数用の値を指定してください。

EXCLUDE 除外 | ALL | NONE

出力先から出力オブジェクトを除外してください。

FRAME='file-specification' <(サブオプション)>

目次、ページコンテンツ、およびボディファイルを統合するファイルを指定してください。

GFOOTNOTE | NOGFOOTNOTE

グラフィックス出力においてフットノートがプリントされるロケーションを制御してください。

GPATH= *'aggregate-file-storage-specification'* | [ファイル参照](#) | *libref.catalog*
 (URL= *'Uniform-Resource-Locator'* | NONE)
 出力先が開いている間に生成されたすべてのグラフィックス出力のロケーションを指定してください。

GTITLE | **NOGTITLE**
 グラフィック出力のタイトルがプリントされているロケーションを制御してください。

HEADTEXT= *'markup-document-head'*
 出力先が書き込むすべてのファイルのタグ< HEAD> および </HEAD> の間に配置する HTML タグを指定してください。

METATEXT= *'metatext-for-document-head'*
 <META><>の間、HEAD>HEAD>および<HEAD>出力先が書き込む先のすべてのファイルのタグとして使用する HTML コードを指定してください。

NEWFILE= *starting-point*
 新しいボディファイルを指定された開始点に作成してください。

OPTIONS (DOC= | <*サブオプション*>)
 tagset-specific サブオプションおよび名付けられた値を指定してください。

PACKAGE <*package-name*>
 出力先からの出力を ODS パッケージに追加することを指定してください。

PAGE= *'file-specification'* <(*サブオプション*)>
 HTML 出力先を開き、ボディファイルの各ページの説明およびボディファイルへのリンクを含むファイルを指定してください。

PARAMETERS= (*parameter-pair-1 ... parameter-pair-n*)
 動的グラフィックス出力を生成するタグの間に指定されたパラメータを書き込んでください。

PATH= *'aggregate-file-storage-specification'* | [ファイル参照](#) | *libref.catalog* (URL= *'Uniform-Resource-Locator'* | NONE)
 累積保管場所のロケーションまたはすべてのマークアップファイル用の SAS カタログを指定してください。

RECORD_SEPARATOR= *'alternative-separator'* | NONE
 出力ファイルのラインを分離するために代替の文字または文字列を指定してください。

SELECT [選択](#) | ALL | NONE
 出力先用に出力オブジェクトを選択してください。

SHOW
 SAS ログに出力先用の現行の選択または除外リストを書き込んでください。

STYLE= *style-definition*
 出力ファイルを書く場合に使用するスタイル定義を指定してください。

STYLESHEET= *'file-specification'* <(*サブオプション*)>
 HTML の出力先を開き、出力用のスタイル情報を外部ファイルに配置、または既存のファイルからスタイルシートの情報を読み込んでください。

TEXT=*text-string*
 文書にテキストを挿入してください。

TRANTAB= *'translation-table'*
 出力用のファイルをトランスコーディングする際に変換表を指定してください。

引数なし

操作やオプションを含まない ODS DOCBOOK ステートメントを使用した場合、ODS DOCBOOK ステートメントによって DOCBOOK の出力先が開かれ、XML 出力が作成されます。

アクション

ODS DOCBOOK ステートメントでは、次の操作が利用可能です。

CLOSE

出力先およびそれに関連するファイルを終了します。プリンタの出力先の場合、出力先を終了するまでファイルをプリントできません。

ヒント: ODS 出力先が終了した場合、ODS は、その出力先に出力を送りません。不要な出力先を終了することで、システムリソースの節減します。

EXCLUDE 除外 | ALL | NONE

出力先から1つまたはそれ以上の出力オブジェクトを除外します。

デフォルト: NONE

制限事項: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

参照項目: “ODS EXCLUDE ステートメント” (232 ページ)

SELECT 選択 | ALL | NONE

指定された出力先用に出力オブジェクトを選択します。

デフォルト: ALL

制限事項: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

参照項目: “ODS SELECT ステートメント” (598 ページ)

SHOW

SAS ログに出力先用の現行の選択または除外リストを書き込みます。

制限事項: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

ヒント: 選択または除外リストがデフォルトのリスト(SELECT ALL)である場合、SHOW は、全体の選択または除外リストも書きます。選択または除外リストに関する詳細は、を “選択リストと除外リスト” (49 ページ)参照してください。

参照項目: “ODS SHOW ステートメント” (614 ページ)

オプション引数**ANCHOR= 'anchor-name'**

現行のボディファイルの各出力オブジェクトを識別するアンカータグに最適な独自のベース名を指定します。

各出力オブジェクトは、参照するためにコンテンツ、ページ、およびフレームファイル用にアンカータグを持ちます。ODS により自動的に作成されたリンクとレファレンスは、アンカー名を指します。そのため、ファイルの各アンカー名は、固有名でなければなりません。

anchor-name

現行のボディファイルにおいて、各出力オブジェクトを識別するアンカータグのベース名です。

ODS は、指定した名称をインクリメントすることで独自のアンカー名を作成します。例えば、ANCHOR='TABULATE'を指定した場合、ODS は最初のアンカーに tabulate と名前を付けます。2番目のアンカー名が tabulate1 で、3番目が tabulate2、と名称が続きます。

制限事項: ファイルのアンカー名は、ユニークでなければなりません。

要件 引用符で anchor-name を囲まなければなりません。

操作: 追加するためにファイルを開いた場合、ファイルに再度同じアンカーを書き込むことを防ぐために、新しいアンカー名を必ず指定してください。ODS は、ファイルを開いた際に、既にファイルに存在するアンカーは、識別しません。

ヒント:

プログラムのどこかにマークアップファミリーの ANCHOR=オプションを指定することで、アンカー名を変更できます。アンカー名を指定した後に、新しいものを指定するまで有効になります。

プログラムのさまざまなポイントに新しいアンカー名を指定することで、他のウェブページをマークアップ言語の出力の特定の箇所へリンクできるようになります。アンカー名が変更された箇所を制御できるため、それらのポイントにおけるアンカー名を事前に知ることができます。

ARCHIVE='string'

ODS HTML 出力を閲覧するために使用するアプレットを指定します。
ARCHIVE= オプションは、GOPTIONS java デバイス用にのみ有効です。

文字列は、ブラウザが認識できるものでなければなりません。例えば、アーカイブファイルが SAS で実行中のコンピューターに対してローカルな場合、ファイルを識別するために FILE プロトコルを使用できます。Web サーバーのアーカイブファイルを指したい場合、HTTP プロトコルを使用してください。

デフォルト: ARCHIVE=を指定せず、JAVA デバイスドライバを使用している場合、ODS は SAS システムオプションの値である APPLETOC=を使用します。ACTIVEX デバイスドライバを使用している場合、デフォルトはありません。

要件:

引用符で *string* を囲まなければなりません。

ARCHIVE 属性は、Java 1.1 の機能です。そのため Java デバイスドライバを使用している場合、ブラウザは、この Java バージョンをサポートしていなければなりません。Internet Explorer 4.01 と Netscape 4.05 の両方が、Java 1.1 をサポートします。

操作: ARCHIVE= を SAS/GRAPH プロシジャと共に使用し、GOPTIONS ステートメントにおいて DEVICE=JAVA または DEVICE=ACTIVEX オプションを使用してください。

ヒント:

ODS HTML 出力を閲覧するための SAS/GRAPH アプレットを SAS サーバーが、自動的に判断するため、このオプションを通常使用してはいけません。しかし JAR ファイルの名称を変更した場合、または ODS HTML 出力を閲覧するためのその他のアプレットを有する場合、このオプションはこれらのアプレットにアクセス可能にします。

ファイルパスを指定するために、CODEBASE= オプションを使用してください。ARCHIVE= オプションにファイルパスを置かないことが推奨されます。

APPLETOC= の値は、SAS システムと一緒に送られる Java アーカイブのローケーションを指します。オプションの値を知るために、Environment Control の下の Files フォルダの Options ウィンドウを参照するか、次のプロシジャステップを発行できます。

```
proc options option=appletloc;
run;
```

ATTRIBUTES= (attribute-pair-1 ... attribute-pair-n)

動的なグラフィックス出力を生成するタグの間に指定された属性を書き込みます。

attribute-pair

各属性の名称および値を指定します。*attribute-pair* は、次のフォームを有します。

```
'attribute-name'='attribute-value'
```

attribute-name
属性の名称です。

attribute-value
属性の値です。

要件 引用符で *attribute-name* と *attribute-value* を囲まなければなりません。

操作: ATTRIBUTES=オプションを SAS/GRAPH プロシジャ および GOPTIONS ステートメントの DEVICE=JAVA、JAVAMETA、または ACTIVEX オプションと一緒に使用してください。

参照項目: *SAS/GRAPH: Reference* グラフアプレット、マップアプレット、コンターアプレット、および MetaView アプレット用の有効な属性

BASE= 'base-text'

すべてのリンクの最初の部分として使用するテキストおよび出力ファイルにおいて ODS が作成したレファレンスを指定します。

base-text
ODS が、すべてのリンクの最初の部分として使用するテキストおよびファイルにおいて ODS が作成したレファレンスです。

次の仕様を考慮してください。

```
BASE= 'http://www.your-company.com/local-url/'
```

この場合、ODS は、`http://www.your-company.com/local-url/`文字列で始まるリンクを作成します。適切な *anchor-name* でリンクが完成します。

要件 引用符で *base-text* を囲まなければなりません。

BODY= 'file-specification' (サブオプション)

マークアップファミリーの出力先を開き ODS ステートメントにより作成された主な出力を含むファイルを指定してください。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態になります。。

- *ODS markup-family-destination* CLOSE ステートメントまたは *ODS _ALL_* CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーステートメントを使用して、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification
書き込み先のファイル、ファイル参照、または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

external-file
書き込み先の外部ファイルの名称です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

制限事項: BODY=ファイル参照オプションは、NEWFILE= オプションと一緒に使用することはできません。

参照項目: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS* ステートメント: リファレンス)を参照してください。

エントリー。マークアップ

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

操作: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

(サブオプション)

カッコ内に1つまたはそれ以上のサブオプションを指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次のようになります。

(DYNAMIC)

ファイルに書き込むのではなく、出力をウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE で [CONTENTTYPE=\(987 ページ\)](#)を参照してください。

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を、括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を 括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加する場合、動作環境に対して適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_BOTTOM_MATTER サブオプションは、NO_TOP_MATTER サブオプションを伴うことで、既存のファイルに出力を追加することを可能にし、ファイルの出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置できます。

ODS が、過去に書き込んだファイルを開く場合、アンカー用に新しいベース名を指定するために ANCHOR= オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、マークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの先頭にどのような開始マークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

The NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR= オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE= を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されません。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

要件:

括弧で URL='Uniform-Resource-Locator' を囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをレファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

別名: FILE=

操作: ODS マークアップの出力先に言及する ODS マークアップファミリーステートメントの BODY= オプションを使用することにより、ODS に出力先および関連するすべてのファイルを終了した後、出力先の新しいインスタンスを開くことを強制します。詳細は、“MARKUP 出力先を開く/閉じる” (438 ページ)を参照してください。

注: いくつかの TAGSET= の値に対して、出力は HTML ファイルで、他の TAGSET= の値に対して、出力は XML ファイルなどになります。

CHARSET= *character-set*

HTML 出力用の META 宣言で生成される文字セットを指定します。

参照項目: 詳細は、“CHARSET=オプション” (SAS 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド)を参照してください。

CODE= '*file-specification*' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、XSL (Extensible Stylesheet Language)等の関連するスタイル情報を含むファイルを指定します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります。

- ODS *markup-family-destination* CLOSE ステートメント または ODS *_ALL_* CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

参照項目: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)を参照してください。

entrymarkup

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

操作: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論も参照してください。

サブオプション

1つまたはそれ以上のサブオプション を括弧で指定します。サブオプション は、出力ファイルを書くための指示です。サブオプション は、次のようになります。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE= スタイル属性の値を設定しま

す。詳細は、PROC TEMPLATE の [CONTENTTYPE= \(987 ページ\)](#)を参照してください。

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、マークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR= オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されません。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

要件:

括弧で URL='Uniform-Resource-Locator'を囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator'は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME=オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

CODEBASE='string'

実行可能な Java アプレットまたは、ActiveX コントロールファイルのロケーションを指定します。*string* は、パス名または URL を指定します。使用される GOPTIONS により、CODEBASE ファイルパスには、2つの出力先があります。

JAVA および ActiveX デバイスドライバでウェブプレゼンテーションを生成した場合に、SAS は、JAVA アーカイブファイルを自動的に検索する HTML ページまたは、デフォルトインストールロケーションに ActiveX コントロールファイルを生成しません。

ActiveX デバイス用

ActiveX コントロールを含む出力を生成する際に ODS を伴う ActiveX デバイスドライバを使用する場合、ODS の CODEBASE= オプションを指定してください。CODEBASE=オプションの値は、ロケーションおよび EXE ファイルのバージョンを含むべきです。

ヒント: 出力を閲覧するユーザーがマシンに ActiveX コントロールをインストールしていない場合を除き DEVICE=ACTIVEX オプションで CODEBASE= オプションを指定する必要はありません。コントロールをインストールしていないユーザーが出力を閲覧する場合、コントロールをダウンロードすることを促されます。

参照項目: SAS/GRAPH: Reference CODEBASE= および ARCHIVE=オプションを使用したコントロールおよびアプレットのロケーションの指定に関する詳細は、次を参照してください。

Java デバイス用

SAS/GRAPH アプレットを含む出力を生成するために、デバイスドライバを使用する場合、ODS ステートメントの CODEBASE= オプションを使用して JAR ファイルへのパスを指定してください。

DEVICE=JAVA を指定した場合、出力を閲覧するユーザーは、適切な Java アプレットにアクセスを有する必要があります。SAS は、デフォルトで、SAS により自動的にインストールされたアプレット用の実行可能ファイルに言及するために、CODEBASE= 値を設定します。SAS Java アーカイブファイルのデフォルトのロケーションは、APPLETLOC= システムオプションにより指定されています。次の両条件を満たしている場合、CODEBASE=オプションを指定する必要はありません。

- デフォルトのロケーションは、ウェブプレゼンテーションを閲覧するユーザーにより、アクセス可能です。
- SAS Java アーカイブは、そのロケーションにインストールされています。

ヒント: JAR ファイルのディレクトリのみ指定してください。CODEBASE=ロケーションは、パス名または URL として指定できます。

参照項目: SAS/GRAPH: Reference CODEBASE= および ARCHIVE= オプションを使用したコントロールおよびアプレットファイルのロケーションの指定に関する詳細は、次を参照してください。

CONTENTS='file-specification' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、出力用の目次を含むファイルを指定します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります。:

- ODS *markup-family-destination* CLOSE ステートメントまたは ODS *_ALL_* CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイル参照です。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

参照項目: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS* ステートメント: リファレンス)を参照してください。

entry.markup

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

操作: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

サブオプション

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次のようになります。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。この設定は、CONTENTTYPE= スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の CONTENTTYPE= (987 ページ)を参照してください。

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣、あるいは、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR= オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されません。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

要件:

URL='Uniform-Resource-Locator'を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

CSSSTYLE='file-specification'<(media-type-1<...media-type-10)>

出力に適用するカスケードスタイルシートを指定します。

file-specification

CSS コードを含むファイル、ファイル参照、または、URL を指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

"external-file"

外部ファイルの名称です。

要件 括弧で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルリファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

参照項目: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS* ステートメント: リファレンス)を参照してください。

"URL"

外部ファイルへの URL です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

(*media-type-1*< *media-type-10*>)

出力にレンダリングされるメディアの種類に対応する1つまたはそれ以上のメディアブロックを指定します。文書が、スクリーン、紙、スピーチシンセサイザー、点字装置、等々の異なるメディアにどのように提示されるか指定するために、CSS は、メディアタイプを使用します。

メディアブロックは、いかなるメディアブロックに含まれていないCSSコードを伴い出力に追加されます。*media-type* サブオプションを使用することで一般のCSSコードを伴い、特定のメディアタイプを対象とするCSSファイルの項目をインポートできます。

デフォルト: ODS ステートメントにいかなる *media-type* が指定されていないが、CSS ファイルにメディアタイプが指定されている場合、ODS は、Screen メディアタイプを使用します。

範囲: 異なる10個のメディアタイプを指定できます。

要件:

括弧で *media-type* を囲まなければなりません。

CSSSTYLE= オプションで指定された *file-specification* の隣に、*media-type* を指定しなければなりません。

ヒント: 複数のメディアタイプを指定した場合、出力にすべてのメディアタイプのすべてのスタイル情報が適用されます。しかし、異なるメディアブロックにおいて重複するスタイル情報が存在する場合、最後のメディアブロックのスタイルが使用されます。

制限事項: CSSSTYLE= オプションは、SAS/GRAPH 出力に影響を与えません。

要件 CSS ファイルは、ODS HTML ステートメントにより作成された CSS と同じ種類で書き込まなければなりません。ID や文脈ベースのセレクターの無いクラス名のみがサポートされます。ODS が作成する CSS コードを閲覧するには、次の内の1つを行ってください。

- STYLESHEET= オプションを指定してください。
- HTML ファイルのソースを閲覧して、ファイルの上部の < STYLE> </STYLE> タグの間のソースを閲覧してください。

有効な ODS CSS ファイルの例は、“[例 6: ODS 出力へ CSS ファイルの適用](#)” (448 ページ)を参照してください。

操作: STYLE= オプションおよび CSSSTYLE= オプションの両方が、ODS ステートメントに指定されている場合、最後に指定されたオプションが使用されます。

例: “[例 6: ODS 出力へ CSS ファイルの適用](#)” (448 ページ)

ENCODING= *local-character-set-encoding*

入力用のエンコーディングまたは、外部ファイルの出力処理(トランスコード)をオーバーライドします。

参照項目: ENCODING= オプションに関する詳細は、“ENCODING システムオプション: UNIX、Windows、および z/OS” (*SAS 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド*)次を参照してください。

EVENT= *event-name* (FILE= | FINISH | LABEL= | NAME= | START | STYLE= | TARGET= | TEXT= | URL=)

イベントおよびイベントに関連するイベント変数用の値を指定します。

(FILE= BODY | CODE | CONTENTS | DATA | FRAME | PAGES | STYLESHEET);

BODY=、CODE=、CONTENTS=、FRAME=、PAGES=、および STYLESHEET= オプションに対応する出力ファイルの既知の種類の内1つをトリガーします。

(FINISH)

イベントの終了項目をトリガーします。

参照項目: 詳細は、“[イベントについて](#)” (1167 ページ)を参照してください。

(LABEL=*'variable-value'*)

LABEL イベント変数用の値を指定します。

要件 *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

参照項目: LABEL イベント変数に関する詳細は、“[イベント変数](#)” (1211 ページ)次を参照してください。

(NAME=*'variable-value'*)

NAME イベント変数用の値を指定します。

要件 *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

参照項目: NAME イベント変数に関する詳細は、“[イベント変数](#)” (1211 ページ)を参照してください。

(START)

イベントの開始項目をトリガーします。

参照項目: イベントに関する詳細は、“イベントについて” (1167 ページ)次を参照してください。

(STYLE=*style-element*)

スタイルエレメントを指定します。

参照項目: スタイルエレメントに関する詳細は、“スタイル属性の概要” (968 ページ)次を参照してください。

(TARGET=*variable-value*)

TARGET イベント変数用の値を指定します。

要件 *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

参照項目: TARGET イベント変数に関する詳細は、“イベント変数” (1211 ページ)次を参照してください。

(TEXT=*variable-value*)

TEXT イベント変数用の値を指定します。

要件 *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

参照項目: TEXT イベント変数に関する詳細は、“イベント変数” (1211 ページ)を参照してください。

(URL=*variable-value*)

URL イベント変数用の値を指定します。

要件 *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

参照項目: URL イベント変数に関する詳細は、“イベント変数” (1211 ページ)を参照してください。

デフォルト: (FILE='BODY')

要件 The EVENT= オプションのサブオプションを括弧で囲まなければなりません。

FRAME= 'file-specification' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、HTML 出力用に、目次、ページコンテンツ、およびボディファイルを統合するファイルを指定します。フレームファイルを開くと目次、ページコンテンツ、またはその両方、およびボディファイルを開覧できます。XML 出力用に、FRAME= は、DTD を含むファイルを指定します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります

- *ODS markup-family-destination* CLOSE ステートメント または *ODS _ALL_* CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

参照項目: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS* ステートメント: リファレンス)次を参照してください。

entry.markup

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

操作: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

サブオプション(s)

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次の内の1つになります。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の [CONTENTTYPE= \(987 ページ\)](#) を参照してください。

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification*

BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: NO_BOTTOM_MATTER サブオプションおよび ANCHOR= オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されません。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます。

要件:

URL='Uniform-Resource-Locator' を括弧で囲まなければなりません。'

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをレファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

制限事項: FRAME=オプションを指定した場合、CONTENTS= オプション、PAGE= オプション、または両方を指定しなければなりません。

例: “例 2: XML ファイルと DTD の作成” (441 ページ)

GFOOTNOTE | NOGFOOTNOTE

グラフィックス出力においてフットノートがプリントされるロケーションを制御します。

GFOOTNOTE

SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたフットノートをプリントします。フットノートは、グラフのボーダー内に表示されます。

NOGFOOTNOTE

グラフのボーダー外に表示される ODS により作成されたフットノートをプリントします。

デフォルト: GFOOTNOTE

制限事項:

マークアップ言語により表示されるフットノートは、すべての SAS/GRAPH FOOTNOTE ステートメントオプションをサポートします。フォントは、ブラウザ用に有効でなければなりません。テキスト角度の仕様など ODS が扱えないオプションは無視されます。SAS/GRAPH FOOTNOTE ステートメントに関する詳細は、“FOOTNOTE Statement” in *SAS/GRAPH: Reference* を参照してください。

このオプションは、1つまたはそれ以上のデバイスベースのグラフィックスを作成する SAS プログラム または、SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたグラフィックスにのみ適用されます。

GPATH= 'aggregate-file-storage-specification' | **ファイル参照** | libref.catalog (URL= 'Uniform-Resource-Locator' | NONE)

出力先が開いている間に生成されたすべてのグラフィックス出力のロケーションを指定します。マークアップファイル用の PATH= オプションで指定されたものとは異なるロケーションにグラフィックス出力を書き込みたい場合にこのオプションを使用してください。無効なファイル名を指定した場合、ActiveX および Java デバイスはデフォルトのファイル名に出力を送ります。その他のデバイスはファイルをディレクトリとして作成して、そのディレクトリに出力を書き込みます。ODS が、カタログエントリおよび外部ファイルに名称を付ける方法に関する 詳細は、次を参照してください。*SAS/GRAPH: Reference*

'aggregate-file-storage-location'

ディレクトリ、フォルダ、または分割されたデータセット等の累積保存ロケーションを指定します。

要件 引用符で *aggregate-file-storage-location* を囲まなければなりません。

ファイル参照

累積保存ロケーションに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメント を使用してください。

操作: GPATH= オプションにおいてファイル参照を指定した場合、ODS は、リンクを構築する際に、GPATH=オプションからの情報を使用しません。

参照項目: FILENAME ステートメントに関する詳細は、“FILENAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)次を参照してください。

ライブラリ参照。 *catalog*

書き込む先の SAS カタログを指定します。

URL= 'Uniform-Resource-Locator' | NONE
file-specification の URL を指定します。

Uniform-Resource-Locator

指定した URL です。ODS は、ファイルに作成するすべてのリンクおよびレファレンスにおいてファイル名ではなくこの URL を使用します。

要件 引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

NONE

リンクまたはレファレンスに GPATH=オプションからのいかなる情報が表示されないことを指定します。

ヒント: このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツまたはページファイルからのリンクが簡単な URL (単一名) で構築されている場合、コンテンツ、ページ、およびボディファイルさえ同一のロケーションにあれば、それらは解決します。

デフォルト: GPATH= オプションを除外すると、ODS は、PATH= オプションにより指定されたロケーションにグラフィックスを保存します。PATH=オプションを指定しない場合、ODS は、グラフィックスを現行のディレクトリに保存します。詳細は、PATH= オプションを参照してください。

GTITLE | NOGTITLE

グラフィック出力のタイトルがプリントされているロケーションを制御します。

GTITLE

SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたフタイトルをプリントします。タイトルは、グラフボーダーの内部に表示されます。

NOGTITLE

グラフボーダーの外部に表示される ODS により作成されたタイトルをプリントします。

デフォルト: GTITLE

制限事項:

いかなるマークアップ言語のステートメントにより表示されるタイトルは、大部分の SAS/GRAPH TITLE ステートメントオプションをサポートします。フォントは、ブラウザ用に有効でなければなりません。テキスト角度の仕様など ODS が扱えないオプションは無視されます。SAS/GRAPH TITLE ステートメントに関する詳細は、TITLE ステートメントを参照してください。

このオプションは、1つまたはそれ以上のデバイススペースのグラフィックスを作成する SAS プログラム または、SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたグラフィックスにのみ適用されます。

HEADTEXT= 'markup-document-head'

出力先が書き込むすべてのファイルのタグ < HEAD> および < /HEAD> の間に配置する HTML タグを指定します。

markup-document-head

< HEAD> および < /HEAD> の間に配置するマークアップタグを指定します。

制限事項: HEADTEXT= は、256 文字を超えてはなりません。

要件 *markup-document-head* を引用符で囲まなければなりません。

ヒント:

ODS は、提供するマークアップを解析できません。それは、<HEAD>および</HEAD>タグとの関連で、well-formed マークアップでなければなりません。

後で、ファイルで使用できるプログラム(JavaScript) 等を定義するために HEADTEXT=オプションを使用してください。

(ID= identifier)

同時に同出力先の複数のインスタンスの実行を可能にします。各インスタンスは、異なるオプションを有します。

identifier

既に開かれた出力先のもう1つのインスタンスを指定します。*identifier* は、文字または、アンダーラインで始まる数字または連続した文字です。後続の文字は、文字、アンダーライン、および数字を含むことができます。

制限事項: もし *identifier* が数値の場合、正の整数にする必要があります。

要件 ID= オプションは、ODS *MARKUP/TAGSET* ステートメントキーワードの直後に指定しなければなりません。

ヒント: ID= オプションを除外し、インスタンスを識別するために代わりに名前または数字を使用できます。

例: “例: 同時に同じ出力先のインスタンスを複数開く” (499 ページ)

METATEXT= '*metatext-for-document-head*'

<META><<の間、HEAD>HEAD>および<HEAD>出力先が書き込む先のすべてのファイルのタグとして使用する HTML コードを指定します。

'metatext-for-document-head'

ブラウザにロードする文書に関する情報を提供する HTML コードを指定します。例えば、この属性は、コンテンツの種類および使用される文字セットを指定できます。

要件 引用符で *metatext-for-document-head* を囲まなければなりません。

デフォルト: METATEXT=を指定しない場合、ODS は、作成するすべての HTML ファイルに文書のコンテンツの種類および使用する文字セットを含む簡単な <META> タグを書きます。

制限事項: METATEXT= は、256 文字を超えてはなりません。

ヒント: ODS は、提供する HTML コードを解析できません。HTML コードは、<HEAD>タグの脈絡において正確で、良く構築されていなければなりません。METATEXT= を意図された通りに使用した場合、META タグは次のように見えます。

```
<META your-metatext-is-here>
```

NEWFILE= *starting-point*

新しいボディファイルが指定された *starting-point* に作成します。

starting-point

新しいボディファイルを作成するのに適した出力のロケーションです。

ODS は、ボディファイル名をインクリメントすることで自動的に新しいファイル名を付けます。次の例で、ODS は、初めのボディファイルの名を付けます。

REPORT.XML 追加のボディファイルが名付けられます。REPORT1.XML, REPORT2.XML, 等

例

```
BODY= 'REPORT.XML'
```


starting-point は、次の内の1つです。

BYGROUP

各 BY グループの結果用に新たなファイルを開始します。

NONE

現在開かれているボディファイルにすべての出力を書き込みます。

OUTPUT

各出力オブジェクト用に新たなファイルを開始します。SAS/GRAPH に対して、これは、ODS がプログラムが生成した各 SAS/GRAPH 出力ファイル用に新たなファイルを作成することを意味します。

別名: TABLE

PAGE

出力の各ページ用に新たなボディファイルを開始します。改ページは、手順が明示的に新たなページを開始(ページのサイズが足りないからではなく)または、新たなプロシジャを開始する時点で発生します。

PROC

新たな手順を開始する度に新たなボディファイルを開始します。

デフォルト: NONE

制限事項: NEWFILE= オプションは、BODY=ファイル参照 オプションと一緒に使用できません。

ヒント:

ファイル名を数字で終了した場合、ODS はその数字の増加を開始します。次の例で、ODS は、最初のボディファイル *MAY5.XML* の名付けをします。追加のボディファイル名は、*MAY6.XML*、*MAY7.XML*、等となります。

例

```
BODY= 'MAY5.XML'
```

OPTIONS (DOC= |<サブオプション>)

tagset-specific サブオプションおよび名付けられた値を指定します。

(DOC= 'HELP' |'QUICK' |'SETTINGS' | 'CHANGELOG')

指定されたタグセットについての情報を提供します。

HELP

簡易参照で、一般的なヘルプおよび情報を提供します。

QUICK

このタグセットで利用可能なオプションを説明します。

SETTINGS

現行のオプション設定を提供します。

CHANGELOG

タグセットへの変更履歴をリストします。このサブオプションは、RTF タグセットにおいてのみサポートされています。

要件 すべての値は、引用符で囲まなければなりません。

サブオプション(s)

指定されたタグセットに有効な1つまたはそれ以上のサブオプションを指定します。サブオプションは、次のフォーマットを有します。

```
keyword='value'
```

タグセット用のサブオプションの情報を得るために、ODS タグセットステートメントを開く時、または出力先が開かれたいかなる時に、次のオプションの内の1つを指定してください。

- **オプション (doc='help');**

- オプション (doc='quick');
- オプション (doc='settings');

要件 OPTION サブオプションを括弧で囲まなければなりません。

例: “例: ODS TAGSETS.HTMLPANEL 情報を得るために DOC サブオプションを使用。” (651 ページ)

PACKAGE <package-name>

出力先からの出力を ODS パッケージに追加することを指定します。

package-name

ODS PACKAGE ステートメントで作成されたパッケージの名称を指定します。指定された名称が無い場合、出力は最後に開かれた名称の付けられていないパッケージに追加されます。

参照項目: “ODS PACKAGE ステートメント” (469 ページ)

例: “例 1: ODS パッケージの作成” (473 ページ)

PAGE= 'file-specification' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、ボディファイルの各ページの説明およびボディファイルへのリンクを含むファイル指定します。ODS は、手順が新たなページを要求した際に、出力の新しいページを作成します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります。

- ODS markup-family-destination CLOSE ステートメントまたは ODS _ALL_ CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の 1 つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

要件 引用符で external-file を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

参照項目: FILENAME ステートメントに関する詳細は、“FILENAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)次を参照してください。

入力。マークアップ

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

操作: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

サブオプション

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次のようになります。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の CONTENTTYPE= (987 ページ)を参照してください。

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: The NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR= option

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されません。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

要件:

URL='Uniform-Resource-Locator'を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME=オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

操作: SAS システムオプションの PAGESIZE=は、バッチ出力を作成する時以外は、HTML 出力のページに影響を与えません。PAGESIZE= オプションに関する詳細は、“PAGESIZE= System Option” in *SAS System Options: Reference* を参照してください。

PARAMETERS= (*parameter-pair-1 ... parameter-pair-n*)

動的グラフィックス出力を生成するタグの間に指定されたパラメータを書き込みます。

parameter-pair

各パラメータの名称および値を指定します。*parameter-pair* は、次の形態を有します。

'*parameter-name*'= '*parameter-value*'

parameter-name

パラメータの名称です。

parameter-value

パラメータの値です。

要件 引用符で *parameter-name* および *parameter-value* を囲まなければなりません。

操作: PARAMETERS=を SAS/GRAPH プロシジャおよび GOPTIONS ステートメントの DEVICE=JAVA、JAVAMETA、または ACTIVEX オプションと一緒に使用してください。

参照項目: *SAS/GRAPH: Reference* グラフアプレット、マップアプレット、カンターアプレット、およびメタビューアプレット用に有効なパラメータ

PATH= '*aggregate-file-storage-specification*' | **ファイル参照** | *libref.catalog* (URL=*'Uniform-Resource-Locator'* | NONE)

累積保管場所のロケーションまたはすべてのマークアップファイル用の SAS カタログを指定します。GPATH= オプションが指定されていない場合、すべてのグラフィックスファイルは、“*aggregate-file-storage-specification*”または、**ライブラリ参照**に書き込まれます。

'aggregate-file-storage-location'

ディレクトリ、フォルダ、または分割されたデータセット等の累積保存ロケーションを指定します。

要件 引用符で *aggregate-file-storage-location* を囲まなければなりません。

ファイル参照

累積保存ロケーションに割り当てられたファイル参照です。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

操作: PATH= オプションのを使用した場合、ODS は、リンクを構築する際に PATH= からの情報を使用しません。

参照項目: FILENAME ステートメントに関する詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS ステートメント: リファレンス*)を参照してください。

ライブラリ参照. *catalog*

書き込む先の SAS カタログを指定します。

参照項目: LIBNAME ステートメントに関する詳細は、“LIBNAME ステートメント” (*SAS ステートメント: リファレンス*)を参照してください。

URL=*'Uniform-Resource-Locator'* | NONE

file-specification の URL を指定します。

Uniform-Resource-Locator

指定した URL です。ODS は、ファイルに作成するすべてのリンクおよびリファレンスにおいて ファイル名ではなくこの URL を使用します。

NONE

リンクまたはリファレンスに GPATH=オプションからのいかなる情報が表示されないことを指定します。

ヒント: このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは、single-name URL で構築しなければならず、コンテンツ、ページ、およびボディファイルは、同じロケーションになければなりません。

操作: BODY= または、FILE=外部ファイルオプションを PATH= オプションと一緒に使用した場合、外部ファイル仕様にパス情報を含めるべきではありません。

RECORD_SEPARATOR= 'alternative-separator' | NONE

出力ファイルのラインを分離するために代替りの文字または文字列を指定します。

異なる動作環境において、異なるセパレーター文字を使用します。レコードセパレーターを指定しない場合、SAS ジョブを起動する環境用にファイルをフォーマットします。しかし、異なるセパレーター文字を使用する異なる動作環境で閲覧するためにファイルを生成する場合、対象の環境に適切なレコードセパレータを指定できません。

alternative-separator

1 またはそれ以上の文字を 16 進または ASCII フォーマットで表わします。例えば、次のオプションは、キャリッジリターン文字用のレコードセパレータ および ASCII ファイルシステムで使用するラインフィード文字を指定します。

```
RECORD_SEPARATOR= '0D0A'x
```

動作環境の情報

メインフレーム環境において、次のオプションは、キャリッジリターン文字用のレコードセパレータ および ASCII ファイルシステムで使用するラインフィード文字を指定します。

```
RECORD_SEPARATOR= '0D25'x
```

要件 引用符で *alternative-separator* を囲まなければなりません。

NONE

SAS ジョブを実行する環境に適切なマークアップ言語を作成します。

Windows 固有

メインフレーム環境において、デフォルトで、ODS は、組み込み式レコードセパレータ文字を含むバイナリファイルを作成します。バイナリファイルは、ASCII ファイルのラインの長さ制限により制限されていません。しかし、テキストデータのバイナリファイルを閲覧すると、ラインは一緒に実行されます。テキストデータでファイルを読むことを可能にするためにファイルをフォーマットしたい場合、RECORD_SEPARATOR= NONE を使用してください。この場合、ODS は、一度に1行のマークアップ言語をファイルに書き込みます。NONE の値を使用する場合、書き込む先のファイルの論理的レコードの長さは、最低でも ODS が作成するラインの最長の長さでなければなりません。ファイルの論理的レコードの長さが十分でない場合、マークアップ言語は、適切な場所でその他のラインにラップする可能性があります。

別名:

RECSEP=

RS=

STYLE= style-definition

出力ファイルを書く場合に使用するスタイル定義を指定します。

style-definition

SAS 出力の体裁特徴(色、フォントファース、フォントサイズ、等々)の表示方法を説明します。スタイル定義は、それを使用する文書の全体の体裁を決定します。各スタイル定義は、スタイル要素で構成されます。

操作: STYLE= オプションは、XML 出力を作成している場合は、無効となります。

参照項目: スタイル定義に関する完全な討議は、13 章、“[TEMPLATE プロシジャ: スタイルテンプレートの作成](#)” (942 ページ)を参照してください。

デフォルト: スタイル定義を指定しない場合は、ODS は、SAS レジストリのサブキー ODS ⇒ DESTINATIONS ⇒ MARKUP に指定されているファイルを使用します。この値は、デフォルトで、*Default* を指定します。

操作: ODS HTML4 ステートメントで STYLE= オプションを指定した場合、続いて、もう1つの ODS HTML4 ステートメントで新しいスタイル定義を使用するために PROC PRINT 出力が必要な場合、2番目のステートメントを指定する前に、最初のステートメントを終了してください。

STYLESHEET= 'file-specification' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、マークアップ出力用のスタイル情報を外部ファイルに配置、または既存のファイルからスタイルシート of の情報を読み込みます。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります。

- ODS markup-family-destination CLOSE ステートメント または ODS _ALL_ CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の 1 つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

参照項目: FILENAME ステートメントに関する詳細は、“[FILENAME ステートメント](#)” (*SAS ステートメント: リファレンス*)を参照してください。

entry, markup

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

操作: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

サブオプション

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。次のサブオプションが利用可能です。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の [CONTENTTYPE=](#) (987 ページ)を参照してください。

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=

- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR=オプション

(TITLE=*title-text*)

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE= を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されません。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL=*Uniform-Resource-Locator*)

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます。

要件:

URL=*Uniform-Resource-Locator* を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL=*Uniform-Resource-Locator* は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをレファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

注: デフォルトで、別のファイルに特に情報を送らない場合、スタイルシート情報は指定された HTML ファイルに含まれます。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

TEXT=*text-string*

パラグラフのイベントをトリガーすることで文書にテキストを挿入し、VALUE イベント変数に割り当てられるテキストの文字列を指定します。

デフォルト: デフォルトで、TEXT=オプションは、パラグラフイベントで使用されています。

ヒント: 次の構文を使用することで、EVENT= オプションを伴う TEXT= オプションを使って特定のイベント用の *text-string* を指定できます。

EVENT=*event-name* (TEXT=*text-string*)

参照項目: イベントおよびイベント変数に関する詳細は、15章、“[TEMPLATE プロシジャ: マークアップ言語のタグセットの作成](#)” (1166 ページ)を参照してください。

例: “例: 出力オブジェクトを条件付きで除外し、別の出力先に送信する” (235 ページ)

TRANTAB= '*translation-table*'

出力用のファイルをトランスコーディングする際に変換表を指定します。

参照項目: TRANTAB= オプションに関する詳細は、“[TRANTAB=システムオプション](#)” (*SAS 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド*)を参照してください。

サブオプション

これらのオプションで利用できるサブオプションは次のとおりです。BODY= (188 ページ), CODE= (191 ページ), CONTENTS= (194 ページ), FRAME= (199 ページ), PAGE= (206 ページ), および STYLESHEET= (211 ページ)。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE のを参照してください。CONTENTTYPE= (987 ページ)

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR=オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されます。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

要件:

URL='Uniform-Resource-Locator' を括弧で囲まなければなりません。

Uniform-Resource-Locator を引用符で囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをレファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

詳細

ODS DOCBOOK ステートメントは、ステートメントの ODS マークアップファミリの一部です。マークアップファミリの ODS ステートメントでは、HTML (Hypertext Markup Language)、XML (Extensible Markup Language) または LaTeX などのさまざまなマークアップ言語のいずれかを使用してフォーマットされた出力が生成されます。SAS によって、DOCBOOK から TROFF に至るマークアップ言語が提供されます。SAS 提供のマークアップ言語を指定するか、独自の言語を作成し、ユーザー定義のマークアップ言語として保存できます。

ODS DOCUMENT ステートメント

出力オブジェクトの階層を作成し、PROC または DATA ステップを再実行せずに複数の ODS 出力フォーマットの作成を可能にする DOCUMENT の出力先を開いたり、管理、または閉じたりします。

Valid in: 任意の場所

Category: ODS:出力制御

Syntax

ODS DOCUMENT *操作*;

ODS DOCUMENT

<NAME=<libref.>member-name<(access-option)>>

<DIR=(<PATH=path<(access-option)><LABEL="label">>)>

<CATALOG=permanent-catalog | _NULL_>;

Actions

ODS DOCUMENT ステートメントでは、次の操作が利用可能です。

CLOSE

出力先とそれに関連するいかなるファイルを終了します。

Tip: ODS 出力先が閉じると、ODS はその出力先に出力を送りません。不必要な出力先を終了することで、システムのリソースを空けることができます。

EXCLUDE *除外* | ALL | NONE

DOCUMENT の出力先から、1つ以上の出力オブジェクトを除外します。

Default: NONE

Restriction: この操作は DOCUMENT の出力先が開いているときのみ有効です。

See: “ODS EXCLUDE ステートメント” on page 232

SELECT *選択* | ALL | NONE

DOCUMENT の出力先用に1つ以上の出力オブジェクトを選択します。

Default: ALL

Restriction: この操作は DOCUMENT の出力先が開いているときのみ有効です。

See: “ODS SELECT ステートメント” on page 598

SHOW

出力先用の現在の選択または除外リストを SAS ログに書き出します。

Restriction: この操作は DOCUMENT の出力先が開いているときのみ有効です。

Tip: 選択リストまたは除外リストがデフォルトリストの場合、(SELECT ALL)にした後、SHOW がすべての選択または除外リストも書き出します。

See: “ODS SHOW ステートメント” on page 614

Optional Arguments

CATALOG=*permanent-catalog* | NULL

CAUTION:

このオプション用に値(NULL以外)を指定しなかった場合、一時的な GRSEG をそれが作成されたセッション中のみで再生できるが、後続のセッションでは再生できません。

permanent-catalog

指定の常在するカタログにいかなる一時的な GRSEG をコピーし、常在するカタログに文書形式で参照用とされます。この値は、ODS DOCUMENT ステートメントが終了、または CATALOG=NULLを指定して削除するまで存続します。

常在するカタログには、次の種類があります。

<libref> <member-name>;

NULL

CATALOG= オプション用に以前指定されたカタログ名を削除します。その後、一時的な GRSEG は、常在するカタログにはコピーされず、すなわち、以降のセッションで利用できません。

Alias: CAT=

Default: デフォルトで、いかなる値も CATALOG=に割り当てられず、それは一時的な GRSEG が、常在するカタログにコピーされないことを意味します。

DIR=(<PATH=*path*<*access-option*>><LABEL='label'>);

ODS 出力用のディレクトリパスまたはラベル、あるいは両方を指定します。

LABEL=*label*

パスにラベルを割り当てます。

Requirement: 割り当てるラベルは、引用符の中に入れる必要があります。

Interaction: LABEL= が PATH= option と共に使用される場合、ラベルはパスに適用できます。LABEL= が PATH= option と共に使用されない場合、ラベルは文書全体に適用されます。

PATH=*path* <*access-option*>

逆スラッシュで範囲を定められたエントリのシーケンスとして指定されます。

path

次の形式が利用可能です。

pat<*h*#*sequence-number*>

path

パスの名称です。

#*sequence-number*

パス名と組み合わせた場合、それが含まれるディレクトリのエントリを独自に識別する番号です。

Default: デフォルトのパスは、\"\" (root)です。

Tip: 文書に含まれないエントリを含むディレクトリを指定できます。

access-option

ODS 文書のアクセスモードを指定します。

WRITE

文書を開き、読み取り、書き込みアクセスを提供します。

Interaction: ラベルが LABEL= オプションで指定された場合、文書に割り当てられたすべての既存のラベルをオーバーライドします。

Tip: ODS 文書が存在しない場合は、文書が作成されます。

CAUTION: ODS 文書がすでに存在する場合は、それをオーバーライドしません。

UPDATE

ODS 文書を開き、文書に新たなコンテンツを追加します。UPDATE は、更新アクセス、読み取りアクセスを提供します。

Interaction: ラベルが LABEL= オプションで指定された場合は、文書に割り当てられます。

Tip: ODS 文書が存在しない場合は、文書が作成されます。

CAUTION: 文書が既に存在する場合は、文書のコンテンツは変更されません。

Default: UPDATE

Note: ディレクトリの最後にプロシーチャー出力またはデータクエリーが追加されます。

NAME= <*libref*.> *member-name*<(access-option)>

libref

文書が保存されている場所に SAS ライブラリを指定します。

Default: いかなるライブラリ名が指定されていない場合、Work ライブラリが使用されます。

member-name

文書名を指定します。

Default: いかなる NAME=が指定されていない場合、指定されたオプションは開かれた現在の文書に適用されます。

NAME=を伴うアクセスオプションを指定しない場合、ディレクトリは UPDATE モードで起動します。

access-option

ODS 文書のアクセスモードを指定します。

WRITE

文書を開き、書き込みアクセス、読み取りアクセスを提供します。

Interaction: ラベルが LABEL= オプションで指定された場合、文書に割り当てられたすべての既存のラベルをオーバーライドします。

Tip: ODS 文書が存在しない場合は、文書が作成されます。

CAUTION: ODS 文書がすでに存在する場合は、それをオーバーライドします。

UPDATE

ODS 文書を開き、文書に新たなコンテンツを追加します。UPDATE は、更新アクセス、読み取りアクセスを提供します。

Interaction: ラベルが LABEL= オプションで指定された場合、それは文書に割り当てます。

Tip: ODS 文書が存在しない場合は、文書が作成されます。

CAUTION: 文書が既に存在する場合は、文書のコンテンツは変更されません。

Default: UPDATE

Interaction: ODS DOCUMENT ステートメントの NAME= オプションを使用して DOCUMENT の出力先が開かれた場合、ODS が出力先とそれに関連するすべてのファイルを終了し、出力先に新しいインスタンスを開くよう強制されます。

ODS ESCAPECHAR ステートメント

出力文字列で使用する代理文字を定義します。

該当要素: 任意の場所

カテゴリ: ODS: 出力制御

制限事項: リスト出力先以外の、開いているすべての出力先に影響します。
SAS/GRAPH はインラインフォーマットをサポートしていません。

構文

R = 'エスケープ文字';

必須引数

エスケープ文字

インラインフォーマットの記号を識別する特殊文字を指定します。エスケープ文字は、@や^、\といった、あまり使用されない文字にする必要があります。

ODS ESCAPECHAR ステートメントを使用して、インラインフォーマット関数とともに用いるエスケープ文字を定義できます。この関数により、ステートメントおよび変数に使用されるテキスト文字列を、拡張したり解釈したりできます。この関数を使用して、テーブルセルやタイトル、脚注のテキスト文字列を変更できます。

インラインフォーマットの関数の一覧およびその詳細については、“[ODS ESCAPECHAR 関数の使用](#)” (223 ページ)を参照してください。

注:

RTF 出力の場合は、~、*、#も使用できます。**は**特殊な RTF 文字です。したがって、RTF 出力には**以外のエスケープ文字を使用することをお勧め**します。

エスケープ文字のデフォルト値はありませんが、エスケープ文字と同じ方法で特殊なエスケープシーケンス (*ESC*)を使用できます。特殊なエスケープシーケンス (*ESC*)は、ネストされた関数では使用できません。

詳細

基本インラインフォーマット

インラインフォーマット関数を使用して、タイトルおよび脚注、テキスト文字列ならびにテーブルセルのスタイルを変更できます。たとえば、次のフォーマット関数を実行できます。

- SAS 出力に上付き/下付き文字を挿入します。
- テキストに下線を付けます。
- テキストの位置を調整します。
- X/Y というページ番号を出力に挿入します。
- 長いテキスト文字列にラインフィード挿入します。
- HTML 出力または RTF 出力に、出力先別の生テキストを挿入します。

STYLE 関数では、既存のスタイル要素とスタイル属性を使用できます。スタイルの使用については、“[インラインスタイル属性とネスト](#)” (220 ページ) を参照してください。

インラインスタイル属性とネスト

ODS ESCAPECHAR ステートメントおよびインラインフォーマット構文を使用して、テキストの位置を調整したり、タイトル、脚注およびテキストの色を変更したりできます。テキストを強調できるその他の便利なスタイルまたは属性は、フォントサイズ、下線、上線および取り消し線です。

スタイルの変更もできます。たとえば、ODS PRINTER では、下線について 2 種類のスタイル設定がサポートされるようになりました。ODS PRINTER は、テキストの下線について、SAS/GRAPH 構文(UNDERLIN=1,2,3)を認識します。ただし、このオプションでは、線の太さを変更できません。テキストを強調できるその他の便利なスタイル属性は、フォントサイズ、下線、上線および取り消し線です。スタイル属性の詳細については、“[すべてのスタイル属性の詳細情報](#)” (978 ページ) で、スタイル属性およびスタイル属性値のセクションを参照してください。13 章、“[TEMPLATE プロシジャ: スタイルテンプレートの作成](#)” (942 ページ) でグローバルタイトルのスタイルオプションを確認してください。グローバル脚注のスタイルオプションは、“[FOOTNOTE ステートメント](#)” (SAS ステートメント: リファレンス) で確認してください。

ネストしたインラインフォーマットもサポートされます。この関数では、前回使用したスタイルをリセットすることなしに、文字列に複数のスタイル属性を設定できます。スタイル属性のセットを 1 つ用いて文字列を開始し、後で属性を文字列に追加できます。ネストしたインラインフォーマットには、次の構文が使用されます。

```
^{style <style-element-name><[style-attribute-specification(s)]> formatted text}
```

この構文は、STYLE という関数名で始まります。続いて、スタイル要素(Headerfixed、SystemTitle など)を必要に応じて追加できます。さらに、新しい属性(FONTSTYLE=、COLOR=など)を角かっこで囲んで追加できます。最後に出力形式適用対象のテキストを記して、この構文を終了します。次のコードは、RTF 出力のネストしたフォーマット例です。

```
title "test of ^{super ^{style [color=red] red ^{style [color=green] green} and ^{style [color=blue] blue }formatting }} and such" ;
```

このサンプルコードでは、上付きの関数の使用を開始するために`^{super<text>}`が呼び出されます。次に、スタイル関数を使用して、さらに別のスタイル属性(`^{style [color=red]<text>}`)をテキストに追加します。

このネストを理解するには、最初にスタックに入った項目がそのスタックから最後に取り出される項目になる(FILO)、と覚えてください。上付き関数が最初にスタックに入ります。次にスタイル関数を使用して赤色がスタックに入り、結果として、上付きの赤いテ

キスト文字列となります。次に、緑色がスタックに入ります。新しいスタイル属性は色であるため、テキストが新しい色に変化します。文字列の処理を続行すると、このスタイル属性は閉じ角かっこで閉じられます。緑色が閉じるかスタックから出ると、赤色がそのテキストのアクティブなスタイル属性になります。次に、青色がスタックに入り、テキスト文字列にその色が使用されます。青色が閉じると、赤色および上付きが閉じます。これでスタックは空になり、ODS は、デフォルトのスタイル属性を使用してテキスト文字列の処理を完了します。

注: 各出力の出力先には、制限があります。PRINTER 出力先を使用する場合は、スタイルのネストのみが可能で、SUB 関数および SUPER 関数は、STYLE 関数とネストさせることはできません。ただし、HTML 出力先および RTF 出力先は、SUB 関数および SUPER 関数を STYLE 関数とネストさせることができます。

注: スタイル要素の詳細については、“ODS スタイル要素” (1387 ページ) を参照してください。

Unicode 記号の使用

ODS では、ギリシャ文字などの Unicode 記号を出力に取り込む機能がサポートされるようになりました。新しいインラインフォーマット関数は UNICODEN であり、その構文は `^{unicode <value>}` です。この構文は、リスト内で事前に定義された 4 桁の Unicode 値を使用できる他のインラインフォーマット関数に似ています。UNICODEN 関数を使用するもう 1 つの方法としては、タグセットとして保存されるリストを事前に定義します。タグセットの詳細については、“概念: マークアップ言語と TEMPLATE プロシジャ” (1166 ページ) を参照してください。

事前に定義した一般的なギリシャ文字とその Unicode 値のリストが含まれる新しいタグセットがあります。このテンプレートを、必要に応じて更新できます。このテンプレートは、新しいインラインスタイル関数の柔軟性を向上させます。既存のインラインスタイル関数 `^{DAGGER}` および `^{SIGMA}` も使用できます。

お使いの Windows XP で使用できる記号を確認するには、**[スタート]** ⇨ **[プログラム]** ⇨ **[アクセサリ]** ⇨ **[システムツール]** ⇨ **[文字コード表]** を選択してください。表示されるウィンドウには、対象フォントで使用可能な、フォントおよびすべての記号が表示されます。表示されたフォントについて、各記号を強調表示し、その記号の Unicode 値を確認することができます。Unicode 値は **[文字コード表]** ウィンドウの下部に表示されます。この Unicode 値は、UNICODEN 関数への引数に使用できます。たとえば、Unicode 値 216b はローマ数字の 12 を表示します。次のコードではこの値が使用されていません。

```
title 'Roman Numeral twelve is ^{unicode 216b}';
```

Base.Template.Tagsets タグセットには、Unicode 値とそのニーモニックのテーブルが含まれています。ニーモニックを追加または変更するには、タグセットを参照元にして、必要な変更を加えた後、変更したタグセットを実行してください。次のコードは、Base.Template.Tagsets タグセットも含まれている現在のディレクトリで、core.tpl というファイルを作成します。

```
proc template;
source base.template.tagset. / file="core.tpl";
run;
```

core.tpl ファイルを開くと、次のようなテキストが表示されます。

```
set $unicodeMap["ALPHA" ] "03B1";
set $unicodeMap["BETA" ] "03B2";
set $unicodeMap["DAGGER" ] "2020";
```

新規のニーモニックおよび対応する Unicode 値でファイルを更新するには、次の構文を使用してそれをファイルに追加します。

```
set $unicodeMap["<new function name>" ] "<unicode value>";
```

ファイルを保存し、変更されたタグセットを PROC TEMPLATE を使って次のようにコンパイルします。

```
proc template;
%inc "core.tpl";
run;
```

変更されたタグセットは、ユーザーの ODS パスの、最初の書き込み可能テンプレートストアに保存されます。PROC TEMPLATE およびタグセットの使用の詳細については、“[概念: マークアップ言語と TEMPLATE プロシジャ](#)” (1166 ページ)を参照してください。

新規のレジストリ設定では、Unicode フォント値が保持されます。この Unicode フォント値を、お使いのコンピュータにインストールされていて、なおかつ SAS で認識される、任意の有効なフォントに変更できます。フォントの変更方法の詳細については、“[ODS の SAS レジストリ設定の変更](#)” (44 ページ)を参照してください。SAS 9.2 で使用可能な新しい True Type フォント全部の詳細については、“[ユニバーサルプリンタと SAS/GRAPH デバイスでのフォントの使用](#)” (*SAS 言語リファレンス: 解説編* 15 章)を参照してください。この章では、お使いのコンピュータに TrueType フォントをインストールする方法についても説明されています。

PUT ステートメントを使用したインラインフォーマット

PUT ステートメントで使用されるインラインフォーマット情報は、ODS リスト出力の出力先で必要となる印刷されたスペースとしてカウントされます。したがって、LINESIZE=システムオプションは、出力が折り返されないように設定する必要がある場合があります。たとえば、次のコードに示されるインラインフォーマット情報は、「AAA」、「BBB」という値のフォントサイズ、フォントフェイスおよびフォントの重みを定義しています。

```
ods escapechar="^";
ods html file='file.html';
ods pdf file='file.pdf';
ods rtf file='file.rtf';
data _null_;
file print;
put @1 '^{'style [fontsize=8pt] ^{'style [fontface=courier]
^{'style [fontweight=bold]}}}' 'AAA';
put +5 '^{'style [fontsize=8pt] ^{'stylefontface=courier]
^{'style [fontweight=bold]}}}' 'BBB';
run;
ods _all_ close;
```

印刷された出力に必要な行のサイズは、3 文字です。★サイズ(太さ?)を文字で表す意味が不明。ただし、インラインフォーマット情報もラインサイズの一部としてカウントされます(カウントは出力の表示にしか影響しません)。ラインサイズが LINESIZE=システムオプションの現在の値を超えた場合は、このラインサイズの増加により、テキストが折り返される場合があります。

ODS リスト出力が折り返されないようにするには、LINESIZE=システムオプションの値を増やすか、フォントサイズを小さくします。

ODS 統計グラフィックのインラインフォーマット

ODS 統計グラフィックには、テンプレートベースのプロシジャ(SGPLOT、SGPANEL、SGSCATTER)と、UNICODE、SUB、SUP の各インラインフォーマット関数に関連して ODS ESCAPECHAR をサポートするいくつかのステートメントが含まれています。ODS 統計グラフィックでこれらの関数を使用する方法については *SAS ODS Graphics: プロシジャガイド* および *SAS Graph Template Language: ユーザーガイド* を参照してください。

インライン形式の出力文字列の解釈

ODS ESCAPECHAR は、ODS による出力文字列の解釈を制御します。ただし、LISTING、OUTPUT および DOCUMENT の各出力先は例外です。ODS 出力先がその出力内で、指定された文字を認識すると、ODS は、出力のソースに関係なく、その文字を、特殊なフォーマットオプションを有効にする特殊な"エスケープ"文字として解釈します。たとえば、次のプログラムは、出力をイタリックで作成します。

```
data italic;
x='This font is ^{style[fontstyle=italic]italic}.';
output;
run;
ods pdf file="italicFont.pdf";
ods escapechar='^';
proc print data=italic;
run;
ods _all_ close;
```

ODS ESCAPECHAR 関数の使用

このセクションでは、定義済みの ODS ESCAPECHAR 文字値を使用したインラインフォーマットの実行について説明します。ODS ESCAPECHAR 文字値を定義した後は、インラインフォーマット関数を使用してセル、テキスト、タイトルおよび脚注のスタイルを変更できます。これらの関数を使用して、ページ番号、ラインフィード、出力先固有の生データ、追加スペースおよびフォーマットを、出力に挿入できます。

注: 従来の RTF 出力で出力を表示するには、**Print Preview** を使用する必要があります。一部のフォーマットは、SAS 結果ビューアのウィンドウに表示されません。

使用可能なインライン関数は、[表 6.3 \(223 ページ\)](#)に示されています。ODS ESCAPECHAR 関数の構文は次のとおりです。

```
エスケープ文字{関数名 <<arg-1 <arg-2<arg-n>>>> }
```

注意:

エスケープ文字と、インラインフォーマットのスタイル関数の左角かっことの間にスペースがあると、好ましくない結果が生じます。コード表示の例は次のとおりです。

```
^{style [color=green] title green};
```

エスケープ文字

ODS ESCAPECHAR ステートメントを使用して定義される文字です。

```
{}
```

インラインフォーマットのグループ化文字を囲みます。

arg-1, arg-n

関数に与えられる引数です。引数の数は、関数によって異なります。一部の関数は引数を伴いません。

関数名

インラインフォーマット関数の名前です。

表 6.3 ODS ESCAPECHAR で使用できる有効な関数

関数名	引数
DAGGER (224 ページ)	なし
DATE (224 ページ)	なし

関数名	引数
DEST (224 ページ)	OUTPUT 出力先
LASTPAGE (225 ページ)	なし
LEADERS (225 ページ)	文字列
NBSPACE (225 ページ)	オプション番号
NEWLINE (225 ページ)	オプション番号
PAGEOF (225 ページ)	なし
RAW (226 ページ)	文字列
SIGMA (226 ページ)	なし
STYLE (226 ページ)	スタイル要素、スタイル属性および STYLE=オプション出力形式
SUB (227 ページ)	引数および下付き
SUPER (227 ページ)	引数および上付き
THISPAGE (227 ページ)	なし
TOCENTRYINDENT (227 ページ)	長さ
TOCENTRYPAGE (227 ページ)	なし
UNICODE (228 ページ)	Unicode 値

DAGGER 関数**{ DAGGER }**

ギリシャのダガー記号を作成します。

ヒント: ダガー記号の生成には UNICODE 関数を使用することをお勧めします。**参照項目:** “例: 基本インラインフォーマット関数” (228 ページ)**DATE 関数****^{DATE}**

RTF を挿入して日付を表現します。

ヒント: この関数は、TAGSETS.RTF 出力先でしか使用できません。**DEST 関数****^{DEST <[出力の出力先]> テキスト****出力の出力先**

ODS 出力の出力先、RTF、プリンタファミリー、HTML のいずれかです。これは、インラインフォーマット関数によって使用される出力先です。

ヒント: 複数の出力の出力先を指定できます。**テキスト**

出力に書き込むテキストです。次に例を示します。

^{dest [rtf html] ^{raw rawtext string} };

LASTPAGE 関数

`^{LASTPAGE}`

総ページ数を挿入します。

ヒント:

この関数は、PRINTER、RTF および TAGSETS.RTF の各出力先でしか使用できません。

TAGSETS.RTF 出力先によって生成された、解決済みの LASTPAGE 関数の出力を表示するには、Print Preview を使用する必要があります。

LEADERS 関数

`^{LEADERS <文字列>}`

文字列

先頭のテキストと後続のテキストの間のスペースを埋めるために繰り返される文字列です。この関数は、コンテンツのテーブルを生成するときに頻繁に使用されます。コードの実例は次のとおりです。

```
PostText = " ^{leaders . }^{tocentrypage}
```

ヒント: この関数は、PRINTER 出力先でしか使用できません。

NBSPACE 関数

`^{NBSPACE <数値>}`

数値

挿入するスペースの数です。数値の引数を指定しない場合は、スペースが 1 つ挿入されます。

デフォルト: NBSPACE 値はデフォルトの 1 になります。数値を指定しない場合はスペースが 1 つ挿入されます。

参照項目: “例: 基本インラインフォーマット関数” (228 ページ)

NEWLINE 関数

`^{NEWLINE <数値>}`

数値

挿入する行の数です。

デフォルト: NEWLINE 値はデフォルトの 1 になります。数値を指定しない場合は行が 1 つ挿入されます。

参照項目: “例: 基本インラインフォーマット関数” (228 ページ)

PAGEOF 関数

`^{PAGEOF}`

RTF 構文を挿入して、ページ X/Y のすべてのコントロールを表現します。

ヒント:

TITLE ステートメントおよび FOOTNOTE ステートメントで、PAGEOF 関数を使用できます。ただし、ODS RTF ステートメントで BODYTITLE オプションも指定した場合は、RTF ファイルのヘッダー/フッターのセクションからタイトルと脚注が削除されます。その結果、[ページ /]の情報が想定どおりには書き込まれなくなります。ページ番号の位置をタイトルまたは脚注の中にする場合は、BODYTITLE オプションを削除してください。

\文字が ODS ESCAPECHAR 文字として指定されている場合、PAGEOF 関数は TAGSETS.RTF 出力先のプロパティとは解釈されません。かわりに、別のエスケープ文字を指定してください。

PAGEOF 関数は、RTF および TAGSETS.RTF 出力先でしか使用できません。TAGSETS.RTF 出力先によって生成された解決済みの PAGEOF 関数の出力を表示するには、Print Preview を使用する必要があります。

RAW 関数

`^{RAW <string>}`

文字列

翻訳されることなく、直接挿入されます。この関数を使って、制御文字を挿入できます。この関数は、HTML、RTF などのマークアップ出力先に対して機能します。

制限事項: RAW 関数は、PDF または Windows のドライバとは関係しません。

ヒント:

セッションで一度この関数を有効にすると、以降はそのセッションで無効にできなくなります。

|は、特殊な RTF 文字です。{および}は特殊な関数文字です。これらの特殊文字を RAW 関数で使用すると、ODS が予期しない出力を生成することがあります。

参照項目: “例: 基本インラインフォーマット関数” (228 ページ)

SIGMA 関数

`^{SIGMA}`

ギリシャ文字のシグマを生成します。σ

ヒント: シグマ記号の作成には、UNICODE 関数を使用するのが適しています。

参照項目: “例: 基本インラインフォーマット関数” (228 ページ)

STYLE 関数

`^{STYLE <スタイル要素名>[スタイル属性の仕様]>出力形式適用済みテキスト}`

スタイル要素名

スタイル要素を指定します。STYLE 関数については、すべてのテンプレートの STYLE=オプションで使用可能な出力形式と同じ出力形式を使用できます。例として、

```
^{style rowheader [color=red] my text};
```

または

```
^{style rowheader my text};
```

を参照してください。

ヒント:

参照項目: “ODS スタイル要素” (1387 ページ)

スタイル属性の仕様

スタイル属性を指定します。STYLE 関数については、すべてのテンプレートの STYLE=オプションで使用可能な出力形式と同じ出力形式を使用できます。例として、

```
^{style [color=red] my text};
```

を参照してください。

参照項目: スタイル属性とその値のリストは“すべてのスタイル属性の詳細情報” (978 ページ)にあります。

出力形式適用済みテキスト

スタイルを適用するテキストを指定します。

注:

スタイル属性または要素は、別のスタイルによって上書きされない限り、有効です。スタイルをデフォルトのものにリセットすることもできます。次のコードは、太字のテキストスタイルが、SUB 関数のデフォルトのスタイルによっ

てリセットされることを示しています。ods pdf
`text='^{style[fontweight=bold] BOLDED} ^{sub a} NOT bolded}'`

インラインスタイルはネストさせることができます。インラインスタイルをネストさせた例を、次に示します。スタイルのネストについては、“[インラインスタイル属性とネスト](#)” (220 ページ)を参照してください。

SUB 関数

`^{SUB <下付き文字>}`

下付き値

数字、英数字、または文字値を使用できます。この値は、別の文字のすぐ隣の下側に表示されます。

制限事項:

Microsoft Word で実行される RTF および TAGSETS.RTF の下付きのレベルは、1 つに限られます。

PRINTER 出力先は、SUB 関数のネストを認識しません。下付き値は SUB 関数の直後に記述する必要があります。

参照項目: “[例: 基本インラインフォーマット関数](#)” (228 ページ)

SUPER 関数

`^{SUPER <上付き値>}`

上付き値

数字、英数字または文字値を使用できます。この値は、別の文字のすぐ隣の上側に表示されます。

制限事項:

Microsoft Word では、RTF および TAGSETS.RTF の下付きのレベルが 1 つに限られます。

SUPER 関数のネストは、PRINTER 出力先では認識されません。下付き値は SUPER 関数の直後に記述する必要があります。

参照項目: “[例: 基本インラインフォーマット関数](#)” (228 ページ)

THISPAGE 関数

`{THISPAGE}`

現在のページ番号を挿入します。

ヒント:

この関数は、PRINTER、RTF および TAGSETS.RTF の各出力先でしか使用できません。

TAGSETS.RTF 出力先によって生成された、解決済みの THISPAGE 関数の出力を表示するには、Print Preview を使用する必要があります。

TOCENTRYINDENT 関数

`^{TOCENTRYINDENT <長さ>}`

長さ

レベルごとのインデントの総量です。コードの実例は次のとおりです。

```
PreText = " ^{tocentryindent 2em}"
```

ヒント: この関数は、PRINTER 出力先でしか使用できません。

TOCENTRYPAGE 関数

`^{TOCENTRYPAGE}`

現在の TOC エントリのページ番号です。コードの実例は次のとおりです。

```
PostText = " ^{leaders . } ^{tocentrypage}"
```

ヒント: この関数は、PRINTER 出力先でしか使用できません。

UNICODE 関数<|>}

^{UNICODE <Unicode 値| 'Unicode 値'X>}

Unicode 値

4 桁の 16 進数の Unicode 値か、Base.Template.Tagsets に表示されている名前の 1 つです。たとえば、03B2 はアルファ記号の Unicode 値です。Unicode 値の詳細については、“Unicode 記号の使用” (221 ページ)を参照してください。

ヒント: Thorndale Duospace WT J は、PDF 出力先用のインラインスタイル Unicode 関数で使用されるデフォルトフォントです。

参照項目: “例: 基本インラインフォーマット関数” (228 ページ)

'Unicode 値'X

STAT/GRAPH で使用される構文です。16 進数の値は、一重または二重の引用符で囲み、その後ろに x を付けます。x は、引用符で囲まれた値が 16 進数となるよう指定します。この引用符付きの値は、4 桁の 16 進数の Unicode 値か、Base.Template.Tagsets に表示されている名前の 1 つにする必要があります。たとえば、03B2 はアルファ記号の Unicode 値です。Unicode 値の詳細については、“Unicode 記号の使用” (221 ページ)を参照してください。

ヒント:

Thorndale Duospace WT J は、PDF 出力先用のインラインスタイル Unicode 関数で使用されるデフォルトフォントです。

*Unicode 値*は、一重または二重引用符で囲むことができます。

例: 基本インラインフォーマット関数

要素:

ODS RTF ステートメント:

アクション: CLOSE

オプション: FILE=

他の要素:

OPTIONS ステートメント

PROC PRINT

TITLE ステートメント

詳細

次の例は、すべての出力先でサポートされるインラインフォーマット関数を示します。インラインフォーマット関数をネストさせる方法も示されています。この例では、使用される出力先は RTF です。

注: すべてのスタイルと色が正しく表示されることを確認するには、**Print Preview** を使用して出力を表示します。

プログラム

```
options nodate nonumber;
```

```
ods html close;
```

```
ods escapechar="^";
```



```

ods rtf file="rtfInlinFuncs.rtf";
ods pdf file="pdfInlinFuncs.pdf";

title "Examples of Inline Formatting Functions";

title2 'Example of ^{nbspspace 3} Non-Breaking Spaces Function';

title3 'Example of ^{newline 2} Newline Function';

title4 'Example of ^{raw \cf12 RAW} RAW function';

title5 'Example of ^{unicode 03B1} UNICODE function';

title6 "Example ^{style [foreground=red] of Super, Alpha ^{super ^{unicode ALPHA}
^{style [foreground=green] Nested}} Formatting} and Scoping";

title7 "Example of SUB, ^{sub
^{style [foreground=red] red
^{style [foreground=green] green } and
^{style [foreground=blue] blue styles }}} and SIGMA Functions";

proc print data=sashelp.class(obs=4);
run;

ods _all_ close;

```

プログラムの説明

日付とページ番号を無効にします。NODATE オプションは、日付と時刻の出力を無効にします。NONUMBER オプションは、出力の各ページの最初のタイトル行にページ番号を印刷しないよう SAS に命令するためのものです。

```
options nodate nonumber;
```

HTML 出力が作成されるように、HTML 出力先を閉じます。HTML 出力先はデフォルトでは開いています。ODS HTML ステートメントでは、リソースを節約するように HTML 出力先が閉じられます。

```
ods html close;
```

インラインフォーマットのエスケープ文字を設定します。

```
ods escapechar="^";
```

RTF および PDF 出力を作成します。ODS RTF ステートメントは RTF 出力先を開き、RTF 出力を作成します。ODS PDF ステートメントは PDF 出力先を開き、PDF 出力を作成します。

```
ods rtf file="rtfInlinFuncs.rtf";
ods pdf file="pdfInlinFuncs.pdf";
```

TITLE ステートメントを設定します。この TITLE ステートメントは、RTF 出力のトピックタイトルとなります。

```
title "Examples of Inline Formatting Functions";
```

NBSPACE 関数を示します。ハードスペース関数(NBSPACE)は、ユーザーが指定した個数のスペースをタイトルの出力に配置します。

```
title2 'Example of ^{nbspspace 3} Non-Breaking Spaces Function';
```

NEWLINE 関数を示します。NEWLINE 関数は、指定された数のラインフィードを、タイトルの出力に配置します。

```
title3 'Example of ^{newline 2} Newline Function';
```

RAW 関数を示します。RAW 関数は、ユーザーが指定したエスケープされたテキストを、表示されたとおりにファイル内に配置します。ODS 出力先は、認識がなされる特殊な命令を備えています。次のコード内の\`\cf12`は、RTF 出力先が認識して表示できる命令です。PDF 出力先は、この命令を認識しません。

```
title4 'Example of ^{raw \cf12 RAW} RAW function';
```

UNICODE 関数を示します。この TITLE ステートメントは、UNICODE 関数の動作を示します。

```
title5 'Example of ^{unicode 03B1} UNICODE function';
```

STYLE 関数および関数のネストを示します。この TITLE ステートメントは、スタイル属性 FOREGROUND=を使用して STYLE 関数を示します。次の例では、STYLE 関数、SUPER 関数および UNICODE 関数のネストも示されています。

```
title6 "Example ^{style [foreground=red] of Super, Alpha ^{super ^{unicode ALPHA}
^{style [foreground=green] Nested}} Formatting} and Scoping";
```

SUPER 関数および関数のネストを示します。この TITLE ステートメントは、スタイル属性 FOREGROUND=を使用して STYLE 関数を示します。次の例では、STYLE 関数、SUB 関数および SIGMA 関数のネストも示されています。

```
title7 "Example of SUB, ^{sub
^{style [foreground=red] red
^{style [foreground=green] green } and
^{style [foreground=blue] blue styles }}} and SIGMA Functions";
```

データセットを印刷します。

```
proc print data=sashelp.class(obs=4);
run;
```

ODS 出力先を閉じます。 ODS_ALL_CLOSE ステートメントは、RTF 出力先および PDF 出力先、ならびに関連付けられているファイル全部を閉じます。出力先を閉じないと、ブラウザウィンドウでファイルを表示できません。

```
ods _all_ close;
```

RTF 出力

この出力は、基本的なインラインフォーマット関数と、それを TITLE ステートメントで使用方法を示します。改行なしライン関数(NBREAK)で開始します。コードで使われる関数で、次の出力に表示されている他の関数は、NEWLINE、RAW、UNICODE、ALPHA、STYLE、SUPER、SUB および SIGMA です。この RTF 出力には、関数のネストも示されています。RTF 出力では、SUB 関数および SUPER 関数で生じるネストのレベルは 1 つのみです。

The screenshot shows a Microsoft Word document titled 'rtfInlinFuncs.rtf [Compatibility Mode]'. The document content includes several examples of inline formatting functions:

- Examples of Inline Formatting Functions
- Example of Non-Breaking Spaces Function
- Example of Newline Function
- Example of RAW RAW function
- Example of a UNICODE function
- Example of Super, Alpha^α Nested Formatting and Scoping
- Example of SUB, red green and blue styles and SIGMA Functions

Below the text examples is a table with the following data:

Obs	Name	Sex	Age	Height	Weight
1	Alfred	M	14	69.0	112.5
2	Alice	F	13	56.5	84.0
3	Barbara	F	13	65.3	98.0
4	Carol	F	14	62.8	102.5

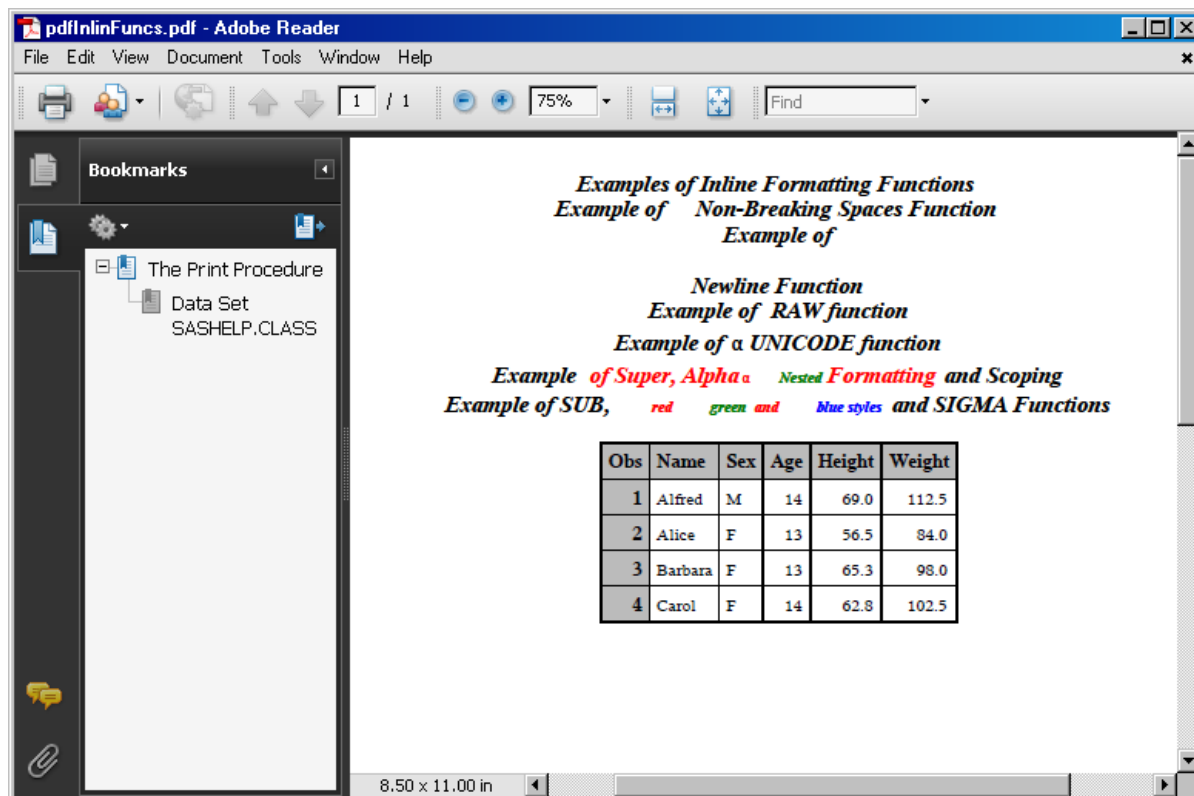
The status bar at the bottom indicates 'Page: 1 of 1' and 'Words: 30'. The zoom level is set to 100%.

PDF 出力

この出力は、基本的なインラインフォーマット関数と、それを TITLE ステートメントで使用方法を示します。改行なしライン関数(NBREAK)で開始します。コードで使われる関数で、次の出力に表示されている他の関数は、NEWLINE、RAW、UNICODE、STYLE、SUPER、SUB および SIGMA です。この PDF 出力には、関数のネストも示されています。SUB 関数および SUPER 関数は、PDF 出力先でネストさせ

ると実行されません。SUPER 関数は、ネストされる位置によっては `title6` で認識されません。PDF 出力先は、下付き値が直後に記述されていない SUB 関数を正しく認識しません。

また、`title4` では、PDF 出力先は RAW 関数で与えられる特殊な命令を表示できません。`\cf12` の命令は、RTF 命令です。



ODS EXCLUDE ステートメント

ODS 出力先から除外する出力オブジェクトを指定します。

該当要素: 任意の場所

カテゴリ: ODS: 出力制御

構文

ODS <ODS-destination> EXCLUDE *exclusion(s)* | ALL | NONE;

必須引数

exclusion(s)

除外リストに追加する 1 つ以上の出力オブジェクトを指定します。

デフォルトでは、ODS を使用する DATA ステップの最後またはプロシジャステップの最後に ODS によって除外リストは自動的に変更されます。これらのリストの変更に関する詳細は、次を参照してください。“[選択リストと除外リスト](#)” (49 ページ)

各除外項目の形式は次のとおりです。

output-object <(PERSIST)>

output-object

除外する 1 つ以上の出力オブジェクトを指定します。出力オブジェクトを指定するには、SAS プログラムによって生成される出力オブジェクトの種類を把握する必要があります。ODS TRACE ステートメントは、SAS プログラムにより生成される各出力オブジェクトのパス、ラベルおよびその他の情報からなるトレースレコードを SAS ログに書き込みます。出力オブジェクトは、次のいずれかの形式で指定できます。

- 完全パス。出力オブジェクトの完全パスの例を次に示します。

```
Univariate.City_Pop_90.TestsForLocation
```

- 部分パス。部分パスは、ピリオド(.)の直後に始まり、完全パスの最後まで続く、完全パスの一部です。たとえば、完全パスが次のとおりだとすると、

```
Univariate.City_Pop_90.TestsForLocation
```

部分パスは 次のようになります。

```
City_Pop_90.TestsForLocation
TestsForLocation
```

- 引用符で囲まれるラベルです。

例:

```
"The UNIVARIATE Procedure"
```

- ラベルパス。例えば、出力オブジェクトのラベルパスは次のようになります。

```
"The UNIVARIATE Procedure"."CityPop_90"."Tests For Location"
```

注: トレースレコードでラベルパスが表示されるのは、ODS TRACE ステートメントで LABEL オプションを指定する場合に限りです。

- 部分ラベルパス。部分パスは、ピリオド(.)の直後に始まるラベルの部分で構成され、ラベルの最後まで続きます。たとえば、ラベルパスが次のとおりだとすると、

```
"The UNIVARIATE Procedure"."CityPop_90"."Tests For Location"
```

部分ラベルパスは 次のようになります。

```
"CityPop_90"."Tests For Location"
"Tests For Location"
```

- ラベルとパスの組み合わせ。
- 任意の部分パスの指定の次にポンド記号(#)と数字が続きます。たとえば、**TestsForLocation#3** は名前が **TestsForLocation** の 3 番目の出力オブジェクトを示します。

参照項目: “ODS TRACE ステートメント” (696 ページ)。

(PERSIST)

次の内の 1 つを使ってリストを明確に変更するまで、選択リスト内の PERSIST オプションに先行する *output-object* を保持します。

- 任意の ODS SELECT ステートメント
- ODS EXCLUDE NONE
- ODS EXCLUDE ALL
- 同一の出力オブジェクトに適用されても、PERSIST を指定しない ODS EXCLUDE ステートメント

この処理は、DATA またはプロシジャステップが終了しても true です。
要件 PERSIST は、丸かっこで囲む必要があります。

ALL

ODS が開いている出力先に出カオブジェクトを送信しないよう指定します。

別名: ODS EXCLUDE DEFAULT

操作: 出力先を指定せずに ALL を指定する場合、ODS によって全リストが EXCLUDE ALL に設定され、その他の全リストはデフォルトに設定されます。

ヒント:

ODS EXCLUDE ALL を使用することは、出力先を閉じることと異なります。出力先は開いたままですが、出力オブジェクトは出力先に送信されません。

出力先を一時的に停止するには、ODS SELECT NONE を使用します。一時的に停止した出力先への出力オブジェクトの送信を再開するには、ODS SELECT ALL を使用します。

NONE

ODS がすべての出力オブジェクトを開いている出力先に送信するよう指定します。

操作: 出力先を指定せずに NONE 引数を指定する場合は、ODS によって全リストが EXCLUDE NONE に設定され、その他の全リストはデフォルトに設定されます。

ヒント:

ODS EXCLUDE NONE の機能は ODS SELECT ALL と同じです。

一時的に出力先を停止するには、ODS SELECT NONE を使用します。一時的に停止した出力先への出力オブジェクトの送信を再開するには、ODS SELECT ALL を使用します。

オプション引数**NOWARN**

出力オブジェクトが要求されたが作成はされなかったことを知らせる警告を非表示にします。

ODS-destination

ODS 出力先の除外リストへの書き込み先を指定します。ここで、*ODS-destination* は有効な ODS 出力先を示します。ODS 出力先に関する詳細は、“[ODS 出力先について](#)” (33 ページ)を参照してください。

デフォルト: *ODS-destination* を省略すると、ODS によって全除外リストに書き込まれます。

ヒント: 出力先の除外リストをデフォルト以外に設定するには、“[ODS OUTPUT ステートメント](#)” (455 ページ)を使用します。

WHERE=*where-expression*

特定の条件を満たす出力オブジェクトを除外します。たとえば、次のステートメントによって除外されるのは、名前に“Histogram”が含まれる出力オブジェクトのみとなります。

```
ods exclude where=(_name_ ? 'Histogram');
```

where-expression

演算子またはオペランドのシーケンスから構成される演算式または論理式です。*where-expression* の形式は次のとおりです。

```
(subsetting-variable <comparison-operatorwhere-expression-n> )
```

subsetting-variable

SAS で使用される WHERE 式オペランドの特別型式で、アイテムの共通値の検索に役立ちます。たとえば、この EXCLUDE ステートメントで除外されるのは、City_Pop_90.TestsForLocation

```
ods exclude / where=( _path_ = 'City_Pop_90.TestsForLocation' );
```

のパスを含む出力オブジェクトのみです。

subsetting-variable は次のいずれかです。

 LABEL
出力オブジェクトのラベルです。

 LABELPATH
出力オブジェクトのラベルパスです。

 NAME
出力オブジェクトの名前です。

 PATH
出力オブジェクトの完全パスまたは部分パスです。

演算子

変数を値または別の変数と比較します。演算子には、AND、OR NOT、OR、AND NOT、比較演算子を使用できます。

次の表では、比較演算子の一部をリストで示しています。

表 6.4 比較演算子の例

記号	ニーモニック相当	定義
=	EQ	等しい
^= または ~= または != または <>	NE	等しくない
>	GT	より大きい
<	LT	未満
>=	GE	以上
<=	LE	
	IN	リストの任意の値と等しい

詳細

任意の出力先の選択リストと別の出力先の除外リストを保持できます。しかし、出力をルーティングするすべての出力先に同類のリストを保持するほうが結果を容易に理解できます。

例: 出力オブジェクトを条件付きで除外し、別の出力先に送信する**要素:**

ODS EXCLUDE ステートメント:

オプション: ODS-Destination、WHERE=

ODS HTML ステートメントオプション:

CONTENTS=
 FRAME=
 PAGE=
 TEXT=

ODS PDF ステートメントオプション:

TEXT=
 STARTPAGE=

他の要素:

PROC UNIVARIATE

プログラム

```
options nodate;
data BPressure;
length PatientID $2;
input PatientID $ Systolic Diastolic @@;
datalines;
CK 120 50 SS 96 60 FR 100 70
CP 120 75 BL 140 90 ES 120 70
CP 165 110 JI 110 40 MC 119 66
FC 125 76 RW 133 60 KD 108 54
DS 110 50 JW 130 80 BH 120 65
JW 134 80 SB 118 76 NS 122 78
GS 122 70 AB 122 78 EC 112 62
HH 122 82
;
run;

ods html text='Systolic Blood Pressure' file='Systolic-body.html'
frame='Systolic-frame.htm'
contents='Systolic-contents.htm'
page='Systolic-page.htm';

ods pdf file='Diastolic.pdf' text='Diastolic Blood Pressure' startpage=no;

ods html exclude where=( _path_ ? "Diastolic" ) ;
ods pdf exclude where=( _path_ ? "Systolic" ) ;

proc univariate data=BPressure;
var Systolic Diastolic;
run;

ods html close;

ods pdf close;
```

プログラムの説明

BPressure データセットを作成します。


```

options nodate;
data BPressure;
length PatientID $2;
input PatientID $ Systolic Diastolic @@;
datalines;
CK 120 50 SS 96 60 FR 100 70
CP 120 75 BL 140 90 ES 120 70
CP 165 110 JI 110 40 MC 119 66
FC 125 76 RW 133 60 KD 108 54
DS 110 50 JW 130 80 BH 120 65
JW 134 80 SB 118 76 NS 122 78
GS 122 70 AB 122 78 EC 112 62
HH 122 82
;
run;

```

HTML 出力を作成し、テキストを追加します。

```

ods html text='Systolic Blood Pressure' file='Systolic-body.html'
frame='Systolic-frame.htm'
contents='Systolic-contents.htm'
page='Systolic-page.htm';

```

PDF 出力を作成し、テキストを追加します。

```

ods pdf file='Diastolic.pdf' text='Diastolic Blood Pressure' startpage=no;

```

出力オブジェクトを別の出力先から除外します。最初の ODS EXCLUDE ステートメントによって、HTML 出力先からパス名に'Diastolic'が含まれる出力オブジェクトが除外されます。2 番目の ODS EXCLUDE ステートメントによって、PDF 出力先からパス名に'Systolic'が含まれる出力オブジェクトが除外されます。

```

ods html exclude where=( _path_ ? "Diastolic" ) ;
ods pdf exclude where=( _path_ ? "Systolic" ) ;

```

出力オブジェクトを作成します。PROC UNIVARIATE によって各出力オブジェクトが出力配信システムに送信されますが、ODS は除外リスト内のアイテムに一致する PROC UNIVARIATE からの出力オブジェクトを開いている出力先に送信しません。

```

proc univariate data=BPressure;
var Systolic Diastolic;
run;

```

HTML 出力先を閉じます。ODS HTML CLOSE ステートメントによって、HTML 出力先とその関連ファイルすべてが閉じられます。出力先を閉じないと、SAS セッションを閉じるまで FRAME 属性によって指定された HTML ファイルを表示することができなくなります。

```

ods html close;

```

PDF 出力先を閉じます。この ODS PDF ステートメントによって、PDF 出力先とその関連ファイルすべてが閉じられます。

```

ods pdf close;

```

出力

アウトプット 6.3 シストリック出力オブジェクトを含む部分 HTML 出力

Table of Contents		The SAS System			
1. Univariate ·Systolic · Moments · Basic Measures of Location and Variability · Tests For Location · Quantiles · Extreme Observations		Systolic Blood Pressure			
		Moments			
		N	22	Sum Weights	22
		Mean	121.272727	Sum Observations	2668
		Std Deviation	14.283463	Variance	204.017316
		Skewness	1.12787257	Kurtosis	3.39471271
		Uncorrected SS	327840	Corrected SS	4284.36364
		Coeff Variation	11.777968	Std Error Mean	3.04524455
Table of Pages · Page 1 2. Univariate · Page 2		Basic Statistical Measures			
		Location		Variability	
		Mean	121.2727	Std Deviation	14.28346
		Median	120.0000	Variance	204.01732
		Mode	120.0000	Range	69.00000
				Interquartile Range	13.00000
		Note: The mode displayed is the smallest of 2 modes with a count of 4.			

アウトプット 6.4 ダイアストリック出力オブジェクトを含む部分 PDF 出力

The SAS System

Diastolic Blood Pressure

The UNIVARIATE Procedure
Variable: Diastolic

Moments			
N	22	Sum Weights	22
Mean	70.0909091	Sum Observations	1542
Std Deviation	15.1654654	Variance	229.991342
Skewness	0.39338753	Kurtosis	1.29287056
Uncorrected SS	112910	Corrected SS	4829.81818
Coeff Variation	21.6368508	Std Error Mean	3.2332881

Basic Statistical Measures			
Location		Variability	
Mean	70.09091	Std Deviation	15.16547
Median	70.00000	Variance	229.99134
Mode	70.00000	Range	70.00000
		Interquartile Range	18.00000

Tests for Location: Mu0=0			
Test	Statistic	p Value	
Student's t	t	21.6779	Pr > t <.0001
Sign	M	11	Pr >= M <.0001
Signed Rank	S	126.5	Pr >= S <.0001

Quantiles (Definition 5)

関連項目:

ステートメント

- “ODS SELECT ステートメント” (598 ページ)
- “ODS SHOW ステートメント” (614 ページ)
- “ODS TRACE ステートメント” (696 ページ)

ODS GRAPHICS ステートメント

グラフ処理を有効または無効にし、グラフ環境オプションを設定します。このステートメントは、ODS テンプレートベースのグラフ(ODS Graphics) にのみ影響します。ODS GRAPHICS ステートメントは、デバイスベースのグラフ(SAS/GRAPH) に影響しません。

- Valid in:** 任意の場所
- Category:** ODS: 出力制御
- Default:** ON
- Interaction:** GOPTIONS、SYMBOL、PATTERN、AXIS および LEGEND などのような SAS/GRAPH デバイスベースのグローバルステートメントは、テンプレートベースのグラフに影響しません。ODS GRAPHICS ステートメントは、デバイスベースのグラフに影響しません。
- Note:** SAS 9.3 以降、UNIX および Windows 環境において、ODS グラフはデフォルトで有効にされています。
- See:** ODS グラフを管理するための共通タスクに関する詳細は、次を参照。SAS *Graph Template Language: ユーザーガイド*

Syntax

ODS GRAPHICS <OFF | ON> </ オプション>;

Summary of Optional Arguments

ANTIALIAS= ANTIALIAS | NOANTIALIAS

グラフのラインおよびマーカのレンダリングに、が適用されているかどうか指定します。

ANTIALIASMAX= *n*

アンチエイリアスを無効にする前に、該当所見の最大数を指定します。

BORDER= | BORDER | NOBORDER

各グラフの周囲を縁どるか指定します。

DISCRETEMAX= *n*

どのグラフでも表示される離散値の最大数を指定します。

GROUPMAX= *n*

どのグラフでも表示されるグループ値の最大数を指定します。

HEIGHT= 寸法

グラフの高さを指定します。

IMAGEMAP= | IMAGEMAP | NOIMAGEMAP

データチップが生成されているか指定します。

IMAGENAME= "ファイル名"

ベース画像のファイル名を指定します。

LABELMAX= *n*

ラベルの貼り付けを無効にする前に、ラベルの貼られた領域の最大数を指定します。

MAXLEGENDAREA= *n*

凡例に使用できるグラフの全体領域のうちの最大パーセントとして解釈される整数を指定します。

OUTPUTFMT= *file-type* | STATIC

画像またはベクタグラフファイルを生成するのに使用される出力形式を指定します。

PANELCELLMAX= *n*

セルの数が分類変数で動的に判断されるグラフパネルのセルの最大数を指定します。

RESET | RESET= オプション

1 つまたはそれ以上の ODS GRAPHICS オプションをそれぞれのデフォルトにリセットします。

SCALE= | SCALE | NOSCALE

グラフのコンテンツが、均等に縮尺されているか指定します。

SCALEMARKERS= YES | NO | ON | OFF

プロットマーカが、グラフのサイズで縮尺されるべきか指定します。

TIPMAX=*n*

データチップが表示され続ける明確なマウスオーバー領域の最大数を指定します。

WIDTH= 寸法

グラフの幅を指定します。

Without Arguments

ODS の自動グラフ機能が無効にされた場合、オプション無しの ODS GRAPHICS ステートメントを指定することで有効にできます。ODS の自動グラフ機能が現在有効にされている場合、ODS GRAPHICS ステートメントを指定することで有効のままにできます。

Required Arguments

ON

ODS のグラフ処理を有効にします。引数が省略されている場合、ON がデフォルトになります。

Alias: YES

OFF

ODS グラフ処理を無効にします。

Alias: NO

Optional Arguments

ANTIALIAS= ANTIALIAS | NOANTIALIAS

いかなるグラフのラインおよびマーカのレンダリングに、アンチエイリアスが適用されているかどうか指定します。アンチエイリアスによって、斜線およびいくつかのマーカの外観が滑らかになります。グラフに表示されたテキストには、常にアンチエイリアスが適用されます。性能上の観点から、多数のポイントをプロットするグラフィックディスプレイの場合、ANTIALIAS=OFF を指定することが推奨されます。

ANTIALIAS= OFF | ON

グラフのラインおよびマーカのレンダリングに、アンチエイリアスが適用されるか指定します。

OFF

グラフでのテキスト以外のコンポーネントの鋸状の角は滑らかにされません。

Alias: NO

ON

グラフでのすべてのコンポーネントの鋸状の角が滑らかにされます。

Alias: YES

ANTIALIAS

グラフのすべてのコンポーネントの鋸状の角が滑らかにされます。

NOANTIALIAS

グラフでのテキスト以外のコンポーネントの鋸状の角は滑らかにされません。

Default: ON

Restriction: 図のマーカーまたはカーブポイントの数が、ANTIALIASMAX= オプションで指定されている数を超えた場合、ANTIALIAS オプションが無効になります。これは、ANTIALIAS=ON または ANTIALIAS を指定した場合にも当てはまります。

ANTIALIASMAX=*n*

アンチエイリアスを無効にする前に、該当所見の最大数を指定します。たとえば、アンチエイリアスすべきスキャターポイントマーカーが 400 以上あり、ANTIALIASMAX=400 の場合、1 つのマーカーもアンチエイリアスされません。

n

正の整数を指定します。

Default: 600

BORDER= | BORDER | NOBORDER

各グラフの周囲を縁どるか指定します。

BORDER= OFF | ON

グラフの最も外側のレイアウトを縁どるかどうか指定します。

ON

各グラフの周囲を縁どることを指定します。

Alias: YES

OFF

グラフの周囲を縁どらないことを指定します。

Alias: NO

BORDER

グラフの周囲に境界線を描くか指定します。

NOBORDER

いかなるグラフの周囲も縁どらないことを指定します。

Default: BORDER または BORDER=ON

DISCRETEMAX=*n*

どのグラフでも表示される離散値の最大数を指定します。バーチャートとボックス図は、影響を受けたプロットタイプの例です。スキャター図とその他の図は、プロットするデータまたは軸が離散している場合、影響を受けることがあります。

n

正の整数を指定します。

Default: 1000

Tips:

いくつかの図のレイヤーは、DISCRETEMAX=オプションの影響を受けない場合があるが、それらのレイヤーについてもレンダリングされます。すべてのレイヤーが影響を受けた場合、空のグラフがレンダリングされます。

DISCRETEMAX=オプションによって指定された値が、グラフのいかなる図レイヤーによって超えられた場合、そのレイヤーは描かれず、警告メッセージが表示されます。

GROUPMAX=*n*

どのグラフでも表示されるグループ値の最大数を指定します。GROUP= オプションをサポートするいかなるグラフが影響を受けます。

n

正の整数を指定します。

Default: 1000

Tip: GROUPMAX= オプションによって指定された値がそのグラフのいかなるプロットレイヤーによって超えられた場合、GROUP= オプションを無視してそのレイヤーがレンダリングされ、警告メッセージが表示されます。

HEIGHT= 寸法

グラフの高さを指定します。

寸法

負でない整数です。

See: [寸法 on page 1006](#)

Default: SAS レジストリエントリの "ODS > STATISTICAL GRAPHICS > Design Height" または STATGRAPH テンプレートの DesignHeight= オプションの値。通常、この値は 480px です。

Tip: HEIGHT= オプションのみが指定されている場合、グラフのデフォルト部分が保持されます。

OUTPUTFMT= *file-type* | STATIC

使用する形式を指定します。アクティブな出力先に画像またはベクタグラフ形式が無効な場合、出力先の出力形式は自動的にその出力先のデフォルト形式に変更されます。

file-type

生成される画像またはベクタグラフ形式です。次を参照してください。[“出力先のサポートされるファイルの種類” on page 248](#)

STATIC

アクティブな出力先に対して、最高品質のスタティック型画像形式を使用します。デフォルトは、

Default: STATIC

See: [“画像形式の指定” on page 247](#)

IMAGEMAP= | IMAGEMAP | NOIMAGEMAP

データチップの生成を制御します。データチップは、HTML ページに含まれるグラフのデータ部分にマウスオーバーした場合には表示される説明文の一部です。

IMAGEMAP= ON | OFF

データチップの生成を制御します。

OFF

データチップを生成しないように指定します。

Alias: NO

ON

データチップを生成するように指定します。

Alias: YES

IMAGEMAP

データチップを生成するように指定します。

NOIMAGEMAP

データチップを生成しないように指定します。

Default: OFF or NOIMAGEMAP

Restriction: このオプションは、ODS HTML 出力先が使用されている場合のみ適用されます。

IMAGENAME= "ファイル名"

ベース画像のファイル名を指定します。

1 つ以上の画像が生成された場合、それぞれにベース名としてファイル名が指定され、固有の名称を作成するためにその後に番号が追加されます。
 RESET=INDEX オプションでこのナンバリングをリセットできます。パス情報は、必要であれば、ODS 出力先のステートメントの GPATH= オプションでセットできます。デフォルトのパスは、現在の出力ディレクトリです。ファイル名用のファイル拡張子は、OUTPUTFMT=オプションに基づいて自動で生成されます。

Default: 出力オブジェクトの名前です。

Restriction: ファイル名は、単名にする必要があります。いかなるパス指定または画像形式名の拡張子を含めないでください。

Requirement: 引用符でファイル名を囲んでください。

See: “画像名の指定” on page 247

LABELMAX=*n*

ラベルの貼り付けを無効にする前に、ラベルの貼られた領域の最大数を指定します。たとえば、ラベルを貼る箇所が 50 ポイント以上あり、LABELMAX=50 の場合、1 つのポイントにもラベルが貼られません。

n

正の整数を指定します。

Default: 200

Restriction: 次の状態において、データラベル衝突回避が無効にされます。

- ノンミスのラベルの所見数は、LABELMAX=によって指定された値を超えた場合。
- 所見の数が、LABELMAX=によって指定された値の 5 倍を超えた場合。

その後、SAS ログにメッセージが送られます。

Tip: 衝突回避を無効にするには、LABELMAX=0 を指定します。

MAXLEGENDAREA=*n*

凡例に使用できるグラフの全体領域のうちの最大パーセントとして解釈される整数を指定します。

n

正の整数を指定します。

Default: 20

Tip: 凡例を無効にするには、MAXLEGENDAREA=0 を指定します。この方法で凡例が無効にされた場合、警告が発行されません。

PANELCELLMAX=*n*

セルの数が分類変数で動的に判断されるグラフパネルのセルの最大数を指定します。

n

正の整数を指定します。

Default: 10000

Tip: DataPanel または DataLattice レイアウトのグラフが影響を受けます。

PANELCELLMAX= オプションによって指定された値がこれらのいずれかのレイアウトによって超えられた場合、空のグラフがレンダリングされ、警告メッセージが発行されます。

RESET | RESET= オプション

1 つまたはそれ以上の ODS GRAPHICS オプションをそれぞれのデフォルトにリセットします。

RESET

すべてのオプションをそれぞれのデフォルトにリセットします。

RESET=

次の内の 1 つのオプションをデフォルトにリセットします。

ALL

すべての *reset-options* をそれぞれのデフォルトにリセットします。

ANTI_ALIAS

ANTI_ALIAS オプションをデフォルトにリセットします。

See: [ANTI_ALIAS= on page 241](#)

ANTI_ALIAS_MAX

ANTI_ALIAS_MAX オプションをデフォルトにリセットします。

See: [ANTI_ALIAS_MAX on page 242](#)

BORDER

BORDER= オプションをデフォルトにリセットします。

See: [BORDER= on page 242](#)

IMAGE_MAP

IMAGE_MAP= オプションをデフォルトにリセットします。

INDEX

背景画像ファイルに追加されたインデックスカウンターをリセットします。

HEIGHT

HEIGHT= オプションをデフォルトにリセットします。

See: [HEIGHT= on page 243](#)

IMAGE_MAP

IMAGE_MAP= オプションをデフォルトにリセットします。

Note: この機能をサポートしない出力先もあります。

See: [IMAGE_MAP= on page 243](#)

LABEL_MAX

LABEL_MAX= オプションをデフォルトにリセットします。

See: [LABEL_MAX= on page 244](#)

MAX_LEGEND_AREA=

LABEL_MAX= オプションをデフォルトにリセットします。

See: [MAX_LEGEND_AREA= on page 244](#)

SCALE

SCALE= オプションをデフォルトにリセットします。

See: [SCALE= on page 245](#)

TIP_MAX

TIP_MAX= オプションをデフォルトにリセットします。

See: [TIP_MAX = on page 246](#)

WIDTH=

WIDTH= オプションをデフォルトにリセットします。

SCALE= | SCALE | NOSCALE

グラフのコンテンツが、均等に縮尺されているか指定します。

NOSCALE

グラフのコンポーネントを均等に縮尺しません。

SCALE

グラフのコンポーネントを均等に縮尺します。

SCALE=
 グラフのコンテンツが均等に縮尺されているか指定します。

OFF
 グラフのコンポーネントを均等に縮尺しません。

Aliases:
 NOSCALE
 NO

ON
 グラフのコンポーネントを均等に縮尺します。

Alias: YES

Default: ON or SCALE

SCALEMARKERS=YES | NO | ON | OFF
 プロットマーカーが、グラフのサイズで縮尺されるべきか指定します。縮尺要因は、グラフセルの高さおよびグラフの高さに基づきます。

Default: ON

Restriction: 縮尺は、グラフが複数のセルまたはシングルネストされたセルを含む場合にのみ行われます。

TIPMAX=*n*
 データチップが表示され続ける明確なマウスオーバー領域の最大数を指定します。たとえば、スキャター図に 400 ポイント以上存在し、TIPMAX=400 である場合、いかなるデータチップも表示されません。

n
 正の整数を指定します。

Default: 500

WIDTH= 寸法
 グラフの幅を指定します。

寸法
 負でない数になります。

Default: SAS レジストリのエントリ"ODS > STATISTICAL GRAPHICS > Design Width"または、STATGRAPH テンプレートの DesignWidth= オプションの値です。通常、この値は、640px です。

Tip: WIDTH= オプションのみが指定されている場合は、グラフのデフォルト部分は保持されます。

See: [寸法 on page 1006](#)

Details

ODS GRAPHICS ステートメントの使用

次の同等のステートメントのいずれかを使用することで ODS グラフを有効にできます。

```
ods graphics on;
ods graphics;
```

プロシジャを起動する前に、いずれかのステートメントを指定した場合に、Base、SAS/STAT、SAS/ETS および SAS/QC プロシジャは、デフォルトでまたは特定のグラフをリクエストするためにプロシジャオプションを指定した場合、ODS グラフをサポートします。

ODS グラフを無効にするには、次のステートメントを指定します。

```
ods graphics off;
```

注: ODS グラフ(SGPLOT、SGPANEL、SGSCATTER および SGRENDER)を使用する SAS/GRAPH プロシジャの場合、ODS グラフは常に ON で、無効にできません。その他の製品について、ODS グラフの初期状態は SAS レジストリの設定で決定されます。

バッチジョブにおける ODS GRAPHICS ステートメントの使用

UNIX バッチジョブにおいてデバイスベースのグラフ出力を生成するには、出力を作成する前に DISPLAY システムオプションを設定しなければなりません。

```
export DISPLAY=<ip_address>:0
```

ディスプレイをセットするには、次のコマンドを入力します。ip_address は、TCP/IP アドレスまたは UNIX 端末の名称です。通常、SAS が実行されている UNIX システムの IP アドレスが使用されます。DISPLAY 変数を設定しない場合、SAS ログにエラーメッセージが表示されます。

画像名の指定

ODS グラフ出力には、デフォルトで、ODS オブジェクト名が画像出力ファイルに"root"名として使用されます。次の例は、REGPLOT という名の GIF 画像を作成します。

```
ods graphics / imagename="regplot" outputfmt=gif;
```

割り当てられた名称 REGPLOT は、"root"名として扱われ、最初の出力は、REGPLOT と名付けられます。それに続くグラフは、REGPLOT1、REGPLOT2 などと名付けられ、インデックスカウンターがインクリメントします。この例のすべてのグラフは、GIF 画像になります。

テンプレートを開発しているときに、希望する出力を得るためにいくつかのサブミッションを要する場合、それぞれの出力を強制的に置き換えさせるために、RESET または、RESET= オプションを試すことを推奨します。

```
ods graphics / reset=index ... ;
```

この仕様は、それに続くすべての画像をデフォルトまたは現行の画像名で作成させます。

画像形式の指定

各 ODS 出力先は、その出力用のデフォルト形式を使用します。出力形式を変更するために、ODS GRAPHICS ステートメントの OUTPUTFMT= オプションを使用できます。

Note: 画像形式を変更する必要がある場合、形式を変更しないことを推奨します。デフォルトの PNG またはベクタグラフ形式は、透明性や色の数にかけて、GIF などのその他の形式に比べて数段優れています。また、PNG およびベクタグラフ画像は、JPEG または TIFF 形式より少ない保存容量を要します。

ベクタグラフ画像を生成する場合、各出力先に次の OUTPUTFMT= 値を使用できます。

ODS 出力先	OUTPUTFMT=値
ODS LISTING	OUTPUTFMT=PS (PostScript 出力用)
	OUTPUTFMT=PDF (PDF 出力用)
	OUTPUTFMT=PCL (PCL 用)
	OUTPUTFMT=SVG

ODS 出力先	OUTPUTFMT=値
ODS HTML	OUTPUTFMT=SVG
ODS PDF	OUTPUTFMT=PDF (デフォルト)
ODS PCL	OUTPUTFMT=PCL (PCL 用)
ODS PS	OUTPUTFMT=PS (PostScript 出力用)
ODS PRINTER	OUTPUTFMT=PS (PostScript 出力用) OUTPUTFMT=PDF (PDF 出力用) OUTPUTFMT=PCL (PCL 用)
ODS RTF	IMAGEFMT=EMF

指定した形式でベクタグラフ画像が生成されない場合、その代わりとして PNG 画像が生成され、指定された出力ファイルに組み込まれます。その場合、出力ファイル形式および拡張子の変更されません。次の場合には、ベクターグラフ画像が生成できません。

- 表面のプロット
- 2変数のヒストグラム
- 滑らかな勾配の輪郭を使用するグラフ
- 連続的な凡例を含むグラフ
- データスキンを使用するグラフ
- 透明を利用するグラフ(EMF および PS ODS 出力先のみ)
- 1つまたはそれ以上の回転画像を含むグラフ

出力先のサポートされるファイルの種類

次の表は、ODS 出力先のサポートされるファイルのすべての種類を表示します。

表 6.5 出力先のサポートされるファイルの種類

出力先	サポートされるファイルの種類
HTML	PNG (デフォルト)、GIF、JPEG、JPG、PBM、SVG、EMF、BMP
LISTING	PNG (デフォルト)、BMP、DIB、EMF、EPSI、GIF、JFIF、JPEG、JPG、PBM、PDF、PS、SASEMF、STATIC、TIFF、WMF、XBM、XPM、PSL、SVG
LATEX	PS (デフォルト)、EPSI、GIF、PNG、PDF、JPG、PSL、EPS、EMF
PDF および PCL	SVG (デフォルト)、JPEG、JPG、GIF、PSL、EPS、EPSI、PDF、PCL、PNG、EMF
PS	PNG (デフォルト)、JPEG、JPG、GIF、PSL、EPS、EPSI、PDF、PCL、EMF

出力先	サポートされるファイルの種類
RTF	PNG(デフォルト)、JPEG、JPG、JFIF、EMF
マークアップタグセット	すべてのマークアップファミリタグセットに、デフォルト値が備えられています。

サポート対象のファイルの種類の説明

表 6.6 サポート対象のファイルの種類の説明

ファイルの種類	説明
BMP (Microsoft Windows 提供の、デバイスに依存しないビットマップ)	非圧縮または Run-length エンコードデータとして保存される、カラーマッピングされた True Color 画像をサポートします。BMP は、Microsoft 社により開発されました。
DIB (Microsoft Windows 提供の、デバイスに依存しないビットマップ)	BMP の説明を参照してください。DIB のサポート環境は、OS/2 オペレーティングシステムのみです。
EMF (Microsoft NT 提供の、拡張メタファイル)	サポートされる環境は、Windows 95、Windows 98、Windows NT のみです。
EPS	エンキャプサレイティッドポストスクリプト
EPSI (Microsoft NT 提供の、拡張メタファイル)	標準 PostScript (PS)形式の拡張バージョンこの形式を使用するファイルは、PostScript プリンタで印刷することが可能で、その他のアプリケーションにインポートすることもできます。ただし、EPSI ファイルは読み取り可能ですが、PS ファイルは読み取り不可です。
GIF (グラフ交換形式)	カラーマッピングされた画像のみサポートします。GIF の所有権は CompuServe, Inc. にあります。
JFIF (JPEG ファイル交換形式)	JPEG 画像の圧縮をサポートします。JFIF ソフトウェアは、Independent JPEG Group によって開発されました。
JPEG または JPG (ジョイントフォトグラフィックエキスパートグループ)	非インタラクティブ画像の保存に使用されるファイル形式。
PBM (ポータブルビットマップユーティリティ)	グレースケール、カラー、RGB、ビットマップの各ファイルをサポートします。PBM は、主に Jef Poskanzer 氏により開発された無料ユーティリティプログラムのセットです。
PCL	プリンターコントロール言語
PDF (ポータブルドキュメントフォーマット)	ドキュメントの電子的な配布および交換を行うためのファイル形式。
PNG (ポータブルネットワークグラフ)	True Color、グレースケール、8 ビットの各画像をサポートします。

ファイルの種類	説明
PS (PostScript 画像ファイル形式)	PostScript 画像演算子のみを使用する画像クラス。カラー画像にはレベル II PS プリンタが必要になります。PostScript は Adobe Systems, Inc.によって開発されました。
PSL (PostScript)	Postscript
SASEMF (拡張メタファイル)	RTF 出力用に調整された EMF 画像。
STATIC	現在の ODS 出力先に対して最適な画像形式を選択します。
SVG (Scalable Vector Graphics)	2次元のベクタグラフィックを記述するための XML 言語です。
TIFF (Tagged Image File Format)	ビットマップ、カラーマップ、グレースケールおよびトーンカラーを含むさまざまな圧縮型および画像型を内部でサポートします。TIFF は、Aldus 社と Microsoft 社により開発され、広い範囲のアプリケーションで使用されています(ライセンス化されている場合利用可能)。
WMF (Microsoft Windows Metafile)	Microsoft Windows オペレーティングシステムでのみサポートされます。
XBM	X Window Bitmap
XPM	X Window Pixmap

ODS HTML3 ステートメント

フォーマットされた HTML 3.2 出力を生成する HTML3 出力先を開いたり、管理または閉じたりします。

該当要素: どこでも可能

カテゴリ: ODS: サードパーティフォーマット

構文

ODS HTML3<(<ID=>*identifier*)> <*action*> ;

ODS HTML3 <(<ID=>*識別子*)> <*option(s)*> ;

オプション引数の要約

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送ります。

(ID= *identifier*)

同時に同出力先の複数のインスタンスを開いてください。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定してください。

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定してください。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入してください。

(URL='Uniform-Resource-Locator')

URL として *file-specification* の URL を指定してください。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます。

ANCHOR='anchor-name'

現行のボディファイルの各出力オブジェクトを識別するアンカータグに最適な独自のベース名を指定してください。

ARCHIVE='string'

ODS HTML 出力を閲覧するために使用するアプレットを指定してください。

ATTRIBUTES=(attribute-pair-1 ... attribute-pair-n)

動的なグラフィックス出力を生成するタグの間に書き込む属性を指定します。

BASE='base-text'

すべてのリンクの最初の部分として使用するテキストおよび出力ファイルにおいて ODS が作成したリファレンスを指定してください。

BODY='file-specification' (サブオプション)

マークアップファミリーの出力先を開き、ODS ステートメントにより作成された主な出力を含むファイルを指定してください。

CHARSET=character-set

HTML 出力用の META 宣言で生成される文字セットを指定してください。

CLOSE

出力先およびそれに関連するファイルを終了してください。

CODE='file-specification' <(サブオプション)>

HTML 出力先を開き、関連するスタイル情報を含むファイルを指定してください。

CODEBASE='string'

GOPTIONS デバイスが使用可能なファイルパスを作成してください。

CONTENTS='file-specification' <(サブオプション)>

HTML 出力先を開き、出力用の目次を含むファイルを指定してください。

CSSSTYLE='file-specification' <(media-type-1<...media-type-10)>>

出力に適用するカスケードスタイルシートを指定してください。

ENCODING=local-character-set-encoding

入力用のエンコーディングまたは、外部ファイルの出力処理(トランスコード)をオーバーライドしてください。

EVENT=event-name (FILE= | FINISH | LABEL= | NAME= | START | STYLE= | TARGET= | TEXT= | URL=)

イベントおよびイベントに関連するイベント変数用の値を指定してください。

EXCLUDE 除外 ALL | NONE

出力先から出力オブジェクトを除外してください。

FRAME='file-specification' <(サブオプション)>

目次、ページコンテンツ、およびボディファイルを統合するファイルを指定してください。

GFOOTNOTE | NOGFOOTNOTE

グラフィックス出力においてフットノートがプリントされるロケーションを制御してください。

GPATH= *'aggregate-file-storage-specification'* | [ファイル参照](#) | [libref.catalog](#)
(URL= *'Uniform-Resource-Locator'* | NONE)

出力先が開いている間に生成されたすべてのグラフィックス出力のロケーションを指定してください。

GTITLE | NOGTITLE

グラフィック出力のタイトルがプリントされているロケーションを制御してください。

HEADTEXT= *'markup-document-head'*

出力先が書き込むすべてのファイルのタグ< HEAD> および </HEAD> の間に配置する HTML タグを指定してください。

METATEXT= *'metatext-for-document-head'*

<META><の間、HEAD>HEAD>および<HEAD>出力先が書き込む先のすべてのファイルのタグとして使用する HTML コードを指定してください。

NEWFILE= *starting-point*

新しいボディファイルを指定された開始点に作成してください。

OPTIONS (DOC= | <サブオプション>)

tagset-specific サブオプションおよび名付けられた値を指定してください。

PACKAGE <*package-name*>

出力先からの出力を ODS パッケージに追加することを指定してください。

PAGE= *'file-specification'* <(サブオプション)>

HTML 出力先を開き、ボディファイルの各ページの説明およびボディファイルへのリンクを含むファイルを指定してください。

PARAMETERS= (*parameter-pair-1* ... *parameter-pair-n*)

動的グラフィックス出力を生成するタグの間に指定されたパラメータを書き込んでください。

PATH= *'aggregate-file-storage-specification'* | [ファイル参照](#) | [libref.catalog](#) (URL= *'Uniform-Resource-Locator'* | NONE)

累積保管場所のロケーションまたはすべてのマークアップファイル用の SAS カタログを指定してください。

RECORD_SEPARATOR= *'alternative-separator'* | NONE

出力ファイルのラインを分離するために代替の文字または文字列を指定してください。

SELECT [選択](#) | ALL | NONE

出力先用に出力オブジェクトを選択してください。

SHOW

SAS ログに出力先用の現行の選択または除外リストを書き込んでください。

STYLE= *style-definition*

出力ファイルを書く場合に使用するスタイル定義を指定してください。

STYLESHEET= *'file-specification'* <(サブオプション)>

HTML の出力先を開き、出力用のスタイル情報を外部ファイルに配置、または既存のファイルからスタイルシートを読み込んでください。

TEXT=*text-string*

文書にテキストを挿入してください。

TRANTAB= *'translation-table'*

出力用のファイルをトランスコーディングする際に変換表を指定してください。

引数なし

操作やオプションを含まない ODS HTML ステートメントを使用した場合、HTML3 先が開かれ、HTML3 出力が作成されます。

アクション

ODS HTML3 ステートメントでは、次の操作が利用可能です。

CLOSE

出力先およびそれに関連するファイルを終了します。プリンタの出力先の場合、出力先を終了するまでファイルをプリントできません。

ヒント: ODS 出力先が終了した場合、ODS は、その出力先に出力を送りません。不要な出力先を終了することで、システムリソースの節減します。

EXCLUDE 除外 | ALL | NONE

出力先から1つまたはそれ以上の出力オブジェクトを除外します。

デフォルト: NONE

制限事項: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

参照項目: “ODS EXCLUDE ステートメント” (232 ページ)

SELECT 選択 | ALL | NONE

指定された出力先用に出力オブジェクトを選択します。

デフォルト: ALL

制限事項: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

参照項目: “ODS SELECT ステートメント” (598 ページ)

SHOW

SAS ログに出力先用の現行の選択または除外リストを書き込みます。

制限事項: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

ヒント: 選択または除外リストがデフォルトのリスト(SELECT ALL)である場合、SHOW は、全体の選択または除外リストも書きます。選択または除外リストに関する詳細は、を“選択リストと除外リスト” (49 ページ)参照してください。

参照項目: “ODS SHOW ステートメント” (614 ページ)

オプション引数

次のオプションは、ステートメントのマークアップファミリの一部である ODSHTML3 ステートメントに利用できます。

ANCHOR= 'anchor-name'

現行のボディファイルの各出力オブジェクトを識別するアンカータグに最適な独自のベース名を指定します。

各出力オブジェクトは、参照するためにコンテンツ、ページ、およびフレームファイル用にアンカータグを持ちます。ODS により自動的に作成されたリンクとレファレンスは、アンカー名を指します。そのため、ファイルの各アンカー名は、固有名でなければなりません。

anchor-name

現行のボディファイルにおいて、各出力オブジェクトを識別するアンカータグのベース名です。

ODS は、指定した名称をインクリメントすることで独自のアンカー名を作成します。例えば、ANCHOR='TABULATE'を指定した場合、ODS は最初のアンカーに tabulate と名前を付けます。2番目のアンカー名が tabulate1 で、3番目が tabulate2、と名称が続きます。

制限事項: ファイルのアンカー名は、ユニークでなければなりません。

要件 引用符で anchor-name を囲まなければなりません。

操作: 追加するためにファイルを開いた場合、ファイルに再度同じアンカーを書き込むことを防ぐために、新しいアンカー名を必ず指定してください。ODS は、ファイルを開いた際に、既にファイルに存在するアンカーは、識別しません。

ヒント:

プログラムのどこかにマークアップファミリーの ANCHOR=オプションを指定することで、アンカー名を変更できます。アンカー名を指定した後に、新しいものを指定するまで有効になります。

プログラムのさまざまなポイントに新しいアンカー名を指定することで、他のウェブページをマークアップ言語の出力の特定の箇所にリンクできるようになります。アンカー名が変更された箇所を制御できるため、それらのポイントにおけるアンカー名を事前に知ることができます。

ARCHIVE='string'

ODS HTML 出力を閲覧するために使用するアプレットを指定します。
ARCHIVE= オプションは、GOPTIONS java デバイス用にのみ有効です。

文字列は、ブラウザが認識できるものでなければなりません。例えば、アーカイブファイルが SAS で実行中のコンピューターに対してローカルな場合、ファイルを識別するために FILE プロトコルを使用できます。Web サーバーのアーカイブファイルを指したい場合、HTTP プロトコルを使用してください。

デフォルト: ARCHIVE=を指定せず、JAVA デバイスドライバを使用している場合、ODS は SAS システムオプションの値である APPLETOC=を使用します。
ACTIVEX デバイスドライバを使用している場合、デフォルトはありません。

要件:

引用符で *string* を囲まなければなりません。

ARCHIVE 属性は、Java 1.1 の機能です。そのため Java デバイスドライバを使用している場合、ブラウザは、この Java バージョンをサポートしていなければなりません。Internet Explorer 4.01 と Netscape 4.05 の両方が、Java 1.1 をサポートします。

操作: ARCHIVE= を SAS/GRAPH プロシジャと共に使用し、GOPTIONS ステートメントにおいて DEVICE=JAVA または DEVICE=ACTIVEX オプションを使用してください。

ヒント:

ODS HTML 出力を閲覧するための SAS/GRAPH アプレットを SAS サーバーが、自動的に判断するため、このオプションを通常使用してはいけません。しかし JAR ファイルの名称を変更した場合、または ODS HTML 出力を閲覧するためのその他のアプレットを有する場合、このオプションはこれらのアプレットにアクセス可能にします。

ファイルパスを指定するために、CODEBASE= オプションを使用してください。
ARCHIVE= オプションにファイルパスを置かないことが推奨されます。

APPLETOC= の値は、SAS システムと一緒に送られる Java アーカイブのローケーションを指します。オプションの値を知るために、Environment Control の下の Files フォルダの Options ウィンドウを参照するか、次のプロシジャステップを発行できます。

```
proc options option=appletloc;
run;
```

ATTRIBUTES= (attribute-pair-1 ... attribute-pair-n)

動的なグラフィックス出力を生成するタグの間に指定された属性を書き込みます。

attribute-pair

各属性の名称および値を指定します。*attribute-pair* は、次のフォームを有します。

'attribute-name'='attribute-value'

attribute-name
属性の名称です。

attribute-value
属性の値です。

要件 引用符で *attribute-name* と *attribute-value* を囲まなければなりません。

操作: ATTRIBUTES=オプションを SAS/GRAPH プロシジャ および GOPTIONS ステートメントの DEVICE=JAVA、JAVAMETA、または ACTIVEX オプションと一緒に使用してください。

参照項目: *SAS/GRAPH: Reference* グラフアプレット、マップアプレット、コンターアプレット、および MetaView アプレット用の有効な属性

BASE= 'base-text'

すべてのリンクの最初の部分として使用するテキストおよび出力ファイルにおいて ODS が作成したレファレンスを指定します。

base-text
ODS が、すべてのリンクの最初の部分として使用するテキストおよびファイルにおいて ODS が作成したレファレンスです。

次の仕様を考慮してください。

```
BASE= 'http://www.your-company.com/local-url/'
```

この場合、ODS は、`http://www.your-company.com/local-url/`文字列で始まるリンクを作成します。適切な *anchor-name* でリンクが完成します。

要件 引用符で *base-text* を囲まなければなりません。

BODY= 'file-specification' (サブオプション)

マークアップファミリーの出力先を開き ODS ステートメントにより作成された主な出力を含むファイルを指定してください。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態になります。。

- *ODS markup-family-destination* CLOSE ステートメントまたは ODS _ALL_ CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーステートメントを使用して、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification
書き込み先のファイル、ファイル参照、または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

external-file
書き込み先の外部ファイルの名称です。
要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照
外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

制限事項: BODY=ファイル参照オプションは、NEWFILE= オプションと一緒に使用することはできません。

参照項目: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS ステートメント: リファレンス*)を参照してください。

エントリー。マークアップ
書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

操作: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

(サブオプション)

カッコ内に1つまたはそれ以上のサブオプションを指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次のようになります。

(DYNAMIC)

ファイルに書き込むのではなく、出力をウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE で [CONTENTTYPE=\(987 ページ\)](#)を参照してください。

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を、括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を 括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加する場合、動作環境に対して適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_BOTTOM_MATTER サブオプションは、NO_TOP_MATTER サブオプションを伴うことで、既存のファイルに出力を追加することを可能にし、ファイルの出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置できます。

ODS が、過去に書き込んだファイルを開く場合、アンカー用に新しいベース名を指定するために ANCHOR= オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、マークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの先頭にどのような開始マークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

The NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR= オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE= を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されません。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

要件:

括弧で URL='Uniform-Resource-Locator' を囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをレファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

別名: FILE=

操作: ODS マークアップの出力先に言及する ODS マークアップファミリーステートメントの BODY= オプションを使用することにより、ODS に出力先および関連するすべてのファイルを終了した後、出力先の新しいインスタンスを開くことを強制します。詳細は、“MARKUP 出力先を開く/閉じる” (438 ページ)を参照してください。

注: いくつかの TAGSET= の値に対して、出力は HTML ファイルで、他の TAGSET= の値に対して、出力は XML ファイルなどになります。

CHARSET= *character-set*

HTML 出力用の META 宣言で生成される文字セットを指定します。

参照項目: 詳細は、“CHARSET=オプション” (*SAS 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド*)を参照してください。

CODE= '*file-specification*' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、XSL (Extensible Stylesheet Language)等の関連するスタイル情報を含むファイルを指定します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります。

- ODS *markup-family-destination* CLOSE ステートメント または ODS *_ALL_* CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

参照項目: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS ステートメント: リファレンス*)を参照してください。

entrymarkup

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

操作: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論も参照してください。

サブオプション

1つまたはそれ以上のサブオプション を括弧で指定します。サブオプション は、出力ファイルを書くための指示です。サブオプション は、次のようになります。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE= スタイル属性の値を設定しま

す。詳細は、PROC TEMPLATE の [CONTENTTYPE= \(987 ページ\)](#) を参照してください。

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、マークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR= オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されません。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

要件:

括弧で URL='Uniform-Resource-Locator'を囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator'は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME=オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

CODEBASE='string'

実行可能な Java アプレットまたは、ActiveX コントロールファイルのロケーションを指定します。*string* は、パス名または URL を指定します。使用される GOPTIONS により、CODEBASE ファイルパスには、2つの出力先があります。

JAVA および ActiveX デバイスドライバでウェブプレゼンテーションを生成した場合に、SAS は、JAVA アーカイブファイルを自動的に検索する HTML ページまたは、デフォルトインストールロケーションに ActiveX コントロールファイルを生成しません。

ActiveX デバイス用

ActiveX コントロールを含む出力を生成する際に ODS を伴う ActiveX デバイスドライバを使用する場合、ODS の CODEBASE= オプションを指定してください。CODEBASE=オプションの値は、ロケーションおよび EXE ファイルのバージョンを含むべきです。

ヒント: 出力を閲覧するユーザーがマシンに ActiveX コントロールをインストールしていない場合を除き DEVICE=ACTIVEX オプションで CODEBASE= オプションを指定する必要はありません。コントロールをインストールしていないユーザーが出力を閲覧する場合、コントロールをダウンロードすることを促されます。

参照項目: SAS/GRAPH: Reference CODEBASE= および ARCHIVE= オプションを使用したコントロールおよびアプレットのロケーションの指定に関する詳細は、次を参照してください。

Java デバイス用

SAS/GRAPH アプレットを含む出力を生成するために、デバイスドライバを使用する場合、ODS ステートメントの CODEBASE= オプションを使用して JAR ファイルへのパスを指定してください。

DEVICE=JAVA を指定した場合、出力を閲覧するユーザーは、適切な Java アプレットにアクセスを有する必要があります。SAS は、デフォルトで、SAS により自動的にインストールされたアプレット用の実行可能ファイルに言及するために、CODEBASE= 値を設定します。SAS Java アーカイブファイルのデフォルトのロケーションは、APPLETLOC= システムオプションにより指定されています。次の両条件を満たしている場合、CODEBASE= オプションを指定する必要はありません。

- デフォルトのロケーションは、ウェブプレゼンテーションを閲覧するユーザーにより、アクセス可能です。
- SAS Java アーカイブは、そのロケーションにインストールされています。

ヒント: JAR ファイルのディレクトリのみ指定してください。CODEBASE=ロケーションは、パス名または URL として指定できます。

参照項目: SAS/GRAPH: Reference CODEBASE= および ARCHIVE= オプションを使用したコントロールおよびアプレットファイルのロケーションの指定に関する詳細は、次を参照してください。

CONTENTS= 'file-specification' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、出力用の目次を含むファイルを指定します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります。:

- ODS *markup-family-destination* CLOSE ステートメントまたは ODS _ALL_ CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

参照項目: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS* ステートメント: リファレンス)を参照してください。

entry.markup

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

操作: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

サブオプション

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次のようになります。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。この設定は、CONTENTTYPE= スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の CONTENTTYPE= (987 ページ)を参照してください。

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣、あるいは、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR= オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されません。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを目指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

要件:

URL='Uniform-Resource-Locator'を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

CSSSTYLE= 'file-specification' <(media-type-1<...media-type-10)>

出力に適用するカスケードスタイルシートを指定します。

file-specification

CSS コードを含むファイル、ファイル参照、または、URL を指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

"external-file"

外部ファイルの名称です。

要件 括弧で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルリファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

参照項目: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS* ステートメント: リファレンス)を参照してください。

"URL"

外部ファイルへの URL です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

(*media-type-1* < *media-type-10* >)

出力にレンダリングされるメディアの種類に対応する1つまたはそれ以上のメディアブロックを指定します。文書が、スクリーン、紙、スピーチシンセサイザー、点字装置、等々の異なるメディアにどのように提示されるか指定するために、CSS は、メディアタイプを使用します。

メディアブロックは、いかなるメディアブロックに含まれていないCSSコードを伴い出力に追加されます。*media-type* サブオプションを使用することで一般のCSSコードを伴い、特定のメディアタイプを対象とするCSSファイルの項目をインポートできます。

デフォルト: ODS ステートメントにいかなる *media-type* が指定されていないが、CSS ファイルにメディアタイプが指定されている場合、ODS は、Screen メディアタイプを使用します。

範囲: 異なる10個のメディアタイプを指定できます。

要件:

括弧で *media-type* を囲まなければなりません。

CSSSTYLE= オプションで指定された *file-specification* の隣に、*media-type* を指定しなければなりません。

ヒント: 複数のメディアタイプを指定した場合、出力にすべてのメディアタイプのすべてのスタイル情報が適用されます。しかし、異なるメディアブロックにおいて重複するスタイル情報が存在する場合、最後のメディアブロックのスタイルが使用されます。

制限事項: CSSSTYLE= オプションは、SAS/GRAPH 出力に影響を与えません。

要件 CSS ファイルは、ODS HTML ステートメントにより作成された CSS と同じ種類で書き込まなければなりません。ID や文脈ベースのセレクターの無いクラス名のみがサポートされます。ODS が作成する CSS コードを閲覧するには、次の内の1つを行ってください。

- STYLESHEET= オプションを指定してください。
- HTML ファイルのソースを閲覧して、ファイルの上部の < STYLE> </STYLE> タグの間のソースを閲覧してください。

有効な ODS CSS ファイルの例は、“[例 6: ODS 出力へ CSS ファイルの適用](#)” (448 ページ)を参照してください。

操作: STYLE= オプションおよび CSSSTYLE= オプションの両方が、ODS ステートメントに指定されている場合、最後に指定されたオプションが使用されます。

例: “[例 6: ODS 出力へ CSS ファイルの適用](#)” (448 ページ)

ENCODING= *local-character-set-encoding*

入力用のエンコーディングまたは、外部ファイルの出力処理(トランスコード)をオーバーライドします。

参照項目: ENCODING= オプションに関する詳細は、“ENCODING システムオプション: UNIX、Windows、および z/OS” (*SAS 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド*)次を参照してください。

EVENT= *event-name* (FILE= | FINISH | LABEL= | NAME= | START | STYLE= | TARGET= | TEXT= | URL=)

イベントおよびイベントに関連するイベント変数用の値を指定します。

(FILE= BODY | CODE | CONTENTS | DATA | FRAME | PAGES | STYLESHEET);

BODY=、CODE=、CONTENTS=、FRAME=、PAGES=、および STYLESHEET= オプションに対応する出力ファイルの既知の種類の中の1つをトリガーします。

(FINISH)

イベントの終了項目をトリガーします。

参照項目: 詳細は、“[イベントについて](#)” (1167 ページ)を参照してください。

(LABEL=*'variable-value'*)

LABEL イベント変数用の値を指定します。

要件 *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

参照項目: LABEL イベント変数に関する詳細は、“[イベント変数](#)” (1211 ページ)次を参照してください。

(NAME=*'variable-value'*)

NAME イベント変数用の値を指定します。

要件 *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

参照項目: NAME イベント変数に関する詳細は、“[イベント変数](#)” (1211 ページ)を参照してください。

(START)

イベントの開始項目をトリガーします。

参照項目: イベントに関する詳細は、“イベントについて” (1167 ページ)次を参照してください。

(STYLE=*style-element*)

スタイルエレメントを指定します。

参照項目: スタイルエレメントに関する詳細は、“スタイル属性の概要” (968 ページ)次を参照してください。

(TARGET=*variable-value*)

TARGET イベント変数用の値を指定します。

要件 *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

参照項目: TARGET イベント変数に関する詳細は、“イベント変数” (1211 ページ)次を参照してください。

(TEXT=*variable-value*)

TEXT イベント変数用の値を指定します。

要件 *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

参照項目: TEXT イベント変数に関する詳細は、“イベント変数” (1211 ページ)を参照してください。

(URL=*variable-value*)

URL イベント変数用の値を指定します。

要件 *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

参照項目: URL イベント変数に関する詳細は、“イベント変数” (1211 ページ)を参照してください。

デフォルト: (FILE='BODY')

要件 The EVENT= オプションのサブオプションを括弧で囲まなければなりません。

FRAME= 'file-specification' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、HTML 出力用に、目次、ページコンテンツ、およびボディファイルを統合するファイルを指定します。フレームファイルを開くと目次、ページコンテンツ、またはその両方、およびボディファイルを閲覧できます。XML 出力用に、FRAME= は、DTD を含むファイルを指定します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります

- ODS *markup-family-destination* CLOSE ステートメント または ODS *_ALL_* CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

参照項目: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)次を参照してください。

entry.markup

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

操作: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

サブオプション(s)

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次の内の1つになります。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の [CONTENTTYPE= \(987 ページ\)](#) を参照してください。

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification*

BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: NO_BOTTOM_MATTER サブオプションおよび ANCHOR= オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されません。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます。

要件:

URL='Uniform-Resource-Locator' を括弧で囲まなければなりません。'

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをレファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

制限事項: FRAME=オプションを指定した場合、CONTENTS= オプション、PAGE= オプション、または両方を指定しなければなりません。

例: “例 2: XML ファイルと DTD の作成” (441 ページ)

GFOOTNOTE | NOGFOOTNOTE

グラフィックス出力においてフットノートがプリントされるロケーションを制御します。

GFOOTNOTE

SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたフットノートをプリントします。フットノートは、グラフのボーダー内に表示されます。

NOGFOOTNOTE

グラフのボーダー外に表示される ODS により作成されたフットノートをプリントします。

デフォルト: GFOOTNOTE

制限事項:

マークアップ言語により表示されるフットノートは、すべての SAS/GRAPH FOOTNOTE ステートメントオプションをサポートします。フォントは、ブラウザ用に有効でなければなりません。テキスト角度の仕様など ODS が扱えないオプションは無視されます。SAS/GRAPH FOOTNOTE ステートメントに関する詳細は、“FOOTNOTE Statement” in *SAS/GRAPH: Reference* を参照してください。

このオプションは、1つまたはそれ以上のデバイスベースのグラフィックスを作成する SAS プログラム または、SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたグラフィックスにのみ適用されます。

GPATH= 'aggregate-file-storage-specification' | **ファイル参照** | libref.catalog (URL= 'Uniform-Resource-Locator' | NONE)

出力先が開いている間に生成されたすべてのグラフィックス出力のロケーションを指定します。マークアップファイル用の PATH= オプションで指定されたものとは異なるロケーションにグラフィックス出力を書き込みたい場合にこのオプションを使用してください。無効なファイル名を指定した場合、ActiveX および Java デバイスはデフォルトのファイル名に出力を送ります。その他のデバイスはファイルをディレクトリとして作成して、そのディレクトリに出力を書き込みます。ODS が、カタログエントリおよび外部ファイルに名称を付ける方法に関する 詳細は、次を参照してください。 *SAS/GRAPH: Reference*

'aggregate-file-storage-location'

ディレクトリ、フォルダ、または分割されたデータセット等の累積保存ロケーションを指定します。

要件 引用符で *aggregate-file-storage-location* を囲まなければなりません。

ファイル参照

累積保存ロケーションに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメント を使用してください。

操作: GPATH= オプションにおいてファイル参照を指定した場合、ODS は、リンクを構築する際に、GPATH=オプションからの情報を使用しません。

参照項目: FILENAME ステートメントに関する詳細は、“FILENAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)次を参照してください。

ライブラリ参照. *catalog*

書き込む先の SAS カタログを指定します。

URL= 'Uniform-Resource-Locator' | NONE
file-specification の URL を指定します。

Uniform-Resource-Locator

指定した URL です。ODS は、ファイルに作成するすべてのリンクおよびリファレンスにおいてファイル名ではなくこの URL を使用します。

要件 引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

NONE

リンクまたはリファレンスに GPATH=オプションからのいかなる情報が表示されないことを指定します。

ヒント: このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツまたはページファイルからのリンクが簡単な URL (単一名)で構築されている場合、コンテンツ、ページ、およびボディファイルさえ同一のロケーションにあれば、それらは解決します。

デフォルト: GPATH= オプションを除外すると、ODS は、PATH= オプションにより指定されたロケーションにグラフィックスを保存します。PATH=オプションを指定しない場合、ODS は、グラフィックスを現行のディレクトリに保存します。詳細は、PATH= オプションを参照してください。

GTITLE | NOGTITLE

グラフィック出力のタイトルがプリントされているロケーションを制御します。

GTITLE

SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたタイトルをプリントします。タイトルは、グラフボーダーの内部に表示されます。

NOGTITLE

グラフボーダーの外部に表示される ODS により作成されたタイトルをプリントします。

デフォルト: GTITLE

制限事項:

いかなるマークアップ言語のステートメントにより表示されるタイトルは、大部分の SAS/GRAPH TITLE ステートメントオプションをサポートします。フォントは、ブラウザ用に有効でなければなりません。テキスト角度の仕様など ODS が扱えないオプションは無視されます。SAS/GRAPH TITLE ステートメントに関する詳細は、TITLE ステートメントを参照してください。

このオプションは、1つまたはそれ以上のデバイススペースのグラフィックスを作成する SAS プログラム または、SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたグラフィックスにのみ適用されます。

HEADTEXT= 'markup-document-head'

出力先が書き込むすべてのファイルのタグ < HEAD> および < /HEAD> の間に配置する HTML タグを指定します。

markup-document-head

< HEAD> および < /HEAD>の間に配置するマークアップタグを指定します。

制限事項: HEADTEXT= は、256 文字を超えてはなりません。

要件 *markup-document-head* を引用符で囲まなければなりません。

ヒント:

ODS は、提供するマークアップを解析できません。それは、<HEAD>および</HEAD>タグとの関連で、well-formed マークアップでなければなりません。

後で、ファイルで使用できるプログラム(JavaScript) 等を定義するために HEADTEXT=オプションを使用してください。

(ID= identifier)

同時に同出力先の複数のインスタンスの実行を可能にします。各インスタンスは、異なるオプションを有します。

identifier

既に開かれた出力先のもう1つのインスタンスを指定します。*identifier* は、文字または、アンダーラインで始まる数字または連続した文字です。後続の文字は、文字、アンダーライン、および数字を含むことができます。

制限事項: もし *identifier* が数値の場合、正の整数にする必要があります。

要件 ID= オプションは、ODS *MARKUP/TAGSET* ステートメントキーワードの直後に指定しなければなりません。

ヒント: ID= オプションを除外し、インスタンスを識別するために代わりに名前または数字を使用できます。

例: “例: 同時に同じ出力先のインスタンスを複数開く” (499 ページ)

METATEXT= 'metatext-for-document-head'

<META><<の間、HEAD>HEAD>および<HEAD>出力先が書き込む先のすべてのファイルのタグとして使用する HTML コードを指定します。

'metatext-for-document-head'

ブラウザにロードする文書に関する情報を提供する HTML コードを指定します。例えば、この属性は、コンテンツの種類および使用される文字セットを指定できます。

要件 引用符で *metatext-for-document-head* を囲まなければなりません。

デフォルト: METATEXT=を指定しない場合、ODS は、作成するすべての HTML ファイルに文書のコンテンツの種類および使用する文字セットを含む簡単な <META> タグを書きます。

制限事項: METATEXT= は、256 文字を超えてはなりません。

ヒント: ODS は、提供する HTML コードを解析できません。HTML コードは、<HEAD>タグの脈絡において正確で、良く構築されていなければなりません。METATEXT= を意図された通りに使用した場合、META タグは次のように見えます。

```
<META your-metatext-is-here>
```

NEWFILE= starting-point

新しいボディファイルが指定された *starting-point* に作成します。

starting-point

新しいボディファイルを作成するのに適した出力のロケーションです。

ODS は、ボディファイル名をインクリメントすることで自動的に新しいファイル名を付けます。次の例で、ODS は、初めのボディファイルの名付けます。

REPORT.XML 追加のボディファイルが名付けられます。REPORT1.XML, REPORT2.XML, 等

例

```
BODY= 'REPORT.XML'
```

starting-point は、次の内の1つです。

BYGROUP

各 BY グループの結果用に新たなファイルを開始します。

NONE

現在開かれているボディファイルにすべての出力を書き込みます。

OUTPUT

各出力オブジェクト用に新たなファイルを開始します。SAS/GRAPH に対して、これは、ODS がプログラムが生成した各 SAS/GRAPH 出力ファイル用に新たなファイルを作成することを意味します。

別名: TABLE

PAGE

出力の各ページ用に新たなボディファイルを開始します。改ページは、手順が明示的に新たなページを開始(ページのサイズが足りないからではなく)または、新たなプロシジャを開始する時点で発生します。

PROC

新たな手順を開始する度に新たなボディファイルを開始します。

デフォルト: NONE

制限事項: NEWFILE= オプションは、BODY=ファイル参照 オプションと一緒に使用できません。

ヒント:

ファイル名を数字で終了した場合、ODS はその数字の増加を開始します。次の例で、ODS は、最初のボディファイル *MAY5.XML* の名付けをします。追加のボディファイル名は、*MAY6.XML*, *MAY7.XML*, 等となります。

例

```
BODY= 'MAY5.XML'
```

OPTIONS (DOC= |<サブオプション>)

tagset-specific サブオプションおよび名付けられた値を指定します。

(DOC= 'HELP' |'QUICK' | 'SETTINGS' | 'CHANGELOG')

指定されたタグセットについての情報を提供します。

HELP

簡易参照で、一般的なヘルプおよび情報を提供します。

QUICK

このタグセットで利用可能なオプションを説明します。

SETTINGS

現行のオプション設定を提供します。

CHANGELOG

タグセットへの変更履歴をリストします。このサブオプションは、RTF タグセットにおいてのみサポートされています。

要件 すべての値は、引用符で囲まなければなりません。

サブオプション(s)

指定されたタグセットに有効な1つまたはそれ以上のサブオプションを指定します。サブオプションは、次のフォーマットを有します。

```
keyword='value'
```

タグセット用のサブオプションの情報を得るために、ODS タグセットステートメントを開く時、または出力先が開かれたいかなる時に、次のオプションの内の1つを指定してください。

- **オプション (doc='help');**

- オプション (doc='quick');
- オプション (doc='settings');

要件 OPTION サブオプションを括弧で囲まなければなりません。

例: “例: ODS TAGSETS.HTMLPANEL 情報を得るために DOC サブオプションを使用。” (651 ページ)

PACKAGE <package-name>

出力先からの出力を ODS パッケージに追加することを指定します。

package-name

ODS PACKAGE ステートメントで作成されたパッケージの名称を指定します。指定された名称が無い場合、出力は最後に開かれた名称の付けられていないパッケージに追加されます。

参照項目: “ODS PACKAGE ステートメント” (469 ページ)

例: “例 1: ODS パッケージの作成” (473 ページ)

PAGE= 'file-specification' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、ボディファイルの各ページの説明およびボディファイルへのリンクを含むファイル指定します。ODS は、手順が新たなページを要求した際に、出力の新しいページを作成します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります。

- ODS markup-family-destination CLOSE ステートメントまたは ODS _ALL_ CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の 1 つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

要件 引用符で external-file を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイル参照です。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

参照項目: FILENAME ステートメントに関する詳細は、“FILENAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)次を参照してください。

入力。マークアップ

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

操作: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

サブオプション

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次のようになります。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の CONTENTTYPE= (987 ページ)を参照してください。

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: The NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR= option

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されません。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます。

要件:

URL='Uniform-Resource-Locator'を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

操作: SAS システムオプションの PAGESIZE=は、バッチ出力を作成する時以外は、HTML 出力のページに影響を与えません。PAGESIZE= オプションに関する詳細は、“PAGESIZE= System Option” in *SAS System Options: Reference* を参照してください。

PARAMETERS= (*parameter-pair-1 ... parameter-pair-n*)

動的グラフィックス出力を生成するタグの間に指定されたパラメータを書き込みます。

parameter-pair

各パラメータの名称および値を指定します。*parameter-pair* は、次の形態を有します。

'*parameter-name*'= '*parameter-value*'

parameter-name

パラメータの名称です。

parameter-value

パラメータの値です。

要件 引用符で *parameter-name* および *parameter-value* を囲まなければなりません。

操作: PARAMETERS=を SAS/GRAPH プロシジャおよび GOPTIONS ステートメントの DEVICE=JAVA、JAVAMETA、または ACTIVEX オプションと一緒に使用してください。

参照項目: SAS/GRAPH: Reference グラフアプレット、マップアプレット、カンターアプレット、およびメタビューアプレット用に有効なパラメータ

PATH= '*aggregate-file-storage-specification*' | **ファイル参照** | *libref.catalog* (URL= '*Uniform-Resource-Locator*' | NONE)

累積保管場所のロケーションまたはすべてのマークアップファイル用の SAS カタログを指定します。GPATH= オプションが指定されていない場合、すべてのグラフィックスファイルは、“*aggregate-file-storage-specification*”または、**ライブラリ参照**に書き込まれます。

'aggregate-file-storage-location'

ディレクトリ、フォルダ、または分割されたデータセット等の累積保存ロケーションを指定します。

要件 引用符で *aggregate-file-storage-location* を囲まなければなりません。

ファイル参照

累積保存ロケーションに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

操作: PATH= オプションのを使用した場合、ODS は、リンクを構築する際に PATH= からの情報を使用しません。

参照項目: FILENAME ステートメントに関する詳細は、“FILENAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)を参照してください。

ライブラリ参照。 *catalog*

書き込む先の SAS カタログを指定します。

参照項目: LIBNAME ステートメントに関する詳細は、“LIBNAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)を参照してください。

URL= '*Uniform-Resource-Locator*' | NONE

file-specification の URL を指定します。

Uniform-Resource-Locator

指定した URL です。ODS は、ファイルに作成するすべてのリンクおよびレファレンスにおいて ファイル名ではなくこの URL を使用します。

NONE

リンクまたはレファレンスに GPATH=オプションからのいかなる情報が表示されないことを指定します。

ヒント: このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは、single-name URL で構築しなければならず、コンテンツ、ページ、およびボディファイルは、同じロケーションになければなりません。

操作: BODY= または、FILE=外部ファイルオプションを PATH= オプションと一緒に使用した場合、外部ファイル仕様にパス情報を含めるべきではありません。

RECORD_SEPARATOR= 'alternative-separator' | NONE

出力ファイルのラインを分離するために代替りの文字または文字列を指定します。

異なる動作環境において、異なるセパレーター文字を使用します。レコードセパレーターを指定しない場合、SAS ジョブを起動する環境用にファイルをフォーマットします。しかし、異なるセパレーター文字を使用する異なる動作環境で閲覧するためにファイルを生成する場合、対象の環境に適切なレコードセパレータを指定できません。

alternative-separator

1 またはそれ以上の文字を 16 進または ASCII フォーマットで表わします。例えば、次のオプションは、キャリッジリターン文字用のレコードセパレータ および ASCII ファイルシステムで使用するラインフィード文字を指定します。

```
RECORD_SEPARATOR= '0D0A'x
```

動作環境の情報

メインフレーム環境において、次のオプションは、キャリッジリターン文字用のレコードセパレータ および ASCII ファイルシステムで使用するラインフィード文字を指定します。

```
RECORD_SEPARATOR= '0D25'x
```

要件 引用符で *alternative-separator* を囲まなければなりません。

NONE

SAS ジョブを実行する環境に適切なマークアップ言語を作成します。

Windows 固有

メインフレーム環境において、デフォルトで、ODS は、組み込み式レコードセパレータ文字を含むバイナリファイルを作成します。バイナリファイルは、ASCII ファイルのラインの長さ制限により制限されていません。しかし、テキストデータのバイナリファイルを閲覧すると、ラインは一緒に実行されます。テキストデータでファイルを読むことを可能にするためにファイルをフォーマットしたい場合、RECORD_SEPARATOR= NONE を使用してください。この場合、ODS は、一度に1行のマークアップ言語をファイルに書き込みます。NONE の値を使用する場合、書き込む先のファイルの論理的レコードの長さは、最低でも ODS が作成するラインの最長の長さでなければなりません。ファイルの論理的レコードの長さが十分でない場合、マークアップ言語は、適切な場所でその他のラインにラップする可能性があります。

別名:

RECSEP=

RS=

STYLE= style-definition

出力ファイルを書く場合に使用するスタイル定義を指定します。

style-definition

SAS 出力の体裁特徴(色、フォントファース、フォントサイズ、等々)の表示方法を説明します。スタイル定義は、それを使用する文書の全体の体裁を決定します。各スタイル定義は、スタイル要素で構成されます。

操作: STYLE= オプションは、XML 出力を作成している場合は、無効となります。

参照項目: スタイル定義に関する完全な討議は、13章、“[TEMPLATE プロシジャ: スタイルテンプレートの作成](#)” (942 ページ)を参照してください。

デフォルト: スタイル定義を指定しない場合は、ODS は、SAS レジストリのサブキー — ODS ⇒ DESTINATIONS ⇒ MARKUP に指定されているファイルを使用します。この値は、デフォルトで、*Default* を指定します。

操作: ODS HTML4 ステートメントで STYLE= オプションを指定した場合、続いて、もう1つの ODS HTML4 ステートメントで新しいスタイル定義を使用するために PROC PRINT 出力が必要な場合、2番目のステートメントを指定する前に、最初のステートメントを終了してください。

STYLESHEET= 'file-specification' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、マークアップ出力用のスタイル情報を外部ファイルに配置、または既存のファイルからスタイルシート of 情報を読み込みます。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります。

- *ODS markup-family-destination* CLOSE ステートメント または ODS _ALL_ CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の 1 つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

参照項目: FILENAME ステートメントに関する詳細は、“[FILENAME ステートメント](#)” (*SAS ステートメント: リファレンス*)を参照してください。

entry, markup

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

操作: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

サブオプション

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。次のサブオプションが利用可能です。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の [CONTENTTYPE=](#) (987 ページ)を参照してください。

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=

- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR=オプション

(TITLE=*title-text*)

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE= を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されません。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL=*Uniform-Resource-Locator*)

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを目指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます。

要件:

URL=*Uniform-Resource-Locator* を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL=*Uniform-Resource-Locator* は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをレファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

注: デフォルトで、別のファイルに特に情報を送らない場合、スタイルシート情報は指定された HTML ファイルに含まれます。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

TEXT=*text-string*

パラグラフのイベントをトリガーすることで文書にテキストを挿入し、VALUE イベント変数に割り当てられるテキストの文字列を指定します。

デフォルト: デフォルトで、TEXT=オプションは、パラグラフイベントで使用されています。

ヒント: 次の構文を使用することで、EVENT= オプションを伴う TEXT= オプションを使って特定のイベント用の *text-string* を指定できます。

EVENT=*event-name* (TEXT=*text-string*)

参照項目: イベントおよびイベント変数に関する詳細は、15 章、“[TEMPLATE プロシジャ: マークアップ言語のタグセットの作成](#)” (1166 ページ)を参照してください。

例: “例: 出力オブジェクトを条件付きで除外し、別の出力先に送信する” (235 ページ)

TRANTAB= '*translation-table*'

出力用のファイルをトランスコーディングする際に変換表を指定します。

参照項目: TRANTAB= オプションに関する詳細は、“[TRANTAB=システムオプション](#)” (*SAS 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド*)を参照してください。

サブオプション

これらのオプションで利用できるサブオプションは次のとおりです。BODY= (255 ページ)、CODE= (258 ページ)、CONTENTS= (261 ページ)、FRAME= (266 ページ)、PAGE= (273 ページ)および STYLESHEET= (278 ページ)

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の[参照](#)してください。CONTENTTYPE= (987 ページ)

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR=オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されます。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

要件:

URL='Uniform-Resource-Locator' を括弧で囲まなければなりません。

Uniform-Resource-Locator を引用符で囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをレファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

詳細

ODS HTML3 ステートメントは、ステートメントの ODS マークアップファミリの一部です。マークアップファミリの ODS ステートメントでは、HTML (Hypertext Markup Language)、XML (Extensible Markup Language) または LaTeX などのさまざまなマークアップ言語のいずれかを使用してフォーマットされた出力が生成されます。SAS 提供のマークアップ言語を指定するか、独自の言語を作成し、ユーザー定義のマークアップ言語として保存できます。

SAS レジストリは、デフォルトで、ODS HTML ステートメントを指定した場合に HTML 4 出力を生成するために設定されています。SAS レジストリの HTML バージョンを変更することで、デフォルトの HTML バージョンを 3.2 に永続的に使用できます。その後、ODS HTML ステートメントは、HTML 3.2 出力を作成します。デフォルトの HTML バージョンを変更する方法に関する詳細については、“[デフォルトの HTML バージョン設定の変更](#)” (45 ページ) を参照してください。

関連項目:

- “[ODS 出力先および HTML 出力先](#)” (1373 ページ)
- “[ODS の SAS レジストリ設定の変更](#)” (44 ページ)

ステートメント

- “[ODS MARKUP ステートメント](#)” (404 ページ)
- “[ODS HTML ステートメント](#)” (283 ページ)

ODS HTML ステートメント

埋め込みスタイルシートを含む HTML 4.0 出力を作成する HTML 出力先を開いたり、管理または閉じたりします。

Valid in: どこでも可能

Category: ODS: サードパーティフォーマット

Restriction: 出力先を開くと、スタイルシートが書き込まれ、ボディファイルにリンクされます。そのため、SAS プログラム内からスタイルシートの変更はできません。たとえば、出力先がすでに開かれている場合は、STYLE= option の値を変更しても影響はありません。次のいずれかの方法でスタイルシートを変更できます。

- 出力先を閉じ、既存のスタイルシートを編集するか、新しいスタイルシートを新規作成し、新規作成したスタイルシートまたは編集したスタイルシートを指定して、再度プログラムを発行します。

- ボディファイルを編集し、スタイルシートの URL を、必要なスタイルシートに変更します。

Interaction: デフォルトで、FORMCHAR システムオプション(たとえば、PROC PLOT または PROC CHART)を使用するプロシジャを実行した場合は、ODS によって出力は SAS モノスペースフォントでフォーマットします。作成された出力は SAS ソフトウェアがインストールされていない動作環境では正しく表示されません。これは、SAS がインストールされていない為、SAS モノスペースフォントが認識されないからです。文書を正しく表示するには、SAS プログラムの前に次のステートメントを含めます。

```
OPTIONS FORMCHAR="|----+|---+=|/\<>*";
```

z/OS specifics: .z/OS の動作環境において ACTXIMG または JAVAIMG デバイスドライバのいずれかで作成されたグラフを使用する場合、ODSHTML ステートメントで GPATH= option または PATH= オプションのいずれかを指定します。

Note: ODS HTML のステートメントは、Scalable Vector Graphics(SVG)をサポートします。Scalable Vector Graphics (SVG) は、XML ベースの 2D ベクター画像記述言語です。SVG に関する詳細は、“Using Scalable Vector Graphics” in Chapter 7 of *SAS/GRAPH: Reference* を参照してください。

Syntax

ODS HTML <(<ID=>識別子)> <操作>;

ODS HTML <(<ID=>識別子)> <オプション>;

Summary of Optional Arguments

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送ります。

(ID= identifier)

同時に同出力先の複数のインスタンスを開いてください。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定してください。

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定してください。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入してください。

(URL= 'Uniform-Resource-Locator')

URL として *file-specification* の URL を指定してください。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

ANCHOR= 'anchor-name'

現行のボディファイルの各出力オブジェクトを識別するアンカータグに最適な独自のベース名を指定してください。

ARCHIVE='string'

ODS HTML 出力を閲覧するために使用するアプレットを指定してください。

ATTRIBUTES= (attribute-pair-1 ... attribute-pair-n)

動的なグラフィックス出力を生成するタグの間に書き込む属性を指定します。

BASE= *'base-text'*

すべてのリンクの最初の部分として使用するテキストおよび出力ファイルにおいて ODS が作成したレファレンスを指定してください。

BODY= *'file-specification'* (*サブオプション*)

マークアップファミリーの出力先を開き、ODS ステートメントにより作成された主な出力を含むファイルを指定してください。

CHARSET= *character-set*

HTML 出力用の META 宣言で生成される文字セットを指定してください。

CLOSE

出力先およびそれに関連するファイルを終了してください。

CODE= *'file-specification'* < (*サブオプション*)>

HTML 出力先を開き、関連するスタイル情報を含むファイルを指定してください。

CODEBASE= *'string'*

GOPTIONS デバイスが使用可能なファイルパスを作成してください。

CONTENTS= *'file-specification'* < (*サブオプション*)>

HTML 出力先を開き、出力用の目次を含むファイルを指定してください。

CSSSTYLE= *'file-specification'*< (*media-type-1*<..*media-type-10*)>

出力に適用するカスケードスタイルシートを指定してください。

DEVICE= *device-driver*

出力先のデバイスを指定してください。

ENCODING= *local-character-set-encoding*

入力用のエンコーディングまたは、外部ファイルの出力処理(トランスコード)をオーバーライドしてください。

EVENT= *event-name* (**FILE=** | **FINISH** | **LABEL=** | **NAME=** | **START** | **STYLE=** | **TARGET=** | **TEXT=** | **URL=**)

イベントおよびイベントに関連するイベント変数用の値を指定してください。

EXCLUDE *除外* | **ALL** | **NONE**

出力先から出力オブジェクトを除外してください。

FRAME= *'file-specification'* < (*サブオプション*)>

目次、ページコンテンツ、およびボディファイルを統合するファイルを指定してください。

GFOOTNOTE | **NOGFOOTNOTE**

グラフィックス出力においてフットノートがプリントされるロケーションを制御してください。

GPATH= *'aggregate-file-storage-specification'* | *ファイル参照* | *libref.catalog*

(**URL=** *'Uniform-Resource-Locator'* | **NONE**)

出力先が開いている間に生成されたすべてのグラフィックス出力のロケーションを指定してください。

GTITLE | **NOGTITLE**

グラフィック出力のタイトルがプリントされているロケーションを制御してください。

HEADTEXT= *'markup-document-head'*

出力先が書き込むすべてのファイルのタグ<HEAD> および </HEAD> の間に配置する HTML タグを指定してください。

IMAGE_DPI=

グラフィカル出力のイメージソリューションを指定してください。

METATEXT= *'metatext-for-document-head'*

<META><の間、HEAD>HEAD>および<HEAD>出力先が書き込む先のすべてのファイルのタグとして使用する HTML コードを指定してください。

NEWFILE= *starting-point*

新しいボディファイルを指定された開始点に作成してください。

OPTIONS (DOC= | <サブオプション>)

tagset-specific サブオプションおよび名付けられた値を指定してください。

PACKAGE <package-name>

出力先からの出力を ODS パッケージに追加することを指定してください。

PAGE= 'file-specification' <(サブオプション)>

HTML 出力先を開き、ボディファイルの各ページの説明およびボディファイルへのリンクを含むファイルを指定してください。

PARAMETERS= (parameter-pair-1 ... parameter-pair-n)

動的グラフィックス出力を生成するタグの間に指定されたパラメータを書き込んでください。

PATH= 'aggregate-file-storage-specification' | [ファイル参照](#) | [libref.catalog](#) (URL='Uniform-Resource-Locator' | NONE)

累積保管場所のロケーションまたはすべてのマークアップファイル用の SAS カタログを指定してください。

RECORD_SEPARATOR= 'alternative-separator' | NONE

出力ファイルのラインを分離するために代替りの文字または文字列を指定してください。

SELECT [選択](#) | ALL | NONE

出力先用に出力オブジェクトを選択してください。

SHOW

SAS ログに出力先用の現行の選択または除外リストを書き込んでください。

STYLE= style-definition

出力ファイルを書く場合に使用するスタイル定義を指定してください。

STYLESHEET= 'file-specification' <(サブオプション)>

HTML の出力先を開き、出力用のスタイル情報を外部ファイルに配置、または既存のファイルからスタイルシートの情報を読み込んでください。

TEXT= text-string

文書にテキストを挿入してください。

TRANTAB= 'translation-table'

出力用のファイルをトランスコーディングする際に変換表を指定してください。

Without Arguments

操作やオプションを含まない ODS HTML ステートメントを使用した場合、HTML 先が開かれ、HTML 出力が作成されます。

Actions

ODS PDF ステートメントでは、次の操作が利用可能です。

CLOSE

出力先およびそれに関連するファイルを終了します。プリンタの出力先の場合、出力先を終了するまでファイルをプリントできません。

Tip: ODS 出力先が終了した場合、ODS は、その出力先へ出力を送りません。不要な出力先を終了することで、システムリソースの節減します。

EXCLUDE [除外](#) | ALL | NONE

出力先から1つまたはそれ以上の出力オブジェクトを除外します。

Default: NONE

Restriction: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

See: “ODS EXCLUDE ステートメント” on page 232

SELECT *選択* | ALL | NONE

指定された出力先用に出カオブジェクトを選択します。

Default: ALL

Restriction: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

See: “ODS SELECT ステートメント” on page 598

SHOW

SAS ログに出力先用の現行の選択または除外リストを書き込みます。

Restriction: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

Tip: 選択または除外リストがデフォルトのリスト(SELECT ALL)である場合、SHOW は、全体の選択または除外リストも書きます。選択または除外リストに関する詳細は、を “[選択リストと除外リスト](#)” on page 49 参照してください。

See: “ODS SHOW ステートメント” on page 614

Optional Arguments

ANCHOR= '*anchor-name*'

現行のボディファイルの各出力オブジェクトを識別するアンカータグに最適な独自のベース名を指定します。

各出力オブジェクトは、参照するためにコンテンツ、ページ、およびフレームファイル用にアンカータグを持ちます。ODS により自動的に作成されたリンクとレファレンスは、アンカー名を指します。そのため、ファイルの各アンカー名は、固有名でなければなりません。

anchor-name

現行の ボディファイルにおいて、各出力オブジェクトを識別するアンカータグのベース名です。

ODS は、指定した名称をインクリメントすることで独自のアンカー名を作成します。例えば、ANCHOR= 'TABULATE'を指定した場合、ODS は最初のアンカーに `tabulate` と名前を付けます。2番目のアンカー名が `tabulate1` で、3番目が `tabulate2`、と名称が続きます。

Restriction: ファイルのアンカー名は、ユニークでなければなりません。

Requirement: 引用符で *anchor-name* を囲まなければなりません。

Interaction: 追加するためにファイルを開いた場合、ファイルに再度同じアンカーを書き込むことを防ぐために、新しいアンカー名を必ず指定してください。ODS は、ファイルを開いた際に、既にファイルに存在するアンカーは、識別しません。

Tips:

プログラムのどこかにマークアップファミリーの ANCHOR=オプションを指定することで、アンカー名を変更できます。アンカー名を指定した後に、新しいものを指定するまで有効になります。

プログラムのさまざまなポイントに新しいアンカー名を指定することで、他のウェブページをマークアップ言語の出力の特定の箇所にリンクできるようになります。アンカー名が変更された箇所を制御できるため、それらのポイントにおけるアンカー名を事前に知ることができます。

ARCHIVE= '*string*'

ODS HTML 出力を閲覧するために使用するアプレットを指定してます。ARCHIVE= オプションは、GOPTIONS java デバイス用にのみ有効です。

文字列は、ブラウザが認識できるものでなければなりません。例えば、アーカイブファイルが SAS で実行中のコンピューターに対してローカルな場合、ファイルを識別するために FILE プロトコルを使用できます。Web サーバーのアーカイブファイルを指したい場合、HTTP プロトコルを使用してください。

Default: ARCHIVE=を指定せず、JAVA デバイスドライバを使用している場合、ODS は SAS システムオプションの値である APPLETOC=を使用します。ACTIVEX デバイスドライバを使用している場合、デフォルトはありません。

Requirements:

引用符で *string* を囲まなければなりません。

ARCHIVE 属性は、Java 1.1 の機能です。そのため Java デバイスドライバを使用している場合、ブラウザは、この Java バージョンをサポートしていなければなりません。Internet Explorer 4.01 と Netscape 4.05 の両方が、Java 1.1 をサポートします。

Interaction: ARCHIVE= を SAS/GRAPH プロシジャと共に使用し、GOPTIONS ステートメントにおいて DEVICE=JAVA または DEVICE=ACTIVEX オプションを使用してください。

Tips:

ODS HTML 出力を閲覧するための SAS/GRAPH アプレットを SAS サーバーが、自動的に判断するため、このオプションを通常使用してはいけません。しかし JAR ファイルの名称を変更した場合、または ODS HTML 出力を閲覧するためのその他のアプレットを有する場合、このオプションはこれらのアプレットにアクセス可能にします。

ファイルパスを指定するために、CODEBASE= オプションを使用してください。ARCHIVE= オプションにファイルパスを置かないことが推奨されます。

APPLETOC= の値は、SAS システムと一緒に送られる Java アーカイブのローケーションを指します。オプションの値を知るために、Environment Control の下の Files フォルダの Options ウィンドウを参照するか、次のプロシジャステップを発行できます。

```
proc options option=appletloc;
run;
```

ATTRIBUTES= (*attribute-pair-1 ... attribute-pair-n*)

動的なグラフィックス出力を生成するタグの間に指定された属性を書き込みます。

attribute-pair

各属性の名称および値を指定します。*attribute-pair* は、次のフォームを有します。

```
'attribute-name' = 'attribute-value'
```

attribute-name

属性の名称です。

attribute-value

属性の値です。

Requirement: 引用符で *attribute-name* と *attribute-value* を囲まなければなりません。

Interaction: ATTRIBUTES=オプションを SAS/GRAPH プロシジャ および GOPTIONS ステートメントの DEVICE=JAVA、JAVAMETA、または ACTIVEX オプションと一緒に使用してください。

See: *SAS/GRAPH: Reference* グラフアプレット、マップアプレット、コンターアプレット、および MetaView アプレット用の有効な属性

BASE= '*base-text*'

すべてのリンクの最初の部分として使用するテキストおよび出力ファイルにおいて ODS が作成したレファレンスを指定します。

base-text

ODS が、すべてのリンクの最初の部分として使用するテキストおよびファイルにおいて ODS が作成したレファレンスです。

次の仕様を考慮してください。

```
BASE= 'http://www.your-company.com/local-url/'
```

この場合、ODS は、`http://www.your-company.com/local-url/`文字列で始まるリンクを作成します。適切な *anchor-name* でリンクが完成します。

Requirement: 引用符で *base-text* を囲まなければなりません。

BODY= 'file-specification' (サブオプション)

マークアップファミリーの出力先を開き ODS ステートメントにより作成された主な出力を含むファイルを指定してください。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態になります。。

- *ODS markup-family-destination* CLOSE ステートメントまたは *ODS _ALL_* CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーステートメントを使用して、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照、または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

external-file

書き込み先の外部ファイルの名称です。

Requirement: 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

Restriction: BODY=ファイル参照オプションは、NEWFILE= オプションと一緒に使用することはできません。

See: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)を参照してください。

エンタリー。マークアップ

書き込み先の SAS カタログのエンタリーを指定します。

Interaction: エンタリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

(サブオプション)

カッコ内に1つまたはそれ以上のサブオプションを指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次のようになります。

(DYNAMIC)

ファイルに書き込むのではなく、出力をウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE で [CONTENTTYPE= on page 987](#) を参照してください。

Default: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

Restriction: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=

- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

Requirements:

DYNAMIC を、括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

Alias: NOBOT

Requirements:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加する場合、動作環境に対して適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_BOTTOM_MATTER サブオプションは、NO_TOP_MATTER サブオプションを伴うことで、既存のファイルに出力を追加することを可能にし、ファイルの出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置できます。

ODS が、過去に書き込んだファイルを開く場合、アンカー用に新しいベース名を指定するために ANCHOR= オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

Tip: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、マークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

See: NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの先頭にどのような開始マークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

Alias: NOTOP

Requirements:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

The NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

See: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR= オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

Requirements:

TITLE= を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

Tip: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されます。

Example: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” on page 443

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

Requirements:

括弧で URL= 'Uniform-Resource-Locator' を囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL= 'Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

Tips:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

Example: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” on page 446

Alias: FILE=

Interaction: ODS マークアップの出力先に言及する ODS マークアップファミリーステートメントの BODY= オプションを使用することにより、ODS に出力先および関連するすべてのファイルを終了した後、出力先の新しいインスタンスを開くことを強制します。詳細は、“MARKUP 出力先を開く/閉じる” on page 438 を参照してください。

Note: いくつかの TAGSET= の値に対して、出力は HTML ファイルで、他の TAGSET= の値に対して、出力は XML ファイルなどになります。

CHARSET= *character-set*

HTML 出力用の META 宣言で生成される文字セットを指定します。

See: 詳細は、“CHARSET=オプション” (SAS 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド)を参照してください。

CODE= 'file-specification' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、XSL (Extensible Stylesheet Language)等の関連するスタイル情報を含むファイルを指定します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります。

- ODS *markup-family-destination* CLOSE ステートメント または ODS *_ALL_* CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

Requirement: 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

See: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)を参照してください。

entrymarkup

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

Interaction: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論も参照してください。

サブオプション

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次のようになります。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE= スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の [CONTENTTYPE= on page 987](#) を参照してください。

Default: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

Restriction: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

Requirements:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

Alias: NOBOT

Requirements:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

Tip: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、マークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

See: NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

Alias: NOTOP

Requirements:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_BOTTOM_MATTER サブオプションは、NO_TOP_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

See: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR= オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

Requirements:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

Tip: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されます。

Example: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” on page 443

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

Requirements:

括弧で URL='Uniform-Resource-Locator'を囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator'は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

Tips:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME=オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

Example: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” on page 446

CODEBASE='string'

実行可能な Java アプレットまたは、ActiveX コントロールファイルのロケーションを指定します。*string* は、パス名または URL を指定します。使用される GOPTIONS により、CODEBASE ファイルパスには、2つの出力先があります。

JAVA および ActiveX デバイスドライバでウェブプレゼンテーションを生成した場合に、SAS は、JAVA アーカイブファイルを自動的に検索する HTML ページまたは、デフォルトインストールロケーションに ActiveX コントロールファイルを生成します。

ActiveX デバイス用

ActiveX コントロールを含む出力を生成する際に ODS を伴う ActiveX デバイスドライバを使用する場合、ODS の CODEBASE= オプションを指定してください。CODEBASE=オプションの値は、ロケーションおよび EXE ファイルのバージョンを含むべきです。

Tip: 出力を閲覧するユーザーがマシンに ActiveX コントロールをインストールしていない場合を除き DEVICE=ACTIVEX オプションで CODEBASE= オプションを指定する必要はありません。コントロールをインストールしていないユーザーが出力を閲覧する場合、コントロールをダウンロードすることを促されます。

See: *SAS/GRAPH: Reference* CODEBASE= および ARCHIVE= オプションを使用したコントロールおよびアプレットのロケーションの指定に関する詳細は、次を参照してください。

Java デバイス用

SAS/GRAPH アプレットを含む出力を生成するために、デバイスドライバを使用する場合、ODS ステートメントの CODEBASE= オプションを使用して JAR ファイルへのパスを指定してください。

DEVICE=JAVA を指定した場合、出力を閲覧するユーザーは、適切な Java アプレットにアクセスを有する必要があります。SAS は、デフォルトで、SAS により自動的にインストールされたアプレット用の実行可能ファイルに言及するために、CODEBASE= 値を設定します。SAS Java アーカイブファイルのデフォルトのロケーションは、APPLETLOC= システムオプションにより指定されています。次の両条件を満たしている場合、CODEBASE= オプションを指定する必要がありません。

- デフォルトのロケーションは、ウェブプレゼンテーションを閲覧するユーザーにより、アクセス可能です。
- SAS Java アーカイブは、そのロケーションにインストールされています。

Tip: JAR ファイルのディレクトリのみ指定してください。CODEBASE=ロケーションは、パス名または URL として指定できます。

See: *SAS/GRAPH: Reference* CODEBASE= および ARCHIVE= オプションを使用したコントロールおよびアプレットファイルのロケーションの指定に関する詳細は、次を参照してください。

CONTENTS= 'file-specification' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、出力用の目次を含むファイルを指定します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります。:

- ODS *markup-family-destination* CLOSE ステートメントまたは ODS _ALL_ CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

Requirement: 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

See: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS ステートメント: リファレンス*)を参照してください。

entry.markup

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

Interaction: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

サブオプション

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次のようになります。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。この設定は、CONTENTTYPE= スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の [CONTENTTYPE= on page 987](#) を参照してください。

Default: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

Restriction: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

Requirements:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣、あるいは、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

Alias: NOBOT

Requirements:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

Tip: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

See: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

Alias: NOTOP

Requirements:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

See: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR= オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

Requirements:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

Tip: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されます。

Example: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” on page 443

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

Requirements:

URL='Uniform-Resource-Locator'を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

Tips:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

Example: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” on page 446

CSSSTYLE= 'file-specification' < (media-type-1 <...media-type-10)>

出力に適用するカスケードスタイルシートを指定します。

file-specification

CSS コードを含むファイル、ファイル参照、または、URL を指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

"external-file"

外部ファイルの名称です。

Requirement: 括弧で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイル参照です。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

See: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)を参照してください。

"URL"

外部ファイルへの URL です。

Requirement: 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

(*media-type-1* < *media-type-10*>)

出力にレンダリングされるメディアの種類に対応する1つまたはそれ以上のメディアブロックを指定します。文書が、スクリーン、紙、スピーチシンセサイザー、点字装置、等々の異なるメディアにどのように提示されるか指定するために、CSS は、メディアタイプを使用します。

メディアブロックは、いかなるメディアブロックに含まれていないCSSコードを伴い出力に追加されます。*media-type* サブオプションを使用することで一般のCSSコードを伴い、特定のメディアタイプを対象とするCSSファイルの項目をインポートできます。

Default: ODS ステートメントにいかなる *media-type* が指定されてないが、CSS ファイルにメディアタイプが指定されている場合、ODS は、Screen メディアタイプを使用します。

Range: 異なる10個のメディアタイプを指定できます。

Requirements:

括弧で *media-type* を囲まなければなりません。

CSSSTYLE= オプションで指定された *file-specification* の隣に、*media-type* を指定しなければなりません。

Tip: 複数のメディアタイプを指定した場合、出力にすべてのメディアタイプのすべてのスタイル情報が適用されます。しかし、異なるメディアブロックにおいて重複するスタイル情報が存在する場合、最後のメディアブロックのスタイルが使用されます。

Restriction: CSSSTYLE= オプションは、SAS/GRAPH 出力に影響を与えません。

Requirement: CSS ファイルは、ODS HTML ステートメントにより作成されたCSSと同じ種類で書き込まなければなりません。ID や文脈ベースのセレクターの無いクラス名のみがサポートされます。ODS が作成するCSSコードを閲覧するには、次の内の1つを行ってください。

- STYLESHEET= オプションを指定してください。
- HTML ファイルのソースを閲覧して、ファイルの上部の < STYLE> </STYLE> タグの間のソースを閲覧してください。

有効な ODS CSS ファイルの例は、“[例 6: ODS 出力へ CSS ファイルの適用](#)” on page 448 を参照してください。

Interaction: STYLE= オプションおよび CSSSTYLE= オプションの両方が、ODS ステートメントに指定されている場合、最後に指定されたオプションが使用されます。

Example: “例 6: ODS 出力へ CSS ファイルの適用” on page 448

DEVICE= *device-driver*

デバイスドライバの名称を指定します。ODS は、各出力先用に最適なデフォルトのデバイスを自動的に選択します。

次の表は、最も使用頻度の高い ODS 出力先のデフォルトデバイスの一覧です。これらのデフォルトデバイスは、グラフィックが SAS/GRAPH または ODS グラフを使用して作成される場合に使用されます。サポート対象のデバイスとファイルの種類の詳細なリストは、“出力先のサポートされるファイルの種類” (248 ページ) を参照してください。

表 6.7 ODS 出力先のデフォルトデバイス

出力先	デフォルトデバイス
HTML	PNG
LISTING	PNG
測定済みの RTF	PNG
RTF	PNG
PCL	(SVG)スケーラブルベクターグラフィックス
PDF	(SVG)スケーラブルベクターグラフィックス
POSTSCRIPT	PNG
PRINTER	ホスト専用デフォルトプリンタ
マークアップタグセット	すべてのマークアップファミリタグセットには、デフォルト値が組み込まれています。

Restriction: ODS 出力先ステートメントのデバイスを指定した場合、ACTIVEX、ACTXIMG、JAVA、または JAVAIMG デバイスを指定してはいけません。

Tip: ODS DEVICE= オプションにおけるデバイス指定は、SAS グローバルオプションおよびグラフィックスオプションより優先されます。

See: “DEVICE= System Option” in *SAS/GRAPH: Reference* デバイスドライバの選択に関する詳細は、“Using Graphics Devices” in Chapter 6 of *SAS/GRAPH: Reference* 次を参照してください。

ENCODING= *local-character-set-encoding*

入力用のエンコーディングまたは、外部ファイルの出力処理(トランスコード)をオーバーライドします。

See: ENCODING= オプションに関する詳細は、“ENCODING システムオプション: UNIX、Windows、および z/OS” (*SAS 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド*)次を参照してください。

EVENT=*event-name* (FILE= | FINISH | LABEL= | NAME= | START | STYLE= | TARGET= | TEXT= | URL=)

イベントおよびイベントに関連するイベント変数用の値を指定します。

(FILE= BODY | CODE | CONTENTS | DATA | FRAME | PAGES |
STYLESHEET);

BODY=、CODE=、CONTENTS=、FRAME=、PAGES=、および
STYLESHEET= オプションに対応する出力ファイルの既知の種類の中の1つ
をトリガーします。

(FINISH)

イベントの終了項目をトリガーします。

See: 詳細は、“[イベントについて](#)” on page 1167 を参照してください。

(LABEL='variable-value')

LABEL イベント変数用の値を指定します。

Requirement: *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

See: LABEL イベント変数に関する詳細は、“[イベント変数](#)” on page 1211 次を
参照してください。

(NAME='variable-value')

NAME イベント変数用の値を指定します。

Requirement: *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

See: NAME イベント変数に関する詳細は、“[イベント変数](#)” on page 1211 を参
照してください。

(START)

イベントの開始項目をトリガーします。

See: イベントに関する詳細は、“[イベントについて](#)” on page 1167 次を参照して
ください。

(STYLE=*style-element*)

スタイルエレメントを指定します。

See: スタイルエレメントに関する詳細は、“[スタイル属性の概要](#)” on page 968
次を参照してください。

(TARGET='variable-value')

TARGET イベント変数用の値を指定します。

Requirement: *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

See: TARGET イベント変数に関する詳細は、“[イベント変数](#)” on page 1211 次
を参照してください。

(TEXT='variable-value')

TEXT イベント変数用の値を指定します。

Requirement: *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

See: TEXT イベント変数に関する詳細は、“[イベント変数](#)” on page 1211 を参照
してください。

(URL='variable-value')

URL イベント変数用の値を指定します。

Requirement: *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

See: URL イベント変数に関する詳細は、“[イベント変数](#)” on page 1211 を参照
してください。

Default: (FILE='BODY')

Requirement: The EVENT= オプションのサブオプションを括弧で囲まなければな
りません。

FRAME= '*file-specification*' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、HTML 出力用に、目次、ページコンテン
ツ、およびボディファイルを統合するファイルを指定します。フレームファイルを開く

と目次、ページコンテンツ、またはその両方、およびボディファイルを開覧できます。XLM 出力用に、FRAME= は、DTD を含むファイルを指定します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります

- *ODS markup-family-destination* CLOSE ステートメント または *ODS _ALL_* CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

Requirement: 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

See: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS ステートメント: リファレンス*)次を参照してください。

entry.markup

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

Interaction: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

サブオプション(s)

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次の内の1つになります。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の [CONTENTTYPE= on page 987](#) を参照してください。

Default: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

Restriction: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

Requirements:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

Alias: NOBOT

Requirements:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

Tip: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

See: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

Alias: NOTOP

Requirements:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

See: NO_BOTTOM_MATTER サブオプションおよび ANCHOR= オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

Requirements:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

Tip: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されます。

Example: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” on page 443

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます。

Requirements:

URL='Uniform-Resource-Locator' を括弧で囲まなければなりません。'

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

Tips:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

Example: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” on page 446

Restriction: FRAME=オプションを指定した場合、CONTENTS= オプション、PAGE= オプション、または両方を指定しなければなりません。

Example: “例 2: XML ファイルと DTD の作成” on page 441

GFOOTNOTE | NOGFOOTNOTE

グラフィックス出力においてフットノートがプリントされるロケーションを制御します。

GFOOTNOTE

SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたフットノートをプリントします。フットノートは、グラフのボーダー内に表示されます。

NOGFOOTNOTE

グラフのボーダー外に表示される ODS により作成されたフットノートをプリントします。

Default: GFOOTNOTE**Restrictions:**

マークアップ言語により表示されるフットノートは、すべての SAS/GRAPH FOOTNOTE ステートメントオプションをサポートします。フォントは、ブラウザ用に有効でなければなりません。テキスト角度の仕様など ODS が扱えないオプションは無視されます。SAS/GRAPH FOOTNOTE ステートメントに関する詳細は、“FOOTNOTE Statement” in *SAS/GRAPH: Reference* を参照してください。

このオプションは、1つまたはそれ以上のデバイススペースのグラフィックスを作成する SAS プログラム または、SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、

SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたグラフィックスにのみ適用されます。

GPATH= 'aggregate-file-storage-specification' | ファイル参照 | libref.catalog (URL= 'Uniform-Resource-Locator' | NONE)

出力先が開いている間に生成されたすべてのグラフィックス出力のロケーションを指定します。マークアップファイル用の PATH= オプションで指定されたものとは異なるロケーションにグラフィックス出力を書き込みたい場合にこのオプションを使用してください。無効なファイル名を指定した場合、ActiveX および Java デバイスはデフォルトのファイル名に出力を送ります。その他のデバイスはファイルをディレクトリとして作成して、そのディレクトリに出力を書き込みます。ODS が、カタログエントリおよび外部ファイルに名称を付ける方法に関する 詳細は、次を参照してください。SAS/GRAPH: Reference

'aggregate-file-storage-location'

ディレクトリ、フォルダ、または分割されたデータセット等の累積保存ロケーションを指定します。

Requirement: 引用符で *aggregate-file-storage-location* を囲まなければなりません。

ファイル参照

累積保存ロケーションに割り当てられたファイルリファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

Interaction: GPATH= オプションにおいてファイル参照を指定した場合、ODS は、リンクを構築する際に、GPATH=オプションからの情報を使用しません。

See: FILENAME ステートメントに関する詳細は、“FILENAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)次を参照してください。

ライブラリ参照。 *catalog*

書き込む先の SAS カタログを指定します。

URL= 'Uniform-Resource-Locator' | NONE
file-specification の URL を指定します。

Uniform-Resource-Locator

指定した URL です。ODS は、ファイルに作成するすべてのリンクおよびリファレンスにおいてファイル名ではなくこの URL を使用します。

Requirement: 引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

NONE

リンクまたはリファレンスに GPATH=オプションからのいかなる情報も表示されないことを指定します。

Tip: このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツまたはページファイルからのリンクが簡単な URL (単一名)で構築されている場合、コンテンツ、ページ、およびボディファイルさえ同一のロケーションにあれば、それらは解決します。

Default: GPATH= オプションを除外すると、ODS は、PATH= オプションにより指定されたロケーションにグラフィックスを保存します。PATH=オプションを指定しない場合、ODS は、グラフィックスを現行のディレクトリに保存します。詳細は、PATH= オプションを参照してください。

GTITLE | NOGTITLE

グラフィック出力のタイトルがプリントされているロケーションを制御します。

GTITLE

SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたタイトルをプリントします。タイトルは、グラフボーダーの内部に表示されます。

NOGTITLE

グラフボーダーの外部に表示される ODS により作成されたタイトルをプリントします。

Default: GTITLE

Restrictions:

いかなるマークアップ言語のステートメントにより表示されるタイトルは、大部分の SAS/GRAPH TITLE ステートメントオプションをサポートします。フォントは、ブラウザ用に有効でなければなりません。テキスト角度の仕様など ODS が扱えないオプションは無視されます。SAS/GRAPH TITLE ステートメントに関する詳細は、TITLE ステートメントを参照してください。

このオプションは、1つまたはそれ以上のデバイススペースのグラフィックスを作成する SAS プログラム または、SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたグラフィックスにのみ適用されます。

HEADTEXT= 'markup-document-head'

出力先が書き込むすべてのファイルのタグ< HEAD> および </HEAD> の間に配置する HTML タグを指定します。

markup-document-head

< HEAD> および </HEAD>の間に配置するマークアップタグを指定します。

Restriction: HEADTEXT= は、256 文字を超えてはなりません。

Requirement: *markup-document-head* を引用符で囲まなければなりません。

Tips:

ODS は、提供するマークアップを解析できません。それは、< HEAD>および </HEAD>タグとの関連で、well-formed マークアップでなければなりません。

後で、ファイルで使用できるプログラム(JavaScript)等を定義するために HEADTEXT=オプションを使用してください。

(ID= identifier)

同時に同出力先の複数のインスタンスの実行を可能にします。各インスタンスは、異なるオプションを有します。

identifier

既に開かれた出力先のもう1つのインスタンスを指定します。*identifier* は、文字または、アンダーラインで始まる数字または連続した文字です。後続の文字は、文字、アンダーライン、および数字を含むことができます。

Restriction: もし *identifier* が数値の場合、正の整数にする必要があります。

Requirement: ID= オプションは、ODS *MARKUP/TAGSET* ステートメントキーワードの直後に指定しなければなりません。

Tip: ID= オプションを除外し、インスタンスを識別するために代わりに名前または数字を使用できます。

Example: “例: 同時に同じ出力先のインスタンスを複数開く” on page 499

IMAGE_DPI=

グラフィカル出力のイメージソリューションを指定します。

Default: 96

METATEXT= 'metatext-for-document-head'

<META><<の間、HEAD>HEAD>および<HEAD>出力先が書き込む先のすべてのファイルのタグとして使用する HTML コードを指定します。

'metatext-for-document-head'

ブラウザにロードする文書に関する情報を提供する HTML コードを指定します。例えば、この属性は、コンテンツの種類および使用される文字セットを指定できます。

Requirement: 引用符で *metatext-for-document-head* を囲まなければなりません。

Default: METATEXT=を指定しない場合、ODS は、作成するすべての HTML ファイルに文書のコンテンツの種類および使用する文字セットを含む簡単な <META> タグを書きます。

Restriction: METATEXT= は、256 文字を超えてはなりません。

Tip: ODS は、提供する HTML コードを解析できません。HTML コードは、<HEAD>タグの脈絡において正確で、良く構築されていなければなりません。METATEXT= を意図された通りに使用した場合、META タグは次のように見えます。

```
<META your-metatext-is-here>
```

NEWFILE= starting-point

新しいボディファイルが指定された *starting-point* に作成します。

starting-point

新しいボディファイルを作成するのに適した出力のロケーションです。

ODS は、ボディファイル名をインクリメントすることで自動的に新しいファイル名を付けます。次の例で、ODS は、初めのボディファイルの名付けます。

REPORT.XML 追加のボディファイルが名付けられます。REPORT1.XML, REPORT2.XML, 等

例

```
BODY= 'REPORT.XML'
```

starting-point は、次の内の1つです。

BYGROUP

各 BY グループの結果用に新たなファイルを開始します。

NONE

現在開かれているボディファイルにすべての出力を書き込みます。

OUTPUT

各出力オブジェクト用に新たなファイルを開始します。SAS/GRAPH に対して、これは、ODS がプログラムが生成した各 SAS/GRAPH 出力ファイル用に新たなファイルを作成することを意味します。

Alias: TABLE

PAGE

出力の各ページ用に新たなボディファイルを開始します。改ページは、手順が明示的に新たなページを開始(ページのサイズが足りないからではなく)または、新たなプロシジャを開始する時点で発生します。

PROC

新たな手順を開始する度に新たなボディファイルを開始します。

Default: NONE

Restriction: NEWFILE= オプションは、BODY=ファイル参照 オプションと一緒に使用できません。

Tips:

ファイル名を数字で終了した場合、ODS はその数字の増加を開始します。次の例で、ODS は、最初のボディファイル *MAY5.XML* の名付けをします。追加のボディファイル名は、*MAY6.XML*, *MAY7.XML*, 等となります。

例

```
BODY= 'MAY5.XML'
```

OPTIONS (DOC= | <サブオプション>)

tagset-specific サブオプションおよび名付けられた値を指定します。

(DOC= 'HELP' | 'QUICK' | 'SETTINGS' | 'CHANGELOG')

指定されたタグセットについての情報を提供します。

HELP

簡易参照で、一般的なヘルプおよび情報を提供します。

QUICK

このタグセットで利用可能なオプションを説明します。

SETTINGS

現行のオプション設定を提供します。

CHANGELOG

タグセットへの変更履歴をリストします。このサブオプションは、RTF タグセットにおいてのみサポートされています。

Requirement: すべての値は、引用符で囲まなければなりません。

サブオプション(s)

指定されたタグセットに有効な1つまたはそれ以上のサブオプションを指定します。サブオプションは、次のフォーマットを有します。

```
keyword='value'
```

タグセット用のサブオプションの情報を得るために、ODS タグセットステートメントを開く時、または出力先が開かれたいかなる時に、次のオプションの内の1つを指定してください。

- オプション (doc='help');
- オプション (doc='quick');
- オプション (doc='settings');

Requirement: OPTION サブオプションを括弧で囲まなければなりません。

Example: “例: ODS TAGSETS.HTMLPANEL 情報を得るために DOC サブオプションを使用。” on page 651

PACKAGE <package-name>

出力先からの出力を ODS パッケージに追加することを指定します。

package-name

ODS PACKAGE ステートメントで作成されたパッケージの名称を指定します。指定された名称が無い場合、出力は最後に開かれた名称の付けられていないパッケージに追加されます。

See: “ODS PACKAGE ステートメント” on page 469

Example: “例 1: ODS パッケージの作成” on page 473

PAGE= 'file-specification' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、ボディファイルの各ページの説明およびボディファイルへのリンクを含むファイルを指定します。ODS は、手順が新たなページを要求した際に、出力の新しいページを作成します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります

- ODS markup-family-destination CLOSE ステートメントまたは ODS _ALL_ CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の 1 つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

Requirement: 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

See: FILENAME ステートメントに関する詳細は、“FILENAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)次を参照してください。

入力。マークアップ

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

Interaction: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

サブオプション

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次のようになります。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の [CONTENTTYPE= on page 987](#) を参照してください。

Default: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

Restriction: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

Requirements:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

Alias: NOBOT

Requirements:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-*

specification の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

Tip: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

See: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

Alias: NOTOP

Requirements:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

See: The NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR=option

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

Requirements:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

Tip: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されます。

Example: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” on page 443

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

Requirements:

URL='Uniform-Resource-Locator'を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

Tips:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

Example: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” on page 446

Interaction: SAS システムオプションの PAGESIZE= は、バッチ出力を作成する時以外は、HTML 出力のページに影響を与えません。PAGESIZE= オプションに関する詳細は、“PAGESIZE= System Option” in *SAS System Options: Reference* を参照してください。

PARAMETERS= (*parameter-pair-1 ... parameter-pair-n*)

動的グラフィックス出力を生成するタグの間に指定されたパラメータを書き込みます。

parameter-pair

各パラメータの名称および値を指定します。*parameter-pair* は、次の形態を有します。

'*parameter-name*'= '*parameter-value*'

parameter-name

パラメータの名称です。

parameter-value

パラメータの値です。

Requirement: 引用符で *parameter-name* および *parameter-value* を囲まなければなりません。

Interaction: PARAMETERS= を SAS/GRAPH プロシジャおよび GOPTIONS ステートメントの DEVICE=JAVA、JAVAMETA、または ACTIVEX オプションと一緒に使用してください。

See: *SAS/GRAPH: Reference* グラフアプレット、マップアプレット、カンターアプレット、およびメタビューアプレット用に有効なパラメータ

PATH= '*aggregate-file-storage-specification*' | **ファイル参照** | *libref.catalog* (URL='Uniform-Resource-Locator' | NONE)

累積保管場所のロケーションまたはすべてのマークアップファイル用の SAS カタログを指定します。GPATH= オプションが指定されていない場合、すべてのグラフィックスファイルは、“*aggregate-file-storage-specification*”または、**ライブラリ参照**に書き込まれます。

'aggregate-file-storage-location'

ディレクトリ、フォルダ、または分割されたデータセット等の累積保存ロケーションを指定します。

Requirement: 引用符で *aggregate-file-storage-location* を囲まなければなりません。

ファイル参照

累積保存ロケーションに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

Interaction: PATH= オプションのを使用した場合、ODS は、リンクを構築する際に PATH= からの情報を使用しません。

See: FILENAME ステートメントに関する詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS ステートメント: リファレンス*)を参照してください。

ライブラリ参照。catalog

書き込む先の SAS カタログを指定します。

See: LIBNAME ステートメントに関する詳細は、“LIBNAME ステートメント” (*SAS ステートメント: リファレンス*)を参照してください。

URL= '*Uniform-Resource-Locator*' | NONE
file-specification の URL を指定します。

Uniform-Resource-Locator

指定した URL です。ODS は、ファイルに作成するすべてのリンクおよびレファレンスにおいてファイル名ではなくこの URL を使用します。

NONE

リンクまたはレファレンスに GPATH=オプションからのいかなる情報が表示されないことを指定します。

Tip: このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは、single-name URL で構築しなければならず、コンテンツ、ページ、およびボディファイルは、同じロケーションになければなりません。

Interaction: BODY= または、FILE=外部ファイルオプションを PATH= オプションと一緒に使用した場合、外部ファイル仕様にパス情報を含めるべきではありません。

RECORD_SEPARATOR= '*alternative-separator*' | NONE

出力ファイルのラインを分離するために代替の文字または文字列を指定します。

異なる動作環境において、異なるセパレーター文字を使用します。レコードセパレーターを指定しない場合、SAS ジョブを起動する環境用にファイルをフォーマットします。しかし、異なるセパレーター文字を使用する異なる動作環境で閲覧するためにファイルを生成する場合、対象の環境に適切なレコードセパレータを指定できません。

alternative-separator

1またはそれ以上の文字を 16 進または ASCII フォーマットで表わします。例えば、次のオプションは、キャリッジリターン文字用のレコードセパレータ および ASCII ファイルシステムで使用するラインフィード文字を指定します。

```
RECORD_SEPARATOR= '0D0A'x
```

Operating Environment Information

メインフレーム環境において、次のオプションは、キャリッジリターン文字用のレコードセパレータ および ASCII ファイルシステムで使用するラインフィード文字を指定します。

```
RECORD_SEPARATOR= '0D25'x
```

Requirement: 引用符で *alternative-separator* を囲まなければなりません。

NONE

SAS ジョブを実行する環境に適切なマークアップ言語を作成します。

Windows Specifics

メインフレーム環境において、デフォルトで、ODS は、組み込み式レコードセパレータ文字を含むバイナリファイルを作成します。バイナリファイルは、ASCII ファイルのラインの長さ制限により制限されていません。しかし、テキストデータのバイナリファイルを閲覧すると、ラインは一緒に実行されます。テキストデータでファイルを読むことを可能にするためにファイルをフォーマットしたい場合、RECORD_SEPARATOR=NONE を使用してください。この場合、ODS は、一度に1行のマークアップ言語をファイルに書き込みます。NONE の値を使用する場合、書き込む先のファイルの論理的レコードの長さは、最低でも ODS が作成するラインの最長の長さでなければなりません。ファイルの論理的レコードの長さが十分でない場合、マークアップ言語は、適切な場所でその他のラインにラップする可能性があります。

Aliases:

RECSEP=

RS=

STYLE= style-definition

出力ファイルを書く場合に使用するスタイル定義を指定します。

style-definition

SAS 出力の体裁特徴(色、フォントファース、フォントサイズ、等々)の表示方法を説明します。スタイル定義は、それを使用する文書の全体の体裁を決定します。各スタイル定義は、スタイル要素で構成されます。

Interaction: STYLE= オプションは、XML 出力を作成している場合は、無効となります。

See: スタイル定義に関する完全な討議は、13 章、[“TEMPLATE プロシジャ: スタイルテンプレートの作成”](#) on page 942 を参照してください。

Default: スタイル定義を指定しない場合は、ODS は、SAS レジストリのサブキー ODS ⇒ DESTINATIONS ⇒ MARKUP に指定されているファイルを使用します。この値は、デフォルトで、*Default* を指定します。

Interaction: ODS HTML4 ステートメントで STYLE= オプションを指定した場合、続いて、もう1つの ODS HTML4 ステートメントで新しいスタイル定義を使用するために PROC PRINT 出力が必要な場合、2番目のステートメントを指定する前に、最初のステートメントを終了してください。

STYLESHEET= 'file-specification' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、マークアップ出力用のスタイル情報を外部ファイルに配置、または既存のファイルからスタイルシートを読み込みます。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります。

- *ODS markup-family-destination* CLOSE ステートメントまたは ODS _ALL_ CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の 1 つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

Requirement: 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

See: FILENAME ステートメントに関する詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS ステートメント: リファレンス*)を参照してください。

entry, markup

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

Interaction: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

サブオプション

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。次のサブオプションが利用可能です。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の [CONTENTTYPE= on page 987](#) を参照してください。

Default: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

Restriction: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

Requirements:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

Alias: NOBOT

Requirements:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

Tip: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

See: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

Alias: NOTOP

Requirements:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

See: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR=オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

Requirements:

TITLE= を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

Tip: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されます。

Example: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” on page 443

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

Requirements:

URL='Uniform-Resource-Locator' を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定され

た *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

Tips:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

Example: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” on page 446

Note: デフォルトで、別のファイルに特に情報を送らない場合、スタイルシート情報は指定された HTML ファイルに含まれます。

Example: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” on page 446

TEXT=*text-string*

パラグラフのイベントをトリガーすることで文書にテキストを挿入し、VALUE イベント変数に割り当てられるテキストの文字列を指定します。

Default: デフォルトで、TEXT=オプションは、パラグラフイベントで使用されています。

Tip: 次の構文を使用することで、EVENT= オプションを伴う TEXT= オプションを使って特定のイベント用の *text-string* を指定できます。

EVENT=*event-name* (TEXT=*text-string*)

See: イベントおよびイベント変数に関する詳細は、15 章、“TEMPLATE プロシジャ: マークアップ言語のタグセットの作成” on page 1166 を参照してください。

Example: “例: 出力オブジェクトを条件付きで除外し、別の出力先に送信する” on page 235

TRANTAB='*translation-table*'

出力用のファイルをトランスコーディングする際に変換表を指定します。

See: TRANTAB= オプションに関する詳細は、“TRANTAB=システムオプション” (SAS 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド)を参照してください。

サブオプション

これらのオプションで使用できるサブオプションは次のとおりです。BODY= on page 289、CODE= on page 292、CONTENTS= on page 295、FRAME= on page 300、PAGE= on page 307 および STYLESHEET= on page 312。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE のを参照してください。CONTENTTYPE= on page 987

Default: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

Restriction: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=

- STYLESHEET=
- TAGSET=

Requirements:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

Alias: NOBOT

Requirements:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

Tip: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

See: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

Alias: NOTOP

Requirements:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

See: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR=オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

Requirements:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

Tip: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されます。

Example: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” on page 443

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

Requirements:

URL='Uniform-Resource-Locator を括弧で囲まなければなりません。

Uniform-Resource-Locator を引用符で囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

Tips:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

Example: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” on page 446

Details

ODS HTML ステートメントは、ステートメントの ODS マークアップファミリーの一部です。ステートメントのマークアップファミリーの一部である ODS ステートメントでは、HTML (Hypertext Markup Language)、XML (Extensible Markup Language) または LaTeX などのさまざまなマークアップ言語を使用してフォーマットされた出力が作成されます。SAS 提供のマークアップ言語を指定するか、独自の言語を作成し、ユーザー定義のマークアップ言語として保存できます。

SAS 9.3 以降、デフォルトで、Windows と UNIX オペレーティングシステムのウィンドウ環境において LISTING 出力先はクローズされ、HTML 出力先はオープンされています。HTML 出力を作成するために ODS HTML ステートメントを発行する必要がなく、出力を表示するために ODS HTML CLOSE ステートメントを使用する必要がありません。しかしながら、LISTING 出力先を作成するためには、ODS LISTING ステートメントの発行またはその他の方法で LISTING の出力先を有効にする必要があります。詳細は、“SAS 9.3 の出力デフォルトの操作” on page 3 を参照してください。

SAS 9.3 のもう1つの変更点は、HTML 出力先用のデフォルトスタイルが HTMLBlue に変更されています。

HTML 出力先は、Scalable Vector Graphics (SVG)をサポートしています。SVG に関する詳細は、“Using Scalable Vector Graphics” in Chapter 7 of *SAS/GRAPH: Reference* を参照してください。

Examples

Example 1: ODS HTML 情報を取得するための DOC サブオプションの使用 方法

Features:

ODS HTML ステートメントアクション

CLOSE

ODS HTML ステートメントオプション:

OPTIONS (DOC="HELP")

Other features:

PROC PRINT

詳細

次の例では、SAS ログに OPTIONS のサブオプションのリストと HTML タグセットで利用可能な各サブオプションの説明を出力します。

プログラム

```
ods html options (doc="help");

proc print data=Sashelp.Class;
run;
```

Program Description

SAS ログファイルに OPTIONS のサブオプションに関する情報を出力します。

```
ods html options (doc="help");
```

データセットクラスである Sashelp.Class を出力します。PROC PRINT ステートメントが Sashelp.Class データセットを出力します。

```
proc print data=Sashelp.Class;
run;
```

出力

すべての OPTIONS のサブオプションと各サブオプションに関する情報を SAS ログへ出力するには、DOC='HELP'サブオプションを指定します。

Output 6.5 HTML 用に用意されている OPTIONS のサブオプション

```

Log - (Untitled)
=====
These are the options supported by this tagset.
Sample usage:
ods html options(doc='Quick');
ods html options(header_dots='yes' summary_byvars='yes');
Doc: No default value.
     Help: Displays introductory text and options.
     Quick: Displays available options.
header_data_associations: Default Value 'no'
     Associates data cells and header cells by adding an ID attribute
     to each header cell and listing the IDs of associated headers in
     a HEADERS attribute added to each data cell. (PROC REPORT only)
header_dots: Default Value 'no'
     Puts hidden dots before the text in all table headers
summary_as_caption: Default Value 'no'
     Causes a table caption to be created from the table summary.
summary_byvars: Default Value 'no'
     Adds a list of by variable names to the table summary
summary_byvals: Default Value 'no'
     Add the values of the by variables along with the names in the table summary
     This works with summary byvars but not without.
summary: Default Value ''
     Text for the table summary
summary_prefix: Default Value ''
     Text to place at the beginning of table summary
summary_suffix: Default Value ''
     Text to place at the end of table summary
page_break: Default Value 'yes'
     If yes, the usual pagebreak style attribute will be used to create
     what becomes the page separator. Usually that is an HR line.
     If No, then no pagebreak will be output.
     If anything else, the value given will be output as the pagebreak.
css_table: Default Value 'no'

```

Example 2: OPTION サブオプション PAGEBREAK=の使用方法**Features:**

ODS HTML ステートメントオプション:
 OPTIONS (PAGEBREAK="NO")

Other features:

PROC PRINT

詳細

次の例では、PAGEBREAK= サブオプションを使用して改ページの許可の有無を制御する方法を示します。デフォルトでは、各プリントステートメント後に改ページが出力されます。HTML では、改ページは、水平方向の罫線で出力を分離することでレンダリングされます。PAGEBREAK="NO"の場合は、水平方向の罫線が作成されません。

プログラム

```
ods html file="test.html" options(pagebreak='no');

options obs=2;

proc print data=Sashelp.Class;
run;

proc print data=Sashelp.Class;
run;
```

Program Description

PAGEBREAK="NO" のサブオプションを指定します。 2つのデータセットは、分離する水平方向の罫線なしでレンダリングされます。出力は、test.html ファイルに出力されません。

```
ods html file="test.html" options(pagebreak='no');
```

データセットの2つの結果のみを出力します。

```
options obs=2;
```

データセットクラスである Sashelp.Class を出力します。 PROC PRINT ステートメントが Sashelp.Class データセットを出力します。

```
proc print data=Sashelp.Class;
run;
```

データセットクラスである Sashelp.Class を出力します。 Sashelp.Class データセットを再度出力します。PAGEBREAK="NO" が指定されているため、2つのデータセットの間に改ページは設定されません。デフォルトでは、これら2つのデータセットは、それぞれ別のページに書き込まれます。

```
proc print data=Sashelp.Class;
run;
```

出力

より少ないページ数の出力が必要な場合、PAGEBREAK="NO" のサブオプションを指定します。

Output 6.6 HTML において NO に設定された PAGEBREAK=サブオプション

The SAS System					
Obs	Name	Sex	Age	Height	Weight
1	Alfred	M	14	69.0	112.5
2	Alice	F	13	56.5	84.0

The SAS System					
Obs	Name	Sex	Age	Height	Weight
1	Alfred	M	14	69.0	112.5
2	Alice	F	13	56.5	84.0

Example 3: 出力の各ページごとに別のボディファイルを作成

Features:

ODS HTML ステートメントアクション:

CLOSE

ODS HTML ステートメントオプション:

BASE=

CONTENTS=

BODY=

FRAME=

NEWFILE=

PAGE=

Other features:

タイトルにある#BYVAL パラメータ

NOBYLINE|BYLINE システムオプション

OPTIONS ステートメント

PROC FORMAT

PROC SORT

PROC REPORT

PROC TABULATE

TITLE ステートメント

Data set:

Grain_Production

Format:

\$CNTRY。

詳細

次の例では、プロシジャ出力の各ページまたは目次、ページテーブルおよびフレームファイルごとに別の HTML ファイルを作成します。目次とページテーブルは、すべての出力が単一のファイル内にある時と同様に表示および動作します。出力が別のファイルにあるため、あるページの出力から次の出力へスクロールできません。ただし、レポートに加えるために、個別の HTML ファイルを選択できます。

プログラム

```
proc sort data=grain_production;
by year country type;
run;

ods html body='grain-body.htm'
contents='grain-contents.htm'
frame='grain-frame.htm'
page='grain-page.htm'

newfile=page;

options nobyline;
title 'Leading Grain-Producing Countries';
title2 'for #byval(year)';

proc report data=grain_production nowindows;
by year;
column country type kilotons;
define country / group width=14 format=$cntry.;
define type / group 'Type of Grain';
define kilotons / format=comma12.;
footnote 'Measurements are in metric tons.';
run;

options byline;
title2;

proc tabulate data=grain_production format=comma12.;
class year country type;
var kilotons;
table year,
country*type,
kilotons*sum=' ' / box=_page_ misstext='No data';
format country $cntry.;
footnote 'Measurements are in metric tons.';
run;

ods html close;
```

Program Description

データセット Grain_Production をソートします。 PROC SORT によって、Year、Country、Type の値の順にデータがソートされます。

```
proc sort data=grain_production;
by year country type;
run;
```

HTML 出力の作成 ODS HTML ステートメントによって、HTML 出力先が開かれ、HTML 出力が作成されます。FRAME=、CONTENTS=および PAGE=は、ボディファイルのコンテンツにリンクする目次およびページのテーブルを含むフレームを作成します。ボディファイルも、フレームに表示されます。BASE= は、全てのリンクの最初の部分として使用する文字列を指定し、HTML ファイルに関連付けます。個別のファイルに対して URL は指定されていないため、リンク先の最後の部分はファイル名と一致します。BASE=オプションが指定する文字列は、HTML ファイルへの有効なパスでなければなりません。

```
ods html body='grain-body.htm'
contents='grain-contents.htm'
frame='grain-frame.htm'
page='grain-page.htm'
```

SAS が各出力ページごとに新規ボディファイルを作成することを指定します。
NEWFILE=PAGE オプションが各出力ページごとにボディファイルを新規作成します。

```
newfile=page;
```

デフォルトの BY 行を非表示にし、BY 行に新しい値を指定します。 NOBYLINE オプションは、デフォルトの BY 行の変数を非表示にします。#BYVAL によって、BY 変数 Year の現在の値がタイトルに挿入されます。

```
options nobyline;
title 'Leading Grain-Producing Countries';
title2 'for #byval(year)';
```

レポートを作成します。 この PROC REPORT ステップによって、Grain_Production に関するレポートが生成されます。各 BY グループごとに出力ページが作成されます。従って、ODS が各 BY グループごとにボディファイルを新規作成します。NOWINDOWS オプションは、PROC REPORT が REPORT ウィンドウなしで実行されることを指定し、その出力を開かれた何れかの出力先に送ります。

```
proc report data=grain_production nowindows;
by year;
column country type kilotons;
define country / group width=14 format=$centry.;
define type / group 'Type of Grain';
define kilotons / format=comma12.;
footnote 'Measurements are in metric tons.';
run;
```

デフォルトの BY 行を復元して、2番目の TITLE ステートメントを削除します。 BYLINE オプションによってデフォルトの BY 行が復元されます。TITLE2 ステートメントによっては、2番目の TITLE ステートメントが消去されます。

```
options byline;
title2;
```

レポートを作成します。 この PROC TABULATE ステップの TABLE ステートメントでは、変数として年が指定されています。そのため、PROC TABULATE は、1995 年および 1996 年の出力をそれぞれ別のページで作成します。従って、ODS が各ページごとにボディファイルを新規作成します。

```
proc tabulate data=grain_production format=comma12.;
class year country type;
var kilotons;
table year,
country*type,
kilotons*sum=' ' / box=_page_ misstext='No data';
format country $centry.;
footnote 'Measurements are in metric tons.';
run;
```

HTML 出力先を閉じます。 ODS HTML CLOSE ステートメントによって、HTML 出力先とその関連ファイルすべてが閉じられます。出力先を閉じないと、SAS セッションを閉じ

るまで FRAME 属性によって指定された HTML ファイルを表示することができなくなります。

```
ods html close;
```

HTML 出力

当フレームファイルは、最初のボディファイルを表示します。目次および ページテーブルのリンクは、他のボディファイルを指します。フレームファイルは、この例を実行した後に結果ビューワーにレンダリングされていません。それを開くには、SAS 出力先のファイルを検索します。

Output 6.7 HTML フレームファイル

Table of Contents		Leading Grain-Producing Countries for 1995																																								
1. Report Year=1995 Detailed and/or summarized report Table 1 Year=1996 Detailed and/or summarized report Table 1		<table border="1"> <thead> <tr> <th>Country</th> <th>Type of Grain</th> <th>Kilotons</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">Brazil</td> <td>Corn</td> <td>36,276</td> </tr> <tr> <td>Rice</td> <td>11,236</td> </tr> <tr> <td>Wheat</td> <td>1,516</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">China</td> <td>Corn</td> <td>112,331</td> </tr> <tr> <td>Rice</td> <td>185,226</td> </tr> <tr> <td>Wheat</td> <td>102,207</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">India</td> <td>Corn</td> <td>9,800</td> </tr> <tr> <td>Rice</td> <td>122,372</td> </tr> <tr> <td>Wheat</td> <td>63,007</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">Indonesia</td> <td>Corn</td> <td>8,223</td> </tr> <tr> <td>Rice</td> <td>49,860</td> </tr> <tr> <td>Wheat</td> <td>.</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">United States</td> <td>Corn</td> <td>187,300</td> </tr> <tr> <td>Rice</td> <td>7,888</td> </tr> <tr> <td>Wheat</td> <td>59,494</td> </tr> </tbody> </table> <p>Measurements are in metric tons.</p>			Country	Type of Grain	Kilotons	Brazil	Corn	36,276	Rice	11,236	Wheat	1,516	China	Corn	112,331	Rice	185,226	Wheat	102,207	India	Corn	9,800	Rice	122,372	Wheat	63,007	Indonesia	Corn	8,223	Rice	49,860	Wheat	.	United States	Corn	187,300	Rice	7,888	Wheat	59,494
Country	Type of Grain				Kilotons																																					
Brazil	Corn				36,276																																					
	Rice				11,236																																					
	Wheat				1,516																																					
China	Corn				112,331																																					
	Rice				185,226																																					
	Wheat				102,207																																					
India	Corn				9,800																																					
	Rice				122,372																																					
	Wheat	63,007																																								
Indonesia	Corn	8,223																																								
	Rice	49,860																																								
	Wheat	.																																								
United States	Corn	187,300																																								
	Rice	7,888																																								
	Wheat	59,494																																								
2. Tabulate Cross-tabular summary report Table 1 Year 1995 Year 1996																																										
Table of Pages 1. Report Page 1 Page 2 2. Tabulate Page 3 Page 4																																										

HTML 出力で作成されるリンク

コンテンツファイルのリンクに定義されている HREF= 属性は、ODS が PROC REPORT および PROC TABULATE ステップから作成した HTML 表へと指します。

```
href="grain-body.htm#IDX"
href="grain-body1.htm#IDX1"
href="grain-body2.htm#IDX2"
href="grain-body3.htm#IDX3"
```

当 HREF 属性がどう構築されたかを理解します。

- **grain-body**BODY= オプションの値の指定により、HREF の次の部分が定義できます。しかし、NEWFILE= オプションが各出力オブジェクトごとにファイルを新規作成するため、ODS はファイルを作成するごとにこのベース値を増やします。結果として新規作成されるファイル名は、HREF の一部となります。それらは、Grain-Body.htm、Grain-Body1.htm、Grain-Body2.htm、および Grain-Body3.htm です。
- ANCHOR= オプションの値の指定により(ポンド(#)記号後に指定する)は、HREF の最後の部分が定義できます。ANCHOR= オプションがこの例で使用されていないため、ODS は IDX のデフォルト値を使用します。順次使用されることにより、ODS は、アンカー値を増やします。

Example 4: HTML ファイルへの追加

Features:

ODS HTML ステートメントオプション

ANCHOR=

fileref を伴う BODY=

NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを使用する BODY=

NO_TOP_MATTER サブオプションを使用する BODY=

STYLE=

Other features:

FILENAME ステートメント

PROC PRINT

PROC REPORT

DATA _NULL_ statement

Data set:

[Grain_Production](#)

Format:

[\\$CNTRY](#)。

詳細

次の例では、PROC PRINT および PROC REPORT から HTML 出力を作成します。さらに、HTML 出力を含むファイルにカスタマイズされた HTML コードを書き込むための DATA ステップも使用します。DATA ステップは、プロシジャステップの間で実行されます。

プログラム

```
options obs=10;

filename reports 'GrainReport.html';

ods html body=reports (no_bottom_matter)

  style=Banker;

proc print data=grain_production;
var country type kilotons;
format country $cntry. kilotons comma12.;
where year=1996;
title 'Leading Grain-Producing Countries';
footnote 'Measurements are in metric tons.';
run;

ods html close;

filename reports '../ods/grain-reports-body.htm' mod;
```

```

filename reports 'GrainReport.html' mod;

data _null_;
file reports;
put "<h2>The preceding output is from PROC PRINT.";
put "I am going to try a variety of procedures.";
put "Let me know which procedure you prefer.";
put "This report uses the Banker style.</h2>";
run;

ods html body=reports (no_top_matter no_bottom_matter)

  anchor='report';

proc report data=grain_production nowindows;
where year=1996;
column country type kilotons;
define country / group width=14 format=$cntry.;
define type / group 'Type of Grain';
define kilotons / format=comma12.;
run;

ods html close;

data _null_;
file reports;
put "<h2>The preceding output is from PROC REPORT.";
put "It does not repeat the name of the country on every line.";
put "This report uses the default style.</h2>";
run;

ods html body=reports(no_top_matter)anchor='end';

```

Program Description

システムオプションの設定 この OBS オプションは、データセットのオブザベーションの処理を 10 に制限します。

```
options obs=10;
```

GrainReport.html ファイルに fileref を割り当てます。 FILENAME ステートメントは、HTML 出力を含む GrainReport.html ファイルに fileref REPORTS を指定します。

```
filename reports 'GrainReport.html';
```

HTML 出力を作成して、ファイルの最後に書き込まれることが予想されるデフォルト HTML コードの書き込みを非表示にします。 ODS HTML ステートメントによって、HTML 出力先が開かれ、HTML 出力が作成されます。NO_BOTTOM_MATTER オプションは、ODS がデフォルトでファイルの最後で書き込むデフォルトの HTML コードの書き込みを非表示にします。

```
ods html body=reports (no_bottom_matter)
```

HTML 出力をフォーマットするためのスタイル定義を指定します。 STYLE= オプションは、Banker スタイルを使用することを指定します。

```
style=Banker;
```

1996 年のデータのみを含むレポートを作成します。 組み込みを希望する変数を選択およびフォーマットして、タイトルならびに、フットノートを指定します。当 PROC PRINT ステ

ップは、変数年が 1996 のデータセット Grain_Production の結果のみを印刷します。VAR ステータスとして、国、種類およびキロトメントは、出力に表示する変数を選択します。TITLE および FOOTNOTE ステートメントにより、タイトルとフットノートが指定されます。

```
proc print data=grain_production;
var country type kilotons;
format country $cntry. kilotons comma12.;
where year=1996;
title 'Leading Grain-Producing Countries';
footnote 'Measurements are in metric tons.';
run;
```

HTML 出力先を閉じます。 ODS HTML CLOSE ステートメントによって、HTML 出力先とその関連ファイルすべてが閉じられます。

```
ods html close;

filename reports '../ods/grain-reports-body.htm' mod;
```

'GrainReport.html'ファイルに fileref REPORTS を割り当てます。 当 FILENAME ステートメントによって、更新されるファイル GrainReport.html に fileref が割り当てられます。MOD オプションは、更新モードでファイルを開きます。MOD オプションは、すべての動作環境で有効であるとは限りません。詳細は、動作環境の資料を参照してください。

```
filename reports 'GrainReport.html' mod;
```

HTML ファイル REPORTS にテキストを追加します。 当 DATA ステップは、REPORTS により参照されたファイルに書き込みます。PUT ステートメントは、HTML ファイルに H2 ヘッダーを作成します。

```
data _null_;
file reports;
put "<h2>The preceding output is from PROC PRINT.";
put "I am going to try a variety of procedures.";
put "Let me know which procedure you prefer.";
put "This report uses the Banker style.</h2>";
run;
```

HTML 出力を作成 当 ODS HTML ステートメントによって、HTML 出力先が開かれ、HTML 出力が作成されます。NO_TOP_MATTER および NO_BOTTOM_MATTER サブオプションは、ODS がファイルの上下に書き込むデフォルトの HTML コードを非表示にします。

```
ods html body=reports (no_top_matter no_bottom_matter)
```

HTML アンカータグのルートネームを指定します。 ANCHOR= オプションは、レポートを HTML アンカータグのルートネームとして指定します。ODS を使用して、ODS が作成した HTML ファイルに追加する場合、同一のアンカーをファイルに再度書き込まないために、ODS からファイルを開く毎に新たなアンカー名を指定します。(ODS は、ファイルを開いた際に、既に存在しているアンカーを認識することができず、アンカー名のベースとしてデフォルトで IDX を使用します。)

```
anchor='report';
```

1996 年のデータのみを含むレポートを作成します。 PROC REPORT ステップがデータセットを出力します。ODS は、ボディファイルに HTML 出力を追加します。NOWINDOWS

オプションは、PROC REPORT が REPORT ウィンドウなしで実行されることを指定し、その出力を開かれた出力先に送ります。

```
proc report data=grain_production nowindows;
  where year=1996;
  column country type kilotons;
  define country / group width=14 format=$cntry.;
  define type / group 'Type of Grain';
  define kilotons / format=comma12.;
run;
```

HTML 出力先を閉じます。 ODS HTML CLOSE ステートメントによって、HTML 出力先とその関連ファイルすべてが閉じられます。

```
ods html close;
```

HTML ファイル REPORTS にテキストを追加します。 当 DATA ステップは、REPORTS により参照されたファイルに書き込みます。PUT ステートメントは、HTML ファイルに H2 ヘッダーを作成します。

```
data _null_;
  file reports;
  put "<h2>The preceding output is from PROC REPORT.";
  put "It does not repeat the name of the country on every line.";
  put "This report uses the default style.</h2>";
run;
```

下部の内容をファイルに書き込むために HTML 出力を作成し、上部の内容の出力を非表示にして、アンカータグ用の新たなルート名を指定します。 有効な HTML コードを含む下部の内容を HTML ファイルに書き込むため、再度 HTML 出力先を開かなければなりません。NO_TOP_MATTER は、上部の内容がファイルに再度配置されないよう指定します。ANCHOR=は、下部のアンカー用に新たなルート名を定義します。

```
ods html body=reports(no_top_matter) anchor='end';
```

HTML 出力

当出力は、既存の HTML ファイルに HTML 出力を追加することにより作成されません。

Output 6.8 HTML が追加されたHTML 出力

Leading Grain-Producing Countries

Obs	Country	Type	Kilotons
16	Brazil	Wheat	3,302
17	Brazil	Rice	10,035
18	Brazil	Corn	31,975
19	China	Wheat	109,000
20	China	Rice	190,100
21	China	Corn	119,350
22	India	Wheat	62,620
23	India	Rice	120,012
24	India	Corn	8,660
25	Indonesia	Wheat	.

Measurements are in metric tons.

The preceding output is from PROC PRINT. I am going to try a variety of procedures. Let me know which procedure you prefer. This report uses the Banker style.

Leading Grain-Producing Countries

Country	Type of Grain	Kilotons
Brazil	Corn	31,975
Brazil	Rice	10,035

Example 5: プロシジャ間の水平方向の罫線の削除**Features:**

OPTIONS オプション
PAGEBREAK=NO

Other features:

GPLOT プロシジャ
PRINT プロシジャ
GOPTIONS ステートメント

詳細

HTML 文書は、通常改ページがなく1つの連続したページとして構成されます。文書が出力されている時、出力されたページのマージンに配置されたオブジェクトは、2ページに渡って表示されます。これを防ぐために、ODS HTML 先は、改ページコマンドが自動的に含まれるパラグラフタグを挿入することで、各出力オブジェクト間に改ページを挿入します。印刷された場合、各出力オブジェクトは、別のページに表示されま

す。小規模な文書の場合、これらのハードコード化された改ページを削除することを希望します。次の例では、改ページを削除する方法を説明します。

プログラム

```
options nodate obs=10;
goptions xpixels=500 ypixels=400;

ods html options(pagebreak='no');

title "Student Correlation";
symbol1 font="albnay amt" value='O' height=15pt color=pink;
symbol2 font="albnay amt" value='X' height=15pt color=lib;
proc gplot data=sashelp.class;
plot height*weight=sex / des="" name="name";
run;

title;
proc print data=sashelp.class;
run;

quit;
ods html close;
```

Program Description

オプションおよび go オプションを設定します。 OPTIONS ステートメントは、グローバルオプションを設定します。GOPTIONS ステートメントは、グラフィカルオプションを設定します。

```
options nodate obs=10;
goptions xpixels=500 ypixels=400;
```

改ページが作成されていないことを指定します。 2つのプロシジャが実行された場合に、グラフと表を水平方向の罫線で分離する改ページがデフォルトで存在します。PAGEBREAK= NO サブオプションは、2つの出力オブジェクトの間に改ページがはいらないことを指定します。

OPTIONS オプションに関する詳細は、“[例 7: ODS TAGSETS.HTMLPANEL 情報を取得するための DOC サブオプションの使用方法](#)” on page 453 および “[OPTIONS \(DOC=|<サブオプション>\)](#)” on page 307 を参照してください。

```
ods html options(pagebreak='no');
```

グラフを作成します SYMBOL ステートメントおよび GPLOT プロシジャは、グラフを作成します。

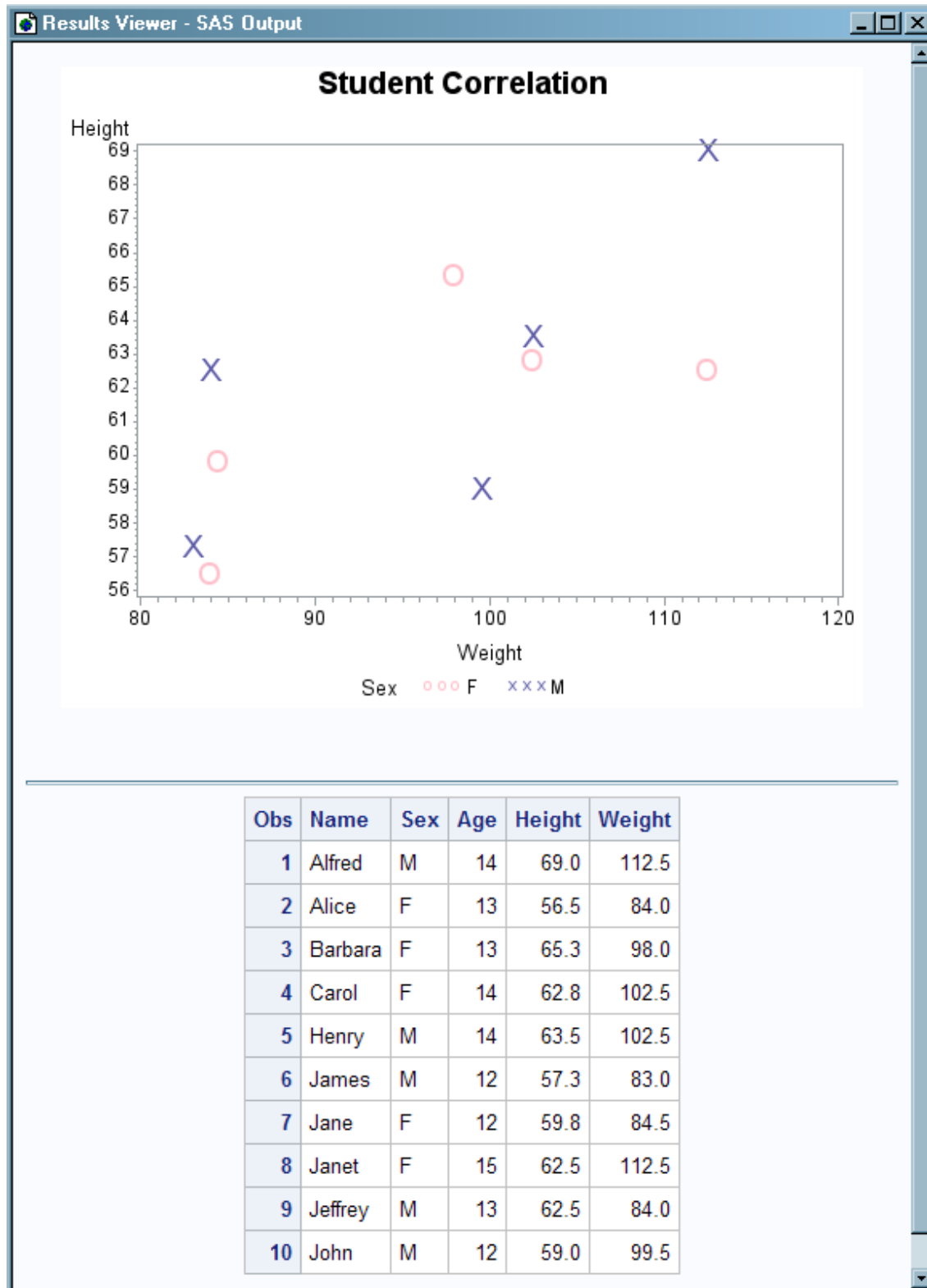
```
title "Student Correlation";
symbol1 font="albnay amt" value='O' height=15pt color=pink;
symbol2 font="albnay amt" value='X' height=15pt color=lib;
proc gplot data=sashelp.class;
plot height*weight=sex / des="" name="name";
run;
```

出力を印刷します。 PRINT プロシジャにより、データセットが印刷されます。

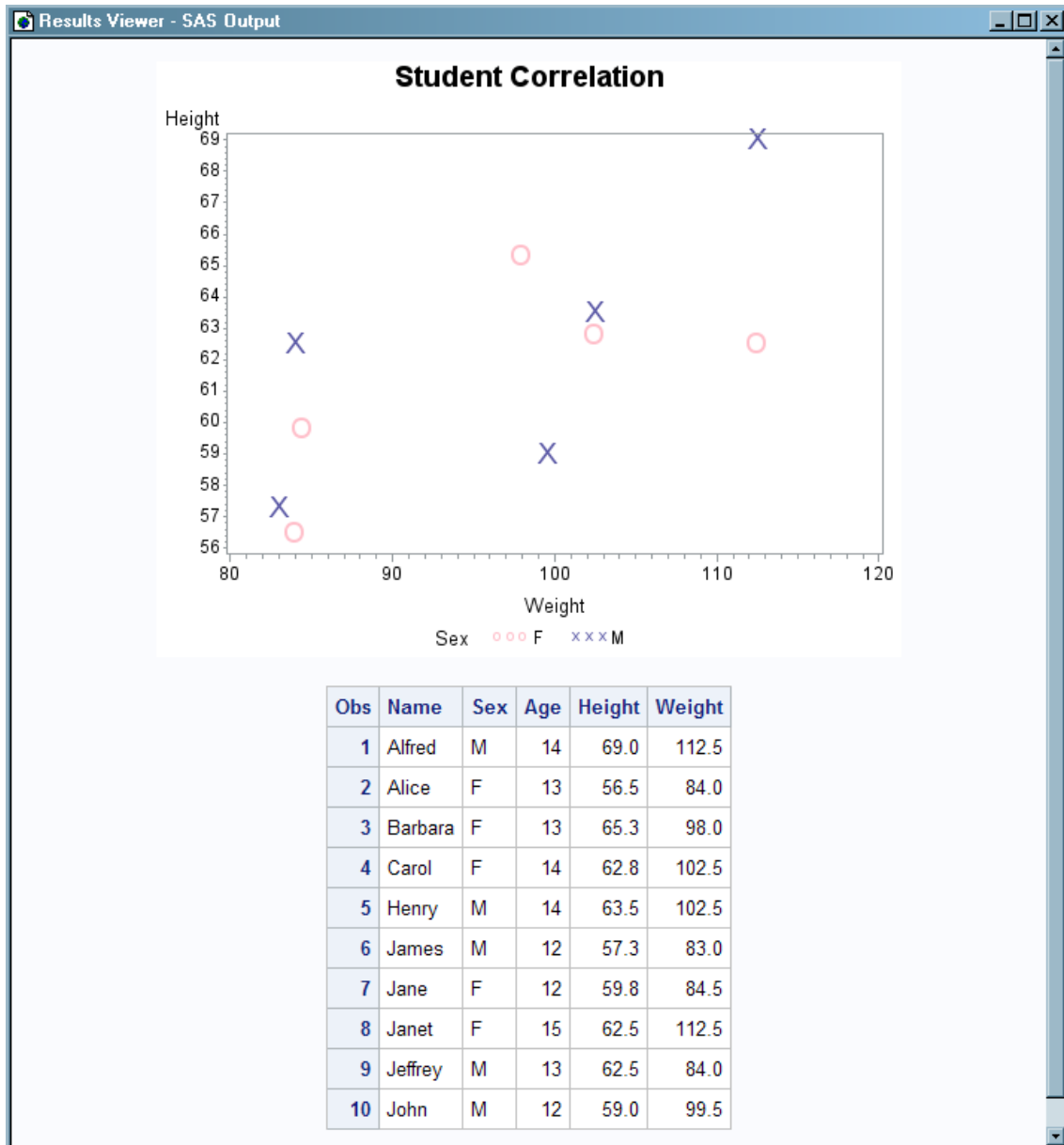
```
title;  
proc print data=sashelp.class;  
run;  
  
quit;  
ods html close;
```

出力

Output 6.9 改ページを含むデフォルトの出力



Output 6.10 改ページのない出力



See Also

- “ODS 出力先および HTML 出力先” on page 1373

ステートメント

- “ODS MARKUP ステートメント” on page 404
- “ODS タグセットステートメント” on page 614

ODS HTMLCSS ステートメント

カスケードスタイルシート式の HTML 出力を作成する HTMLCSS 出力先に対して開く、管理するまたは閉じる処理を行います。

Valid in: どこでも可能

Category: ODS: サードパーティフォーマット

Syntax

ODS HTMLCSS<(<ID=>識別子)> <アクション>;

ODS HTMLCSS <(<ID=>識別子)> <オプション>;

Summary of Optional Arguments

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送ります。

(ID= identifier)

同時に同出力先の複数のインスタンスを開いてください。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定してください。

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定してください。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入してください。

(URL='Uniform-Resource-Locator')

URL として *file-specification* の URL を指定してください。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます。

ANCHOR='anchor-name'

現行のボディファイルの各出力オブジェクトを識別するアンカータグに最適な独自のベース名を指定してください。

ARCHIVE='string'

ODS HTML 出力を閲覧するために使用するアプレットを指定してください。

ATTRIBUTES=(attribute-pair-1 ... attribute-pair-n)

動的なグラフィックス出力を生成するタグの間に書き込む属性を指定します。

BASE='base-text'

すべてのリンクの最初の部分として使用するテキストおよび出力ファイルにおいて ODS が作成したリファレンスを指定してください。

BODY='file-specification' (サブオプション)

マークアップファミリーの出力先を開き、ODS ステートメントにより作成された主な出力を含むファイルを指定してください。

CHARSET= character-set

HTML 出力用の META 宣言で生成される文字セットを指定してください。

CLOSE

出力先およびそれに関連するファイルを終了してください。

CODE= 'file-specification' <(サブオプション)>

HTML 出力先を開き、関連するスタイル情報を含むファイルを指定してください。

CODEBASE= 'string'

GOPTIONS デバイスが使用可能なファイルパスを作成してください。

CONTENTS= 'file-specification' <(サブオプション)>

HTML 出力先を開き、出力用の目次を含むファイルを指定してください。

CSSSTYLE= 'file-specification' <(media-type-1<...media-type-10>)>

出力に適用するカスケードスタイルシートを指定してください。

ENCODING= local-character-set-encoding

入力用のエンコーディングまたは、外部ファイルの出力処理(トランスコード)をオーバーライドしてください。

EVENT= event-name (FILE= | FINISH | LABEL= | NAME= | START | STYLE= | TARGET= | TEXT= | URL=)

イベントおよびイベントに関連するイベント変数用の値を指定してください。

EXCLUDE 除外 | ALL | NONE

出力先から出力オブジェクトを除外してください。

FRAME= 'file-specification' <(サブオプション)>

目次、ページコンテンツ、およびボディファイルを統合するファイルを指定してください。

GFOOTNOTE | NOGFOOTNOTE

グラフィックス出力においてフットノートがプリントされるロケーションを制御してください。

GPATH= 'aggregate-file-storage-specification' | ファイル参照 | libref.catalog**(URL= 'Uniform-Resource-Locator' | NONE)**

出力先が開いている間に生成されたすべてのグラフィックス出力のロケーションを指定してください。

GTITLE | NOGTITLE

グラフィック出力のタイトルがプリントされているロケーションを制御してください。

HEADTEXT= 'markup-document-head'

出力先が書き込むすべてのファイルのタグ<HEAD> および </HEAD> の間に配置する HTML タグを指定してください。

METATEXT= 'metatext-for-document-head'

<META><>の間、HEAD>HEAD>および<HEAD>出力先が書き込む先のすべてのファイルのタグとして使用する HTML コードを指定してください。

NEWFILE= starting-point

新しいボディファイルを指定された開始点に作成してください。

OPTIONS (DOC= | <サブオプション>)

tagset-specific サブオプションおよび名付けられた値を指定してください。

PACKAGE <package-name>

出力先からの出力を ODS パッケージに追加することを指定してください。

PAGE= 'file-specification' <(サブオプション)>

HTML 出力先を開き、ボディファイルの各ページの説明およびボディファイルへのリンクを含むファイルを指定してください。

PARAMETERS= (parameter-pair-1 ... parameter-pair-n)

動的グラフィックス出力を生成するタグの間に指定されたパラメータを書き込んでください。

`PATH= 'aggregate-file-storage-specification'` | [ファイル参照](#) | `libref.catalog` (`URL= 'Uniform-Resource-Locator'` | NONE)

累積保管場所のロケーションまたはすべてのマークアップファイル用の SAS カタログを指定してください。

`RECORD_SEPARATOR= 'alternative-separator'` | NONE

出力ファイルのラインを分離するために代替りの文字または文字列を指定してください。

`SELECT` [選択](#) | ALL | NONE

出力先用に出力オブジェクトを選択してください。

`SHOW`

SAS ログに出力先用の現行の選択または除外リストを書き込んでください。

`STYLE= style-definition`

出力ファイルを書く場合に使用するスタイル定義を指定してください。

`STYLESHEET= 'file-specification'` <([サブオプション](#))>

HTML の出力先を開き、出力用のスタイル情報を外部ファイルに配置、または既存のファイルからスタイルシート of 情報を読み込んでください。

`TEXT= text-string`

文書にテキストを挿入してください。

`TRANTAB= 'translation-table'`

出力用のファイルをトランスコーディングする際に変換表を指定してください。

Without Arguments

操作やオプションを含まない ODS HTMLCSS ステートメントを使用した場合、ODS HTMLCSS ステートメントによって HTMLCSS 出力先が開かれ、HTMLCSS 出力が作成されます。

Actions

ODS HTMLCSS ステートメントでは、次の操作が利用可能です。ODS HTMLCSS ステートメントは、ステートメントのマークアップファミリの一部です。

CLOSE

出力先およびそれに関連するファイルを終了します。プリンタの出力先の場合、出力先を終了するまでファイルをプリントできません。

Tip: ODS 出力先が終了した場合、ODS は、その出力先に出力を送りません。不要な出力先を終了することで、システムリソースの節減します。

EXCLUDE [除外](#) ALL | NONE

出力先から1つまたはそれ以上の出力オブジェクトを除外します。

Default: NONE

Restriction: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

See: “ODS EXCLUDE ステートメント” on page 232

SELECT [選択](#) | ALL | NONE

指定された出力先用に出力オブジェクトを選択します。

Default: ALL

Restriction: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

See: “ODS SELECT ステートメント” on page 598

SHOW

SAS ログに出力先用の現行の選択または除外リストを書き込みます。

Restriction: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

Tip: 選択または除外リストがデフォルトのリスト(SELECT ALL)である場合、SHOW は、全体の選択または除外リストも書きます。選択または除外リストに関する詳細は、を“[選択リストと除外リスト](#)” on page 49 参照してください。

See: “ODS SHOW ステートメント” on page 614

Optional Arguments

ステートメントのマークアップファミリの一部である ODS HTMLCSS ステートメントで、次のオプションが利用可能です。

ANCHOR= 'anchor-name'

現行のボディファイルの各出力オブジェクトを識別するアンカータグに最適な独自のベース名を指定します。

各出力オブジェクトは、参照するためにコンテンツ、ページ、およびフレームファイル用にアンカータグを持ちます。ODS により自動的に作成されたリンクとレファレンスは、アンカー名を指します。そのため、ファイルの各アンカー名は、固有名でなければなりません。

anchor-name

現行の ボディファイルにおいて、各出力オブジェクトを識別するアンカータグのベース名です。

ODS は、指定した名称をインクリメントすることで独自のアンカー名を作成します。例えば、ANCHOR='TABULATE'を指定した場合、ODS は最初のアンカーに `tabulate` と名前を付けます。2番目のアンカー名が `tabulate1` で、3番目が `tabulate2`、と名称が続きます。

Restriction: ファイルのアンカー名は、ユニークでなければなりません。

Requirement: 引用符で *anchor-name* を囲まなければなりません。

Interaction: 追加するためにファイルを開いた場合、ファイルに再度同じアンカーを書き込むことを防ぐために、新しいアンカー名を必ず指定してください。ODS は、ファイルを開いた際に、既にファイルに存在するアンカーは、識別しません。

Tips:

プログラムのどこかにマークアップファミリーの ANCHOR=オプションを指定することで、アンカー名を変更できます。アンカー名を指定した後に、新しいものを指定するまで有効になります。

プログラムのさまざまなポイントに新しいアンカー名を指定することで、他のウェブページをマークアップ言語の出力の特定の箇所にリンクできるようになります。アンカー名が変更された箇所を制御できるため、それらのポイントにおけるアンカー名を事前に知ることができます。

ARCHIVE='string'

ODS HTML 出力を閲覧するために使用するアプレットを指定しています。ARCHIVE= オプションは、GOPTIONS java デバイス用にのみ有効です。

文字列は、ブラウザが認識できるものでなければなりません。例えば、アーカイブファイルが SAS で実行中のコンピューターに対してローカルな場合、ファイルを識別するために FILE プロトコルを使用できます。Web サーバーのアーカイブファイルを指したい場合、HTTP プロトコルを使用してください。

Default: ARCHIVE=を指定せず、JAVA デバイスドライバを使用している場合、ODS は SAS システムオプションの値である APPLETOC=を使用します。ACTIVEX デバイスドライバを使用している場合、デフォルトはありません。

Requirements:

引用符で *string* を囲まなければなりません。

ARCHIVE 属性は、Java 1.1 の機能です。そのため Java デバイスドライバを使用している場合、ブラウザは、この Java バージョンをサポートしていなければなりません。Internet Explorer 4.01 と Netscape 4.05 の両方が、Java 1.1 をサポートします。

Interaction: ARCHIVE= を SAS/GRAPH プロシジャと共に使用し、GOPTIONS ステートメントにおいて DEVICE=JAVA または DEVICE=ACTIVEX オプションを使用してください。

Tips:

ODS HTML 出力を閲覧するための SAS/GRAPH アプレットを SAS サーバーが、自動的に判断するため、このオプションを通常使用してはいけません。しかし JAR ファイルの名称を変更した場合、または ODS HTML 出力を閲覧するためのその他のアプレットを有する場合、このオプションはこれらのアプレットにアクセス可能にします。

ファイルパスを指定するために、CODEBASE= オプションを使用してください。ARCHIVE= オプションにファイルパスを置かないことが推奨されます。

APPLETOC= の値は、SAS システムと一緒に送られる Java アーカイブのローケーションを指します。オプションの値を知るために、Environment Control の下の Files フォルダの Options ウィンドウを参照するか、次のプロシジャステップを発行できます。

```
proc options option=appletloc;
run;
```

ATTRIBUTES= (attribute-pair-1 ... attribute-pair-n)

動的なグラフィックス出力を生成するタグの間に指定された属性を書き込みます。

attribute-pair

各属性の名称および値を指定します。*attribute-pair* は、次のフォームを有します。

```
'attribute-name'= 'attribute-value'
```

attribute-name

属性の名称です。

attribute-value

属性の値です。

Requirement: 引用符で *attribute-name* と *attribute-value* を囲まなければなりません。

Interaction: ATTRIBUTES=オプションを SAS/GRAPH プロシジャ および GOPTIONS ステートメントの DEVICE=JAVA、JAVAMETA、または ACTIVEX オプションと一緒に使用してください。

See: *SAS/GRAPH: Reference* グラフアプレット、マップアプレット、コンターアプレット、および MetaView アプレット用の有効な属性

BASE= 'base-text'

すべてのリンクの最初の部分として使用するテキストおよび出力ファイルにおいて ODS が作成したレファレンスを指定します。

base-text

ODS が、すべてのリンクの最初の部分として使用するテキストおよびファイルにおいて ODS が作成したレファレンスです。

次の仕様を考慮してください。

```
BASE= 'http://www.your-company.com/local-url/'
```

この場合、ODS は、`http://www.your-company.com/local-url/`文字列で始まるリンクを作成します。適切な *anchor-name* でリンクが完成します。

Requirement: 引用符で *base-text* を囲まなければなりません。

BODY='file-specification' (サブオプション)

マークアップファミリーの出力先を開き ODS ステートメントにより作成された主な出力を含むファイルを指定してください。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態になります。。

- *ODS markup-family-destination* CLOSE ステートメントまたは *ODS _ALL_* CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーステートメントを使用して、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照、または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

external-file

書き込み先の外部ファイルの名称です。

Requirement: 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイル参照です。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

Restriction: BODY=ファイル参照オプションは、NEWFILE= オプションと一緒に使用することはできません。

See: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)を参照してください。

エントリー。マークアップ

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

Interaction: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

(サブオプション)

カッコ内に1つまたはそれ以上のサブオプションを指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次のようになります。

(DYNAMIC)

ファイルに書き込むのではなく、出力をウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE で [CONTENTTYPE= on page 987](#) を参照してください。

Default: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

Restriction: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

Requirements:

DYNAMIC を、括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

Alias: NOBOT

Requirements:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加する場合、動作環境に対して適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_BOTTOM_MATTER サブオプションは、NO_TOP_MATTER サブオプションを伴うことで、既存のファイルに出力を追加することを可能にし、ファイルの出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置できます。

ODS が、過去に書き込んだファイルを開く場合、アンカー用に新しいベース名を指定するために ANCHOR= オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

Tip: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、マークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

See: NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの先頭にどのような開始マークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

Alias: NOTOP

Requirements:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

The NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

See: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR= オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

Requirements:

TITLE= を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

Tip: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されます。

Example: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” on page 443

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

Requirements:

括弧で URL= '*Uniform-Resource-Locator*' を囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL= '*Uniform-Resource-Locator*' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

Tips:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

Example: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” on page 446

Alias: FILE=

Interaction: ODS マークアップの出力先に言及する ODS マークアップファミリーステートメントの BODY= オプションを使用することにより、ODS に出力先および関連するすべてのファイルを終了した後、出力先の新しいインスタンスを開くことを強制します。詳細は、“MARKUP 出力先を開く/閉じる” on page 438 を参照してください。

Note: いくつかの TAGSET= の値に対して、出力は HTML ファイルで、他の TAGSET= の値に対して、出力は XML ファイルなどになります。

CHARSET= *character-set*

HTML 出力用の META 宣言で生成される文字セットを指定します。

See: 詳細は、“CHARSET=オプション” (*SAS 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド*)を参照してください。

CODE= 'file-specification' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、XSL (Extensible Stylesheet Language)等の関連するスタイル情報を含むファイルを指定します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります。

- ODS *markup-family-destination* CLOSE ステートメント または ODS *_ALL_* CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

Requirement: 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイル参照です。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

See: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)を参照してください。

entrymarkup

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

Interaction: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論も参照してください。

サブオプション

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次のようになります。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE= スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の [CONTENTTYPE= on page 987](#) を参照してください。

Default: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

Restriction: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

Requirements:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

Alias: NOBOT

Requirements:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

Tip: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、マークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

See: NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

Alias: NOTOP

Requirements:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_BOTTOM_MATTER サブオプションは、NO_TOP_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

See: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR= オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

Requirements:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

Tip: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されます。

Example: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” on page 443

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

Requirements:

括弧で URL='Uniform-Resource-Locator'を囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator'は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

Tips:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME=オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

Example: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” on page 446

CODEBASE='string'

実行可能な Java アプレットまたは、ActiveX コントロールファイルのロケーションを指定します。*string* は、パス名または URL を指定します。使用される GOPTIONS により、CODEBASE ファイルパスには、2つの出力先があります。

JAVA および ActiveX デバイスドライバでウェブプレゼンテーションを生成した場合に、SAS は、JAVA アーカイブファイルを自動的に検索する HTML ページまたは、デフォルトインストールロケーションに ActiveX コントロールファイルを生成します。

ActiveX デバイス用

ActiveX コントロールを含む出力を生成する際に ODS を伴う ActiveX デバイスドライバを使用する場合、ODS の CODEBASE= オプションを指定してください。CODEBASE=オプションの値は、ロケーションおよび EXE ファイルのバージョンを含むべきです。

Tip: 出力を閲覧するユーザーがマシンに ActiveX コントロールをインストールしていない場合を除き DEVICE=ACTIVEX オプションで CODEBASE= オプションを指定する必要はありません。コントロールをインストールしていないユーザーが出力を閲覧する場合、コントロールをダウンロードすることを促されます。

See: *SAS/GRAPH: Reference* CODEBASE= および ARCHIVE=オプションを使用したコントロールおよびアプレットのロケーションの指定に関する詳細は、次を参照してください。

Java デバイス用

SAS/GRAPH アプレットを含む出力を生成するために、デバイスドライバを使用する場合、ODS ステートメントの CODEBASE= オプションを使用して JAR ファイルへのパスを指定してください。

DEVICE=JAVA を指定した場合、出力を閲覧するユーザーは、適切な Java アプレットにアクセスを有する必要があります。SAS は、デフォルトで、SAS により自動的にインストールされたアプレット用の実行可能ファイルに言及するために、CODEBASE= 値を設定します。SAS Java アーカイブファイルのデフォルトのロケーションは、APPLETLOC= システムオプションにより指定されています。次の両条件を満たしている場合、CODEBASE=オプションを指定する必要がありません。

- デフォルトのロケーションは、ウェブプレゼンテーションを閲覧するユーザーにより、アクセス可能です。
- SAS Java アーカイブは、そのロケーションにインストールされています。

Tip: JAR ファイルのディレクトリのみ指定してください。CODEBASE=ロケーションは、パス名または URL として指定できます。

See: *SAS/GRAPH: Reference* CODEBASE= および ARCHIVE= オプションを使用したコントロールおよびアプレットファイルのロケーションの指定に関する詳細は、次を参照してください。

CONTENTS= '*file-specification*' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、出力用の目次を含むファイルを指定します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります。:

- ODS *markup-family-destination* CLOSE ステートメントまたは ODS *_ALL_* CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

Requirement: 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイル参照です。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

See: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS ステートメント: リファレンス*)を参照してください。

entry.markup

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

Interaction: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

サブオプション

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次のようになります。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。この設定は、CONTENTTYPE= スタイル属性の値を設定します。

詳細は、PROC TEMPLATE の [CONTENTTYPE= on page 987](#) を参照してください。

Default: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

Restriction: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

Requirements:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣、あるいは、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

Alias: NOBOT

Requirements:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

Tip: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

See: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

Alias: NOTOP

Requirements:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

See: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR= オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

Requirements:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

Tip: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されます。

Example: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” on page 443

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

Requirements:

URL='Uniform-Resource-Locator'を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

Tips:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME=オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

Example: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” on page 446

CSSSTYLE='file-specification'<(media-type-1<...media-type-10>)>

出力に適用するカスケードスタイルシートを指定します。

file-specification

CSS コードを含むファイル、ファイル参照、または、URL を指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

"external-file"

外部ファイルの名称です。

Requirement: 括弧で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

See: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS ステートメント: リファレンス*)を参照してください。

"URL"

外部ファイルへの URL です。

Requirement: 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

(media-type-1 < media-type-10 >)

出力にレンダリングされるメディアの種類に対応する1つまたはそれ以上のメディアブロックを指定します。文書が、スクリーン、紙、スピーチセンセサイザー、点字装置、等々の異なるメディアにどのように提示されるか指定するために、CSS は、メディアタイプを使用します。

メディアブロックは、いかなるメディアブロックに含まれていないCSSコードを伴い出力に追加されます。*media-type* サブオプションを使用することで一般のCSSコードを伴い、特定のメディアタイプを対象とするCSSファイルの項目をインポートできます。

Default: ODS ステートメントにいかなる *media-type* が指定されてないが、CSS ファイルにメディアタイプが指定されている場合、ODS は、Screen メディアタイプを使用します。

Range: 異なる10個のメディアタイプを指定できます。

Requirements:

括弧で *media-type* を囲まなければなりません。

CSSSTYLE= オプションで指定された *file-specification* の隣に、*media-type* を指定しなければなりません。

Tip: 複数のメディアタイプを指定した場合、出力にすべてのメディアタイプのすべてのスタイル情報が適用されます。しかし、異なるメディアブロックにおいて重複するスタイル情報が存在する場合、最後のメディアブロックのスタイルが使用されます。

Restriction: CSSSTYLE= オプションは、SAS/GRAPH 出力に影響を与えません。

Requirement: CSS ファイルは、ODS HTML ステートメントにより作成されたCSSと同じ種類で書き込まなければなりません。ID や文脈ベースのセクターの無いクラス名のみがサポートされます。ODS が作成するCSSコードを閲覧するには、次の内の1つを行ってください。

- STYLESHEET= オプションを指定してください。
- HTML ファイルのソースを閲覧して、ファイルの上部の < STYLE> </STYLE> タグの間のソースを閲覧してください。

有効な ODS CSS ファイルの例は、“[例 6: ODS 出力へ CSS ファイルの適用](#)” on page 448 を参照してください。

Interaction: STYLE= オプションおよび CSSSTYLE= オプションの両方が、ODS ステートメントに指定されている場合、最後に指定されたオプションが使用されます。

Example: “例 6: ODS 出力へ CSS ファイルの適用” on page 448

ENCODING= *local-character-set-encoding*

入力用のエンコーディングまたは、外部ファイルの出力処理(トランスコード)をオーバーライドします。

See: ENCODING= オプションに関する詳細は、“ENCODING システムオプション: UNIX、Windows、および z/OS” (*SAS 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド*)次を参照してください。

EVENT=*event-name* (**FILE=** | **FINISH** | **LABEL=** | **NAME=** | **START** | **STYLE=** | **TARGET=** | **TEXT=** | **URL=**)

イベントおよびイベントに関連するイベント変数用の値を指定します。

(**FILE=** BODY | CODE | CONTENTS | DATA | FRAME | PAGES | STYLESHEET);

BODY=、CODE=、CONTENTS=、FRAME=、PAGES=、および STYLESHEET= オプションに対応する出力ファイルの既知の種類の中の1つをトリガーします。

(FINISH)

イベントの終了項目をトリガーします。

See: 詳細は、“イベントについて” on page 1167 を参照してください。

(**LABEL=**'*variable-value*')

LABEL イベント変数用の値を指定します。

Requirement: *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

See: LABEL イベント変数に関する詳細は、“イベント変数” on page 1211 次を参照してください。

(**NAME=**'*variable-value*')

NAME イベント変数用の値を指定します。

Requirement: *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

See: NAME イベント変数に関する詳細は、“イベント変数” on page 1211 を参照してください。

(START)

イベントの開始項目をトリガーします。

See: イベントに関する詳細は、“イベントについて” on page 1167 次を参照してください。

(**STYLE=***style-element*)

スタイルエレメントを指定します。

See: スタイルエレメントに関する詳細は、“スタイル属性の概要” on page 968 次を参照してください。

(**TARGET=**'*variable-value*')

TARGET イベント変数用の値を指定します。

Requirement: *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

See: TARGET イベント変数に関する詳細は、“イベント変数” on page 1211 次を参照してください。

(**TEXT=**'*variable-value*')

TEXT イベント変数用の値を指定します。

Requirement: *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

See: TEXT イベント変数に関する詳細は、“イベント変数” on page 1211 を参照してください。

(URL='variable-value')

URL イベント変数用の値を指定します。

Requirement: *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

See: URL イベント変数に関する詳細は、“イベント変数” on page 1211 を参照してください。

Default: (FILE='BODY')

Requirement: The EVENT= オプションのサブオプションを括弧で囲まなければなりません。

FRAME= '*file-specification*' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、HTML 出力用に、目次、ページコンテンツ、およびボディファイルを統合するファイルを指定します。フレームファイルを開くと目次、ページコンテンツ、またはその両方、およびボディファイルを閲覧できます。XML 出力用に、FRAME= は、DTD を含むファイルを指定します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります

- *ODS markup-family-destination* CLOSE ステートメント または ODS _ALL_ CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

Requirement: 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てするために、FILENAME ステートメントを使用してください。

See: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS ステートメント: リファレンス*)次を参照してください。

entry.markup

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

Interaction: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

サブオプション(s)

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次の内の1つになります。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の [CONTENTTYPE= on page 987](#) を参照してください。

Default: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

Restriction: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=

- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

Requirements:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

Alias: NOBOT

Requirements:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

Tip: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

See: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

Alias: NOTOP

Requirements:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

See: NO_BOTTOM_MATTER サブオプションおよび ANCHOR= オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

Requirements:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

Tip: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されます。

Example: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” on page 443

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます。

Requirements:

URL='Uniform-Resource-Locator' を括弧で囲まなければなりません。'

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

Tips:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME=オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

Example: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” on page 446

Restriction: FRAME=オプションを指定した場合、CONTENTS= オプション、PAGE= オプション、または両方を指定しなければなりません。

Example: “例 2: XML ファイルと DTD の作成” on page 441

GFOOTNOTE | NOGFOOTNOTE

グラフィックス出力においてフットノートがプリントされるロケーションを制御します。

GFOOTNOTE

SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたフットノートをプリントします。フットノートは、グラフのボーダー内に表示されます。

NOGFOOTNOTE

グラフのボーダー外に表示される ODS により作成されたフットノートをプリントします。

Default: GFOOTNOTE

Restrictions:

マークアップ言語により表示されるフットノートは、すべての SAS/GRAPH FOOTNOTE ステートメントオプションをサポートします。フォントは、ブラウザ用に有効でなければなりません。テキスト角度の仕様など ODS が扱えないオプションは無視されます。SAS/GRAPH FOOTNOTE ステートメントに関する詳細は、“FOOTNOTE Statement” in *SAS/GRAPH: Reference* を参照してください。

このオプションは、1つまたはそれ以上のデバイススペースのグラフィックスを作成する SAS プログラム または、SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたグラフィックスにのみ適用されます。

GPATH= *'aggregate-file-storage-specification'* | **ファイル参照** | *libref.catalog* (URL=*'Uniform-Resource-Locator'* | NONE)

出力先が開いている間に生成されたすべてのグラフィックス出力のロケーションを指定します。マークアップファイル用の PATH= オプションで指定されたものとは異なるロケーションにグラフィックス出力を書き込みたい場合にこのオプションを使用してください。無効なファイル名を指定した場合、ActiveX および Java デバイスはデフォルトのファイル名に出力を送ります。その他のデバイスはファイルをディレクトリとして作成して、そのディレクトリに出力を書き込みます。ODS が、カタログエントリおよび外部ファイルに名称を付ける方法に関する 詳細は、次を参照してください。 *SAS/GRAPH: Reference*

'aggregate-file-storage-location'

ディレクトリ、フォルダ、または分割されたデータセット等の累積保存ロケーションを指定します。

Requirement: 引用符で *aggregate-file-storage-location* を囲まなければなりません。

ファイル参照

累積保存ロケーションに割り当てられたファイルリファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメント を使用してください。

Interaction: GPATH= オプションにおいてファイル参照を指定した場合、ODS は、リンクを構築する際に、GPATH=オプションからの情報を使用しません。

See: FILENAME ステートメントに関する詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS ステートメント: リファレンス*)次を参照してください。

ライブラリ参照。 *catalog*

書き込む先の SAS カタログを指定します。

URL=*'Uniform-Resource-Locator'* | NONE
file-specification の URL を指定します。

Uniform-Resource-Locator

指定した URL です。ODS は、ファイルに作成するすべてのリンクおよびリファレンスにおいて ファイル名ではなくこの URL を使用します。

Requirement: 引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

NONE

リンクまたはリファレンスに GPATH=オプションからのいかなる情報が表示されないことを指定します。

Tip: このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツまたはページファイルからのリンクが簡単な URL (単一名) で構築されている場合、コンテンツ、ページ、およびボディファイルさえ同一のロケーションにあれば、それらは解決します。

Default: GPATH= オプションを除外すると、ODS は、PATH= オプションにより指定されたロケーションにグラフィックスを保存します。PATH= オプションを指定しない場合、ODS は、グラフィックスを現行のディレクトリに保存します。詳細は、PATH= オプションを参照してください。

GTITLE | NOGTITLE

グラフィック出力のタイトルがプリントされているロケーションを制御します。

GTITLE

SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたフタイトルをプリントします。タイトルは、グラフボーダーの内部に表示されます。

NOGTITLE

グラフボーダーの外部に表示される ODS により作成されたタイトルをプリントします。

Default: GTITLE

Restrictions:

いかなるマークアップ言語のステートメントにより表示されるタイトルは、大部分の SAS/GRAPH TITLE ステートメントオプションをサポートします。フォントは、ブラウザ用に有効でなければなりません。テキスト角度の仕様など ODS が扱えないオプションは無視されます。SAS/GRAPH TITLE ステートメントに関する詳細は、TITLE ステートメントを参照してください。

このオプションは、1つまたはそれ以上のデバイススペースのグラフィックスを作成する SAS プログラム または、SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたグラフィックスにのみ適用されます。

HEADTEXT= 'markup-document-head'

出力先が書き込むすべてのファイルのタグ < HEAD> および < /HEAD> の間に配置する HTML タグを指定します。

markup-document-head

< HEAD> および < /HEAD> の間に配置するマークアップタグを指定します。

Restriction: HEADTEXT= は、256 文字を超えてはなりません。

Requirement: *markup-document-head* を引用符で囲まなければなりません。

Tips:

ODS は、提供するマークアップを解析できません。それは、< HEAD> および < /HEAD> タグとの関連で、well-formed マークアップでなければなりません。後で、ファイルで使用できるプログラム (JavaScript) 等を定義するために HEADTEXT= オプションを使用してください。

(ID= identifier)

同時に同出力先の複数のインスタンスの実行を可能にします。各インスタンスは、異なるオプションを有します。

identifier

既に開かれた出力先のもう1つのインスタンスを指定します。identifier は、文字または、アンダーラインで始まる数字または連続した文字です。後続の文字は、文字、アンダーライン、および数字を含むことができます。

Restriction: もし identifier が数値の場合、正の整数にする必要があります。

Requirement: ID= オプションは、ODS *MARKUP/TAGSET* ステートメントキーワードの直後に指定しなければなりません。

Tip: ID= オプションを除外し、インスタンスを識別するために代わりに名前または数字を使用できます。

Example: “例: 同時に同じ出力先のインスタンスを複数開く” on page 499

METATEXT= 'metatext-for-document-head'

<META><>の間、HEAD>HEAD>および<HEAD>出力先が書き込む先のすべてのファイルのタグとして使用する HTML コードを指定します。

'metatext-for-document-head'

ブラウザにロードする文書に関する情報を提供する HTML コードを指定します。例えば、この属性は、コンテンツの種類および使用される文字セットを指定できます。

Requirement: 引用符で *metatext-for-document-head* を囲まなければなりません。

Default: METATEXT=を指定しない場合、ODS は、作成するすべての HTML ファイルに文書のコンテンツの種類および使用する文字セットを含む簡単な <META> タグを書きます。

Restriction: METATEXT= は、256 文字を超えてはなりません。

Tip: ODS は、提供する HTML コードを解析できません。HTML コードは、<HEAD>タグの脈絡において正確で、良く構築されていなければなりません。METATEXT= を意図された通りに使用した場合、META タグは次のように見えます。

```
<META your-metatext-is-here>
```

NEWFILE= *starting-point*

新しいボディファイルを指定された *starting-point* に作成します。

starting-point

新しいボディファイルを作成するのに適した出力のロケーションです。

ODS は、ボディファイル名をインクリメントすることで自動的に新しいファイル名を付けます。次の例で、ODS は、初めのボディファイルの名付けます。

REPORT.XML 追加のボディファイルが名付けられます。**REPORT1.XML**, **REPORT2.XML**, 等

例

```
BODY= 'REPORT.XML'
```

starting-point は、次の内の1つです。

BYGROUP

各 BY グループの結果用に新たなファイルを開始します。

NONE

現在開かれているボディファイルにすべての出力を書き込みます。

OUTPUT

各出力オブジェクト用に新たなファイルを開始します。SAS/GRAPH に対して、これは、ODS がプログラムが生成した各 SAS/GRAPH 出力ファイル用に新たなファイルを作成することを意味します。

Alias: TABLE

PAGE

出力の各ページ用に新たなボディファイルを開始します。改ページは、手順が明示的に新たなページを開始(ページのサイズが足りないからではなく)または、新たなプロシジャを開始する時点で発生します。

PROC

新たな手順を開始する度に新たなボディファイルを開始します。

Default: NONE

Restriction: NEWFILE= オプションは、BODY=ファイル参照 オプションと一緒に使用できません。

Tips:

ファイル名を数字で終了した場合、ODS はその数字の増加を開始します。次の例で、ODS は、最初のボディファイル *MAY5.XML* の名付けをします。追加のボディファイル名は、*MAY6.XML*, *MAY7.XML*、等となります。

例

```
BODY= 'MAY5.XML'
```

OPTIONS (DOC= |<サブオプション>)

tagset-specific サブオプションおよび名付けられた値を指定します。

(DOC= 'HELP' | 'QUICK' | 'SETTINGS' | 'CHANGELOG')

指定されたタグセットについての情報を提供します。

HELP

簡易参照で、一般的なヘルプおよび情報を提供します。

QUICK

このタグセットで利用可能なオプションを説明します。

SETTINGS

現行のオプション設定を提供します。

CHANGELOG

タグセットへの変更履歴をリストします。このサブオプションは、RTF タグセットにおいてのみサポートされています。

Requirement: すべての値は、引用符で囲まなければなりません。

サブオプション(s)

指定されたタグセットに有効な1つまたはそれ以上のサブオプションを指定します。サブオプションは、次のフォーマットを有します。

keyword='value'

タグセット用のサブオプションの情報を得るために、ODS タグセットステートメントを開く時、または出力先が開かれたいかなる時に、次のオプションの内の1つを指定してください。

- オプション (doc='help');
- オプション (doc='quick');
- オプション (doc='settings');

Requirement: OPTION サブオプションを括弧で囲まなければなりません。

Example: “例: ODS TAGSETS.HTMLPANEL 情報を得るために DOC サブオプションを使用。” on page 651

PACKAGE <package-name>

出力先からの出力を ODS パッケージに追加することを指定します。

package-name

ODS PACKAGE ステートメントで作成されたパッケージの名称を指定します。指定された名称が無い場合、出力は最後に開かれた名称の付けられていないパッケージに追加されます。

See: “ODS PACKAGE ステートメント” on page 469

Example: “例 1: ODS パッケージの作成” on page 473

PAGE= 'file-specification' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、ボディファイルの各ページの説明およびボディファイルへのリンクを含むファイルを指定します。ODS は、手順が新たなページを要求した際に、出力の新しいページを作成します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります

- *ODS markup-family-destination* CLOSE ステートメントまたは *ODS _ALL_* CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の 1 つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

Requirement: 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイル参照です。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

See: FILENAME ステートメントに関する詳細は、“FILENAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)次を参照してください。

入力。マークアップ

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

Interaction: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

サブオプション

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次のようになります。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の [CONTENTTYPE= on page 987](#) を参照してください。

Default: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

Restriction: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

Requirements:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

Alias: NOBOT

Requirements:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

Tip: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

See: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

Alias: NOTOP

Requirements:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

See: The NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR=option

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

Requirements:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

Tip: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されます。

Example: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” on page 443

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

Requirements:

URL='Uniform-Resource-Locator'を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

Tips:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

Example: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” on page 446

Interaction: SAS システムオプションの PAGESIZE=は、バッチ出力を作成する時以外は、HTML 出力のページに影響を与えません。PAGESIZE= オプションに関する詳細は、“PAGESIZE= System Option” in *SAS System Options: Reference* を参照してください。

PARAMETERS= (*parameter-pair-1 ... parameter-pair-n*)

動的グラフィックス出力を生成するタグの間に指定されたパラメータを書き込みます。

parameter-pair

各パラメータの名称および値を指定します。*parameter-pair* は、次の形態を有します。

'*parameter-name*'='*parameter-value*'

parameter-name

パラメータの名称です。

parameter-value

パラメータの値です。

Requirement: 引用符で *parameter-name* および *parameter-value* を囲まなければなりません。

Interaction: PARAMETERS=を SAS/GRAPH プロシジャおよび GOPTIONS ステートメントの DEVICE=JAVA、JAVAMETA、または ACTIVEX オプションと一緒に使用してください。

See: *SAS/GRAPH: Reference* グラフアプレット、マップアプレット、カンターアプレット、およびメタビューアプレット用に有効なパラメータ

PATH= *'aggregate-file-storage-specification'* | **ファイル参照** | *libref.catalog* (URL=*'Uniform-Resource-Locator'* | NONE)

累積保管場所のロケーションまたはすべてのマークアップファイル用の SAS カタログを指定します。GPATH= オプションが指定されていない場合、すべてのグラフィックスファイルは、“*aggregate-file-storage-specification*”または、**ライブラリ参照**に書き込まれます。

'aggregate-file-storage-location'

ディレクトリ、フォルダ、または分割されたデータセット等の累積保存ロケーションを指定します。

Requirement: 引用符で *aggregate-file-storage-location* を囲まなければなりません。

ファイル参照

累積保存ロケーションに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

Interaction: PATH= オプションのを使用した場合、ODS は、リンクを構築する際に PATH= からの情報を使用しません。

See: FILENAME ステートメントに関する詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS ステートメント: リファレンス*)を参照してください。

ライブラリ参照。 *catalog*

書き込む先の SAS カタログを指定します。

See: LIBNAME ステートメントに関する詳細は、“LIBNAME ステートメント” (*SAS ステートメント: リファレンス*)を参照してください。

URL= *'Uniform-Resource-Locator'* | NONE
file-specification の URL を指定します。

Uniform-Resource-Locator

指定した URL です。ODS は、ファイルに作成するすべてのリンクおよびレファレンスにおいてファイル名ではなくこの URL を使用します。

NONE

リンクまたはレファレンスに GPATH=オプションからのいかなる情報も表示されないことを指定します。

Tip: このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは、single-name URL で構築しなければならず、コンテンツ、ページ、およびボディファイルは、同じロケーションになければなりません。

Interaction: BODY= または、FILE=外部ファイルオプションを PATH= オプションと一緒に使用した場合、外部ファイル仕様にパス情報を含めるべきではありません。

RECORD_SEPARATOR= *'alternative-separator'* | NONE

出力ファイルのラインを分離するために代替の文字または文字列を指定します。

異なる動作環境において、異なるセパレーター文字を使用します。レコードセパレーターを指定しない場合、SAS ジョブを起動する環境用にファイルをフォーマットします。しかし、異なるセパレーター文字を使用する異なる動作環境で閲覧するためにファイルを生成する場合、対象の環境に適切なレコードセパレータを指定できません。

alternative-separator

1 またはそれ以上の文字を 16 進または ASCII フォーマットで表わします。例えば、次のオプションは、キャリッジリターン文字用のレコードセパレータ および ASCII ファイルシステムで使用するラインフィード文字を指定します。

```
RECORD_SEPARATOR= '0D0A'x
```

Operating Environment Information

メインフレーム環境において、次のオプションは、キャリッジリターン文字用のレコードセパレータ および ASCII ファイルシステムで使用するラインフィード文字を指定します。

```
RECORD_SEPARATOR= '0D25'x
```

Requirement: 引用符で *alternative-separator* を囲まなければなりません。

NONE

SAS ジョブを実行する環境に適切なマークアップ言語を作成します。

Windows Specifics

メインフレーム環境において、デフォルトで、ODS は、組み込み式レコードセパレータ文字を含むバイナリファイルを作成します。バイナリファイルは、ASCII ファイルのラインの長さ制限により制限されていません。しかし、テキストデータのバイナリファイルを開覧すると、ラインは一緒に実行されます。テキストデータでファイルを読むことを可能にするためにファイルをフォーマットしたい場合、RECORD_SEPARATOR= NONE を使用してください。この場合、ODS は、一度に1行のマークアップ言語をファイルに書き込みます。NONE の値を使用する場合、書き込む先のファイルの論理的レコードの長さは、最低でも ODS が作成するラインの最長の長さでなければなりません。ファイルの論理的レコードの長さが十分でない場合、マークアップ言語は、適切な場所でその他のラインにラップする可能性があります。

Aliases:

```
RECSEP=
```

```
RS=
```

STYLE= style-definition

出力ファイルを書く場合に使用するスタイル定義を指定します。

style-definition

SAS 出力の体裁特徴(色、フォントファース、フォントサイズ、等々)の表示方法を説明します。スタイル定義は、それを使用する文書の全体の体裁を決定します。各スタイル定義は、スタイル要素で構成されます。

Interaction: STYLE= オプションは、XML 出力を作成している場合は、無効となります。

See: スタイル定義に関する完全な討議は、13 章、“[TEMPLATE プロシジャ: スタイルテンプレートの作成](#)” on page 942 を参照してください。

Default: スタイル定義を指定しない場合は、ODS は、SAS レジストリのサブキー ODS ⇒ DESTINATIONS ⇒ MARKUP に指定されているファイルを使用します。この値は、デフォルトで、*Default* を指定します。

Interaction: ODS HTML4 ステートメントで STYLE= オプションを指定した場合、続いて、もう1つの ODS HTML4 ステートメントで新しいスタイル定義を使用するために PROC PRINT 出力が必要な場合、2番目のステートメントを指定する前に、最初のステートメントを終了してください。

STYLESHEET= 'file-specification' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、マークアップ出力用のスタイル情報を外部ファイルに配置、または既存のファイルからスタイルシートの情報を読み込みます。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります。

- *ODS markup-family-destination* CLOSE ステートメント または *ODS _ALL_* CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の 1 つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

Requirement: 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

See: FILENAME ステートメントに関する詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS ステートメント: リファレンス*)を参照してください。

entry.markup

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

Interaction: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

サブオプション

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。次のサブオプションが利用可能です。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の [CONTENTTYPE= on page 987](#) を参照してください。

Default: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

Restriction: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

Requirements:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

Alias: NOBOT

Requirements:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

Tip: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

See: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

Alias: NOTOP

Requirements:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_BOTTOM_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

See: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR=オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

Requirements:

TITLE= を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

Tip: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されます。

Example: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” on page 443

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

Requirements:

URL='Uniform-Resource-Locator' を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

Tips:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

Example: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” on page 446

Note: デフォルトで、別のファイルに特に情報を送らない場合、スタイルシート情報は指定された HTML ファイルに含まれます。

Example: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” on page 446

TEXT=*text-string*

パラグラフのイベントをトリガーすることで文書にテキストを挿入し、VALUE イベント変数に割り当てられるテキストの文字列を指定します。

Default: デフォルトで、TEXT=オプションは、パラグラフイベントで使用されていません。

Tip: 次の構文を使用することで、EVENT= オプションを伴う TEXT= オプションを使って特定のイベント用の *text-string* を指定できます。

EVENT=*event-name* (TEXT=*text-string*)

See: イベントおよびイベント変数に関する詳細は、15 章、“TEMPLATE プロシジャ: マークアップ言語のタグセットの作成” on page 1166 を参照してください。

Example: “例: 出力オブジェクトを条件付きで除外し、別の出力先に送信する” on page 235

TRANTAB='*translation-table*'

出力用のファイルをトランスコーディングする際に変換表を指定します。

See: TRANTAB= オプションに関する詳細は、“TRANTAB=システムオプション” (SAS 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド)を参照してください。

サブオプション

これらのオプションで利用できるサブオプションは次のとおりです。BODY= on page 339、CODE= on page 342、CONTENTS= on page 345、FRAME= on page 350、PAGE= on page 357 および STYLESHEET= on page 361

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE のを参照してください。CONTENTTYPE= on page 987

Default: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

Restriction: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

Requirements:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

Alias: NOBOT

Requirements:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

Tip: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

See: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

Alias: NOTOP

Requirements:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

See: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR=オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

Requirements:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

Tip: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されます。

Example: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” on page 443

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

Requirements:

URL='Uniform-Resource-Locator' を括弧で囲まなければなりません。

Uniform-Resource-Locator を引用符で囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

Tips:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

Example: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” on page 446

Details

ODS HTMLCSS ステートメントは、ステートメントの ODS マークアップファミリの一部です。ステートメントのマークアップファミリの一部である ODS ステートメントでは、HTML (Hypertext Markup Language)、XML (Extensible Markup Language) または LaTeX などのさまざまなマークアップ言語を使用してフォーマットされた出力が作成されます。SAS 提供のマークアップ言語を指定するか、独自の言語を作成し、ユーザー定義のマークアップ言語として保存できます。

ODS IMODE ステートメント

行で区分された出力の列として HTML を作成する IMODE 出力先に対して開く、管理するまたは閉じる処理を行います。

Valid in: 任意の場所

Category: ODS: サードパーティフォーマット

Syntax

ODS IMODE <(<ID=> 識別子) <アクション>;

ODS IMODE <(<ID=> 識別子) <オプション>;

Summary of Optional Arguments

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送ります。

(ID= *identifier*)

同時に同出力先の複数のインスタンスを開いてください。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定してください。

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定してください。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入してください。

(URL='Uniform-Resource-Locator')

URL として *file-specification* の URL を指定してください。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます。

ANCHOR='anchor-name'

現行のボディファイルの各出力オブジェクトを識別するアンカータグに最適な独自のベース名を指定してください。

ARCHIVE='string'

ODS HTML 出力を閲覧するために使用するアプレットを指定してください。

ATTRIBUTES= (*attribute-pair-1* ... *attribute-pair-n*)

動的なグラフィックス出力を生成するタグの間に書き込む属性を指定します。

BASE= *'base-text'*

すべてのリンクの最初の部分として使用するテキストおよび出力ファイルにおいて ODS が作成したレファレンスを指定してください。

BODY= *'file-specification'* (*サブオプション*)

マークアップファミリーの出力先を開き、ODS ステートメントにより作成された主な出力を含むファイルを指定してください。

CHARSET= *character-set*

HTML 出力用の META 宣言で生成される文字セットを指定してください。

CLOSE

出力先およびそれに関連するファイルを終了してください。

CODE= *'file-specification'* <(*サブオプション*)>

HTML 出力先を開き、関連するスタイル情報を含むファイルを指定してください。

CODEBASE= *'string'*

GOPTIONS デバイスが使用可能なファイルパスを作成してください。

CONTENTS= *'file-specification'* <(*サブオプション*)>

HTML 出力先を開き、出力用の目次を含むファイルを指定してください。

CSSSTYLE= *'file-specification'*<(*media-type-1*<...*media-type-10*)>

出力に適用するカスケードスタイルシートを指定してください。

ENCODING= *local-character-set-encoding*

入力用のエンコーディングまたは、外部ファイルの出力処理(トランスコード)をオーバーライドしてください。

EVENT=*event-name* (FILE= | FINISH | LABEL= | NAME= | START | STYLE= | TARGET= | TEXT= | URL=)

イベントおよびイベントに関連するイベント変数用の値を指定してください。

EXCLUDE *除外* | ALL | NONE

出力先から出力オブジェクトを除外してください。

FRAME= *'file-specification'* <(*サブオプション*)>

目次、ページコンテンツ、およびボディファイルを統合するファイルを指定してください。

GFOOTNOTE | **NOGFOOTNOTE**

グラフィックス出力においてフットノートがプリントされるロケーションを制御してください。

GPATH= *'aggregate-file-storage-specification'* | *ファイル参照* | *libref.catalog*

(URL= *'Uniform-Resource-Locator'* | NONE)

出力先が開いている間に生成されたすべてのグラフィックス出力のロケーションを指定してください。

GTITLE | **NOGTITLE**

グラフィック出力のタイトルがプリントされているロケーションを制御してください。

HEADTEXT= *'markup-document-head'*

出力先が書き込むすべてのファイルのタグ<HEAD> および </HEAD> の間に配置する HTML タグを指定してください。

METATEXT= *'metatext-for-document-head'*

<META><>の間、HEAD>HEAD>および<HEAD>出力先が書き込む先のすべてのファイルのタグとして使用する HTML コードを指定してください。

NEWFILE= *starting-point*

新しいボディファイルを指定された開始点に作成してください。

OPTIONS (DOC= | <*サブオプション*>)

tagset-specific サブオプションおよび名付けられた値を指定してください。

PACKAGE <package-name>

出力先からの出力を ODS パッケージに追加することを指定してください。

PAGE= 'file-specification' <(サブオプション)>

HTML 出力先を開き、ボディファイルの各ページの説明およびボディファイルへのリンクを含むファイルを指定してください。

PARAMETERS= (parameter-pair-1 ... parameter-pair-n)

動的グラフィックス出力を生成するタグの間に指定されたパラメータを書き込んでください。

PATH= 'aggregate-file-storage-specification' | [ファイル参照](#) | libref.catalog (URL='Uniform-Resource-Locator' | NONE)

累積保管場所のロケーションまたはすべてのマークアップファイル用の SAS カタログを指定してください。

RECORD_SEPARATOR= 'alternative-separator' | NONE

出力ファイルのラインを分離するために代わりの文字または文字列を指定してください。

SELECT 選択 | ALL | NONE

出力先用に出力オブジェクトを選択してください。

SHOW

SAS ログに出力先の現在の選択または除外リストを書き込んでください。

STYLE= style-definition

出力ファイルを書く場合に使用するスタイル定義を指定してください。

STYLESHEET= 'file-specification' <(サブオプション)>

HTML の出力先を開き、出力用のスタイル情報を外部ファイルに配置、または既存のファイルからスタイルシートを読み込んでください。

TEXT=text-string

文書にテキストを挿入してください。

TRANSTAB= 'translation-table'

出力用のファイルをトランスコーディングする際に変換表を指定してください。

Without Arguments

アクションやオプションを含まない ODS IMODE ステートメントを使用した場合、ODS IMODE ステートメントによって IMODE 出力先が開かれ、IMODE 出力が作成されません。

Actions

ODS IMODE ステートメントでは、次のアクションが利用可能です。

CLOSE

出力先およびそれに関連するファイルを終了します。プリンタの出力先の場合、出力先を終了するまでファイルをプリントできません。

Tip: ODS 出力先が終了した場合、ODS は、その出力先に出力を送りません。不要な出力先を終了することで、システムリソースの節減します。

EXCLUDE 除外 ALL | NONE

出力先から1つまたはそれ以上の出力オブジェクトを除外します。

Default: NONE

Restriction: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

See: “ODS EXCLUDE ステートメント” on page 232

SELECT *選択* | ALL | NONE

指定された出力先用に出カオブジェクトを選択します。

Default: ALL

Restriction: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

See: “ODS SELECT ステートメント” on page 598

SHOW

SAS ログに出力先用の現行の選択または除外リストを書き込みます。

Restriction: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

Tip: 選択または除外リストがデフォルトのリスト(SELECT ALL)である場合、SHOW は、全体の選択または除外リストも書きます。選択または除外リストに関する詳細は、を“[選択リストと除外リスト](#)” on page 49 参照してください。

See: “ODS SHOW ステートメント” on page 614

Optional Arguments

ステートメントのマークアップファミリの一部である ODS IMODE ステートメントで、次のオプションが利用可能です。

ANCHOR= '*anchor-name*'

現行のボディファイルの各出力オブジェクトを識別するアンカータグに最適な独自のベース名を指定します。

各出力オブジェクトは、参照するためにコンテンツ、ページ、およびフレームファイル用にアンカータグを持ちます。ODS により自動的に作成されたリンクとレファレンスは、アンカー名を指します。そのため、ファイルの各アンカー名は、固有名でなければなりません。

anchor-name

現行の ボディファイルにおいて、各出力オブジェクトを識別するアンカータグのベース名です。

ODS は、指定した名称をインクリメントすることで独自のアンカー名を作成します。例えば、ANCHOR='TABULATE'を指定した場合、ODS は最初のアンカーに `tabulate` と名前を付けます。2番目のアンカー名が `tabulate1` で、3番目が `tabulate2`、と名称が続きます。

Restriction: ファイルのアンカー名は、ユニークでなければなりません。

Requirement: 引用符で *anchor-name* を囲まなければなりません。

Interaction: 追加するためにファイルを開いた場合、ファイルに再度同じアンカーを書き込むことを防ぐために、新しいアンカー名を必ず指定してください。ODS は、ファイルを開いた際に、既にファイルに存在するアンカーは、識別しません。

Tips:

プログラムのどこかにマークアップファミリの ANCHOR=オプションを指定することで、アンカー名を変更できます。アンカー名を指定した後に、新しいものを指定するまで有効になります。

プログラムのさまざまなポイントに新しいアンカー名を指定することで、他のウェブページをマークアップ言語の出力の特定の箇所にリンクできるようになります。アンカー名が変更された箇所を制御できるため、それらのポイントにおけるアンカー名を事前に知ることができます。

ARCHIVE='*string*'

ODS HTML 出力を閲覧するために使用するアプレットを指定します。

ARCHIVE= オプションは、GOPTIONS java デバイス用にのみ有効です。

文字列は、ブラウザが認識できるものでなければなりません。例えば、アーカイブファイルが SAS で実行中のコンピューターに対してローカルな場合、ファイルを識別するために FILE プロトコルを使用できます。Web サーバーのアーカイブファイルを指したい場合、HTTP プロトコルを使用してください。

Default: ARCHIVE=を指定せず、JAVA デバイスドライバを使用している場合、ODS は SAS システムオプションの値である APPLETOC=を使用します。ACTIVEX デバイスドライバを使用している場合、デフォルトはありません。

Requirements:

引用符で *string* を囲まなければなりません。

ARCHIVE 属性は、Java 1.1 の機能です。そのため Java デバイスドライバを使用している場合、ブラウザは、この Java バージョンをサポートしていなければなりません。Internet Explorer 4.01 と Netscape 4.05 の両方が、Java 1.1 をサポートします。

Interaction: ARCHIVE= を SAS/GRAPH プロシジャと共に使用し、GOPTIONS ステートメントにおいて DEVICE=JAVA または DEVICE=ACTIVEX オプションを使用してください。

Tips:

ODS HTML 出力を閲覧するための SAS/GRAPH アプレットを SAS サーバーが、自動的に判断するため、このオプションを通常使用してはいけません。しかし JAR ファイルの名称を変更した場合、または ODS HTML 出力を閲覧するためのその他のアプレットを有する場合、このオプションはこれらのアプレットにアクセス可能にします。

ファイルパスを指定するために、CODEBASE= オプションを使用してください。ARCHIVE= オプションにファイルパスを置かないことが推奨されます。

APPLETOC= の値は、SAS システムと一緒に送られる Java アーカイブのローケーションを指します。オプションの値を知るために、Environment Control の下の Files フォルダの Options ウィンドウを参照するか、次のプロシジャステップを発行できます。

```
proc options option=appletloc;
run;
```

ATTRIBUTES= (*attribute-pair-1 ... attribute-pair-n*)

動的なグラフィックス出力を生成するタグの間に指定された属性を書き込みます。

attribute-pair

各属性の名称および値を指定します。*attribute-pair* は、次のフォームを有します。

```
'attribute-name' = 'attribute-value'
```

attribute-name

属性の名称です。

attribute-value

属性の値です。

Requirement: 引用符で *attribute-name* と *attribute-value* を囲まなければなりません。

Interaction: ATTRIBUTES=オプションを SAS/GRAPH プロシジャ および GOPTIONS ステートメントの DEVICE=JAVA、JAVAMETA、または ACTIVEX オプションと一緒に使用してください。

See: *SAS/GRAPH: Reference* グラフアプレット、マップアプレット、コンターアプレット、および MetaView アプレット用の有効な属性

BASE= '*base-text*'

すべてのリンクの最初の部分として使用するテキストおよび出力ファイルにおいて ODS が作成したレファレンスを指定します。

base-text

ODS が、すべてのリンクの最初の部分として使用するテキストおよびファイルにおいて ODS が作成したレファレンスです。

次の仕様を考慮してください。

```
BASE= 'http://www.your-company.com/local-url/'
```

この場合、ODS は、`http://www.your-company.com/local-url/`文字列で始まるリンクを作成します。適切な *anchor-name* でリンクが完成します。

Requirement: 引用符で *base-text* を囲まなければなりません。

BODY= 'file-specification' (サブオプション)

マークアップファミリーの出力先を開き ODS ステートメントにより作成された主な出力を含むファイルを指定してください。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態になります。。

- *ODS markup-family-destination* CLOSE ステートメントまたは *ODS _ALL_* CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーステートメントを使用して、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照、または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

external-file

書き込み先の外部ファイルの名称です。

Requirement: 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

Restriction: BODY=ファイル参照オプションは、NEWFILE= オプションと一緒に使用することはできません。

See: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)を参照してください。

エンタリー。マークアップ

書き込み先の SAS カタログのエンタリーを指定します。

Interaction: エンタリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

(サブオプション)

カッコ内に1つまたはそれ以上のサブオプションを指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次のようになります。

(DYNAMIC)

ファイルに書き込むのではなく、出力をウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE で [CONTENTTYPE= on page 987](#) を参照してください。

Default: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

Restriction: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=

- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

Requirements:

DYNAMIC を、括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

Alias: NOBOT

Requirements:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加する場合、動作環境に対して適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_BOTTOM_MATTER サブオプションは、NO_TOP_MATTER サブオプションを伴うことで、既存のファイルに出力を追加することを可能にし、ファイルの出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置できます。

ODS が、過去に書き込んだファイルを開く場合、アンカー用に新しいベース名を指定するために ANCHOR= オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

Tip: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、マークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

See: NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの先頭にどのような開始マークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

Alias: NOTOP

Requirements:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

The NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

See: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR= オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

Requirements:

TITLE= を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

Tip: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されます。

Example: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” on page 443

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

Requirements:

括弧で URL= 'Uniform-Resource-Locator' を囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL= 'Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

Tips:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

Example: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” on page 446

Alias: FILE=

Interaction: ODS マークアップの出力先に言及する ODS マークアップファミリーステートメントの BODY= オプションを使用することにより、ODS に出力先および関連するすべてのファイルを終了した後、出力先の新しいインスタンスを開くことを強制します。詳細は、“MARKUP 出力先を開く/閉じる” on page 438 を参照してください。

Note: いくつかの TAGSET= の値に対して、出力は HTML ファイルで、他の TAGSET= の値に対して、出力は XML ファイルなどになります。

CHARSET= *character-set*

HTML 出力用の META 宣言で生成される文字セットを指定します。

See: 詳細は、“CHARSET=オプション” (SAS 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド)を参照してください。

CODE= 'file-specification' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、XSL (Extensible Stylesheet Language)等の関連するスタイル情報を含むファイルを指定します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります。

- ODS *markup-family-destination* CLOSE ステートメント または ODS *_ALL_* CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

Requirement: 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

See: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)を参照してください。

entrymarkup

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

Interaction: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論も参照してください。

サブオプション

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次のようになります。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE= スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の [CONTENTTYPE= on page 987](#) を参照してください。

Default: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

Restriction: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

Requirements:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

Alias: NOBOT

Requirements:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

Tip: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、マークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

See: NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

Alias: NOTOP

Requirements:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_BOTTOM_MATTER サブオプションは、NO_TOP_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

See: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR= オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

Requirements:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

Tip: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されます。

Example: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” on page 443

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

Requirements:

括弧で URL='Uniform-Resource-Locator'を囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator'は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

Tips:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME=オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

Example: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” on page 446

CODEBASE='string'

実行可能な Java アプレットまたは、ActiveX コントロールファイルのロケーションを指定します。*string* は、パス名または URL を指定します。使用される GOPTIONS により、CODEBASE ファイルパスには、2つの出力先があります。

JAVA および ActiveX デバイスドライバでウェブプレゼンテーションを生成した場合に、SAS は、JAVA アーカイブファイルを自動的に検索する HTML ページまたは、デフォルトインストールロケーションに ActiveX コントロールファイルを生成します。

ActiveX デバイス用

ActiveX コントロールを含む出力を生成する際に ODS を伴う ActiveX デバイスドライバを使用する場合、ODS の CODEBASE= オプションを指定してください。CODEBASE=オプションの値は、ロケーションおよび EXE ファイルのバージョンを含むべきです。

Tip: 出力を閲覧するユーザーがマシンに ActiveX コントロールをインストールしていない場合を除き DEVICE=ACTIVEX オプションで CODEBASE= オプションを指定する必要はありません。コントロールをインストールしていないユーザーが出力を閲覧する場合、コントロールをダウンロードすることを促されます。

See: *SAS/GRAPH: Reference* CODEBASE= および ARCHIVE= オプションを使用したコントロールおよびアプレットのロケーションの指定に関する詳細は、次を参照してください。

Java デバイス用

SAS/GRAPH アプレットを含む出力を生成するために、デバイスドライバを使用する場合、ODS ステートメントの CODEBASE= オプションを使用して JAR ファイルへのパスを指定してください。

DEVICE=JAVA を指定した場合、出力を閲覧するユーザーは、適切な Java アプレットにアクセスを有する必要があります。SAS は、デフォルトで、SAS により自動的にインストールされたアプレット用の実行可能ファイルに言及するために、CODEBASE= 値を設定します。SAS Java アーカイブファイルのデフォルトのロケーションは、APPLETLOC= システムオプションにより指定されています。次の両条件を満たしている場合、CODEBASE= オプションを指定する必要がありません。

- デフォルトのロケーションは、ウェブプレゼンテーションを閲覧するユーザーにより、アクセス可能です。
- SAS Java アーカイブは、そのロケーションにインストールされています。

Tip: JAR ファイルのディレクトリのみ指定してください。CODEBASE=ロケーションは、パス名または URL として指定できます。

See: *SAS/GRAPH: Reference* CODEBASE= および ARCHIVE= オプションを使用したコントロールおよびアプレットファイルのロケーションの指定に関する詳細は、次を参照してください。

CONTENTS= 'file-specification' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、出力用の目次を含むファイルを指定します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります。:

- ODS *markup-family-destination* CLOSE ステートメントまたは ODS _ALL_ CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

Requirement: 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

See: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS ステートメント: リファレンス*)を参照してください。

entry.markup

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

Interaction: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

サブオプション

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次のようになります。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。この設定は、CONTENTTYPE= スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の [CONTENTTYPE= on page 987](#) を参照してください。

Default: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

Restriction: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

Requirements:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣、あるいは、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

Alias: NOBOT

Requirements:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

Tip: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

See: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

Alias: NOTOP

Requirements:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

See: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR= オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

Requirements:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

Tip: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されます。

Example: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” on page 443

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

Requirements:

URL='Uniform-Resource-Locator'を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

Tips:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

Example: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” on page 446

CSSSTYLE= *'file-specification'* < (*media-type-1* < ... *media-type-10*) >
出力に適用するカスケードスタイルシートを指定します。

file-specification

CSS コードを含むファイル、ファイル参照、または、URL を指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

"external-file"

外部ファイルの名称です。

Requirement: 括弧で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイル参照です。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

See: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS ステートメント: リファレンス*)を参照してください。

"URL"

外部ファイルへの URL です。

Requirement: 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

(*media-type-1* < *media-type-10*) >

出力にレンダリングされるメディアの種類に対応する1つまたはそれ以上のメディアブロックを指定します。文書が、スクリーン、紙、スピーチシンセサイザー、点字装置、等々の異なるメディアにどのように提示されるか指定するために、CSS は、メディアタイプを使用します。

メディアブロックは、いかなるメディアブロックに含まれていないCSSコードを伴い出力に追加されます。*media-type* サブオプションを使用することで一般のCSSコードを伴い、特定のメディアタイプを対象とするCSSファイルの項目をインポートできます。

Default: ODS ステートメントにいかなる *media-type* が指定されてないが、CSS ファイルにメディアタイプが指定されている場合、ODS は、Screen メディアタイプを使用します。

Range: 異なる10個のメディアタイプを指定できます。

Requirements:

括弧で *media-type* を囲まなければなりません。

CSSSTYLE= オプションで指定された *file-specification* の隣に、*media-type* を指定しなければなりません。

Tip: 複数のメディアタイプを指定した場合、出力にすべてのメディアタイプのすべてのスタイル情報が適用されます。しかし、異なるメディアブロックにおいて重複するスタイル情報が存在する場合、最後のメディアブロックのスタイルが使用されます。

Restriction: CSSSTYLE= オプションは、SAS/GRAPH 出力に影響を与えません。

Requirement: CSS ファイルは、ODS HTML ステートメントにより作成されたCSSと同じ種類で書き込まなければなりません。ID や文脈ベースのセレクターの無いクラス名のみがサポートされます。ODS が作成するCSSコードを閲覧するには、次の内の1つを行ってください。

- STYLESHEET= オプションを指定してください。
- HTML ファイルのソースを閲覧して、ファイルの上部の < STYLE> < /STYLE> タグの間のソースを閲覧してください。

有効な ODS CSS ファイルの例は、“[例 6: ODS 出力へ CSS ファイルの適用](#)” on page 448 を参照してください。

Interaction: STYLE= オプションおよび CSSSTYLE= オプションの両方が、ODS ステートメントに指定されている場合、最後に指定されたオプションが使用されます。

Example: “例 6: ODS 出力へ CSS ファイルの適用” on page 448

ENCODING= *local-character-set-encoding*

入力用のエンコーディングまたは、外部ファイルの出力処理(トランスコード)をオーバーライドします。

See: ENCODING= オプションに関する詳細は、“ENCODING システムオプション: UNIX、Windows、および z/OS” (*SAS 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド*)次を参照してください。

EVENT=*event-name* (FILE= | FINISH | LABEL= | NAME= | START | STYLE= | TARGET= | TEXT= | URL=)

イベントおよびイベントに関連するイベント変数用の値を指定します。

(FILE= BODY | CODE | CONTENTS | DATA | FRAME | PAGES | STYLESHEET);

BODY=、CODE=、CONTENTS=、FRAME=、PAGES=、および STYLESHEET= オプションに対応する出力ファイルの既知の種類の中の1つをトリガーします。

(FINISH)

イベントの終了項目をトリガーします。

See: 詳細は、“イベントについて” on page 1167 を参照してください。

(LABEL=*variable-value*)

LABEL イベント変数用の値を指定します。

Requirement: *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

See: LABEL イベント変数に関する詳細は、“イベント変数” on page 1211 次を参照してください。

(NAME=*variable-value*)

NAME イベント変数用の値を指定します。

Requirement: *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

See: NAME イベント変数に関する詳細は、“イベント変数” on page 1211 を参照してください。

(START)

イベントの開始項目をトリガーします。

See: イベントに関する詳細は、“イベントについて” on page 1167 次を参照してください。

(STYLE=*style-element*)

スタイルエレメントを指定します。

See: スタイルエレメントに関する詳細は、“スタイル属性の概要” on page 968 次を参照してください。

(TARGET=*variable-value*)

TARGET イベント変数用の値を指定します。

Requirement: *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

See: TARGET イベント変数に関する詳細は、“イベント変数” on page 1211 次を参照してください。

(TEXT=*variable-value*)

TEXT イベント変数用の値を指定します。

Requirement: *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

See: TEXT イベント変数に関する詳細は、“イベント変数” on page 1211 を参照してください。

(URL='variable-value')

URL イベント変数用の値を指定します。

Requirement: *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

See: URL イベント変数に関する詳細は、“イベント変数” on page 1211 を参照してください。

Default: (FILE='BODY')

Requirement: The EVENT= オプションのサブオプションを括弧で囲まなければなりません。

FRAME= 'file-specification' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、HTML 出力用に、目次、ページコンテンツ、およびボディファイルを統合するファイルを指定します。フレームファイルを開くと目次、ページコンテンツ、またはその両方、およびボディファイルを開覧できます。XLM 出力用に、FRAME= は、DTD を含むファイルを指定します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります

- ODS *markup-family-destination* CLOSE ステートメント または ODS *_ALL_* CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

Requirement: 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

See: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)次を参照してください。

entry.markup

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

Interaction: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

サブオプション(s)

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次の内の1つになります。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の CONTENTTYPE= on page 987 を参照してください。

Default: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

Restriction: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

Requirements:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

Alias: NOBOT

Requirements:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

Tip: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

See: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

Alias: NOTOP

Requirements:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

See: NO_BOTTOM_MATTER サブオプションおよび ANCHOR= オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

Requirements:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

Tip: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されます。

Example: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” on page 443

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます。

Requirements:

URL='Uniform-Resource-Locator' を括弧で囲まなければなりません。'

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

Tips:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをレファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

Example: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” on page 446

Restriction: FRAME=オプションを指定した場合、CONTENTS= オプション、PAGE= オプション、または両方を指定しなければなりません。

Example: “例 2: XML ファイルと DTD の作成” on page 441

GFOOTNOTE | NOGFOOTNOTE

グラフィックス出力においてフットノートがプリントされるロケーションを制御します。

GFOOTNOTE

SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたフットノートをプリントします。フットノートは、グラフのボーダー内に表示されます。

NOGFOOTNOTE

グラフのボーダー外に表示される ODS により作成されたフットノートをプリントします。

Default: GFOOTNOTE

Restrictions:

マークアップ言語により表示されるフットノートは、すべての SAS/GRAPH FOOTNOTE ステートメントオプションをサポートします。フォントは、ブラウザ用に有効でなければなりません。テキスト角度の仕様など ODS が扱えないオプションは無視されます。SAS/GRAPH FOOTNOTE ステートメントに関する詳細は、“FOOTNOTE Statement” in *SAS/GRAPH: Reference* を参照してください。

このオプションは、1つまたはそれ以上のデバイススペースのグラフィックスを作成する SAS プログラム または、SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたグラフィックスにのみ適用されます。

GPATH= 'aggregate-file-storage-specification' | ファイル参照 | libref.catalog (URL= 'Uniform-Resource-Locator' | NONE)

出力先が開いている間に生成されたすべてのグラフィックス出力のロケーションを指定します。マークアップファイル用の PATH= オプションで指定されたものとは異なるロケーションにグラフィックス出力を書き込みたい場合にこのオプションを使用してください。無効なファイル名を指定した場合、ActiveX および Java デバイスはデフォルトのファイル名に出力を送ります。その他のデバイスはファイルをディレクトリとして作成して、そのディレクトリに出力を書き込みます。ODS が、カタログエントリおよび外部ファイルに名称を付ける方法に関する 詳細は、次を参照してください。 *SAS/GRAPH: Reference*

'aggregate-file-storage-location'

ディレクトリ、フォルダ、または分割されたデータセット等の累積保存ロケーションを指定します。

Requirement: 引用符で *aggregate-file-storage-location* を囲まなければなりません。

ファイル参照

累積保存ロケーションに割り当てられたファイル参照です。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

Interaction: GPATH= オプションにおいてファイル参照を指定した場合、ODS は、リンクを構築する際に、GPATH=オプションからの情報を使用しません。

See: FILENAME ステートメントに関する詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS ステートメント: リファレンス*)次を参照してください。

ライブラリ参照. *catalog*

書き込む先の SAS カタログを指定します。

URL= 'Uniform-Resource-Locator' | NONE
file-specification の URL を指定します。

Uniform-Resource-Locator

指定した URL です。ODS は、ファイルに作成するすべてのリンクおよびリファレンスにおいて ファイル名ではなくこの URL を使用します。

Requirement: 引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

NONE

リンクまたはレファレンスに GPATH=オプションからのいかなる情報が表示されないことを指定します。

Tip: このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツまたはページファイルからのリンクが簡単な URL (単一名) で構築されている場合、コンテンツ、ページ、およびボディファイルさえ同一のロケーションにあれば、それらは解決します。

Default: GPATH= オプションを除外すると、ODS は、PATH= オプションにより指定されたロケーションにグラフィックスを保存します。PATH=オプションを指定しない場合、ODS は、グラフィックスを現行のディレクトリに保存します。詳細は、PATH= オプションを参照してください。

GTITLE | NOGTITLE

グラフィック出力のタイトルがプリントされているロケーションを制御します。

GTITLE

SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたタイトルをプリントします。タイトルは、グラフボーダーの内部に表示されます。

NOGTITLE

グラフボーダーの外部に表示される ODS により作成されたタイトルをプリントします。

Default: GTITLE

Restrictions:

いかなるマークアップ言語のステートメントにより表示されるタイトルは、大部分の SAS/GRAPH TITLE ステートメントオプションをサポートします。フォントは、ブラウザ用に有効でなければなりません。テキスト角度の仕様など ODS が扱えないオプションは無視されます。SAS/GRAPH TITLE ステートメントに関する詳細は、TITLE ステートメントを参照してください。

このオプションは、1つまたはそれ以上のデバイススペースのグラフィックスを作成する SAS プログラム または、SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたグラフィックスにのみ適用されます。

HEADTEXT= 'markup-document-head'

出力先が書き込むすべてのファイルのタグ < HEAD> および < /HEAD> の間に配置する HTML タグを指定します。

markup-document-head

< HEAD> および < /HEAD> の間に配置するマークアップタグを指定します。

Restriction: HEADTEXT= は、256 文字を超えてはなりません。

Requirement: *markup-document-head* を引用符で囲まなければなりません。

Tips:

ODS は、提供するマークアップを解析できません。それは、< HEAD> および < /HEAD> タグとの関連で、well-formed マークアップでなければなりません。

後で、ファイルで使用できるプログラム (JavaScript) 等を定義するために HEADTEXT= オプションを使用してください。

(ID= identifier)

同時に同出力先の複数のインスタンスの実行を可能にします。各インスタンスは、異なるオプションを有します。

identifier

既に開かれた出力先のもう1つのインスタンスを指定します。*identifier* は、文字または、アンダーラインで始まる数字または連続した文字です。後続の文字は、文字、アンダーライン、および数字を含むことができます。

Restriction: もし *identifier* が数値の場合、正の整数にする必要があります。

Requirement: ID= オプションは、ODS *MARKUP/TAGSET* ステートメントキーワードの直後に指定しなければなりません。

Tip: ID= オプションを除外し、インスタンスを識別するために代わりに名前または数字を使用できます。

Example: “例: 同時に同じ出力先のインスタンスを複数開く” on page 499

METATEXT= 'metatext-for-document-head'

<META><>の間、HEAD>HEAD>および<HEAD>出力先が書き込む先のすべてのファイルのタグとして使用する HTML コードを指定します。

'metatext-for-document-head'

ブラウザにロードする文書に関する情報を提供する HTML コードを指定します。例えば、この属性は、コンテンツの種類および使用される文字セットを指定できます。

Requirement: 引用符で *metatext-for-document-head* を囲まなければなりません。

Default: METATEXT=を指定しない場合、ODS は、作成するすべての HTML ファイルに文書のコンテンツの種類および使用する文字セットを含む簡単な <META> タグを書きます。

Restriction: METATEXT= は、256 文字を超えてはなりません。

Tip: ODS は、提供する HTML コードを解析できません。HTML コードは、<HEAD>タグの脈絡において正確で、良く構築されていなければなりません。METATEXT= を意図された通りに使用した場合、META タグは次のように見えます。

```
<META your-metatext-is-here>
```

NEWFILE= *starting-point*

新しいボディファイルが指定された *starting-point* に作成します。

starting-point

新しいボディファイルを作成するのに適した出力のロケーションです。

ODS は、ボディファイル名をインクリメントすることで自動的に新しいファイル名を付けます。次の例で、ODS は、初めのボディファイルの名付けます。

REPORT.XML 追加のボディファイルが名付けられます。REPORT1.XML, REPORT2.XML, 等

例

```
BODY= 'REPORT.XML'
```

starting-point は、次の内の1つです。

BYGROUP

各 BY グループの結果用に新たなファイルを開始します。

NONE

現在開かれているボディファイルにすべての出力を書き込みます。

OUTPUT

各出力オブジェクト用に新たなファイルを開始します。SAS/GRAPH に対して、これは、ODS がプログラムが生成した各 SAS/GRAPH 出力ファイル用に新たなファイルを作成することを意味します。

Alias: TABLE

PAGE

出力の各ページ用に新たなボディファイルを開始します。改ページは、手順が明示的に新たなページを開始(ページのサイズが足りないからではなく)または、新たなプロシジャを開始する時点で発生します。

PROC

新たな手順を開始する度に新たなボディファイルを開始します。

Default: NONE

Restriction: NEWFILE= オプションは、BODY=ファイル参照 オプションと一緒に使用できません。

Tips:

ファイル名を数字で終了した場合、ODS はその数字の増加を開始します。次の例で、ODS は、最初のボディファイル *MAY5.XML* の名付けをします。追加のボディファイル名は、*MAY6.XML*, *MAY7.XML*、等となります。

例

```
BODY= 'MAY5.XML'
```

OPTIONS (DOC= |<サブオプション>)

tagset-specific サブオプションおよび名付けられた値を指定します。

(DOC= 'HELP' |'QUICK' |'SETTINGS' |'CHANGELOG')

指定されたタグセットについての情報を提供します。

HELP

簡易参照で、一般的なヘルプおよび情報を提供します。

QUICK

このタグセットで利用可能なオプションを説明します。

SETTINGS

現行のオプション設定を提供します。

CHANGELOG

タグセットへの変更履歴をリストします。このサブオプションは、RTF タグセットにおいてのみサポートされています。

Requirement: すべての値は、引用符で囲まなければなりません。

サブオプション(s)

指定されたタグセットに有効な1つまたはそれ以上のサブオプションを指定します。サブオプションは、次のフォーマットを有します。

keyword='value'

タグセット用のサブオプションの情報を得るために、ODS タグセットステートメントを開く時、または出力先が開かれないかなる時に、次のオプションの内の1つを指定してください。

- オプション (doc='help');
- オプション (doc='quick');
- オプション (doc='settings');

Requirement: OPTION サブオプションを括弧で囲まなければなりません。

Example: “例: ODS TAGSETS.HTMLPANEL 情報を得るために DOC サブオプションを使用。” on page 651

PACKAGE <package-name>

出力先からの出力を ODS パッケージに追加することを指定します。

package-name

ODS PACKAGE ステートメントで作成されたパッケージの名称を指定します。指定された名称が無い場合、出力は最後に開かれた名称の付けられていないパッケージに追加されます。

See: “ODS PACKAGE ステートメント” on page 469

Example: “例 1: ODS パッケージの作成” on page 473

PAGE= 'file-specification' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、ボディファイルの各ページの説明およびボディファイルへのリンクを含むファイルを指定します。ODS は、手順が新たなページを要求した際に、出力の新しいページを作成します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります

- *ODS markup-family-destination* CLOSE ステートメントまたは ODS _ALL_ CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の 1 つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

Requirement: 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイル参照です。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

See: FILENAME ステートメントに関する詳細は、“FILENAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)次を参照してください。

入力。マークアップ

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

Interaction: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

サブオプション

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次のようになります。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の CONTENTTYPE= on page 987 を参照してください。

Default: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

Restriction: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=

- TAGSET=

Requirements:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

Alias: NOBOT

Requirements:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

Tip: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

See: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

Alias: NOTOP

Requirements:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステ

ップは、アンカーの複製を防ぎます。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

See: The NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR= option

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

Requirements:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

Tip: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されます。

Example: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” on page 443

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

Requirements:

URL='Uniform-Resource-Locator'を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

Tips:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

Example: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” on page 446

Interaction: SAS システムオプションの PAGESIZE=は、バッチ出力を作成する時以外は、HTML 出力のページに影響を与えません。PAGESIZE= オプションに関する詳細は、“PAGESIZE= System Option” in *SAS System Options: Reference* を参照してください。

PARAMETERS= (*parameter-pair-1 ... parameter-pair-n*)

動的グラフィックス出力を生成するタグの間に指定されたパラメータを書き込みます。

parameter-pair

各パラメータの名称および値を指定します。*parameter-pair* は、次の形態を有します。

'parameter-name'='parameter-value'

parameter-name

パラメータの名称です。

parameter-value

パラメータの値です。

Requirement: 引用符で *parameter-name* および *parameter-value* を囲まなければなりません。

Interaction: PARAMETERS=を SAS/GRAPH プロシジャおよび GOPTIONS ステートメントの DEVICE=JAVA、JAVAMETA、または ACTIVEX オプションと一緒に使用してください。

See: SAS/GRAPH: Reference グラフアプレット、マップアプレット、カンターアプレット、およびメタビューアプレット用に有効なパラメータ

PATH= '*aggregate-file-storage-specification*' | **ファイル参照** | *libref.catalog* (URL= '*Uniform-Resource-Locator*' | NONE)

累積保管場所のロケーションまたはすべてのマークアップファイル用の SAS カタログを指定します。GPATH= オプションが指定されていない場合、すべてのグラフィックスファイルは、“*aggregate-file-storage-specification*”または、**ライブラリ参照**に書き込まれます。

'aggregate-file-storage-location'

ディレクトリ、フォルダ、または分割されたデータセット等の累積保存ロケーションを指定します。

Requirement: 引用符で *aggregate-file-storage-location* を囲まなければなりません。

ファイル参照

累積保存ロケーションに割り当てられたファイル参照です。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

Interaction: PATH= オプションのを使用した場合、ODS は、リンクを構築する際に PATH= からの情報を使用しません。

See: FILENAME ステートメントに関する詳細は、“FILENAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)を参照してください。

ライブラリ参照. *catalog*

書き込む先の SAS カタログを指定します。

See: LIBNAME ステートメントに関する詳細は、“LIBNAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)を参照してください。

URL= '*Uniform-Resource-Locator*' | NONE

file-specification の URL を指定します。

Uniform-Resource-Locator

指定した URL です。ODS は、ファイルに作成するすべてのリンクおよびリファレンスにおいてファイル名ではなくこの URL を使用します。

NONE

リンクまたはリファレンスに GPATH=オプションからのいかなる情報も表示されないことを指定します。

Tip: このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは、single-name URL で構築しなければならず、コンテンツ、ページ、およびボディファイルは、同じロケーションになければなりません。

Interaction: BODY= または、FILE=外部ファイルオプションを PATH= オプションと一緒に使用した場合、外部ファイル仕様にパス情報を含めるべきではありません。

RECORD_SEPARATOR= '*alternative-separator*' | NONE

出力ファイルのラインを分離するために代替の文字または文字列を指定します。

異なる動作環境において、異なるセパレーター文字を使用します。レコードセパレーターを指定しない場合、SAS ジョブを起動する環境用にファイルをフォーマットします。しかし、異なるセパレーター文字を使用する異なる動作環境で閲覧するためにファイルを生成する場合、対象の環境に適切なレコードセパレータを指定できません。

alternative-separator

1 またはそれ以上の文字を 16 進または ASCII フォーマットで表わします。例えば、次のオプションは、キャリッジリターン文字用のレコードセパレータ および ASCII ファイルシステムで使用するラインフィード文字を指定します。

```
RECORD_SEPARATOR= '0D0A'x
```

Operating Environment Information

メインフレーム環境において、次のオプションは、キャリッジリターン文字用のレコードセパレータ および ASCII ファイルシステムで使用するラインフィード文字を指定します。

```
RECORD_SEPARATOR= '0D25'x
```

Requirement: 引用符で *alternative-separator* を囲まなければなりません。

NONE

SAS ジョブを実行する環境に適切なマークアップ言語を作成します。

Windows Specifics

メインフレーム環境において、デフォルトで、ODS は、組み込み式レコードセパレーター文字を含むバイナリファイルを作成します。バイナリファイルは、ASCII ファイルのラインの長さ制限により制限されていません。しかし、テキストデータのバイナリファイルを閲覧すると、ラインは一緒に実行されます。テキストデータでファイルを読むことを可能にするためにファイルをフォーマットしたい場合、RECORD_SEPARATOR=NONE を使用してください。この場合、ODS は、一度に1行のマークアップ言語をファイルに書き込みます。NONE の値を使用する場合、書き込む先のファイルの論理的レコードの長さは、最低でも ODS が作成するラインの最長の長さでなければなりません。ファイルの論理的レコードの長さが十分でない場合、マークアップ言語は、適切な場所でその他のラインにラップする可能性があります。

Aliases:

```
RECSEP=
```

```
RS=
```

STYLE= style-definition

出力ファイルを書く場合に使用するスタイル定義を指定します。

style-definition

SAS 出力の体裁特徴(色、フォントファース、フォントサイズ、等々)の表示方法を説明します。スタイル定義は、それを使用する文書の全体の体裁を決定します。各スタイル定義は、スタイル要素で構成されます。

Interaction: STYLE= オプションは、XML 出力を作成している場合は、無効となります。

See: スタイル定義に関する完全な討議は、13 章, “[TEMPLATE プロシジャ: スタイルテンプレートの作成](#)” on page 942 を参照してください。

Default: スタイル定義を指定しない場合は、ODS は、SAS レジストリのサブキー ODS ⇒ DESTINATIONS ⇒ MARKUP に指定されているファイルを使用します。この値は、デフォルトで、*Default* を指定します。

Interaction: ODS HTML4 ステートメントで STYLE= オプションを指定した場合、続いて、もう1つの ODS HTML4 ステートメントで新しいスタイル定義を使用す

るために PROC PRINT 出力が必要な場合、2番目のステートメントを指定する前に、最初のステートメントを終了してください。

STYLESHEET= 'file-specification' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、マークアップ出力用のスタイル情報を外部ファイルに配置、または既存のファイルからスタイルシート of 情報を読み込みます。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります。

- ODS markup-family-destination CLOSE ステートメント または ODS _ALL_ CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の 1 つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

Requirement: 引用符で external-file を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

See: FILENAME ステートメントに関する詳細は、“FILENAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)を参照してください。

entry.markup

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

Interaction: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

サブオプション

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。次のサブオプションが利用可能です。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の CONTENTTYPE= on page 987 を参照してください。

Default: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

Restriction: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

Requirements:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された file-specification の隣か、

TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

Alias: NOBOT

Requirements:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

Tip: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

See: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

Alias: NOTOP

Requirements:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_BOTTOM_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

See: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR=オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

Requirements:

TITLE= を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

Tip: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されます。

Example: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” on page 443

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

Requirements:

URL='Uniform-Resource-Locator' を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

Tips:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

Example: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” on page 446

Note: デフォルトで、別のファイルに特に情報を送らない場合、スタイルシート情報は指定された HTML ファイルに含まれます。

Example: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” on page 446

TEXT=*text-string*

パラグラフのイベントをトリガーすることで文書にテキストを挿入し、VALUE イベント変数に割り当てられるテキストの文字列を指定します。

Default: デフォルトで、TEXT=オプションは、パラグラフイベントで使用されていません。

Tip: 次の構文を使用することで、EVENT= オプションを伴う TEXT= オプションを使って特定のイベント用の *text-string* を指定できます。

EVENT=*event-name* (TEXT=*text-string*)

See: イベントおよびイベント変数に関する詳細は、15 章、“TEMPLATE プロシジャ: マークアップ言語のタグセットの作成” on page 1166 を参照してください。

Example: “例: 出力オブジェクトを条件付きで除外し、別の出力先に送信する” on page 235

TRANTAB='*translation-table*'

出力用のファイルをトランスコーディングする際に変換表を指定します。

See: TRANTAB= オプションに関する詳細は、“TRANTAB=システムオプション” (SAS 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド)を参照してください。

サブオプション

これらのオプションで利用できるサブオプションは次のとおりです。BODY= on page 372、CODE= on page 375、CONTENTS= on page 378、FRAME= on page 383、PAGE= on page 390 および STYLESHEET= on page 395 です。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE のを参照してください。CONTENTTYPE= on page 987

Default: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

Restriction: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

Requirements:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

Alias: NOBOT

Requirements:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

Tip: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

See: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

Alias: NOTOP

Requirements:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

Interactions:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

See: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR=オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

Requirements:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

Tip: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されます。

Example: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” on page 443

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

Requirements:

URL='Uniform-Resource-Locator' を括弧で囲まなければなりません。

Uniform-Resource-Locator を引用符で囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

Tips:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

Example: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” on page 446

Details

ODS IMODE ステートメントは、ステートメントの ODS マークアップファミリの一部です。ステートメントのマークアップファミリの一部である ODS ステートメントでは、HTML (Hypertext Markup Language)、XML (Extensible Markup Language) または LaTeX などのさまざまなマークアップ言語を使用してフォーマットされた出力が作成されます。SAS 提供のマークアップ言語を指定するか、独自の言語を作成し、ユーザー定義のマークアップ言語として保存できます。

ODS LISTING ステートメント

LISTING 出力先を開く、管理する、もしくは閉じます。

該当要素: 任意の場所

カテゴリ: ODS: SAS 出力形式を使用

注: ODS LISTING ステートメントにより SVG (Scalable Vector Graphics) がサポートされません。SVG (Scalable Vector Graphics) は、2 次元ベクターグラフを記述するための XML 言語です。SVG (Scalable Vector Graphics) の詳細については、次を参照してください。“Using Scalable Vector Graphics” in Chapter 7 of *SAS/GRAPH: Reference*

構文

ODS LISTING <アクション>;

ODS LISTING <DATAPANEL=数値 DATA | PAGE > <FILE=ファイルの仕様>;

引数なし

操作、もしくはオプションを使用せずに、ODS LISTING ステートメントを使用した場合、LISTING 出力先が開かれます。

アクション

ODS LISTING ステートメントでは次の操作が使用できます。

CLOSE

LISTING 出力先とそれに関連するファイルを閉じます。

ヒント: ODS 出力先を閉じるとき、ODS によりその出力先に出力が送信されることはありません。不要な出力先を閉じると、一部のシステムリソースが開放されます。

EXCLUDE *除外対象* ALL | NONE

LISTING 出力先から 1 つ以上の出力オブジェクトを除外します。

デフォルト: NONE

制限事項: この操作を有効にするために、LISTING 出力先を開く必要があります。

参照項目: “ODS EXCLUDE ステートメント” (232 ページ)

SELECT *選択対象* ALL | NONE

LISTING 出力先用の出力オブジェクトを選択します。

デフォルト: ALL

制限事項: この操作を有効にするために、LISTING 出力先を開く必要があります。

参照項目: “ODS SELECT ステートメント” (598 ページ)

SHOW

LISTING 出力先の現在の選択リスト、または除外リストを SAS ログに書き込みます。

制限事項: この操作を有効にするために、LISTING 出力先を開く必要があります。

ヒント: 選択リスト、または除外リストがデフォルトのリスト(SELECT ALL)の場合は、SHOW により選択リスト、または除外リストの全てが書き込まれます。

参照項目: “ODS SHOW ステートメント” (614 ページ)

オプション引数**DATAPANEL=数値 DATA | PAGE**

幅が広すぎて 1 ページに収まらないテーブルを、列と行のセクションに分割する方法を提示します。列と行の各セクションはデータパネルです。各データパネルの上部には、列ヘッダーがあります。

注: このコンテキストにおいて、ページとは、プロシジャが LISTING 出力の作成時にページとして使用するものを指します。SAS システムオプション LINESIZE=、および PAGESIZE=は、通常、ページサイズを決定しますが、一部のプロシジャ(PROC REPORT など)により、システムオプションによって指定された値を一時的に上書きできます。

数値

場合によっては、パネル内で指定された数のオブザベーションを書き込みます。スペースに余裕がある場合は、ページ上に複数のパネルが表示されます。

範囲: 1 から、動作環境によりサポートされる最大の整数まで

DATA

パネルのサイズは、テーブルをメモリに保存する方法により異なります。この値により、パフォーマンスが最適化されます。テーブルに含まれる列が多い場合、各パネルの行の数は小さくなります。

PAGE

ページサイズに一致するパネルを作成します。ページに収まりきらないほどの列がテーブルに含まれている場合、1 行に収まる最大数の列に対して最大数のオブザベーションが、最初のページに表示されます。2 ページ目には、すべての行と列が印刷されるまで、次の列グループの同じオブザベーション等が表示されます。

この配列により、列ヘッダーに使用されるスペースが最小化されます。多くのページに含まれるオブザベーションは、1 つだけの列のセットを対象としているためです。

制限事項: ページサイズが 200 より大きい場合は、ODS により DATAPANEL=200 が使用されます。

デフォルト: PAGE

DEVICE=デバイスドライバ

デバイスドライバの名前を指定します。それぞれの開いている出力の出力先について、自動的に最適のデフォルトデバイスが、ODS により選択されます。

次のテーブルは、最も一般的な ODS 出力先の、デフォルトのデバイスを一覧にしたものです。

出力の出力先	デフォルトのデバイス
HTML	PNG

出力の出力先	デフォルトのデバイス
LISTING	ホスト固有の表示デバイス(PC- WIN、UNIX - XCOLOR、VMS -表示デバイス)
Measured RTF	PNG
RTF	SASEMF
PCL	SASPRTM (モノクロ出力)*
PDF	SASPRTC (カラー出力)*
POSTSCRIPT	SASPRTC (カラー出力)*
PRINTER	ホスト固有のデフォルトプリンタ*

* SAS レジストリ内のデフォルトのデバイスの変更は、サポートしていません。

ヒント: ODS DEVICE=オプションによるデバイスの指定は、SAS のグローバルオプション、およびグラフオプションよりも優先されます。

参照項目:

DEVICE= System オプション参照先は、*SAS システムオプション: リファレンス*です。デバイスドライバの選択については、

次を参照。“Overview: Using Graphics Devices” in Chapter 6 of *SAS/GRAPH: Reference*。参照先は、*SAS/GRAPH: Reference* です。

FILE=ファイルの仕様

書き込み先のファイルを指定します。ファイルの仕様の部分は、次のいずれかになります。

'external-file'

書き込み先となる外部ファイルの名前。

fileref

外部ファイルに割り当てられているファイル参照。ファイル参照を割り当てるためには、FILENAME ステートメントを使用します。FILENAME ステートメントの詳細については、*SAS ステートメント: リファレンス*を参照してください。

デフォルト: 書き込み先のファイルを指定しない場合、ODS により出力が LISTING ウィンドウに書き込まれます。

GPATH= ファイルの仕様 <(url='Uniform-Resource-Locator' | NONE)>

出力先が開いているときに生成される、すべてのグラフ出力の配置を指定します。

ファイルの仕様

書き込み先となるファイルまたは SAS カタログを指定します。ODS によって、ファイル内に配置される各出力オブジェクトに名前が付けられます。無効なファイル名を指定した場合は、ActiveX デバイス、および Java デバイスにより、デフォルトのファイル名に対して出力が送信されます。その他のデバイスにより、ディレクトリとしてファイルが作成され、デフォルトのファイル名を使用してそのディレクトリに出力が書き込まれます。ODS におけるカタログエントリ、および外部ファイルに名前を付ける方法についての詳細については、*SAS/GRAPH: Reference* を参照してください。ファイルの仕様は、次のいずれかになります。

external-file

書き込み先となる外部ファイルの名前です。

要件 external-file は引用符で囲む必要があります。

fileref

外部ファイルに割り当てられているファイル参照です。FILENAME ステートメントを使用して、ファイル参照を割り当てます。FILENAME ステートメントの詳細については、次を参照してください。*SAS ステートメント: リファレンス*
操作: GPATH=オプションのファイル参照を指定する場合、リンクを構築するときに GPATH=オプションの情報が ODS により使用されることはありません。

librefcatalog

書き込み先となる SAS カタログを指定します。

URL='Uniform-Resource-Locator' | NONE

ファイルの仕様の URL を指定します。

Uniform-Resource-Locator

ユーザーが指定する URL です。ファイルに対して作成するすべてのリンクと参照において、ファイル名のかわりに、ODS により、この URL が使用されます。

要件 *Uniform-Resource-Locator* を引用符で囲む必要があります。

NONE

リンク、または参照において、GPATH=オプションの情報が表示されないように指定します。

ヒント: このオプションは、ある場所から別の場所へ移動できる出力ファイルを構築するのに役立ちます。コンテンツ、およびページファイルのリンクは、それらが単純な URL (1 つの名前) で構築されていて、コンテンツ、ページ、およびボディファイルがすべて同一の場所にある場合に、解決します。

IMAGE_DPI=

ODS グラフ出力のイメージ解像度を指定します。デバイスベースのグラフからの出力には影響しません。

デフォルト: 96

制限事項: IMAGE_DPI=オプションは、テンプレートベースのグラフにのみ影響します。

PACKAGE <パッケージ名>

出力先からの出力がパッケージに追加されるよう指定します。

パッケージ名

ODS PACKAGE ステートメントで作成されたパッケージの名前を指定します。名前を指定しない場合は、最後に開いた名前のないパッケージに出力が追加されます。

関連項目

[“ODS PACKAGE ステートメント” \(469 ページ\)](#)

SGE= ON | OFF

ODS Graphics Editor で ODS グラフ出力の編集を可能にするかどうかを指定します。

デフォルト: OFF

制限事項: SGE=オプションは、テンプレートベースのグラフに影響します。

参照項目: *SAS ODS Graphics Editor: ユーザーガイド*

詳細

SAS 9.3 以降のデフォルト設定では、Windows および UNIX 動作環境のウィンドウ環境において、LISTING 出力先は閉じており、HTML 出力先は開いています。HTML 出力を生成するために ODS HTML ステートメントを送信する必要はありません。ま

た、出力を表示するために ODS HTML CLOSE ステートメントを使用する必要はありません。ただし、LISTING 出力を作成するには、ODS LISTING ステートメントを送信するか、他の手段によって LISTING 出力先を有効化する必要があります。詳細については、次を参照してください。“[SAS 9.3 の出力デフォルトの操作](#)” (3 ページ)

HTML 出力先で Scalable Vector Graphics (SVG) がサポートされるようになりました。SVG の詳細については、次を参照してください。“Using Scalable Vector Graphics” in Chapter 7 of *SAS/GRAPH: Reference*

ODS MARKUP ステートメント

さまざまな異なるマークアップ言語を使用してフォーマットされた SAS 出力を作成する MARKUP 出力先に対して開く、管理するまたは閉じる処理を行います。

該当要素: 任意の場所

カテゴリ: ODS: サードパーティフォーマット

操作: 出力の種類は、出力に適用されるマークアップ言語の種類を指定する TAGSET | TYPE=オプションによって決定されます。

デフォルトでは、FORMCHAR システムオプション(たとえば、PROC PLOT または PROC CHART)を使用するプロシジャを実行した場合は、ODS によって出力は SAS モノスペースフォントでフォーマットされます。作成された出力は SAS ソフトウェアがインストールされていない動作環境では正しく表示されません。これは、SAS がインストールされていない為、SAS モノスペースフォントが認識されないからです。文書を正しく表示するには、SAS プログラムの前に次のステートメントを埋め込みます。

```
OPTIONS FORMCHAR="|----|+|----+=|-\|<>*" ;
```

構文

ODS MARKUP <(<ID=> *識別子*)><操作>;

ODS MARKUP <(<ID=> *識別子*)> <オプション> <TAGSET=*tagset-name*> <操作>;

オプション引数の要約

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送ります。

(ID= *identifier*)

同時に同出力先の複数のインスタンスを開いてください。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定してください。

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定してください。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

(TITLE='*title-text*')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入してください。

(URL='Uniform-Resource-Locator')

URL として *file-specification* の URL を指定してください。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

ANCHOR= *'anchor-name'*

現行のボディファイルの各出力オブジェクトを識別するアンカータグに最適な独自のベース名を指定してください。

ARCHIVE= *'string'*

ODS HTML 出力を閲覧するために使用するアプレットを指定してください。

ATTRIBUTES= (*attribute-pair-1 ... attribute-pair-n*)

動的なグラフィックス出力を生成するタグの間に書き込む属性を指定しません。

BASE= *'base-text'*

すべてのリンクの最初の部分として使用するテキストおよび出力ファイルにおいて ODS が作成したリファレンスを指定してください。

BODY= *'file-specification'* (サブオプション)

マークアップファミリーの出力先を開き、ODS ステートメントにより作成された主な出力を含むファイルを指定してください。

CHARSET= *character-set*

HTML 出力用の META 宣言で生成される文字セットを指定してください。

CLOSE

出力先およびそれに関連するファイルを終了してください。

CODE= *'file-specification'* <(サブオプション)>

HTML 出力先を開き、関連するスタイル情報を含むファイルを指定してください。

CODEBASE= *'string'*

GOPTIONS デバイスが使用可能なファイルパスを作成してください。

CONTENTS= *'file-specification'* <(サブオプション)>

HTML 出力先を開き、出力用の目次を含むファイルを指定してください。

CSSSTYLE= *'file-specification'* <(media-type-1<...media-type-10)>

出力に適用するカスケードスタイルシートを指定してください。

DEVICE= *device-driver*

出力先のデバイスを指定してください。

ENCODING= *local-character-set-encoding*

入力用のエンコーディングまたは、外部ファイルの出力処理(トランスコード)をオーバーライドしてください。

EVENT= *event-name* (FILE= | FINISH | LABEL= | NAME= | START | STYLE= | TARGET= | TEXT= | URL=)

イベントおよびイベントに関連するイベント変数用の値を指定してください。

EXCLUDE 除外 | ALL | NONE

出力先から出力オブジェクトを除外してください。

FRAME= *'file-specification'* <(サブオプション)>

目次、ページコンテンツ、およびボディファイルを統合するファイルを指定してください。

GFOOTNOTE | **NOGFOOTNOTE**

グラフィックス出力においてフットノートがプリントされるロケーションを制御してください。

GPATH= *'aggregate-file-storage-specification'* | *ファイル参照* | *libref.catalog*

(URL= *'Uniform-Resource-Locator'* | NONE)

出力先が開いている間に生成されたすべてのグラフィックス出力のロケーションを指定してください。

GTITLE | **NOGTITLE**

グラフィック出力のタイトルがプリントされているロケーションを制御してください。

HEADTEXT= *'markup-document-head'*

出力先が書き込むすべてのファイルのタグ<HEAD> および </HEAD> の間に配置する HTML タグを指定してください。

IMAGE_DPI=

グラフィカル出力のイメージソリューションを指定してください。

METATEXT= *'metatext-for-document-head'*

<META><>の間、HEAD>HEAD>および<HEAD>出力先が書き込む先のすべてのファイルのタグとして使用する HTML コードを指定してください。

NEWFILE= *starting-point*

新しいボディファイルを指定された開始点に作成してください。

OPTIONS (DOC=| <サブオプション>)

tagset-specific サブオプションおよび名付けられた値を指定してください。

PACKAGE *<package-name>*

出力先からの出力を ODS パッケージに追加することを指定してください。

PAGE= *'file-specification'* *<(サブオプション)>*

HTML 出力先を開き、ボディファイルの各ページの説明およびボディファイルへのリンクを含むファイルを指定してください。

PARAMETERS= *(parameter-pair-1 ... parameter-pair-n)*

動的グラフィックス出力を生成するタグの間に指定されたパラメータを書き込んでください。

PATH= *'aggregate-file-storage-specification'* | *ファイル参照* | *libref.catalog* (URL=*'Uniform-Resource-Locator'* | NONE)

累積保管場所のロケーションまたはすべてのマークアップファイル用の SAS カタログを指定してください。

RECORD_SEPARATOR= *'alternative-separator'* | NONE

出力ファイルのラインを分離するために代替りの文字または文字列を指定してください。

SELECT *選択* | ALL | NONE

出力先用に出力オブジェクトを選択してください。

SHOW

SAS ログに出力先用の現行の選択または除外リストを書き込んでください。

STYLE= *style-definition*

出力ファイルを書く場合に使用するスタイル定義を指定してください。

STYLESHEET= *'file-specification'* *<(サブオプション)>*

HTML の出力先を開き、出力用のスタイル情報を外部ファイルに配置、または既存のファイルからスタイルシートの情報を読み込んでください。

TAGSET= *tagset-name*

タグセット用のキーワード値を指定してください。タグセットは、SAS フォーマットからマークアップ言語の出力タイプを作成する方法を定義するテンプレートです。

TEXT= *text-string*

文書にテキストを挿入してください。

TRANTAB= *'translation-table'*

出力用のファイルをトランスコーディングする際に変換表を指定してください。

アクション

CLOSE

出力先およびそれに関連するファイルを終了します。プリンタの出力先の場合、出力先を終了するまでファイルをプリントできません。

ヒント: ODS 出力先が終了した場合、ODS は、その出力先に出力を送りません。不要な出力先を終了することで、システムリソースの節減します。

EXCLUDE *除外* ALL | NONE

出力先から1つまたはそれ以上の出力オブジェクトを除外します。

デフォルト: NONE

制限事項: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

参照項目: “ODS EXCLUDE ステートメント” (232 ページ)

SELECT *選択* ALL | NONE

指定された出力先用に出力オブジェクトを選択します。

デフォルト: ALL

制限事項: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

参照項目: “ODS SELECT ステートメント” (598 ページ)

SHOW

SAS ログに出力先用の現行の選択または除外リストを書き込みます。

制限事項: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

ヒント: 選択または除外リストがデフォルトのリスト(SELECT ALL)である場合、SHOW は、全体の選択または除外リストも書きます。選択または除外リストに関する詳細は、を“[選択リストと除外リスト](#)” (49 ページ)参照してください。

参照項目: “ODS SHOW ステートメント” (614 ページ)

オプション引数

ANCHOR=*'anchor-name'*

現行のボディファイルの各出力オブジェクトを識別するアンカータグに最適な独自のベース名を指定します。

各出力オブジェクトは、参照するためにコンテンツ、ページ、およびフレームファイル用にアンカータグを持ちます。ODS により自動的に作成されたリンクとレファレンスは、アンカー名を指します。そのため、ファイルの各アンカー名は、固有名でなければなりません。

anchor-name

現行のボディファイルにおいて、各出力オブジェクトを識別するアンカータグのベース名です。

ODS は、指定した名称をインクリメントすることで独自のアンカー名を作成します。例えば、ANCHOR='TABULATE'を指定した場合、ODS は最初のアンカーに `tabulate` と名前を付けます。2番目のアンカー名が `tabulate1` で、3番目が `tabulate2`、と名称が続きます。

制限事項: ファイルのアンカー名は、ユニークでなければなりません。

要件 引用符で *anchor-name* を囲まなければなりません。

操作: 追加するためにファイルを開いた場合、ファイルに再度同じアンカーを書き込むことを防ぐために、新しいアンカー名を必ず指定してください。ODS は、ファイルを開いた際に、既にファイルに存在するアンカーは、識別しません。

ヒント:

プログラムのどこかにマークアップファミリーの ANCHOR=オプションを指定することで、アンカー名を変更できます。アンカー名を指定した後に、新しいものを指定するまで有効になります。

プログラムのさまざまなポイントに新しいアンカー名を指定することで、他のウェブページをマークアップ言語の出力の特定の箇所にリンクできるようになります。アンカー名が変更された箇所を制御できるため、それらのポイントにおけるアンカー名を事前に知ることができます。

ARCHIVE=*string*

ODS HTML 出力を閲覧するために使用するアプレットを指定しています。ARCHIVE= オプションは、GOPTIONS java デバイス用にのみ有効です。

文字列は、ブラウザが認識できるものでなければなりません。例えば、アーカイブファイルが SAS で実行中のコンピューターに対してローカルな場合、ファイルを識別するために FILE プロトコルを使用できます。Web サーバーのアーカイブファイルを指したい場合、HTTP プロトコルを使用してください。

デフォルト: ARCHIVE=を指定せず、JAVA デバイスドライバを使用している場合、ODS は SAS システムオプションの値である APPLETOC=を使用します。ACTIVEX デバイスドライバを使用している場合、デフォルトはありません。

要件:

引用符で *string* を囲まなければなりません。

ARCHIVE 属性は、Java 1.1 の機能です。そのため Java デバイスドライバを使用している場合、ブラウザは、この Java バージョンをサポートしていなければなりません。Internet Explorer 4.01 と Netscape 4.05 の両方が、Java 1.1 をサポートします。

操作: ARCHIVE= を SAS/GRAPH プロシジャと共に使用し、GOPTIONS ステートメントにおいて DEVICE=JAVA または DEVICE=ACTIVEX オプションを使用してください。

ヒント:

ODS HTML 出力を閲覧するための SAS/GRAPH アプレットを SAS サーバーが、自動的に判断するため、このオプションを通常使用してはいけません。しかし JAR ファイルの名称を変更した場合、または ODS HTML 出力を閲覧するためのその他のアプレットを有する場合、このオプションはこれらのアプレットにアクセス可能にします。

ファイルパスを指定するために、CODEBASE= オプションを使用してください。ARCHIVE= オプションにファイルパスを置かないことが推奨されます。

APPLETOC= の値は、SAS システムと一緒に送られる Java アーカイブのローケーションを指します。オプションの値を知るために、Environment Control の下の Files フォルダの **Options** ウィンドウを参照するか、次のプロシジャステップを発行できます。

```
proc options option=appletloc;
run;
```

ATTRIBUTES= (*attribute-pair-1 ... attribute-pair-n*)

動的なグラフィックス出力を生成するタグの間に指定された属性を書き込みます。

attribute-pair

各属性の名称および値を指定します。*attribute-pair* は、次のフォームを有します。

```
'attribute-name'= 'attribute-value'
```

attribute-name

属性の名称です。

attribute-value

属性の値です。

要件 引用符で *attribute-name* と *attribute-value* を囲まなければなりません。

操作: ATTRIBUTES=オプションを SAS/GRAPH プロシジャ および GOPTIONS ステートメントの DEVICE=JAVA、JAVAMETA、または ACTIVEX オプションと一緒に使用してください。

参照項目: *SAS/GRAPH: Reference* グラフアプレット、マップアプレット、コンターアプレット、および MetaView アプレット用の有効な属性

BASE= '*base-text*'

すべてのリンクの最初の部分として使用するテキストおよび出力ファイルにおいて ODS が作成したレファレンスを指定します。

base-text

ODS が、すべてのリンクの最初の部分として使用するテキストおよびファイルにおいて ODS が作成したレファレンスです。

次の仕様を考慮してください。

```
BASE= 'http://www.your-company.com/local-url/'
```

この場合、ODS は、`http://www.your-company.com/local-url/`文字列で始まるリンクを作成します。適切な *anchor-name* でリンクが完成します。

要件 引用符で *base-text* を囲まなければなりません。

BODY= '*file-specification*' (サブオプション)

マークアップファミリーの出力先を開き ODS ステートメントにより作成された主な出力を含むファイルを指定してください。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態になります。。

- *ODS markup-family-destination* CLOSE ステートメントまたは *ODS _ALL_* CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーステートメントを使用して、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照、または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

external-file

書き込み先の外部ファイルの名称です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

制限事項: BODY=ファイル参照オプションは、NEWFILE= オプションと一緒に使用することはできません。

参照項目: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS ステートメント: リファレンス*)を参照してください。

エントリー。マークアップ

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

操作: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

(サブオプション)

カッコ内に1つまたはそれ以上のサブオプションを指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次のようになります。

(DYNAMIC)

ファイルに書き込むのではなく、出力をウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE で [CONTENTTYPE= \(987 ページ\)](#)を参照してください。

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を、括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を 括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加する場合、動作環境に対して適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_BOTTOM_MATTER サブオプションは、NO_TOP_MATTER サブオプションを伴うことで、既存のファイルに出力を追加することを可能にし、ファイルの出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置できます。

ODS が、過去に書き込んだファイルを開く場合、アンカー用に新しいベース名を指定するために ANCHOR= オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、マークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの先頭にどのような開始マークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

The NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR= オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE= を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されます。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます。

要件:

括弧で URL='Uniform-Resource-Locator' を囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

別名: FILE=

操作: ODS マークアップの出力先に言及する ODS マークアップファミリーステートメントの BODY= オプションを使用することにより、ODS に出力先および関連するすべてのファイルを終了した後、出力先の新しいインスタンスを開くことを強制します。詳細は、“[MARKUP 出力先を開く/閉じる](#)” (438 ページ)を参照してください。

注: いくつかの TAGSET=の値に対して、出力は HTML ファイルで、他の TAGSET=の値に対して、出力は XML ファイルなどになります。

CHARSET= *character-set*

HTML 出力用の META 宣言で生成される文字セットを指定します。

参照項目: 詳細は、“CHARSET=オプション” (*SAS 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド*)を参照してください。

CODE= '*file-specification*' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、XSL (Extensible Stylesheet Language)等の関連するスタイル情報を含むファイルを指定します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります。

- ODS *markup-family-destination* CLOSE ステートメントまたは ODS _ALL_ CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

参照項目: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS ステートメント: リファレンス*)を参照してください。

entrymarkup

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

操作: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論も参照してください。

サブオプション

1つまたはそれ以上のサブオプション を括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプション は、次のようになります。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE= スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の [CONTENTTYPE= \(987 ページ\)](#)を参照してください。

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、マークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR=オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されません。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

要件:

括弧で URL='Uniform-Resource-Locator'を囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator'は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME=オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

CODEBASE='string'

実行可能な Java アプレットまたは、ActiveX コントロールファイルのロケーションを指定します。*string* は、パス名または URL を指定します。使用される GOPTIONS により、CODEBASE ファイルパスには、2つの出力先があります。

JAVA および ActiveX デバイスドライバでウェブプレゼンテーションを生成した場合に、SAS は、JAVA アーカイブファイルを自動的に検索する HTML ページまたは、デフォルトインストールロケーションに ActiveX コントロールファイルを生成しません。

ActiveX デバイス用

ActiveX コントロールを含む出力を生成する際に ODS を伴う ActiveX デバイスドライバを使用する場合、ODS の CODEBASE= オプションを指定してください。CODEBASE=オプションの値は、ロケーションおよび EXE ファイルのバージョンを含むべきです。

ヒント: 出力を閲覧するユーザーがマシンに ActiveX コントロールをインストールしていない場合を除き DEVICE=ACTIVEX オプションで CODEBASE= オプションを指定する必要はありません。コントロールをインストールしていないユーザーが出力を閲覧する場合、コントロールをダウンロードすることを促されます。

参照項目: SAS/GRAPH: Reference CODEBASE= および ARCHIVE= オプションを使用したコントロールおよびアプレットのロケーションの指定に関する詳細は、次を参照してください。

Java デバイス用

SAS/GRAPH アプレットを含む出力を生成するために、デバイスドライバを使用する場合、ODS ステートメントの CODEBASE= オプションを使用して JAR ファイルへのパスを指定してください。

DEVICE=JAVA を指定した場合、出力を閲覧するユーザーは、適切な Java アプレットにアクセスを有する必要があります。SAS は、デフォルトで、SAS により自動的にインストールされたアプレット用の実行可能ファイルに言及するために、CODEBASE= 値を設定します。SAS Java アーカイブファイルのデフォルトのロケーションは、APPLETLOC= システムオプションにより指定されています。次の両条件を満たしている場合、CODEBASE= オプションを指定する必要はありません。

- デフォルトのロケーションは、ウェブプレゼンテーションを閲覧するユーザーにより、アクセス可能です。
- SAS Java アーカイブは、そのロケーションにインストールされています。

ヒント: JAR ファイルのディレクトリのみ指定してください。CODEBASE=ロケーションは、パス名または URL として指定できます。

参照項目: SAS/GRAPH: Reference CODEBASE= および ARCHIVE= オプションを使用したコントロールおよびアプレットファイルのロケーションの指定に関する詳細は、次を参照してください。

CONTENTS= 'file-specification' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、出力用の目次を含むファイルを指定します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります。:

- ODS *markup-family-destination* CLOSE ステートメントまたは ODS _ALL_ CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイル参照です。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

参照項目: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS* ステートメント: リファレンス)を参照してください。

entry.markup

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

操作: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

サブオプション

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次のようになります。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。この設定は、CONTENTTYPE= スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の [CONTENTTYPE= \(987 ページ\)](#) を参照してください。

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣、あるいは、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなる マークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR= オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されません。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

要件:

URL='Uniform-Resource-Locator'を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをレファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

CSSSTYLE= 'file-specification' < (media-type-1 <...media-type-10)>
出力に適用するカスケードスタイルシートを指定します。

file-specification

CSS コードを含むファイル、ファイル参照、または、URL を指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

"external-file"

外部ファイルの名称です。

要件 括弧で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

参照項目: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS* ステートメント: リファレンス)を参照してください。

"URL"

外部ファイルへの URL です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

(media-type-1 < media-type-10)>

出力にレンダリングされるメディアの種類に対応する1つまたはそれ以上のメディアブロックを指定します。文書が、スクリーン、紙、スピーチシンセサイザー、点字装置、等々の異なるメディアにどのように提示されるか指定するために、CSS は、メディアタイプを使用します。

メディアブロックは、いかなるメディアブロックに含まれていないCSSコードを伴い出力に追加されます。*media-type* サブオプションを使用することで一般のCSSコードを伴い、特定のメディアタイプを対象とするCSSファイルの項目をインポートできます。

デフォルト: ODS ステートメントにいかなる *media-type* が指定されていないが、CSS ファイルにメディアタイプが指定されている場合、ODS は、Screen メディアタイプを使用します。

範囲: 異なる10個のメディアタイプを指定できます。

要件:

括弧で *media-type* を囲まなければなりません。

CSSSTYLE= オプションで指定された *file-specification* の隣に、*media-type* を指定しなければなりません。

ヒント: 複数のメディアタイプを指定した場合、出力にすべてのメディアタイプのすべてのスタイル情報が適用されます。しかし、異なるメディアブロックにおいて重複するスタイル情報が存在する場合、最後のメディアブロックのスタイルが使用されます。

制限事項: CSSSTYLE= オプションは、SAS/GRAPH 出力に影響を与えません。

要件 CSS ファイルは、ODS HTML ステートメントにより作成された CSS と同じ種類で書き込まなければなりません。ID や文脈ベースのセレクターの無いクラス名のみがサポートされます。ODS が作成する CSS コードを閲覧するには、次の内の1つを行ってください。

- STYLESHEET= オプションを指定してください。
- HTML ファイルのソースを閲覧して、ファイルの上部の < STYLE> </STYLE> タグの間のソースを閲覧してください。

有効な ODS CSS ファイルの例は、“[例 6: ODS 出力へ CSS ファイルの適用](#)” (448 ページ)を参照してください。

操作: STYLE= オプションおよび CSSSTYLE= オプションの両方が、ODS ステートメントに指定されている場合、最後に指定されたオプションが使用されます。

例: “[例 6: ODS 出力へ CSS ファイルの適用](#)” (448 ページ)

DEVICE= device-driver

デバイスドライバの名称を指定します。ODS は、各出力先用に最適なデフォルトのデバイスを自動的に選択します。

次の表は、最も使用頻度の高い ODS 出力先のデフォルトデバイスの一覧です。これらのデフォルトデバイスは、グラフィックが SAS/GRAPH または ODS グラフを使用して作成される場合に使用されます。サポート対象のデバイスとファイルの種類の詳細なリストは、“[出力先のサポートされるファイルの種類](#)” (248 ページ)を参照してください。

表 6.8 ODS 出力先のデフォルトデバイス

出力先	デフォルトデバイス
HTML	PNG
LISTING	PNG
測定済みの RTF	PNG
RTF	PNG
PCL	(SVG)スケーラブルベクターグラフィックス
PDF	(SVG)スケーラブルベクターグラフィックス
POSTSCRIPT	PNG
PRINTER	ホスト専用デフォルトプリンタ
マークアップタグセット	すべてのマークアップファミリタグセットには、デフォルト値が組み込まれています。

制限事項: ODS 出力先ステートメントのデバイスを指定した場合、ACTIVEX、ACTXIMG、JAVA、または JAVAIMG デバイスを指定してはいけません。

ヒント: ODS DEVICE= オプションにおけるデバイス指定は、SAS グローバルオプションおよびグラフィックスオプションより優先されます。

参照項目: “DEVICE= System Option” in *SAS/GRAPH: Reference* デバイスドライバの選択に関する詳細は、“Using Graphics Devices” in Chapter 6 of *SAS/GRAPH: Reference* 次を参照してください。

ENCODING= *local-character-set-encoding*

入力用のエンコーディングまたは、外部ファイルの出力処理(トランスコード)をオーバーライドします。

参照項目: ENCODING= オプションに関する詳細は、“ENCODING システムオプション: UNIX、Windows、および z/OS” (*SAS 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド*)次を参照してください。

EVENT=*event-name* (FILE= | FINISH | LABEL= | NAME= | START | STYLE= | TARGET= | TEXT= | URL=)

イベントおよびイベントに関連するイベント変数用の値を指定します。

(FILE= BODY | CODE | CONTENTS | DATA | FRAME | PAGES | STYLESHEET);

BODY=、CODE=、CONTENTS=、FRAME=、PAGES=、および STYLESHEET= オプションに対応する出力ファイルの既知の種類の中の1つをトリガーします。

(FINISH)

イベントの終了項目をトリガーします。

参照項目: 詳細は、“[イベントについて](#)” (1167 ページ)を参照してください。

(LABEL=*'variable-value'*)

LABEL イベント変数用の値を指定します。

要件 *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

参照項目: LABEL イベント変数に関する詳細は、“[イベント変数](#)” (1211 ページ)次を参照してください。

(NAME=*'variable-value'*)

NAME イベント変数用の値を指定します。

要件 *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

参照項目: NAME イベント変数に関する詳細は、“[イベント変数](#)” (1211 ページ)を参照してください。

(START)

イベントの開始項目をトリガーします。

参照項目: イベントに関する詳細は、“[イベントについて](#)” (1167 ページ)次を参照してください。

(STYLE=*style-element*)

スタイルエレメントを指定します。

参照項目: スタイルエレメントに関する詳細は、“[スタイル属性の概要](#)” (968 ページ)次を参照してください。

(TARGET=*'variable-value'*)

TARGET イベント変数用の値を指定します。

要件 *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

参照項目: TARGET イベント変数に関する詳細は、“[イベント変数](#)” (1211 ページ)次を参照してください。

(TEXT=*'variable-value'*)

TEXT イベント変数用の値を指定します。

要件 *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

参照項目: TEXT イベント変数に関する詳細は、“[イベント変数](#)” (1211 ページ)を参照してください。

(URL=*'variable-value'*)

URL イベント変数用の値を指定します。

要件 *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

参照項目: URL イベント変数に関する詳細は、“[イベント変数](#)” (1211 ページ)を参照してください。

デフォルト: (FILE='BODY')

要件 The EVENT= オプションのサブオプションを括弧で囲まなければなりません。

FRAME= 'file-specification' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、HTML 出力用に、目次、ページコンテンツ、およびボディファイルを統合するファイルを指定します。フレームファイルを開くと目次、ページコンテンツ、またはその両方、およびボディファイルを閲覧できます。XML 出力用に、FRAME= は、DTD を含むファイルを指定します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります

- *ODS markup-family-destination* CLOSE ステートメント または ODS _ALL_ CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

参照項目: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS* ステートメント: リファレンス)次を参照してください。

entry.markup

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

操作: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

サブオプション(s)

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次の内の1つになります。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の [CONTENTTYPE= \(987 ページ\)](#)を参照してください。

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=

- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: NO_BOTTOM_MATTER サブオプションおよび ANCHOR= オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されません。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます。

要件:

URL='Uniform-Resource-Locator' を括弧で囲まなければなりません。'

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

制限事項: FRAME=オプションを指定した場合、CONTENTS= オプション、PAGE= オプション、または両方を指定しなければなりません。

例: “例 2: XML ファイルと DTD の作成” (441 ページ)

GFOOTNOTE | NOGFOOTNOTE

グラフィックス出力においてフットノートがプリントされるロケーションを制御します。

GFOOTNOTE

SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたフットノートをプリントします。フットノートは、グラフのボーダー内に表示されます。

NOGFOOTNOTE

グラフのボーダー外に表示される ODS により作成されたフットノートをプリントします。

デフォルト: GFOOTNOTE

制限事項:

マークアップ言語により表示されるフットノートは、すべての SAS/GRAPH FOOTNOTE ステートメントオプションをサポートします。フォントは、ブラウザ用に有効でなければなりません。テキスト角度の仕様など ODS が扱えないオプションは無視されます。SAS/GRAPH FOOTNOTE ステートメントに関する詳細は、“FOOTNOTE Statement” in *SAS/GRAPH: Reference* を参照してください。

このオプションは、1つまたはそれ以上のデバイスベースのグラフィックスを作成する SAS プログラム または、SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたグラフィックスにのみ適用されます。

GPATH= 'aggregate-file-storage-specification' | [ファイル参照](#) | [libref.catalog](#) (URL= 'Uniform-Resource-Locator' | NONE)

出力先が開いている間に生成されたすべてのグラフィックス出力のロケーションを指定します。マークアップファイル用の PATH= オプションで指定されたものとは異なるロケーションにグラフィックス出力を書き込みたい場合にこのオプションを使用してください。無効なファイル名を指定した場合、ActiveX および Java デバイスはデフォルトのファイル名に出力を送ります。その他のデバイスはファイルをディレクトリとして作成して、そのディレクトリに出力を書き込みます。ODS が、カタログエンタリおよび外部ファイルに名称を付ける方法に関する 詳細は、次を参照してください。*SAS/GRAPH: Reference*

'aggregate-file-storage-location'

ディレクトリ、フォルダ、または分割されたデータセット等の累積保存ロケーションを指定します。

要件 引用符で *aggregate-file-storage-location* を囲まなければなりません。

ファイル参照

累積保存ロケーションに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

操作: GPATH= オプションにおいてファイル参照を指定した場合、ODS は、リンクを構築する際に、GPATH=オプションからの情報を使用しません。

参照項目: FILENAME ステートメントに関する詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS ステートメント: リファレンス*)次を参照してください。

ライブラリ参照. *catalog*

書き込む先の SAS カタログを指定します。

URL= 'Uniform-Resource-Locator' | NONE

file-specification の URL を指定します。

Uniform-Resource-Locator

指定した URL です。ODS は、ファイルに作成するすべてのリンクおよびレファレンスにおいてファイル名ではなくこの URL を使用します。

要件 引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

NONE

リンクまたはレファレンスに GPATH=オプションからのいかなる情報が表示されないことを指定します。

ヒント: このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツまたはページファイルからのリンクが簡単な URL (単一名)で構築されている場合、コンテンツ、ページ、およびボディファイルさえ同一のロケーションにあれば、それらは解決します。

デフォルト: GPATH= オプションを除外すると、ODS は、PATH= オプションにより指定されたロケーションにグラフィックスを保存します。PATH=オプションを指

定しない場合、ODS は、グラフィックスを現行のディレクトリに保存します。詳細は、PATH= オプションを参照してください。

GTITLE | NOGTITLE

グラフィック出力のタイトルがプリントされているロケーションを制御します。

GTITLE

SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたタイトルをプリントします。タイトルは、グラフボーダーの内部に表示されます。

NOGTITLE

グラフボーダーの外部に表示される ODS により作成されたタイトルをプリントします。

デフォルト: GTITLE

制限事項:

いかなるマークアップ言語のステートメントにより表示されるタイトルは、大部分の SAS/GRAPH TITLE ステートメントオプションをサポートします。フォントは、ブラウザ用に有効でなければなりません。テキスト角度の仕様など ODS が扱えないオプションは無視されます。SAS/GRAPH TITLE ステートメントに関する詳細は、TITLE ステートメントを参照してください。

このオプションは、1つまたはそれ以上のデバイススペースのグラフィックスを作成する SAS プログラム または、SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたグラフィックスにのみ適用されます。

HEADTEXT= 'markup-document-head'

出力先が書き込むすべてのファイルのタグ < HEAD> および < /HEAD> の間に配置する HTML タグを指定します。

markup-document-head

< HEAD> および < /HEAD> の間に配置するマークアップタグを指定します。

制限事項: HEADTEXT= は、256 文字を超えてはなりません。

要件 *markup-document-head* を引用符で囲まなければなりません。

ヒント:

ODS は、提供するマークアップを解析できません。それは、< HEAD> および < /HEAD> タグとの関連で、well-formed マークアップでなければなりません。

後で、ファイルで使用できるプログラム (JavaScript) 等を定義するために HEADTEXT= オプションを使用してください。

(ID= identifier)

同時に同出力先の複数のインスタンスの実行を可能にします。各インスタンスは、異なるオプションを有します。

identifier

既にかかれた出力先のもう1つのインスタンスを指定します。identifier は、文字または、アンダーラインで始まる数字または連続した文字です。後続の文字は、文字、アンダーライン、および数字を含むことができます。

制限事項: もし identifier が数値の場合、正の整数にする必要があります。

要件 ID= オプションは、ODS MARKUP/TAGSET ステートメントキーワードの直後に指定しなければなりません。

ヒント: ID= オプションを除外し、インスタンスを識別するために代わりに名前または数字を使用できます。

例: “例: 同時に同じ出力先のインスタンスを複数開く” (499 ページ)

IMAGE_DPI=

グラフィカル出力のイメージソリューションを指定します。

デフォルト: 96

METATEXT= 'metatext-for-document-head'

<META><>の間、HEAD>HEAD>および<HEAD>出力先が書き込む先のすべてのファイルのタグとして使用する HTML コードを指定します。

'metatext-for-document-head'

ブラウザにロードする文書に関する情報を提供する HTML コードを指定します。例えば、この属性は、コンテンツの種類および使用される文字セットを指定できます。

要件 引用符で *metatext-for-document-head* を囲まなければなりません。

デフォルト: METATEXT=を指定しない場合、ODS は、作成するすべての HTML ファイルに文書のコンテンツの種類および使用する文字セットを含む簡単な <META> タグを書きます。

制限事項: METATEXT= は、256 文字を超えてはなりません。

ヒント: ODS は、提供する HTML コードを解析できません。HTML コードは、<HEAD>タグの脈絡において正確で、良く構築されていなければなりません。METATEXT= を意図された通りに使用した場合、META タグは次のように見えます。

```
<META your-metatext-is-here>
```

NEWFILE= *starting-point*

新しいボディファイルが指定された *starting-point* に作成します。

starting-point

新しいボディファイルを作成するのに適した出力のロケーションです。

ODS は、ボディファイル名をインクリメントすることで自動的に新しいファイル名を付けます。次の例で、ODS は、初めのボディファイルの名を付けます。

REPORT.XML 追加のボディファイルが名付けられます。REPORT1.XML, REPORT2.XML, 等

例

```
BODY= 'REPORT.XML'
```

starting-point は、次の内の1つです。

BYGROUP

各 BY グループの結果用に新たなファイルを開始します。

NONE

現在開かれているボディファイルにすべての出力を書き込みます。

OUTPUT

各出力オブジェクト用に新たなファイルを開始します。SAS/GRAPH に対して、これは、ODS がプログラムが生成した各 SAS/GRAPH 出力ファイル用に新たなファイルを作成することを意味します。

別名: TABLE

PAGE

出力の各ページ用に新たなボディファイルを開始します。改ページは、手順が明示的に新たなページを開始(ページのサイズが足りないからではなく)または、新たなプロシジャを開始する時点で発生します。

PROC

新たな手順を開始する度に新たなボディファイルを開始します。

デフォルト: NONE

制限事項: NEWFILE= オプションは、BODY=ファイル参照 オプションと一緒に使用できません。

ヒント:

ファイル名を数字で終了した場合、ODS はその数字の増加を開始します。次の例で、ODS は、最初のボディファイル *MAY5.XML* の名付けをします。追加のボディファイル名は、*MAY6.XML*、*MAY7.XML*、等となります。

例

```
BODY= 'MAY5.XML'
```

OPTIONS (DOC= |<サブオプション>)

tagset-specific サブオプションおよび名付けられた値を指定します。

(DOC= 'HELP' | 'QUICK' | 'SETTINGS' | 'CHANGELOG')

指定されたタグセットについての情報を提供します。

HELP

簡易参照で、一般的なヘルプおよび情報を提供します。

QUICK

このタグセットで利用可能なオプションを説明します。

SETTINGS

現行のオプション設定を提供します。

CHANGELOG

タグセットへの変更履歴をリストします。このサブオプションは、RTF タグセットにおいてのみサポートされています。

要件 すべての値は、引用符で囲まなければなりません。

サブオプション(s)

指定されたタグセットに有効な1つまたはそれ以上のサブオプションを指定します。サブオプションは、次のフォーマットを有します。

keyword='value'

タグセット用のサブオプションの情報を得るために、ODS タグセットステートメントを開く時、または出力先が開かれないかなる時に、次のオプションの内の1つを指定してください。

- オプション (doc='help');
- オプション (doc='quick');
- オプション (doc='settings');

要件 OPTION サブオプションを括弧で囲まなければなりません。

例: “例: ODS TAGSETS.HTMLPANEL 情報を得るために DOC サブオプションを使用。” (651 ページ)

PACKAGE <package-name>

出力先からの出力を ODS パッケージに追加することを指定します。

package-name

ODS PACKAGE ステートメントで作成されたパッケージの名称を指定します。指定された名称が無い場合、出力は最後に開かれた名称の付けられていないパッケージに追加されます。

参照項目: “ODS PACKAGE ステートメント” (469 ページ)

例: “例 1: ODS パッケージの作成” (473 ページ)

PAGE= 'file-specification' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、ボディファイルの各ページの説明およびボディファイルへのリンクを含むファイルを指定します。ODS は、手順が新たなページを要求した際に、出力の新しいページを作成します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります

- *ODS markup-family-destination* CLOSE ステートメントまたは *ODS _ALL_* CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の 1 つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイル参照です。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

参照項目: FILENAME ステートメントに関する詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS* ステートメント: リファレンス)次を参照してください。

入力。マークアップ

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

操作: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

サブオプション

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次のようになります。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の [CONTENTTYPE= \(987 ページ\)](#)を参照してください。

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: The NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR= option

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されません。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます。

要件:

URL='Uniform-Resource-Locator'を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

操作: SAS システムオプションの PAGESIZE=は、バッチ出力を作成する時以外は、HTML 出力のページに影響を与えません。PAGESIZE= オプションに関する詳細は、“PAGESIZE= System Option” in *SAS System Options: Reference* を参照してください。

PARAMETERS= (*parameter-pair-1 ... parameter-pair-n*)

動的グラフィックス出力を生成するタグの間に指定されたパラメータを書き込みます。

parameter-pair

各パラメータの名称および値を指定します。*parameter-pair* は、次の形態を有します。

'*parameter-name*'='*parameter-value*'

parameter-name

パラメータの名称です。

parameter-value

パラメータの値です。

要件 引用符で *parameter-name* および *parameter-value* を囲まなければなりません。

操作: PARAMETERS=を SAS/GRAPH プロシジャおよび GOPTIONS ステートメントの DEVICE=JAVA、JAVAMETA、または ACTIVEX オプションと一緒に使用してください。

参照項目: SAS/GRAPH: Reference グラフアプレット、マップアプレット、カンターアプレット、およびメタビューアプレット用に有効なパラメータ

PATH= 'aggregate-file-storage-specification' | **ファイル参照** | libref.catalog (URL= 'Uniform-Resource-Locator' | NONE)

累積保管場所のロケーションまたはすべてのマークアップファイル用の SAS カタログを指定します。GPATH= オプションが指定されていない場合、すべてのグラフィックスファイルは、“aggregate-file-storage-specification”または、**ライブラリ参照**に書き込まれます。

'aggregate-file-storage-location'

ディレクトリ、フォルダ、または分割されたデータセット等の累積保存ロケーションを指定します。

要件 引用符で aggregate-file-storage-location を囲まなければなりません。

ファイル参照

累積保存ロケーションに割り当てられたファイル参照です。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

操作: PATH= オプションのを使用した場合、ODS は、リンクを構築する際に PATH= からの情報を使用しません。

参照項目: FILENAME ステートメントに関する詳細は、“FILENAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)を参照してください。

ライブラリ参照。catalog

書き込む先の SAS カタログを指定します。

参照項目: LIBNAME ステートメントに関する詳細は、“LIBNAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)を参照してください。

URL= 'Uniform-Resource-Locator' | NONE

file-specification の URL を指定します。

Uniform-Resource-Locator

指定した URL です。ODS は、ファイルに作成するすべてのリンクおよびリファレンスにおいてファイル名ではなくこの URL を使用します。

NONE

リンクまたはリファレンスに GPATH=オプションからのいかなる情報も表示されないことを指定します。

ヒント: このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは、single-name URL で構築しなければならず、コンテンツ、ページ、およびボディファイルは、同じロケーションになければなりません。

操作: BODY= または、FILE=外部ファイルオプションを PATH= オプションと一緒に使用した場合、外部ファイル仕様にパス情報を含めるべきではありません。

RECORD_SEPARATOR= 'alternative-separator' | NONE

出力ファイルのラインを分離するために代替の文字または文字列を指定します。

異なる動作環境において、異なるセパレーター文字を使用します。レコードセパレーターを指定しない場合、SAS ジョブを起動する環境用にファイルをフォーマットします。しかし、異なるセパレーター文字を使用する異なる動作環境で閲覧するためにファイルを生成する場合、対象の環境に適切なレコードセパレータを指定できません。

alternative-separator

1またはそれ以上の文字を 16 進または ASCII フォーマットで表わします。例えば、次のオプションは、キャリッジリターン文字用のレコードセパレータ および ASCII ファイルシステムで使用するラインフィード文字を指定します。

```
RECORD_SEPARATOR= '0D0A'x
```

動作環境の情報

メインフレーム環境において、次のオプションは、キャリッジリターン文字用のレコードセパレータ および ASCII ファイルシステムで使用するラインフィード文字を指定します。

```
RECORD_SEPARATOR= '0D25'x
```

要件 引用符で *alternative-separator* を囲まなければなりません。

NONE

SAS ジョブを実行する環境に適切なマークアップ言語を作成します。

Windows 固有

メインフレーム環境において、デフォルトで、ODS は、組み込み式レコードセパレータ文字を含むバイナリファイルを作成します。バイナリファイルは、ASCII ファイルのラインの長さ制限により制限されていません。しかし、テキストデータのバイナリファイルを開くと、ラインは一緒に実行されます。テキストデータでファイルを読むことを可能にするためにファイルをフォーマットしたい場合、RECORD_SEPARATOR= NONE を使用してください。この場合、ODS は、一度に1行のマークアップ言語をファイルに書き込みます。NONE の値を使用する場合、書き込む先のファイルの論理的レコードの長さは、最低でも ODS が作成するラインの最長の長さでなければなりません。ファイルの論理的レコードの長さが十分でない場合、マークアップ言語は、適切な場所でその他のラインにラップする可能性があります。

別名:

RECSEP=

RS=

STYLE= style-definition

出力ファイルを書く場合に使用するスタイル定義を指定します。

style-definition

SAS 出力の体裁特徴(色、フォントファース、フォントサイズ、等々)の表示方法を説明します。スタイル定義は、それを使用する文書の全体の体裁を決定します。各スタイル定義は、スタイル要素で構成されます。

操作: STYLE= オプションは、XML 出力を作成している場合は、無効となります。

参照項目: スタイル定義に関する完全な討議は、13章、“[TEMPLATE プロシジャ: スタイルテンプレートの作成](#)” (942 ページ)を参照してください。

デフォルト: スタイル定義を指定しない場合は、ODS は、SAS レジストリのサブキー ODS ⇒ DESTINATIONS ⇒ MARKUP に指定されているファイルを使用します。この値は、デフォルトで、*Default* を指定します。

操作: ODS HTML4 ステートメントで STYLE= オプションを指定した場合、続いて、もう1つの ODS HTML4 ステートメントで新しいスタイル定義を使用するために PROC PRINT 出力が必要な場合、2番目のステートメントを指定する前に、最初のステートメントを終了してください。

STYLESHEET= 'file-specification' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、マークアップ出力用のスタイル情報を外部ファイルに配置、または既存のファイルからスタイルシートを読み込みます。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります。

- *ODS markup-family-destination* CLOSE ステートメント または *ODS _ALL_* CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の 1 つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

参照項目: FILENAME ステートメントに関する詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS ステートメント: リファレンス*)を参照してください。

entry.markup

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

操作: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

サブオプション

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。次のサブオプションが利用可能です。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の [CONTENTTYPE= \(987 ページ\)](#)を参照してください。

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR=オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE= を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されません。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

要件:

URL='Uniform-Resource-Locator' を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

注: デフォルトで、別のファイルに特に情報を送らない場合、スタイルシート情報は指定された HTML ファイルに含まれます。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

TAGSET= *tagset-name*

タグセット用のキーワード値を指定します。タグセットは、SAS フォーマットからマークアップ言語の出力タイプを作成する方法を定義するテンプレートです。タグセットは、Hypertext Markup Language (HTML)、Extensible Markup Language (XML)、および LaTeX 等のマークアップ出力を作成します。

タグセットを指定する別の方法は、次のようになります。

ODS ディレクトリ. *tagset-name file-specification*<オプション>;

ODS ディレクトリ. *tagset-name 操作*;

ディレクトリは、TAGSET、ユーザー定義されたエントリ、またはライブラリ参照であることが可能です。デフォルトで、SAS が提供するタグセットは、アイテムストア Sasuser.Tmplmst 内にある TAGSETS ディレクトリに配置されます。user-defined タグセットおよびアイテムストアに関する詳細は、9 章、“[TEMPLATE プロシジャ: 概要](#)” (841 ページ)を参照してください。

別名: TYPE=

デフォルト: TAGSET= 値が指定されない場合、ODS MARKUP ステートメントは、XML 出力にデフォルトします。

操作: 開かれた ODS マークアップ出力先に言及する ODS マークアップファミリーの TAGSET= オプションを使用することで、ODS に出力先およびすべての関連するファイルを閉じることを強制し、その後、出力先の新たなインスタンスを開きます。詳細は、“[MARKUP 出力先を開く/閉じる](#)” (438 ページ)を参照してください。

ヒント: SAS は、タグセットの定後のセットを提供します。SAS が提供するタグセット名のリストおよび作成し、Sasuser.Tmplmst テンプレートストアに保存されたたかなるタグセットを得るために、次の SAS ステートメントを提出してください。

```
proc template;
list tagsets;
run;
```

参照項目:

有効なタグセットおよびその説明に関する詳細は、“ODS タグセットステートメント” (614 ページ)を参照してください。

タグセットの指定に関する詳細は、15 章、“TEMPLATE プロシジャ: マークアップ言語のタグセットの作成” (1166 ページ)を参照してください。

例:

“例 2: XML ファイルと DTD の作成” (441 ページ)

“例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

“例 4: タグセット名を ODS 出力先として指定する” (446 ページ)

TEXT=*text-string*

パラグラフのイベントをトリガーすることで文書にテキストを挿入し、VALUE イベント変数に割り当てられるテキストの文字列を指定します。

デフォルト: デフォルトで、TEXT=オプションは、パラグラフイベントで使用されています。

ヒント: 次の構文を使用することで、EVENT= オプションを伴う TEXT= オプションを使って特定のイベント用の *text-string* を指定できます。

EVENT=*event-name* (TEXT=*text-string*)

参照項目: イベントおよびイベント変数に関する詳細は、15 章、“TEMPLATE プロシジャ: マークアップ言語のタグセットの作成” (1166 ページ)を参照してください。

例: “例: 出力オブジェクトを条件付きで除外し、別の出力先に送信する” (235 ページ)

TRANTAB='*translation-table*'

出力用のファイルをトランスコーディングする際に変換表を指定します。

参照項目: TRANTAB= オプションに関する詳細は、“TRANTAB=システムオプション” (SAS 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド)を参照してください。

サブオプション

これらのオプションで使用できるサブオプションは次のとおりです。BODY= (409 ページ)、CODE= (412 ページ)、CONTENTS= (415 ページ)、FRAME= (421 ページ)、PAGE= (428 ページ)、STYLESHEET= (432 ページ)

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE のを参照してください。CONTENTTYPE= (987 ページ)

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=

- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR=オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されます。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

要件:

URL='Uniform-Resource-Locator を括弧で囲まなければなりません。

Uniform-Resource-Locator を引用符で囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

詳細

MARKUP 出力先を開く閉じる

開いている RTF 出力先は、多くの ODS RTF オプションを使用して変更できます。ただし、ODS MARKUP ステートメントで指定されたオープン出力先は、BODY=および TAGSET=オプションによって自動的に終了できます。これらのオプションによって、出力先関連のファイルも終了でき、次いで、出力先の新しいインスタンスも開くことができます。上記オプションのいずれかを使用した場合は、出力先を明示的に閉じることをお勧めします。

複数の ODS 出力先の指定

ODS MARKUP ステートメントによって、1 つの出力先を開く、あるいは閉じることができます。すべての単一の出力先のように、ID=オプションを使用しない場合は、1 度に 1 つのマークアップ出力先 だけしか開けません。

ただし、複数のマークアップ出力を作成するために、次の両方を実行することで、複数同時 ODS 出力先を指定できます。

- 出力先として、TAGSET=値 キーワードをいくつか指定。

- TAGSETS.PYX、TAGSETS.STYLE_DISPLAY のような 2 レベルのタグセット名、あるいは独自のタグセット名の 1 つを指定。

タグセットのキーワードを ODS 出力先として指定する

いくつかのタグセット キーワードを ODS 出力先として指定できます。タグセットによって、出力 ファイルにあるマークアップの種類が決定されます。たとえば、次のステートメントセットのうちどちらかが有効です。

- ```
ods markup body='class.html' tagset=phtml;
...more SAS statements...
ods markup close;
```
- ```
ods phtml body='class.html';
...more SAS statements...
ods phtml close;
```

出力先を閉じるのに使用する ODS ステートメントは、出力先を開いたのと同じ ODS ステートメントフォームである必要があります。したがって、SAS では MARKUP と PHTML が別々の出力先であると考えられますので、次のものは無効です。

```
ods markup body='class.html' tagset=phtml;
...more SAS statements...
ods phtml close;
```

ODS MARKUP または別々の ODS 出力先の TAGSET=値の両方として指定できるタグセットは、次のとおりです。

- CHTML
- CSV
- CSVALL
- DOCBOOK
- HTML4
- HTMLCSS
- IMODE
- LATEX
- PHTML
- SASREPORT
- TROFF
- WML
- WMLOLIST

タグセットの 2 レベル名を ODS 出力先として指定する

2 レベルのタグセット名で命名して作成するマークアップを指定することで、出力先を開くことができます。このようにして、すべてのタグセットを指定できます。たとえば、次の ODS ステートメントで、SASIOXML および MYTAGSET 出力先を開くことができます。SASIOXML および MYTAGSET 出力先は、タグセットのオープン出力先と同様に、ODS _ALL_ CLOSE ステートメントで終了できます。

```
ods tagsets.sasioxml body='test1.xml';
ods tagsets.mytagset body='test2.xml';
...追加の SAS ステートメント...
ods _all_ close;
```

2レベルのタグセット名が付いた TYPE=オプションを使用して、次のように、タグセット名を指定できます。

```
ods markup type=tagsets.sasioxml body='test.xml';
```

例

例 1: XML FILE の作成

要素:

ODS LISTING ステートメント操作

CLOSE

ODS MARKUP ステートメント

操作: CLOSE

オプション: BODY=

他の要素:

PROC PRINT

データセット:

StatePop

詳細

次の ODS MARKUP 例で、PRINT プロシジャ出力から XML マークアップを作成できます。ODS MARKUP ステートメントが XML 出力にデフォルトされるように、PRINT プロシジャの TAGSET=オプション出力は指定されていません。

プログラム

```
ods markup body='population.xml';

proc print data=statepop;
run;

ods markup close;
```

プログラムの説明

ODS MARKUP BODY=ステートメントで XML ファイルを作成できます。

```
ods markup body='population.xml';
```

データセットを印刷します。 PRINT プロシジャで、データセット StatePop を印刷できます。

```
proc print data=statepop;
run;
```

MARKUP 出力先を閉じます。 ODS MARKUP CLOSE ステートメントによって、MARKUP 出力先とその関連ファイルのすべてが閉じられます。出力先を閉じないと、ファイルを表示できません。

```
ods markup close;
```

XML 出力

次の部分出力は、XML(エクステンシブルマークアップ言語)タグでタグされます。

アウトプット 6.11 XML マークアップからの PRINT プロシジャ出力

```
<?xml version="1.0" encoding="windows-1252"?>
<odsxml>
<head>
<meta operator="user"/>
</head>
<body>
<proc name="Univariate">
<label name="IDX"/>
<title class="SystemTitle" toc-level="1">US Census of Population and Housing</
title>
<proc-title class="ProcTitle" toc-level="1">The UNIVARIATE Procedure</proc-
title>
<proc-title class="ProcTitle" toc-level="1">Variable: CityPop_90 (1990
metropolitan pop in millions)</proc-title>
<branch name="Univariate" label="The Univariate Procedure"
class="ContentProcName" toc-level="1">
<branch name="CityPop_90" label="CityPop_90" class="ContentFolder" toc-
level="2">
<leaf name="Moments" label="Moments" class="ContentItem" toc-level="3">
<output name="Moments" label="Moments" clabel="Moments">
<output-object type="table" class="Table">
<style>
<border spacing="1" padding="7" rules="groups" frame="box"/>
</style>
<colspecs columns="4">
<colgroup>
<colspec name="1" width="15" type="string"/>
<colspec name="2" width="10" align="right" type="string"/>
<colspec name="3" width="16" type="string"/>
<colspec name="4" width="10" align="right" type="string"/>
</colgroup>
</colspecs>
... more tagged output ...
</output-object>
</output>
</leaf>
</branch>
</branch>
<footnote class="SystemFooter" toc-level="1">^{super *}This is a
^S={foreground=black}footnote.</footnote>
</proc>
</body>
</odsxml>
```

例 2: XML ファイルと DTD の作成**要素:**

ODS LISTING ステートメント操作

CLOSE

ODS MARKUP ステートメント操作

CLOSE

ODS MARKUP ステートメント操作

BODY=

FRAME=

TAGSET=

他の要素:

PROC UNIVARIATE
TITLE ステートメント

データセット:

StatePop

詳細

次の ODS MARKUP 例で、PROC UNIVARIATE 出力から XML ファイルとそのドキュメント種類の定義(DTD)を作成できます。

プログラム

```
ods html close;

ods markup body='statepop.xml'
frame='statepop.dtd' tagset=default;

proc univariate data=statepop;
var citypop_90 citypop_80;
title 'US Census of Population and Housing';
run;

ods markup close;
```

プログラムの説明

HTML 出力が作成されないように HTML 出力先を閉じます。 HTML 出力先はデフォルトで開いています。ODS HTML ステートメントでは、リソースを節約するように HTML 出力先が閉じられます。

```
ods html close;
```

XML 出力と DTD を作成します。 ODS MARKUP BODY=ステートメントで XML ファイルを作成できます。FRAME=オプションで、[1]フレームファイル内の DTD を指定し、TAGSET=オプションで、[2] デフォルトのタグセットに XML を指定することができます。

```
ods markup body='statepop.xml'
frame='statepop.dtd' tagset=default;
```

分析変数の統計表を生成します。 UNIVARIATE プロシジャによって、StatePop データセットにおける数値変数の一変量統計を計算できます。VAR ステートメントによって、出力の分析変数とその順序を指定できます。TITLE ステートメントによって、出力オブジェクトのタイトルを指定できます。

```
proc univariate data=statepop;
var citypop_90 citypop_80;
title 'US Census of Population and Housing';
run;
```

MARKUP 出力先を閉じます。 ODS MARKUP CLOSE ステートメントによって、MARKUP 出力先とその関連ファイルのすべてが閉じられます。出力先を閉じないと、ファイルを表示できません。

```
ods markup close;
```

出力

この DTD で、SGML または XML ドキュメントグループのマークアップタグを、ドキュメントの表示、印刷、その他の処理を行うアプリケーションによってどのように解釈させるのかを、指定できます。

アウトプット 6.12 ODS MARKUP ステートメントで作成される DTD。

```
<!ELEMENT odsxml (head?,body)>
<!ELEMENT head (meta|css)*>
<!ELEMENT body ((label|page)*|proc)+>
<!ELEMENT meta EMPTY>
<!ATTLIST meta
operator CDATA #IMPLIED
author CDATA #IMPLIED>
<!ELEMENT css EMPTY>
<!ATTLIST css
file CDATA #IMPLIED>
<!ELEMENT label EMPTY>
<!ATTLIST label
name ID #IMPLIED>
<!ELEMENT proc (title|proc-title|note|page|label|style|branch|output)*>
<!ATTLIST proc
class CDATA #IMPLIED
... more tagged output ...
<!ELEMENT br EMPTY>
<!ELEMENT page EMPTY>
<!ELEMENT b (#PCDATA|it|b|ul)*>
<!ELEMENT ul (#PCDATA|it|b|ul)*>
<!ELEMENT it (#PCDATA|it|b|ul)*>
<!ELEMENT style (span|align|border)*>
<!ELEMENT span EMPTY>
<!ATTLIST span
columns CDATA #IMPLIED
rows CDATA #IMPLIED>
<!ELEMENT align EMPTY>
<!ATTLIST align
horiz (left|center|right|justify) "left">
<!ELEMENT border EMPTY>
<!ATTLIST border
rules (none|groups|rows|cols|all) #IMPLIED
frame (void|above|below|hsides|lhs|rhs|vsides|box|border) #IMPLIED
padding CDATA #IMPLIED
spacing CDATA #IMPLIED>
```

例 3: 複数のマークアップ出力の作成

要素:

```
ODS LISTING ステートメント操作
  CLOSE

ODS CVSALL ステートメントオプション
  BODY=

ODS MARKUP ステートメントオプション
  BODY=
  TAGSET=
  TITLE=
```

他の要素:

```
OPTIONS ステートメント
PROC PRINT
```

TITLE ステートメント

データセット:

Grain_Production

詳細

次の ODS 例では、同じプロシジャ出力から、2 つの異なる種類のマークアップ出力が作成されます。2 つのマークアップ出力を作成するには、2 つの ODS 出力先が必要です。ODS MARKUP が 1 つの出力先とみなれますので、ID=オプションを使用しないで、2 つのタグセットの指定はできません。しかし、ODS MARKUP を使用して 1 つの出力を指定できます。次いで、タグセット が出力先となっている ODS 構文を使用して、他の出力を指定できます。

プログラム

```
ods html close;
options obs=15;

ods csvall body='procprintcsvall.csv';

ods markup tagset=chtml body='procprintchtml.html'
(title= 'This Text Identifies Your Content.');
```

title 'Leading Grain-Producing Countries';

```
proc print data=grain_production;
run;

ods csvall close;
ods markup tagset=chtml close;
```

プログラムの説明

HTML 出力が作成されないように HTML 出力先を閉じます。 HTML 出力先はデフォルトで開いています。ODS HTML ステートメントでは、リソースを節約するように HTML 出力先が閉じられます。OPTIONS ステートメントで、15 表示だけの使用を指定できます。

```
ods html close;
options obs=15;
```

表形式の出力を作成します。 ODS CSVALL ステートメントで、コンマで区切られたデータ値の列を含むタイトル付きの表形式の出力を作成できます。

```
ods csvall body='procprintcsvall.csv';
```

CHTML 出力を作成します。 ODS MARKUP TAGSET=CHTML ステートメントで、スタイル情報を使用しないコンパクトで最小限の HTML 出力が作成されます。TITLE=オプションで、ブラウザウィンドウのタイトルバーに現れるテキストが指定されます。

```
ods markup tagset=chtml body='procprintchtml.html'
(title= 'This Text Identifies Your Content.');
```

データセットを印刷します。 PRINT プロシジャで、データセット Grain_Production が印刷されます。TITLE ステートメントで、タイトルが指定されます。

```
title 'Leading Grain-Producing Countries';
proc print data=grain_production;
run;
```


出力を表示したり印刷したりできるように、開いている出力先を閉じます。ODS MARKUP CLOSE ステートメントによって、CSVALL 出力先とその関連ファイルのすべてが閉じられます。ODS MARKUP TAGSET=HTML CLOSE ステートメントによって、MARKUP 出力先とその関連ファイルのすべてが閉じられます。ブラウザで出力を表示したり、出力を物理プリンタに送信したりする前に、出力先を閉じる必要があります。

```
ods csvall close;
ods markup tagset=html close;
```

出力

次の出力は、MARKUP TAGSET=HTML ステートメントを指定することで作成されました。テキスト“このテキストで内容が識別されます。”は、TITLE=オプション によって指定されました。

アウトプット 6.13 HTML 出力

The screenshot shows a web browser window with the title "This Text Identifies Your Content." The browser's menu bar includes "File", "Edit", "View", "Favorites", "Tools", and "Help". The main content area displays a table with the following data:

Obs	Country	Type	Year	Kilotons
1	BRZ	Wheat	1995	1516
2	BRZ	Rice	1995	11236
3	BRZ	Corn	1995	36276
4	CHN	Wheat	1995	102207
5	CHN	Rice	1995	185226
6	CHN	Corn	1995	112331
7	IND	Wheat	1995	63007
8	IND	Rice	1995	122372
9	IND	Corn	1995	9800
10	INS	Wheat	1995	.
11	INS	Rice	1995	49860
12	INS	Corn	1995	8223
13	USA	Wheat	1995	59494
14	USA	Rice	1995	7888
15	USA	Corn	1995	187300

次の出力は、ODS CSVALL を指定することで作成されました。ODS MARKUP TAGSET=CSVALL および ODS MARKUP TAGSET=HTML、あるいは、ODS CSVALL および ODS HTML は、一緒に指定できないことにご注意ください。

アウトプット 6.14 Microsoft Excel で表示される CSVALL 出力

Obs	Country	Type	Year	Kilotons
1	BRZ	Wheat	1995	1516
2	BRZ	Rice	1995	11236
3	BRZ	Corn	1995	36276
4	CHN	Wheat	1995	102207
5	CHN	Rice	1995	185226
6	CHN	Corn	1995	112331
7	IND	Wheat	1995	63007
8	IND	Rice	1995	122372
9	IND	Corn	1995	9800
10	INS	Wheat	1995	.
11	INS	Rice	1995	49860
12	INS	Corn	1995	8223
13	USA	Wheat	1995	59494
14	USA	Rice	1995	7888
15	USA	Corn	1995	187300

例 4: タグセット名を ODS 出力先として指定する

タグセットと 2 レベルの タグセット 名を指定するとき、複数マークアップ出力を作成して、複数の出力先を開いたり、閉じたりできます。例:

```
ods htmlcss body='test1.html';
ods phtml body='test2.html';
ods chtml body='test3.html';
ods markup body='test1.xml';
ods tagsets.event_map body='test2.xml';
...more SAS statements...
ods htmlcss close;
...more SAS statements...
ods chtml close;
...more SAS statements...
ods _all_ close;
```

例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。

要素:

ODS LISTING ステートメント操作

CLOSE

ODS HTML ステートメント操作

CLOSE

ODS HTML ステートメントオプション

BODY=

```

STYLESHEET=
URL=サブオプション

```

他の要素:

```

OPTIONS ステートメント
PROC PRINT
TITLE ステートメント

```

データセット:

```

Grain_Production

```

詳細

次の例で、HTML ドキュメントに含まれる1つの HTML ドキュメントと2つのスタイルシートが作成されます。URL が、URL=サブオプションで指定された順序で、作成されます。

プログラム

```

ods html close;
options obs=15;

ods html body='StylesheetExample.html'
stylesheet=(url='/css/file1.css /css/file2.css');

proc print data=grain_production;
title 'Leading Grain-Producing Countries';
run;

ods html close;

```

プログラムの説明

HTML 出力が作成されないように HTML 出力先を閉じます。 HTML 出力先はデフォルトで開いています。ODS HTML ステートメントでは、リソースを節約するように HTML 出力先が閉じられます。OPTIONS ステートメントは、15 のオブザーベーションのみが利用できることを示します。

```

ods html close;
options obs=15;

```

HTML 出力と2つのスタイルシートを作成します。 ODS HTML ステートメントによって HTML 出力先が開かれ、HTML 出力が作成されます。STYLESHEET=オプションで、HTML 出力のスタイル情報を2つの外部ファイルに配置できます。URL=サブオプションで、2つのファイル、File1.css および File2.css の URL を指定できます。ODS で、これらの URL (ファイル名の代わりに)は、作成対象の、そしてこれらのファイルを指す、すべてのリンクとリファレンスにおいて使用できます。

```

ods html body='StylesheetExample.html'
stylesheet=(url='/css/file1.css /css/file2.css');

```

データセットを印刷します。 PRINT プロシジャで、データセット Grain_Production が印刷されます。TITLE ステートメントで、タイトルを指定できます。

```

proc print data=grain_production;
title 'Leading Grain-Producing Countries';
run;

```

HTML 出力先を閉じます。 ODS HTML CLOSE ステートメントによって、HTML 出力先とその関連ファイルすべてが閉じられます。出力先を閉じないと、ファイルを表示できません。

```
ods html close;
```

出力

STYLESHEET=オプションによって作成されるスタイルシートへの2つのリンクは、部分出力の下部にあります。リンクは、URL=サブオプションで指定された順序で作成されます。

アウトプット 6.15 HTML コード

```
<!DOCTYPE html PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Transitional//EN">
<html>
<head>
<meta name="Generator" content="SAS Software, see www.sas.com" sasversion="9.2">
<meta http-equiv="Content-type" content="text/html; charset=windows-1252">
<title>SAS output</title>
<style type="text/css">
<!--
.l {text-align: left }
.c {text-align: center }
.r {text-align: right }
.d {text-align: ". }
.t {vertical-align: top }
.m {vertical-align: middle }
.b {vertical-align: bottom }
TD, TH {vertical-align: top }
-->
</style>
<link rel="stylesheet" type="text/css" href="/css/file1.css">
<link rel="stylesheet" type="text/css" href="/cssfile2.css">
```

例 6: ODS 出力へ CSS ファイルの適用

要素:

ODS HTML ステートメントオプション

```
BODY=
CSSSTYLE=メディアタイプ
TEXT=
```

ODS PDF ステートメントオプション

```
BODY=
CSSSTYLE=メディアタイプ
STARTPAGE=
TEXT=
```

ODS RTF ステートメントオプション

```
BODY=
CSSSTYLE=メディアタイプ
TEXT=
```

他の要素:

```
PROC CONTENTS
```

詳細

次のプログラムで、CSS ファイルにおいて作成されたスタイルシートは、HTML、PDF および RTF 出力に適用されます。CSS ファイルには、画面および印刷メディアタイプの追加情報によるメディアブロックがありますので、各出力先が特定種類のメディアの追加スタイル情報を使用することを、指定できます。

次のコードは、外部 CSS ファイル `StyleSheet.css` の例です。このプログラムで指定された2つのメディアタイプ、印刷と画面があります。このコードをテキストエディタにコピーアンドペーストし、`StyleSheet.css` として保存します。

```
.body {
background-color: white;
color: black;
font-family: times, serif;
}
.header, .rowheader, .footer, .rowfooter, .data {
border: 1px black solid;
color: black;
padding: 5px;
font-family: times, serif;
}
.header, .rowheader, .footer, .rowfooter {
background-color: #a0a0a0;
}
.table {
background-color: #dddddd;
border-spacing: 0;
border: 1px black solid;
}
.proctitle {
font-family: helvetica, sans-serif;
font-size: x-large;
font-weight: normal;
}
@media screen {
.header, .rowheader, .footer, .rowfooter, {
color: white;
background-color: green;}
.table {
background-color: yellow;
border-spacing: 0;
font-size: small
border: 1px black solid;
}
}
@media print {
.header, .rowheader, .footer, .rowfooter, {
color: white;
background-color: blue;
padding: 5px;
}
.data {
font-size: small;
}
}
```

プログラム

```
options nodate pageno=1 linesize=80 pagesize=40 obs=10;
ods html file="StyleSheet.html" csstyle='stylesheet.css' (screen)
text="Style Sheet Using Screen Media Type";
ods rtf file="StyleSheet.rtf" csstyle='stylesheet.css' (print)
```

```

text="Style Sheet Using Print Media Type";
ods pdf file="StyleSheet.pdf" csstyle='stylesheet.css' (print screen) STARTPAGE=no
text="Style Sheet Using Both Media Types";

proc contents data=sashelp.class;
run;

ods _all_ close;

```

プログラムの説明

CSS ファイルを出力に適用します。 ODS HTML、ODS RTF および ODS PDF ステートメントの CSSSTYLE=オプションによって、CSS ファイル StyleSheet.css は各出力先の出力に適用されます。ODS HTML ステートメントにおいて、メディアタイプ画面の CSSSTYLE=オプションの指定によって、画面メディアタイプブロックのスタイル情報は、メディアブロック外部のスタイル情報に加えて、HTML 出力に適用されます。同様に、RTF 出力によって、印刷メディアブロックからの追加情報が使用されます。PDF 出力では、印刷と画面が指定されているため、CSS ファイルのすべてのコードが使用されます。

```

options nodate pageno=1 linesize=80 pagesize=40 obs=10;
ods html file="StyleSheet.html" csstyle='stylesheet.css' (screen)
text="Style Sheet Using Screen Media Type";
ods rtf file="StyleSheet.rtf" csstyle='stylesheet.css' (print)
text="Style Sheet Using Print Media Type";
ods pdf file="StyleSheet.pdf" csstyle='stylesheet.css' (print screen) STARTPAGE=no
text="Style Sheet Using Both Media Types";

```

SAS データセットのコンテンツを表示します。 The CONTENTS プロシジャによって、SAS データセット SasHelp.Class が表示されます。

```

proc contents data=sashelp.class;
run;

```

開いている出力先を閉じます。 ODS _ALL_ CLOSE ステートメントによって、すべての出力先とその関連ファイルが終了します。出力先を閉じないと、ファイルを表示できません。

```

ods _all_ close;

```

出力

黄色と緑の背景色、白のフォント色、フォントサイズ、ボーダー情報は、すべて画面メディアブロックから得られます。他のすべてのスタイル情報は、メディアブロック外のコードから得られます。印刷メディアブロックから得られる情報は使用されません。

アウトプット 6.16 画面メディアタイプでスタイルシートの両方を使用する HTML 出力

Style Sheet Using Screen Media Type

The CONTENTS Procedure

Data Set Name	SASHELP.CLASS	Observations	19
Member Type	DATA	Variables	5
Engine	V9	Indexes	0
Created	Thursday, May 19, 2005 03:25:02 PM	Observation Length	40
Last Modified	Thursday, May 19, 2005 03:25:02 PM	Deleted Observations	0
Protection		Compressed	NO
Data Set Type		Sorted	NO
Label			
Data Representation	WINDOWS_32		
Encoding	us-ascii ASCII (ANSI)		

Engine/Host Dependent Information	
Data Set Page Size	4096
Number of Data Set Pages	1
First Data Page	1
Max Obs per Page	101
Obs in First Data Page	19
Number of Data Set Repairs	0
File Name	C:\SASv9\sasgen\dev\mva-v920\sas_dvd\src\dntnd\en\sashelp\class.sas7bdat
Release Created	9.0201B0
Host Created	WIN_PRO

Alphabetic List of Variables and Attributes			
#	Variable	Type	Len
3	Age	Num	8
4	Height	Num	8

白のフォント、小さなフォントサイズ、セル詰め、青の背景色は、すべて印刷メディアブロックから得られます。他のすべてのスタイル情報は、メディアブロック外のコードから得られます。画面メディアブロックからの情報は使用されません。

アウトプット 6.17 印刷メディアタイプでスタイルシートを使用する RTF 出力

The CONTENTS Procedure

Style Sheet Using Print Media Type

Data Set Name	SASHELP.CLASS	Observations	19
Member Type	DATA	Variables	5
Engine	V9	Indexes	0
Created	Thursday, May 19, 2005 03:25:02 PM	Observation Length	40
Last Modified	Thursday, May 19, 2005 03:25:02 PM	Deleted Observations	0
Protection		Compressed	NO
Data Set Type		Sorted	NO
Label			
Data Representation	WINDOWS_32		
Encoding	us-ascii ASCII (ANSI)		

Engine/Host Dependent Information	
Data Set Page Size	4096
Number of Data Set Pages	1
First Data Page	1
Max Obs per Page	101
Obs in First Data Page	19
Number of Data Set Repairs	0
File Name	C:\SAS\9\workspace\dev\mva-v920\sas_dvd\src\dntnd\en\sasHELP\class.sas7bdat
Release Created	9.0201B0
Host Created	WIN_PRO

Alphabetic List of Variables and Attributes			
#	Variable	Type	Len
3	Age	Num	8
4	Height	Num	8
1	Name	Char	8
2	Sex	Char	1
5	Weight	Num	8

PDF 出力によって、両方のメディアタイプからの情報を含めて、CSS ファイルのすべてのスタイル情報が使用できます。しかし、印刷と画面のメディアブロックは、行と列ヘッ

ダー背景色が指定されています。青の背景色は、最後に指定されますので、使用できません。

アウトプット 6.18 印刷と画面の両方のメディアタイプで、両方のスタイルシートを使用する PDF 出力

1

Style Sheet Using Both Media Types

The CONTENTS Procedure

Data Set Name	SASHELP.CLASS	Observations	19
Member Type	DATA	Variables	5
Engine	V9	Indexes	0
Created	Thursday, May 19, 2005 03:25:02 PM	Observation Length	40
Last Modified	Thursday, May 19, 2005 03:25:02 PM	Deleted Observations	0
Protection		Compressed	NO
Data Set Type		Sorted	NO
Label			
Data Representation	WINDOWS 32		
Encoding	us-ascii ASCII(ANSI)		

Engine/Host Dependent Information	
Data Set Page Size	4096
Number of Data Set Pages	1
First Data Page	1
Max Obs per Page	101
Obs in First Data Page	19
Number of Data Set Repairs	0
File Name	C:\SAS\9\workspace\dev\mva-v920\sas_dvd\src\datnd\en\sasHELP\class.sas\bdat
Release Created	9.0201B0
Host Created	WIN_PRO

Alphabetic List of Variables and Attributes			
#	Variable	Type	Len
3	Age	Num	8
4	Height	Num	8
1	Name	Char	8
2	Sex	Char	1
5	Weight	Num	8

例7: ODS TAGSETS.HTMLPANEL 情報を取得するための DOC サブオプションの使用方式

要素:

ODS TAGSETS.HTMLPANEL ステートメント操作

CLOSE

ODS TAGSETS.HTMLPANEL ステートメントオプション

OPTIONS (DOC="HELP")

FILE=

他の要素:

PROC PRINT

詳細

次の例で、OPTIONS サブオプションおよび利用可能な各サブオプションの説明が、SAS ログに印刷されます。

プログラム

```
ods tagsets.panel file='Help.html' options (doc="help");

proc print data=Sashelp.Class;
run;

ods _all_ close;
```

プログラムの説明

SAS ログファイルに OPTIONS のサブオプションに関する情報を出力します。 OPTIONS サブオプション (DOC='HELP')の指定によって、ODS TAGSETS.HTMLPANEL ステートメントサブオプションのヘルプが SAS ログファイルへ印刷されます。The FILE=オプションで、データ結果が、Help.rtf という名の RTF ファイルに印刷されます。

```
ods tagsets.panel file='Help.html' options (doc="help");
```

データセット tagset-name クラスである Sashelp.Class を出力します。 PROC PRINT ステートメントが Sashelp.Class データセットを出力します。

```
proc print data=Sashelp.Class;
run;
```

すべての出力先を閉じます。 ODS TAGSETS.HTMLPANEL 出力先と他のオープン出力先すべてを閉じます。このステートメントによって、各オープン出力先に関連するすべてのファイルも終了します。出力先を閉じないと、ブラウザウィンドウでファイルが表示できなくなります。

```
ods _all_ close;
```

SAS ログ出力

すべての OPTIONS のサブオプションと各サブオプションに関する情報を SAS ログへ出力するには、DOC='HELP'サブオプションを指定します。

ODS NO_DECIMAL_ALIGN ステートメント

両端揃えが指定されていない場合、数値列を右揃えにします。

- 該当要素:** 任意の場所
カテゴリ: ODS: SAS フォーマット
別名: ODS DECIMAL_ALIGN=NO
参照項目: [“テーブル列の値と位置調整法” \(1122 ページ\)](#)
-

構文

```
ODS NO_DECIMAL_ALIGN;
```

引数なし

両端揃えが指定されていない場合、ODS NO_DECIMAL_ALIGN ステートメントによって、値が右揃えになります。ODS NO_DECIMAL_ALIGN はデフォルト設定です。

関連項目:**ステートメント**

- “ODS DECIMAL_ALIGN ステートメント” (182 ページ)

ODS OUTPUT ステートメント

出力オブジェクトから SAS データを作成し、出力先の選択リストと除外リストを管理します。

該当要素: 任意の場所

カテゴリ: ODS: 出力形式を使用

構文

ODS 出力 [操作](#),

ODS 出力 [データセット定義](#),

アクション

ODS OUTPUT ステートメントでは、次の操作が実行可能です。

CLEAR

OUTPUT 出力先のリストを EXCLUDE ALL に設定します。

CLOSE

OUTPUT 出力先を閉じます。ODS 出力先が閉じると、ODS はその出力先に出力を送りません。出力先を閉じると、一部のシステムリソースが解放されます。

SHOW

出力先用の現在の選択または除外リストを SAS ログに書き出します。リストがデフォルトのリスト(EXCLUDE ALL)の場合は、SHOW も現在の選択リストまたは除外リスト全体を書き込みます。

必須引数**データセット定義**

出力オブジェクトを SAS データセットに変換するための指示を出します。ODS はこれらの定義のリストを保持します。このリストは OUTPUT 出力先の選択リストです。ODS がこのリストを管理する方法の詳細については、次を参照してください。[“選択リストと除外リスト” \(49 ページ\)](#)各 **データセット定義**、は次の形式になっています。

出力オブジェクトの仕様<=データセット>

出力オブジェクトの指定

は、次の形式になっています。

出力オブジェクト<(MATCH_ALL<=マクロ変数名>PERSIST=PROC | RUN)>

出力オブジェクト

SAS データセットに変換する 1 つ以上の出力オブジェクトを識別します。

出力オブジェクトを指定するには、SAS プログラムによって生成される出力オブジェクトの種類を把握する必要があります。ODS TRACE ステートメントは、SAS プログラムにより生成される各出力オブジェクトのパス、ラベルおよびその他の情報からなるトレースレコードを SAS ログに書き込みます。

詳細は、[ODS TRACE ステートメント \(696 ページ\)](#)を参照してください。出力オブジェクトは、次のように指定できます。

- 完全パス。出力オブジェクトの完全パスの例を次に示します。

```
Univariate.City_Pop_90.TestsForLocation
```

- 部分パス。部分パスは、ピリオド(.)の直後から始まり、完全パスの最後まで続く、完全パスの一部です。たとえば、完全パスが次のとおりだとすると、

```
Univariate.City_Pop_90.TestsForLocation
```

部分パスは 次のようになります。

```
City_Pop_90.TestsForLocation
Tests For Location
```

- 引用符で囲まれるラベルです。例:

```
"TestsForLocation"
```

- ラベルパス。出力オブジェクトのラベルパスの例を次に示します。

```
"The UNIVARIATE Procedure"."CityPop_90"."Tests For
Location"
```

注: トレースレコードでラベルパスが表示されるのは、ODS TRACE ステートメントで LABEL オプションを指定した場合に限ります。

- 部分ラベルパス。部分ラベルパスは、ピリオド(.)の直後から始まり、ラベルの最後まで続く、ラベルの一部です。たとえば、ラベルパスが次のとおりだとすると、

```
"The UNIVARIATE Procedure"."CityPop_90"."Tests For
Location"
```

部分ラベルパスは 次のようになります。

```
>"CityPop_90"."Tests For Location"
"Tests For Location"</
```

- ラベルとパスの組み合わせ。
- 任意の部分パスの指定の次にポンド記号(#)と数字を指定します。たとえば、TestsForLocation#3 は名前が TestsForLocation の 3 番目の出力オブジェクトを示します。

ヒント: 同一の出力オブジェクトから複数のデータセットを作成するには、出力オブジェクトを任意の回数表示します。出力オブジェクトを表示するたびに、異なるデータセットを指定します。

MATCH_ALL=<マクロ変数名>

各出力オブジェクトのデータセットを作成します。ODS がこれらのデータセットを命名する方法については、オプションの説明を参照してください。“[データセット](#)” (457 ページ)

マクロ変数名

作成されたすべてのデータセットの保存場所となるマクロ変数を指定します。PROC ステップの後ですべてのデータセットを連結する場合は、マクロ変数を使用して DATA ステップ内のすべてのデータセットを指定します。

ヒント: 競合している出力オブジェクトを 1 つのデータセットにマージするために、MATCH_ALL オプションを使用する必要はありません。

注意: SAS 9.1 で MATCH_ALL を使用せずに作成されたデータセットは、SAS 9.0 で MATCH_ALL を使用して作成されたデータセットと同一ではない場合があります。その場合は DATA ステップで連結されます。SAS 9.0 の場合、異なる出力オブジェクトを MATCH_ALL オプションを使用してマージすると、列がなくなったり、変数が切り捨てられたりすることがあります。SAS 9.1 の場合は、これらの制限は該当しません。出力オブジェクトのマージの詳細については、次を参照してください。“類似しない出力オブジェクトを 1 つのデータセットにマージする” (458 ページ)

PERSIST=PROC | RUN

ODS が、作成中のデータセットを閉じる時期および OUTPUT 出力先の選択リストから出力オブジェクトを削除する時期を決定します。

PROC

定義のリストは、プロシジャが終了した後でも、ユーザーが明示的に変更しない限りは保持されます。リストを変更するには、ODS OUTPUT と、1 つ以上のデータセットの仕様を使用します。OUTPUT 出力先のリストを EXCLUDE ALL に設定するには、次のステートメントを使用します。

```
ods output clear;
```

RUN

プロシジャまたは DATA ステップが終了しても(あるいはユーザーがリストを明示的に変更するまで)、定義のリストを保持し、作成中のデータセットを開いた状態で保持します。

参照項目: “ODS による出力オブジェクトの出力先の設定法” (50 ページ)

データセット

SAS 出力データセットを命名します。1 レベルまたは 2 レベルの(ライブラリ参照をとまなう)名前を使用できます。

単独のデータセットを作成している場合、ODS OUTPUT ステートメントは単にユーザーが指定する名前を使用します。MATCH_ALL を用いて複数のデータセットを作成している場合、ODS OUTPUT ステートメントは名前に数字を付加します。たとえば、test をデータセットとして指定し、3 つのデータセットを作成した場合、ODS は最初のデータセットを test と命名します。追加のデータセットは、test1 および test2 と命名されます。

注: ファイル名の末尾を数字にすると、ODS はその数字を用いてファイル名の値を増加を開始します。たとえば、may5 をデータセットとして指定し、3 つのデータセットを作成した場合、ODS は最初のデータセットを命名します may5。追加のデータセットは、may6 および may7 と命名されます。

デフォルト: データセットを指定しないと、ODS は出力データセット DATA n を命名します (n は一意の名前にするための最小の整数)

ヒント: データセットの直後で、かっこ内にデータセットオプションを指定できません。

NOWARN

出力オブジェクトが要求されたが作成はされなかったことを知らせる警告を非表示にします。

SHOW

ODS SHOW ステートメントのように機能します。ただし、書き込むのは OUTPUT 出力先の選択リストまたは除外リストのみです。

詳細

類似しない出力オブジェクトを1つのデータセットにマージする

デフォルトでは、ODS OUTPUT ステートメントは、出力オブジェクト内の変数の競合に関係なく、同一の出力バスを持っているすべての出力オブジェクトを1つの SAS データセットにします。後の出力オブジェクトによって作成された変数は、先の出力オブジェクトによって作成されたオブザベーションで、欠損値を取得します。先の出力オブジェクトによって作成された、後続の出力オブジェクトには存在しない変数は、後の出力オブジェクトによって追加されたオブザベーションで、欠損値を取得します。出力オブジェクトによって作成された変数の種類が、先の出力オブジェクトによって作成された同名の変数とは異なる場合、その変数は、数値の接尾辞を加えて新たに作成された名前を使用する出力データセットに追加されます。

例

例 1: 結合した出力データセットの作成

要素:

```
ODS _ALL_ CLOSE ステートメント
ODS HTML ステートメントオプション:
  BODY=
  CONTENTS=
  FRAME=
  PAGE=
ODS LISTING ステートメント:
  CLOSE
ODS OUTPUT ステートメント
```

他の要素:

```
PROC FORMAT
PROC PRINT
PROC TABULATE
KEEP=データセットオプション
```

データセット:

```
Energy
```

詳細

この例は、PROC TABULATE が作成する2つの出力オブジェクトを、OUTPUT 出力先と HTML 出力先の両方にルーティングします。その結果は、ODS HTML ステートメントによって HTML 出力として出力形式が適用された出力データセットを作成するために ODS OUTPUT ステートメントによって結合された、2つの出力オブジェクトです。

注: この例で使用されるファイル名は、すべての動作環境で有効ではない場合があります。ご使用の動作環境でサンプルプログラムを正常に実行するには、場合によってはファイル指定を変更する必要があります。付録 4, “異なる動作環境で例を実行する ODS HTML ステートメント” (1385 ページ)を参照してください。

プログラム

```
proc format;
value regfmt 1='Northeast'
```

```

2='South'
3='Midwest'
4='West';
value divfmt 1='New England'
2='Middle Atlantic'
3='Mountain'
4='Pacific';
value usetype 1='Residential Customers'
2='Business Customers';
run;

ods output Table=energyoutput(keep=region division type expenditures_sum);

ods html body='your_body_file.html'
frame='your_frame_file.html'
contents='your_contents_file.html'
page='your_page_file.html';

proc tabulate data=energy format=dollar12.;
by region;
class division type;
var expenditures;
table division,
type*expenditures;

format region regfmt. division divfmt. type usetype.;
title 'Energy Expenditures for Each Region';
title2 '(millions of dollars)';
run;

ods html path='../ods'(url=none)
body='odsoutput-printbody.htm';

ods html body='your_body_file_2.html';

proc print data=energyoutput noobs;
title 'Combined Output Data Set';
run;

ods _all_ close;
ods HTML;

```

プログラムの説明

region、division および type 変数に出力形式を適用します。 PROC FORMAT は、Region、Division および Type の出力形式を作成します。

```

proc format;
value regfmt 1='Northeast'
2='South'
3='Midwest'
4='West';
value divfmt 1='New England'
2='Middle Atlantic'
3='Mountain'
4='Pacific';
value usetype 1='Residential Customers'
2='Business Customers';
run;

```

SAS 出力データセットを作成し、出力 SAS データセットに書き込ませたい変数を指定します。 ODS OUTPUT ステートメントは、PROC TABULATE が作成する出力オブジェクトから、SAS データセット EnergyOutput を作成します。各出力オブジェクトは Table です。出力オブジェクトの名前は、ODS TRACE ON ステートメントを使用することで指定できます。KEEP=データセットオプションは、出力データセット EnergyOutput の変数を、Region、Division および Expenditures_sum に制限します。変数名 Expenditures_sum は、Expenditures 変数について統計量が生成されたことを示すために、PROC TABULATE によって生成されます。詳細については、次を参照してください。“[ODS TRACE ステートメント](#)” (696 ページ)

```
ods output Table=energyoutput(keep=region division type expenditures_sum);
```

HTML 出力を作成します。 ODS HTML ステートメントは、ボディファイル、フレームファイル、コンテンツファイルおよびページファイルを作成します。PROC TABULATE からの出力はボディファイルへ送られます。FRAME=、CONTENTS=および PAGE=は、ボディファイルのコンテンツにリンクする目次およびページのテーブルを含むフレームを作成します。ボディファイルも、フレームに表示されます。

```
ods html body='your_body_file.html'
frame='your_frame_file.html'
contents='your_contents_file.html'
page='your_page_file.html';
```

出力データセットおよび HTML レポートを作成します。 この PROC TABULATE ステップは、Table という名前の 2 つの出力オブジェクト(1 つは各 BY グループ用)を作成し、それらを EnergyOutput データセットに追加します。HTML 出力先が開いているため、ODS は出力をボディファイルに書き込みます。

```
proc tabulate data=energy format=dollar12.;
by region;
class division type;
var expenditures;
table division,
type*expenditures;

format region regfmt. division divfmt. type usetype.;
title 'Energy Expenditures for Each Region';
title2 '(millions of dollars)';
run;

ods html path='../ods'(url=none)
body='odsoutput-printbody.htm';
```

現在のボディファイルを閉じて、新規のファイルを開きます。 HTML 出力を作成します。ODS HTML BODY=ステートメントは、オリジナルのボディファイルを閉じて新規のボディファイルを開きます。コンテンツ、ページおよびフレームファイルは開いたままになります。コンテンツおよびページファイルには、両方のボディファイルへのリンクが含まれます。ODS HTML ステートメントによって HTML 出力先が開かれ、HTML 出力が作成されます。PROC TABULATE からの出力はボディファイルへ送られます。FRAME=、CONTENTS=および PAGE=は、ボディファイルのコンテンツにリンクする目次およびページのテーブルを含むフレームを作成します。ボディファイルも、フレームに表示されます。

```
ods html body='your_body_file_2.html';
```

結合されたデータセットを印刷します。 この PROC PRINT ステップは、両方の BY グループが含まれるデータセット EnergyOutput を印刷します。この出力は現在のボディファイル your_body_file_2.html に追加されます。


```
proc print data=energyoutput noobs;
title 'Combined Output Data Set';
run;
```

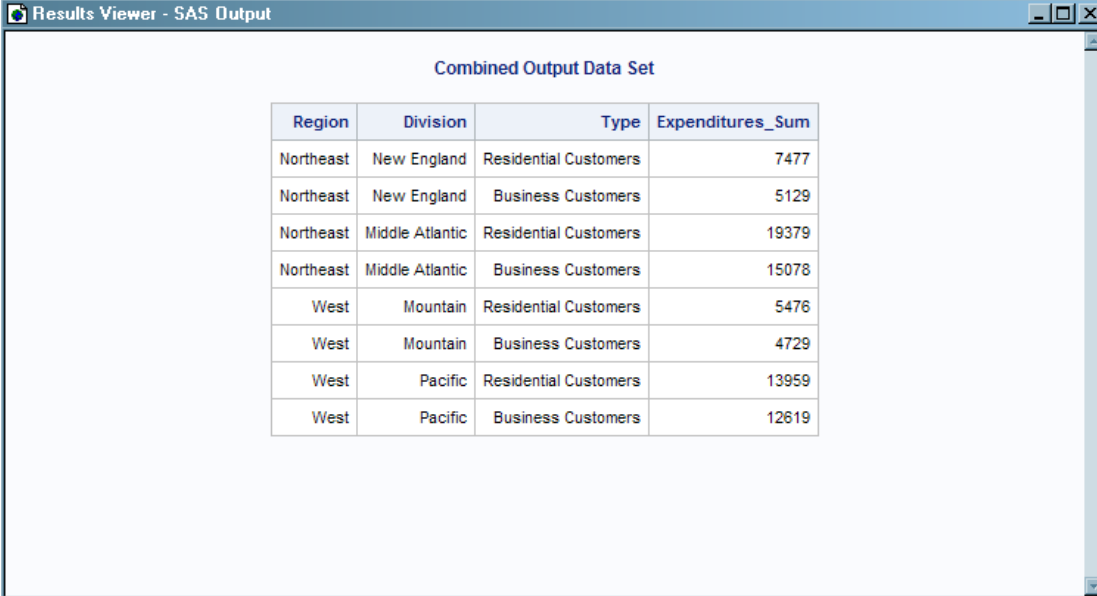
開いている出力先をすべて閉じます。ODS _ALL_ CLOSE ステートメントは、開いている ODS 出力の出力先をすべて閉じます。ODS HTML ステートメントによって、HTML 出力先が開かれ、HTML 出力が作成されます。

```
ods _all_ close;
ods HTML;
```

HTML 出力

次の HTML 出力は、ODS OUTPUT ステートメントによって作成された出力データセットを表示します。

アウトプット 6.19 結合されたデータセット



The screenshot shows a window titled "Results Viewer - SAS Output" displaying a table with the following data:

Region	Division	Type	Expenditures_Sum
Northeast	New England	Residential Customers	7477
Northeast	New England	Business Customers	5129
Northeast	Middle Atlantic	Residential Customers	19379
Northeast	Middle Atlantic	Business Customers	15078
West	Mountain	Residential Customers	5476
West	Mountain	Business Customers	4729
West	Pacific	Residential Customers	13959
West	Pacific	Business Customers	12619

次の出力は、TABULATE プロシジャによって作成された2つの個別の BY グループを表示します。

アウトプット 6.20 PROC TABULATE によって作成された出力オブジェクト

Table of Contents		Energy Expenditures for Each Region (millions of dollars)		
1. Tabulate		Region=Northeast		
-Region=Northeast		Type		
-Cross-tabular summary report		Residential Customers Business Customers		
-Table 1		Expenditures Expenditures		
		Sum Sum		
2. Print		Division		
-Data Set WORK.ENERGYOUTPUT		New England \$7,477 \$5,129		
		Middle Atlantic \$19,379 \$15,078		
Table of Pages		Energy Expenditures for Each Region (millions of dollars)		
1. Tabulate		Region=West		
-Page 1		Type		
-Page 2		Residential Customers Business Customers		
		Expenditures Expenditures		
		Sum Sum		
2. Print		Division		
-Page 3		Mountain \$5,476 \$4,729		
		Pacific \$13,959 \$12,619		

例 2: 異なるプロシジャを用いた、類似の出力オブジェクトからのデータセットの作成

要素:

ODS HTML ステートメントオプション:

BODY=
CONTENTS=
FRAME=

ODS OUTPUT ステートメント
ODS SELECT ステートメント

他の要素:

PROC GLM
PROC PRINT
PROC REG

データセット:

Iron

詳細

この例では、PROC REG および PROC GLM が生成するパラメータ推定値を元に作成されたデータセットが、作成および印刷されます。これらのプロシジャは SAS/STAT ソフトウェアの一部です。

注: この例では、一部の運用環境では無効になる可能性があるファイル名が使用されています。この例をユーザーの運用環境でうまく実行するために、ファイルの仕様を変更する必要がある場合があります。付録 4, “異なる動作環境で例を実行する ODS HTML ステートメント” (1385 ページ)を参照してください。

プログラム

```
options nodate pageno=1 pagesize=60 linesize=72;

ods html body='parameter-estimates-body.htm'
frame='parameter-estimates-frame.htm'
contents='parameter-estimates-contents.htm';

ods select ParameterEstimates(persist);

ods output ParameterEstimates(persist=proc)=IronParameterEstimates;

proc reg data=iron;
model loss=fe;
title 'Parameter Estimate from PROC REG';
run;
quit;
proc glm data=iron;
model loss=fe;
title 'Parameter Estimate from PROC GLM';
run;
quit;

ods select all;

proc print data=IronParameterEstimates noobs;
title 'PROC PRINT Report of the Data set from PROC REG';
run;

ods _all_ close;
ods html;
```

プログラムの説明

リスト出力の SAS システムオプションを設定します。 NODATE オプションによって出力内の日付と時刻の表示が非表示にされます。PAGENO=オプションによって開始ページ番号が指定されます。PAGESIZE=オプションによって出力ページのライン数が指定されます。LINESIZE=オプションによって出力ラインのレングスが指定されます。

```
options nodate pageno=1 pagesize=60 linesize=72;
```

HTML 出力を作成します。 ODS HTML ステートメントは、ボディファイル、フレームファイルおよびコンテンツファイルを作成します。FRAME=オプションおよび CONTENTS=オプションは、ボディファイルのコンテンツにリンクするコンテンツのテーブルを含むフレームを作成します。ボディファイルも、フレームに表示されます。

```
ods html body='parameter-estimates-body.htm'
frame='parameter-estimates-frame.htm'
contents='parameter-estimates-contents.htm';
```

開いているすべての ODS 出力先へ送られる出力オブジェクトを指定します。 ODS SELECT ステートメントは、ParameterEstimates という出力オブジェクトが、それらのオブジェクトを明確に排除しない、開いているすべての ODS 出力先へ送られるように指定します。リスト出力先はデフォルトで開いており、そのデフォルトのリストは SELECT ALL です。ODS HTML ステートメントはすでに HTML 出力先を開いており、そのデフォルトのリストも SELECT ALL です。ParameterEstimates という名前のオブジェクトはすべて、これら両方の出力先に送られます。PERSIST オプションは、リストが明示的に変更されない限り ParameterEstimates が選択リスト全体で残るように指定します。

```
ods select ParameterEstimates(persist);
```

IronParameterEstimates データセットを作成します。 ODS OUTPUT ステートメントは、OUTPUT 出力先を開いて、SAS データセット IronParameterEstimates を作成します。デフォルトでは、OUTPUT 出力先のリストは EXCLUDE ALL です。この ODS OUTPUT ステートメントは、ParameterEstimates を出力先の選択リストに配置します。PERSIST=PROC オプションは、プロシジャが終了するかリストが明示的に変更されない限り、ParameterEstimates が選択リスト全体で残るように指定します。

```
ods output ParameterEstimates(persist=proc)=IronParameterEstimates;
```

出力オブジェクトを作成します。 PROC REG および PROC GLM はそれぞれ、ParameterEstimates という出力オブジェクトを作成します。プロシジャが終了してもデータセット定義は残るため、ODS はそれぞれの定義を元に出力オブジェクトを作成します。

```
proc reg data=iron;
model loss=fe;
title 'Parameter Estimate from PROC REG';
run;
quit;
proc glm data=iron;
model loss=fe;
title 'Parameter Estimate from PROC GLM';
run;
quit;
```

開いているすべての出力先が出力オブジェクトを受信できるようにします。 ODS SELECT ALL ステートメントは、すべての出力先のリストをデフォルトに設定することで、ODS がすべての出力オブジェクトを HTML 出力先およびリスト出力先に送るようにします。(このステートメントがないと、後続の PROC PRINT ステップからの出力オブジェクトがいずれも、開いている出力先に送られません。)

```
ods select all;
```

レポートを印刷します。 PROC PRINT ステップは、ODS が PROC REG および PROC GLM を元に作成したデータセットを印刷します。これらのステップからの出力は、HTML 出力先とリスト出力先の両方に送られます。HTML 出力へのリンクは、コンテンツファイルに追加されます。

```
proc print data=IronParameterEstimates noobs;
title 'PROC PRINT Report of the Data set from PROC REG';
run;
```

OUTPUT 出力先および HTML 出力先を閉じます。 ODS _ALL_ CLOSE ステートメントは、開いているすべての出力先を閉じます。ODS HTML ステートメントによって、HTML 出力先が開かれ、ODS がデフォルト設定に戻されます。

```
ods _all_ close;
ods html;
```

HTML 出力

HTML 出力には、PROC REG からのパラメータ推定値、PROC GLM からのパラメータ推定値および ODS が各パラメータ推定値のセットを元に作成したデータセットのレポートが含まれます。

コンテンツのテーブルは、出力オブジェクトをそのラベルで識別します。PROC REG の ParameterEstimates のラベルは、Parameter Estimates です。対応する PROC GLM のラベルは、Solution です。HTML 出力の列幅がどのようにデータに合わせて自動調整

されるかに注目してください。このレイアウトを、リスト出力の列のレイアウトと比較してください。

アウトプット 6.21 REG プロシジャ、GLM プロシジャおよび PRINT プロシジャからの HTML 出力

<p>Table of Contents</p> <p>1. Reg -Model1 -Fit -Loss -Parameter Estimates</p> <p>2. GLM -Analysis of Variance -Loss -Solution</p> <p>3. Print -Data Set -WORKIRONPARAMETERESTIMATES</p>	<p style="text-align: center;">Parameter Estimate from PROC REG</p> <p style="text-align: center;">The REG Procedure Model: MODEL1 Dependent Variable: Loss</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="5">Parameter Estimates</th> </tr> <tr> <th>Variable</th> <th>DF</th> <th>Parameter Estimate</th> <th>Standard Error</th> <th>t Value Pr > t </th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Intercept</td> <td>1</td> <td>129.78660</td> <td>1.40274</td> <td>92.52 <.0001</td> </tr> <tr> <td>Fe</td> <td>1</td> <td>-24.01989</td> <td>1.27977</td> <td>-18.77 <.0001</td> </tr> </tbody> </table> <hr/> <p style="text-align: center;">Parameter Estimate from PROC GLM</p> <p style="text-align: center;">The GLM Procedure</p> <p>Dependent Variable: Loss</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>Parameter</th> <th>Estimate</th> <th>Standard Error</th> <th>t Value</th> <th>Pr > t </th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Intercept</td> <td>129.7865993</td> <td>1.40273671</td> <td>92.52</td> <td><.0001</td> </tr> <tr> <td>Fe</td> <td>-24.0198934</td> <td>1.27976715</td> <td>-18.77</td> <td><.0001</td> </tr> </tbody> </table> <hr/> <p style="text-align: center;">PROC PRINT Report of the Data set from PROC REG</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>_Proc_</th> <th>_Run_</th> <th>Model</th> <th>Dependent</th> <th>Variable</th> <th>DF</th> <th>Estimate</th> <th>StdErr</th> <th>tValue</th> <th>Probt</th> <th>Parameter</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Reg</td> <td>1</td> <td>MODEL1</td> <td>Loss</td> <td>Intercept</td> <td>1</td> <td>129.786599</td> <td>1.402737</td> <td>92.52</td> <td><.0001</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Reg</td> <td>1</td> <td>MODEL1</td> <td>Loss</td> <td>Fe</td> <td>1</td> <td>-24.019893</td> <td>1.279767</td> <td>-18.77</td> <td><.0001</td> <td></td> </tr> <tr> <td>GLM</td> <td>1</td> <td></td> <td>Loss</td> <td></td> <td>.</td> <td>129.786599</td> <td>1.402737</td> <td>92.52</td> <td><.0001</td> <td>Intercept</td> </tr> <tr> <td>GLM</td> <td>1</td> <td></td> <td>Loss</td> <td></td> <td>.</td> <td>-24.019893</td> <td>1.279767</td> <td>-18.77</td> <td><.0001</td> <td>Fe</td> </tr> </tbody> </table>	Parameter Estimates					Variable	DF	Parameter Estimate	Standard Error	t Value Pr > t	Intercept	1	129.78660	1.40274	92.52 <.0001	Fe	1	-24.01989	1.27977	-18.77 <.0001	Parameter	Estimate	Standard Error	t Value	Pr > t	Intercept	129.7865993	1.40273671	92.52	<.0001	Fe	-24.0198934	1.27976715	-18.77	<.0001	_Proc_	_Run_	Model	Dependent	Variable	DF	Estimate	StdErr	tValue	Probt	Parameter	Reg	1	MODEL1	Loss	Intercept	1	129.786599	1.402737	92.52	<.0001		Reg	1	MODEL1	Loss	Fe	1	-24.019893	1.279767	-18.77	<.0001		GLM	1		Loss		.	129.786599	1.402737	92.52	<.0001	Intercept	GLM	1		Loss		.	-24.019893	1.279767	-18.77	<.0001	Fe
Parameter Estimates																																																																																											
Variable	DF	Parameter Estimate	Standard Error	t Value Pr > t																																																																																							
Intercept	1	129.78660	1.40274	92.52 <.0001																																																																																							
Fe	1	-24.01989	1.27977	-18.77 <.0001																																																																																							
Parameter	Estimate	Standard Error	t Value	Pr > t																																																																																							
Intercept	129.7865993	1.40273671	92.52	<.0001																																																																																							
Fe	-24.0198934	1.27976715	-18.77	<.0001																																																																																							
Proc	_Run_	Model	Dependent	Variable	DF	Estimate	StdErr	tValue	Probt	Parameter																																																																																	
Reg	1	MODEL1	Loss	Intercept	1	129.786599	1.402737	92.52	<.0001																																																																																		
Reg	1	MODEL1	Loss	Fe	1	-24.019893	1.279767	-18.77	<.0001																																																																																		
GLM	1		Loss		.	129.786599	1.402737	92.52	<.0001	Intercept																																																																																	
GLM	1		Loss		.	-24.019893	1.279767	-18.77	<.0001	Fe																																																																																	

例3: MATCH_ALL オプションを使用した/使用しないデータセットの作成要素:

ODS HTML ステートメントオプション:

BODY=

ODS LISTING

ODS OUTPUT ステートメント:

MATCH_ALL

ODS TRACE ステートメント

他の要素:

PROC PRINT

PROC REG

データセット:

モデル

詳細

この例は、MATCH_ALL オプションを指定して作成されたデータセットと、それを指定しないで作成されたデータセットとの違いを説明しています。最初のプログラムは、MATCH_ALL オプションを指定することで、マージされたデータセットを作成します。2番目のプログラムは、MATCH_ALL オプションの指定なしで、マージされたデータセットを作成します。

印刷するデータセットは、PROC REG が生成するパラメータ推定値です。PROC REG プロシジャは、SAS/STAT ソフトウェアの一部です。

注: この例では、一部の運用環境では無効になる可能性があるファイル名が使用されています。この例をユーザーの運用環境でうまく実行するために、ファイルの仕様を変更する必要がある場合があります。付録 4, “異なる動作環境で例を実行する ODS HTML ステートメント” (1385 ページ)を参照してください。

プログラム 1

```
ods output SelectionSummary(match_all=list) = summary;
title1 'Using the MATCH_ALL Option Produces Two Data Sets With Different Columns';

ods trace on;
proc reg data=model;
model r33=a b r4 r8 c d e r23 r24 r29/ selection=forward
sle=.5 maxstep=3;
model r33=a b r4 r8 c d e r23 r24 r29/ selection=backward
sls=0.05 maxstep=3;
run;
ods trace off;

title2 'The First Data Set Has the VARENTERED Column';
proc print data=summary;
run;
title1;
title2 'The Second Data Set Has the VARREMOVED Column';
proc print data=summary1;
run;

data summarym;
set &list;
run;

title1;
title2 'The Merged Data Set Has Both Columns';
proc print data=summarym;
run;
```

プログラムの説明

作成する SAS データセットを用意します。 ODS OUTPUT ステートメントは、OUTPUT 出力先を開きます。デフォルトでは、OUTPUT 出力先のリストは EXCLUDE ALL です。この ODS OUTPUT ステートメントは、SelectionSummary を出力先の選択リストに配置します。MATCH_ALL オプションは、SelectionSummary の各インスタンスの SAS データセットを作成します。最初のデータセットの名前は Summary で、2 番目のデータセットの名前は Summary1 です。ODS は、これらの名前前のリストをマクロ変数リストに保存します。この変数は、後出の、データセットを結合する場合の例で使用します。

```
ods output SelectionSummary(match_all=list) = summary;
title1 'Using the MATCH_ALL Option Produces Two Data Sets With Different Columns';
```

出力オブジェクトを作成し、それらのオブジェクトの記録をログ内で表示します。 PROC REG は出力オブジェクトを作成します。ODS TRACE ステートメントは、作成された各出力オブジェクトの記録を SAS ログに書き込みます。ODS TRACE OFF ステートメントは、記録の印刷を非表示にします。

```
ods trace on;
proc reg data=model;
model r33=a b r4 r8 c d e r23 r24 r29/ selection=forward
sle=.5 maxstep=3;
model r33=a b r4 r8 c d e r23 r24 r29/ selection=backward
sls=0.05 maxstep=3;
run;
ods trace off;
```

レポートを印刷します。 PROC PRINT ステップは、ODS が PROC REG を元に作成したデータセットを印刷します。これらのステップからの出力は、HTML 出力先へ送られません。

```
title2 'The First Data Set Has the VARENTERED Column';
proc print data=summary;
run;
title1;
title2 'The Second Data Set Has the VARREMOVED Column';
proc print data=summary1;
run;
```

すべてのデータセットが含まれた1つのデータセットを作成します。 データセット SummaryM は、ODS OUTPUT ステートメントによって作成されたすべてのデータセットを結合します。マクロ変数 &list には、データセット名のリストが含まれます。

```
data summarym;
set &list;
run;
```

マージされたレポートを印刷してタイトルを指定します。 PROC PRINT ステップは、DATA ステップから作成されたマージ済みのデータセットを印刷します。このステップからの出力は、HTML 出力先へ送られます。TITLE1 ステートメントは最初のタイトルをキャンセルし、TITLE2 ステートメントは出力の新規のタイトルを指定します。

```
title1;
title2 'The Merged Data Set Has Both Columns';
proc print data=summarym;
run;
```

HTML 出力

MATCH_ALL オプションの使用時に作成される最初のデータセット: この HTML 出力には、MATCH_ALL オプションを指定した ODS OUTPUT ステートメントによって作成された Summary データセットの、印刷済みレポートが含まれます。VARREMOVED 列は含まれません。

MATCH_ALL オプションの使用時に作成される2番目のデータセット: この HTML 出力には、MATCH_ALL オプションを指定した ODS OUTPUT ステートメントによって作成された Summary1 データセットの、印刷済みレポートが含まれます。VARENTERED 列は含まれません。

MATCH_ALL オプションの使用時に作成されるマージされたデータセット: この HTML 出力には、MATCH_ALL オプションを指定した ODS OUTPUT ステートメントによって作成された SummaryM データセットの、印刷済みレポートが含まれます。これは、Summary および Summary1 を元に作成されたデータセットです。VARENTERED 列と VARREMOVED 列の両方が含まれます。

アウトプット 6.22 MATCH_ALL オプションの使用時に作成される 3 つのデータセット

The screenshot shows the SAS Results window with the following content:

Using the MATCH_ALL Option Produces Two Data Sets With Different Columns
The First Data Set Has the VARENTERED Column

Obs	Model	Dependent	Step	VarEntered	NumberIn	PartialRSquare	ModelRSquare	Cp	FValue	ProbF
1	MODEL1	r33	1	d	1	0.8617	0.8617	379.485	68.52	<.0001
2	MODEL1	r33	2	e	2	0.0712	0.9329	181.392	10.62	0.0086
3	MODEL1	r33	3	r24	3	0.0557	0.9886	26.8903	44.17	<.0001

The Second Data Set Has the VARREMOVED Column

Obs	Model	Dependent	Step	VarRemoved	NumberIn	PartialRSquare	ModelRSquare	Cp	FValue	ProbF
1	MODEL2	r33	1	r24	9	0.0000	0.9993	9.0522	0.05	0.8405
2	MODEL2	r33	2	r29	8	0.0000	0.9992	7.1193	0.10	0.7747
3	MODEL2	r33	3	d	7	0.0001	0.9991	5.4330	0.59	0.4845

The Merged Data Set Has Both Columns

Obs	Model	Dependent	Step	VarEntered	NumberIn	PartialRSquare	ModelRSquare	Cp	FValue	ProbF	VarRemoved
1	MODEL1	r33	1	d	1	0.8617	0.8617	379.485	68.52	<.0001	
2	MODEL1	r33	2	e	2	0.0712	0.9329	181.392	10.62	0.0086	
3	MODEL1	r33	3	r24	3	0.0557	0.9886	26.8903	44.17	<.0001	
4	MODEL2	r33	1		9	0.0000	0.9993	9.0522	0.05	0.8405	r24
5	MODEL2	r33	2		8	0.0000	0.9992	7.1193	0.10	0.7747	r29
6	MODEL2	r33	3		7	0.0001	0.9991	5.4330	0.59	0.4845	d

プログラム 2

```
ods output SelectionSummary=summary;
title1 'Without the MATCH_ALL Option, ODS Produces a Single Data Set With All
Of the Columns';

ods trace on;
proc reg data=model;
model r33=a b r4 r8 c d e r23 r24 r29/ selection=forward
sle=.5 maxstep=3;
model r33=a b r4 r8 c d e r23 r24 r29/ selection=backward
sls=0.05 maxstep=3;
run;
ods trace off;

proc print data=summary;
run;
```

プログラムの説明

作成する SAS データセットを用意します。ODS OUTPUT ステートメントは、OUTPUT 出力先を開いて、SAS データセット Summary を作成します。MATCH_ALL オプションが指定されていないため、ODS は、出力オブジェクト SelectionSummary のインスタンスがすべて含まれたデータセットを 1 つ作成します。

```
ods output SelectionSummary=summary;
title1 'Without the MATCH_ALL Option, ODS Produces a Single Data Set With All
Of the Columns';
```

出力オブジェクトを作成し、それらのオブジェクトの記録をログ内で表示します。PROC REG は出力オブジェクトを作成します。ODS TRACE ステートメントは、作成された各出力オブジェクトの記録を SAS ログに書き込みます。ODS TRACE OFF ステートメントは、記録の印刷を非表示にします。


```
ods trace on;
proc reg data=model;
model r33=a b r4 r8 c d e r23 r24 r29/ selection=forward
sle=.5 maxstep=3;
model r33=a b r4 r8 c d e r23 r24 r29/ selection=backward
sls=0.05 maxstep=3;
run;
ods trace off;
```

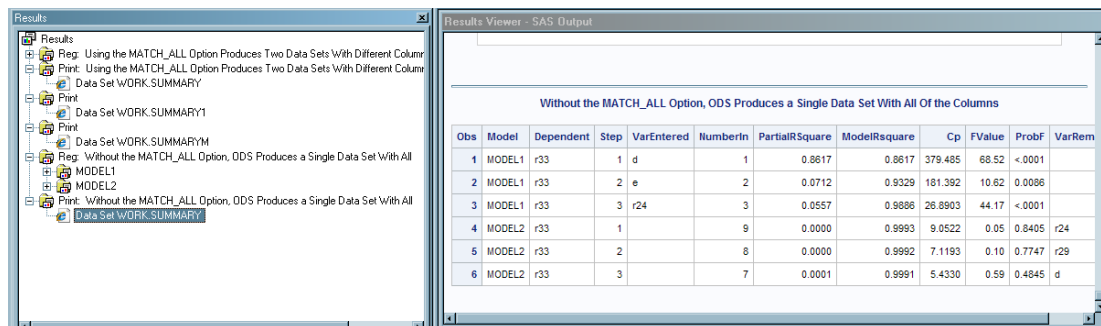
結合されたデータセットを印刷します。PROC PRINT ステップは、ODS によって作成されたマージ済みのデータセットを印刷します。このステップからの出力は、HTML 出力先へ送られます。

```
proc print data=summary;
run;
```

HTML 出力

この HTML 出力には、MATCH_ALL オプションを指定していない ODS OUTPUT ステートメントによって作成された Summary データセットの、印刷済みレポートが含まれます。データセットをマージするために MATCH_ALL オプションを指定する必要はありません。

アウトプット 6.23 ODS OUTPUT ステートメント(MATCH_ALL オプションなし)を使用したデータセットの結合



ODS PACKAGE ステートメント

ODS PACKAGE ステートメントを使用して、単一の SAS Output Delivery System (ODS) パッケージオブジェクトを開いたり、オブジェクトに追加したり、オブジェクトをパブリッシュまたは閉じたりできます。

該当要素: 任意の場所

カテゴリ: データアクセス

要件 出力先として、パッケージに接続するための PACKAGE オプションを指定する必要があります。

参照項目: ODS パッケージは、主にパブリッシングフレームワークとともに使用されます。SAS Integration Technologies のパブリッシングフレームワーク機能の詳細については、*SAS Publishing Framework 開発者ガイド*を参照してください。

構文

ODS PACKAGE (<名前>) OPEN <オプション>;

ODS PACKAGE (<名前>) PUBLISH

トランスポート PROPERTIES(トランスポートプロパティ-1="値-1" ...トランスポートプロパティ-n="値-n)

ODS PACKAGE (<名前>) ADD FILE=ファイルの指定 | DATA=メンバの指定

MIMETYPE="文字列" <PATH=パスの指定><オプション>;

ODS PACKAGE (<名前>) CLOSE <CLEAR>;

必須引数

ADD

指定された MIME (Multipurpose Internet Mail Extensions)タイプを使用して、ファイルまたはデータセットを ODS パッケージに追加します。

要件 ADD 引数を使用するときは、MIMETYPE=引数、FILE=引数または DATA=引数を使って、ファイルまたはデータセットと MIME タイプを指定する必要があります。

FILE="ファイルの指定" <TEXT | BINARY>

ODS パッケージに追加するファイルを指定します。

ファイルの指定

次のいずれかを指定します。

外部ファイル

追加する外部ファイルの名前です。

要件 外部ファイルは引用符で囲む必要があります。

fileref

外部ファイルに割り当てられているファイル参照です。fileref を割り当てるには、FILENAME ステートメントを使用します。

TEXT

そのファイルがテキストファイルであることを指定します。

BINARY

そのファイルがバイナリファイルであることを指定します。

デフォルト: TEXT または BINARY 値を指定しない場合、ファイルは(それがテキストファイルでない限り)バイナリとして追加されます。テキストファイルはデフォルトでテキストとして追加されます。

制限事項:

FILE=引数は、ADD 引数と組み合わせないと使用できません。

ファイルおよびデータセットは、ODS パッケージに追加できません。

例: 次のステートメントを使用して、Test.SAS ファイルをプレーンテキストとして ODS パッケージディレクトリ SAS に追加してください。

```
ods package add file="test.sas" mimetype="text/plain" path="sas/";
```

DATA=メンバの指定

ODS パッケージに追加するデータセットを指定します。メンバの指定は、libname.membername または membername の形式で可能です。

制限事項:

DATA=引数は、ADD 引数と組み合わせないと使用できません。

ファイルおよびデータセットは、ODS パッケージに追加できません。

MIMETYPE="文字列"

ODS パッケージに追加するファイルまたはデータセットの Multipurpose Internet Mail Extensions (MIME)タイプを指定します。

制限事項: MIMETYPE=引数は、ADD 引数と組み合わせないと使用できません。

OPEN EXPIRATION= <'有効期限'>

ODS 出力先との接続が可能な ODS パッケージオブジェクトを作成します。ODS パッケージオブジェクトは、パッケージメタデータを保持し、パッケージメタデータに追加されるファイルの場所を追跡します。

例: 次の ODS PACKAGE ステートメントで、要約および説明が含まれた名前のないパッケージを開くことができます。

```
ods package open abstract="これは要約です" description="これは説明です";
```

PUBLISH EXPIRATION= <'有効期限'>

ODS パッケージを構築し、選択したデリバリトランスポートへ送ります。

有効期限

パッケージの有効期限を指定します。日付は SAS 日付値にする必要があります。

要件 **有効期限**は引用符で囲む必要があります。

CLOSE

パッケージオブジェクトを削除します。パッケージは、閉じていない限り、いくらでも好きな方法で好きな回数だけパブリッシュできます。

ヒント: パッケージに追加されたファイルを削除するには、CLEAR オプションを使用します。

transport

PUBLISH 操作とともに使用するデリバリトランスポートを指定します。*transport* の部分は、次のいずれかになります。

ARCHIVE PROPERTIES(*transport-property-1*="value-1" ... *transport-property-n*="value-n")

パッケージをアーカイブへパブリッシュします。トランスポートプロパティおよびその値の一覧については、*SAS Publishing Framework 開発者ガイド*のトランスポートプロパティのセクションを参照してください。

例: 次のステートメントで、ODS パッケージはアーカイブ Test.spk にパブリッシュされます。

```
ods package publish archive properties(archive_path="./"
archive_name="test.spk");
```

EMAIL PROPERTIES(トランスポートプロパティ-1="値-1" ... トランスポートプロパティ-n="値-n") ADDRESSES("電子メールアドレス-1" ... "電子メールアドレス-n")

パッケージを 1 つ以上のメールアドレス宛に発行します。トランスポートプロパティおよびその値の一覧については、*SAS Publishing Framework 開発者ガイド*のトランスポートプロパティのセクションを参照してください。

例: 次のステートメントにより、ODS パッケージは電子メールアドレス (your.email@company.com および your.second.email@company.com) に発行されます。

```
ods package publish email addresses("your.email@company.com"
"your.second.email@company.com")
properties(archive_name="testPackage" archive_path="./");
```

QUEUE PROPERTIES(トランスポートプロパティ-1="値-1" ... トランスポートプロパティ-n="値-n") QUEUES("キュー-1" ... "キュー-n")

パッケージを 1 つ以上のメッセージキュー宛に発行します。トランスポートプロパティおよびその値の一覧については、*SAS Publishing Framework 開発者ガイド*のトランスポートプロパティのセクションを参照してください。

SUBSCRIBERS PROPERTIES(トランスポートプロパティ-1="値-1" ... トランスポートプロパティ-n="値-n")

指定されたチャンネルに関連付けられたサブスクリバ宛に、パッケージを発行します。トランスポートプロパティおよびその値の一覧については、*SAS*

*Publishing Framework 開発者ガイド*のトランスポートプロパティのセクションを参照してください。

WEBDAV PROPERTIES(トランスポートプロパティ-1="値-1" ... トランスポートプロパティ-n="値-n")

パッケージを WebDAV 互換サーバー宛に発行します。トランスポートプロパティおよびその値の一覧については、*SAS Publishing Framework 開発者ガイド*のトランスポートプロパティのセクションを参照してください。

オプション引数

ABSTRACT=文字列

パッケージまたはファイルの要約メタデータの文字列を指定します。

制限事項: ABSTRACT=オプションは、ADD 引数または OPEN 引数と組み合わせないと使用できません。

CLEAR

パッケージに自動的に追加されたすべてのファイルを、ODS によって書き込まれた場所から削除する指定です。

制限事項: CLEAR オプションは CLOSE 引数と組み合わせないと使用できません。

DESCRIPTION=文字列

パッケージまたはファイルの記述メタデータの文字列を指定します。

制限事項: DESCRIPTION=オプションは、ADD 引数または OPEN 引数と組み合わせないと使用できません。

<名前>

パッケージの名前を指定します。パッケージに命名すると、複数のパッケージを同時に開くことができるようになります。同様にパッケージ名を指定することによって、各出力先を任意のパッケージへ接続できます。

制限事項: NAMEVALUE=オプションは、OPEN 引数と組み合わせないと使用できません。

要件:

*名前*は、ODS PACKAGE ステートメントの PACKAGE キーワードの直後に配置する必要があります。

*名前*はかっこで囲む必要があります。

NAMEVALUE="<名前-1="値-1" ... 名前-n="値-n">"

パッケージまたはファイルの名前/値メタデータに用いる名前/値の文字列の組み合わせを指定します。

制限事項: NAMEVALUE=オプションは、ADD 引数または OPEN 引数と組み合わせないと使用できません。

PATH="パスの指定"

ODS パッケージ内の指定されたパス名の場所にファイルまたはデータセットを配置します。

制限事項: PATH=オプションは、ADD 引数と組み合わせないと使用できません。

例: 次のステートメントを使用すると、Test.SAS ファイルを平文テキストとして ODS パッケージディレクトリ SAS に追加できます。

```
ods package add file="test.sas" mimetype="text/plain" path="sas/";
```

TEMPLATE=

使用するパッケージテンプレートの名前を指定します。

制限事項: TEMPLATE=オプションは、ADD 引数または OPEN 引数と組み合わせないと使用できません。

詳細

パッケージは、消費者へのデリバリー用に生成または収集される、デジタルコンテンツのコンテナです。ODS パッケージにより、ODS 出力先は SAS Publishing Framework を使用できるようになります。ODS パッケージは、開いた ODS 出力先のいずれかに関連付けられた出力ファイルおよびデータセットを含むオブジェクトです。ODS パッケージは、パッケージメタデータを保持し、そのデータに接続するアクティブな出力先からの出力を追跡します。出力先が閉じられた後であれば、パッケージをいずれかの発行出力先宛に発行できます。そのパッケージは、継続して使用することも、閉じることもできます。パッケージは、明示的に閉じられない限り、活動状態が保持されます。

例

例 1: ODS パッケージの作成

次の例では、単純な ODS パッケージが作成されています。パッケージは、他のディレクトリを指定しない限り、デフォルトのディレクトリに作成されます

プログラム

```
options dev=gif xpixels=480 ypixels=320;

ods package open;
ods html package;

proc gplot data=sashelp.class;
plot height*weight;
by name;
run;
quit;
ods html close;

ods package publish archive properties
  (archive_name="SimpleExample.zip" archive_path=".");
ods package close;
ods html;
```

プログラムの説明

GOPTIONS ステートメントを使用してグラフオプションを指定します。

```
options dev=gif xpixels=480 ypixels=320;
```

ODS パッケージを開き、**HTML** 出力がそのパッケージに追加されるように指定します。ODS **PACKAGE** ステートメントで、名前のない ODS パッケージを開くことができます。ODS **HTML** ステートメントで指定された **PACKAGE** オプションで、HTML 出力先からの出力が、そのパッケージに追加されるよう指定できます。

```
ods package open;
ods html package;
```

GLOT ステートメントでグラフ出力を作成し、HTML 出力先を閉じます。

```
proc gplot data=sashelp.class;
plot height*weight;
```

```

by name;
run;
quit;
ods html close;

```

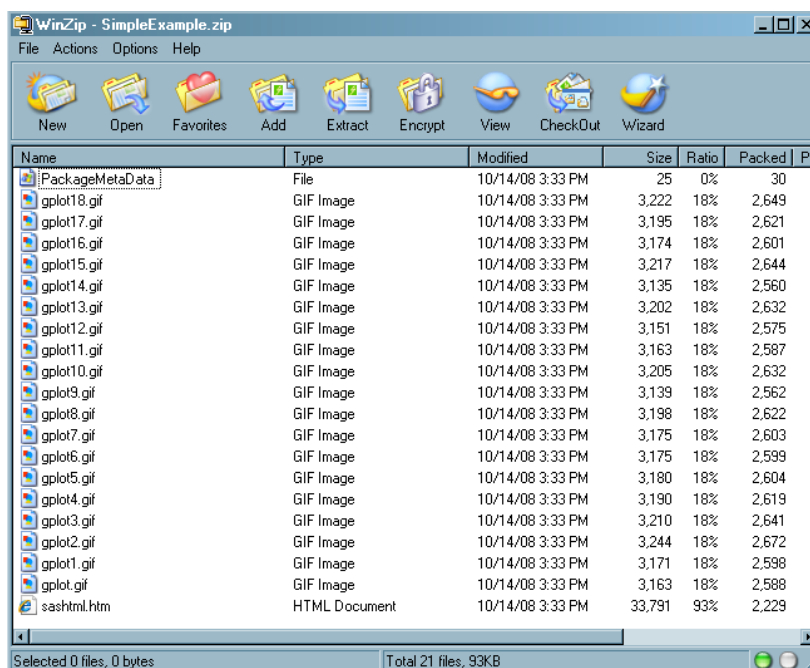
パッケージを構築し、それをアーカイブ宛に発行します。PUBLISH オプションにより、ODS パッケージが構築されます。ARCHIVE プロパティは、デフォルトディレクトリにある SimpleExample.zip という名前のアーカイブ宛にパッケージを発行します。

```

ods package publish archive properties
  (archive_name="SimpleExample.zip" archive_path=".");
ods package close;
ods html;

```

単純な ODS パッケージ



例 2: ODS DOCUMENT ステートメントを使用したパッケージコンテンツの内容表示

次のプログラムでは、PROC DOCUMENT で、アーカイブ SimpleExample.zip が myPackage という名の PROC DOCUMENT パッケージにインポートされます。その後、PROC DOCUMENT を使用してそのパッケージの内容と詳細を表示します。

プログラム

```

proc document name=archive;
import archive="SimpleExample.zip" to myPackage;
list/levels=all;
run;

dir myPackage;
list 'sashtml.htm'n/details;

```

```
run;  
quit;
```

プログラムの説明

ODSドキュメントを作成し、SimpleExample.zipをインポートします。 DOCUMENT プロシジャで、ODSドキュメントのアーカイブが作成されます。IMPORT TO ステートメントで、SimpleExample.zip がパッケージ myPackage にインポートされます。LIST ステートメントで、アーカイブの全レベルが表示されます。

```
proc document name=archive;  
import archive="SimpleExample.zip" to myPackage;  
list/levels=all;  
run;
```

ファイル SasHtml.htm の詳細を表示します。 DIR ステートメントで、ディレクトリが myPackage に変更されます。LIST ステートメントで、SasHtml.htm の詳細が表示されます。

```
dir myPackage;  
list 'sashtml.htm'n/details;  
run;  
quit;
```

プログラム出力

アウトプット 6.24 Work.Archive の内容表示とHTM ファイルの詳細

The SAS System							
Listing of: \Work.Archive\							
Order by: Insertion							
Number of levels: All							
Obs	Path						Type
1	\myPackage#1						Dir
2	\myPackage#1\sashtml.htm'n#1						File
3	\myPackage#1\gplot.gif'n#1						File
4	\myPackage#1\gplot1.gif'n#1						File
5	\myPackage#1\gplot2.gif'n#1						File
6	\myPackage#1\gplot3.gif'n#1						File
7	\myPackage#1\gplot4.gif'n#1						File
8	\myPackage#1\gplot5.gif'n#1						File
9	\myPackage#1\gplot6.gif'n#1						File
10	\myPackage#1\gplot7.gif'n#1						File
11	\myPackage#1\gplot8.gif'n#1						File
12	\myPackage#1\gplot9.gif'n#1						File
13	\myPackage#1\gplot10.gif'n#1						File
14	\myPackage#1\gplot11.gif'n#1						File
15	\myPackage#1\gplot12.gif'n#1						File
16	\myPackage#1\gplot13.gif'n#1						File
17	\myPackage#1\gplot14.gif'n#1						File
18	\myPackage#1\gplot15.gif'n#1						File
19	\myPackage#1\gplot16.gif'n#1						File
20	\myPackage#1\gplot17.gif'n#1						File
21	\myPackage#1\gplot18.gif'n#1						File

The SAS System							
Listing of: \Work.Archive\myPackage#1\sashtml.htm'n#1							
Order by: Insertion							
Number of levels: 1							
Type	Size in Bytes	Created	Modified	Symbolic Link	Template	Label	Page Break
File	4984	28JAN2011:11:50:10	28JAN2011:11:50:10			tagsets.HTML4, Proc, Gplot	

関連項目:

SAS Publishing Framework 開発者ガイド

ODS PATH ステートメント

PROC TEMPLATE 定義を作成または使用する場合の書き込み先/読み取り元の場所および定義を検索する順序を指定します。

Valid in: 任意の場所

Category: ODS: 出力制御

Tips: このステートメントは、PROC TEMPLATE ステップの 1 期間の間、ODS PATH ステートメントより優先されます。

SYSODSPATH 自動マクロ変数を使用すると、現在 ODS パスを保存できます。SYSODSPATH マクロ変数に関する詳細は、*SAS マクロ言語: リファレンス*を参照してください。

Syntax

PATH <(APPEND) | (PREPEND) | (REMOVE)> *箇所*;

PATH *path-argument*;

Required Arguments

箇所

PROC TEMPLATE 定義を作成または使用する場合の 1 つ以上の書き込み先/読み取り元の場所、およびその場所を検索する順序を指定します。ODS によって、ステートメント上の表示順序で場所が検索されます。適切なアクセスモード(読み取り、書き込み、更新)セットを有する、検出された最初の定義が使用されます。

各 *箇所* の形式は次のとおりです。

<*libref*:> *item-store* <(READ | UPDATE | WRITE)>

<*libref*:>*item-store*

読み込み元、書き込み先または更新するアイテムストアを識別します。既にアイテムストアが存在しない場合、PATH ステートメントがそれを作成します。

(READ | UPDATE | WRITE)

定義に対するアクセスモードを指定します。アクセスモードは次のいずれかです。

READ

読み取り専用のアクセスを提供します。

WRITE

書き込みアクセス(常に新しいテンプレートストアを作成する)および読み取りアクセスを提供します。

UPDATE

更新アクセス(指定したテンプレートストアが終了しない場合に限り、新しいテンプレートストアを作成)および読み取りアクセスを提供します。

Default: READ

Default: 一般的なデフォルトパスは次のとおりです。

1. Sasuser.Templat (UPDATE)
2. Sashelp.Tmplmst (READ)

RSASUSER SAS システムオプションを指定した場合、デフォルトパスは次のとおりです。

1. Work.Templat(UPDATE).
2. Sasuser.Templat (READ).
3. Sashelp.Tmplmst (READ).SAS は、Sashelp.Tmplmst で提供されるすべての定義を保存します。

詳細については、“RSASUSER System Option” in *SAS System Options: Reference* を参照してください。

Interaction: PROC TEMPLATE ステップで PATH ステートメントを使用すると、ODS PATH ステートメントを一時的に無効にできます。詳細については、“[PATH ステートメント](#)” on page 865 を参照してください。

Tip: 作成したすべての定義を無視するには、ODS によって検索されるアイテムストアのリストの代わりに、独自のアイテムストアで定義を保持してください。

path-argument

ODS パスの設定および表示を指定します。

path-argument は次のいずれかになります。

RESET

ODS パスをデフォルト設定の Sasuser.Templat (UPDATE)および Sashelp.Tmplmst (READ)に設定します。

SHOW

現在の ODS パスを表示します。

VERIFY

SAS が提供するテンプレートのみを含むように ODS パスを設定します。VERIFY を指定することは、ODS PATH Sashelp.Tmplmst (READ)を指定することと同義です。

Optional Argument

(APPEND | PREPEND | REMOVE)

パスに1つ以上の場所を追加、または、パスから1つ以上の場所を削除します。

APPEND

パスの最後に1つ以上の場所を追加します。箇所をパスに追加すると、当該アイテムストアのすべての重複インスタンス(名前と権限が同一)がパスから削除されます。名前と権限が同一の最後のアイテムストアのみが保持されます。

PREPEND

パスの先頭へ箇所を1つ以上追加します。更新権限を有する箇所をパスの先頭に追加すると、当該アイテムストアのすべての重複インスタンス(名前と権限が同一)がパスから削除されます。名前と権限が同一の最初のアイテムストアのみが保持されます。

REMOVE

パスから箇所を1つ以上削除します。

Default: APPEND、PREPEND、REMOVE オプションを指定しない場合、ODS PATH ステートメントによって完全パスが上書きされます。

ODS PCL ステートメント

PCL (HP LaserJet) ファイル用に印刷可能な出力を作成する PCL 出力先に対して開く、管理するまたは閉じる処理を行います。

該当要素: 任意の場所

カテゴリ: ODS: サードパーティフォーマット

注: デフォルトでは、ODS PCL ステートメントによって、Scalable Vector Graphics が作成されます。Scalable Vector Graphics (SVG) は、2 次元ベクター画像記述用 XML 言語です。Scalable Vector Graphics の詳細は、次を参照してください。“Using Scalable Vector Graphics” in Chapter 7 of *SAS/GRAPH: Reference*

構文

ODS PCL <(<ID=> 識別子) <操作>;

ODS PCL <(<ID=> 識別子) <オプション>;

オプション引数の要約

<ID=> *identifier*

同時に同出力先の複数のインスタンスを開いてください。

CLOSE

出力先およびそれに関連するファイルを終了してください。

COLOR=FULL | GRAY | MONO | NO | YES

出力に指定されたカラースキームを適用してください。

COLUMNS=*n*

出力の各ページに作成する欄の数を指定してください。

CSSSTYLE='file-specification'(<media-type-10>)

出力に適用するカスケードスタイルシートを指定してください。

DPI=

出力イメージ用の画像解像度をインチ毎のドットで指定してください。

EXCLUDE 除外 ALL | NONE

出力先から出力オブジェクトを除外してください。

FILE='external-file' | [ファイル参照](#)

書き込む先のファイルを指定してください。

GFOOTNOTE | NOGFOOTNOTE

グラフィックス出力においてフットノートがプリントされるロケーションを指定してください。

GTITLE | NOGTITLE

グラフィックス出力のタイトルがプリントされているロケーションを制御してください。

NEWFILE= *starting-point*

指定された *starting-point* で、新しいファイルを作成してください。

PACKAGE <*package-name*>

出力先からの出力が ODS パッケージに追加されることを指定してください。

SELECT 選択 ALL | NONE

出力先用に出力オブジェクトを選択してください。

SHOW

SAS ログに出力先用の現行の選択または除外リストを書き込んでください。

STARTPAGE=NEVER | NO | NOW | YES | BYGROUP

改ページを制御してください。

STYLE=*style-definition*

PDF 出力を書くために使用するスタイル定義を指定してください。

TEXT=*'text-string'*

出力にテキストを挿入してください。

UNIFORM

multi-page 表用に、単一の表の範囲内で、ページ間の統一性を提供します。

引数なし

操作やオプションを含まない ODS PCL ステートメントを使用した場合、ODS PCL ステートメントによって PCL 出力先が開かれ、PCL 出力が作成されます。

アクション

ODS PDF ステートメントでは、次の操作が利用可能です。

CLOSE

出力先およびそれに関連するファイルを終了します。プリンタの出力先の場合、出力先を終了するまでファイルをプリントできません。

ヒント: ODS 出力先が終了した場合、ODS は、その出力先に出力を送りません。不要な出力先を終了することで、システムリソースの節減します。

EXCLUDE *除外* | ALL | NONE

出力先から1つまたはそれ以上の出力オブジェクトを除外します。

デフォルト: NONE

制限事項: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

参照項目: “ODS EXCLUDE ステートメント” (232 ページ)

SELECT *選択* | ALL | NONE

指定された出力先用に出力オブジェクトを選択します。

デフォルト: ALL

制限事項: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

参照項目: “ODS SELECT ステートメント” (598 ページ)

SHOW

SAS ログに出力先用の現行の選択または除外リストを書き込みます。

制限事項: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

ヒント: 選択または除外リストがデフォルトのリスト(SELECT ALL)である場合、SHOW は、全体の選択または除外リストも書きます。選択または除外リストに関する詳細は、を “[選択リストと除外リスト](#)” (49 ページ)参照してください。

参照項目: “ODS SHOW ステートメント” (614 ページ)

オプション引数

COLOR=FULL | GRAY | MONO | NO | YES

かに指定されたカラースキームを適用します。

FULL

テキストおよびグラフィックスの両方のために、フルカラー出力を作成します。

GRAY

テキストおよびグラフィックスの両方のために、グレースケール出力を作成します。

別名: GREY

MONO

テキストおよびグラフィックスの両方のために、ニーモニック出力を作成します。

別名: BW

NO

スタイル定義が提供するすべての色情報を使用しません COLOR=NO とした場合に、出力先は、次の操作を行います。:

- 黒と白の出力を生成します。
- すべてのテキストと線を黒で作成します。
- SAS/GRAPH 出力をグレースケールで作成するように、SAS/GRAPH デバイスを設定します。
- 表の線をプリントするかどうかの判断目的を除いて、スタイル定義の背景色の仕様は無視されます。

YES

背景色を含め、スタイル定義が提供するすべての色情報を使用します。カラーでプリントするには、次の操作も行わなければなりません。

- カラーでプリントできるプリンターを使用してください。
- COLORPRINTING SAS システムオプションを使用してください。COLORPRINTING システムオプションに関する詳細は、次を参照してください。SAS システムオプション: リファレンス

デフォルト: YES

ヒント: カラーをサポートしないプリンターのカラー出力を選択した場合、出力が読みにくくなる場合があります。

COLUMNS=*n*

出力の各ページに作成する欄の数を指定します。

n

ページ毎の番号欄です。

デフォルト: 1

CSSSTYLE='file-specification'<(<media-type-10>)>

出力に適用するカスケードスタイルシートを指定します。

file-specification

CSS コードを含むファイル、ファイル参照、または、URL を指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

"external-file"

外部ファイルの名称です。

要件 external-file を引用符で囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルリファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

参照項目: FILENAME ステートメントに関する情報は、次を参照してください。SAS ステートメント: リファレンス

"URL"

外部ファイルへの URL です。

要件 external-file を引用符で囲まなければなりません。

(*media-type-1* < *media-type-10*>)

出力にレンダリングされるメディアの種類に対応する1つまたはそれ以上のメディアブロックを指定します。文書が、スクリーン、紙、スピーチシンセサイザ

一、点字装置、等々の異なるメディアにどのように提示されるか指定するために、CSS は、メディアタイプを使用します。

メディアブロックは、いかなるメディアブロックに含まれていないCSSコードを伴い出力に追加されます。*media-type* サブオプションを使用することで一般のCSSコードを伴い、特定のメディアタイプを対象とするCSSファイルの項目をインポートできます。

デフォルト: ODS ステートメントにいかなる *media-type* が指定されていないが、CSSファイルにメディアタイプが指定されている場合、ODS は、Screen メディアタイプを使用します。

範囲: 最大、異なる10種類のメディアタイプに指定できます。

要件:

media-type を括弧で囲まなければなりません。

CSSSTYLE= オプションで指定された *file-specification* の隣に、*media-type* を指定しなければなりません。

ヒント: 複数のメディアタイプを指定した場合、出力にすべてのメディアタイプのすべてのスタイル情報が適用されます。しかし、異なるメディアブロックにおいて重複するスタイル情報が存在する場合、最後のメディアブロックのスタイルが使用されます。

要件 CSSファイルは、ODS HTML ステートメントにより作成されたCSSと同じ種類で書き込まなければなりません。ID や文脈ベースのセレクターの無いクラス名のみがサポートされます。ODS が作成するCSSコードを閲覧するには、次の内の1つを行ってください。

- STYLESHEET= オプションを指定してください。
- HTMLファイルのソースを閲覧して、ファイルの上部の <STYLE> </STYLE> タグの間のソースを閲覧してください。

操作: STYLE= オプションおよび CSSSTYLE= オプションの両方が、ODS ステートメントに指定されている場合、最後に指定されたオプションが使用されます。

参照項目: 正しい ODS CSS ファイルの例を次に示します。“例 6: ODS 出力へ CSS ファイルの適用” (448 ページ)

DPI=

出力ファイル用の画像解像度を指定します。

デフォルト: 150

制限事項: DPI= オプションは、ファイルの最初に指定された場合にのみ、有効となります。

FILE='external-file' | ファイル参照

出力を含むファイルを指定します。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

要件 *external-file* を引用符で囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルリファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

制限事項: FILE=ファイル参照オプションは、NEWFILE= オプションと共に使用できません。

参照項目: FILENAME ステートメントに関する情報は、次を参照してください。
SAS ステートメント: リファレンス

デフォルト: 書き込むファイル先を指定しない場合、ODS は、1つまたは2つの SAS システムオプションで指定されたファイルに書き込みます。

SYSPRINT= ウィンドウズオペレーティング環境を使用し、次のオプションを指定していない場合、PCL、PDF、PDFMARK、PS、または、SAS

PRINTERPATH= その他のすべての場合、

システムオプションがファイルを指定しない場合、ODS は、デフォルトのプリンタに書き込みます。詳細は、PRINTER= オプションを参照してください。

操作: 開かれた ODS PRINTER 出力先に言及する ODS プリンタファミリステートメントにおいて、FILE= オプションは、ODS に出力先およびそれに関連するすべてのファイルを終了し、出力先に新しいインスタンスを開くことを強制します。詳細は、次を参照してください。“[PRINTER 出力先を開く/閉じる](#)” (551 ページ)

参照項目: FILENAME ステートメントに関する詳細は、次を参照してください。SAS ステートメント: [リファレンス](#)

GFOOTNOTE | NOGFOOTNOTE

プリンター出力を生成するグラフィックスプログラムにより定義されているフットノートのロケーションを制御します。

GFOOTNOTE

グラフィックス出力内の現在定義されているすべてのフットノートを含みます。

NOGFOOTNOTE

現在定義されているすべてのフットノートがグラフィックスファイルに表示されるのを阻止します。それらは、代わりに、プリンターファイルの一部となります。

デフォルト: GFOOTNOTE

制限事項: このオプションは、1つまたはそれ以上のデバイスベースのグラフィックスを作成する SAS プログラム または、SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたグラフィックスにのみ適用されます。

参照項目: 詳細は、“[タイトルと脚注のカスタマイズ](#)” (51 ページ) を参照してください。

GTITLE | NOGTITLE

プリンター出力を生成するプログラムにより定義されているタイトルのロケーションを制御します。

GTITLE

グラフィックス出力内の現在定義されているすべてのタイトルを含みます。

NOGTITLE

現在定義されているすべてのタイトルがグラフィックスファイルに表示されるのを阻止します。それらは、代わりに、プリンターファイルの一部となります。

デフォルト: GTITLE

制限事項: このオプションは、1つまたはそれ以上のデバイスベースのグラフィックスを作成する SAS プログラム または、SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたグラフィックスにのみ適用されます。

参照項目: 詳細は、“[タイトルと脚注のカスタマイズ](#)” (51 ページ) を参照してください。

(<ID=> *identifier*)

同時に同出力先の複数のインスタンスを開くことを可能にします。各インスタンスは、異なるオプションを有します。

identifier

文字または線で始まる数字または、文字列であることが可能です。後続の文字は、文字、アンダーライン、および数字を含むことができます。

制限事項: *identifier* が数字の場合、それは正の整数でなければなりません。

要件 ID=オプションは、出力先名の直後に指定しなければなりません。

NEWFILE= *starting-point*

指定された *starting-point* で、新しいファイルを作成します。

starting-point

新しいファイルを作成すべき出力のロケーションです。

ODS は、ファイル名をインクリメントすることで自動的に新しいファイル名を付けます。次の例で、ODS は、最初のファイル名を付けます。REPORT.PS 追加のファイル名も付けます。REPORT1.PS , REPORT2.PS,等

例

```
FILE= 'REPORT.PS'
```

starting-point は、次の内の1つです。

BYGROUP

各 BY グループの結果に対して、新しいファイルを開始します。

NONE

現在開かれているファイルのすべての出力を書きます。

OUTPUT

各出力オブジェクト用に新しいファイルを開始します。SAS/GRAPH に対して、これは、ODS がプログラムが生成した各 SAS/GRAPH 出力ファイル用に新たなファイルを作成することを意味します。

別名: TABLE

PAGE

出力の各ページ用に新たなファイルを開始します。改ページは、手順が明確に新たなページを開始(ページのサイズが足りないからではない)または、新たな工程を開始する時点で発生します。

PROC

新たな手順を開始する度に新たなボディファイルを開始します。

デフォルト: NONE

制限事項:

The NEWFILE= オプションは、FILE= ファイル参照オプションと共に使用できません。

物理プリンタに出力を送る場合、NEWFILE=オプションを使用できません。

ヒント:

ファイル名を数字で終了する場合、ODS はその数字を増加させることから始めます。次の例において、ODS は、最初のファイル *MAY5.PS* に名前を付けます。追加のボディファイルは、*MAY6.PS* と名付けられます。、*MAY7.PS* などで

例:

```
FILE= 'MAY5.PS'
```

PACKAGE <*package-name*>

出力先からの出力が ODS パッケージに追加されることを指定します。

package-name

ODS PACKAGE ステートメントで作成されたパッケージの名称を指定します。名称が指定されていない場合、出力は、最後に開かれた名の無いパッケージに追加されます。

参照項目: “ODS PACKAGE ステートメント” (469 ページ)

STARTPAGE=NEVER | NO | NOW | YES | BYGROUP

改ページを制御します。

BYGROUP

各 BY グループの後に、改ページを挿入することを指定します。

NEVER

グラフィックスプロシジャの前でも改ページを挿入してはならないことを指定します。

注意:

各グラフは、通常ページ全体を必要とします。デフォルトの動作は、グラフィックスプロシジャの後に新しいページを強制します。STARTPAGE=NEVER は、その動作をオフにするため、STARTPAGE= NEVER を指定することで、グラフィックスが刷り重ねる可能性があります。

NO

プロシジャコードにより新しいページが要求された場合でも、各プロシジャの始め、または特定のプロシジャの範囲内に新しいページを挿入できないことを指定します。ページが埋まっている場合、または STARTPAGE=NOW を指定した場合にのみ、新しいページが開始されます。

注意:

各グラフは、通常、ページ全体を必要とします。デフォルトの動作は、STARTPAGE=NO を使用した場合でも、グラフィックスプロシジャの後に新しいページを強制します。STARTPAGE=NEVER は、その動作をオフにするため、STARTPAGE= NEVER を指定することで、グラフィックスが刷り重ねる可能性があります。

別名: OFF

ヒント: STARTPAGE=NO を指定した場合、このオプションの設定に関わらず、物理ページの上部と下部のみに、システムのタイトルおよびフットノートが作成されます。すなわち、このオプションが指定された場合に、指定したいいくつかのシステムタイトルおよびフットノートは表示されない可能性があります。

NOW

新しいページの即時の挿入を強制します。

ヒント: このオプションは、主に、STARTPAGE= オプションの現行の値が NO の場合に、便利です。そうでなければ、それぞれの新たなプロシジャは、自動的に新しいページを強制します。

YES

プロシジャコードに要求された通りに、各プロシジャの始め、または特定のプロシジャの範囲内に新しいページを挿入します。

別名: ON

デフォルト: YES

STYLE=style-definition

PDF 出力を書くために使用するスタイル定義を指定します。

デフォルト: スタイル定義を使用しない場合、ODS は、SAS レジストリのサブキーに指定されているスタイル定義を使用します。ODS ⇒ DESTINATIONS ⇒ PRINTER PRINTER、PDF、および PS 出力先用の値は Printer で、PCL 出力先の値は、MonochromePrinter となります。

参照項目:

スタイル定義に関する詳細は、次を参照してください。[“スタイルの操作” \(945 ページ\)](#)

ユーザー定義されたスタイル定義を作成する手順は、次を参照してください。
[13章, “TEMPLATE プロシジャ: スタイルテンプレートの作成” \(941 ページ\)](#)

TEXT='text-string'

出力にテキストを挿入します。

text-string

出力に挿入すべきテキストです。

要件 *text-string* を引用符で囲まなければなりません。

ヒント: 1 つ以上の手順ステップを提出する場合で、STARTPAGE=NO オプションを指定しない場合、出力の前に各プロシジャは、新しいページを強制します。そのため、TEXT=で指定したいかなるテキストは、以前のプロシジャと同じページに配置されます。

参照項目: “[例: 出力オブジェクトを条件付きで除外し、別の出力先に送信する](#)” (235 ページ)

UNIFORM

multi-page 表用に、単一の表の範囲内で、ページ間の統一性を保証します。UNIFORM オプションが有効な場合、ODS は、すべてのデータに対応するために、欄の幅などを判断するため、プリントを開始する前に表全体を読み込みます。これらの欄の幅は、複数のページに渡る表のすべてのページに適用されます。

デフォルト: UNIFORM オプションを指定しない場合、ODS は、1 ページ毎に表をプリントします。このアプローチは、SAS が非常に大きい表を処理している途中で、メモリ不足に陥らないことを保証します。しかし、これは、欄の幅がそれぞれページ毎に異なることも意味します。

注: BY-group 処理で、SAS は、各グループの結果を別の表に記述するため、出力が BY グループ間で一定でない可能性があります。

ヒント: UNIFORM オプションは、非常に大きな容量の表をプリントする場合に、SAS にメモリ不足に陥らせる可能性があります。これが発生した場合、表の各欄の幅を明確に設定し、表を1ページ毎にプリントしてください。それをするには、使用する表の定義を編集しなければなりません。詳細は、次を参照してください。“[テーブルテンプレートを使用して実行可能な操作](#)” (1060 ページ)

詳細

PCL 出力先を開く閉じる

開いている PCL 出力先は、多くの ODS PCL オプションを使用して変更できます。しかし、FILE=および SAS オプションによって、開いている PCL 出力先に対して次の操作が実行されます。

- ODS PCL ステートメントで参照されている開いた出力先を閉じます。
- 開いている PCL 出力先に関連するすべてのファイルを閉じます。
- PCL 出力先の新規インスタンスを開きます

上記オプションのいずれかを使用した場合は、出力先を明示的に閉じることをお勧めします。

ステートメントの ODS プリンタファミリ

ODS PCL ステートメントは、ステートメントの ODS プリンタファミリの一部です。プリンタファミリのステートメントによって、PCL、PDF、PRINTER、PS 出力先が開かれ、高解像度プリンタに適した出力が生成されます。ODS PDF、ODS PRINTER および ODS PS のステートメントも、ステートメントの ODS プリンタファミリのメンバーです。

関連項目:

- “サードパーティフォーマットの出力先” (35 ページ)

ステートメント

- “ODS PDF ステートメント” (487 ページ)
- “ODS PRINTER ステートメント” (536 ページ)
- “ODS PS ステートメント” (561 ページ)

ODS PDF ステートメント

PDF 出力を生成する PDF 出力先を開き、管理し、閉じます。ここで、PDF 出力とは Adobe Acrobat およびその他のアプリケーションによって読み取られる出力形式です。

該当要素: 任意の場所

カテゴリ: ODS: サードパーティフォーマット

制限事項: PDF では 2 バイトの Type1 フォントはサポートされていません。

注: デフォルトでは、ODS PDF ステートメントによって Scalable Vector Graphics が作成されます。SVG (Scalable Vector Graphics)は、2 次元ベクター画像記述用の XML 言語です。Scalable Vector Graphics の詳細は、次を参照してください。“Using Scalable Vector Graphics” in Chapter 7 of *SAS/GRAPH: Reference*

PDF ファイルには、ドリルダウングラフを追加できます。ドリルダウングラフおよびグラフの PDF ファイルへの書き込みに関する詳細は、“Writing Your Graphs to a PDF File” in Chapter 11 of *SAS/GRAPH: Reference* を参照してください。

ヒント: SAS で使用する PDF ドライバでは、すべての Microsoft Windows フォントは認識されません。SAS でこの種類のフォントの検索を可能にするには、この種類のフォントを SAS レジストリに入力する必要があります。“SAS レジストリ” (*SAS 言語リファレンス: 解説編 14 章*)を参照してください。

構文

ODS PDF <(<ID=> 識別子) <操作>

ODS PDF <(<ID=> 識別子) <オプション>

オプション引数の要約

<ID=> *identifier*

同時に同出力先の複数のインスタンスを開いてください。

ANCHOR=*'anchor-name'*

現行のファイルの各出力オブジェクトを識別するアンカータグのルート名を指定してください。

AUTHOR=*'author-text'*

ファイルのメタデータに、作者と指定したテキストの文字列を挿入してください。

BASE=*'base-text'*

ODS が、ファイルで作成するすべてのレファレンスの最初の部分に使用する文字列を指定してください。

BOOKMARKGEN | NOBOOKMARKGEN | BOOKMARKGEN=

PDF および PS ファイルのブックマークの生成を制御してください。

BOOKMARKLIST= HIDE | NONE | SHOW

PDF および PS ファイル用のブックマークのリストを作成ならびに表示するか指定してください。

CLOSE

出力先およびそれに関連するファイルを終了してください。

COLOR=FULL | GRAY | MONO | NO | YES

出力に指定されたカラースキームを適用してください。

COLUMNS=*n*

出力の各ページに作成する欄の数を指定してください。

COMPRESS=*n*

PDF ファイルの圧縮を指定してください。圧縮は、ページのサイズを削減します。

CONTENTS= NO | YES

プリント可能な目次の生成を制御してください。

CSSSTYLE=*file-specification*'(<<*media-type-10*>>)

出力に適用するカスケードスタイルシートを指定してください。

DPI=

出力イメージ用の画像解像度をインチ毎のドットで指定してください。

EXCLUDE 除外 | ALL | NONE

出力先から出力オブジェクトを除外してください。

FILE='*external-file*' | [ファイル参照](#)

書き込む先のファイルを指定してください。

GFOOTNOTE | **NOGFOOTNOTE**

グラフィックス出力においてフットノートがプリントされるロケーションを指定してください。

GTITLE | **NOGTITLE**

グラフィックス出力のタイトルがプリントされているロケーションを制御してください。

KEYWORDS='*keywords-text*'

出力ファイルのメタデータにキーワードの文字列を挿入してください。

NEWFILE= *starting-point*

指定された *starting-point* で、新しいファイルを作成してください。

PACKAGE <*package-name*>

出力先からの出力が ODS パッケージに追加されることを指定してください。

PDFNOTE | **NOPDFNOTE**

FLYOVER= スタイル属性に関連するアイテム用に、ノートが PDF ファイルに追加されるか否か制御してください。

PDFTOC=*n*

PDF 文書の目次の拡張レベルを制御してください。

SELECT 選択 | ALL | NONE

出力先用に出力オブジェクトを選択してください。

SHOW

SAS ログに出力先用の現行の選択または除外リストを書き込んでください。

STARTPAGE= NEVER | NO | NOW | YES | BYGROUP

改ページを制御してください。

STYLE=*style-definition*

PDF 出力を書くために使用するスタイル定義を指定してください。

SUBJECT='subject-text'

指定した文字列をファイルのメタデータの対象として挿入してください。

TEXT='text-string'

出力にテキストを挿入してください。

TITLE='title-text'

タイトルとして指定した文字列を、ファイルのメタデータに挿入してください。

UNIFORM

multi-page 表用に、単一の表の範囲内で、ページ間の統一性を提供します。

引数なし

操作やオプションを含まない ODS PDF ステートメントを使用した場合、PDF 出力先が開かれ、PDF 出力が作成されます。

アクション

ODS PDF ステートメントでは、次の操作が利用可能です。

CLOSE

出力先およびそれに関連するファイルを終了します。プリンタの出力先の場合、出力先を終了するまでファイルをプリントできません。

ヒント: ODS 出力先が終了した場合、ODS は、その出力先に出力を送りません。不要な出力先を終了することで、システムリソースの節減します。

EXCLUDE *除外* ALL | NONE

出力先から1つまたはそれ以上の出力オブジェクトを除外します。

デフォルト: NONE

制限事項: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

参照項目: “ODS EXCLUDE ステートメント” (232 ページ)

SELECT *選択* ALL | NONE

指定された出力先用に出力オブジェクトを選択します。

デフォルト: ALL

制限事項: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

参照項目: “ODS SELECT ステートメント” (598 ページ)

SHOW

SAS ログに出力先用の現行の選択または除外リストを書き込みます。

制限事項: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

ヒント: 選択または除外リストがデフォルトのリスト(SELECT ALL)である場合、SHOW は、全体の選択または除外リストも書きます。選択または除外リストに関する詳細は、を “[選択リストと除外リスト](#)” (49 ページ)参照してください。

参照項目: “ODS SHOW ステートメント” (614 ページ)

オプション引数

ANCHOR='anchor-name'

現行のファイルの各出力オブジェクトを識別するアンカータグのルート名を指定します。

各出力は、ブックマークがレファレンスするためにアンカータグが必要になります。ODS により自動的に作成されるレファレンスは、アンカー名を指します。そのため、ファイルの各アンカー名はユニークでなければなりません。

anchor-name

現行のファイルの各出力オブジェクトを識別するアンカータグのルート名です。

ODS 名を作成します。例えば、ANCHOR='TABULATE', を指定した場合、ODS は最初のアンカーに `tabulate` と名前を付けます。2番目のアンカー名が `tabulate1` で、3番目が `tabulate2`、と名称が続きます。

要件 `anchor-name` を引用符で囲まなければなりません。

別名: NAMED_DEST= | BOOKMARK=

制限事項: このオプションは、ODS PDF ステートメント、指定された PDFMARK オプションを伴う ODS PS ステートメント 並びに、PDFMARK オプションを伴う ODS PRINTER ステートメント においてのみ使用してください。

ヒント:

プログラムのいかなる場所の有効なステートメントに ANCHOR=オプションを提出することで、何度でもアンカー名を変更できます。アンカー名を指定した後に、新しいものを指定するまで有効になります。

プログラムの様々なポイントで、新しいアンカー名を指定することは、PRINTER 出力の指定された箇所にもリンクしたい場合に便利です。アンカー名が変更する場所を制御できるため、それらの箇所でアンカー名がどう変わるか事前に分かります。

AUTHOR='author-text'

ファイルのメタデータに、作者と指定したテキストの文字列を挿入します。

author-text

作者を示す開かれたファイルのメタデータにあるテキストです。

制限事項:

このオプションは、ODS PDF ステートメント、指定された PDFMARK オプションを伴う ODS PS ステートメント 並びに、PDFMARK オプションを伴う ODS PRINTER ステートメント においてのみ使用してください。

AUTHOR=オプションは、ファイルの最初に指定されている場合のみ有効です。

要件 `author-text` を引用符で囲まなければなりません。

BASE='base-text'

ODS が、ファイルで作成するすべてのレファレンスの最初の部分に使用するテキストを指定します。

base-text

ODS が、ファイルで作成するすべてのレファレンスの最初の部分に使用するテキストです。

次の仕様を考慮してください。:

```
BASE='http://www.your-company.com/local-url/'
```

この場合、ODS は、この文字列で始まるレファレンスを作成します。 `http://www.your-company.com/local-url/` 適切な `anchor-name` がリンクを完成します。

制限事項: このオプションは、ODS PDF ステートメント、指定された PDFMARK オプションを伴う ODS PS ステートメント 並びに、PDFMARK オプションを伴う ODS PRINTER ステートメント においてのみ使用してください。

要件 `base-text` を引用符で囲まなければなりません。

BOOKMARKLIST= HIDE | NONE | SHOW

PDF および PS ファイル用のブックマークのリストを作成ならびに表示するか指定します。

HIDE

PDF および PS ファイル用のブックマークのリストを作成します。PDF および PS ファイルを開いた際に、ブックマークは自動的に表示されません。

NONE

PDF および PS ファイル用にブックマークのリストを生成しないように指定します。

別名:

NO | OFF

NOBOOKMARKLIST is an alias for BOOKMARKLIST=NONE | NO | OFF

SHOW

PDF および PS ファイル用のブックマークのリストを作成します。PDF および PS ファイルを開いた際に、ブックマークは自動的に表示されます。

別名:

YES | ON

BOOKMARKLIST is an alias for BOOKMARKLIST=SHOW | YES | ON

デフォルト: SHOW

制限事項:

このオプションは、出力先を初めて開く時のみ設定可能です。

このオプションは、PDF、PDFMARK、PS 出力を作成する場合にのみ有効です。

操作: NOTOC オプションは、BOOKMARKLIST= OFF と CONTENTS= OFF を指定します。

注: ブックマークの生成は、このオプションの設定の影響を受けません。ブックマークは、BOOKMARKGEN=オプションにより生成されます。

BOOKMARKGEN | NOBOOKMARKGEN | BOOKMARKGEN=

PDF および PS ファイルのブックマークの生成を制御します。

BOOKMARKGEN

PDF および PS ファイルでブックマークを生成するように指定します。

BOOKMARKGEN=

PDF および PS ファイルのブックマークの生成を制御します。

NO

PDF および PS ファイルでブックマークを生成しないように指定します。

別名: OFF

YES

PDF および PS ファイルでブックマークを生成するように指定します。

別名: ON

NOBOOKMARKGEN

PDF および PS ファイルでブックマークを生成しないように指定します。

デフォルト: YES or BOOKMARKGEN

操作: BOOKMARKGEN=NO に設定した場合、BOOKMARKLIST オプションも NO に設定されます。

COLOR=FULL | GRAY | MONO | NO | YES

かに指定されたカラースキームを適用します。

FULL

テキストおよびグラフィックスの両方のために、フルカラー 出力を作成します。

GRAY

テキストおよびグラフィックスの両方のために、グレースケール出力を作成します。

別名: GREY

MONO

テキストおよびグラフィックスの両方のために、ニーモニック出力を作成します。

別名: BW

NO

スタイル定義が提供するすべての色情報を使用しません COLOR=NO とした場合に、出力先は、次の操作を行います。:

- 黒と白の出力を生成します。
- すべてのテキストと線を黒で作成します。
- SAS/GRAPH 出力をグレースケールで作成するように、SAS/GRAPH デバイスを設定します。
- 表の線をプリントするかどうかの判断目的を除いて、スタイル定義の背景色の仕様は無視されます。

YES

背景色を含め、スタイル定義が提供するすべての色情報を使用します。カラーでプリントするには、次の操作も行わなければなりません。

- カラーでプリントできるプリンターを使用してください。
- COLORPRINTING SAS システムオプションを使用してください。
COLORPRINTING システムオプションに関する詳細は、次を参照してください。*SAS システムオプション: リファレンス*

デフォルト: YES

ヒント: カラーをサポートしないプリンターのカラー出力を選択した場合、出力が読みにくくなる場合があります。

COLUMNS=*n*

出力の各ページに作成する欄の数を指定します。

n

ページ毎の番号欄です。

デフォルト: 1

COMPRESS=*n*

PDF ファイルの圧縮を制御します。圧縮は、ページのサイズを削減します。

n

圧縮のレベルを指定します。数字が大きい程、圧縮が大きくなります。例えば、*n*=0 は、完全に無圧縮で *n*=9 が最大圧縮値です。

デフォルト: 6

範囲: 0-9

制限事項:

このオプションは、ODS PDF ステートメント、指定された PDF オプションを伴う ODS PRINTER ステートメント においてのみ使用してください。PostScript 出力は、圧縮できません。

COMPRESS=オプションは、ファイルの最初に指定された場合にのみ、有効となります。

操作:

COMPRESS= オプションは、DEFLATION システムオプションを上書きします。DEFLATION システムオプションを点検します。次に、ODS PDF ステートメントの COMPRESS=オプションが点検されます。COMPRESS= オプションが指定された場合、DEFLATION システムオプションの値に関係なくその値が、使用されます。詳細は、DEFLATION オプションを参照してください。

COMPRESS= オプションは、UPRINTCOMPRESSION オプションを上書きします。COMPRESS= が指定された場合、UPRINTCOMPRESSION システムオプションが、クエリーされます。システムオプションが、オフになると、この1つの PDF ステートメントのためにオンにされ、PDF ファイルが圧縮されます。圧縮が完了すると、UPRINTCOMPRESSION システムオプションが、再度、すべてのファイル用に有効となります。詳細は、UPRINTCOMPRESSION システムオプションを参照してください。

CONTENTS= NO | YES

プリント可能な目次の生成を制御します。

NO

プリント可能な目次を生成しません。

別名: NOCONTENTS は、CONTENTS=NO 用のエイリアスです。

YES

プリントできる目次を生成します。

別名: CONTENTS は、CONTENTS=YES 用のエイリアスです。

CSSSTYLE='file-specification'(<<media-type-10>>)

出力に適用するカスケードスタイルシートを指定します。

file-specification

CSS コードを含むファイル、ファイル参照、または、URL を指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

"external-file"

外部ファイルの名称です。

要件 *external-file* を引用符で囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

参照項目: FILENAME ステートメントに関する情報は、次を参照してください。*SAS ステートメント: リファレンス*

"URL"

外部ファイルへの URL です。

要件 *external-file* を引用符で囲まなければなりません。

(*media-type-1* < *media-type-10* >)

出力にレンダリングされるメディアの種類に対応する1つまたはそれ以上のメディアブロックを指定します。文書が、スクリーン、紙、スピーチシンセサイザー、点字装置、等々の異なるメディアにどのように提示されるか指定するために、CSS は、メディアタイプを使用します。

メディアブロックは、いかなるメディアブロックに含まれていないCSSコードを伴い出力に追加されます。*media-type* サブオプションを使用することで一般のCSSコードを伴い、特定のメディアタイプを対象とするCSSファイルの項目をインポートできます。

デフォルト: ODS ステートメントにいかなる *media-type* が指定されていないが、CSS ファイルにメディアタイプが指定されている場合、ODS は、Screen メディアタイプを使用します。

範囲: 最大、異なる10種類のメディアタイプに指定できます。

要件:

media-type を括弧で囲まなければなりません。

CSSSTYLE= オプションで指定された *file-specification* の隣に、*media-type* を指定しなければなりません。

ヒント: 複数のメディアタイプを指定した場合、出力にすべてのメディアタイプのすべてのスタイル情報が適用されます。しかし、異なるメディアブロックにおいて重複するスタイル情報が存在する場合、最後のメディアブロックのスタイルが使用されます。

要件 CSS ファイルは、ODS HTML ステートメントにより作成された CSS と同じ種類で書き込まなければなりません。ID や文脈ベースのセレクターの無いクラス名のみがサポートされます。ODS が作成する CSS コードを閲覧するには、次の内の1つを行ってください。

- STYLESHEET= オプションを指定してください。
- HTML ファイルのソースを閲覧して、ファイルの上部の <STYLE> </STYLE> タグの間のソースを閲覧してください。

操作: STYLE= オプションおよび CSSSTYLE= オプションの両方が、ODS ステートメントに指定されている場合、最後に指定されたオプションが使用されます。

参照項目: 正しい ODS CSS ファイルの例を次に示します。“[例 6: ODS 出力へ CSS ファイルの適用](#)” (448 ページ)

DPI=

出力ファイル用の画像解像度を指定します。

デフォルト: 150

制限事項: DPI= オプションは、ファイルの最初に指定された場合にのみ、有効となります。

FILE='external-file' | **ファイル参照**

出力を含むファイルを指定します。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

要件 *external-file* を引用符で囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルリファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

制限事項: FILE= **ファイル参照オプション**は、NEWFILE= オプションと共に使用できません。

参照項目: FILENAME ステートメントに関する情報は、次を参照してください。
SAS ステートメント: リファレンス

デフォルト: 書き込むファイル先を指定しない場合、ODS は、1つまたは2つの SAS システムオプションで指定されたファイルに書き込みます。

SYSPRINT= ウィンドウズオペレーティング環境を使用し、次のオプションを指定していない場合、PCL、PDF、PDFMARK、PS、または、SAS

PRINTERPATH= その他のすべての場合、

システムオプションがファイルを指定しない場合、ODS は、デフォルトのプリンタに書き込みます。詳細は、PRINTER= オプションを参照してください。

操作: 開かれた ODS PRINTER 出力先に言及する ODS プリンタファミリステートメントにおいて、FILE= オプションは、ODS に出力先およびそれに関連するすべてのファイルを終了し、出力先に新しいインスタンスを開くことを強制します。詳細は、次を参照してください。“[PRINTER 出力先を開く/閉じる](#)” (551 ページ)

参照項目: FILENAME ステートメントに関する詳細は、次を参照してください。
SAS ステートメント: リファレンス

GFOOTNOTE | NOGFOOTNOTE

プリンター出力を生成するグラフィックスプログラムにより定義されているフットノートのロケーションを制御します。

GFOOTNOTE

グラフィックス出力内の現在定義されているすべてのフットノートを含みます。

NOGFOOTNOTE

現在定義されているすべてのフットノートがグラフィックスファイルに表示されるのを阻止します。それらは、代わりに、プリンターファイルの一部となります。

デフォルト: GFOOTNOTE

制限事項: このオプションは、1つまたはそれ以上のデバイスベースのグラフィックスを作成する SAS プログラム または、SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたグラフィックスにのみ適用されます。

参照項目: 詳細は、“[タイトルと脚注のカスタマイズ](#)” (51 ページ) を参照してください。

GTITLE | NOGTITLE

プリンター出力を生成するプログラムにより定義されているタイトルのロケーションを制御します。

GTITLE

グラフィックス出力内の現在定義されているすべてのタイトルを含みます。

NOGTITLE

現在定義されているすべてのタイトルがグラフィックスファイルに表示されるのを阻止します。それらは、代わりに、プリンターファイルの一部となります。

デフォルト: GTITLE

制限事項: このオプションは、1つまたはそれ以上のデバイスベースのグラフィックスを作成する SAS プログラム または、SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたグラフィックスにのみ適用されます。

参照項目: 詳細は、“[タイトルと脚注のカスタマイズ](#)” (51 ページ) を参照してください。

(<ID=> identifier)

同時に同出力先の複数のインスタンスを開くことを可能にします。各インスタンスは、異なるオプションを有します。

identifier

文字または線で始まる数字または、文字列であることが可能です。後続の文字は、文字、アンダーライン、および数字を含むことができます。

制限事項: *identifier* が数字の場合、それは正の整数でなければなりません。

要件 ID=オプションは、出力先名の直後に指定しなければなりません。

KEYWORDS='keywords-text'

出力ファイルのメタデータにキーワードの文字列を挿入します。キーワードは、文書管理システムがトピックを基にした検索を行うことを可能にします。

keywords-text

キーワードの文字列です。

制限事項:

このオプションは、ODS PDF ステートメント、指定された PDFMARK オプションを伴う ODS PS ステートメント 並びに、PDFMARK オプションを伴う ODS PRINTER ステートメントにおいてのみ使用してください。

KEYWORDS= オプションは、ファイルの最初に指定された場合にのみ、有効となります。

要件 *keywords-text* を引用符で囲まなければなりません。

NEWFILE= *starting-point*

指定された *starting-point* で、新しいファイルを作成します。

starting-point

新しいファイルを作成すべき出力のロケーションです。

ODS は、ファイル名をインクリメントすることで自動的に新しいファイル名を付けます。次の例で、ODS は、最初のファイル名を付けます。REPORT.PS 追加のファイル名も付けます。REPORT1.PS, REPORT2.PS, 等

例

```
FILE= 'REPORT.PS'
```

starting-point は、次の内の1つです。

BYGROUP

各 BY グループの結果に対して、新しいファイルを開始します。

NONE

現在開かれているファイルのすべての出力を書きます。

OUTPUT

各出力オブジェクト用に新しいファイルを開始します。SAS/GRAPH に対して、これは、ODS がプログラムが生成した各 SAS/GRAPH 出力ファイル用に新たなファイルを作成することを意味します。

別名: TABLE

PAGE

出力の各ページ用に新たなファイルを開始します。改ページは、手順が明確に新たなページを開始(ページのサイズが足りないからではない)または、新たな工程を開始する時点で発生します。

PROC

新たな手順を開始する度に新たなボディファイルを開始します。

デフォルト: NONE

制限事項:

The NEWFILE= オプションは、FILE= ファイル参照オプションと共に使用できません。

物理プリンタに出力を送る場合、NEWFILE=オプションを使用できません。

ヒント:

ファイル名を数字で終了する場合、ODS はその数字を増加させることから始めます。次の例において、ODS は、最初のファイル *MAY5.PS* に名前を付けます。追加のボディファイルは、*MAY6.PS* と名付けられます。、*MAY7.PS* などです。

例:

```
FILE= 'MAY5.PS'
```

PACKAGE <package-name>

出力先からの出力が ODS パッケージに追加されることを指定します。

package-name

ODS PACKAGE ステートメントで作成されたパッケージの名称を指定します。名称が指定されていない場合、出力は、最後に開かれた名の無いパッケージに追加されます。

参照項目: “ODS PACKAGE ステートメント” (469 ページ)

PDFNOTE | NOPDFNOTE

FLYOVER= スタイル属性に関連するアイテム用に、ノートが PDF ファイルに追加されるか否制御します。

PDFNOTE

FLYOVER= スタイル属性に関連するアイテム用に、ノートを PDF ファイルに追加します。

NOPDFNOTE

FLYOVER= スタイル属性に関連するアイテム用に、ノートがファイルに追加されないように、PDFMARK の動作を変更します。

デフォルト: PDFNOTE

制限事項: このオプションは、ODS PDF ステートメント、指定された PDFMARK オプションを伴う ODS PS ステートメント 並びに、PDFMARK オプションを伴う ODS PRINTER ステートメント においてのみ使用してください。

PDFTOC=*n*

PDF 文書の目次の拡張レベルを制御します。

n

拡張レベルを指定してください。例えば、PDFTOC=0 は、結果として、完全に拡張された目次となるが、PDFTOC=2 は、2つのレベルに拡張された目次となります。

デフォルト: 0

ヒント: PDFTOC= は、ファイルが開かれてから設定できるが、提供されたファイル用の最後の仕様のみを使用できます。

参照項目: “例: 同時に同じ出力先のインスタンスを複数開く” (499 ページ)

STARTPAGE=NEVER | NO | NOW | YES | BYGROUP

改ページを制御します。

BYGROUP

各 BY グループの後に、改ページを挿入することを指定します。

NEVER

グラフィックスプロシジャの前でも改ページを挿入してはならないことを指定します。

注意:

各グラフは、通常ページ全体を必要とします。デフォルトの動作は、グラフィックスプロシジャの後に新しいページを強制します。STARTPAGE=NEVER は、その動作をオフにするため、STARTPAGE= NEVER を指定することで、グラフィックスが刷り重ねる可能性があります。

NO

プロシジャコードにより新しいページが要求された場合でも、各プロシジャの始め、または特定のプロシジャの範囲内に新しいページを挿入できないことを指定します。ページが埋まっている場合、または STARTPAGE=NOW を指定した場合にのみ、新しいページが開始されます。

注意:

各グラフは、通常、ページ全体を必要とします。デフォルトの動作は、STARTPAGE=NO を使用した場合でも、グラフィックスプロシジャの後に新しいページを強制します。STARTPAGE=NEVER は、その動作をオフにするため、STARTPAGE= NEVER を指定することで、グラフィックスが刷り重ねる可能性があります。

別名: OFF

ヒント: STARTPAGE=NO を指定した場合、このオプションの設定に関わらず、物理ページの上部と下部のみに、システムのタイトルおよびフットノートが作成されます。すなわち、このオプションが指定された場合に、指定したいいくつかのシステムタイトルおよびフットノートは表示されない可能性があります。

NOW

新しいページの即時の挿入を強制します。

ヒント: このオプションは、主に、STARTPAGE= オプションの現行の値が NO の場合に、便利です。そうでなければ、それぞれの新たなプロシジャは、自動的に新しいページを強制します。

YES

プロシジャコードに要求された通りに、各プロシジャの始め、または特定のプロシジャの範囲内に新しいページを挿入します。

別名: ON

デフォルト: YES

STYLE=style-definition

PDF 出力を書くために使用するスタイル定義を指定します。

デフォルト: スタイル定義を使用しない場合、ODS は、SAS レジストリのサブキーに指定されているスタイル定義を使用します。ODS ⇒ DESTINATIONS ⇒ PRINTER PRINTER、PDF、および PS 出力先用の値は Printer で、PCL 出力先の値は、MonochromePrinter となります。

参照項目:

スタイル定義に関する詳細は、次を参照してください。[“スタイルの操作” \(945 ページ\)](#)

ユーザー定義されたスタイル定義を作成する手順は、次を参照してください。[13 章, “TEMPLATE プロシジャ: スタイルテンプレートの作成” \(941 ページ\)](#)

SUBJECT='subject-text'

指定した文字列をファイルのメタデータの主題として挿入します。

subject-text

主題として示されているファイルのメタデータのテキストです。

制限事項:

このオプションは、ODS PDF ステートメント、指定された PDFMARK オプションを伴う ODS PS ステートメント 並びに、PDFMARK オプションを伴う ODS PRINTER ステートメントにおいてのみ使用してください。

SUBJECT= オプションは、ファイルの最初に指定された場合にのみ、有効となります。

要件 *subject-text* を引用符で囲まなければなりません。

TEXT='text-string'

出力にテキストを挿入します。

text-string

出力に挿入すべきテキストです。

要件 *text-string* を引用符で囲まなければなりません。

ヒント: 1 つ以上の手順ステップを提出する場合で、STARTPAGE=NO オプションを指定しない場合、出力の前に各プロシジャは、新しいページを強制します。そのため、TEXT=で指定したいかなるテキストは、以前のプロシジャと同じページに配置されます。

参照項目: [“例: 出力オブジェクトを条件付きで除外し、別の出力先に送信する” \(235 ページ\)](#)

TITLE='title-text'

タイトルとして指定した文字列を、ファイルのメタデータに挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

制限事項:

このオプションは、ODS PDF ステートメント、指定された PDFMARK オプションを伴う ODS PS ステートメント 並びに、PDFMARK オプションを伴う ODS PRINTER ステートメントにおいてのみ使用してください。

The TITLE= オプションは、ファイルの最初に指定された場合にのみ、有効となります。

要件 *title-text* を引用符で囲まなければなりません。

UNIFORM

multi-page 表用に、単一の表の範囲内で、ページ間の統一性を保証します。UNIFORM オプションが有効な場合、ODS は、すべてのデータに対応するために、欄の幅などを判断するため、プリントを開始する前に表全体を読み込みます。これらの欄の幅は、複数のページに渡る表のすべてのページに適用されます。

デフォルト: UNIFORM オプションを指定しない場合、ODS は、1 ページ毎に表をプリントします。このアプローチは、SAS が非常に大きい表を処理している途中で、メモリ不足に陥らないことを保証します。しかし、これは、欄の幅がそれぞれページ毎に異なることも意味します。

注: BY-group 処理で、SAS は、各グループの結果を別の表に記述するため、出力が BY グループ間で一定でない可能性があります。

ヒント: UNIFORM オプションは、非常に大きな容量の表をプリントする場合に、SAS にメモリ不足に陥らせる可能性があります。これが発生した場合、表の各欄の幅を明確に設定し、表を1ページ毎にプリントしてください。それをするには、使用する表の定義を編集しなければなりません。詳細は、次を参照してください。“[テーブルテンプレートを使用して実行可能な操作](#)” (1060 ページ)

詳細

ステートメントの ODS プリンタファミリ

ODS PDF ステートメントは、ステートメントの ODS プリンタファミリの一部です。プリンタファミリのステートメントによって、PCL、PDF、PRINTER、PS 出力先が開かれ、高解像度プリンタに適した出力が生成されます。ODS PDF、ODS PRINTER および ODS PS のステートメントも、ステートメントの ODS プリンタファミリのメンバーです。

PDF 出力先を開く閉じる

開いている PDF 出力先は、多くの ODS PDF オプションを使用して変更できます。しかし、FILE= および SAS オプションによって、開いている PDF 出力先に対して次の操作が実行されます。

- ODS PDF ステートメントで参照されている開いた出力先を閉じる
- 開いている PDF 出力先に関連付けられたファイルを閉じる
- PDF 出力先の新規インスタンスを開きます

上記オプションのいずれかを使用した場合は、出力先を明示的に閉じることをお勧めします。

例: 同時に同じ出力先のインスタンスを複数開く

要素:

ODS PDF ステートメントオプション:

```
ID=
STYLE=
FILE=
```

他の要素:

```
PROC FORMAT
```

```
PROC SORT
PROC REPORT
NOBYLINE|BYLINE システムオプション
タイトルの#BYVAL パラメータ
```

データセット:

[Grain_Production](#)

この例では、PDF 出力先の複数インスタンスを開き、PDF 出力を作成します。最初のインスタンスでは、デフォルトスタイル定義が使用され、2 番目のインスタンスでは STYLE= オプションが使用され、ジャーナルスタイル定義が指定されます。

プログラム

```
proc sort data=grain_production;
by year country type;
run;

ods HTML close;

ods pdf file='grain-1.pdf' pdftoc=2;
ods pdf (id=journalstyle) style=journal file='grain-2.pdf' pdftoc=3;

options nobyline nodate;
title 'Leading Grain-Producing Countries';
title2 'for #byval(year)';

proc report data=grain_production nowindows;
by year;
column country type kilotons;
define country / group width=14 format=$centry.;
define type / group 'Type of Grain';
define kilotons / format=comma12.;
footnote 'Measurements are in metric tons.';
run;

options byline;
title2;

proc tabulate data=grain_production format=comma12.;
class year country type;
var kilotons;
table year,
country*type,
kilotons*sum=' ' / box=_page_ misstext='No data';
format country $centry.;
footnote 'Measurements are in metric tons.';
run;

ods pdf close;
ods pdf(id=journalstyle) close;

ods html;
```

プログラムの説明

データセット Grain_Production をソートします。 SORT によって、Year、Country、Type の値の順にデータがソートされます。


```
proc sort data=grain_production;
  by year country type;
run;
```

HTML 出力が生成されないように HTML 出力を閉じます。 HTML 出力はデフォルトで開いています。ODS HTML CLOSE ステートメントによって、リソースを保存するために HTML 出力が閉じられます。出力が開いたままの場合、ODS によって HTML 出力と PDF 出力の両方が生成されます。

```
ods HTML close;
```

2 種類の PDF 出力ファイルを同時に作成します。 ODS PDF ステートメントによって、PDF 出力先が開かれ、PDF 出力が作成されます。最初の ODS PDF ステートメントによって、ファイル Grain-1.pdf が作成されます。スタイル定義が指定されていないため、デフォルトスタイルの Styles.Printer が使用されます。PDFTOC=2 オプションによって、目次を 2 レベル拡張されるよう指定されます。ID=オプションを指定した 2 番目の ODS PDF ステートメントによって、ファイル Grain-2.pdf が作成されます。STYLE=オプションによって、ODS でスタイル定義ジャーナルが使用されるよう指定されます。ID=オプションを指定すると、PDF 出力先のこのインスタンスに JournalStyle という名前が付与されます。PDFTOC=3 オプションによって、目次を 3 レベル拡張するよう指定されます。ID=オプションを指定しないと、この ODS PDF ステートメントによって、前回 ODS PDF ステートメントによって開かれた PDF 出力先のインスタンスが閉じられ、PDF 出力先の新しいインスタンスが開かれます。ファイル Grain-1.pdf には出力が含まれません。

```
ods pdf file='grain-1.pdf' pdftoc=2;
ods pdf (id=journalstyle) style=journal file='grain-2.pdf' pdftoc=3;
```

デフォルトの BY ラインと日付の印刷を非表示にし、タイトルに BY 値を使用します。 NOBYLINE オプションによって、BY ラインが非表示にされます。#BYVAL 指定によって、BY 変数 Year の現在の値がタイトルに挿入されます。

```
options nobyline nodate;
title 'Leading Grain-Producing Countries';
title2 'for #byval(year)';
```

レポートを生成します。 この PROC REPORT ステップによって、Grain Production に関するレポートが生成されます。各 BY グループによって出力ページが生成されます。

```
proc report data=grain_production nowindows;
  by year;
  column country type kilotons;
  define country / group width=14 format=$centry.;
  define type / group 'Type of Grain';
  define kilotons / format=comma12.;
  footnote 'Measurements are in metric tons.';
run;
```

BY ラインを復元し、2 番目のタイトルステートメントを消去します。 BYLINE オプションによって BY ラインが復元されます。TITLE2 ステートメントによって、2 番目の TITLE ステートメントが消去されます。

```
options byline;
title2;
```

各年に対して 1 つの表を含むレポートを作成します。 この PROC TABULATE ステップでの TABLE ステートメントには、ページディメンションとして年が含まれます。そのため、

PROC TABULATE によって明示的に 1995 年と 1996 年に 1 つずつ表が生成されま
す。

```
proc tabulate data=grain_production format=comma12.;
class year country type;
var kilotons;
table year,
country*type,
kilotons*sum=' ' / box=_page_ misstext='No data';
format country $cntry.;
footnote 'Measurements are in metric tons.';
run;
```

出力を表示したり印刷したりできるように、開いている出力先を閉じます。ODS PDF CLOSE ステートメントによって、PDF 出力先の最初のインスタンスとその関連ファイルすべてが閉じられます。ODS PDF (ID=JOURNALSTYLE)ステートメントによって、PDF 出力先の 2 番目のインスタンスとその関連ファイルすべてが閉じられます。ブラウザで出力を表示したり、出力を物理プリンタに送信したりする前に、出力先を閉じる必要があります。

```
ods pdf close;
ods pdf(id=journalstyle) close;
```

HTML 出力先を開きます。ODS HTML ステートメントによって、HTML 出力先が開かれ、ODS がデフォルト設定に戻されます。

```
ods html;
```

PDF 出力

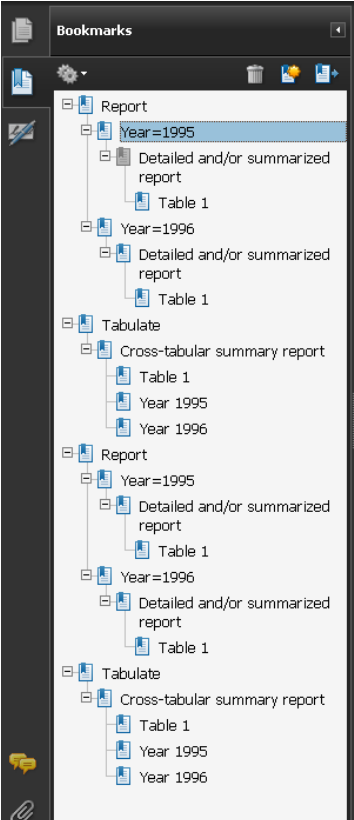
アウトプット 6.25 デフォルトスタイル定義による PDF 出力

**Leading Grain-Producing Countries
for 1995**

Country	Type of Grain	Kilotons
Brazil	Corn	36,276
	Rice	11,236
	Wheat	1,516
China	Corn	112,331
	Rice	185,226
	Wheat	102,207
India	Corn	9,800
	Rice	122,372
	Wheat	63,007
Indonesia	Corn	8,223
	Rice	49,860
	Wheat	.
United States	Corn	187,300
	Rice	7,888
	Wheat	59,494

Measurements are in metric tons.

アウトプット 6.26 ジャーナルスタイル定義による PDF 出力



The screenshot shows a software interface with a tree view on the left and a table on the right. The tree view is titled 'Bookmarks' and contains a hierarchy of report elements: Report, Year=1995, Detailed and/or summarized report, Table 1, Year=1996, Detailed and/or summarized report, Table 1, Tabulate, Cross-tabular summary report, Table 1, Year 1995, Year 1996, Report, Year=1995, Detailed and/or summarized report, Table 1, Year=1996, Detailed and/or summarized report, Table 1, Tabulate, Cross-tabular summary report, Table 1, Year 1995, Year 1996.

The table on the right is titled 'Leading Grain-Producing Countries for 1995' and contains the following data:

Country	Type of Grain	Kilotons
Brazil	Corn	36,276
	Rice	11,236
	Wheat	1,516
China	Corn	112,331
	Rice	185,226
	Wheat	102,207
India	Corn	9,800
	Rice	122,372
	Wheat	63,007
Indonesia	Corn	8,223
	Rice	49,860
	Wheat	.
United States	Corn	187,300
	Rice	7,888
	Wheat	59,494

Measurements are in metric tons.

関連項目:

- [“サードパーティフォーマットの出力先” \(35 ページ\)](#)

ステートメント

- [“ODS PCL ステートメント” \(478 ページ\)](#)
- [“ODS PRINTER ステートメント” \(536 ページ\)](#)
- [“ODS PS ステートメント” \(561 ページ\)](#)

ODS PHTML ステートメント

12 のスタイル要素を使用し、またプレゼンテーション用のクラス属性を使用しない単純な HTML 出力を作成する PHTML 出力先に対して開く、管理するまたは閉じる処理を行います。クラス属性は行揃えにのみ使用します。

該当要素: どこでも可能

カテゴリ: ODS: サードパーティフォーマット

構文

ODS PHTML *操作*;

ODS PHTML *<オプション>* ;

オプション引数の要約

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送ります。

(ID= *identifier*)

同時に同出力先の複数のインスタンスを開いてください。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定してください。

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定してください。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入してください。

(URL= '*Uniform-Resource-Locator*')

URL として *file-specification* の URL を指定してください。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます。

ANCHOR= '*anchor-name*'

現行のボディファイルの各出力オブジェクトを識別するアンカータグに最適な独自のベース名を指定してください。

ARCHIVE='string'

ODS HTML 出力を閲覧するために使用するアプレットを指定してください。

ATTRIBUTES= (*attribute-pair-1 ... attribute-pair-n*)

動的なグラフィックス出力を生成するタグの間に書き込む属性を指定します。

BASE= '*base-text*'

すべてのリンクの最初の部分として使用するテキストおよび出力ファイルにおいて ODS が作成したリファレンスを指定してください。

BODY= '*file-specification*' (サブオプション)

マークアップファミリーの出力先を開き、ODS ステートメントにより作成された主な出力を含むファイルを指定してください。

CHARSET= *character-set*

HTML 出力用の META 宣言で生成される文字セットを指定してください。

CLOSE

出力先およびそれに関連するファイルを終了してください。

CODE= '*file-specification*' <(サブオプション)>

HTML 出力先を開き、関連するスタイル情報を含むファイルを指定してください。

CODEBASE='string'

GOPTIONS デバイスが使用可能なファイルパスを作成してください。

CONTENTS= '*file-specification*' <(サブオプション)>

HTML 出力先を開き、出力用の目次を含むファイルを指定してください。

CSSSTYLE= '*file-specification*'<(media-type-1<...media-type-10)>>

出力に適用するカスケードスタイルシートを指定してください。

ENCODING= *local-character-set-encoding*

入力用のエンコーディングまたは、外部ファイルの出力処理(トランスコード)をオーバーライドしてください。

EVENT=*event-name* (FILE= | FINISH | LABEL= | NAME= | START | STYLE= | TARGET= | TEXT= | URL=)

イベントおよびイベントに関連するイベント変数用の値を指定してください。

EXCLUDE 除外 | ALL | NONE

出力先から出力オブジェクトを除外してください。

FRAME= '*file-specification*' <(サブオプション)>

目次、ページコンテンツ、およびボディファイルを統合するファイルを指定してください。

GFOOTNOTE | NOGFOOTNOTE

グラフィックス出力においてフットノートがプリントされるロケーションを制御してください。

GPATH= '*aggregate-file-storage-specification*' | [ファイル参照](#) | [libref.catalog](#)

(URL= '*Uniform-Resource-Locator*' | NONE)

出力先が開いている間に生成されたすべてのグラフィックス出力のロケーションを指定してください。

GTITLE | NOGTITLE

グラフィック出力のタイトルがプリントされているロケーションを制御してください。

HEADTEXT= '*markup-document-head*'

出力先が書き込むすべてのファイルのタグ< HEAD> および </HEAD> の間に配置する HTML タグを指定してください。

METATEXT= '*metatext-for-document-head*'

<META><>の間、HEAD>HEAD>および<HEAD>出力先が書き込む先のすべてのファイルのタグとして使用する HTML コードを指定してください。

NEWFILE= *starting-point*

新しいボディファイルを指定された開始点に作成してください。

OPTIONS (DOC= | <サブオプション>)

tagset-specific サブオプションおよび名付けられた値を指定してください。

PACKAGE <*package-name*>

出力先からの出力を ODS パッケージに追加することを指定してください。

PAGE= '*file-specification*' <(サブオプション)>

HTML 出力先を開き、ボディファイルの各ページの説明およびボディファイルへのリンクを含むファイルを指定してください。

PARAMETERS= (*parameter-pair-1* ... *parameter-pair-n*)

動的グラフィックス出力を生成するタグの間に指定されたパラメータを書き込んでください。

PATH= '*aggregate-file-storage-specification*' | [ファイル参照](#) | [libref.catalog](#) (URL=

'*Uniform-Resource-Locator*' | NONE)

累積保管場所のロケーションまたはすべてのマークアップファイル用の SAS カタログを指定してください。

RECORD_SEPARATOR= '*alternative-separator*' | NONE

出力ファイルのラインを分離するために代替の文字または文字列を指定してください。

SELECT 選択 | ALL | NONE

出力先用に出力オブジェクトを選択してください。

SHOW

SAS ログに出力先用の現行の選択または除外リストを書き込んでください。

STYLE= *style-definition*

出力ファイルを書く場合に使用するスタイル定義を指定してください。

STYLESHEET= '*file-specification*' <(サブオプション)>

HTML の出力先を開き、出力用のスタイル情報を外部ファイルに配置、または既存のファイルからスタイルシートを読み込んでください。

TEXT=*text-string*

文書にテキストを挿入してください。

TRANSTAB='*translation-table*'

出力用のファイルをトランスコーディングする際に変換表を指定してください。

引数なし

操作やオプションを含まない ODS PHTML ステートメントを使用した場合、ODS PHTML ステートメントによって PHTML 出力先が開かれ、PHTML 出力が作成されません。

アクション

ODS PHTML ステートメントでは、次の操作が利用可能です。

CLOSE

出力先およびそれに関連するファイルを終了します。プリンタの出力先の場合、出力先を終了するまでファイルをプリントできません。

ヒント: ODS 出力先が終了した場合、ODS は、その出力先に出力を送りません。不要な出力先を終了することで、システムリソースの節減します。

EXCLUDE **除外** | ALL | NONE

出力先から1つまたはそれ以上の出力オブジェクトを除外します。

デフォルト: NONE

制限事項: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

参照項目: “ODS EXCLUDE ステートメント” (232 ページ)

SELECT **選択** | ALL | NONE

指定された出力先用に出力オブジェクトを選択します。

デフォルト: ALL

制限事項: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

参照項目: “ODS SELECT ステートメント” (598 ページ)

SHOW

SAS ログに出力先用の現行の選択または除外リストを書き込みます。

制限事項: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

ヒント: 選択または除外リストがデフォルトのリスト(SELECT ALL)である場合、SHOW は、全体の選択または除外リストも書きます。選択または除外リストに関する詳細は、を“**選択リストと除外リスト**” (49 ページ)参照してください。

参照項目: “ODS SHOW ステートメント” (614 ページ)

オプション引数

ステートメントのマークアップファミリの一部である ODS PHTML ステートメントで、次のオプションが利用可能です。

ANCHOR= '*anchor-name*'

現行のボディファイルの各出力オブジェクトを識別するアンカータグに最適な独自のベース名を指定します。

各出力オブジェクトは、参照するためにコンテンツ、ページ、およびフレームファイル用にアンカータグを持ちます。ODS により自動的に作成されたリンクとレファレンスは、アンカー名を指します。そのため、ファイルの各アンカー名は、固有名でなければなりません。

anchor-name

現行の ボディファイルにおいて、各出力オブジェクトを識別するアンカータグのベース名です。

ODS は、指定した名称をインクリメントすることで独自のアンカー名を作成します。例えば、ANCHOR='TABULATE'を指定した場合、ODS は最初のアンカーに `tabulate` と名前を付けます。2番目のアンカー名が `tabulate1` で、3番目が `tabulate2`、と名称が続きます。

制限事項: ファイルのアンカー名は、ユニークでなければなりません。

要件 引用符で *anchor-name* を囲まなければなりません。

操作: 追加するためにファイルを開いた場合、ファイルに再度同じアンカーを書き込むことを防ぐために、新しいアンカー名を必ず指定してください。ODS は、ファイルを開いた際に、既にファイルに存在するアンカーは、識別しません。

ヒント:

プログラムのどこかにマークアップファミリーの ANCHOR=オプションを指定することで、アンカー名を変更できます。アンカー名を指定した後に、新しいものを指定するまで有効になります。

プログラムのさまざまなポイントに新しいアンカー名を指定することで、他のウェブページをマークアップ言語の出力の特定の箇所にリンクできるようになります。アンカー名が変更された箇所を制御できるため、それらのポイントにおけるアンカー名を事前に知ることができます。

ARCHIVE='string'

ODS HTML 出力を閲覧するために使用するアプレットを指定します。

ARCHIVE= オプションは、GOPTIONS java デバイス用にのみ有効です。

文字列は、ブラウザが認識できるものでなければなりません。例えば、アーカイブファイルが SAS で実行中のコンピューターに対してローカルな場合、ファイルを識別するために FILE プロトコルを使用できます。Web サーバーのアーカイブファイルを指したい場合、HTTP プロトコルを使用してください。

デフォルト: ARCHIVE=を指定せず、JAVA デバイスドライバを使用している場合、ODS は SAS システムオプションの値である APPLETOC=を使用します。ACTIVEX デバイスドライバを使用している場合、デフォルトはありません。

要件:

引用符で *string* を囲まなければなりません。

ARCHIVE 属性は、Java 1.1 の機能です。そのため Java デバイスドライバを使用している場合、ブラウザは、この Java バージョンをサポートしていなければなりません。Internet Explorer 4.01 と Netscape 4.05 の両方が、Java 1.1 をサポートします。

操作: ARCHIVE= を SAS/GRAPH プロシジャと共に使用し、GOPTIONS ステートメントにおいて DEVICE=JAVA または DEVICE=ACTIVEX オプションを使用してください。

ヒント:

ODS HTML 出力を閲覧するための SAS/GRAPH アプレットを SAS サーバーが、自動的に判断するため、このオプションを通常使用してはいけません。しかし JAR ファイルの名称を変更した場合、または ODS HTML 出力を閲覧するためのその他のアプレットを有する場合、このオプションはこれらのアプレットにアクセス可能にします。

ファイルパスを指定するために、CODEBASE= オプションを使用してください。ARCHIVE= オプションにファイルパスを置かないことが推奨されます。

APPLETOC= の値は、SAS システムと一緒に送られる Java アーカイブのローケーションを指します。オプションの値を知るために、Environment Control の

下の Files フォルダの **Options** ウィンドウを参照するか、次のプロシジャステップを発行できます。

```
proc options option=appletloc;
run;
```

ATTRIBUTES= (attribute-pair-1 ... attribute-pair-n)

動的なグラフィックス出力を生成するタグの間に指定された属性を書き込みます。

attribute-pair

各属性の名称および値を指定します。*attribute-pair* は、次のフォームを有します。

```
'attribute-name'='attribute-value'
```

attribute-name

属性の名称です。

attribute-value

属性の値です。

要件 引用符で *attribute-name* と *attribute-value* を囲まなければなりません。

操作: ATTRIBUTES=オプションを SAS/GRAPH プロシジャ および GOPTIONS ステートメントの DEVICE=JAVA、JAVAMETA、または ACTIVEX オプションと一緒に使用してください。

参照項目: *SAS/GRAPH: Reference* グラフアプレット、マップアプレット、コンターアプレット、および MetaView アプレット用の有効な属性

BASE= 'base-text'

すべてのリンクの最初の部分として使用するテキストおよび出力ファイルにおいて ODS が作成したレファレンスを指定します。

base-text

ODS が、すべてのリンクの最初の部分として使用するテキストおよびファイルにおいて ODS が作成したレファレンスです。

次の仕様を考慮してください。

```
BASE= 'http://www.your-company.com/local-url/'
```

この場合、ODS は、`http://www.your-company.com/local-url/`文字列で始まるリンクを作成します。適切な *anchor-name* でリンクが完成します。

要件 引用符で *base-text* を囲まなければなりません。

BODY= 'file-specification' (サブオプション)

マークアップファミリーの出力先を開き ODS ステートメントにより作成された主な出力を含むファイルを指定してください。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態になります。。

- *ODS markup-family-destination* CLOSE ステートメントまたは ODS _ALL_ CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーステートメントを使用して、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照、または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

external-file

書き込み先の外部ファイルの名称です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

制限事項: BODY=ファイル参照オプションは、NEWFILE= オプションと一緒に使用することはできません。

参照項目: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)を参照してください。

エンタリー。マークアップ

書き込み先の SAS カタログのエンタリーを指定します。

操作: エンタリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

(サブオプション)

カッコ内に1つまたはそれ以上のサブオプションを指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次のようになります。

(DYNAMIC)

ファイルに書き込むのではなく、出力をウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE で [CONTENTTYPE= \(987 ページ\)](#)を参照してください。

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を、括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を 括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加する場合、動作環境に対して適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_BOTTOM_MATTER サブオプションは、NO_TOP_MATTER サブオプションを伴うことで、既存のファイルに出力を追加することを可能にし、ファイルの出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置できます。

ODS が、過去に書き込んだファイルを開く場合、アンカー用に新しいベース名を指定するために ANCHOR= オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、マークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの先頭にどのような開始マークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

The NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR= オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE= を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されません。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

要件:

括弧で URL= 'Uniform-Resource-Locator' を囲まなければなりません。

引用符で Uniform-Resource-Locator を囲まなければなりません。

URL= 'Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをレファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

別名: FILE=

操作: ODS マークアップの出力先に言及する ODS マークアップファミリーステートメントの BODY= オプションを使用することにより、ODS に出力先および関連するすべてのファイルを終了した後、出力先の新しいインスタンスを開くことを強制します。詳細は、“MARKUP 出力先を開く/閉じる” (438 ページ) を参照してください。

注: いくつかの TAGSET= の値に対して、出力は HTML ファイルで、他の TAGSET= の値に対して、出力は XML ファイルなどになります。

CHARSET= *character-set*

HTML 出力用の META 宣言で生成される文字セットを指定します。

参照項目: 詳細は、“CHARSET=オプション” (*SAS 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド*) を参照してください。

CODE= 'file-specification' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、XSL (Extensible Stylesheet Language) 等の関連するスタイル情報を含むファイルを指定します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります。

- ODS *markup-family-destination* CLOSE ステートメント または ODS *_ALL_* CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

参照項目: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS ステートメント: リファレンス*) を参照してください。

entrymarkup

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

操作: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論も参照してください。

サブオプション

1つまたはそれ以上のサブオプション を括弧で指定します。サブオプション は、出力ファイルを書くための指示です。サブオプション は、次のようになります。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE= スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の [CONTENTTYPE= \(987 ページ\)](#) を参照してください。

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、マークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR= オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されません。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

要件:

括弧で URL='Uniform-Resource-Locator'を囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator'は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをレファレンスしないため、FRAME=オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

CODEBASE='string'

実行可能な Java アプレットまたは、ActiveX コントロールファイルのロケーションを指定します。*string* は、パス名または URL を指定します。使用される GOPTIONS により、CODEBASE ファイルパスには、2つの出力先があります。

JAVA および ActiveX デバイスドライバでウェブプレゼンテーションを生成した場合に、SAS は、JAVA アーカイブファイルを自動的に検索する HTML ページまたは、デフォルトインストールロケーションに ActiveX コントロールファイルを生成しません。

ActiveX デバイス用

ActiveX コントロールを含む出力を生成する際に ODS を伴う ActiveX デバイスドライバを使用する場合、ODS の CODEBASE= オプションを指定してください。CODEBASE=オプションの値は、ロケーションおよび EXE ファイルのバージョンを含むべきです。

ヒント: 出力を閲覧するユーザーがマシンに ActiveX コントロールをインストールしていない場合を除き DEVICE=ACTIVEX オプションで CODEBASE=オプションを指定する必要はありません。コントロールをインストールしていないユーザーが出力を閲覧する場合、コントロールをダウンロードすることを促されます。

参照項目: SAS/GRAPH: Reference CODEBASE= および ARCHIVE=オプションを使用したコントロールおよびアプレットのロケーションの指定に関する詳細は、次を参照してください。

Java デバイス用

SAS/GRAPH アプレットを含む出力を生成するために、デバイスドライバを使用する場合、ODS ステートメントの CODEBASE= オプションを使用して JAR ファイルへのパスを指定してください。

DEVICE=JAVA を指定した場合、出力を閲覧するユーザーは、適切な Java アプレットにアクセスを有する必要があります。SAS は、デフォルトで、SAS により自動的にインストールされたアプレット用の実行可能ファイルに言及するために、CODEBASE= 値を設定します。SAS Java アーカイブファイルのデフォルトのロケーションは、APPLETLOC= システムオプションにより指定されています。次の両条件を満たしている場合、CODEBASE=オプションを指定する必要はありません。

- デフォルトのロケーションは、ウェブプレゼンテーションを閲覧するユーザーにより、アクセス可能です。
- SAS Java アーカイブは、そのロケーションにインストールされています。

ヒント: JAR ファイルのディレクトリのみ指定してください。CODEBASE=ロケーションは、パス名または URL として指定できます。

参照項目: SAS/GRAPH: Reference CODEBASE= および ARCHIVE= オプションを使用したコントロールおよびアプレットファイルのロケーションの指定に関する詳細は、次を参照してください。

CONTENTS= 'file-specification' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、出力用の目次を含むファイルを指定します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります。:

- ODS *markup-family-destination* CLOSE ステートメント または ODS *_ALL_* CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイル参照です。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメント を使用してください。

参照項目: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS* ステートメント: リファレンス)を参照してください。

entry.markup

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

操作: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

サブオプション

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次のようになります。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。この設定は、CONTENTTYPE= スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の [CONTENTTYPE= \(987 ページ\)](#) を参照してください。

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣、あるいは、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR= オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されません。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

要件:

URL='Uniform-Resource-Locator'を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

CSSSTYLE='file-specification'<(media-type-1<...media-type-10)>>

出力に適用するカスケードスタイルシートを指定します。

file-specification

CSS コードを含むファイル、ファイル参照、または、URL を指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

"external-file"

外部ファイルの名称です。

要件 括弧で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルリファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

参照項目: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS* ステートメント: リファレンス)を参照してください。

"URL"

外部ファイルへの URL です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

(*media-type-1*< *media-type-10*>)

出力にレンダリングされるメディアの種類に対応する1つまたはそれ以上のメディアブロックを指定します。文書が、スクリーン、紙、スピーチシンセサイザー、点字装置、等々の異なるメディアにどのように提示されるか指定するために、CSS は、メディアタイプを使用します。

メディアブロックは、いかなるメディアブロックに含まれていないCSSコードを伴い出力に追加されます。*media-type* サブオプションを使用することで一般のCSSコードを伴い、特定のメディアタイプを対象とするCSSファイルの項目をインポートできます。

デフォルト: ODS ステートメントにいかなる *media-type* が指定されていないが、CSSファイルにメディアタイプが指定されている場合、ODSは、Screenメディアタイプを使用します。

範囲: 異なる10個のメディアタイプを指定できます。

要件:

括弧で *media-type* を囲まなければなりません。

CSSSTYLE= オプションで指定された *file-specification* の隣に、*media-type* を指定しなければなりません。

ヒント: 複数のメディアタイプを指定した場合、出力にすべてのメディアタイプのすべてのスタイル情報が適用されます。しかし、異なるメディアブロックにおいて重複するスタイル情報が存在する場合、最後のメディアブロックのスタイルが使用されます。

制限事項: CSSSTYLE= オプションは、SAS/GRAPH 出力に影響を与えません。

要件 CSSファイルは、ODS HTML ステートメントにより作成されたCSSと同じ種類で書き込まなければなりません。ID や文脈ベースのセレクターの無いクラス名のみがサポートされます。ODSが作成するCSSコードを閲覧するには、次の内の1つを行ってください。

- STYLESHEET= オプションを指定してください。
- HTMLファイルのソースを閲覧して、ファイルの上部の <STYLE> </STYLE> タグの間のソースを閲覧してください。

有効な ODS CSSファイルの例は、“[例 6: ODS 出力へ CSS ファイルの適用](#)” (448 ページ)を参照してください。

操作: STYLE= オプションおよび CSSSTYLE= オプションの両方が、ODS ステートメントに指定されている場合、最後に指定されたオプションが使用されます。

例: “[例 6: ODS 出力へ CSS ファイルの適用](#)” (448 ページ)

ENCODING= *local-character-set-encoding*

入力用のエンコーディングまたは、外部ファイルの出力処理(トランスコード)をオーバーライドします。

参照項目: ENCODING= オプションに関する詳細は、“ENCODING システムオプション: UNIX、Windows、および z/OS” (*SAS 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド*)次を参照してください。

EVENT=*event-name* (FILE= | FINISH | LABEL= | NAME= | START | STYLE= | TARGET= | TEXT= | URL=)

イベントおよびイベントに関連するイベント変数用の値を指定します。

(FILE= BODY | CODE | CONTENTS | DATA | FRAME | PAGES | STYLESHEET);

BODY=、CODE=、CONTENTS=、FRAME=、PAGES=、および STYLESHEET= オプションに対応する出力ファイルの既知の種類の内1つをトリガーします。

(FINISH)

イベントの終了項目をトリガーします。

参照項目: 詳細は、“[イベントについて](#)” (1167 ページ)を参照してください。

(LABEL=*'variable-value'*)

LABEL イベント変数用の値を指定します。

要件 *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

参照項目: LABEL イベント変数に関する詳細は、“[イベント変数](#)” (1211 ページ)次を参照してください。

(NAME=*variable-value*)

NAME イベント変数用の値を指定します。

要件 *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

参照項目: NAME イベント変数に関する詳細は、“[イベント変数](#)” (1211 ページ)を参照してください。

(START)

イベントの開始項目をトリガーします。

参照項目: イベントに関する詳細は、“[イベントについて](#)” (1167 ページ)次を参照してください。

(STYLE=*style-element*)

スタイルエレメントを指定します。

参照項目: スタイルエレメントに関する詳細は、“[スタイル属性の概要](#)” (968 ページ)次を参照してください。

(TARGET=*variable-value*)

TARGET イベント変数用の値を指定します。

要件 *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

参照項目: TARGET イベント変数に関する詳細は、“[イベント変数](#)” (1211 ページ)次を参照してください。

(TEXT=*variable-value*)

TEXT イベント変数用の値を指定します。

要件 *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

参照項目: TEXT イベント変数に関する詳細は、“[イベント変数](#)” (1211 ページ)を参照してください。

(URL=*variable-value*)

URL イベント変数用の値を指定します。

要件 *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

参照項目: URL イベント変数に関する詳細は、“[イベント変数](#)” (1211 ページ)を参照してください。

デフォルト: (FILE='BODY')

要件 The EVENT= オプションのサブオプションを括弧で囲まなければなりません。

FRAME= '*file-specification*' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、HTML 出力用に、目次、ページコンテンツ、およびボディファイルを統合するファイルを指定します。フレームファイルを開くと目次、ページコンテンツ、またはその両方、およびボディファイルを閲覧できます。XML 出力用に、FRAME= は、DTD を含むファイルを指定します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります

- ODS markup-family-destination CLOSE ステートメント または ODS _ALL_ CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

参照項目: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS* ステートメント: リファレンス)次を参照してください。

entry.markup

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

操作: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

サブオプション(s)

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次の内の1つになります。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の CONTENTTYPE= (987 ページ)を参照してください。

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: NO_BOTTOM_MATTER サブオプションおよび ANCHOR= オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されません。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます。

要件:

URL= '*Uniform-Resource-Locator* を括弧で囲まなければなりません。'
引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。
URL= '*Uniform-Resource-Locator* は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをレファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

制限事項: FRAME=オプションを指定した場合、CONTENTS= オプション、PAGE= オプション、または両方を指定しなければなりません。

例: “例 2: XML ファイルと DTD の作成” (441 ページ)

GFOOTNOTE | NOGFOOTNOTE

グラフィックス出力においてフットノートがプリントされるロケーションを制御します。

GFOOTNOTE

SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたフットノートをプリントします。フットノートは、グラフのボーダー内に表示されます。

NOGFOOTNOTE

グラフのボーダー外に表示される ODS により作成されたフットノートをプリントします。

デフォルト: GFOOTNOTE

制限事項:

マークアップ言語により表示されるフットノートは、すべての SAS/GRAPH FOOTNOTE ステートメントオプションをサポートします。フォントは、ブラウザ用に有効でなければなりません。テキスト角度の仕様など ODS が扱えないオプションは無視されます。SAS/GRAPH FOOTNOTE ステートメントに関する詳細は、“FOOTNOTE Statement” in *SAS/GRAPH: Reference* を参照してください。

このオプションは、1 つまたはそれ以上のデバイススペースのグラフィックスを作成する SAS プログラム または、SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたグラフィックスにのみ適用されます。

GPATH= 'aggregate-file-storage-specification' | ファイル参照 | libref.catalog (URL= 'Uniform-Resource-Locator' | NONE)

出力先が開いている間に生成されたすべてのグラフィックス出力のロケーションを指定します。マークアップファイル用の PATH= オプションで指定されたものとは異なるロケーションにグラフィックス出力を書き込みたい場合にこのオプションを使用してください。無効なファイル名を指定した場合、ActiveX および Java デバイスはデフォルトのファイル名に出力を送ります。その他のデバイスはファイルをディレクトリとして作成して、そのディレクトリに出力を書き込みます。ODS が、カタログエントリおよび外部ファイルに名称を付ける方法に関する 詳細は、次を参照してください。 *SAS/GRAPH: Reference*

'aggregate-file-storage-location'

ディレクトリ、フォルダ、または分割されたデータセット等の累積保存ロケーションを指定します。

要件 引用符で *aggregate-file-storage-location* を囲まなければなりません。

ファイル参照

累積保存ロケーションに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

操作: GPATH= オプションにおいてファイル参照を指定した場合、ODS は、リンクを構築する際に、GPATH=オプションからの情報を使用しません。

参照項目: FILENAME ステートメントに関する詳細は、“FILENAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)次を参照してください。

ライブラリ参照。catalog

書き込む先の SAS カタログを指定します。

URL= 'Uniform-Resource-Locator' | NONE
file-specification の URL を指定します。

Uniform-Resource-Locator

指定した URL です。ODS は、ファイルに作成するすべてのリンクおよびレファレンスにおいてファイル名ではなくこの URL を使用します。

要件 引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

NONE

リンクまたはレファレンスに GPATH=オプションからのいかなる情報が表示されないことを指定します。

ヒント: このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツまたはページファイルからのリンクが簡単な URL (単一名) で構築されている場合、コンテンツ、ページ、およびボディファイルさえ同一のロケーションにあれば、それらは解決します。

デフォルト: GPATH= オプションを除外すると、ODS は、PATH= オプションにより指定されたロケーションにグラフィックスを保存します。PATH=オプションを指定しない場合、ODS は、グラフィックスを現行のディレクトリに保存します。詳細は、PATH= オプションを参照してください。

GTITLE | NOGTITLE

グラフィック出力のタイトルがプリントされているロケーションを制御します。

GTITLE

SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたタイトルをプリントします。タイトルは、グラフボーダーの内部に表示されます。

NOGTITLE

グラフボーダーの外部に表示される ODS により作成されたタイトルをプリントします。

デフォルト: GTITLE

制限事項:

いかなるマークアップ言語のステートメントにより表示されるタイトルは、大部分の SAS/GRAPH TITLE ステートメントオプションをサポートします。フォントは、ブラウザ用に有効でなければなりません。テキスト角度の仕様など ODS が扱えないオプションは無視されます。SAS/GRAPH TITLE ステートメントに関する詳細は、TITLE ステートメントを参照してください。

このオプションは、1つまたはそれ以上のデバイススペースのグラフィックスを作成する SAS プログラム または、SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、

SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたグラフィックスにのみ適用されます。

HEADTEXT= 'markup-document-head'

出力先が書き込むすべてのファイルのタグ< HEAD> および </HEAD> の間に配置する HTML タグを指定します。

markup-document-head

< HEAD> および </HEAD>の間に配置するマークアップタグを指定します。

制限事項: HEADTEXT= は、256 文字を超えてはなりません。

要件 *markup-document-head* を引用符で囲まなければなりません。

ヒント:

ODS は、提供するマークアップを解析できません。それは、< HEAD>および </HEAD>タグとの関連で、well-formed マークアップでなければなりません。

後で、ファイルで使用できるプログラム(JavaScript) 等を定義するために HEADTEXT=オプションを使用してください。

(ID= identifier)

同時に同出力先の複数のインスタンスの実行を可能にします。各インスタンスは、異なるオプションを有します。

identifier

既に開かれた出力先のもう1つのインスタンスを指定します。*identifier* は、文字または、アンダーラインで始まる数字または連続した文字です。後続の文字は、文字、アンダーライン、および数字を含むことができます。

制限事項: もし *identifier* が数値の場合、正の整数にする必要があります。

要件 ID= オプションは、ODS *MARKUP/TAGSET* ステートメントキーワードの直後に指定しなければなりません。

ヒント: ID= オプションを除外し、インスタンスを識別するために代わりに名前または数字を使用できます。

例: “例: 同時に同じ出力先のインスタンスを複数開く” (499 ページ)

METATEXT= 'metatext-for-document-head'

<META><>の間、HEAD>HEAD>および<HEAD>出力先が書き込む先のすべてのファイルのタグとして使用する HTML コードを指定します。

'metatext-for-document-head'

ブラウザにロードする文書に関する情報を提供する HTML コードを指定します。例えば、この属性は、コンテンツの種類および使用される文字セットを指定できます。

要件 引用符で *metatext-for-document-head* を囲まなければなりません。

デフォルト: METATEXT=を指定しない場合、ODS は、作成するすべての HTML ファイルに文書のコンテンツの種類および使用する文字セットを含む簡単な <META> タグを書きます。

制限事項: METATEXT= は、256 文字を超えてはなりません。

ヒント: ODS は、提供する HTML コードを解析できません。HTML コードは、<HEAD>タグの脈絡において正確で、良く構築されていなければなりません。METATEXT= を意図された通りに使用した場合、META タグは次のように見えます。

```
<META your-metatext-is-here>
```

NEWFILE= starting-point

新しいボディファイルを指定された *starting-point* に作成します。

starting-point

新しいボディファイルを作成するのに適した出力のロケーションです。

ODS は、ボディファイル名をインクリメントすることで自動的に新しいファイル名を付けます。次の例で、ODS は、初めのボディファイルの名付けます。**REPORT.XML** 追加のボディファイルが名付けられます。**REPORT1.XML**, **REPORT2.XML**, 等

例

```
BODY= 'REPORT.XML'
```

starting-point は、次の内の1つです。

BYGROUP

各 BY グループの結果用に新たなファイルを開始します。

NONE

現在開かれているボディファイルにすべての出力を書き込みます。

OUTPUT

各出力オブジェクト用に新たなファイルを開始します。SAS/GRAPH に対して、これは、ODS がプログラムが生成した各 SAS/GRAPH 出力ファイル用に新たなファイルを作成することを意味します。

別名: TABLE

PAGE

出力の各ページ用に新たなボディファイルを開始します。改ページは、手順が明示的に新たなページを開始(ページのサイズが足りないからではなく)または、新たなプロシジャを開始する時点で発生します。

PROC

新たな手順を開始する度に新たなボディファイルを開始します。

デフォルト: NONE

制限事項: NEWFILE= オプションは、BODY=ファイル参照 オプションと一緒に使用できません。

ヒント:

ファイル名を数字で終了した場合、ODS はその数字の増加を開始します。次の例で、ODS は、最初のボディファイル *MAY5.XML* の名付けをします。追加のボディファイル名は、*MAY6.XML*, *MAY7.XML*, 等となります。

例

```
BODY= 'MAY5.XML'
```

OPTIONS (DOC= | <サブオプション>)

tagset-specific サブオプションおよび名付けられた値を指定します。

(DOC= 'HELP' | 'QUICK' | 'SETTINGS' | 'CHANGELOG')

指定されたタグセットについての情報を提供します。

HELP

簡易参照で、一般的なヘルプおよび情報を提供します。

QUICK

このタグセットで利用可能なオプションを説明します。

SETTINGS

現行のオプション設定を提供します。

CHANGELOG

タグセットへの変更履歴をリストします。このサブオプションは、RTF タグセットにおいてのみサポートされています。

要件 すべての値は、引用符で囲まなければなりません。

サブオプション(s)

指定されたタグセットに有効な1つまたはそれ以上のサブオプションを指定します。サブオプションは、次のフォーマットを有します。

keyword='value'

タグセット用のサブオプションの情報を得るために、ODS タグセットステートメントを開く時、または出力先が開かれたいかなる時に、次のオプションの内の1つを指定してください。

- オプション (doc='help');
- オプション (doc='quick');
- オプション (doc='settings');

要件 OPTION サブオプションを括弧で囲まなければなりません。

例: “例: ODS TAGSETS.HTMLPANEL 情報を得るために DOC サブオプションを使用。” (651 ページ)

PACKAGE <package-name>

出力先からの出力を ODS パッケージに追加することを指定します。

package-name

ODS PACKAGE ステートメントで作成されたパッケージの名称を指定します。指定された名称が無い場合、出力は最後に開かれた名称の付けられていないパッケージに追加されます。

参照項目: “ODS PACKAGE ステートメント” (469 ページ)

例: “例 1: ODS パッケージの作成” (473 ページ)

PAGE= 'file-specification' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、ボディファイルの各ページの説明およびボディファイルへのリンクを含むファイル指定します。ODS は、手順が新たなページを要求した際に、出力の新しいページを作成します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります

- ODS markup-family-destination CLOSE ステートメントまたは ODS _ALL_ CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の 1 つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

参照項目: FILENAME ステートメントに関する詳細は、“FILENAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)次を参照してください。

入力。マークアップ

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

操作: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

サブオプション

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次のようになります。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の [CONTENTTYPE= \(987 ページ\)](#) を参照してください。

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: The NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR= option

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されません。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

要件:

URL='Uniform-Resource-Locator'を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファ

イルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをレファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

操作: SAS システムオプションの PAGESIZE= は、バッチ出力を作成する時以外は、HTML 出力のページに影響を与えません。PAGESIZE= オプションに関する詳細は、“PAGESIZE= System Option” in *SAS System Options: Reference* を参照してください。

PARAMETERS= (*parameter-pair-1 ... parameter-pair-n*)

動的グラフィックス出力を生成するタグの間に指定されたパラメータを書き込みます。

parameter-pair

各パラメータの名称および値を指定します。*parameter-pair* は、次の形態を有します。

```
'parameter-name' = 'parameter-value'
```

parameter-name

パラメータの名称です。

parameter-value

パラメータの値です。

要件 引用符で *parameter-name* および *parameter-value* を囲まなければなりません。

操作: PARAMETERS= を SAS/GRAPH プロシジャおよび GOPTIONS ステートメントの DEVICE=JAVA、JAVAMETA、または ACTIVEX オプションと一緒に使用してください。

参照項目: *SAS/GRAPH: Reference* グラフアプレット、マップアプレット、カンターアプレット、およびメタビューアプレット用に有効なパラメータ

PATH= '*aggregate-file-storage-specification*' | **ファイル参照** | *libref.catalog* (URL= '*Uniform-Resource-Locator*' | NONE)

累積保管場所のロケーションまたはすべてのマークアップファイル用の SAS カタログを指定します。GPATH= オプションが指定されていない場合、すべてのグラフィックスファイルは、“*aggregate-file-storage-specification*” または、**ライブラリ参照**に書き込まれます。

'*aggregate-file-storage-location*'

ディレクトリ、フォルダ、または分割されたデータセット等の累積保存ロケーションを指定します。

要件 引用符で *aggregate-file-storage-location* を囲まなければなりません。

ファイル参照

累積保存ロケーションに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

操作: PATH= オプションのを使用した場合、ODS は、リンクを構築する際に PATH= からの情報を使用しません。

参照項目: FILENAME ステートメントに関する詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS ステートメント: リファレンス*) を参照してください。

ライブラリ参照. *catalog*

書き込む先の SAS カタログを指定します。

参照項目: LIBNAME ステートメントに関する詳細は、“LIBNAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)を参照してください。

URL= 'Uniform-Resource-Locator' | NONE
file-specification の URL を指定します。

Uniform-Resource-Locator

指定した URL です。ODS は、ファイルに作成するすべてのリンクおよびレファレンスにおいて ファイル名ではなくこの URL を使用します。

NONE

リンクまたはレファレンスに GPATH=オプションからのいかなる情報が表示されないことを指定します。

ヒント: このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは、single-name URL で構築しなければならず、コンテンツ、ページ、およびボディファイルは、同じロケーションになければなりません。

操作: BODY= または、FILE=外部ファイルオプションを PATH= オプションと一緒に使用した場合、外部ファイル仕様にパス情報を含めるべきではありません。

RECORD_SEPARATOR= 'alternative-separator' | NONE

出力ファイルのラインを分離するために代替りの文字または文字列を指定します。

異なる動作環境において、異なるセパレーター文字を使用します。レコードセパレーターを指定しない場合、SAS ジョブを起動する環境用にファイルをフォーマットします。しかし、異なるセパレーター文字を使用する異なる動作環境で閲覧するためにファイルを生成する場合、対象の環境に適切なレコードセパレータを指定できません。

alternative-separator

1またはそれ以上の文字を 16 進または ASCII フォーマットで表わします。例えば、次のオプションは、キャリッジリターン文字用のレコードセパレータ および ASCII ファイルシステムで使用するラインフィード文字を指定します。

```
RECORD_SEPARATOR= '0D0A'x
```

動作環境の情報

メインフレーム環境において、次のオプションは、キャリッジリターン文字用のレコードセパレータ および ASCII ファイルシステムで使用するラインフィード文字を指定します。

```
RECORD_SEPARATOR= '0D25'x
```

要件 引用符で *alternative-separator* を囲まなければなりません。

NONE

SAS ジョブを実行する環境に適切なマークアップ言語を作成します。

Windows 固有

メインフレーム環境において、デフォルトで、ODS は、組み込み式レコードセパレータ文字を含むバイナリファイルを作成します。バイナリファイルは、ASCII ファイルのラインの長さ制限により制限されていません。しかし、テキストデータのバイナリファイルを閲覧すると、ラインは一緒に実行されます。テキストデータでファイルを読むことを可能にするためにファイルをフォーマットしたい場合、RECORD_SEPARATOR= NONE を使用してください。この場合、ODS は、一度に1行のマークアップ言語をファイルに書き込みます。NONE の値を使用する場合、書き込む先のファイルの論理的レコードの長さは、最低でも ODS が作成するラインの最長の長さでなければなりません。ファイルの論理的レコードの長さが十分でない場合、マークアップ言語は、適切な場所でその他のラインにラップする可能性があります。

別名:

RECSEP=

RS=

STYLE= style-definition

出力ファイルを書く場合に使用するスタイル定義を指定します。

style-definition

SAS 出力の体裁特徴(色、フォントファース、フォントサイズ、等々)の表示方法を説明します。スタイル定義は、それを使用する文書の全体の体裁を決定します。各スタイル定義は、スタイル要素で構成されます。

操作: STYLE= オプションは、XML 出力を作成している場合は、無効となります。

参照項目: スタイル定義に関する完全な討議は、13 章、“[TEMPLATE プロシジャ: スタイルテンプレートの作成](#)” (942 ページ)を参照してください。

デフォルト: スタイル定義を指定しない場合は、ODS は、SAS レジストリのサブキーマ ODS ⇒ DESTINATIONS ⇒ MARKUP に指定されているファイルを使用します。この値は、デフォルトで、Default を指定します。

操作: ODS HTML4 ステートメントで STYLE= オプションを指定した場合、続いて、もう1つの ODS HTML4 ステートメントで新しいスタイル定義を使用するために PROC PRINT 出力が必要な場合、2番目のステートメントを指定する前に、最初のステートメントを終了してください。

STYLESHEET= 'file-specification' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、マークアップ出力用のスタイル情報を外部ファイルに配置、または既存のファイルからスタイルシートを読み込みます。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります。

- ODS markup-family-destination CLOSE ステートメントまたは ODS _ALL_ CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の 1 つです。*external-file*

書き込む先の外部ファイルの名称です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。**ファイル参照**

外部ファイルに割り当てられたファイル参照です。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

参照項目: FILENAME ステートメントに関する詳細は、“[FILENAME ステートメント](#)” (SAS ステートメント: リファレンス)を参照してください。

entry.markup

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

操作: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

サブオプション

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。次のサブオプションが利用可能です。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の [CONTENTTYPE= \(987 ページ\)](#) を参照してください。

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR=オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE= を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されません。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます。

要件:

URL='Uniform-Resource-Locator' を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME=オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

注: デフォルトで、別のファイルに特に情報を送らない場合、スタイルシート情報は指定された HTML ファイルに含まれます。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

TEXT=*text-string*

パラグラフのイベントをトリガーすることで文書にテキストを挿入し、VALUE イベント変数に割り当てられるテキストの文字列を指定します。

デフォルト: デフォルトで、TEXT=オプションは、パラグラフイベントで使用されています。

ヒント: 次の構文を使用することで、EVENT= オプションを伴う TEXT= オプションを使って特定のイベント用の *text-string* を指定できます。

EVENT=*event-name* (TEXT=*text-string*)

参照項目: イベントおよびイベント変数に関する詳細は、15 章, “TEMPLATE プロシジャ: マークアップ言語のタグセットの作成” (1166 ページ)を参照してください。

例: “例: 出力オブジェクトを条件付きで除外し、別の出力先に送信する” (235 ページ)

TRANTAB= '*translation-table*'

出力用のファイルをトランスコーディングする際に変換表を指定します。

参照項目: TRANTAB= オプションに関する詳細は、“TRANTAB=システムオプション” (SAS 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド)を参照してください。

サブオプション

これらのオプションで使用できるサブオプションは次のとおりです。BODY= (508 ページ)、CODE= (511 ページ)、CONTENTS= (515 ページ)、FRAME= (519 ページ)、PAGE= (526 ページ)、STYLESHEET= (531 ページ)。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE のを参照してください。CONTENTTYPE= (987 ページ)

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR=オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されます。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL= 'Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

要件:

URL= 'Uniform-Resource-Locator' を括弧で囲まなければなりません。

Uniform-Resource-Locator を引用符で囲まなければなりません。

URL= 'Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

詳細

ODS PHTML ステートメントは、ステートメントの ODS マークアップファミリの一部です。ステートメントのマークアップファミリの一部である ODS ステートメントでは、HTML (Hypertext Markup Language)、XML (Extensible Markup Language) または LaTeX などのさまざまなマークアップ言語を使用してフォーマットされた出力が作成されます。SAS によって、DOCBOOK から TROFF に至るマークアップ言語が提供されます。SAS 提供のマークアップ言語を指定するか、独自の言語を作成し、ユーザー定義のマークアップ言語として保存できます。

ODS PRINTER ステートメント

印刷可能な出力を作る PRINTER 出力先に対して、開く、管理する、あるいは閉じる処理を行います。

該当要素: 任意の場所

カテゴリ: ODS: サードパーティフォーマット

操作: FORMCHAR システムオプション(たとえば PROC PLOT や PROC CHART)を使用する手順を実行するときにデフォルトで、ODS により、SAS モノスペースフォントで出力がフォーマットされます。作成された出力は SAS ソフトウェアがインストールされていない動作環境では正しく表示されません。これは、SAS がインストールされていない為、SAS モノスペースフォントが認識されないからです。文書を正しく表示するには、SAS プログラムの前に次のステートメントを組み込みます。

```
OPTIONS FORMCHAR="|----|+|---+=|-/\<>*" ;
```

注意: PostScript 出力については、OPTIONS PAPERSIZE=ステートメントによって指定された値と同じサイズの用紙を使用するように、オンラインビューアまたはプリンターがセットされていることを確認します。設定が間違っている場合、出力が部分的に失われる場合があります。

構文

ODS PRINTER <(<ID=>識別子)> <操作>;

ODS PRINTER <(<ID=>識別子)> <オプション>;

オプション引数の要約

<ID=> *identifier*

同時に同出力先の複数のインスタンスを開いてください。

ANCHOR=*'anchor-name'*

現行のファイルの各出力オブジェクトを識別するアンカータグのルート名を指定してください。

AUTHOR=*'author-text'*

ファイルのメタデータに、作者と指定したテキストの文字列を挿入してください。

BASE=*'base-text'*

ODS が、ファイルで作成するすべてのレファレンスの最初の部分に使用する文字列を指定してください。

BOOKMARKGEN | NOBOOKMARKGEN | BOOKMARKGEN=

PDF および PS ファイルのブックマークの生成を制御してください。

BOOKMARKLIST= HIDE | NONE | SHOW

PDF および PS ファイル用のブックマークのリストを作成ならびに表示するか指定してください。

CLOSE

出力先およびそれに関連するファイルを終了してください。

COLOR=FULL | GRAY | MONO | NO | YES

出力に指定されたカラースキームを適用してください。

COLUMNS=*n*

出力の各ページに作成する欄の数を指定してください。

COMPRESS=*n*

PDF ファイルの圧縮を指定してください。圧縮は、ページのサイズを削減します。

CONTENTS= NO | YES

プリント可能な目次の生成を制御してください。

CSSSTYLE=*'file-specification'*<(<*media-type-10*>)>

出力に適用するカスケードスタイルシートを指定してください。

DPI=

出力イメージ用の画像解像度をインチ毎のドットで指定してください。

EXCLUDE 除外 | ALL | NONE

出力先から出力オブジェクトを除外してください。

FILE=*'external-file'* | *ファイル参照*

書き込む先のファイルを指定してください。

GFOOTNOTE | NOGFOOTNOTE

グラフィックス出力においてフットノートがプリントされるロケーションを指定してください。

GTITLE | NOGTITLE

グラフィックス出力のタイトルがプリントされているロケーションを制御してください。

HOST

ホストシステムが提供するプリンタドライバを使用してください。

KEYWORDS=*'keywords-text'*

出力ファイルのメタデータにキーワードの文字列を挿入してください。

NEWFILE= *starting-point*

指定された *starting-point* で、新しいファイルを作成してください。

NOTOC

PDF または PDFMARK 出力を作成する場合に、デフォルトで作成された目次(ブックマークリスト)を削除してください。

PACKAGE <*package-name*>

出力先からの出力が ODS パッケージに追加されることを指定してください。

PCL

PCL 出力の作成

PDF

PDF 出力を作成してください

PDFMARK

PostScript ファイルを PDF ファイルに変換する際に使用される 特別なマークアップを挿入してください。

PDFNOTE | NOPDFNOTE

FLYOVER= スタイル属性に関連するアイテム用に、ノートが PDF ファイルに追加されるか否か制御してください。

PDFTOC=*n*

PDF 文書の目次の拡張レベルを制御してください。

PRINTER= *printer-name*

指定されたプリンタ用にフォーマットされた出力を作成してください。

PS

PostScript 出力を作成してください。

SELECT *選択* | ALL | NONE

出力先用に出力オブジェクトを選択してください。

SHOW

SAS ログに出力先用の現行の選択または除外リストを書き込んでください。

STARTPAGE=NEVER | NO | NOW | YES | BYGROUP

改ページを制御してください。

STYLE=*style-definition*

PDF 出力を書くために使用するスタイル定義を指定してください。

SUBJECT='*subject-text*'

指定した文字列をファイルのメタデータの対象として挿入してください。

TEXT='*text-string*'

出力にテキストを挿入してください。

TITLE='*title-text*'

タイトルとして指定した文字列を、ファイルのメタデータに挿入してください。

UNIFORM

multi-page 表用に、単一の表の範囲内で、ページ間の統一性を提供します。

引数なし

操作やオプションを指定せずに UNIX または z/OS オペレーティング環境において、ODS PRINTER ステートメントを使用するとき、システム管理者が設定していない場合、PRINTER 出力先が開き、PostScript 出力が作成されます。

操作やオプションを指定せずに Windows オペレーティング環境において ODS PRINTER ステートメントを使用する場合は、デフォルトの Windows プリントから印刷されます。

アクション

ODS PDF ステートメントでは、次の操作が利用可能です。

CLOSE

出力先およびそれに関連するファイルを終了します。プリンタの出力先の場合、出力先を終了するまでファイルをプリントできません。

ヒント: ODS 出力先が終了した場合、ODS は、その出力先に出力を送りません。不要な出力先を終了することで、システムリソースの節減します。

EXCLUDE 除外 | ALL | NONE

出力先から1つまたはそれ以上の出力オブジェクトを除外します。

デフォルト: NONE

制限事項: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

参照項目: “ODS EXCLUDE ステートメント” (232 ページ)

SELECT 選択 | ALL | NONE

指定された出力先用に出力オブジェクトを選択します。

デフォルト: ALL

制限事項: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

参照項目: “ODS SELECT ステートメント” (598 ページ)

SHOW

SAS ログに出力先用の現行の選択または除外リストを書き込みます。

制限事項: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

ヒント: 選択または除外リストがデフォルトのリスト(SELECT ALL)である場合、SHOW は、全体の選択または除外リストも書きます。選択または除外リストに関する詳細は、を “選択リストと除外リスト” (49 ページ)参照してください。

参照項目: “ODS SHOW ステートメント” (614 ページ)

オプション引数

ANCHOR='anchor-name'

現行のファイルの各出力オブジェクトを識別するアンカータグのルート名を指定します。

各出力は、ブックマークがレファレンスするためにアンカータグが必要になります。ODS により自動的に作成されるレファレンスは、アンカー名を指します。そのため、ファイルの各アンカー名はユニークでなければなりません。

anchor-name

現行のファイルの各出力オブジェクトを識別するアンカータグのルート名です。

ODS 名を作成します。例えば、ANCHOR='TABULATE'、を指定した場合、ODS は最初のアンカーに tabulate と名前を付けます。2番目のアンカー名が tabulate1 で、3番目が tabulate2、と名称が続きます。

要件 anchor-name を引用符で囲まなければなりません。

別名: NAMED_DEST= | BOOKMARK=

制限事項: このオプションは、ODS PDF ステートメント、指定された PDFMARK オプションを伴う ODS PS ステートメント 並びに、PDFMARK オプションを伴う ODS PRINTER ステートメント においてのみ使用してください。

ヒント:

プログラムのいかなる場所の有効なステートメントに ANCHOR=オプションを提出することで、何度でもアンカー名を変更できます。アンカー名を指定した後に、新しいものを指定するまで有効になります。

プログラムの様々なポイントで、新しいアンカー名を指定することは、PRINTER 出力の指定された箇所にリンクしたい場合に便利です。アンカー名が変更する場所を制御できるため、それらの箇所でアンカー名がどう変わるか事前に分かります。

AUTHOR= 'author-text'

ファイルのメタデータに、作者と指定したテキストの文字列を挿入します。

author-text

作者を示す開かれたファイルのメタデータにあるテキストです。

制限事項:

このオプションは、ODS PDF ステートメント、指定された PDFMARK オプションを伴う ODS PS ステートメント 並びに、PDFMARK オプションを伴う ODS PRINTER ステートメントにおいてのみ使用してください。

AUTHOR=オプションは、ファイルの最初に指定されている場合のみ有効です。

要件 *author-text* を引用符で囲まなければなりません。

BASE='base-text'

ODS が、ファイルで作成するすべてのレファレンスの最初の部分に使用するテキストを指定します。

base-text

ODS が、ファイルで作成するすべてのレファレンスの最初の部分に使用するテキストです。

次の仕様を考慮してください。:

```
BASE='http://www.your-company.com/local-url/'
```

この場合、ODS は、この文字列で始まるレファレンスを作成します。http://www.your-company.com/local-url/ 適切な *anchor-name* がリンクを完成します。

制限事項: このオプションは、ODS PDF ステートメント、指定された PDFMARK オプションを伴う ODS PS ステートメント 並びに、PDFMARK オプションを伴う ODS PRINTER ステートメントにおいてのみ使用してください。

要件 *base-text* を引用符で囲まなければなりません。

BOOKMARKLIST= HIDE | NONE | SHOW

PDF および PS ファイル用のブックマークのリストを作成ならびに表示するか指定します。

HIDE

PDF および PS ファイル用のブックマークのリストを作成します。PDF および PS ファイルを開いた際に、ブックマークは自動的に表示されません。

NONE

PDF および PS ファイル用にブックマークのリストを生成しないように指定します。

別名:

NO | OFF

NOBOOKMARKLIST is an alias for BOOKMARKLIST=NONE | NO |

OFF

SHOW

PDF および PS ファイル用のブックマークのリストを作成します。PDF および PS ファイルを開いた際に、ブックマークは自動的に表示されます。

別名:

YES | ON

BOOKMARKLIST is an alias for BOOKMARKLIST=SHOW | YES | ON

デフォルト: SHOW**制限事項:**

このオプションは、出力先を初めて開く時のみ設定可能です。

このオプションは、PDF、PDFMARK、PS 出力を作成する場合にのみ有効です。

操作: NOTOC オプションは、BOOKMARKLIST= OFF と CONTENTS= OFF を指定します。

注: ブックマークの生成は、このオプションの設定の影響を受けません。ブックマークは、BOOKMARKGEN=オプションにより生成されます。

BOOKMARKGEN | NOBOOKMARKGEN | BOOKMARKGEN=

PDF および PS ファイルのブックマークの生成を制御します。

BOOKMARKGEN

PDF および PS ファイルでブックマークを生成するように指定します。

BOOKMARKGEN=

PDF および PS ファイルのブックマークの生成を制御します。

NO

PDF および PS ファイルでブックマークを生成しないように指定します。

別名: OFF**YES**

PDF および PS ファイルでブックマークを生成するように指定します。

別名: ON**NOBOOKMARKGEN**

PDF および PS ファイルでブックマークを生成しないように指定します。

デフォルト: YES or BOOKMARKGEN

操作: BOOKMARKGEN=NO に設定した場合、BOOKMARKLIST オプションも NO に設定されます。

COLOR=FULL | GRAY | MONO | NO | YES

かに指定されたカラースキームを適用します。

FULL

テキストおよびグラフィックスの両方のために、フルカラー 出力を作成します。

GRAY

テキストおよびグラフィックスの両方のために、グレースケール出力を作成します。

別名: GREY**MONO**

テキストおよびグラフィックスの両方のために、ニーモニック出力を作成します。

別名: BW**NO**

スタイル定義が提供するすべての色情報を使用しません COLOR=NO とした場合に、出力先は、次の操作を行います。:

- 黒と白の出力を生成します。
- すべてのテキストと線を黒で作成します。
- SAS/GRAPH 出力をグレースケールで作成するように、SAS/GRAPH デバイスを設定します。
- 表の線をプリントするかどうかの判断目的を除いて、スタイル定義の背景色の仕様は無視されます。

YES

背景色を含め、スタイル定義が提供するすべての色情報を使用します。カラーでプリントするには、次の操作も行わなければなりません。

- カラーでプリントできるプリンターを使用してください。
- COLORPRINTING SAS システムオプションを使用してください。COLORPRINTING システムオプションに関する詳細は、次を参照してください。SAS システムオプション: リファレンス

デフォルト: YES

ヒント: カラーをサポートしないプリンターのカラー出力を選択した場合、出力が読みにくくなる場合があります。

COLUMNS=*n*

出力の各ページに作成する欄の数を指定します。

n

ページ毎の番号欄です。

デフォルト: 1

COMPRESS=*n*

PDF ファイルの圧縮を制御します。圧縮は、ページのサイズを削減します。

n

圧縮のレベルを指定します。数字が大きい程、圧縮が大きくなります。例えば、*n*=0 は、完全に無圧縮で *n*=9 が最大圧縮値です。

デフォルト: 6

範囲: 0-9

制限事項:

このオプションは、ODS PDF ステートメント、指定された PDF オプションを伴う ODS PRINTER ステートメントにおいてのみ使用してください。PostScript 出力は、圧縮できません。

COMPRESS=オプションは、ファイルの最初に指定された場合にのみ、有効となります。

操作:

COMPRESS= オプションは、DEFLATION システムオプションを上書きします。DEFLATION システムオプションを点検します。次に、ODS PDF ステートメントの COMPRESS=オプションが点検されます。COMPRESS= オプションが指定された場合、DEFLATION システムオプションの値に関係なくその値が、使用されます。詳細は、DEFLATION オプションを参照してください。

COMPRESS= オプションは、UPRINTCOMPRESSION オプションを上書きします。COMPRESS= が指定された場合、UPRINTCOMPRESSION システムオプションが、クエリーされます。システムオプションが、オフになると、この1つの PDF ステートメントのためにオンにされ、PDF ファイルが圧縮されます。圧縮が完了すると、UPRINTCOMPRESSION システムオプションが、再度、すべてのファイル用に有効となります。詳細は、UPRINTCOMPRESSION システムオプションを参照してください。

CONTENTS= NO | YES

プリント可能な目次の生成を制御します。

NO

プリント可能な目次を生成しません。

別名: NOCONTENTS は、CONTENTS=NO 用のエイリアスです。

YES

プリントできる目次を生成します。

別名: CONTENTS は、CONTENTS=YES 用のエイリアスです。

CSSSTYLE='file-specification'(<<media-type-10>>)

出力に適用するカスケードスタイルシートを指定します。

file-specification

CSS コードを含むファイル、ファイル参照、または、URL を指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

"external-file"

外部ファイルの名称です。

要件 *external-file* を引用符で囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイル参照です。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

参照項目: FILENAME ステートメントに関する情報は、次を参照してください。*SAS ステートメント: リファレンス*

"URL"

外部ファイルへの URL です。

要件 *external-file* を引用符で囲まなければなりません。

(media-type-1 < media-type-10 >)

出力にレンダリングされるメディアの種類に対応する1つまたはそれ以上のメディアブロックを指定します。文書が、スクリーン、紙、スピーチシンセサイザー、点字装置、等々の異なるメディアにどのように提示されるか指定するために、CSS は、メディアタイプを使用します。

メディアブロックは、いかなるメディアブロックに含まれていないCSSコードを伴い出力に追加されます。*media-type* サブオプションを使用することで一般のCSSコードを伴い、特定のメディアタイプを対象とするCSSファイルの項目をインポートできます。

デフォルト: ODS ステートメントにいかなる *media-type* が指定されていないが、CSS ファイルにメディアタイプが指定されている場合、ODS は、Screen メディアタイプを使用します。

範囲: 最大、異なる10種類のメディアタイプに指定できます。

要件:

media-type を括弧で囲まなければなりません。

CSSSTYLE= オプションで指定された *file-specification* の隣に、*media-type* を指定しなければなりません。

ヒント: 複数のメディアタイプを指定した場合、出力にすべてのメディアタイプのすべてのスタイル情報が適用されます。しかし、異なるメディアブロックにおいて重複するスタイル情報が存在する場合、最後のメディアブロックのスタイルが使用されます。

要件 CSS ファイルは、ODS HTML ステートメントにより作成された CSS と同じ種類で書き込まなければなりません。ID や文脈ベースのセレクターの無いクラス

名のみがサポートされます。ODS が作成する CSS コードを閲覧するには、次の内の1つを行ってください。

- STYLESHEET= オプションを指定してください。
- HTML ファイルのソースを閲覧して、ファイルの上部の <STYLE> </STYLE> タグの間のソースを閲覧してください。

操作: STYLE= オプションおよび CSSSTYLE= オプションの両方が、ODS ステートメントに指定されている場合、最後に指定されたオプションが使用されます。

参照項目: 正しい ODS CSS ファイルの例を次に示します。“[例 6: ODS 出力へ CSS ファイルの適用](#)” (448 ページ)

DPI=

出力ファイル用の画像解像度を指定します。

デフォルト: デフォルトは、指定された PRINTER= 値のデフォルト DPI、または PRINTERPATH オプションで決定されます。

制限事項: DPI= オプションは、ファイルの最初に指定された場合にのみ、有効となります。

FILE='external-file' | ファイル参照

出力を含むファイルを指定します。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

要件 external-file を引用符で囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルリファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

制限事項: FILE= ファイル参照オプションは、NEWFILE= オプションと共に使用できません。

参照項目: FILENAME ステートメントに関する情報は、次を参照してください。
SAS ステートメント: リファレンス

デフォルト: 書き込むファイル先を指定しない場合、ODS は、1つまたは2つの SAS システムオプションで指定されたファイルに書き込みます。

SYSPRINT= ウィンドウズオペレーティング環境を使用し、次のオプションを指定していない場合、PCL、PDF、PDFMARK、PS、または、SAS

PRINTERPATH= その他のすべての場合、

システムオプションがファイルを指定しない場合、ODS は、デフォルトのプリンタに書き込みます。詳細は、PRINTER= オプションを参照してください。

操作: 開かれた ODS PRINTER 出力先に言及する ODS プリンタファミリステートメントにおいて、FILE= オプションは、ODS に出力先およびそれに関連するすべてのファイルを終了し、出力先に新しいインスタンスを開くことを強制します。詳細は、次を参照してください。“[PRINTER 出力先を開く/閉じる](#)” (551 ページ)

参照項目: FILENAME ステートメントに関する詳細は、次を参照してください。SAS ステートメント: リファレンス

GFOOTNOTE | NOGFOOTNOTE

プリンター出力を生成するグラフィックスプログラムにより定義されているフットノートのロケーションを制御します。

GFOOTNOTE

グラフィックス出力内の現在定義されているすべてのフットノートを含みます。

NOGFOOTNOTE

現在定義されているすべてのフットノートがグラフィックスファイルに表示されるのを阻止します。それらは、代わりに、プリンターファイルの一部となります。

デフォルト: GFOOTNOTE

制限事項: このオプションは、1つまたはそれ以上のデバイススペースのグラフィックスを作成する SAS プログラム または、SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたグラフィックスにのみ適用されます。

参照項目: 詳細は、“[タイトルと脚注のカスタマイズ](#)” (51 ページ) を参照してください。

GTITLE | NOGTITLE

プリンター出力を生成するプログラムにより定義されているタイトルのロケーションを制御します。

GTITLE

グラフィックス出力内の現在定義されているすべてのタイトルを含みます。

NOGTITLE

現在定義されているすべてのタイトルがグラフィックスファイルに表示されるのを阻止します。それらは、代わりに、プリンターファイルの一部となります。

デフォルト: GTITLE

制限事項: このオプションは、1つまたはそれ以上のデバイススペースのグラフィックスを作成する SAS プログラム または、SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたグラフィックスにのみ適用されます。

参照項目: 詳細は、“[タイトルと脚注のカスタマイズ](#)” (51 ページ) を参照してください。

HOST

ODS が、ホストシステムから提供されるプリンタドライバを使用することを指定します。

操作: 開かれた ODS PRINTER 出力先に言及する ODS プリンタファミリステートメントにおいて、HOST オプションは、ODS に出力先およびそれに関連するすべてのファイルを終了し、出力先に新しいインスタンスを開くことを強制します。詳細は、[を参照してください](#)。“[PRINTER 出力先を開く/閉じる](#)” (551 ページ)

(<ID=> identifier)

同時に同出力先の複数のインスタンスを開くことを可能にします。各インスタンスは、異なるオプションを有します。

identifier

文字または線で始まる数字または、文字列であることが可能です。後続の文字は、文字、アンダーライン、および数字を含むことができます。

制限事項: *identifier* が数字の場合、それは正の整数でなければなりません。

要件 ID=オプションは、出力先名の直後に指定しなければなりません。

KEYWORDS='keywords-text'

出力ファイルのメタデータにキーワードの文字列を挿入します。キーワードは、文書管理システムがトピックを基にした検索を行うことを可能にします。

keywords-text

キーワードの文字列です。

制限事項:

このオプションは、ODS PDF ステートメント、指定された PDFMARK オプションを伴う ODS PS ステートメント 並びに、PDFMARK オプションを伴う ODS PRINTER ステートメント においてのみ使用してください。

KEYWORDS= オプションは、ファイルの最初に指定された場合にのみ、有効となります。

要件 *keywords-text* を引用符で囲まなければなりません。

NEWFILE= starting-point

指定された *starting-point* で、新しいファイルを作成します。

starting-point

新しいファイルを作成すべき出力のロケーションです。

ODS は、ファイル名をインクリメントすることで自動的に新しいファイル名を付けます。次の例で、ODS は、最初のファイル名を付けます。REPORT.PS 追加のファイル名も付けます。REPORT1.PS , REPORT2.PS, 等

例

```
FILE= 'REPORT.PS'
```

starting-point は、次の内の1つです。

BYGROUP

各 BY グループの結果に対して、新しいファイルを開始します。

NONE

現在開かれているファイルのすべての出力を書きます。

OUTPUT

各出力オブジェクト用に新しいファイルを開始します。SAS/GRAPH に対して、これは、ODS がプログラムが生成した各 SAS/GRAPH 出力ファイル用に新たなファイルを作成することを意味します。

別名: TABLE

PAGE

出力の各ページ用に新たなファイルを開始します。改ページは、手順が明確に新たなページを開始(ページのサイズが足りないからではない)または、新たな工程を開始する時点で発生します。

PROC

新たな手順を開始する度に新たなボディファイルを開始します。

デフォルト: NONE

制限事項:

The NEWFILE= オプションは、FILE= ファイル参照オプションと共に使用できません。

物理プリンタに出力を送る場合、NEWFILE=オプションを使用できません。

ヒント:

ファイル名を数字で終了する場合、ODS はその数字を増加させることから始めます。次の例において、ODS は、最初のファイル *MAY5.PS* に名前を付けます。追加のボディファイルは、*MAY6.PS* と名付けられます。、*MAY7.PS* などで

例:

```
FILE= 'MAY5.PS'
```

NOTOC

PDF または PDFMARK 出力を作成する場合、デフォルトで作成された目次を ODS が削除することを指定します。

操作: NOTOC オプションは、BOOKMARKLIST=OFF および CONTENTS= OFF を指定します。

PACKAGE <package-name>

出力先からの出力が ODS パッケージに追加されることを指定します。

package-name

ODS PACKAGE ステートメントで作成されたパッケージの名称を指定します。名称が指定されていない場合、出力は、最後に開かれた名の無いパッケージに追加されます。

参照項目: “ODS PACKAGE ステートメント” (469 ページ)

PCL

PCL 出力を作成します。

制限事項: PDF または PS オプションと一緒にこのオプションを使用してはいけません。

操作: ODS PRINTER ステートメントの開かれた ODS PRINTER 出力先に言及する PCL オプションを使用する場合、そのオプションは、ODS に、出力先およびそれに関連するファイルを終了し、出力先の新しいインスタンスを開くように強制します。詳細は、次を参照してください。“PRINTER 出力先を開く/閉じる” (551 ページ)

PDF

PDF 出力を作成します。

制限事項:

このオプションを PCL または PS オプションと併せて使用してはなりません。

PDF は、2 バイト文字の Type1 フォントをサポートしません。

操作: ODS PRINTER ステートメントの開かれた ODS PRINTER 出力先に言及する PCL オプションを使用する場合、そのオプションは、ODS に、出力先およびそれに関連するファイルを終了し、出力先の新しいインスタンスを開くように強制します。詳細は、次を参照してください。“PRINTER 出力先を開く/閉じる” (551 ページ)

PDFMARK

ODS により、PostScript ファイルに特別なタグを挿入することを可能にします。Adobe Acrobat (Adobe Viewer ではなく)等のソフトウェアを使用した場合、Acrobat Distiller は、タグに次の項目を含むファイルを作成するように解釈します。

- 出力の各セクションおよび各表用のブックマーク
- URL= スタイル属性に関連するアイテムのレファレンス
- FLYOVER= スタイル属性に関連するアイテム用のノートノートはオプションであり、PDFNOTE オプションに基づいています。
- ファイルのメタデータの作者、キーワード、テーマおよびタイトル。

デフォルト: PDFMARK を使用することは、PostScript 出力を示すため、SAS は、SAS がこのオプションが提供する PostScript ドライバを自動的に使用します。

制限事項: PDFMARK オプションで、PRINTER= オプションを使用することはできません。

要件 PDF ファイルを作成するには、Adobe Acrobat Distiller 等の特別なソフトウェアを使用して、マークアップ PostScript ファイルを PDF フォーマットファイルに変換しなければなりません。

操作: 開かれた ODS PRINTER 出力先に言及する ODS プリンタファミリステートメントにおいて、PDFMARK オプションは、ODS に出力先およびそれに関連するすべてのファイルを終了し、出力先に新しいインスタンスを開くことを強制します。詳細は、次を参照してください。“PRINTER 出力先を開く/閉じる” (551 ページ)

ヒント: 出力を抽出する計画が有る場合のみこのオプションを使用してください。そうでなければ、それはリソースを使い過ぎ、結果を向上させません。

PDFNOTE | NOPDFNOTE

FLYOVER= スタイル属性に関連するアイテム用に、ノートが PDF ファイルに追加されるか否制御します。

PDFNOTE

FLYOVER= スタイル属性に関連するアイテム用に、ノートを PDF ファイルに追加します。

NOPDFNOTE

FLYOVER= スタイル属性に関連するアイテム用に、ノートがファイルに追加されないように、PDFMARK の動作を変更します。

デフォルト: PDFNOTE

制限事項: このオプションは、ODS PDF ステートメント、指定された PDFMARK オプションを伴う ODS PS ステートメント 並びに、PDFMARK オプションを伴う ODS PRINTER ステートメント においてのみ使用してください。

PDFTOC=*n*

PDF 文書の目次の拡張レベルを制御します。

n

拡張レベルを指定してください。例えば、PDFTOC=0 は、結果として、完全に拡張された目次となるが、PDFTOC=2 は、2つのレベルに拡張された目次となります。

デフォルト: 0

ヒント: PDFTOC= は、ファイルが開かれてから設定できるが、提供されたファイル用の最後の仕様のみを使用できます。

参照項目: “例: 同時に同じ出力先のインスタンスを複数開く” (499 ページ)

PRINTER= *printer-name*

指定されたプリンタ用にフォーマットされた出力を作成します。

printer-name

出力をフォーマットしたいプリンタの名称です。

別名: PRT

デフォルト: プリンタを指定しない場合、ODS は、2つの内の1つの SAS システムオプションで指定されたプリンタ用のプリンタ出力をフォーマットします。

SYSPRINT= ウィンドウズオペレーティング環境を使用し、次のオプションを指定していない場合、PCL、PDF、PDFMARK、PS、または、SASPCL

PRINTERPATH= その他すべての場合において

システムオプションがプリンタを指定しない場合、ODS は、SAS レジストリまたは、Windows レジストリで指定されているデフォルトのプリンタドライバに書き込みます。SAS レジストリにおいて、デフォルトのプリンタは、CORE ⇨ PRINTING ⇨ **デフォルトのプリンタ**に指定されています。SAS 9.3 において、デフォルトのプリンタ値は、SAS レジストリで変更できます。デフォルトのプリンタの変更に関する詳細は、“ODS の SAS レジストリ設定の変更” (44 ページ) を参照してください。

制限事項:

printer-name は、SAS レジストリまたは Windows プリンタレジストリのどちらかのサブキーと一致しなければなりません。

PCL、PDF、PDFMARK、または PS オプションと一緒に PRINTER=オプションを使用できません。

操作: 開かれた ODS PRINTER 出力先に言及する ODS プリンタファミリステートメントにおいて、PRINTER= オプションは、ODS に出力先およびそれに関連するすべてのファイルを終了し、出力先に新しいインスタンスを開くことを強制します。詳細は、次を参照してください。“[PRINTER 出力先を開く/閉じる](#)” (551 ページ)

注: *printer-name* は、物理プリンタである必要はありません。SAS に出力のフォーマット方法および出力の場所を示すための説明です。例えば、それはディスクのファイルであることも可能です。

ヒント:

プリンタの説明には、その出力先およびデバイスの種類が含まれます。SAS プリンタドライバを使用する場合は、プリンタの説明を次で検索できます。CORE ⇒ PRINTING ⇒ PRINTERS ⇒ *selected-printer* ⇒ PRINTER SETUP ⇒ OUTPUT

ウィンドウズオペレーティング環境において、ODS PRINTER ステートメントの SAS オプションを指定しない場合、プリンタの説明は、Windows レジストリに配置されます。

SAS プリント用に利用可能なプリンタは、REGEDIT コマンドを参照してください。プリンタは、Registry Editor ウィンドウで、CORE ⇒ PRINTING ⇒ PRINTERS の下にリストされています。

PS

PostScript を作成します。

別名: POSTSCRIPT

制限事項:

このオプションを PDF または PCL オプションと一緒に使用してはなりません。PDF は、2 バイト文字の Type1 フォントをサポートしません。

操作: ODS PRINTER ステートメントの開かれた ODS PRINTER 出力先に言及する PS オプションを使用する場合、そのオプションは、ODS に、出力先およびそれに関連するファイルを終了し、出力先の新しいインスタンスを開くように強制します。詳細は、次を参照してください。“[PRINTER 出力先を開く/閉じる](#)” (551 ページ)

ヒント: このオプションを指定することは、SAS オプションおよび PRINTER= POSTSCRIPT の両方を指定することに等しくなります。

STARTPAGE=NEVER | NO | NOW | YES | BYGROUP

改ページを制御します。

BYGROUP

各 BY グループの後に、改ページを挿入することを指定します。

NEVER

グラフィックスプロシジャの前でも改ページを挿入してはならないことを指定します。

注意:

各グラフは、通常ページ全体を必要とします。デフォルトの動作は、グラフィックスプロシジャの後に新しいページを強制します。STARTPAGE=NEVER は、その動作をオフにするため、STARTPAGE= NEVER を指定することで、グラフィックスが刷り重ねる可能性があります。

NO

プロシジャコードにより新しいページが要求された場合でも、各プロシジャの始め、または特定のプロシジャの範囲内に新しいページを挿入できないことを指定します。ページが埋まっている場合、または STARTPAGE=NOW を指定した場合にのみ、新しいページが開始されます。

注意:

各グラフは、通常、ページ全体を必要とします。デフォルトの動作は、STARTPAGE=NO を使用した場合でも、グラフィックスプロシジャの後に新しいページを強制します。STARTPAGE=NEVER は、その動作をオフにするため、STARTPAGE= NEVER を指定することで、グラフィックスが刷り重ねる可能性があります。

別名: OFF

ヒント: STARTPAGE=NO を指定した場合、このオプションの設定に関わらず、物理ページの上部と下部のみに、システムのタイトルおよびフットノートが作成されます。すなわち、このオプションが指定された場合に、指定したいいくつかのシステムタイトルおよびフットノートは表示されない可能性があります。

NOW

新しいページの即時の挿入を強制します。

ヒント: このオプションは、主に、STARTPAGE= オプションの現行の値が NO の場合に、便利です。そうでなければ、それぞれの新たなプロシジャは、自動的に新しいページを強制します。

YES

プロシジャコードに要求された通りに、各プロシジャの始め、または特定のプロシジャの範囲内に新しいページを挿入します。

別名: ON

デフォルト: YES

STYLE=style-definition

PDF 出力を書くために使用するスタイル定義を指定します。

デフォルト: スタイル定義を使用しない場合、ODS は、SAS レジストリのサブキーに指定されているスタイル定義を使用します。ODS ⇒ DESTINATIONS ⇒ PRINTER PRINTER、PDF、および PS 出力先用の値は Printer で、PCL 出力先の値は、MonochromePrinter となります。

参照項目:

スタイル定義に関する詳細は、次を参照してください。“スタイルの操作”(945 ページ)

ユーザー定義されたスタイル定義を作成する手順は、次を参照してください。13 章, “TEMPLATE プロシジャ: スタイルテンプレートの作成”(941 ページ)

SUBJECT='subject-text'

指定した文字列をファイルのメタデータの主題として挿入します。

subject-text

主題として示されているファイルのメタデータのテキストです。

制限事項:

このオプションは、ODS PDF ステートメント、指定された PDFMARK オプションを伴う ODS PS ステートメント 並びに、PDFMARK オプションを伴う ODS PRINTER ステートメントにおいてのみ使用してください。

SUBJECT= オプションは、ファイルの最初に指定された場合にのみ、有効となります。

要件 *subject-text* を引用符で囲まなければなりません。

TEXT='text-string'

出力にテキストを挿入します。

text-string

出力に挿入すべきテキストです。

要件 *text-string* を引用符で囲まなければなりません。

ヒント: 1 つ以上の手順ステップを提出する場合、STARTPAGE=NO オプションを指定しない場合、出力の前に各プロシジャは、新しいページを強制します。そのため、TEXT=で指定したいかなるテキストは、以前のプロシジャと同じページに配置されます。

参照項目: “例: 出力オブジェクトを条件付きで除外し、別の出力先に送信する” (235 ページ)

TITLE='title-text'

タイトルとして指定した文字列を、ファイルのメタデータに挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

制限事項:

このオプションは、ODS PDF ステートメント、指定された PDFMARK オプションを伴う ODS PS ステートメント 並びに、PDFMARK オプションを伴う ODS PRINTER ステートメントにおいてのみ使用してください。

The TITLE= オプションは、ファイルの最初に指定された場合にのみ、有効となります。

要件 *title-text* を引用符で囲まなければなりません。

UNIFORM

multi-page 表用に、単一の表の範囲内で、ページ間の統一性を保証します。UNIFORM オプションが有効な場合、ODS は、すべてのデータに対応するために、欄の幅などを判断するため、プリントを開始する前に表全体を読み込みます。これらの欄の幅は、複数のページに渡る表のすべてのページに適用されます。

デフォルト: UNIFORM オプションを指定しない場合、ODS は、1 ページ毎に表をプリントします。このアプローチは、SAS が非常に大きい表を処理している途中で、メモリ不足に陥らないことを保証します。しかし、これは、欄の幅がそれぞれページ毎に異なることも意味します。

注: BY-group 処理で、SAS は、各グループの結果を別の表に記述するため、出力が BY グループ間で一定でない可能性があります。

ヒント: UNIFORM オプションは、非常に大きな容量の表をプリントする場合に、SAS にメモリ不足に陥らせる可能性があります。これが発生した場合、表の各欄の幅を明確に設定し、表を1ページ毎にプリントしてください。それをするには、使用する表の定義を編集しなければなりません。詳細は、次を参照してください。“テーブルテンプレートを使用して実行可能な操作” (1060 ページ)

詳細

PRINTER 出力先を開く閉じる

開いている PRINTER 出力先は、多くの ODS PRINTER オプションを使用して変更できます。しかし、FILE=、HOST、PCL、PDF、PDFMARK、PRINTER=、PS、SAS のいずれかのオプションにより、オープン PRINTER 出力先で 次の操作が実行されます。

- ODS PRINTER ステートメントで参照されている開いた出力先を閉じます。
- 開いている RTF 出力先に関連するすべてのファイルを閉じます。
- RTF 出力先の新規インスタンスを開きます。

上記オプションのいずれかを使用した場合、出力先を明示的に閉じることをお勧めします。

たとえば、次の ODS プログラムでは、第 2 の ODS PRINTER ステートメントは、最初の ODS PRINTER ステートメントにより開かれた PRINTER 出力先を閉じます。したがって、ファイル Bankerstyle.ps はジャーナルスタイルでフォーマットされる出力を含みません。しかし、第 2 の ODS PRINTER ステートメントは、ODS PS ステートメントに

より開かれた出力先に影響を与えません。PS 出力先は開いたままであり、ファイル `nostyle.ps` は修正できます。

ODS PRINTER ステートメントによって、PRINTER 出力先が開かれ、PostScript 出力が作成されます。

```
ods printer ps style=banker file='bankerstyle.ps';
proc print data=statepop;
run;
```

ODS PS ステートメントによって、PS 出力先が開かれ、PostScript 出力が作成されま
ず。

```
ods ps file='nostyle.ps';
proc print data=statepop;
run;
```

ODS PRINTER ステートメントによって、PRINTER 出力先とその関連ファイルのすべてが閉じられます。そして、PRINTER 出力先の新しいインスタンスが開かれ、PostScript 出力が作成されます。

```
ods printer ps style=Journal file='Journalstyle.ps';
proc print data=statepop;
run;
ods printer ps close;
ods ps close;
```

プリンタに直接出力する

ODS PRINTER ステートメントを使用してプリンタに直接出力する方法は、ホストオペレーティング環境によって異なります。

注: z/OS、UNIX、または VMS のオペレーティング環境においてプリンタで直接出力を印刷するには、FILENAME ステートメントが使えます。FILENAME ステートメントを使用するときは、オペレーティング環境に関する詳しい情報が必要です。このステートメントを使用する前に、オペレーティング環境の SAS ドキュメンテーションを参照してください。オペレーティング環境によっては、ファイル参照とファイルとを関連づけるコマンド、またその関連を停止するコマンドが利用可能な場合があります。

表 6.9 SAS 出力をプリンタに送る方法

プラットフォーム	SAS 出力をプリンタに送る方法
z/OS	<p>SYSOUT=データセットオプション仕様の FILENAME ステートメントを使用します。次に、ファイル参照に印刷できます。</p> <p>構文:</p> <pre>filename your-fileref sysout=a dest=printer-name; ods printer file=your-fileref;</pre> <p>例:</p> <pre>filename local sysout=a dest=chpljj21; ods printer file=local;</pre>

プラットフォーム	SAS 出力をプリンタに 送る方法
UNIX	<p>ファイル参照と <code>lpr</code> 印刷コマンドとを 関連付ける PIPE コマンドで、FILENAME ステートメントを使用します。</p> <p>構文:</p> <pre>filename your-fileref pipe 'lpr -P printer-name'; ods printer file=your-fileref;</pre> <p>例:</p> <pre>filename local pipe 'lpr -P chpljj21'; ods printer file=local;</pre>
VMS	<p>印刷可能なプリンタファイル参照を 作成するように指定されたプリンタデバイスタイプと FILENAME ステートメントを使用します。</p> <p>構文:</p> <pre>filename your-fileref printer passall=yes queue=printer-name; ods printer file=your-fileref;</pre> <p>例:</p> <pre>filename local printer passall=yes queue=chpljj21; ods printer file=local;</pre>
Windows	<p>デフォルトのプリンタで 印刷する場合は、このコードを使用します。</p> <p>構文:</p> <pre>ods printer;</pre> <p>デフォルトでないプリンタで 印刷する場合は、プリンタ名を指定するために、PRINTER = オプションを使用します。</p> <p>構文:</p> <pre>ods printer printer=printer-name;</pre> <p>例:</p> <pre>ods printer printer=chpljj21;</pre> <p>どのプリンタが利用可能かを 調べるためには、開始 ⇨ 設定 ⇨ プリンタ をタスクバーから選びます。プリンタがリストにある場合は、ODS PRINTER ステートメントでそれを使用できます。プリンタ名にスペースがある場合は、プリンタ名を引用符で括ってください。</p>

Windows での ODS PRINTER の使用

Windows オペレーティング環境において、PRINTER = オプションを使用して異なるプリンタを指定していない場合、ODS PRINTER ステートメントがデフォルトの Windows プリンタにフォーマットされた出力先が作られます。[PRINTER=オプション \(548 ページ\)](#)を参照。適切なオプションを使用することで、PCL、PDF、または PostScript フォーマットで印刷可能な出力が作り出されます。

SAS 9.3 において、SAS レジストリのデフォルトのプリンタ値を変更できます。“[ODS の SAS レジストリ設定の変更](#)” (44 ページ)この“デフォルトプリンタ”の属性およびその修正方法についての 詳細は次を参照してください。

他のすべてのホストでの ODS PRINTER の使用

他のオペレーティング環境において ODS PRINTER ステートメントを使用するとき、ODS により SAS ドライバが使用され、PCL、PDF または PostScript フォーマットで出力されます。SAS レジストリにおいてデフォルトの変更をしていない場合、ODS PRINTER ステートメントにより、PostScript 出力ファイルが作られます。適切なオペレーティングやレジストリ設定を使用して、PCL または PDF フォーマットで印刷可能な出力も作られます。“ODS の SAS レジストリ設定の変更” (44 ページ) この“デフォルトプリンタ”の属性およびその修正方法については次を参照してください。

PDF セキュリティ

PDF 出力ファイルを簡単に暗号化し、パスワードで保護することができます。次の 2 つのレベルのセキュリティが利用可能です。40bit(低) および 128bit(高)。この 2 つの設定いずれにおいても、ODS で作られた PDF ファイルを開くために、パスワードが必要です。

暗号化とパスワード保護を有効にするには、OPTIONS ステートメントを指定する必要があります。次のコードは、低レベルの暗号化によって PDF 出力ファイルを暗号化する方法を示しています。作成された PDF ファイルは、パスワードで保護されます。

```
options pdfsecurity=low pdfpw=(open=testpw);
```

次のコードは、パスワードで保護された高レベルの暗号化によって PDF 出力ファイルを暗号化する方法を示しています。

```
options pdfsecurity=high pdfpw=(open=testpw);
```

次のコードは、PDF 出力先で使用される PDF セキュリティオプションを示しています。

```
options pdfsecurity=high pdfpw=(open=testpw);
ods pdf file="secure.pdf";
proc contents data=sashelp.class;
run;
ods pdf close;
```

PDF セキュリティオプションについての詳細は、次を参照してください。“ODS によって生成された PDF ファイルの保護” (51 ページ)。

注: 暗号化には、Acrobat のバージョン 5.0 以降が必要です。

PDF ビュー

システムオプションの PDFPAGELAYOUT および PDFPAGEVIEW によって、PDF ドキュメントの表示方法をコントロールできます。この PDFPAGELAYOUT システムオプションはページレイアウトをコントロールします。この設定は、ドキュメントが開いているとき Adobe Acrobat Reader において、ビュー ⇒ ページディスプレイを選択するのと同じです。この PDFPAGEVIEW システムオプションは、ページビューモードをコントロールします。この設定は、ビュー ⇒ ズームを Adobe Acrobat Reader で選択するのと同じです。

このシステムオプションについての詳細は、SAS システムオプション: リファレンス 次を参照してください。

例: HTML 出力先と PRINTER 出力先の出力の選択

要素:

```
ODS _ALL_ CLOSE
```

```
ODS HTML ステートメント:
```

```
BODY=
```

ODS PRINTER ステートメント

```
FILE=
PS
```

ODS LISTING ステートメント

```
CLOSE
```

ODS SELECT ステートメント

```
ラベル付
名前付
パス付
```

他の要素:

```
PROC UNIVARIATE
```

データセット:

```
StatePop
```

この例では、UNIVARIATE 手順から、3 つのシステムオプションを選択し、HTML 出力先と PRINTER 出力先の両方に送ります。

プログラム

```
title;

options nodate nonumber;

ods html body='your_file.html';

ods printer ps file='your_file.ps';

ods select BasicMeasures
'Tests For Location'
Univariate.CityPop_90.ExtremeObs;

proc univariate data=statepop mu0=3.5;
var citypop_90 citypop_80;
run;

ods printer close;
```

プログラムの説明

```
title;
```

SAS システムオプションを設定します。 OPTIONS ステートメントは、PRINTER 出力のいくつかの様相を制御します。NODATE システムオプションは SAS が日付と時間を印刷しないように指定します。NONUMBER オプションは、出力の各ページの最初のタイトル行にページ番号を印刷しないよう SAS に命令するためのものです。これらのオプションは、HTML 出力には影響しません。

```
options nodate nonumber;
```

HTML 出力を作成します。 BODY= オプションは、すべての出力オブジェクトを指定した外部ファイルへ送ります。ブラウザによっては、ファイル名に HTM や HTML の拡張子が必要です。

```
ods html body='your_file.html';
```

PostScript 出力を作成します。 ODS PRINTER ステートメントは PRINTER 出力先を開き、PS オプションは PostScript 出力を指定します。FILE=すべての出力オブジェクトを指定した外部ファイルへ送ります。

```
ods printer ps file='your_file.ps';
```

オープン出力先へ送るには、出力オブジェクトを指定します。ODS SELECT ステートメントは、すべてのオープン出力先へ送るために、3つの出力オブジェクトを指定します。最初の出力オブジェクトは、名前で選択します。(例:BasicMeasures)2番目の出力オブジェクトは、ラベルで選択します。(例:Tests For Location)この2つの選択基準は、両方の変数分析のオブジェクトとして出力オブジェクトを選択します。3番目の出力オブジェクトはそのフルパスで選択します。(例:Univariate.CityPop_90.ExtremeObs)この選択基準は、1つの変数(例:CityPop_90)のみで出力オブジェクトを選択します。

```
ods select BasicMeasures
'Tests For Location'
Univariate.CityPop_90.ExtremeObs;
```

2つの変数の記述統計を計算します。PROC UNIVARIATE は、CityPop_80 および CityPop_90 という2つの変数の記述統計を計算します。ODS は、選択した出力オブジェクトを HTML および PRINTER 出力先へ送ります。

```
proc univariate data=statepop mu0=3.5;
var citypop_90 citypop_80;
run;
```

出力を表示したり印刷したりできるように、開いている出力先を閉じます。ODS PRINTER CLOSE ステートメントによって、PRINTER 出力先とその関連ファイルのすべてが閉じられます。出力を物理プリンタに送るには、プリンタ出力先を閉じる必要があります。

```
ods printer close;
```

HTML 出力

HTML 出力には、CityPop_90 変数用の3つの出力オブジェクトと、CityPop_80 変数用の2つの出力オブジェクトが含まれます。

アウトプット 6.27 HTML 出力は、CityPop_90 変数および CityPop_80 変数用です。

The UNIVARIATE Procedure
Variable: CityPop_90 (1990 metropolitan pop in millions)

Basic Statistical Measures			
Location		Variability	
Mean	3.877020	Std Deviation	5.16465
Median	2.423000	Variance	26.67364
Mode	.	Range	28.66500
		Interquartile Range	3.60000

Tests for Location: Mu0=3.5				
Test		Statistic	p Value	
Student's t	t	0.521324	Pr > t	0.6044
Sign	M	-9.5	Pr >= M	0.0110
Signed Rank	S	-147	Pr >= S	0.1706

Extreme Observations			
Lowest		Highest	
Value	Obs	Value	Obs
0.134	41	10.083	9
0.152	3	12.023	18
0.191	39	14.166	26
0.221	36	16.515	7
0.226	50	28.799	49

The UNIVARIATE Procedure
Variable: CityPop_80 (1980 metropolitan pop in millions)

Basic Statistical Measures			
Location		Variability	
Mean	3.468471	Std Deviation	4.42799
Median	2.114000	Variance	19.60710
Mode	.	Range	22.77400
		Interquartile Range	3.21000

Tests for Location: Mu0=3.5				
Test	Statistic		p Value	
Student's t	t	-0.05085	Pr > t	0.9596
Sign	M	-10.5	Pr >= M	0.0046
Signed Rank	S	-190	Pr >= S	0.0746

プリンタ出力

プリンタ出力には、CityPop_90 変数用の 3 つの出力オブジェクトと、CityPop_80 変数用の 2 つの出力オブジェクトが含まれます。

アウトプット 6.28 CityPop_90 変数および CityPop_80 変数用の部分 PostScript 出力

The UNIVARIATE Procedure
Variable: CityPop_90 (1990 metropolitan pop in millions)

Basic Statistical Measures			
Location		Variability	
Mean	3.877020	Std Deviation	5.16465
Median	2.423000	Variance	26.67364
Mode	.	Range	28.66500
		Interquartile Range	3.60000

Tests for Location: Mu0=3.5			
Test	Statistic	p Value	
Student's t	t	0.521324	Pr > t 0.6044
Sign	M	-9.5	Pr >= M 0.0110
Signed Rank	S	-147	Pr >= S 0.1706

Extreme Observations			
Lowest		Highest	
Value	Obs	Value	Obs
0.134	41	10.083	9
0.152	3	12.023	18
0.191	39	14.166	26
0.221	36	16.515	7
0.226	50	28.799	49

ODS PROCLABEL ステートメント

プロシジャラベルの変更を可能にします。

Valid in: 任意の場所

Category: ODS: 出力制御 I

Interaction: このステートメントは、プロシジャラベルがオプションではない、出力先を除いて、すべての開かれた出力先に適用されます。しかし、この設定は、単一のプロシジャステップの間のみ続行します。各プロシジャステップ用に、ODS PROCTITLE ステートメントを発行する必要があります。

Syntax

```
ODS PROCLABEL 'string';
ODS PROCLABEL='string';
```

Required Argument

'string'

指定したプロシジャラベルです。

Interaction: NOLABEL システムオプションが、ODS PROCLABEL ステートメントをオーバーライドします。ODS PROCLABEL ステートメントを使用してラベルを作成する場合に、LABEL システムオプションも指定する必要があります。

Details

ODS PROCLABEL は、目次の外側のリストのアイテム名に影響を与えます。

See Also

システムオプション

- LABEL システムオプション

ODS PROCTITLE ステートメント

出力の結果を生成するプロシジャを識別するタイトルを書き込むか決定します。

Valid in: 任意の場所

Category: ODS: 出力制御

Interaction: このステートメントは、プロシジャラベルがオプションではない、出力先を除いて、すべての開かれた出力先に適用されます。この設定は、ODS NOPROCTITLE ステートメントを発行するまで続きます。各プロシジャステップ用に、ODS PROCTITLE ステートメントを発行する必要はありません。

Syntax

```
ODS PROCTITLE;
ODS NOPROCTITLE;
```

Required Arguments

ODS PROCTITLE

結果を生成するプロシジャを出力に書き込みます。

Note: プロシジャの全部が、プロシジャタイトルを使用する訳ではありません。

Default: ODS PROCTITLE は、デフォルトです。

ODS NOPROCTITLE

結果を生成するプロシジャのタイトルの書き込みを非表示にします。

Details

次の表は、ODS PROCTITLE ステートメントのエイリアスをリストします。

表 6.10 ODS PROCTITLE 用のエイリアス

ステートメント	エイリアス
ODS PROCTITLE	ODS PROCTITLE=ON
	ODS PTITLE
	ODS PTITLE=ON
	ODS PTITLE=YES
ODS NOPROCTITLE	ODS PROCTITLE=OFF
	ODS NOPTITLE
	ODS PTITLE=OFF
	ODS PTITLE=NO

ODS PS ステートメント

PostScript (PS)出力を作成する PS 出力先に対して開く、管理するおよび閉じる処理を行います。

Valid in: どこでも

Category: ODS: サードパーティにフォーマットされた

Restriction: PS では、全角タイプ1フォントはサポートされません。

Interaction: デフォルトでは、FORMCHAR システム オプション(たとえば、PROC PLOT または PROC CHART)を使用するプロシジャを実行したとき、ODS によって出力は SAS モノスペースフォントでフォーマットされます。作成された出力は、SAS ソフトウェアが インストールされていない動作環境では正しく表示されません。これは、SAS がなければ、SAS 固定スペースフォントが認識されないからです。ドキュメントを正しく表示させるには、SAS プログラム以前に次のプログラムを含めてください。

```
OPTIONS FORMCHAR="|----|+|---+=|/\<>*" ;
```

Note: デフォルトでは、ODS PS ステートメントによって、PNG 画像が作成されます。

CAUTION: PostScript 出力については、オンラインビューアまたはプリンタが OPTIONS PAPERSIZE=ステートメントによって指定された値と同じ用紙サイズを使用するように設定されていることを確認します。設定を間違えると、出力の一部が表示されない場合があります。

Syntax

ODS PS <(<ID=> 識別子)> <アクション>;

ODS PS <(<ID=> 識別子)> <オプション>;

Summary of Optional Arguments

<ID=> *identifier*

同時に同出力先の複数のインスタンスを開いてください。

ANCHOR=*'anchor-name'*

現行のファイルの各出力オブジェクトを識別するアンカータグのルート名を指定してください。

AUTHOR= '*author-text*'

ファイルのメタデータに、作者と指定したテキストの文字列を挿入してください。

BASE= '*base-text*'

ODS が、ファイルで作成するすべてのレファレンスの最初の部分に使用する文字列を指定してください。

BOOKMARKGEN | **NOBOOKMARKGEN** | **BOOKMARKGEN**=

PDF および PS ファイルのブックマークの生成を制御してください。

BOOKMARKLIST= **HIDE** | **NONE** | **SHOW**

PDF および PS ファイル用のブックマークのリストを作成ならびに表示するか指定してください。

CLOSE

出力先およびそれに関連するファイルを終了してください。

COLOR=**FULL** | **GRAY** | **MONO** | **NO** | **YES**

出力に指定されたカラースキームを適用してください。

COLUMNS=*n*

出力の各ページに作成する欄の数を指定してください。

CSSSTYLE= '*file-specification*' <(<*media-type-10*>)>

出力に適用するカスケードスタイルシートを指定してください。

DPI=

出力イメージ用の画像解像度をインチ毎のドットで指定してください。

EXCLUDE *除外* | **ALL** | **NONE**

出力先から出力オブジェクトを除外してください。

FILE= '*external-file*' | *ファイル参照*

書き込む先のファイルを指定してください。

GFOOTNOTE | **NOGFOOTNOTE**

グラフィックス出力においてフットノートがプリントされるロケーションを指定してください。

GTITLE | **NOGTITLE**

グラフィックス出力のタイトルがプリントされているロケーションを制御してください。

KEYWORDS= '*keywords-text*'

出力ファイルのメタデータにキーワードの文字列を挿入してください。

NEWFILE= *starting-point*

指定された *starting-point* で、新しいファイルを作成してください。

PACKAGE <*package-name*>

出力先からの出力が ODS パッケージに追加されることを指定してください。

PDFMARK

PostScript ファイルを PDF ファイルに変換する際に使用される 特別なマークアップを挿入してください。

PDFNOTE | **NOPDFNOTE**

FLYOVER= スタイル属性に関連するアイテム用に、ノートが PDF ファイルに追加されるか否か制御してください。

SELECT *選択* | **ALL** | **NONE**

出力先用に出力オブジェクトを選択してください。

SHOW

SAS ログに出力先用の現行の選択または除外リストを書き込んでください。

STARTPAGE=**NEVER** | **NO** | **NOW** | **YES** | **BYGROUP**

改ページを制御してください。

STYLE=*style-definition*

PDF 出力を書くために使用するスタイル定義を指定してください。

TEXT=*'text-string'*

出力にテキストを挿入してください。

UNIFORM

multi-page 表用に、単一の表の範囲内で、ページ間の統一性を提供します。

Without Arguments

ODS PS ステートメントをアクションまたはオプションなしで使用する場合、それによって PS 出力先が開かれ、PostScript 出力が作成されます。

Actions

ODS PS ステートメントでは、次のアクションが利用可能です。

CLOSE

出力先およびそれに関連するファイルを終了します。プリンタの出力先の場合、出力先を終了するまでファイルをプリントできません。

Tip: ODS 出力先が終了した場合、ODS は、その出力先に出力を送りません。不要な出力先を終了することで、システムリソースの節減します。

EXCLUDE *除外* | ALL | NONE

出力先から1つまたはそれ以上の出力オブジェクトを除外します。

Default: NONE

Restriction: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

See: “ODS EXCLUDE ステートメント” on page 232

SELECT *選択* | ALL | NONE

指定された出力先用に出力オブジェクトを選択します。

Default: ALL

Restriction: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

See: “ODS SELECT ステートメント” on page 598

SHOW

SAS ログに出力先用の現行の選択または除外リストを書き込みます。

Restriction: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

Tip: 選択または除外リストがデフォルトのリスト(SELECT ALL)である場合、SHOW は、全体の選択または除外リストも書きます。選択または除外リストに関する詳細は、を “[選択リストと除外リスト](#)” on page 49 参照してください。

See: “ODS SHOW ステートメント” on page 614

Optional Arguments**ANCHOR=***'anchor-name'*

現行のファイルの各出力オブジェクトを識別するアンカータグのルート名を指定します。

各出力は、ブックマークがレファレンスするためにアンカータグが必要になります。ODS により自動的に作成されるレファレンスは、アンカー名を指します。そのため、ファイルの各アンカー名はユニークでなければなりません。

anchor-name

現行のファイルの各出力オブジェクトを識別するアンカータグのルート名です。

ODS 名を作成します。例えば、ANCHOR='TABULATE', を指定した場合、ODS は最初のアンカーに *tabulate* と名前を付けます。2番目のアンカー名が *tabulate1* で、3番目が *tabulate2*、と名称が続きます。

Requirement: *anchor-name* を引用符で囲まなければなりません。

Alias: NAMED_DEST= | BOOKMARK=

Restriction: このオプションは、ODS PDF ステートメント、指定された PDFMARK オプションを伴う ODS PS ステートメント 並びに、PDFMARK オプションを伴う ODS PRINTER ステートメント においてのみ使用してください。

Tips:

プログラムのいかなる場所の有効なステートメントに ANCHOR=オプションを提出することで、何度でもアンカー名を変更できます。アンカー名を指定した後に、新しいものを指定するまで有効になります。

プログラムの様々なポイントで、新しいアンカー名を指定することは、PRINTER 出力の指定された箇所にリンクしたい場合に便利です。アンカー名が変更する場所を制御できるため、それらの箇所でアンカー名がどう変わるか事前に分かります。

AUTHOR='author-text'

ファイルのメタデータに、作者と指定したテキストの文字列を挿入します。

author-text

作者を示す開かれたファイルのメタデータにあるテキストです。

Restrictions:

このオプションは、ODS PDF ステートメント、指定された PDFMARK オプションを伴う ODS PS ステートメント 並びに、PDFMARK オプションを伴う ODS PRINTER ステートメント においてのみ使用してください。

AUTHOR=オプションは、ファイルの最初に指定されている場合のみ有効です。

Requirement: *author-text* を引用符で囲まなければなりません。

BASE='base-text'

ODS が、ファイルで作成するすべてのレファレンスの最初の部分に使用するテキストを指定します。

base-text

ODS が、ファイルで作成するすべてのレファレンスの最初の部分に使用するテキストです。

次の仕様を考慮してください。:

```
BASE='http://www.your-company.com/local-url/'
```

この場合、ODS は、この文字列で始まるレファレンスを作成します。http://www.your-company.com/local-url/ 適切な *anchor-name* がリンクを完成します。

Restriction: このオプションは、ODS PDF ステートメント、指定された PDFMARK オプションを伴う ODS PS ステートメント 並びに、PDFMARK オプションを伴う ODS PRINTER ステートメント においてのみ使用してください。

Requirement: *base-text* を引用符で囲まなければなりません。

BOOKMARKLIST= HIDE | NONE | SHOW

PDF および PS ファイル用のブックマークのリストを作成ならびに表示するか指定します。

HIDE

PDF および PS ファイル用のブックマークのリストを作成します。PDF および PS ファイルを開いた際に、ブックマークは自動的に表示されません。

NONE

PDF および PS ファイル用にブックマークのリストを生成しないように指定します。

Aliases:

NO | OFF

NOBOOKMARKLIST is an alias for BOOKMARKLIST=NONE | NO | OFF

SHOW

PDF および PS ファイル用のブックマークのリストを作成します。PDF および PS ファイルを開いた際に、ブックマークは自動的に表示されます。

Aliases:

YES | ON

BOOKMARKLIST is an alias for BOOKMARKLIST=SHOW | YES | ON

Default: SHOW**Restrictions:**

このオプションは、出力先を初めて開く時のみ設定可能です。

このオプションは、PDF、PDFMARK、PS 出力を作成する場合にのみ有効です。

Interaction: NOTOC オプションは、BOOKMARKLIST= OFF と CONTENTS= OFF を指定します。

Note: ブックマークの生成は、このオプションの設定の影響を受けません。ブックマークは、BOOKMARKGEN=オプションにより生成されます。

BOOKMARKGEN | NOBOOKMARKGEN | BOOKMARKGEN=
PDF および PS ファイルのブックマークの生成を制御します。

BOOKMARKGEN

PDF および PS ファイルでブックマークを生成するように指定します。

BOOKMARKGEN=

PDF および PS ファイルのブックマークの生成を制御します。

NO

PDF および PS ファイルでブックマークを生成しないように指定します。

Alias: OFF

YES

PDF および PS ファイルでブックマークを生成するように指定します。

Alias: ON

NOBOOKMARKGEN

PDF および PS ファイルでブックマークを生成しないように指定します。

Default: YES or BOOKMARKGEN

Interaction: BOOKMARKGEN=NO に設定した場合、BOOKMARKLIST オプションも NO に設定されます。

COLOR=FULL | GRAY | MONO | NO | YES

かに指定されたカラースキームを適用します。

FULL

テキストおよびグラフィックスの両方のために、フルカラー 出力を作成します。

GRAY

テキストおよびグラフィックスの両方のために、グレースケール出力を作成します。

Alias: GREY

MONO

テキストおよびグラフィックスの両方のために、ニーモニック出力を作成します。

Alias: BW

NO

スタイル定義が提供するすべての色情報を使用しません COLOR=NO とした場合に、出力先は、次の操作を行います。:

- 黒と白の出力を生成します。
- すべてのテキストと線を黒で作成します。
- SAS/GRAPH 出力をグレースケールで作成するように、SAS/GRAPH デバイスを設定します。
- 表の線をプリントするかどうかの判断目的を除いて、スタイル定義の背景色の仕様は無視されます。

YES

背景色を含め、スタイル定義が提供するすべての色情報を使用します。カラーでプリントするには、次の操作も行わなければなりません。

- カラーでプリントできるプリンターを使用してください。
- COLORPRINTING SAS システムオプションを使用してください。COLORPRINTING システムオプションに関する詳細は、次を参照してください。SAS システムオプション: リファレンス

Default: YES

Tip: カラーをサポートしないプリンターのカラー出力を選択した場合、出力が読みにくくなる場合があります。

COLUMNS=*n*

出力の各ページに作成する欄の数を指定します。

n

ページ毎の番号欄です。

Default: 1

CSSSTYLE='file-specification'<(<media-type-10>)>

出力に適用するカスケードスタイルシートを指定します。

file-specification

CSS コードを含むファイル、ファイル参照、または、URL を指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

"external-file"

外部ファイルの名称です。

Requirement: *external-file* を引用符で囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルリファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

See: FILENAME ステートメントに関する情報は、次を参照してください。

SAS ステートメント: リファレンス

"URL"

外部ファイルへの URL です。

Requirement: *external-file* を引用符で囲まなければなりません。

(*media-type-1* < *media-type-10* >)

出力にレンダリングされるメディアの種類に対応する1つまたはそれ以上のメディアブロックを指定します。文書が、スクリーン、紙、スピーチシンセサイザー、点字装置、等々の異なるメディアにどのように提示されるか指定するために、CSS は、メディアタイプを使用します。

メディアブロックは、いかなるメディアブロックに含まれていないCSSコードを伴い出力に追加されます。*media-type* サブオプションを使用することで一般のCSSコードを伴い、特定のメディアタイプを対象とするCSSファイルの項目をインポートできます。

Default: ODS ステートメントにいかなる *media-type* が指定されてないが、CSS ファイルにメディアタイプが指定されている場合、ODS は、Screen メディアタイプを使用します。

Range: 最大、異なる10種類のメディアタイプに指定できます。

Requirements:

media-type を括弧で囲まなければなりません。

CSSSTYLE= オプションで指定された *file-specification* の隣に、*media-type* を指定しなければなりません。

Tip: 複数のメディアタイプを指定した場合、出力にすべてのメディアタイプのすべてのスタイル情報が適用されます。しかし、異なるメディアブロックにおいて重複するスタイル情報が存在する場合、最後のメディアブロックのスタイルが使用されます。

Requirement: CSS ファイルは、ODS HTML ステートメントにより作成された CSS と同じ種類で書き込まなければなりません。ID や文脈ベースのセレクターの無いクラス名のみがサポートされます。ODS が作成する CSS コードを閲覧するには、次の内の1つを行ってください。

- STYLESHEET= オプションを指定してください。
- HTML ファイルのソースを閲覧して、ファイルの上部の <STYLE> </STYLE> タグの間のソースを閲覧してください。

Interaction: STYLE= オプションおよび CSSSTYLE= オプションの両方が、ODS ステートメントに指定されている場合、最後に指定されたオプションが使用されます。

See: 正しい ODS CSS ファイルの例を次に示します。“[例 6: ODS 出力へ CSS ファイルの適用](#)” on page 448

DPI=

出力ファイル用の画像解像度を指定します。

Default: 150

Restriction: DPI= オプションは、ファイルの最初に指定された場合にのみ、有効となります。

FILE='external-file' | ファイル参照

出力を含むファイルを指定します。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

Requirement: *external-file* を引用符で囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

Restriction: FILE=ファイル参照オプションは、NEWFILE= オプションと共に使用できません。

See: FILENAME ステートメントに関する情報は、次を参照してください。SAS ステートメント: リファレンス

Default: 書き込むファイル先を指定しない場合、ODS は、1つまたは2つの SAS システムオプションで指定されたファイルに書き込みます。

SYSPRINT= ウィンドウズオペレーティング環境を使用し、次のオプションを指定していない場合、PCL、PDF、PDFMARK、PS、または、SAS

PRINTERPATH= その他のすべての場合、

システムオプションがファイルを指定しない場合、ODS は、デフォルトのプリンタに書き込みます。詳細は、PRINTER= オプションを参照してください。

Interaction: 開かれた ODS PRINTER 出力先に言及する ODS プリンタファミリステートメントにおいて、FILE= オプションは、ODS に出力先およびそれに関連するすべてのファイルを終了し、出力先に新しいインスタンスを開くことを強制します。詳細は、次を参照してください。“[PRINTER 出力先を開く/閉じる](#)” on [page 551](#)

See: FILENAME ステートメントに関する詳細は、次を参照してください。SAS ステートメント: リファレンス

GFOOTNOTE | NOGFOOTNOTE

プリンター出力を生成するグラフィックスプログラムにより定義されているフットノートのロケーションを制御します。

GFOOTNOTE

グラフィックス出力内の現在定義されているすべてのフットノートを含みます。

NOGFOOTNOTE

現在定義されているすべてのフットノートがグラフィックスファイルに表示されるのを阻止します。それらは、代わりに、プリンターファイルの一部となります。

Default: GFOOTNOTE

Restriction: このオプションは、1つまたはそれ以上のデバイスベースのグラフィックスを作成する SAS プログラム または、SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたグラフィックスにのみ適用されます。

See: 詳細は、“[タイトルと脚注のカスタマイズ](#)” on [page 51](#) を参照してください。

GTITLE | NOGTITLE

プリンター出力を生成するプログラムにより定義されているタイトルのロケーションを制御します。

GTITLE

グラフィックス出力内の現在定義されているすべてのタイトルを含みます。

NOGTITLE

現在定義されているすべてのタイトルがグラフィックスファイルに表示されるのを阻止します。それらは、代わりに、プリンターファイルの一部となります。

Default: GTITLE

Restriction: このオプションは、1つまたはそれ以上のデバイスベースのグラフィックスを作成する SAS プログラム または、SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたグラフィックスにのみ適用されます。

See: 詳細は、“[タイトルと脚注のカスタマイズ](#)” on [page 51](#) を参照してください。

(<ID=> identifier)

同時に同出力先の複数のインスタンスを開くことを可能にします。各インスタンスは、異なるオプションを有します。

identifier

文字または線で始まる数字または、文字列であることが可能です。後続の文字は、文字、アンダーライン、および数字を含むことができます。

Restriction: *identifier* が数字の場合、それは正の整数でなければなりません。

Requirement: ID=オプションは、出力先名の直後に指定しなければなりません。

KEYWORDS='keywords-text'

出力ファイルのメタデータにキーワードの文字列を挿入します。キーワードは、文書管理システムがトピックを基にした検索を行うことを可能にします。

keywords-text

キーワードの文字列です。

Restrictions:

このオプションは、ODS PDF ステートメント、指定された PDFMARK オプションを伴う ODS PS ステートメント 並びに、PDFMARK オプションを伴う ODS PRINTER ステートメントにおいてのみ使用してください。

KEYWORDS= オプションは、ファイルの最初に指定された場合にのみ、有効となります。

Requirement: *keywords-text* を引用符で囲まなければなりません。

NEWFILE= starting-point

指定された *starting-point* で、新しいファイルを作成します。

starting-point

新しいファイルを作成すべき出力のロケーションです。

ODS は、ファイル名をインクリメントすることで自動的に新しいファイル名を付けます。次の例で、ODS は、最初のファイル名を付けます。REPORT.PS 追加のファイル名も付けます。REPORT1.PS , REPORT2.PS,等

例

```
FILE= 'REPORT.PS'
```

starting-point は、次の内の1つです。

BYGROUP

各 BY グループの結果に対して、新しいファイルを開始します。

NONE

現在開かれているファイルのすべての出力を書きます。

OUTPUT

各出力オブジェクト用に新しいファイルを開始します。SAS/GRAPH に対して、これは、ODS がプログラムが生成した各 SAS/GRAPH 出力ファイル用に新たなファイルを作成することを意味します。

Alias: TABLE

PAGE

出力の各ページ用に新たなファイルを開始します。改ページは、手順が明確に新たなページを開始(ページのサイズが足りないからではない)または、新たな工程を開始する時点で発生します。

PROC

新たな手順を開始する度に新たなボディファイルを開始します。

Default: NONE

Restrictions:

The NEWFILE= オプションは、FILE= ファイル参照オプションと共に使用できません。

物理プリンタに出力を送る場合、NEWFILE=オプションを使用できません。

Tips:

ファイル名を数字で終了する場合、ODS はその数字を増加させることから始めます。次の例において、ODS は、最初のファイル *MAY5.PS* に名前を付けます。追加のボディファイルは、*MAY6.PS* と名付けられます。、*MAY7.PS* などです。

例:

```
FILE= 'MAY5.PS'
```

PACKAGE <package-name>

出力先からの出力が ODS パッケージに追加されることを指定します。

package-name

ODS PACKAGE ステートメントで作成されたパッケージの名称を指定します。名称が指定されていない場合、出力は、最後に開かれた名の無いパッケージに追加されます。

See: “[ODS PACKAGE ステートメント](#)” on page 469

PDFMARK

ODS により、PostScript ファイルに特別なタグを挿入することを可能にします。Adobe Acrobat (Adobe Viewer ではなく)等のソフトウェアを使用した場合、Acrobat Distiller は、タグに次の項目を含むファイルを作成するように解釈します。

- 出力の各セクションおよび各表用のブックマーク
- URL= スタイル属性に関連するアイテムのレファレンス
- FLYOVER= スタイル属性に関連するアイテム用のノートノートはオプションであり、PDFNOTE オプションに基づいています。
- ファイルのメタデータの作者、キーワード、テーマおよびタイトル。

Default: PDFMARK を使用することは、PostScript 出力を示すため、SAS は、SAS がこのオプションが提供する PostScript ドライバを自動的に使用します。

Restriction: PDFMARK オプションで、PRINTER= オプションを使用することはできません。

Requirement: PDF ファイルを作成するには、Adobe Acrobat Distiller 等の特別なソフトウェアを使用して、マークアップ PostScript ファイルを PDF フォーマットファイルに変換しなければなりません。

Interaction: 開かれた ODS PRINTER 出力先に言及する ODS プリンタファミリステートメントにおいて、PDFMARK オプションは、ODS に出力先およびそれに関連するすべてのファイルを終了し、出力先に新しいインスタンスを開くことを強制します。詳細は、次を参照してください。“[PRINTER 出力先を開く/閉じる](#)” on page 551

Tip: 出力を抽出する計画が有る場合のみこのオプションを使用してください。そうでなければ、それはリソースを使い過ぎ、結果を向上させません。

PDFNOTE | NOPDFNOTE

FLYOVER= スタイル属性に関連するアイテム用に、ノートが PDF ファイルに追加されるか否制御します。

PDFNOTE

FLYOVER= スタイル属性に関連するアイテム用に、ノートを PDF ファイルに追加します。

NOPDFNOTE

FLYOVER= スタイル属性に関連するアイテム用に、ノートがファイルに追加されないように、PDFMARK の動作を変更します。

Default: PDFNOTE

Restriction: このオプションは、ODS PDF ステートメント、指定された PDFMARK オプションを伴う ODS PS ステートメント 並びに、PDFMARK オプションを伴う ODS PRINTER ステートメント においてのみ使用してください。

STARTPAGE=NEVER | NO | NOW | YES | BYGROUP

改ページを制御します。

BYGROUP

各 BY グループの後に、改ページを挿入することを指定します。

NEVER

グラフィックスプロシジャの前でも改ページを挿入してはならないことを指定します。

CAUTION:

各グラフは、通常ページ全体を必要とします。デフォルトの動作は、グラフィックスプロシジャの後に新しいページを強制します。STARTPAGE=NEVER は、その動作をオフにするため、STARTPAGE= NEVER を指定することで、グラフィックスが刷り重ねる可能性があります。

NO

プロシジャコードにより新しいページが要求された場合でも、各プロシジャの始め、または特定のプロシジャの範囲内に新しいページを挿入できないことを指定します。ページが埋まっている場合、または STARTPAGE=NOW を指定した場合にのみ、新しいページが開始されます。

CAUTION:

各グラフは、通常、ページ全体を必要とします。デフォルトの動作は、STARTPAGE=NO を使用した場合でも、グラフィックスプロシジャの後に新しいページを強制します。STARTPAGE=NEVER は、その動作をオフにするため、STARTPAGE= NEVER を指定することで、グラフィックスが刷り重ねる可能性があります。

Alias: OFF

Tip: STARTPAGE=NO を指定した場合、このオプションの設定に関わらず、物理ページの上部と下部のみに、システムのタイトルおよびフットノートが作成されます。すなわち、このオプションが指定された場合に、指定したいくつかのシステムタイトルおよびフットノートは表示されない可能性があります。

NOW

新しいページの即時の挿入を強制します。

Tip: このオプションは、主に、STARTPAGE= オプションの現行の値が NO の場合に、便利です。そうでなければ、それぞれの新たなプロシジャは、自動的に新しいページを強制します。

YES

プロシジャコードに要求された通りに、各プロシジャの始め、または特定のプロシジャの範囲内に新しいページを挿入します。

Alias: ON

Default: YES

STYLE=*style-definition*

PDF 出力を書くために使用するスタイル定義を指定します。

Default: スタイル定義を使用しない場合、ODS は、SAS レジストリのサブキーに指定されているスタイル定義を使用します。ODS ⇒ DESTINATIONS ⇒ PRINTER PRINTER、PDF、および PS 出力先用の値は Printer で、PCL 出力先の値は、MonochromePrinter となります。

See:

スタイル定義に関する詳細は、次を参照してください。[“スタイルの操作” on page 945](#)

ユーザー定義されたスタイル定義を作成する手順は、次を参照してください。[13章, “TEMPLATE プロシジャ: スタイルテンプレートの作成” on page 941](#)

TEXT='text-string'

出力にテキストを挿入します。

text-string

出力に挿入すべきテキストです。

Requirement: *text-string* を引用符で囲まなければなりません。

Tip: 1 つ以上の手順ステップを提出する場合で、STARTPAGE=NO オプションを指定しない場合、出力の前に各プロシジャは、新しいページを強制します。そのため、TEXT=で指定したいかなるテキストは、以前のプロシジャと同じページに配置されます。

See: [“例: 出力オブジェクトを条件付きで除外し、別の出力先に送信する” on page 235](#)

UNIFORM

multi-page 表用に、単一の表の範囲内で、ページ間の統一性を保証します。UNIFORM オプションが有効な場合、ODS は、すべてのデータに対応するために、欄の幅などを判断するため、プリントを開始する前に表全体を読み込みます。これらの欄の幅は、複数のページに渡る表のすべてのページに適用されます。

Default: UNIFORM オプションを指定しない場合、ODS は、1 ページ毎に表をプリントします。このアプローチは、SAS が非常に大きい表を処理している途中で、メモリ不足に陥らないことを保証します。しかし、これは、欄の幅がそれぞれページ毎に異なることも意味します。

Note: BY-group 処理で、SAS は、各グループの結果を別の表に記述するため、出力が BY グループ間で一定でない可能性があります。

Tip: UNIFORM オプションは、非常に大きな容量の表をプリントする場合に、SAS にメモリ不足に陥らせる可能性があります。これが発生した場合、表の各欄の幅を明確に設定し、表を1ページ毎にプリントしてください。それをするには、使用する表の定義を編集しなければなりません。詳細は、次を参照してください。[“テーブルテンプレートを使用して実行可能な操作” on page 1060](#)

Details

ODS PS ステートメントは、ステートメントの ODS プリンタファミリの一部です。プリンタファミリのステートメントによって、PCL、PDF、PRINTER、PS 出力先などが開かれ、高解像度プリンタにふさわしい出力が作成されます。ODS PCL、ODS PDF および ODS PRINTER のステートメントも、ステートメントの ODS プリンタファミリのメンバーです。

PS 出力先を開く/閉じる

開いている PS 出力先をさまざまな ODS PS オプションを使用して修正できます。しかし、FILE=、PDFMARK および SAS のオプションによって、オープン PS 出力先の次の操作が実行されます。

- ODS PS ステートメントにおいて参照された開いている出力先を、閉じます
- 開いている PS 出力先と関連するすべての ファイルを、閉じます。

- PS 出力の新しいインスタンスを、開きます。

上記オプションのいずれかを使用した場合は、出力先を明示的に閉じることをお勧めします。

See Also

- “サードパーティフォーマットの出力先” on page 35

ステートメント

- “ODS PCL ステートメント” on page 478
- “ODS PDF ステートメント” on page 487
- “ODS PRINTER ステートメント” on page 536

ODS RESULTS ステートメント

結果ウィンドウの ODS 出力をトラッキングします。

該当要素:	どこでも可能
カテゴリ:	ODS: 出力制御
別名:	ODS RESULTS NORERESULTS;
制限事項:	ウィンドウ環境においてのみ有効で、バッチモードでは無効です。

構文

ODS RESULTS ON | OFF;
ODS RESULTS= ON | OFF;

必須引数

ON

ODS が結果ウィンドウで生成した出力をトラッキングします。

OFF

ODS が結果ウィンドウで生成した出力のトラッキングをオフにします。

詳細

ODS RESULTS ON を使用して、結果ウィンドウにすべての出力を送信します。これが、デフォルトの設定です。ODS RESULTS OFF を使用することは、ODS トラッキングを無効にし、結果ウィンドウに出力は送信しません。OFF オプションは、すべての出力をトラッキングしたくない場合の回帰解析など、長時間実行のジョブに推奨されます。

ODS RTF ステートメント

RTF 出力先に対して開く、管理するまたは閉じる処理を行います。RTF 出力先は、Microsoft Word 2002 で使用可能なリッチテキスト出力形式で書かれた、規則的な出力を作成します。

Valid in:	任意の場所
Category:	ODS: サードパーティのフォーマット

Interactions: デフォルトでは、FORMCHAR システムオプション (たとえば、PROC PLOT または PROC CHART) を使用するプロシジャを実行した場合は、出力は ODS によって SAS モノスペースフォントでフォーマットされます。作成された出力は SAS ソフトウェアがインストールされていない動作環境では正しく表示されません。これは、SAS がインストールされていない為、SAS モノスペースフォントが認識されないからです。ドキュメントを正しく表示させるには、ご使用の SAS プログラムの前に、次のステートメントを挿入します。

```
OPTIONS FORMCHAR="|----|+|---+=|/\<>*" ;
```

RTF 出力の用紙の方向を変更するには、システムオプション ORIENTATION= を指定します。用紙の方向を変更するには、グローバルオプションステートメントのあとで ODS RTF ステートメントを発行し、変更を開始する必要があります。詳細は、次を参照してください。[“Example 3: ORIENTATION=システムオプションと RTF の相互作用” on page 595](#)

Tips: Microsoft Word 2002 が、現在、正規でサポートされていないレベルですが Microsoft Word 2000 や SAS RTF ファイルではこれまでに問題が確認されていません。大きな表を作成するときは、ODS TAGSETS.RTF ステートメントを使用してください。詳細は、[“ODS TAGSETS.RTF ステートメント” on page 653](#) を参照してください。

Syntax

ODS RTF <(<ID=> 識別子) 操作,

ODS RTF <(<ID=> 識別子) <オプション>;

Summary of Optional Arguments

(ID= *identifier*)

同時に同出力先の複数のインスタンスを開いてください。

ANCHOR= '*anchor-name*'

現行のボディファイルの各出力オブジェクトを識別するアンカータグに最適な独自のベース名を指定します。

AUTHOR= '*author-text*'

作者を識別する文字列を指定してください。ファイルのメタデータに文字列を挿入されます。

BASE= '*base-text*'

ODS が、出力ファイルで作成するすべてのリンクおよびレファレンスの最初の部分に使用するテキストを指定してください。

BODYTITLE

タイトルおよびフットノートが、ヘッダーおよびフッター部分ではなく、RTF 文書のボディに配置されることを指定してください。

BODYTITLE_AUX

タイトルおよびフットノートが、RTF 文書のヘッダーやフッター部分ではなく、ボディに配置されることを指定してください。タイトルおよびフットノートも、セルまたは表に配置されます。

CLOSE

出力先およびそれに関連するファイルを終了してください。

COLUMNS= *n* | MAX

出力の各ページに作成する欄の数を指定してください。

CONTENTS

目次のページを作成するか否か指定します。

CSSSTYLE= '*file-specification*'<(*media-type-1* ... *media-type-10*)>

出力に適用するカスケードスタイルシートを指定してください。

DEVICE= *device-driver*

RTF 出力先のデバイスを指定してください。

ENCODING= *local-character-set-encoding*

入力用のエンコーディングまたは外部ファイルの出力処理(トランスコード)をオーバーライドしてください。

EXCLUDE *除外* ALL | NONE

出力先から出力オブジェクトを除外してください。

FILE= '*external-file*' | *ファイル参照*

ODS RTF 出力先を開き、情報を書き込むファイル名を指定してください。

GFOOTNOTE | NOGFOOTNOTE

グラフィックス出力においてフットノートがプリントされるロケーションを指定してください。

GTITLE | NOGTITLE

グラフィックス出力のタイトルがプリントされるロケーションを制御してください。

IMAGE DPI

グラフィカル出力の画素数を指定してください。

KEEPN | NOKEEPN

ページにおいて、表が分割される箇所を制御してください。

NEWFILE= *starting-point*

特定の開始点に、新しいボディファイルを作成してください。

NOGFOOTNOTE

グラフィックスファイルの現在定義されているフットノートを抑制してください。それらは、代わりに、RTF ファイルに表示されます。

NOGTITLE

グラフィックスファイルの現行の定義されているすべてのタイトルを抑制してください。それらは、代わりに、RTF ファイルに表示されます。

NOTOC_DATA

コンテンツデータが、RTF ファイルに挿入されるか否か指定してください。

OPERATOR= '*text-string*'

RTF ファイルのメタデータに指定したテキストを挿入してください。

PACKAGE <*package-name*>

出力先からの出力が ODS パッケージに追加されることを指定してください。

PATH= '*aggregate-file-storage-specification*' | *ファイル参照* | *libref.catalog* (URL= '*Uniform-Resource-Locator*') | NONE)

集約保管ロケーション、または、すべての RTF ファイル用の SAS カタログを指定してください。

PREPAGE= '*text-string*'

ページの表の前に発生する文字列を指定してください。

RECORD_SEPARATOR= '*alternative-separator*' | NONE

出力ファイルの線を分割する代替文字または、文字列を指定してください。

SASDATE

SAS セッションを開始した時間と日付を RTF ファイルに書き込んでください。

SELECT *選択* ALL | NONE

出力先に出カオブジェクトを選択してください。

SHOW

SAS ログに出力先の現行の選択または除外リストを書き込んでください。

STARTPAGE= BYGROUP | YES | NO | NOW

改ページを制御してください。

STYLE= *style-definition*

RTF ファイルを書くために使用されるスタイル定義を指定してください。

TEXT= *'text-string'*

RTF 出力にテキストを挿入してください。

TITLE= *'title-text'*

タイトルにすることを希望するテキスト文字列をファイルのメタデータに挿入してください。

TOC_DATA | NOTOC_DATA

コンテンツデータが、RTF ファイルに挿入されるか否か指定してください。

TRANSTAB= *translation-table*

出力用のファイルをトランスコードするときに使用する変換テーブルを指定してください。

Actions

ODS ステートメントでは、次の操作が利用可能です。

CLOSE

出力先およびそれに関連するファイルを終了します。プリンタの出力先の場合、出力先を終了するまでファイルをプリントできません。

Tip: ODS 出力先が終了した場合、ODS は、その出力先に出力を送りません。不要な出力先を終了することで、システムリソースの節減します。

EXCLUDE *除外* ALL | NONE

出力先から1つまたはそれ以上の出力オブジェクトを除外します。

Default: NONE

Restriction: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

See: “ODS EXCLUDE ステートメント” on page 232

SELECT *選択* ALL | NONE

指定された出力先用に出力オブジェクトを選択します。

Default: ALL

Restriction: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

See: “ODS SELECT ステートメント” on page 598

SHOW

SAS ログに出力先用の現行の選択または除外リストを書き込みます。

Restriction: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

Tip: 選択または除外リストがデフォルトのリスト(SELECT ALL)である場合、SHOW は、全体の選択または除外リストも書きます。選択または除外リストに関する詳細は、を “[選択リストと除外リスト](#)” on page 49 参照してください。

See: “ODS SHOW ステートメント” on page 614

Optional Arguments

ANCHOR= *'anchor-name'*

現行のファイルの各出力オブジェクトを識別する RTF アンカータグのベース名を指定します。

各出力オブジェクトは、その他のファイルにリンクまたはレファレンスするアンカータグを備えていなければなりません。ODS が自動的に作成するレファレンスは、

アンカー名を指します。そのため、ファイルの各アンカー名は、ユニークでなければなりません。

anchor-name

現行のファイルの各出力オブジェクトを識別する RTF アンカータグのベース名です。

ODS は、指定した名称の値を増加し、ユニークなアンカー名を作成します。例えば、ANCHOR= 'tabulate'を指定した場合、ODS は、最初のアンカーに `tabulate` と名前を付けます。2番目のアンカー名が `tabulate1` で、3番目が `tabulate2`、と名称が続きます。

Requirement: *anchor-name* を引用符で囲まなければなりません。

Alias: NAMED_DEST= | BOOKMARK=

Tips:

プログラムのさまざまな箇所で新しいアンカー名を指定することは、その他の RTF ファイルを RTF 出力の特定の部分にリンクしたい場合に役立ちます。アンカー名が変わる場所を制御できるため、事前にその場所のアンカー名を知ることができます。

プログラムのいかなる場所の ODS RTF ステートメントに、ANCHOR= オプションを提出することでアンカー名を何度でも変更可能です。アンカー名を指定した後は、新しい名を指定するまでそのままの状態となります。

AUTHOR= 'author-text'

ファイルのメタデータに、作者と指定したテキストの文字列を挿入します。

author-text

作者を示す開かれたファイルのメタデータにあるテキストです。

Requirement: *author-text* を引用符で囲まなければなりません。

BASE= 'base-text'

ODS が、ファイルで作成するすべてのレファレンスの最初の部分に使用するテキストを指定します。

base-text

ODS が、ファイルで作成するすべてのレファレンスの最初の部分に使用するテキストです。

次の仕様を考慮してください。

```
BASE='http://www.your-company.com/local-url/'
```

この場合、ODS は、文字列で始まるリンクを作成します。 `http://www.your-company.com/local-url/`

Requirement: *base-text* を引用符で囲まなければなりません。

BODYTITLE

SAS タイトルおよびフットノートが、RTF 文書のヘッダーおよびフッター部分ではなく、RTF 文書のボディに配置されることを指定します。

Restriction: BODYTITLE オプションは、新しい RTF ファイルを作成した場合のみ指定できます。

Interactions:

STARTPAGE= オプションを YES (デフォルト t) に設定すると、ODS は、各プロシージャの最初に新しいページを挿入します。ODS は、プロシージャの前後に正しくヘッダーおよびフッターを配置するために、Word に依存します。RTF 文書のヘッダーおよびフッター部分から、BODYTITLE、タイトルおよびフットノートが除外されていることを指定した場合、タイトルおよびフットノートは、その後、文書のボディに配置され、すべての TABLE に追加されます。そのため、STARTPAGE= オプションを YES に設定し、BODYTITLE オプションを指定す

ると、すべてのページにおいて、タイトルとフットノートが繰り返されない可能性があります。例えば、複数のページにおよぶ表が有る場合、タイトルは、最初のページにのみ表われ、フットノートは、最後のページにのみ表われます。

BODYTITLE オプションを指定すると、Microsoft Word は、ヘッダーおよびフッターの配置の制御に関与しなくなります。しかし、マイクロソフトワードは、ページ番号および日付等のその他のヘッダーおよびフッターの情報は、依然として制御します。

Tip: 背景は、タイトルセルにおいて、称賛されていません。

See: BODYTITLE_AUX オプション RTF 文書のボディの表にタイトルおよびフットノートを配置したい場合に、BODYTITLE_AUX オプションを使用してください。

BODYTITLE_AUX

SAS のタイトルおよびフットノートが、RTF 文書のヘッダーおよびフッター部分ではなく RTF 文書のボディに配置されることを指定します。これらのタイトルおよびフットノートは、中央揃え、左揃え、右揃えを可能にするため、セルに挿入されます。

Restriction: 新しい RTF ファイルを作成する場合のみ、BODYTITLE_AUX オプションを指定できます。

Interactions:

STARTPAGE= オプションを YES(デフォルト)に設定すると、ODS は、各プロシジャの最初の手順で新しいページを挿入し、プロシジャの前後において、ヘッダーおよびフッターを正しく配置をするために、ワードに依存します。

BODYTITLE_AUX を指定すると、RTF 文書のヘッダーおよびフッター部分からタイトルおよびフットノートが削除されます。その後、タイトルとフットノートは、文書の本体に配置され、すべての TABLE に追加されます。そのため、STARTPAGE=オプションを YES に設定し、BODYTITLE_AUX オプションを指定すると、すべてのページにおいて、タイトルとフットノートが繰り返されない可能性があります。例えば、複数のページにおよぶ表が有る場合、タイトルは、最初のページにのみ表われ、フットノートは、最後のページにのみ表われます。

BODYTITLE_AUX オプションを指定すると、Microsoft Word は、ヘッダーおよびフッターの配置の制御に関与しなくなります。しかし、マイクロソフトワードは、ページ番号および日付等のその他のヘッダーおよびフッターの情報は、依然として制御します。

See: BODYTITLE オプション

Example: “[Example 2: BODYTITLE_AUX オプションを指定するときのタイトルと脚注の行揃え](#)” on page 592

COLUMNS= *n* | MAX

出力の各ページに作成する欄の数を指定します。

n

ページに要望する 1 インチ欄の数です。

MAX

紙のサイズおよび マージン設定における 1 インチ幅の欄の最大数を指定します。この値は、紙のサイズおよびページの位置付けに依存します。

Default: ページに適合する 1 インチ欄の数。

Interaction: COLUMNS= オプションを指定すると、option, the STARTPAGE=NO オプションは、表彰されません。

Tips:

測定された RTF (ODS TAGSETS.RTF ステートメント)において、タイトルは、表と考えられ、RTF 指示とは考えられていません。測定された RTF を伴う COLUMNS=オプションを使用する場合、タイトルは、各欄の上部に表示されます。しかし、ODS は、欄の幅に適合させるため、タイトルを切り詰めます。

ページに適合できる 1 インチ欄の最大数より大きい値を指定した場合、そのページの許容最大数を明記したノートが、SAS ログにプリントされます。

CONTENTS

マイクロソフトワードに開かれている RTF 文書用の目次のページを作成します。目次のページには、文書に組み込まれているすべてのコンテンツ情報を目次に入れる目次フィールドを含みます。目次を拡張するには、マイクロソフトワードの下を右クリックして、選択リストから、Update Field を選択してください。

Restriction: CONTENTS オプションを NEWFILE オプションと一緒に使用できません。

Tips:

文書の特定のトピックに行くには、CTRL キーをダブルクリックまたは押下して、目次のトピックをクリックしてください。マイクロソフトワードの Ctrl+クリック機能を有効にするには、ツール ⇨ オプション ⇨ 編集から“Ctrl + クリックを使用”を選択します。

目次に取得されたテキストを閲覧するには、TOC_DATA オプションを指定しなければなりません。そうでなければ、Table of Contents ページは、次のエラーメッセージを表示します。Error! No table of contents entries found. NOTOC_DATA は、使用されるデフォルトのオプションです。

See: TOC_DATA オプション

Example: “[Example 1: 埋め込みデータから目次を作成](#)” on page 588

CSSSTYLE= 'file-specification' <(media-type-1 ...media-type-10)>
出力に適用するカスケードスタイルシートを指定します。

file-specification

CSS コードを含むファイル、ファイル参照、または、URL を指定します。

file-specification は、次の内の 1 つです。

"external-file"

外部ファイルの名称です。

Requirement: *external-file* を引用符で囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

See: FILENAME ステートメントに関する情報は、次を参照してください。
SAS ステートメント: リファレンス

"URL"

外部ファイルへの URL です。

Requirement: *external-file* を引用符で囲まなければなりません。

(media-type-1 <... media-type-10>)

レンダリングされる出力のメディアの種類に対応する 1 つまたはそれ以上のメディアブロックを指定します。文書が、スクリーン、紙、スピーチシンセサイザー、点字装置、等々の異なるメディアにどのように提示されるか指定するために、CSS は、メディアタイプを使用します。

メディアブロックは、いかなるメディアブロックに含まれていない CSS コードを伴い出力に追加されます。*media-type* サブオプションを使用することで一般の CSS コードを伴い、特定のメディアタイプを対象とする CSS ファイルの項目をインポートできます。

Default: ODS ステートメントにいかなる *media-type* が指定されてないが、CSS ファイルにメディアタイプが指定されている場合、ODS は、Screen メディアタイプを使用します。

Range: 最大、異なる 10 種類のメディアタイプに指定できます。

Requirements:

media-type を括弧で囲まなければなりません。

CSSSTYLE= オプションで指定された *file-specification* の隣に、*media-type* を指定しなければなりません。

Tip: 複数のメディアタイプを指定すると、ODS は、すべてのメディアタイプのすべてのスタイル情報を出力に適用します。しかし、異なるメディアブロックにおいて重複するスタイル情報が存在する場合、最後のメディアブロックのスタイルが使用されます。

Requirement: CSS ファイルは、ODS HTML ステートメントにより作成された CSS と同じ種類で書き込まなければなりません。ID や文脈ベースのセレクターの無いクラス名のみがサポートされます。ODS が作成する CSS コードを閲覧するには、次の内の1つを行ってください。

- STYLESHEET= オプションを指定してください。
- HTML ファイルのソースを閲覧して、ファイルの上部の <STYLE> </STYLE> タグの間のソースを閲覧してください。

有効な ODS CSS ファイルの例は、次を参照してください。“[例 6: ODS 出力へ CSS ファイルの適用](#)” on page 448

Interaction: ODS ステートメントの STYLE= オプションおよび CSSSTYLE= オプションの両方を指定した場合、ODS は、指定された最後のオプションを使用します。

Example: “[例 6: ODS 出力へ CSS ファイルの適用](#)” on page 448

DEVICE= *device-driver*

デバイスドライバの名称を指定します。ODS は、各出力先用に最適なデフォルトのデバイスを自動的に選択します。

次の表は、最も一般的な ODS 出力先用のデフォルトデバイスを表示します。

次の表は、最も使用頻度の高い ODS 出力先のデフォルトデバイスの一覧です。これらのデフォルトデバイスは、グラフィックが SAS/GRAPH または ODS グラフを使用して作成される場合に使用されます。サポート対象のデバイスとファイルの種類の詳細なリストは、“[出力先のサポートされるファイルの種類](#)” (248 ページ)を参照してください。

表 6.11 ODS 出力先のデフォルトデバイス

出力先	デフォルトデバイス
HTML	PNG
LISTING	PNG
測定済みの RTF	PNG
RTF	PNG
PCL	(SVG)スケーラブルベクターグラフィックス
PDF	(SVG)スケーラブルベクターグラフィックス
POSTSCRIPT	PNG
PRINTER	ホスト専用デフォルトプリンタ
マークアップタグセット	すべてのマークアップファミリタグセットには、デフォルト値が組み込まれています。

Restriction: ODS 出力先ステートメントのデバイスを指定した場合、ACTIVE、ACTXIMG、JAVA、または JAVAIMG デバイスを指定してはいけません。

Tip: ODS DEVICE= オプションにおけるデバイス指定は、SAS グローバルオプションおよびグラフィックスオプションより優先されます。

See: “DEVICE= System Option” in *SAS/GRAPH: Reference* デバイスドライバの選択に関する詳細は、次を参照してください“Using Graphics Devices” in Chapter 6 of *SAS/GRAPH: Reference*

ENCODING= *local-character-set-encoding*

入力用のエンコーディングまたは、外部ファイルの出力処理(トランスコード)をオーバーライドします。

See: ENCODING= オプションに関する詳細は、次を参照してください。*SAS 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド*

FILE= '*external-file*' | **ファイル参照**

RTF 出力先を開き、書き込む先の RTF ファイルまたは、SAS カタログを指定します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります。

- ODS RTF CLOSE または ODS _ALL_ CLOSE で、RTF を終了してください。
- 書き込む先の異なるファイルを指定してください。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

Requirement: *external-file* を引用符で囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルリファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

Restriction: FILE= **ファイル参照** オプションを NEWFILE= オプションと一緒に使用できません。

See: FILENAME ステートメントに関する情報は、*SAS ステートメント: リファレンスのステートメントに関する項目*を参照してください。

Alias: BODY=

Interaction: 開かれた RTF 出力先に言及する ODS RTF 出力先において、FILE= オプションは、ODS に、出力先およびそれに関連するファイルを終了し、出力先の新しいインスタンスを開くように強制します。詳細は、次を参照してください。“[RTF 出力先を開く/閉じる](#)” on page 587

See: NEWFILE= オプション

GFOOTNOTE | NOGFOOTNOTE

RTF 出力を生成するグラフィックスプログラムにより定義されているフットノートのロケーションを制御します。

GFOOTNOTE

グラフィックス出力内の現在定義されているすべてのフットノートを含みます。

NOGFOOTNOTE

現在定義されているすべてのフットノートがグラフィックスファイルに表示されるのを阻止します。それらは、代わりに、RTF ファイルの一部となります。

Default: GFOOTNOTE

Restriction: このオプションは、1つまたはそれ以上のデバイススペースのグラフィックスを作成する SAS プログラム または、SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたグラフィックスにのみ適用されます。

GTITLE | NOGTITLE

RTF 出力を生成するグラフィックスプログラムにより定義されるタイトルのロケーションを制御します。

GTITLE

ボディファイルに呼ばれたグラフィックス出力内の現在定義されているすべてのタイトルを含みます。

NOGTITLE

現在定義されているすべてのタイトルがグラフィックス出力に表示されるのを阻止します。それらは、代わりに、RTF ファイルの一部となります。

Default: GTITLE

Restriction: このオプションは、1つまたはそれ以上のデバイススペースのグラフィックスを作成する SAS プログラム または、SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたグラフィックスにのみ適用されます。

(ID= identifier)**識別子**

文字または線で始まる数字または、文字列であることが可能です。

Restriction: *identifier* が数字である場合、その数字は正数でなければなりません。

Requirement: ID= オプションを出力先名の直後に指定しなければなりません。

Tip: ID=オプションを削除、およびインスタンスを識別するために、代わりに、名称または数字を使用できます。

Example: “例: 同時に同じ出力先のインスタンスを複数開く” on page 499

IMAGE_DPI

グラフィカル出力の画素数を指定します。

Default: 96

KEEPN | NOKEEPN

ページにおいて、表が分割される箇所を制御します。

KEEPN

ODS は、表全体が 1 ページに収まらない場合のみ表の分割を許可します。

NOKEEPN

ODS は、改ページで分割することを許可します。

Tip: KEEPN は、表の改ページの数を最小に留めるが、NOKEEPN より多くの紙を消費する可能性があります。これは、KEEPN オプションが、残りのページに収まらない任意の表のプリントを開始する前に、改ページを行うからです。

NEWFILE= starting-point

特定の *starting-point* に、新しいボディファイルを作成します。

starting-point は、次の内の1つです。

BYGROUP

各 BY グループの結果に対して、新しいファイルを開始します。

NONE

現在開かれているファイルのすべての出力を書きます。

OUTPUT

各出力オブジェクト用に新しいファイルを開始します。SAS/GRAPH に対して、これは、ODS がプログラムが生成した各 SAS/GRAPH 出力ファイル 用に新たなファイルを作成することを意味します。

Alias: TABLE

PROC

新たな手順を開始する度に新たなファイルを開始します。

Default: NONE

Restrictions:

同じ ODS RTF ステートメントにおいて、NEWFILE= および TEXT= ステートメントの両方を使用できません。これらの各オプションに、別の ODS RTF ステートメントを使用しなければなりません。

NEWFILE= オプションと一緒に FILE=ファイル参照 オプションを使用できません。

Tip: ファイル名を数字で終了する場合、ODS はその数字を増加させることから始めます。次の例で、ODS は、最初のボディファイル MAY5.XML に名を付け、続けて追加のボディファイル MAY6.XML、MAY7.XML、等の名を付けます。

NOGFOOTNOTE

この項目の GFOOTNOTE | NOFOOTNOTE に関する詳細を参照してください。

NOGTITLE

GTITLE | NOGTITLE に関する詳細を参照してください。

NOTOC_DATA

この項目の TOC_DATA に関する詳細を参照してください。

OPERATOR= 'text-string'

RTF ファイルのメタデータに指定したテキストを挿入します。

text-string

作者を示す開かれたファイルのメタデータにあるテキストです。

Requirement: *text-string* を引用符で囲まなければなりません。

PACKAGE <package-name>

出力先からの出力が ODS パッケージに追加されることを指定します。

package-name

ODS PACKAGE ステートメントと一緒に作成されたパッケージ名を指定します。いかなる名称が指定されない場合、出力は、最後に開かれた名の無いパッケージに追加されます。

See: “ODS PACKAGE ステートメント” on page 469

PATH= 'aggregate-file-storage-specification' | ファイル参照 | libref.catalog (URL= 'Uniform-Resource-Locator' | NONE)

集約保管ロケーション、または、すべての RTF ファイル用の SAS カタログを指定します。GPATH= オプションが指定されていない場合、すべてのグラフィックス出力が、“aggregate-file-storage-specification” または、ライブラリ参照に書き込まれます。

'aggregate-file-storage-location'

ディレクトリ、フォルダ、または分割されたデータセット等の累積保存ロケーションを指定します。

Requirement: *aggregate-file-storage-location* を引用符で囲まなければなりません。

ファイル参照

累積保存ロケーションに割り当てられたファイルリファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

Interaction: PATH= オプションにファイル参照を使用した場合、ODS は、リンクを構築する場合に、PATH= からの情報を使用しません。

See: “FILENAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)

ライブラリ参照 catalog

書き込む先の SAS カタログを指定します。

See: “LIBNAME ステートメント” (*SAS* ステートメント: リファレンス)

URL= 'Uniform-Resource-Locator' | NONE
file-specification の URL を指定します。

Uniform-Resource-Locator

指定した URL です。ODS は、ファイルに作成するすべてのリンクおよびリファレンスにおいて ファイル名ではなくこの URL を使用します。

NONE

リンクまたはリファレンスに GPATH=オプションからのいかなる情報が表示されないことを指定します。

Tip: このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは、single-name URL で構築しなければならず、コンテンツ、ページ、およびボディファイルは、同じロケーションになければなりません。

Interaction: BODY= または、FILE=外部ファイルオプションを PATH= オプションと一緒に使用した場合、外部ファイル仕様にパス情報を含めるべきではありません。

PREPAGE='text-string'

ページの表の前に発生する文字列を指定します。

text-string

タイトルの後の表の上部のテキストです。テキストは、プロシジャに作成されたいかなる表の前に配置されます。

Requirement: *text-string* を引用符で囲まなければなりません。

RECORD_SEPARATOR= 'alternative-separator' | NONE

出力ファイルの線を分割する文字または、文字列である代替のレコードセパレータを指定します。

異なる動作環境において、異なるセパレータ文字が使用されます。レコードセパレータを指定しない場合、ODS は、SAS ジョブを行う環境用に RTF ファイルをフォーマットします。しかし、異なるセパレータ文字を使用する他の動作環境で閲覧するためにある動作環境においてファイルを生成している場合、対象の環境に適切なレコードセパレータを指定できます。

alternative-separator

16 進数または、ASCII フォーマットの1つまたはそれ以上の文字を示します。例えば、次のオプションは、carriage-return 文字および改行文字(ASCII ファイルシステム上)を指定します。:

```
RECORD_SEPARATOR= '0D0A'x
```

Operating Environment Information

メインフレーム環境において、次のオプションは、ASCII ファイルシステムに使用する carriage-return 文字および改行文字用のレコードセパレータを指定します。

```
RECORD_SEPARATOR= '0D25'x
```

Requirement: *alternative-separator* を引用符で囲まなければなりません。

NONE

SAS ジョブの実行環境に適切な RTF 出力を作成します。

Operating Environment Information

多くの動作環境において、NONE の値を使用することは、RECORD_SEPARATOR オプションを除外するのと同じ結果を生みます。

Operating Environment Information

メインフレーム環境において、デフォルトで、ODS は、組み込みレコードセパレータ文字を含むバイナリファイルを作成します。このアプローチは、ファイルが、ASCII ファイルの line-length 制限によって制約されないことを意味します。しかし、これは、ファイルをエディタで閲覧すると、線が連結されていることを意味します。RTF ファイルをエディタで閲覧できるようにフォーマットしたい場合、RECORD_SEPARATOR=NONE を使用してください。この場合、ODS は、ファイルに RTF の 1 行を行毎に書き込みます。NONE の値を使用した場合、書き込む先のファイルの論理的な長さは、最低でもが作成する最も長い線の長さでなければなりません。そうでなければ、RTF は、不適當な場所で、他の線にラッピングする可能性があります。

Aliases:

RECSEP=

RS=

SASDATE

SAS セッションを開始した時間と日付を RTF ファイルに書き込みます。

Restriction: SASDATE は、新しいファイルを開いた場合のみ指定できます。オプションをその他いかなる時に指定でき、ODS は、SAS ログに警告メッセージを書き込みます。

Interaction: RTF ファイルに入力された SAS セッション時間をリセットするには、DTRESET システム オプションを使用してください。

See: DTRESET システムオプションに関する情報は、*SAS システムオプション: リファレンス*を参照してください。

STARTPAGE= BYGROUP | YES | NO | NOW

改ページを制御します。

BYGROUP

各 BY グループの後に改ページを挿入することを指定します。

YES

プロシジャコードに要求された通り、各プロシジャの最初および特定のプロシジャ内においてに新しいページを挿入します。

Alias: ON

Interactions:

STARTPAGE= オプションを YES(デフォルト)に設定すると、ODS は、各プロシジャの最初の手順で新しいページを挿入し、プロシジャの前後において、ヘッダーおよびフッターを正しく配置をするために、ワードに依存します。BODYTITLE、タイトルおよびフットノートが、RTF 文書のヘッダーおよびフッター部分から除外されていることを指定した場合、その後、タイトルとフットノートは、文書の本体に配置され、すべての TABLE に追加されます。そのため、STARTPAGE=オプションを YES に設定し、BODYTITLE オプションを指定すると、すべてのページにおいて、タイトルとフットノートが繰り返されない可能性があります。例えば、複数のページにおよぶ表が有る場合、タイトルは、最初のページにのみ表われ、フットノートは、最後のページにのみ表われます。

BODYTITLE オプションを指定すると、Microsoft Word は、ヘッダーおよびフッターの配置の制御に関与しなくなります。しかし、マイクロソフトワードは、ページ番号および日付等のその他のヘッダーおよびフッターの情報は、依然として制御します。

NO

プロシジャコードにより新しいページが要求された場合でも、各プロシジャの始め、または特定のプロシジャの範囲内に新しいページを挿入できないことを ODS に指定します。新しいページは、ページが埋まった場合、また STARTPAGE= NOW を指定した場合のみに開始されます。

Alias: NEVER

Interaction: COLUMNS= オプションを指定すると、STARTPAGE=NO オプションが称賛されます。

Tip: このオプションは、最初のタイトルのセットおよび最初のセットのフットノートのみを RTF ファイルにプリントします。

NOW

新しいページの即座の挿入を強制します。

Tip: このオプションは、主に現行の STARTPAGE=オプションが NO の場合のみ使用されます。そうでなければ、新たな各プロシジャは、新しいページを自動的に強制します。

Default: YES

Tip: STARTPAGE= NO を指定することで、強制的な改ページを阻止します。STARTPAGE=YES を指定することで、強制的な改ページ再度をオンにできます。STARTPAGE=NOW を指定することで、どんな時でも改ページを挿入できます。

STYLE= style-definition

RTF ファイルを書くために ODS が使用するスタイル定義を指定します。

style-definition

SAS 出力の体裁(色、フォントフェイス、フォントサイズ、および等々)の表示方法を説明します。スタイル定義は、それを使用する文書の全体の体裁を決定します。各スタイル定義は、スタイル定義により構成されます。

See: スタイル定義に関する詳細は、次を参照してください。13章、
“TEMPLATE プロシジャ: スタイルテンプレートの作成” on page 941

Default: スタイル定義を使用しない場合、ODS は、SAS レジストリのサブキーに指定されているスタイル定義を使用します。: ODS ⇨ DESTINATIONS ⇨ RTF この値は、デフォルトで、伝統的な RTF および測定された RTF 用の RTF を指定します。

TEXT= 'text-string'

RTF 出力にテキストを挿入します。

text-string

RTF 出力に挿入すべきテキストです。他の出力に注釈を付けるために、TEXT=を使用できます。

Restriction: 同じ ODS RTF ステートメントにおいて、NEWFILE= および TEXT= ステートメントの両方を使用できません。これらの各オプションに、別の ODS RTF ステートメントを使用しなければなりません。

Requirement: 引用符で *text-string* を囲まなければなりません。

TITLE= 'title-text'

タイトルにすることを希望するテキスト文字列をファイルのメタデータに挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

Requirement: *title-text* を引用符で囲まなければなりません。

TOC_DATA | NOTOC_DATA

コンテンツデータが、RTF ファイルに隠しテキストとして埋め込まれているかどうかを指定します。

NOTOC_DATA

ODS に、RTF ファイルにコンテンツデータの表を挿入しないように指示します。

TOC_DATA

ODS に、RTF ファイルにコンテンツデータの表を挿入するように、指示します。

Tip: 目次データの挿入は、次のステートメントを含めることで、SAS プログラムの途中で再開できます。

```
ods rtf toc_data;
```

Default: NOTOC_DATA

Tip: 挿入された目次データから、可視目次を作成するには、CONTENTS オプションを指定しなければなりません。

See: CONTENTS オプション

Example: “[Example 1: 埋め込みデータから目次を作成](#)” on page 588

TRANTAB= translation-table

出力用のファイルをトランスコードするときに、ODS が、使用する変換テーブルを指定します。

See: 詳細は、次を参照してください。“TRANTAB=システムオプション” (*SAS 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド*)

Details**RTF 出力先を開く/閉じる**

開いている RTF 出力先は、多くの ODS RTF オプションを使用して変更できます。しかし、FILE=オプションによって、開いた RTF 出力先に対して次の操作が実行されません。

- ODS RTF ステートメントで参照されている開いた出力先を閉じます。
- 開いている RTF 出力先に関連するすべてのファイルを閉じます。
- RTF 出力先の新規インスタンスを開きます。

FILE=オプションを使用した場合は、出力先を明示的に閉じてください。

RTF による出力のフォーマットについて

RTF は Microsoft Word 2002 のための出力を作成します。他のアプリケーションでも RTF ファイルは読めますが、RTF 出力は他のアプリケーションではうまく動作しない場合があります。

RTF 出力先によって、RTF 出力を表示し、編集することが可能です。ODS は“垂直測定”を定義しません。つまり SAS は、ページ上の各項目の位置を決めるための最適な位置を定義しません。たとえば、改ページは常に固定されているとは限りません。これは、テキストの編集時に RTF 出力テーブルが不適切な位置で改ページされないように考慮されているからです。表は 1 つのページ内に完全な形で残すか、自分で指定した箇所で分離します。

しかし、Microsoft Word に必要なのは、表の列の幅がわかることであり、ページに対して列の幅が広すぎると、Microsoft Word では表を調整できません。従って、ODS ではテキストと表の幅が測定されます(水平寸法測定)。列幅はすべて SAS によって適切にセットされ、また、表に 1 ページでは収まらないほどの幅がある場合、パネルに分割されます。

つまり、Microsoft Word に入力するために RTF 出力を作成するときは、SAS が垂直測定を決定し、Microsoft Word が垂直測定を制御します。Microsoft Word によって、ページ上にどのくらいの余白を作るかを決定できますので、表は、たとえ RTF ファイルを修正した後も、常に表示されます。

ただし、SAS バージョン 9.2 では、ODS 測定タグセットが導入されています。このタグセットによって、ユーザーは改ページをどのように、どこで行うかを、また、ページ本文にタイトルと脚注を入れるタイミングを指定できます。測定 RTF の使用についての詳細は、“ODS TAGSETS.RTF ステートメント” (653 ページ)を参照してください。

注: 多数のオブザベーション(観測値)を含む複雑な表では、システム効率が低下し、処理時間が長くなる場合があります。

ODS RTF とグラフィック

ODS RTF によってリッチテキスト形式の出力が作成されます。リッチテキストフォーマットは、MS Word が読むことのできる3つのグラフィックフォーマットをサポートしています。

グラフィックフォーマット	対応する SAS グラフィックドライバ
emfblips	SASEMF
pngblips	PNG
jpegblips	JPEG

ターゲットデバイスを指定しない場合、デフォルトターゲットは SASEMF です。RTF ドキュメントでグラフィックを作成するために、ACTIVEX、ACTXIMG、JAVAIMG グラフィックドライバも使用できます。ACTIVEX ドライバでは、ActiveX コントロールを作成できます。ACTXIMG および JAVAIMG ドライバでは、ACTIVEX コントロールまたは JAVA Applets を含む PNG ファイルを作成できます。グラフィックデバイスについての詳細は、*SAS/GRAPH: Reference* を参照してください。

注: ODS RTF ステートメントで JAVA デバイスを指定した場合は、JAVAIMG ドライバが使用されます。

Examples

Example 1: 埋め込みデータから目次を作成

Features:

```
ODS RTF ステートメント操作
CLOSE
ODS RTF ステートメントオプション
CONTENTS
NOTOC_DATA
TOC_DATA
```

Other features:

```
タイトル中の#BYVAL パラメータ
NOBYLINE|BYLINE システムオプション
OPTIONS ステートメント
PROC FORMAT
PROC PRINT
PROC SORT
```



```
PROC REPORT
PROC TABULATE
TITLE ステートメント
```

Data set:

```
Grain_Production
```

Format:

```
$CNTRY
```

次の例では、あるプロシジャだけのための埋め込み目次データを含む目次ページが作成されます。目次データの挿入は、プログラムの途中でもオン/オフの切り換えができます。

プログラム

```
proc sort data=Grain_Production;
by year country type;
run;

ods html close;

ods rtf file='Grain.Rtf' contents toc_data;

options nobyline;
title 'Leading Grain-Producing Countries';
title2 'for #byval(year)';

proc report data=Grain_Production nowindows;
by year;
column country type kilotons;
define country / group width=14 format=$cntry.;
define type / group 'Type of Grain';
define kilotons / format=comma12.;
footnote 'Measurements are in metric tons.';
run;

options byline;
title2;

ods rtf notoc_data;

proc tabulate data=Grain_Production format=comma12.;
class year country type;
var kilotons;
table year,
country*type,
kilotons*sum=' ' / box=_page_ misstext='No data';
format country $cntry.;
footnote 'Measurements are in metric tons.';
run;

ods rtf toc_data;

proc print data=Grain_Production;
run;

ods rtf close;
ods html;
```

Program Description

Grain_Production データセットをソートします。 PROC SORT によって、Year、Country、Type の値の順にデータがソートされます。

```
proc sort data=Grain_Production;
  by year country type;
run;
```

HTML 出力が作成されないように HTML 出力先を閉じます。 HTML 出力先はデフォルトでは開いています。ODS HTML ステートメントでは、リソースを節約するように HTML 出力先が閉じられます。

```
ods html close;
```

RTF 出力を作成し、各出力ページのボディーファイルを新たに作成します。 ODS RTF ステートメントでは RTF 出力先が開かれ、RTF 出力が作成されます。CONTENTS オプションによって、目次フィールドを含む目次ページが作成できます。ドキュメント埋め込みのコンテンツ情報は、すべて目次の中にあります。しかし、デフォルトでは、目次情報はあなたの RTF ファイルの中には埋め込まれていません。デフォルトは、NOTOC_DATA です。埋め込み TOC データは、TOC_DATA オプションを指定するまで表示されません。

```
ods rtf file='Grain.Rtf' contents toc_data;
```

デフォルトの BY 行を、新しい値を伴う BY 行に置き換えます。 NOBYLINE オプションで、デフォルトの BY 行変数が非表示にされます。#BYVAL パラメータを指定すると、BY 変数 Year の現在の値をタイトルに挿入できます。

```
options nobyline;
title 'Leading Grain-Producing Countries';
title2 'for #byval(year)';
```

レポートを生成します。 この PROCREPORT ステップによって、Grain_Production に関するレポートが生成されます。各 BY グループで出力1ページが作成され、ODS で各 BY グループに対するボディーファイルが作成されます。NOWINDOWS オプションは、PROC REPORT を REPORT ウィンドウなしで実行し、その出力を開かれた何れかの出力先に送信するように指定します。

```
proc report data=Grain_Production nowindows;
  by year;
  column country type kilotons;
  define country / group width=14 format=$centry.;
  define type / group 'Type of Grain';
  define kilotons / format=comma12.;
  footnote 'Measurements are in metric tons.';
run;
```

デフォルトの BY 行を復元して、2番目の TITLE ステートメントを削除します。 BYLINE オプションによってデフォルトの BY 行が復元されます。TITLE2 ステートメントによって、2番目の TITLE ステートメントが消去されます。

```
options byline;
title2;
```

RTF ファイルへの目次データ挿入を非表示にします。 NOTOC_DATA オプションは、ODS が RTF ファイルへ目次データを挿入しないよう指示します。目次ページには、TABULATE プロシジャのエントリはありません。

```
ods rtf notoc_data;
```

PROC TABULATE ステップの TABLE ステートメントでは、3つの次元が使用されます。年によりページが定義され、国と種類で行が定義されます。そしてキロトンにより列が定義されます。したがって、PROC TABULATE では、Grain_Production データセットで指定された年に基づき、1995年分を1ページに、1996年分を1ページにというように分けて出力されます。各ページの新しい本文ファイルも ODS によって開始されます。

```
proc tabulate data=Grain_Production format=comma12.;
class year country type;
var kilotons;
table year,
country*type,
kilotons*sum=' ' / box=_page_ misstext='No data';
format country $cntry.;
footnote 'Measurements are in metric tons.';
run;
```

RTF への目次データの挿入を可能にします。 TOC_DATA オプションによって、RTF ファイルへの目次データの挿入が ODS へ指示されます。目次ページには、PRINT プロシジャのエントリがあります。

```
ods rtf toc_data;
```

Grain_Production データセットを印刷します。

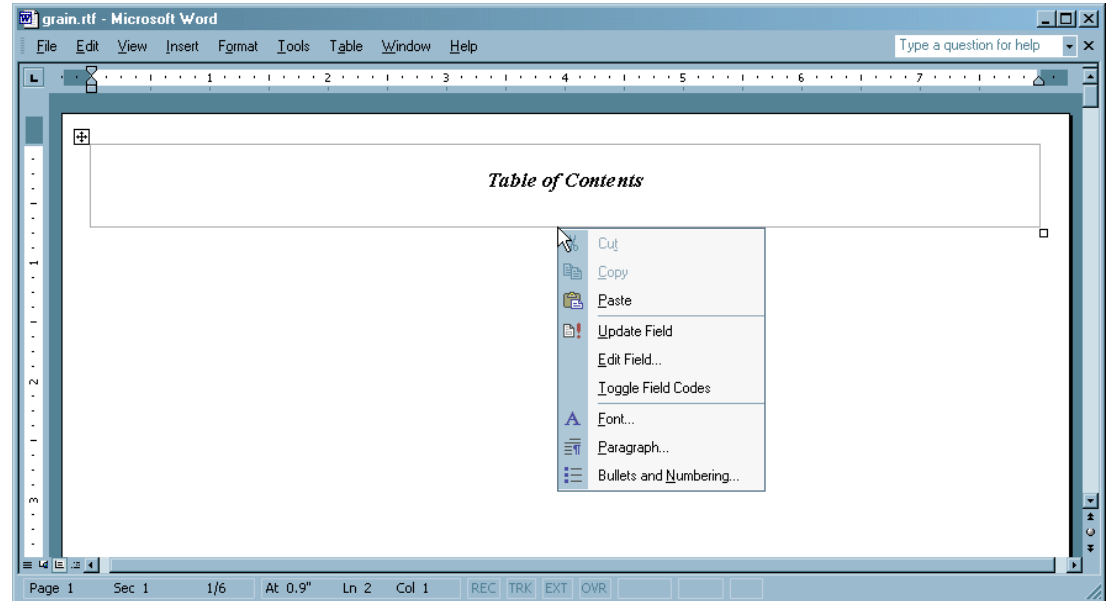
```
proc print data=Grain_Production;
run;
```

RTF 出力先を閉じます。 ODS RTF CLOSE ステートメントによって、RTF 出力先とその関連ファイルすべてが閉じられます。出力先を閉じないと、ブラウザウィンドウでファイルが表示できなくなります。

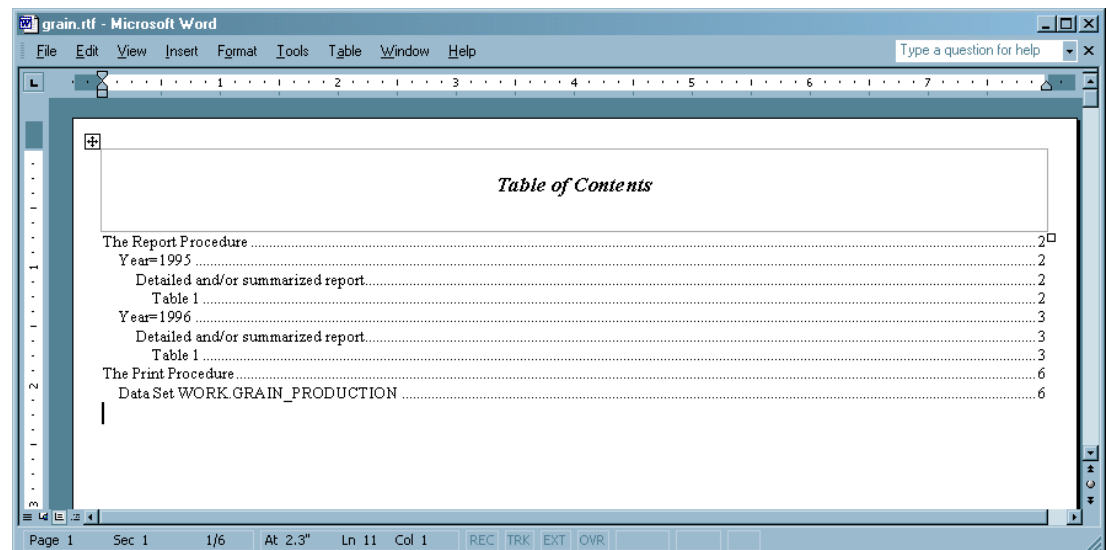
```
ods rtf close;
ods html;
```

RTF 出力

デフォルトでは、目次は目次ページで折り畳まれています。目次を拡げるには、Microsoft Word でタイトルの下を右クリックし、選択リストから **Update Field** を選択します。



目次には、PROC REPORT および PROC PRINT のエントリのみが含まれます。デフォルトでは、RTF ドキュメントには目次データが埋め込まれていません。目次データを埋め込むには、PROC REPORT のエントリとなる TOC_DATA オプションを指定します。TABULATE プロシジャ以前に NOTOC_DATA オプションを指定すると、ODS では目次情報が RTF ドキュメントへ挿入されず、また、PROC TABULATE のエントリは目次に現れません。PRINT プロシジャ以前に TOC_DATA オプションを指定すると、目次が ODS によって挿入され、PROC PRINT のエントリが目次に現れます。



Example 2: BODYTITLE_AUX オプションを指定するときのタイトルと脚注の行揃え

Features:

ODS RTF ステートメント操作

CLOSE

ODS RTF ステートメントオプション

BODYTITLE_AUX
FILE=

Other features:

OPTIONS ステートメント
PROC PRINT
TITLE ステートメント

RTF 出力の本文にタイトルと脚注を配置したいときは、通常、BODYTITLE オプションを指定します。しかし、タイトルと脚注を中央寄せにしたり、左右揃えにするには、BODYTITLE_AUX オプションを指定する必要があります。この機能を利用する望ましい方法は、SAS 9.2 で導入された 測定 ODS TAGSETS.RTF ステートメントを使用することです。“ODS TAGSETS.RTF ステートメント” on page 653 を参照してください。

プログラム

```
OPTIONS NODATE NOSTIMER LS=78 PS=60;

ods html close;

ods rtf file="bodytitle_aux.rtf" bodytitle_aux;

proc print data=sashelp.class;
run;

title j=l "left" j=c "center" j=r "right";
title2 j=l "left";
title3 j=c "center";
title4 j=r "right";
footnote j=l "left" j=c "center" j=r "right";
run;

ods rtf close;
ods html;
```

Program Description

次の例では、出力の本文におけるタイトルと脚注の左揃え、右揃え、および中央寄せの方法が示されています。

出力のレイアウトを指定します。 ページ中に日付と時間を印刷しないように、また SAS 統計を SAS ログに書き込まないように、ODS に指示します。ページ数を 60 に、行数を 78 に設定します。

```
OPTIONS NODATE NOSTIMER LS=78 PS=60;
```

HTML 出力が作成されないように、HTML 出力先を閉じます。 HTML 出力先は、デフォルトではオープンです。ODS HTML ステートメントでは、リソースを節約するように HTML 出力先が閉じられます。

```
ods html close;
```

RTF 出力を作成します。 ODS RTF ステートメントにより RTF 出力先が開かれ、RTF 出力が作成されます。BODYTITLE_AUX オプションにより、SAS はタイトルと脚注を出力の本文に配置します。さらに、このオプションによって、タイトルと脚注がセル中に配置されます。

```
ods rtf file="bodytitle_aux.rtf" bodytitle_aux;
```

データセットクラスである Sashelp.Class を出力します。

```
proc print data=sashelp.class;
run;
```

出力にタイトルと脚注を追加します。 BODYTITLE_AUX オプションをすでに指定しているため、ODS によってタイトルと脚注が出力の本文に追加され、テキストがセル中に配置されます。J=スタイルによって、ページ上でタイトルと脚注の位置が、左、中央、右に指定されます。

```
title j=l "left" j=c "center" j=r "right";
title2 j=l "left";
title3 j=c "center";
title4 j=r "right";
footnote j=l "left" j=c "center" j=r "right";
run;
```

RTF 出力先を閉じます。 ODS RTF CLOSE ステートメントによって、RTF 出力先とその関連ファイルのすべてが閉じられます。出力先を閉じないと、ブラウザウィンドウでファイルが表示できなくなります。

```
ods rtf close;
ods html;
```

次の出力は、BODYTITLE_AUX オプションを指定する場合、タイトルと脚注が ODS によってどのように出力本文に配置されるかを示しています。次に、タイトルと脚注のテキストが、セルおよび表形式で配置されます。タイトルと脚注のテキストを中央寄

せ、右揃え、左揃えするために、JUSTIFY スタイルエレメントを使用することができます。

The screenshot shows a window titled "Results Viewer - bodytitle_aux.rtf". The main content area contains a table with three columns. The first column has the text "left" at the top and "left" at the bottom. The second column has the text "center" at the top and "center" at the bottom. The third column has the text "right" at the top and "right" at the bottom. Below this table is a data table with 19 rows and 6 columns: Obs, Name, Sex, Age, Height, and Weight. The data table contains the following information:

Obs	Name	Sex	Age	Height	Weight
1	Alfred	M	14	69.0	112.5
2	Alice	F	13	56.5	84.0
3	Barbara	F	13	65.3	98.0
4	Carol	F	14	62.8	102.5
5	Henry	M	14	63.5	102.5
6	James	M	12	57.3	83.0
7	Jane	F	12	59.8	84.5
8	Janet	F	15	62.5	112.5
9	Jeffrey	M	13	62.5	84.0
10	John	M	12	59.0	99.5
11	Joyce	F	11	51.3	50.5
12	Judy	F	14	64.3	90.0
13	Louise	F	12	56.3	77.0
14	Mary	F	15	66.5	112.0
15	Philip	M	16	72.0	150.0
16	Robert	M	12	64.8	128.0
17	Ronald	M	15	67.0	133.0
18	Thomas	M	11	57.5	85.0
19	William	M	15	66.5	112.0

Example 3: ORIENTATION=システムオプションとRTF の相互作用

Features:

ODS RTF ステートメント操作

CLOSE

ODS RTF ステートメントオプション

FILE=

Other features:

OPTIONS ステートメント: ORIENTATION オプション

PROC PRINT

TITLE ステートメント

RTF の用紙の方向を変更したい場合、ORIENTATION=システムオプションを指定します。この用紙方向の変更を活動化または起動させるには、ODS RTF ステートメントが ORIENTATION=ODS の後に続ける必要があります。次の例は、RTF ファイル内で用紙方向変更の指定を行うコード例です。

プログラム

```
OPTIONS NODATE NOSTIMER LS=78 PS=60;
```

```
ods html close;

title 'Page Orientation';
title2 'Default';

ods rtf file="ChgOrientation.rtf";

proc print data=sashelp.class (obs=1);
run;

title 'Page Orientation';
title2 'Landscape';

options orientation=landscape;

ods rtf;

proc print data=sashelp.class (obs=1);
run;

ods rtf close;
ods html;
```

Program Description

出力のレイアウトを指定します。 ページ中に日付と時間を印刷しないように、また SAS 統計を SAS ログに書き込まないように、ODS に指示します。ページ数を 60 に、行数を 78 に設定します。

```
OPTIONS NODATE NOSTIMER LS=78 PS=60;
```

HTML 出力が作成されないように HTML 出力先を閉じます。 HTML 出力先はデフォルトで開いています。ODS HTML ステートメントでは、リソースを節約するように HTML 出力先が閉じられます。

```
ods html close;
```

出力にタイトルと脚注を追加します。 ファイル出力全体のタイトルを追加し、次に 用紙方向変更を示すタイトルを追加します。

```
title 'Page Orientation';
title2 'Default';
```

RTF 出力を作成します。 ODS RTF ステートメントにより RTF 出力先が開かれ、RTF 出力が作成されます。この場合、デフォルトで、このステートメントにより用紙方向変更が起動されます。

```
ods rtf file="ChgOrientation.rtf";
```

1 つの観測のみで Sashelp.Class データセットを印刷します。 用紙方向はデフォルトの方向で、縦です。

```
proc print data=sashelp.class (obs=1);
run;
```

出力ファイル内に、用紙方向を変更するという意味のタイトルを追加します。 用紙方向を横に変更するという意味のタイトルを追加します。

```
title 'Page Orientation';
title2 'Landscape';
```

用紙方向を変更するためのシステムオプションを指定します。


```
options orientation=landscape;
```

用紙方向変更を起動します。この RTF ステートメントによって、縦から横への用紙方向変更が開始されます。

```
ods rtf;
```

1つの観測のみで Sashelp.Class データセットを印刷します。

```
proc print data=sashelp.class (obs=1);
run;
```

RTF 出力先を閉じます。ODS RTF CLOSE ステートメントによって、RTF 出力先とその関連ファイルのすべてが閉じられます。出力先を閉じないと、ブラウザウィンドウでファイルが表示できなくなります。

```
ods rtf close;
ods html;
```

RTF 出力

最初のページの RTF 出力が次に示されています。用紙方向はデフォルトの方向で、縦です。

Obs	Name	Sex	Age	Height	Weight
1	Alfred	M	14	69.0	112.5
2	Alice	F	13	56.5	84.0
3	Barbara	F	13	65.3	98.0
4	Carol	F	14	62.8	102.5
5	Henry	M	14	63.5	102.5
6	James	M	12	57.3	83.0
7	Jane	F	12	59.8	84.5
8	Janet	F	15	62.5	112.5
9	Jeffrey	M	13	62.5	84.0
10	John	M	12	59.0	99.5
11	Joyce	F	11	51.3	50.5
12	Judy	F	14	64.3	90.0
13	Louise	F	12	56.3	77.0
14	Mary	F	15	66.5	112.0
15	Philip	M	16	72.0	150.0
16	Robert	M	12	64.8	128.0
17	Ronald	M	15	67.0	133.0
18	Thomas	M	11	57.5	85.0
19	William	M	15	66.5	112.0

2 番目のページの RTF 出力が次に示されています。用紙の方向は横に変更されました。

Page Orientation
Landscape

Obs	Name	Sex	Age	Height	Weight
1	Alfred	M	14	69.0	112.5
2	Alice	F	13	56.5	84.0
3	Barbara	F	13	65.3	98.0
4	Carol	F	14	62.8	102.5
5	Henry	M	14	63.5	102.5
6	James	M	12	57.3	83.0
7	Jane	F	12	59.8	84.5
8	Janet	F	15	62.5	112.5
9	Jeffrey	M	13	62.5	84.0
10	John	M	12	59.0	99.5
11	Joyce	F	11	51.3	50.5
12	Judy	F	14	64.3	90.0
13	Louise	F	12	56.3	77.0
14	Mary	F	15	66.5	112.0
15	Philip	M	16	72.0	150.0
16	Robert	M	12	64.8	128.0
17	Ronald	M	15	67.0	133.0
18	Thomas	M	11	57.5	85.0
19	William	M	15	66.5	112.0

ODS SELECT ステートメント

ODS 出力先の出力オブジェクトを指定します。

該当要素: 任意の場所

カテゴリ: ODS: 出力制御

ヒント: 1つの出力先に選択リスト、その他用に除外リストを保持できます。しかし、出力をルーティングするすべての出力先に同類のリストを保持するほうが結果を理解しやすくなります。

参照項目: [“ODS EXCLUDE ステートメント” \(232 ページ\)](#)

構文

ODS <ODS-destination> SELECT *選択* | ALL | NONE;

必須引数

選択

選択リストに追加する出力オブジェクトを指定します。ODS は、選択リストのアイテムリストを有効なすべての ODS 出力先に送ります。デフォルトでは、ODS を使用する DATA ステップの最後またはプロシジャステップの最後に ODS によって選択リストは自動的に変更されます。これらのリストの変更に関する詳細は、次を参照してください。[“選択リストと除外リスト” \(49 ページ\)](#) DATA およびプロシジャステップを終了する方法に関する詳細は、DATA ステップ処理のセクションを参照してください。SAS 言語リファレンス: 解説編

各 *選択* の形式は次のとおりです。

output-object <(PERSIST)>

output-object

選択する出力オブジェクトを指定します。

出力オブジェクトを指定するには、SAS プログラムにより生成される出力オブジェクトの種類を把握する必要があります。ODS TRACE ステートメントは、SAS プログラムにより生成される各出力オブジェクトのパス、ラベルおよびその他の情報からなるトレースレコードを SAS ログに書き込みます。出力オブジェクトは、次のいずれかの形式で指定できます。

- 完全パス。出力オブジェクトの完全パスの例には次があります。

```
Univariate.City_Pop_90.TestsForLocation
```

- 部分パス。部分パスは、ピリオド(.)の直後に始まり、完全パスの最後まで続く、完全パスの一部です。たとえば、完全パスが次のとおりだとすると、

```
Univariate.City_Pop_90.TestsForLocation
```

部分パスは 次のようになります。

```
City_Pop_90.TestsForLocation
TestsForLocation
```

- 引用符で囲まれるラベルです。

例:

```
"The UNIVARIATE Procedure"
```

- ラベルパス。出力オブジェクトのラベルパスの例を次に示します。

```
"The UNIVARIATE Procedure"."CityPop_90"."Tests For Location"
```

注: トレースレコードでラベルパスが表示されるのは、ODS TRACE ステートメントで LABEL オプションを指定した場合に限ります。

- 部分ラベルパス。部分ラベルパスは、ピリオド(.)の直後から始まり、ラベルの最後まで続く、ラベルの一部です。たとえば、ラベルパスが次のとおりだとすると、

```
"The UNIVARIATE Procedure"."CityPop_90"."Tests For Location"
```

部分ラベルパスは次のようになります。

```
"CityPop_90"."Tests For Location"
"Tests For Location"
```

- ラベルとパスの組み合わせ。
- 任意の部分パスの指定の次にポンド記号(#)と数字を指定します。たとえば、TestsForLocation#3 は名前が TestsForLocation の 3 番目の出力オブジェクトを示します。

参照項目: “ODS TRACE ステートメント” (696 ページ)

(PERSIST)

DATA またはプロシジャステップが終了した場合でも、次の内の1つを使ってリストを明示的に変更するまで、選択リスト内の PERSIST オプションに先行する *output-object* を保持します。

- あらゆる ODS EXCLUDE ステートメント
- ODS SELECT NONE
- ODS SELECT ALL
- 同一の出力オブジェクトに適用されても、PERSIST を指定しない ODS EXCLUDE ステートメント

要件 PERSIST は、かっこで囲む必要があります。

ALL

ODS がすべての出力オブジェクトを開いている出力先に送信するよう指定します。

別名: ODS SELECT DEFAULT

操作: 出力先を指定せずに ALL を指定する場合、ODS によって全リストが SELECT ALL に設定され、その他の全リストはデフォルトに設定されます。

NONE

ODS が開いている出力先に出力オブジェクトを送信しないよう指定します。

操作: 出力先を指定せずに NONE 引数を指定する場合は、ODS によって全リストが SELECT NONE に設定され、その他の全リストはデフォルトに設定されます。

ヒント:

NONE 操作を使用することは、出力先を閉じることは異なります。出力先が開かれていても、ODS は出力が出力先に送られるのを制限します。

出力先を一時的に停止するには、ODS SELECT NONE を使用します。一時的に停止した出力先への出力オブジェクトの送信を再開するには、ODS SELECT ALL を使用します。

オプション引数

NOWARN

出力オブジェクトが要求されたが作成はされなかったことを知らせる警告を非表示にします。

ODS-destination

どの ODS destination の選択リストに書き込むかを指定します。ここでは、ODS-destination は、OUTOUT 出力先以外の、どの有効な ODS 出力先でも利用可能です。

デフォルト: ODS-destination を省略すると、ODS によって全除外リストに書き込まれます。

制限事項: OUTPUT 出力先 の選択リストに書き込むことはできません。

ヒント: 出力先の選択リストをデフォルト以外に設定するには、次を参照してください。“ODS OUTPUT ステートメント” (455 ページ)

参照項目: “ODS 出力先について” (33 ページ) ODS 出力先の詳細について

WHERE=*where-expression*

特定の条件を満たす出力オブジェクトを選択します。たとえば、次のステートメントによって選択されるのは、名前に“Histogram”が含まれる出力オブジェクトのみとなります。

```
ods select where=( _name_ ? 'Histogram' );
```

where-expression

演算子またはオペランドのシーケンスから構成される演算式または論理式です。*where-expression* の形式は次のとおりです。

```
(subsetting-variable <comparison-operatorwhere-expression-n> )
```

subsetting-variable

サブセット変数は、SAS で使用される WHERE 式オペランドの特別型式で、アイテムの共通値の検索に役立ちます。たとえば、この ODS SELECT ステートメントは、City_Pop_90.TestsForLocation

```
ods select / where=( _path_ = 'City_Pop_90.TestsForLocation' );
```

のパスを含む出力オブジェクトのみを選択します。

`subsetting-variable` は次のいずれかです。

`__LABEL__`
出力オブジェクトのラベルです。

`__LABELPATH__`
出力オブジェクトのラベルパスです。

`__NAME__`
出力オブジェクトの名前です。

`__PATH__`
出力オブジェクトの完全パスまたは部分パスです。

演算子

変数を値または別の変数と比較します。演算子には、AND、OR NOT、OR、AND NOT、比較演算子を使用できます。

次の表では、比較演算子の一部をリストで示しています。

表 6.12 比較演算子の例

記号	ニーモニック相当	定義
=	EQ	次の値に等しい
^=、~=、~=または<>	NE	次の値に等しくない
>	GT	次の値より大きい
<	LT	未満
>=	GE	以上
<=	LE	以下
	IN	リストの任意の値と等しい

例

例 1: 複数のプロシジャステップでの選択リストの使用

要素:

ODS SELECT ステートメント:

ラベルをともなう

名称をともなう

PERSIST をともなう、またはともなわない

ALL

ODS SHOW ステートメント

ODS HTML ステートメントオプション:

BODY=

CONTENTS=

FRAME=

PAGE=

他の要素:

PROC GLM

```
PROC PRINT
PROC PLOT
```

データセット:

```
Iron
```

詳細

この例は、ODS が選択リストをどのように保持、変更するかを示すために同じプロシジャを複数回実行します。ODS SHOW ステートメントは、選択リスト全体を SAS ログに書き込みます。各出力先の選択リストを変更しません。ODS HTML ステートメントにより生成されたコンテンツファイルは、どの出力オブジェクトが HTML およびリスト出力先の両方にルーティングされるかを表示します。

この例は、PROC GLM が生成するパラメータの推定値からデータセットを作成および印刷します。このプロシジャは、SAS/STAT ソフトウェアの一部です。

プログラム

```
ods html body='odspersist-body.htm'
frame='odspersist-frame.htm'
contents='odspersist-contents.htm'
page='odspersist-page.htm';

ods show;

ods select ParameterEstimates
"Type III Model ANOVA";

ods show;

proc glm data=iron;
model loss=fe;
title 'Parameter Estimates and Type III Model ANOVA';
run;

ods show;

quit;

ods show;

proc glm data=iron;
model loss=fe;
title 'All Output Objects Selected';
run;
quit;

ods select OverallANOVA(persist) "Fit Statistics";

proc glm data=iron;
model loss=fe;
title 'OverallANOVA and Fitness Statistics';
run;

quit;

ods show;

proc glm data=iron;
model loss=fe;
title 'OverallANOVA';
```

```

title2 'Part of the Selection List Persists';
run;

quit;

proc print data=iron;
title 'The IRON Data Set';
run;

ods select all;

proc plot data=iron;
plot fe*loss=*' / vpos=25 ;
label fe='Iron Content'
loss='Weight Loss';
title 'Plot of Iron Versus Loss';
run;

quit;

ods html close;

```

プログラムの説明

HTML 出力を作成します。 ODS HTML は、ボディ、コンテンツ、フレームおよびページファイルを作成します。プロシジャからの出力は、odspersist-body.htm ファイルへ送られます。FRAME=、CONTENTS=、および PAGE= は、ファイル、OdsPersist-Frame.htm、OdsPersist-Contents.htm および OdsPersist-Page.htm をそれぞれ作成します。これらのファイルと OdsPersist-Body.htm がともに、ボディファイルのコンテンツにリンクするコンテンツのテーブルとページのテーブルを含むフレームを作成します。

```

ods html body='odspersist-body.htm'
frame='odspersist-frame.htm'
contents='odspersist-contents.htm'
page='odspersist-page.htm';

```

全体の選択リストを SAS ログに書き込みます。 ODS SHOW ステートメントは、デフォルトで SELECT ALL に設定されている全体のリストを SAS ログに書き込みます。“[SAS ログ](#)” (607 ページ)内の [1]を参照してください。

```
ods show;
```

開いている出力先へ送られる出力オブジェクトを指定します。 ODS SELECT ステートメントは、どの出力オブジェクトが ODS によって LISTING および HTML 出力先に送られるかを指定します。この場合、ODS は、2つの出力先に ParameterEstimates という名のすべての出力オブジェクトおよび「Type III Model ANOVA」というラベルが貼られたすべての出力オブジェクトを送ります。

```
ods select ParameterEstimates
"Type III Model ANOVA";
```

変更された全体の選択リストを SAS ログに書き込みます。 ODS SHOW ステートメントは、ODS SELECT ステートメントで以前指定された2つのアイテムを含む全体の選択リストを SAS ログに書き込みます。“[SAS ログ](#)” (607 ページ)内の [2]を参照してください。

```
ods show;
```

出力オブジェクトを作成し、選択された出力オブジェクトを開いている出力先に送信します。 PROC GLM によって各出力オブジェクトは Output Delivery System に送信されるた

め、ODS によって、選択リストの項目と一致する PROC GLM からの2つの出力オブジェクトが開いている出力先に送信されます。“HTML 出力” (608 ページ)の目次の 1 を参照してください。コンテンツのテーブルに表示されるのは出力オブジェクトのラベルであり、名前ではないことに留意してください。ParameterEstimates のラベルは、「Solution」です。

```
proc glm data=iron;
model loss=fe;
title 'Parameter Estimates and Type III Model ANOVA';
run;
```

全体の選択リストを SAS ログに書き込みます。 PROC GLM は、run-group 処理をサポートします。そのため、RUN ステートメントは、プロシジャを終了させず、ODS は自動的に選択リストを変更しません。“SAS ログ” (607 ページ)内の [3] を参照してください。

```
ods show;
```

GLM プロシジャを終了します。 QUIT ステートメントがプロシジャを終了します。ODS は、選択リストから PERSIST で指定されていないすべてのオブジェクトを削除します。この操作がリストからすべてのオブジェクトを削除するため、ODS はリストをそのデフォルトの SELECT ALL に設定します。

```
quit;
```

現在の選択リストを SAS ログに書き込みます。 ODS SHOW ステートメントは、SAS ログに現在の選択リストを書き込みます。“SAS ログ” (607 ページ)内の [4] を参照してください。

```
ods show;
```

出力オブジェクトを作成し、選択された出力オブジェクトを開いている出力先に送信してからプロシジャを終了します。 PROC GLM が Output Delivery System に各出力オブジェクトを送るとき、ODS は、HTML および LISTING の出力先にすべての出力オブジェクトを送ります。“HTML 出力” (608 ページ)内の目次の 2. を参照してください。QUIT ステートメントがプロシジャを終了します。リストが引数 ALL を使用するため、ODS は PROC ステップが終了する時にリストを自動的に変更しません。

```
proc glm data=iron;
model loss=fe;
title 'All Output Objects Selected';
run;
quit;
```

全体の選択リストを変更してください。 この ODS SELECT ステートメントは、全体の選択リストを変更します。OverallANOVA という名のすべての出力オブジェクトおよび Fit Statistics のラベルのすべての出力オブジェクトを HTML および LISTING 出力先の両方に送ります。PERSIST オプションは、ODS が選択リストを自動的に変更した場合に、OverallANOVA が選択リストに残るように指定します。

```
ods select OverallANOVA(persist) "Fit Statistics";
```

出力オブジェクトを作成し、選択された出力オブジェクトを開いている出力先に送信します。 PROC GLM によって各出力オブジェクトは Output Delivery System に送信されるため、ODS によって、選択リストの項目と一致する PROC GLM からの2つの出力オブジェクトが HTML および LISTING 先に送信されます。“HTML 出力” (608 ページ)目次の 3. を参照してください。

```
proc glm data=iron;
model loss=fe;
```



```
title 'OverallANOVA and Fitness Statistics';
run;
```

GLM プロシジャを終了して、自動的に選択リストを変更します。 QUIT ステートメントがプロシジャを終了すると、ODS は自動的に選択リストを変更します。PERSIST オプションで指定されているため、OverallANOVA は選択リストに残ります。Fitness Statistics を選択リストから除外します。

```
quit;
```

現在の選択リストを SAS ログに書き込みます。 ODS SHOW ステートメントは、SAS ログに現在の選択リストを書き込みます。“[SAS ログ](#)” (607 ページ) 内の [5] を参照してください。

```
ods show;
```

出力オブジェクトを作成し、選択された出力オブジェクトを開いている出力先に送信します。 PROC GLM が各出力オブジェクトを Output Delivery System に送るときに、ODS は、OverallANOVA という名の出力オブジェクトのみを HTML およびリスト出力先に送ります。“[HTML 出力](#)” (608 ページ) の目次の 4. を参照してください。

```
proc glm data=iron;
model loss=fe;
title 'OverallANOVA';
title2 'Part of the Selection List Persists';
run;
```

GLM プロシジャを終了して、自動的に選択リストを変更します。 QUIT ステートメントがプロシジャを終了すると、ODS は自動的に選択リストを変更します。PERSIST オプションで指定されているため、OverallANOVA は選択リストに残存します。

```
quit;
```

PROC PRINT は、OverallANOVA という名の出力を作成しません。 そのため、ODS の出力先に PROC PRINT 出力は送られません。

```
proc print data=iron;
title 'The IRON Data Set';
run;
```

すべての選択リストをリセットしてください。 この ODS SELECT ステートメントは、すべての選択リストをデフォルトにリセットします。

```
ods select all;
```

プロットを作成します。 PROC PLOT が Output Delivery System に各出力オブジェクトを作成して送るときに、ODS は、それらのリストおよび全体リストが SELECT ALL に設定 (デフォルト) されているため、HTML および LISTING 出力先それぞれ出力オブジェクトを1つずつ送ります。

```
proc plot data=iron;
plot fe*loss='*' / vpos=25 ;
label fe='Iron Content'
loss='Weight Loss';
title 'Plot of Iron Versus Loss';
run;
```

PLOT プロシジャを終了します。 QUIT ステートメントが PLOT プロシジャを終了します。リストが引数 ALL を使用するため、ODS は PROC ステップが終了する時にリストを自動的に変更しません。

```
quit;
```

HTML 出力先を閉じます。 この ODS HTML ステートメントによって、HTML 出力先とその関連ファイルすべてが閉じられます。

```
ods html close;
```

SAS ログ

ログ 6.1 ODS SHOW ステートメントは、現在の選択リストを SAS ログに書き込みます。

```

SAS (r) Proprietary Software 9.3 (TS1M0) [2]Licensed to SAS Institute Inc., Site
1. [3]注意:このセッションは、XP_PRO プラットフォームで実行されています。
注意:SAS 初期設定を使用する。

リアルタイム 45.18 秒
cpu タイム 3.24 秒

1 データアイロン;
2 input Fe Loss @@;
3 データライン;

注意:INPUT ステートメントが最終行を通り越したときに、SAS は新しい行に移行しました。注意:WORK.IRON データセットは、13 のオブザベーションおよび 2 つの変数を持ちます。注意:使用される DATA ステートメント (処理時間合計):
リアルタイム 5.25 秒
cpu タイム 0.28 秒

8 ;
9 run;
10
11
12 ods html ボディ='odspersist-body.htm'
13 フレーム='odspersist-frame.htm'
14 コンテンツ='odspersist-contents.htm'
15 ページ='odspersist-page.htm';
注意: HTML ボディファイルの書き込み: odspersist-body.htm
注意:HTML コンテンツファイルの書き込み odspersist-contents.htm
注意:HTML ページファイルの書き込み: odspersist-page.htm
注意:HTML フレームの書き込み odspersist-frame.htm
16 ods show;
現行の OVERALL 選択リスト: ALL
17 ods select ParameterEstimates
18 "Type III Model ANOVA";
19 ods show;
現行の OVERALL 選択リストは:
1. ParameterEstimates
2. 'Type III Model ANOVA'
20 proc glm data=iron;
21 model loss=fe;
22 タイトル 'パラメタ推定および Type III Model ANOVA';
23 実行;

24 ods show;
現行の OVERALL 選択リストは:
1. ParameterEstimates
2. 'Type III Model ANOVA'
25 quit;

注意:使用される PROCEDURE GLM (処理時間合計):
リアルタイム 0.85 秒
cpu タイム 0.14 秒

26 ods show;
現行の OVERALL 選択リストは:ALL
27 proc glm data=iron;
28 model loss=fe;
29 タイトル 'All Output Objects Selected';
30 実行;

31 quit;

注意:使用される PROCEDURE GLM (処理時間合計):
リアルタイム 5.60 秒
cpu タイム 0.32 秒

```

```

32 ods select OverallANOVA(persist) "Fit Statistics";
33 proc glm data=iron;
34 model loss=fe;
35 タイトル 'OverallANOVA および Fitness Statistics';
36 実行;

37 quit;

注意:使用される PROCEDURE GLM (処理時間合計):
リアルタイム 0.15 秒
cpu タイム 0.07 秒

38 ods show;
現行の OVERALL 選択リストは、
1. OverallANOVA (PERSIST)
39 proc glm データ=iron;
40 model loss=fe;
41 タイトル 'OverallANOVA';
42 タイトル 2 'Part of the Selection List Persists';
43 実行;

44 quit;

注意:使用される PROCEDURE GLM (処理時間合計):
リアルタイム 0.18 秒
cpu タイム 0.04 秒

45 proc プリントデータ=iron;
46 タイトル 'The IRON Data Set';
47 実行;

注意:データセット WORK. IRON から13個のオブザベーションが読み込まれました。注意:使用される PROCEDURE
PRINT (処理時間合計):
リアルタイム 0.40 秒
cpu タイム 0.01 秒

48 ods select all;
49 proc プロットデータ=iron;
50 plot fe*loss='*' / vpos=25 ;
51 label fe='Iron Content'
52 loss='Weight Loss';
53 タイトル 'Plot of Iron Versus Loss';
54 実行;

注意:プラットフォーム間で互換性のない文書が作成されます。FORMCHAR の現在の設定が規格外の線画文字を使用し、文書のすべての読者が SAS 等幅フォント をインストールしていないならば、出力ファイルは正確に表示されません。文書をポータブルにするために、次のコマンドを発行します。
OPTIONS FORMCHAR="|----|+|----+=|-/\<>*";

55 quit;

注意:データセット WORK. IRON から、13 件のオブザベーションが読み込まれました。注意: 使用された
PROCEDURE PLOT (合計処理時間):
リアルタイム 0.21 秒
cpu タイム 0.06 秒

56 ods html 終了;

```

HTML 出力

コンテンツファイルは、ODS が開かれた ODS 出力先に送信された各プロシージャからの出力オブジェクトを表示します。PROC PRINT 用にいかなる出力も HTML 出力先

に書き込まれていないことがわかります (PROC PRINT が選択リスト内の名前と合致するものを何も作成しなかったため)。ODS SELECT ALL ステートメントが実行された後に、PROC PLOT 出力が、HTML 出力先に書き込まれたことがわかります。

アウトプット 6.29 ODS HTML ステートメントにより作成されたコンテンツファイル

Table of Contents		Parameter Estimates and Type III Model ANOVA																																																																																																											
1. GLM	<ul style="list-style-type: none"> ·Analysis of Variance ·Loss <ul style="list-style-type: none"> ·Type III Model ANOVA ·Solution 	<p>The GLM Procedure</p> <p>Dependent Variable: Loss</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Source</th> <th>DF</th> <th>Type III SS</th> <th>Mean Square</th> <th>F Value</th> <th>Pr > F</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Fe</td> <td>1</td> <td>3293.766690</td> <td>3293.766690</td> <td>352.27</td> <td><.0001</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Parameter</th> <th>Estimate</th> <th>Standard Error</th> <th>t Value</th> <th>Pr > t </th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Intercept</td> <td>129.7865993</td> <td>1.40273671</td> <td>92.52</td> <td><.0001</td> </tr> <tr> <td>Fe</td> <td>-24.0198934</td> <td>1.27976715</td> <td>-18.77</td> <td><.0001</td> </tr> </tbody> </table> <hr/> <p>All Output Objects Selected</p> <p>The GLM Procedure</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>Number of Observations Read</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>Number of Observations Used</td> <td>13</td> </tr> </tbody> </table> <hr/> <p>All Output Objects Selected</p> <p>The GLM Procedure</p> <p>Dependent Variable: Loss</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Source</th> <th>DF</th> <th>Sum of Squares</th> <th>Mean Square</th> <th>F Value</th> <th>Pr > F</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Model</td> <td>1</td> <td>3293.766690</td> <td>3293.766690</td> <td>352.27</td> <td><.0001</td> </tr> <tr> <td>Error</td> <td>11</td> <td>102.850233</td> <td>9.350021</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>Corrected Total</td> <td>12</td> <td>3396.616923</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>R-Square</th> <th>Coeff Var</th> <th>Root MSE</th> <th>Loss Mean</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.969720</td> <td>2.810063</td> <td>3.057780</td> <td>108.8154</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Source</th> <th>DF</th> <th>Type I SS</th> <th>Mean Square</th> <th>F Value</th> <th>Pr > F</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Fe</td> <td>1</td> <td>3293.766690</td> <td>3293.766690</td> <td>352.27</td> <td><.0001</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Source</th> <th>DF</th> <th>Type III SS</th> <th>Mean Square</th> <th>F Value</th> <th>Pr > F</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Fe</td> <td>1</td> <td>3293.766690</td> <td>3293.766690</td> <td>352.27</td> <td><.0001</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Parameter</th> <th>Estimate</th> <th>Standard Error</th> <th>t Value</th> <th>Pr > t </th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Intercept</td> <td>129.7865993</td> <td>1.40273671</td> <td>92.52</td> <td><.0001</td> </tr> <tr> <td>Fe</td> <td>-24.0198934</td> <td>1.27976715</td> <td>-18.77</td> <td><.0001</td> </tr> </tbody> </table>						Source	DF	Type III SS	Mean Square	F Value	Pr > F	Fe	1	3293.766690	3293.766690	352.27	<.0001	Parameter	Estimate	Standard Error	t Value	Pr > t	Intercept	129.7865993	1.40273671	92.52	<.0001	Fe	-24.0198934	1.27976715	-18.77	<.0001	Number of Observations Read	13	Number of Observations Used	13	Source	DF	Sum of Squares	Mean Square	F Value	Pr > F	Model	1	3293.766690	3293.766690	352.27	<.0001	Error	11	102.850233	9.350021			Corrected Total	12	3396.616923				R-Square	Coeff Var	Root MSE	Loss Mean	0.969720	2.810063	3.057780	108.8154	Source	DF	Type I SS	Mean Square	F Value	Pr > F	Fe	1	3293.766690	3293.766690	352.27	<.0001	Source	DF	Type III SS	Mean Square	F Value	Pr > F	Fe	1	3293.766690	3293.766690	352.27	<.0001	Parameter	Estimate	Standard Error	t Value	Pr > t	Intercept	129.7865993	1.40273671	92.52	<.0001	Fe	-24.0198934	1.27976715	-18.77	<.0001
Source	DF							Type III SS	Mean Square	F Value	Pr > F																																																																																																		
Fe	1							3293.766690	3293.766690	352.27	<.0001																																																																																																		
Parameter	Estimate							Standard Error	t Value	Pr > t																																																																																																			
Intercept	129.7865993							1.40273671	92.52	<.0001																																																																																																			
Fe	-24.0198934	1.27976715	-18.77	<.0001																																																																																																									
Number of Observations Read	13																																																																																																												
Number of Observations Used	13																																																																																																												
Source	DF	Sum of Squares	Mean Square	F Value	Pr > F																																																																																																								
Model	1	3293.766690	3293.766690	352.27	<.0001																																																																																																								
Error	11	102.850233	9.350021																																																																																																										
Corrected Total	12	3396.616923																																																																																																											
R-Square	Coeff Var	Root MSE	Loss Mean																																																																																																										
0.969720	2.810063	3.057780	108.8154																																																																																																										
Source	DF	Type I SS	Mean Square	F Value	Pr > F																																																																																																								
Fe	1	3293.766690	3293.766690	352.27	<.0001																																																																																																								
Source	DF	Type III SS	Mean Square	F Value	Pr > F																																																																																																								
Fe	1	3293.766690	3293.766690	352.27	<.0001																																																																																																								
Parameter	Estimate	Standard Error	t Value	Pr > t																																																																																																									
Intercept	129.7865993	1.40273671	92.52	<.0001																																																																																																									
Fe	-24.0198934	1.27976715	-18.77	<.0001																																																																																																									
2. GLM	<ul style="list-style-type: none"> ·Data <ul style="list-style-type: none"> ·Number of Observations ·Analysis of Variance <ul style="list-style-type: none"> ·Loss <ul style="list-style-type: none"> ·Overall ANOVA ·Fit Statistics ·Type I Model ANOVA ·Type III Model ANOVA ·Solution ·FitPlot 																																																																																																												
3. GLM	<ul style="list-style-type: none"> ·Analysis of Variance ·Loss <ul style="list-style-type: none"> ·Overall ANOVA ·Fit Statistics 																																																																																																												
4. GLM	<ul style="list-style-type: none"> ·Analysis of Variance ·Loss <ul style="list-style-type: none"> ·Overall ANOVA 																																																																																																												
5. Plot	<ul style="list-style-type: none"> ·Plot of Fe*Loss 																																																																																																												
Table of Pages																																																																																																													
1. GLM	<ul style="list-style-type: none"> ·Page 1 																																																																																																												
2. GLM	<ul style="list-style-type: none"> ·Page 2 ·Page 3 																																																																																																												
3. GLM	<ul style="list-style-type: none"> ·Page 4 																																																																																																												
4. GLM	<ul style="list-style-type: none"> ·Page 5 																																																																																																												
5. Plot	<ul style="list-style-type: none"> ·Page 6 																																																																																																												

例 2: 出力オブジェクトの条件付きの選択

要素:

ODS SELECT ステートメントオプション:

WHERE=

ODS TRACE ステートメントオプション:

LABEL

EXCLUDED

ODS HTML ステートメント

他の要素:

PROC UNIVARIATE

プログラム

```

data BPressure;
length PatientID $2;
input PatientID $ Systolic Diastolic @@;
datalines;
CK 120 50 SS 96 60 FR 100 70
CP 120 75 BL 140 90 ES 120 70
CP 165 110 JI 110 40 MC 119 66
FC 125 76 RW 133 60 KD 108 54
DS 110 50 JW 130 80 BH 120 65
JW 134 80 SB 118 76 NS 122 78
GS 122 70 AB 122 78 EC 112 62
HH 122 82
;
run;

title 'Systolic and Diastolic Blood Pressure';

ods trace on / label excluded;

ods select where=(_path_ ? "Diastolic" and _name_='Moments') ;

proc univariate data=BPressure;
var Systolic Diastolic;
run;

```

プログラムの説明

BPressure データセットを作成します。

```

data BPressure;
length PatientID $2;
input PatientID $ Systolic Diastolic @@;
datalines;
CK 120 50 SS 96 60 FR 100 70
CP 120 75 BL 140 90 ES 120 70
CP 165 110 JI 110 40 MC 119 66
FC 125 76 RW 133 60 KD 108 54
DS 110 50 JW 130 80 BH 120 65
JW 134 80 SB 118 76 NS 122 78
GS 122 70 AB 122 78 EC 112 62
HH 122 82
;
run;

```

タイトルを追加します。

```
title 'Systolic and Diastolic Blood Pressure';
```

SAS がトレース記録を SAS ログに書き込むことを指定します。 この ODS TRACE ステートメントがトレース記録を SAS ログに書き込みます。LABEL オプションは、トレースレコードにラベルパスを含めます。EXCLUDED オプションは、SAS が出力先から除外した出力オブジェクトに関する情報を含みます。

```
ods trace on / label excluded;
```

出力オブジェクトを選択します。WHERE = オプションが指定された ODS SELECT ステートメントは、「Moments」という名称で、パス名に「Diastolic」を含む出力オブジェクトを選択します。

```
ods select where=(_path_ ? "Diastolic" and _name_='Moments') ;
```

出力オブジェクトを作成し、選択された出力オブジェクトを開いている出力先に送信します。PROC UNIVARIATE によって各出力オブジェクトは Output Delivery System に送信されるため、ODS によって、選択リストの項目と一致する PROC UNIVARIATE からの出力オブジェクトが開いている出力先に送信されます。

```
proc univariate data=BPressure;
var Systolic Diastolic;
run;
```

SAS ログ: Trace Record

ログ 6.2 Trace Record を含む部分的な SAS ログ

```
1 データ BPressure;
2 長さ PatientID $2;
3 入力 PatientID $ Systolic Diastolic @@;
4 データライン;
```

注意: INPUT ステートメントが、最終行を通り越したときに、SAS は新しい行に移行しました。注意: データセット WORK.BPRESSURE は、22 件のオブザベーションおよび 3 つの変数を含みます。注意: 使用された DATA ステートメント合計処理時間):

```
リアルタイム 0.06 秒
cpu タイム 0.01 秒
```

```
13 ;
14 実行;
15 ods html file='MyOutputObjects.html';
注意: HTML ボディファイルの書き込み: MyOutputObjects.html
16 タイトル 'Systolic and Diastolic Blood Pressure';
17 ods trace on / label excluded;
18 ods select where=(_path_ ?"Diastolic" および _name_='Moments') ;
19 proc univariate データ=BPressure;
20 var Systolic Diastolic;
21 行;
```

```
Output Excluded:
-----
Name: Moments
Label: Moments
Template: base.univariate.Moments
Path: Univariate.Systolic.Moments
Label Path: 'The Univariate Procedure'.'Systolic'.'Moments'
-----

Output Excluded:
-----
Name: BasicMeasures
Label: Basic Measures of Location and Variability
Template: base.univariate.Measures
Path: Univariate.Systolic.BasicMeasures
Label Path: 'The Univariate Procedure'.'Systolic'.'Basic Measures of Location and Variability'
-----

Output Excluded:
-----
Name: TestsForLocation
Label: Tests For Location
Template: base.univariate.Location
Path: Univariate.Systolic.TestsForLocation
Label Path: 'The Univariate Procedure'.'Systolic'.'Tests For Location'
-----

Output Excluded:
-----
Name: Quantiles
Label: Quantiles
Template: base.univariate.Quantiles
Path: Univariate.Systolic.Quantiles
Label Path: 'The Univariate Procedure'.'Systolic'.'Quantiles'
-----

Output Excluded:
-----
Name: ExtremeObs
Label: Extreme Observations
Template: base.univariate.ExtObs
Path: Univariate.Systolic.ExtremeObs
Label Path: 'The Univariate Procedure'.'Systolic'.'Extreme Observations'
-----

Output Added:
-----
Name: Moments
Label: Moments
Template: base.univariate.Moments
Path: Univariate.Diastolic.Moments
Label Path: 'The Univariate Procedure'.'Diastolic'.'Moments'
-----

Output Excluded:
-----
Name: BasicMeasures
Label: Basic Measures of Location and Variability
Template: base.univariate.Measures
Path: Univariate.Diastolic.BasicMeasures
Label Path: 'The Univariate Procedure'.'Diastolic'.'Basic Measures of Location and Variability'
-----
```



```

Output Excluded:
-----
Name: TestsForLocation
Label: Tests For Location
Template: base.univariate.Location
Path: Univariate.Diastolic.TestsForLocation
Label Path: 'The Univariate Procedure'.'Diastolic'.'Tests For Location'
-----

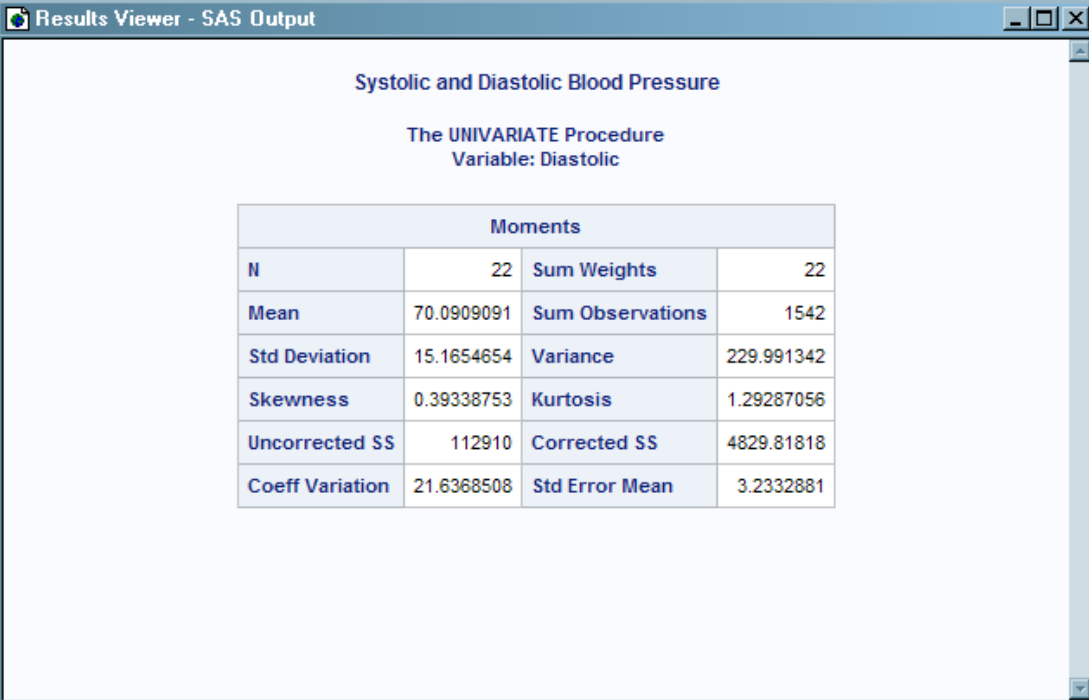
Output Excluded:
-----
Name: Quantiles
Label: Quantiles
Template: base.univariate.Quantiles
Path: Univariate.Diastolic.Quantiles
Label Path: 'The Univariate Procedure'.'Diastolic'.'Quantiles'
-----

Output Excluded:
-----
Name: ExtremeObs
Label: Extreme Observations
Template: base.univariate.ExtObs
Path: Univariate.Diastolic.ExtremeObs
Label Path: 'The Univariate Procedure'.'Diastolic'.'Extreme Observations'
-----

NOTE: PROCEDURE UNIVARIATE used (Total process time):
real time 0.09 seconds
cpu time 0.03 seconds

```

HTML 出力



Systolic and Diastolic Blood Pressure

The UNIVARIATE Procedure
Variable: Diastolic

Moments			
N	22	Sum Weights	22
Mean	70.0909091	Sum Observations	1542
Std Deviation	15.1654654	Variance	229.991342
Skewness	0.39338753	Kurtosis	1.29287056
Uncorrected SS	112910	Corrected SS	4829.81818
Coeff Variation	21.6368508	Std Error Mean	3.2332881

関連項目:**ステートメント**

- [“ODS EXCLUDE ステートメント” \(232 ページ\)](#)
- [“ODS SHOW ステートメント” \(614 ページ\)](#)
- [“ODS TRACE ステートメント” \(696 ページ\)](#)

ODS SHOW ステートメント

指定した選択/除外リストを SAS ログに書き込みます。

該当要素: 任意の場所

カテゴリ: ODS: 出力制御

構文

ODS <*ODS-destination*> **SHOW**;

オプション引数***ODS-destination***

どの ODS 出力先の選択/除外リストを SAS ログに書き込むかを指定します。*ODS-destination* は、有効な ODS 出力先にしてください。ODS 出力先の詳細は、“[ODS 出力先について](#)” (33 ページ)を参照してください。選択/除外リストの詳細は、“[選択リストと除外リスト](#)” (49 ページ)を参照してください。

デフォルト: *ODS-destination* を省略する場合、ODS SHOW によって選択/除外リストの全体が書き込まれます。

関連項目:**ステートメント**

- [“ODS EXCLUDE ステートメント” \(232 ページ\)](#)
- [“ODS SELECT ステートメント” \(598 ページ\)](#)
- [“ODS TRACE ステートメント” \(696 ページ\)](#)

ODS タグセットステートメント

指定のタグセット出力先に対して、開く、管理するまたは閉じる処理を行います。

該当要素: どこでも

カテゴリ: ODS: サードパーティフォーマット

操作: オープン ODS マークアップ出力先を参照する ODS マークアップファミリステートメントの ODS タグセットステートメントを使用すると、ODS は出力先とすべての関連ファイルを閉じ、出力先の新しいインスタンスを開くように強制されます。詳細については、次を参照。[“MARKUP 出力先を開く/閉じる” \(438 ページ\)](#)

参照項目: タグセットの指定に関する追加情報は、次を参照。15 章, “TEMPLATE プロシジャ: マークアップ言語のタグセットの作成” (1166 ページ) or “ODS MARKUP ステートメント” (404 ページ)

構文

ODS *ディレクトリ.タグセット名* *ファイル仕様* <*オプション*>;

ODS *ディレクトリ.タグセット名* *ファイル仕様* *アクション*;

オプション引数の要約

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送ります。

(ID= *identifier*)

同時に同出力先の複数のインスタンスを開いてください。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定してください。

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定してください。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

(TITLE= '*title-text*')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入してください。

(URL= '*Uniform-Resource-Locator*')

URL として *file-specification* の URL を指定してください。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます。

ANCHOR= '*anchor-name*'

現行のボディファイルの各出力オブジェクトを識別するアンカータグに最適な独自のベース名を指定してください。

ARCHIVE= '*string*'

ODS HTML 出力を閲覧するために使用するアプレットを指定してください。

ATTRIBUTES= (*attribute-pair-1* ... *attribute-pair-n*)

動的なグラフィックス出力を生成するタグの間に書き込む属性を指定します。

BASE= '*base-text*'

すべてのリンクの最初の部分として使用するテキストおよび出力ファイルにおいて ODS が作成したリファレンスを指定してください。

BODY= '*file-specification*' (サブオプション)

マークアップファミリーの出力先を開き、ODS ステートメントにより作成された主な出力を含むファイルを指定してください。

CHARSET= *character-set*

HTML 出力用の META 宣言で生成される文字セットを指定してください。

CLOSE

出力先およびそれに関連するファイルを終了してください。

CODE= '*file-specification*' <(サブオプション)>

HTML 出力先を開き、関連するスタイル情報を含むファイルを指定してください。

CODEBASE= '*string*'

GOPTIONS デバイスが使用可能なファイルパスを作成してください。

CONTENTS= *'file-specification'* <(サブオプション)>

HTML 出力先を開き、出力用の目次を含むファイルを指定してください。

CSSTYLE= *'file-specification'*<(media-type-1<...media-type-10)>>

出力に適用するカスケードスタイルシートを指定してください。

ENCODING= *local-character-set-encoding*

入力用のエンコーディングまたは、外部ファイルの出力処理(トランスコード)をオーバーライドしてください。

EVENT=*event-name* (FILE= | FINISH | LABEL= | NAME= | START | STYLE= | TARGET= | TEXT= | URL=)

イベントおよびイベントに関連するイベント変数用の値を指定してください。

EXCLUDE 除外 | ALL | NONE

出力先から出力オブジェクトを除外してください。

FRAME= *'file-specification'* <(サブオプション)>

目次、ページコンテンツ、およびボディファイルを統合するファイルを指定してください。

GFOOTNOTE | NOGFOOTNOTE

グラフィックス出力においてフットノートがプリントされるロケーションを制御してください。

GPATH= *'aggregate-file-storage-specification'* | *ファイル参照* | *libref.catalog* (URL= *'Uniform-Resource-Locator'* | NONE)

出力先が開いている間に生成されたすべてのグラフィックス出力のロケーションを指定してください。

GTITLE | NOGTITLE

グラフィック出力のタイトルがプリントされているロケーションを制御してください。

HEADTEXT= *'markup-document-head'*

出力先が書き込むすべてのファイルのタグ< HEAD> および </HEAD> の間に配置する HTML タグを指定してください。

METATEXT= *'metatext-for-document-head'*

<META><>の間、HEAD>HEAD>および<HEAD>出力先が書き込む先のすべてのファイルのタグとして使用する HTML コードを指定してください。

NEWFILE= *starting-point*

新しいボディファイルを指定された開始点に作成してください。

OPTIONS (DOC=) | サブオプション

PAGE= *'file-specification'* <(サブオプション)>

HTML 出力先を開き、ボディファイルの各ページの説明およびボディファイルへのリンクを含むファイルを指定してください。

PARAMETERS= (*parameter-pair-1* ... *parameter-pair-n*)

動的グラフィックス出力を生成するタグの間に指定されたパラメータを書き込んでください。

PATH= *'aggregate-file-storage-specification'* | *ファイル参照* | *libref.catalog* (URL= *'Uniform-Resource-Locator'* | NONE)

累積保管場所のロケーションまたはすべてのマークアップファイル用の SAS カタログを指定してください。

RECORD_SEPARATOR= *'alternative-separator'* | NONE

出力ファイルのラインを分離するために代替の文字または文字列を指定してください。

SELECT 選択 | ALL | NONE

出力先用に出力オブジェクトを選択してください。

SHOW

SAS ログに出力先用の現行の選択または除外リストを書き込んでください。

STYLE= *style-definition*

出力ファイルを書く場合に使用するスタイル定義を指定してください。

STYLESHEET= '*file-specification*' <(サブオプション)>

HTML の出力先を開き、出力用のスタイル情報を外部ファイルに配置、または既存のファイルからスタイルシートの情報を読み込んでください。

TEXT= *text-string*

文書にテキストを挿入してください。

TRANTAB= '*translation-table*'

出力用のファイルをトランスコーディングする際に変換表を指定してください。

アクション

次のアクションが ODS タグセットステートメントで利用可能です。

CLOSE

出力先およびそれに関連するファイルを終了します。プリンタの出力先の場合、出力先を終了するまでファイルをプリントできません。

ヒント: ODS 出力先が終了した場合、ODS は、その出力先に出力を送りません。不要な出力先を終了することで、システムリソースの節減します。

EXCLUDE *除外* | ALL | NONE

出力先から1つまたはそれ以上の出力オブジェクトを除外します。

デフォルト: NONE

制限事項: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

参照項目: “ODS EXCLUDE ステートメント” (232 ページ)

SELECT *選択* | ALL | NONE

指定された出力先用に出力オブジェクトを選択します。

デフォルト: ALL

制限事項: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

参照項目: “ODS SELECT ステートメント” (598 ページ)

SHOW

SAS ログに出力先用の現行の選択または除外リストを書き込みます。

制限事項: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

ヒント: 選択または除外リストがデフォルトのリスト(SELECT ALL)である場合、SHOW は、全体の選択または除外リストも書きます。選択または除外リストに関する詳細は、を “選択リストと除外リスト” (49 ページ)参照してください。

参照項目: “ODS SHOW ステートメント” (614 ページ)

必須引数

次の引数が ODS タグセットステートメントで利用可能です。ODS タグセットステートメントに利用可能な追加タグセットに関しては、次を参照。“診断タグセット” (647 ページ)

ディレクトリ

指定のタグセットが保管されるディレクトリを指定します。ディレクトリは SAS から提供されるディレクトリ、ユーザー定義のディレクトリまたは libref となります。デフォルトでは、SAS から提供されるタグセットは Sashelp.Tmplmst アイテムストア内の TAGSETS ディレクトリに保持されます。

tagset-name

タグセットの名前を指定します。*tagset-name* は次のいずれかが使用されます。

CHTML

スタイル情報を使用しないコンパクトで最小の HTML 出力を作成します。階層目次を作成します。

参照項目: “ODS CHTML ステートメント” (117 ページ)

CORE

Unicode とニーモニックの表を含みます。このタグセットの使用方法の詳細は、次を参照。“Unicode 記号の使用” (221 ページ)

CSV

カンマ区切りのデータ値の列を含む表形式出力を作成します。

操作: TEXT=オプションは CSV ファイル出力において作用しません。

参照項目: “SAS DATA ステップ関数を使用したタグセットの定義” (1174 ページ)

CSVALL

カンマ区切りのデータ値の列を含む HTML 出力とタイトル、注釈および署名欄の表形式出力を作成します。

操作: TEXT=オプションは CSV ファイル出力に作用しません。

参照項目: “ODS CSVALL ステートメント” (150 ページ)

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

CSVBYLINE

カンマ区切りの値の出力と、カンマ区切りのデータの列を作成します。

操作: TEXT=オプションは CSV ファイル出力に作用しません。

DEFAULT

XML 出力を作成します。

DOCBOOK

OASIS の DocBook DTD に準拠する XML 出力を作成します。

参照項目: “ODS DOCBOOK ステートメント” (183 ページ)

ExcelXP

Microsoft spreadsheetML XML を作成します。このタグセットはデータを Excel にインポートするのに使用します。このタグセットについての詳細情報を得るには、次のコードを実行します。

```
ods tagsets.excelxp file='test.xml' options(doc='help');
```

HTML4

HTML 4.0 埋め込みスタイルシートを作成します。

参照項目: “ODS HTML ステートメント” (283 ページ)

HTMLCSS

ODS HTML 出力に類似したカスケードスタイルシート式の HTML 出力を作成します。

参照項目: “ODS HTMLCSS ステートメント” (334 ページ)

HTMLPANEL

BY grouped graphs 用のパネルを作成します。また、半自動およびマニュアル式のコントロールパネルをコントロールする機能もあります。このタグセットによって、グラフと表をページ上に並べて置くのが容易になります。また、タイトル、脚注および署名欄をコントロールする機能も含めてあります。

このタグセットについて詳細ヘルプを参照するには、次のコードの 3 行のいずれかを実行します。

```
ods tagsets.htmlpanel file="gbypanel.html" options(doc='help');
ods tagsets.htmlpanel options(doc='quick');
ods tagsets.htmlpanel options(doc='settings');
```

IMODE

行区別りの出力の列として HTML 出力を作成します。このタグセットは日本の電話サービスプロバイダー NTT によって、使用されています。

参照項目: “ODS IMODE ステートメント” (367 ページ)

MSOFFICE2K

Microsoft Office 製品の ODS によって生成される出力の HTML コードを作成します。

MVSHTML

z/OS 動作環境で 使用される HTML ファイル内の URL を作成します。

PHTML

12 のスタイル要素を使用し、またプレゼンテーション用のクラス属性を使用しない単純な HTML 出力を作成します。クラス属性は行揃えにのみ使用します。

参照項目: “ODS PHTML ステートメント” (503 ページ)

PYX

PYX を作成します。これは、Pyxie に使用される単純な行指向の表記法であり、XML パーサーから XML アプリケーションへ通信される情報を説明するものです。Pyxie は Python プログラミング言語で XML を処理するためのオープンソースライブラリです。

RTF

測定された RTF を作成します。このタグセットによって、ユーザーはどのように、どこで改ページが起きるかが、そして、いつタイトルと脚注をページ本体に付けるかを指定できます。この RTF タグセットを使用すると、SAS では、Microsoft Word にコントロールされないように、タイトルと脚注をドキュメント本体に挿入することが可能となります。したがって、暗示的な改ページは SAS の責任範囲となります。

RTF タグセットの 使用法についての詳細は、次を参照。“ODS TAGSETS.RTF ステートメント” (653 ページ)

SASREPORT

埋め込みデータを CSV 形式で出力することを可能にします。SASREPORT11 および SASREPORT12 はサポートされたタグセットです。このタグセットの使用法についての詳細は、次のコードの 1 行を実行してください。

```
ods tagsets.sasreport11 file='test.xml' options(doc='help');
ods tagsets.sasreport12 file='test.xml' options(doc='help');
```

ユーザー定義のタグセット

PROC TEMPLATE を 使用して作成したタグセットを指定します。

参照項目: “カスタムタグセットの作成” (1170 ページ)

WML

WML はワイヤレスアプリケーション プロトコル (WAP) URL のリストを目次としたワイヤレスマークアップ言語 (WML) DTD を作成するのに、ワイヤレスアプリケーション プロトコル (WAP) を使用します。

参照項目: “ODS WML ステートメント” (705 ページ)

WMLOLIST

オプションのリストを目次としたワイヤレスマークアップ言語 (WML) DTD を作成するのに、ワイヤレスアプリケーション プロトコル (WAP) を使用します。詳細は、ワイヤレス アプリケーションプロトコルを参照。

XHTML

HTML フォーマットの出力を作成します。このタグセットの使用についての詳細は、次のコードを実行します。

```
ods tagsets.xhtml file='test.html' options(doc='help');
```

注: 製作前に使うタグセットも提供されています。これらのタグセットは <http://support.sas.com> にあり、SAS によってサポートされていません。

オプション引数

ODS タグセットステートメントでは次のオプションを利用できます。タグセットステートメントは、ステートメントのマークアップファミリーの一部です。

ANCHOR= 'anchor-name'

現行のボディファイルの各出力オブジェクトを識別するアンカータグに最適な独自のベース名を指定します。

各出力オブジェクトは、参照するためにコンテンツ、ページ、およびフレームファイル用にアンカータグを持ちます。ODS により自動的に作成されたリンクとレファレンスは、アンカー名を指します。そのため、ファイルの各アンカー名は、固有名でなければなりません。

anchor-name

現行のボディファイルにおいて、各出力オブジェクトを識別するアンカータグのベース名です。

ODS は、指定した名称をインクリメントすることで独自のアンカー名を作成します。例えば、ANCHOR= 'TABULATE' を指定した場合、ODS は最初のアンカーに `tabulate` と名前を付けます。2番目のアンカー名が `tabulate1` で、3番目が `tabulate2`、と名称が続きます。

制限事項: ファイルのアンカー名は、ユニークでなければなりません。

要件 引用符で *anchor-name* を囲まなければなりません。

操作: 追加するためにファイルを開いた場合、ファイルに再度同じアンカーを書き込むことを防ぐために、新しいアンカー名を必ず指定してください。ODS は、ファイルを開いた際に、既にファイルに存在するアンカーは、識別しません。

ヒント:

プログラムのどこかにマークアップファミリーの ANCHOR=オプションを指定することで、アンカー名を変更できます。アンカー名を指定した後に、新しいものを指定するまで有効になります。

プログラムのさまざまなポイントに新しいアンカー名を指定することで、他のウェブページをマークアップ言語の出力の特定の箇所にリンクできるようになります。アンカー名が変更された箇所を制御できるため、それらのポイントにおけるアンカー名を事前に知ることができます。

ARCHIVE='string'

ODS HTML 出力を閲覧するために使用するアプレットを指定します。

ARCHIVE= オプションは、GOPTIONS java デバイス用にのみ有効です。

文字列は、ブラウザが認識できるものでなければなりません。例えば、アーカイブファイルが SAS で実行中のコンピューターに対してローカルな場合、ファイルを識別するために FILE プロトコルを使用できます。Web サーバーのアーカイブファイルを指したい場合、HTTP プロトコルを使用してください。

デフォルト: ARCHIVE=を指定せず、JAVA デバイスドライバを使用している場合、

ODS は SAS システムオプションの値である APPLETOC=を使用します。

ACTIVEX デバイスドライバを使用している場合、デフォルトはありません。

要件:

引用符で *string* を囲まなければなりません。

ARCHIVE 属性は、Java 1.1 の機能です。そのため Java デバイスドライバを使用している場合、ブラウザは、この Java バージョンをサポートしていなければなりません。Internet Explorer 4.01 と Netscape 4.05 の両方が、Java 1.1 をサポートします。

操作: ARCHIVE= を SAS/GRAPH プロシジャと共に使用し、GOPTIONS ステートメントにおいて DEVICE=JAVA または DEVICE=ACTIVEX オプションを使用してください。

ヒント:

ODS HTML 出力を閲覧するための SAS/GRAPH アプレットを SAS サーバーが、自動的に判断するため、このオプションを通常使用してはいけません。しかし JAR ファイルの名称を変更した場合、または ODS HTML 出力を閲覧するためのその他のアプレットを有する場合、このオプションはこれらのアプレットにアクセス可能にします。

ファイルパスを指定するために、CODEBASE= オプションを使用してください。ARCHIVE= オプションにファイルパスを置かないことが推奨されます。

APPLETOC= の値は、SAS システムと一緒に送られる Java アーカイブのローケーションを指します。オプションの値を知るために、Environment Control の下の Files フォルダの **Options** ウィンドウを参照するか、次のプロシジャステップを発行できます。

```
proc options option=appletloc;
run;
```

ATTRIBUTES= (*attribute-pair-1* ... *attribute-pair-n*)

動的なグラフィックス出力を生成するタグの間に指定された属性を書き込みます。

attribute-pair

各属性の名称および値を指定します。*attribute-pair* は、次のフォームを有します。

```
'attribute-name'='attribute-value'
```

attribute-name

属性の名称です。

attribute-value

属性の値です。

要件 引用符で *attribute-name* と *attribute-value* を囲まなければなりません。

操作: ATTRIBUTES=オプションを SAS/GRAPH プロシジャ および GOPTIONS ステートメントの DEVICE=JAVA、JAVAMETA、または ACTIVEX オプションと一緒に使用してください。

参照項目: *SAS/GRAPH: Reference* グラフアプレット、マップアプレット、コンターアプレット、および MetaView アプレット用の有効な属性

BASE= '*base-text*'

すべてのリンクの最初の部分として使用するテキストおよび出力ファイルにおいて ODS が作成したレファレンスを指定します。

base-text

ODS が、すべてのリンクの最初の部分として使用するテキストおよびファイルにおいて ODS が作成したレファレンスです。

次の仕様を考慮してください。

```
BASE= 'http://www.your-company.com/local-url/'
```

この場合、ODS は、`http://www.your-company.com/local-url/`文字列で始まるリンクを作成します。適切な *anchor-name* でリンクが完成します。

要件 引用符で *base-text* を囲まなければなりません。

BODY= 'file-specification' (サブオプション)

マークアップファミリーの出力先を開き ODS ステートメントにより作成された主な出力を含むファイルを指定してください。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態になります。。

- *ODS markup-family-destination* CLOSE ステートメントまたは *ODS _ALL_* CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーステートメントを使用して、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照、または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

external-file

書き込み先の外部ファイルの名称です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイル参照です。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

制限事項: BODY=ファイル参照オプションは、NEWFILE= オプションと一緒に使用することはできません。

参照項目: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS* ステートメント: リファレンス)を参照してください。

エントリー。マークアップ

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

操作: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

(サブオプション)

カッコ内に1つまたはそれ以上のサブオプションを指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次のようになります。

(DYNAMIC)

ファイルに書き込むのではなく、出力をウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE で [CONTENTTYPE=\(987 ページ\)](#)を参照してください。

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を、括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、

TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加する場合、動作環境に対して適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_BOTTOM_MATTER サブオプションは、NO_TOP_MATTER サブオプションを伴うことで、既存のファイルに出力を追加することを可能にし、ファイルの出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置できます。

ODS が、過去に書き込んだファイルを開く場合、アンカー用に新しいベース名を指定するために ANCHOR= オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、マークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの先頭にどのような開始マークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

The NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR= オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE= を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されません。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

要件:

括弧で URL='Uniform-Resource-Locator' を囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

別名: FILE=

操作: ODS マークアップの出力先に言及する ODS マークアップファミリーステートメントの BODY= オプションを使用することにより、ODS に出力先および関連するすべてのファイルを終了した後、出力先の新しいインスタンスを開くことを強制します。詳細は、“MARKUP 出力先を開く/閉じる” (438 ページ) を参照してください。

注: いくつかの TAGSET= の値に対して、出力は HTML ファイルで、他の TAGSET= の値に対して、出力は XML ファイルなどになります。

CHARSET= *character-set*

HTML 出力用の META 宣言で生成される文字セットを指定します。

参照項目: 詳細は、“CHARSET=オプション” (*SAS 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド*) を参照してください。

CODE= '*file-specification*' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、XSL (Extensible Stylesheet Language) 等の関連するスタイル情報を含むファイルを指定します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります。

- ODS *markup-family-destination* CLOSE ステートメント または ODS *_ALL_* CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。

- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイル参照です。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

参照項目: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS* ステートメント: リファレンス)を参照してください。

entrymarkup

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

操作: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論も参照してください。

サブオプション

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次のようになります。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE= スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の [CONTENTTYPE= \(987 ページ\)](#)を参照してください。

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、マークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR= オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されません。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

要件:

括弧で URL='Uniform-Resource-Locator' を囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)**CODEBASE='string'**

実行可能な Java アプレットまたは、ActiveX コントロールファイルのロケーションを指定します。*string* は、パス名または URL を指定します。使用される GOPTIONS により、CODEBASE ファイルパスには、2 つの出力先があります。

JAVA および ActiveX デバイスドライバでウェブプレゼンテーションを生成した場合に、SAS は、JAVA アーカイブファイルを自動的に検索する HTML ページまたは、デフォルトインストールロケーションに ActiveX コントロールファイルを生成します。

ActiveX デバイス用

ActiveX コントロールを含む出力を生成する際に ODS を伴う ActiveX デバイスドライバを使用する場合、ODS の CODEBASE= オプションを指定してください。CODEBASE= オプションの値は、ロケーションおよび EXE ファイルのバージョンを含むべきです。

ヒント: 出力を閲覧するユーザーがマシンに ActiveX コントロールをインストールしていない場合を除き DEVICE=ACTIVEX オプションで CODEBASE= オプションを指定する必要はありません。コントロールをインストールしていないユーザーが出力を閲覧する場合、コントロールをダウンロードすることを促されます。

参照項目: SAS/GRAPH: Reference CODEBASE= および ARCHIVE= オプションを使用したコントロールおよびアプレットのロケーションの指定に関する詳細は、次を参照してください。

Java デバイス用

SAS/GRAPH アプレットを含む出力を生成するために、デバイスドライバを使用する場合、ODS ステートメントの CODEBASE= オプションを使用して JAR ファイルへのパスを指定してください。

DEVICE=JAVA を指定した場合、出力を閲覧するユーザーは、適切な Java アプレットにアクセスを有する必要があります。SAS は、デフォルトで、SAS により自動的にインストールされたアプレット用の実行可能ファイルに言及するために、CODEBASE= 値を設定します。SAS Java アーカイブファイルのデフォルト

のロケーションは、APPLETLOC= システムオプションにより指定されています。次の両条件を満たしている場合、CODEBASE=オプションを指定する必要がありません。

- デフォルトのロケーションは、ウェブプレゼンテーションを閲覧するユーザーにより、アクセス可能です。
- SAS Java アーカイブは、そのロケーションにインストールされています。

ヒント: JAR ファイルのディレクトリのみ指定してください。CODEBASE=ロケーションは、パス名または URL として指定できます。

参照項目: *SAS/GRAPH: Reference* CODEBASE= および ARCHIVE= オプションを使用したコントロールおよびアプレットファイルのロケーションの指定に関する詳細は、次を参照してください。

CONTENTS= 'file-specification' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、出力用の目次を含むファイルを指定します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります。:

- ODS *markup-family-destination* CLOSE ステートメント または ODS _ALL_ CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

参照項目: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS* ステートメント: リファレンス)を参照してください。

entry.markup

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

操作: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

サブオプション

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次のようになります。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。この設定は、CONTENTTYPE= スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の [CONTENTTYPE= \(987 ページ\)](#) を参照してください。

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=

- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣、あるいは、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR=オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されません。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます。

要件:

URL='Uniform-Resource-Locator'を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME=オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

CSSSTYLE='file-specification'<(media-type-1<...media-type-10)>>

出力に適用するカスケードスタイルシートを指定します。

file-specification

CSS コードを含むファイル、ファイル参照、または、URL を指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

"external-file"

外部ファイルの名称です。

要件 括弧で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルリファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

参照項目: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS* ステートメント: リファレンス)を参照してください。

"URL"

外部ファイルへの URL です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

(*media-type-1* < *media-type-10* >)

出力にレンダリングされるメディアの種類に対応する1つまたはそれ以上のメディアブロックを指定します。文書が、スクリーン、紙、スピーチシンセサイザー、点字装置、等々の異なるメディアにどのように提示されるか指定するために、CSS は、メディアタイプを使用します。

メディアブロックは、いかなるメディアブロックに含まれていないCSSコードを伴い出力に追加されます。 *media-type* サブオプションを使用することで一般のCSSコードを伴い、特定のメディアタイプを対象とするCSSファイルの項目をインポートできます。

デフォルト: ODS ステートメントにいかなる *media-type* が指定されていないが、CSSファイルにメディアタイプが指定されている場合、ODS は、Screen メディアタイプを使用します。

範囲: 異なる10個のメディアタイプを指定できます。

要件:

括弧で *media-type* を囲まなければなりません。

CSSSTYLE= オプションで指定された *file-specification* の隣に、*media-type* を指定しなければなりません。

ヒント: 複数のメディアタイプを指定した場合、出力にすべてのメディアタイプのすべてのスタイル情報が適用されます。しかし、異なるメディアブロックにおいて重複するスタイル情報が存在する場合、最後のメディアブロックのスタイルが使用されます。

制限事項: CSSSTYLE= オプションは、SAS/GRAPH 出力に影響を与えません。

要件 CSSファイルは、ODS HTML ステートメントにより作成されたCSSと同じ種類で書き込まなければなりません。ID や文脈ベースのセレクターの無いクラス名のみがサポートされます。ODS が作成するCSSコードを閲覧するには、次の内の1つを行ってください。

- STYLESHEET= オプションを指定してください。
- HTMLファイルのソースを閲覧して、ファイルの上部の <STYLE> </STYLE> タグの間のソースを閲覧してください。

有効な ODS CSS ファイルの例は、“例 6: ODS 出力へ CSS ファイルの適用” (448 ページ)を参照してください。

操作: STYLE= オプションおよび CSSSTYLE= オプションの両方が、ODS ステートメントに指定されている場合、最後に指定されたオプションが使用されます。

例: “例 6: ODS 出力へ CSS ファイルの適用” (448 ページ)

ENCODING= *local-character-set-encoding*

入力用のエンコーディングまたは、外部ファイルの出力処理(トランスコード)をオーバーライドします。

参照項目: ENCODING= オプションに関する詳細は、“ENCODING システムオプション: UNIX、Windows、および z/OS” (*SAS* 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド)次を参照してください。

EVENT= *event-name* (FILE= | FINISH | LABEL= | NAME= | START | STYLE= | TARGET= | TEXT= | URL=)

イベントおよびイベントに関連するイベント変数用の値を指定します。

(FILE= BODY | CODE | CONTENTS | DATA | FRAME | PAGES |
STYLESHEET);

BODY=、CODE=、CONTENTS=、FRAME=、PAGES=、および
STYLESHEET= オプションに対応する出力ファイルの既知の種類の中の1つ
をトリガーします。

(FINISH)

イベントの終了項目をトリガーします。

参照項目: 詳細は、“[イベントについて](#)” (1167 ページ)を参照してください。

(LABEL='variable-value')

LABEL イベント変数用の値を指定します。

要件 *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

参照項目: LABEL イベント変数に関する詳細は、“[イベント変数](#)” (1211 ページ)次を参照してください。

(NAME='variable-value')

NAME イベント変数用の値を指定します。

要件 *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

参照項目: NAME イベント変数に関する詳細は、“[イベント変数](#)” (1211 ページ)を参照してください。

(START)

イベントの開始項目をトリガーします。

参照項目: イベントに関する詳細は、“[イベントについて](#)” (1167 ページ)次を参照してください。

(STYLE=*style-element*)

スタイルエレメントを指定します。

参照項目: スタイルエレメントに関する詳細は、“[スタイル属性の概要](#)” (968 ページ)次を参照してください。

(TARGET='variable-value')

TARGET イベント変数用の値を指定します。

要件 *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

参照項目: TARGET イベント変数に関する詳細は、“[イベント変数](#)” (1211 ページ)次を参照してください。

(TEXT='variable-value')

TEXT イベント変数用の値を指定します。

要件 *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

参照項目: TEXT イベント変数に関する詳細は、“[イベント変数](#)” (1211 ページ)を参照してください。

(URL='variable-value')

URL イベント変数用の値を指定します。

要件 *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

参照項目: URL イベント変数に関する詳細は、“[イベント変数](#)” (1211 ページ)を参照してください。

デフォルト: (FILE='BODY')

要件 The EVENT= オプションのサブオプションを括弧で囲まなければなりません。

FRAME= 'file-specification' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、HTML 出力用に、目次、ページコンテンツ、およびボディファイルを統合するファイルを指定します。フレームファイルを開くと目次、ページコンテンツ、またはその両方、およびボディファイルを開覧できま

す。XLM 出力用に、FRAME= は、DTD を含むファイルを指定します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります

- *ODS markup-family-destination* CLOSE ステートメント または *ODS _ALL_* CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

参照項目: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS* ステートメント: リファレンス)次を参照してください。

entry.markup

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

操作: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

サブオプション(s)

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次の内の1つになります。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の [CONTENTTYPE= \(987 ページ\)](#)を参照してください。

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: NO_BOTTOM_MATTER サブオプションおよび ANCHOR= オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されません。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます。

要件:

URL='Uniform-Resource-Locator' を括弧で囲まなければなりません。'

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

制限事項: FRAME=オプションを指定した場合、CONTENTS= オプション、PAGE= オプション、または両方を指定しなければなりません。

例: “例 2: XML ファイルと DTD の作成” (441 ページ)

GFOOTNOTE | NOGFOOTNOTE

グラフィックス出力においてフットノートがプリントされるロケーションを制御します。

GFOOTNOTE

SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたフットノートをプリントします。フットノートは、グラフのボーダー内に表示されます。

NOGFOOTNOTE

グラフのボーダー外に表示される ODS により作成されたフットノートをプリントします。

デフォルト: GFOOTNOTE**制限事項:**

マークアップ言語により表示されるフットノートは、すべての SAS/GRAPH FOOTNOTE ステートメントオプションをサポートします。フォントは、ブラウザ用に有効でなければなりません。テキスト角度の仕様など ODS が扱えないオプションは無視されます。SAS/GRAPH FOOTNOTE ステートメントに関する詳細は、“FOOTNOTE Statement” in *SAS/GRAPH: Reference* を参照してください。

このオプションは、1つまたはそれ以上のデバイススペースのグラフィックスを作成する SAS プログラム または、SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、

SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたグラフィックスにのみ適用されます。

GPATH= 'aggregate-file-storage-specification' | ファイル参照 | libref.catalog (URL= 'Uniform-Resource-Locator' | NONE)

出力先が開いている間に生成されたすべてのグラフィックス出力のロケーションを指定します。マークアップファイル用の PATH= オプションで指定されたものとは異なるロケーションにグラフィックス出力を書き込みたい場合にこのオプションを使用してください。無効なファイル名を指定した場合、ActiveX および Java デバイスはデフォルトのファイル名に出力を送ります。その他のデバイスはファイルをディレクトリとして作成して、そのディレクトリに出力を書き込みます。ODS が、カタログエントリおよび外部ファイルに名称を付ける方法に関する 詳細は、次を参照してください。SAS/GRAPH: Reference

'aggregate-file-storage-location'

ディレクトリ、フォルダ、または分割されたデータセット等の累積保存ロケーションを指定します。

要件 引用符で *aggregate-file-storage-location* を囲まなければなりません。

ファイル参照

累積保存ロケーションに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

操作: GPATH= オプションにおいてファイル参照を指定した場合、ODS は、リンクを構築する際に、GPATH=オプションからの情報を使用しません。

参照項目: FILENAME ステートメントに関する詳細は、“FILENAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)次を参照してください。

ライブラリ参照. *catalog*

書き込む先の SAS カタログを指定します。

URL= 'Uniform-Resource-Locator' | NONE

file-specification の URL を指定します。

Uniform-Resource-Locator

指定した URL です。ODS は、ファイルに作成するすべてのリンクおよびレファレンスにおいてファイル名ではなくこの URL を使用します。

要件 引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

NONE

リンクまたはレファレンスに GPATH=オプションからのいかなる情報が表示されないことを指定します。

ヒント: このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツまたはページファイルからのリンクが簡単な URL (単一名)で構築されている場合、コンテンツ、ページ、およびボディファイルさえ同一のロケーションにあれば、それらは解決します。

デフォルト: GPATH= オプションを除外すると、ODS は、PATH= オプションにより指定されたロケーションにグラフィックスを保存します。PATH=オプションを指定しない場合、ODS は、グラフィックスを現行のディレクトリに保存します。詳細は、PATH= オプションを参照してください。

GTITLE | NOGTITLE

グラフィック出力のタイトルがプリントされているロケーションを制御します。

GTITLE

SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたフタイトルをプリントします。タイトルは、グラフボーダーの内部に表示されます。

NOGTITLE

グラフボーダーの外部に表示される ODS により作成されたタイトルをプリントします。

デフォルト: GTITLE

制限事項:

いかなるマークアップ言語のステートメントにより表示されるタイトルは、大部分の SAS/GRAPH TITLE ステートメントオプションをサポートします。フォントは、ブラウザ用に有効でなければなりません。テキスト角度の仕様など ODS が扱えないオプションは無視されます。SAS/GRAPH TITLE ステートメントに関する詳細は、TITLE ステートメントを参照してください。

このオプションは、1つまたはそれ以上のデバイススペースのグラフィックスを作成する SAS プログラム または、SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたグラフィックスにのみ適用されます。

HEADTEXT= 'markup-document-head'

出力先が書き込むすべてのファイルのタグ< HEAD> および </HEAD> の間に配置する HTML タグを指定します。

markup-document-head

< HEAD> および </HEAD>の間に配置するマークアップタグを指定します。

制限事項: HEADTEXT= は、256 文字を超えてはなりません。

要件 *markup-document-head* を引用符で囲まなければなりません。

ヒント:

ODS は、提供するマークアップを解析できません。それは、< HEAD>および </HEAD>タグとの関連で、well-formed マークアップでなければなりません。

後で、ファイルで使用できるプログラム(JavaScript)等を定義するために HEADTEXT=オプションを使用してください。

(ID= identifier)

同時に同出力先の複数のインスタンスの実行を可能にします。各インスタンスは、異なるオプションを有します。

identifier

既に開かれた出力先のもう1つのインスタンスを指定します。*identifier* は、文字または、アンダーラインで始まる数字または連続した文字です。後続の文字は、文字、アンダーライン、および数字を含むことができます。

制限事項: もし *identifier* が数値の場合、正の整数にする必要があります。

要件 ID= オプションは、ODS MARKUP/TAGSET ステートメントキーワードの直後に指定しなければなりません。

ヒント: ID= オプションを除外し、インスタンスを識別するために代わりに名前または数字を使用できます。

例: “例: 同時に同じ出力先のインスタンスを複数開く” (499 ページ)

METATEXT= 'metatext-for-document-head'

<META><>の間、HEAD>HEAD>および<HEAD>出力先が書き込む先のすべてのファイルのタグとして使用する HTML コードを指定します。

'metatext-for-document-head'

ブラウザにロードする文書に関する情報を提供する HTML コードを指定します。例えば、この属性は、コンテンツの種類および使用される文字セットを指定できます。

要件 引用符で *metatext-for-document-head* を囲まなければなりません。

デフォルト: METATEXT=を指定しない場合、ODS は、作成するすべての HTML ファイルに文書のコンテンツの種類および使用する文字セットを含む簡単な <META> タグを書きます。

制限事項: METATEXT= は、256 文字を超えてはなりません。

ヒント: ODS は、提供する HTML コードを解析できません。HTML コードは、<HEAD>タグの脈絡において正確で、良く構築されていなければなりません。METATEXT= を意図された通りに使用した場合、META タグは次のように見えます。

```
<META your-metatext-is-here>
```

NEWFILE= *starting-point*

新しいボディファイルが指定された *starting-point* に作成します。

starting-point

新しいボディファイルを作成するのに適した出力のロケーションです。

ODS は、ボディファイル名をインクリメントすることで自動的に新しいファイル名を付けます。次の例で、ODS は、初めのボディファイルの名付けます。

REPORT.XML 追加のボディファイルが名付けられます。REPORT1.XML, REPORT2.XML, 等

例

```
BODY= 'REPORT.XML'
```

starting-point は、次の内の1つです。

BYGROUP

各 BY グループの結果用に新たなファイルを開始します。

NONE

現在開かれているボディファイルにすべての出力を書き込みます。

OUTPUT

各出力オブジェクト用に新たなファイルを開始します。SAS/GRAPH に対して、これは、ODS がプログラムが生成した各 SAS/GRAPH 出力ファイル用に新たなファイルを作成することを意味します。

別名: TABLE

PAGE

出力の各ページ用に新たなボディファイルを開始します。改ページは、手順が明示的に新たなページを開始(ページのサイズが足りないからではなく)または、新たなプロシジャを開始する時点で発生します。

PROC

新たな手順を開始する度に新たなボディファイルを開始します。

デフォルト: NONE

制限事項: NEWFILE= オプションは、BODY=ファイル参照 オプションと一緒に使用できません。

ヒント:

ファイル名を数字で終了した場合、ODS はその数字の増加を開始します。次の例で、ODS は、最初のボディファイル *MAY5.XML* の名付けをします。追加のボディファイル名は、*MAY6.XML*, *MAY7.XML*, 等となります。

例

```
BODY= 'MAY5.XML'
```

OPTIONS (DOC=) | サブオプション

ODS タグセット固有のサブオプションと名前付きの値を指定します。

(DOC='QUICK' | 'HELP' | 'SETTINGS')

指定されたタグセットに関する情報を提供します。

QUICK

このタグセットで利用可能なオプションを記述します。

HELP

一般ヘルプと情報を素早く参照できる形で提供します。

SETTINGS

現在のオプション設定を提供します。

要件 すべての値は引用符で括弧する必要があります。

サブオプション

指定されたタグセットに有効なサブオプションを1つ以上指定します。タグセットに有効なサブオプションのリストを作るには、OPTIONS のオプションで DOC="HELP" または DOC="QUICK" を指定します。

要件 OPTION のサブオプションは括弧で括弧する必要があります。

例: “例: ODS TAGSETS.HTMLPANEL 情報を得るために DOC サブオプションを使用。” (651 ページ)

PAGE= 'file-specification' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、ボディファイルの各ページの説明およびボディファイルへのリンクを含むファイル指定します。ODS は、手順が新たなページを要求した際に、出力の新しいページを作成します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります

- ODS markup-family-destination CLOSE ステートメントまたは ODS _ALL_ CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の 1 つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

参照項目: FILENAME ステートメントに関する詳細は、“FILENAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)次を参照してください。

入力。マークアップ

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

操作: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

サブオプション

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次のようになります。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定しま

す。詳細は、PROC TEMPLATE の [CONTENTTYPE= \(987 ページ\)](#) を参照してください。

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: The NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR= option

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されません。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

要件:

URL='Uniform-Resource-Locator'を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME=オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

操作: SAS システムオプションの PAGESIZE=は、バッチ出力を作成する時以外は、HTML 出力のページに影響を与えません。PAGESIZE= オプションに関する詳細は、“PAGESIZE= System Option” in *SAS System Options: Reference* を参照してください。

PARAMETERS= (*parameter-pair-1 ... parameter-pair-n*)

動的グラフィックス出力を生成するタグの間に指定されたパラメータを書き込みます。

parameter-pair

各パラメータの名称および値を指定します。*parameter-pair* は、次の形態を有します。

'*parameter-name*'= '*parameter-value*'

parameter-name

パラメータの名称です。

parameter-value

パラメータの値です。

要件 引用符で *parameter-name* および *parameter-value* を囲まなければなりません。

操作: PARAMETERS=を SAS/GRAPH プロシジャおよび GOPTIONS ステートメントの DEVICE=JAVA、JAVAMETA、または ACTIVEX オプションと一緒に使用してください。

参照項目: *SAS/GRAPH: Reference* グラフアプレット、マップアプレット、カンターアプレット、およびメタビューアプレット用に有効なパラメータ

PATH= '*aggregate-file-storage-specification*' | **ファイル参照** | *libref.catalog* (URL= '*Uniform-Resource-Locator*' | NONE)

累積保管場所のロケーションまたはすべてのマークアップファイル用の SAS カタログを指定します。GPATH= オプションが指定されていない場合、すべてのグラフィックスファイルは、“*aggregate-file-storage-specification*”または、**ライブラリ参照**に書き込まれます。

'*aggregate-file-storage-location*'

ディレクトリ、フォルダ、または分割されたデータセット等の累積保存ロケーションを指定します。

要件 引用符で *aggregate-file-storage-location* を囲まなければなりません。

ファイル参照

累積保存ロケーションに割り当てられたファイルリファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

操作: PATH= オプションのを使用した場合、ODS は、リンクを構築する際に PATH= からの情報を使用しません。

参照項目: FILENAME ステートメントに関する詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS ステートメント: リファレンス*)を参照してください。

ライブラリ参照. *catalog*

書き込む先の SAS カタログを指定します。

参照項目: LIBNAME ステートメントに関する詳細は、“LIBNAME ステートメント” (*SAS ステートメント: リファレンス*)を参照してください。

URL= '*Uniform-Resource-Locator*' | NONE
file-specification の URL を指定します。

Uniform-Resource-Locator

指定した URL です。ODS は、ファイルに作成するすべてのリンクおよびリファレンスにおいてファイル名ではなくこの URL を使用します。

NONE

リンクまたはレファレンスに GPATH=オプションからのいかなる情報が表示されないことを指定します。

ヒント: このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは、single-name URL で構築しなければならず、コンテンツ、ページ、およびボディファイルは、同じロケーションになければなりません。

操作: BODY= または、FILE=外部ファイルオプションを PATH= オプションと一緒に使用した場合、外部ファイル仕様にパス情報を含めるべきではありません。

RECORD_SEPARATOR= 'alternative-separator' | NONE

出力ファイルのラインを分離するために代替りの文字または文字列を指定します。

異なる動作環境において、異なるセパレーター文字を使用します。レコードセパレーターを指定しない場合、SAS ジョブを起動する環境用にファイルをフォーマットします。しかし、異なるセパレーター文字を使用する異なる動作環境で閲覧するためにファイルを生成する場合、対象の環境に適切なレコードセパレータを指定できません。

alternative-separator

1 またはそれ以上の文字を 16 進または ASCII フォーマットで表わします。例えば、次のオプションは、キャリッジリターン文字用のレコードセパレータ および ASCII ファイルシステムで使用するラインフィード文字を指定します。

```
RECORD_SEPARATOR= '0D0A'x
```

動作環境の情報

メインフレーム環境において、次のオプションは、キャリッジリターン文字用のレコードセパレータ および ASCII ファイルシステムで使用するラインフィード文字を指定します。

```
RECORD_SEPARATOR= '0D25'x
```

要件 引用符で *alternative-separator* を囲まなければなりません。

NONE

SAS ジョブを実行する環境に適切なマークアップ言語を作成します。

Windows 固有

メインフレーム環境において、デフォルトで、ODS は、組み込み式レコードセパレーター文字を含むバイナリファイルを作成します。バイナリファイルは、ASCII ファイルのラインの長さ制限により制限されていません。しかし、テキストエディタのバイナリファイルを閲覧すると、ラインは一緒に実行されません。テキストエディタでファイルを読むことを可能にするためにファイルをフォーマットしたい場合、RECORD_SEPARATOR= NONE を使用してください。この場合、ODS は、一度に1行のマークアップ言語をファイルに書き込みます。NONE の値を使用する場合、書き込む先のファイルの論理的レコードの長さは、最低でも ODS が作成するラインの最長の長さでなければなりません。ファイルの論理的レコードの長さが十分でない場合、マークアップ言語は、適切な場所でその他のラインにラップする可能性があります。

別名:

RECSEP=

RS=

STYLE= style-definition

出力ファイルを書く場合に使用するスタイル定義を指定します。

style-definition

SAS 出力の体裁特徴(色、フォントファース、フォントサイズ、等々)の表示方法を説明します。スタイル定義は、それを使用する文書の全体の体裁を決定します。各スタイル定義は、スタイル要素で構成されます。

操作: STYLE= オプションは、XML 出力を作成している場合は、無効となります。

参照項目: スタイル定義に関する完全な討議は、13 章、[“TEMPLATE プロシジャ: スタイルテンプレートの作成” \(942 ページ\)](#)を参照してください。

デフォルト: スタイル定義を指定しない場合は、ODS は、SAS レジストリのサブキー ODS ⇒ DESTINATIONS ⇒ MARKUP に指定されているファイルを使用します。この値は、デフォルトで、Default を指定します。

操作: ODS HTML4 ステートメントで STYLE= オプションを指定した場合、続いて、もう1つの ODS HTML4 ステートメントで新しいスタイル定義を使用するために PROC PRINT 出力が必要な場合、2番目のステートメントを指定する前に、最初のステートメントを終了してください。

STYLESHEET= 'file-specification' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、マークアップ出力用のスタイル情報を外部ファイルに配置、または既存のファイルからスタイルシートを読み込みます。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります。

- ODS markup-family-destination CLOSE ステートメントまたは ODS _ALL_ CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の 1 つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

参照項目: FILENAME ステートメントに関する詳細は、“FILENAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)を参照してください。

entry. markup

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

操作: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

サブオプション

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。次のサブオプションが利用可能です。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の [CONTENTTYPE= \(987 ページ\)](#)を参照してください。

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR=オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE= を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されません。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます。

要件:

URL='Uniform-Resource-Locator' を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

注: デフォルトで、別のファイルに特に情報を送らない場合、スタイルシート情報は指定された HTML ファイルに含まれます。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

TEXT=*text-string*

パラグラフのイベントをトリガーすることで文書にテキストを挿入し、VALUE イベント変数に割り当てられるテキストの文字列を指定します。

デフォルト: デフォルトで、TEXT=オプションは、パラグラフイベントで使用されています。

ヒント: 次の構文を使用することで、EVENT= オプションを伴う TEXT= オプションを使って特定のイベント用の *text-string* を指定できます。

EVENT=*event-name* (TEXT=*text-string*)

参照項目: イベントおよびイベント変数に関する詳細は、15 章、“[TEMPLATE プロシジャ: マークアップ言語のタグセットの作成](#)” (1166 ページ)を参照してください。

例: “例: 出力オブジェクトを条件付きで除外し、別の出力先に送信する” (235 ページ)

TRANTAB= 'translation-table'

出力用のファイルをトランスコーディングする際に変換表を指定します。

参照項目: TRANTAB= オプションに関する詳細は、“[TRANTAB=システムオプション](#)” (*SAS 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド*)を参照してください。

診断タグセット

次の診断タグセットが ODS タグセットステートメントで利用可能です。

EVENT_MAP

トリガーされているイベントと、SAS プロセスから出力を出力ファイルに送信するのにイベントで使用される変数を表示する XML 出力を作成します。SAS プロセスを EVENT_MAP を指定して実行すると、すべてのイベント名と変数名をタグとして表示する XML 形式の出力ファイルが ODS によって作成されます。出力は、ご自身のタグセットを作成するのに役立ちます。

NAMEDHTML

[STYLE_POPUP \(647 ページ\)](#) に類似した HTML 出力を作成しますが、ODS TRACE を使用するときと同様にすべてのオブジェクトにラベルを付けます。

SHORT_MAP

EVENT_MAP タグセットによって作成される XML 出力のサブセットを作成します。

STYLE_DISPLAY

STYLE_POPUP 出力に類似した HTML 出力のサンプルページを作成します。出力はスタイルの作成と修正に役立ちます。

参照項目: [STYLE_POPUP \(647 ページ\)](#)

STYLE_POPUP

HTMLCSS のような HTML を作成しますが、Internet Explorer を使用している場合は、ユーザーが選択したアイテムに対する解決済 ODS スタイル定義を示すウィンドウが表示されます。

TEXT_MAP

ODS によって出力オブジェクトが扱われるとき、どのイベントがトリガーされるのかを表示するテキスト出力を作成します。

ヒント: EVENT_MAP タグセットによって作成された出力の代わりに TEXT_MAP の出力を使用できます。

参照項目: [EVENT_MAP \(647 ページ\)](#)

TPL_STYLE_LIST

EVENT_MAP に類似した黒丸の付いたリストで HTML 出力を作成しますが、利用可能な属性のサブセットだけをリストに含めます。

ヒント: 出力からは、タグセットとスタイルの詳細が分かります。

TPL_STYLE_MAP

EVENT_MAP に類似した XML 出力を作成しますが、利用可能な属性のサブセットだけをリストに含めます。

ヒント: 出力からは、タグセットとスタイルの詳細が分かります。

サブオプション

次のサブオプションはこれらのオプションで使用できます。BODY= (622 ページ)、CODE= (624 ページ)、CONTENTS= (628 ページ)、FRAME= (632 ページ)、PAGE= (639 ページ)、STYLESHEET= (644 ページ)

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE のを参照してください。CONTENTTYPE= (987 ページ)

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR=オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されます。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

要件:

URL='Uniform-Resource-Locator' を括弧で囲まなければなりません。

Uniform-Resource-Locator を引用符で囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリン

クは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをレファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

詳細

タグセットについて

タグセットは、SAS データからマークアップ言語出力のタイプの生成方法を定義する一種のテンプレートです。マークアップ言語は、レイアウトと特定のコンテンツを定義するために、テキストに埋め込まれたタグとフォーマットコードの一式です。

SAS 8.2 以降では、Output Delivery System からマークアップ言語出力を作成するために ODS タグセットステートメントを使用してタグセットを指定できます。SAS によって、さまざまなマークアップ言語出力用のタグセット定義が提供されています。たとえば、XML 出力、HTML 出力、XSL などに使用できる SAS タグセットがさまざまあります。SAS によって提供されるタグセットの使用に加え、SAS タグセットを修正したり、独自のタグセットを作成できます。新しいタグセット定義の提供によって、ODS 出力と XML LIBNAME エンジン、ユーザーによる構成が可能となり、さまざまなマークアップ言語出力を生成します。SAS タグセットの修正および独自のタグセットの作成については、次を参照。15 章, “[TEMPLATE プロシジャ: マークアップ言語のタグセットの作成](#)” (1166 ページ)

タグセット名のリスト

利用可能なタグセットのリストを参照するには、次の SAS ステートメントを発行するか、[テンプレート ウィンドウ](#) でそれらを閲覧します。

- [テンプレート ウィンドウ](#)

SAS [エクスペローラ](#) ウィンドウを使用して利用可能なタグセットのリストを表示するには、次のステップに従います。

1. インタラクティブな SAS セッションのどのウィンドウからでも、**ビュー** ⇨ **結果** を選びます。
2. **結果** ウィンドウにおいて、**ビュー** ⇨ **テンプレート** を選択します。
3. **テンプレート** ウィンドウにおいて、`Sashelp.Tmplmst` を選択して開きます。
4. 利用可能なタグセットのリストを含む `Tagsets` フォルダを選択して開きます。タグセットの基本的な SAS コードを見たい場合は、それを選択して開きます。

Windows 固有

マウスを使わず、[エクスペローラ](#) ウィンドウでナビゲーションする方法については、ご使用の動作環境に応じて、SAS ドキュメンテーションにおける“[ウィンドウコントロールとナビゲーション一般について](#)”を参照。

- [TEMPLATE プロシジャ](#)

次の PROC TEMPLATE ステートメントを発行することでも、利用可能なタグセットのリストを表示できます。

```
proc template;
list tagsets;
quit;
```

デフォルトでは、PROC TEMPLATE では、`Sashelp.Tmplmst` および `Sasuser.Templat` 内のタグセットのリストを示しています。一般的には、`Sashelp.Tmplmst` は SAS タグセ

ット用の読み取り専用アイテムストアであり、Sasuser.Templat はユーザー定義のタグセット用のアイテムストアです。

タグセットのソースを閲覧

タグセット定義のソースを見るには、SAS エクスプローラウィンドウでタグセットを開くか、あるいは、PROC TEMPLATE を使用してタグセットの 2 レベルの名前を指定するか のどちらかを実行してください。たとえば、SAS タグセット CHTML を参照するには、次の SAS ステートメントを発行します。

```
proc template;  
source tagsets.chtml;  
quit;
```

タグセットに利用可能なオプションを閲覧

特定のタグセットに利用可能な オプションを見るには、OPTIONS (DOC=)オプションを使用し、オプションとして次のいずれかを指定します。

QUICK

このタグセットに利用可能なオプションについて説明します。

HELP

一般ヘルプと情報を素早く参照できる形で 提供します。

SETTINGS

現在のオプション設定を提供します。

例: ODS TAGSETS.HTMLPANEL 情報を得るために DOC サブオプションを使用。

要素:

ODS TAGSETS.HTMLPANEL ステートメントアクション:

CLOSE

ODS TAGSETS.HTMLPANEL ステートメントオプション:

OPTIONS
(DOC="HELP")
FILE=

他の要素:

PROC PRINT

詳細

次の例は、HTMLPANEL タグセットの OPTIONS サブオプション、およびそれぞれ利用可能な サブオプションの説明を、SAS ログへ印刷します。

プログラム

```
ods tagsets.htmlpanel file='Help.rtf' options (doc="help");  
  
proc print data=Sashelp.Class;  
run;  
  
ods _all_ close;
```

プログラムの説明

OPTIONS サブオプションの情報を SAS ログファイルへ印刷します。

```
ods tagsets.htmlpanel file='Help.rtf' options (doc="help");
```

データセット Sashelp.Class を印刷。 PROC PRINT ステートメントは Sashelp.Class data set.</paragraph>を印刷します。

```
proc print data=Sashelp.Class;
run;
```

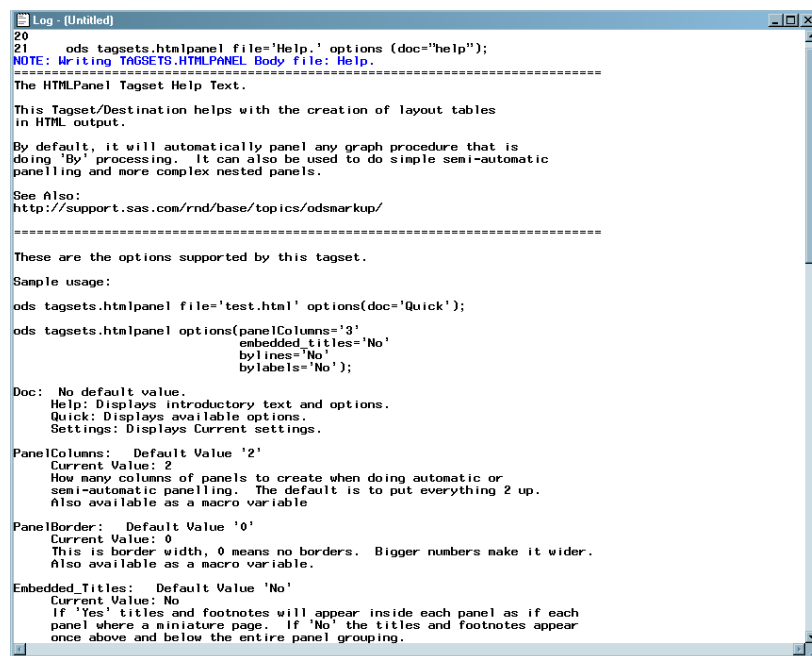
すべての出力先を閉じます。 ODS TAGSETS.HTMLPANEL 出力先および他のすべての開いている出力先を閉じます。このステートメントによって、各オープン出力先に関するすべてのファイルも閉じられます。出力先を閉じない場合、ブラウザウィンドウでファイルを見ることはできません。

```
ods _all_ close;
```

出力

すべての OPTIONS サブオプション および各 SAS ログへのサブオプションについての情報を印刷するには、“DOC='HELP'”サブオプションを指定します。

アウトプット 6.30 HTMLPANEL タグセットに利用可能なオプション



```
Log - (Untitled)
20      ods tagsets.htmlpanel file='Help.' options (doc='help');
21      NOTE: Writing TAGSETS.HTMLPANEL Body file: Help.
-----
The HTMLPanel Tagset Help Text.

This Tagset/Destination helps with the creation of layout tables
in HTML output.

By default, it will automatically panel any graph procedure that is
doing 'By' processing. It can also be used to do simple semi-automatic
panelling and more complex nested panels.

See Also:
http://support.sas.com/rnd/base/topics/odsmarkup/
-----

These are the options supported by this tagset.

Sample usage:
ods tagsets.htmlpanel file='test.html' options(doc='Quick');

ods tagsets.htmlpanel options(panelColumns='3'
                             embeddedTitles='No'
                             bylines='No'
                             bylabels='No');

Doc: No default value.
Help: Displays introductory text and options.
Quick: Displays available options.
Settings: Displays Current settings.

PanelColumns: Default Value '2'
Current Value: 2
How many columns of panels to create when doing automatic or
semi-automatic panelling. The default is to put everything 2 up.
Also available as a macro variable

PanelBorder: Default Value '0'
Current Value: 0
This is border width, 0 means no borders. Bigger numbers make it wider.
Also available as a macro variable.

EmbeddedTitles: Default Value 'No'
Current Value: No
If 'Yes' titles and footnotes will appear inside each panel as if each
panel were a miniature page. If 'No' the titles and footnotes appear
once above and below the entire panel grouping.
```

関連項目:

- 15章, “TEMPLATE プロシジャ: マークアップ言語のタグセットの作成” (1166 ページ)

ステートメント

- “ODS MARKUP ステートメント” (404 ページ)

ODS TAGSETS.RTF ステートメント

RTF 出力先に対して開く、管理するまたは閉じる処理を行います。RTF 出力先は、Microsoft Word 2002 で使用可能なリッチテキスト出力形式で書かれた、メジャー出力を作成します。

該当要素: 任意の場所

カテゴリ: ODS: サードパーティフォーマット

操作: FORMCHAR システムオプション(たとえば PROC PLOT や PROC CHART)を使用する手順を実行するときにデフォルトで、ODS により、SAS モノスペースフォントで出力がフォーマットされます。作成された出力は SAS ソフトウェアがインストールされていない動作環境では正しく表示されません。これは、SAS ソフトウェアがインストールされていない為、SAS モノスペースフォントが認識されないからです。ドキュメントを正しく表示するには、次のステートメントを SAS プログラムの前に含めます。

```
OPTIONS FORMCHAR='|----|+|---+=|-\<>*';
```

ヒント: 現在、最低限必要な OS は Microsoft Word 2002 ですが、Microsoft Word 2000 や SAS RTF ファイルでこれまでに問題が確認されていません。

構文

ODS TAGSETS.RTF <(<ID=> 識別子) 操作;

ODS TAGSETS.RTF <(<ID=> 識別子) <オプション>;

オプション引数の要約

(ID= *identifier*)

同時に同出力先の複数のインスタンスを開いてください。

ANCHOR= '*anchor-name*'

現行のボディファイルの各出力オブジェクトを識別するアンカータグに最適な独自のベース名を指定します。

AUTHOR= '*author-text*'

作者を識別する文字列を指定してください。ファイルのメタデータに文字列を挿入されます。

BASE= '*base-text*'

ODS が、出力ファイルで作成するすべてのリンクおよびレファレンスの最初の部分に使用するテキストを指定してください。

CLOSE

出力先およびそれに関連するファイルを終了してください。

COLUMNS= *n* | MAX

出力の各ページに作成する欄の数を指定してください。

CSSSTYLE= '*file-specification*'<(*media-type-1* ... *media-type-10*)>

出力に適用するカスケードスタイルシートを指定してください。

DEVICE= *device-driver*

RTF 出力先用のデバイスを指定してください。

ENCODING= *local-character-set-encoding*

入力用のエンコーディングまたは外部ファイルの出力処理(トランスコード)をオーバーライドしてください。

EXCLUDE 除外 | ALL | NONE

出力先から出力オブジェクトを除外してください。

FILE= *'external-file'* | [ファイル参照](#)

ODS RTF 出力先を開き、情報を書き込むファイル名を指定してください。

GFOOTNOTE | **NOGFOOTNOTE**

グラフィックス出力においてフットノートがプリントされるロケーションを指定してください。

GTITLE | **NOGTITLE**

グラフィックス出力のタイトルがプリントされるロケーションを制御してください。

IMAGE_DPI

グラフィカル出力の画素数を指定してください。

KEEPN | **NOKEEPN**

ページにおいて、表が分割される箇所を制御してください。

NEWFILE= *starting-point*

特定の開始点に、新しいボディファイルを作成してください。

NOGFOOTNOTE

グラフィックスファイルの現在定義されているフットノートを抑制してください。それらは、代わりに、RTF ファイルに表示されます。

NOGTITLE

グラフィックスファイルの現行の定義されているすべてのタイトルを抑制してください。それらは、代わりに、RTF ファイルに表示されます。

OPERATOR= *'text-string'*

RTF ファイルのメタデータに指定したテキストを挿入してください。

OPTIONS (**CONTENTS=** | **DOC=** | **SECT=** | **TABLES_OFF=** | **TOC_DATA=** | **TOC_LEVEL=** | **TROWD=** | **TRHDR=** | **TROWHDRCELL=**)

TAGSETS.RTF-specific options を指定してください。

PACKAGE *<package-name>*

出力先からの出力が ODS パッケージに追加されることを指定してください。

PAGEPANELS= *n* | **NONE**

マルチパネルテーブル用にレンダリングされるパネルの数を指定します。

PATH= *'aggregate-file-storage-specification'* | [ファイル参照](#) | *libref.catalog* (**URL=** *'Uniform-Resource-Locator'* | **NONE**)

集約保管ロケーション、または、すべての RTF ファイル用の SAS カタログを指定してください。

PREPAGE= *'text-string'*

ページの表の前に発生する文字列を指定してください。

RECORD_SEPARATOR= *'alternative-separator'* | **NONE**

出力ファイルの線を分割する代替文字または、文字列を指定してください。

SELECT [選択](#) | **ALL** | **NONE**

出力先用に出力オブジェクトを選択してください。

SHOW

SAS ログに出力先用の現行の選択または除外リストを書き込んでください。

STARTPAGE= **BYGROUP** | **YES** | **NO** | **NOW**

改ページを制御してください。

STYLE= *style-definition*

RTF ファイルを書くために使用されるスタイル定義を指定してください。

TABLEROWS= *n*

表において、レンダリングされるパネルの数を指定します。

TEXT= *'text-string'*

RTF 出力にテキストを挿入してください。

TITLE= *'title-text'*

タイトルにすることを希望するテキスト文字列をファイルのメタデータに挿入してください。

TRANTAB= *translation-table*

出力用のファイルをトランスコードするときに使用する変換テーブルを指定してください。

UNIFORM

表のすべてのページにおいて、同じくフォーマットされるように指定してください。

アクション

ODS ステートメントでは、次の操作が利用可能です。

CLOSE

出力先およびそれに関連するファイルを終了します。プリンタの出力先の場合、出力先を終了するまでファイルをプリントできません。

ヒント: ODS 出力先が終了した場合、ODS は、その出力先に出力を送りません。不要な出力先を終了することで、システムリソースの節減します。

EXCLUDE **除外** ALL | NONE

出力先から1つまたはそれ以上の出力オブジェクトを除外します。

デフォルト: NONE

制限事項: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

参照項目: “ODS EXCLUDE ステートメント” (232 ページ)

SELECT **選択** ALL | NONE

指定された出力先用に出力オブジェクトを選択します。

デフォルト: ALL

制限事項: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

参照項目: “ODS SELECT ステートメント” (598 ページ)

SHOW

SAS ログに出力先用の現行の選択または除外リストを書き込みます。

制限事項: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

ヒント: 選択または除外リストがデフォルトのリスト(SELECT ALL)である場合、SHOW は、全体の選択または除外リストも書き込みます。選択または除外リストに関する詳細は、を“**選択リストと除外リスト**” (49 ページ)参照してください。

参照項目: “ODS SHOW ステートメント” (614 ページ)

オプション引数

ANCHOR= *'anchor-name'*

現行のファイルの各出力オブジェクトを識別する RTF アンカータグのベース名を指定します。

各出力オブジェクトは、その他のファイルにリンクまたはレファレンスするアンカータグを備えていなければなりません。ODS が自動的に作成するレファレンスは、アンカー名を指します。そのため、ファイルの各アンカー名は、ユニークでなければなりません。

anchor-name

現行のファイルの各出力オブジェクトを識別する RTF アンカータグのベース名です。

ODS は、指定した名称の値を増加し、ユニークなアンカー名を作成します。例えば、ANCHOR= 'tabulate'を指定した場合、ODS は、最初のアンカーに `tabulate` と名前を付けます。2番目のアンカー名が `tabulate1` で、3番目が `tabulate2`、と名称が続きます。

要件 `anchor-name` を引用符で囲まなければなりません。

別名: NAMED_DEST= | BOOKMARK=

ヒント:

プログラムのさまざまな箇所ですべて新しいアンカー名を指定することは、その他の RTF ファイルを RTF 出力の特定の部分にリンクしたい場合に役立ちます。アンカー名が変わる場所を制御できるため、事前にその場所のアンカー名を知ることができます。

プログラムのいかなる場所の ODS RTF ステートメントに、ANCHOR= オプションを提出することでアンカー名を何度でも変更可能です。アンカー名を指定した後は、新しい名を指定するまでそのままの状態となります。

AUTHOR= 'author-text'

ファイルのメタデータに、作者と指定したテキストの文字列を挿入します。

author-text

作者を示す開かれたファイルのメタデータにあるテキストです。

要件 `author-text` を引用符で囲まなければなりません。

BASE= 'base-text'

ODS が、ファイルで作成するすべてのレファレンスの最初の部分に使用するテキストを指定します。

base-text

ODS が、ファイルで作成するすべてのレファレンスの最初の部分に使用するテキストです。

次の仕様を考慮してください。

```
BASE='http://www.your-company.com/local-url/'
```

この場合、ODS は、文字列で始まるリンクを作成します。 `http://www.your-company.com/local-url/`

要件 `base-text` を引用符で囲まなければなりません。

COLUMNS= n | MAX

出力の各ページに作成する欄の数を指定します。

n

ページに要望する 1 インチ欄の数です。

MAX

紙のサイズおよび マージン設定における 1 インチ幅の欄の最大数を指定します。この値は、紙のサイズおよびページの位置付けに依存します。

デフォルト: ページに適合する 1 インチ欄の数。

操作: COLUMNS= オプションを指定すると、option, the STARTPAGE=NO オプションは、表彰されません。

ヒント:

測定された RTF (ODS TAGSETS.RTF ステートメント)において、タイトルは、表と考えられ、RTF 指示とは考えられていません。測定された RTF を伴う COLUMNS=オプションを使用する場合、タイトルは、各欄の上部に表示されます。しかし、ODS は、欄の幅に適合させるため、タイトルを切り詰めます。

ページに適合できる 1 インチ欄の最大数より大きい値を指定した場合、そのページの許容最大数を明記したノートが、SAS ログにプリントされます。

CSSSTYLE= 'file-specification' <(media-type-1 ...media-type-10)>
出力に適用するカスケードスタイルシートを指定します。

file-specification

CSS コードを含むファイル、ファイル参照、または、URL を指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

"external-file"

外部ファイルの名称です。

要件 *external-file* を引用符で囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイル参照です。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

参照項目: FILENAME ステートメントに関する情報は、次を参照してください。*SAS ステートメント: リファレンス*

"URL"

外部ファイルへの URL です。

要件 *external-file* を引用符で囲まなければなりません。

(*media-type-1* <... *media-type-10*>)

レンダリングされる出力のメディアの種類に対応する1つまたはそれ以上のメディアブロックを指定します。文書が、スクリーン、紙、スピーチシンセサイザー、点字装置、等々の異なるメディアにどのように提示されるか指定するために、CSS は、メディアタイプを使用します。

メディアブロックは、いかなるメディアブロックに含まれていないCSSコードを伴い出力に追加されます。*media-type* サブオプションを使用することで一般のCSSコードを伴い、特定のメディアタイプを対象とするCSSファイルの項目をインポートできます。

デフォルト: ODS ステートメントにいかなる *media-type* が指定されていないが、CSS ファイルにメディアタイプが指定されている場合、ODS は、Screen メディアタイプを使用します。

範囲: 最大、異なる10種類のメディアタイプに指定できます。

要件:

media-type を括弧で囲まなければなりません。

CSSSTYLE= オプションで指定された *file-specification* の隣に、*media-type* を指定しなければなりません。

ヒント: 複数のメディアタイプを指定すると、ODS は、すべてのメディアタイプのすべてのスタイル情報を出力に適用します。しかし、異なるメディアブロックにおいて重複するスタイル情報が存在する場合、最後のメディアブロックのスタイルが使用されます。

要件 CSS ファイルは、ODS HTML ステートメントにより作成された CSS と同じ種類で書き込まなければなりません。ID や文脈ベースのセレクターの無いクラス名のみがサポートされます。ODS が作成する CSS コードを閲覧するには、次の内の1つを行ってください。

- STYLESHEET= オプションを指定してください。
- HTML ファイルのソースを閲覧して、ファイルの上部の <STYLE> </STYLE> タグの間のソースを閲覧してください。

有効な ODS CSS ファイルの例は、次を参照してください。[“例 6: ODS 出力へ CSS ファイルの適用” \(448 ページ\)](#)

操作: ODS ステートメントの STYLE= オプションおよび CSSSTYLE= オプションの両方を指定した場合、ODS は、指定された最後のオプションを使用します。

例: [“例 6: ODS 出力へ CSS ファイルの適用” \(448 ページ\)](#)

DEVICE= device-driver

デバイスドライバの名称を指定します。ODS は、各出力先用に最適なデフォルトのデバイスを自動的に選択します。

次の表は、最も一般的な ODS 出力先のデフォルトデバイスを表示します。

次の表は、最も使用頻度の高い ODS 出力先のデフォルトデバイスの一覧です。これらのデフォルトデバイスは、グラフィックが SAS/GRAPH または ODS グラフを使用して作成される場合に使用されます。サポート対象のデバイスとファイルの種類の詳細なリストは、“出力先のサポートされるファイルの種類” (248 ページ) を参照してください。

表 6.13 ODS 出力先のデフォルトデバイス

出力先	デフォルトデバイス
HTML	PNG
LISTING	PNG
測定済みの RTF	PNG
RTF	PNG
PCL	(SVG)スケーラブルベクターグラフィックス
PDF	(SVG)スケーラブルベクターグラフィックス
POSTSCRIPT	PNG
PRINTER	ホスト専用デフォルトプリンタ
マークアップタグセット	すべてのマークアップファミリタグセットには、デフォルト値が組み込まれています。

制限事項: ODS 出力先ステートメントのデバイスを指定した場合、ACTIVEX、ACTXIMG、JAVA、または JAVAIMG デバイスを指定してはいけません。

ヒント: ODS DEVICE= オプションにおけるデバイス指定は、SAS グローバルオプションおよびグラフィックスオプションより優先されます。

参照項目: “DEVICE= System Option” in *SAS/GRAPH: Reference* デバイスドライバの選択に関する詳細は、次を参照してください“Using Graphics Devices” in Chapter 6 of *SAS/GRAPH: Reference*

ENCODING= local-character-set-encoding

入力用のエンコーディングまたは、外部ファイルの出力処理(トランスコード)をオーバーライドします。

参照項目: ENCODING= オプションに関する詳細は、次を参照してください。SAS 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド

FILE= 'external-file' | ファイル参照

RTF 出力先を開き、書き込む先の RTF ファイルまたは、SAS カタログを指定します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります。

- ODS RTF CLOSE または ODS _ALL_ CLOSE で、RTF を終了してください。
- 書き込む先の異なるファイルを指定してください。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

要件 *external-file* を引用符で囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメント を使用してください。

制限事項: FILE=ファイル参照 オプション を NEWFILE=オプションと一緒に使用できません。

参照項目: FILENAME ステートメントに関する情報は、SAS ステートメント: リファレンスのステートメントに関する項目を参照してください。

別名: BODY=

操作: 開かれた RTF 出力先に言及する ODS RTF 出力先において、FILE=オプションは、ODS に、出力先およびそれに関連するファイルを終了し、出力先の新しいインスタンスを開くように強制します。詳細は、次を参照してください。

“RTF 出力先を開く/閉じる” (587 ページ)

参照項目: NEWFILE= オプション

GFOOTNOTE | NOGFOOTNOTE

RTF 出力を生成するグラフィックスプログラムにより定義されているフットノートのロケーションを制御します。

GFOOTNOTE

グラフィックス出力内の現在定義されているすべてのフットノートを含みます。

NOGFOOTNOTE

現在定義されているすべてのフットノートがグラフィックスファイルに表示されるのを阻止します。それらは、代わりに、RTF ファイルの一部となります。

デフォルト: GFOOTNOTE

制限事項: このオプションは、1つまたはそれ以上のデバイスベースのグラフィックスを作成する SAS プログラム または、SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたグラフィックスにのみ適用されます。

GTITLE | NOGTITLE

RTF 出力を生成するグラフィックスプログラムにより定義されるタイトルのロケーションを制御します。

GTITLE

ボディファイルに呼ばれたグラフィックス出力内の現在定義されているすべてのタイトルを含みます。

NOGTITLE

現在定義されているすべてのタイトルがグラフィックス出力に表示されるのを阻止します。それらは、代わりに、RTF ファイルの一部となります。

デフォルト: GTITLE

制限事項: このオプションは、1つまたはそれ以上のデバイスベースのグラフィックスを作成する SAS プログラム または、SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたグラフィックスにのみ適用されます。

(ID= identifier)

識別子

文字または線で始まる数字または、文字列であることが可能です。

制限事項: *identifier* が数字である場合、その数字は正数でなければなりません。

要件 ID= オプションを出力先名の直後に指定しなければなりません。

ヒント: ID=オプションを削除、およびインスタンスを識別するために、代わりに、名称または数字を使用できます。

例: “例: 同時に同じ出力先のインスタンスを複数開く” (499 ページ)

IMAGE_DPI

グラフィカル出力の画素数を指定します。

デフォルト: 96

KEEPN | NOKEEPN

ページにおいて、表が分割される箇所を制御します。

KEEPN

ODS は、表全体が 1 ページに収まらない場合のみ表の分割を許可します。

NOKEEPN

ODS は、改ページで分割することを許可します。

ヒント: KEEPN は、表の改ページの数を最小に留めるが、NOKEEPN より多くの紙を消費する可能性があります。これは、KEEPN オプションが、残りのページに収まらない任意の表のプリントを開始する前に、改ページを行うからです。

NEWFILE= *starting-point*

特定の *starting-point* に、新しいボディファイルを作成します。

starting-point は、次の内の1つです。

BYGROUP

各 BY グループの結果に対して、新しいファイルを開始します。

NONE

現在開かれているファイルのすべての出力を書きます。

OUTPUT

各出力オブジェクト用に新しいファイルを開始します。SAS/GRAPH に対して、これは、ODS がプログラムが生成した各 SAS/GRAPH 出力ファイル用に新たなファイルを作成することを意味します。

別名: TABLE

PROC

新たな手順を開始する度に新たなファイルを開始します。

デフォルト: NONE

制限事項:

同じ ODS RTF ステートメントにおいて、NEWFILE= および TEXT= ステートメントの両方を使用できません。これらの各オプションに、別の ODS RTF ステートメントを使用しなければなりません。

NEWFILE= オプションと一緒に FILE=ファイル参照 オプションを使用できません。

ヒント: ファイル名を数字で終了する場合、ODS はその数字を増加させることから始めます。次の例で、ODS は、最初のボディファイル MAY5.XML に名を付け、続けて追加のボディファイル MAY6.XML、MAY7.XML、等の名を付けます。

NOGFOOTNOTE

この項目の GFOOTNOTE | NOFOOTNOTE に関する詳細を参照してください。

NOGTITLE

GTITLE | NOGTITLE に関する詳細を参照してください。

OPERATOR= 'text-string'

RTF ファイルのメタデータに指定したテキストを挿入します。

text-string

作者を示す開かれたファイルのメタデータにあるテキストです。

要件 *text-string* を引用符で囲まなければなりません。

OPTIONS (CONTENTS= | DOC= | SECT= | TABLES_OFF= | TOC_DATA= | TOC_LEVEL= | TROWD= | TRHDR= | TROWHDRCELL=)

ODS TAGSETS.RTF-specific を指定します。サブオプションおよび名付けられた値

(CONTENTS='YES')

マイクロソフトワードに開かれている RTF 文書用の目次(TOC)のページを作成します。目次のページには、文書に組み込まれているすべてのコンテンツ情報を目次に入れる目次フィールドを含みます。捕獲した TOC データを表示するには、[TOC_DATA \(662 ページ\)](#) オプションをオンにしなければなりません。目次を拡張するには、Microsoft Word のタイトルを右クリックして選択リストから **Update Field** を選択してください。

注: マイクロソフトワードにおいて、選択リストに **Update Field** の値を表示するには、ページの下寄りに右クリックする必要があるかもしれません。

YES

RTF ファイルの上部に目次ページを追加します。この目次のページは、改ページに続きます。

別名: ON

要件 すべての値は、引用符で囲まなければなりません。

ヒント:

文書の特定のトピックに行くには、CTRL キーをダブルクリックまたは押下して、目次のトピックをクリックしてください。CTRL キーメソッドを使用するには、マイクロソフトワードを設定する必要があるかもしれません。Select Tools ⇒ Options ⇒ Edit を選択して、Use CTRL + Click to follow hyperlink を選択してください。

TOC を取得するには、TOC_DATA オプションを YES に設定しなければなりません。CONTENTS=YES を指定して、TOC_DATA を指定しなければ、いかなる目次データも取得できません。Table of Contents ページに表示されたエラーは、"Error! No table of contents entries found"となります。

参照項目: 文書に組み込まれたコンテンツの表示に関する詳細は、TOC_DATA サブオプションを参照してください。

例: “[例 1: 目次の作成](#)” (671 ページ)

(DOC='QUICK' | 'HELP' | 'SETTINGS')

タグセットに情報を提供します。

QUICK

このタグセットが利用可能なオプションを説明します。

HELP

クイックレファレンスは、通常のヘルプおよび情報を提供します。

SETTINGS

現行のオプション設定を提供します。

要件 すべての値は、引用符で囲まなければなりません。

例: “[例: ODS TAGSETS.HTMLPANEL 情報を得るために DOC サブオプションを使用。](#)” (651 ページ)

(SECT='rtf_control_string' | 'OFF' | 'NONE')

項目データの仕様に RTF 統制の語彙を挿入します。

rtf_control_string

項目データのフォーマットに使用される RTF 統制の語彙を指定します。

OFF

RTF 統制語彙の使用をオフにして、*rtf_control_string* を null にリセットします。

別名: NO

NONE

新しい RTF 統制語彙が項目データにファイルに挿入されるのを阻止します。ODS は、リセットされるまで、NONE が使用される前まで設定された項目データ情報を使用し続けます。

要件 すべての値を引用符で囲まなければなりません。

ヒント: *rtf_control_string* をリセットするために、異なる値を割り当て、あるいは、OFF または NO 値を使用してください。

参照項目: RTF 統制語彙に関する情報は、Rich Text Format (RTF) 仕様、バージョン 16 の MSDN ホームページを閲覧してください。ただ、文書を検索してください。

(TABLES_OFF='style_elements' | 'STYLE_ELEMENTS' | 'OFF')

表が使用されるか判断します。表は、1つまたはそれ以上のセルで構成されることができます。SAS は、RTF 出力用に作成したすべてのテキストを表に収容します。タイトル、フットノート、および TEXT= のように、表がテキストホルダーのような場合に、このサブオプションを使用してください。プロシジャを報告することで作成された表にこの サブオプションを使用すべきです。

注: マイクロソフトワードの表のグリッド線を閲覧するには、Table drop-down メニューより Show Gridlines を選択してください。

style_elements

フォーマット用のスタイルエレメントを指定します。例えば、次のステートメントは、USERTEXT スタイルエレメントを使用する表をオフにします。TEXT= オプションにより指定されたテキストは、表に配置されません。

```
ods tagsets.rtf options (Tables_OFF='usertext');
ods tagsets.rtf text="Text is not placed in a table";
```

STYLE_ELEMENTS

SAS ログの出力スタイルエレメントをリストします。

OFF

オプションをオフにします。そのため、ODS は、次に情報出力を表の中の RTF ファイルに配置します。この操作は、デフォルトオプションです。

別名: NO

要件 すべての値を、を引用符で囲まなければなりません。

参照項目: “一般的な ODS スタイル要素” (1387 ページ) スタイルエレメントに関する詳細は、次を参照してください。

例: “例 3: TABLES_OFF サブオプションの使用” (676 ページ)

(TOC_DATA='ON' | 'OFF')

RTF ファイルのコンテンツデータを表示するか指定します。

OFF

ODS に、RTF ファイルにコンテンツデータの表を表示しないように指示します。

別名: NO

ON

ODS に、RTF ファイルの目次の隠れテキストを表示するように指示します。

別名: YES

要件 すべての値を引用符で囲まなければなりません。

例: “例 1: 目次の作成” (671 ページ)

(TOC_LEVEL=*n*)

RTF 文書の目次の拡張レベルを制御します。このオプションは、指定された (CONTENTS=YES) および (TOC_DATA=YES) オプションと一緒に使用しなければなりません。

n

拡張レベルを指定します。例えば、TOC_LEVEL="0" は、完全に拡張された目次となる一方、TOC_LEVEL="2" は、2つのレベルに拡張した目次となります。

OFF

目次に表示されたすべてのレベルの拡張をリストアします。

別名: NO

要件 すべての値を引用符で囲まなければなりません。

ヒント: TOC データを取得するために、TOC_DATA= および CONTENTS= サブオプションを YES に設定しなければなりません。TOC を閲覧する方法は、“例 1: 目次の作成” (671 ページ) を参照してください。

参照項目: 文書に組み込まれたコンテンツを表示する詳細は、TOC_DATA= および CONTENTS= サブオプションを参照してください。

例: “例 1: 目次の作成” (671 ページ)

(TROWD='rtf_control_string' | 'OFF')

RTF 仕様を表の行のヘッダー説明に直接挿入します。

rtf_control_string

RTF 統制語彙およびシンボルを指定します。

OFF

RTF 統制は、もはや挿入されません。

別名: NO

要件 すべての値を引用符で囲まなければなりません。

参照項目: RTF 統制語彙に関する情報は、Rich Text Format (RTF) 仕様、バージョン 1.6 の MSDN ホームページを閲覧してください。RTF 1.6 文書を検索してください。

例: “例 4: TRHDR、TROWHDRCELL および TROWD の各オプションを使用した列ヘッダーの回転” (678 ページ)

(TRHDR='rtf_control_string' | 'OFF')

新しい未加工の表の行 RTF 仕様を表のヘッダー説明に直接挿入します。

rtf_control_string

Microsoft RTF 統制語彙またはシンボルを指定します。

OFF

RTF 統制は、もはや挿入されません。

別名: NO

要件 すべての値を引用符で囲まなければなりません。

参照項目: RTF 統制語彙に関する情報は、Rich Text Format (RTF) 仕様、バージョン 1.6 の MSDN ホームページを閲覧してください。RTF 1.6 文書を検索してください。

例: “例 4: TRHDR、TROWHDRCELL および TROWD の各オプションを使用した列ヘッダーの回転” (678 ページ)

(TROWHDRCELL='text_string' | 'OFF')

表の行のセルに未加工のテキストを挿入します。RTF Reader が *text_string* を認識しない場合は、未加工のテキストを RTF が文書に書き込まれるロケーションに、適用します。そうでなければ、RTF Reader は、*text_string* を RTF 統制語彙として解釈します。

text_string

指定されたいかなるテキスト

OFF

null 文字列を挿入します。テキストは、もはや挿入されません。

別名: NO

要件 すべての値を引用符で囲まなければなりません。

参照項目: RTF 統制語彙に関する情報は、Rich Text Format (RTF) 仕様、バージョン 1.6 の MSDN ホームページを閲覧してください。RTF 1.6 文書を検索してください。

例: “例 4: TRHDR、TROWHDRCELL および TROWD の各オプションを使用した列ヘッダーの回転” (678 ページ)

要件 OPTION サブオプションは、を括弧で囲まなければなりません。

PACKAGE <package-name>

出力先からの出力が ODS パッケージに追加 されることを指定します。

package-name

ODS PACKAGE ステートメントと一緒に作成されたパッケージ名を指定します。いかなる名称が指定されない場合、出力は、最後に開かれた名の無いパッケージに追加されます。

参照項目: “ODS PACKAGE ステートメント” (469 ページ)

PAGEPANELS= *n* | NONE

ODS が、改行を挿入する前に、ページ毎に許可されるパネルの数を指定してください。

n

正の整数を指定します。

デフォルト: 0

ヒント: 値を 0 に設定すると、操作をデフォルト操作にリセットします。

NONE

パネリングが通常通り ODS RTF で取り扱うことを指定します。That is,それは、最初のパネルのすべてが書き込まれてから、2 番目のすべてが書き込まれ、とすべての表の情報が書き込まれるまで続きます。

デフォルト: パネリングを指定しない場合、ODS は、単一ページにパネルの完全なセットを詰め込もうとします。ODS は、テキストおよび表の幅(横の測定)を測定し、適正な欄の幅を決定します。その後、ODS は、ページに収めきるのに、幅が有りすぎる場合に、ページをパネルに分割します。

ODS は、常に欄の幅を決定し、パネルが必要であるかどうか判断します。複数のパネルが有る場合、ODS は、各パネルに合理的な数の行を配置するように試みます。

例: “例 5: TABLEROWS および PAGEPANELS オプションを使用したパネリング” (680 ページ)

PATH= 'aggregate-file-storage-specification' | **ファイル参照** | *libref.catalog* (URL= 'Uniform-Resource-Locator' | NONE)

集約保管ロケーション、または、すべての RTF ファイル用の SAS カタログを指定します。GPATH= オプションが指定されていない場合、すべてのグラフィックス出

力が、“*aggregate-file-storage-specification*” または、**ライブラリ参照**に書き込まれます。

'aggregate-file-storage-location'

ディレクトリ、フォルダ、または分割されたデータセット等の累積保存ロケーションを指定します。

要件 *aggregate-file-storage-location* を引用符で囲まなければなりません。

ファイル参照

累積保存ロケーションに割り当てられたファイル参照です。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメント を使用してください。

操作: PATH= オプションにファイル参照を使用した場合、ODS は、リンクを構築する場合に、PATH= からの情報を使用しません。

参照項目: “FILENAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)

ライブラリ参照 catalog

書き込む先の SAS カタログを指定します。

参照項目: “LIBNAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)

URL= '*Uniform-Resource-Locator*' | NONE

file-specification の URL を指定します。

Uniform-Resource-Locator

指定した URL です。ODS は、ファイルに作成するすべてのリンクおよびレファレンスにおいて ファイル名ではなくこの URL を使用します。

NONE

リンクまたはレファレンスに GPATH=オプションからのいかなる情報が表示されないことを指定します。

ヒント: このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは、single-name URL で構築しなければならず、コンテンツ、ページ、およびボディファイルは、同じロケーションになければなりません。

操作: BODY= または、FILE=外部ファイルオプションを PATH= オプションと一緒に使用した場合、外部ファイル仕様にパス情報を含めるべきではありません。

PREPAGE=*'text-string'*

ページの表の前に発生する文字列を指定します。

text-string

タイトルの後の表の上部のテキストです。テキストは、プロシジャに作成されたいかなる表の前に配置されます。

要件 *text-string* を引用符で囲まなければなりません。

RECORD_SEPARATOR= '*alternative-separator*' | NONE

出力ファイルの線を分割する文字または、文字列である代わりにレコードセパレータを指定します。

異なる動作環境において、異なるセパレータ文字が使用されます。レコードセパレータを指定しない場合、ODS は、SAS ジョブを行う環境用に RTF ファイルをフォーマットします。しかし、異なるセパレータ文字を使用する他の動作環境で閲覧するためにある動作環境においてファイルを生成している場合、対象の環境に適切なレコードセパレータを指定できます。

alternative-separator

16 進数または、ASCII フォーマットの1つまたはそれ以上の文字を示します。例えば、次のオプションは、carriage-return 文字および改行文字(ASCII ファイルシステム上)を指定します。:

RECORD_SEPARATOR= '0D0A'x

動作環境の情報

メインフレーム環境において、次のオプションは、ASCII ファイルシステムに使用する carriage-return 文字および改行文字用のレコードセパレータを指定します。

```
RECORD_SEPARATOR= '0D25'x
```

要件 *alternative-separator* を引用符で囲まなければなりません。

NONE

SAS ジョブの実行環境に適切な RTF 出力を作成します。

動作環境の情報

多くの動作環境において、NONE の値を使用することは、RECORD_SEPARATOR オプションを除外するのと同じ結果を生みます。

動作環境の情報

メインフレーム環境において、デフォルトで、ODS は、組み込みレコードセパレータ文字を含むバイナリファイルを作成します。このアプローチは、ファイルが、ASCII ファイルの line-length 制限によって制約されないことを意味します。しかし、これは、ファイルをエディタで閲覧すると、線が連結されていることを意味します。RTF ファイルをエディタで閲覧できるようにフォーマットしたい場合、RECORD_SEPARATOR= NONE を使用してください。この場合、ODS は、ファイルに RTF の 1 行を行毎に書き込みます。NONE の値を使用した場合、書き込む先のファイルの論理的な長さは、最低でもが作成する最も長い線の長さでなければなりません。そうでなければ、RTF は、不適當な場所で、他の線にラッピングする可能性があります。

別名:

RECSEP=

RS=

STARTPAGE= BYGROUP | YES | NO | NOW

改ページを制御します。

BYGROUP

各 BY グループの後に改ページを挿入することを指定します。

YES

プロシジャコードに要求された通り、各プロシジャの最初および特定のプロシジャ内においてに新しいページを挿入します。

別名: ON

操作:

STARTPAGE= オプションを YES(デフォルト)に設定すると、ODS は、各プロシジャの最初の手順で新しいページを挿入し、プロシジャの前後において、ヘッダーおよびフッターを正しく配置するために、ワードに依存します。BODYTITLE、タイトルおよびフットノートが、RTF 文書のヘッダーおよびフッター部分から除外されていることを指定した場合、その後、タイトルとフットノートは、文書の本体に配置され、すべての TABLE に追加されます。そのため、STARTPAGE=オプションを YES に設定し、BODYTITLE オプションを指定すると、すべてのページにおいて、タイトルとフットノートが繰り返されない可能性があります。例えば、複数のページにおよぶ表が有る場合、タイトルは、最初のページにのみ表われ、フットノートは、最後のページにのみ表われます。

BODYTITLE オプションを指定すると、Microsoft Word は、ヘッダーおよびフッターの配置の制御に関与しなくなります。しかし、マイクロソフトワードは、ページ番号および日付等のその他のヘッダーおよびフッターの情報は、依然として制御します。

NO

プロシジャコードにより新しいページが要求された場合でも、各プロシジャの始め、または特定のプロシジャの範囲内に新しいページを挿入できないことを ODS に指定します。新しいページは、ページが埋まった場合、また STARTPAGE= NOW を指定した場合のみに開始されます。

別名: NEVER

操作: COLUMNS= オプションを指定すると、STARTPAGE=NO オプションが称賛されます。

ヒント: このオプションは、最初のタイトルのセットおよび最初のセットのフットノートのみを RTF ファイルにプリントします。

NOW

新しいページの即座の挿入を強制します。

ヒント: このオプションは、主に現行の STARTPAGE=オプションが NO の場合のみ使用されます。そうでなければ、新たな各プロシジャは、新しいページを自動的に強制します。

デフォルト: YES

ヒント: STARTPAGE= NO を指定することで、強制的な改ページを阻止します。STARTPAGE=YES を指定することで、強制的な改ページ再度をオンにできます。STARTPAGE=NOW を指定することで、どんな時でも改ページを挿入できます。

STYLE= style-definition

RTF ファイルを書くために ODS が使用するスタイル定義を指定します。

style-definition

SAS 出力の体裁(色、フォントフェイス、フォントサイズ、および等々)の表示方法を説明します。スタイル定義は、それを使用する文書の全体の体裁を決定します。各スタイル定義は、スタイル定義により構成されます。

参照項目: スタイル定義に関する詳細は、次を参照してください。13 章, “TEMPLATE プロシジャ: スタイルテンプレートの作成” (941 ページ)

デフォルト: スタイル定義を使用しない場合、ODS は、SAS レジストリのサブキーに指定されているスタイル定義を使用します。: ODS ⇨ DESTINATIONS ⇨ RTF この値は、デフォルトで、伝統的な RTF および測定された RTF 用の RTF を指定します。

TABLEROWS= n

ODS が、改行を挿入する前に、表の行の数を指定します。表が、ページに収まる程十分狭い場合は、改ページの前に n 行がテーブルに書き込まれます。表が、ページ収めるのに、幅が広すぎる場合は、ページは、パネルに分割されます。In each panel, n rows will be written 各パネルにおいて、 n 行が書き込まれます。 n 行のすべてのパネルが書き込まれている場合は、パネルの次のグループが書き込まれる前に、改ページが挿入されます。

注: 改ページは、パネル間において強制されません。

n

正の整数です。

別名: 0 | NONE

デフォルト: SAS が、テーブルごとの行数を決定することを許可します。

ヒント: 0 または NONE がデフォルトに戻ることにより、SAS に、テーブルごとの行数の決定をできるようにします。

例: “例 5: TABLEROWS および PAGEPANELS オプションを使用したパネルング” (680 ページ)

TEXT= 'text-string'

RTF 出力にテキストを挿入します。

text-string

RTF 出力に挿入すべきテキストです。他の出力に注釈を付けるために、TEXT=を使用できます。

制限事項: 同じ ODS RTF ステートメントにおいて、NEWFILE= および TEXT= ステートメントの両方を使用できません。これらの各オプションに、別の ODS RTF ステートメントを使用しなければなりません。

要件 引用符で *text-string* を囲まなければなりません。

TITLE= 'title-text'

タイトルにすることを希望するテキスト文字列をファイルのメタデータに挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件 *title-text* を引用符で囲まなければなりません。

TRANTAB= translation-table

出力用のファイルをトランスコードするときに、ODS が、使用する変換テーブルを指定します。

参照項目: 詳細は、次を参照してください。“TRANTAB=システムオプション” (SAS 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド)

UNIFORM

複数のページを必要とする単一の表におけるページ間の統一性を保証します。UNIFORM オプションが有効な場合、ODS は、すべてのデータに対応するために、欄の幅などを判断するため、プリントを開始する前に表全体を読み込みます。ODS は、複数のページテーブルのすべてのページにこれらの欄の幅を適用します。

注: BY-group 処理で、SAS は、各グループの結果を別の表に記述するため、出力が BY グループ間で一定でない可能性があります。

デフォルト: UNIFORM オプションを指定しない場合、ODS は、1 ページ毎に表をプリントします。このアプローチは、SAS が非常に大きい表を処理している途中で、メモリ不足に陥らないことを保証します。しかし、これは、欄の幅がそれぞれページ毎に異なることも意味します。

ヒント:

このオプションをオンにされた後、その SAS セッションのために、オフにすることはできません。

UNIFORM オプションは、非常に大きな容量の表をプリントする場合に、SAS にメモリ不足に陥らせる可能性があります。これが発生した場合、表の各欄の幅を明確に設定します。表を1ページ毎にプリントしてください。それをするには、使用する表の定義を編集しなければなりません。詳細は、次を参照してください。“テーブルテンプレートを使用して実行可能な操作” (1060 ページ)

例: “例 6: UNIFORM オプションの使用によるヘッダーの繰り返し” (685 ページ)

診断タグセット

ODS TAGSET.RTF ステートメントでは、次の診断タグセットが実行可能です。

MEAS_EVENT_MAP

トリガされるイベントと、SAS プロセスから出力ファイルへ出力が送られるときにイベントによって使用される変数とを示す、XML 出力を作成します。

MEAS_EVENT_MAP を使用して SAS プロセスを実行すると、ODS は、すべての

イベント名と変数名がタグで表示される出力ファイルに、XML を書き込みます。出力は、ユーザー独自のタグセットを作成するのに役立ちます。

MEAS_SHORT_MAP

MEAS_EVENT_MAP タグセットによって作成される XML 出力のサブセットを作成します。

MEAS_TEXT_MAP

ODS 出力オブジェクトを処理するときどのイベントがトリガされるのかを示す、テキスト出力を作成します。

ヒント: MEAS_TEXT_MAP 出力を、MEAS_EVENT_MAP タグセットによって作成される出力の代用として使用できます。

詳細

ODS TAGSETS.RTF 出力先を開く/閉じる

RTF 出力先を変更したり開いたりするときは、多くの ODS TAGSETS.RTF オプションを使用できます。ただし FILE=オプションは、ODS TAGSETS.RTF ステートメントによって参照される開いている出力先を、自動的に閉じます。このオプションはまた、それに関連付けられているファイルを閉じ、出力先の新規のインスタンスを開きます。いずれかの ODS TAGSETS.RTF オプションを使用した場合は、出力先を明示的に閉じることをお勧めします。

従来の RTF による出力のフォーマットについて

RTF は Microsoft Word 2002 のための出力を作成します。他のアプリケーションでも RTF ファイルは読めますが、RTF 出力は他のアプリケーションではうまく動作しない場合があります。

RTF 出力先では、RTF 出力の表示と編集ができます。ODS は“垂直測定”を定義しません。つまり SAS は、ページ上の各項目の位置を決めるための最適な位置を定義しません。たとえば、改ページは常に固定されているとは限りません。これは、テキストの編集時に RTF 出力テーブルが不適切な位置で改ページされないように考慮されているからです。ユーザーのテーブルはページ上で元のまま保持できます。あるいは、ユーザーが指定した位置で論理的な改ページを行えます。

Microsoft Word はテーブル列の幅を認識する必要があります。その幅がページに対して広すぎる場合は、テーブルを調整できません。ただし、ODS はテキストおよびテーブルの幅を測定します(水平測定)。したがって、列幅はすべて SAS によって正しく設定され、テーブルの幅が 1 ページに対して広すぎる場合は、テーブルをパネルに分割できます。

つまり、Microsoft Word に入力するために RTF 出力を作成するときは、SAS が垂直測定を決定し、Microsoft Word が垂直測定を制御します。Microsoft Word はページ上の余白の量を決定できるため、ユーザーのテーブルは、ユーザーが RTF ファイルを修正した後も常に表示されます。

注: 多数のオブザベーションが含まれた複雑なテーブルは、システムの効率を低下させ、処理時間を増大させます。

ODS メジャー RTF と従来の ODS RTF

ODS RTF タグセット(ODS TAGSETS.RTF)は、メジャータグセットとも呼ばれ、SAS 9.2 で新たに追加されたものです。このタグセットにより、改ページの方法および場所の指定と、本文ページ中でのタイトルとフットノートの配置が可能になります。従来の ODS RTF は、長すぎて 1 ページには収まらないテーブルに対して暗黙的な改ページを行うために、Microsoft Word の機能が必要でした。従来の RTF はまた、RTF 命令内に、必要に応じて Microsoft Word でページに適用できるタイトルおよびフットノートを配置します。これに対し、RTF タグセットがあれば、SAS は Microsoft Word による制御を

伴うことなくドキュメントの本文にタイトルおよびフットノートを配置できます。したがって、SAS は暗黙的な改ページを独自に行うことになります。

RTF タグセットの機能

RTF タグセットの機能の概要

新しい RTF “メジャー” タグセットの機能は次のとおりです。

- サイズの大きいテーブルの改ページを制御します。
- Microsoft Word 以外の RTF リーダーをサポートします。
- タイトル、フットノートおよびその他のページ要素を制御します。

長いテーブルの改ページの制御

複数ページのテーブルは、ODS RTF では問題になる可能性があります。ODS PRINTER 出力先と同様に、SAS は幅の広いテーブルを折り返す位置を決めます。しかし幅の広いテーブルでは、レンダリングの前にテーブル全体がメモリにロードされません。テーブルが物理的なページよりも長くなる場合は、Microsoft Word によって改ページが指定されます。Microsoft Word はテーブルの列ヘッダー情報を再作成し、タイトルおよびフットノートを適用します。テーブルを後で Microsoft Word で編集する場合、この情報は引き続き有効になります。

テーブルの各セルには多くの情報が関連付けられています。システムにどれだけメモリを追加しても、その処理限界を超えるテーブルを作成することは可能です。また、メモリ不足は、マシンのセットアップや作成するテーブルの状況に応じて異なるため、いつ発生するかは予測できません。

ODS RTF タグセットを使用することにより、SAS は、ドキュメントの本文中のどこに改ページを挿入したりタイトルおよびフットノートを配置したりするかを判断します。テーブルが複数ページに分割されて、SAS が複数の改ページを制御する場合は、どの時点においてもメモリ内に約 1 ページ分のデータが必要になります。したがって、メモリの使用量がいっそう少なくなり、極度に大きいテーブルが作成できます。ODS RTF タグセットは、大きいテーブルを必要とするユーザーや、以前の RTF のビヘイビアを望むユーザーに向けています。両方の RTF の実装が同時にサポートされます。

Word 以外の RTF リーダーのサポート

SAS 9.2 以前では、従来の RTF アーキテクチャでサポートされていたのは Microsoft Word の RTF のみでした。複数のリーダーをサポートする場合、RTF リーダーごとに RTF 仕様の解釈方法が異なるという点に問題があります。RTF タグセットによって、あるリーダーのわずかな変更を、他の RTF リーダーに影響を与えることなく有効にできます。

タイトル、フットノートおよびその他のページ要素の制御

メジャー RTF は、ページ上のタイトルおよびフットノートを Microsoft Word へ渡される制御語としてではなくテーブルとして配置する、タグセットを使用します。従来の RTF では、タイトルおよびフットノートは、BODYTITLE オプションを指定しない限り RTF のヘッダーおよびフッター情報に属します。ヘッダーおよびフッターは、メジャー RTF を使用して自動的にドキュメントの本文内に配置されるため、TAGSTF.RTF 出力先は BODYTITLE オプションを必要としません。

メジャー RTF とグラフィック

メジャー RTF は、リッチテキスト形式で出力を作成します。MS Word が判読できるグラフィック用の 3 つの出力形式がサポートされています。

グラフィックフォーマット	対応する SAS グラフィックドライバ
emfblips	SASEMF
pngblips	PNG
jpegblips	JPEG

ユーザーが出力先デバイスを指定しない場合は、PNG がデフォルトの出力先になります。ACTIVEX、ACTXIMG、JAVAIMG の各グラフィックドライバを使用して、メジャー RTF ドキュメント内でグラフィックを生成することもできます。ACTIVEX ドライバは ActiveX コントロールを生成します。ACTXIMG ドライバおよび JAVAIMG ドライバは、ACTIVEX コントロールまたは JAVA アプレットを用いて、適宜 PNG ファイルを生成します。グラフィックデバイスの詳細については、*SAS/GRAPH: Reference* を参照してください。

注: ODS TAGSET.RTF ステートメントで JAVA デバイスを指定した場合は、JAVAIMG ドライバが使用されます。

注: RTF では、ACTIVEX デバイスを使用した UTF-8 エンコーディングはできません。UTF-8 エンコーディングを行う場合は、ACTXIMG (activex イメージ) デバイスを使用します。

例

例 1: 目次の作成

要素:

ODS TAGSETS.RTF ステートメント:

操作: CLOSE
 オプション: CONTENTS
 オプション: TOC_DATA

他の要素:

OPTIONS ステートメント
 PROC FORMAT
 PROC PRINT
 PROC SORT
 PROC REPORT
 PROC TABULATE

データセット:

[Grain_Production](#)

出力形式:

[\\$CNTRY](#)

次の例では、目次のページが作成されます。このページには、一部のプロシジャ用の、埋め込まれた目次のデータが含まれています。目次データの挿入は、プログラムの途中でもオン/オフの切り換えができます。

プログラム

```
ods html close;

proc sort data=Grain_Production;
  by year country type;
run;
```

```

ods tagsets.rtf file='Grain_Tagset.rtf' options(contents='yes' toc_data='yes');

options nobyline;
title 'Leading Grain-Producing Countries';
title2 'for #byval(year)';

proc report data=Grain_Production nowindows;
by year;
column country type kilotons;
define country / group width=14 format=$cntry.;
define type / group 'Type of Grain';
define kilotons / format=comma12.;
footnote 'Measurements are in metric tons.';
run;

options byline;
title2;

ods tagsets.rtf options(toc_data='no');

proc tabulate data=Grain_Production format=comma12.;
class year country type;
var kilotons;
table year,
country*type,
kilotons*sum=' ' / box=_page_ misstext='No data';
format country $cntry.;
footnote 'Measurements are in metric tons.';
run;

ods tagsets.rtf options(toc_data='yes');

proc print data=Grain_Production;
run;

ods tagsets.rtf close;
ods html;

```

プログラムの説明

HTML 出力先を閉じます。 HTML 出力先はデフォルトでは開いています。ODS HTML ステートメントは、HTML 出力先を閉じてリソースを保存します。

```
ods html close;
```

データセット Grain_Production をソートします。 PROC SORT が、最初に変数 Year の値で、次いで変数 Country の値で、最後は変数 Type の値でデータをソートします。

```
proc sort data=Grain_Production;
by year country type;
run;
```

RTF 出力を作成し、出力の各ページのボディファイルを新規に作成します。 ODS TAGSETS.RTF ステートメントは、RTF 出力先を開いて RTF 出力を作成します。CONTENTS サブオプションは、目次のページを作成します。目次のページには、ドキュメントに埋め込まれたコンテンツ情報のすべてを目次に挿入する、目次のフィールドが含まれています。この操作は、TOC_DATA サブオプションが CONTENTS サブオプションとともに指定された場合のみ発生します。デフォルトでは、目次の情報は RTF ファイルに埋め込まれません。TOC データの挿入を有効にするには

TOC_DATA='YES'と指定し、この情報を挿入しないよう ODS に命令するには TOC_DATA='NO'と指定します。

```
ods tagsets.rtf file='Grain_Tagset.rtf' options(contents='yes' toc_data='yes');
```

デフォルトの BY 行を非表示にし、BY 行に新しい値を指定します。 NOBYLINE オプションはデフォルトの BY 行の変数を非表示にします。#BYVAL パラメータの仕様は、BY 変数 Year の現在の値をタイトルに挿入します。

```
options nobyline;
title 'Leading Grain-Producing Countries';
title2 'for #byval(year)';
```

レポートを生成します。 次に示す PROC REPORT ステップは、穀物生産高に関するレポートを生成します。各 BY グループは出力のページを生成します。ODS は BY グループのボディファイルを新規に作成します。NOWINDOWS オプションは、ODS に対して REPORT ウィンドウを使用しないで PROC REPORT を実行するよう命令し、その出力を、開いている出力の出力先に送信します。

```
proc report data=Grain_Production nowindows;
by year;
column country type kilotons;
define country / group width=14 format=$cntry.;
define type / group 'Type of Grain';
define kilotons / format=comma12.;
footnote 'Measurements are in metric tons.';
run;
```

デフォルトの BY 行を復元し、2 番目の TITLE ステートメントをクリアします。 BYLINE オプションはデフォルトの BY 行を復元します。TITLE2 ステートメントは 2 番目の TITLE ステートメントをクリアします。

```
options byline;
title2;
```

目次のデータが RTF ファイルに挿入されるのを非表示にします。 TOC_DATA='NO'オプションは ODS に対して、目次のデータを RTF ファイルに挿入しないように命令します。したがって、TABULATE プロシジャが TOC_DATA='NO'オプションの後ろに続くため、目次のページで TABULATE プロシジャのエントリがなくなります。

```
ods tagsets.rtf options(toc_data='no');
```

レポートを生成します。 PROC TABULATE ステップの TABLE ステートメントは 3 つのディメンションを使用します。Year はページを定義し、Country および Type は行を定義し、Kilotons は列を定義します。したがって PROC TABULATE は、Grain Production データセットで指定された年に基づいて、1995 年の出力と 1996 年の出力をそれぞれ 1 ページずつ、明示的に生成します。ODS はまた、各ページの新規のボディファイルを開始します。

```
proc tabulate data=Grain_Production format=comma12.;
class year country type;
var kilotons;
table year,
country*type,
kilotons*sum=' ' / box=_page_ misstext='No data';
format country $cntry.;
footnote 'Measurements are in metric tons.';
run;
```

目次のデータが RTF ファイルに挿入されるようにします。TOC_DATA='YES'オプションは ODS に対して、目次のデータを RTF ファイルに挿入するように命令します。PROC PRINT ステートメントが実行されたとき、目次のページで PRINT プロシジャのエントリが生じます。

```
ods tagsets.rtf options(toc_data='yes');
```

Grain_Production データセットを印刷します。

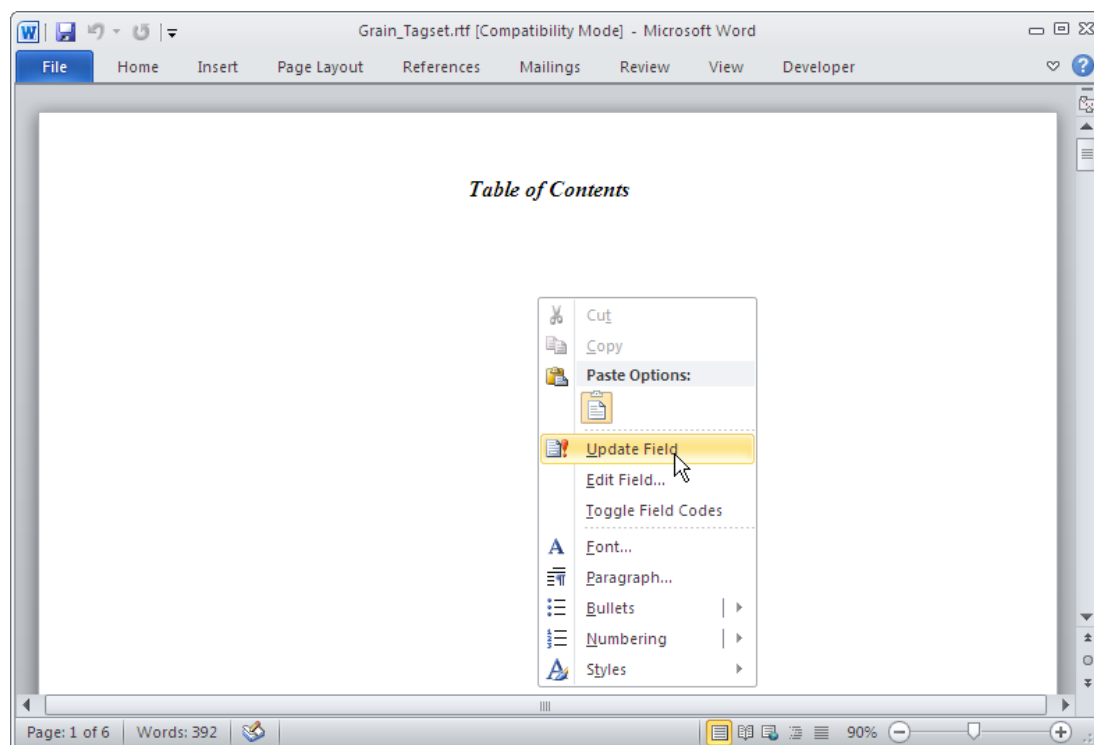
```
proc print data=Grain_Production;
run;
```

RTF 出力先を閉じます。 ODS TAGSETS.RTF CLOSE ステートメントは、RTF 出力先と、関連付けられているファイル全部を閉じます。出力先を閉じないと、ブラウザウィンドウでファイルが表示できなくなります。HTML 出力先を開いて、ODS をデフォルト設定に戻してください。

```
ods tagsets.rtf close;
ods html;
```

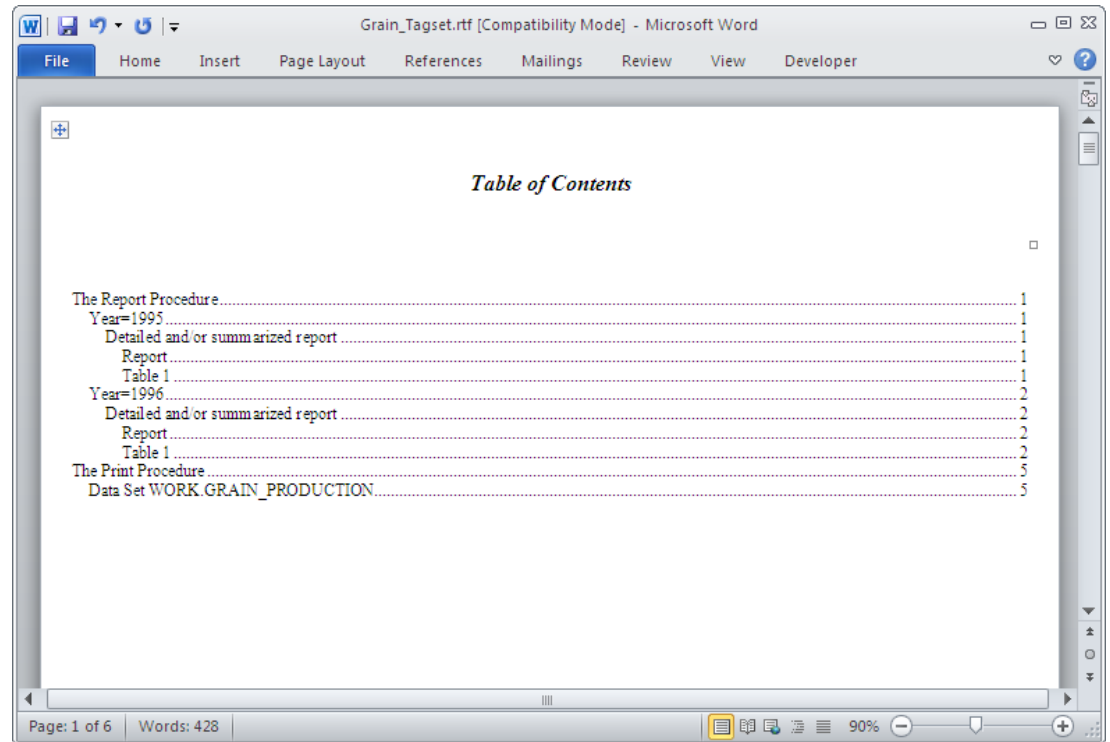
RTF 出力

デフォルトでは、目次は目次ページで折り畳まれています。目次を Microsoft Word から展開するには、選択リストに[フィールドの更新]オプションが表示されるまでタイトルの下の部分を右クリックします。次に、[フィールドの更新]を選択します。



目次には、PROC REPORT および PROC PRINT のエントリのみが含まれています。デフォルトでは、ユーザーが TOC_DATA=YES オプションを指定しない限り、ODS は目次のデータを RTF ドキュメント内に埋め込みません。このオプションを指定すると、PROC REPORT およびその他すべてのデータのエントリが生じます。TABULATE プロシジャの前で TOC_DATA オプションを無効にすると、ODS は PROC TABULATE のために RTF ドキュメントに情報を挿入しません。ユーザーが TOC_DATA=YES を指定しない限り、その他のコンテンツ情報が RTF ドキュメントに挿入されることはあり

ません。この例では、PRINT プロシジャの前で TOC_DATA='YES' オプションが指定されています。したがって、ODS は PROC PRINT のコンテンツデータを目次に挿入します。



例 2: DOC サブオプションを使用した ODS TAGSETS.RTF 情報の取得

要素:

ODS TAGSETS.RTF ステートメント:

操作: CLOSE

オプション: OPTIONS (DOC="HELP")

オプション: FILE=

他の要素:

PROC PRINT

次の例では、OPTIONS サブオプションおよび使用可能な各サブオプションの説明が、SAS ログに印刷されます。

プログラム

```
ods tagsets.rtf file='Help.rtf' options (doc='help');

proc print data=Sashelp.Class;
run;

ods tagsets.rtf close;
```

プログラムの説明

OPTIONS サブオプションの情報を SAS ログファイルに印刷します。 OPTIONS サブオプション(DOC='HELP')を指定すると、ODS TAGSETS.RTF ステートメントのサブオプションのヘルプが SAS ログファイルに印刷されます。FILE=オプションにより、データの結果が Help.rtf という RTF ファイルに印刷されます。

```
ods tagsets.rtf file='Help.rtf' options (doc='help');
```

データセット **Sashelp.Class** を印刷します。PROC PRINT ステートメントは、Sashelp.Class データセットを印刷します。

```
proc print data=Sashelp.Class;
run;
```

TAGSETS.RTF 出力先を閉じます。この出力先を閉じないと、出力を表示できません。

```
ods tagsets.rtf close;
```

出力

OPTIONS サブオプション全部と各サブオプションの情報を SAS ログに印刷するには、“DOC=’HELP’”サブオプションを指定します。

```
Log - (Untitled)
2 ods tagsets.rtf file='help.rtf' options (doc='help');
NOTE: Writing TAGSETS.RTF Body file: help.rtf
-----
The RTF Tagset Help Text.

This Tagset/Destination helps with the creation of RTF files
for MS Word

-----

These are the options currently supported by this tagset.

Sample usage:

ODS TAGSETS.RTF OPTIONS(doc='Quick',
                        CONTENTS='yes');

ODS TAGSETS.RTF OPTIONS(SPECIFIC_OPTION='value');

Debug_Level: No default value.
Current value: 0
Usage: OPTIONS(Debug_Level=1)
Description:
  Determine what debugging information should be printed
  to the log. The values expected are numeric and can be used to
  take whatever action is needed. Used in tagsets being debugged,
  but requires a local tagset to be modified.

Doc: No default value.
Help: Displays introductory text and options.
Quick: Displays available options.
Settings: Displays Current settings.

CONTENTS: No default value.
Usage: OPTIONS(CONTENTS='yes')
Description:
  Adds a table of contents page at the top of the file,
  followed by a page break. This must occur before any other output
  in order to have an effect.
  'yes' and 'on' have the same action.

SECT: No default value.
Usage: OPTIONS(SECT='string')
Description:
  Inserts RTF controls onto the section data specifications.
  ODS tagsets.rtf OPTIONS(sect='string')
  The special string 'NONE' prevents ANY section data from
  being added.
  Assigning 'no' or 'off' resets the option to NULL.

TABLES_OFF: No default value.
```

例3: TABLES_OFF サブオプションの使用

要素:

ODS TAGSETS.RTF ステートメント:

操作: CLOSE

オプション: OPTIONS (TABLES_OFF="OFF") (TABLES_OFF="USERTEXT")

(TABLES_OFF="STYLES_ELEMENTS")

オプション: FILE=

オプション: TEXT=

他の要素:

PROC PRINT

次の例は、RTF 出力のテーブルの有効/無効を切り替え、TABLES_OFF サブオプションによって指定されたスタイル要素を適用します。

プログラム

```
ods tagsets.rtf file='tablesOff.rtf' options(TABLES_OFF='STYLE_ELEMENTS');
proc print data=sashelp.class(obs=1) ;
run;
ods tagsets.rtf text='TEXT is placed in a table by default' ;

ods tagsets.rtf options(TABLES_OFF='usertext' );
ods tagsets.rtf text='TEXT is not placed in a table (table is removed when
style element is specified)' ;

ods tagsets.rtf options(TABLES_OFF='off' );
ods tagsets.rtf text='TEXT is placed in a table (returned to default when
tables_off is set to off)' ;

ods tagsets.rtf close;
```

プログラムの説明

SAS ログファイル内で適用できるスタイル要素をリストします。 ODS TAGSETS.RTF によって、ユーザーはスタイル要素を RTF 出力に適用できます。使用可能なスタイル要素を判断するには、TABLES_OFF サブオプションを指定してそれらをリストします。この情報は SAS ログに書き込まれます。各ステートメントで、異なる複数のスタイル要素を使用できます。

```
ods tagsets.rtf file='tablesOff.rtf' options(TABLES_OFF='STYLE_ELEMENTS');
proc print data=sashelp.class(obs=1) ;
run;
ods tagsets.rtf text='TEXT is placed in a table by default' ;
```

テーブルを無効にして、USERTEXT スタイル要素を適用します。

TABLES_OFF='USERTEXT'を指定すると、書き込まれるテキストに対して USERTEXT スタイルが適用されます。

```
ods tagsets.rtf options(TABLES_OFF='usertext' );
ods tagsets.rtf text='TEXT is not placed in a table (table is removed when
style element is specified)' ;
```

デフォルトに戻り、テーブルが有効になります。 TABLES_OFF='OFF'を指定すると、オプションがデフォルトに戻り、テーブルが元どおり有効になります。

```
ods tagsets.rtf options(TABLES_OFF='off' );
ods tagsets.rtf text='TEXT is placed in a table (returned to default when
tables_off is set to off)' ;
```

RTF 出力先を閉じます。 この出力先を閉じないと、出力を表示できません。

```
ods tagsets.rtf close;
```

RTF 出力

ODS TAGSETS.RTF サブオプションを指定すると、TABLES_OFF=*style_element* に使用中のスタイル要素がリストされ、SAS ログに書き込まれます。

```

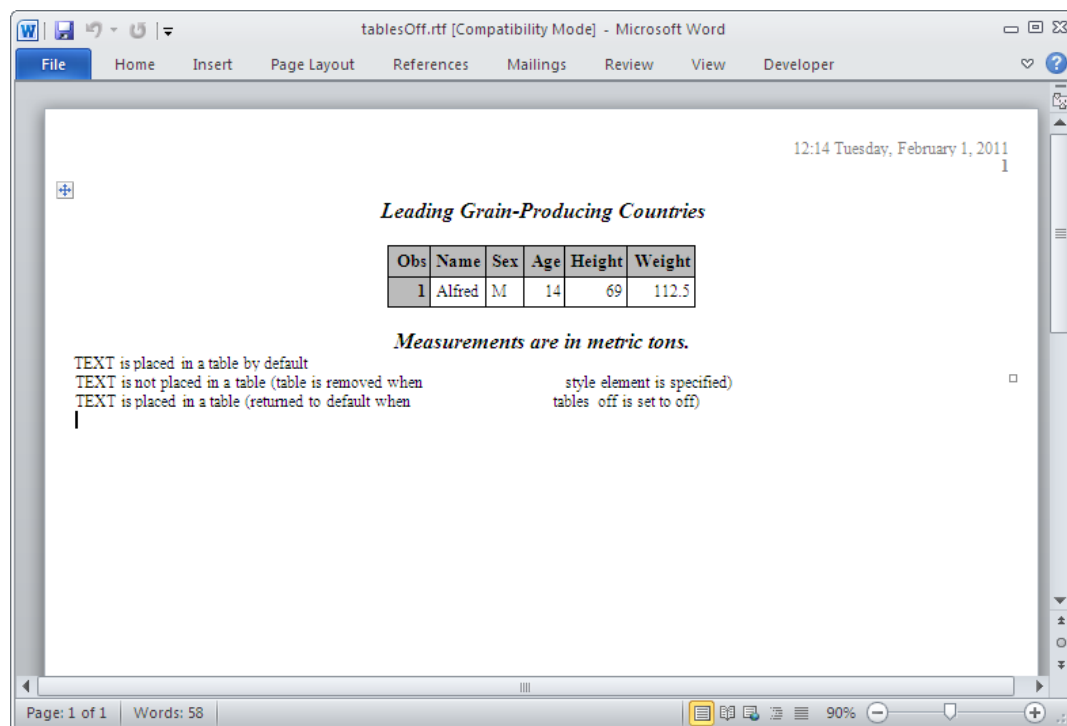
Log - (Untitled)
13 /* check the log for the action of the special value 'STYLE_ELEMENTS' */
14 ods tagsets.rtf file="tablesOff.rtf" options(TABLES_OFF='STYLE_ELEMENTS');
NOTE: Writing TAGSETS.RTF Body file: tablesOff.rtf
Style_element: PARSKIP
Style_element: CONTENTTITLE
Style_element: CONTINUED
15
16 proc print data=sashelp.class(obs=1) ; run;

NOTE: Writing HTML Body file: sashtml1.htm
Style_element: BODYDATE
Style_element: PAGENO
Style_element: SYSTITLEANDFOOTERCONTAINER
Style_element: TABLE
Style_element: TABLE
NOTE: There were 1 observations read from the data set SASHELP.CLASS.
NOTE: PROCEDURE PRINT used (Total process time):
      real time      0.20 seconds
      cpu time       0.09 seconds

17
18 ods tagsets.rtf text="TEXT is placed in a table by default" ;
Style_element: PARSKIP
Style_element: USERTEXT
19

```

次の出力は、TABLES_OFF サブオプションを使用すると何が発生するかを示しています。この例では ODS が、デフォルトで出力テキストをテーブル内に配置します。TABLES_OFF='USERTEXT'を指定すると、テーブルが無効になり、USERTEXT スタイルが出力に適用されます。最後に、TABLES_OFF='OFF'が指定され、テーブルにテキストが書き込まれます。



例4: TRHDR、TROWHDRCELL および TROWD の各オプションを使用した列ヘッダーの回転

要素:

ODS TAGSETS.RTF ステートメント:

操作: CLOSE
オプション: OPTIONS TRHDR= TROWHDRCELL= TROWD=

他の要素:

PROC PRINT
OPTIONS ステートメント

次の例では、行のヘッダーおよびコンテンツと列ヘッダーが、テーブル内で回転する RTF ファイルが作成されます。

プログラム

```
options orientation=landscape nodate nonumber;  
  
ods html close;  
  
ods tagsets.rtf file='Mrotate.rtf'  
OPTIONS (TRHDR='\trrh750'  
TROWHDRCELL='\cltxbt1r'  
TROWD='\rt1row');  
  
proc print data=Sashelp.Class(obs=5);  
run;  
  
ods tagsets.rtf close;  
ods html;
```

プログラムの説明

ページの向きを指定します。 ORIENTATION オプションは、ページを横向きに設定します。NODATE オプションは、日付と時刻の出力を無効にします。NONUMBER オプションは、出力の各ページの最初のタイトル行にページ番号を印刷しないよう SAS に命令するためのものです。

```
options orientation=landscape nodate nonumber;
```

HTML 出力先を閉じます。 HTML 出力先はデフォルトでは開いています。ODS HTML ステートメントでは、リソースを節約するように HTML 出力先が閉じられます。

```
ods html close;
```

ODS TAGSETS.RTF ステートメントを使用して RTF 出力を作成し、テーブル内の行およびヘッダー情報を回転させます。 ODS TAGSETS.RTF ステートメントは、RTF 出力先を開き、Mrotate.rtf ファイルへ送信される RTF 出力を作成します。3 つのオプションによって、行およびヘッダーの説明を操作できます。TRHDR では、テーブルの行ヘッダーを変更できます。この例では、指定された RTF スtring が、行ヘッダーにスペースを追加しています。TROWHDRCELL では、テーブル行のセル情報を操作できます。この場合、情報は垂直方向に回転します。TROWD オプションでは、テーブル行の説明を変更できます。指定された RTF 文字列は、最初のテーブル行を右端行に変更します。

```
ods tagsets.rtf file='Mrotate.rtf'  
OPTIONS (TRHDR='\trrh750'  
TROWHDRCELL='\cltxbt1r'  
TROWD='\rt1row');
```

Sashelp.Class データセットを印刷します。

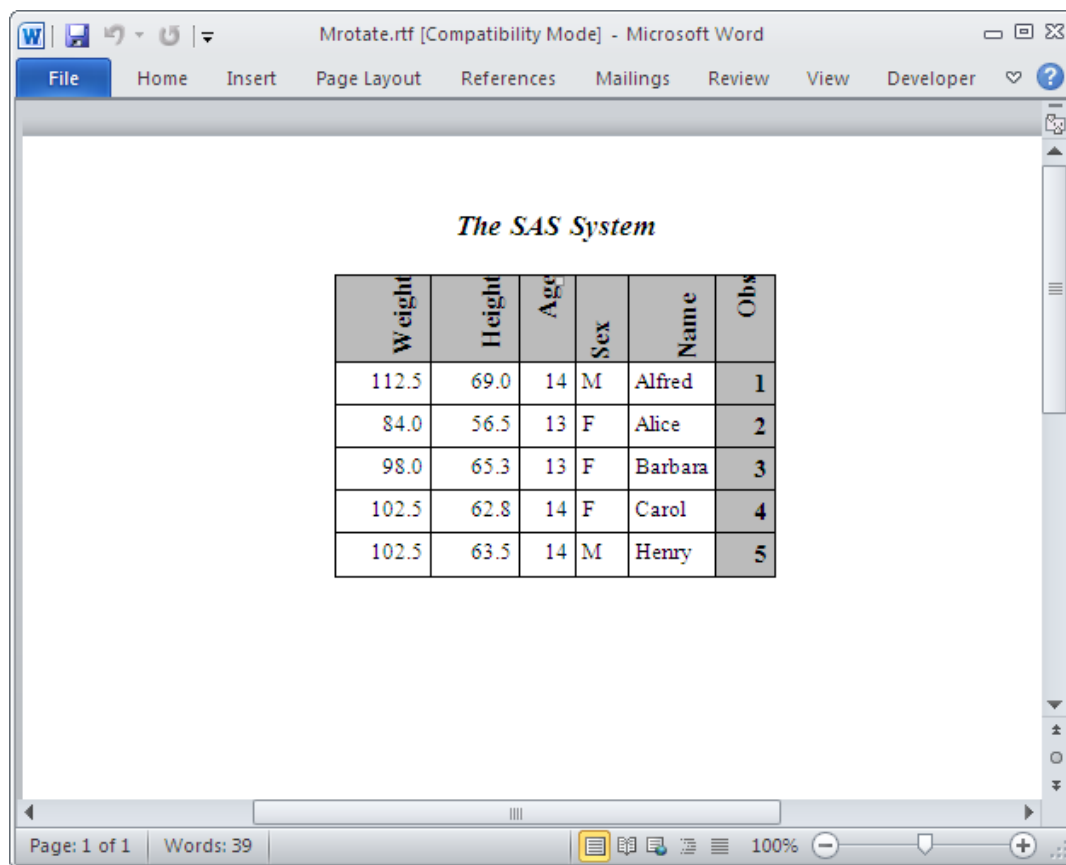
```
proc print data=Sashelp.Class(obs=5);  
run;
```

TAGSETS.RTF 出力先を閉じます。 この出力先を閉じないと、出力を表示できません。HTML 出力先を開いて、ODS をデフォルト設定に戻します。

```
ods tagsets.rtf close;
ods html;
```

RTF 出力

Mrotate.rtf 出力には、ODS がテーブルの最初の行を右端列へと回転させる様子が表示されます。ODS は行ヘッダーにスペースを追加し、ヘッダー行のセルの内容を垂直に配置しました。このテーブルの操作は、OPTIONS の TRHDR=、TROWHDCELL= および TROWD=の各サブオプションを使用して実行されました。



例 5: TABLEROWS および PAGEPANELS オプションを使用したパネリング

要素:

ODS TAGSETS.RTF ステートメント:

操作: CLOSE

オプション: TABLEROWS

オプション: PAGEPANELS

他の要素:

OPTIONS ステートメント

PROC PRINT

DATA ステートメント

テーブルがページの幅よりも広い場合に ODS がどのようにパネルを作成するのかと、そのパネリング制御のために提示されるいくつかのオプションについて、次のプログラムで例を示します。

プログラム

```
option nodate nonumber;

ods html close;

ods tagsets.rtf file='Panel.rtf';

data temp;
array values vallval50;
do j = 1 to 6;
do i = 1 to dim(values);
values(i) = i;
end;
output;
end;
run;

ods tagsets.rtf;
title Default Paneling;
proc print data=Temp;
run;

ods tagsets.rtf tablerows=5 pagepanels=4;
title 'Paneling with TABLEROWS=5 and PAGEPANELS=4';
proc print data=Temp;
run;

ods tagsets.rtf close;
ods html;
```

プログラムの説明

システムオプションを指定します。 NODATE オプションは、日付と時刻の出力を無効にします。NONUMBER オプションは、出力の各ページの最初のタイトル行にページ番号を印刷しないよう SAS に命令するためのものです。

```
option nodate nonumber;
```

HTML 出力先を閉じます。 HTML 出力先はデフォルトでは開いています。ODS HTML ステートメントでは、リソースを節約するように HTML 出力先が閉じられます。

```
ods html close;
```

RTF およびファイルの出力先を開きます。 RTF 出力先を開いて、出力ファイル Panel.rtf を命名します。ファイル名を指定しない場合、出力ファイル名はデフォルトの名前 (Sasmeas.rtf) になります。

```
ods tagsets.rtf file='Panel.rtf';
```

大きなデータセットを生成します。 パネリングの動作を示すために、大きなデータセットを作成します。

```
data temp;
array values vallval50;
do j = 1 to 6;
```

```

do i = 1 to dim(values);
values(i) = i;
end;
output;
end;
run;

```

デフォルトのパネリングを使用する RTF 出力を作成します。 ODS TAGSETS.RTF ステートメントは、RTF 出力先を開いて RTF 出力を作成します。デフォルトのパネリングは、このプログラムの前の部分で作成された TEMP データセットを印刷するために使用されます。テーブルのタイトルは、“デフォルトのパネリング”です。

```

ods tagsets.rtf;
title Default Paneling;
proc print data=Temp;
run;

```

パネルの数が指定されている場所に、RTF 出力を作成します。 ODS TAGSETS.RTF ステートメントは、RTF 出力先を開いて RTF 出力を作成します。RTF タグセットオプションである TABLEROWS および PAGEPANELS を使用することで、ページ上のパネルの数と、ユーザーが各テーブルへの出力をデータの行数を制御できます。この複数パネルのテーブルのタイトルは、'TABLEROWS=5 および PAGEPANELS=4 のパネリング'です。

```

ods tagsets.rtf tablerows=5 pagepanels=4;
title 'Paneling with TABLEROWS=5 and PAGEPANELS=4';
proc print data=Temp;
run;

```

RTF 出力先を閉じます。 この出力先を閉じないと、出力を表示できません。HTML 出力先を開いて、ODS をデフォルト設定に戻します。

```

ods tagsets.rtf close;
ods html;

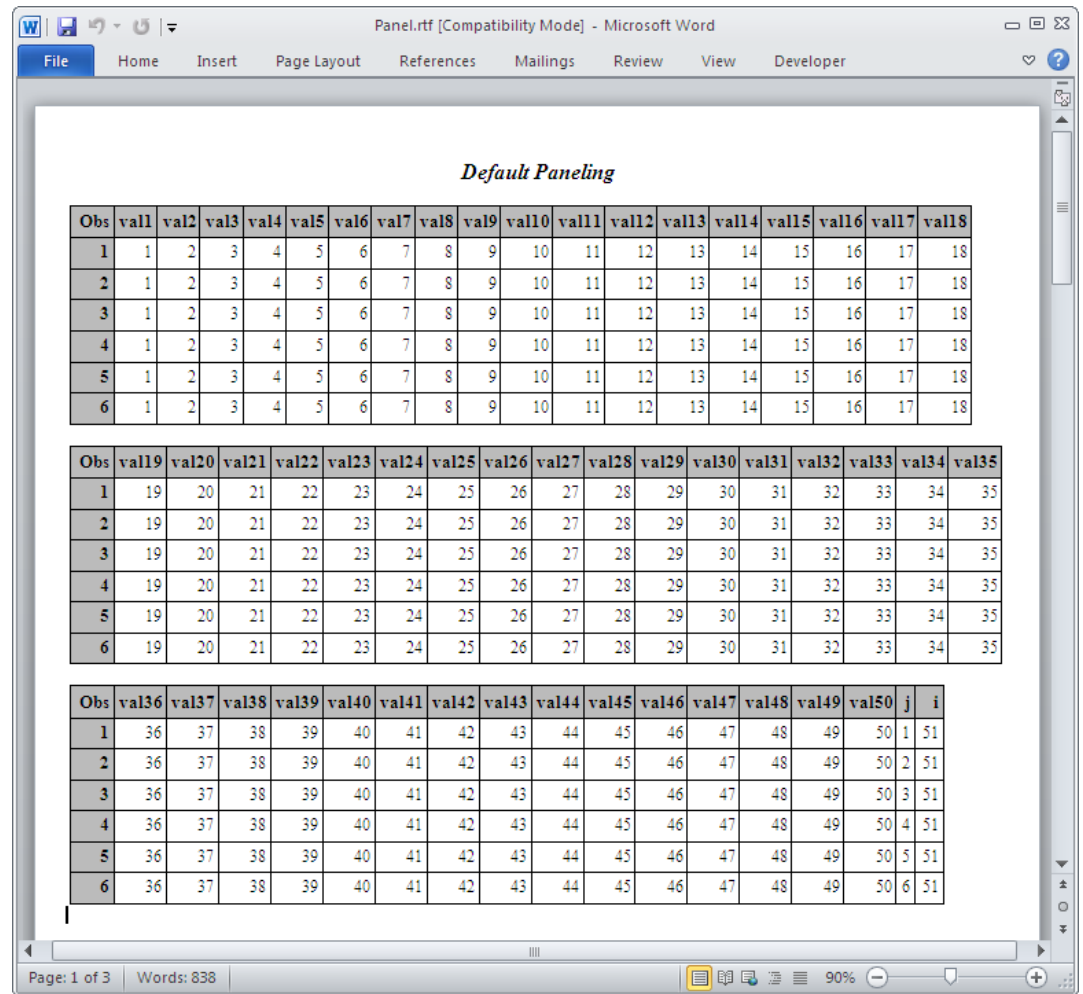
```

RTF 出力

ページのパネリングは、テーブルがページの幅よりも広い場合に発生します。デフォルトでは、メジャー ODS RTF では、複数のパネルが 1 つにグループ化され、すべてのオ

ブザーションがまとめられます。最初の列には、1 行に収まる最大数の列が含まれます。各パネルの行数は、論理上の 1 ページに収まる行数によって決まります。

アウトプット 6.31 デフォルトのページパネルングを伴う RTF 出力



TBLEROWS オプションを使用してパネルの行数を指定できます。各パネルで作成できる行は、5 行のみです。その他の行は、別のページの、異なる 3 つのパネルに表示されます。

アウトプット 6.32 PAGEPANELS オプションおよび TBLEROWS オプションを伴う RTF 出力

Panel.rtf [Compatibility Mode] - Microsoft Word

File Home Insert Page Layout References Mailings Review View Developer

Paneling with TBLEROWS=5 and PAGEPANELS=4

Obs	val1	val2	val3	val4	val5	val6	val7	val8	val9	val10	val11	val12	val13	val14	val15	val16	val17	val18
1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
2	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
3	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
4	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
5	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18

Obs	val19	val20	val21	val22	val23	val24	val25	val26	val27	val28	val29	val30	val31	val32	val33	val34	val35
1	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
2	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
3	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
4	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
5	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35

Obs	val36	val37	val38	val39	val40	val41	val42	val43	val44	val45	val46	val47	val48	val49	val50	j	i
1	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	1	51
2	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	2	51
3	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	3	51
4	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	4	51
5	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	5	51

(Continued)

Page: 2 of 3 Words: 838 90%

Panel.rtf [Compatibility Mode] - Microsoft Word

File Home Insert Page Layout References Mailings Review View Developer

Paneling with TBLEROWS=5 and PAGEPANELS=4

Obs	val1	val2	val3	val4	val5	val6	val7	val8	val9	val10	val11	val12	val13	val14	val15	val16	val17	val18
6	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18

Obs	val19	val20	val21	val22	val23	val24	val25	val26	val27	val28	val29	val30	val31	val32	val33	val34	val35
6	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35

Obs	val36	val37	val38	val39	val40	val41	val42	val43	val44	val45	val46	val47	val48	val49	val50	j	i
6	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	6	51

Page: 3 of 3 Words: 838 90%

例 6: UNIFORM オプションの使用によるヘッダーの繰り返し**要素:**

ODS TAGSETS.RTF ステートメント:

操作: CLOSE
 オプション: UNIFORM
 オプション: FILE=

ODS RTF ステートメント

他の要素:

OPTIONS ステートメント
 PROC FORMAT
 PROC TABULATE
 DATA ステートメント

次の例では、複数ページに渡って一様な書式を保った、複数ページ用テーブルが作成されます。行ヘッダーおよび列ヘッダーのラベルも、各ページに引き継がれます。

プログラム

```
ods html close;

options orientation=landscape;
ods rtf file='RtfTab.rtf';

ods tagsets.rtf file='MrtfTab.rtf' uniform;

data one;
do a=1 to 2;
do b=1 to 2;
do c=1 to 3;
do d=1 to 3;
do e=1 to 5;
output;
end;
end;
end;
end;
end;
run;

proc format;
value cars 1='DATSUN 200SX'
2='PONTIAC FIERO';
value colors 1='RED'
2='LIGHT BLUE'
3='YELLOW'
4='GREEN'
5='BROWN';
value luxury 1='ALL THE WAY'
2='STANDARD OPTIONS'
3='STRIPPED DOWN';
value opts 1='POWER STEERING'
2='SUN ROOF'
3='AUTOMATIC'
4='T-TOP'
5='HATCHBACK'
6='FUEL-INJECTION'
```

```

7='HUBCAPS'
8='AM/FM STEREO'
9='FLOOR MATS'
10='CASSETTE PLAYER';
value perform 1='VERY SLOW'
2='SLOW'
3='AVERAGE'
4='FAST'
5='VERY FAST';
run;

data two (keep=model color luxury options perform);
length model color luxury options perform $ 20;
set one;
model=put(a,cars.);
color=put(b,colors.);
luxury=put(c,luxury.);
options=put(d,opts.);
perform=put(e,perform.);
run;

title2 'My Favorite Cars';
title3 '(large data set)';

proc tabulate data=two order=data ;
class model color luxury options perform;
table model*color*luxury*options*perform,n / indent=4 condense;
label model='MODEL CAR'
color='COLOR OF CAR'
luxury='CONDITION OF CAR'
perform='SPEED';
keylabel n='NUMBER';
run;

ods _all_ close;
ods html;

```

プログラムの説明

HTML 出力先を閉じます。 HTML 出力先はデフォルトでは開いています。ODS HTML ステートメントでは、リソースを節約するように HTML 出力先が閉じられます。

```
ods html close;
```

ページの向きを指定し、RTF 出力を命名します。 ページの向きを横に指定します。RTF 出力ファイルを RtfTab.rtf と命名します。

```
options orientation=landscape;
ods rtf file='RtfTab.rtf';
```

RTF ファイルを開き、UNIFORM ヘッダー情報を伴う出力を作成します。 ODS TAGSETS.RTF ステートメントは RTF ファイルを開きます。UNIFORM オプションは、列ヘッダーおよびヘッダー情報を各ページに表示されます。

```
ods tagsets.rtf file='MrtfTab.rtf' uniform;
```

データセット One を作成します。 5 列のデータセットを作成します。各列は 1~5 個のサブ列で構成されます。

```

data one;
do a=1 to 2;
do b=1 to 2;
do c=1 to 3;
do d=1 to 3;
do e=1 to 5;
output;
end;
end;
end;
end;
end;
run;

```

ユーザー定義の出力形式を作成します。 PROC FORMAT は、テーブルの列およびサブ列で SAS が使用する出力形式を作成します。

```

proc format;
value cars 1='DATSUN 200SX'
2='PONTIAC FIERO';
value colors 1='RED'
2='LIGHT BLUE'
3='YELLOW'
4='GREEN'
5='BROWN';
value luxury 1='ALL THE WAY'
2='STANDARD OPTIONS'
3='STRIPPED DOWN';
value opts 1='POWER STEERING'
2='SUN ROOF'
3='AUTOMATIC'
4='T-TOP'
5='HATCHBACK'
6='FUEL-INJECTION'
7='HUBCAPS'
8='AM/FM STEREO'
9='FLOOR MATS'
10='CASSETTE PLAYER';
value perform 1='VERY SLOW'
2='SLOW'
3='AVERAGE'
4='FAST'
5='VERY FAST';
run;

```

データセット Two を作成します。 データセット Two は、PROC FORMAT が提供する出力形式を備えたデータセットを作成します。

```

data two (keep=model color luxury options perform);
length model color luxury options perform $ 20;
set one;
model=put(a,cars.);
color=put(b,colors.);
luxury=put(c,luxury.);
options=put(d,opts.);
perform=put(e,perform.);
run;

```

出力のタイトルを作成します。 出力のタイトルを2つ提供します。

```
title2 'My Favorite Cars';  
title3 '(large data set)';
```

レポートを生成します。 PROC TABULATE は、車とその属性のテーブルを作成します。

```
proc tabulate data=two order=data ;  
class model color luxury options perform;  
table model*color*luxury*options*perform,n / indent=4 condense;  
label model='MODEL CAR'  
color='COLOR OF CAR'  
luxury='CONDITION OF CAR'  
perform='SPEED';  
keylabel n='NUMBER';  
run;
```

すべての出力先を閉じます。 ODS _ALL_ CLOSE ステートメントは、開いている出力先と、それに関連付けられているファイル全部を閉じます。出力先を閉じないと、ブラウザウィンドウでファイルが表示できなくなります。

```
ods _all_ close;  
ods html;
```

出力

次の出力は、メジャー RTF 出力ファイル Mrtftab.rtf のものです。この出力は、ODS TAGSETS.RTF ステートメントを使用して生成されます。メジャー出力と従来の RTF 出力との違いに注意してください。セルのヘッダー情報が各ページに引き継がれている

ことと、“続く”という語が RTF 出力の各ページの下部に表示されていることに注意してください。

アウトプット 6.33 メジャー RTF 出力

15:37 Tuesday, February 1, 2011
1

The SAS System
My Favorite Cars
(large data set)

DATSUN 200SX	RED	ALL THE WAY	POWER STEERING	VERY SLOW	NUMBER
				SLOW	1
				AVERAGE	1
				FAST	1
				VERY FAST	1
			SUN ROOF	VERY SLOW	1
				SLOW	1
				AVERAGE	1
				FAST	1
				VERY FAST	1
			AUTOMATIC	VERY SLOW	1
				SLOW	1
				AVERAGE	1
				FAST	1
				VERY FAST	1
		STANDARD OPTIONS	POWER STEERING	VERY SLOW	1
				SLOW	1
				AVERAGE	1
				FAST	1
				VERY FAST	1
			SUN ROOF	VERY SLOW	1
				SLOW	1

(Continued)

Page: 1 of 9 | Words: 1,880 | 80%

15:37 Tuesday, February 1, 2011
2

*The SAS System
My Favorite Cars
(large data set)*

					NUMBER		
DATSUN 200SX	RED	STANDARD OPTIONS	SUN ROOF	AVERAGE	1		
				FAST	1		
				VERY FAST	1		
			AUTOMATIC	VERY SLOW	1		
				SLOW	1		
				AVERAGE	1		
				FAST	1		
				VERY FAST	1		
				STRIPPED DOWN	POWER STEERING	VERY SLOW	1
						SLOW	1
		AVERAGE	1				
		FAST	1				
		VERY FAST	1				
		SUN ROOF	SUN ROOF	VERY SLOW	1		
				SLOW	1		
			AVERAGE	1			
			FAST	1			
			VERY FAST	1			
			AUTOMATIC	VERY SLOW	1		
				SLOW	1		
AVERAGE	1						
FAST	1						

(Continued)

Page: 2 of 9 | Words: 1,880 | 80%

次の出力は、従来の ODS RTF ステートメントを使用して生成された RtfTab.rtf ファイルの一部です。ヘッダー情報が出力の 2 ページ目に引き継がれていない点に注意してく

ださい。また、1 ページ目で出力の後続ページが示されていない点にも注意してください。

アウトプット 6.34 従来の RTF 出力

The screenshot shows a Microsoft Word document titled 'RtfTab.rtf [Compatibility Mode]'. The document content includes a title 'The SAS System My Favorite Cars (large data set)' and a table. The table has 5 columns: 'DATSUN 200SX', 'RED', 'ALL THE WAY', 'POWER STEERING', and 'NUMBER'. The data is organized into groups based on the 'POWER STEERING' and 'SUN ROOF' options. The status bar at the bottom indicates 'Page: 8 of 8' and 'Words: 531'.

DATSUN 200SX	RED	ALL THE WAY	POWER STEERING	NUMBER	
DATSUN 200SX	RED	ALL THE WAY	POWER STEERING	VERY SLOW	1
			SLOW	1	
			AVERAGE	1	
			FAST	1	
			VERY FAST	1	
			SUN ROOF	VERY SLOW	1
			SLOW	1	
			AVERAGE	1	
			FAST	1	
			VERY FAST	1	
			AUTOMATIC	VERY SLOW	1
			SLOW	1	
AVERAGE	1				
FAST	1				
VERY FAST	1				
STANDARD OPTIONS			POWER STEERING	VERY SLOW	1
			SLOW	1	
			AVERAGE	1	
			FAST	1	
			VERY FAST	1	
			SUN ROOF	VERY SLOW	1
			SLOW	1	
			AVERAGE	1	
FAST	1				

The SAS System
My Favorite Cars
(large data set)

				NUMBER
	AUTOMATIC		VERY FAST	1
			VERY SLOW	1
			SLOW	1
			AVERAGE	1
			FAST	1
	STRIPPED DOWN	POWER STEERING	VERY FAST	1
			VERY SLOW	1
			SLOW	1
			AVERAGE	1
			FAST	1
	SUN ROOF		VERY FAST	1
			VERY SLOW	1
			SLOW	1
			AVERAGE	1
			FAST	1
AUTOMATIC		VERY FAST	1	
		VERY SLOW	1	
		SLOW	1	
		AVERAGE	1	
		FAST	1	
LIGHT BLUE	ALL THE WAY	POWER STEERING	VERY FAST	1
			SLOW	1
			AVERAGE	1

Page: 2 of 8 Words: 531 80%

ODS TEXT=ステートメント

ODS 出力にテキストを挿入します。

Valid in: 任意の場所

Category: ODS: 出力制御

Tip: ODS TEXT= ステートメントは、開かれている出力先にのみ送信されます。そのため、ODS 出力先ステートメントの後に指定する必要があります。

Syntax

ODS TEXT='*文字列*'

Required Argument

文字列

出力に挿入するテキストを指定します。このテキストは、開かれたサポートされているすべての出力先に送信されます。

Restriction: ODS TEXT= ステートメントは、OUTPUT 出力先または LISTING 出力先をサポートしません。その他すべての出力先がサポートされます。

Requirement: 文字列は、括弧で囲む必要があります。

Tip: UserText スタイルエレメントにより、TEXT= ステートメントで指定されたテキストを制御されます。

Example: 複数の出力先へのテキストの追加**Features:**

ODS HTML ステートメント
 ODS PDF ステートメント
 ODS RTF ステートメント
 ODS TEXT= ステートメント

 PROC TEMPLATE
 DEFINE STYLE ステートメント
 PARENT= ステートメント
 STYLE ステートメント

Other features:

PROC PRINT

Data set:

[Exprev](#)

詳細

次の例は、単一の ODS TEXT= ステートメントを使用して、PDF、HTML および従来の RTF 出力にテキストを追加します。PROC TEMPLATE により、ODS TEXT= ステートメントにより追加されるテキストのフォントのスタイル、色、その他の属性を制御する UserText スタイルエレメントが修正されます。

プログラム

```

options obs=10;

proc template;
define style mystyle;
parent=styles.htmlblue;
style usertext from usertext /
foreground=red;
end;
run;

ods html file="text.html" style=mystyle;
ods pdf file="text.pdf" startpage=never notoc style=mystyle;
ods rtf file="text_trad.rtf" style=mystyle;

title "January Orders ";
footnote " For All Employees";

ods text="My Text 1";
ods text="My Text 2";

proc print data=exprev;
run;

ods text="My Text 3";

ods pdf close;

ods rtf close;

title;
footnote;

```

```
proc template;
delete mystyle;
run;
```

Program Description

```
options obs=10;
```

MyStyle スタイルテンプレートを作成します MyStyle スタイルテンプレートにより、UserText スタイルテンプレートが修正され、TEXT=ステートメントにより作成されたテキストのフォントの色が赤色に変わります。

```
proc template;
define style mystyle;
parent=styles.htmlblue;
style usertext from usertext /
foreground=red;
end;
run;
```

複数の ODS 出力先へ出力を送信します 次のステートメントにより、HTML、PDF および RTF の出力先が開かれます。

```
ods html file="text.html" style=mystyle;
ods pdf file="text.pdf" startpage=never notoc style=mystyle;
ods rtf file="text_trad.rtf" style=mystyle;
```

タイトルとフットノートを追加します TITLE および FOOTNOTE ステートメントにより、タイトルとフットノートが指定されます。TITLE および FOOTNOTE ステートメントは、ODS TEXT=ステートメントの前に配置する必要があります。

```
title "January Orders ";
footnote " For All Employees";
```

出力が印刷される前に、文字列を追加します。 ODS TEXT= ステートメントにより、文字列 “My Text 1” と “My Text 2” が追加され、テキストはデータセット が印刷される前に出力に追加されます。

```
ods text="My Text 1";
ods text="My Text 2";
```

データセット Exprev を印刷します。 PRINT プロシジャにより、Exprev データセットが印刷されます。

```
proc print data=exprev;
run;
```

データセット の後に3番目の文字列を追加します。 3 番目の ODS TEXT= ステートメントにより、文字列 “My Text 3” をデータセット が印刷された後に追加します。

```
ods text="My Text 3";
```

RTF および PRINTER 出力先を終了し、タイトルとフットノートを削除します。 ODS RTF CLOSE ステートメントにより、RTF 出力先が終了します。ODS PDF CLOSE ステートメントにより、PRINTER 出力先が終了します。The TITLE および FOOTNOTE ステートメントは、いままでに指定されたいずれのタイトルおよびフットノートも削除します。

```
ods pdf close;
```

```
ods rtf close;
```

```
title;
footnote;
```

MyStyle スタイルテンプレートを削除します。 DELETE ステートメントは、MyStyle スタイルテンプレートを削除します。

```
proc template;
delete mystyle;
run;
```

出力

Output 6.35 テキストが追加された HTML 出力

Results Viewer - SAS Output

January Orders

My Text 1
My Text 2

Obs	Country	Emp_ID	Order_Date	Ship_Date	Sale_Type	Quantity	Price	Cost
1	Antarctica	99999999	1/1/05	1/7/05	Internet	2	92.6	20.70
2	Puerto Rico	99999999	1/1/05	1/5/05	Catalog	14	51.2	12.10
3	Virgin Islands (U.S.)	99999999	1/1/05	1/4/05	In Store	25	31.1	15.65
4	Aruba	99999999	1/1/05	1/4/05	Catalog	30	123.7	59.00
5	Bahamas	99999999	1/1/05	1/4/05	Catalog	8	113.4	28.45
6	Bermuda	99999999	1/1/05	1/4/05	Catalog	7	41.0	9.25
7	Belize	120458	1/2/05	1/2/05	In Store	2	146.4	36.70
8	British Virgin Islands	99999999	1/2/05	1/5/05	Catalog	11	40.2	20.20
9	Canada	99999999	1/2/05	1/5/05	Catalog	100	11.8	5.00
10	Cayman Islands	120454	1/2/05	1/2/05	In Store	20	71.0	32.30

For All Employees

My Text 3

Output 6.36 テキストが追加された PDF 出力

Results Viewer - text.pdf

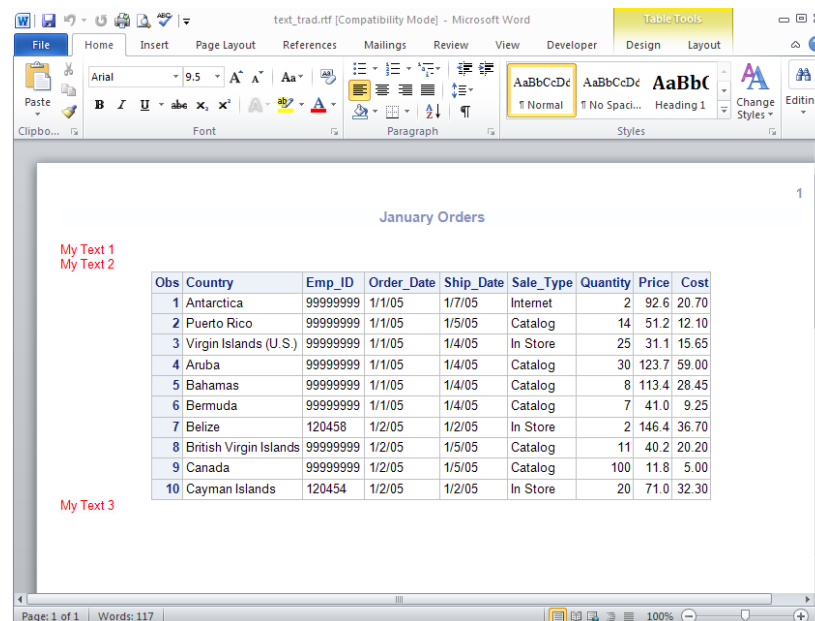
January Orders

My Text 1
My Text 2

Obs	Country	Emp_ID	Order_Date	Ship_Date	Sale_Type	Quantity	Price	Cost
1	Antarctica	99999999	1/1/05	1/7/05	Internet	2	92.6	20.70
2	Puerto Rico	99999999	1/1/05	1/5/05	Catalog	14	51.2	12.10
3	Virgin Islands (U.S.)	99999999	1/1/05	1/4/05	In Store	25	31.1	15.65
4	Aruba	99999999	1/1/05	1/4/05	Catalog	30	123.7	59.00
5	Bahamas	99999999	1/1/05	1/4/05	Catalog	8	113.4	28.45
6	Bermuda	99999999	1/1/05	1/4/05	Catalog	7	41.0	9.25
7	Belize	120458	1/2/05	1/2/05	In Store	2	146.4	36.70
8	British Virgin Islands	99999999	1/2/05	1/5/05	Catalog	11	40.2	20.20
9	Canada	99999999	1/2/05	1/5/05	Catalog	100	11.8	5.00
10	Cayman Islands	120454	1/2/05	1/2/05	In Store	20	71.0	32.30

My Text 3

Output 6.37 テキストが追加された従来の RTF 出力



ODS TRACE ステートメント

作成した各出力オブジェクトのレコードを SAS ログに書き込むか、レコードの書き込みを非表示にします。

- Valid in:** 任意の場所
- Category:** ODS: 出力制御
- Default:** OFF
- Example:** “例 3: MATCH_ALL オプションを使用した/使用しないデータセットの作成” on page 465

Syntax

ODS TRACE ON </オプション>;

ODS TRACE OFF;

Required Arguments

OFF

トレースレコードの書き込みをオフにします。

Alias: NO

ON

トレースレコードの書き込みをオンにします。

Aliases:

OUTPUT

YES

Optional Arguments

EXCLUDED

トレースレコードには、除外された出力オブジェクトが含まれます。

Example: “例 2: 出力オブジェクトの条件付きの選択” on page 609

LABEL

レコードには、出力オブジェクトのラベルパスが含まれます。パスが使える場所ではどこでも、ラベルパスが使えます。

Tip: ラベルが英語からローカライズされているため、このオプションは、SAS のローカライズバージョンを使うユーザーに役立ちます。出力オブジェクトの名前とパスは、それらが ODS 構文の一部であるため、翻訳しません。

LISTING

トレースレコードの各部分が、記入する出力オブジェクトより先行できるように、リスト出力先へトレースレコードを書き込みます。

Details

トレースレコードのコンテンツ

ODS は、表定義を使用してデータコンポーネントからデータを組合せて、出力オブジェクトを作ります。トレースレコードはデータコンポーネント、表定義 および出力オブジェクトに関する情報を提供します。デフォルトで、ODS TRACE ステートメントが作ったレコードに、これらのアイテムが含まれます。

名前

出力オブジェクトの名前です。同じ名前で、この出力オブジェクトおよびその他を参照するのに使用できます。出力オブジェクトの参照方法の詳細については、“ODS による出力オブジェクトの出力先の設定法” on page 50 を参照してください。たとえば、出力オブジェクトからデータセットを作成するために、ODS OUTPUT ステートメントにおいてこの名前を使用できます。また、この名前を ODS SELECT あるいは ODS EXCLUDE ステートメントにおいても使用できます。

TIP 名前は、トレースレコードに 現れるパスの右端の部分です。

ラベル

出力オブジェクトのコンテンツを簡潔に説明します。このラベルは、結果ウィンドウの出力オブジェクトも識別します。

データ名

この出力オブジェクトを作成するのに使用したデータコンポーネントの名前です。データ名 出力オブジェクト名と異なった場合のみ現れます。

データラベル

データのコンテンツを記述しています。

テンプレート

ODS が出力オブジェクトをフォーマットするために使用する表定義の名前です。この定義は、PROC TEMPLATE を使用して修正できます。詳細については、“EDIT Statement” on page 1111 を参照してください。

パス

出力オブジェクトのパスです。この出力オブジェクトを参照するために、パスを使用できます。たとえば、出力からデータセットを作成するために、ODS OUTPUT ステートメントのパスを使用できます。また、ODS SELECT あるいは ODS EXCLUDE ステートメントのパスも使用できます。

LABEL オプションは、レコードのオブジェクト用のパスを含むので、トレースレコードを修正します。オプション LABEL on page 697 の検討項目を参照してください。

出力オブジェクトの指定

SAS プログラムがどの出力オブジェクトを作成するかを決定した後は、ODS EXCLUDE、ODS SELECT などのようなステートメントにおいて、出力オブジェクトを指定できます。出力オブジェクトは、次のいずれかの形式で指定できます。

- 完全パス。出力オブジェクトの完全パスの例を次に示します。

```
Univariate.City_Pop_90.TestsForLocation
```

- 部分パス。部分パスは、ピリオド(.)の直後に始まり、完全パスの最後まで続く、完全パスの一部です。たとえば、完全パスが次のとおりだとすると、

```
Univariate.City_Pop_90.TestsForLocation
```

部分パスは 次のようになります。

```
City_Pop_90.TestsForLocation
TestsForLocation
```

- 引用符で囲まれるラベルです。例:

```
"The UNIVARIATE Procedure"
```

- ラベルパス。例えば、出力オブジェクトのラベルパスは次のようになります。

```
"The UNIVARIATE Procedure"."CityPop_90"."Tests For Location"
```

Note: トレースレコードでラベルパスが表示されるのは、ODS TRACE ステートメントで LABEL オプションを指定した場合に限ります。

- 部分ラベルパス。部分ラベルパスは、ピリオド(.)の直後から始まり、ラベルの最後まで続く、ラベルの一部です。たとえば、ラベルパスが次のとおりだとすると、

```
"The UNIVARIATE Procedure"."CityPop_90"."Tests For Location"
```

部分ラベルパスは次のようになります。

```
"CityPop_90"."Tests For Location"
"Tests For Location"
```

- ラベルとパスの組み合わせ。
- 任意の部分パスの指定の次にポンド記号(#)と数字を指定します。たとえば、TestsForLocation#3 は名前が TestsForLocation の 3 番目の出力オブジェクトを示します。

Example: 手続きによってどの出力オブジェクトを作成するかを決定

Features:

```
ODS TRACE ステートメント
  LABEL
  OFF
  ON
```

Other features:

```
PROC UNIVARIATE
```

Data set:

```
StatePop
```

詳細

この例は、手続きによって出力オブジェクトの名前とラベルを決定する方法を示します。出力オブジェクトを選択および除外するには、この情報を使用できます。

プログラム

```
ods trace on / label;

proc univariate data=statepop mu0=3.5;
var citypop_90 citypop_80;
run;

ods trace off;
```

Program Description

SAS が SAS ログにトレースレコードを書き込み、ラベルパスを含むように指定します。 この ODS TRACE ステートメントがトレース記録を SAS ログに書き込みます。LABEL オプションは、トレースレコードにラベルパスを含めます。

```
ods trace on / label;
```

2 つの変数を持つ記述統計を計算します。 PROC UNIVARIATE は、CityPop_80 および CityPop_90 という 2 つの変数を持つ記述統計を計算します。PROC UNIVARIATE が各出力オブジェクトを ODS に送信すると、ODS はトレースレコードにその出力オブジェクトの適切な情報を書き込みます。

```
proc univariate data=statepop mu0=3.5;
var citypop_90 citypop_80;
run;
```

SAS がトレースレコードの書き込みを停止するように指定します。 ODS TRACE OFF ステートメントは、SAS ログへのトレースレコードの書き込みを停止します。

```
ods trace off;
```

SAS ログ

この部分 SAS ログは、ODS TRACE ステートメントが作成するトレースレコードを表示します。各分析変数として、PROC UNIVARIATE は 5 つの出力オブジェクトを作成します。Moments、BasicMeasures、TestsForLocation、Quantiles、ExtremeObs。1 つの出力オブジェクトは、どの変数が分析されても、同じ名前とラベルを持つことに注意してください。したがって、PROC UNIVARIATE が ODS SELECT ステートメントの名前とラベルを使用して作り出すあらゆるモーメント表を選択できます。パスとラベルパスは、分析される変数の名前を含むため、それぞれの出力オブジェクトに固有のものです。したがって、ODS SELECT ステートメントのパスとラベルパスを使用して、個々のモーメント表を選択できます。

```
Output Added:
-----
Name: Moments
Label: Moments
Template: base.univariate.Moments
Path: Univariate.CityPop_90.Moments
Label Path: "The Univariate Procedure"."CityPop_90"."Moments"
-----
Output Added:
-----
Name: BasicMeasures
Label: Basic Measures of Location and Variability
Template: base.univariate.Measures
Path: Univariate.CityPop_90.BasicMeasures
Label Path: "The Univariate Procedure"."CityPop_90"."Basic Measures of Location
and Variability"
-----
Output Added:
-----
Name: TestsForLocation
Label: Tests For Location
Template: base.univariate.Location
Path: Univariate.CityPop_90.TestsForLocation
Label Path: "The Univariate Procedure"."CityPop_90"."Tests For Location"
-----
Output Added:
-----
Name: Quantiles
Label: Quantiles
Template: base.univariate.Quantiles
Path: Univariate.CityPop_90.Quantiles
Label Path: "The Univariate Procedure"."CityPop_90"."Quantiles"
-----
Output Added:
-----
Name: ExtremeObs
Label: Extreme Observations
Template: base.univariate.ExtObs
Path: Univariate.CityPop_90.ExtremeObs
Label Path: "The Univariate Procedure"."CityPop_90"."Extreme Observations"
-----
```



```

Output Added:
-----
Name: Moments
Label: Moments
Template: base.univariate.Moments
Path: Univariate.CityPop_80.Moments
Label Path: "The Univariate Procedure"."CityPop_80"."Moments"
-----
Output Added:
-----
Name: BasicMeasures
Label: Basic Measures of Location and Variability
Template: base.univariate.Measures
Path: Univariate.CityPop_80.BasicMeasures
Label Path: "The Univariate Procedure"."CityPop_80"."Basic Measures of Location
and Variability"
-----
Output Added:
-----
Name: TestsForLocation
Label: Tests For Location
Template: base.univariate.Location
Path: Univariate.CityPop_80.TestsForLocation
Label Path: "The Univariate Procedure"."CityPop_80"."Tests For Location"
-----
Output Added:
-----
Name: Quantiles
Label: Quantiles
Template: base.univariate.Quantiles
Path: Univariate.CityPop_80.Quantiles
Label Path: "The Univariate Procedure"."CityPop_80"."Quantiles"
-----
Output Added:
-----
Name: ExtremeObs
Label: Extreme Observations
Template: base.univariate.ExtObs
Path: Univariate.CityPop_80.ExtremeObs
Label Path: "The Univariate Procedure"."CityPop_80"."Extreme Observations"
-----

```

See Also

ステートメント

- [“ODS EXCLUDE ステートメント” on page 232](#)
- [“ODS SELECT ステートメント” on page 598](#)

ODS USEGOPT ステートメント

ODS で従来の SAS/GRAPH オプション設定を使用するかどうかを決定します。

該当要素: 任意の場所

カテゴリ: ODS: 出力制御

制限事項: ODS USEGOPTS オプションは、ODS グラフ機能または ODS グラフステートメントのいずれかの結果として作成されたグラフには影響しません。

ODS USEGOPTS オプションは、テーブルのコンテンツではなく、テーブルのタイトルおよび脚注のみに影響します。

参照項目: SAS/GRAPH: Reference

構文

ODS USEGOPT | NOUSEGOPT;

必須引数

ODS USEGOPT

ODS では、ノングラフィカル出力のため従来の SAS/GRAPH オプション設定を使用していることを指定します。

ODS NOUSEGOPT

ODS では、ノングラフィカル出力のため従来の SAS/GRAPH オプション設定を使用していないことを指定します。

詳細

従来の SAS/GRAPH グラフオプションの有効化

ODS USEGOPT が有効な間、次のグラフオプションの設定によってすべての ODS 出力(テーブルも含む)が影響をうけます。

- CTEXT=
- CTITLE=
- FTITLE=
- FTEXT=
- HTEXT=
- HTITLE=

ODS NOUSEGOPT が有効な間、次のグラフオプションの設定によって、ODS 出力でのタイトルおよび脚注用のスタイル定義の値がオーバーライドされません。

例: グラフオプションの有効化/無効化

要素:

ODS HTML ステートメントオプション:

FILE=

ODS LISTING ステートメントアクション:

CLOSE

ODS NOUSEGOPT ステートメント

ODS USEGOPT ステートメント

他の要素:

GOPTIONS ステートメント:

FCTEXT=

FTITLE=

HTEXT=

PROC PRINT

TITLE ステートメント

データセット:

[Exprev](#)

詳細

次の例では 2 つの HTML レポートが作成されています。1 つは ODS USEGOPT ステートメントを使用して有効化された GOPTION を有するもので、もう 1 つは ODS NOUSEGOPT ステートメントを使用して無効化された GOPTIONS を有するものです。

プログラム

```
options reset=all htext=2 ftitle=script ftext=script;

ods usegopt;

ods html file='opts.html';
title 'This Title Was Created With the USEGOPT Option Specified ' ;
title2 'The Graphics Option Settings are Turned On';
proc print data=exprev(obs=2);
run;

ods nousegopt;

title 'This Title Was Created With the NOUSEGOPT Option Specified' ;
title2 'The Graphics Option Settings are Turned Off';
proc print data=exprev (obs=2) ;
run;
```

プログラムの説明

GOPTIONS を指定します。 RESET=ALL オプションでは、すべてのグラフオプションがデフォルト値に設定され、すべてのグローバルステートメントがキャンセルされます。HTEXT=オプションは、タイトルと脚注のテキストの高さを 2 つの単位であることを指定します。FTITLE=オプションはタイトルと脚注のフォントを指定します。FTEXT オプションはテキストのフォントを指定します。

```
options reset=all htext=2 ftitle=script ftext=script;
```

グラフオプションを有効化します。 USEGOPT が有効な場合、HTEXT=グラフオプションおよび CTEXT=グラフオプションの設定によって、スタイル定義のタイトルおよび脚注について指定された値がオーバーライドされます。

```
ods usegopt;
```

HTML 出力を作成し、タイトルを指定し、データセットを印刷します。 ODS HTML ステートメントによって HTML 出力先が開かれ、HTML 出力が作成されます。PROC PRINT の出力は FILE=オプションによって指定されたボディファイルに送られます。TITLE ステートメントは出力のタイトルを指定します。PRINT プロシジャは SAS データセットの Exprev を印刷します。OBS=オプションは、印刷対象となる 2 つのオブザベーションを指定します。

```
ods html file='opts.html';
title 'This Title Was Created With the USEGOPT Option Specified ' ;
title2 'The Graphics Option Settings are Turned On';
proc print data=exprev(obs=2);
run;
```

グラフオプションを無効化します。 NOUSEGOPT ステートメントは、出力に対して、HTEXT=グラフオプションおよび CTEXT=グラフオプション設定の使用を非表示にします。

```
ods nousegopt;
```

HTML 出力を作成し、タイトルを指定し、データセットを印刷します。ODS HTML ステートメントによって HTML 出力先が開かれ、HTML 出力が作成されます。PROC PRINT の出力は FILE=オプションによって指定されたボディファイルに送られます。TITLE ステートメントは出力のタイトルを指定します。PRINT プロシジャが、SAS データセットの Exprev を印刷します。OBS=オプションは、印刷対象となる 2 つのオブザベーションを指定します。

```
title 'This Title Was Created With the NOUSEGOPT Option Specified' ;
title2 'The Graphics Option Settings are Turned Off';
proc print data=exprev (obs=2) ;
run;
```

HTML 出力

次の例では、GOPTIONS ステートメントの FTITLE、FTEXT および HTEXT オプションによって、1 番目のテーブルのタイトルの高さおよびフォントが指定されています。2 番目のテーブルのタイトルの高さおよびフォントは、デフォルトのスタイル定義によって指定されています。

*This Title Was Created With the NOUSEGOPT Option Specified
The Graphics Option Settings are Turned On*

Obs	Country	Emp_ID	Order_Date	Ship_Date	Sale_Type	Quantity	Price	Cost
1	Antarctica	99999999	1/1/05	1/7/05	Internet	2	92.6	20.7
2	Puerto Rico	99999999	1/1/05	1/5/05	Catalog	14	51.2	12.1

**This Title Was Created With the NOUSEGOPT Option Specified
The Graphics Option Settings are Turned Off**

Obs	Country	Emp_ID	Order_Date	Ship_Date	Sale_Type	Quantity	Price	Cost
1	Antarctica	99999999	1/1/05	1/7/05	Internet	2	92.6	20.7
2	Puerto Rico	99999999	1/1/05	1/5/05	Catalog	14	51.2	12.1

ODS VERIFY ステートメント

スタイル定義または使用されている表の定義が SAS により提供されていないことを示すメッセージを印刷または非表示にします。

該当要素: 任意の場所

カテゴリ: ODS: 出力制御 I

- デフォルト:** ODS VERIFY ステートメントを指定しない場合、ODS は、確認プロセスをオフにした状態で実行されます。ODS VERIFY ステートメントを指定し、引数を指定しない場合、ODS は、確認をオンにした状態で実行されます。
- 参照項目:** 定義を無視する方法の詳細については、“[ODS PATH ステートメント](#)” (477 ページ)を参照してください。

構文

ODS VERIFY <ON | OFF | ERROR | WARN>;

オプション引数

ON

警告を印刷して、開かれた出力先に出カオブジェクトを送信します。

別名:

ODS VERIFY

YES

OFF

警告を非表示にします。

別名:

ODS NOVERIFY

NO

ERROR

警告メッセージではなく、エラーメッセージを印刷し、開かれた出力先に出カオブジェクトを送信しません。

WARN

警告メッセージを印刷し、開かれた出力先に出カオブジェクトを送信しません。

詳細

ODS VERIFY ステートメントの使用方法

PROC TEMPLATE は、出カオブジェクトの値を変更できます。SAS の定義による値の変更はありません。ODS VERIFY ステートメントから警告が表示された場合、ソースコードを参照して値が変更されていないことを確認してください。

ODS WML ステートメント

簡単なリストを目次とした Wireless Markup Language (WML)DTD を作成するために、Wireless Application Protocol (WAP)を使用する WML 出力先に対して、開く、管理するまたは閉じる処理を行います。

該当要素: 任意の場所

カテゴリ: ODS: サードパーティフォーマット

構文

ODS WML <(<ID=> 識別子)> アクション;

ODS WML <(<ID=> 識別子) <オプション>;

オプション引数の要約

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送ります。

(ID= *identifier*)

同時に同出力先の複数のインスタンスを開いてください。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定してください。

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定してください。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入してください。

(URL= '*Uniform-Resource-Locator*')

URL として *file-specification* の URL を指定してください。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます。

ANCHOR= '*anchor-name*'

現行のボディファイルの各出力オブジェクトを識別するアンカータグに最適な独自のベース名を指定してください。

ARCHIVE='string'

ODS HTML 出力を閲覧するために使用するアプレットを指定してください。

ATTRIBUTES= (*attribute-pair-1 ... attribute-pair-n*)

動的なグラフィックス出力を生成するタグの間に書き込む属性を指定します。

BASE= '*base-text*'

すべてのリンクの最初の部分として使用するテキストおよび出力ファイルにおいて ODS が作成したリファレンスを指定してください。

BODY= '*file-specification*' (サブオプション)

マークアップファミリーの出力先を開き、ODS ステートメントにより作成された主な出力を含むファイルを指定してください。

CHARSET= *character-set*

HTML 出力用の META 宣言で生成される文字セットを指定してください。

CLOSE

出力先およびそれに関連するファイルを終了してください。

CODE= '*file-specification*' <(サブオプション)>

HTML 出力先を開き、関連するスタイル情報を含むファイルを指定してください。

CODEBASE='string'

GOPTIONS デバイスが使用可能なファイルパスを作成してください。

CONTENTS= '*file-specification*' <(サブオプション)>

HTML 出力先を開き、出力用の目次を含むファイルを指定してください。

CSSSTYLE= '*file-specification*' <(media-type-1<...media-type-10)>>

出力に適用するカスケードスタイルシートを指定してください。

ENCODING= *local-character-set-encoding*

入力用のエンコーディングまたは、外部ファイルの出力処理(トランスコード)をオーバーライドしてください。

EVENT=*event-name* (FILE= | FINISH | LABEL= | NAME= | START | STYLE= | TARGET= | TEXT= | URL=)
 イベントおよびイベントに関連するイベント変数用の値を指定してください。

EXCLUDE 除外 | ALL | NONE
 出力先から出力オブジェクトを除外してください。

FRAME= '*file-specification*' <(サブオプション)>
 目次、ページコンテンツ、およびボディファイルを統合するファイルを指定してください。

GFOOTNOTE | NOGFOOTNOTE
 グラフィックス出力においてフットノートがプリントされるロケーションを制御してください。

GPATH= '*aggregate-file-storage-specification*' | [ファイル参照](#) | [libref.catalog](#) (URL= '*Uniform-Resource-Locator*' | NONE)
 出力先が開いている間に生成されたすべてのグラフィックス出力のロケーションを指定してください。

GTITLE | NOGTITLE
 グラフィック出力のタイトルがプリントされているロケーションを制御してください。

HEADTEXT= '*markup-document-head*'
 出力先が書き込むすべてのファイルのタグ< HEAD> および </HEAD> の間に配置する HTML タグを指定してください。

METATEXT= '*metatext-for-document-head*'
 <META><>の間、HEAD>HEAD>および<HEAD>出力先が書き込む先のすべてのファイルのタグとして使用する HTML コードを指定してください。

NEWFILE= *starting-point*
 新しいボディファイルを指定された開始点に作成してください。

OPTIONS (DOC= | <サブオプション>)
 tagset-specific サブオプションおよび名付けられた値を指定してください。

PACKAGE <*package-name*>
 出力先からの出力を ODS パッケージに追加することを指定してください。

PAGE= '*file-specification*' <(サブオプション)>
 HTML 出力先を開き、ボディファイルの各ページの説明およびボディファイルへのリンクを含むファイルを指定してください。

PARAMETERS= (*parameter-pair-1* ... *parameter-pair-n*)
 動的グラフィックス出力を生成するタグの間に指定されたパラメータを書き込んでください。

PATH= '*aggregate-file-storage-specification*' | [ファイル参照](#) | [libref.catalog](#) (URL= '*Uniform-Resource-Locator*' | NONE)
 累積保管場所のロケーションまたはすべてのマークアップファイル用の SAS カタログを指定してください。

RECORD_SEPARATOR= '*alternative-separator*' | NONE
 出力ファイルのラインを分離するために代替の文字または文字列を指定してください。

SELECT 選択 | ALL | NONE
 出力先用に出力オブジェクトを選択してください。

SHOW
 SAS ログに出力先用の現在の選択または除外リストを書き込んでください。

STYLE= *style-definition*
 出力ファイルを書く場合に使用するスタイル定義を指定してください。

STYLESHEET= '*file-specification*' <(サブオプション)>

HTML の出力先を開き、出力用のスタイル情報を外部ファイルに配置、または既存のファイルからスタイルシート of 情報を読み込んでください。

TEXT=*text-string*

文書にテキストを挿入してください。

TRANSTAB= '*translation-table*'

出力用のファイルをトランスコーディングする際に変換表を指定してください。

引数なし

アクションやオプションを含まない ODS WML ステートメントを使用した場合、ODS WML ステートメントによって WML 出力先が開かれ、WML 出力が作成されます。

アクション

ODS WML ステートメントでは、次のアクションが利用可能です。

CLOSE

出力先およびそれに関連するファイルを終了します。プリンタの出力先の場合、出力先を終了するまでファイルをプリントできません。

ヒント: ODS 出力先が終了した場合、ODS は、その出力先に出力を送りません。不要な出力先を終了することで、システムリソースの節減します。

EXCLUDE *除外* | ALL | NONE

出力先から1つまたはそれ以上の出力オブジェクトを除外します。

デフォルト: NONE

制限事項: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

参照項目: “ODS EXCLUDE ステートメント” (232 ページ)

SELECT *選択* | ALL | NONE

指定された出力先用に出力オブジェクトを選択します。

デフォルト: ALL

制限事項: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

参照項目: “ODS SELECT ステートメント” (598 ページ)

SHOW

SAS ログに出力先用の現行の選択または除外リストを書き込みます。

制限事項: この操作を実行するには、出力先が開かれていなければなりません。

ヒント: 選択または除外リストがデフォルトのリスト(SELECT ALL)である場合、SHOW は、全体の選択または除外リストも書きます。選択または除外リストに関する詳細は、を “[選択リストと除外リスト](#)” (49 ページ)参照してください。

参照項目: “ODS SHOW ステートメント” (614 ページ)

オプション引数

ステートメントのマークアップファミリの一部である ODS WML ステートメントで、次のオプションが利用可能です。

ANCHOR= '*anchor-name*'

現行のボディファイルの各出力オブジェクトを識別するアンカータグに最適な独自のベース名を指定します。

各出力オブジェクトは、参照するためにコンテンツ、ページ、およびフレームファイル用にアンカータグを持ちます。ODS により自動的に作成されたリンクとレファレンスは、アンカー名を指します。そのため、ファイルの各アンカー名は、固有名でなければなりません。

anchor-name

現行の ボディファイルにおいて、各出力オブジェクトを識別するアンカータグのベース名です。

ODS は、指定した名称をインクリメントすることで独自のアンカー名を作成します。例えば、ANCHOR='TABULATE'を指定した場合、ODS は最初のアンカーに `tabulate` と名前を付けます。2番目のアンカー名が `tabulate1` で、3番目が `tabulate2`、と名称が続きます。

制限事項: ファイルのアンカー名は、ユニークでなければなりません。

要件 引用符で *anchor-name* を囲まなければなりません。

操作: 追加するためにファイルを開いた場合、ファイルに再度同じアンカーを書き込むことを防ぐために、新しいアンカー名を必ず指定してください。ODS は、ファイルを開いた際に、既にファイルに存在するアンカーは、識別しません。

ヒント:

プログラムのどこかにマークアップファミリーの ANCHOR=オプションを指定することで、アンカー名を変更できます。アンカー名を指定した後に、新しいものを指定するまで有効になります。

プログラムのさまざまなポイントに新しいアンカー名を指定することで、他のウェブページをマークアップ言語の出力の特定の箇所にリンクできるようになります。アンカー名が変更された箇所を制御できるため、それらのポイントにおけるアンカー名を事前に知ることができます。

ARCHIVE='string'

ODS HTML 出力を閲覧するために使用するアプレットを指定します。

ARCHIVE= オプションは、GOPTIONS java デバイス用にのみ有効です。

文字列は、ブラウザが認識できるものでなければなりません。例えば、アーカイブファイルが SAS で実行中のコンピューターに対してローカルな場合、ファイルを識別するために FILE プロトコルを使用できます。Web サーバーのアーカイブファイルを指したい場合、HTTP プロトコルを使用してください。

デフォルト: ARCHIVE=を指定せず、JAVA デバイスドライバを使用している場合、

ODS は SAS システムオプションの値である APPLETOC=を使用します。

ACTIVEX デバイスドライバを使用している場合、デフォルトはありません。

要件:

引用符で *string* を囲まなければなりません。

ARCHIVE 属性は、Java 1.1 の機能です。そのため Java デバイスドライバを使用している場合、ブラウザは、この Java バージョンをサポートしていなければなりません。Internet Explorer 4.01 と Netscape 4.05 の両方が、Java 1.1 をサポートします。

操作: ARCHIVE= を SAS/GRAPH プロシジャと共に使用し、GOPTIONS ステートメントにおいて DEVICE=JAVA または DEVICE=ACTIVEX オプションを使用してください。

ヒント:

ODS HTML 出力を閲覧するための SAS/GRAPH アプレットを SAS サーバーが、自動的に判断するため、このオプションを通常使用してはいけません。しかし JAR ファイルの名称を変更した場合、または ODS HTML 出力を閲覧するためのその他のアプレットを有する場合、このオプションはこれらのアプレットにアクセス可能にします。

ファイルパスを指定するために、CODEBASE= オプションを使用してください。ARCHIVE= オプションにファイルパスを置かないことが推奨されます。

APPLETOC= の値は、SAS システムと一緒に送られる Java アーカイブのローケーションを指します。オプションの値を知るために、Environment Control の

下の Files フォルダの **Options** ウィンドウを参照するか、次のプロシジャステップを発行できます。

```
proc options option=appletloc;
run;
```

ATTRIBUTES= (attribute-pair-1 ... attribute-pair-n)

動的なグラフィックス出力を生成するタグの間に指定された属性を書き込みます。

attribute-pair

各属性の名称および値を指定します。*attribute-pair* は、次のフォームを有します。

```
'attribute-name'='attribute-value'
```

attribute-name

属性の名称です。

attribute-value

属性の値です。

要件 引用符で *attribute-name* と *attribute-value* を囲まなければなりません。

操作: ATTRIBUTES=オプションを SAS/GRAPH プロシジャ および GOPTIONS ステートメントの DEVICE=JAVA、JAVAMETA、または ACTIVEX オプションと一緒に使用してください。

参照項目: *SAS/GRAPH: Reference* グラフアプレット、マップアプレット、コンターアプレット、および MetaView アプレット用の有効な属性

BASE= 'base-text'

すべてのリンクの最初の部分として使用するテキストおよび出力ファイルにおいて ODS が作成したレファレンスを指定します。

base-text

ODS が、すべてのリンクの最初の部分として使用するテキストおよびファイルにおいて ODS が作成したレファレンスです。

次の仕様を考慮してください。

```
BASE= 'http://www.your-company.com/local-url/'
```

この場合、ODS は、`http://www.your-company.com/local-url/`文字列で始まるリンクを作成します。適切な *anchor-name* でリンクが完成します。

要件 引用符で *base-text* を囲まなければなりません。

BODY= 'file-specification' (サブオプション)

マークアップファミリーの出力先を開き ODS ステートメントにより作成された主な出力を含むファイルを指定してください。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態になります。。

- *ODS markup-family-destination* CLOSE ステートメントまたは ODS _ALL_ CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーステートメントを使用して、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照、または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

external-file

書き込み先の外部ファイルの名称です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

制限事項: BODY=ファイル参照オプションは、NEWFILE= オプションと一緒に使用することはできません。

参照項目: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)を参照してください。

エンタリー。マークアップ

書き込み先の SAS カタログのエンタリーを指定します。

操作: エンタリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

(サブオプション)

カッコ内に1つまたはそれ以上のサブオプションを指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次のようになります。

(DYNAMIC)

ファイルに書き込むのではなく、出力をウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE で [CONTENTTYPE= \(987 ページ\)](#)を参照してください。

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を、括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を 括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加する場合、動作環境に対して適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_BOTTOM_MATTER サブオプションは、NO_TOP_MATTER サブオプションを伴うことで、既存のファイルに出力を追加することを可能にし、ファイルの出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置できます。

ODS が、過去に書き込んだファイルを開く場合、アンカー用に新しいベース名を指定するために ANCHOR= オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、マークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの先頭にどのような開始マークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

The NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR= オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE= を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されません。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

要件:

括弧で URL= 'Uniform-Resource-Locator' を囲まなければなりません。

引用符で Uniform-Resource-Locator を囲まなければなりません。

URL= 'Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをレファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

別名: FILE=

操作: ODS マークアップの出力先に言及する ODS マークアップファミリーステートメントの BODY= オプションを使用することにより、ODS に出力先および関連するすべてのファイルを終了した後、出力先の新しいインスタンスを開くことを強制します。詳細は、“MARKUP 出力先を開く/閉じる” (438 ページ) を参照してください。

注: いくつかの TAGSET= の値に対して、出力は HTML ファイルで、他の TAGSET= の値に対して、出力は XML ファイルなどになります。

CHARSET= *character-set*

HTML 出力用の META 宣言で生成される文字セットを指定します。

参照項目: 詳細は、“CHARSET=オプション” (*SAS 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド*) を参照してください。

CODE= 'file-specification' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、XSL (Extensible Stylesheet Language) 等の関連するスタイル情報を含むファイルを指定します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります。

- ODS *markup-family-destination* CLOSE ステートメント または ODS *_ALL_* CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

参照項目: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS ステートメント: リファレンス*) を参照してください。

entrymarkup

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

操作: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論も参照してください。

サブオプション

1つまたはそれ以上のサブオプション を括弧で指定します。サブオプション は、出力ファイルを書くための指示です。サブオプション は、次のようになります。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE= スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の [CONTENTTYPE= \(987 ページ\)](#) を参照してください。

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、マークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR= オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されません。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

要件:

括弧で URL='Uniform-Resource-Locator'を囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator'は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをレファレンスしないため、FRAME=オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

CODEBASE='string'

実行可能な Java アプレットまたは、ActiveX コントロールファイルのロケーションを指定します。*string* は、パス名または URL を指定します。使用される GOPTIONS により、CODEBASE ファイルパスには、2つの出力先があります。

JAVA および ActiveX デバイスドライバでウェブプレゼンテーションを生成した場合に、SAS は、JAVA アーカイブファイルを自動的に検索する HTML ページまたは、デフォルトインストールロケーションに ActiveX コントロールファイルを生成しません。

ActiveX デバイス用

ActiveX コントロールを含む出力を生成する際に ODS を伴う ActiveX デバイスドライバを使用する場合、ODS の CODEBASE= オプションを指定してください。CODEBASE=オプションの値は、ロケーションおよび EXE ファイルのバージョンを含むべきです。

ヒント: 出力を閲覧するユーザーがマシンに ActiveX コントロールをインストールしていない場合を除き DEVICE=ACTIVEX オプションで CODEBASE=オプションを指定する必要はありません。コントロールをインストールしていないユーザーが出力を閲覧する場合、コントロールをダウンロードすることを促されます。

参照項目: SAS/GRAPH: Reference CODEBASE= および ARCHIVE=オプションを使用したコントロールおよびアプレットのロケーションの指定に関する詳細は、次を参照してください。

Java デバイス用

SAS/GRAPH アプレットを含む出力を生成するために、デバイスドライバを使用する場合、ODS ステートメントの CODEBASE= オプションを使用して JAR ファイルへのパスを指定してください。

DEVICE=JAVA を指定した場合、出力を閲覧するユーザーは、適切な Java アプレットにアクセスを有する必要があります。SAS は、デフォルトで、SAS により自動的にインストールされたアプレット用の実行可能ファイルに言及するために、CODEBASE= 値を設定します。SAS Java アーカイブファイルのデフォルトのロケーションは、APPLETLOC= システムオプションにより指定されています。次の両条件を満たしている場合、CODEBASE=オプションを指定する必要はありません。

- デフォルトのロケーションは、ウェブプレゼンテーションを閲覧するユーザーにより、アクセス可能です。
- SAS Java アーカイブは、そのロケーションにインストールされています。

ヒント: JAR ファイルのディレクトリのみ指定してください。CODEBASE=ロケーションは、パス名または URL として指定できます。

参照項目: SAS/GRAPH: Reference CODEBASE= および ARCHIVE= オプションを使用したコントロールおよびアプレットファイルのロケーションの指定に関する詳細は、次を参照してください。

CONTENTS= 'file-specification' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、出力用の目次を含むファイルを指定します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります。:

- ODS *markup-family-destination* CLOSE ステートメント または ODS *_ALL_* CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイル参照です。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメント を使用してください。

参照項目: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS* ステートメント: リファレンス)を参照してください。

entry.markup

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

操作: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

サブオプション

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次のようになります。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。この設定は、CONTENTTYPE= スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の [CONTENTTYPE= \(987 ページ\)](#) を参照してください。

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣、あるいは、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR= オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されません。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

要件:

URL='Uniform-Resource-Locator'を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

CSSSTYLE='file-specification'<(media-type-1<...media-type-10)>>

出力に適用するカスケードスタイルシートを指定します。

file-specification

CSS コードを含むファイル、ファイル参照、または、URL を指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

"external-file"

外部ファイルの名称です。

要件 括弧で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルリファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

参照項目: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS* ステートメント: リファレンス)を参照してください。

"URL"

外部ファイルへの URL です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

(*media-type-1*< *media-type-10*>)

出力にレンダリングされるメディアの種類に対応する1つまたはそれ以上のメディアブロックを指定します。文書が、スクリーン、紙、スピーチシンセサイザー、点字装置、等々の異なるメディアにどのように提示されるか指定するために、CSS は、メディアタイプを使用します。

メディアブロックは、いかなるメディアブロックに含まれていないCSSコードを伴い出力に追加されます。*media-type* サブオプションを使用することで一般のCSSコードを伴い、特定のメディアタイプを対象とするCSSファイルの項目をインポートできます。

デフォルト: ODS ステートメントにいかなる *media-type* が指定されていないが、CSSファイルにメディアタイプが指定されている場合、ODSは、Screenメディアタイプを使用します。

範囲: 異なる10個のメディアタイプを指定できます。

要件:

括弧で *media-type* を囲まなければなりません。

CSSSTYLE= オプションで指定された *file-specification* の隣に、*media-type* を指定しなければなりません。

ヒント: 複数のメディアタイプを指定した場合、出力にすべてのメディアタイプのすべてのスタイル情報が適用されます。しかし、異なるメディアブロックにおいて重複するスタイル情報が存在する場合、最後のメディアブロックのスタイルが使用されます。

制限事項: CSSSTYLE= オプションは、SAS/GRAPH 出力に影響を与えません。

要件 CSSファイルは、ODS HTML ステートメントにより作成されたCSSと同じ種類で書き込まなければなりません。ID や文脈ベースのセレクターの無いクラス名のみがサポートされます。ODSが作成するCSSコードを閲覧するには、次の内の1つを行ってください。

- STYLESHEET= オプションを指定してください。
- HTMLファイルのソースを閲覧して、ファイルの上部の <STYLE> </STYLE> タグの間のソースを閲覧してください。

有効なODS CSSファイルの例は、“[例 6: ODS 出力へ CSS ファイルの適用](#)” (448 ページ)を参照してください。

操作: STYLE= オプションおよび CSSSTYLE= オプションの両方が、ODS ステートメントに指定されている場合、最後に指定されたオプションが使用されます。

例: “[例 6: ODS 出力へ CSS ファイルの適用](#)” (448 ページ)

ENCODING= *local-character-set-encoding*

入力用のエンコーディングまたは、外部ファイルの出力処理(トランスコード)をオーバーライドします。

参照項目: ENCODING= オプションに関する詳細は、“ENCODING システムオプション: UNIX、Windows、および z/OS” (*SAS 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド*)次を参照してください。

EVENT=*event-name* (FILE= | FINISH | LABEL= | NAME= | START | STYLE= | TARGET= | TEXT= | URL=)

イベントおよびイベントに関連するイベント変数用の値を指定します。

(FILE= BODY | CODE | CONTENTS | DATA | FRAME | PAGES | STYLESHEET);

BODY=、CODE=、CONTENTS=、FRAME=、PAGES=、および STYLESHEET= オプションに対応する出力ファイルの既知の種類の内1つをトリガーします。

(FINISH)

イベントの終了項目をトリガーします。

参照項目: 詳細は、“[イベントについて](#)” (1167 ページ)を参照してください。

(LABEL=*'variable-value'*)

LABEL イベント変数用の値を指定します。

要件 *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

参照項目: LABEL イベント変数に関する詳細は、“[イベント変数](#)” (1211 ページ)次を参照してください。

(NAME=*variable-value*)

NAME イベント変数用の値を指定します。

要件 *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

参照項目: NAME イベント変数に関する詳細は、“[イベント変数](#)” (1211 ページ)を参照してください。

(START)

イベントの開始項目をトリガーします。

参照項目: イベントに関する詳細は、“[イベントについて](#)” (1167 ページ)次を参照してください。

(STYLE=*style-element*)

スタイルエレメントを指定します。

参照項目: スタイルエレメントに関する詳細は、“[スタイル属性の概要](#)” (968 ページ)次を参照してください。

(TARGET=*variable-value*)

TARGET イベント変数用の値を指定します。

要件 *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

参照項目: TARGET イベント変数に関する詳細は、“[イベント変数](#)” (1211 ページ)次を参照してください。

(TEXT=*variable-value*)

TEXT イベント変数用の値を指定します。

要件 *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

参照項目: TEXT イベント変数に関する詳細は、“[イベント変数](#)” (1211 ページ)を参照してください。

(URL=*variable-value*)

URL イベント変数用の値を指定します。

要件 *variable-value* を引用符で囲まなければなりません。

参照項目: URL イベント変数に関する詳細は、“[イベント変数](#)” (1211 ページ)を参照してください。

デフォルト: (FILE='BODY')

要件 The EVENT= オプションのサブオプションを括弧で囲まなければなりません。

FRAME= '*file-specification*' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、HTML 出力用に、目次、ページコンテンツ、およびボディファイルを統合するファイルを指定します。フレームファイルを開くと目次、ページコンテンツ、またはその両方、およびボディファイルを閲覧できます。XML 出力用に、FRAME= は、DTD を含むファイルを指定します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります

- *ODS markup-family-destination* CLOSE ステートメント または ODS _ALL_ CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の1つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルリファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

参照項目: 詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS* ステートメント: リファレンス)次を参照してください。

entry.markup

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

操作: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

サブオプション(s)

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次の内の1つになります。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の CONTENTTYPE= (987 ページ)を参照してください。

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: NO_BOTTOM_MATTER サブオプションおよび ANCHOR= オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されません。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます。

要件:

URL= '*Uniform-Resource-Locator* を括弧で囲まなければなりません。'
引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。
URL= '*Uniform-Resource-Locator* は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをレファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

制限事項: FRAME=オプションを指定した場合、CONTENTS= オプション、PAGE= オプション、または両方を指定しなければなりません。

例: “例 2: XML ファイルと DTD の作成” (441 ページ)

GFOOTNOTE | NOGFOOTNOTE

グラフィックス出力においてフットノートがプリントされるロケーションを制御します。

GFOOTNOTE

SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたフットノートをプリントします。フットノートは、グラフのボーダー内に表示されます。

NOGFOOTNOTE

グラフのボーダー外に表示される ODS により作成されたフットノートをプリントします。

デフォルト: GFOOTNOTE

制限事項:

マークアップ言語により表示されるフットノートは、すべての SAS/GRAPH FOOTNOTE ステートメントオプションをサポートします。フォントは、ブラウザ用に有効でなければなりません。テキスト角度の仕様など ODS が扱えないオプションは無視されます。SAS/GRAPH FOOTNOTE ステートメントに関する詳細は、“FOOTNOTE Statement” in *SAS/GRAPH: Reference* を参照してください。

このオプションは、1 つまたはそれ以上のデバイススペースのグラフィックスを作成する SAS プログラム または、SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたグラフィックスにのみ適用されます。

GPATH= 'aggregate-file-storage-specification' | ファイル参照 | libref.catalog (URL= 'Uniform-Resource-Locator' | NONE)

出力先が開いている間に生成されたすべてのグラフィックス出力のロケーションを指定します。マークアップファイル用の PATH= オプションで指定されたものとは異なるロケーションにグラフィックス出力を書き込みたい場合にこのオプションを使用してください。無効なファイル名を指定した場合、ActiveX および Java デバイスはデフォルトのファイル名に出力を送ります。その他のデバイスはファイルをディレクトリとして作成して、そのディレクトリに出力を書き込みます。ODS が、カタログエントリおよび外部ファイルに名称を付ける方法に関する 詳細は、次を参照してください。 *SAS/GRAPH: Reference*

'aggregate-file-storage-location'

ディレクトリ、フォルダ、または分割されたデータセット等の累積保存ロケーションを指定します。

要件 引用符で *aggregate-file-storage-location* を囲まなければなりません。

ファイル参照

累積保存ロケーションに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

操作: GPATH= オプションにおいてファイル参照を指定した場合、ODS は、リンクを構築する際に、GPATH=オプションからの情報を使用しません。

参照項目: FILENAME ステートメントに関する詳細は、“FILENAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)次を参照してください。

ライブラリ参照。catalog

書き込む先の SAS カタログを指定します。

URL= 'Uniform-Resource-Locator' | NONE
file-specification の URL を指定します。

Uniform-Resource-Locator

指定した URL です。ODS は、ファイルに作成するすべてのリンクおよびレファレンスにおいてファイル名ではなくこの URL を使用します。

要件 引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

NONE

リンクまたはレファレンスに GPATH=オプションからのいかなる情報が表示されないことを指定します。

ヒント: このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツまたはページファイルからのリンクが簡単な URL (単一名) で構築されている場合、コンテンツ、ページ、およびボディファイルさえ同一のロケーションにあれば、それらは解決します。

デフォルト: GPATH= オプションを除外すると、ODS は、PATH= オプションにより指定されたロケーションにグラフィックスを保存します。PATH=オプションを指定しない場合、ODS は、グラフィックスを現行のディレクトリに保存します。詳細は、PATH= オプションを参照してください。

GTITLE | NOGTITLE

グラフィック出力のタイトルがプリントされているロケーションを制御します。

GTITLE

SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたタイトルをプリントします。タイトルは、グラフボーダーの内部に表示されます。

NOGTITLE

グラフボーダーの外部に表示される ODS により作成されたタイトルをプリントします。

デフォルト: GTITLE**制限事項:**

いかなるマークアップ言語のステートメントにより表示されるタイトルは、大部分の SAS/GRAPH TITLE ステートメントオプションをサポートします。フォントは、ブラウザ用に有効でなければなりません。テキスト角度の仕様など ODS が扱えないオプションは無視されます。SAS/GRAPH TITLE ステートメントに関する詳細は、TITLE ステートメントを参照してください。

このオプションは、1つまたはそれ以上のデバイススペースのグラフィックスを作成する SAS プログラム または、SAS/GRAPH、SGPLOT プロシジャ、

SGPANEL プロシジャ、または、SGSCATTER プロシジャにより作成されたグラフィックスにのみ適用されます。

HEADTEXT= 'markup-document-head'

出力先が書き込むすべてのファイルのタグ< HEAD> および </HEAD> の間に配置する HTML タグを指定します。

markup-document-head

< HEAD> および </HEAD>の間に配置するマークアップタグを指定します。

制限事項: HEADTEXT= は、256 文字を超えてはなりません。

要件 *markup-document-head* を引用符で囲まなければなりません。

ヒント:

ODS は、提供するマークアップを解析できません。それは、< HEAD>および </HEAD>タグとの関連で、well-formed マークアップでなければなりません。

後で、ファイルで使用できるプログラム(JavaScript) 等を定義するために HEADTEXT=オプションを使用してください。

(ID= identifier)

同時に同出力先の複数のインスタンスの実行を可能にします。各インスタンスは、異なるオプションを有します。

identifier

既に開かれた出力先のもう1つのインスタンスを指定します。*identifier* は、文字または、アンダーラインで始まる数字または連続した文字です。後続の文字は、文字、アンダーライン、および数字を含むことができます。

制限事項: もし *identifier* が数値の場合、正の整数にする必要があります。

要件 ID= オプションは、ODS *MARKUP/TAGSET* ステートメントキーワードの直後に指定しなければなりません。

ヒント: ID= オプションを除外し、インスタンスを識別するために代わりに名前または数字を使用できます。

例: “例: 同時に同じ出力先のインスタンスを複数開く” (499 ページ)

METATEXT= 'metatext-for-document-head'

<META><>の間、HEAD>HEAD>および<HEAD>出力先が書き込む先のすべてのファイルのタグとして使用する HTML コードを指定します。

'metatext-for-document-head'

ブラウザにロードする文書に関する情報を提供する HTML コードを指定します。例えば、この属性は、コンテンツの種類および使用される文字セットを指定できます。

要件 引用符で *metatext-for-document-head* を囲まなければなりません。

デフォルト: METATEXT=を指定しない場合、ODS は、作成するすべての HTML ファイルに文書のコンテンツの種類および使用する文字セットを含む簡単な <META> タグを書きます。

制限事項: METATEXT= は、256 文字を超えてはなりません。

ヒント: ODS は、提供する HTML コードを解析できません。HTML コードは、<HEAD>タグの脈絡において正確で、良く構築されていなければなりません。METATEXT= を意図された通りに使用した場合、META タグは次のように見えます。

```
<META your-metatext-is-here>
```

NEWFILE= starting-point

新しいボディファイルを指定された *starting-point* に作成します。

starting-point

新しいボディファイルを作成するのに適した出力のロケーションです。

ODS は、ボディファイル名をインクリメントすることで自動的に新しいファイル名を付けます。次の例で、ODS は、初めのボディファイルの名付けます。**REPORT.XML** 追加のボディファイルが名付けられます。**REPORT1.XML**, **REPORT2.XML**, 等

例

```
BODY= 'REPORT.XML'
```

starting-point は、次の内の1つです。

BYGROUP

各 BY グループの結果用に新たなファイルを開始します。

NONE

現在開かれているボディファイルにすべての出力を書き込みます。

OUTPUT

各出力オブジェクト用に新たなファイルを開始します。SAS/GRAPH に対して、これは、ODS がプログラムが生成した各 SAS/GRAPH 出力ファイル用に新たなファイルを作成することを意味します。

別名: TABLE

PAGE

出力の各ページ用に新たなボディファイルを開始します。改ページは、手順が明示的に新たなページを開始(ページのサイズが足りないからではなく)または、新たなプロシジャを開始する時点で発生します。

PROC

新たな手順を開始する度に新たなボディファイルを開始します。

デフォルト: NONE

制限事項: NEWFILE= オプションは、BODY=ファイル参照 オプションと一緒に使用できません。

ヒント:

ファイル名を数字で終了した場合、ODS はその数字の増加を開始します。次の例で、ODS は、最初のボディファイル *MAY5.XML* の名付けをします。追加のボディファイル名は、*MAY6.XML*, *MAY7.XML*, 等となります。

例

```
BODY= 'MAY5.XML'
```

OPTIONS (DOC= | <サブオプション>)

tagset-specific サブオプションおよび名付けられた値を指定します。

(DOC= 'HELP' | 'QUICK' | 'SETTINGS' | 'CHANGELOG')

指定されたタグセットについての情報を提供します。

HELP

簡易参照で、一般的なヘルプおよび情報を提供します。

QUICK

このタグセットで利用可能なオプションを説明します。

SETTINGS

現行のオプション設定を提供します。

CHANGELOG

タグセットへの変更履歴をリストします。このサブオプションは、RTF タグセットにおいてのみサポートされています。

要件 すべての値は、引用符で囲まなければなりません。

サブオプション(s)

指定されたタグセットに有効な1つまたはそれ以上のサブオプションを指定します。サブオプションは、次のフォーマットを有します。

keyword='value'

タグセット用のサブオプションの情報を得るために、ODS タグセットステートメントを開く時、または出力先が開かれたいかなる時に、次のオプションの内の1つを指定してください。

- オプション (doc='help');
- オプション (doc='quick');
- オプション (doc='settings');

要件 OPTION サブオプションを括弧で囲まなければなりません。

例: “例: ODS TAGSETS.HTMLPANEL 情報を得るために DOC サブオプションを使用。” (651 ページ)

PACKAGE <package-name>

出力先からの出力を ODS パッケージに追加することを指定します。

package-name

ODS PACKAGE ステートメントで作成されたパッケージの名称を指定します。指定された名称が無い場合、出力は最後に開かれた名称の付けられていないパッケージに追加されます。

参照項目: “ODS PACKAGE ステートメント” (469 ページ)

例: “例 1: ODS パッケージの作成” (473 ページ)

PAGE= 'file-specification' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、ボディファイルの各ページの説明およびボディファイルへのリンクを含むファイル指定します。ODS は、手順が新たなページを要求した際に、出力の新しいページを作成します。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります

- ODS markup-family-destination CLOSE ステートメントまたは ODS _ALL_ CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の 1 つです。

external-file

書き込む先の外部ファイルの名称です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。

ファイル参照

外部ファイルに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

参照項目: FILENAME ステートメントに関する詳細は、“FILENAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)次を参照してください。

入力。マークアップ

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

操作: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

サブオプション

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。サブオプションは、次のようになります。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の [CONTENTTYPE= \(987 ページ\)](#) を参照してください。

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: The NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR= option

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されません。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

要件:

URL='Uniform-Resource-Locator'を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファ

イルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをレファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

操作: SAS システムオプションの PAGESIZE= は、バッチ出力を作成する時以外は、HTML 出力のページに影響を与えません。PAGESIZE= オプションに関する詳細は、“PAGESIZE= System Option” in *SAS System Options: Reference* を参照してください。

PARAMETERS= (*parameter-pair-1 ... parameter-pair-n*)

動的グラフィックス出力を生成するタグの間に指定されたパラメータを書き込みます。

parameter-pair

各パラメータの名称および値を指定します。*parameter-pair* は、次の形態を有します。

```
'parameter-name' = 'parameter-value'
```

parameter-name

パラメータの名称です。

parameter-value

パラメータの値です。

要件 引用符で *parameter-name* および *parameter-value* を囲まなければなりません。

操作: PARAMETERS= を SAS/GRAPH プロシジャおよび GOPTIONS ステートメントの DEVICE=JAVA、JAVAMETA、または ACTIVEX オプションと一緒に使用してください。

参照項目: *SAS/GRAPH: Reference* グラフアプレット、マップアプレット、カンターアプレット、およびメタビューアプレット用に有効なパラメータ

PATH= '*aggregate-file-storage-specification*' | **ファイル参照** | *libref.catalog* (URL= '*Uniform-Resource-Locator*' | NONE)

累積保管場所のロケーションまたはすべてのマークアップファイル用の SAS カタログを指定します。GPATH= オプションが指定されていない場合、すべてのグラフィックスファイルは、“*aggregate-file-storage-specification*” または、**ライブラリ参照**に書き込まれます。

'*aggregate-file-storage-location*'

ディレクトリ、フォルダ、または分割されたデータセット等の累積保存ロケーションを指定します。

要件 引用符で *aggregate-file-storage-location* を囲まなければなりません。

ファイル参照

累積保存ロケーションに割り当てられたファイルレファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

操作: PATH= オプションのを使用した場合、ODS は、リンクを構築する際に PATH= からの情報を使用しません。

参照項目: FILENAME ステートメントに関する詳細は、“FILENAME ステートメント” (*SAS ステートメント: リファレンス*) を参照してください。

ライブラリ参照. *catalog*

書き込む先の SAS カタログを指定します。

参照項目: LIBNAME ステートメントに関する詳細は、“LIBNAME ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)を参照してください。

URL= 'Uniform-Resource-Locator' | NONE
file-specification の URL を指定します。

Uniform-Resource-Locator

指定した URL です。ODS は、ファイルに作成するすべてのリンクおよびレファレンスにおいてファイル名ではなくこの URL を使用します。

NONE

リンクまたはレファレンスに GPATH=オプションからのいかなる情報が表示されないことを指定します。

ヒント: このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは、single-name URL で構築しなければならず、コンテンツ、ページ、およびボディファイルは、同じロケーションになければなりません。

操作: BODY= または、FILE=外部ファイルオプションを PATH= オプションと一緒に使用した場合、外部ファイル仕様にパス情報を含めるべきではありません。

RECORD_SEPARATOR= 'alternative-separator' | NONE

出力ファイルのラインを分離するために代替の文字または文字列を指定します。

異なる動作環境において、異なるセパレーター文字を使用します。レコードセパレーターを指定しない場合、SAS ジョブを起動する環境用にファイルをフォーマットします。しかし、異なるセパレーター文字を使用する異なる動作環境で閲覧するためにファイルを生成する場合、対象の環境に適切なレコードセパレータを指定できません。

alternative-separator

1またはそれ以上の文字を 16 進または ASCII フォーマットで表わします。例えば、次のオプションは、キャリッジリターン文字用のレコードセパレータ および ASCII ファイルシステムで使用するラインフィード文字を指定します。

```
RECORD_SEPARATOR= '0D0A'x
```

動作環境の情報

メインフレーム環境において、次のオプションは、キャリッジリターン文字用のレコードセパレータ および ASCII ファイルシステムで使用するラインフィード文字を指定します。

```
RECORD_SEPARATOR= '0D25'x
```

要件 引用符で *alternative-separator* を囲まなければなりません。

NONE

SAS ジョブを実行する環境に適切なマークアップ言語を作成します。

Windows 固有

メインフレーム環境において、デフォルトで、ODS は、組み込み式レコードセパレータ文字を含むバイナリファイルを作成します。バイナリファイルは、ASCII ファイルのラインの長さ制限により制限されていません。しかし、テキストデータのバイナリファイルを閲覧すると、ラインは一緒に実行されます。テキストデータでファイルを読むことを可能にするためにファイルをフォーマットしたい場合、RECORD_SEPARATOR= NONE を使用してください。この場合、ODS は、一度に1行のマークアップ言語をファイルに書き込みます。NONE の値を使用する場合、書き込む先のファイルの論理的レコードの長さは、最低でも ODS が作成するラインの最長の長さでなければなりません。ファイルの論理的レコードの長さが十分でない場合、マークアップ言語は、適切な場所でその他のラインにラップする可能性があります。

別名:

RECSEP=

RS=

STYLE= style-definition

出力ファイルを書く場合に使用するスタイル定義を指定します。

style-definition

SAS 出力の体裁特徴(色、フォントファース、フォントサイズ、等々)の表示方法を説明します。スタイル定義は、それを使用する文書の全体の体裁を決定します。各スタイル定義は、スタイル要素で構成されます。

操作: STYLE= オプションは、XML 出力を作成している場合は、無効となります。

参照項目: スタイル定義に関する完全な討議は、13 章、“[TEMPLATE プロシジャ: スタイルテンプレートの作成](#)” (942 ページ)を参照してください。

デフォルト: スタイル定義を指定しない場合は、ODS は、SAS レジストリのサブキー ODS ⇒ DESTINATIONS ⇒ MARKUP に指定されているファイルを使用します。この値は、デフォルトで、Default を指定します。

操作: ODS HTML4 ステートメントで STYLE= オプションを指定した場合、続いて、もう1つの ODS HTML4 ステートメントで新しいスタイル定義を使用するために PROC PRINT 出力が必要な場合、2番目のステートメントを指定する前に、最初のステートメントを終了してください。

STYLESHEET= 'file-specification' <(サブオプション)>

マークアップファミリーの出力先を開き、マークアップ出力用のスタイル情報を外部ファイルに配置、または既存のファイルからスタイルシートを読み込みます。これらのファイルは、次の操作を行うまで開かれた状態となります。

- ODS markup-family-destination CLOSE ステートメントまたは ODS _ALL_ CLOSE ステートメントのいずれかで、出力先を終了してください。
- 2番目のマークアップファミリーで、同じ出力先を開いてください。これは、1番目のファイルを終了して、2番目のファイルを開きます。

file-specification

書き込み先のファイル、ファイル参照または、SAS カタログを指定します。

file-specification は、次の内の 1 つです。*external-file*

書き込む先の外部ファイルの名称です。

要件 引用符で *external-file* を囲まなければなりません。**ファイル参照**

外部ファイルに割り当てられたファイルリファレンスです。ファイル参照を割り当てるために、FILENAME ステートメントを使用してください。

参照項目: FILENAME ステートメントに関する詳細は、“[FILENAME ステートメント](#)” (SAS ステートメント: リファレンス)を参照してください。

entry.markup

書き込み先の SAS カタログのエントリーを指定します。

操作: エントリー名を指定した場合、ライブラリとカタログも指定しなければなりません。PATH= オプションの議論を参照してください。

サブオプション

1つまたはそれ以上のサブオプションを括弧で指定します。サブオプションは、出力ファイルを書くための指示です。次のサブオプションが利用可能です。

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE の [CONTENTTYPE= \(987 ページ\)](#) を参照してください。

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR=オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE= を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されます。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL='Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます。

要件:

URL='Uniform-Resource-Locator' を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *Uniform-Resource-Locator* を囲まなければなりません。

URL='Uniform-Resource-Locator' は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME=オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

注: デフォルトで、別のファイルに特に情報を送らない場合、スタイルシート情報は指定された HTML ファイルに含まれます。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

TEXT=*text-string*

パラグラフのイベントをトリガーすることで文書にテキストを挿入し、VALUE イベント変数に割り当てられるテキストの文字列を指定します。

デフォルト: デフォルトで、TEXT=オプションは、パラグラフイベントで使用されています。

ヒント: 次の構文を使用することで、EVENT= オプションを伴う TEXT= オプションを使って特定のイベント用の *text-string* を指定できます。

EVENT=*event-name* (TEXT=*text-string*)

参照項目: イベントおよびイベント変数に関する詳細は、15 章, “TEMPLATE プロシジャ: マークアップ言語のタグセットの作成” (1166 ページ)を参照してください。

例: “例: 出力オブジェクトを条件付きで除外し、別の出力先に送信する” (235 ページ)

TRANTAB= '*translation-table*'

出力用のファイルをトランスコーディングする際に変換表を指定します。

参照項目: TRANTAB= オプションに関する詳細は、“TRANTAB=システムオプション” (SAS 各国語サポート(NLS): リファレンスガイド)を参照してください。

サブオプション

これらのオプションで使用できるサブオプションは次のとおりです。BODY= (710 ページ)、CODE= (713 ページ)、CONTENTS= (717 ページ)、FRAME= (721 ページ)、PAGE= (728 ページ)、YLESHEET= (733 ページ)

(DYNAMIC)

出力をファイルに書き込むのではなく、ウェブサーバーに直接送れるようにします。このオプションは、CONTENTTYPE=スタイル属性の値を設定します。詳細は、PROC TEMPLATE のを参照してください。CONTENTTYPE= (987 ページ)

デフォルト: DYNAMIC を指定しない場合、ODS は、ファイル書き込み用の HTMLCONTENTTYPE= の値を設定します。

制限事項: ODS HTML ステートメントの次の内の1つのオプションで DYNAMIC サブオプションを指定した場合、そのステートメントのこれらのオプションすべてに対して設定しなければなりません。

- BODY=
- CONTENTS=
- PAGE=
- FRAME=
- STYLESHEET=
- TAGSET=

要件:

DYNAMIC を括弧で囲まなければなりません。

DYNAMIC は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定する必要があります。

(NO_BOTTOM_MATTER)

出力ファイルにいかなるマークアップ言語のソースコードの末尾が追加されないことを指定します。

別名: NOBOT

要件:

NO_BOTTOM_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_BOTTOM_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

ヒント: ボディファイルを ODS を使用して追加できる状態のままにしたい場合、いかなるマークアップ言語のステートメントの *file-specification* BODY= オプションを伴う NO_BOTTOM_MATTER を使用してください。

参照項目: The NO_TOP_MATTER サブオプション

(NO_TOP_MATTER)

出力ファイルの頭にいかなる最初のマークアップ言語のソースコードも追加できないことを指定します。HTML 4.0 用に、NO_TOP_MATTER オプションがスタイルシートを除外します。

別名: NOTOP

要件:

NO_TOP_MATTER を括弧で囲まなければなりません。

NO_TOP_MATTER は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

外部ファイルにテキストを追加すると、動作環境に適切なオプションを伴う FILENAME ステートメントを使用しなければなりません。

操作:

NO_TOP_MATTER サブオプションは、NO_BOTTOM_MATTER サブオプションを伴い、既存のファイルに出力を追加し、出力オブジェクトの間に独自のマークアップ言語を設置することを可能にします。

ODS が以前書き込んだファイルを開く時、アンカー用に新しいベース名を指定するために、ANCHOR=オプションを使用してください。次のステップは、アンカーの複製を防ぎます。

参照項目: NO_BOTTOM_MATTER サブオプション および ANCHOR=オプション

(TITLE='title-text')

ファイルのメタデータに、ブラウザのウィンドウのタイトルバーに表示されるテキストとして指定する文字列を挿入します。

title-text

タイトルを示すファイルのメタデータのテキストです。

要件:

TITLE=を括弧で囲まなければなりません。

引用符で *title-text* を囲まなければなりません。

ヒント: フレームを使用するウェブページを作成する場合、ブラウザのウィンドウのタイトルバーにフレームファイル用の TITLE= 仕様表示されます。

例: “例 3: 複数のマークアップ出力の作成” (443 ページ)

(URL= 'Uniform-Resource-Locator')

file-specification の URL を指定します。ODS で作成され、ファイルを指すすべてのリンクおよびリファレンスで、ファイル名の代わりに、この URL が使用されます

要件:

URL= 'Uniform-Resource-Locator を括弧で囲まなければなりません。

Uniform-Resource-Locator を引用符で囲まなければなりません。

URL= 'Uniform-Resource-Locator は、BODY=、CONTENTS=、PAGE=、FRAME=、または STYLESHEET= オプションにより指定された *file-specification* の隣か、TAGSET= オプションにより指定された *tagset-name* の隣に指定しなければなりません。

ヒント:

このオプションは、あるロケーションから他のロケーションに移動可能な HTML ファイルを作成するのに便利です。コンテンツおよびページファイルからのリンクは単名 URL で作成され、コンテンツ、ページ、およびボディファイルはすべて同じファイルになければなりません。

ODS ファイルがフレームファイルをリファレンスしないため、FRAME= オプションを使用してこのサブオプションを指定する必要は全くありません。

例: “例 5: 1 つの HTML ドキュメントに複数のカスケード表示スタイルシートを含む。” (446 ページ)

詳細

ODS WML ステートメントは、ステートメントの ODS マークアップファミリの一部です。ステートメントのマークアップファミリの一部である ODS ステートメントでは、HTML (Hypertext Markup Language)、XML (Extensible Markup Language) または LaTeX などのさまざまなマークアップ言語を使用してフォーマットされた出力が作成されます。SAS 提供のマークアップ言語を指定するか、独自の言語を作成し、ユーザー定義のマークアップ言語として保存できます。

ODS の PUT ステートメント

データコンポーネントに書き込みでき、次いで ODS によってフォーマットできる特別なバッファにデータ値を書き込みます。

該当要素: DATA ステップ

カテゴリ: ファイル操作

種類: 実行ファイル

要件: PUT ステートメントにおいて `_ODS_` オプションを使用した場合、FILE PRINT ODS ステートメントを使用してください。

注: テンプレートを使用している場合、この構文は PUT ステートメントの ODS フォームのみを表示します。完全な構文に関しては、次を参照。“PUT ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス)

構文

```
PUT <仕様> <_ODS_> <@|@>;
```

オプション引数

仕様

1 つ以上の変数を指定して、書き込み場所へ書き込みます。仕様には、次のフォームがあります。

<ODS ポインタコントロール 1> 変数 1 <...<ODS ポインタコントロール n> 変数 n>

ODS ポインタコントロール

バッファ内のポインタを 指定の行または列に移動します。

参照項目: “ポインタが行端を超えて移動した場合” (61 ページ)

変数

書き込む変数を識別します。

例: “例 4: ユーザー定義のテーブル定義テンプレートの作成と使用” (87 ページ)

ODS

FILE PRINT ODS COLUMNS =ステートメントで 列に定義されたそれぞれの変数のデータコンポーネントに、PUT ステートメントが値を書き込むことを 指定します。

デフォルト: これらの列の順序は、FILE PRINT ODS ステートメントの COLUMNS=サブオプションによって指定された順序によって、決定されます。COLUMNS=サブオプションを省略した場合は、プログラムデータベクトル内の変数の順序によって出力オブジェクトの順序が決定されます。

要件 _ODS_ オプションを指定する場合、FILE PRINT ODS ステートメントを使用し、FILE PRINT ODS ステートメントは PUT _ODS_ ステートメントに 先行するようにしてください。

操作: 個々の変数の配置を指定する PUT ステートメントにおいて、_ODS_ を使用できます。別の PUT ステートメントが同じ行と列に変数をまだ書き込んでいない場合のみ、_ODS_ が一定の行と列に書き込みます。PUT ステートメントにおける _ODS_ の位置は、データコンポーネントの結果に影響を与えません。

ヒント: デフォルトでは、データコンポーネントの列の順序は バッファ内の列の順序と一致します。ただし、表定義を指定していれば、この順序はオーバーライドされることがあります。詳細は、ORDER_DATA (1106 ページ)の説明を参照。

参照項目: 詳細は、ODS<=(ODS-suboptions)>を参照。(63 ページ)

@ | @@

反復する DATA ステップを通して、次の PUT ステートメントの実行用の出力行を保持します。ラインホールド指定子はトレーリング@ および ダブルトレーリング@@と呼ばれます。

デフォルト: @または@@を使用しない場合、データステップの 各 PUT ステートメントによってバッファに新しい行が書き込まれます。

参照項目: “ポインタが行端を超えて移動した場合” (61 ページ)

詳細

ODS の列ポインタコントロール

ODS の列ポインタコントロールは、ODS を使用しない PUT ステートメントの列ポインタと やや異なります。ODS の列は、1 文字のスペースではなく、変数値全体を含む列を示します。したがって、ODS 列ポインタコントロールは、1 つの文字スペースから別の文字スペースへではなく、ある値全体から次の値へ移動します。列 1 には出力の最初の変数の値が含まれ、列 2 には 2 番目の値が含まれます。以降同様です。

ODS 列ポインタコントロールには 次の一般的形態があります。

@ods 列

ポインタを指定された ODS の列に移動します。*ods* 列は番号、数値変数または書き込む列を識別する数式です。

デフォルト: もし *ods* 列がデータコンポーネントの列の数を超えた場合は、ODS によって現在の行が書き込まれ、ポインタが次行の最初の ODS の列に移動され、PUT ステートメントの処理が続けられます。

要件 もし *ods* 列が数の場合は、正の整数にしてください。もし *ods* 列が数値変数または数式の場合は、SAS によって次の処理が行われます。もし *ods* 列が整数でない場合は、SAS によって小数点以下が切り捨てられ、整数値のみが使用されます。もし *ods* 列が 0 または負の数の場合は、SAS によって、ポインタが列 1 に移動されます。

ヒント: デフォルト動作は、FILE PRINT ODS ステートメントの オプションで変更できます。詳細は、[オーバーフローコントロール \(63 ページ\)](#)の説明を参照。

例: “例 4: ユーザー定義のテーブル定義テンプレートの作成と使用” (87 ページ)

+ods 列

ODS の列の指定された番号を使用して、ポインタを移動します。*ods* 列は、数、数値変数、またはポインタを移動するために 列の数を指定する数式です。

要件 もし *ods* 列が数の場合は、整数にしてください。もし *ods* 列が数値変数または数式の場合は、整数にする必要はありません。それが整数でない場合は、SAS によって小数点以下が切り捨てられ、整数値のみが使用されます。もし *ods* 列が正の整数の場合は、SAS によってポインタが右に移動されます。もし *ods* 列が負の整数の場合は、SAS によってポインタが左に移動されます。もし *ods* 列が 0 の場合は、SAS によってポインタが移動されません。

ヒント: 現在の列の位置が 1 より小さくなった場合は、ポインタを列 1 まで移動します。現在の列の位置がデータコンポーネントの列の数を超えた場合は、ODS によって現在の行が書き込まれ、ポインタが次行の最初の ODS 列に移動され、PUT ステートメントの処理が続けられます。

例: “例 4: ユーザー定義のテーブル定義テンプレートの作成と使用” (87 ページ)

@ 'column-name'

ポインタを 'column-name'によって識別された ODS の列まで移動します。列の名前は、データコンポーネントの変数の名前です。

要件 *column-name* は 引用符で括ってください。

ODS のラインポインタコントロール

ODS を使用する データステップの ラインポインタコントロールは、ODS を使用しないデータステップの ラインポインタコントロールと同じです。しかし、ODS の次のリストのみ使用可能です。ラインポインタコントロールには、次の一般的 形態があります。

#line

ポインタを指定の行まで 移動します。*line* は 数、数値変数、または書き込む行を識別する数式です。

要件 もし *line* が数の場合は、整数にしてください。もし *line* が数値変数または数式の場合は、整数にする必要はありません。それが整数でない場合は、SAS によって小数点以下が切り捨てられ、整数値のみが使用されます。

/

ポインタを次行の 最初の列まで移動します。

例: “例 4: ユーザー定義のテーブル定義テンプレートの作成と使用” (87 ページ)

注: ODS 出力の行をスキップするために ラインポインタコントロールを使用した場合は、現在の行またはスキップした行にない列は、欠損値として 設定されます。数値が含まれる列には、欠損値に対してピリオドが 表示されます。ODS 出力にこれらのピリオドを表示したくない場合は、MISSING ステートメント(または MISSING=

システムオプション) を使用して、不明の数値を空白に表示できます。ステートメントに関する詳細は、次を参照。“MISSING ステートメント” (SAS ステートメント: リファレンス) システムオプションに関する詳細は、次を参照。“MISSING= System Option” in *SAS System Options: Reference*

ポインタが行端を超えて移動した場合

ODS を使用するデータステップでは、バッファ内およびデータコンポーネント内の列の数が、次の 3 つの方法のいずれかで決定されます。

- デフォルトでは、プログラムデータベクトル内の変数の数によって、ODS の列の数が決定されます。
- FILE PRINT ODS ステートメントにおける COLUMNS=サブオプションで ODS の列を定義して、デフォルトをオーバーライドできます。
- テンプレートをデータコンポーネントに関連づけた場合は、テンプレートの仕様を優先させます。その結果、実際に出力オブジェクトに現れる列の数が、変更されることがあります。

ポインタコントロールと@または@@を使用するときは、不注意でポインタを ODS の最後の列を超えて配置してしまうこともあります。FILE PRINT ODS ステートメントのオプションを使用して、SAS によるこの状況の処理方法をコントロールできます。詳細は、[オーバーフローコントロール \(63 ページ\)](#)の説明を参照。

関連項目:

- [ODS とデータステップ \(57 ページ\)](#)
- [例 \(72 ページ\)](#)

ステートメント

- [“ODS の FILE ステートメント” \(62 ページ\)](#)

5 部

ODS のシステムオプション

7 章	ODS のシステムオプション	745
-----	----------------------	-----

7 章

ODS のシステムオプション

ディクショナリ	745
ODSDEST=システムオプション	745
ODSGRAPHICS=システムオプション	746
ODSSTYLE=システムオプション	747

ディクショナリ

ODSDEST=システムオプション

デフォルトの ODS 出力先を変更します。SAS 9.3 では、Microsoft Windows と UNIX 動作環境における SAS ウィンドウ環境のデフォルトの出力先は HTML です。その他すべてのプラットフォームの場合、デフォルトの出力先はリストです。

該当要素: 設定ファイル、SAS 起動

カテゴリ: ODS 印刷

PROC OPTIONS GROUP= ODSPRINT

制限事項: ODSDEST=を設定できるのは、SAS 起動時のみです。起動に続いて、対応する ODS ステートメントを使用します。ODSDEST=が適用されるのは、デフォルトの出力先のみで、後でユーザーが作成した出力先には適用されません。ODSDEST=HTML が適用されるのは、TAGSETS.HTML4 出力先のみです。

動作環境: UNIX、Windows

構文

ODSDEST= HTML | リスト | AUTO

構文の説明

HTML

Microsoft Windows と UNIX 動作環境における SAS ウィンドウ環境で、HTML (TAGSET.HTML4)がデフォルトの出力先であることを指定します。

リスト

リスト出力先がデフォルトの出力先であることを指定します。

AUTO

デフォルト出力先の設定を決める SAS レジストリ設定を指定します。この設定は、Microsoft Windows と UNIX 動作環境における SAS ウィンドウ環境の SAS 9.3 では、デフォルトで HTML になっています。デフォルトでサポートされている HTML バージョンは HTML 4.0 です。

注: SAS ウィンドウ環境の HTML 出力は、Microsoft Windows 版と UNIX 版の SAS9.3 のデフォルトであり、他のオペレーティングシステム版やバッチモードではデフォルトではありません。バッチモードまたはその他のオペレーティングシステムで SAS を実行しているとき、リスト出力先が開き、デフォルトとなります。ODS Graphics はデフォルトでは有効とはならず、HTML 出力のデフォルトのスタイルは Styles.Default です。

詳細

SAS セッションの起動時に、ODSDEST=を設定ファイルに追加することで、デフォルトの出力先を変更できます。ODSDEST=オプションを設定しない場合は、デフォルトの出力先はレジストリの設定から指定されます。SAS 9.3 では、Microsoft Windows と UNIX 動作環境における SAS ウィンドウ環境のデフォルトのレジストリ設定は HTML です。その他すべての環境およびオペレーティングシステムでは、リスト出力先がデフォルトの出力先になります。

関連項目:

[1章, “SAS 9.3 の新しい出力デフォルト” \(3 ページ\)](#)

ODSGRAPHICS=システムオプション

ODS Graphics 処理を制御します。

該当要素: 設定ファイル、SAS 起動

カテゴリ: ODS 印刷

PROC OPTIONS GROUP= ODSPRINT

制限事項: ODSGRAPHICS=を設定できるのは、SAS 起動時のみです。起動に続いて、対応する ODS ステートメントを使用します。

動作環境: UNIX、Windows

構文

ODSGRAPHICS= ON | OFF | AUTO

構文の説明**ON**

デフォルトで ODS Graphics 処理を有効にします。

OFF

ODS Graphics 処理を無効にします。

AUTO

デフォルト出力先の設定を決める SAS レジストリ設定を指定します。

注: SAS 9.3 では、ODS Graphics は、Microsoft Windows と UNIX の SAS ウィンドウ環境において有効化されていますが、その他のオペレーティングシステムやバッチモードにおいてはこの限りではありません。バッチモードまたはその他のオペレーティングシステムで SAS を実行しているとき、リスト出力先が開き、デフォルトとなります。ODS Graphics はデフォルトでは有効とはならず、HTML 出力のデフォルトのスタイルは Styles.Default です。

詳細

SAS 9.3 では、ODS Graphics は、UNIX と Microsoft Windows の SAS ウィンドウ環境においてデフォルトで有効化されています。ODS Graphics 処理を有効にすると、グラフはテーブルと組み合わせられ、すべての出力は HTMLBlue スタイルを使用して同じ HTML ファイルに表示されます。この新しいスタイルは、オールカラースタイルで、テーブルとモダンな統計グラフを組み合わせるために使用されます。

SAS 9.3 では、大規模な演算プログラムを実行する場合、グラフを作成しないほうがよいことがあります。この場合、プログラムのパフォーマンスを向上させるために、ODS Graphics を無効化するようにします。SAS プログラムで ODS Graphics を無効化と無効化するには、ODS GRAPHICS OFF ステートメントと ODS GRAPHICS ON ステートメントを使用します。また、結果タブの、ODS Graphics のデフォルトを変更することもできます。

SAS 9.3 以前は、ODS Graphics はデフォルトで無効化されています。SAS 9.3 のデフォルト動作の変更に関する詳細は、1 章、[“SAS 9.3 の新しい出力デフォルト”](#) (3 ページ)を参照してください。

例

次の例では、ODS Graphics は無効化され、ODS デフォルト出力先はリストで、使用されるスタイルは SAS レジストリで指定されるデフォルトスタイルです。SAS 9.3 では、UNIX と Microsoft Windows 上の SAS ウィンドウ環境で、ODS Graphics は有効化され、デフォルトの出力先は HTML で、デフォルトスタイルは HTMLBlue となります。

```
options odsgraphics=off odsdest=listing odsstyle=default;
```

関連項目:

[1 章、\[“SAS 9.3 の新しい出力デフォルト”\]\(#\) \(3 ページ\)](#)

ODSSTYLE=システムオプション

使用するデフォルトスタイルを指定します。

該当要素:	設定ファイル、SAS 起動、OPTIONS ステートメント、システムオプションウィンドウ
カテゴリ:	ODS 印刷
PROC OPTIONS GROUP=	ODSPRINT
動作環境:	UNIX、Windows

構文

ODSSTYLE= *style-name* | AUTO

構文の説明

style-name

ODS HTML 出力先のデフォルトスタイルを指定します。SAS 9.3 では、UNIX と Microsoft Windows の SAS ウィンドウ環境において、HTMLBlue が HTML 出力のデフォルトスタイルとして使用されます。

注: デフォルトでは、ODS によってスタイル内でプロシジャまたは DATA ステップ結果が表示されます。TEMPLATE プロシジャは、スタイルを作成および変更します。Output Delivery System では、カスタマイズした形式の出力を生成するためにこれらのスタイルが使用されます。

参照項目:

SAS 製品に実装されるスタイルのリストは、“[SAS 提供のスタイル](#)” (42 ページ) を参照してください。

独自スタイルの作成またはスタイルの変更については、“[概要: ODS スタイル テンプレート](#)” (942 ページ) を参照してください。

AUTO

デフォルトスタイル設定を決める SAS レジストリ設定を指定します。SAS 9.3 では、HTMLBlue は、UNIX と Microsoft Windows の SAS ウィンドウ環境においてデフォルトのスタイルとなります。

HTML では、スタイルによって TABULAR および GRAPHICS 出力が影響を受けます。

詳細

ODSSTYLE=オプションは、SAS セッション中ならいつでも指定できます。

例

次の例は、ディスプレイ マネージャでデフォルトスタイルから Banker スタイルに出力される HTML スタイルを変更する方法を示します。

```
options odsstyle=banker;  
ods html close;  
ods html;
```

関連項目:

[1章, “SAS 9.3 の新しい出力デフォルト” \(3 ページ\)](#)

6 部

DOCUMENT プロシジャ

8 章	DOCUMENT プロシジャ.....	751
-----	---------------------	-----

8 章

DOCUMENT プロシジャ

概要: DOCUMENT プロシジャ	752
DOCUMENT プロシジャの使用	752
DOCUMENT プロシジャの用語	752
概念: DOCUMENT プロシジャ	753
ODS ドキュメントについて	753
ODS ドキュメントのパスについて	754
連番について	754
ODS ドキュメントと Base SAS プロシジャ	755
出力オブジェクトについて	755
動作環境間での ODS ドキュメントの対話操作について	756
構文: DOCUMENT プロシジャ	757
PROC DOCUMENT ステートメント	759
COPY TO ステートメント	760
DELETE ステートメント	765
DIR ステートメント	770
DOC ステートメント	771
DOC CLOSE ステートメント	772
HIDE ステートメント	772
IMPORT TO ステートメント	773
LINK ステートメント	774
LIST ステートメント	775
MAKE ステートメント	781
MOVE TO ステートメント	782
NOTE ステートメント	787
OBANOTE ステートメント	788
OBBNOTE ステートメント	789
OBFOOTN ステートメント	790
OBPAGE ステートメント	791
OBSTITLE ステートメント	792
OBTEMPL ステートメント	793
OBTITLE ステートメント	793
RENAME TO ステートメント	794
REPLAY ステートメント	794
SETLABEL ステートメント	800
UNHIDE ステートメント	800
グラフィックの再表示	801
BY 変数を使用したラベル、タイトル、フットノートのカスタマイズ	801
結果: DOCUMENT プロシジャ	803
ドキュメントウィンドウの ODS ドキュメント	803

結果ウィンドウの ODS ドキュメント	806
ドキュメントウィンドウと結果ウィンドウの比較	807
エントリのプロパティの表示	808
ドキュメントウィンドウのショートカットの作成	809
ドキュメントウィンドウとドキュメントプロシジャの比較	809
例: DOCUMENT プロシジャ	810
例 1: ディレクトリへの移動とエントリの表示	810
例 2: ODS ドキュメントを開き、リスト表示する	815
例 3: エントリの管理	818
例 4: BY グループのエントリの表示	827
例 5: リスト出力と SAS プログラムのインポート	832

概要: DOCUMENT プロシジャ

DOCUMENT プロシジャの使用

ODS ドキュメントでは、DOCUMENT プロシジャを使用してプロシジャまたはデータベースクエリの結果の出力の並べ替え、複製または削除が可能です。また、新規に変換された出力階層ファイルを使用して、1 つ以上の ODS 出力先の出力を生成できます。DOCUMENT プロシジャでは、次のことが可能です。

- 分析を実行やデータベースクエリの繰り返しをせずにレポートを変換します。
- 出力の構造に対してより強い制御が可能です。
- SAS プログラムを再実行することなく、任意の ODS 出力の出力形式に出力を表示します。
- 現在のディレクトリおよびエントリのリストで移動します。
- ODS ドキュメントを開いて表示します。
- 出力を管理します。
- ODS 出力オブジェクトをそのままの形で保存します。

注: 出力は、テーブルテンプレート付きのデータコンポーネントとして、オリジナルの内部表現に保存されます。

DOCUMENT プロシジャは対話式のプロシジャであり、これによって PROC DOCUMENT ステップで ODS ステートメントおよびグローバルステートメントが使用可能になります。

他の ODS 出力先とは異なり、DOCUMENT 出力先はタスクを実行するための GUI を備えています。ただし、DOCUMENT プロシジャを使用すれば、バッチステートメント構文で同じタスクを実行できます。**ドキュメントウィンドウと DOCUMENT プロシジャの比較**については、“**ドキュメントウィンドウと結果ウィンドウの比較**” (807 ページ)を参照してください。

DOCUMENT プロシジャの用語

現在のドキュメント
開いているドキュメントです。

現在のディレクトリ

開いているドキュメント内の、現在の場所です。'^'記号は現在のディレクトリを示します。

エントリ

ディレクトリ、出力オブジェクト、メモまたはリンクです。

グラフセグメント

グラフを含んでいる出力オブジェクトです。グラフ(SAS/GRAPH のものを含む)は、一部の SAS プロシジャで作成されます。グラフ出力オブジェクトは GRSEG として参照されます。

ODS ドキュメント

DOCUMENT プロシジャによって作成される出力オブジェクトの階層です。これらのオブジェクトは、出力形式が適用されず、SAS アイテムストアに配置されます。

パス

ODS ドキュメントを通して特定のエントリに達する回付先です。'^'記号は現在のディレクトリを示し、'^^'記号は親ディレクトリを示します。

再表示

分析の実行やデータベースクエリの繰り返しを行わずに、同一または異なる出力形式で出力を再表示することです。

ルートディレクトリ

ODS ドキュメントの最上階層です。ルートは別のディレクトリには含まれておらず、名前も割り当てられていません。ルートは、Windows ファイルシステムのルートディレクトリに似ています。

概念: DOCUMENT プロシジャ

ODS ドキュメントについて

定義

ODS ドキュメントは、プロシジャまたはデータクエリを元に作成された、出力オブジェクトの階層ファイルです。出力オブジェクトは、出力形式が適用されず、SAS アイテムストアに保存されます。階層は、プロシジャまたはデータクエリの内部ロジックによって制御されます。

ODS ドキュメントに含まれる項目

ODS ドキュメントでは、階層ファイルの各階層が、ファイル、リンクまたは出力オブジェクトの場所を参照するパスを表現します。出力オブジェクトは、次のいずれかになります。

- テーブル
- グラフ
- 式
- メモ
- SAS/GRAPH 外部グラフタイトル

ODS ドキュメントに含まれない項目

ODS ドキュメントに次の項目は含まれません。

- SAS ログ
- SAS システムオプション
- プロシジャオプション
- ODS オプション
- SAS/GRAPH オプション
- GRSEG (GRSEG そのものではなく GRSEG への参照が保存される)

ODS ドキュメントのパーシスタンス

ODS ドキュメントは、ドキュメントまたはドキュメントが含まれる SAS ライブラリが削除されない限り、SAS システム内に残存します。Sasuser ライブラリまたは別の SAS 永久ライブラリで作成された ODS ドキュメントは、プロシジャ出力の永久アーカイブとみなされるため、無期限に残存できます。ただし、Work library で作成された ODS ドキュメントが、作成元である SAS セッションよりも長く残存することはありません。SAS ライブラリについては、*SAS 言語リファレンス: 解説編*を参照してください。

ODS ドキュメントのパスについて**ODS ドキュメントのパスの定義**

ODS ドキュメントはアイテムストアとして保存されるため、このファイル出力形式によってクライアントアプリケーションは、“ファイル内での階層的なファイルシステム”を定義できます。これは、Windows 作業環境におけるディレクトリシステムに似ています。したがって、ODS ドキュメントのパスとは、エントリの場所を意味します。

エントリ名

エントリ名は次の規則に従います。

- 英数字を使用してください。
- 先頭の文字を英字にしてください。
- アンダースコアを使用できます。
- 文字数は 32 文字までです。
- 作業環境で指定される大小文字の条件(大文字、小文字、大小文字混合)とともに保存されます。
- ラベルの文字数は 256 文字までです。

エントリは、次の 3 通りの方法で ODS ドキュメントに挿入されます。

- 挿入した順に並ぶ(デフォルトの順序)
- 日時のスタンプに基づいて昇順で並ぶ
- アルファベット順で並ぶ

連番について

エントリ名は、ODS ドキュメント内で一意とする必要はありません。エントリ名には連番が含まれるため、一意に識別されます。ODS ドキュメント内の、ルートディレクトリを除いたすべてのエントリに連番が付いています。連番は、同一ディレクトリ内のエントリ

名同士で重複しない正の整数になります。エンタリには、それがディレクトリに追加された順序で連番が割り当てられます。たとえば、最初のエンタリ `myname` には連番 `1myname#1` が割り当てられます。2 番目のエンタリ `myname` には連番 `2myname#2` が割り当てられます。連番は、同一名を持つエンタリがすべて削除されるまで、再割り当てされることはありません。再割り当てされる場合、連番は最初の番号である 1 にリセットされます。

ODS ドキュメントと Base SAS プロシジャ

ほとんどの Base SAS プロシジャから、ODS ドキュメントを作成できます。PRINT、REPORT および TABULATE の各プロシジャは、ユーザーによって作成されたもので、かつ ODS の外部テンプレートによって定義されたものではないテーブルテンプレートを使用します。これらのプロシジャは、出力オブジェクトに対して、カスタムテーブルテンプレート、カスタムデータコンポーネントおよびカスタム出力形式を使用します。ただし、PRINT、TABULATE および REPORT の各プロシジャでは、ODS ドキュメントとそのすべての機能がサポートされています。

出力オブジェクトについて

出力オブジェクトは、次のいずれかになります。

- 式
- グラフ
- メモ
- テーブル

出力オブジェクトは情報と属性に関連付けられています。次の属性の一部または全部は、出力オブジェクトに関連するものです。

Note 以降

オブジェクトを作成するプロシジャによって、出力オブジェクトに対して割り当てられるメモです。このメモは、出力オブジェクトが表示されるたびに表示されます。Note 以降は、出力オブジェクトの後に表示されます。

Note 以前

オブジェクトを作成するプロシジャによって、出力オブジェクトに対して割り当てられるメモです。このメモは、出力オブジェクトが表示されるたびに表示されます。Note 以前は、出力オブジェクトの前に表示されます。

フットノート

FOOTNOTE ステートメントによって作成され、出力オブジェクトの作成時に表示されます。

改ページ

出力オブジェクトや、関連付けられたタイトルおよびメモが表示される前に、改ページを挿入します。

サブタイトル

出力オブジェクトを作成したプロシジャにより出力オブジェクトに対して割り当てられたタイトルです。このタイトルは、出力のページが新規に開始するたびに表示されます。

タイトル

TITLE ステートメントによって作成され、出力オブジェクトの作成時に表示されます。

出力オブジェクトの属性の表示順序は、次のとおりです。

1. 改ページ
2. タイトル
3. サブタイトル
4. Note 以前
5. 出力オブジェクト
6. Note 以後
7. フットノート

動作環境間での ODS ドキュメントの対話操作について

SAS の各バージョン間の互換性

お使いのバージョンの SAS で作成された ODS ドキュメントは、それ以降のバージョンの SAS と互換性があります。ほとんどの場合、以降のバージョンの SAS で作成された ODS ドキュメントは、以前のバージョンと互換性があります。

異なる動作環境間で ODS ドキュメントを移動することはできません。たとえば、Windows 作業環境で作成された ODS ドキュメントは、メインフレーム作業環境では使用できません。

構文: DOCUMENT プロシジャ

```

PROC DOCUMENT <オプション>;
  パス<(where 式)><、パス 2<(where 式 2)>>
  <、…パス n<(where 式 n)>> を次にコピーします。パス</オプション>;
REPLAY パス<(where 式)> <、パス-2<(where 式-2)>>
  <、…パス-n<(where 式-n)>> </オプション>;
DIR </パス>;
DOC <オプション>;

OSEHIDE パス <、パス-2、…パス-n>;
IMPORT DATA=データセット名 | GRSEG=グラフセグメント TO パス </オプション>;
LINK パス TO パス </オプション>;
LIST パス<(where 式)> <、パス-2<(where 式-2)>>
  <、…パス-n<(where 式-n)>> </オプション>;
MAKE パス <、パス-2、…パス-n> </オプション>;
MOVE パス<(where 式)> <、パス-2<(where 式-2)>>
  <、…パス-n<(where 式-n)>> TO パス </オプション>;
NOTE パス <'テキスト'> </オプション>;
OBANOTE<n> 出力オブジェクト<'テキスト'> </オプション>;
OBBNOTE<n> 出力オブジェクト<'テキスト'> </オプション>;
OBTITLE<n> 出力オブジェクト<'テキスト'>;
OBPAGE 出力オブジェクト </オプション>;
OBSTITLE<n> 出力オブジェクト<'テキスト'> </オプション>;
OBTEMPL 出力オブジェクト;
OBTITLE<n> 出力オブジェクト<'テキスト'>;
RENAME パス-1 TO パス-2;
REPLAY パス<(where 式)> <、パス-2<(where 式-2)>>
  <、…パス-n<(where 式-n)>> </オプション>;
SETLABEL パス 'ラベル';
UNHIDE パス <、パス-2、…パス-n>;
QUIT;

```

ステートメント	タスク	例
“PROC DOCUMENT ステートメント”	プロシジャを戻すことなく ODS 出力をレンダリングし、出力の構造および階層に対してより強い制御が可能です。	Ex. 2, Ex. 3, Ex. 4
“COPY TO ステートメント”	指定されたパスにエントリのコピーを挿入します。	
“DELETE ステートメント”	指定されたパス(複数の場合も含む)からエントリを削除します。	

ステートメント	タスク	例
“DIR ステートメント”	現在のディレクトリを設定または表示します。	Ex. 1, Ex. 2, Ex. 3
“DOC ステートメント”	ドキュメントとそのコンテンツを開き、ブラウズまたは編集します。	Ex. 1
“DOC CLOSE ステートメント”	現在のドキュメントを閉じます。	
“HIDE ステートメント”	ドキュメントが再表示されるときに出力が表示されないようにします。	
“IMPORT TO ステートメント”	データセットまたはグラフセグメントを現在のディレクトリにインポートします。	Ex. 5
“LINK ステートメント”	ある出力オブジェクトから別の出力オブジェクトへのシンボリックリンクを作成します。	
“LIST ステートメント”	1つ以上のエントリのコンテンツを表示します。	Ex. 1, Ex. 2, Ex. 3, Ex. 4
“MAKE ステートメント”	新規のディレクトリを1つ以上作成します。	
“MOVE TO ステートメント”	あるディレクトリから別のディレクトリへエントリを移動します。	
“NOTE ステートメント”	現在のディレクトリ内でテキスト文字列を作成します。	Ex. 3
“OBANOTE ステートメント”	指定された出力オブジェクトの後で、テキストの行を作成または変更します。	Ex. 3
“OBBNOTE ステートメント”	指定された出力オブジェクトの前で、テキストの行を作成または変更します。	Ex. 3
“OBFOOTN ステートメント”	出力オブジェクトが表示されるページの下部で、テキストの行を作成または変更します。	Ex. 3
“OBPAGE ステートメント”	出力オブジェクトの改ページを、作成または削除します。	Ex. 3
“OBSTITLE ステートメント”	サブタイトルを作成または変更します。	Ex. 3
“OBTEMPL ステートメント”	指定された出力オブジェクトに関連付けられた ODS テンプレートのソースコードを書き込みます。	Ex. 4
“OBTITLE ステートメント”	出力オブジェクトが表示されるページの上部で、テキストの行を作成または変更します。	Ex. 3
“RENAME TO ステートメント”	ディレクトリまたは出力オブジェクトに、別の名前を割り当てます。	
“REPLAY ステートメント”	開いている指定された ODS 出力先に対して、1つ以上のエントリを再表示します。	Ex. 2, Ex. 3

ステートメント	タスク	例
“SETLABEL ステートメント”	現在のエントリにラベルを割り当てます。	
“UNHIDE ステートメント”	非表示エントリの出力を、再表示時に表示できるようにします。	

PROC DOCUMENT ステートメント

変更対象のドキュメントを作成したり開いたりします。

デフォルト: ドキュメントは UPDATE アクセスモードで開きます。

制限事項: ユーザー定義の出力形式名は、ODS DOCUMENT 内で一意とする必要があります。

注: DOCUMENT 出力先が ODS DOCUMENT CLOSE ステートメントによって閉じていない場合、ODS はドキュメントにファイルを追加し続けます。

構文

PROC DOCUMENT <オプション<アクセスオプション>>;

オプション引数

NAME= <ライブラリ参照名>メンバ名<アクセスオプション>

新規または既存のドキュメントの名前と、そのアクセスモードを指定します。

<ライブラリ参照名>メンバ名

新規または既存の ODS ドキュメントを識別します。

デフォルト: ライブラリが指定されない場合は、Work ライブラリが使用されます。

制限事項: ODS ドキュメントは、SAS ライブラリメンバである必要があります。

アクセスオプション

ODS ドキュメントのアクセスモードを指定します。たとえば、次の PROC DOCUMENT ステートメントは、ドキュメント Work.MyDoc を更新モードで開きます。

```
proc document name=mydoc;
run;
```

デフォルト: UPDATE

READ

ドキュメントを開いて読み取り専用アクセスを付与する、アクセスオプションです。

要件 ドキュメントを READ アクセスモードで開くには、そのドキュメントが存在している必要があります。

操作: ラベルが LABEL=オプションで指定されている場合、そのラベルは無視されます。

WRITE

ドキュメントを開いて読み取り/書き込みアクセスを付与する、アクセスオプションです。たとえば、次の PROC DOCUMENT ステートメントは、ドキュメント Work.YourDoc を書き込みモードで開きます。

```
proc document name=yourdoc(write);
run;
```

操作: LABEL=オプションでラベルが指定されない場合は、ドキュメントに割り当てられた既存のラベルがすべてオーバーライドされます。

ヒント: ODS ドキュメントがない場合は、それが作成されます。

注意: 既存の ODS ドキュメントがある場合は、それが上書きされます。

UPDATE

ODS ドキュメントを開いてドキュメントに新規のコンテンツを追加する、アクセスオプションです。UPDATE は、読み取りアクセスの他に更新アクセスも付与します。

操作: LABEL=オプションでラベルが指定されている場合は、そのラベルがドキュメントに割り当てられます。

ヒント: ODS ドキュメントがない場合は、それが作成されます。

注意: 既存ドキュメントがある場合、その内容は変更されません。

LABEL='ラベル'

ドキュメントにラベルを割り当てます。たとえば、次の PROC DOCUMENT ステートメントは、ドキュメント Work.YourDoc を書き込みモードで開いてそれにラベルを割り当てます。

```
proc document name=yourdoc(write) label='repeated measures results';
run;
```

制限事項: ラベルは、書き込みアクセス権を持つドキュメントに対してのみ割り当てることができます。

要件 ラベルを引用符で囲みます。

COPY TO ステートメント

エントリを、指定されたパスにコピーします。

デフォルト: エントリをパスに挿入する場所をユーザーが指定しない場合は、そのエントリがパスの末尾に挿入されます。

構文

```
COPY パス <(where 式)> <, パス-2<(where 式-2)>>
<, ... パス-n<(where 式-n)>> TO パス </オプション>;
```

必須引数**パス**

リンク、出力オブジェクトまたはファイルがコピーされる場所です。

要件 複数のパスをカンマで区切ります。

ヒント: '^'記号は現在のディレクトリを示し、'^^'記号は親ディレクトリを示します。

オプション引数

AFTER=パス

エントリのコピーを、指定されたパスの後ろに挿入します。

ヒント: 記号'^'を使用して現在のディレクトリを示したり、記号'^^'を使用して親ディレクトリを示したりできます。

BEFORE=パス

エントリのコピーを、指定されたパスの前に挿入します。

ヒント: 記号'^'を使用して現在のディレクトリを示したり、記号'^^'を使用して親ディレクトリを示したりできます。

FIRST

エントリのコピーを、指定されたディレクトリの先頭に挿入します。たとえば、次の COPY TO ステートメントは、エントリ Monday_Report のコピーをルートディレクトリの先頭に挿入します。

```
copy weekly\monday_report to \ /first;
run;
```

LAST

エントリのコピーを、指定されたディレクトリの末尾に挿入します。

LEVELS= ALL | 値

コピーする階層の数を指定します。

ALL

すべての階層を指定します。

値

パスの階層の数値を指定します。たとえば、次の COPY TO ステートメントは、エントリ Weekly の 2 つの階層をエントリ Monthly にコピーします。

```
copy weekly to \work.mydoc\monthly /levels = 2;
run;
```

デフォルト: ALL

制限事項: LEVELS=オプションは、ユーザーがディレクトリを指定する場合のみ有効です。

(WHERE=(where 式-1<演算子>))

ODS ドキュメント内のエントリのサブセットを、条件に応じて選択します。

where 式

連続する演算子およびオペランドで構成された、数式または論理式です。

オペランド

次のいずれかです。

定数

日付リテラル、値、BY 変数値などの固定値です。

SAS 関数

SAS 関数については、*SAS 関数*と *CALL ルーチン: リファレンス*を参照してください。

サブセット変数

DOCUMENT プロシジャによって使用される、特殊な WHERE 式オペランドです。ODS ドキュメント内で共通の値を見つけるのに役立ちます。サブセット変数は次のとおりです。

CDATE

現在のエントリの作成日です。

例: 次の MOVE TO ステートメントは、作成日が 2004 年 7 月 16 日である 'Graph' タイプエントリ全部を、Work.MyDoc の [月単位] ディレクトリに移動します。

```
move ^ (where=( _type_ = 'Graph' and _cdate_ = '16JUL2004'd)) to
  \ work.mydoc\monthly;
run;
```

CDATETIME

現在のエントリの作成日時です。

例: 次の COPY TO ステートメントは、作成日時が 2003 年 5 月 1 日午前 9:30 のエントリ全部を、Work.MyDoc の [月単位] ディレクトリにコピーします。

```
copy ^ (where=( _cdatetime_ = '01may04:9:30:00'dt)) to \work.mydoc\monthly;
run;
```

CTIME

現在のエントリの作成時間です。

例: 次の DELETE ステートメントは、作成時刻が 9:25:19 PM であるエントリをすべて削除します。

```
delete ^ (where=( _ctime_ = '9:25:19pm't));
run;
```

LABEL

現在のエントリのラベルです。

例: 次の LIST ステートメントは、GLM プロシジャ内の、'Type III Model' というラベルが含まれるテーブルをすべて表示します。

```
list glm(where=( _type_ = 'table' _label_ ? 'Type III Model'));
run;
```

LABELPATH

現在のエントリのラベルへのパスです。ドキュメントラベルのパスは、ラベルと連番を連結し、それらをスラッシュ(/)で分割した形をとっています。ドキュメントラベルのパスは、ODS TRACE ステートメントによって指定されるラベルのパスに似ています。

たとえば、ODS TRACE ラベルのパスが次のようになっているとします。

```
'The Univariate Procedure'.'Normal_x'.'Histogram 1'
```

対応するドキュメントラベルのパスは、次のようになります。

```
'The Univariate Procedure'#1\'Normal_x'#1\'Histogram 1'#1
```

ドキュメントラベルのパスでは、"のインスタンスは"に置き換わりません。

参照項目: “ODS TRACE ステートメント” (696 ページ)

例: 次の LIST ステートメントには、ラベルのパスに“Fit Statistics”が含まれる項目がすべて表示されます。

```
list glm(where=( _labelpath_ ? "Fit Statistics"))/levels=all;
run;
```

MAX

最後のオブザベーションです。

制限事項:

MAX i は出力オブジェクトにのみ使用されます。

MAX は REPLAY ステートメントでのみ使用されます。

例: 次の REPLAY ステートメントは、最後のオブザベーションを除いたすべてのオブザベーションを再表示します。

```
replay class(where=(_obs_ < _max_));
```

MDATE

現在のエントリの変更日です。

例: 次の MOVE TO ステートメントは、変更日が 16JUL2004 である 'Graph' タイプのエントリ全部を、Work.MyDoc の [月単位] ディレクトリに移動します。

```
move ^(where=(_type_ = 'Graph' and _mdate_ = '16JUL2004'd)) to
  \work.mydoc\monthly;
run;
```

MDATETIME

現在のエントリの変更日時です。

例: 次の REPLAY ステートメントは、変更日時が 2003 年 5 月 1 日午前 9:30 であるエントリをすべて再表示します。

```
replay ^(where=(_mdatetime_ = '01may04:9:30:00'dt));
run;
```

MIN

最初のオブザベーションです。

制限事項:

MIN は出力オブジェクトにのみ使用されます。

MIN は常に 1 に設定され、

MIN は REPLAY ステートメントでのみ使用されます。

例: 次の REPLAY ステートメントは、最初のオブザベーションを除くすべてのオブザベーションを再表示します。

```
replay class(where=(_obs_ < _min_));
```

MTIME

現在のエントリの変更時刻です。

例: 次の COPY TO ステートメントは、変更時刻が 9:25:19 PM のエントリ全部を、Work.MyDoc の [月単位] ディレクトリにコピーします。

```
copy ^(where=(_mtime_ = '9:25:19pm't)) to \work.mydoc\monthly;
run;
```

NAME

現在のエントリの名前です。

例: 次の DELETE ステートメントは、GLM プロシジャ内の、'stemleng' という名前を含んでいるエントリをすべて削除します。

```
delete glm(where=(_name_ ? 'stemleng'));
```

OBS

出力オブジェクトにおける現在のオブザベーション数です。

制限事項:

OBS は出力オブジェクトにのみ使用されます。

OBS は REPLAY ステートメントでのみ使用されます。

例:

次の REPLAY ステートメントは最初の 10 個を除いたすべてのオブザベーションを再表示します。

```
replay class(where=(_obs_ > 10));
```

次の REPLAY ステートメントは、最後のオブザベーション以外のすべてのオブザベーションを再表示します。

```
replay class(where=(_obs_ < _max_));
```

次の REPLAY ステートメントは、最初の、3 番目の、5 番目の、7 番目の、および 9 番目のオブザベーションを再表示します。

```
replay class(where=(obs_ in (1,3,5,7,9)));
```

オブザベーション番号

表示されるオブザベーション番号です。

制限事項:

オブザベーション番号は、出力オブジェクトに対して使用されます。

オブザベーション番号 REPLAY ステートメントでのみ使用されません。

例: 次の REPLAY ステートメントは最初の、3 番目の、5 番目の、7 番目の、および 9 番目のオブザベーションを再表示します。

```
replay class(where=(obs_ in (1,3,5,7,9)));
```

オブザベーション変数

オブザベーションの名前です。

制限事項:

オブザベーション変数は、出力オブジェクトに対してのみ使用されません。

オブザベーション変数は、REPLAY ステートメントでのみ使用されません。

例:

次の REPLAY ステートメントは、変数 Weight が 100 より大きいオブザベーションをすべて再表示します。

```
replay class(where=(weight>100));
```

次の REPLAY ステートメントは、変数 Sex が 'F' であるオブザベーションをすべて再表示します。

```
replay class(where=(sex='F'));
```

PATH

現在のエントリのパスです。

例: 次の LIST ステートメントは、現在のディレクトリのすべての階層で、部分文字列 'Anova' が含まれているパスを持つエントリをすべて表示します。

```
list ^ (where=(path_ ? 'Anova'));
run;
```

SEQNO

現在のエントリの連番です。

参照項目: [“連番について” \(754 ページ\)](#)

例: 次の REPLAY ステートメントは、GLM プロシジャ内で、連番が 2 であるエントリをすべて再表示します。

```
replay glm(where=(seqno_ = 2));
```

TYPE

現在のエントリのタイプです。

例: 次の MOVE TO ステートメントは、作成日が 2004 年 7 月 16 日である 'Graph' タイプのエントリ全部を、Work.MyDoc の [月単位] ディレクトリに移動します。

```
move ^ (where=(type_ = 'Graph' and cdate_ = '16JUL2004'd)) to
\work.mydoc\monthly;
run;
```

変数名

BY 変数の名前です。

例: 次の MOVE TO ステートメントは、変数 Gender の値が 'F' であるエントリを全部を、Work.MyDoc の [月単位] ディレクトリに移動します。

```
move ^ (where= (gender='F')) to \work.mydoc\monthly;
run;
```

演算子

ある変数を、値または別の変数と比較します。演算子には、AND、OR、NOT、OR、AND NOT、または比較演算子を使用できます。

表 8.1 比較演算子

記号	対応する簡略記号	定義
=	EQ	等しい
^=、~=、!=、<>	NE	等しくない
>	GT	より大きい
<	LT	未満
>=	GE	以上
<=	LE	以下
	IN	値のリストにある 1 つに等しい

制限事項: REPLAY ステートメントの WHERE=オプションは、ディレクトリおよび出力オブジェクトに適用されます。次のステートメントでは、WHERE=オプションはディレクトリにのみ適用されます。

- COPY TO
- DELETE
- LIST
- MOVE TO

要件 引用符で *where* 式を囲みます。

参照項目: WHERE=データセットオプションで使用できる式なら、どれでも使用できます。WHERE データセットオプションで使用できる式については、WHERE データセットオプションを *SAS データセットオプション: リファレンス* で、および WHERE 式の処理に関するセクションを *SAS 言語リファレンス: 解説編* で参照してください。

例: “例 2: ODS ドキュメントを開き、リスト表示する” (815 ページ)

DELETE ステートメント

エントリを現在のディレクトリから削除します。

制限事項: ルートディレクトリは、削除も移動もできません。

注: DELETE ステートメントは、指定されたパスより下位にあるディレクトリのすべての階層に影響します。

構文

```
DELETE パス<(where 式)> <, パス-2<(where 式-2)>>
<, ... パス-n<(where 式-n)>> </ LEVELS=ALL | 値>;
```

必須引数

パス

1 つ以上のリンク、出力オブジェクト、またはディレクトリの、場所を指定します。たとえば、次の DELETE ステートメントは、ClassLevels エントリおよび Nobs エントリを現在のディレクトリから削除します。

```
delete classlevels, nobs;
run;
```

要件 複数のパスをカンマで区切ります。

ヒント: 記号'^'を使用して現在のディレクトリを示したり、記号'^^^'を使用して親ディレクトリを示したりできます。

オプション引数

LEVELS= ALL | 値

削除する階層の数を指定します。

ALL

すべての階層を指定します。

値

パスの階層の数値を指定します。

デフォルト: ALL

制限事項: LEVELS=オプションは、ユーザーがディレクトリを指定する場合のみ有効です。

(WHERE=(where 式-1<演算子>))

ODS ドキュメント内のエントリのサブセットを、条件に応じて選択します。

where 式

連続する演算子およびオペランドで構成された、数式または論理式です。

オペランド

次のいずれかです。

定数

日付リテラル、値、BY 変数値などの固定値です。

SAS 関数

SAS 関数については、*SAS 関数と CALL ルーチン: リファレンス*を参照してください。

サブセット変数

DOCUMENT プロシジャによって使用される、特殊な WHERE 式オペランドです。ODS ドキュメント内で共通の値を見つけるのに役立ちます。サブセット変数は次のとおりです。

CDATE

現在のエントリの作成日です。

例: 次の MOVE TO ステートメントは、作成日が 2004 年 7 月 16 日である'Graph'タイプエントリ全部を、Work.MyDoc の[月単位]ディレクトリに移動します。

```
move ^ (where=( _type_ = 'Graph' and _cdate_ = '16JUL2004'd)) to
  \ work.mydoc\monthly;
run;
```

CDATETIME

現在のエントリの作成日時です。

例: 次の COPY TO ステートメントは、作成日時が 2003 年 5 月 1 日午前 9:30 のエントリ全部を、Work.MyDoc の[月単位]ディレクトリにコピーします。

```
copy ^ (where=( _cdatetime_ = '01may04:9:30:00'dt)) to \work.mydoc\monthly;
run;
```

CTIME

現在のエントリの作成時間です。

例: 次の DELETE ステートメントは、作成時刻が 9:25:19 PM であるエントリをすべて削除します。

```
delete ^ (where=( _ctime_ = '9:25:19pm't));
run;
```

LABEL

現在のエントリのラベルです。

例: 次の LIST ステートメントは、GLM プロシジャ内の、'Type III Model' というラベルが含まれるテーブルをすべて表示します。

```
list glm(where=( _type_ = 'table' _label_ ? 'Type III Model'));
run;
```

LABELPATH

現在のエントリのラベルへのパスです。ドキュメントラベルのパスは、ラベルと連番を連結し、それらをスラッシュ(/)で分割した形をとっています。ドキュメントラベルのパスは、ODS TRACE ステートメントによって指定されるラベルのパスに似ています。

たとえば、ODS TRACE ラベルのパスが次のようになっているとします。

```
'The Univariate Procedure'.'Normal_x'.'Histogram 1'
```

対応するドキュメントラベルのパスは、次のようになります。

```
'The Univariate Procedure'#1\'Normal_x'#1\'Histogram 1'#1
```

ドキュメントラベルのパスでは、"のインスタンスは"に置き換わりません。

参照項目: “ODS TRACE ステートメント” (696 ページ)

例: 次の LIST ステートメントには、ラベルのパスに“Fit Statistics”が含まれる項目がすべて表示されます。

```
list glm(where=( _labelpath_ ? "Fit Statistics"))/levels=all;
run;
```

MAX

最後のオブザベーションです。

制限事項:

MAX i は出力オブジェクトにのみ使用されます。

MAX は REPLAY ステートメントでのみ使用されます。

例: 次の REPLAY ステートメントは、最後のオブザベーションを除いたすべてのオブザベーションを再表示します。

```
replay class(where=( _obs_ < _max_));
```

MDATE

現在のエントリの変更日です。

例: 次の MOVE TO ステートメントは、変更日が 16JUL2004 である 'Graph' タイプのエントリ全部を、Work.MyDoc の[月単位]ディレクトリに移動します。

```
move ^(where=(_type_ = 'Graph' and _mdate_ = '16JUL2004'd)) to
  \work.mydoc\monthly;
run;
```

MDATETIME

現在のエントリの変更日時です。

例: 次の REPLAY ステートメントは、変更日時が 2003 年 5 月 1 日午前 9:30 であるエントリをすべて再表示します。

```
replay ^(where=(_mdatetime_ = '01may04:9:30:00'dt));
run;
```

MIN

最初のオブザベーションです。

制限事項:

MIN は出力オブジェクトにのみ使用されます。

MIN は常に 1 に設定され、

MIN は REPLAY ステートメントでのみ使用されます。

例: 次の REPLAY ステートメントは、最初のオブザベーションを除くすべてのオブザベーションを再表示します。

```
replay class(where=(_obs_ < _min_));
```

MTIME

現在のエントリの変更時刻です。

例: 次の COPY TO ステートメントは、変更時刻が 9:25:19 PM のエントリ全部を、Work.MyDoc の[月単位]ディレクトリにコピーします。

```
copy ^(where=(_mtime_ = '9:25:19pm't)) to \work.mydoc\monthly;
run;
```

NAME

現在のエントリの名前です。

例: 次の DELETE ステートメントは、GLM プロシジャ内の、'stemleng' という名前を含んでいるエントリをすべて削除します。

```
delete glm(where=(_name_ ? 'stemleng'));
```

OBS

出力オブジェクトにおける現在のオブザベーション数です。

制限事項:

OBS は出力オブジェクトにのみ使用されます。

OBS は REPLAY ステートメントでのみ使用されます。

例:

次の REPLAY ステートメントは最初の 10 個を除いたすべてのオブザベーションを再表示します。

```
replay class(where=(_obs_ > 10));
```

次の REPLAY ステートメントは、最後のオブザベーション以外のすべてのオブザベーションを再表示します。

```
replay class(where=(_obs_ < _max_));
```

次の REPLAY ステートメントは、最初の、3 番目の、5 番目の、7 番目の、および 9 番目のオブザベーションを再表示します。

```
replay class(where=(_obs_ in (1,3,5,7,9)));
```

オブザベーション番号

表示されるオブザベーション番号です。

制限事項:

オブザベーション番号は、出力オブジェクトに対して使用されます。
オブザベーション番号 REPLAY ステートメントでのみ使用されま
す。

例: 次の REPLAY ステートメントは最初の、3 番目の、5 番目の、7 番
目の、および 9 番目のオブザベーションを再表示します。

```
replay class(where=( _obs_ in (1,3,5,7,9)));
```

オブザベーション変数

オブザベーションの名前です。

制限事項:

オブザベーション変数は、出力オブジェクトに対してのみ使用されま
す。
オブザベーション変数は、REPLAY ステートメントでのみ使用されま
す。

例:

次の REPLAY ステートメントは、変数 Weight が 100 より大きいオ
ブザベーションをすべて再表示します。

```
replay class(where=(weight>100));
```

次の REPLAY ステートメントは、変数 Sex が 'F' であるオブザベ
ーションをすべて再表示します。

```
replay class(where=(sex='F'));
```

PATH

現在のエントリのパスです。

例: 次の LIST ステートメントは、現在のディレクトリのすべての階層で、
部分文字列 'Anova' が含まれているパスを持つエントリをすべて表
示します。

```
list ^(where=( _path_ ? 'Anova' ));  
run;
```

SEQNO

現在のエントリの連番です。

参照項目: [“連番について” \(754 ページ\)](#)

例: 次の REPLAY ステートメントは、GLM プロシジャ内で、連番が 2 で
あるエントリをすべて再表示します。

```
replay glm(where=( _seqno_ = 2 ));
```

TYPE

現在のエントリのタイプです。

例: 次の MOVE TO ステートメントは、作成日が 2004 年 7 月 16 日
である 'Graph' タイプのエントリ全部を、Work.MyDoc の [月単位] ディレ
クトリに移動します。

```
move ^(where=( _type_ = 'Graph' and _cdate_ = '16JUL2004'd)) to  
  \work.mydoc\monthly;  
run;
```

変数名

BY 変数の名前です。

例: 次の MOVE TO ステートメントは、変数 Gender の値が 'F' であるエ
ントリを全部を、Work.MyDoc の [月単位] ディレクトリに移動します。

```
move ^(where=(gender='F')) to \work.mydoc\monthly;  
run;
```

演算子

ある変数を、値または別の変数と比較します。演算子には、AND、OR、NOT、OR、AND NOT、または比較演算子を使用できます。

表 8.2 比較演算子

記号	対応する簡略記号	定義
=	EQ	等しい
^=、~=、!=、<>	NE	等しくない
>	GT	より大きい
<	LT	未満
>=	GE	以上
<=	LE	以下
	IN	値のリストにある 1 つに等しい

制限事項: REPLAY ステートメントの WHERE=オプションは、ディレクトリおよび出力オブジェクトに適用されます。次のステートメントでは、WHERE=オプションはディレクトリにのみ適用されます。

- COPY TO
- DELETE
- LIST
- MOVE TO

要件 引用符で *where* 式を囲みます。

参照項目: WHERE=データセットオプションで使用できる式なら、どれでも使用できます。WHERE データセットオプションで使用できる式については、WHERE データセットオプションを *SAS データセットオプション: リファレンス*で、および WHERE 式の処理に関するセクションを *SAS 言語リファレンス: 解説編*で参照してください。

例: “例 2: ODS ドキュメントを開き、リスト表示する” (815 ページ)

DIR ステートメント

現在のディレクトリを設定または表示します。

- 例:** “例 1: ディレクトリへの移動とエントリの表示” (810 ページ)
 “例 2: ODS ドキュメントを開き、リスト表示する” (815 ページ)
 “例 3: エントリの管理” (818 ページ)

構文

DIR <パス>;

引数なし

オプションが指定されない場合は、DIR ステートメントが現在のパスを表示します。

オプション引数

パス

現在のディレクトリを設定します。たとえば、次の DIR ステートメントは、現在のディレクトリを、現在のドキュメント内の '\report\glm' に設定します。

```
dir \report\glm;
run;
```

ヒント: 記号 '^' を使用して現在のディレクトリを示したり、記号 '^..' を使用して親ディレクトリを示したりできます。

DOC ステートメント

ドキュメントとそのコンテンツを開き、ブラウズまたは編集します。

デフォルト: キュメントは UPDATE アクセスモードで開きます。

例: “例 1: ディレクトリへの移動とエントリの表示” (810 ページ)
 “例 2: ODS ドキュメントを開き、リスト表示する” (815 ページ)

構文

DOC <オプション<アクセスオプション>>;

引数なし

オプションが指定されない場合、DOC ステートメントは、すべての SAS ライブラリの ODS ドキュメントをアルファベット順で表示します。ドキュメントラベル(もしあれば)が表示されます。

オプション引数

LABEL=ラベル

ドキュメントにラベルを割り当てます。たとえば、次の DOC ステートメントは、ドキュメント Work.YourDoc を書き込みモードで開いてそれにラベルを割り当てます。

```
doc name=yourdoc(write) label='repeated measures results';
run;
```

制限事項: ラベルは、書き込みアクセス権を持つドキュメントに対してのみ割り当てることができます。

要件:

LABEL=オプションを使用するには、DOC ステートメントで NAME=オプションを指定します。

ラベルを引用符で囲みます。

LIBRARY=ライブラリ名

ドキュメント指定されたライブラリ名のドキュメントのみが表示されるように指定します。

別名: LIB=

操作: LIBRARY=オプションは、NAME=オプションまたは LABEL=オプションの中では指定できません。

NAME=ライブラリ参照名.メンバ名<アクセスオプション>

ドキュメントに割り当てる名前と、ドキュメントのアクセスモードを指定します。

<ライブラリ参照名>メンバ名

ドキュメントを識別します。

デフォルト: ライブラリが指定されない場合は、Work ライブラリが使用されま
す。

制限事項: ドキュメントは、SAS ライブラリメンバである必要があります。

アクセスオプション

ドキュメントのアクセスモードを指定します。

READ

ドキュメントを開いて読み取り専用アクセスを付与します。

操作: ラベルが LABEL=オプションで指定されている場合、そのラベルは
無視されます。

WRITE

ドキュメントを開いて書き込みアクセスを付与します(ユーザーが書き込み
権限を持っている場合のみ)。

注意:

既存ドキュメントがある場合は、それが上書きされます。ドキュメントがない場合
は、それが作成されます。

操作: LABEL=オプションでラベルが指定されない場合は、ドキュメントに割
り当てられた既存のラベルがすべてオーバーライドされます。

UPDATE

ドキュメントを開いて更新アクセスを付与します(ユーザーが更新権限を持
っている場合のみ)。

操作: LABEL=オプションでラベルが指定されている場合は、そのラベルが
ドキュメントに割り当てられます。

ヒント: 既存ドキュメントがある場合、その内容は変更されず、新規の内容
はそのドキュメントに追加されます。ドキュメントがない場合は、それが
作成されます。

DOC CLOSE ステートメント

現在のドキュメントを閉じます。

構文

DOC CLOSE;

HIDE ステートメント

ドキュメントが再表示されるときに出力が表示されないようにします。

ヒント: 現在のドキュメントで非表示になっているエントリを確認するには、LIST ステートメントを使用します。

構文

HIDE パス<, パス-2, ... パス-n>;

必須引数

パス

非表示にするファイルの場所を指定します。

要件 複数のパスをカンマで区切ります。

ヒント: 記号'^'を使用して現在のディレクトリを示したり、記号'^^'を使用して親ディレクトリを示したりできます。

IMPORT TO ステートメント

指定された SAS データセットまたはグラフセグメントを、指定されたパスにインポートします。

例: “例 5: リスト出力と SAS プログラムのインポート” (832 ページ)

構文

IMPORT DATA=データセット名 <データセットオプション> | **GRSEG=グラフセグメント TO** パス </オプション>

必須引数

DATA=データセット名

インポートする既存の SAS データセットを指定します。

GRSEG=グラフセグメント

グラフセグメントへの参照を保存します。

グラフセグメント

3 階層のカatalogパス名を指定します。たとえば、
GRSEG=Sasuser.grseg.mygraph のように指定します。

参照項目: GRSEG=オプションを次で参照してください。SAS/GRAPH: Reference

パス

データセットまたはグラフセグメントをインポートする場所を指定します。

ヒント: 記号'^'を使用して現在のディレクトリを示したり、記号'^^'を使用して親ディレクトリを示したりできます。

オプション引数

AFTER=パス

データセットまたはグラフセグメントを、指定されたパスより下位のディレクトリにインポートします。

ヒント: 記号'^'を使用して現在のディレクトリを示したり、記号'^^'を使用して親ディレクトリを示したりできます。

BEFORE=パス

データセットまたはグラフセグメントを、指定されたパスより上位のディレクトリにインポートします。たとえば、次の IMPORT TO ステートメントは、データセット Sashelp.Class を現在のディレクトリにインポートし、そのデータセットをエントリ MyInfo の手前に挿入します。

```
import data=sashelp.class to ^ /before=MyInfo;
run;
```

ヒント: 記号'^'を使用して現在のディレクトリを示したり、記号'^^'を使用して親ディレクトリを示したりできます。

データセットオプション

SAS データセットにのみ適用されるアクションを指定します。

参照項目: SAS データセットオプション: リファレンス SAS データセットおよびそのオプションについての情報

FIRST

データセットまたはグラフセグメントを、ディレクトリの先頭にインポートします。

LAST

データセットまたはグラフセグメントを、ディレクトリの末尾にインポートします。

TEXTFILE=<ファイル名 | ファイル参照名>

テキストファイルを ODS ドキュメントにインポートします。この ODS ドキュメントは再表示されて、ODS 出力先が開かれます。

ファイル名

ファイル名を指定します。ファイル名は、リストファイル、SAS プログラム、またはその他のテキストファイルとすることができます。

要件 ファイル名は引用符で囲む必要があります。

ファイル参照名

外部ファイルに割り当てられているファイル参照です。FILENAME ステートメントを使用してファイル参照を割り当てます。

参照項目: FILENAME ステートメントについては、次を参照してください。SAS ステートメント: リファレンス

例: “例 5: リスト出力と SAS プログラムのインポート” (832 ページ)

LINK ステートメント

ある指定されたエントリから別の指定されたエントリへのシンボリックリンクを作成します。

構文

LINK パス TO パス </ オプション>;

必須引数**パス**

相互にリンクを設定したいエントリの場所を指定します。

ヒント: 記号'^'を使用して現在のディレクトリを示したり、記号'^^'を使用して親ディレクトリを示したりできます。

オプション引数**AFTER=パス**

現在のディレクトリ内の、指定されたパスに続くエントリにリンクします。

ヒント: 記号'^'を使用して現在のディレクトリを示したり、記号'^^'を使用して親ディレクトリを示したりできます。

BEFORE=パス

現在のディレクトリ内の、指定されたパスに先行するエントリにリンクします。

ヒント: 記号'^'を使用して現在のディレクトリを示したり、記号'^^'を使用して親ディレクトリを示したりできます。

FIRST

現在のディレクトリ内の最初のエントリにリンクします。

HARD

ODS ドキュメント内の出力オブジェクトのコピーを参照するリンクのタイプを指定します。名前とラベルを除くすべてのデータが、リンクとジャンプ先の間で共有されません。

たとえば、次の LINK ステートメントは、現在のディレクトリ内で、出力オブジェクト ErrorSSCP から出力オブジェクト LinkedErrorSSCP へのハードリンクを作成します。

```
link errorSSCP to linkederrorSSCP /hard;
run;
```

制限事項: 1 つのハードリンクは 1 つの出力オブジェクトのみを参照でき、そのソースパスとターゲットパスは同一の ODS ドキュメント内に存在している必要があります。ハードリンクを作成するときは、そのジャンプ先が存在している必要があります。

操作: ハードリンクとそのジャンプ先は、別個に存在します。ハードリンクを削除してもジャンプ先は影響を受けません。同様に、ジャンプ先を削除してもハードリンクは影響を受けません。

LABEL

ソースラベルをリンクにコピーします。

デフォルト: ソースラベルは、LABEL オプションが指定されない限り、コピーされません。

LAST

現在のディレクトリ内の最後のエントリにリンクします。

LIST ステートメント

1 つ以上のエントリのコンテンツを表示します。

デフォルト: DETAILS オプションが省略された場合は、要約情報のみが表示されます。ORDER=オプションが省略された場合は、指定されたエントリのコンテンツが、INSERT オプションによって指定された順序で表示されます。

ヒント: 現在のディレクトリで非表示になっているエントリを確認するには、LIST ステートメントを使用します。

例: “例 1: ディレクトリへの移動とエントリの表示” (810 ページ)
 “例 2: ODS ドキュメントを開き、リスト表示する” (815 ページ)
 “例 3: エントリの管理” (818 ページ)
 “例 4: BY グループのエントリの表示” (827 ページ)

構文

```
LIST パス<(where 式)> <, パス-2<(where 式-2)>>
<,..., パス-n<(where 式-n)>> </ オプション>;
```

必須引数

パス

エントリの場所を指定します。エントリは、1 つ以上のリンク、出力オブジェクト、またはディレクトリとすることができます。たとえば、次の LIST ステートメントは、Report エントリ内のエントリをすべて表示します。

```
list \sasuser.imports\report;
run;
```

要件 複数のパスをカンマで区切ります。

ヒント: 記号'^'を使用して現在のディレクトリを示したり、記号'^^^'を使用して親ディレクトリを示したりできます。

オプション引数

BYGROUPS

エントリリストに BY 変数の列を作成します。BY 変数の名前は列名になります。BY 変数の値は列に表示されます。

注: BYGROUPS オプションを指定すると、BY グループの情報を含んでいるエントリのみが表示されます。

操作: BYGROUPS オプションを指定するときは、同時に LEVELS=ALL オプションも指定することをお勧めします。LEVELS=ALL オプションが指定されない場合、ODS は、一部の階層のディレクトリ内で BY グループの情報を見つけることができません。

例: “例 4: BY グループのエントリの表示” (827 ページ)

DETAILS

エントリのプロパティを指定します。たとえば、次の LIST ステートメントは、3 つの階層の Report エントリについて詳細を表示します。

```
list \sasuser.imports\report /details levels=3;
run;
```

list/levels=all details;と指定すると、次の列のテーブルが生成されます。

作成日	エントリの作成日を表示します。
ラベル	エントリのラベルを表示します。
変更日	エントリが最後に変更された日付を表示します。
改ページ	(もしあれば)改ページの前または後に表示されます。
パス	エントリのパスを表示します。
[●Size in Bytes]	エントリのサイズをバイト数で表示します。
[●Symbolic Link]	エントリに関連付けられているシンボリックリンク(もしあれば)を表示します。
テンプレート	エントリに関連付けられているテンプレート(もしあれば)を表示します。
種類	エントリのタイプを表示します。

FOLLOW

すべてのリンクを解決して、エントリのコンテンツを表示します。

LEVELS= ALL | 値

表示する階層の数を指定します。

ALL

すべての階層を指定します。

値

パスの階層の数値を指定します。たとえば、次の LIST ステートメントは、3 つの階層の Report エントリについて詳細を表示します。

```
list \sasuser.imports\report /details levels=3;
run;
```

デフォルト: LEVELS=オプションを省略すると、階層のデフォルト値は 1 になります。

制限事項: LEVELS=オプションは、ユーザーがディレクトリを指定する場合のみ有効です。

ORDER= ALPHA | DATE | INSERT

エントリが表示される順序を指定します。

ALPHA

エントリをアルファベット順で表示します。

DATE

ファイルの作成日時を基準に、ディレクトリを昇順で表示します。

INSERT

エントリが挿入された順序でディレクトリを表示します。

(WHERE=(where 式-1<演算子>))

ODS ドキュメント内のエントリのサブセットを、条件に応じて選択します。

where 式

連続する演算子およびオペランドで構成された、数式または論理式です。

オペランド

次のいずれかです。

定数

日付リテラル、値、BY 変数値などの固定値です。

SAS 関数

SAS 関数については、*SAS 関数*と*CALL ルーチン: リファレンス*を参照してください。

サブセット変数

DOCUMENT プロシジャによって使用される、特殊な WHERE 式オペランドです。ODS ドキュメント内で共通の値を見つけるのに役立ちます。サブセット変数は次のとおりです。

CDATE

現在のエントリの作成日です。

例: 次の MOVE TO ステートメントは、作成日が 2004 年 7 月 16 日である 'Graph' タイプエントリ全部を、Work.MyDoc の [月単位] ディレクトリに移動します。

```
move ^(where=( _type_ = 'Graph' and _cdate_ = '16JUL2004'd)) to
  \ work.mydoc\monthly;
run;
```

CDATETIME

現在のエントリの作成日時です。

例: 次の COPY TO ステートメントは、作成日時が 2003 年 5 月 1 日午前 9:30 のエントリ全部を、Work.MyDoc の [月単位] ディレクトリにコピーします。

```
copy ^ (where=( _cdatetime_ = '01may04:9:30:00'dt)) to \work.mydoc\monthly;
run;
```

CTIME

現在のエントリの作成時間です。

例: 次の DELETE ステートメントは、作成時刻が 9:25:19 PM であるエントリをすべて削除します。

```
delete ^ (where=( _ctime_ = '9:25:19pm't));
run;
```

LABEL

現在のエントリのラベルです。

例: 次の LIST ステートメントは、GLM プロシジャ内の、'Type III Model' というラベルが含まれるテーブルをすべて表示します。

```
list glm(where=( _type_ = 'table' _label_ ? 'Type III Model'));
run;
```

LABELPATH

現在のエントリのラベルへのパスです。ドキュメントラベルのパスは、ラベルと連番を連結し、それらをスラッシュ(/)で分割した形をとっています。ドキュメントラベルのパスは、ODS TRACE ステートメントによって指定されるラベルのパスに似ています。

たとえば、ODS TRACE ラベルのパスが次のようになっているとします。

```
'The Univariate Procedure'. 'Normal_x'. 'Histogram 1'
```

対応するドキュメントラベルのパスは、次のようになります。

```
'The Univariate Procedure'#1\ 'Normal_x'#1\ 'Histogram 1'#1
```

ドキュメントラベルのパスでは、"の"インスタンスは"\"に置き換わりません。

参照項目: “ODS TRACE ステートメント” (696 ページ)

例: 次の LIST ステートメントには、ラベルのパスに“Fit Statistics”が含まれる項目がすべて表示されます。

```
list glm(where=( _labelpath_ ? "Fit Statistics"))/levels=all;
run;
```

MAX

最後のオブザベーションです。

制限事項:

MAX i は出力オブジェクトにのみ使用されます。

MAX は REPLAY ステートメントでのみ使用されます。

例: 次の REPLAY ステートメントは、最後のオブザベーションを除いたすべてのオブザベーションを再表示します。

```
replay class(where=( _obs_ < _max_));
```

MDATE

現在のエントリの変更日です。

例: 次の MOVE TO ステートメントは、変更日が 16JUL2004 である 'Graph' タイプのエントリ全部を、Work.MyDoc の[月単位]ディレクトリに移動します。

```
move ^ (where=( _type_ = 'Graph' and _mdate_ = '16JUL2004'd)) to
\work.mydoc\monthly;
run;
```

MDATETIME

現在のエントリの変更日時です。

例: 次の REPLAY ステートメントは、変更日時が 2003 年 5 月 1 日午前 9:30 であるエントリをすべて再表示します。

```
replay ^(where=(_mdatetime_ = '01may04:9:30:00'dt));
run;
```

MIN

最初のオブザベーションです。

制限事項:

MIN は出力オブジェクトにのみ使用されます。

MIN は常に 1 に設定され、

MIN は REPLAY ステートメントでのみ使用されます。

例: 次の REPLAY ステートメントは、最初のオブザベーションを除くすべてのオブザベーションを再表示します。

```
replay class(where=(_obs_ < _min_));
```

MTIME

現在のエントリの変更時刻です。

例: 次の COPY TO ステートメントは、変更時刻が 9:25:19 PM のエントリ全部を、Work.MyDoc の[月単位]ディレクトリにコピーします。

```
copy ^(where=(_mtime_ = '9:25:19pm't)) to \work.mydoc\monthly;
run;
```

NAME

現在のエントリの名前です。

例: 次の DELETE ステートメントは、GLM プロシジャ内の、'stemleng' という名前を含んでいるエントリをすべて削除します。

```
delete glm(where=(_name_ ? 'stemleng'));
```

OBS

出力オブジェクトにおける現在のオブザベーション数です。

制限事項:

OBS は出力オブジェクトにのみ使用されます。

OBS は REPLAY ステートメントでのみ使用されます。

例:

次の REPLAY ステートメントは最初の 10 個を除いたすべてのオブザベーションを再表示します。

```
replay class(where=(_obs_ > 10));
```

次の REPLAY ステートメントは、最後のオブザベーション以外のすべてのオブザベーションを再表示します。

```
replay class(where=(_obs_ < _max_));
```

次の REPLAY ステートメントは、最初の、3 番目の、5 番目の、7 番目の、および 9 番目のオブザベーションを再表示します。

```
replay class(where=(_obs_ in (1,3,5,7,9)));
```

オブザベーション番号

表示されるオブザベーション番号です。

制限事項:

オブザベーション番号は、出力オブジェクトに対して使用されます。

オブザベーション番号 REPLAY ステートメントでのみ使用されず。

例: 次の REPLAY ステートメントは最初の、3 番目の、5 番目の、7 番目の、および 9 番目のオブザベーションを再表示します。

```
replay class(where=(_obs_ in (1,3,5,7,9)));
```

オブザベーション変数

オブザベーションの名前です。

制限事項:

オブザベーション変数は、出力オブジェクトに対してのみ使用されません。

オブザベーション変数は、REPLAY ステートメントでのみ使用されません。

例:

次の REPLAY ステートメントは、変数 Weight が 100 より大きいオブザベーションをすべて再表示します。

```
replay class (where=(weight>100));
```

次の REPLAY ステートメントは、変数 Sex が 'F' であるオブザベーションをすべて再表示します。

```
replay class (where=(sex='F'));
```

PATH

現在のエントリのパスです。

例: 次の LIST ステートメントは、現在のディレクトリのすべての階層で、部分文字列 'Anova' が含まれているパスを持つエントリをすべて表示します。

```
list ^ (where=( _path_ ? 'Anova' ));
run;
```

SEQNO

現在のエントリの連番です。

参照項目: “連番について” (754 ページ)

例: 次の REPLAY ステートメントは、GLM プロシジャ内で、連番が 2 であるエントリをすべて再表示します。

```
replay glm (where=( _seqno_ = 2 ));
```

TYPE

現在のエントリのタイプです。

例: 次の MOVE TO ステートメントは、作成日が 2004 年 7 月 16 日である 'Graph' タイプのエントリ全部を、Work.MyDoc の [月単位] ディレクトリに移動します。

```
move ^ (where=( _type_ = 'Graph' and _cdate_ = '16JUL2004'd )) to
  \work.mydoc\monthly;
run;
```

変数名

BY 変数の名前です。

例: 次の MOVE TO ステートメントは、変数 Gender の値が 'F' であるエントリを全部を、Work.MyDoc の [月単位] ディレクトリに移動します。

```
move ^ (where=( gender='F' )) to \work.mydoc\monthly;
run;
```

演算子

ある変数を、値または別の変数と比較します。演算子には、AND、OR、NOT、OR、AND NOT、または比較演算子を使用できます。

表 8.3 比較演算子

記号	対応する簡略記号	定義
=	EQ	等しい

記号	対応する簡略記号	定義
\neq , \sim , \neq , \diamond	NE	等しくない
$>$	GT	より大きい
$<$	LT	未満
\geq	GE	以上
\leq	LE	以下
	IN	値のリストにある 1 つに等しい

制限事項: REPLAY ステートメントの WHERE=オプションは、ディレクトリおよび出力オブジェクトに適用されます。次のステートメントでは、WHERE=オプションはディレクトリにのみ適用されます。

- COPY TO
- DELETE
- LIST
- MOVE TO

要件 引用符で *where* 式を囲みます。

参照項目: WHERE=データセットオプションで使用できる式なら、どれでも使用できます。WHERE データセットオプションで使用できる式については、WHERE データセットオプションを *SAS データセットオプション: リファレンス* で、および WHERE 式の処理に関するセクションを *SAS 言語リファレンス: 解説編* で参照してください。

例: “例 2: ODS ドキュメントを開き、リスト表示する” (815 ページ)

MAKE ステートメント

1 つ以上のディレクトリを新規に作成します。

デフォルト: 場所が指定されない場合は、新規に作成されたディレクトリは現在のディレクトリの末尾に追加されます。

構文

MAKE *パス* \langle , *パス-2*, ... *パス-n* \rangle \langle / *オプション* \rangle ;

必須引数

パス

新規に作成されたディレクトリを指定します。

要件 複数のパスをカンマで区切ります。

ヒント: 記号'^'を使用して現在のディレクトリを示したり、記号'^^'を使用して親ディレクトリを示したりできます。

オプション引数

AFTER=パス

新規に作成されたディレクトリを、現在のディレクトリ内の指定されたパスの後に追加します。

ヒント: 記号'^'を使用して現在のディレクトリを示したり、記号'^^'を使用して親ディレクトリを示したりできます。

BEFORE=パス

新規に作成されたディレクトリを、現在のディレクトリ内の指定されたパスの前に追加します。

ヒント: 記号'^'を使用して現在のディレクトリを示したり、記号'^^'を使用して親ディレクトリを示したりできます。

FIRST

新規に作成されたディレクトリを、現在のディレクトリ内の先頭に追加します。

LAST

新規に作成されたディレクトリを、現在のディレクトリ内の末尾に追加します。

MOVE TO ステートメント

エントリを、指定された場所から別の場所へ移動します。

制限事項: ルートディレクトリは、移動も削除もできません。

要件 複数のパスをカンマで区切ります。

ヒント: MOVE TO ステートメントは、指定された開始レベルより下層にあるディレクトリの全階層に影響します。

構文

```
MOVE パス<(where 式)> <, パス-2<(where 式-2)>>  
<, ... パス-n<(where 式-n)>> TO パス </ オプション>;
```

必須引数

パス

移動するリンク、出力オブジェクトまたはファイルの、場所を指定します。

注意:

MOVE TO ステートメントは、指定された開始レベルより下層にあるディレクトリの全階層に影響します。

ヒント: 記号'^'を使用して現在のディレクトリを示したり、記号'^^'を使用して親ディレクトリを示したりできます。

オプション引数

AFTER=パス

エントリを、パス内の指定されたエントリの後ろへ移動します。

ヒント: 記号'^'を使用して現在のディレクトリを示したり、記号'^^'を使用して親ディレクトリを示したりできます。

BEFORE=パス

エントリを、パス内の指定されたエントリの前へ移動します。

ヒント: 記号'^'を使用して現在のディレクトリを示したり、記号'^^^'を使用して親ディレクトリを示したりできます。

FIRST

エントリを、指定されたディレクトリの先頭へ移動します。

LAST

エントリを、指定されたディレクトリの末尾へ移動します。

LEVELS= ALL | 値

移動する階層の数を指定します。

ALL

すべての階層を指定します。

値

パスの階層の数値を指定します。たとえば、次の MOVE TO ステートメントは、ディレクトリ Weekly の 2 つの階層をディレクトリ Work.MyDoc に移動します。

```
move weekly to \work.mydoc\monthly /levels = 2;
run;
```

デフォルト: ALL

制限事項: LEVELS=オプションは、ユーザーがディレクトリを指定する場合のみ有効です。

(WHERE=(where 式-1<演算子>))

ODS ドキュメント内のエントリのサブセットを、条件に応じて選択します。

where 式

連続する演算子およびオペランドで構成された、数式または論理式です。

オペランド

次のいずれかです。

定数

日付リテラル、値、BY 変数値などの固定値です。

SAS 関数

SAS 関数については、*SAS 関数*と*CALL ルーチン: リファレンス*を参照してください。

サブセット変数

DOCUMENT プロシジャによって使用される、特殊な WHERE 式オペランドです。ODS ドキュメント内で共通の値を見つけるのに役立ちます。サブセット変数は次のとおりです。

CDATE

現在のエントリの作成日です。

例: 次の MOVE TO ステートメントは、作成日が 2004 年 7 月 16 日である'Graph'タイプエントリ全部を、Work.MyDoc の[月単位]ディレクトリに移動します。

```
move ^(where=( _type_ = 'Graph' and _cdate_ = '16JUL2004'd)) to
  \ work.mydoc\monthly;
run;
```

CDATETIME

現在のエントリの作成日時です。

例: 次の COPY TO ステートメントは、作成日時が 2003 年 5 月 1 日午前 9:30 のエントリ全部を、Work.MyDoc の[月単位]ディレクトリにコピーします。

```
copy ^(where=( _cdatetime_ = '01may04:9:30:00'dt)) to \work.mydoc\monthly;
run;
```

CTIME

現在のエントリの作成時間です。

例: 次の DELETE ステートメントは、作成時刻が 9:25:19 PM であるエントリをすべて削除します。

```
delete ^ (where=( _ctime_ = '9:25:19pm't ));
run;
```

LABEL

現在のエントリのラベルです。

例: 次の LIST ステートメントは、GLM プロシジャ内の、'Type III Model' というラベルが含まれるテーブルをすべて表示します。

```
list glm (where=( _type_ = 'table' _label_ ? 'Type III Model' ));
run;
```

LABELPATH

現在のエントリのラベルへのパスです。ドキュメントラベルのパスは、ラベルと連番を連結し、それらをスラッシュ(/)で分割した形をとっています。ドキュメントラベルのパスは、ODS TRACE ステートメントによって指定されるラベルのパスに似ています。

たとえば、ODS TRACE ラベルのパスが次のようになっているとします。

```
'The Univariate Procedure'.'Normal_x'.'Histogram 1'
```

対応するドキュメントラベルのパスは、次のようになります。

```
'The Univariate Procedure'#1\'Normal_x'#1\'Histogram 1'#1
```

ドキュメントラベルのパスでは、"のインスタンスは"に置き換わりません。

参照項目: “ODS TRACE ステートメント” (696 ページ)

例: 次の LIST ステートメントには、ラベルのパスに“Fit Statistics”が含まれる項目がすべて表示されます。

```
list gml (where=( _labelpath_ ? "Fit Statistics" )) /levels=all;
run;
```

MAX

最後のオブザベーションです。

制限事項:

MAX *i* は出力オブジェクトにのみ使用されます。

MAX は REPLAY ステートメントでのみ使用されます。

例: 次の REPLAY ステートメントは、最後のオブザベーションを除いたすべてのオブザベーションを再表示します。

```
replay class (where=( _obs_ < _max_ ));
```

MDATE

現在のエントリの変更日です。

例: 次の MOVE TO ステートメントは、変更日が 16JUL2004 である 'Graph' タイプのエントリ全部を、Work.MyDoc の [月単位] ディレクトリに移動します。

```
move ^ (where=( _type_ = 'Graph' and _mdate_ = '16JUL2004'd )) to
\work.mydoc\monthly;
run;
```

MDATETIME

現在のエントリの変更日時です。

例: 次の REPLAY ステートメントは、変更日時が 2003 年 5 月 1 日午前 9:30 であるエントリをすべて再表示します。

```
replay ^(where=(_mdatetime_ = '01may04:9:30:00'dt));
run;
```

MIN

最初のオブザベーションです。

制限事項:

MIN は出力オブジェクトにのみ使用されます。

MIN は常に 1 に設定され、

MIN は REPLAY ステートメントでのみ使用されます。

例: 次の REPLAY ステートメントは、最初のオブザベーションを除くすべてのオブザベーションを再表示します。

```
replay class(where=(_obs_ < _min_));
```

MTIME

現在のエントリの変更時刻です。

例: 次の COPY TO ステートメントは、変更時刻が 9:25:19 PM のエントリ全部を、Work.MyDoc の[月単位]ディレクトリにコピーします。

```
copy ^(where=(_mtime_ = '9:25:19pm't)) to \work.mydoc\monthly;
run;
```

NAME

現在のエントリの名前です。

例: 次の DELETE ステートメントは、GLM プロシジャ内の、'stemleng' という名前を含んでいるエントリをすべて削除します。

```
delete glm(where=(_name_ ? 'stemleng'));
```

OBS

出力オブジェクトにおける現在のオブザベーション数です。

制限事項:

OBS は出力オブジェクトにのみ使用されます。

OBS は REPLAY ステートメントでのみ使用されます。

例:

次の REPLAY ステートメントは最初の 10 個を除いたすべてのオブザベーションを再表示します。

```
replay class(where=(_obs_ > 10));
```

次の REPLAY ステートメントは、最後のオブザベーション以外のすべてのオブザベーションを再表示します。

```
replay class(where=(_obs_ < _max_));
```

次の REPLAY ステートメントは、最初の、3 番目の、5 番目の、7 番目の、および 9 番目のオブザベーションを再表示します。

```
replay class(where=(_obs_ in (1,3,5,7,9)));
```

オブザベーション番号

表示されるオブザベーション番号です。

制限事項:

オブザベーション番号は、出力オブジェクトに対して使用されます。

オブザベーション番号 REPLAY ステートメントでのみ使用されます。

例: 次の REPLAY ステートメントは最初の、3 番目の、5 番目の、7 番目の、および 9 番目のオブザベーションを再表示します。

```
replay class(where=(_obs_ in (1,3,5,7,9)));
```

オブザベーション変数

オブザベーションの名前です。

制限事項:

オブザベーション変数は、出力オブジェクトに対してのみ使用されません。

オブザベーション変数は、REPLAY ステートメントでのみ使用されません。

例:

次の REPLAY ステートメントは、変数 Weight が 100 より大きいオブザベーションをすべて再表示します。

```
replay class (where=(weight>100));
```

次の REPLAY ステートメントは、変数 Sex が 'F' であるオブザベーションをすべて再表示します。

```
replay class (where=(sex='F'));
```

PATH

現在のエントリのパスです。

例: 次の LIST ステートメントは、現在のディレクトリのすべての階層で、部分文字列 'Anova' が含まれているパスを持つエントリをすべて表示します。

```
list ^ (where=( _path_ ? 'Anova' ));
run;
```

SEQNO

現在のエントリの連番です。

参照項目: “[連番について](#)” (754 ページ)

例: 次の REPLAY ステートメントは、GLM プロシジャ内で、連番が 2 であるエントリをすべて再表示します。

```
replay glm (where=( _seqno_ = 2 ));
```

TYPE

現在のエントリのタイプです。

例: 次の MOVE TO ステートメントは、作成日が 2004 年 7 月 16 日である 'Graph' タイプのエントリ全部を、Work.MyDoc の [月単位] ディレクトリに移動します。

```
move ^ (where=( _type_ = 'Graph' and _cdate_ = '16JUL2004'd )) to
  \work.mydoc\monthly;
run;
```

変数名

BY 変数の名前です。

例: 次の MOVE TO ステートメントは、変数 Gender の値が 'F' であるエントリを全部を、Work.MyDoc の [月単位] ディレクトリに移動します。

```
move ^ (where=( gender='F' )) to \work.mydoc\monthly;
run;
```

演算子

ある変数を、値または別の変数と比較します。演算子には、AND、OR、NOT、OR、AND NOT、または比較演算子を使用できます。

表 8.4 比較演算子

記号	対応する簡略記号	定義
=	EQ	等しい

記号	対応する簡略記号	定義
\neq 、 \approx 、 \neq 、 \diamond	NE	等しくない
$>$	GT	より大きい
$<$	LT	未満
\geq	GE	以上
\leq	LE	以下
	IN	値のリストにある 1 つに等しい

制限事項: REPLAY ステートメントの WHERE=オプションは、ディレクトリおよび出力オブジェクトに適用されます。次のステートメントでは、WHERE=オプションはディレクトリにのみ適用されます。

- COPY TO
- DELETE
- LIST
- MOVE TO

要件 引用符で *where* 式を囲みます。

参照項目: WHERE=データセットオプションで使用できる式なら、どれでも使用できます。WHERE データセットオプションで使用できる式については、WHERE データセットオプションを *SAS データセットオプション: リファレンス*で、および WHERE 式の処理に関するセクションを *SAS 言語リファレンス: 解説編*で参照してください。

例: [“例 2: ODS ドキュメントを開き、リスト表示する” \(815 ページ\)](#)

NOTE ステートメント

現在のディレクトリ内でテキスト文字列を作成します。

デフォルト: JUST=オプションを省略すると、左右の余白の間でメモが中央に揃えられます。

例: [“例 3: エントリの管理” \(818 ページ\)](#)

構文

NOTE *パス* *<テキスト>* *<オプション>*;

引数なし

テキスト文字列が指定されない場合は、NOTE ステートメントが空白のメモを作成します。

必須引数

パス

メモの保存場所を指定します。

ヒント: 記号'^'を使用して現在のディレクトリを示したり、記号'^^^'を使用して親ディレクトリを示したりできます。

オプション引数

AFTER=パス

テキスト文字列を、指定されたパスの後ろに挿入します。

ヒント: 記号'^'を使用して現在のディレクトリを示したり、記号'^^'を使用して親ディレクトリを示したりできます。

BEFORE=パス

テキスト文字列を、指定されたパスの前に挿入します。

ヒント: 記号'^'を使用して現在のディレクトリを示したり、記号'^^'を使用して親ディレクトリを示したりできます。

FIRST

テキスト文字列を、ディレクトリの先頭に挿入します。

JUST= LEFT | CENTER | RIGHT

テキスト文字列の配置を指定します。

LEFT

テキスト文字列を左余白に寄せます。

CENTER

テキスト文字列を、左右の余白間の中央位置に揃えます。

RIGHT

テキスト文字列を右余白に寄せます。

LAST

テキスト文字列を、ディレクトリの末尾に挿入します。

'テキスト'

テキスト文字列を指定します。

要件 すべてのテキスト文字列を引用符で囲む必要があります。

OBANOTE ステートメント

指定された出力オブジェクトの後に、オブジェクトフッター(テキストの行)を作成または変更します。

例: “例 3: エントリの管理” (818 ページ)

構文

```
OBANOTE <n> 出力オブジェクト<'テキスト'> <SHOW></ JUST= LEFT | CENTER | RIGHT>;
```

必須引数

出力オブジェクト

ODS 出力オブジェクトの名前を指定します。

オプション引数

JUST= LEFT | CENTER | RIGHT

オブジェクトフッターの配置を指定します。

LEFT

オブジェクトフッターを左余白に寄せます。

CENTER

オブジェクトフッターを、左右の余白間の中央位置に揃えます。

RIGHT

オブジェクトフッターを右余白に寄せます。

n

オブジェクトフッターが含まれている相対行を指定します。

デフォルト: *n* を省略すると、SAS は値として 1 を想定します。したがって、最初のテキスト行には OBBNOTE か OBBNOTE1 のいずれかを指定してください。

範囲: 1–10

ヒント:

最も大きい数字の OBBNOTE 行が、最下行に表示されます。

それらの間に、空白行を含むメモを作成できます。たとえば、OBBNOTE1 ステートメントに OBBNOTE3 ステートメントを続けて使用してテキスト文字列を指定すると、2 行のテキストが空白行によって分割されます。

SHOW

出力オブジェクトのヘッダーが含まれたテーブルが、アクティブな出力先に書き込まれるように指定します。

'テキスト'

オブジェクトフッターとなるテキスト文字列を指定します。

BY 変数値(#BYVAL*n*)、BY 変数名(#BYVAR*n*)または BY 行(#BYLINE)を、PROC DOCUMENT ステップで指定されたオブジェクトフッターに挿入することにより、オブジェクトフッターをカスタマイズできます。オブジェクトフッターを指定した後、表示したい位置に項目を埋め込みます。詳細については、“[BY 変数を使用したラベル、タイトル、フットノートのカスタマイズ](#)” (801 ページ)を参照してください。

要件 すべてのテキスト文字列を引用符で囲む必要があります。

注意: テキスト文字列が指定されない場合は、OBBNOTE ステートメントが、指定された出力オブジェクトに限り、そのオブジェクトフッターをすべて削除します。

OBBNOTE ステートメント

出力オブジェクトの前で、オブジェクトヘッダー(テキストの行)を作成または変更します。

例: “[例 3: エントリの管理](#)” (818 ページ)

構文

```
OBBNOTE <n> 出力オブジェクト <'テキスト'> <SHOW></ JUST= LEFT | CENTER | RIGHT>;
```

必須引数**出力オブジェクト**

ODS 出力オブジェクトの名前を指定します。

オプション引数**JUST= LEFT | CENTER | RIGHT**

オブジェクトヘッダーの配置を指定します。

LEFT

オブジェクトヘッダーを左余白に寄せます。

CENTER

オブジェクトヘッダーを、左右の余白間の中央位置に揃えます。

RIGHT

オブジェクトヘッダーを右余白に寄せます。

n

オブジェクトヘッダーが含まれている相対行を指定します。

デフォルト: *n* を省略すると、SAS は値として 1 を想定します。したがって、最初のテキスト行には OBBNOTE か OBBNOTE1 のいずれかを指定してください。

範囲: 1–10

ヒント:

最も大きい数字の OBBNOTE 行が、最下行に表示されます。

それらの間に、空白行を含むメモを作成できます。たとえば、OBBNOTE ステートメントに OBANOTE3 ステートメントを続けて使用してテキスト文字列を指定すると、2 行のテキストが空白行によって分割されます。

SHOW

出力オブジェクトのフッターが含まれたテーブルが、アクティブな出力先に書き込まれるように指定します。

'テキスト'

オブジェクトヘッダーとなるテキスト文字列を指定します。

BY 変数値(#BYVAL*n*)、BY 変数名(#BYVAR*n*)または BY 行(#BYLINE)を、PROC DOCUMENT ステップで指定されたオブジェクトヘッダーに挿入することにより、オブジェクトヘッダーをカスタマイズできます。オブジェクトヘッダーのテキストを指定した後、表示したい位置に項目を埋め込みます。詳細については、“[BY 変数を使用したラベル、タイトル、フットノートのカスタマイズ](#)” (801 ページ) を参照してください。

要件 すべてのテキスト文字列を引用符で囲む必要があります。

注意: テキスト文字列が指定されない場合は、OBBNOTE ステートメントが、指定された出力オブジェクトに限り、その既存のオブジェクトヘッダーをすべて削除します。

OBFOOTN ステートメント

出力オブジェクトが表示されるページの下部で、テキストの行を作成または変更します。

制限事項: 最大で 10 行分のテキストを印刷できます。

ヒント: OBFOOTN ステートメントは、グローバル FOOTNOTE ステートメントに似ています。

例: “[例 3: エントリの管理](#)” (818 ページ)

構文

<TN*n*> *出力オブジェクト*<SHOW><'テキスト'>;

必須引数**出力オブジェクト**

ODS 出力オブジェクトを指定します。

オプション引数

n

フットノートが含まれている相対行を指定します。

範囲: 1-10

ヒント:

最も大きい数字の OBFOOTN 行が、最下行に表示されます。*n* を省略すると、SAS は値として 1 を想定します。したがって、最初のテキスト行には OBFOOTN か OBFOOTN1 のいずれかを指定してください。

間に空白行が含まれる複数のフットノートを作成できます。たとえば、OBFOOTN ステートメントに OBFOOTN3 ステートメントを続けて使用してテキスト文字列を指定すると、2 行のテキストが空白行によって分割されます。

SHOW

出力オブジェクトのフットノートが含まれたテーブルが、アクティブな出力先に書き込まれるように指定します。

'テキスト'

フットノートとなるテキスト文字列を指定します。

BY 変数値(#BYVAL*n*)、BY 変数名(#BYVAR*n*)または BY 行(#BYLINE)を、PROC DOCUMENT ステップで指定されたフットノートに挿入することにより、フットノートをカスタマイズできます。テキストを指定した後、表示したい位置に項目を埋め込みます。詳細については、“[BY 変数を使用したラベル、タイトル、フットノートのカスタマイズ](#)” (801 ページ) を参照してください。

要件 すべてのテキスト文字列を引用符で囲む必要があります。

注意: テキスト文字列なしで OBFOOTN ステートメントを使用する場合は、指定された出力オブジェクト既存のフットノートが、すべて削除されます。

OBPAGE ステートメント

出力オブジェクトの改ページを、作成または削除します。

例: “[例 3: エントリの管理](#)” (818 ページ)

構文

OBPAGE *出力オブジェクト* < / <DELETE ><AFTER>>;

引数なし

オプションが指定されない場合、OBPAGE ステートメントは、出力オブジェクトの前に改ページを挿入します。

必須引数

出力オブジェクト

出力オブジェクトの名前を指定します。

オプション引数

AFTER

出力オブジェクトの後に改ページを挿入します。

ヒント: 出力オブジェクトの後の改ページを削除するには、AFTER オプションを DELETE オプションとともに使用します。

DELETE

出力オブジェクトの改ページを削除します。

OBSTITLE ステートメント

サブタイトルを作成または変更します。

例: “例 3: エントリの管理” (818 ページ)

構文

```
OBSTITLE<n> 出力オブジェクト <'テキスト'> <SHOW></ JUST= LEFT | CENTER | RIGHT>;
```

必須引数

出力オブジェクト

ODS 出力オブジェクトを指定します。

オプション引数

JUST= LEFT | CENTER | RIGHT

テキスト文字列の配置を指定します。

LEFT

テキスト文字列を左余白に寄せます。

CENTER

テキスト文字列を、左右の余白間の中央位置に揃えます。

RIGHT

テキスト文字列を右余白に寄せます。

n

サブタイトルが含まれている相対行を指定します。

範囲: 1–10

ヒント:

最も大きい数字の OBSTITLE 行が、最下行に表示されます。*n* を省略すると、SAS は値として 1 を想定します。したがって、最初のテキスト行には OBSTITLE か OBFOOTN1 のいずれかを指定できます。

間に空白行が含まれる複数のサブタイトルを作成できます。たとえば、OBSTITLE ステートメントに OBSTITLE3 ステートメントを続けて使用してテキスト文字列を指定すると、2 行のテキストが空白行によって分割されます。

SHOW

出力オブジェクトのサブタイトルが含まれたテーブルが、アクティブな出力先に書き込まれるように指定します。

'テキスト'

テキスト文字列を指定します。

BY 変数値(#BYVAL*n*)、BY 変数名(#BYVAR*n*)または BY 行(#BYLINE)を、PROC DOCUMENT ステップで指定されたサブタイトルに挿入することにより、サブタイトルをカスタマイズできます。テキストを指定した後、表示したい位置に項目

を埋め込みます。詳細については、“BY 変数を使用したラベル、タイトル、フットノートのカスタマイズ” (801 ページ)を参照してください。

要件 すべてのテキスト文字列を引用符で囲む必要があります。

ヒント: 引数が指定されない場合は、OBSTITLE ステートメントが、指定された出力オブジェクトに限り、その既存のサブタイトルをすべて削除します。

OBTEMPL ステートメント

開いている任意の ODS 出力先に対し、特定の出力オブジェクトに関連付けられた ODS テンプレート(もしあれば)のソースコードを書き込みます。

制限事項: 指定された出力オブジェクトに ODS テンプレートが関連付けられていない場合、出力は作成されません。

構文

OBTEMPL *出力オブジェクト*;

必須引数

出力オブジェクト

出力オブジェクトのパス名を指定します。

参照項目: “出力オブジェクトについて” (755 ページ)

例: “例 4: BY グループのエントリの表示” (827 ページ)

OBTITLE ステートメント

出力のタイトル行を作成または変更します。

ヒント: OBTITLE は、グローバル TITLE ステートメントに似ています。

例: “例 3: エントリの管理” (818 ページ)

構文

OBTITLE<*n*> *出力オブジェクト* <SHOW><'テキスト'>;

必須引数

出力オブジェクト

出力オブジェクトの名前を指定します。

オプション引数

n

タイトルが含まれている相対行を指定します。

範囲: 1–10

ヒント:

最も大きい数字の OBTITLE 行が、最下行に表示されます。 n を省略すると、SAS は値として 1 を想定します。したがって、最初のテキスト行には OBTITLE か OBTITLE1 のいずれかを指定してください。

間に空白行が含まれる複数のタイトルを作成できます。たとえば、OBTITLE ステートメントに OBTITLE3 ステートメントを続けて使用してテキスト文字列を指定すると、2 行のテキストが空白行によって分割されます。

SHOW

出力オブジェクトのタイトルが含まれたテーブルが、アクティブな出力先に書き込まれるように指定します。

'テキスト'

テキスト文字列を指定します。

BY 変数値(#BYVALn)、BY 変数名(#BYVARn)または BY 行(#BYLINE)を、PROC DOCUMENT ステップで指定された出力タイトルに挿入することにより、タイトルをカスタマイズできます。テキストを指定した後、表示したい位置に項目を埋め込みます。詳細については、“BY 変数を使用したラベル、タイトル、フットノートのカスタマイズ” (801 ページ) を参照してください。

要件 すべてのテキスト文字列を引用符で囲む必要があります。

注意: テキスト文字列が指定されない場合は、OBTITLE ステートメントが、指定された出力オブジェクトに限り、その既存のタイトルをすべて削除します。

RENAME TO ステートメント

エントリの名前を変更します。

構文

```
RENAME パス-1 TO パス-2;
```

必須引数

パス-1

現在のディレクトリまたは出力オブジェクトを指定します。

ヒント: 記号'^'を使用して現在のディレクトリを示したり、記号'^^'を使用して親ディレクトリを示したりできます。

パス-2

ディレクトリまたは出力オブジェクトの名前を新規に指定します。

ヒント: 記号'^'を使用して現在のディレクトリを示したり、記号'^^'を使用して親ディレクトリを示したりできます。

REPLAY ステートメント

開いている指定された ODS 出力先に対して、1 つ以上のエントリを表示します。

デフォルト: LEVELS=オプションを省略すると、ファイルのすべての階層が、開いているすべての出力先に対して表示されます。

制限事項: ユーザー定義の出力形式名は、ODS DOCUMENT 内で一意とする必要があります。

例: “例 3: エントリの管理” (818 ページ)

構文

```
REPLAY パス<(where 式)> <, パス-2<(where 式-2)>>
<, ... パス-n<(where 式-n)>> </ オプション>;
```

オプション引数

ACTIVEFOOTN

SAS セッションでアクティブなフットノートが、ODS ドキュメントで保存されたフットノートをオーバーライドするように指定します。

別名: ACFOOTN

ACTIVETITLE

SAS セッションでアクティブなタイトルが、ODS ドキュメントで保存されたタイトルをオーバーライドするように指定します。

別名: ACTITLE

DEST= (ODS 出力先)

1 つ以上の ODS 出力先が出力オブジェクトを表示するように指定します。たとえば、次の REPLAY ステートメントは、エントリ Data の 2 つの階層を、HTML 出力先および RTF 出力先に対して再表示します。

```
replay \Report\GLM#1\Data /levels=2 dest=(html rtf);
run;
```

要件 DEST=オプションを指定するときは、ODS 出力先をカッコで囲み、各出力先をスペースで区切ってください。例: DEST=(HTML RTF LISTING)

ヒント: 出力先を 1 つしか指定しない場合は、カッコは不要です。例:
DEST=HTML

参照項目: ODS 出力先については、“ODS 出力先について” (33 ページ) を参照してください。

LEVELS= ALL | 値

再表示する階層の数を指定します。

ALL

すべての階層のディレクトリが、開いているすべての出力先に対して表示されるように指定します。

値

パスの階層の数値を指定します。たとえば、次の REPLAY ステートメントは、エントリ Data の 2 つの階層を、HTML 出力先および RTF 出力先に対して再表示します。

```
replay \Report\GLM#1\Data /levels=2 dest=(html rtf);
run;
```

デフォルト: ALL

制限事項: LEVELS=オプションは、ユーザーがディレクトリを指定する場合のみ有効です。

パス

エントリの場所を指定します。エントリは、1 つ以上のリンク、出力オブジェクト、またはディレクトリとすることができます。

要件 複数のパスをカンマで区切ります。

ヒント: 記号'^'を使用して現在のディレクトリを示したり、記号'^^^'を使用して親ディレクトリを示したりできます。

(WHERE=(where 式-1<演算子>))

ODS ドキュメント内のエントリのサブセットを、条件に応じて選択します。

where 式

連続する演算子およびオペランドで構成された、数式または論理式です。

オペランド

次のいずれかです。

定数

日付リテラル、値、BY 変数値などの固定値です。

SAS 関数

SAS 関数については、*SAS 関数と CALL ルーチン: リファレンス*を参照してください。

サブセット変数

DOCUMENT プロシジャによって使用される、特殊な WHERE 式オペランドです。ODS ドキュメント内で共通の値を見つけるのに役立ちます。サブセット変数は次のとおりです。

CDATE

現在のエントリの作成日です。

例: 次の MOVE TO ステートメントは、作成日が 2004 年 7 月 16 日である 'Graph' タイプエントリ全部を、Work.MyDoc の [月単位] ディレクトリに移動します。

```
move ^ (where=( _type_ = 'Graph' and _cdate_ = '16JUL2004'd )) to
  \ work.mydoc\monthly;
run;
```

CDATETIME

現在のエントリの作成日時です。

例: 次の COPY TO ステートメントは、作成日時が 2003 年 5 月 1 日午前 9:30 のエントリ全部を、Work.MyDoc の [月単位] ディレクトリにコピーします。

```
copy ^ (where=( _cdatetime_ = '01may04:9:30:00'dt )) to \work.mydoc\monthly;
run;
```

CTIME

現在のエントリの作成時間です。

例: 次の DELETE ステートメントは、作成時刻が 9:25:19 PM であるエントリをすべて削除します。

```
delete ^ (where=( _ctime_ = '9:25:19pm't ));
run;
```

LABEL

現在のエントリのラベルです。

例: 次の LIST ステートメントは、GLM プロシジャ内の、'Type III Model' というラベルが含まれるテーブルをすべて表示します。

```
list glm (where=( _type_ = 'table' _label_ ? 'Type III Model' ));
run;
```

LABELPATH

現在のエントリのラベルへのパスです。ドキュメントラベルのパスは、ラベルと連番を連結し、それらをスラッシュ(/)で分割した形をとっています。ドキュメントラベルのパスは、ODS TRACE ステートメントによって指定されるラベルのパスに似ています。

たとえば、ODS TRACE ラベルのパスが次のようになっているとします。

```
'The Univariate Procedure'.'Normal_x'.'Histogram 1'
```

対応するドキュメントラベルのパスは、次のようになります。

```
'The Univariate Procedure'#1\'Normal_x'#1\'Histogram 1'#1
```

ドキュメントラベルのパスでは、"のインスタンスは"に置き換わりません。

参照項目: “ODS TRACE ステートメント” (696 ページ)

例: 次の LIST ステートメントには、ラベルのパスに“Fit Statistics”が含まれる項目がすべて表示されます。

```
list gml(where=(labelpath_ ? "Fit Statistics"))/levels=all;
run;
```

MAX

最後のオブザベーションです。

制限事項:

MAX i は出力オブジェクトにのみ使用されます。

MAX は REPLAY ステートメントでのみ使用されます。

例: 次の REPLAY ステートメントは、最後のオブザベーションを除いたすべてのオブザベーションを再表示します。

```
replay class(where=(obs_ < _max_));
```

MDATE

現在のエントリの変更日です。

例: 次の MOVE TO ステートメントは、変更日が 16JUL2004 である 'Graph' タイプのエントリ全部を、Work.MyDoc の [月単位] ディレクトリに移動します。

```
move ^(where=(type_ = 'Graph' and _mdate_ = '16JUL2004'd)) to
\work.mydoc\monthly;
run;
```

MDATETIME

現在のエントリの変更日時です。

例: 次の REPLAY ステートメントは、変更日時が 2003 年 5 月 1 日午前 9:30 であるエントリをすべて再表示します。

```
replay ^(where=(_mdatetime_ = '01may04:9:30:00'dt));
run;
```

MIN

最初のオブザベーションです。

制限事項:

MIN は出力オブジェクトにのみ使用されます。

MIN は常に 1 に設定され、

MIN は REPLAY ステートメントでのみ使用されます。

例: 次の REPLAY ステートメントは、最初のオブザベーションを除くすべてのオブザベーションを再表示します。

```
replay class(where=(obs_ < _min_));
```

MTIME

現在のエントリの変更時刻です。

例: 次の COPY TO ステートメントは、変更時刻が 9:25:19 PM のエントリ全部を、Work.MyDoc の [月単位] ディレクトリにコピーします。

```
copy ^(where=(_mtime_ = '9:25:19pm't)) to \work.mydoc\monthly;
run;
```

NAME

現在のエントリの名前です。

例: 次の DELETE ステートメントは、GLM プロシジャ内の、'stemleng'という名前を含んでいるエントリをすべて削除します。

```
delete glm(where=(_name_ ? 'stemleng'));
```

OBS

出力オブジェクトにおける現在のオブザベーション数です。

制限事項:

OBS は出力オブジェクトにのみ使用されます。

OBS は REPLAY ステートメントでのみ使用されます。

例:

次の REPLAY ステートメントは最初の 10 個を除いたすべてのオブザベーションを再表示します。

```
replay class(where=(_obs_ > 10));
```

次の REPLAY ステートメントは、最後のオブザベーション以外のすべてのオブザベーションを再表示します。

```
replay class(where=(_obs_ < _max_));
```

次の REPLAY ステートメントは、最初の、3 番目の、5 番目の、7 番目の、および 9 番目のオブザベーションを再表示します。

```
replay class(where=(_obs_ in (1,3,5,7,9)));
```

オブザベーション番号

表示されるオブザベーション番号です。

制限事項:

オブザベーション番号は、出力オブジェクトに対して使用されます。

オブザベーション番号 REPLAY ステートメントでのみ使用されません。

例: 次の REPLAY ステートメントは最初の、3 番目の、5 番目の、7 番目の、および 9 番目のオブザベーションを再表示します。

```
replay class(where=(_obs_ in (1,3,5,7,9)));
```

オブザベーション変数

オブザベーションの名前です。

制限事項:

オブザベーション変数は、出力オブジェクトに対してのみ使用されません。

オブザベーション変数は、REPLAY ステートメントでのみ使用されません。

例:

次の REPLAY ステートメントは、変数 Weight が 100 より大きいオブザベーションをすべて再表示します。

```
replay class(where=(weight>100));
```

次の REPLAY ステートメントは、変数 Sex が 'F' であるオブザベーションをすべて再表示します。

```
replay class(where=(sex='F'));
```

PATH

現在のエントリのパスです。

例: 次の LIST ステートメントは、現在のディレクトリのすべての階層で、部分文字列 'Anova' が含まれているパスを持つエントリをすべて表示します。

```
list ^(where=(_path_ ? 'Anova'));
run;
```

SEQNO

現在のエントリの連番です。

参照項目: “[連番について](#)” (754 ページ)

例: 次の REPLAY ステートメントは、GLM プロシジャ内で、連番が 2 であるエントリをすべて再表示します。

```
replay glm(where=(_seqno_ = 2));
```

TYPE

現在のエントリのタイプです。

例: 次の MOVE TO ステートメントは、作成日が 2004 年 7 月 16 日である 'Graph' タイプのエントリ全部を、Work.MyDoc の [月単位] ディレクトリに移動します。

```
move ^(where=(_type_ = 'Graph' and _cdate_ = '16JUL2004'd)) to
  \work.mydoc\monthly;
run;
```

変数名

BY 変数の名前です。

例: 次の MOVE TO ステートメントは、変数 Gender の値が 'F' であるエントリを全部を、Work.MyDoc の [月単位] ディレクトリに移動します。

```
move ^(where=(gender='F')) to \work.mydoc\monthly;
run;
```

演算子

ある変数を、値または別の変数と比較します。演算子には、AND、OR、NOT、OR、AND NOT、または比較演算子を使用できます。

表 8.5 比較演算子

記号	対応する簡略記号	定義
=	EQ	等しい
^=、~=、!=、<>	NE	等しくない
>	GT	より大きい
<	LT	未満
>=	GE	以上
<=	LE	以下
	IN	値のリストにある 1 つに等しい

制限事項: REPLAY ステートメントの WHERE=オプションは、ディレクトリおよび出力オブジェクトに適用されます。次のステートメントでは、WHERE=オプションはディレクトリにのみ適用されます。

- COPY TO
- DELETE
- LIST
- MOVE TO

要件 引用符で *where* 式を囲みます。

参照項目: WHERE=データセットオプションで使用できる式なら、どれでも使用できます。WHERE データセットオプションで使用できる式については、WHERE データセットオプションを *SAS データセットオプション: リファレンス*で、および WHERE 式の処理に関するセクションを *SAS 言語リファレンス: 解説編*で参照してください。

例: “例 2: ODS ドキュメントを開き、リスト表示する” (815 ページ)

SETLABEL ステートメント

指定されたパスにラベルを割り当てます。

構文

```
SETLABEL パス 'ラベル';
```

必須引数

'ラベル'

ラベルのテキストを指定します。BY 変数値(#BYVAL)、BY 変数名(#BYVAR)または BY 行(#BYLINE)を、PROC DOCUMENT ステップで指定されたラベルに挿入することにより、ラベルをカスタマイズできます。

要件 ラベルは引用符で囲む必要があります。

参照項目: 詳細については、“BY 変数を使用したラベル、タイトル、フットノートのカスタマイズ” (801 ページ)を参照してください。

パス

リンク、出力オブジェクトまたはディレクトリの場所を指定します。

ヒント: 記号'^'を使用して現在のディレクトリを示したり、記号'^^^'を使用して親ディレクトリを示したりできます。

UNHIDE ステートメント

非表示エントリの出力を、再表示時に表示できるようにします。

構文

```
UNHIDE パス <パス-2, ... パス-n>;
```

必須引数

パス

リンク、出力オブジェクトまたはファイルの場所を指定します。

要件 複数のパスをカンマで区切ります。

ヒント: 記号'^'を使用して現在のディレクトリを示したり、記号'^^^'を使用して親ディレクトリを示したりできます。

グラフィックの再表示

次に挙げるデバイスドライバによって作成されたグラフィックを再表示するときは、GOPTIONS ステートメントの DEVICE=オプションを使用して、それらのドライバのいずれかを指定する必要があります。

- ACTIVEX
- ACTXIMG
- JAVA
- JAVAIMG

詳細については、“GOPTIONS Statement” in *SAS/GRAPH: Reference* を *SAS/GRAPH: Reference* で参照してください。

BY 変数を使用したラベル、タイトル、フットノートのカスタマイズ

BY 変数値(#BYVAL)、BY 変数名(#BYVAR)または BY 行(#BYLINE)を、次の PROC DOCUMENT ステップで指定されたラベルに挿入することにより、これらのステートメントを伴うラベル、タイトルおよびフットノートをカスタマイズできます。

- “OBANOTE ステートメント” (788 ページ)
- “OBBNOTE ステートメント” (789 ページ)
- “OBFOOTN ステートメント” (790 ページ)
- “OBSTITLE ステートメント” (792 ページ)
- “OBTITLE ステートメント” (793 ページ)
- “SETLABEL ステートメント” (800 ページ)

注: #BYVAL、#BYVAR および#BYLINE 代用値は、BY グループに属する再表示済みの出力オブジェクトに対してのみ表示されます。BY グループに属さない出力オブジェクトの例としては、IMPORT TO ステートメントを使用してドキュメントにインポートされたデータセットや、NOTES ステートメントを使用して作成されたメモがあります。

これらの代用値を作成するには、代用値テキストを表示する場所で、指定されたオブジェクトのテキスト文字列に項目を挿入します。#BYVAL、#BYVAR および#BYLINE の各代用値は、次の形をとります。

#BYVAL n | #BYVAL(変数名)

指定された BY 変数の現在の値を、テキスト文字列内の#BYVAL と置き換えることで、その値をラベルに表示します。

PROC DOCUMENT ステップのステートメントで#BYVAL を使用するときは、次の規則に従ってください。

- BY ステートメントの#BYVAL によって使用される変数を、指定します。
- 代入テキストを表示させる位置で、指定されたテキスト文字列に#BYVAL を挿入します。

- #BYVAL の後ろに、区切り文字、すなわちテキスト文字列を終了させるためのスペースまたは他の英数字以外の文字(引用符など)を置きます。
- #BYVAL 代入値の直後に、区切りは添えずに別のテキストを添えるには、(マクロ変数と同様に)ピリオドを使用します。
- 次のいずれかを使用して変数を指定します。

n

#BYVAL が使用する BY ステートメントの変数を指定します。*n* の値は、BY ステートメント内の変数の位置を示します。

例: #BYVAL2 は、BY ステートメント内の 2 番目の変数を指定します。

変数名

BY 変数を命名します。

要件 変数名は、かっこで囲む必要があります。

ヒント: 変数名は、大文字と小文字が区別されません。

例: #BYVAL(YEAR)は BY 変数 YEAR を指定します。

#BYVAR*n* | #BYVAR(変数名)

(BY 行に通常何が表示されるかに関係なく)変数に関連付けられた BY 変数の名前またはラベルを、テキスト文字列内の#BYVAR に置き換えることで、名前またはラベルを表示します。

PROC DOCUMENT ステップのステートメントで#BYVAR を使用するときは、次の規則に従ってください。

- BY ステートメントの#BYVAR によって使用される変数を、指定します。
- 代入テキストを表示させる位置で、指定されたテキスト文字列に#BYVAR を挿入します。
- #BYVAR の後ろに、区切り文字、すなわちテキスト文字列を終了させるためのスペースまたは他の英数字以外の文字(引用符など)を置きます。
- #BYVAR 代入値の直後に、区切りは添えずに別のテキストを添えるには、(マクロ変数と同様に)ピリオドを使用します。
- 次のいずれかを使用して変数を指定します。

n

#BYVAR が使用する BY ステートメントの変数を指定します。*n* の値は、BY ステートメント内の変数の位置を示します。

例: #BYVAR2 は、BY ステートメント内の 2 番目の変数を指定します。

変数名

BY 変数を命名します。

要件 変数名は、かっこで囲む必要があります。

ヒント: 変数名は、大文字と小文字が区別されません。

例: #BYVAR(SITES)は BY 変数 SITES を指定します。

#BYLINE

先頭または末尾に空白がない BY 行の全体を、テキスト文字列内の#BYLINE と置き換えることで、ラベルに BY 行を表示します。

結果: DOCUMENT プロシジャ

ドキュメントウィンドウの ODS ドキュメント

ドキュメントウィンドウの用途

ドキュメントウィンドウには、ODS ドキュメントが階層ツリーで表示されます。ドキュメントウィンドウの機能は次のとおりです。

- ODS ドキュメント(SAS ライブラリに保存されたものを含む)をすべて表示します。
- ODS ドキュメントに含まれるエントリのレイアウトを、作成、管理およびカスタマイズします。
- ODS ドキュメントのプロパティ情報を表示します。
- エントリを再表示します。
- ODS ドキュメントの名前変更、コピー、移動または削除を行います。
- ODS ドキュメントへのショートカットを作成します。

ドキュメントウィンドウと結果ウィンドウの比較については、“[ドキュメントウィンドウと結果ウィンドウの比較](#)” (807 ページ)を参照してください。

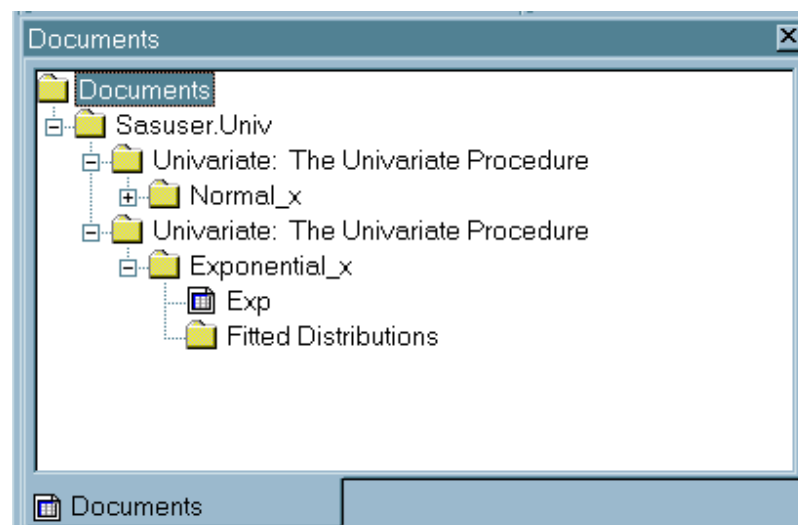
ドキュメントウィンドウでの ODS ドキュメントの表示

ドキュメントウィンドウを表示するには、コマンドバーで次のコマンドを送信します。

```
odsdocuments
```

次の画面には、Sasuser.Univ という名前の ODS ドキュメントが含まれた、ドキュメントウィンドウが表示されます。画面には、Sasuser.Univ に複数のディレクトリ階層がある点に注意してください。Exponential_x ディレクトリには、Exp 出力オブジェクトがあります。出力オブジェクト(Exp など)をダブルクリックすると、その出力オブジェクトが、開いているすべての出力先に対して、結果ウィンドウで再表示されます。

画面 8.1 ドキュメントウィンドウ



ドキュメントウィンドウには、次の項目が表示されます。

エントリ

出力オブジェクト、リンクまたはディレクトリです。

注: タイプが Document の出力オブジェクトのみがドキュメントウィンドウに表示されます。

ディレクトリ

ODS ドキュメントエントリのグループです。

リンク

指定された出力オブジェクトから別の出力オブジェクトへのシンボリックリンクです。

注: ドキュメントウィンドウ内のリンクは、ショートカットと呼ばれます。

ODS ドキュメント

ODS ドキュメントの名前です。

ODS ドキュメントのアイコン

結果ウィンドウおよびドキュメントウィンドウでは、次のアイコンによって ODS ドキュメントの出力オブジェクトが示されます。

画面 8.2 ODS ドキュメントのアイコン



z/OS 固有

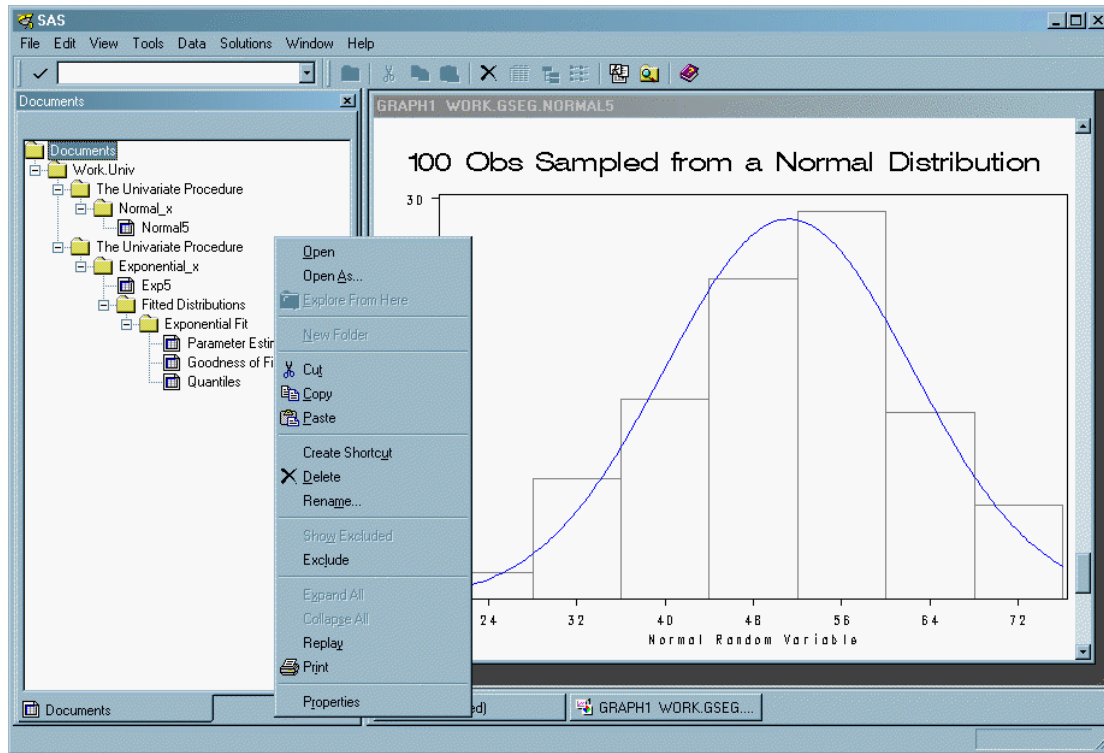
z/OS の[●ODS Documents]ウィンドウに同一の機能がありますが、グラフィックアイコンは使用されません。

ドキュメントウィンドウのポップアップメニューの使用

ドキュメントウィンドウには、バッチ処理中に使用できる機能にアクセスするための、ポップアップメニューがあります。ドキュメントウィンドウのポップアップメニューを表示するには、次の手順に従ってください。

1. コマンドバーに `odsdocuments` と入力します。ドキュメントウィンドウが表示されます。
2. ドキュメントウィンドウで任意のエントリを右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。

画面 8.3 ドキュメントウィンドウのポップアップメニュー



次の表は、ポップアップメニュー項目の機能を説明したものです。選択できるポップアップメニュー項目は、ユーザーがドキュメントウィンドウで選択するエンTRIESに応じて変化します。

表 8.6 ドキュメントウィンドウのポップアップメニューを使ってできること

タスク	メニュー項目
選択したオブジェクトを結果ビューアで開きます。	開く
ODS 出力先の出カタイプを新規に選択します。	次の形式で開く
ウィンドウをツリービューまたはリストビューで開きます。	エクスプローラ
フォルダを新規に作成します。	新しいフォルダ
選択したエンTRIESをドキュメントウィンドウから削除します。	切り取り
選択したエンTRIESをシステムメモリにコピーします。	コピー
コピーされたエンTRIESを、選択した場所に貼り付けます。	貼り付け
エンTRIESへのショートカットを作成します。	ショートカットの作成

タスク	メニュー項目
選択したエントリを削除します。	削除
選択したエントリの名前を変更します。	名前の変更
以前に除外されたエントリを表示します。	除外の表示
選択したエントリをツリーから削除します(消去はしません)。	除外
ツリーの階層をすべて展開します。	すべて展開
ツリーの階層をすべて折りたたみます。	すべて折りたたむ
選択しエントリを、開いているすべての ODS 出力先に対して再表示します。	再表示
選択したエントリを印刷します。	印刷
選択したエントリのプロパティを表示します。	プロパティ

結果ウィンドウの ODS ドキュメント

結果ウィンドウの用途

結果ウィンドウには、(ドキュメントウィンドウと同様に) ODS ドキュメントが表示されますが、その他のタイプの出力オブジェクト(PDF、HTML など)も表示されます。結果ウィンドウには次の情報が表示されます。

- 現在の SAS セッションでユーザーが SAS プログラムを実行すると作成される、出力オブジェクトのタイプ。SAS は、ユーザーが現在の SAS セッション中にプロシジャを実行したときに開いていた各 ODS 出力先に対し、出力オブジェクトを作成します。
- [次の形式で開く]または[再表示]の機能を使ってドキュメントウィンドウから新規に出力オブジェクトを作成した後の結果。
- エントリのプロパティ

結果ウィンドウでは、エントリの削除または名前の変更も可能です。

“ドキュメントウィンドウと結果ウィンドウの比較”(807 ページ)を参照してください。

結果ウィンドウでのエントリの表示

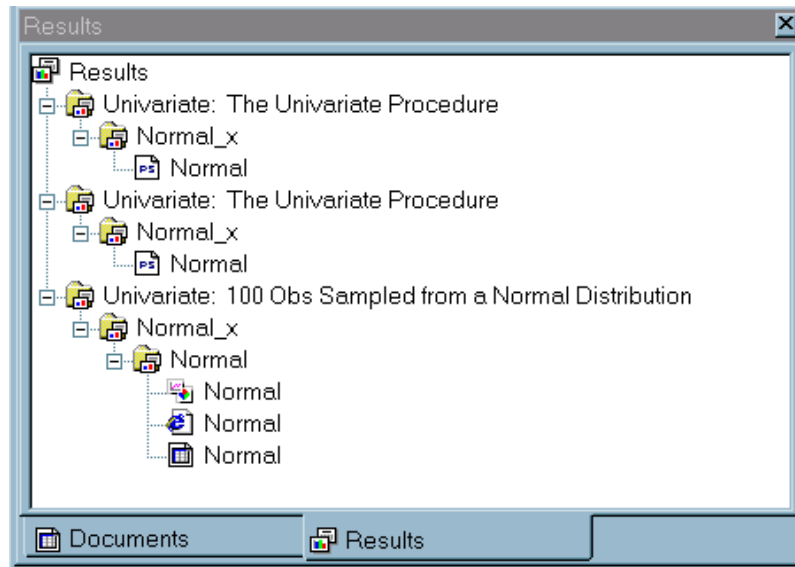
結果ウィンドウを表示するには、コマンドバーで次のコマンドを発行します。

```
odsresults
```

また、次のように選択しても結果ウィンドウを表示できます。[表示] ⇨ [結果]

次の画面は、結果ウィンドウにファイルと出力オブジェクトが表示されている状態を示しています。最後のファイルは、Univariate:100 Obs Sampled from a Normal Distribution です。このファイルの下には、異なる 3 つの出力先に送られる同一の出力オブジェクトがあります。各出力オブジェクトの名前は、Normal であり、出力先は LISTING、HTML および DOCUMENT です。

画面 8.4 3つの出力形式の出力オブジェクト“Normal”が表示された結果ウィンドウ



結果ウィンドウの詳しい使い方については、結果ウィンドウをアクティブウィンドウにしてから、[ヘルプ] ⇒ [このウィンドウの使い方]を選択してください。

ドキュメントウィンドウと結果ウィンドウの比較

表 8.7 ドキュメントウィンドウおよび結果ウィンドウでできることできないこと

タスク	ドキュメントウィンドウ	結果ウィンドウ
SASドキュメント(SASライブラリに保存されたものを含む)をすべて表示します。	可	可
ユーザーがSASプログラムを実行すると作成される、出力オブジェクトのタイプ(HTML、PDF、SASドキュメントなど)を表示します。	不可	Yes
出力オブジェクトの新規作成の結果を表示します。	可	可
出力オブジェクトのレイアウトをカスタマイズします。	可	不可
SASドキュメントのプロパティ情報を表示します。	可	可
出力オブジェクトのプロパティを表示します。	不可	Yes
エントリの削除または名前の変更を行います。	可	可
SASドキュメントをコピーまたは移動します。	可	不可

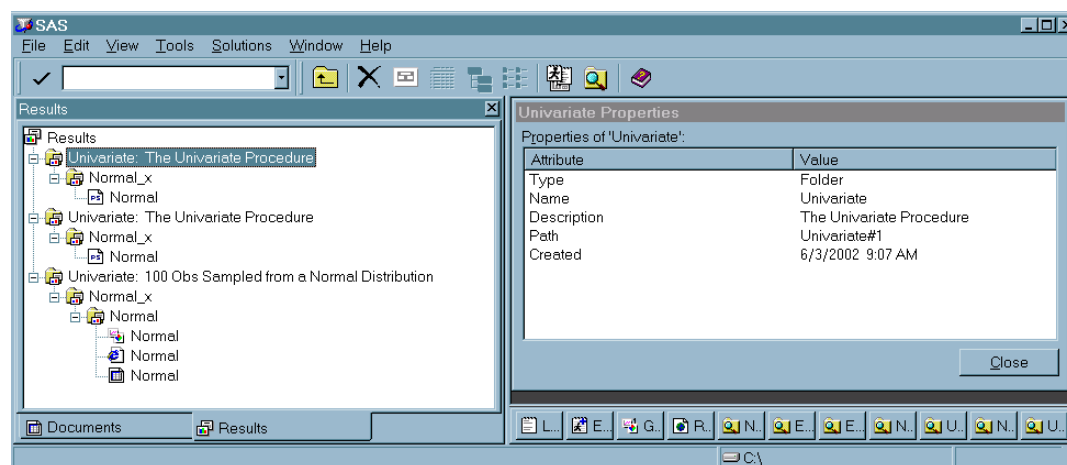
タスク	ドキュメントウィンドウ	結果ウィンドウ
SASドキュメントへのショートカットを作成します。	可	不可
出力オブジェクトをドラッグアンドドロップします。	可	不可

エントリのプロパティの表示

結果ウィンドウまたはドキュメントウィンドウで選択したエントリには、**プロパティウィンドウ**が関連付けられます。エントリのプロパティを表示するには、次の手順に従ってください。

1. **結果ウィンドウ**または**ドキュメントウィンドウ**でエントリを選択します。
2. エントリを右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
3. **[プロパティ]**を選択します。エントリの**プロパティウィンドウ**が表示されます。

画面 8.5 エントリのプロパティウィンドウ



項目は、**ドキュメントウィンドウ**または**結果ウィンドウ**で選択したエントリによって異なります。ODSドキュメント出力オブジェクトの**結果ウィンドウ**には、次の項目を含めることができます。

作成日

エントリが作成された日付です。

ドキュメント

エントリが見つかった SAS ファイル名です。ファイル名は、**ライブラリ参照名.ファイル名**という形式になります。

ドキュメントのパス

ツリー構造内のエントリの場所です。エントリを**ドキュメントウィンドウ**内の別の場所に移動すると、このパスが変化します。

更新日

エントリが変更された日付です。

名前

エントリの名前です。

パス

エントリのドキュメント内での保存場所です。

種類

エントリの種別です。

ドキュメントウィンドウのショートカットの作成

ドキュメントウィンドウのポップアップメニューでは、**ショートカットの作成**オプションを選択できます。ショートカットリンクは、複数の場所で同一のエントリを使用する出力を作成するときに便利です。エントリをそれぞれの場所にコピーするかわりに、ショートカットの使うことを検討してみてください。ショートカットには次のようなメリットがあります。

- ショートカットは元のエントリへのリンクであるため、元のエントリになんらかの変更を加えた場合、ショートカットを選択するとその変更されたエントリが表示されます。
- ショートカットに使用されるコンピューターリソースは、比較的少なく済みます。

ショートカットを作成するには、次の操作を行ってください。

1. ドキュメントウィンドウでエントリを右クリックします。ポップアップメニューが表示されます。
2. **[ショートカットの作成]**を選択します。選択されたエントリの下に、新規のショートカットエントリが表示されます。

ドキュメントウィンドウとドキュメントプロシジャの比較

表 8.8 ドキュメントウィンドウおよび DOCUMENT プロシジャでできること/できないこと

タスク	ドキュメントウィンドウ	DOCUMENT プロシジャ
ODS ドキュメントを新規に作成します。	可	可
フォルダを新規に作成します。	可	可
データセットまたはグラフセグメントをインポートします。	不可	可
フォルダまたは出力オブジェクトをコピーします。	可	可
フォルダまたは出力オブジェクトを移動します。	可	可
ある出力オブジェクトを元にして、記号リンクを別の出力オブジェクトに作成します。	可	可
ドキュメント、フォルダ、または出力オブジェクトを削除します。	可	可
フォルダまたは出力オブジェクトの名前を変更します。	可	可

タスク	ドキュメントウィンドウ	DOCUMENT プロシジャ
フォルダまたは出力オブジェクトに、説明を割り当てます。	可	可
エントリの再表示を実行してもエントリが表示されないようにします。	可	可
除外されたエントリを表示します。	可	可
非表示のエントリを表示可能にします。	可	可
開いている指定された ODS 出力先に対して再表示します。	可	可
パスの仕様を指定します。	可	可
現在のディレクトリを設定または表示します。	不可	可
改ページを作成または削除します。	不可	可
タイトル行を作成または変更します。	不可	可
サブタイトルを作成または変更します。	不可	可
出力オブジェクトの前で、テキストの行を作成または変更します。	不可	可
出力オブジェクトの後で、テキストの行を作成または変更します。	不可	可
フットノート行を作成または変更します。	不可	可
現在のフォルダ内でテキスト文字列を作成します。	不可	可

例: DOCUMENT プロシジャ

例 1: ディレクトリへの移動とエントリの表示

要素: ODS DOCUMENT ステートメントオプション

```

NAME=
DOC ステートメントオプション
  NAME=
LIST ステートメントオプション
  エントリ
  LEVELS=
  DETAILS
DIR ステートメントオプション
  パス
プロシジャ出力: PROC DOCUMENT

```

ODS 出力先: DOCUMENT , LISTING

詳細

下記のサンプルプログラムは、次に挙げるタスクがどのように実行されるかを示しています。

- ODS ドキュメントに名前を付けます。
- どのような ODS ドキュメントが存在するかを確認します。
- ブラウズまたは編集の目的でドキュメントを開きます。
- 1 つ以上のエントリを表示します。
- ディレクトリを変更します。

プログラム

```

options nodate nonumber;

data distrdata;
drop n;
label Normal_x='Normal Random Variable'
Exponential_x='Exponential Random Variable';
do n=1 to 100;
Normal_x=10*rannor(53124)+50;
Exponential_x=ranexp(18746363);
output;
end;
run;

ods document name=univ;

title '100 Obs Sampled from a Normal Distribution';
proc univariate data=distrdata noprint;
var Normal_x;

histogram Normal_x /normal(noprint) cbarline=grey name='normal';
run;

title '100 Obs Sampled from an Exponential Distribution';

proc univariate data=distrdata noprint;
var Exponential_x;

histogram /exp(fill l=3) cfill=yellow midpoints=.05 to 5.55 by .25

```

```

name='exp';
run;

ods document close;
title;

proc document;
doc;
doc name=univ;
list/levels=all;

  dir \Univariate#2\Exponential_x#1\Histogram#1\Exponential#1;
list;
list fitquantiles/details;
run;

quit;

```

プログラムの説明

SAS システムオプションを設定します。 NODATE オプションは、出力での日時の表示を非表示にします。NONUMBER オプションは、ページ番号の印刷を非表示にします。

```
options nodate nonumber;
```

DistrData データセットを作成します。 DistrData データセットには、ヒストグラムを作成するために PROC UNIVARIATE が使用する、統計情報が含まれています。

```

data distrdata;
drop n;
label Normal_x='Normal Random Variable'
Exponential_x='Exponential Random Variable';
do n=1 to 100;
Normal_x=10*rannor(53124)+50;
Exponential_x=ranexp(18746363);
output;
end;
run;

```

Univ という ODS ドキュメントを作成し、DOCUMENT 出力先を開きます。 ODS DOCUMENT ステートメントは、DOCUMENT 出力先を開きます。NAME=オプションは、その PROC UNIVARIATE プログラムの情報が含まれている ODS ドキュメントに、Univ という名前を割り当てます。デフォルトでは、Work ライブラリに Univ が作成されることに注意してください。ライブラリ参照名を割り当てて、永久ライブラリに Univ を作成します。

```
ods document name=univ;
```

正規分布ヒストグラムを作成します。 TITLE ステートメントは、正規分布ヒストグラムのタイトルを指定します。PROC UNIVARIATE ステップは、DistrData データセットを元に正規分布ヒストグラムを作成します。

```

title '100 Obs Sampled from a Normal Distribution';
proc univariate data=distrdata noprint;
var Normal_x;

  histogram Normal_x /normal(noprint) cbarline=grey name='normal';
run;

```


指数分布ヒストグラム TITLE ステートメントは、指数ヒストグラムのタイトルを指定します。PROC UNIVARIATE ステップは、DistrData データセットを元に、指数分布ヒストグラムを作成します。

```
title '100 Obs Sampled from an Exponential Distribution';

proc univariate data=distrdata noprint;
var Exponential_x;

histogram /exp(fill l=3) cfill=yellow midpoints=.05 to 5.55 by .25
name='exp';
run;
```

DOCUMENT 出力先を閉じます。 DOCUMENT 出力先が閉じていない場合は、DOCUMENT プロシジャ出力を表示できません。

```
ods document close;
title;
```

ODS ドキュメントを表示し、ODS ドキュメントを選択して、開いている ODS ドキュメントのエントリを表示します。 DOC ステートメント(引数が指定されていないものは、SAS システムに含まれる使用可能なドキュメント全部のリストを印刷します。NAME=オプションを伴う DOC ステートメントは、現在のドキュメントである Work.Univ を指定します。LEVELS=ALL オプションを伴う LIST ステートメントは、ドキュメント Work.Univ のすべての階層に関する詳細情報を表示します。

```
proc document;
doc;
doc name=univ;
list/levels=all;
```

現在のディレクトリを EXPONENTIAL に設定し、EXPONENTIAL ディレクトリの内容を表示し、テーブルを選択し、そのテーブルの詳細を表示します。 DIR ステートメントは、現在のディレクトリを

\Univariate#2\Exponential_x#1\Histogram#1\Exponential#1 に変更します。パス

\Univariate#2\Exponential_x#1\Histogram#1\Exponential#1 は Work.Univ ドキュメントのリストから取得されたものです。LIST ステートメント(引数なし)は EXPONENTIAL の内容を表示します。LIST FITQUANTILES\DETAILS ステートメントは、FitQuantiles テーブルが開かれてその詳細が表示されるように指定します。

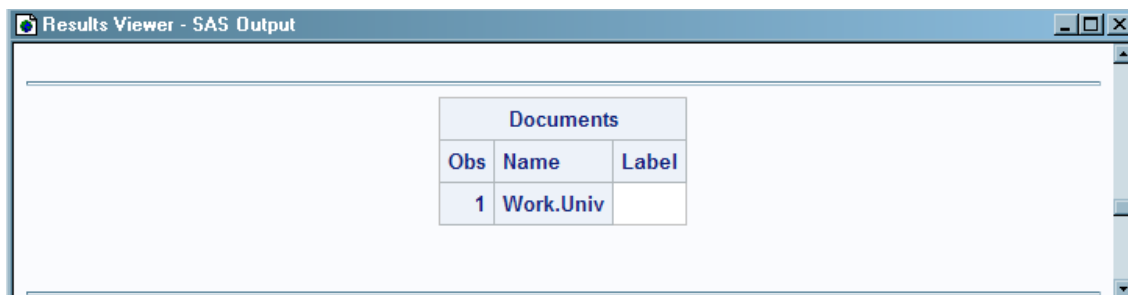
```
dir \Univariate#2\Exponential_x#1\Histogram#1\Exponential#1;
list;
list fitquantiles/details;
run;
```

DOCUMENT プロシジャを終了します。 QUIT ステートメントを指定して、DOCUMENT プロシジャを終了します。QUIT を省略した場合は、DOCUMENT プロシジャの出力を表示できなくなります。

```
quit;
```

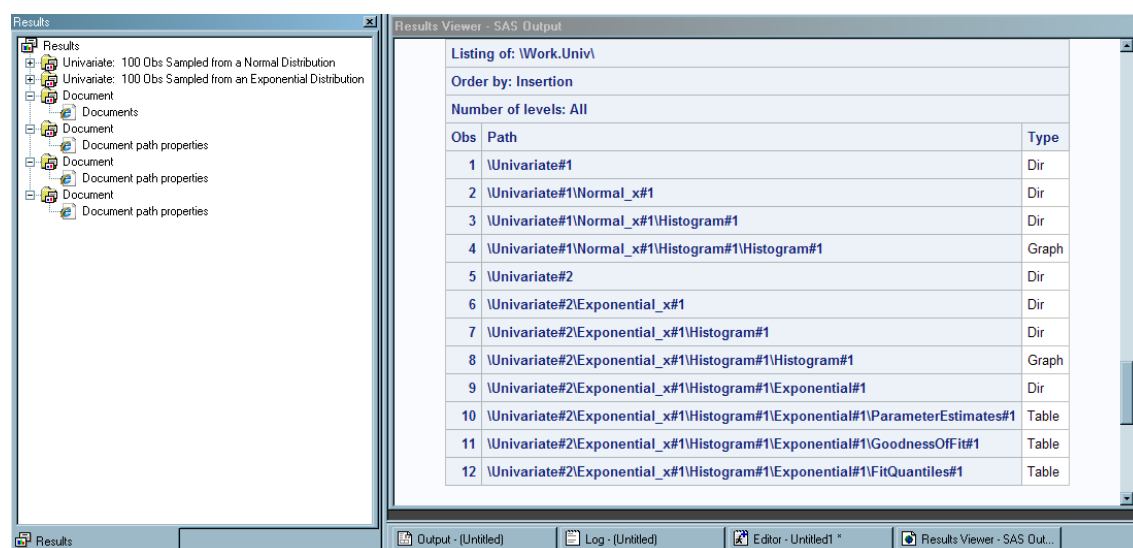
出力

アウトプット 8.1 出力における現在の ODS ドキュメント



Documents		
Obs	Name	Label
1	Work.Univ	

アウトプット 8.2 ODS ドキュメント Work.Univ のエン트리とそれらのエントリのプロパティのリスト



Listing of: Work.Univ		
Order by: Insertion		
Number of levels: All		
Obs	Path	Type
1	\Univariate#1	Dir
2	\Univariate#1\Normal_x#1	Dir
3	\Univariate#1\Normal_x#1\Histogram#1	Dir
4	\Univariate#1\Normal_x#1\Histogram#1\Histogram#1	Graph
5	\Univariate#2	Dir
6	\Univariate#2\Exponential_x#1	Dir
7	\Univariate#2\Exponential_x#1\Histogram#1	Dir
8	\Univariate#2\Exponential_x#1\Histogram#1\Histogram#1	Graph
9	\Univariate#2\Exponential_x#1\Histogram#1\Exponential#1	Dir
10	\Univariate#2\Exponential_x#1\Histogram#1\Exponential#1\ParameterEstimates#1	Table
11	\Univariate#2\Exponential_x#1\Histogram#1\Exponential#1\GoodnessOfFit#1	Table
12	\Univariate#2\Exponential_x#1\Histogram#1\Exponential#1\FitQuantiles#1	Table

アウトプット 8.3 Exponential#1 エントリのエン트리とそれらのエントリのプロパティのリスト



Listing of: Work.Univ\Univariate#2\Exponential_x#1\Histogram#1\Exponential#1		
Order by: Insertion		
Number of levels: 1		
Obs	Path	Type
1	ParameterEstimates#1	Table
2	GoodnessOfFit#1	Table
3	FitQuantiles#1	Table

アウトプット 8.4 FitQuantiles#1 テーブルの詳細

Listing of: \Work.Univ\Univariate#2\Exponential_x#1\Histogram#1\Exponential#1\FitQuantiles#1

Order by: Insertion

Number of levels: 1

Type	Size in Bytes	Created	Modified	Symbolic Link	Template	Label	Page Break
Table	589	14JAN2011:13:43:30	14JAN2011:13:43:30		base.univariate.FitQuant	Quantiles	

例 2: ODS ドキュメントを開き、リスト表示する

要素: PROC DOCUMENT ステートメントオプション
 NAME=
 DIR ステートメント
 LIST ステートメントオプション
 DETAILS
 LEVELS=
 where 式
 REPLAY ステートメント
 プロシジャ出力:
 PROC DOCUMENT
 PROC UNIVARIATE

データセット: DistrData

ODS 出力先: DOCUMENT, LISTING, PDF

注: ODS ドキュメント Univ を作成する SAS コードについては、“[単変量の ODS ドキュメントの作成](#)” (1355 ページ)を参照してください。

詳細

下記のサンプルプログラムは、次に挙げるタスクがどのように実行されるかを示しています。

- ODS ドキュメントを開きます。
- テーブルを再表示し、出力を LISTING 出力先および PDF 出力先に送ります。
- WHERE 式を使用して、ODS ドキュメントの特定のエンタリを表示します。
- 指定されたエンタリの詳細を表示します。
- ODS ドキュメントを PDF ファイルに対して再表示します。

プログラム

```
options nodate nonumber;
proc document name=univ;
```

```
ods pdf file='your_file.pdf';

list ^ (where=( _type_ = 'Graph' or _type_ = 'Table' ) ) / levels=all;
replay univariate#1\Normal_x#1\Histogram#1\Histogram#1;

list \Work.Univ\Univariate#2\Exponential_x#1\Histogram#1\Exponential#1\FitQuantiles#1
/details;
replay \Work.Univ\Univariate#2\Exponential_x#1\Histogram#1\Exponential#1\FitQuantiles#1;
run;

quit;
ods pdf close;
```

プログラムの説明

SAS システムオプションを設定します。NODATE オプションは、出力での日時の表示を非表示にします。NONUMBER オプションは、ページ番号の印刷を非表示にします。

```
options nodate nonumber;
```

ODS ドキュメント Work.Univ を開きます。NAME=オプションが指定された PROC DOCUMENT ステートメントは、更新を実行するために ODS ドキュメント Work.Univ を開きます。“ディレクトリへの移動とエントリの表示”というサンプルに、WORK.Univ が作成されました。

```
proc document name=univ;
```

PDF ファイルに対して出力を再表示するよう指定します。ODS PDF ステートメントは PRINTER 出力先を開き、PDF 出力先に対してヒストグラムを再表示します。FILE=ステートメントは、すべての出力オブジェクトを、ユーザーが指定する外部ファイルへ送ります。HTML 出力はデフォルトで作成されます。

```
ods pdf file='your_file.pdf';
```

現在のドキュメントに関連付けられたエントリを表示し、ヒストグラムを再表示します。WHERE 式を使用すると、LIST ステートメントは、グラフまたはテーブルであるエントリのみを表示します。LEVELS=ALL オプションは、すべての階層に関する詳細情報が表示されるように指定します。^記号は現在のディレクトリを示します。REPLAY ステートメントは、開いているすべての ODS 出力先に対して、Histogram#1 エントリを再表示します。

```
list ^ (where=( _type_ = 'Graph' or _type_ = 'Table' ) ) / levels=all;
replay univariate#1\Normal_x#1\Histogram#1\Histogram#1;
```

FitQuantiles テーブルの詳細を表示し、FitQuantiles テーブルを再表示します。DETAILS オプションを伴う LIST ステートメントは、FitQuantiles table というエントリのプロパティの表示を指定します。REPLAY ステートメントは、FITQUANTILES を再表示して出力先を開きます。

```
list \Work.Univ\Univariate#2\Exponential_x#1\Histogram#1\Exponential#1\FitQuantiles#1
/details;
replay \Work.Univ\Univariate#2\Exponential_x#1\Histogram#1\Exponential#1\FitQuantiles#1;
run;
```

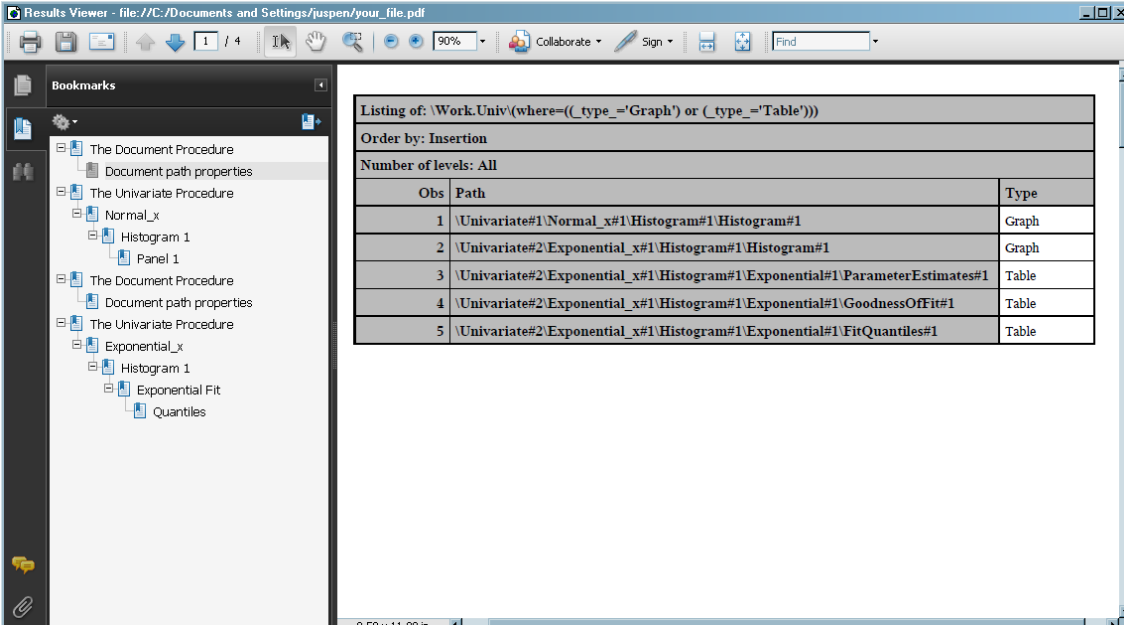
DOCUMENT プロシジャを終了して PDF 出力先を閉じます。QUIT ステートメントを指定して、DOCUMENT プロシジャを終了します。QUIT を省略した場合は、DOCUMENT プロシジャの出力を表示できなくなります。ODS PDF CLOSE ステートメントは、PDF 出力先と、関連付けられているファイル全部を閉じます。出力先を閉じないと、ファイルを表示できません。

```
quit;
ods pdf close;
```

出力

PDF 出力先に送られた ODS ドキュメント Work.Univ の、1 ページ目を表示します。ブックマークをクリックすることで、出力をブラウザで見ることができます。

アウトプット 8.5 Work.Univ で見つかったグラフとテーブルのリスト(Acrobat Reader で表示)



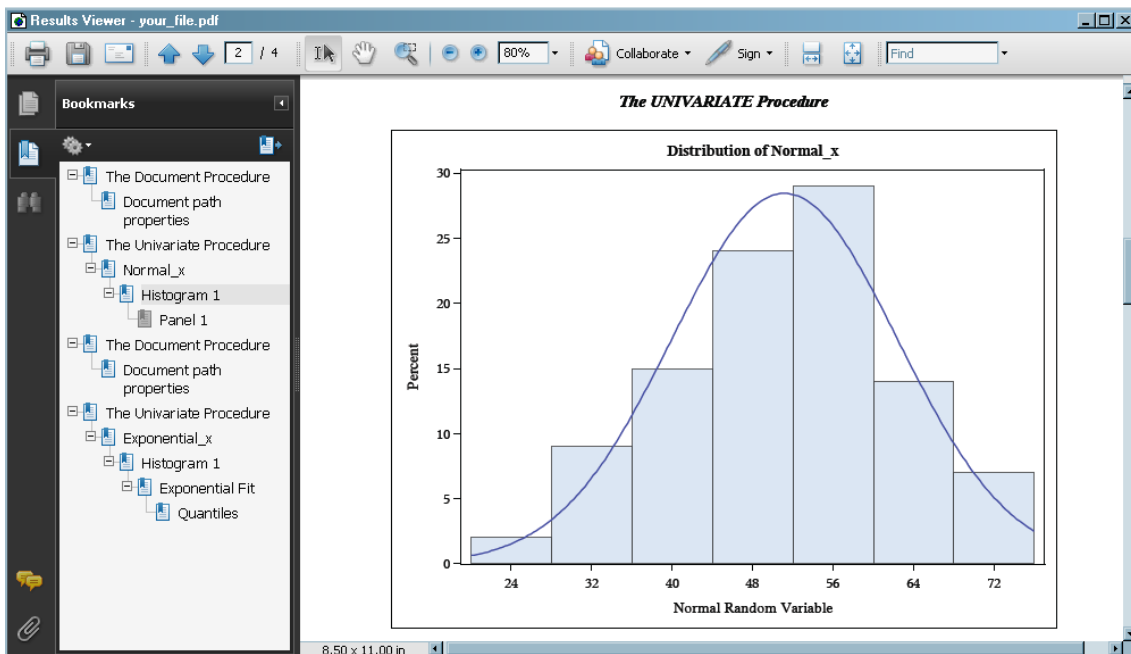
Listing of: \Work.Univ\(\where=(\(_type_='Graph') or (_type_='Table'))

Order by: Insertion

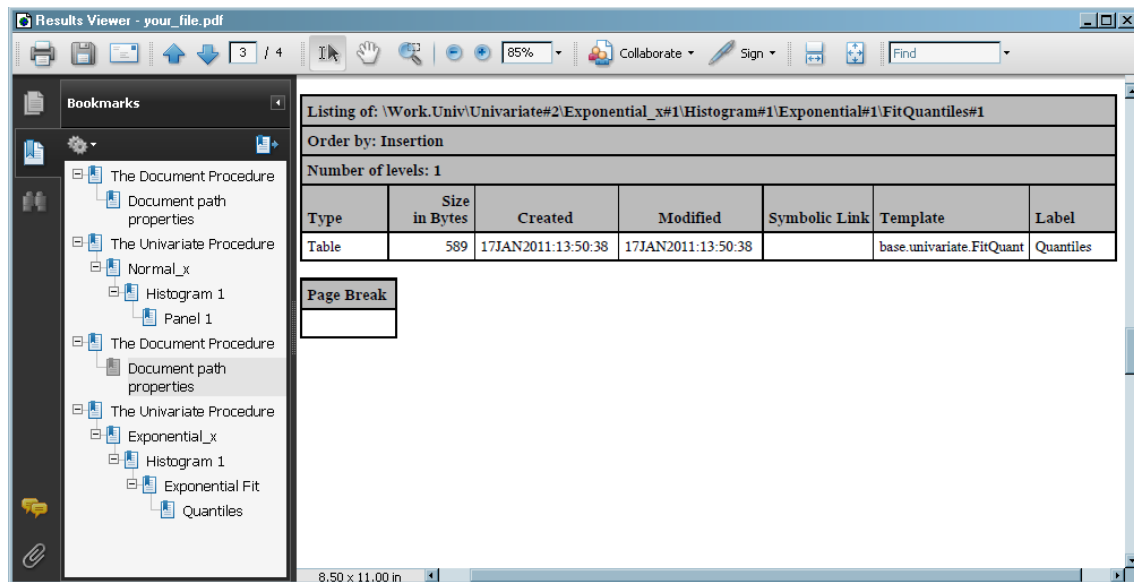
Number of levels: All

Obs	Path	Type
1	\Univariate#1\Normal_x#1\Histogram#1\Histogram#1	Graph
2	\Univariate#2\Exponential_x#1\Histogram#1\Histogram#1	Graph
3	\Univariate#2\Exponential_x#1\Histogram#1\Exponential#1\ParameterEstimates#1	Table
4	\Univariate#2\Exponential_x#1\Histogram#1\Exponential#1\GoodnessOfFit#1	Table
5	\Univariate#2\Exponential_x#1\Histogram#1\Exponential#1\FitQuantiles#1	Table

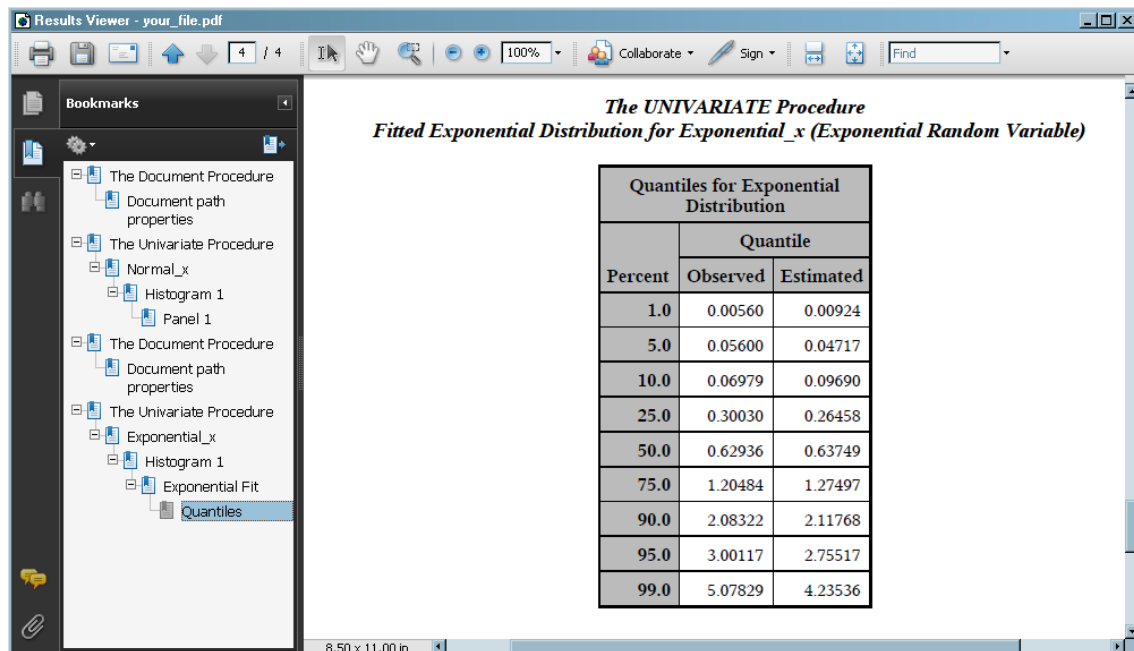
アウトプット 8.6 再表示された正規分布ヒストグラム



アウトプット 8.7 FitQuantiles#1 テーブルの詳細



アウトプット 8.8 再表示された FitQuantiles#1 テーブル



例 3: エントリの管理

要素: PROC DOCUMENT ステートメントオプション
NAME=
DIR ステートメント
LIST ステートメントオプション
LEVELS=
NOTE ステートメント
OBANOTE ステートメントオプション

```

SHOW オプション
OBBNOTE ステートメントオプション
SHOW
OBFOOTN ステートメントオプション
SHOW
OBPAGE ステートメント
OBSTITLE ステートメントオプション
SHOW
OBTITLE ステートメントオプション
SHOW
REPLAY ステートメント
プロシジャ出力
PROC CONTENTS

```

ODS 出力先: DOCUMENT, HTML

詳細

下記のサンプルプログラムは、次に挙げるタスクがどのように実行されるかを示しています。

- PROC CONTENTS 出力を、DOCUMENT 出力先に対して生成します。
- 出力のタイトルおよびフットノートを変更します。
- オブジェクトフッターおよびオブジェクトヘッダーのメモを、出力に追加します。
- 出力のサブタイトルを変更します。
- ドキュメントにメモを追加します。
- 出力に改ページを追加します。
- 出力オブジェクトのヘッダー、タイトルおよびフットノートが含まれたテーブルが、アクティブな出力先に書き込まれるように生成します。
- 各エントリの詳細を表示する、エントリのリストを生成します。

プログラム

```

options nodate pageno=1;

ods document name=class(write);

title 'Title Specified by the Global TITLE Statement';
footnote 'Footnote Specified by the Global FOOTNOTE Statement';

proc contents data=sashelp.class;
run;

ods document close;

proc document name=class;
dir \Contents#1\DataSet#1;
run;
obtitle Attributes#1 'Title Specified by the OBTITLE Statement';
run;
quit;

proc document name=class;
dir \Contents#1\DataSet#1;

```

```

run;
obbnote Attributes#1 'Object Heading Note Specified by the OBBNOTE Statement';
run;
quit;

proc document name=class;
dir \Contents#1\DataSet#1;
run;
obfootn Variables#1 'Change the Global Footnote with the OBFOOTN Statement';
run;
quit;

proc document name=class;
dir \Contents#1\DataSet#1;
run;
obanote Attributes#1 'Object Footer Note Specified by the OBANOTE Statement';
run;
quit;

proc document name=class;
dir \Contents#1\DataSet#1;
run;
obstitle Attributes#1 'Subtitle Specified by the OBSTITLE Statement';
run;
quit;

proc document name=class;
note addnote 'Note added to the document';
run;
quit;

ods html file='your_file.html' style=Banker;
proc document name=class;
obpage \Contents#1\DataSet#1\Variables#1;
replay;
run;
quit;

proc document name=class;
list/levels=all details;
dir \Contents#1\DataSet#1;
obanote Attributes#1 show;
obbnote Attributes#1 show;
obfootn Variables#1 show;
obstitle Attributes#1 show;
obtitle Attributes#1 show;
run;
quit;

ods html close;

```

プログラムの説明

SAS システムオプションを設定します。 NODATE オプションは、出力での日時の表示を非表示にします。 PAGENO=オプションは開始ページ番号を指定します。

```
options nodate pageno=1;
```


DOCUMENT 出力先を開きます。 NAME=オプションは、Class という名前の ODS ドキュメントを作成します。

```
ods document name=class(write);
```

グローバルタイトルおよびグローバルフットノートを指定します。 TITLE ステートメントは、ユーザーが別のステートメントを使用して変更するまで使用される、タイトルを作成します。FOOTNOTE ステートメントは、ユーザーが別のステートメントを使用して変更するまで使用される、フットノートを作成します。

```
title 'Title Specified by the Global TITLE Statement';
footnote 'Footnote Specified by the Global FOOTNOTE Statement';
```

SAS データセットの内容を表示します。 CONTENTS プロシジャは、SAS データセット Sashelp.Class の内容を表示します。

```
proc contents data=sashelp.class;
run;
```

DOCUMENT 出力先を閉じて、LISTING 出力を作成します。 ODS ドキュメント Class のエンタリは、次の例のリメンターで使用されます。

```
ods document close;
```

グローバルタイトルを変更します。 OBTITLE ステートメントは、属性#1 エントリに新しいタイトルを割り当てます。NAME=オプションは現在の ODS ドキュメントを指定します。PROC DOCUMENT は、RUN ステートメントの実行後でも実行していることに注意してください。DIR ステートメントは、現在のパスを \Contents#1\DataSet#1 に変更します。QUIT ステートメントは PROC DOCUMENT を終了します。

```
proc document name=class;
dir \Contents#1\DataSet#1;
run;
obtitle Attributes#1 'Title Specified by the OBTITLE Statement';
run;
quit;
```

オブジェクトヘッダーのメモを出力に追加します。 OBBNOTE ステートメントは、オブジェクトヘッダーのメモを属性#1 エントリに割り当てます。NAME=オプションは現在の ODS ドキュメントを指定します。DIR ステートメントは、現在のディレクトリを \Contents#1\DataSet#1 に変更します。QUIT ステートメントは PROC DOCUMENT を終了します。

```
proc document name=class;
dir \Contents#1\DataSet#1;
run;
obbnote Attributes#1 'Object Heading Note Specified by the OBBNOTE Statement';
run;
quit;
```

グローバルフットノートを変更します。 OBFOOTN ステートメントは、変数#1 エントリに新規のフットノートを割り当てます。NAME=オプションは現在の ODS ドキュメントを指定します。DIR ステートメントは、現在のディレクトリを \Contents#1\DataSet#1 に変更します。QUIT ステートメントは PROC DOCUMENT を終了します。

```
proc document name=class;
dir \Contents#1\DataSet#1;
run;
```

```

obfootn Variables#1 'Change the Global Footnote with the OBFOOTN Statement';
run;
quit;

```

オブジェクトフッターのメモを追加します。 OBANOTE ステートメントは、オブジェクトフッターのメモを属性#1 エントリに割り当てます。NAME=オプションは現在の ODS ドキュメントを指定します。DIR ステートメントは、現在のディレクトリを \Contents#1\DataSet#1 II 変更します。QUIT ステートメントは PROC DOCUMENT を終了します。

```

proc document name=class;
dir \Contents#1\DataSet#1;
run;
obanote Attributes#1 'Object Footer Note Specified by the OBANOTE Statement';
run;
quit;

```

出力のサブタイトルを変更します。 OBSTITLE ステートメントはサブタイトルを変更します。サブタイトルは、出力を作成したプロシジャを識別します。NAME=オプションは現在の ODS ドキュメントを指定します。DIR ステートメントは、現在のディレクトリを \Contents#1\DataSet#1 II 変更します。QUIT ステートメントは PROC DOCUMENT を終了します。

```

proc document name=class;
dir \Contents#1\DataSet#1;
run;
obstitle Attributes#1 'Subtitle Specified by the OBSTITLE Statement';
run;
quit;

```

ドキュメントにメモを追加します。 NOTE ステートメントは、ADDNOTE というメモオブジェクトを ODS ドキュメントに追加します。NAME=オプションは現在の ODS ドキュメントを指定します。LEVELS=ALL オプションを伴う LIST ステートメントは、Class ドキュメントのエントリのリストを表示します。QUIT ステートメントは PROC DOCUMENT を終了します。

```

proc document name=class;
note addnote 'Note added to the document';
run;
quit;

```

出力に改ページを追加し、HTML 出力を作成し、変数#1 を再表示します。 ODS HTML ステートメントは HTML 出力先を開き、HTML4.0 出力を作成します。STYLE=オプションは、ODS がスタイル Banker を使用するよう指定します。OBPAGE ステートメントは改ページを挿入します。NAME=オプションは現在の ODS ドキュメントを指定します。REPLAY ステートメントは、Variables#1 オブジェクトを再表示し、開いているすべての ODS 出力先の出力を生成します。QUIT ステートメントは PROC DOCUMENT を終了します。

```

ods html file='your_file.html' style=Banker;
proc document name=class;
obpage \Contents#1\DataSet#1\Variables#1;
replay;
run;
quit;

```

タイトル、フットノートおよびメモのそれぞれのコンテキスト情報が含まれたテーブルを生成します。 NAME=オプションは現在の ODS ドキュメントを指定します。LEVELS=ALL オプ

ションを伴う LIST ステートメントは、Class ドキュメントのエントリのリストを表示します。DIR ステートメントは、現在のディレクトリを \Contents#1\DataSet#1 に変更します。SHOW オプションは、タイトル、フットノートおよびメモのそれぞれのコンテキスト情報が含まれたテーブルを生成します。QUIT ステートメントは PROC DOCUMENT を終了します。

```
proc document name=class;
list/levels=all details;
dir \Contents#1\DataSet#1;
obanote Attributes#1 show;
obbnote Attributes#1 show;
obfootn Variables#1 show;
obstitle Attributes#1 show;
obttitle Attributes#1 show;
run;
quit;
```

HTML 出力先を閉じます。 ODS HTML CLOSE ステートメントは HTML 出力先を閉じます。

```
ods html close;
```

出力

アウトプット 8.9 グローバルタイトル、グローバルフットノート、サブタイトル、オブジェクトヘッダーのメモ、オブジェクトフッターのメモおよびメモ

Results Viewer - SAS Output

Title Specified by the OBTITLE Statement

Subtitle Specified by the OBSTITLE Statement

Object Heading Note Specified by the OBBNOTE Statement

Data Set Name	SASHELP.CLASS	Observations	19
Member Type	DATA	Variables	5
Engine	V9	Indexes	0
Created	Wed, Dec 01, 2010 02:44:15 PM	Observation Length	40
Last Modified	Wed, Dec 01, 2010 02:44:15 PM	Deleted Observations	0
Protection		Compressed	NO
Data Set Type		Sorted	NO
Label	Student Data		
Data Representation	WINDOWS_32		
Encoding	us-ascii ASCII (ANSI)		

Object Footer Note Specified by the OBANOTE Statement

Engine/Host Dependent Information	
Data Set Page Size	4096
Number of Data Set Pages	1
First Data Page	1
Max Obs per Page	101
Obs in First Data Page	19
Number of Data Set Repairs	0
Filename	C:\SAS\9\sasgen\dev\mva-r930\sas_dvd\src\dtno\en\sasHELP\class.sas7bdar
Release Created	9.0301B0
Host Created	NET_SRV

Change the Global Footnote with the OBFOOTN Statement

Title Specified by the Global TITLE Statement

The CONTENTS Procedure

Alphabetic List of Variables and Attributes			
#	Variable	Type	Len
3	Age	Num	8
4	Height	Num	8
1	Name	Char	8
2	Sex	Char	1
5	Weight	Num	8

Change the Global Footnote with the OBFOOTN Statement

Note added to the document

アウトプット 8.10 Work.Class のリスト

Title Specified by the Global TITLE Statement									
Listing of: \Work.Class\									
Order by: Insertion									
Number of levels: All									
Obs	Path	Type	Size in Bytes	Created	Modified	Symbolic Link	Template	Label	Page Break
1	\Contents#1	Dir		27OCT2010:09:51:10	27OCT2010:09:51:10			The Contents Procedure	
2	\Contents#1\DataSet#1	Dir		27OCT2010:09:51:10	27OCT2010:09:51:12			SASHELP.CLASS	
3	\Contents#1\DataSet#1 \Attributes#1	Table	702	27OCT2010:09:51:10	27OCT2010:09:51:10		Base.Contents.Attributes	Attributes	Before
4	\Contents#1\DataSet#1 \EngineHost#1	Table	531	27OCT2010:09:51:12	27OCT2010:09:51:12		Base.Contents.EngineHost	Engine/Host Information	
5	\Contents#1\DataSet#1 \Variables#1	Table	309	27OCT2010:09:51:12	27OCT2010:09:51:12		Base.Contents.Variables	Variables	Before
6	\addnote#1	Note	189	27OCT2010:09:51:15	27OCT2010:09:51:15				

Footnote Specified by the Global FOOTNOTE Statement

アウトプット 8.11 SHOW オプションでの指定により生成されたコンテキストテーブル

Title Specified by the Global TITLE Statement

Context of: \Work.Class\Contents#1\DataSet#1\Attributes#1	
Type: After Notes	
Number	Text
1	Object Footer Note Specified by the OBANOTE Statement

Footnote Specified by the Global FOOTNOTE Statement

Title Specified by the Global TITLE Statement

Context of: \Work.Class\Contents#1\DataSet#1\Attributes#1	
Type: Before Notes	
Number	Text
1	Object Heading Note Specified by the OBNOTE Statement

Footnote Specified by the Global FOOTNOTE Statement

Title Specified by the Global TITLE Statement

Context of: \Work.Class\Contents#1\DataSet#1\Variables#1	
Type: Footnotes	
Number	Text
1	Change the Global Footnote with the OBFOOTN Statement

Footnote Specified by the Global FOOTNOTE Statement

Title Specified by the Global TITLE Statement

Context of: \Work.Class\Contents#1\DataSet#1\Attributes#1	
Type: Subtitles	
Number	Text
1	Subtitle Specified by the OBSTITLE Statement

Footnote Specified by the Global FOOTNOTE Statement

Title Specified by the Global TITLE Statement

Context of: \Work.Class\Contents#1\DataSet#1\Attributes#1	
Type: Titles	
Number	Text
1	Title Specified by the OBTITLE Statement

Footnote Specified by the Global FOOTNOTE Statement

例 4: BY グループのエントリの表示

要素: LIST ステートメントオプション
BYGROUPS
LEVELS
LIST
PROC DOCUMENT ステートメントオプション
NAME=
OBTEMPL ステートメント
プロシジャ出力
PROC DOCUMENT
PROC STANDARD

ODS 出力先: DOCUMENT, HTML

詳細

下記のサンプルプログラムは、次に挙げるタスクがどのように実行されるかを示しています。

- PROC STANDARD 出力を、DOCUMENT 出力先に対して生成します。
- PROC STANDARD 出力の表示方法を説明するテーブルテンプレートを表示します。
- ODS ドキュメントを作成します。
- ODS ドキュメントを開きます。
- ODS ドキュメントの BY グループエントリを表示します。

プログラム

```
options nodate nonumber;
ods document name=mydocument(write);

data score;
input Student Section Test1-Test3;
stest1=test1;
stest2=test2;
stest3=test3;
datalines;
238900545 1 94 91 87
254701167 1 95 96 97
238806445 2 91 86 94
999002527 2 80 76 78
263924860 1 92 40 85
459700886 2 75 76 80
416724915 2 66 69 72
999001230 1 82 84 80
242760674 1 75 76 70
990001252 2 51 66 91
;
run;
```

```

proc sort data=score;
by Section Student;
run;

proc standard mean=80 std=5 out=StndScore print;

  by section student;
var stest1-stest3;
run;

ods document close;

proc document name=mydocument;
title "Listing of MyDocument Using the BYGROUPS Option";
run;
list/ levels=all bygroups;
run;
title "Table Template for the Output Object Standard#1";
obtempl \Standard#1\ByGroup1#1\Standard#1;
run;

quit;

```

プログラムの説明

SAS システムオプションを設定し、ODS ドキュメント MyDocument を作成し、DOCUMENT 出力先を開きます。 NODATE オプションは、出力での日時の表示を非表示にします。NONUMBER オプションは、ページ番号の印刷を非表示にします。NAME=オプションが指定された ODS DOCUMENT ステートメントが、ODS ドキュメント MyDocument を開き、読み取りアクセスと書き込みアクセスを付与します。デフォルトでは、Work ライブラリに MyDocument が作成されることに注意してください。ライブラリ参照名を割り当てて、永久ライブラリに MyDocument を作成します。

```

options nodate nonumber;
ods document name=mydocument(write);

```

Score データセットを作成およびソートします。 このデータセットには、2 件のテストと 1 件の期末試験を受けた学生の得点が含まれています。SORT プロシジャは、BY 変数 Section および Student によってデータセットをソートします。

```

data score;
input Student Section Test1-Test3;
stest1=test1;
stest2=test2;
stest3=test3;
datalines;
238900545 1 94 91 87
254701167 1 95 96 97
238806445 2 91 86 94
999002527 2 80 76 78
263924860 1 92 40 85
459700886 2 75 76 80
416724915 2 66 69 72
999001230 1 82 84 80
242760674 1 75 76 70
990001252 2 51 66 91
;
run;

```



```
proc sort data=score;
  by Section Student;
run;
```

標準化されたデータを生成し、出力データセット **StndScore** を作成します。PROC STANDARD は、平均値 80、標準偏差 5 を使用して、値を標準化します。OUT=は、標準化された値を含むデータセットとして、StndScore を認識します。PRINT オプションは統計データを印刷します。

```
proc standard mean=80 std=5 out=StndScore print;
```

各 BY グループに対して標準化された値を作成し、変数が標準化するよう指定します。BY ステートメントは、セクション番号および学生 ID に基づいて、個別に値を標準化します。VAR ステートメントは、標準化する変数と、その出力内での順序を指定します。

```
  by section student;
  var stest1-stest3;
run;
```

DOCUMENT 出力先を閉じます。 DOCUMENT 出力先が閉じていない場合は、DOCUMENT プロシジャ出力を表示できません。

```
ods document close;
```

ODS ドキュメント MyDocument を開き、エントリを表示し、PROC STANDARD 出力の表示方法を指定するテーブルテンプレートを表示します。 NAME=オプションが指定された PROC DOCUMENT ステートメントは、ODS ドキュメント Work.MyDocument を開きます。LEVELS=ALL オプションを伴う LIST ステートメントは、ドキュメント Work.MyDocument のすべての階層に関する詳細情報を表示します。BYGROUPS オプションは、BY グループの情報のためのリストステートメント出力内に、列を作成します。BY グループの情報を伴う列の名前は、BY 変数 Section および Student の名前です。OBTEMPL ステートメントは、出力オブジェクト Standard#1 に関連付けられたテーブルテンプレートを、HTML 出力先へ書き込みます。ODS DOCUMENT CLOSE ステートメントは、DOCUMENT 出力先を閉じます。DOCUMENT 出力先が閉じていない場合は、DOCUMENT プロシジャ出力を表示できません。LEVELS=ALL を省略する場合、エントリリストは作成されません。これは、ODS がディレクトリ階層でいずれの BY グループも見つけることができず、BYGROUPS オプションが指定されたときに BY グループのみが表示されるからです。

BYGROUPS オプションを省略した場合に出力がどのように表示されるかについては、[アウトプット 8.13 \(830 ページ\)](#)を参照してください。

```
proc document name=mydocument;
  title "Listing of MyDocument Using the BYGROUPS Option";
run;
list/ levels=all bygroups;
run;
title "Table Template for the Output Object Standard#1";
obtempl \Standard#1\ByGroup1#1\Standard#1;
run;
```

DOCUMENT プロシジャを終了します。 QUIT ステートメントを指定して、DOCUMENT プロシジャを終了します。QUIT を省略した場合は、DOCUMENT プロシジャの出力を表示できなくなります。

```
quit;
```

出力

BYGROUPS オプションが指定されていないため、次の出力は、[Obs]、[パス]および [種類]の 3 列のみとなっています。Work.MyDocument のすべての階層とすべてのエントリが表示されます。

アウトプット 8.12 BYGROUPS オプションが指定されていない Work.MyDocument のリスト

The screenshot shows a window titled "Results Viewer - SAS Output" displaying a directory listing. The listing is titled "The SAS System" and "Listing of: \Work.Mydocument\". It includes the following information:

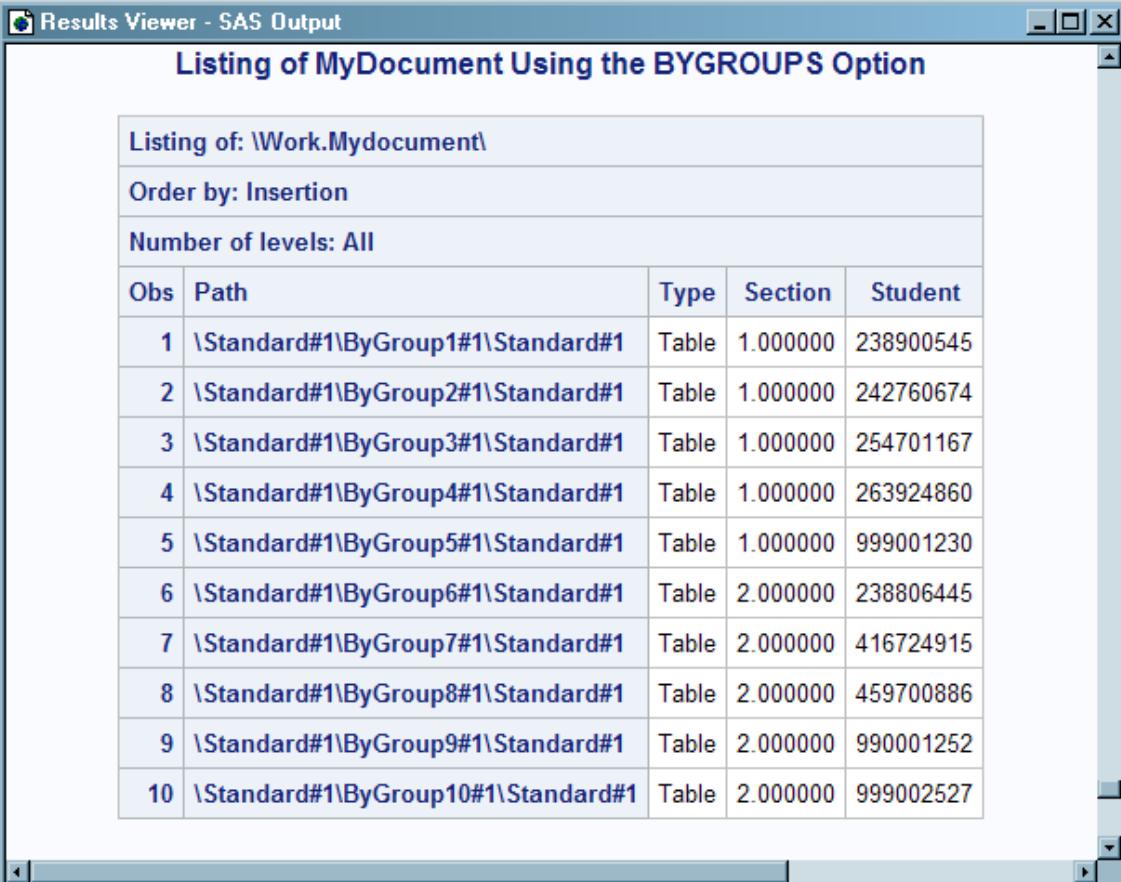
- Order by: Insertion
- Number of levels: All

Obs	Path	Type
1	\Standard#1	Dir
2	\Standard#1\ByGroup1#1	Dir
3	\Standard#1\ByGroup1#1\Standard#1	Table
4	\Standard#1\ByGroup2#1	Dir
5	\Standard#1\ByGroup2#1\Standard#1	Table
6	\Standard#1\ByGroup3#1	Dir
7	\Standard#1\ByGroup3#1\Standard#1	Table
8	\Standard#1\ByGroup4#1	Dir
9	\Standard#1\ByGroup4#1\Standard#1	Table
10	\Standard#1\ByGroup5#1	Dir
11	\Standard#1\ByGroup5#1\Standard#1	Table
12	\Standard#1\ByGroup6#1	Dir
13	\Standard#1\ByGroup6#1\Standard#1	Table
14	\Standard#1\ByGroup7#1	Dir
15	\Standard#1\ByGroup7#1\Standard#1	Table
16	\Standard#1\ByGroup8#1	Dir
17	\Standard#1\ByGroup8#1\Standard#1	Table
18	\Standard#1\ByGroup9#1	Dir
19	\Standard#1\ByGroup9#1\Standard#1	Table
20	\Standard#1\ByGroup10#1	Dir
21	\Standard#1\ByGroup10#1\Standard#1	Table

BYGROUPS オプションが指定された場合は、5 列になります。追加の列(Section および Student)は、BYGROUPS オプションによって作成されます。BY 変数名は列名にな

ります。BY グループの情報が含まれているエントリのみが表示されます。ディレクトリであるエントリは、BY グループの情報が含まれていないため、表示されません。

アウトプット 8.13 BYGROUPS オプションが指定された Work.MyDocument のリスト



Listing of: \Work.Mydocument\				
Order by: Insertion				
Number of levels: All				
Obs	Path	Type	Section	Student
1	\Standard#1\ByGroup1#1\Standard#1	Table	1.000000	238900545
2	\Standard#1\ByGroup2#1\Standard#1	Table	1.000000	242760674
3	\Standard#1\ByGroup3#1\Standard#1	Table	1.000000	254701167
4	\Standard#1\ByGroup4#1\Standard#1	Table	1.000000	263924860
5	\Standard#1\ByGroup5#1\Standard#1	Table	1.000000	999001230
6	\Standard#1\ByGroup6#1\Standard#1	Table	2.000000	238806445
7	\Standard#1\ByGroup7#1\Standard#1	Table	2.000000	416724915
8	\Standard#1\ByGroup8#1\Standard#1	Table	2.000000	459700886
9	\Standard#1\ByGroup9#1\Standard#1	Table	2.000000	990001252
10	\Standard#1\ByGroup10#1\Standard#1	Table	2.000000	999002527

アウトプット 8.14 PROC STANDARD 出力に関連付けられたテーブルテンプレート

```

Results Viewer - SAS Output
Table Template for the Output Object Standard#1

proc template;
  define table Base.Standard;
    notes "Table definition for PROC Standard.";
    column name mean std n label;

    define name;
      header = "Name";
      varname = Name;
      style = RowHeader;
    end;

    define mean;
      header = "Mean";
      format = D12.;
      varname = Mean;
    end;

    define std;
      header = "/Standard/Deviation";
      format = D12.;
      varname = stdDev;
    end;

    define n;
      header = "N";
      format = best.;
    end;

    define label;
      header = "Label";
      varname = Label;
    end;
    required_space = 3;
    byline;
    wrap;
  end;
run;

```

例 5: リスト出力と SAS プログラムのインポート

要素: PROC DOCUMENT ステートメントのオプション
 NAME=
 IMPORT ステートメントオプション
 TEXTFILE=
 LIST ステートメント
 REPLAY ステートメント
 プロシジャ出力
 PROC DOCUMENT
 PROC GLM

ODS 出力先: DOCUMENT, HTML, LISTING

詳細

次の例は、IMPORT TO ステートメントを使用して、2つのファイルを ODS ドキュメントに取り込みます。最初のファイルには LISTING 出力が含まれ、2番目のファイルに

は SAS プログラムが含まれています。ファイルは ODS ドキュメントにインポートされ、PDF ドキュメントに対して再表示されます。次の例では、textfileExample という名前のテキストファイルとして保存されたサンプル全体が、SAS プログラムとしてインポートされます。このサンプルを実行する前に、サンプルを textfileExample.sas という名前で保存してください。

プログラム

```
options nodate nostimer LS=80 PS=60;

title1 'Importing a SAS Program and LISTING Output';

data one;
do month = 1 to 12;
age = 2 + 0.3*rannor(345467);
age2 = 3 + 0.3*rannor(345467);
age3 = 4 + 0.4*rannor(345467);
output;
end;
run;

ods listing file="your-file-path/odsglm.lst";

proc glm;
class month;
model age age2 age3=month / nouni; manova h=month /printe;
run;
quit;

data plants;
input type $ @;
do block=1 to 3;
input stemleng @;
output;
end;
datalines;
clarion 32.7 32.3 31.5
clinton 32.1 29.7 29.1
knox 35.7 35.9 33.1
o'neill 36.0 34.2 31.2
compost 31.8 28.0 29.2
wabash 38.2 37.8 31.9
webster 32.5 31.1 29.7
;

proc glm order=data;
class type block;
model stemleng=type block;
means type;
contrast 'compost vs others' type -1 -1 -1 -1 6 -1 -1;
contrast 'river soils vs.non' type -1 -1 -1 -1 0 5 -1,
type -1 4 -1 -1 0 0 -1;
contrast 'glacial vs drift' type -1 0 1 1 0 0 -1;
contrast 'clarion vs webster' type -1 0 0 0 0 0 1;
contrast 'knox vs oneill' type 0 0 1 -1 0 0 0;
```

```

quit;
ods listing close;

ods listing;

proc document name=import(write);
import textfile="your-file-path\odsglm.lst" to ^;
import textfile="your-file-path\textfileExample.sas" to ^;
list/details;
run;

ods pdf file="out.pdf";
replay;
run;

quit;
ods pdf close;

```

プログラムの説明

SAS システムオプションを設定し、タイトルを追加します。 OPTIONS ステートメントは SAS システムオプションを指定し、TITLE ステートメントはタイトルを指定します。

```

options nodate nostimer LS=80 PS=60;

title1 'Importing a SAS Program and LISTING Output';

```

ONE データセットを作成します。

```

data one;
do month = 1 to 12;
age = 2 + 0.3*rannor(345467);
age2 = 3 + 0.3*rannor(345467);
age3 = 4 + 0.4*rannor(345467);
output;
end;
run;

```

インポートするリストファイルを作成します。 ODS LISTING ステートメントは Odsglm.lst というファイルを作成します。このファイルには LISTING 出力が含まれています。

```

ods listing file="your-file-path/odsglm.lst";

```

GLM プロシジャを実行します。

```

proc glm;
class month;
model age age2 age3=month / nouni; manova h=month /printe;
run;
quit;

```

Plants データセットを作成します。

```

data plants;
input type $ @;
do block=1 to 3;

```

```

input stemleng @;
output;
end;
datalines;
clarion 32.7 32.3 31.5
clinton 32.1 29.7 29.1
knox 35.7 35.9 33.1
o'neill 36.0 34.2 31.2
compost 31.8 28.0 29.2
wabash 38.2 37.8 31.9
webster 32.5 31.1 29.7
;

```

GLM プロシジャを実行します。

```

proc glm order=data;
class type block;
model stemleng=type block;
means type;
contrast 'compost vs others' type -1 -1 -1 -1 6 -1 -1;
contrast 'river soils vs.non' type -1 -1 -1 -1 0 5 -1,
type -1 4 -1 -1 0 0 -1;
contrast 'glacial vs drift' type -1 0 1 1 0 0 -1;
contrast 'clarion vs webster' type -1 0 0 0 0 0 1;
contrast 'knox vs oneill' type 0 0 1 -1 0 0 0;
quit;
ods listing close;

```

DOCUMENT プロシジャを実行します。 PRO DOCUMENT ステートメントは、ドキュメントに“Import”と名前を付け、書き込みアクセスのためにそれを開きます。TEXTFILE=オプションが指定された最初の IMPORT TO ステートメントは、ファイル Odsglm.lst を、現在のディレクトリにある ODS ドキュメントにインポートします。TEXTFILE=オプションが指定された 2 番目の IMPORT TO ステートメントは、ファイル textfileExample.sas を、現在のディレクトリにある ODS ドキュメントにインポートします。

```

ods listing;

proc document name=import(write);
import textfile="your-file-path\odsglm.lst" to ^;
import textfile="your-file-path\textfileExample.sas" to ^;
list/details;
run;

```

ドキュメントを PDF ファイルに対して再表示します。 REPLAY ステートメントは、PDF ファイル Out.pdf に対してドキュメントを再表示します。

```

ods pdf file="out.pdf";
replay;
run;

```

DOCUMENT プロシジャを終了して PDF 出力先を閉じます。 QUIT ステートメントを指定して、DOCUMENT プロシジャを終了します。QUIT を省略した場合は、DOCUMENT プロシジャの出力を表示できなくなります。ODS PDF CLOSE ステートメントは、PDF 出力先を閉じます。

```

quit;
ods pdf close;

```

出力

アウトプット 8.15 インポートされた LISTING 出力

Importing a SAS Program and Listing Output

The GLM Procedure

Class Level Information

Class	Levels	Values
month	12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

Number of Observations Read 12
Number of Observations Used 12

Importing a SAS Program and Listing Output

The GLM Procedure

Multivariate Analysis of Variance

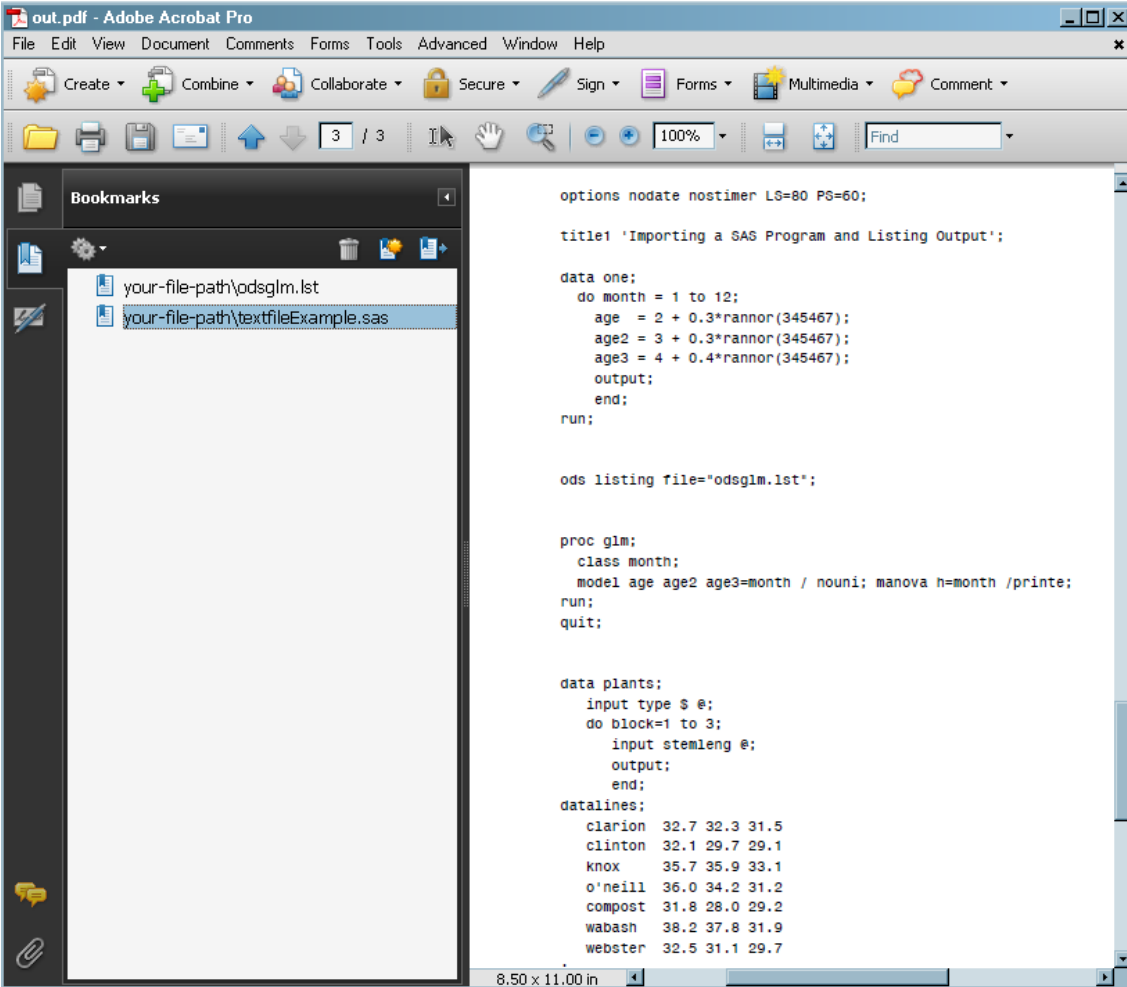
E = Error SSCP Matrix

	age	age2	age3
age	0	2.357123E-17	-3.9343E-17
age2	2.357123E-17	0	-1.49112E-16
age3	-3.9343E-17	-1.49112E-16	0

Partial Correlation Coefficients from the Error SSCP Matrix / Prob > |

DF = 0	age	age2	age3
age	0.000000	0.000000	0.000000
age2	0.000000	0.000000	0.000000
age3	0.000000	0.000000	0.000000

アウトプット 8.16 インポートされた SAS プログラム



The screenshot shows the Adobe Acrobat Pro interface. The main content area displays SAS code and its output. The code includes options, a title, data generation, ODS listing, and PROC GLM procedures. The output shows the results of the PROC GLM analysis, including a table of datalines.

```
options nodate nostimer LS=80 PS=60;

title1 'Importing a SAS Program and Listing Output';

data one;
  do month = 1 to 12;
    age = 2 + 0.3*rannor(345467);
    age2 = 3 + 0.3*rannor(345467);
    age3 = 4 + 0.4*rannor(345467);
  output;
  end;
run;

ods listing file="odsglm.lst";

proc glm;
  class month;
  model age age2 age3=month / nouni; manova h=month /printe;
run;
quit;

data plants;
  input type $ @;
  do block=1 to 3;
    input stemleng @;
    output;
  end;
datalines;
  clarion 32.7 32.3 31.5
  clinton 32.1 29.7 29.1
  knox 35.7 35.9 33.1
  o'neill 36.0 34.2 31.2
  compost 31.8 28.0 29.2
  wabash 38.2 37.8 31.9
  webster 32.5 31.1 29.7
```


7 部

TEMPLATE プロシジャ

9 章	TEMPLATE プロシジャ: 概要	841
10 章	TEMPLATE プロシジャ: テンプレートストアの管理	855
11 章	TEMPLATE プロシジャ: クロス集計表テンプレートの作成	877
12 章	TEMPLATE プロシジャ: ODS グラフの作成	935
13 章	TEMPLATE プロシジャ: スタイルテンプレートの作成	941
14 章	TEMPLATE プロシジャ: テーブルテンプレートの作成	1059
15 章	TEMPLATE プロシジャ: マークアップ言語のタグセットの作成	1165

9 章

TEMPLATE プロシジャ: 概要

TEMPLATE プロシジャについて	841
TEMPLATE プロシジャについて	841
用語: TEMPLATE プロシジャ	842
ODS テンプレートの後方互換性	843
構文: TEMPLATE プロシジャ: 概要	845
TEMPLATE プロシジャの使用	846
TEMPLATE プロシジャを使用して可能な操作	846
カテゴリ別の PROC TEMPLATE ステートメント	852
追加情報	853

TEMPLATE プロシジャについて

TEMPLATE プロシジャについて

TEMPLATE プロシジャを使用すると、SAS 出力の表示設定をカスタマイズできます。たとえば、各種の出力に合わせてテンプレートを作成したり、既存のテンプレートを拡張、変更できます。

- スタイル
- テーブル
- クロス集計表
- 列
- ヘッダー
- フッター
- タグセット
- ODS グラフィックス

ODS では、フォーマットされた出力を生成するために、上記のテンプレートが使用されます。

また、TEMPLATE プロシジャを使用すると、テンプレートストアに保存されているテンプレートに移動したり、テンプレートを管理できます。次は、PROC TEMPLATE を使用して実行できるタスクの例を示します。

- 既存テンプレートの編集
- 既存テンプレートへのリンクの作成
- 新規テンプレートの書込場所の変更
- 既存テンプレートの検索
- テンプレートのソースコードの表示

用語: TEMPLATE プロシジャ

次の用語は、PROC TEMPLATE を説明する際によく使用されます。

集計保存場所

個別ファイルのグループを含む、オペレーティングシステム上の場所を意味します。ホストオペレーティングシステムによって、ファイルの集計グループはディレクトリ、maclib、パーティション化されたデータセットなどのそれぞれの名前で呼ばれます。SAS 内からの集計保存場所を参照する際の標準フォームは、*fileref(name)* です。ここで、*fileref* は全体の集合を示し、(*name*) はその集計の特定のファイルまたはメンバを示します。

EVENT

指定したイベントが発生したときにマークアップ送信先によって生成されるテキストを指定します。たとえば、ROW というイベントのテンプレートでは、イベントの開始時に行を開始するための適切なタグや、イベントの終了時に行を終わらせるための適切なタグを配置するように指定されます。ODS 出力を生成する SAS プロシジャでは、TEMPLATE プロシジャを使用してカスタマイズ可能なイベントの標準セットが使用されます。

グラフテンプレート

単一セルグラフまたは複数セルグラフの内容および構造を記述します。

アイテムストア

SAS ライブラリのメンバを示します。アイテムストアは、1 つの物理ファイルとして実装される階層構造のファイルシステムです。アイテムストアには、UNIX や Windows オペレーティングシステム環境のファイルシステムに類似しているディレクトリとファイル(アイテムと呼ばれます)が格納されます。アイテムストアは、2 レベルの名前(libref および libref によって参照される SAS ライブラリ内のアイテムストア)によって参照されます。たとえば、SAS レジストリは、Sasuser.Registry および Sashelp.Registry の 2 つのアイテムストアに保存されます。

スタイル(テンプレート)

SAS 出力のプレゼンテーション(色、フォントフェイス、フォントサイズなど)を表示する方法を記述します。スタイルによって、そのスタイルを使用するドキュメントの全体の外観が決定されます。各スタイルはスタイル要素によって構成されます。

スタイル要素

出力の特定のパートに適用されるスタイル属性の集合です。たとえば、スタイル要素には、列見出しの表示またはセル内のデータの表示に関する指示が含まれます。また、スタイル要素によって、スタイルを使用する出力のデフォルトの色およびフォントが指定されます。各スタイル属性によって、プレゼンテーションの 1 つの値が指定されます。たとえば、BACKGROUND=属性によって HTML テーブルの背景色が指定され、FONTSTYLE=属性によって英字下揃え、スラント、イタリックを使用するかどうか指定されます。

テーブルテンプレート

表形式出力オブジェクトの出力を表示する方法を記述します。(大半の ODS 出力は表形式です)テーブルテンプレートによって、表のヘッダーとフッターの順序、列

の順序、テンプレートで使用される出力オブジェクトの全体の外観が決定されます。各テーブルテンプレートは、テーブル要素を含むか、または参照します。

テーブル要素

特定の列、ヘッダー、フッターに適用される属性の集合を示します。通常、これらの属性によって指定されるのは、そのプレゼンテーションや表示ではなく、データに関するものです。たとえば、FORMAT=によって列で使用する SAS フォーマットが指定されます。ただし、一部の属性では、データのプレゼンテーション値が記述されます。

注: また、テーブルテンプレート外で列、ヘッダー、フッターなどのテーブル要素を定義することもできます。どのテーブルテンプレートも、これらのテーブル要素を参照できます。テーブルテンプレート外での列、ヘッダー、フッターの定義の詳細は、Chapter 14, “TEMPLATE プロシジャ: テーブルテンプレートの作成,” (1060 ページ)を参照してください。

タグセット

SAS 出力のマークアップ言語作成用の命令を指定します。結果の出力には、レイアウトと一部のコンテンツを定義するための埋め込み型命令が含まれます。各タグセットには、イベントテンプレートと、出力の生成を制御するイベント属性が含まれます。SAS によって、各種マークアップ言語のタグセットが提供されます。TEMPLATE プロシジャを使用すると、これらの SAS タグセットのいずれかを変更したり、独自のタグセットを作成できます。

テンプレートストア

TEMPLATE プロシジャによって作成済みのテンプレートを保存するアイテムストア。SAS によって生成されるテンプレートは、アイテムストア Sashelp.Tmplmst 内にあります。書き込みアクセス権を持つテンプレートストアには、作成するテンプレートを保存できます。

注: テンプレートストアには、ディレクトリとして認識される複数のレベルが含まれます。ただし、ODS PATH ステートメントでテンプレートストアを指定する場合、libref および libref によって参照される SAS ライブラリ内のテンプレートストア名が含まれる 2 レベルの名前を指定します。

ODS テンプレートの後方互換性

ODS テンプレートは、SAS バージョン間で互換性のあるバイナリではありません。ただし、一部のテンプレートでは、古いバージョンの SAS で作成したテンプレートを新しいバージョンの SAS で使用できます。次の表は、ODS テンプレートの種類と、SAS バージョン間の前方/後方互換性の有無に関する一覧表示です。

表 9.1 SAS バージョン間の ODS テンプレートの互換性

ODS テンプレート	後方互換性	前方互換性
テーブル	なし	あり
クロス集計	なし	あり
スタイル	なし	あり*
タグセット	なし	なし
ODS グラフ	なし	なし

* 継承機能があるスタイルは、前方/後方互換性がない場合があります。詳細は、“バージョン間の継承の互換性” (955 ページ)を参照してください。

新しいバージョンの SAS で作成されたテンプレートを古いバージョンの SAS で使用する場合、テンプレートソースを展開し、これを使用して古いリリースでテンプレートをコンパイルできます。

構文: TEMPLATE プロシジャ: 概要

```

PROC TEMPLATE;
  DEFINE COLUMN column-path </ STORE=libref.template-store>;
    <column-attribute-1; <...column-attribute-n>>
    statements
  END;
  DEFINE FOOTER footer-path </ STORE=libref.template-store>;
    <footer-attribute-1; <...footer-attribute-n>>
    statements
  END;
  DEFINE HEADER template-name </ STORE=libref.template-store>;
    <header-attribute-1; <...header-attribute-n>>
    statements
  END;
  DEFINE STYLE style-path </ STORE=libref.template-store>;
    <PARENT= style-path>
    statements
  END;
  DEFINE TABLE table-path </ STORE=libref.template-store>;
    <table-attribute-1; <...table-attribute-n>>
    statements
  END;
  DEFINE TAGSET tagset-path </ STORE=libref.template-store>;
    DEFINE EVENT event-name;
    <event-attribute-1; <...event-attribute-n>>
    statements
  END;
  DEFINE CROSSTABS table-path </ STORE=libref.template-store>;
    statements
  END;
  DEFINE STATGRAPH graph-path </ STORE=libref.template-store>;
    statements
  END;
  DELETE template-path </ STORE=libref.template-store>;
  EDIT template-path-1 <AS template-path-2> </ STORE=libref.template-store> ;
    statements-and-attributes
  END;
  LINK template-path-1 TO template-path-2 </ option(s)>;
  LIST <starting-path></ option(s)>;
  PATH location(s);
  SOURCE template-path </ option(s)>;
  TEST DATA=data-set </ STORE=libref.template-store>;

```

TEMPLATE プロシジャの使用

TEMPLATE プロシジャを使用して可能な操作

SAS プロシジャによって使用されるテーブルテンプレートの変更

この出力は、PROC UNIVARIATE からのモーメント出力オブジェクトのカスタマイズされたテーブルテンプレートの使い方を示します。変更したテーブルテンプレートの作成に使用したプログラムによって、次のタスクが実行されます。

- デフォルトテーブルテンプレートのコピーの作成および編集
- テーブルテンプレート内のヘッダーの編集
- HTML 出力の外観を強化する列属性の設定

次のデフォルト出力とカスタマイズされた出力を作成するコードについては、“[Example 1: SAS プロシジャで使用するテーブルテンプレートの編集](#)” (1125 ページ)を参照してください。

アウトプット 9.1 デフォルトのモーメントテーブル

The screenshot shows the SAS Results Viewer window. On the left, the Results tree is expanded to show the 'Default Moments Table' under 'Univariate: Quantity'. The main window displays the following table:

Moments			
N	48	Sum Weights	48
Mean	20.5208333	Sum Observations	985
Std Deviation	14.4177633	Variance	207.871897
Skewness	3.6558946	Kurtosis	19.528114
Uncorrected SS	29983	Corrected SS	9769.97917
Coeff Variation	70.2591509	Std Error Mean	2.08102487

アウトプット 9.2 PROC UNIVARIATE (Microsoft Internet Explorer で表示)からのカスタマイズされた HTML 出力(カスタマイズされたモーメントテーブル)

The screenshot shows the SAS Results Viewer window. On the left, the Results tree is expanded to show the 'Custom Moments Table' under 'Univariate: Quantity'. The main window displays the following table with customized styling:

Moments			
N	48	Sum Weights	48
Mean	20.5208333	Sum Observations	985
Std Deviation	14.4177633	Variance	207.871897
Skewness	3.6558946	Kurtosis	19.528114
Uncorrected SS	29983	Corrected SS	9769.97917
Coeff Variation	70.2591509	Std Error Mean	2.08102487

スタイルの変更

スタイルを取り扱う際には、完全に新しいスタイルを記述するのではなく、SAS によって提供されるスタイルを変更する機会の方が多いためにあります。次の出力では、SAS によって提供される Styles.HTMLBlue テンプレートが使用されます。ただし、出力の外観をカスタマイズするためにスタイルに加えられた変更内容が含まれます。この出力を作成するコードについては、“例 3: CLASS ステートメントの使用” (1024 ページ)を参照してください。

コンテンツファイルでは、変更されたスタイルによって次に対する変更が加えられます。

- ヘッダーのテキストおよび出力を生成したプロシジャを識別するテキスト
- テキストの一部の部分の色
- テキストの一部の部分のフォントサイズ
- 目次のエントリリスト内のスペース

ボディファイルでは、変更されたスタイルによって次に対する変更が加えられます。

- カラーリスト内の 2 つの色。一方の色は、目次、BY ライン、列見出しの前景色として使用されます。他方の色は、SAS タイトルやフットノートを含む、ボディファイルの多数の部分の前景に使用されます。
- タイトルとフットノートのフォントサイズ。
- ヘッダーのフォントスタイル。
- cellspacing、rules、borderwidth などの属性変更によるテーブル内のデータの表示。

画面 9.1 HTML 出力(Microsoft Internet Explorer で表示)

The screenshot shows an HTML output window with a yellow sidebar on the left containing a 'Contents' menu with links for 'Print', 'Division=Middle Atlantic', 'Division=Mountain', and 'Data Set WORK.ENERGY'. The main content area has a blue background and displays the following table:

Energy Expenditures for Each Region (millions of dollars)		
Division=Middle Atlantic		
State	Type	Expenditures
NY	Residential Customers	8,786
NY	Business Customers	7,825
NJ	Residential Customers	4,115
NJ	Business Customers	3,558
PA	Residential Customers	6,478
PA	Business Customers	3,695
Division=Mountain		
State	Type	Expenditures
MT	Residential Customers	322
MT	Business Customers	232
ID	Residential Customers	392
ID	Business Customers	298
WY	Residential Customers	194
WY	Business Customers	184
CO	Residential Customers	1,215
CO	Business Customers	1,173

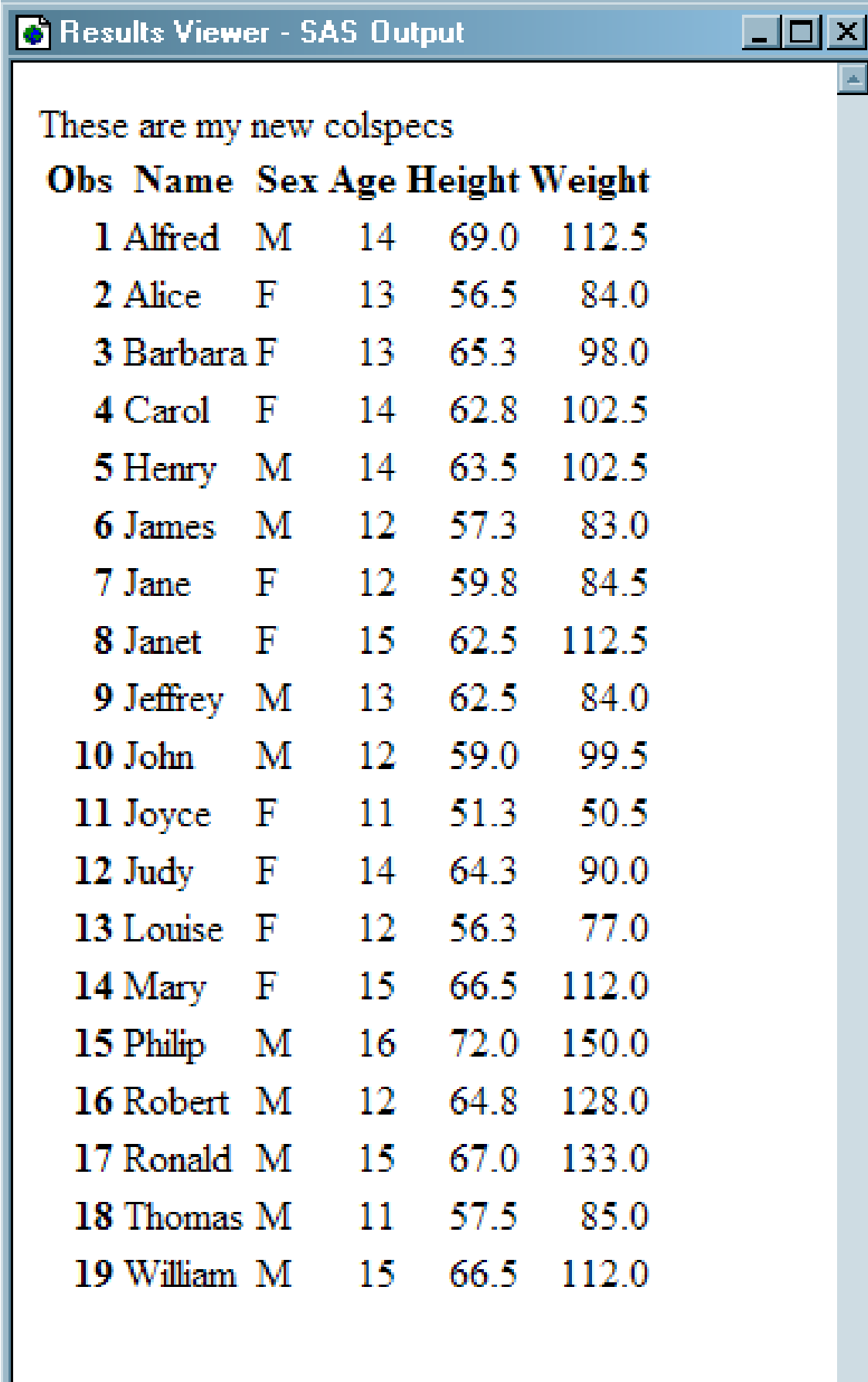
独自のタグセットの作成

タグセットはカスタムマークアップの作成に使用されます。独自のタグセットを作成したり、既存のタグセットを拡張したり、SAS によって提供されるタグセットを変更できます。このディスプレイには、新しいタグセットからの結果が表示されます。

TAGSET.MYTAGS

カスタマイズされた CHTML タグセットを確認するには、ご使用のブラウザのツールバーから **ソースの表示** を選択し、Web ブラウザからソースを表示します。

画面 9.2 MYTAGS.CHTML 出力(Microsoft Internet Explorer で表示)



The screenshot shows a web browser window with the title "Results Viewer - SAS Output". The main content area displays the text "These are my new colspecs" followed by a table with 6 columns: "Obs", "Name", "Sex", "Age", "Height", and "Weight". The table contains 19 rows of data.

Obs	Name	Sex	Age	Height	Weight
1	Alfred	M	14	69.0	112.5
2	Alice	F	13	56.5	84.0
3	Barbara	F	13	65.3	98.0
4	Carol	F	14	62.8	102.5
5	Henry	M	14	63.5	102.5
6	James	M	12	57.3	83.0
7	Jane	F	12	59.8	84.5
8	Janet	F	15	62.5	112.5
9	Jeffrey	M	13	62.5	84.0
10	John	M	12	59.0	99.5
11	Joyce	F	11	51.3	50.5
12	Judy	F	14	64.3	90.0
13	Louise	F	12	56.3	77.0
14	Mary	F	15	66.5	112.0
15	Philip	M	16	72.0	150.0
16	Robert	M	12	64.8	128.0
17	Ronald	M	15	67.0	133.0
18	Thomas	M	11	57.5	85.0
19	William	M	15	66.5	112.0

テンプレートベースのグラフの作成

STATGRAPH テンプレートは、ODS グラフという出力の作成に使用されます。詳細は、*SAS Graph Template Language: ユーザーガイド*を参照してください。

次のコードによって、STATGRAPH テンプレートの MyGraphs.Regplot が作成されます。これによって、次のグラフが作成されます。

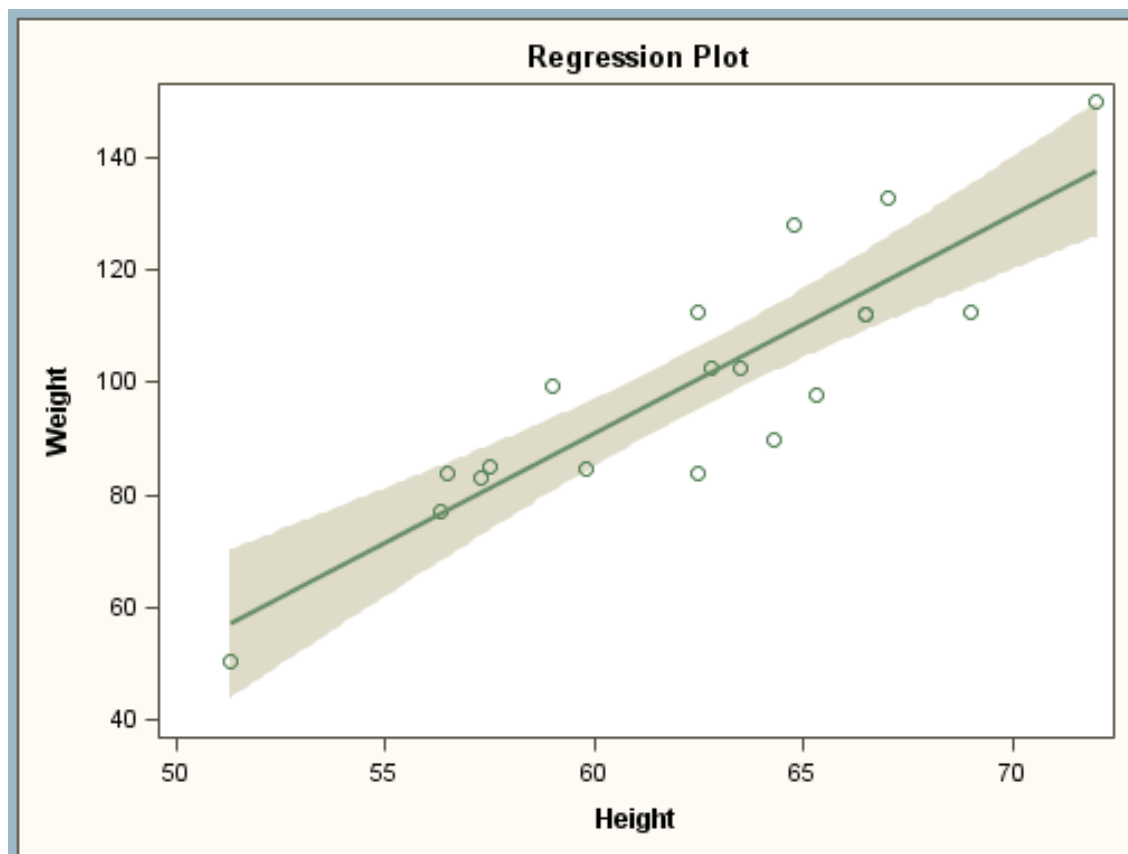
```
proc template;
define statgraph mygraphs.regplot;
begingraph;
entrytitle "Regression Plot";
layout overlay;
modelband "mean";
scatterplot x=height y=weight;
regressionplot x=height y=weight / clm="mean";
endlayout;
endgraph;
end;
run;

ods listing style=analysis;
ods graphics / reset imagename="reg" width=500px;

proc sgrender data=sashelp.class template=mygraphs.regplot;
run;
```

次のディスプレイは、データセットの HEIGHT および WEIGHT 変数に関して、平均値の重なり合った回帰線と信頼限界を示す散布図です。

画面 9.3 STATGRAPH テンプレートによって作成されるグラフ



クロス集計表の変更

TEMPLATE プロシジャを使用すると、FREQ プロシジャによって作成されるクロス集計表 (分割表) の外観をカスタマイズできます。デフォルトでは、クロス集計表は、SAS によって提供される CrossTabFreqs テンプレートに従ってフォーマットされます。ただし、DEFINE CROSSTABS ステートメントと共に TEMPLATE プロシジャを使用すると、カスタマイズされた CrossTabFreqs テーブルを作成できます。この出力を作成する SAS コードについては、“例 2: カスタム凡例を含むクロス集計のテーブルテンプレートの作成” (917 ページ) を参照してください。

この出力では、CrossTabFreqs テーブルのカスタマイズされたクロス集計表テンプレートの使い方が示されます。変更したクロス集計テンプレートの作成に使用したプログラムによって、次のタスクが実行されます。

- 表領域の変更
- 凡例テキストの作成
- ヘッダーとフッターの変更
- ヘッダーで使用される変数テーブルの変更
- cellvalues のスタイルのカスタマイズ

画面 9.4 CrossTabFreqs テーブルのカスタマイズされたクロス集計表テンプレート

City Government Form by Number of Meetings Scheduled							
The FREQ Procedure							
Frequency Percent Row Percent Column Percent	City Government Form	Number of Meetings Scheduled					
		? Not Known	100 or Less	101-200	201-300	Over 300	Total
	?	0	0	1	0	0	.
	
	
	
	Not Applicable	0	10	0	0	0	.
	
	
	
	Council Manager	0	0	47	63	49	52
		.	.	12.30	16.49	12.83	13.61
		.	.	22.27	29.86	23.22	24.64
		.	.	55.95	58.88	62.03	46.43
	
	
	Commission	0	0	6	7	3	5
		.	.	1.57	1.83	0.79	1.31
		.	.	28.57	33.33	14.29	23.81
		.	.	7.14	6.54	3.80	4.46
	
	
	Mayor Council	1	0	31	37	27	55
		.	.	8.12	9.69	7.07	14.40
		.	.	20.67	24.67	18.00	36.67
		.	.	36.90	34.58	34.18	49.11
	
	
	Total	.	.	84	107	79	112
		.	.	21.99	28.01	20.68	29.32
		382
		100.00
City Government Form by Number of Meetings Scheduled							
Frequency Missing = 12							

カテゴリ別の PROC TEMPLATE ステートメント

この表は、TEMPLATE プロシジャで使用されるカテゴリとステートメントの一覧と説明を示します。

表 9.2 カテゴリおよび PROC TEMPLATE ステートメント

タスク	ステートメントカテゴリ	ステートメント	説明	
テンプレートストアの移動と ODS テンプレートの管理		DELETE	指定したテンプレートを削除します	
		LINK	既存テンプレートへのリンクを作成します	
		LIST	1 つ以上のテンプレートストア内でアイテムをリスト表示します	
		PATH	PROC TEMPLATE テンプレートを作成または使用する場合の書き込み先/読み取り元の場所、およびその場所を検索する順序を指定します	
		SOURCE	指定したテンプレートのソースコードを記述します	
ODS スタイルの作成または変更	スタイル	TEST	直近に作成したテンプレートを指定データセットにバインドし、そのテンプレートをテストします	
		DEFINE STYLE	STYLE=オプションをサポートする送信先のスタイルを作成します	
		EDIT	既存テンプレートを編集します	
			DEFINE COLUMN	列のテンプレートを作成します
			DEFINE FOOTER	表フッターのテンプレートを作成します
ODS テーブル、列、ヘッダー、フッターの各テンプレートの作成および変更	表形式	DEFINE HEADER	ヘッダーのテンプレートを作成します	

タスク	ステートメントカテゴリ	ステートメント	説明
		DEFINE TABLE	表のテンプレートを作成します
マークアップ言語 タグセットの作成 または変更	マークアップ言語タグセ ット	DEFINE TAGSET	タグセットのテンプレートを作成します
クロス集計テーブ ルテンプレートの 作成または変更	表形式	DEFINE CROSSTAB S	PROC FREQ クロス集計 表のテンプレートを作成し ます
グラフテンプレート の作成または変 更	グラフィック	DEFINE STATGRAP H	グラフのテンプレートを作 成します

追加情報

ODS による統計グラフの作成:

グラフテンプレート言語の関連情報は、*SAS Graph Template Language: リファレンス*を参照してください。

ODS による統計グラフの作成:

PROC TEMPLATE およびグラフテンプレート言語に関する使用方法については、*SAS Graph Template Language: ユーザーガイド*を参照してください。

テンプレートストアに保存された各種テンプレートの管理:

多数の ODS テンプレートの管理及び移動に役立つ PROC TEMPLATE ステートメントの関連情報は、10 章、“[TEMPLATE プロシジャ: テンプレートストアの管理](#)” (855 ページ)を参照してください。

既存スタイルの変更または独自スタイルの作成:

PROC TEMPLATE におけるスタイル定義ステートメントの関連情報は、13 章、“[TEMPLATE プロシジャ: スタイルテンプレートの作成](#)” (942 ページ)を参照してください。

ODS タブ集計出力の作成および変更:

PROC TEMPLATE におけるタブ集計テンプレートステートメントの関連情報は、14 章、“[TEMPLATE プロシジャ: テーブルテンプレートの作成](#)” (1059 ページ)を参照してください。

SAS によって提供されるマークアップ言語タグセットの変更または独自タグセットの作成:

PROC TEMPLATE におけるマークアップ言語タグセットステートメントの関連情報は、15 章、“[TEMPLATE プロシジャ: マークアップ言語のタグセットの作成](#)” (1166 ページ)を参照してください。

10 章

TEMPLATE プロシジャ:テンプレートストアの管理

概要:テンプレートストア	855
テンプレートストアについて	855
TEMPLATE プロシジャを使用したテンプレートストアの管理について	856
概念:テンプレートストアおよび TEMPLATE プロシジャ	856
SAS 提供のテンプレートのコンテンツ	856
構文: TEMPLATE プロシジャ:テンプレートストアの管理	858
PROC TEMPLATE ステートメント	858
DELETE ステートメント	859
LINK ステートメント	859
LIST ステートメント	860
PATH ステートメント	865
SOURCE ステートメント	866
ステートメント	870
例: TEMPLATE プロシジャ:テンプレートストアの管理	871
例 1: テンプレートストア内におけるテンプレートの表示	871
例 2: WHERE 式を使用したテンプレートストアのアイテムの選択	872
例 3: テンプレートのソースの表示	874

概要:テンプレートストア

テンプレートストアについて

テンプレートストアは、TEMPLATE プロシジャで作成されたアイテムを保管するアイテムストアです。SAS が提供するアイテムは、アイテムストア Sashelp.Tmplmst にあります。ユーザーが作成するアイテムをユーザーが Write アクセスを持つあらゆるテンプレートストア内に保管できます。

注: テンプレートストアは、ディレクトリとして知られる複数のレベルを収容できます。ODS PATH ステートメントでテンプレートストアを指定する場合、libref と、その libref が参照する SAS ライブラリのテンプレートストアの名前を含む2つのレベルの名前を指定します。

TEMPLATE プロシジャを使用したテンプレートストアの管理について

TEMPLATE プロシジャを利用して、SAS が提供する、またはユーザーが作成するアイテムを保管するテンプレートストアを管理およびナビゲートできます。TEMPLATE プロシジャは、テンプレートストア用に次の管理タスクの実行を可能にします。

- 列のテンプレート、ヘッダーテンプレート、フッターテンプレート、スタイル、テーブルテンプレートまたはタグセットを削除します。
- 1つ以上のテンプレートストアでアイテムをリストします。
- 列のテンプレート、ヘッダーテンプレート、フッターテンプレート、スタイル、テーブルテンプレートまたはタグセットのソースコードを表示します。
- 最も新しく作成されたアイテムをテストしてください。

次の操作でテンプレートストアのまわりをナビゲートできます。

- 既存のアイテムにリンクを作成してください。
- PROC TEMPLATE アイテムを作成または使用する場合の書き込み先/読み取り元の場所およびアイテムを検索する順序を指定します。

概念: テンプレートストアおよび TEMPLATE プロシジャ

SAS 提供のテンプレートのコンテンツ

SAS は、これらのアイテム用にテンプレートを提供します。

- テーブル
- クロス集計表
- SAS 統計グラフィックス
- スタイル
- タグセット

テンプレートの内容を表示するには、SAS ウィンドウ環境、SAS ウィンドウコマンド ODSTEMPLATES、または TEMPLATE プロシジャを使用してください。

- **SAS ウィンドウ環境**
 1. SAS エクスプローラから **View** ⇒ **Results** を選択します。
 2. **Results** ウィンドウ内で、**Results** フォルダを選択します。Templates ウィンドウを開くには、右クリックします。
 3. SAS が提供する定義またはテンプレートを表示するには、Sashelp.Tmplmst アイテムストアの横にある+サインをクリックしてください。
 4. テンプレートストアのコンテンツまたはテンプレートストア内のディレクトリを表示するには、アイコンの横にある+サインをクリックしてください。アイコンの横に+サインが無い場合、アイコンをダブルクリックしてそのディレクトリのコンテンツを表示します。
- **SAS ウィンドウコマンド**
 1. Templates ウィンドウを表示するには、このコマンドをコマンドバーに送ります。

odstemplates

この画面は、アイテムストア Sasuser.Templat と Sashelp.Tmplmst を含む Templates ウィンドウを表示しす。

2. Sashelp.Tmplmst 等のアイテムストアをダブルクリックする場合、そのアイテムストアは拡張して、ODS テンプレートが保存されているディレクトリをリストします。SAS が提供するテンプレートは、アイテムストア Sashelp.Tmplmst 内にあります。

- **TEMPLATE プロシジャ**

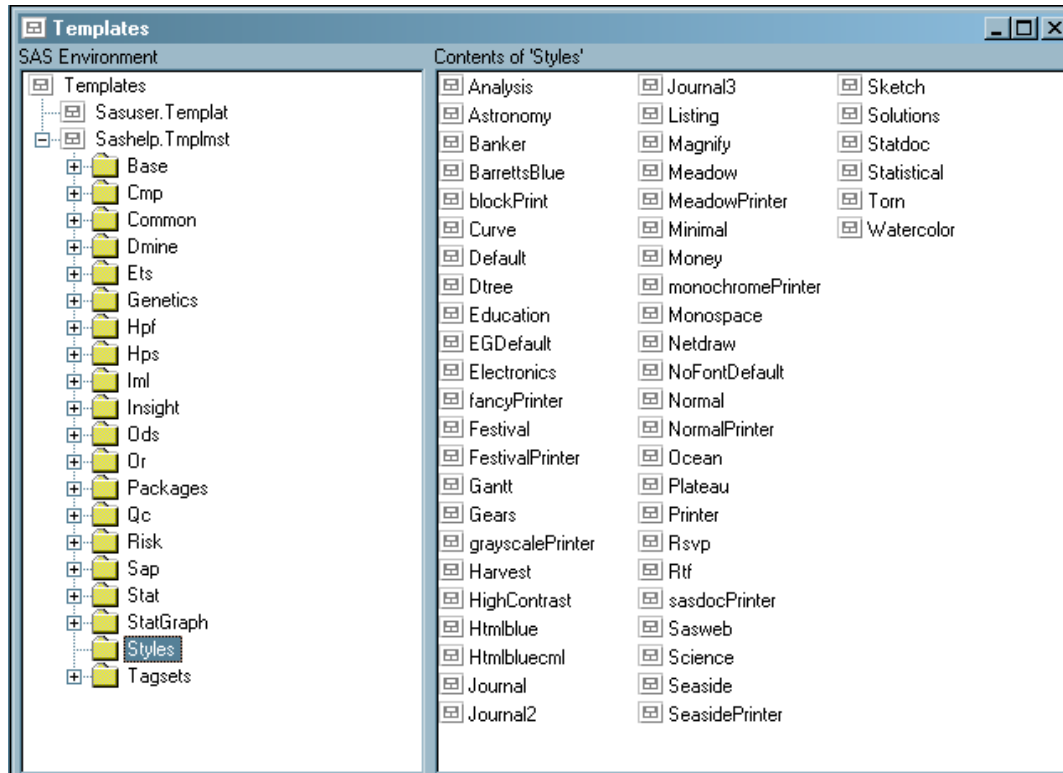
SOURCE ステートメントは、指定されたテンプレート用のソースコードを SAS ログに書き込みます。例えば、ベース SAS 内のすべてのオブジェクトのソースを表示したい場合は、このコードを提出します。

```
proc template;
source base;
run;
```

注: 詳細は、次を参照してください。“SOURCE ステートメント” (866 ページ)

Templates ウィンドウから、SAS が提供、またはユーザーが作成した定義およびテンプレートを参照できます。この図は、SAS が提供するスタイルを表わします。

画面 10.1 SAS が提供するテンプレート



構文: TEMPLATE プロシジャ:テンプレートストアの管理

PROC TEMPLATE;

DELETE *item-path* </STORE=*libref*template-store>;

LINK *item-path-1* **TO** *item-path-2* <オプション>;

LIST <*starting-path*><オプション>;

PATH 箇所,

SOURCE *item-path* </オプション><STORE=*libref*template-store>;

TESTDATA=*data-set*</STORE=*libref*template-store>;

ステートメント	タスク	例
“PROC TEMPLATE ステートメント”	PROC TEMPLATE テンプレートを開始します。	Ex. 1, Ex. 2, Ex. 3
“DELETE ステートメント”	指定されたアイテムを削除します。	
“LINK ステートメント”	既存のアイテムへのリンクを作成します。	
“LIST ステートメント”	1 つ以上のテンプレートストアでアイテムをリストします。	Ex. 1, Ex. 2
“PATH ステートメント”	PROC TEMPLATE アイテムを作成または使用した場合に、どのロケーションへと書き込むか、またはどのロケーションから読み込むかを行うか指定し、それを検索する順序も指定します。	Ex. 1, Ex. 2, Ex. 3
“SOURCE ステートメント”	SAS ログに指定したアイテム用のソースコードを書き込みます	Ex. 3
“ステートメント”	最も新しく作成されたアイテムを指定されたデータセットに結合してテストします	

PROC TEMPLATE ステートメント

PROC TEMPLATE テンプレートを開始します。

構文

```
PROC TEMPLATE;
  DELETE item-path </STORE=libreftemplate-store>;
  LINK item-path-1 TO item-path-2 </オプション>;
  LIST <starting-path></オプション>;
  PATH ロケーション>;
  SOURCE item-path <オプション>><STORE=libreftemplate-store>;
  TESTDATA=data-set</STORE=libreftemplate-store>;
```

DELETE ステートメント

指定されたアイテムを削除します。

- 例: [“Example 2: EDIT ステートメントと DEFINE TABLE ステートメントとの比較” \(1130 ページ\)](#)
[“Example 1: SAS プロシジャで使用するテーブルテンプレートの編集” \(1125 ページ\)](#)

構文

```
DELETE item-path;
```

必須引数

item-path

削除するアイテムを指定します。item-path は、1つ以上の名前で構成され、ピリオドで区切られます。各名称は、テンプレートストア内のディレクトリを表します。(テンプレートストアは、SAS ファイルの種類です)複数のテンプレートストア内に同じアイテムが存在する場合、PROC TEMPLATE は、ユーザーが Write アクセスを持つ現在のパス内の最初のテンプレートストアからアイテムを削除します。

注意:

テンプレートストア内のディレクトリを削除した場合、そのディレクトリ内のすべてのサブディレクトリおよびアイテムを削除します。ユーザーが指定するパスが、アイテムではなくディレクトリである場合、PROC TEMPLATE は、そのディレクトリ内のすべてのディレクトリおよびすべてのアイテムを削除します。

LINK ステートメント

既存のアイテムにリンクを作成します。

- ヒント: アイテムにリンクを作成することは、他のアイテムの特徴を引き継ぐ新たなアイテムを作成することと同じ効果があります。(次の議論を参照してください。)[“PARENT= ステートメント” \(964 ページ\)](#)しかし、リンクを張ることは実際には新たなアイテムを作成しないため、リンクを使用することは継承を使用するより効果があります。

構文

```
LINK item-path-1 TO item-path-2 </オプション>;
```

必須引数

item-path-1

作成するアイテムのパスを指定します。PROC TEMPLATE は、ユーザーが書き込み可能なパスの最初のテンプレートストア内にアイテムを作成します。

item-path-2

リンクするアイテムのパスを指定します。複数のテンプレートストアに同じアイテムが存在する場合、PROC TEMPLATE は、現在のパスで読むことが可能な最初のテンプレートストアから1つを使用します。

ヒント: PROC TEMPLATE は、アイテムをコンパイルする際に、*item-path-2* が存在することを確認しません。

オプション引数

NOTES=*text*'

アイテムに保存するノートを指定します。

要件 テキストを引用符で囲みます。

ヒント: この種類のノートは、SOURCE ステートメントで表示可能なコンパイルされたアイテムの一部となりますが、SAS コメントはそうなりません。

STORE=*libref**template-store*

リンクが作成される場所を指定します。

制限事項: STORE=オプションの構文は、コンパイルされたアイテムの一部ではありません。

ヒント: リンクは、常に ODS パス内で検索された同じ名前の最初のアイテムを指します。

LIST ステートメント

1つ以上のテンプレートストアでアイテムをリストします。

例: “例 1: テンプレートストア内におけるテンプレートの表示” (871 ページ)

構文

```
LIST<starting-path></オプション>;
```

オプション引数

starting-path

PROC TEMPLATE がアイテムのリストアップを開始する各テンプレートストア内でのレベルを指定します。**base.univariate** 例えば、*starting-path* が、PROC TEMPLATE リストだけであり、および *starting-path* が含まれるアイテム、ならびに *starting-path* が含むすべてのレベル内のアイテムである場合。

base.univariate

デフォルト: *starting-path* を削除した場合、ODS PATH ステートメントが検索範囲を指定されたテンプレートストアのみに制限しないならば、LIST ステートメントは、すべてのテンプレートストア内のすべてのアイテムをリストします。

制限事項: このオプションは、LIST ステートメントのフォワードスラッシュ(/)の前になくはなりません。

オプション

SORT=*statistic*<*sorting-order*>

指定されたソート順序の指定統計で、アイテムのリストをソートします。

統計

は次の内の1つです。

CREATED

アイテムが作成された日付です。

NOTES

アイテムを作成した PROC TEMPLATE ステップ内の NOTES ステートメントのコンテンツです。

別名: LABEL

LINK

現在のアイテムがリンクを張るアイテム名です(次を参照してください。) [“LINK ステートメント” \(859 ページ\)](#)

PATH

テンプレートストアの現在のアイテムへのパスです。(パスに、テンプレートストア名は含まれません。)

SIZE

アイテムのサイズです。

TYPE

COLUMN、FOOTER、HEADER、STYLE、TABLE、または LINK アイテムの種類です。アイテムがただ単にアイテムストアのレベルである場合、その種類は DIR です。

デフォルト: PATH

sorting-order

SORT=が最少値から最大値または、最大値から最小値にソートするかどちらかを指定します。

ASCENDING

最小値から最大値にソートします。

別名: A

DESCENDING

最大値から最小値にソートします。

別名: D

デフォルト: ASCENDING

STATS=ALL | (*statistic-1* <, ... *statistic-n*>)

アイテムのリストに含める情報を指定します。

ALL

利用可能な情報をすべて含みます。

(*statistic-1* <, ... *statistic-n*>)

指定された情報を含みます。*statistic* は、次の1つ以上です。

CREATED

アイテムが作成された日付です。

NOTES

アイテムを作成した PROC TEMPLATE ステップ内の NOTES ステートメントのコンテンツです。

別名: LABEL

LINK

現在のアイテムがリンクするアイテムの名前です。(次を参照してください。)
 “LINK ステートメント” (859 ページ)

SIZE

アイテムのサイズです。

デフォルト: STATS=を指定しているかいないかに関わらず、リストのアイテムは常に観測番号、アイテムへのパス、およびその種類を含みます。

STORE=libreftemplate-store

プロセスへのテンプレートストアを指定します。

デフォルト: 現在のテンプレートパス内のすべてのテンプレートストア

参照項目: 現在のテンプレートパスの設定に関する詳細は、次を参照してください。“PATH ステートメント” (865 ページ)

WHERE=where 式

特定の状態と一致するアイテムをリストするために選択します。例えば、次のステートメントリストは、現在のテンプレートへのパスに"Default"という単語を含むアイテムをリストします。

```
list / where=(path ? 'Default');
```

where 式

一連の演算子とオペランドで構成される演算または論理式です。

*where 式*の形式は次のとおりです。

(*subsetting 変数*<*comparison 演算子 where 式-n*>)

subsetting 変数

SOURCE ステートメントで使用される WHERE 式オペランドの特別型式で、アイテムの共通値の検索に役立ちます。サブセット変数は、次の内の1つ以上となります。

PATH | _PATH_

完全修飾テンプレートパスです。

別名:

NAME | _NAME_

TEMPLATE | _TEMPLATE_

例: この SOURCE ステートメントは、現在のテンプレート名において "Default" という単語を含むすべてのアイテムのコードを表示します。

```
source / where=(path ? 'Default'); run;
```

TYPE | _TYPE_

アイテムの種類です。TYPE は、次の内の1つです。

COLUMN

テンプレートがテーブル内の列であることを指定します。

FOOTER

テンプレートがテーブル内のフッターであることを指定します。

HEADER

テンプレートがテーブル内のヘッダーであることを指定します。

LINK

テンプレートがリンクまたは URL であることを指定します。

STYLE

定義がスタイルであることを指定します。

TABLE

定義がテーブルのテンプレートであることを指定します。

TAGSET

定義がタグセットであることを指定します。

例: この SOURCE ステートメントは、パスに "Default" という単語を含むすべてのタグセットにソースコードを表示します。

```
source / where=(lowercase(type) = 'tagset' && _path_ ? 'Default');
```

LOWCASE 関数は、引数のすべての文字を小文字に変換します。

NOTES

アイテムを作成した PROC TEMPLATE ステップ内の NOTES ステートメントのコンテンツです。コンテンツは、LABEL フィールドに表示されます。

別名: LABEL

例: この SOURCE ステートメントは、ラベルに "common matrix" という語を含むすべてのアイテムおよびアイテムがリンクのソースコードを表示します。

```
source / where=(lowercase(label) ? 'common matrix' && _type_ = 'Link');
run;
```

LOWCASE 関数は、引数内のすべての文字を小文字に変換します。

SIZE

アイテムのバイト単位でのサイズです。

例: この SOURCE ステートメントは、70000 バイト以上のすべてのアイテムのソースコードを表示します。

```
source / where=(size > 70000);
run;
```

CREATED

アイテムが作成された日付です。

例: この SOURCE ステートメントは、現在のテンプレートパス内のすべてのテンプレートストアにおいて、当日作成されたすべてのアイテムのソースコードを表示します。

```
source / where=(datepart(created) = today());
```

DATEPART 関数は、SAS datetime 値から日付を抽出します。

CDATE | _CDATE_

アイテムの作成日です。

例: この SOURCE ステートメントは、作成日が 16JUL2004 のすべてのアイテムにソースコードを表示します。

```
source / where=(_cdate_ = '16JUL2004'd);
run;
```

CDATETIME | _CDATETIME_

アイテムが作成された日時です。

例: この SOURCE ステートメントは、SAS 作成日時が 2003 年 5 月 1 日の 9:30 のすべてのアイテムのソースコードを表示します。

```
source / where=(_cdatetime_ = '01may04:9:30:00'dt);
run;
```

CTIME | _CTIME_

アイテムの作成時刻です。

例: この SOURCE ステートメントは、作成時刻が午後 9:25:19 のすべてのアイテムのソースコードを表示します。

```
source / where=(_ctime_ = '9:25:19pm't);
run;
```

MDATE | **_MDATE_**
アイテムの変更日付です。

例: この SOURCE ステートメントは、変更日が 6JUL2004

```
source / where=(_mdate_ = '16JUL2004'd);
run;
```

MDATETIME | **_MDATETIME_**
アイテムの変更日時です。

例: この SOURCE ステートメントは、SAS 変更日が 2003 年 5 月 1 日の 9:30 のすべてのアイテムのソースコードを表示します。

```
source / where=(_mdatetime_ = '01may04:9:30:00'dt);
run;
```

MODIFIED
アイテムが変更された日付です。

例: この SOURCE ステートメントは、現在のテンプレートパス内のすべてのテンプレートストアにおいて当日変更されたすべてのアイテムのソースコードを表示します。

```
source / where=(datepart(modified) = today());
```

DATEPART 関数は、SAS datetime 値から日付を抽出します。

MTIME | **_MTIME_**
アイテムの変更時刻です。

例: この SOURCE ステートメントは、変更時間が午後 9:25:19 のすべてのアイテムのソースコードを表示します。

```
source / where=(_mtime_ = '9:25:19pm't);
run;
```

comparison 演算子

変数を値またはその他の変数と比較します。次の表では、比較演算子の一部をリストで示しています。

表 10.1 比較演算子

記号	ニーモニック相当	定義
=	EQ	に等しい
^=、~=、~=または<>	NE	に等しくない
>	GT	より大きい
<	LT	未満
>=	GE	に等しいか大きい
<=	LE	以下
	IN	値のリストの内の1つと等しい

参照項目: WHERE データセットオプションで使用できる式に関する情報は、次を参照してください。WHERE データセットオプションおよび WHERE 式処理に関する項目

例: “例 2: WHERE 式を使用したテンプレートストアのアイテムの選択” (872 ページ)

PATH ステートメント

PROC TEMPLATE 定義を作成または使用する場合の書き込み先/読み取り元の場所、および定義を検索する順序を指定します。このステートメントは、PROC TEMPLATE ステップの期間、ODS PATH ステートメントを無効にします。

例: “例 1: テンプレートストア内におけるテンプレートの表示” (871 ページ)
 “例 3: テンプレートのソースの表示” (874 ページ)

構文

PATH <(APPEND) | (PREPEND) | (REMOVE)> *箇所*;

PATH *path-argument*;

必須引数

箇所

PROC TEMPLATE アイテムを作成または使用する場合の書き込み先/読み取り元の場所およびアイテムを検索する順序を指定します。ODS によって、ステートメント上の表示順序で場所が検索されます。適切なアクセスモード(読み取り、書き込み、更新)セットの、検出された最初の定義が使用されます。

それぞれの場所にはこのフォームがあります。

```
<libref>item-store <(READ | UPDATE | WRITE)>
```

```
<libref>item-store
```

読み込み元、書き込み先または更新するアイテムストアを識別します。既にアイテムストアが存在しない場合、PATH ステートメントがそれを作成します。

```
(READ | UPDATE | WRITE)
```

アイテムに対するアクセスモードを指定します。アクセスモードは次のいずれかです。

READ

読み取り専用のアクセスを提供します。

WRITE

書き込みアクセス(常に新しいテンプレートストアを作成する)および読み取りアクセスを提供します。

UPDATE

更新アクセス(指定したテンプレートストアが終了しない場合に限り、新しいテンプレートストアを作成)および読み取りアクセスを提供します。

デフォルト: READ

デフォルト: 一般的なデフォルトパスは、次のようになります。Sasuser、Templat (UPDATE)、Sashelp、Tmplmst(READ)。RSASUSER SAS システムオプションを指定した場合、デフォルトパスは次のようになります。

Work.Templat(UPDATE)、Sasuser.Templat(READ)、Sashelp.Tmplmst(READ)。SAS は、提供するすべてのアイテムを Sashelp.Tmplms に保存します。

ヒント: ユーザーが作成するすべてのアイテムを無視できるようにする場合、それらをそれら自身のアイテムストアに保管することで、ODS が検索するアイテムストアのリストから外すことが可能になります。

参照項目: “RSASUSER System Option” in *SAS System Options: Reference Read アクセスまたは Read-Write アクセスのための Sasuser ライブラリを開くための情報*については、次を参照してください。

path-argument

ODS パスを設定または表示します。

path-argument は次のいずれかになります。

RESET

ODS パスをデフォルト設定の Sasuser.Templat(UPDATE)および Sashelp.Tmplmst (READ)に設定します。

SHOW

現在の ODS パスを表示します。

VERIFY

SAS が提供するテンプレートのみを含むように ODS パスを設定します。VERIFY を指定することは、ODS PATH Sashelp.Tmplmst (READ)を指定することと同義です。

オプション引数

(APPEND | PREPEND | REMOVE)

パスに1つ以上の場所を追加、または、パスから1つ以上の場所を削除します。

APPEND

パスの最後に1つ以上の場所を追加します。箇所をパスに追加すると、当該アイテムストアのすべての重複インスタンス(名前と権限が同一)がパスから削除されます。名前と権限が同一の最後のアイテムストアのみが保持されます。

PREPEND

パスの先頭へ箇所を1つ以上追加します。箇所をパスの先頭に追加すると、当該アイテムストアのすべての重複インスタンス(名前と権限が同一)がパスから削除されます。名前と権限が同一の最初のアイテムストアのみが保持されます。

REMOVE

パスから箇所を1つ以上削除します。

デフォルト: APPEND、PREPEND、REMOVE オプションを指定しない場合、ODS PATH ステートメントによって完全パスが上書きされます。

SOURCE ステートメント

SAS ログに指定したアイテム用のソースコードを書き込みます。

例: “例 3: テンプレートのソースの表示” (874 ページ)

構文

SOURCE *item-path* </ オプション>;

必須引数

item-path

SAS ログに書き込みたいアイテムのパスを指定します。複数のテンプレートストアに同じアイテムが存在する場合、PROC TEMPLATE は、現在のパスで読むことが可能な最初のテンプレートストアから1つを使用します。

ヒント: PROC TEMPLATE は、コンパイルされた形式でアイテムを保存します。

SOURCE ステートメントは、実際にはアイテムを逆コンパイルします。SAS のコメントはコンパイルされないため、アイテムを逆コンパイルした時にソースコード内のコメントは表示されません。アイテムに注釈を施したい場合は、アイテムまたは編集指示ブロックの NOTES ステートメント、あるいは LINK ステートメント内の NOTES=オプションを使用してください。これらのノートは、コンパイルされたアイテムの一部となります。(“NOTES Statement” (1115 ページ) および “LINK ステートメント” (859 ページ) を参照してください。また、ノートを DYNAMIC、MVAR、NMVAR、REPLACE、および STYLE ステートメント内の引用符付きの文字列として指定できます。)

オプション引数

FILE=*'file-specification'* | *fileref*

アイテムを書き込むためのファイル指定します。

'file-specification'

書き込み先の外部ファイル名です。

要件 ユーザーが指定した外部ファイルは、引用符で囲む必要があります。

fileref

外部ファイルに割り当てられているファイル参照です。fileref を割り当てるには、FILENAME ステートメントを使用します。

デフォルト: ソースコードの書き込みを希望する箇所のファイル名を削除する場合、SOURCE ステートメントが SAS ログにソースコードを書き込みます。

参照項目: FILENAME ステートメントに関する情報は、SAS ステートメント: リファレンスの "Statements" を参照。

NOFOLLOW

現在のアイテムが継承するアイテムを指定する PARENT=ステートメント内のリンクを解消しないことを指定します。PARENT=ステートメントに関する詳細は、スタイル属性項目内の次を参照してください。“PARENT= ステートメント” (964 ページ)

STORE=*libref.template-store*

アイテムが位置するテンプレートストアを指定します。

操作: 多くの場合、PROC TEMPLATE がソースコードを表示するとき、STORE=オプションが定義ステートメントに追加されます。しかし、STORE=オプション内で指定されたテンプレートストアが Read 許可のみをともない ODS パス内にある場合、PROC TEMPLATE は、表示するソースコードに STORE=オプションを含めません。STORE=オプションがないということは、コードを実行した場合に、コードが作成するアイテムは、ODS パスに Update 許可を持つ最初のテンプレートに渡るということを意味します。

WHERE=(*where 式*)

特定の条件を満たす出力オブジェクトを選択します。例えば、次のステートメントは、現在のテンプレートへのパスに "Default" という単語を含むアイテムのソースコードを表示します。source/where=(path ? 'Default') ;

where 式

一連の演算子とオペランドで構成される演算または論理式です。

*where 式*の形式は次のとおりです。

(*subsetting* 変数 <*comparison* 演算子 *where* 式-*n*>)

subsetting 変数

SOURCE ステートメントで使用される WHERE 式オペランドの特別型式で、アイテムの共通値の検索に役立ちます。サブセット変数は、次の内の1つ以上となります。

PATH | PATH

完全修飾テンプレートパスです。

別名:

NAME | NAME

TEMPLATE | TEMPLATE

例: この SOURCE ステートメントは、現在のテンプレート名において "Default" という単語を含むすべてのアイテムのコードを表示します。

```
source / where=(path ? 'Default'); run;
```

TYPE | TYPE

アイテムの種類です。TYPE は、次の内の1つです。

COLUMN

テンプレートがテーブル内の列であることを指定します。

FOOTER

テンプレートがテーブル内のフッターであることを指定します。

HEADER

テンプレートがテーブル内のヘッダーであることを指定します。

LINK

テンプレートがリンクまたは URL であることを指定します。

STYLE

定義がスタイルであることを指定します。

TABLE

定義がテーブルのテンプレートであることを指定します。

TAGSET

定義がタグセットであることを指定します。

例: この SOURCE ステートメントは、パスに "Default" という単語を含むすべてのタグセットにソースコードを表示します。

```
source / where=(lowercase(type) = 'tagset' && _path_ ? 'Default');
```

LOWCASE 関数は、引数のすべての文字を小文字に変換します。

NOTES

アイテムを作成した PROC TEMPLATE ステップ内の NOTES ステートメントのコンテンツです。コンテンツは、LABEL フィールドに表示されます。

別名: LABEL

例: この SOURCE ステートメントは、ラベルに "common matrix" という語を含むすべてのアイテムおよびアイテムがリンクのソースコードを表示します。

```
source / where=(lowercase(label) ? 'common matrix' && _type_ = 'Link');
run;
```

LOWCASE 関数は、引数内のすべての文字を小文字に変換します。

SIZE

アイテムのバイト単位でのサイズです。

例: この SOURCE ステートメントは、70000 バイト以上のすべてのアイテムのソースコードを表示します。

```
source / where=(size > 70000);
run;
```

CREATED

アイテムが作成された日付です。

例: この SOURCE ステートメントは、現在のテンプレートパス内のすべてのテンプレートストアにおいて、当日作成されたすべてのアイテムのソースコードを表示します。

```
source / where=(datepart(created) = today());
```

DATEPART 機能は、SAS datetime 値から日付を抽出します。

CDATE | _CDATE_

アイテムの作成日です。

例: この SOURCE ステートメントは、作成日が 16JUL2004 のすべてのアイテムのソースコードを表示します。

```
source / where=(_cdate_ = '16JUL2004'd);
run;
```

CDATETIME | _CDATETIME_

アイテムが作成された日時です。

例: この SOURCE ステートメントは、SAS 作成日時が 2003 年 5 月 1 日の 9:30 のすべてのアイテムのソースコードを表示します。

```
source / where=(_cdatetime_ = '01may04:9:30:00'dt);
run;
```

CTIME | _CTIME_

アイテムの作成時刻です。

例: この SOURCE ステートメントは、作成時刻が午後 9:25:19 のすべてのアイテムのソースコードを表示します。

```
source / where=(_ctime_ = '9:25:19pm't);
run;
```

MDATE | _MDATE_

アイテムの変更日付です。

例: この SOURCE ステートメントは、変更日が 16JUL2004 のすべてのアイテムのソースコードを表示します。

```
source / where=(_mdate_ = '16JUL2004'd);
run;
```

MDATETIME | _MDATETIME_

アイテムの変更日時です。

例: この SOURCE ステートメントは、SAS 変更日が 2003 年 5 月 1 日の 9:30 のすべてのアイテムのソースコードを表示します。

```
source / where=(_mdatetime_ = '01may04:9:30:00'dt);
run;
```

MODIFIED

アイテムが変更された日付です。

例: この SOURCE ステートメントは、現在のテンプレートパス内のすべてのテンプレートストアにおいて当日変更されたすべてのアイテムのソースコードを表示します。

```
source / where=(datepart(modified) = today());
```

DATEPART 機能は、SAS datetime 値から日付を抽出します。

MTIME | _MTIME_

アイテムの変更時刻です。

例: この SOURCE ステートメントは、変更時刻が午後 9:25:19 のすべてのアイテムのソースコードを表示します。

```
source / where=( _mtime_ = '9:25:19pm't );
run;
```

comparison 演算子

変数を値またはその他の変数と比較します。次の表では、比較演算子をリストで示しています。

表 10.2 比較演算子

記号	ニーモニック相当	定義
=	EQ	に等しい
^=、~=、~=または<>	NE	に等しくない
>	GT	より大きい
<	LT	未満
>=	GE	より大きいまたは等しい
<=	LE	より小さいまたは等しい
	IN	リストの任意の値と等しい

参照項目: WHERE データセットオプションで使用できる式に関する情報は、WHERE データセットオプションおよび WHERE-Expression Processing の項目を参照してください。“WHERE 式の処理” (SAS 言語リファレンス: 解説編 11 章)

ステートメント

最新の作成アイテムを指定されたデータセットにバインドしてテストします。

構文

```
TEST DATA=data-set </STORE=libreftemplate-store>;
```

必須引数

DATA=data-set

最も新しく作成されたアイテムにバインドする SAS データセットを指定します。ODS によって、この出力オブジェクトは開いているすべての ODS 出力先に送信されます。

オプション引数

STORE=libreftemplate-store

アイテムが位置するテンプレートストアを指定します。

要件 このオプションを指定した場合、ユーザーが指定するテンプレートストアは、アイテムを作成した DEFINE ステートメント内のテンプレートストアに合致しなければなりません。

例: TEMPLATE プロシジャ:テンプレートストアの管理

例 1: テンプレートストア内におけるテンプレートの表示

要素: PATH ステートメント
LIST ステートメント
starting-path オプション
SORT=オプション

詳細

この例は、Sashelp.Tmplmst アイテムストア内の Base.Univariate ディレクトリ用にアイテムをリストします。

プログラム

```
options nodate pageno=1 pagesize=60 linesize=72;

proc template;
  path sashelp.tmplmst;

  list base.univariate / sort=path descending;
run;
```

プログラムの説明

SAS システムオプションを設定してください。 OPTIONS ステートメントは、リスト出力のいくつかの表示を制御します。HTML 出力には何らの影響も与えません。

```
options nodate pageno=1 pagesize=60 linesize=72;
```

PROC TEMPLATE により作成されたアイテムを検索する場所を指定します。 PATH ステートメントは、Sashelp.Tmplmst アイテムストアの PROC TEMPLATE により作成されたテンプレートと定義を検索するように指定します。

```
proc template;
  path sashelp.tmplmst;
```

テンプレートストアの指定レベル内で保管されたアイテムを降順でリストします。 LIST ステートメントは、1 つ以上のテンプレートストアでテンプレートおよび定義をリストします。開始パス `base.univariate` は、PROC TEMPLATE がアイテムのリストを開始するテンプレートストア内でのレベルを指定します。SORT=オプションはアイテムのリストをソートします。アイテムは、降順でソートされます。

```
list base.univariate / sort=path descending;
run;
```

出力

アウトプット 10.1 Base.Univariate テンプレートストアの部分的なリスト

Listing of: SASHELP.TMPLMST
 Path Filter is: Base.Univariate
 Sort by: PATH/DESCENDING

Obs	Path	Type
1	Base.Univariate.Wins	Table
2	Base.Univariate.Trim	Table
3	Base.Univariate.Robustscale	Table
4	Base.Univariate.Quantiles	Table
5	Base.Univariate.QQPlotData	Table
6	Base.Univariate.ProbPlotData	Table
7	Base.Univariate.PValue	Column
8	Base.Univariate.PPPlotData	Table
9	Base.Univariate.Normal	Table
10	Base.Univariate.Moments	Link
11	Base.Univariate.Modes	Table
12	Base.Univariate.Missings	Table
13	Base.Univariate.Measures	Table
14	Base.Univariate.Location	Table
15	Base.Univariate.LocCount	Table
16	Base.Univariate.InsetData	Table
17	Base.Univariate.HistogramData	Table
18	Base.Univariate.Graphics.QQPlotRotated	Statgraph
19	Base.Univariate.Graphics.QQPlot	Statgraph
20	Base.Univariate.Graphics.ProbPlotRotated	Statgraph
21	Base.Univariate.Graphics.ProbPlot	Statgraph
22	Base.Univariate.Graphics.PPPlot	Statgraph
23	Base.Univariate.Graphics.Histogram	Statgraph
24	Base.Univariate.Graphics.CompQQPlotRotated	Statgraph

例 2: WHERE 式を使用したテンプレートストアのアイテムの選択

要素: PATH ステートメント
 LIST ステートメント
 where 式オプション
 starting-path オプション
 SORT=オプション

詳細

この例は、Base.Univariate ディレクトリ内の適合したディストリビューションテーブルテンプレートをリスト用に選択する際に、WHERE 式を使用します。

プログラム

```
options nodate pageno=1 pagesize=60 linesize=72;

proc template;
  path sashelp.tmplmst;

  list base.univariate / sort=path descending
  where=(lowercase(path) ? 'fit');
run;
```

プログラムの説明

SAS システムオプションを設定してください。 OPTIONS ステートメントは、リスト出力のいくつかの様相を制御します。HTML 出力には何らの影響も与えません。

```
options nodate pageno=1 pagesize=60 linesize=72;
```

PROC TEMPLATE により作成されたアイテムを検索する場所を指定します。 PATH ステートメントは、Sashelp.Tmplmst アイテムストアにおいて、PROC TEMPLATE によって作成されたアイテムの検索を指定します。

```
proc template;
  path sashelp.tmplmst;
```

パス名に"fit"という単語を含むものを降順にリストします。 LIST ステートメントは、1 つ以上のテンプレートストアでのアイテムをリストします。開始パス `base.univariate` は、PROC TEMPLATE がアイテムのリストを開始するテンプレートストア内でのレベルを指定します。WHERE 式は、パス名に"fit"という単語を含むテンプレートストア内でアイテムを検索します。LOWCASE 関数は、引数内のすべてのアイテムを小文字に変換します。SORT=オプションはアイテムのリストをソートします。アイテムは、降順でソートされます。

```
list base.univariate / sort=path descending
where=(lowercase(path) ? 'fit');
run;
```

出力

アウトプット 10.2 Base.Univariate テンプレートストア内の固定分布テンプレートのリスト

The SAS System

Listing of: SASHELP.TMPLMST

Path Filter is: Base.Univariate

Sort by: PATH/DESCENDING

Obs	Path	Type
1	Base.Univariate.FitQuant	Table
2	Base.Univariate.FitParms	Table
3	Base.Univariate.FitGood	Table

例 3: テンプレートのソースの表示

要素: PATH ステートメント
SOURCE ステートメント

詳細

この例は、SAS が提供する Xhtml タグセットのソースコードを表示します。

プログラム

```
proc template;
  path sashelp.tmplmst;

  source Tagsets.Xhtml;
run;
```

プログラムの説明

PROC TEMPLATE により作成されたアイテムを検索する場所を指定します。PATH ステートメントは、Sashelp.Tmplmst アイテムストアにおいて PROC TEMPLATE によって作成されたアイテムの検索を指定します。

```
proc template;
  path sashelp.tmplmst;
```

指定されたアイテムのソースコードを書き込んでください。SOURCE ステートメントは、SAS が提供する Xhtml タグセットのソースコードを表示します。ソースコードは SAS ログに書き込まれます。

```
  source Tagsets.Xhtml;
run;
```

SAS ログに書き込まれる Tagset.Xhtml テンプレートのソースコード

```
proc template;
path sashelp.tmplmst;

source Tagsets.Xhtml;
define tagset Tagsets.Xhtml;
notes "XHTML 1.0";

define event doc;
start:
set $empty_tag_suffix " /";
set $doctype
"";
set $framedoctype
"";
put $doctype NL;
put "" NL;

finish:
put "" NL;
end;
split = "";
parent = tagsets.html4;
end;
NOTE: Path 'Tagsets.Xhtml' is in: SASHELP.TMPLMST.
run;
NOTE: PROCEDURE TEMPLATE used (Total process time):
real time 2.17 seconds
cpu time 0.17 seconds
```


11 章

TEMPLATE プロシジャ: クロス集計表テンプレートの作成

概要: ODS クロス集計表テンプレート	877
TEMPLATE プロシジャを使用したカスタマイズされたクロス集計表の作成	877
クロス集計表テンプレートを使用して可能な操作	878
概念: クロス集計表出力と TEMPLATE プロシジャ	881
クロス集計表をユニークにする要素	881
テーブルテンプレートとクロス集計表テンプレートの比較	881
構文: TEMPLATE プロシジャ: クロス集計表テンプレートの作成	882
PROC TEMPLATE ステートメント	883
CELLSTYLE AS ステートメント	884
CELLVALUE ステートメント	886
DEFINE CELLVALUE ステートメント	887
DEFINE CROSSTABS ステートメント	889
DEFINE FOOTER ステートメント	894
DEFINE HEADER ステートメント	894
DYNAMIC ステートメント	897
END ステートメント	898
FOOTER ステートメント	899
HEADER ステートメント	899
NOTES ステートメント	899
TEXT ステートメント	900
クロス集計表のテンプレートの使用	903
CrossTabFreqs クロス集計表テンプレートの使用に当たって	903
クロス集計表の領域とそれに対応する属性	903
例: TEMPLATE プロシジャ: クロス集計表テンプレートの作成	905
例 1: 凡例を含まないクロス集計のカスタムテーブルテンプレートの作成	905
例 2: カスタム凡例を含むクロス集計のテーブルテンプレートの作成	917
例 3: セルの値にカスタム形式を追加	929

概要: ODS クロス集計表テンプレート

TEMPLATE プロシジャを使用したカスタマイズされたクロス集計表の作成

TEMPLATE プロシジャを使用すると、FREQ プロシジャによって作成されるクロス集計表(分割表)の外観をカスタマイズできます。

デフォルトでは、クロス集計表は、SAS によって提供される CrossTabFreqs テンプレートに従ってフォーマットされます。ただし、次の表のステートメントと共に TEMPLATE プロシジャを使用すると、カスタマイズされた CrossTabFreqs テーブルテンプレートを作成できます。

表 11.1 PROC TEMPLATE ステートメント

タスク	ステートメント
クロス集計表テンプレートの作成	DEFINE CROSSTABS
クロス集計表のセルに表示される値の定義	DEFINE CELLVALUE
セル値がセル内に積み上げられる順序の指定	CELLVALUE
フッターのテンプレートの作成	DEFINE FOOTER
ヘッダーのテンプレートの作成	DEFINE HEADER
クロス集計表テンプレートの終了	END

クロス集計表テンプレートを使用して可能な操作

CrossTabFreqs クロス集計表テンプレートでは、PROC FREQ のクロス集計表を表示する方法が記述されています。カスタマイズされた CrossTabFreqs クロス集計表テンプレートを作成すると、次の操作を実行できます。

- セル値にカスタム形式の使用
- セル内の各値にスタイルの指定
- セル内の値のスタッキング順序の変更
- スタイルのヘッダーとフッターの変更
- ヘッダーとフッターで変数ラベルの使用
- 個々のテーブル領域のスタイル化
- 凡例の変更または削除

次の画面は、デフォルトのクロス集計表テンプレートを使用して作成されたクロス集計表を示します。

画面 11.1 デフォルトのクロス集計表テンプレートを使用して作成されたクロス集計表

Results Viewer - SAS Output

The FREQ Procedure

Frequency Deviation Tot Pct Percent Row Pct Col Pct Cumulative Col%	Table 1 of Treatment by Discomfort		
	Controlling for Gender=F		
	Treatment(Treatment Regimen)	Discomfort(Amount of Discomfort Experienced)	
	P	PF	Total
A	1	9	10
	-1.667	1.6667	
	1.67	15.00	16.67
	3.33	30.00	33.33
	10.00	90.00	
	12.50	40.91	33.33
B	1	9	10
	-1.667	1.6667	
	1.67	15.00	16.67
	3.33	30.00	33.33
	10.00	90.00	
	12.50	40.91	66.67
P	6	4	10
	3.3333	-3.333	
	10.00	6.67	16.67
	20.00	13.33	33.33
	60.00	40.00	
	75.00	18.18	100.00
Total	8	22	30
	13.33	36.67	50.00
	26.67	73.33	100.00

次の画面は、修正した CrossTabFreqs テンプレートを使用して作成された PROC FREQ 出力を示します。

画面 11.2 修正したクロス集計表テンプレートを使用して作成されたクロス集計表

Results Viewer - SAS Output

The FREQ Procedure

Treatment by Discomfort (Table 1)			
Gender of Patient=F			
Treatment Regimen	Amount of Discomfort Experienced		
	P	PF	Total
A	1	9	10
	-1.667	1.6667	
	3.33	30.00	33.33
	10.00	90.00	
	12.50	40.91	
	12.50	40.91	33.33
B	1	9	10
	-1.667	1.6667	
	3.33	30.00	33.33
	10.00	90.00	
	12.50	40.91	
	25.00	81.82	66.67
P	6	4	10
	3.3333	-3.333	
	20.00	13.33	33.33
	60.00	40.00	
	75.00	18.18	
	100.00	100.00	100.00
Total	10.00	6.67	16.67
	8	22	30
	26.67	73.33	100.00
	13.33	36.67	50.00

Frequency
Deviation
Percent
Row Percent
Column Percent
Cum. Col. Percent
Total Percent

次は、前述のクロス集計表に加えられたカスタマイゼーションの一部です。

- 凡例のテキストは、イタリック体にされ、他のヘッダーテキストより小さくなっています。
- ヘッダーテキストには、変数名の代わりに変数ラベル“Gender of Patient”が使用されています。
- 行の変数名および列の変数名の代わりに行の変数ラベルと列の変数ラベルが使用されています。
- non-summary 行の背景色として2つの色が交互に使用されます。
- 総計セルの値は、ボールド体にイタリック体で表示されています。
- 偏差セル値は、偏差が $\text{abs}(2.0)$ を超えると赤色に変わります。
- TotalPercent セル値の表示箇所は、真ん中辺りから他のセル値の下に移動されています。

概念: クロス集計表出力と TEMPLATE プロシジャ

クロス集計表をユニークにする要素

PROC FREQ によって生成されるクロス集計表は、SAS によって生成されるその他の表とは異なります。その他の表の大部分は、各行と列の組み合わせに 1 つずつ値を持つ行と列によって構成されます。ただし、クロス集計表には次の際立った特徴があります。

セルごとに複数の値

クロス集計表では、各行と列の組み合わせは、TABLES ステートメントで指定されたオプションによって、9 個までの値を持つことができます。SAS によって作成されるその他の表の大部分は、各行と列の組み合わせに持つことができる値は 1 個のみです。

凡例

クロス集計表には、凡例という個別のボックスがあり、セル値のラベルが含まれます。SAS によって生成されるその他の表に凡例はありません。

行変数列

左端の列には行変数値が含まれます。この列内の各値によって、列変数値がラベルを列に付与する場合と同様に、行がラベルに付与されます。

列変数ヘッダー

これらのヘッダー内の各値によって、ラベルが表の列に付与されます。

行と列の合計

右端の列には行合計が含まれます。最下段の行には列合計が含まれます。

総合計セル

総合計セルは、合計行と合計列の最後のセルです。

テーブルテンプレートとクロス集計表テンプレートの比較

クロス集計表は一意であるため、クロス集計テンプレートの作成に使用される構文は、その他のテーブルテンプレートと大幅に異なります。

- クロス集計表テンプレートには親テンプレートが含まれず、親テンプレートとして別のテンプレートに機能を付与することはできません。
- 従来のテーブルテンプレートに定義される CENTER や PANELS=などの属性の大部分は、クロス集計表テンプレート内で定義されません。
- クロス集計表テンプレートでは、その他のテーブルテンプレートで使用される DEFINE COLUMN ブロックではなく、DEFINE CELLVALUE ブロックが使用されます。
- クロス集計表テンプレートでは、その他のテーブルテンプレートで使用される COLUMN ステートメントではなく、CELLVALUE ステートメントが使用されます。
- クロス集計表テンプレートとその他のテーブルテンプレートの両方で DEFINE HEADER と DEFINE FOOTER ブロックが使用されます。ただし、これらの各ブロックで使用できる属性は異なります。

- DEFINE HEADER および DEFINE FOOTER ブロックは、クロス集計表テンプレート内に限り、複数の TEXT ステートメントを含むことができます。次に、ODS ではどの TEXT ステートメントを実行時に使用するかが選択されます。
- TEXT ステートメントは、クロス集計表テンプレート内に限り、WHERE 式を指定できます。ODS では、TEXT ステートメントテキストをヘッダーテキストとして使用するかどうかを決めるために、WHERE 式が使用されます。
- CELL_STYLE、COLS_HEADER、COL_TOTAL_STYLE、COL_VAR_STYLE、GRAND_TOTAL_STYLE、LEGEND_STYLE、ROWS_HEADER、ROW_VAR_STYLE 属性は、クロス集計表に固有のものです。
- ROWS_HEADER と COLS_HEADER 属性は、クロス集計表に固有のものです。
- NVAR、MVAR、TRANSLATE-INTO ステートメントは、クロス集計表テンプレートをサポートしていません。

構文: TEMPLATE プロシジャ: クロス集計表テンプレートの作成

PROC TEMPLATE

```

DEFINE CROSSTABS table-path </ STORE=libref.template-store>;
    <table-attribute-1; <table-attribute-n>;>
CELLVALUE cellvalues;
DEFINE CELLVALUE cellvalue;
    statements-and-attributes;
END;
DEFINE HEADER header-name;
    statements-and-attributes;
END;
DEFINE FOOTER footer-name;
    statements-and-attributes;
END;
DYNAMIC variable-1 <text-1> <variable-n<text-n>>;
FOOTER footer-name(s);
HEADER header-name(s);
NOTES text;
END;

```

ステートメント	タスク	例
“PROC TEMPLATE ステートメント”	PROC TEMPLATE テンプレートの開始	Ex. 1, Ex. 2, Ex. 3
“CELLSTYLE AS ステートメント”	変数値による列内のセルのスタイル要素の設定	Ex. 1, Ex. 2

ステートメント	タスク	例
“CELLVALUE ステートメント”	セル値がセル内に積み上げられる順序の指定	Ex. 1, Ex. 2
“DEFINE CELLVALUE ス テートメント”	クロス集計表のセルに表示される値の定義	Ex. 1, Ex. 2
“DEFINE CROSSTABS ス テートメント”	クロス集計表テンプレートの作成	Ex. 1, Ex. 2, Ex. 3
“DEFINE FOOTER ステ ートメント”	フッターのテンプレートの作成	Ex. 1, Ex. 2
“DEFINE HEADER ステ ートメント”	ヘッダーのテンプレートの作成	Ex. 1, Ex. 2
“DYNAMIC ス テートメント”	プロシジャまたは DATA ステップからデータコンポーネントが提供する値を参照するシンボルの定義	Ex. 1, Ex. 2
“END ステート メント”	テンプレートの終了	Ex. 1, Ex. 2, Ex. 3
“FOOTER ステ ートメント”	表内のフッターとしてシンボルを宣言し、フッターの順序の指定	Ex. 1, Ex. 2
“HEADER ステ ートメント”	表内のヘッダーとしてシンボルを宣言し、ヘッダーの順序の指定	Ex. 1, Ex. 2
“NOTES ステ ートメント”	テンプレートに関する情報の提供	Ex. 1, Ex. 2
“TEXT ステ ートメント”	ヘッダーまたはフッターのテキストの指定	Ex. 1, Ex. 2

PROC TEMPLATE ステートメント

PROC TEMPLATE テンプレートを開始します。

構文

PROC TEMPLATE

```

DEFINE CROSSTABS table-path </ STORE=libref.template-store>;
  <table-attribute-1; <table-attribute-n>;>
  CELLVALUE cellvalues;
  DEFINE CELLVALUE cellvalue;
    statements-and-attributes;
  END;
  DEFINE HEADER header-name;
    statements-and-attributes;
  END;
  DEFINE FOOTER footer-name;
    statements-and-attributes;
  END;
  DYNAMIC variable-1 <'text-1'> <variable-n<'text-n'>>;
  FOOTER footer-name(s);
  HEADER header-name(s);
  NOTES text;
END;

```

CELLSTYLE AS ステートメント

変数値による列内のセルのスタイル要素を設定します。このステートメントを使用すると、LISTING 出力先を除く、すべての出力先内の個別のセルの表示特性(前景色、フォントフェース、フライオーバー)を設定できます。

制限事項: CELLSTYLE AS ステートメントを DEFINE CELLVALUE ステートメントのみと併用できません。

参照項目: “例 1: 凡例を含まないクロス集計のカスタムテーブルテンプレートの作成” (905 ページ)

構文

```

CELLSTYLE expression-1 AS <style-element-name><[style-attribute-specification(s)] >
  <, expression-n AS<style-element-name><[style-attribute-specification(s)]>>;

```

必須引数

expression

各セルに対して評価される式です。*expression* が TRUE (非ゼロ値) 場合、指定されるスタイル要素が現在のセルに使用されます。*expression* が FALSE (ゼロ) 場合、ステートメント内の次の式が評価されます。そのため、複数の式をまとめて条件別にセルをフォーマットできます。

expression には次の形式が含まれます。

```
expression-1 <comparison-operatorsexpression-n>
```

expression

演算子またはオペランドのシーケンスから構成される演算式または論理式です。演算子とは、比較、論理処理、算術演算をリクエストするシンボルです。オペランドは、次のいずれかです。

1

定数スタイル要素の設定に使用できる固定値です。

例: 次のステートメントによって、セル値 Frequency 背景がグレーに設定されます。

```
define cellvalue Frequency;
  other-statements ...;
  cellstyle 1 as {backgroundcolor=gray};
end;
```

VAL

現在のセルの値です。

例: 次のステートメントによって、セル値 Percent の前景色はその等級に応じて変更されます。

```
define cellvalue Percent;
  other-statements ...;
  cellstyle _val_ > 75.00 as {color=red},
  _val_ > 50.00 as {color=orange}, _val_ > 25.00 as {color=green};
end;
```

comparison-operator

変数がある値または別の変数と比較します。

表 11.2 比較演算子

シンボル	ニーモニック相当	定義
=	EQ	等しい
^= または ~= または -= または <>	NE	等しくない
>	GT	より大きい
<	LT	未満
>=	GE	以上
<=	LE	以下
	IN	リストの任意の値と等しい

ヒント: 1 という式を CELLSTYLE AS ステートメント内の最後の式として使用すると、前の条件を満たしていなかったセルのスタイル要素が設定されます。

オプション引数

style-attribute-specification

設定するスタイル属性を記述します。style-attribute-specification のそれぞれには、次の一般的な形式が含まれます。

style-attribute-name=style-attribute-value

列テンプレート内で設定できるスタイル属性に関する詳細は、“[すべてのスタイル属性の詳細情報](#)” (978 ページ) を参照してください。

デフォルト: 変更するスタイル属性を指定しない場合、未変更の style-element-name が ODS によって使用されます。

注: *style-attribute-specification* も *style-element-name* も不要です。ただし、そのうちの少なくとも 1 つは使用する必要があります。

style-element-name

列内にデータを表示するスタイル要素の名前です。スタイル要素は、Output Delivery System に登録されているスタイルの一部である必要があります。SAS によって、いくつかのスタイルが提供されます。PROC TEMPLATE を使用すると、カスタマイズされたスタイルを作成できます(“[DEFINE STYLE ステートメント](#)”(958 ページ)を参照)。デフォルトでは、ODS によってさまざまなスタイル要素を含む ODS 出力のさまざまな部分が表示されます。たとえば、デフォルトでは、列データはスタイル要素 Data を用いて表示されます。列テンプレートで CELLSTYLE AS ステートメントと共に使用できる可能性が高いスタイル要素は、次のとおりです。

- Data
- DataFixed
- DataEmpty
- DataEmphasis
- DataEmphasisFixed
- DataStrong
- DataStrongFixed

スタイル要素によって、列を表示する際の基本要素が提供されます。ユーザーが提供する追加スタイル属性は、表示を変更できます。

デフォルト: Data

注: *style-attribute-specification* も *style-element-name* も不要です。ただし、そのうちの少なくとも 1 つは使用する必要があります。

参照項目:

“[スタイルのコンテンツの表示](#)”(945 ページ)

“[ODS 出力先のデフォルトスタイルの検索および表示](#)”(945 ページ)

CELLVALUE ステートメント

セル値がセル内に積み上げられる順序を指定します。

操作: DEFINE CELLVALUE ステートメントによって指定されたセル値シンボルがリスト内がない場合、クロス集計表に表示されません。

参照項目: “[例 1: 凡例を含まないクロス集計のカスタムテーブルテンプレートの作成](#)”(905 ページ)

構文

CELLVALUE *cellvalue(s)*;

必須引数

cellvalue(s)

DEFINE CELLVALUE ステートメントによって作成される 9 個のセル値のいずれかを指定します。*cellvalues* は最上位から最下位まで順序付けられます。

参照項目: “[DEFINE CELLVALUE ステートメント](#)”(887 ページ)

DEFINE CELLVALUE ステートメント

クロス集計表のセルに表示される値を定義します。

- 注:** DEFINE CELLVALUE ブロックは、DEFINE CELLVALUE ステートメントから始まります。次のステートメントは、ブロック内で共通して使用されます。“CELLSTYLE AS ステートメント” (884 ページ)、“DYNAMIC ステートメント” (897 ページ)、“NOTES ステートメント” (899 ページ)、および“END ステートメント” (898 ページ)。
- 例:** “例 1: 凡例を含まないクロス集計のカスタムテーブルテンプレートの作成” (905 ページ)

構文

```
DEFINE CELLVALUE <cellvalue>;
    <cellvalue-attribute-1>; <cellvalue-attribute-n>;
    CELLSTYLE expression-1 AS <style-element-name><[style-attribute-specification(s)] >
        <, expression-n AS<style-element-name><[style-attribute-specification(s)]>>;
    DYNAMIC variable-1<text-1'> <variable-n<text-n'>>;
    NOTES 'text';
END;
```

オプション引数

cellvalue

PROC FREQ によってクロス集計表用に生成され得る値の 1 つを指定します。セル内にセル値を表示するには、次の要件のいずれかを満たす必要があります。

- DEFINE CELLVALUE ステートメントで指定されていること。
- CELLVALUE ステートメントに組み込まれていること。
- PROC FREQ の TABLES ステートメント用に NOFREQ、NOPERCENT、NOROW、NOCOL、CUMCOL オプションのいずれかによって非表示にされていないこと。
- EXPECTED、DEVIATION、CELLCHI2、TOTPCT オプションのいずれかによってリクエストされていること。

セル値を表内に表示されないようにするには、前述の指定のいずれかを変更する必要があります。

cellvalue は次のいずれかになります。

Frequency
度数カウント。

Expected
セルの期待度数。

Deviation
期待値からのセル度数の偏差。

CellChiSquare
Pearson のカイ 2 乗統計量の合計に占めるセルの寄与。

TotalPercent
n 元表における n>2 のときの合計度数のパーセンテージ。

Percent
表度数のパーセンテージ。

RowPercent
行度数のパーセンテージ。

ColPercent
列度数のパーセンテージ。

CumColPercent
列度数の累積パーセンテージ。

DEFINE CELLVALUE 属性ステートメント

この項では、セル値テンプレートで使用できるすべての属性ステートメントと、ステートメントに関連付けられるタスクのリストを示します。ON という値をサポートするすべての属性では、ATTRIBUTE-NAME および ATTRIBUTE-NAME=ON という形式が相当します。

表 11.3 DEFINE CELLVALUE 属性ステートメント

タスク	ステートメント
クロス集計表テンプレートとデータコンポーネントが両方とも形式を指定する場合、セル値にどの形式を使用するかを指定。	“DATA_FORMAT_OVERRIDE=ON OFF;” (p. 888)
セル値の形式を指定。	“FORMAT=format_name <format-width<decimal-width >>;” (p. 889)
FORMAT=属性によって指定された幅をオーバーライド。	“FORMAT_WIDTH=positive-integer” (p. 889)
FORMAT=属性によって指定された小数点をオーバーライド。	“FORMAT_NDEC=positive-integer” (p. 889)
凡例のテキストを指定。	“HEADER='text'” (p. 889)
OUTPUT 出力先ついて、セル値に対応するデータセット列のラベルを指定。	“LABEL='text' ” (p. 889)
セル値がクロス集計表に表示されるかどうかを指定。	“PRINT= ON OFF” (p. 889)

DATA_FORMAT_OVERRIDE=<ON | OFF>;

クロス集計表テンプレートとデータコンポーネントが両方とも Frequency、Expected、Deviation の形式を指定する場合、どの形式を使用するかを指定します。

ON

データコンポーネントで指定された形式を選択します。

OFF

クロス集計表テンプレートで指定された形式を選択します。

デフォルト: OFF

操作: DATA_FORMAT_OVERRIDE=ON を指定し、FORMAT オプションが PROC FREQ の TABLES ステートメントで指定される場合、Frequency、Expected、Deviation セル値の形式がデータコンポーネントによって指定されません。

FORMAT=*format_name* <*format-width*<*decimal-width* >>;

列の形式を指定します。

デフォルト: FORMAT=オプションを省略した場合、PROC TEMPLATE ではデータコンポーネントによって提供される形式が使用されます。データコンポーネントによって形式が提供されない場合、PROC TEMPLATE では次のいずれかが使用されます。整数には BEST8.、浮動小数点値には 12.3、文字変数には変数の長さ。

範囲: 最小セル幅は 8、最大幅は 25。

操作: LISTING 出力の場合、セルの幅はフォーマット幅によって制御されます。セルは、フォーマット幅よりも 1 文字以上の幅となります。

FORMAT_WIDTH=*positive-integer*

FORMAT=属性ステートメントによって指定される幅をオーバーライドします。

FORMAT_NDEC=*positive-integer*

FORMAT=属性ステートメントによって指定された小数点をオーバーライドします。

HEADER='*text*'

凡例のテキストを指定します。

ヒント: LISTING 出力の場合、テキストの最初の 15 文字のみが表示されます。

LABEL='*text*'

OUTPUT 出力先について、セル値に対応するデータセット列のラベルを指定します。

PRINT= ON | OFF

セル値がクロス集計表に表示されるかどうかを指定します。

この属性と、セル値の TABLES ステートメントオプションの両方によって、表内のセル値の表示が制御されます。たとえば、期待されるセル度数が表示されるのは、EXPECTED オプションが使用され、Expected セル値テンプレートによって PRINT=ON が指定されている場合のみです。

DEFINE CROSSTABS ステートメント

クロス集計表テンプレートを作成します。

注: クロス集計表テンプレートは、DEFINE CROSSTABS ステートメントから始まります。通常、次のステートメントが DEFINE CROSSTABS ブロック内で使用されます。“CELLVALUE ステートメント” (886 ページ)、“DEFINE CELLVALUE ステートメント” (887 ページ)、“DEFINE HEADER ステートメント” (894 ページ)、“DEFINE FOOTER ステートメント” (894 ページ)、“DYNAMIC ステートメント” (897 ページ)、“FOOTER ステートメント” (899 ページ)、“HEADER ステートメント” (899 ページ)および“NOTES ステートメント” (899 ページ)。

例: “例 1: 凡例を含まないクロス集計のカスタムテーブルテンプレートの作成” (905 ページ)

構文

```

DEFINE CROSSTABS table-path </ STORE=libref.template-store>;
  <table-attribute-1; <table-attribute-n>;>
CELLVALUE cellvalues;
DEFINE CELLVALUE cellvalue;
  statements-and-attributes;
END;
DEFINE HEADER header-name;
  statements-and-attributes;
END;
DEFINE FOOTER footer-name;
  statements-and-attributes;
END;
DYNAMIC variable-1 <'text-1'> <variable-n<'text-n'>>;
FOOTER footer-name(s);
HEADER header-name(s);
NOTES text;
END;

```

オプション引数の要約

- CELL_STYLE**=<*style-element-name*><[*style-attribute-specification(s)*]>
non-summary 行と列でセル値に使用するスタイル要素とその属性への変更内容を指定します。
- COL_TOTAL_STYLE**=<*style-element-name*><[*style-attribute-specification(s)*]>
表内の最終行でセル値に使用するスタイル要素とその属性への変更内容を指定します。
- COL_VAR_STYLE**=<*style-element-name*><[*style-attribute-specification(s)*]>
列変数値列上のヘッダーとして使用される列変数値に使用するスタイル要素とその属性への変更内容を指定します。
- COLS_HEADER**=**ヘッダー名**
表内の列変数値の列上に使用するヘッダー名を指定します。
- GRAND_TOTAL_STYLE**=<*style-element-name*><[*style-attribute-specification(s)*]>
表内の最終行の右端列でセル値に使用するスタイル要素とその属性への変更内容を指定します。
- LABEL**="*text*"
表のラベルを指定します。
- LEGEND_STYLE**=<*style-element-name*><[*style-attribute-specification(s)*]>
表の左上隅付近に表示される凡例テーブルに使用するスタイル要素とその属性への変更内容を指定します。
- ROW_TOTAL_STYLE**=<*style-element-name*><[*style-attribute-specification(s)*]>
行合計を含むセル内のセル値に使用するスタイル要素とその属性への変更内容を指定します。
- ROW_VAR_STYLE**=<*style-element-name*><[*style-attribute-specification(s)*]>
表の左端列で行変数値に使用するスタイル要素とその属性への変更内容を指定します。
- ROWS_HEADER**=**ヘッダー名**

表内の行変数値(左端)の列上に使用するヘッダー名を指定します。

STORE= *template-store*

クロス集計表テンプレートの保存先のテンプレートストアを指定します。

STYLE=<*style-element-name*><[*style-attribute-specification(s)*]>

表に使用するスタイル要素とその属性への変更内容を指定します。

必須引数

テーブルパス

クロス集計表テンプレートの保存場所を指定します。テーブルパスは、ピリオド(.)で区切られた複数のディレクトリ名から構成されます。ディレクトリ名はそれぞれ、SAS ファイルの一種であるテンプレートストア内のディレクトリを指します。テンプレートストアに関する詳細は、“[アイテムストア、テンプレートストア、ディレクトリについて](#)” (43 ページ)を参照してください。PROC TEMPLATE によって、テンプレートが現在のパス内の最初の書き込み可能なテンプレートストアに書き込まれます。

要件 クロス集計表テンプレートの名前は、CrossTabFreqs にする必要があります。

オプション引数

STORE= *template-store*

クロス集計表テンプレートの保存先のテンプレートストアを指定します。テンプレートストアが存在しない場合は、作成されます。

制限事項:

STORE=オプションはテンプレートの一部になりません。

テンプレートが別のテンプレート内にネスト化される場合、ネスト化されたテンプレートは元のテンプレートの保存場所に保存されるため、ネスト化されたテンプレートには STORE=オプションを使用しないでください。

要件 STORE=オプションの前には、スラッシュ(/)シンボルを付ける必要があります。

DEFINE CROSSTABS 属性

この項では、クロス集計表テンプレートで使用できるすべての属性のリストを示します。

表 11.4 クロス集計表属性

タスク	ステートメント
non-summary 行と列でセル値に使用するスタイル要素とその属性への変更内容を指定します。	CELL_STYLE= (p. 892)
表内の列変数値の列上に使用するヘッダー名を指定します。	COLS_HEADER= (p. 892)
表内の最終行でセル値に使用するスタイル要素とその属性への変更内容を指定します。	COL_TOTAL_STYLE= (p. 892)
列変数値列上のヘッダーとして使用される列変数値に使用するスタイル要素とその属性への変更内容を指定します。	COL_VAR_STYLE= (p. 892)

タスク	ステートメント
表内の最終行の右端列でセル値に使用するスタイル要素とその属性への変更内容を指定します。	GRAND_TOTAL_STYLE= (p. 892)
表のラベルを指定します。	LABEL= (p. 893)
表の左上隅付近に表示される凡例テーブルに使用するスタイル要素とその属性への変更内容を指定します。	LEGEND_STYLE= (p. 893)
表内の行変数値(左端)の列上に使用するヘッダー名を指定します。	ROWS_HEADER= (p. 893)
行合計を含むセル内のセル値に使用するスタイル要素とその属性への変更内容を指定します。	ROW_TOTAL_STYLE= (p. 893)
表の左端列で行変数値に使用するスタイル要素とその属性への変更内容を指定します。	ROW_VAR_STYLE= (p. 893)
表に使用するスタイル要素とその属性への変更内容を指定します。	STYLE= (p. 893)

CELL_STYLE=<style-element-name><[style-attribute-specification(s)]>
non-summary 行と列でセル値に使用するスタイル要素とその属性への変更内容を指定します。行合計列内(ROW_TOTAL_STYLE を参照)、列合計行(COL_TOTAL_STYLE を参照)、総合計セル(GRAND_TOTAL_STYLE を参照)にないセル値を参照します。

デフォルト: Data

参照項目: “クロス集計表の領域とそれに対応する属性” (903 ページ) (クロス集計表領域と、各領域に影響を与える DEFINE CROSSTABS 属性の例)。

COLS_HEADER=ヘッダー名

表内の列変数値の列上に使用するヘッダー名を指定します。

参照項目: “クロス集計表の領域とそれに対応する属性” (903 ページ) (クロス集計表領域と、各領域に影響を与える DEFINE CROSSTABS 属性の例)。

COL_TOTAL_STYLE=<style-element-name><[style-attribute-specification(s)]>

表内の最終行でセル値に使用するスタイル要素とその属性への変更内容を指定します。

デフォルト: Data

参照項目: “クロス集計表の領域とそれに対応する属性” (903 ページ) (クロス集計表領域と、各領域に影響を与える DEFINE CROSSTABS 属性の例)。

COL_VAR_STYLE=<style-element-name><[style-attribute-specification(s)]>

列変数値列上のヘッダーとして使用される列変数値に使用するスタイル要素とその属性への変更内容を指定します。

デフォルト: ヘッダー

参照項目: “クロス集計表の領域とそれに対応する属性” (903 ページ) (クロス集計表領域と、各領域に影響を与える DEFINE CROSSTABS 属性の例)。

GRAND_TOTAL_STYLE=<style-element-name><[style-attribute-specification(s)]>

表内の最終行の右端列でセル値に使用するスタイル要素とその属性への変更内容を指定します。

デフォルト: Data

参照項目: “クロス集計表の領域とそれに対応する属性” (903 ページ) (クロス集計表領域と、各領域に影響を与える DEFINE CROSSTABS 属性の例)。

LABEL="text"

表のラベルを指定します。

デフォルト: "度数とパーセンテージ"

参照項目: “クロス集計表の領域とそれに対応する属性” (903 ページ) (クロス集計表領域と、各領域に影響を与える DEFINE CROSSTABS 属性の例)。

LEGEND_STYLE=<style-element-name><[style-attribute-specification(s)]>

表の左上隅付近に表示される凡例テーブルに使用するスタイル要素とその属性への変更内容を指定します。

デフォルト: ヘッダー

参照項目: “クロス集計表の領域とそれに対応する属性” (903 ページ) (クロス集計表領域と、各領域に影響を与える DEFINE CROSSTABS 属性の例)。

ROWS_HEADER=ヘッダー名

表内の行変数値(左端)の列上に使用するヘッダー名を指定します。

参照項目: “クロス集計表の領域とそれに対応する属性” (903 ページ) (クロス集計表領域と、各領域に影響を与える DEFINE CROSSTABS 属性の例)。

ROW_TOTAL_STYLE=<style-element-name><[style-attribute-specification(s)]>

行合計を含むセル内のセル値に使用するスタイル要素とその属性への変更内容を指定します。

デフォルト: Data

参照項目: “クロス集計表の領域とそれに対応する属性” (903 ページ) (クロス集計表領域と、各領域に影響を与える DEFINE CROSSTABS 属性の例)。

ROW_VAR_STYLE=<style-element-name><[style-attribute-specification(s)]>

表の左端列で行変数値に使用するスタイル要素とその属性への変更内容を指定します。

デフォルト: RowHeader

参照項目: “クロス集計表の領域とそれに対応する属性” (903 ページ) (クロス集計表領域と、各領域に影響を与える DEFINE CROSSTABS 属性の例)。

STYLE=<style-element-name><[style-attribute-specification(s)]>

表に使用するスタイル要素とその属性への変更内容を指定します。

style-element-name

表の表示に使用するスタイル要素名。スタイル要素は、Output Delivery System に登録されているスタイルの一部である必要があります。SAS によって、いくつかのスタイルが提供されます。PROC TEMPLATE を使用すると、カスタマイズされたスタイルを作成できます(“DEFINE STYLE ステートメント” (958 ページ)を参照)。デフォルトでは、ODS によってさまざまな要素を含む ODS 出力のさまざまな部分が生成されます。たとえば、デフォルトでは、スタイル要素 Table によって表が生成されます。SAS によって提供される Table スタイル要素は、表に必要な要素を記述するよう特別に設計されています。ただし、場合によってはユーザー定義のスタイル要素も利用できます。

スタイル要素によって、表を表示する際の基本要素が提供されます。ユーザーが提供する追加スタイル属性は、表示を変更できます。

style-element-name は、スタイル要素または値がスタイル要素の変数の名前のおいずれかです。

参照項目:

“スタイルのコンテンツの表示” (945 ページ)

“ODS 出力先のデフォルトスタイルの検索および表示” (945 ページ)
 “クロス集計表の領域とそれに対応する属性” (903 ページ) (クロス集計表領域と、各領域に影響を与える DEFINE CROSSTABS 属性の例)。

style-attribute-specification

変更するスタイル属性を記述します。*style-attribute-specification* のそれぞれには、次の一般的な形式が含まれます。

style-attribute-name=style-attribute-value

参照項目:

“すべてのスタイル属性の詳細情報” (978 ページ)
 “クロス集計表の領域とそれに対応する属性” (903 ページ) (クロス集計表領域と、各領域に影響を与える DEFINE CROSSTABS 属性の例)。

デフォルト: Table

参照項目: “クロス集計表の領域とそれに対応する属性” (903 ページ) (クロス集計表領域と、各領域に影響を与える DEFINE CROSSTABS 属性の例)。

DEFINE FOOTER ステートメント

フッターテンプレートを作成します。

注: フッターテンプレートブロックは、DEFINE FOOTER ステートメントから始まります。次のステートメントが DEFINE FOOTER ブロック内で共通して使用されます。“DYNAMIC ステートメント” (897 ページ)、“NOTES ステートメント” (899 ページ)および“TEXT ステートメント” (900 ページ)。

参照項目: “例 1: 凡例を含まないクロス集計のカスタムテーブルテンプレートの作成” (905 ページ)

構文

```
DEFINE FOOTER symbol;  

  <attribute-1><attribute-n>;  

  DYNAMIC variable-1<text-1> <variable-n<text-n>>;  

  NOTES 'text';  

  TEXT header-specification </ expression>;  

END;
```

必須引数

DEFINE FOOTER 内のサブステートメントとフッター属性は、DEFINE HEADER 内のサブステートメントとヘッダー属性と同じです。サブステートメントとフッター属性の詳細は、“DEFINE HEADER ステートメント” (894 ページ)を参照してください。

DEFINE HEADER ステートメント

ヘッダーテンプレートを作成します。

注: ヘッダーテンプレートブロックは、DEFINE HEADER ステートメントから始まります。次のステートメントが DEFINE HEADER ブロック内で共通して使用されます。“DYNAMIC ステートメント” (897 ページ)、“NOTES ステートメント” (899 ページ)および“TEXT ステートメント” (900 ページ)。

参照項目: “例 1: 凡例を含まないクロス集計のカスタムテーブルテンプレートの作成” (905 ページ)

構文

```
DEFINE HEADER symbol;  
    <attribute-1>;<attribute-n>;  
    DYNAMIC variable-1<text-1> <variable-n<text-n>>;  
    NOTES 'text';  
    TEXT header-specification </ expression>;  
    END;
```

オプション引数の要約

CINDENT=*'character'*

折り返すヘッダーとフッターの配置を指定します。

SPACE=*positive-integer*

現在のヘッダーと次のヘッダーの間または現在のフッターと前のフッターの間に置く空白行の数を指定します。

STYLE=<[*style-element-specification(s)*>

ヘッダーまたはフッターに使用するスタイル要素とその属性への変更内容を指定します。

必須引数

symbol

HEADER ステートメントによって参照される名前を指定します。

DEFINE HEADER と DEFINE FOOTER 属性ステートメント

この項では、ヘッダーまたはフッターテンプレートで使用できる属性のリストを示します。

表 11.5 DEFINE HEADER と DEFINE FOOTER 属性ステートメント

タスク	属性
折り返すヘッダーとフッターの配置を指定します。	“CINDENT= <i>'character'</i> ” (p. 895)
現在のヘッダーと次のヘッダーの間または現在のフッターと前のフッターの間に置く空白行の数を指定します。	“SPACE= <i>positive-integer</i> ” (p. 896)
ヘッダーまたはフッターに使用するスタイル要素とその属性への変更内容を指定します。	“STYLE=<[<i>style-element-specification(s)</i> >” (p. 896)

CINDENT=*'character'*

折り返すヘッダーとフッターの配置を指定します。ヘッダーまたはフッター幅が広すぎるため 1 行に収まらない場合、2 行目以降の開始列の位置に指定した文字を挿入します。CINDENT 文字の最初の使用によって、列の位置が決定されます。たとえば、次の TEXT ステートメントによって、折り返し行が左の丸かっこと同じ列から開始されます。

```
text _COL_NAME_ "(" _COL_LABEL_ ")"; CINDENT='';
```

SPACE=*positive-integer*

現在のヘッダーと次のヘッダーの間または現在のフッターと前のフッターの間に置く空白行の数を指定します。

デフォルト: ヘッダーの場合は 0、フッターの場合は 1

ヒント: SPACE=属性が有効になるのは、LISTING 出力先内のみです。

例: “例 1: 凡例を含まないクロス集計のカスタムテーブルテンプレートの作成” (905 ページ)

STYLE=<[*style-element-specification(s)*]>

現在の列に使用するスタイル要素とその属性への変更内容を指定します。*style-attribute-specification* も *style-element-name* も不要です。ただし、2 つのいずれかは使用する必要があります。角かっこ([])の代わりに波かっこ({ })を使用できます。

style-element-name

列でデータ表示に使用するスタイル要素の名前。スタイル要素は、Output Delivery System に登録されてるスタイルテンプレートの一部である必要があります。SAS によって、いくつかのスタイルが提供されます。PROC TEMPLATE を使用すると、カスタマイズされたスタイルを作成できます。詳細は、“[DEFINE STYLE ステートメント](#)” (958 ページ)を参照してください。デフォルトでは、ODS によってさまざまな要素を含む ODS 出力のさまざまな部分が生成されます。たとえば、デフォルトでは、スタイル要素 Header によって表ヘッダーが表示されます。表ヘッダーに STYLE=属性と共に使用する可能性が最も高いスタイル要素は、次のとおりです。

- Header
- HeaderFixed
- HeaderEmpty
- HeaderEmphasis
- HeaderEmphasisFixed
- HeaderStrong
- HeaderStrongFixed

フッターに STYLE=属性と共に使用する可能性が最も高いスタイル要素は、次のとおりです。

- Footer
- FooterFixed
- FooterEmpty
- FooterEmphasis
- FooterEmphasisFixed
- FooterStrong
- FooterStrongFixed

スタイル要素によって、ヘッダーまたはフッターを表示する際の基本要素が提供されます。ユーザーが提供する追加スタイル属性は、表示を変更できます。

詳細については、“[スタイルのコンテンツの表示](#)” (945 ページ)を参照してください。

style-element-name は、スタイル要素またはその値がスタイル要素の変数の名前のいずれかです。

style-attribute-specification

変更するスタイル属性を記述します。*style-attribute-specification* のそれぞれには、次の一般的な形式が含まれます。

style-attribute-name=style-attribute-value

指定可能なスタイル属性の詳細は、“[すべてのスタイル属性の詳細情報](#)” (978 ページ) を参照してください。

ヒント:

STYLE=属性が有効になるのは、マークアップファミリ、プリンタファミリと RTF 出力先内のみです。

引用符の付いた文字列内で STYLE=属性を使用する場合、エラーを防ぐためにキャリッジリターンの前後にスペースを追加します。SAS では、キャリッジリターンがスペースとして解釈されません。引用符の付いた文字列内では、明示的にスペースを指定する必要があります。

例: “[例 1: 凡例を含まないクロス集計のカスタムテーブルテンプレートの作成](#)” (905 ページ)

DYNAMIC ステートメント

プロシジャまたは DATA ステップからデータコンポーネントが提供する値を参照するシンボルを定義します。

制限事項: DYNAMIC ステートメントを DEFINE CELLVALUE、DEFINE HEADER、DEFINE FOOTER ステートメントのみと併用できます。

ヒント: テンプレート内で定義される動的変数は、当該テンプレートとそれに含まれるすべてのテンプレートに使用できます。

構文

DYNAMIC *dynamic-variable(s)*;

必須引数

dynamic- variable(s)

クロス集計表テンプレートで SAS によって定義される変数。動的変数を定義したら、フッターまたはヘッダーテンプレート内の TEXT ステートメントでその変数を使用できます。

FMISSING

表内の欠損値の数。

要件 FMISSING 動的変数は、式内で動的変数を使用する前に DYNAMIC ステートメントによって指定する必要があります。

NOTITLE

PROC FREQ の NOTITLE オプションが使用された場合は 1 に設定され、NOTITLE オプションが使用されなかった場合は 0 に設定されます。

要件 NOTITLE 動的変数は、式内で動的変数を使用する前に DYNAMIC ステートメントによって指定する必要があります。

SAMPLESIZE

表が空白の場合は 0 に設定されます。それ以外の場合は、1 に設定されます。

要件 SAMPLESIZE 動的変数は、式内で動的変数を使用する前に DYNAMIC ステートメントによって指定する必要があります。

STRATNUM

表に複数の階層が含まれる場合は、現在の階層数。表内に含まれる階層が 1 つのみの場合は、値は 0 です。

要件 STRATNUM 動的変数は、式内で動的変数を使用する前に DYNAMIC ステートメントによって指定する必要があります。

例: “例 1: 凡例を含まないクロス集計のカスタムテーブルテンプレートの作成” (905 ページ)

STRATAVARIABLENAMES

階層変数の名前ごとに現在の階層を識別する文字列。

var-1=value-1<var-n=value-n>

var-1-var-n

階層変数を指定します。

value-1-value-n

階層変数の値を指定します。

要件 DYNAMIC ステートメントは、動的変数を式内で使用する前に STRATAVARIABLELABELS 動的変数を指定する必要があります。

ヒント: 表内に含まれる階層が 1 つのみの場合は、値は定義されません。

STRATAVARIABLELABELS

階層変数のラベルごとに現在の階層を識別する文字列。

var-1=value-1<var-n=value-n>

var-1-var-n

階層変数を指定します。

value-1-value-n

階層変数の値を指定します。

ヒント: 表内に含まれる階層が 1 つのみの場合は、値は定義されません。

要件 DYNAMIC ステートメントは、動的変数を式内で使用する前に STRATAVARIABLELABELS 動的変数を指定する必要があります。

例:

“例 1: 凡例を含まないクロス集計のカスタムテーブルテンプレートの作成” (905 ページ)

“例 2: カスタム凡例を含むクロス集計のテーブルテンプレートの作成” (917 ページ)

END ステートメント

クロス集計表テンプレート、または DEFINE CELLVALUE、DEFINE HEADER、DEFINE FOOTER コードブロックを終了します。

制限事項: END ステートメントを DEFINE CELLVALUE、DEFINE HEADER、DEFINE FOOTER、DEFINE CROSSTABS と併用する必要があります。

参照項目: “例 1: 凡例を含まないクロス集計のカスタムテーブルテンプレートの作成” (905 ページ)

構文

END;

FOOTER ステートメント

表内のフッターとしてシンボルを宣言し、フッターの順序を指定します。

制限事項: FOOTER ステートメントを使用できるのは、クロス集計表テンプレート内のみです。

構文

FOOTER *footer-specification(s)*;

必須引数

footer-specification(s)

同一のテーブルテンプレート内の DEFINE FOOTER ステートメントによって定義されるシンボルを指定します。

デフォルト: FOOTER ステートメントを省略した場合、ODS によって各フッターテンプレート(DEFINE FOOTER ステートメント)のフッターが作成され、テーブルテンプレート内のフッターテンプレートと同じ順序でフッターが配置されます。

参照項目: “DEFINE FOOTER ステートメント” (894 ページ)

HEADER ステートメント

表内のヘッダーとしてシンボルを宣言し、ヘッダーの順序を指定します。

制限事項: HEADER ステートメントを使用できるのは、クロス集計表テンプレート内のみです。

構文

HEADER *header-specification(s)*;

必須引数

header-specification(s)

同一のテーブルテンプレート内の DEFINE HEADER ステートメントによって定義されるシンボルを指定します。

デフォルト: HEADER ステートメントを省略した場合、ODS によって各ヘッダーテンプレート(DEFINE HEADER ステートメント)のヘッダーが作成され、テーブルテンプレート内のヘッダーテンプレートと同じ順序でヘッダーが配置されます。

NOTES ステートメント

テンプレートに関する情報を提供します。

制限事項: NOTES ステートメントを DEFINE CROSSTABS、DEFINE CELLVALUE、DEFINE HEADER ステートメントのみと併用できます。

ヒント: NOTES ステートメントは、コンパイル済みテンプレートの一部となります。これは、SOURCE ステートメントを使用して表示できます。SAS コメントは、コンパイル済みテンプレートの一部にはなりません。

構文

NOTES *'text'*;

必須引数

'text'

テンプレートに関する情報を提供します。

TEXT ステートメント

ヘッダーまたはフッターのテキストを指定します。

制限事項: TEXT ステートメントを DEFINE HEADER または DEFINE FOOTER ステートメントのみと併用できます。

例: “例 1: 凡例を含まないクロス集計のカスタムテーブルテンプレートの作成” (905 ページ)

構文

TEXT *header-specification(s)* </ *option(s)*>;

必須引数

header-specification(s)

ヘッダーのテキストを指定します。*header-specification(s)*は、DYNAMIC ステートメントによって指定される任意の動的変数か、または次のいずれかとなります。

dynamic-variable

クロス集計表テンプレートで SAS によって自動的に定義される変数。*dynamic-variable* は、次のいずれかとなります。

COL_LABEL

テーブルリクエスト内の最後の変数となる、列変数のラベル。

COL_NAME

テーブルリクエスト内の最後の変数となる、列変数の名前。列変数に名前がない場合、COL_LABEL の値は空白のテキスト文字列(“ ”)となります。

ROW_LABEL

行変数のラベル。テーブルリクエスト内の最後の変数の次です。行変数にラベルがない場合、ROW_LABEL の値は空白の文字列(“ ”)となります。

ROW_NAME

テーブルリクエスト内の最後の変数の次となる、行変数の名前。

text-specification(s)

ヘッダーで使用するテキストを指定します。それぞれの *text-specification* は、次のいずれかとなります。

- 引用符で囲まれた文字列。
- 次にオプションフォーマットが来る変数。変数は、DYNAMIC ステートメントで宣言される任意の変数か、または上記の任意の変数です。

ヒント: 引用符付きの文字列が空白で、ヘッダー指定内の唯一のアイテムである場合、ヘッダーは空白行です。

オプション引数

expression

ヘッダーまたはフッターに対して評価される式。*expression* が省略された場合、デフォルトは 1 です。それぞれの DEFINE HEADER ステートメントには、任意の数の TEXT ステートメントが含まれます。テンプレートによって、上段から下段の順番で各式が評価され、それによってヘッダーのテキストが決定されます。式の評価が true の最初の TEXT ステートメント内の *header-specification* がヘッダーテキストになります。式の評価が true になると、テンプレートによって TEXT ステートメントがそれ以上チェックされません。評価が true な式が一つもない場合、ヘッダーは使用されません。

expression-1 <*comparison-operator**expression-n*>

expression

演算子またはオペランドのシーケンスから構成される演算式または論理式です。演算子とは、比較、論理処理、数学的計算をリクエストするシンボルです。オペランドは、次のいずれかです。

constant

固定値 (数字またはテキスト文字列など)。

dynamic variable

クロス集計表テンプレートの SAS、またはヘッダー/フッターテンプレート内の DYNAMIC ステートメントによって定義される変数。

_COL_LABEL_

テーブルリクエスト内の最後の変数となる、列変数のラベルを指定します。列変数にラベルがない場合、_COL_LABEL_ の値は空白のテキスト文字列(“ ”)となります。

_COL_NAME_

テーブルリクエスト内の最後の変数となる、列変数の名前を指定します。列変数に名前がない場合、_COL_NAME_ の値は空白のテキスト文字列(“ ”)となります。

FMISSING

表内の欠損値の数。

要件 FMISSING 動的変数は、式内で使用する前に DYNAMIC ステートメントによって指定する必要があります。

NOTITLE

PROC FREQ の NOTITLE オプションが使用された場合は 1 に設定され、NOTITLE オプションが使用されなかった場合は 0 に設定されます。

要件 NOTITLE 動的変数は、式内で使用する前に DYNAMIC ステートメントによって指定する必要があります。

_ROW_LABEL_

行変数のラベル。テーブルリクエスト内の最後の変数の次です。行変数に名前がない場合、_ROW_LABEL_ の値は空白の文字列(“ ”)となります。

_ROW_NAME_

テーブルリクエスト内の最後の変数の次となる、行変数の名前を指定します。行変数に名前がない場合、_ROW_NAME_ の値は空白の文字列(“ ”)となります。

SAMPLESIZE

表が空白の場合は 0 に設定されます。それ以外の場合は、1 に設定されます。

要件 SAMPLESIZE 動的変数は、式内で使用する前に DYNAMIC ステートメントによって指定する必要があります。

STRATNUM

表に複数の階層が含まれる場合は、現在の階層数。表内に含まれる階層が 1 つのみの場合は、値は 0 です。

要件 STRATNUM 動的変数は、式内で使用する前に DYNAMIC ステートメントによって指定する必要があります。

STRATAVARIABLENAMES

階層変数の名前ごとに現在の階層を識別する文字列。

var-1=value-1<var-n=value-n>

var-1-var-n

階層変数を指定します。

value-1-value-n

階層変数の値を指定します。

ヒント: 表内に含まれる階層が 1 つのみの場合は、値は定義されません。

要件 STRATAVARIABLENAMES 動的変数は、式内で使用する前に DYNAMIC ステートメントによって指定する必要があります。

STRATAVARIABLELABELS

階層変数のラベルごとに現在の階層を識別する文字列。

STRATAVARIABLELABELS には次の形式が含まれます。

var-1=value-1<var-n=value-n?>

var-1-var-n

階層変数を指定します。

value-1-value-n

階層変数の値を指定します。

ヒント: 表内に含まれる階層が 1 つのみの場合は、値は定義されません。

要件 DYNAMIC ステートメントは、STRATAVARIABLELABELS 動的変数を式内で使用する前にこれを指定する必要があります。

comparison-operator

変数がある値または別の変数と比較します。

表 11.6 比較演算子

シンボル	ニーモニック相当	定義
=	EQ	等しい
^= または ~= または -= または <	NE	等しくない
>	GT	より大きい
<	LT	より小さい

シンボル	ニーモニック相当	定義
>=	GE	以上
<=	LE	以下
	IN	リストの任意の値と等しい

クロス集計表のテンプレートの使用

CrossTabFreqs クロス集計表テンプレートの使用に当たって

独自のクロス集計表テンプレートを作成すると、常に新しいテーブルを既存テンプレートと同じ名前(Base.Freq.CrossTabFreqs)で定義します。デフォルトでは、PROC FREQ によって作成される既存クロス集計表は、Sashelp.Tmplmst テンプレートストアに保存されます。

PROC TEMPLATE を使用すると、修正バージョンの Base.Freq.CrossTabFreqs を作成できます。これは、ODS PATH ステートメントを使用して異なるテンプレートストアに保存できます。すべてのクロス集計表テンプレートの名前は統一する必要があります。複数のクロス集計表テンプレートを保有する場合は、それぞれのテンプレートを異なるテンプレートストアに保存します。次に、ODS PATH ステートメントを使用して、使用するクロス集計表テンプレートのバージョンを含むテンプレートストアを追加します。

たとえば、テンプレートストア Corporat.Template 内にクロス集計表テンプレートを、Govment.Templat 内には別のクロス集計表テンプレートを保有するとします。次のコードでは、1 番目の ODS PATH ステートメントによってテンプレートストア Corporat.Templat が追加されます。最初の PROC FREQ コードは、Corporat.Templat からのクロス集計表テンプレートを使用して、フォーマットされます。2 番目の ODS PATH ステートメントによって Corporat.Templat が削除され、3 番目の ODS PATH ステートメントによって Govment.Templat が追加されます。最後の PROC FREQ ステップによって、Corporat.Templat からのクロス集計表テンプレートが使用されます。

```
ods path(prepend) corporat.templat(read);
... proc freq code ...
ods path(remove) corporat.templat;
ods path(prepend) govment.templat;
... proc freq code ...
```

ODS PATH ステートメントの詳細は、“ODS PATH ステートメント” (477 ページ)を参照してください。

クロス集計表の領域とそれに対応する属性

クロス集計表テンプレートを作成すると、個々の領域を変更するための属性を使用できます。次の図と対応する表では、クロス集計表の部分と各部分のスタイルを制御する属性が分類されています。

画面 11.3 変更可能なクロス集計表の領域

The FREQ Procedure

Frequency Percent Row Pct Col Pct		Table of Citygovt by Robgrp			
Citygovt(City Government Form)		Robgrp(Number of Citizens Robbed)			
		101-200	201-300	Over 300	Total
Not Applicable		0	0	0	.
	
Council Manager		0	0	0	19
		0.00	0.00	0.00	47.50
		0.00	0.00	0.00	
		0.00	0.00	0.00	
Commission		7	3	5	21
		17.50	7.50	12.50	52.50
		33.33	14.29	23.81	
		100.00	100.00	100.00	
Total		7	3	5	40
		17.50	7.50	12.50	100.00
		Frequency Missing = 10			

大半の領域では、スタイルの指定に DEFINE CROSSTABS スタイル属性が使用されます。次の表は、各表領域に影響を与えるスタイル属性を示しています。DEFINE CROSSTABS 属性に関する詳細説明については、“[DEFINE CROSSTABS 属性](#)” (891 ページ) を参照してください。ヘッダーとフッターでは、DEFINE HEADER および DEFINE FOOTER ステートメントに有効な STYLE=属性が使用されます。STYLE=属性の詳細は、“[DEFINE HEADER と DEFINE FOOTER 属性ステートメント](#)” (895 ページ) を参照してください。

表 11.7 クロス集計表の領域とそれに対応するスタイル属性

アイテム	クロス集計表領域	スタイル属性
1	凡例	LEGEND_STYLE=
2	行変数名	ROWS_HEADER=
3	行変数値	ROW_VAR_STYLE=
4	データセル	CELL_STYLE=

アイテム	クロス集計表領域	スタイル属性
5	列合計	COL_TOTAL_STYLE=
6	フッター	STYLE=
7	総合計	GRAND_TOTAL_STYLE=
8	行合計	ROW_TOTAL_STYLE
9	列変数名	COLS_HEADER=
10	ヘッダー	STYLE=
11	列変数値	COL_VAR_STYLE=

例: TEMPLATE プロシジャ: クロス集計表テンプレートの作成

例 1: 凡例を含まないクロス集計のカスタムテーブルテンプレートの作成

要素: *crosstabs-attributes* ステートメント
 CELLVALUE ステートメント
 DEFINE CELLVALUE ステートメント
 CELLSTYLE AS ステートメント
 END ステートメント
 FORMAT=属性
 HEADER=属性
 LABEL=属性
 DEFINE HEADER ステートメント
 END ステートメント
 SPACE=属性
 STYLE=属性
 TEXT ステートメント
 DEFINE FOOTER ステートメント
 END ステートメント
 DYNAMIC ステートメント
 SPACE=属性
 STYLE=属性
 TEXT ステートメント
 END ステートメント
 FOOTER ステートメント
 HEADER ステートメント
 NOTES ステートメント

他の要素: その他の ODS 機能
 ODS HTML ステートメント

ODS PATH ステートメント
 DEFINE STYLE ステートメント

詳細

次の例では、クロス集計表テンプレート Base.Freq.CrossTabFreqs が作成されます。テンプレートは、次の機能を有します。

- 凡例の代わりにセル値ラベルの表示に脚注が使用されます。
- 修正されたヘッダーとフッター
- ヘッダーで使用される変数ラベル
- 修正された表領域

プログラム

```
Proc Format;
  Value Govtfmt -3='Council Manager'
    0='Commission'
    3='Mayor Council'
    .N='Not Applicable'
    .=' ?';
  Value Robfmt 1='100 or Less'
    2='101-200'
    3='201-300'
    4='Over 300'
    .N='Not Known'
    .=' ?';
  Value Colfg 1='yellow'
    2='red'
    3='blue'
    4='purple'
    .N='green'
    .='black'
    other='black';
  Value Rowfg -3='red'
    0='purple'
    3='blue'
    .N='green'
    .='black'
    other='black';

run;

data gov;
  Label Citygovt='City Government Form'
    Robgrp='Number of Meetings Scheduled';
  Input Citygovt Robgrp Weight; Missing N;
  Format Citygovt Govtfmt. Robgrp Robfmt.;
  LOOP: OUTPUT; WEIGHT=WEIGHT-1; IF WEIGHT>0 THEN GOTO LOOP;
  DROP WEIGHT;
  datalines;
  0 1 6
  0 3 3
  0 2 7
```

```

0 4 5
N N 10
-3 1 47
-3 3 49
-3 2 63
-3 4 52
. 2 1
3 1 31
3 2 37
3 3 27
3 4 55
3 . 1
;

ods path (prepend) work.templat(update);
ods noproctitle;

proc template;
define style white;
parent=styles.htmlblue;
style body /
backgroundcolor=white;
style systemtitle /
backgroundcolor=white
fontsize=6
fontweight=bold
fontstyle=italic;
style systemfooter /
backgroundcolor=white
fontsize=2
fontstyle=italic;
style proctitle /
backgroundcolor=white
color=#6078bf
fontweight=bold
fontstyle=italic;
end;

define crosstabs Base.Freq.CrossTabFreqs;
notes "Crosstabulation table";

style=table {backgroundcolor=#BFCFFF};
cell_style=data {backgroundcolor=#FFFFFF0};
row_var_style=rowheader {backgroundcolor=#BFCFFF color=rowfg.};
col_var_style=header {backgroundcolor=#BFCFFF color=colfg.};
row_total_style=data {backgroundcolor=#F0F0F0};
col_total_style=data {backgroundcolor=#F0F0F0};
grand_total_style=datastrong {backgroundcolor=#F0F0F0};
legend_style=header {backgroundcolor=#BFCFFF color=#6078bf fontstyle=italic};

rows_header=RowsHeader cols_header=ColsHeader;
label = "Frequency Counts and Percentages";

define header TableOf;
text "Table of " _ROW_LABEL_ " by " _COL_LABEL_ / _ROW_LABEL_ ^= ''
& _COL_LABEL_ ^= '';
text "Table of " _ROW_LABEL_ " by " _COL_NAME_ / _ROW_LABEL_ ^= '';

```

```

text "Table of " _ROW_NAME_ " by " _COL_LABEL_ / _COL_LABEL_ ^= '';
text "Table of " _ROW_NAME_ " by " _COL_NAME_;
style=header {backgroundcolor=#BFCFFF color=#6078bf fontstyle=italic};
end;

define header RowsHeader;
text _ROW_LABEL_ / _ROW_LABEL_ ^= '';
text _ROW_NAME_;
style=header {backgroundcolor=#BFCFFF color=#6078bf fontstyle=italic};
space=0;
end;

define header ColsHeader;
text _COL_LABEL_ / _COL_LABEL_ ^= '';
text _COL_NAME_;
style=header {backgroundcolor=#BFCFFF color=#6078bf fontstyle=italic};
space=1;
end;

define header ControllingFor;
dynamic StratNum StrataVariableNames StrataVariableLabels;
text "Controlling for" StrataVariableNames / StratNum > 0;
style=header;
end;

define footer Missing;
dynamic FMissing;
text "Frequency Missing = " FMissing -12.99 / FMissing ^= 0;
style=header {backgroundcolor=#BFCFFF color=#6078bf fontstyle=italic};
space=1;
end;

define footer NoObs;
dynamic SampleSize;
text "Effective Sample Size = 0" / SampleSize = 0;
space=1;
style=header;
end;

define cellvalue Frequency;
header="";
label="Frequency Count";
format=BEST7.; data_format_override=on; print=on;
cellstyle _val_ < 10 as datastrong {color=green},
_val_ > 40 & _val_ < 50 as datastrong {color=orange},
_val_ >= 50 as datastrong {color=red};
end;

define cellvalue Expected;
header="";
label="Expected Frequency";
format=BEST6. data_format_override=on print=on;
end;

define cellvalue Deviation;
header="";
label="Deviation from Expected Frequency";

```



```

format=BEST6. data_format_override=on print=on;
end;

define cellvalue CellChiSquare;
header="";
label="Cell Chi-Square";
format=BEST6. print=on;
end;

define cellvalue TotalPercent;
header="";
label="Percent of Total Frequency";
format=6.2 print=on;
end;

define cellvalue Percent;
header="";
label="Percent of Two-Way Table Frequency";
format=6.2 print=on;
end;

define cellvalue RowPercent;
header="";
label="Percent of Row Frequency";
format=6.2 print=on;
end;

define cellvalue ColPercent;
header="";
label="Percent of Column Frequency";
format=6.2 print=on;
end;

define cellvalue CumColPercent;
header="";
label="Cumulative Percent of Column Frequency";
format=6.2 print=on;
end;

cellvalue
Frequency Expected Deviation
CellChiSquare TotalPercent Percent
RowPercent ColPercent CumColPercent;

header TableOf ControllingFor;
footer NoObs Missing;
end;

ods html file='MyCrosstabsTable.html' style=white;

title "City Government Form by Number of Meetings Scheduled";
footnote "Cellvalues are stacked in the following order:";
footnote2 "Frequency";
footnote3 "Percent";
footnote4 "Row Percent";
footnote5 "Column Percent";
ods noproctitle;

```

```

proc freq;
tables citygovt*robgrp / missprint;
run;

ods html close;

```

プログラムの説明

ユーザー定義形式とデータセットを作成します。 FORMAT プロシジャによって、クロス集計表テンプレートで使用可能な 2 つのユーザー定義形式が作成されます。DATA ステップによって Gov データセットが作成されます。

```

Proc Format;
Value Govtfmt -3='Council Manager'
0='Commission'
3='Mayor Council'
.N='Not Applicable'
.=' ?';
Value Robfmt 1='100 or Less'
2='101-200'
3='201-300'
4='Over 300'
.N='Not Known'
.=' ?';
Value Colfg 1='yellow'
2='red'
3='blue'
4='purple'
.N='green'
.='black'
other='black';
Value Rowfg -3='red'
0='purple'
3='blue'
.N='green'
.='black'
other='black';

run;

data gov;
Label Citygovt='City Government Form'
Robgrp='Number of Meetings Scheduled';
Input Citygovt Robgrp Weight; Missing N;
Format Citygovt Govtfmt. Robgrp Robfmt.;
LOOP: OUTPUT; WEIGHT=WEIGHT-1; IF WEIGHT>0 THEN GOTO LOOP;
DROP WEIGHT;
datalines;
0 1 6
0 3 3
0 2 7
0 4 5
N N 10
-3 1 47
-3 3 49
-3 2 63

```

```

-3 4 52
. 2 1
3 1 31
3 2 37
3 3 27
3 4 55
3 . 1
;

```

ODS パスを確立し、White スタイルを作成します。 ODS PATH ステートメントによって、PROC TEMPLATE テンプレートの作成時の書き込み先または読み取り元の場所が指定されます。PROC TEMPLATE ステートメント、DEFINE STYLE ステートメントおよび STYLE ステートメントの集合によって、スタイルテンプレート White が作成されます。ODS NOPROCTITLE ステートメントによって、FREQ プロシジャのタイトルの記述が非表示にされます。

```

ods path (prepend) work.templat(update);
ods noproctitle;

```

```

proc template;
define style white;
parent=styles.htmlblue;
style body /
backgroundcolor=white;
style systemtitle /
backgroundcolor=white
fontsize=6
fontweight=bold
fontstyle=italic;
style systemfooter /
backgroundcolor=white
fontsize=2
fontstyle=italic;
style proctitle /
backgroundcolor=white
color=#6078bf
fontweight=bold
fontstyle=italic;
end;

```

クロス集計表テンプレート Base.Freq.CrossTabFreqs を作成します。 DEFINE ステートメントによって、書き込み権限のある、パス内の最初のテンプレートストア(この例では、Work になります)においてクロス集計表テンプレート(Base.Freq.CrossTabFreqs)が作成されます。NOTES ステートメントではクロス集計表に関する情報が提供されます。

```

define crosstabs Base.Freq.CrossTabFreqs;
notes "Crosstabulation table";

```

個別の表領域の外観を変更します。 次の DEFINE CROSSTABS ステートメント属性によって、個別の表領域の外観が変更されます。各属性は、表の特定の領域に対応します。

どの表領域にどの属性が対応するかを確認するには、“[クロス集計表の領域とそれに対応する属性](#)” (903 ページ) を参照してください。

```

style=table {backgroundcolor=#BFCFFF};
cell_style=data {backgroundcolor=#FFFFFF0};

```

```

row_var_style=rowheader {backgroundcolor=#BFCFFF color=rowfg.};
col_var_style=header {backgroundcolor=#BFCFFF color=colfg.};
row_total_style=data {backgroundcolor=#F0F0F0};
col_total_style=data {backgroundcolor=#F0F0F0};
grand_total_style=datastrong {backgroundcolor=#F0F0F0};
legend_style=header {backgroundcolor=#BFCFFF color=#6078bf fontstyle=italic};

```

表のラベル、行ヘッダーおよび列ヘッダーを指定します。ROWS_HEADER=スタイル属性によって、RowsHeader が行のヘッダーに指定されます。COLS_HEADER=スタイル属性によって、ColsHeader が列のヘッダーに指定されます。LABEL=属性によって、クロス集計表テンプレートのラベルが指定されます。ラベルは結果ウィンドウに表示されません。

```

rows_header=RowsHeader cols_header=ColsHeader;
label = "Frequency Counts and Percentages";

```

TableOf ヘッダーテンプレートを作成します。 DEFINE HEADER ステートメントとその属性によって、ヘッダーテンプレート TableOf (プログラムで後に HEADER ステートメントによって指定される)が作成されます。TEXT ステートメントでは、ラベルの変数と名前を表す動変数を使用し、ヘッダーのテキストが指定されます。また、TEXT ステートメントによって、行ラベルと列ラベルが行変数と列変数に割り当てられるかを判断するために式が使用されます。出力で表示されるのは、式が true の TEXT ステートメントのみです。この例では、行ラベルと列ラベルの両方が存在します。そのため、最初の TEXT ステートメントが使用され、テキストは"Table of City Government Form by Number of Meetings Scheduled"となります。STYLE=属性によって、ヘッダーのスタイル情報が指定されます。

```

define header TableOf;
text "Table of " _ROW_LABEL_ " by " _COL_LABEL_ / _ROW_LABEL_ ^= ''
& _COL_LABEL_ ^= '';
text "Table of " _ROW_LABEL_ " by " _COL_NAME_ / _ROW_LABEL_ ^= '';
text "Table of " _ROW_NAME_ " by " _COL_LABEL_ / _COL_LABEL_ ^= '';
text "Table of " _ROW_NAME_ " by " _COL_NAME_;
style=header {backgroundcolor=#BFCFFF color=#6078bf fontstyle=italic};
end;

```

RowsHeader ヘッダーテンプレートを作成します。 DEFINE HEADER ステートメントによって、ヘッダー RowsHeader が作成されます。RowsHeader は、先行する ROWS_HEADER=スタイル属性によって行ヘッダーとして指定されます。TEXT ステートメントでは、ラベルの変数と名前を表す動変数を使用し、ヘッダーのテキストが指定されます。最初の TEXT ステートメントによって、ラベルが変数に割り当てられるかを判断するために式が使用されます。ラベルがない場合は、行名を指定する次の TEXT ステートメントが使用されます。この例では、行変数には行ラベルがあるため、出力では、_ROW_LABEL_ は“City Government Form”になります。STYLE=属性によってヘッダーのスタイル情報が指定され、SPACE 属性によって現在のヘッダーと前のヘッダーの間に 1 行の空白行が挿入されるように指定されます。

```

define header RowsHeader;
text _ROW_LABEL_ / _ROW_LABEL_ ^= '';
text _ROW_NAME_;
style=header {backgroundcolor=#BFCFFF color=#6078bf fontstyle=italic};
space=0;
end;

```

ColsHeader ヘッダーテンプレートを作成します。 DEFINE HEADER ステートメントによって、ヘッダー ColsHeader が作成されます。ColsHeader は、先行する COLS_HEADER=スタイル属性によって列ヘッダーとして指定されます。TEXT ステ

トメントでは、ラベルの変数と名前を表す動的変数を使用し、ヘッダーのテキストが指定されます。最初の TEXT ステートメントによって、ラベルが列変数に割り当てられるかを判断するために式が使用されます。ラベルがない場合は、行名を指定する次の TEXT ステートメントが使用されます。この例では、列ラベルがあるため、出力では `_COL_LABEL_` は“Number of Meetings Scheduled”になります。STYLE=属性によってヘッダーのスタイル情報が指定され、SPACE 属性によって現在のヘッダーと前のヘッダーの間には 1 行の空白行が必要が指定されます。

```
define header ColsHeader;
text _COL_LABEL_ / _COL_LABEL_ ^= ' ';
text _COL_NAME_;
style=header {backgroundcolor=#BFCFFF color=#6078bf fontstyle=italic};
space=1;
end;
```

ControllingFor ヘッダーテンプレートを作成します。DEFINE HEADER ステートメントとその属性によって、ヘッダーテンプレート ControllingFor が作成されます。DYNAMIC ステートメントは、式で使用できるように動的変数を宣言します。TEXT ステートメントでは、ラベルの変数と名前を表す動的変数を使用し、ヘッダーのテキストが指定されます。この例では、TEXT ステートメントの式は false となるため、ControllingFor ヘッダーは出力に表示されません。STYLE=属性によって、ヘッダーのスタイル情報が指定されます。

```
define header ControllingFor;
dynamic StratNum StrataVariableNames StrataVariableLabels;
text "Controlling for" StrataVariableNames / StratNum > 0;
style=header;
end;
```

フッターテンプレートを作成します。 次の DEFINE FOOTER ステートメントとその属性のそれぞれによってフッターテンプレートが作成されます。出力に表示されるフッターの場合、そのフッターは FOOTER ステートメントによって指定する必要があります。DYNAMIC ステートメントは、動的変数 FMissing と SampleSize が TEXT ステートメントで使用できるように宣言します。TEXT ステートメントによって、フッターとして使用するテキストが条件別に選択されます。1 番目の TEXT ステートメントでは、FMissing は 0 ではないため式が true です。そのため、1 番目の TEXT ステートメントが出力に表示されます。2 番目の TEXT ステートメントでは、式が false となるため、NoObs フッターは出力に表示されません。STYLE=属性によってフッターのスタイル情報が指定され、SPACE 属性によって現在のフッターと前のフッターの間には 1 行の空白行が必要が指定されます。

```
define footer Missing;
dynamic FMissing;
text "Frequency Missing = " FMissing -12.99 / FMissing ^= 0;
style=header {backgroundcolor=#BFCFFF color=#6078bf fontstyle=italic};
space=1;
end;

define footer NoObs;
dynamic SampleSize;
text "Effective Sample Size = 0" / SampleSize = 0;
space=1;
style=header;
end;
```

セル値定義を作成します。 DEFINE CELLVALUE ステートメントによって、クロス集計表のセル内に表示される値が定義されます。HEADER=属性によって、凡例に表示され

るテキストが指定されます。次のセル値には指定されたテキストがないため、出力には凡例がありません。FORMAT=属性によってセル値に使用される形式が指定されず。DATA_FORMAT_OVERRIDE=ON 属性によって、データコンポーネントで指定される形式を使用することが指定されます。PRINT=ON 属性によって、表内に表示されるセル値が指定されます。CELLSTYLE AS ステートメントでは、Frequency セル値の変数値に応じて条件別にセルのスタイル要素を設定するための式が使用されます。_VAL_ 変数はセルの値を表します。そのため、この例では、セル内の値が 10 未満の場合、DataStrong スタイル要素のフォント色はグリーンになります。セル内の値が 40 ~ 50 の場合、DataStrong スタイル要素のフォント色はオレンジになります。値が 50 を超えると、フォント色は赤になります。

```

define cellvalue Frequency;
header="";
label="Frequency Count";
format=BEST7.; data_format_override=on; print=on;
cellstyle _val_ < 10 as datastrong {color=green},
_val_ > 40 & _val_ < 50 as datastrong {color=orange},
_val_ >= 50 as datastrong {color=red};
end;

define cellvalue Expected;
header="";
label="Expected Frequency";
format=BEST6. data_format_override=on print=on;
end;

define cellvalue Deviation;
header="";
label="Deviation from Expected Frequency";
format=BEST6. data_format_override=on print=on;
end;

define cellvalue CellChiSquare;
header="";
label="Cell Chi-Square";
format=BEST6. print=on;
end;

define cellvalue TotalPercent;
header="";
label="Percent of Total Frequency";
format=6.2 print=on;
end;

define cellvalue Percent;
header="";
label="Percent of Two-Way Table Frequency";
format=6.2 print=on;
end;

define cellvalue RowPercent;
header="";
label="Percent of Row Frequency";
format=6.2 print=on;
end;

```

```

define cellvalue ColPercent;
header="";
label="Percent of Column Frequency";
format=6.2 print=on;
end;

define cellvalue CumColPercent;
header="";
label="Cumulative Percent of Column Frequency";
format=6.2 print=on;
end;

```

どのセル値が表内に表示されるかおよびセル値がセル内に積み上げられる順序を指定します。CELLVALUE ステートメントによって、どのセル値が出力内に表示されるかが指定されます。この例では、作成済みのすべてのセル値が表内に表示されます。また、CELLVALUE ステートメントによって、セル値がセル内に積み上げられる順序が指定されます。

```

cellvalue
Frequency Expected Deviation
CellChiSquare TotalPercent Percent
RowPercent ColPercent CumColPercent;

```

どのヘッダーとフッターが出力内に表示されるかを指定します。HEADER ステートメントによって、どのヘッダーテンプレートが出力に適用されるかが指定されます。FOOTER ステートメントによって、どのフッターテンプレートが出力に適用されるかが指定されます。DEFINE ステートメントによって定義されたヘッダーとフッターが出力されるようにするためには、それぞれ FOOTER と HEADER ステートメントを使用して指定する必要があります。

```

header TableOf ControllingFor;
footer NoObs Missing;
end;

```

HTML 出力を作成し、HTML ファイルの名前を指定します。ODS HTML ステートメントによって、HTML 出力先が開かれ、HTML 出力が作成されます。STYLE=オプションによって、出カスタイルにテンプレート White が指定されます。

```

ods html file='MyCrosstabsTable.html' style=white;

```

タイトルと脚注を指定し、プロシジャタイトルの出力を非表示にします。TITLE および FOOTNOTE ステートメントによって、出力のタイトルと脚注が指定されます。ODS NOPROCTITLE ステートメントによって、出力に FREQ プロシジャのタイトルが印刷されなくなります。

```

title "City Government Form by Number of Meetings Scheduled";
footnote "Cellvalues are stacked in the following order:";
footnote2 "Frequency";
footnote3 "Percent";
footnote4 "Row Percent";
footnote5 "Column Percent";
ods noproctitle;

```

クロス集計表を作成します。FREQ プロシジャによって、Robgrp クロス集計表ごとに Citygovt が作成されます。

```
proc freq;
tables citygovt*robgrp / missprint;
run;
```

HTML 出力先を閉じます。ODS HTML CLOSE ステートメントによって、HTML 出力先とその出力先に対して開いているすべてのファイルが閉じられます。

```
ods html close;
```

出力

アウトプット 11.1 カスタマイズされたクロス集計表テンプレートを使用した出力

City Government Form by Number of Meetings Scheduled							
Table of City Government Form by Number of Meetings Scheduled							
City Government Form	Number of Meetings Scheduled						Total
	?	Not Known	100 or Less	101-200	201-300	Over 300	
?	0	0	0	1	0	0	.

Not Applicable	0	10	0	0	0	0	.

Council Manager	0	0	47	63	49	52	211
	.	.	12.30	16.49	12.83	13.61	55.24
	.	.	22.27	29.86	23.22	24.64	
	.	.	55.95	58.88	62.03	46.43	
Commission	0	0	6	7	3	5	21
	.	.	1.57	1.83	0.79	1.31	5.50
	.	.	28.57	33.33	14.29	23.81	
	.	.	7.14	6.54	3.80	4.46	
Mayor Council	1	0	31	37	27	55	150
	.	.	8.12	9.69	7.07	14.40	39.27
	.	.	20.67	24.67	18.00	36.67	
	.	.	36.90	34.58	34.18	49.11	
Total	.	.	84	107	79	112	382
	.	.	21.99	28.01	20.68	29.32	100.00

Frequency Missing = 12

Cell values are stacked in the following order:

- Frequency
- Percent
- Row Percent
- Column Percent

アウトプット 11.2 デフォルトのクロス集計表を使用した出力

Results Viewer - SAS Output

City Government Form by Number of Meetings Scheduled

The FREQ Procedure

Frequency Percent Row Pct Col Pct	Table of Citygovt by Robgrp						
	Citygovt(City Government Form)	Robgrp(Number of Meetings Scheduled)					
		?	Not Known	100 or Less	101-200	201-300	Over 300
?	0	0	0	1	0	0	.
.
.
.
Not Applicable	0	10	0	0	0	0	.
.
.
.
Council Manager	0	0	47	63	49	52	211
.	.	.	12.30	16.49	12.83	13.61	55.24
.	.	.	22.27	29.86	23.22	24.64	
.	.	.	55.95	58.88	62.03	46.43	
Commission	0	0	6	7	3	5	21
.	.	.	1.57	1.83	0.79	1.31	5.50
.	.	.	28.57	33.33	14.29	23.81	
.	.	.	7.14	6.54	3.80	4.46	
Mayor Council	1	0	31	37	27	55	150
.	.	.	8.12	9.69	7.07	14.40	39.27
.	.	.	20.67	24.67	18.00	36.67	
.	.	.	36.90	34.58	34.18	49.11	
Total	.	.	84	107	79	112	382
.	.	.	21.99	28.01	20.68	29.32	100.00

Frequency Missing = 12

例 2: カスタム凡例を含むクロス集計のテーブルテンプレートの作成

要素: *crosstabs-attributes* ステートメント
 CELLVALUE ステートメント
 DEFINE CELLVALUE ステートメント
 CELLSTYLE AS ステートメント
 END ステートメント
 FORMAT=属性
 HEADER=属性
 LABEL=属性
 DEFINE HEADER ステートメント
 END ステートメント
 SPACE=属性
 STYLE=属性
 TEXT ステートメント
 DEFINE FOOTER ステートメント

END ステートメント
 DYNAMIC ステートメント
 SPACE=属性
 STYLE=属性
 TEXT ステートメント
 END ステートメント
 FOOTER ステートメント
 HEADER ステートメント
 NOTES ステートメント

他の要素: その他の ODS 機能
 ODS HTML ステートメント
 ODS PATH ステートメント
 DEFINE STYLE ステートメント

詳細

次の例では、CrossTabFreqs の新しいクロス集計表テンプレートが作成されます。テンプレートは、次の機能を有します。

- カスタマイズされたテキストを含む凡例
- 修正されたヘッダーとフッター
- ヘッダーで使用される変数ラベル
- 修正された表領域
- セル値のカスタマイズされたスタイル

プログラム

```

Proc Format;
Value Govtfmt -3='Council Manager'
0='Commission'
3='Mayor Council'
.N='Not Applicable'
.=' ?';
Value Robfmt 1='100 or Less'
2='101-200'
3='201-300'
4='Over 300'
.N='Not Known'
.=' ?';
Value colfg 1='yellow'
2='red'
3='blue'
4='purple'
.N='green'
.='black'
other='black';
Value rowfg -3='red'
0='purple'
3='blue'
.N='green'
.='black'
other='black';

```

```

run;

data gov;
Label Citygovt='City Government Form'
Robgrp='Number of Meetings Scheduled';
Input Citygovt Robgrp Weight; Missing N;
Format Citygovt Govtfmt. Robgrp Robfmt.;
LOOP: OUTPUT; WEIGHT=WEIGHT-1; IF WEIGHT>0 THEN GOTO LOOP;
DROP WEIGHT;
datalines;
0 1 6
0 3 3
0 2 7
0 4 5
N N 10
-3 1 47
-3 3 49
-3 2 63
-3 4 52
. 2 1
3 1 31
3 2 37
3 3 27
3 4 55
3 . 1
;

ods path (prepend) work.templat(update);

proc template;
define crosstabs Base.Freq.CrossTabFreqs;
notes "Crosstabulation table with legend";

rows_header=RowsHeader cols_header=ColsHeader;
label = "Frequency Counts and Percentages";
grand_total_style=data {fontweight=bold};

define header ControllingFor;
dynamic StratNum StrataVariableNames StrataVariableLabels;
text "Controlling for" StrataVariableNames / StratNum > 0;
style=header;
end;

define header RowsHeader;
text _ROW_LABEL_ / _ROW_LABEL_ ^= ' ';
text _ROW_NAME_;
space=0;
style=header;
cindent=' ';
end;

define header ColsHeader;
text _COL_LABEL_ / _COL_LABEL_ ^= ' ';
text _COL_NAME_;
space=1;
style=header;
cindent=' ';
end;

```

```

define footer TableOf;
notes 'NoTitle is 1 if the NOTITLE option was specified.';
dynamic StratNum NoTitle;
text "Table " StratNum 3. " of " _ROW_LABEL_ " by " _COL_LABEL_ / NoTitle= 0
& StratNum > 0 & _ROW_LABEL_ ^= '' & _COL_LABEL_ ^= '';
text "Table " StratNum 3. " of " _ROW_LABEL_ " by " _COL_NAME_ / NoTitle= 0
& StratNum > 0 & _ROW_LABEL_ ^= '' ;
text "Table " StratNum 3. " of " _ROW_NAME_ " by " _COL_LABEL_ / NoTitle= 0
& StratNum > 0 & _COL_LABEL_ ^= '';
text _ROW_LABEL_ " by " _COL_LABEL_ / NoTitle = 0 & _ROW_LABEL_ ^= ''
& _COL_LABEL_ ^= '';
text _ROW_LABEL_ " by " _COL_NAME_ / NoTitle = 0 & _ROW_LABEL_ ^= '';
text _ROW_NAME_ " by " _COL_LABEL_ / NoTitle = 0 & _COL_LABEL_ ^= '';
text "Table " StratNum 3. " of " _ROW_NAME_ " by " _COL_NAME_ / NoTitle= 0
& StratNum > 0;
text _ROW_NAME_ " by " _COL_NAME_ / NoTitle = 0;
style=header;
end;

define footer Missing;
dynamic FMissing;
text "Frequency Missing = " FMissing -12.99 / FMissing ^= 0;
space=1;
style=header;
end;

define footer NoObs;
dynamic SampleSize;
text "Effective Sample Size = 0" / SampleSize = 0;
space=1;
style=header;
end;

define cellvalue Frequency;
header="Frequency";
format=BEST7.;
label="Frequency Count";
data_format_override=on print=on;
end;

define cellvalue Expected;
header="Expected";
format=BEST6.;
label="Expected Frequency";
data_format_override=on print=on;
end;

define cellvalue Deviation;
header="Deviation";
format=BEST6.;
label="Deviation from Expected Frequency";
data_format_override=on print=on;
end;

define cellvalue CellChiSquare;
header="Cell Chi-Square";

```

```

format=BEST6.;
label="Cell Chi-Square";
print=on;
end;

define cellvalue TotalPercent;
header="Total Percent";
format=6.2;
label="Percent of Total Frequency";
print=on;
end;

define cellvalue Percent;
header="Percent";
format=6.2;
label="Percent of Two-Way Table Frequency";
print=on;
cellstyle _val_ > 20.0 as {color=#BF6930};
end;

define cellvalue RowPercent;
header="Row Percent";
format=6.2;
label="Percent of Row Frequency";
print=on;
end;

define cellvalue ColPercent;
header="Column Percent";
format=6.2;
label="Percent of Column Frequency";
print=on;
end;

define cellvalue CumColPercent;
header="Cumulative Column Percent";
format=6.2;
label="Cumulative Percent of Column Frequency";
print=on;
end;

header ControllingFor;
footer TableOf NoObs Missing;

cellvalue
Frequency Expected Deviation
CellChiSquare TotalPercent Percent
RowPercent ColPercent CumColPercent;
end;
run;

title "City Government Form by Number of Meetings Scheduled";
ods html file='MyCrosstabsTableLegend.html' style=ocean;

proc freq;
tables citygovt*robgrp / missprint;
run;

```

```
ods html close;
```

プログラムの説明

ユーザー定義形式とデータセットを作成します。 FORMAT プロシジャによって、クロス集計表テンプレートで使用可能な 2 つのユーザー定義形式が作成されます。DATA ステップによって Gov データセットが作成されます。

```
Proc Format;
Value Govtfmt -3='Council Manager'
0='Commission'
3='Mayor Council'
.N='Not Applicable'
.=' ?';
Value Robfmt 1='100 or Less'
2='101-200'
3='201-300'
4='Over 300'
.N='Not Known'
.=' ?';
Value colfg 1='yellow'
2='red'
3='blue'
4='purple'
.N='green'
.='black'
other='black';
Value rowfg -3='red'
0='purple'
3='blue'
.N='green'
.='black'
other='black';
run;

data gov;
Label Citygovt='City Government Form'
Robgrp='Number of Meetings Scheduled';
Input Citygovt Robgrp Weight; Missing N;
Format Citygovt Govtfmt. Robgrp Robfmt.;
LOOP: OUTPUT; WEIGHT=WEIGHT-1; IF WEIGHT>0 THEN GOTO LOOP;
DROP WEIGHT;
datalines;
0 1 6
0 3 3
0 2 7
0 4 5
N N 10
-3 1 47
-3 3 49
-3 2 63
-3 4 52
. 2 1
3 1 31
3 2 37
```

```

3 3 27
3 4 55
3 . 1
;

```

ODS パスを確立します。 ODS PATH ステートメントによって、PROC TEMPLATE テンプレートの作成時の書き込み先または読み取り元の場所が指定されます。

```
ods path (prepend) work.templat(update);
```

クロス集計表テンプレート Base.Freq.CrossTabFreqs を作成します。 DEFINE ステートメントによって、書き込み権限のある、パス内の最初のテンプレートストアにおいてクロス集計表テンプレート(Base.Freq.CrossTabFreqs)が作成されます。NOTES ステートメントではクロス集計表に関する情報が提供されます。

```
proc template;
define crosstabs Base.Freq.CrossTabFreqs;
notes "Crosstabulation table with legend";
```

表のラベル、行ヘッダーと列ヘッダーを指定します。 ROWS_HEADER= スタイル属性によって、RowsHeader が行のヘッダーに指定されます。COLS_HEADER=スタイル属性によって、ColsHeader が列のヘッダーに指定されます。LABEL=属性によって、クロス集計表テンプレートのラベルが指定されます。GRAND_TOTAL_STYLE=によって、Data スタイル要素内の FontWeight スタイル属性が太字に変更されます。この変更によって、表内の最後の行の右端の列の値が影響を受けます。

```
rows_header=RowsHeader cols_header=ColsHeader;
label = "Frequency Counts and Percentages";
grand_total_style=data {fontweight=bold};
```

ControllingFor ヘッダーテンプレートを作成します。 DEFINE HEADER ステートメントとその属性によって、ヘッダーテンプレート ControllingFor が作成されます。DYNAMIC ステートメントは、式で使えるように動変数を宣言します。TEXT ステートメントでは、ラベルの変数と名前を表す動変数を使用し、ヘッダーのテキストが指定されます。この例では、TEXT ステートメントの式は false となるため、ControllingFor ヘッダーは出力に表示されません。STYLE=属性によって、ヘッダーのスタイル情報が指定されます。

```
define header ControllingFor;
dynamic StratNum StrataVariableNames StrataVariableLabels;
text "Controlling for" StrataVariableNames / StratNum > 0;
style=header;
end;
```

RowsHeader ヘッダーテンプレートを作成します。 DEFINE HEADER ステートメントによって、ヘッダー RowsHeader が作成されます。これは、先行する ROWS_HEADER=スタイル属性によって指定されます。TEXT ステートメントでは、ラベルの変数と名前を表す動変数を使用し、ヘッダーのテキストが指定されます。最初の TEXT ステートメントによって、ラベルが変数に割り当てられるかを判断するために式が使用されます。ラベルがない場合は、行名を指定する次の TEXT ステートメントが使用されます。この例では、行変数には行ラベルがあるため、出力では、_ROW_LABEL_ は“City Government Form”になります。STYLE=属性によって、ヘッダーのスタイル情報が指定されます。SPACE= 属性によって現在のヘッダーと前のヘッダーの間に 1 行の空白行が挿入されるように指定されます。CINDENT=属性によって、折り返し行が左丸かっこと同じ列から始まるのが指定されます。

```
define header RowsHeader;
text _ROW_LABEL_ / _ROW_LABEL_ ^= ' ';
```

```

text _ROW_NAME_;
space=0;
style=header;
cindent='';
end;

```

ColsHeader ヘッダーテンプレートを作成します。 DEFINE HEADER ステートメントによって、ヘッダー ColsHeader が作成されます。これは、先行する COLS_HEADER=スタイル属性によって指定されます。TEXT ステートメントでは、ラベルの変数と名前を表す動的変数を使用し、ヘッダーのテキストが指定されます。最初の TEXT ステートメントによって、ラベルが変数に割り当てられるかを判断するために式が使用されます。ラベルがない場合は、行名を指定する次の TEXT ステートメントが使用されます。この例では、列ラベルがあるため、出力では COL_LABEL は“Number of Meetings Scheduled”になります。STYLE=属性によって、ヘッダーのスタイル情報が指定されず。SPACE=属性によって現在のヘッダーと前のヘッダーの間には 1 行の空白行が必要が指定されます。CINDENT=属性によって、折り返し行が左丸かっこと同じ列から始まるのが指定されます。

```

define header ColsHeader;
text _COL_LABEL_ / _COL_LABEL_ ^= '';
text _COL_NAME_;
space=1;
style=header;
cindent='';
end;

```

TableOf フッターテンプレートを作成します。 DEFINE FOOTER ステートメントとその属性によって、フッターテンプレート TableOf (プログラムで後に FOOTER ステートメントによって指定される)が作成されます。TEXT ステートメントでは、ラベルの変数と名前を表す動的変数、NOTITLE オプション、そして現在の階層番号を使用し、ヘッダーのテキストが指定されます。TEXT ステートメントによって、どのテキストを表示するかを判断するためにこれらの変数と共に式が使用されます。出力で表示されるのは、式が true の TEXT ステートメントのみです。この例では、式が true のテキストステートメントは 4 番目の TEXT ステートメントのみであるため、テキストは“City Government Form by Number of Meetings Scheduled”となります。

```

define footer TableOf;
notes 'NoTitle is 1 if the NOTITLE option was specified.';
dynamic StratNum NoTitle;
text "Table " StratNum 3. " of " _ROW_LABEL_ " by " _COL_LABEL_ / NoTitle= 0
& StratNum > 0 & _ROW_LABEL_ ^= '' & _COL_LABEL_ ^= '';
text "Table " StratNum 3. " of " _ROW_LABEL_ " by " _COL_NAME_ / NoTitle= 0
& StratNum > 0 & _ROW_LABEL_ ^= '' ;
text "Table " StratNum 3. " of " _ROW_NAME_ " by " _COL_LABEL_ / NoTitle= 0
& StratNum > 0 & _COL_LABEL_ ^= '';
text _ROW_LABEL_ " by " _COL_LABEL_ / NoTitle = 0 & _ROW_LABEL_ ^= ''
& _COL_LABEL_ ^= '';
text _ROW_LABEL_ " by " _COL_NAME_ / NoTitle = 0 & _ROW_LABEL_ ^= '';
text _ROW_NAME_ " by " _COL_LABEL_ / NoTitle = 0 & _COL_LABEL_ ^= '';
text "Table " StratNum 3. " of " _ROW_NAME_ " by " _COL_NAME_ / NoTitle= 0
& StratNum > 0;
text _ROW_NAME_ " by " _COL_NAME_ / NoTitle = 0;
style=header;
end;

```


追加フッターテンプレートを作成します。 次の DEFINE FOOTER ステートメントとその属性のそれぞれによってフッターテンプレートが作成されます。これらのフッターを出力に適用するには、FOOTER ステートメントでフッターを指定する必要があります。

DYNAMIC ステートメントは、動的変数 FMissing、Stratnum、NoTitle、SampleSize が TEXT ステートメントで使用できるように宣言します。TEXT ステートメントによって、フッターとして使用するテキストが条件別に選択されます。1 番目の TEXT ステートメントでは、FMissing は 0 ではないため式が true です。そのため、1 番目の TEXT ステートメントが出力に表示されます。2 番目の TEXT ステートメントでは、式が false となるため、NoObs フッターは出力に表示されません。STYLE=属性によって、フッターのスタイル情報が指定されます。SPACE=属性によって現在のフッターと前のフッターの間には 1 行の空白行が必要が指定されます。

```
define footer Missing;
dynamic FMissing;
text "Frequency Missing = " FMissing -12.99 / FMissing ^ = 0;
space=1;
style=header;
end;

define footer NoObs;
dynamic SampleSize;
text "Effective Sample Size = 0" / SampleSize = 0;
space=1;
style=header;
end;
```

セル値定義を作成します。 DEFINE CELLVALUE ステートメントによって、クロス集計表のセル内に表示される値が定義されます。HEADER=属性によって、凡例に表示されるテキストが指定されます。LABEL=属性によって、セル値に対応するデータセット列のラベルが指定されます。LABEL=属性が影響を与えるのは、OUTPUT 出力先のみです。DATA_FORMAT_OVERRIDE=ON 属性によって、データコンポーネントで指定される形式を使用することが指定されます。PRINT=ON 属性によって、セル値が表内に表示されます。CELLSTYLE AS ステートメントでは、Percent セル値の変数値に応じて条件別にセルのスタイル要素を設定するための式が使用されます。_VAL_ 変数はセルの値を表します。そのため、この例では、セル内の値が 10 未満の場合、DataStrong スタイル要素のフォント色はグリーンになります。セル内の値が 20 を超えると、フォント色は#BF6930 になります。

```
define cellvalue Frequency;
header="Frequency";
format=BEST7.;
label="Frequency Count";
data_format_override=on print=on;
end;

define cellvalue Expected;
header="Expected";
format=BEST6.;
label="Expected Frequency";
data_format_override=on print=on;
end;

define cellvalue Deviation;
header="Deviation";
format=BEST6.;
label="Deviation from Expected Frequency";
```

```

data_format_override=on print=on;
end;

define cellvalue CellChiSquare;
header="Cell Chi-Square";
format=BEST6.;
label="Cell Chi-Square";
print=on;
end;

define cellvalue TotalPercent;
header="Total Percent";
format=6.2;
label="Percent of Total Frequency";
print=on;
end;

define cellvalue Percent;
header="Percent";
format=6.2;
label="Percent of Two-Way Table Frequency";
print=on;
cellstyle _val_ > 20.0 as {color=#BF6930};
end;

define cellvalue RowPercent;
header="Row Percent";
format=6.2;
label="Percent of Row Frequency";
print=on;
end;

define cellvalue ColPercent;
header="Column Percent";
format=6.2;
label="Percent of Column Frequency";
print=on;
end;

define cellvalue CumColPercent;
header="Cumulative Column Percent";
format=6.2;
label="Cumulative Percent of Column Frequency";
print=on;
end;

```

ヘッダーとフッターのテンプレートを指定します。 HEADER ステートメントによって、出力に適用されたヘッダーテンプレートが指定されます。FOOTER ステートメントによって、出力に適用されたフッターテンプレートが指定されます。DEFINE ステートメントによって定義されたヘッダーとフッターが出力で表示されるようにするためには、FOOTER または HEADER ステートメントを使用して指定する必要があります。

```

header ControllingFor;
footer TableOf NoObs Missing;

```

セル値とその順序を指定します。 CELLVALUE ステートメントによって、どのセル値が表に表示されるかと、その順序が指定されます。この例では、作成済みのすべてのセル値が表内に表示され、その順序は CELLVALUE ステートメントの指定通りとなります。

```
cellvalue  
Frequency Expected Deviation  
CellChiSquare TotalPercent Percent  
RowPercent ColPercent CumColPercent;  
end;  
run;
```

タイトルを指定し、HTML 出力を作成し、HTML ファイルの名前を指定します。 TITLE ステートメントによって、出力のタイトルが指定されます。STYLE=オプションを設定した ODS HTML ステートメントによって、出力にスタイルテンプレート Ocean が指定されます。

```
title "City Government Form by Number of Meetings Scheduled";  
ods html file='MyCrosstabsTableLegend.html' style=ocean;
```

クロス集計表を作成します。 FREQ プロシジャによって、Robgrp クロス集計表ごとに Citygovt が作成されます。

```
proc freq;  
tables citygovt*robgrp / missprint;  
run;
```

HTML 出力先を閉じます。 ODS HTML CLOSE ステートメントによって、HTML 出力先と、出力先に対して開いているすべてのファイルが閉じられます。

```
ods html close;
```

出力

アウトプット 11.3 カスタマイズされたクロス集計表テンプレートを使用した出力

City Government Form by Number of Meetings Scheduled							
The FREQ Procedure							
Frequency Percent Row Percent Column Percent	City Government Form	Number of Meetings Scheduled					
		? Not Known	100 or Less	101-200	201-300	Over 300	Total
	?	0	0	0	1	0	0
	
	
	
	Not Applicable	0	10	0	0	0	0
	
	
	
	Council Manager	0	0	47	63	49	52
		.	.	12.30	16.49	12.83	13.61
		.	.	22.27	29.86	23.22	24.64
		.	.	55.95	58.88	62.03	46.43
	
	Commission	0	0	6	7	3	5
		.	.	1.57	1.83	0.79	1.31
		.	.	28.57	33.33	14.29	23.81
		.	.	7.14	6.54	3.80	4.46
	
	Mayor Council	1	0	31	37	27	55
		.	.	8.12	9.69	7.07	14.40
		.	.	20.67	24.67	18.00	36.67
		.	.	36.90	34.58	34.18	49.11
	
	Total	.	.	84	107	79	112
		.	.	21.99	28.01	20.68	29.32
		382
		100.00
	
	City Government Form by Number of Meetings Scheduled						
	Frequency Missing = 12						

アウトプット 11.4 デフォルトのクロス集計表を使用した出力

Results Viewer - SAS Output

City Government Form by Number of Meetings Scheduled
The FREQ Procedure

Frequency Percent Row Pct Col Pct	Table of Citygovt by Robgrp						
	Citygovt(City Government Form)	Robgrp(Number of Meetings Scheduled)					
		?	Not Known	100 or Less	101-200	201-300	Over 300
?	0	0	0	1	0	0	.

Not Applicable	0	10	0	0	0	0	.

Council Manager	0	0	47	63	49	52	211
	.	.	12.30	16.49	12.83	13.61	55.24
	.	.	22.27	29.86	23.22	24.64	
	.	.	55.95	58.88	62.03	46.43	
Commission	0	0	6	7	3	5	21
	.	.	1.57	1.83	0.79	1.31	5.50
	.	.	28.57	33.33	14.29	23.81	
	.	.	7.14	6.54	3.80	4.46	
Mayor Council	1	0	31	37	27	55	150
	.	.	8.12	9.69	7.07	14.40	39.27
	.	.	20.67	24.67	18.00	36.67	
	.	.	36.90	34.58	34.18	49.11	
Total	.	.	84	107	79	112	382
	.	.	21.99	28.01	20.68	29.32	100.00

Frequency Missing = 12

例 3: セルの値にカスタム形式を追加

要素: EDIT ステートメント

他の要素: その他の ODS 機能
 ODS HTML ステートメント
 ODS PATH ステートメント

詳細

この例では、DEFINE CROSSTABS ステートメントを使用しません。代わりに、いくつかのセル値の形式を変更し、“例 2: カスタム凡例を含むクロス集計のテーブルテンプレートの作成” (917 ページ) で作成されたクロス集計表テンプレート Base.Freq.CrossTabFreqs を編集するために、EDIT ステートメントが使用されます。なお、“例 2: カスタム凡例を含むクロス集計のテーブルテンプレートの作成” (917 ページ) では、次の形式値が使用されました。

- Frequency: BEST6
- Percent、RowPercent、ColPercent: 6.2

この例では、Frequency セル値は COMMA12 に変更され、Percent、RowPercent、ColPercent の各セル値は 6.3 に変更されています。

プログラム

```

Proc Format;
Value Govtfmt -3='Council Manager'
0='Commission'
3='Mayor Council'
.N='Not Applicable'
.=' ?';
Value rowfg -3='red'
0='purple'
3='blue'
.N='green'
.='black'
other='black';
Value Robfmt 1='100 or Less'
2='101-200'
3='201-300'
4='Over 300'
.N='Not Known'
.=' ?';
Value colfg 1='yellow'
2='red'
3='blue'
4='purple'
.N='green'
.='black'
other='black';
run;

data gov;
Label Citygovt='City Government Form'
Robgrp='Number of Meetings Scheduled';
Input Citygovt Robgrp Weight; Missing N;
Format Citygovt Govtfmt. Robgrp Robfmt.;
LOOP: OUTPUT; WEIGHT=WEIGHT-1; IF WEIGHT>0 THEN GOTO LOOP;
DROP WEIGHT;
datalines;
0 1 6
0 3 3
0 2 7
0 4 5
N N 10
-3 1 47
-3 3 49
-3 2 63
-3 4 52
. 2 1
3 1 31
3 2 37
3 3 27

```

```

3 4 55
3 . 1
;

ods noproctitle;
ods path (prepend) work.templat(update);

proc template;
edit Base.Freq.CrossTabFreqs;

    edit Frequency;
format=COMMA12.;

end;
edit Percent;
format=6.3;
end;
edit RowPercent;
format=6.3;
end;
edit ColPercent;
format=6.3;
end;
end;
run;

ods html file="userfmt.html" style=ocean;

title "Applying Custom Formats to Cellvalues";
proc freq;
tables citygovt*robgrp / missprint;
run;

ods html close;

```

プログラムの説明

ユーザー定義形式とデータセットを作成します。 FORMAT プロシジャによって、クロス集計表テンプレートで使用可能な 4 つのユーザー定義形式が作成されます。DATA ステップによって Gov データセットが作成されます。

```

Proc Format;
Value Govtfmt -3='Council Manager'
0='Commission'
3='Mayor Council'
.N='Not Applicable'
.=' ?';
Value rowfg -3='red'
0='purple'
3='blue'
.N='green'
.='black'
other='black';
Value Robfmt 1='100 or Less'
2='101-200'
3='201-300'
4='Over 300'
.N='Not Known'

```

```

. = ' ?';
Value colfg 1='yellow'
2='red'
3='blue'
4='purple'
.N='green'
.= 'black'
other='black';
run;

data gov;
Label Citygovt='City Government Form'
Robgrp='Number of Meetings Scheduled';
Input Citygovt Robgrp Weight; Missing N;
Format Citygovt Govtfmt. Robgrp Robfmt.;
LOOP: OUTPUT; WEIGHT=WEIGHT-1; IF WEIGHT>0 THEN GOTO LOOP;
DROP WEIGHT;
datalines;
0 1 6
0 3 3
0 2 7
0 4 5
N N 10
-3 1 47
-3 3 49
-3 2 63
-3 4 52
. 2 1
3 1 31
3 2 37
3 3 27
3 4 55
3 . 1
;

```

ODS パスを確立します。 ODS PATH ステートメントによって、PROC TEMPLATE テンプレートの作成時の書き込み先または読み取り元の場所が指定されます。ODS NOPROCTITLE ステートメントによって、FREQ プロシジャのタイトルが非表示にされます。

```

ods noproctitle;
ods path (prepend) work.templat(update);

```

クロス集計表テンプレート Base.Freq.CrossTabFreqs を編集します。 EDIT ステートメントによって、クロス集計表テンプレート

Base.Freq.CrossTabFreqs (“例 2: カスタム凡例を含むクロス集計のテーブルテンプレートの作成” (917 ページ) で作成済み) が変更されます。

```

proc template;
edit Base.Freq.CrossTabFreqs;

```

新しい形式をセル値 Frequency、Percent、RowPercent、ColPercent にそれぞれ適用します。 FORMAT=属性によってセル値の形式が指定されます。形式 COMMA12. は Frequency に適用され、形式 6.3 は Percent、RowPercent、ColPercent にそれぞれ適用されます。


```

edit Frequency;
format=COMMA12.;

end;
edit Percent;
format=6.3;
end;
edit RowPercent;
format=6.3;
end;
edit ColPercent;
format=6.3;
end;
end;
run;

```

HTML 出力を作成し、HTML ファイルの名前を指定します。 STYLE=オプションを設定した ODS HTML ステートメントによって、出力にスタイルテンプレート Ocean が指定されま

```
ods html file="userfmt.html" style=ocean;
```

クロス集計表を作成し、タイトルを追加します。 FREQ プロシジャによって、Robgrp クロス集計表ごとに Citygovt が作成されます。TITLE ステートメントによって、タイトルが指定されます。

```

title "Applying Custom Formats to Cellvalues";
proc freq;
tables citygovt*robgrp / missprint;
run;

```

HTML 出力先を閉じます。 ODS HTML CLOSE ステートメントによって、HTML 出力先と、出力先に対して開いているすべてのファイルが閉じられます。

```
ods html close;
```

出力

アウトプット 11.5 セル値に適用されたカスタム形式を使用したクロス集計表出力

Results Viewer - SAS Output

Applying Custom Formats to Cellvalues

Frequency Percent Row Percent Column Percent	City Government Form	Number of Meetings Scheduled					Total
		?	Not Known	100 or Less	101- 200	201- 300	
?	0	0	0	1	0	0	.
.
.
.
Not Applicable	0	10	0	0	0	0	.
.
.
.
Council Manager	0	0	47	63	49	52	211
.	.	.	12.304	16.492	12.827	13.613	55.236
.	.	.	22.275	29.858	23.223	24.645	
.	.	.	55.952	58.879	62.025	46.429	
Commission	0	0	6	7	3	5	21
.	.	.	1.571	1.832	0.785	1.309	5.497
.	.	.	28.571	33.333	14.286	23.810	
.	.	.	7.143	6.542	3.797	4.464	
Mayor Council	1	0	31	37	27	55	150
.	.	.	8.115	9.686	7.068	14.398	39.267
.	.	.	20.667	24.667	18.000	36.667	
.	.	.	36.905	34.579	34.177	49.107	
Total	.	.	84	107	79	112	382
.	.	.	21.990	28.010	20.681	29.319	100.00

City Government Form by Number of Meetings Scheduled

Frequency Missing = 12

12 章

TEMPLATE プロシジャ: ODS グラフの作成

グラフテンプレート言語について	935
構文: TEMPLATE プロシジャ: ODS グラフの作成	938
追加情報	938

グラフテンプレート言語について

グラフは統計分析の必須部分です。グラフによって、パターンが明らかになり、相違が識別され、そしてデータに関する有意義な疑問が提起されます。グラフによって、分析表示が明確になり、深い調査が促進されます。

SAS 9.2 では、グラフテンプレート言語(GTL)、という明確で効果的な統計グラフを特徴とする強力な新しい言語が、導入されています。GTL を使用すると、モデルフィット図、分布図、比較図、予測図などのような、さまざまな種類の図を作成できます。

GTL では、明白で整理された図を作成するために、一般的に認められたグラフィックデザインの原理が適用されます。グラフ要素の色、フォントおよび相対サイズは、すべて最適な効果を出すように設計されています。デフォルトでは、GTL によって PNG ファイルが作成されます。これによって、トゥルーカラー(24 ビット RGB フルカラーモデル)がサポートされ、アンチエイリアス処理や透明などの視覚効果が可能となりますが、ファイルサイズは小さいままです。GTL ステートメントオプションによって、図のコンテンツと出来栄を微細にコントロールできます。

GTL は、最小の構文でグラフを作成できるように設計されています。GTL では、STATGRAPH テンプレートと呼ばれるテンプレートで、ステートメントを組み合わせることでグラフを作成するために、フレキシブルなビルディングブロック方式が使用されています。STATGRAPH テンプレートの定義には TEMPLATE プロシジャが含まれます。

独自の STATGRAPH テンプレートを定義することで、カスタムグラフを作成できます。カスタムグラフを作成するには、次のステップを実行してください。

1. TEMPLATE プロシジャで、STATGRAPH テンプレートを定義します。
2. グラフのパラメータを指定するには、グラフテンプレート言語を使用します。
3. SGRENDER プロシジャを使用して、データをテンプレートに結合します。

僅かなステートメントで、データ分析に必要な図を作成できます。たとえば、これらのステートメントで、次のモデルフィット図を作成できます。

```
proc template;
define statgraph mytemplate;
```

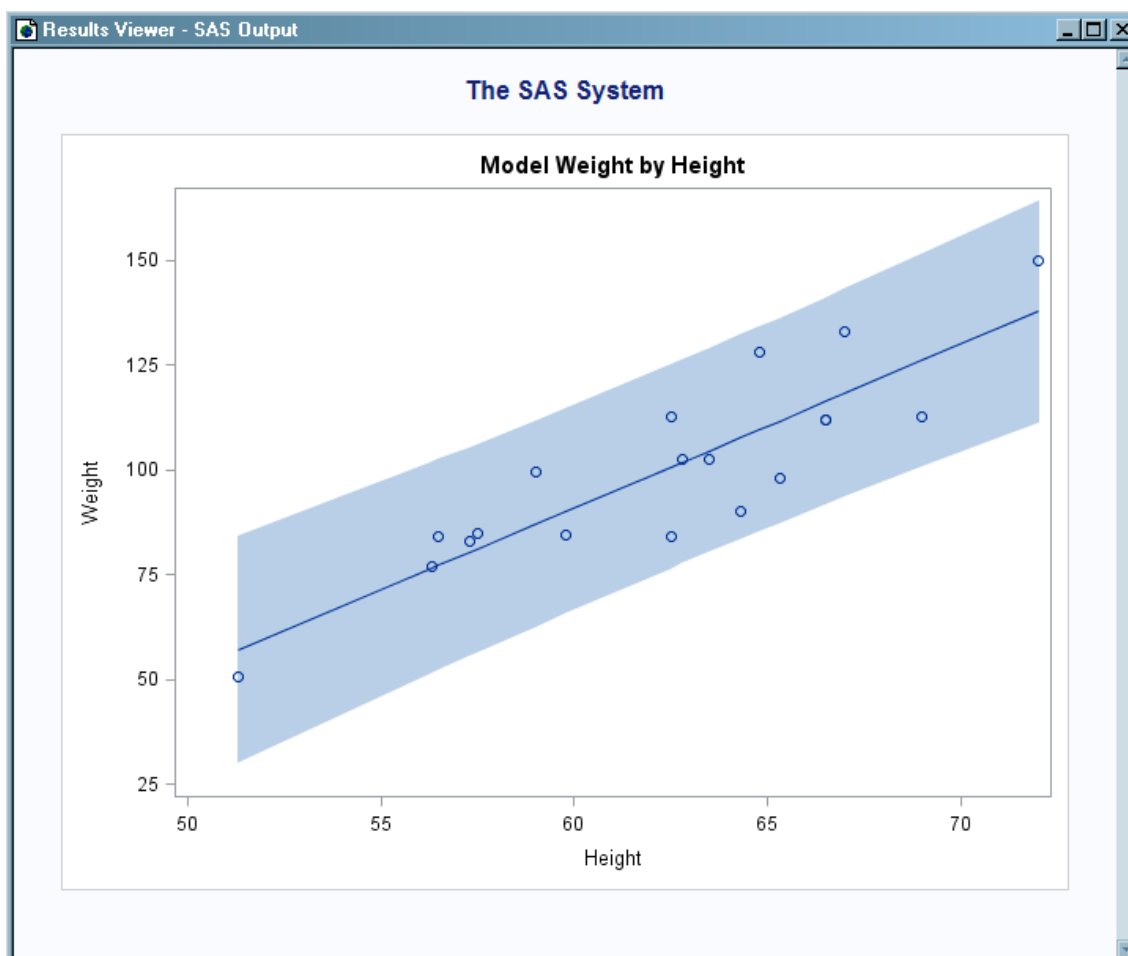
```

beginGraph;
entrytitle "Model Weight by Height";
layout overlay;
bandplot x=height limitupper=upper limitlower=lower;
scatterplot y=weight x=height;
seriesplot y=predict x=height;
endlayout;
endGraph;
end;
run;

proc sgrender data=sashelp.classfit
template=mytemplate;
run;

```

Display 12.1 Mytemplate および Sashelp.Classfit を使用したモデルフィット図



この例では、データセット Sashelp.Classfit からの値を使用した `mytemplate` という名の STATGRAPH テンプレートが、定義されています。このデータセットには、データ変数 HEIGHT と WEIGHT、およびフィットモデル(PREDICT)と信頼帯(LOWER and UPPER)の事前計算値が含まれています。SGRENDER プロシジャでは、グラフをレンダリングするために、Sashelp.Classfit およびテンプレート `mytemplate` が使用されます。(この例は、SAS サンプルライブラリのメンバー GTLMFIT1 です。)

次の2つのグラフは、ODS グラフで可能なことの例にすぎません。

Figure 12.1 LISTING スタイルのある StylePROC SGSCATTER (SAS)

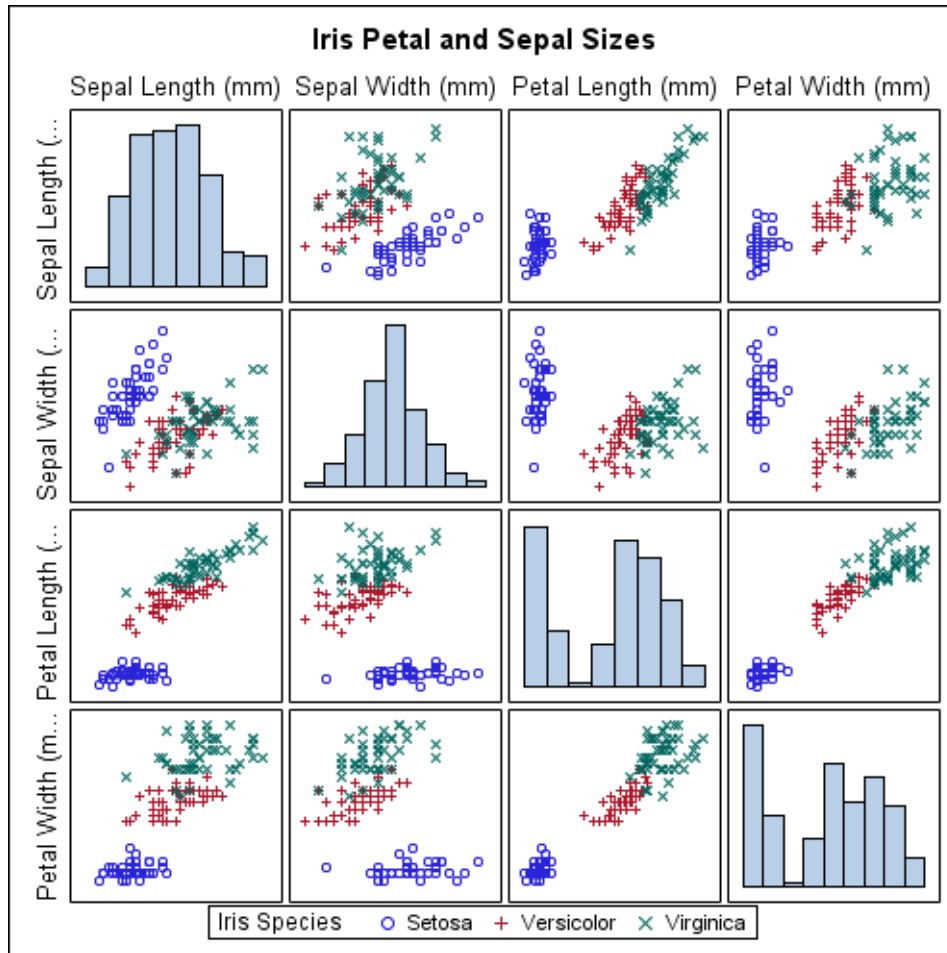


Figure 12.2 PROC SGRENDER (SAS)とカスタムスタイルでレンダリングされたカスタム テンプレート



Syntax: TEMPLATE プロシジャ: ODS グラフの作成

See: グラフテンプレート言語の構文と用法についての完全なドキュメンテーションについては、次のドキュメンテーションを参照。SAS Graph Template Language: リファレンスおよび SAS Graph Template Language: ユーザーガイド

```
PROC TEMPLATE;
  DEFINE STATGRAPH グラフパス </ STORE=libref.テンプレートストア>;
    DYNAMIC 変数 1<'テキスト 1'><変数 n<'テキスト n'>>;
    MVAR 変数 1<'テキスト 1'><変数 n<'テキスト n'>>;
    NMVAR 変数 1<'テキスト 1'><変数 n<'テキスト n'>>;
    NOTES 'テキスト';
    グラフ テンプレート 言語 ステートメント
  END;
END;
```

追加情報

ODS で統計グラフを作成
 グラフテンプレート言語の参照情報については、次を参照。SAS Graph Template Language: リファレンス

ODS で統計グラフを作成

PROC TEMPLATE およびグラフテンプレート言語の用法情報については、次を参照。*SAS Graph Template Language: ユーザーガイド*

テンプレートストアに保管されたさまざまなテンプレートの管理

さまざまな ODS テンプレートに関する 管理およびナビゲートに役立つ PROC TEMPLATE ステートメントの 参照情報については、次を参照。10 章, “[TEMPLATE プロシジャ: テンプレートストアの管理](#)” on page 855

既存のスタイルの修正または独自のスタイルの作成

PROC TEMPLATE のスタイル定義ステートメントに関する参照情報については、次を参照。13 章, “[TEMPLATE プロシジャ: スタイルテンプレートの作成](#)” on page 942

13 章

TEMPLATE プロシジャ: スタイルテンプレートの作成

概要: ODS スタイルテンプレート	942
TEMPLATE プロシジャを使用したスタイルの作成	942
HTML のデフォルトスタイル	942
カスタマイズされたバージョンの HTML スタイル	943
概念: スタイルと TEMPLATE プロシジャ	944
用語	944
スタイルのコンテンツの表示	945
スタイルの操作	945
グラフィックスタイル情報を含む ODS スタイル	946
スタイル、スタイル要素、スタイル属性について	947
継承について	949
スタイル参照について	951
FROM オプションについて	953
バージョン間の継承の互換性	955
構文: TEMPLATE プロシジャ: スタイルテンプレートの作成	957
PROC TEMPLATE ステートメント	958
DEFINE STYLE ステートメント	958
CLASS ステートメント	960
EDIT ステートメント	961
END ステートメント	962
IMPORT ステートメント	963
NOTES ステートメント	964
PARENT= ステートメント	964
REPLACE ステートメント	965
STYLE ステートメント	965
スタイル属性の概要	968
スタイル属性テーブル	969
すべてのスタイル属性の詳細情報	978
スタイル属性値	1004
例: TEMPLATE プロシジャ: スタイルテンプレートの作成	1008
例 1: スタンドアロンスタイルの作成	1008
例 2: ユーザー定義の属性の使用	1015
例 3: CLASS ステートメントの使用	1024
例 4: テーブルスタイルとグラフスタイルの定義	1032
例 5: 1 つの STYLE ステートメントで複数のスタイル要素を定義する	1040
例 6: CSS ファイルのインポート	1045
例 7: テーブルヘッダーおよびフッターの境界線のフォーマット	1054

概要: ODS スタイルテンプレート

TEMPLATE プロシジャを使用したスタイルの作成

TEMPLATE プロシジャを使用すると、SAS 出力の外観をカスタマイズすることができます。TEMPLATE プロシジャは、スタイルを作成および変更します。Output Delivery System では、カスタマイズした形式の出力を生成するためにこれらのスタイルが使用されます。

デフォルトでは、ODS 出力は、プロシジャまたは DATA ステップによって定義される各種スタイルに従いフォーマットされます。ただし、出力の外観のカスタマイズは、TEMPLATE プロシジャの DEFINE STYLE ステートメントを使用しても行うことができます。

HTML のデフォルトスタイル

デフォルトでは、ODS によってスタイルが使用され、プロシジャまたは DATA ステップ結果が表示されます。これらのスタイルをカスタマイズし、出力の外観を変更します。最初の出力は、デフォルトのスタイルを使用する PROC PRINT からの HTML 出力を示します。2 番目の出力は、カスタマイズされたスタイルを使用する PROC PRINT からの同一の HTML 出力を示します。HTML 出力のデフォルトスタイルは Styles.HTMLBlue です。

画面 13.1 デフォルトスタイルを使用する PROC PRINT からの HTML 出力(Microsoft Internet Explorer での表示)

Table of Contents		Energy Expenditures for Each Region (millions of dollars)																																																					
1. Print		Division=Middle Atlantic																																																					
Division=Middle Atlantic Data Set WORK.ENERGY		<table border="1"> <thead> <tr> <th>State</th> <th>Type</th> <th>Expenditures</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>NY</td><td>Residential Customers</td><td>8,786</td></tr> <tr><td>NY</td><td>Business Customers</td><td>7,825</td></tr> <tr><td>NJ</td><td>Residential Customers</td><td>4,115</td></tr> <tr><td>NJ</td><td>Business Customers</td><td>3,558</td></tr> <tr><td>PA</td><td>Residential Customers</td><td>6,478</td></tr> <tr><td>PA</td><td>Business Customers</td><td>3,695</td></tr> </tbody> </table>			State	Type	Expenditures	NY	Residential Customers	8,786	NY	Business Customers	7,825	NJ	Residential Customers	4,115	NJ	Business Customers	3,558	PA	Residential Customers	6,478	PA	Business Customers	3,695																														
State	Type	Expenditures																																																					
NY	Residential Customers	8,786																																																					
NY	Business Customers	7,825																																																					
NJ	Residential Customers	4,115																																																					
NJ	Business Customers	3,558																																																					
PA	Residential Customers	6,478																																																					
PA	Business Customers	3,695																																																					
Division=Mountain Data Set WORK.ENERGY		Division=Mountain <table border="1"> <thead> <tr> <th>State</th> <th>Type</th> <th>Expenditures</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>MT</td><td>Residential Customers</td><td>322</td></tr> <tr><td>MT</td><td>Business Customers</td><td>232</td></tr> <tr><td>ID</td><td>Residential Customers</td><td>392</td></tr> <tr><td>ID</td><td>Business Customers</td><td>298</td></tr> <tr><td>WY</td><td>Residential Customers</td><td>194</td></tr> <tr><td>WY</td><td>Business Customers</td><td>184</td></tr> <tr><td>CO</td><td>Residential Customers</td><td>1,215</td></tr> <tr><td>CO</td><td>Business Customers</td><td>1,173</td></tr> <tr><td>NM</td><td>Residential Customers</td><td>545</td></tr> <tr><td>NM</td><td>Business Customers</td><td>578</td></tr> <tr><td>AZ</td><td>Residential Customers</td><td>1,694</td></tr> <tr><td>AZ</td><td>Business Customers</td><td>1,448</td></tr> <tr><td>UT</td><td>Residential Customers</td><td>621</td></tr> <tr><td>UT</td><td>Business Customers</td><td>438</td></tr> <tr><td>NV</td><td>Residential Customers</td><td>493</td></tr> <tr><td>NV</td><td>Business Customers</td><td>378</td></tr> </tbody> </table>			State	Type	Expenditures	MT	Residential Customers	322	MT	Business Customers	232	ID	Residential Customers	392	ID	Business Customers	298	WY	Residential Customers	194	WY	Business Customers	184	CO	Residential Customers	1,215	CO	Business Customers	1,173	NM	Residential Customers	545	NM	Business Customers	578	AZ	Residential Customers	1,694	AZ	Business Customers	1,448	UT	Residential Customers	621	UT	Business Customers	438	NV	Residential Customers	493	NV	Business Customers	378
State	Type	Expenditures																																																					
MT	Residential Customers	322																																																					
MT	Business Customers	232																																																					
ID	Residential Customers	392																																																					
ID	Business Customers	298																																																					
WY	Residential Customers	194																																																					
WY	Business Customers	184																																																					
CO	Residential Customers	1,215																																																					
CO	Business Customers	1,173																																																					
NM	Residential Customers	545																																																					
NM	Business Customers	578																																																					
AZ	Residential Customers	1,694																																																					
AZ	Business Customers	1,448																																																					
UT	Residential Customers	621																																																					
UT	Business Customers	438																																																					
NV	Residential Customers	493																																																					
NV	Business Customers	378																																																					

カスタマイズされたバージョンの HTML スタイル

スタイルを取り扱う際には、完全に新しいスタイルを記述するのではなく、SAS によって提供されるスタイルを変更する機会の方が多くあります。次の画面は、HTML 出力のデフォルトスタイルに加えることができる変更の種類を示します。新しいスタイルによって、HTML 出力内のコンテンツファイルとボディファイルの両方が影響を受けます。特に、コンテンツファイルでは、スタイルによって次の属性に変更が加えられます。

- コンテンツファイルの背景
- コンテンツタイトルの背景
- 目次の名前(目次の代わりにコンテンツ)

ボディファイルでは、スタイルによって次の属性に変更が加えられます。

- ヘッダーのテキストおよび出力を生成したプロシジャを識別するテキスト
- テキストの一部の部分の色
- 境界線の色
- 背景色

画面 13.2 カスタマイズされたスタイルを使用する PROC PRINT からの HTML 出力(Microsoft Internet Explorer での表示)

The screenshot shows a web browser window with a yellow sidebar on the left containing a 'Contents' menu with links for '1. Print', 'Division=Middle Atlantic', and 'Division=Mountain'. The main content area has a blue background and displays two tables of energy expenditures for each region (Middle Atlantic and Mountain) in millions of dollars. Each table lists the State, Type of customer, and Expenditures.

Energy Expenditures for Each Region (millions of dollars)		
Division=Middle Atlantic		
State	Type	Expenditures
NY	Residential Customers	8,786
NY	Business Customers	7,825
NJ	Residential Customers	4,115
NJ	Business Customers	3,558
PA	Residential Customers	6,478
PA	Business Customers	3,695
Division=Mountain		
State	Type	Expenditures
MT	Residential Customers	322
MT	Business Customers	232
ID	Residential Customers	392
ID	Business Customers	298
WY	Residential Customers	194
WY	Business Customers	184
CO	Residential Customers	1,215
CO	Business Customers	1,173

概念: スタイルと TEMPLATE プロシジャ

用語

この項で使用される用語の定義については、“用語: TEMPLATE プロシジャ” (842 ページ)を参照してください。

子

ディメンション階層内の、レベル n に属するメンバのレベル n-1 の下位データ集合。たとえば、Geography ディメンションには、Country と City というレベルが含まれ、Bangkok は Thailand の子、Hamburg は Germany の子となります。

親

ディメンション階層内の、レベル n-1 内のメンバのレベル n における上位集合。たとえば、Geography ディメンションに Country と City というレベルが含まれる場合、

Thailand は Bangkok の親、Germany は Hamburg の親となります。通常、親の値はその子の値をすべて統合したものです。

スタイルのコンテンツの表示

スタイルのコンテンツを表示するには、SAS ウィンドウ環境、コマンドライン、または TEMPLATE プロシジャを使用します。

- SAS ウィンドウ環境の使用
 1. **結果**ウィンドウで、**Results** フォルダを選択します。右クリックして**テンプレート**を選択し、**テンプレート**ウィンドウを開きます。
 2. **Sashelp.Tmplmst** をダブルクリックし、ディレクトリのコンテンツを表示します。
 3. **Styles** をダブルクリックし、ディレクトリのコンテンツを表示します。
- コマンドラインの使用

1. **テンプレート**ウィンドウを表示するには、コマンドラインに

```
odstemplates
```

コマンドを送信します。**テンプレート**ウィンドウには、アイテムストア **Sasuser.Templat** および **Sashelp.Tmplmst** が含まれます。

2. **Sashelp.Tmplmst** などのアイテムストアをダブルクリックし、ODS テンプレートの保存先ディレクトリのリストを展開します。SAS によって提供されるテンプレートは、アイテムストア **Sashelp.Tmplmst** 内にあります。
 3. SAS によって提供されるスタイルを表示するには、**スタイル**アイテムストアをダブルクリックします。
 4. **Journal** などのタグセットを右クリックし、**開く**を選択します。スタイルテンプレートが**テンプレートブラウザ**ウィンドウに表示されます
- TEMPLATE プロシジャの使用
 1. 次のコードを送信し、SAS によって提供されるデフォルトの HTML スタイルのコンテンツを表示します。

```
proc template;
source styles.htmlblue;
run;
```

2. **STYLES** を指定し、任意の SAS スタイルを表示します。SOURCE ステートメント内の *style-template*。SAS スタイルは、**Sashelp.Tmplmst** アイテムストア内にあります。

スタイルの操作

ODS 出力先のデフォルトスタイルの検索および表示

ODS 出力先のデフォルトスタイルは、SAS によって提供されるその他のスタイルと共に、テンプレートストア **Sashelp.Tmplmst** の**スタイル**アイテムストア内にあります。**テンプレート**ウィンドウからスタイルを表示できます。また、次の PROC TEMPLATE ステップを送信すると、スタイルを SAS ログに書き込むことができます。

```
proc template;
source styles.template-name;
run;
```

次の表は、ODS 出力先とそのデフォルトスタイルの一覧です。

表 13.1 出力先カテゴリ表

出力先	デフォルトスタイル名
リスト	リスト
HTML	HTMLBlue
マークアップ言語タグセット	DEFAULT
PRINTER	Printer (PDF および PS)、monochromePrinter (PCL)
RTF	RTF

HTML およびマークアップ言語用のデフォルトスタイル内のスタイル要素の変更

スタイルを取り扱う際には、完全に新しいスタイルを記述するのではなく、SAS によって提供されるスタイルを変更する機会の方が多く場合があります。“例 3: CLASS ステートメントの使用” (1024 ページ) は、デフォルトスタイルの変更方法を示します。

特定のサイトで使用するスタイルをカスタマイズするには、指定スタイル内の各スタイル要素の種類を把握すると効果的です。デフォルトの HTML およびマークアップ言語のスタイル要素のリストについては、“ODS スタイル要素” (1387 ページ) を参照してください。

グラフィックスタイル情報を含む ODS スタイル

SAS では、グラフィカルスタイル情報を組み込む ODS スタイルが提供されます。これらのスタイルでは、その他のスタイル要素によって使用される多数のスタイル属性が使用されますが、グラフスタイルに固有の数種類のスタイル属性も使用されます。たとえば、STARTCOLOR=スタイル属性と ENDCOLOR=スタイル属性を使用すると、指定した要素内で開始色から終了色まで徐々に変化する傾斜効果を生成できます。STARTCOLOR=スタイル属性または ENDCOLOR=スタイル属性のいずれか(ただし両方ではない)を指定する場合、指定されなかったスタイル属性は、TRANSPARENCY=スタイル属性が使用されている場合には透過的になります。“例 4: テーブルスタイルとグラフスタイルの定義” (1032 ページ) では、ENDCOLOR=スタイル属性のみが指定されます。そのため、開始色が透過的になります。

TRANSPARENCY=スタイル属性は、グラフスタイルに固有の別のスタイル属性です。透過性について、透過性レベル(0.0~1.0)を指定し、グラフ要素の透過率(0~100%)を指定します。他のスタイル要素で BACKGROUNDIMAGE=スタイル属性を使用すると画像を引き伸ばすことができますが、グラフスタイルでは、IMAGE=スタイル属性を使用すると画像の位置合わせや並べて表示することもできます。

グラフスタイル、要素、テンプレートについて、画像と色を組み合わせると、ブレンド効果を作成することもできます。ブレンド処理は、指定した色でグレースケールの画像を使用する場合に最もうまく機能します。ブレンド処理は、GraphLegendBackground、GraphCharts、GraphData#、GraphFloor、GraphWalls などのスタイル要素で実行されます。ブレンド処理を実行するには、BACKGROUNDIMAGE=または COLOR=スタイル属性を使用して色を指定し、BACKGROUNDIMAGE=または IMAGE=スタイル属性を使用して画像を指定します。

注: GraphData#スタイル要素を使用する場合、カラー値を指定するに当たり、BACKGROUND_COLOR=スタイル属性ではなく、COLOR=スタイル属性を使用できます。

スタイル属性の詳細なリストについては、“[スタイル属性テーブル](#)” (969 ページ) を参照してください。スタイル要素の詳細なリストについては、“[ODS スタイル要素](#)” (1387 ページ) を参照してください。

定義された ODS スタイルを使用するほか、既存のスタイルを変更したり、新しいグラフスタイル要素を使用して完全に新規のスタイルを作成することもできます。“[例 4: テーブルスタイルとグラフスタイルの定義](#)” (1032 ページ) は、定義済みの ODS スタイルがどのように生成されたかについての説明です。

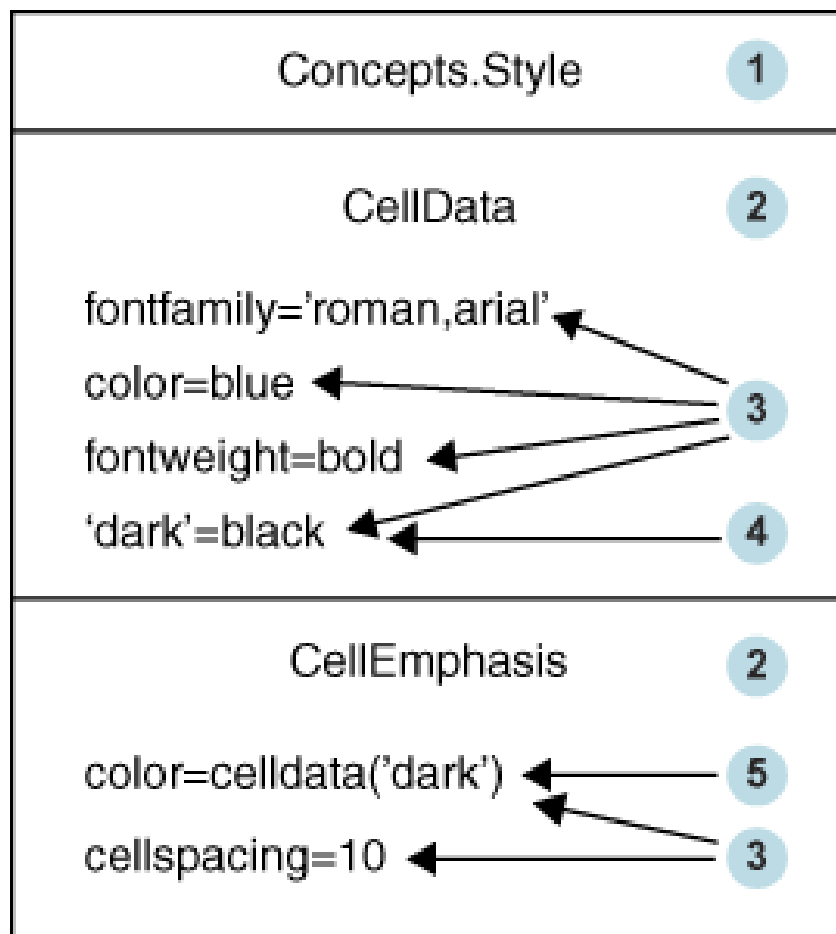
SAS によって提供される ODS スタイル用のコードを表示する場合の詳細は、“[スタイルのコンテンツの表示](#)” (945 ページ) を参照してください。

スタイル、スタイル要素、スタイル属性について

スタイル、スタイル要素、スタイル属性の扱いに慣れるには、それらの関係性に注目します。次のプログラムによって、スタイル Concepts.Style が作成されます。プログラムに従う図によって、スタイル、スタイル要素、スタイル属性間の関係性が示されます。

```
proc template;
define style concepts.style;
style celldata /
fontfamily="roman, arial"
color=blue
fontweight =bold
"dark"=black;
style cellemphasis from celldata /
color=celldata("dark")
borderspacing=10;
end;
run;
```

図 13.1 スタイル、スタイル要素、スタイル属性の図



次のリストは、前の図中の番号付き項目に対応します。

1 Concepts.Style は**スタイル**です。スタイルによって、SAS ジョブ全体の出力のプレゼンテーションアспект(色、フォントフェイス、フォントサイズなど)を表示する方法を記述します。スタイルによって、そのスタイルを使用する ODS ドキュメントの全体の外観が決まります。各スタイルはスタイル要素によって構成されます。スタイルは“[DEFINE STYLE ステートメント](#)” (958 ページ)によって作成されます。新しいスタイルは、個別に作成することも、または既存のスタイルから作成することもできます。“[PARENT= ステートメント](#)” (964 ページ)を使用すると、既存のスタイルから新しいスタイルを作成できます。

2 CellData と CellEmphasis は**スタイル要素**です。スタイル要素は、SAS プログラム用出力の特定のパートに適用されるスタイル属性の集合です。たとえば、スタイル要素には、列ヘッダーの表示またはテーブルセル内のデータの表示に関する命令が含まれる場合があります。また、スタイル要素によって、スタイルを使用する出力のデフォルトの色およびフォントが指定される場合があります。スタイル要素はスタイル内に存在し、“[STYLE ステートメント](#)” (965 ページ)によって定義されます。

注: HTML およびマークアップ言語に使用されるデフォルトスタイル要素とその継承に関するリストは、“[ODS スタイル要素](#)” (1387 ページ)を参照してください。

3 次は、**スタイル属性と値のペア**です。

- fontfamily="roman, arial"
- color=blue

- fontweight=bold
- "dark"=black
- color=celldata("dark")
- borderspacing=10

スタイル属性によって、1つのプレゼンテーションアスペクトの値が指定されます。たとえば、COLOR=属性によって、テーブルの前景色の値 blue が指定され、FONTFAMILY=属性によって使用するフォントとして値 roman および arial が指定されます。スタイル属性はスタイル要素内に存在し、SAS によって提供されることもあれば、ユーザーが定義することもできます。FONTFAMILY=、COLOR=、FONTWEIGHT=、BORDERSPACING=は、SAS によって提供されるスタイル属性です。SAS によって提供されるスタイル属性のリストは、“[スタイル属性テーブル](#)” (969 ページ)を参照してください。

- 4 "Dark"は、**ユーザー定義スタイル属性**です。これによって、値"dark"を指定すると必ず値 black を代入するよう指定されます。
- 5 値 celldata("dark")は、**スタイル参照**です。スタイル属性は、スタイル参照を使用して参照できます。このスタイル参照によって、PROC TEMPLATE が CellData スタイル要素に送信され、"dark"スタイル属性に指定される値を使用するよう指定されます。スタイル参照の詳細は、“[style-reference](#)” (1007 ページ)を参照してください。

継承について

概要

継承は、PARENT=ステートメントか、または STYLE ステートメント内の FROM=オプションを使用すると開始できます。

PARENT=ステートメントによって、PROC TEMPLATE でスタイル要素のすべてが親スタイルから新しい子スタイルにコピーされるよう指定されます。スタイル要素は新しいテンプレートで使用されます(ただし、新しいテンプレートに上書きするスタイル属性が含まれない場合に限りです)。

FROM=オプションによって、PROC TEMPLATE でスタイル要素のすべてが親スタイル要素から新しい子スタイル要素にコピーされるよう指定されます。

スタイル間の継承

スタイル間の継承は、PARENT=オプションを使用して開始され、次のプロセスが含まれます。

1. PARENT=ステートメントを指定する場合、親スタイル内のスタイル要素は新しいスタイルにコピーされます。このコピー処理は、新しいスタイル内で継承が発生する前に実行されます。
2. 似ている名前のスタイル要素が、指定した FROM オプションが含まれない子スタイル内にある場合、子スタイルからのスタイル要素によって親スタイルからのスタイル要素が上書きされます。
3. 似ている名前のスタイル要素が、指定した FROM オプションが含まれない子スタイル内にある場合、子スタイル要素によって親スタイル要素からのスタイル要素が吸収されます。2つのスタイル要素内に似ている名前のスタイル属性がある場合、子スタイル要素からのスタイル属性が使用されます。

次のコードは、2つのスタイル間の継承の例を示します。

例のコード13.1 Style2 作成用の元コード

```
define style style1;
style fonts /
"docfont" = ("Arial", 3)
"tablefont" = ("Times", 2);
style output /
cellpadding = 5
borderspacing = 0
font = fonts("docfont");
style table from output /
borderspacing = 2
font = fonts("tablefont");
style header /
backgroundcolor=white
color=blue
fontfamily="arial, helvetica"
fontweight=bold;
end;

define style style2;
parent = style1;
style fonts from fonts /
"docfont" = ("Helvetica", 3);
style table from table /
borderspacing = 4;
style header /
fontstyle=roman
fontsize=5;
end;
```

前のコードから Style2 スタイルは、次のようにも記述されます。

例のコード13.2 Style2 の拡張バージョン

```
define style style2;
style fonts/
"docfont" = ("Helvetica", 3)
"tablefont" = ("Times", 2);
style output /
cellpadding = 5
borderspacing = 0
font = fonts("docfont");
style table from output /
borderspacing=4
font = fonts("tablefont");
style header /
fontstyle=roman
fontsize=5;
end;
```

スタイル要素間の継承

STYLE ステートメント上の FROM オプションは、別のスタイル要素から継承を開始するために使用されます。FROM オプションによって参照されるスタイル要素は、現在の

スタイルまたは親スタイルのいずれかに存在します(PARENT=ステートメントを使用して親テンプレートが指定される場合)。

たとえば、例のコード 13.1 (950 ページ) および 例のコード 13.2 (950 ページ) テーブルスタイル要素(`style table from output / ...` を使用して作成される)では、ステートメントは次のスタイル属性で終わります。

- `cellpadding= 5`
- `borderspacing= 4`
- `font=fonts("tablefont")`

スタイル参照について

スタイル参照では、スタイル要素内のスタイル属性が参照されます。スタイル要素は、現在のスタイルまたは親スタイルのいずれかに存在します。

たとえば、COLOR=および BACKGROUND_COLOR=スタイル属性を使用する DataCell という名前のスタイル要素を作成するとします。

```
style datacell / backgroundcolor=blue
color=white;
```

別のスタイル要素 NewCell で同一の背景色が使用されるようにするには、NewCell 要素内のスタイル参照を次のように使用します。

```
style newcell / backgroundcolor=datacell(backgroundcolor);
```

スタイル参照 `datacell(backgroundcolor)` によって、BACKGROUND_COLOR=スタイル要素の DataCell という名前のスタイル属性を使用するよう指定されます。

同様に、3つのスタイル属性を定義する HighLighting という名前のスタイル要素を作成するとします。

```
style highlighting /
"go"=green
"caution"=yellow
"stop"=red;
```

HighLighting スタイル要素で定義される色を参照する Messages という名前のスタイル要素を定義できます。

```
style messages;
"note"=highlighting("go")
"warning"=highlighting("caution")
"error"=highlighting("stop");
```

スタイル参照を使用したため、複数のスタイル要素は、HighLighting スタイル要素で定義される色を使用できます。HighLighting スタイル要素で `go to blue` の値を変更する場合、スタイル参照 `highlighting("go")` を使用するすべてのスタイル要素では、緑ではなく青が使用されます。

次のコードでは、Output スタイル要素内の FONT=スタイル属性が Fonts スタイル要素の条件で定義されます。値 `fonts("docfont")` によって、PROC TEMPLATE は Fonts という名前のスタイル要素の最後のインスタンスにアクセスし、スタイル属性 DocFont の値を使用するように命令されます。

また、Table スタイル要素内の FONT=スタイル属性は、Fonts スタイル要素の条件で定義されます。値 `fonts("tablefont")` によって、PROC TEMPLATE は Fonts という名前のスタイル要素の最後のインスタンスにアクセスし、スタイル属性 TableFont の値を使用するように命令されます。

例のコード13.3 未解決のスタイル参照を使用するプログラム

```

define style style1;
style fonts /
"docfont" = ("Arial", 3)
"tablefont" = ("Times", 2);
style output /
cellpadding = 5
borderspacing = 0
font = fonts("docfont");
style table from output /
borderspacing = 2
font = fonts("tablefont");
style header /
backgroundcolor=white
color=blue
fontfamily="arial, helvetica"
fontweight=bold;
end;

define style style2;
parent = style1;
style fonts from fonts /
"docfont" = ("Helvetica", 3);
style table from table /
borderspacing = 4;
style header /
fontstyle=roman
fontsize=5;
end;

```

SAS でコードを送信すると、次のプログラムを送信する場合と同様の出力が作成されます。Output スタイル要素では、スタイル参照は ("helvetica", 3) として解決され、("Arial", 3) ではありませんのでご注意ください。これは、Style2 スタイル内の "DocFont" ユーザー定義スタイル属性によって、Style1 スタイル内の似ている名前のスタイル属性が上書きされるためです。

例のコード13.4 未解決のスタイル参照を使用するプログラム

```

define style style1;
style fonts /
"docfont" = ("Arial", 3)
"tablefont" = ("Times", 2);
style output /
cellpadding = 5
borderspacing = 0
/** Resolved from "docfont" in Style2***/
font = fonts("helvetica", 3);
style table from output /
borderspacing = 2
/** Resolved from "tablefont" in Style1***/
font = fonts("Times", 2);
style header /
backgroundcolor=white
color=blue
fontfamily="arial, helvetica"

```

```

fontWeight=bold;
end;

define style style2;
parent = style1;
style fonts from fonts /
"docfont" = ("Helvetica", 3);
style table from table /
borderspacing = 4;
style header /
fontstyle=roman
fontsize=5;
end;

```

FROM オプションについて

FROM オプションは、別のスタイル要素からするためにスタイル要素と共に使用されます。FROM オプションを省略する場合、子スタイルでは不完全なスタイル要素が含まれる可能性があります。

たとえば、次の SAS プログラムでは、スタイル Concepts.Style2 によって、そのスタイル要素とスタイル属性がすべてスタイル Concepts.Style1 から継承されます。ただし、Concepts.Style2 内のスタイル要素 Colors のインスタンスによって、Concepts.Style1 内の Colors インスタンスは上書きされます。これは、Concepts.Style2 内で Colors を作成する STYLE ステートメント内の FROM オプションがないためです。そのため、Colors にはスタイル属性 "dark"=dark blue という 1 つの属性が含まれます。

プログラムを実行すると、解決される Color へのスタイル参照のみが、"dark"スタイル属性を参照する参照となります。colors("fancy") や colors("medium") などの Concepts.Style1 および Concepts.Style2 内のスタイル参照は、Colors スタイル要素の現在のインスタンスにコピーされなかった属性を参照するため、解決されません。結果として生成される出力は、[画面 13.3 \(954 ページ\)](#)です。

これを修正するには、次のプログラムでは、FROM オプションを STYLE ステートメントに追加します。このステートメントによって、Concepts.Style2 内に Colors スタイル要素が作成されます。

```

style colors from colors /
"dark"=dark blue;

```

注: 次のコードでは、Concepts は、**テンプレート** ⇨ Sasuser.Templat で作成されるフォルダです。Style1 は、Concepts フォルダで作成されるテンプレートです。

例のコード 13.5 FROM オプションを使用しない場合の Colors スタイル要素の作成

```

proc template;
define style concepts.style1;
style colors /
"default"=white
"fancy"=very light vivid blue
"medium"=red ;
style celldatasimple /
fontfamily=arial
backgroundcolor=colors("fancy")
color=colors("default");
style celldataemphasis from celldatasimple /
color=colors("medium")
fontstyle=italic;

```

```

style celldatalarge from celldataemphasis /
fontWeight=bold
fontSize=3;
end;
run;

proc template;
define style concepts.style2;
parent=concepts.style1;
style colors /
"dark"=dark blue;
style celldataemphasis from celldataemphasis /
backgroundcolor=white;
style celldatasmall from celldatalarge /
fontSize=5
color=colors("dark")
backgroundcolor=colors("medium");
end;
run;

```

次の出力を作成した SAS コードの詳細は、“FROM オプションの使用” (1365 ページ) の FROM オプションを使用しない場合のコードバージョンを参照してください。

画面 13.3 FROM オプションを使用せずに作成される出力



Country	Grain	Kilotons	Kilotons
Brazil	Rice	10035	10035
China	Rice	190100	190100
India	Rice	120012	120012
Indonesia	Rice	51165	51165
United States	Rice	7771	7771

次の出力を作成した SAS コードの詳細は、“FROM オプションの使用” (1365 ページ) の FROM オプションを使用する場合のコードバージョンを参照してください。

画面 13.4 FROM オプションを使用して作成される出力

Country	Grain	Kilotons	Kilotons
Brazil	Rice	10035	10035
China	Rice	190100	190100
India	Rice	120012	120012
Indonesia	Rice	51165	51165
United States	Rice	7771	7771

バージョン間の継承の互換性

大半の場合、ODS スタイル要素や、前のバージョンの SAS で作成されたスタイルは、新しいバージョンの SAS と互換性があります。ただし、SAS 9.2 からは、スタイルの継承はスタイル要素の継承が実行される前に完全に拡張されます。この変更によって、前のバージョンの SAS で作成される出力と、SAS 9 で作成される出力との間で不一致が生じる可能性があります。

次のプログラムでは、SAS 9.2 または前のバージョンの SAS のどちらで実行するかによって、作成される出力が異なります。SAS 9.2 では、Concepts.Style2 内で CellDataEmphasis に含まれる黄色の背景色は、CellDataLarge および CellDataSmall に渡されます。ただし、前のバージョンの SAS では、黄色の背景色は CellDataLarge および CellDataSmall に渡されません。FROM オプションを使用する場合の詳細は、“FROM オプションについて” (953 ページ) を参照してください。

注: 次のコードでは、Concepts は、**テンプレート** ⇒ Sasuser.Templat で作成されるフォルダです。Style1 は、Concepts フォルダで作成されるテンプレートです。

```
proc template;
define style concepts.style1;
style celldatasimple /
fontfamily=arial
backgroundcolor=very light vivid blue
color=white;
style celldataemphasis from celldatasimple /
color=red1
fontstyle=italic;
style celldatalarge from celldataemphasis /
fontweight=bold
fontsize=5;
end;
run;

proc template;
define style concepts.style2;
```

```

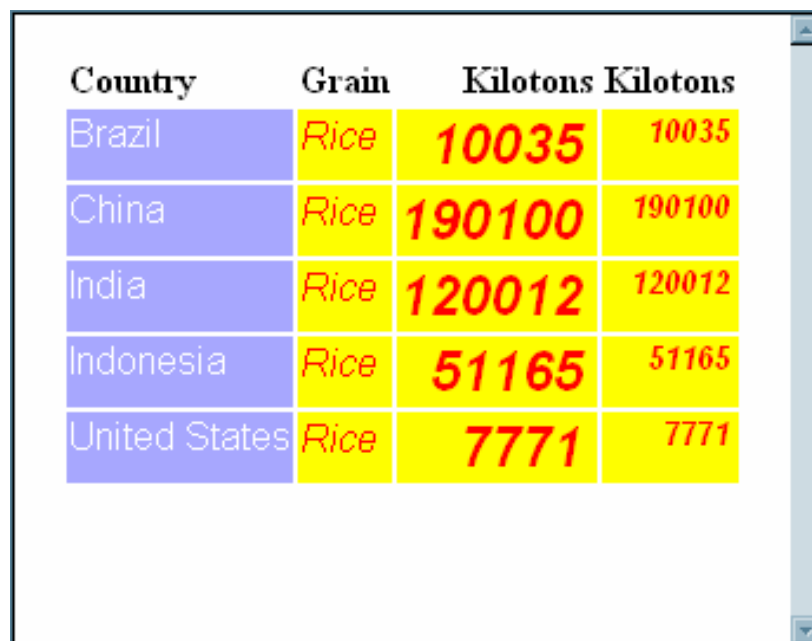
parent=concepts.style1;
style celldataemphasis from celldataemphasis 3 /
backgroundcolor=yellow 2;
style celldatasmall from celldatalarge /
fontsize=2;
end;
run;

```

前のバージョンの SAS で実行する場合にこのプログラムによって作成される出力は、SAS 9.2 以降でプログラムによって作成される出力とは異なります。これは、CellDataEmphasis 内の COLOR=属性の値を赤(1)から黄色(2)に変更する場合、この変更によって影響を受けるのは、Concepts.Style2 内の CellDataEmphasis から継承されるスタイル要素のみです。Concepts.Style2 内では、CellDataEmphasis (3)から継承されるスタイル要素はありません。そのため、Concepts.Style2 内の CellDataEmphasis のみに黄色のテキストが含まれます。SAS 9.2 からは、親スタイル定義内のすべてのスタイル要素によって、色の変更もピックアップされます。

この出力を作成した SAS コードの詳細は、“[SAS の各バージョン間の継承互換性](#)” (1369 ページ)の SAS 9.1 バージョンのコードを参照してください。

画面 13.5 SAS 9.2 出力



Country	Grain	Kilotons	Kilotons
Brazil	Rice	10035	10035
China	Rice	190100	190100
India	Rice	120012	120012
Indonesia	Rice	51165	51165
United States	Rice	7771	7771

画面 13.6 SAS 9.1 出力

Country	Grain	Kilotons	Kilotons
Brazil	Rice	10035	10035
China	Rice	190100	190100
India	Rice	120012	120012
Indonesia	Rice	51165	51165
United States	Rice	7771	7771

構文: TEMPLATE プロシジャ: スタイルテンプレートの作成

```

PROC TEMPLATE;
DEFINE STYLE style-path | Base.Template.Style </ STORE=libref.template-store>;
  PARENT=style-path;
  NOTES "text";
  CLASS style-element-name(s)<"text">
    </ style-attribute-specification(s)>;
  STYLE style-element-name(s) <FROM style-element-name | _SELF_ ><"text">
    </ style-attribute-specification(s)>;
END;
END;

```

ステートメント	タスク	例
“PROC TEMPLATE ステートメント”	PROC TEMPLATE テンプレートの開始	Ex. 1, Ex. 2, Ex. 3, Ex. 4, Ex. 5, Ex. 6, Ex. 7
“DEFINE STYLE ステートメント”	STYLE=オプションをサポートする送信先のスタイルを作成する	Ex. 1, Ex. 2, Ex. 3, Ex. 4, Ex. 5, Ex. 6, Ex. 7

ステートメント	タスク	例
“CLASS ステートメント”	似ている名前のスタイル要素からスタイル要素を作成する	Ex. 3, Ex. 6
“END ステートメント”	スタイルを終了する	Ex. 1, Ex. 2, Ex. 3, Ex. 4, Ex. 5, Ex. 6, Ex. 7
“EDIT ステートメント”	スタイルを編集する	
“IMPORT ステートメント”	Cascading Style Sheet (CSS)の情報をファイルからスタイルにインポートする	Ex. 6
“NOTES ステートメント”	スタイルに関する情報を提供する	
“PARENT= ステートメント”	現在のスタイルの継承元のスタイルを指定する	Ex. 3, Ex. 4, Ex. 6, Ex. 7
“STYLE ステートメント”	複数のスタイル要素を作成または変更する	Ex. 1, Ex. 2, Ex. 4, Ex. 5, Ex. 7

PROC TEMPLATE ステートメント

PROC TEMPLATE テンプレートを開始します。

構文

```
PROC TEMPLATE;
DEFINE STYLE style-path | Base.Template.Style </ STORE=libref.template-store>;
  PARENT=style-path;
  NOTES "text";
  CLASS style-element-name(s)<"text">
    </ style-attribute-specification(s)>;
  STYLE style-element-name(s) <FROM style-element-name | _SELF_ > <"text">
    </ style-attribute-specification(s)>;
  END;
END;
```

DEFINE STYLE ステートメント

STYLE=オプションをサポートする送信先のスタイルを作成します。DEFINE STYLE ステートメントは、DEFINE STYLE ステートメントブロックを開始します。

要件 テンプレート内の最後のステートメントは、END ステートメントにする必要があります。

サポート: DEFINE STYLE ステートメントは、次のステートメントをサポートします。“CLASS ステートメント” (960 ページ)、“IMPORT ステートメント” (963 ページ)、“NOTES ステートメント” (899 ページ)、“PARENT= ステートメント” (964 ページ)、“STYLE ステートメント” (965 ページ)。

例: “例 1: スタンドアロンスタイルの作成” (1008 ページ)

構文

```
DEFINE STYLE style-path | Base.Template.Style </ STORE=libref.template-store>;
  PARENT=style-path;
  NOTES "text";
  CLASS style-element-name(s) <"text">
    </ style-attribute-specification(s)>;
  IMPORT style-specification <media-type-1< , media-type-10>>;
  STYLE style-element-name(s) <FROM style-element-name | _SELF_ > <"text">
    </ style-attribute-specification(s)>;
END;
```

必須引数

style-path

スタイルの保存場所を指定します。*style-path* は複数の名前から構成され、ピリオドで区切られます。それぞれの名前は、テンプレートストア内のディレクトリを表します。PROC TEMPLATE によって、スタイルが現在のパス内の最初の書き込み可能なテンプレートストアに書き込まれます。

Base.Template.Style

明示的に親を指定しないスタイルのすべての親となるスタイルを作成します。このテンプレートを作成すると、SAS プログラムで明示的にタグセットを指定する必要はありません。ユーザーがアイテムストアから具体的に削除するまで、テンプレートはすべての出力に自動的に適用されます。

注意:

SAS によって提供される Base.Template.Style には、多数のスタイルによって使用される継承情報が含まれます。この継承情報が保持されない場合、一部のスタイル要素が出力内に表示されない可能性があります。独自の Base.Template.Style を確実に作成するには、テンプレートを外部ファイルに書き込み、既存のテンプレートコンテンツを編集して、既存の Base.Template.Style テンプレートからまず開始します。

制限事項: PARENT=ステートメントが指定される場合、PARENT=の参照先は Base.Template.Style 以外のスタイルにする必要があります。

操作: Base.Template.Style マスタテンプレート属性は、他のスタイルテンプレートによって上書きされます。

ヒント: 独自の Base.Template.Style の基本にする既存スタイルを表示するには、“スタイルのコンテンツの表示” (945 ページ)を参照してください。

オプション引数

STORE=*libref.template-store*

スタイルの保存先のテンプレートストアを指定します。テンプレートストアが存在しない場合は、作成されます。

制限事項: STORE=オプション構文は、コンパイルされたテンプレートの一部になりません。

CLASS ステートメント

似ている名前のスタイル要素からスタイル要素を作成します。

制限事項: CLASS ステートメントは、DEFINE STYLE テンプレートブロック内で使用する必要があります。

例: 次のステートメントに相当します。

```
class fonts;

style fonts from fonts;

style fonts from _self_;
```

例: “例 3: CLASS ステートメントの使用” (1024 ページ)

“例 6: CSS ファイルのインポート” (1045 ページ)

構文

CLASS *style-element-name(s)* <"text"> </ *style-attribute-specification(s)*>;

必須引数

style-element-name

複製および変更する複数のスタイル要素を指定します。

ヒント: スタイル内に複数のスタイル要素名があり、属性が複数回指定される場合、最後に指定した属性の値が使用されます。

参照項目:

style-element-name の詳細は、STYLE ステートメントの“*style-element-name*” (965 ページ)を参照してください。

スタイル要素のリストについては、“ODS スタイル要素” (1387 ページ)を参照してください。

オプション引数

style-attribute-specification(s)

新しいスタイル属性や、新しいスタイル要素用の既存スタイル属性への変更内容を指定します。*style-attribute-specification* のそれぞれには、次の一般的な形式が含まれます。

style-attribute-name=<|>*style-attribute-value*

style-attribute-name

“スタイル属性テーブル” (969 ページ)にリスト表示されている属性名、またはユーザー定義スタイル属性の名前。

ヒント: *style-attribute-name* の参照先がユーザー定義属性の場合、名前は引用符で囲んでください。*style-attribute-name* の参照先が、“スタイル属性テーブル” (969 ページ)にリストで表示される属性の場合、名前を引用符で囲まないでください。

style-attribute-value

値を属性に割り当てます。“スタイル属性テーブル” (969 ページ) のテーブルから属性を指定する場合、属性の期待値の種類を指定してください。

style-attribute 値に関する詳細は、“[スタイル属性値](#)” (1004 ページ)を参照してください。

スタイル属性が子スタイル要素に継承されないようにします。

制限事項: スタイル内に複数のスタイル要素名があり、属性が複数回指定される場合、最後に指定した属性の値が使用されます。

ヒント:

親スタイル要素の属性は、継承または明示的に定義されるかどうかにかかわらず、FROM オプションを使用せずに STYLE ステートメントで指定することで、上書きしてください。

属性が親スタイル内の似ている名前のスタイル要素で定義され、新しい似ている名前のスタイル要素の STYLE ステートメントで明示的に指定されない場合、FROM オプションを指定しないかぎり、属性は継承されません。

"text"

STYLE ステートメントに関する情報を提供します。この種類のテキストは、コンパイルされたテンプレートの一部となり、SOURCE ステートメントを使用して表示できます。ただし、SAS コマンドはコンパイルされたスタイルの一部にはなりません。

EDIT ステートメント

既存テンプレートを編集します。EDIT ステートメントによって、編集時にテンプレートブロックで DEFINE ステートメントが置き換えられます。DEFINE ステートメントの代わりに EDIT ステートメントを使用できます。

- 制限事項:** リンクのテンプレートを編集する場合、リンクは分解され、個別のテンプレートが作成されません。
- 要件** END ステートメントは、EDIT ステートメントおよびすべての編集指示に従う必要があります。
- 操作:** 場合によっては、編集指示の集合内部で EDIT ステートメントを使用できます。テーブルテンプレートを編集する場合、テーブル内で定義される複数の列、ヘッダー、フッターテンプレートも編集できます。列テンプレートを編集する場合、当該列に対して定義される複数のヘッダーテンプレートも編集できます。
- 例:** [“Example 1: SAS プロシジャで使用されるテーブルテンプレートの編集” \(1125 ページ\)](#)
-

構文

```
EDIT template-path-1 <AS template-path-2> </ STORE=libref.template-store>;
    template-statements;
```

END;

必須引数

template-path-1

編集するテンプレートを指定します。*template-path-1* は複数の名前から構成され、ピリオドで区切られます。それぞれの名前は、テンプレートストア内のディレクトリを示し、SAS ファイルのタイプとなります。

操作: STORE=オプションによって、読み取り元および書き込み先の特定のテンプレートストアが指定されます。

ヒント: プロシジャまたは DATA ステップによって使用されるテンプレートを決定するには、SAS プログラムを実行する前に ODS TRACE ON ステートメントを送信します。(“ODS TRACE ステートメント”(696 ページ)を参照してください)

オプション引数

AS *template-path-2*

編集したテンプレートの保存先の場所を指定します。ここで、*template-path-2* は複数の名前から構成され、ピリオドで区切られます。それぞれの名前は、テンプレートストア内のディレクトリを示し、SAS ファイルのタイプとなります。デフォルトでは、PROC TEMPLATE によって、テンプレートが現在のパス内の最初の書き込み可能なテンプレートストアに書き込まれます。

デフォルト: AS *template-path-2* を省略する場合、PROC TEMPLATE によって編集済みのテンプレートが最初の書き込み可能なテンプレートストア内の *template-path-1* に書き込まれます。

制限事項: 現在の EDIT ステートメントが編集指示の集合内にある場合、AS *template-path-2* オプションを使用しないでください。

STORE=*libref.template-store*

template-path-1 の読み取り元および *template-path-2* の保存先のテンプレートストアを指定します。

template-statements

template-statements は、DEFINE ステートメントと END ステートメント間で有効なステートメントまたは属性です。

既存テンプレートの編集

EDIT ステートメントを使用する場合、次の処理が発生します。

- デフォルトでは、PROC TEMPLATE によって、PATH ステートメントで定義されるテンプレートストアのリスト内で *template-path-1* が検索されます。(“PATH ステートメント”(865 ページ)を参照してください) 読み取りアクセス権を持つテンプレートストア内で検出する最初のテンプレートパスのコピーが開きます。
- PROC TEMPLATE によって、変更されたテンプレートが、更新アクセス権を持つ現在のパス内の最初のテンプレートストアに書き込まれます。書き込み先の 2 番目のテンプレートパスを省略する場合、PROC TEMPLATE では *template-path-1* が使用されます。そのため、*template-path-1* の読み取り元のテンプレートストアに更新アクセス権がある場合、実際に元のテンプレートを変更します。アクセス権がない場合、変更されたファイルは、ユーザーがアクセス権を持つ対象のテンプレートストアに書き込まれます。

2 番目のテンプレートパスを指定する場合、PROC TEMPLATE によって、編集されたテンプレートは、ユーザーが書き込み権限を持つ対象の 1 番目のテンプレートストア内の指定パスに書き込まれます。

END ステートメント

スタイルを終了します。

要件 テンプレート内の最後のステートメントは、END ステートメントにする必要があります。

構文

END;

IMPORT ステートメント

Cascading Style Sheet (CSS)の情報をファイルからスタイルにインポートします。

- 制限事項:** IMPORT ステートメントは、DEFINE STYLE テンプレートブロック内で使用する必要があります。
- 要件** CSS ファイルは、ODS HTML ステートメントによって生成される CSS と同じ形式で記述する必要があります。サポートされるのは、ODS スタイル要素名に一致するクラス名のみで、ID やコンテキストベースのセレクタは含まれません。ODS によって作成される CSS コードを表示するには、STYLESHEET=オプションを指定するか、または HTML ファイルのソースを表示して、ファイルトップのタグ間のコードを確認します。
- 例:** [“例 6: CSS ファイルのインポート” \(1045 ページ\)](#)

構文

```
IMPORT file-specification <media-type-1<, , media-type-10>>
```

必須引数

file-specification

CSS コードを含むファイル、fileref、URL を指定します。CSS コードをインポートしたら、PROC TEMPLATE と共に使用できるスタイル属性とスタイル要素に変換されます。

file-specification は次のいずれかです。

"*external-file*"

外部 CSS ファイルの名前。

要件 *external-file* は、引用符で囲む必要があります。

fileref

外部 CSS ファイルに割り当てられたファイル参照。fileref を割り当てるには、FILENAME ステートメントを使用します。

参照項目: FILENAME ステートメントの詳細は、*SAS ステートメント: リファレンス*を参照してください。

"*URL*"

外部 CSS ファイルへの URL。

要件 *external-file* は、引用符で囲む必要があります。

オプション引数

media-type-1 <, .. *media-type-10*>

出力がレンダリングされるメディアの種類に対応する複数のメディアブロック指定します。CSS では、ドキュメントが様々なメディア(たとえば、画面上、紙の上、音声合成、点字機器)で表示される仕組みを指定するためのメディアタイプブロックが使用されます。

メディアブロックは、任意のメディアブロックに含まれない CSS コードに加えて、出力に追加されます。*media-type* オプションを使用すると、一般的な CSS コードに加え、特定のメディアタイプ専用の CSS ファイルのセクションをインポートできます。

デフォルト: ODS ステートメント内で *media-type* を指定しなくても、CSS ファイルでメディアタイプを指定した場合、ODS では Screen メディアタイプが使用されます。

範囲: 最高 10 種類のメディアタイプを指定できます。

要件 複数の *media-types* はカンマで区切る必要があります。

ヒント: 複数のメディアタイプを指定する場合、すべてのメディアタイプのすべてのスタイル情報が出力に適用されます。ただし、異なるメディアブロック内でスタイル情報が重複する場合、最後のメディアブロックからのスタイルが使用されません。

NOTES ステートメント

スタイルに関する情報を提供します。

制限事項: NOTES ステートメントは、DEFINE STYLE テンプレートブロック内で使用する必要があります。

ヒント: NOTES ステートメントは、コンパイルされたスタイルテンプレートの一部となり、SOURCE ステートメントを使用して表示できます。ただし、SAS コメントは一部となりません。

構文

NOTES "*text*";

必須引数

"*text*"

スタイルに関する情報を提供します。

PARENT= ステートメント

現在のスタイルの継承元のスタイルを指定します。

制限事項: PARENT=ステートメントは、DEFINE STYLE テンプレートブロック内で使用する必要があります。

構文

PARENT=*style-path*;

必須引数

style-path

継承元のスタイルを指定します。

style-path は複数の名前から構成され、ピリオドで区切られます。それぞれの名前は、テンプレートストア内のディレクトリを表します。現在のスタイルは、現在のパス内の最初の読み取り可能なテンプレートストアで指定されたスタイルから継承されます。

親を指定する場合、親のスタイルテンプレートで指定されるスタイル要素、スタイル属性、ステートメントのすべてが現在のスタイルテンプレートで使用されます(ただし、現在のスタイルテンプレートによって上書きされない場合に限りです)。

SAS によって、いくつかのスタイルが提供されます。*style-path* の次のスタイルのいずれかを指定するか、またはユーザー定義スタイルを指定できます。SAS に現在組み込まれているスタイルには、次のものがあります。

- Styles.Default
- Styles.Journal
- Styles.Grayscaleprinter
- Styles.Banker
- Styles.Minimal
- Styles.Printer
- Styles.Statdoc

スタイルの最新リストの詳細や、スタイルの表示については、“[スタイルのコンテンツの表示](#)” (945 ページ) を参照してください。

制限事項: PARENT=ステートメントが指定される場合、PARENT=の参照先は Base.Template.Style 以外のスタイルにする必要があります。

REPLACE ステートメント

REPLACE ステートメントは現在サポートされていません。スタイル要素を作成および変更するには、STYLE ステートメントまたは CLASS ステートメントを使用してください。

STYLE ステートメント

複数のスタイル要素を作成または変更します。

制限事項: STYLE ステートメントは、DEFINE STYLE テンプレートブロック内で使用する必要があります。

例: “[例 1: スタンドアロンスタイルの作成](#)” (1008 ページ)

構文

STYLE *style-element-name(s)*

```
<FROM existing-style-element-name | _SELF_ ><"text">
</ style-attribute-specification(s)>;
```

必須引数

style-element-name

作成または変更する複数のスタイル要素を指定します。*style-element-name* が新しいスタイル要素の場合、PROC TEMPLATE では現在のスタイルでスタイル要素が保存されます。*style-element-name* によって、別の要素の親であるスタイル要素が上書きされる場合、親スタイルから継承されるものを含め、*style-element-name* のすべての子も新しい属性を継承します。

スタイル要素の継承は、次の一般ガイドラインに従って行われます。

- 似ている名前のスタイル要素がすでに子スタイルに存在し、それが FROM オプションを使用して作成されていない場合、子スタイルのスタイル要素によって、親スタイルの同名のスタイル要素は上書きされます。

- 似ている名前のスタイル要素がすでに子スタイルに存在し、それが FROM オプションを使用して作成されている場合、親スタイル要素からのスタイル属性は、子スタイルのスタイル要素に吸収されます。
- 属性が親スタイル内の似ている名前のスタイル要素で定義され、新しい似ている名前のスタイル要素の STYLE ステートメントで明示的に指定されない場合、FROM オプションを指定しないかぎり、属性は継承されません。
- スタイル内に複数の同じスタイル要素名があり、属性が複数回指定される場合、最後に指定した属性の値が使用されます。

要件 スタイル要素は、カンマで区切る必要があります。

参照項目: “ODS スタイル要素” (1387 ページ) スタイル要素のリストについては

例: スタイル要素リストを使用した STYLE ステートメントを参照してください:

```
style data, data1, dataempty from _self_ /
color = red
backgroundcolor = black;
```

このステートメントは、次の STYLE ステートメントと一緒に指定する場合に相当します。:

```
style data from data /
color = red
backgroundcolor = black;
style data1 from data1/
color = red
backgroundcolor = black;
style dataempty from dataempty /
color = red
backgroundcolor = black
```

例: “例 5: 1 つの STYLE ステートメントで複数のスタイル要素を定義する” (1040 ページ)

オプション引数

FROM *existing-style-element-name* | *_SELF_*

先行する *style-element-name* が *existing-style-element-name* からスタイル属性を継承するよう指定します。

existing-style-element-name

別のスタイル要素の参照元の既存スタイル要素を指定します。 *existing-style-element-name* の名前は、先行する *style-element-name* と同じにするか、または別のスタイル要素の名前にできます。スタイル要素は、現在のスタイルまたは親スタイルのいずれかに存在する必要があります。FROM オプションを使用したスタイル継承は、次の一般ガイドラインに従って行われます。

- 似ている名前のスタイル要素がすでに子スタイルに存在し、それが FROM オプションを使用して作成されていない場合、子スタイルのスタイル要素によって、親スタイルの同名のスタイル要素は上書きされます。
- 似ている名前のスタイル要素がすでに子スタイルに存在し、それが FROM オプションを使用して作成されている場合、親スタイル要素からのスタイル属性は、子スタイルのスタイル要素に吸収されます。
- 属性が親スタイル内の似ている名前のスタイル要素で定義され、新しい似ている名前のスタイル要素の STYLE ステートメントで明示的に指定されない場合、FROM オプションを指定しないかぎり、属性は継承されません。

- PROC TEMPLATE では、最初に現在のスタイルにスタイル要素があるか検索されます。PROC TEMPLATE によってスタイル要素が検出されない場合、親スタイルを参照されます。

例: 次のステートメントによって、スタイル要素 Data2 がスタイル要素 Data1 から作成さ、かつ COLOR=BLACK スタイル属性が追加されるよう指定されます。

```
style data1 from data2 / color=black;
```

SELF

スタイル要素の親が新しいスタイル要素と同じ名前を持つよう指定します。

ヒント: 複数のスタイル要素を指定する場合、最も有効なのは **_SELF_** オプションです。

参照項目: “ODS スタイル要素” (1387 ページ) スタイル要素のリストについては

例: 次の STYLE ステートメントの、FROM **_SELF_** オプションが使用されます。:

```
style data, data1, dataempty from _self_ /
color = red backgroundcolor = black;
```

このステートメントは、次の STYLE ステートメントと一緒に指定する場合に相当します。:

```
style data from data /
color = red
backgroundcolor = black;

style data1 from data1 /
color = red
backgroundcolor = black;

style dataempty from dataempty /
color = red
backgroundcolor = black
```

style-attribute-specification(s)

新しいスタイル属性や、新しいスタイル要素用の既存スタイル属性への変更内容を指定します。*style-attribute-specification* のそれぞれには、次の一般的な形式が含まれます。

style-attribute-name=<>*style-attribute-value*

style-attribute-name

“スタイル属性テーブル” (969 ページ) にリスト表示されている属性名、またはユーザー定義スタイル属性の名前。

ヒント: *style-attribute-name* の参照先がユーザー定義属性の場合、名前は引用符で囲んでください。*style-attribute-name* の参照先が、“スタイル属性テーブル” (969 ページ) にリストで表示される属性の場合、名前を引用符で囲まないでください。

style-attribute-value

値を属性に割り当てます。“スタイル属性テーブル” (969 ページ) のテーブルから属性を指定する場合、属性の期待値の種類を指定してください。

style-attribute 値に関する詳細は、“スタイル属性値” (1004 ページ) を参照してください。

スタイル属性が子スタイル要素に継承されないようにします。

制限事項: スタイル内に複数のスタイル要素名があり、属性が複数回指定される場合、最後に指定した属性の値が使用されます。

ヒント:

親スタイル要素の属性は、継承または明示的に定義されるかどうかにかかわらず、FROM オプションを使用せずに STYLE ステートメントで指定することで、上書きしてください。

属性が親スタイル内の似ている名前のスタイル要素で定義され、新しい似ている名前のスタイル要素の STYLE ステートメントで明示的に指定されない場合、FROM オプションを指定しないかぎり、属性は継承されません。

"text"

STYLE ステートメントに関する情報を提供します。この種類のテキストは、コンパイルされたテンプレートの一部となり、SOURCE ステートメントを使用して表示できます。ただし、SAS コマンドはコンパイルされたスタイルの一部にはなりません。

スタイル属性の概要

スタイル属性によって影響を受けるのは、個別のセル、テーブル、ドキュメント、グラフ、HTML フレームの特性です。スタイル属性はスタイル要素内に存在し、[STYLE ステートメント \(965 ページ\)](#) または [CLASS ステートメント \(960 ページ\)](#) によって指定されます。属性のデフォルト値は、使用されるスタイルに応じて変わります。スタイル、スタイル要素、スタイル属性の詳細は、[“スタイル、スタイル要素、スタイル属性について” \(947 ページ\)](#) を参照してください。ODS 統計グラフでスタイル属性を使用する場合の詳細は、*SAS Graph Template Language: ユーザーガイド*におけるグラフの外観制御に関する章を参照してください。

スタイル属性は、SAS によって提供されるか、またはユーザーが定義できます。スタイル属性は、スタイル参照を使用して参照できます。詳細は、[“スタイル参照について” \(951 ページ\)](#) および [“style-reference” \(1007 ページ\)](#) を参照してください。

属性の実装は、出力をフォーマットする ODS 出力先に応じて異なります。HTML 出力を作成する場合、属性の実装は使用するブラウザに応じて異なります。スタイル内の属性を表示する場合の詳細は、[“スタイルのコンテンツの表示” \(945 ページ\)](#) を参照してください。

スタイル属性によって指定できる値のリストについては、[“スタイル属性値” \(1004 ページ\)](#) を参照してください。スタイル属性を指定できるスタイル要素のリストについては、[“ODS スタイル要素” \(1387 ページ\)](#) を参照してください。

関連項目:

- スタイル属性で使用できるスタイル要素のテーブルについては、[“ODS スタイル要素” \(1387 ページ\)](#) を参照してください。
- スタイル属性とスタイル要素と一緒に使用する場合の詳細は、[“スタイル参照について” \(951 ページ\)](#) を参照してください。
- スタイル属性値の詳細は、[“スタイル属性値” \(1004 ページ\)](#) を参照してください。

スタイル属性テーブル

次のスタイル属性とそのエイリアスの詳細は、“すべてのスタイル属性の詳細情報”(978 ページ)を参照してください。

表 13.2 一般スタイル属性表

属性	タスク	出力先	影響を受けるアイテム
“ABSTRACT= ON OFF” (p. 978)	HTML ドキュメント内で使用されるスタイルが、CSS または LaTeX スタイルファイルで使用されるかどうかを指定する	マークアップファミリー	HTML ドキュメント
“ACTIVELINKCOLOR=color” (p. 978)	クリック後(ただし、ブラウザで当該ファイルが開くまでに HTML ドキュメント内のリンクが変化する色を指定する	マークアップファミリー	HTML ドキュメント
“ASIS=ON OFF” (p. 979)	HTML ドキュメント内の先頭のスペースと改行の処理方法を指定する	マークアップファミリー、プリンタファミリー、RTF	セルと HTML ドキュメント
“BACKGROUNDCOLOR= color” (p. 979)	テーブル、セル、グラフの背景色を指定する	マークアップファミリー、プリンタファミリー、RTF	セル、テーブル、グラフ
“BACKGROUNDIMAGE=“string”” (p. 979)	背景として使用する画像を指定する	マークアップファミリー、PCL、PS	セル、テーブル、グラフ
“BACKGROUNDPOSITION=position” (p. 979)	テーブル、セル、グラフの背景位置を指定する	マークアップファミリー、プリンタファミリー、RTF	テーブル、グラフ、HTML ドキュメント
“BACKGROUNDREPEAT= option” (p. 980)	画像を横に繰り返す、縦に繰り返す、縦と横に繰り返す、繰り返さないを指定する	マークアップファミリー	個別のテーブル、セル、グラフ
“BODYSROLLBAR=YES NO AUTO” (p. 980)	ボディファイルを参照するフレーム内にスクロールバーを付けるかどうかを指定する	マークアップファミリー	HTML 出力内の個別フレーム
“BODYSIZE= dimension dimension% * ” (p. 981)	HTML フレームファイル内でボディファイルを表示するフレームの幅を指定する	マークアップファミリー	HTML 出力内の個別フレーム

属性	タスク	出力先	影響を受けるアイテム
“BORDERBOTTOMCOLOR=color” (p. 981)	テーブルの下罫線の色を指定する	マークアップファミリー、プリンタファミリー、RTF、測定 RTF	テーブルの下罫線
“BORDERBOTTOMSTYLE= line-style” (p. 981)	選択したセルの下罫線のラインスタイルを指定する	マークアップファミリー、RTF、測定 RTF	セルの下罫線
“BORDERBOTTOMWIDTH=dimension” (p. 981)	テーブルの下罫線の幅を指定する	マークアップファミリー、プリンタファミリー、RTF、測定 RTF	テーブルの下罫線
“BORDERCOLLAPSE= COLLAPSE SEPARATE” (p. 982)	罫線を重ねて表示するか、間隔をあけて表示するかを指定する	マークアップファミリー、プリンタファミリー、RTF、測定 RTF	テーブル
“BORDERCOLOR= color” (p. 982)	罫線が 1 色の場合、テーブルまたはセル内の罫線の色を指定する	マークアップファミリー、プリンタファミリー、RTF、測定 RTF	個別のテーブル、グラフ
“BORDERCOLORDARK= color” (p. 982)	2 色を使用して 3 次元効果を作成する際に、罫線で使用する暗色を指定する	マークアップファミリー、プリンタファミリー	個別のテーブル、グラフ
“BORDERCOLORLIGHT= color” (p. 982)	2 色を使用して 3 次元効果を作成する際に、罫線で使用する明色を指定する	マークアップファミリー、プリンタファミリー	個別のテーブル、グラフ
“BORDERLEFTCOLOR=color” (p. 982)	テーブルの左罫線の色を指定する	マークアップファミリー、プリンタファミリー、RTF、測定 RTF	テーブルの左罫線
“BORDERLEFTSTYLE= line-style” (p. 982)	指定したセルの左罫線のラインスタイルを指定する	マークアップファミリー、RTF、測定 RTF	指定したセルの左罫線
“BORDERLEFTWIDTH=dimension” (p. 983)	テーブルの左罫線の幅を指定する	マークアップファミリー、プリンタファミリー、RTF、測定 RTF	テーブルの左罫線
“BORDERRIGHTCOLOR=color” (p. 983)	テーブルの右罫線の色を指定する	マークアップファミリー、プリンタファミリー、RTF、測定 RTF	テーブルの右罫線
“BORDERRIGHTSTYLE= line-style” (p. 983)	選択したセルの右罫線のラインスタイルを指定する	マークアップファミリー、RTF、測定 RTF	選択したセルの右罫線

属性	タスク	出力先	影響を受けるアイテム
“BORDERRIGHTWIDTH=dimension” (p. 983)	テーブルの右罫線の幅を指定する	マークアップファミリー、プリンタファミリー、RTF、測定RTF	テーブルの右罫線
“BORDERSPACING=dimension” (p. 983)	テーブル内のセル間スペースの幅を指定する	マークアップファミリー、RTF、プリンタファミリー	テーブル
“BORDERTOPCOLOR=color” (p. 984)	テーブルの上罫線の色を指定する	マークアップファミリー、プリンタファミリー、RTF、測定RTF	テーブルの上罫線
“BORDERTOPSTYLE= line-style” (p. 984)	指定したセルの上罫線のラインスタイルを指定する	マークアップファミリー、RTF、測定RTF	指定したセルの上罫線
“BORDERTOPWIDTH=dimension” (p. 984)	テーブルの上罫線の幅を指定する	マークアップファミリー、プリンタファミリー、RTF、測定RTF	テーブルの上罫線
“BORDERWIDTH= dimension” (p. 984)	テーブルの罫線の幅を指定する	マークアップファミリー、RTF、プリンタファミリー	個別のテーブル、グラフ
“CELLPADDING=dimension dimension%” (p. 985)	テーブル内のセルコンテンツの上下左右それぞれについて、ホワイトスペースの数を指定する	マークアップファミリー、RTF、プリンタファミリー	テーブル
“CLASS="string"” (p. 985)	テーブルまたはセルのHTMLドキュメントで使用するスタイルシートクラスの名前を指定する	マークアップファミリー	個別のテーブル、グラフ
“COLOR=color” (p. 985)	テーブル、セル、グラフ内の前景色(主にテキスト色)を指定する	マークアップファミリー、RTF、プリンタファミリー	個別のテーブル、セル、グラフ
“CONTENTPOSITION=position” (p. 986)	コンテンツとページファイルを表示するフレームのフレームファイル内の位置を指定する	マークアップファミリー	HTML 出力内の個別フレーム
“CONTENTSCROLLBAR=YES NO AUTO” (p. 986)	コンテンツとページファイルを表示するフレームファイル内のフレームにスクロールバーを付けるかどうかを指定する	マークアップファミリー	HTML 出力内の個別フレーム
“CONTENTSIZE=dimension dimension % *” (p. 987)	コンテンツとページファイルを表示するフレームファイル内のフレーム幅を指定する	マークアップファミリー	HTML 出力内の個別フレーム

属性	タスク	出力先	影響を受けるアイテム
“CONTENTTYPE="string"” (p. 987)	ファイルではなく Web サーバーに直接送信される HTML ドキュメント内のページに関して、コンテンツタイプの値を指定する	マークアップファミリー	HTML 出力内の個別フレーム
“CONTRASTCOLOR=color” (p. 987)	マップの代替色を指定する	マークアップファミリー、RTF、プリンタファミリー	グラフ
“DOCTYPE="string"” (p. 988)	HTML ドキュメントの doctype 宣言全体を指定する	マークアップファミリー	HTML ドキュメント
“FILLRULEWIDTH= dimension” (p. 988)	テーブル内でテキスト周辺のスペース(テキストがない場合はセル全体)に指定した幅のルールを配置する(それ以外はホワイトスペースが表示される)	プリンタファミリー	HTML ドキュメント
“FLYOVER="string"” (p. 988)	セルのデータチップで表示するテキストを指定する	マークアップファミリー、PDF	個別のセル
“FONT=font-definition” (p. 989)	テーブル、セル、グラフ内で使用するフォント定義を指定する	マークアップファミリー、RTF、プリンタファミリー	個別のテーブル、セル、グラフ
“FONTFAMILY="string-1<..., string-n>"” (p. 989)	セルとグラフ内で使用するフォントを指定する	マークアップファミリー、RTF、プリンタファミリー	個別のテーブル、セル、グラフ
“FONTSIZE=dimension size” (p. 989)	テーブル、セル、グラフのフォントサイズを指定する	マークアップファミリー、RTF、プリンタファミリー	個別のテーブル、セル、グラフ
“FONTSTYLE= ITALIC ROMAN SLANT” (p. 990)	テーブル、セル、グラフのフォントスタイルを指定する	マークアップファミリー、RTF、プリンタファミリー	個別のテーブル、セル、グラフ
“FONTWEIGHT= weight” (p. 990)	テーブル、セル、グラフのフォントウェイトを指定する	マークアップファミリー、RTF、プリンタファミリー	個別のテーブル、セル、グラフ
“FONTWIDTH=relative-width” (p. 990)	テーブル、セル、グラフの通常デザイン幅と比較した、テーブル、セル、グラフのフォント幅を指定する	マークアップファミリー、RTF、プリンタファミリー	個別のテーブル、セル、グラフ
“FRAME=frame-type” (p. 991)	テーブルで使用するフレームの種類を指定する	マークアップファミリー、RTF、プリンタファミリー	テーブル

属性	タスク	出力先	影響を受けるアイテム
“FRAMEBORDER=ON OFF” (p. 991)	フレームを使用する HTML ファイルのフレームの周りに罫線を付けるかどうかを指定する	マークアップファミリー	HTML 出力内の個別フレーム
“FRAMEBORDERWIDTH=dimension” (p. 992)	フレームを使用する HTML ファイルのフレームの周りの罫線幅を指定する	マークアップファミリー	HTML 出力内の個別フレーム
“FRAMESPACING=dimension” (p. 992)	フレームを使用する HTML のフレーム間のスペース幅を指定する	マークアップファミリー	HTML 出力内の個別フレーム
“HEIGHT=dimension ” (p. 992)	HTML ドキュメント内のセル、グラフ、グラフィックの高さを指定する ¹	マークアップファミリー、RTF、プリンタファミリー	セル、HTML ドキュメント、グラフ
“HREFTARGET=target ” (p. 992)	リンクターゲットを開くウィンドウまたはフレームを指定する	マークアップファミリー	個別のセル
“HTMLID="string"” (p. 993)	テーブルまたはセルの ID を指定する	マークアップファミリー	個別のテーブル、グラフ
“HTMLSTYLE="string"” (p. 993)	HTML ドキュメント内のテーブルまたはセルの個別の属性と値を指定する	マークアップファミリー	個別のテーブル、グラフ
“IMAGE="string"” (p. 993)	グラフに表示する画像を指定する	マークアップファミリー、プリンタファミリー、RTF	グラフ
“LINKCOLOR=color” (p. 994)	未アクセスの HTML ドキュメント内のリンクの色を指定する	マークアップファミリー、プリンタファミリー、RTF	HTML ドキュメント
“LISTENTRYANCHOR=ON OFF ” (p. 994)	目次内のエントリをボディファイルへのリンクにするかどうかを指定する	マークアップファミリー	HTML ドキュメント
“LISTSTYLETYPE=string” (p. 994)	コンテンツファイル内の箇条書きに使用する文字列を指定する	マークアップファミリー	HTML 出力内の個別フレーム
“MARGINBOTTOM= dimension” (p. 995)	HTML ドキュメントの下余白を指定する	マークアップファミリー、プリンタファミリー、RTF	HTML ドキュメント
“MARGINLEFT=dimension” (p. 995)	HTML ドキュメントの左余白を指定する	マークアップファミリー、プリンタファミリー、RTF	HTML ドキュメント
“MARGINRIGHT=dimension” (p. 995)	HTML ドキュメントの右余白を指定する	マークアップファミリー、プリンタファミリー、RTF	HTML ドキュメント

属性	タスク	出力先	影響を受けるアイテム
“MARGINTOP= dimension” (p. 995)	HTML ドキュメントの上余白を指定する	マークアップファミリー、プリンタファミリー、RTF	HTML ドキュメント
“NOBREAKSPACE= ON OFF ” (p. 996)	スペース文字の処理方法を指定する	マークアップファミリー、プリンタファミリー、RTF	個別のセル
“OVERHANGFACTOR= nonnegative-number” (p. 996)	HTML ドキュメント内の列幅の拡張上限を指定する	マークアップファミリー、プリンタファミリー	HTML ドキュメント
“PADDING=dimension dimension%” (p. 996)	セルコンテンツと罫線間のホワイトスペースの数を指定する	マークアップファミリー、RTF、プリンタファミリー	テーブル
“PADDINGBOTTOM=dimension dimension%” (p. 996)	テーブル内のセルコンテンツの下部について、ホワイトスペースの数を指定する	マークアップファミリー、RTF、プリンタファミリー	テーブル
“PADDINGLEFT=dimension dimension%” (p. 997)	テーブル内のセルコンテンツの左側について、ホワイトスペースの数を指定する	マークアップファミリー、RTF、プリンタファミリー	テーブル
“PADDINGRIGHT=dimension dimension%” (p. 997)	テーブル内のセルコンテンツの右側について、ホワイトスペースの数を指定する	マークアップファミリー、RTF、プリンタファミリー	テーブル
“PADDINGTOP=dimension dimension%” (p. 997)	テーブル内のセルコンテンツの上部について、ホワイトスペースの数を指定する	マークアップファミリー、RTF、プリンタファミリー	テーブル
“PAGEBREAKHTML= "string"” (p. 997)	HTML ドキュメント内の改ページに配置する HTML を指定する	マークアップファミリー	テーブル、セル、HTML ドキュメント
“POSTHTML= "string"” (p. 997)	テーブルまたはセルの後に配置する HTML コードを指定する	マークアップファミリー	個別のテーブル、グラフ
“POSTIMAGE= "string" fileref” (p. 997)	テーブルまたはセルの前に配置する画像を指定する	マークアップファミリー	個別のテーブル、グラフ
“POSTTEXT= "string"” (p. 998)	セルまたはテーブルの後に配置するテキストを指定する	マークアップファミリー、プリンタファミリー、RTF	個別のテーブル、グラフ
“PREHTML="string"” (p. 998)	テーブルまたはセルの前に配置する HTML コードを指定する	マークアップファミリー	個別のテーブル、グラフ
“PREIMAGE= "string" fileref” (p. 998)	テーブルまたはセルの前に配置する画像を指定する	マークアップファミリー、プリンタファミリー、RTF	個別のテーブル、グラフ

属性	タスク	出力先	影響を受けるアイテム
“PRETEXT="string"” (p. 998)	セルまたはテーブルの前に配置するテキストを指定する	マークアップファミリー、プリンタファミリー、RTF	個別のテーブル、グラフ
“PROTECTSPECIALCHARS=ON OFF AUTO” (p. 999)	より小記号(<)、より大記号(>)、アンパサンド(&)がどのようにセル内で解釈されるかを指定する	マークアップファミリー、プリンタファミリー、RTF	個別のテーブル、グラフ
“RULES=rule-type” (p. 999)	テーブル内で使用するルールの種類を指定する	マークアップファミリー、プリンタファミリー、RTF	テーブル
“STARTCOLOR= color” (p. 999)	グラフの塗りつぶし開始色を指定する	HTML	グラフ
“TAGATTR="string"” (p. 1000)	HTML に挿入するテキストを指定する	マークアップファミリー	個別のセル
“TEXTALIGN=alignment” (p. 1000)	テーブル、セル、グラフ内の両端揃えを指定する	プリンタファミリー、RTF	個別のテーブル、セル、グラフ
“TEXTDECORATION=presentation-options” (p. 1001)	テキストの表示を変更する	マークアップファミリー、RTF、プリンタファミリー	個別のテーブル、グラフ
“TEXTINDENT=n” (p. 1001)	出力の最初の行がインデントされる場合のスペースの数を指定する	マークアップファミリー、RTF、プリンタファミリー	個別のテーブル、グラフ
“TEXTJUSTIFY= INTER_WORD INTER_CHARACTER” (p. 1001)	テキストの単語を均等割り付けにするか、または両端揃えにするかを指定する	HTML、RTF、TAGSETS.RTF	タイトル、脚注、テキスト
“TRANSPARENCY=dimension” (p. 1002)	グラフの透明度を指定する	HTML	グラフ
“URL="uniform-resource-locator"” (p. 1002)	リンク先の URL を指定する	マークアップファミリー、RTF、プリンタファミリー	個別のセル
“VERTICALALIGN= BOTTOM MIDDLE TOP ” (p. 1002)	縦方向の両端揃えを指定する	マークアップファミリー、プリンタファミリー、RTF	個別のセルとグラフ
“VISITEDLINKCOLOR= color” (p. 1002)	HTML ドキュメント内のアクセス済みリンクの色を指定する	マークアップファミリー	HTML ドキュメント
“WATERMARK= ON OFF” (p. 1002)	BACKGROUNDIMAGE= によって指定される画像を"ウォーターマーク"にするかどうかを指定する	マークアップファミリー	HTML ドキュメント

属性	タスク	出力先	影響を受けるアイテム
“WHITESPACE=options” (p. 1003)	ブラウザで複数のホホワイトスペース文字と改行を処理する方法を指定する	マークアップファミリ、プリンタファミリ、RTF、測定RTF	テキスト行
“WIDTH= dimension ” (p. 1003)	セル、テーブル、ライン、グラフの幅を指定する	マークアップファミリ、プリンタファミリ、RTF	テーブル

¹この属性は、表の別の項で説明したように、他の特性に影響を与えるためにも使用されます

注: スタイル属性には、値 `_UNDEF_` を使用できます。ODS では、`_UNDEF_` に設定される属性は、親以上の階層でも、その値が設定されたことがないように処理されず。

グラフィックスタイル属性は、デバイスベースのグラフィックまたはテンプレートベースのグラフィック(ODS グラフィック)のグラフィックスタイル要素で使用されます。スタイル要素が異なると、有効なスタイル属性も異なります。スタイル要素と、それぞれに有効なスタイル属性の表については、“[テンプレートベースのグラフィックに影響するスタイル要素](#)” (1398 ページ) および “[デバイスベースのグラフィックに影響するスタイル要素](#)” (1405 ページ) を参照してください。

デバイスベースのグラフィックはすべての SAS/GRAPH 出力で、この出力には、グラフィック出力の特定のアスペクトを制御するユーザー指定またはデフォルトのデバイス (DEVICE=オプション) があります。提供されるデバイスドライバは、Sashelp.Devices カタログに保存されます。デバイスドライバの例としては、SASPRTC、GIF、WIN、ACTIVEX、PDF、SVG があります。デバイスベースのグラフィックを生成する共通の SAS/GRAPH プロシジャは、GPLOT、GCHART、GMAP です。大半のデバイスベースのグラフィックは、出力として GRSEG カタログエントリを生成し、GOPTIONS ステートメントを使用してグラフィック環境を制御します。

テンプレートベースのグラフィックには、すべての SAS/GRAPH 出力が含まれ、この出力では、グラフィック出力を生成する上で STATGRAPH 型のコンパイル済み ODS テンプレートが使用されます。提供されるテンプレートは、Sashelp.Tmplmst に保存されず。デバイスドライバと、SYMBOL、PATTERN、AXIS、LEGEND などの一部のグローバルステートメントは、この形式のグラフィックに何の影響も及ぼしません。テンプレートベースのグラフィックを生成する共通の SAS/GRAPH プロシジャは、多数の SAS/STAT、SAS/ETS、SAS/QC プロシジャの他にも、SGPLOT、SGPANEL、SGRENDER があります。ODS グラフィックは、常に画像ファイルとして出力を生成し、ODS GRAPHICS ステートメントを使用してグラフィック環境を制御します。

表 13.3 グラフィックスタイル属性表

属性	タスク	グラフィック環境	影響を受けるアイテム
“BACKGROUNDIMAGE=“string”” (p. 979)	画像ファイルパスを指定する	デバイスベースのグラフィック	伸縮可能な画像 (グラフ、チャート、ウォール、フロアには配置不可能)
“CAPSTYLE=line-shape” (p. 985)	箱ひげグラフの最後の線の形状を指定する	テンプレートベースのグラフィック	箱ひげの最後の線の形状

属性	タスク	グラフィック環境	影響を受けるアイテム
“COLOR=color” (p. 985)	テーブル、セル、グラフ内の前景色(主にテキスト色)を指定する	全グラフィック環境	グラフ、ウォール、フロアの背景色。テキスト色
“CONNECT=connect-line-type” (p. 985)	ボックスプロット接続ラインの特性を指定する	テンプレートベースのグラフィック	ボックスプロット接続ライン
“CONTRASTCOLOR=color” (p. 987)	ラインまたはマーカーの色を指定する	テンプレートベースのグラフィック	ラインまたはマーカーの色
“DISPLAYOPTS="display-feautre”” (p. 987)	グラフの表示特性を指定する	テンプレートベースのグラフィック	ボックスプロット、楕円、ヒストグラム、バンドの表示特性
“DROPSHADOW= ON OFF ” (p. 988)	テキストに影付きの色を表示するかどうかを指定する	デバイスベースのグラフィック	テキストの影付きの色
“ENDCOLOR=color ” (p. 988)	2色/3色ランプで使用する最終色を指定する	全グラフィック環境	等高線、凡例(グラデーション)
“FONT=font-definition” (p. 989)	テーブル、セル、グラフ内で使用するフォント定義を指定する	全グラフィック環境	すべてのテキストフォント属性
“FONTFAMILY="string-1<..., string-n>” (p. 989)	セルとグラフ内で使用するフォントを指定する	全グラフィック環境	フォントファミリ
“FONTSIZE=dimension size” (p. 989)	テーブル、セル、グラフのフォントサイズを指定する	全グラフィック環境	フォントサイズ
“FONTSTYLE= ITALIC ROMAN SLANT” (p. 990)	テーブル、セル、グラフのフォントスタイルを指定する	全グラフィック環境	フォントスタイル
“FONTSTYLE= ITALIC ROMAN SLANT” (p. 990)	テーブル、セル、グラフのフォントウェイトを指定する	全グラフィック環境	フォントウェイト
“FRAMEBORDER=ON OFF” (p. 991)	グラフウォールに罫線を付けるかどうか指定する	全グラフィック環境	グラフウォール罫線
“GRADIENT_DIRECTION= “YAXIS” “XAXIS ”” (p. 992)	グラデーションの方向を指定する	デバイスベースのグラフィック	グラフの背景、凡例の背景、チャート、ウォール、フロア
“IMAGE="string”” (p. 993)	画像へのパスを指定する	デバイスベースのグラフィック	配置可能な画像(グラフ、チャート、ウォール、フロアには伸縮不可能)
“LINESTYLE=pattern-number” (p. 994)	ラインのパターンを指定する	全グラフィック環境	罫線、軸線、グリッド、基準線

属性	タスク	グラフィック環境	影響を受けるアイテム
“LINETHICKNESS=dimension” (p. 994)	ラインの太さを指定する	全グラフィック環境	ラインの太さ
“MARKERSIZE=dimension” (p. 995)	マーカサイズを指定する	全グラフィック環境	マーカサイズ
“MARKERSYMBOL=marker-symbol” (p. 995)	マーカ記号を指定する	全グラフィック環境	使用するマーカ
“NEUTRALCOLOR=color” (p. 996)	3色ランプの中間色を指定する	テンプレートベースのグラフィック	等高線、凡例(グラデーション)
“OUTPUTHEIGHT=dimension” (p. 996)	グラフの高さを指定する	全グラフィック環境	グラフの高さ
“OUTPUTWIDTH=dimension” (p. 996)	グラフの幅を指定する	全グラフィック環境	グラフの幅
“STARTCOLOR= color” (p. 999)	グラフの塗りつぶし開始色を指定する	全グラフィック環境	等高線、凡例(グラデーション)
“TEXTALIGN=alignment” (p. 1000)	画像の配置を指定する	デバイススペースのグラフィック	画像の横位置
“TICKDISPLAY= "INSIDE" "OUTSIDE" "ACROSS" ” (p. 1001)	すべての主/副軸の目盛りの配置を指定する	テンプレートベースのグラフィック	すべての主/副軸の目盛りの配置
“TRANSPARENCY=dimension” (p. 1002)	背景、塗りつぶし、ライン、マーカの透明度を指定する	全グラフィック環境	背景、塗りつぶし、ライン、マーカ
“VERTICALALIGN= BOTTOM MIDDLE TOP ” (p. 1002)	縦方向の両端揃えを指定する	デバイススペースのグラフィック	画像の縦位置

すべてのスタイル属性の詳細情報

ABSTRACT= ON | OFF

HTML ドキュメント内で使用されるスタイルが、CSS または LaTeX スタイルファイルで使用されるかどうかを指定します。

ON

CSS または LaTeX スタイルファイルでスタイルが使用されるよう指定します。

OFF

CSS または LaTeX スタイルファイルでスタイルが使用されないよう指定します。

制限事項: ABSTRACT=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先内のみです。

ACTIVELINKCOLOR=color

クリック後(ただし、ブラウザで当該ファイルが開くまで)に HTML ドキュメント内のリンクが変化する色を指定します。

制限事項: ACTIVELINKCOLOR=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先内のみです。

参照項目: [色スタイル属性値 \(1004 ページ\)](#)

ASIS=ON | OFF

HTML ドキュメント内の先頭のスペースと改行の処理方法を指定します。

ON

リスト出力と同様の方法で、先頭のスペースと改行を含むテキストを出力します。

OFF

先頭のスペースをトリミングし、改行を無視します。

デフォルト: OFF

制限事項: ASIS=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、プリンタファミリ出力先、RTF 出力先内のみです。

BACKGROUNDCOLOR=*color*

テーブル、セル、グラフの背景色を指定します。

別名: BACKGROUND=

制限事項: BACKGROUNDCOLOR=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、プリンタファミリ出力先、RTF 出力先内のみです。

操作: SAS/GRAPH GOPTIONS ステートメント内の CBACK=オプションによって、BACKGROUNDCOLOR=属性が上書きされます。

ヒント: 通常、セルの背景色によって、テーブルの背景色は上書きされます。テーブルの背景色が表示されるのは、セル間のスペースのみです (“BORDERSPACING=dimension” (983 ページ)を参照)。

参照項目: [色スタイル属性値 \(1004 ページ\)](#)

例:

“例 1: スタンドアロンスタイルの作成” (1008 ページ)

“例 3: CLASS ステートメントの使用” (1024 ページ)

BACKGROUNDIMAGE=*“string”*

背景として使用するテーブル、セル、グラフ内の画像を指定します。ビューアでは、プロシジャによって生成される HTML テーブルやグラフの背景として画像が並べられたり、引き伸ばされたりされます。グラフの場合、指定した画像が引き伸ばされます。

string

GIF または JPEG ファイルの名前。短いファイル名、完全パス、URL。ただし、最も用途が広い方法は、短いファイル名を使用し、全画像ファイルをローカルディレクトリ内に保存することです。

制限事項: BACKGROUNDIMAGE=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、PCL 出力先、PS 出力先のみです。

操作: BACKGROUNDIMAGE=属性は、SAS/GRAPH GOPTIONS ステートメント内の IBACK=および IMAGESTYLE=FIT オプションによって上書きされます。

参照項目: [文字列属性値 \(1008 ページ\)](#)

BACKGROUNDPOSITION=*position*

テーブル、セル、グラフの背景位置を指定します。

position は次のいずれかになります。

- BOTTOM
- BOTTOM_CENTER
- BOTTOM_LEFT
- BOTTOM_RIGHT

- CENTER
- CENTER_BOTTOM
- CENTER_CENTER
- CENTER_LEFT
- CENTER_RIGHT
- CENTER_TOP
- LEFT
- LEFT_BOTTOM
- LEFT_CENTER
- LEFT_TOP
- RIGHT
- RIGHT_BOTTOM
- RIGHT_CENTER
- RIGHT_TOP
- TOP
- TOP_CENTER
- TOP_LEFT
- TOP_RIGHT

デフォルト: TOP_LEFT

BACKGROUNDREPEAT= *option*

画像を横に繰り返す、縦に繰り返す、縦と横に繰り返す、繰り返さないを指定します。*option* は次のいずれかになります。

NO_REPEAT

画像を繰り返さないよう指定します。

REPEAT

画像を縦と横の両方で繰り返すよう指定します。

REPEAT_X

画像を横に繰り返すよう指定します。

REPEAT_Y

画像を縦に繰り返すよう指定します。

制限事項: BACKGROUNDREPEAT 属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先内のみです。

BODYSCROLLBAR=YES | NO | AUTO

ボディファイルを参照するフレーム内にスクロールバーを付けるかどうかを指定します。

YES

ボディファイルを参照するフレーム内にスクロールバーを付けます

NO

ボディファイルを参照するフレーム内にスクロールバーを付けないよう指定します。

AUTO

必要な場合のみボディファイルを参照するフレーム内にスクロールバーを付けます。

制限事項: BODYSCROLLBAR=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先内のみです。

ヒント: 通常、BODYSCROLLBAR=は AUTO に設定されます。

BODYSIZE= *dimension* | *dimension*% | *

HTML フレームファイル内でボディファイルを表示するフレームの幅を指定します。

dimension

負以外の数値、全体表示のパーセンテージとして指定されたフレームの幅。

*

CONTENTSIZE=属性によって指定されるコンテンツとページファイルの表示後に残されるどんなスペースも使用するよう指定します。

制限事項: BODYSIZE=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先内のみです。

ヒント: *dimension* が負以外の数値の場合、測定単位はピクセルです。

参照項目:

[寸法属性値 \(1006 ページ\)](#)

ODS によって作成される HTML ファイルの詳細は、“[HTML 出力先で作成される HTML リンクと参照](#)” (1373 ページ)を参照してください。

BORDERBOTTOMCOLOR=*color*

テーブルの下罫線の色を指定します。

制限事項: BORDERBOTTOMCOLOR=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、プリンタファミリ出力先、RTF 出力先、測定 RTF 出力先内のみです。

参照項目: [色スタイル属性値 \(1004 ページ\)](#)

BORDERBOTTOMSTYLE= *line-style*

指定したセルの下罫線のラインスタイルを指定します。

line-style

は次のいずれかになります。

- DASHED
- DOTTED
- DOUBLE
- GROOVE
- HIDDEN
- INSET
- OUTSET
- RIDGE
- SOLID

制限事項: BORDERBOTTOMSTYLE=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、RTF 出力先、測定 RTF 出力先のみです。

BORDERBOTTOMWIDTH=*dimension*

テーブルの下罫線の幅を指定します。

制限事項: BORDERBOTTOMWIDTH=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、RTF 出力先、プリンタファミリ出力先、測定 RTF 出力先内のみです。

参照項目: [寸法属性値 \(1006 ページ\)](#)

BORDERCOLLAPSE= COLLAPSE | SEPARATE

罫線を重ねて表示するか、間隔をあけて表示するかを指定します。

デフォルト: SEPARATE

BORDERCOLOR= color

罫線が 1 色の場合、テーブルまたはセル内の罫線の色を指定します。

制限事項: BORDERCOLOR=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、RTF 出力先、プリンタファミリ出力先、測定 RTF 出力先内のみです。

参照項目: [色スタイル属性値 \(1004 ページ\)](#)

BORDERCOLORDARK= color

テーブルまたはセル内で、2 色を使用して 3 次元効果を作成する際に、罫線を使用する暗色を指定します。

制限事項: BORDERCOLORDARK=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先とプリンタファミリ出力先内のみです。

操作: BORDERCOLORDARK スタイル属性は、HTML4 基準に含まれないため、HTML4 出力で無視されます。HTML4 出力で色罫線を作成するには、BORDERCOLOR=スタイル属性を使用してください。

参照項目: [色スタイル属性値 \(1004 ページ\)](#)

例: “例 4: テーブルスタイルとグラフスタイルの定義” (1032 ページ)

BORDERCOLORLIGHT= color

テーブルまたはセル内で、2 色を使用して 3 次元効果を作成する際に、罫線を使用する明色を指定します。

制限事項: BORDERCOLORLIGHT=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先とプリンタファミリ出力先内のみです。

操作: BORDERCOLORLIGHT スタイル属性は、HTML4 基準に含まれないため、HTML4 出力の作成時に無視されます。HTML4 出力で色罫線を作成するには、BORDERCOLOR=スタイル属性を使用してください。

参照項目: [色スタイル属性値 \(1004 ページ\)](#)

例: “例 4: テーブルスタイルとグラフスタイルの定義” (1032 ページ)

BORDERLEFTCOLOR=color

テーブルの左罫線の色を指定します。

制限事項: BORDERLEFTCOLOR=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、RTF 出力先、プリンタファミリ出力先、測定 RTF 出力先内のみです。

参照項目: [色スタイル属性値 \(1004 ページ\)](#)

BORDERLEFTSTYLE= line-style

指定したセルの左罫線のラインスタイルを指定します。

line-style

は次のいずれかになります。

- DASHED
- DOTTED
- DOUBLE
- GROOVE
- HIDDEN

- INSET
- OUTSET
- RIDGE
- SOLID

制限事項: BORDERLEFTSTYLE=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、RTF 出力先、測定 RTF 出力先のみです。

BORDERLEFTWIDTH=dimension

テーブルの左罫線の幅を指定します。

制限事項: BORDERLEFTWIDTH=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、RTF 出力先、プリンタファミリ出力先、測定 RTF 出力先内のみです。

参照項目: [寸法属性値 \(1006 ページ\)](#)

BODERRIGHTCOLOR=color

テーブルの右罫線の色を指定します。

制限事項: BODERRIGHTCOLOR=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、RTF 出力先、プリンタファミリ出力先、測定 RTF 出力先内のみです。

参照項目: [色スタイル属性値 \(1004 ページ\)](#)

BODERRIGHTSTYLE=line-style

選択したセルの右罫線のラインスタイルを指定します。

line-style

は次のいずれかになります。

- DASHED
- DOTTED
- DOUBLE
- GROOVE
- HIDDEN
- INSET
- OUTSET
- RIDGE
- SOLID

制限事項: BODERRIGHTSTYLE=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、RTF 出力先、測定 RTF 出力先のみです。

BODERRIGHTWIDTH=dimension

テーブルの右罫線の幅を指定します。

制限事項: BODERRIGHTWIDTH=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、プリンタファミリ出力先、RTF 出力先、測定 RTF 出力先内のみです。

参照項目: [寸法属性値 \(1006 ページ\)](#)

BORDERSPACING=dimension

テーブル内のセル間スペースの幅を指定します。

別名: CELLSPACING=

デフォルト: 0

制限事項: BORDERSPACING=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、プリンタファミリ出力先、RTF 出力先内のみです。

操作: BORDERWIDTH=がゼロ以外で、セルの背景色がテーブルの背景色とコントラストになっている場合、セルスペースの色はテーブルの背景によって決まります。

参照項目: [寸法属性値 \(1006 ページ\)](#)

例:

“例 1: スタンドアロンスタイルの作成” (1008 ページ)

“例 3: CLASS ステートメントの使用” (1024 ページ)

BORDERTOPCOLOR=*color*

テーブルの上罫線の色を指定します。

制限事項:

BORDERTOPCOLOR=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、プリンタファミリ出力先、RTF 出力先、測定 RTF 出力先内のみです。

上罫線の色が必ず作成されるようにするには、RTF 出力に BORDERTOPWIDTH=および BORDERTOPCOLOR=属性を指定してください。RTF 出力先の場合、BORDERTOPWIDTH=属性と連動して BORDERTOPCOLOR=属性を指定し、上罫線の色が必ず作成されるようにしてください。

参照項目: [色スタイル属性値 \(1004 ページ\)](#)

BORDERTOPSTYLE=*line-style*

指定したセルの上罫線のラインスタイルを指定します。

line-style

は次のいずれかになります。

- DASHED
- DOTTED
- DOUBLE
- GROOVE
- HIDDEN
- INSET
- OUTSET
- RIDGE
- SOLID

制限事項:

BORDERTOPSTYLE=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、RTF 出力先、測定 RTF 出力先のみです。

RTF 出力先の場合、BORDERTOPWIDTH=属性と連動して BORDERTOPSTYLE=属性を指定し、上罫線のスタイルが必ず指定したスタイルになるようにしてください。

BORDERTOPWIDTH=*dimension*

テーブルの上罫線の幅を指定します。

制限事項: BORDERTOPWIDTH=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、プリンタファミリ出力先、RTF 出力先、測定 RTF 出力先内のみです。

参照項目: [寸法属性値 \(1006 ページ\)](#)

BORDERWIDTH=*dimension*

テーブルの罫線の幅を指定します。

制限事項: BORDERWIDTH=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、プリンタファミリ出力先、RTF 出力先内のみです。

ヒント: 通常、BORDERWIDTH=0 の場合、ODS 出力先によって RULES=NONE (“RULES=rule-type” (999 ページ) の説明参照) および FRAME=VOID (“FRAME=frame-type” (991 ページ) の説明参照) に設定されます。

参照項目: 寸法属性値 (1006 ページ)

例:

“例 1: スタンドアロンスタイルの作成” (1008 ページ)

“例 3: CLASS ステートメントの使用” (1024 ページ)

CAPSTYLE=*line-shape*

箱ひげグラフの最後の線の形状を指定します。*line-shape* は次のいずれかになります。

- "BRACKET"
- "LINE"
- "NONE"
- "SERIF"

CELLPADDING=*dimension* | *dimension*%

テーブル内のセルコンテンツの上下左右それぞれについて、ホワイトスペースの数を指定します。

dimension

負以外の数値、またはテーブルのパーセンテージとして指定されるセル内の上下左右それぞれについてのホワイトスペースの数。

制限事項: CELLPADDING=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、プリンタファミリ出力先、RTF 出力先内のみです。

参照項目: 寸法属性値 (1006 ページ)

例: “例 3: CLASS ステートメントの使用” (1024 ページ)

CLASS="*string*"

テーブルまたはセルの HTML ドキュメントで使用するスタイルシートクラスの名前を指定します。

別名: HTMLCLASS=

制限事項: CLASS=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先内のみです。

参照項目: 文字列属性値 (1008 ページ)

COLOR=*color*

テーブル、セル、グラフ内の前景色(主にテキスト色)を指定します。

別名: FOREGROUND=

制限事項: COLOR=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、プリンタファミリ出力先、RTF 出力先内のみです。

操作: COLOR=属性は、SAS/GRAPH GOPTIONS ステートメント内の CBACK=オプションによって上書きされます。

ヒント: テーブル内で COLOR=属性によって影響を受けるのは、PRETEXT=、POSTTEXT=、PREHTML=、POSTHTML=属性を使用して指定されるテキストのみです。テーブル内に表示されるテキストのフォントを変更するには、セルの属性を設定します。

参照項目: 色スタイル属性値 (1004 ページ)

例: “例 3: CLASS ステートメントの使用” (1024 ページ)

CONNECT=*connect-line-type*

ボックスプロットの接続ラインの特性を指定します。*connect-line-type* は次のいずれかになります。

- "MAX"
- "MEAN"
- "MEDIAN"
- "MIN"
- "Q1"
- "Q3"

CONTENTPOSITION=*position*

フレームファイル内で、コンテンツとページファイルを表示するフレームの位置を指定します。*position* は次のいずれかになります。

LEFT

フレームを左側に配置します。

別名: L

RIGHT

フレームを右側に配置します。

別名: R

TOP

フレームを上部に配置します。

別名: T

BOTTOM

フレームを下部に配置します。

別名: B

制限事項: CONTENTPOSITION=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先内のみです。

参照項目: ODS によって作成される HTML ファイルの詳細は、“[HTML 出力先で作成される HTML リンクと参照](#)” (1373 ページ)を参照してください。

CONTENTSCROLLBAR=YES | NO |AUTO

コンテンツとページファイルを表示するフレームファイル内のフレームにスクロールバーを付けるかどうかを指定します。(ODS によって作成される HTML ファイルの詳細は、“[HTML 出力先で作成される HTML リンクと参照](#)” (1373 ページ)を参照してください)

YES

コンテンツとページファイルを表示するフレームファイル内のフレームにスクロールバーを付けます。

NO

コンテンツとページファイルを表示するフレームファイル内のフレームにスクロールバーを付けないう指定します。

AUTO

当該パネル内のコンテンツが大きすぎるためスクロールが必要な場合のみ、ブラウザで目次フレームにスクロールバーを付けるよう指定します。

制限事項: CONTENTSCROLLBAR=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先内のみです。

ヒント: 通常、CONTENTSCROLLBAR=は AUTO に設定されます。

参照項目: ODS によって作成される HTML ファイルの詳細は、“[HTML 出力先で作成される HTML リンクと参照](#)” (1373 ページ)を参照してください。

CONTENTSIZE=dimension | dimension % | *

コンテンツとページファイルを表示するフレームファイル内のフレーム幅を指定します。

dimension

負以外の数値、全体表示のパーセンテージとして指定されたフレームの幅。

*

BODYSIZE=属性によって指定されるボディファイルの表示後に残されるどんなスペースも使用するよう指定します。

制限事項: CONTENTSIZE=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先内のみです。

要件 *dimension %*は、0~100 の正の数値にしてください。

ヒント: *dimension* 負以外の数値の場合、測定単位はピクセルです。

参照項目:

[寸法属性値 \(1006 ページ\)](#)

“BODYSIZE= dimension | dimension% | * ” (981 ページ)

ODS によって作成される HTML ファイルの詳細は、“HTML 出力先で作成される HTML リンクと参照” (1373 ページ)を参照してください。

CONTENTTYPE="string"

ファイルではなく Web サーバーに直接送信される HTML ドキュメント内のページに関して、コンテンツタイプの値を指定します。

string

ページのコンテンツタイプの値。

要件 *string* は引用符で囲む必要があります。

ヒント: *string* の値は通常は“text/html”です。

参照項目: [文字列属性値 \(1008 ページ\)](#)

別名: HTMLCONTENTTYPE=

制限事項: CONTENTTYPE=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先内のみです。

CONTRASTCOLOR=color

マップの代替色を指定します。代替色は、ブロックマップ内の領域上のブロックに適用されます。

制限事項: CONTRASTCOLOR=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、プリンタファミリ出力先、RTF 出力先内のみです。

参照項目: [色スタイル属性値 \(1004 ページ\)](#)

DISPLAYOPTS="display-feautre"

ODS グラフの複数の表示機能を指定します。複数の機能を指定するには、機能リストを引用符で囲んでください(例: `displayopts="fill caps mean"`)。"display-feautre"は次のいずれかになります。

CAPS

ひげ線の終端を表示します。

制限事項: CAPS を使用できるのは、ボックスプロットのみです。

CONNECT

ライン接続マルチプルボックスを表示します。

制限事項: CONNECT を使用できるのは、ボックスプロットのみです。

FILL

塗りつぶしたボックス、バー、楕円、バンドを表示します。

制限事項: FILL を使用できるのは、ボックスプロット、ヒストグラム、楕円、信頼バンドのみです。

MEAN

ボックス内の平均記号を表示します。

制限事項: MEAN を使用できるのは、ボックスプロットのみです。

MEDIAN

ボックス内の中間ラインを表示します。

NOTCHES

刻みボックスを表示します。

制限事項: NOTCHES を使用できるのは、ボックスプロットのみです。

OUTLIERS

外れ値のマーカ―を表示します。

制限事項: OUTLIERS を使用できるのは、ボックスプロットのみです。

OUTLINE

中抜き楕円とバーを表示します。

制限事項: OUTLINE を使用できるのは、楕円、バンド、ヒストグラムのみです。

要件 `"display-feautre"` は、引用符で囲んでください。

DOCTYPE="*string*"

開始“<!DOCTYPE”と終了“>”などの HTML ドキュメントの doctype 宣言全体を指定します。

string

doctype 宣言。

要件 *string* は引用符で囲む必要があります。

参照項目: [文字列属性値 \(1008 ページ\)](#)

別名: HTMLDOCTYPE=

制限事項: DOCTYPE=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先内のみです。

DROPSHADOW= ON | OFF

テキストに影付きの色を表示するかどうかを指定します。

ENDCOLOR=*color*

2 色/3 色ランプで使用する最終色を指定します。

参照項目: [色スタイル属性値 \(1004 ページ\)](#)

FILLRULEWIDTH= *dimension*

テーブル内でテキスト周辺のスペース(テキストがない場合はセル全体)に指定した幅のルールを配置します(それ以外はホワイトスペースが表示される)。

制限事項: FILLRULEWIDTH=属性が有効になるのは、プリンタファミリ出力先内のみです。

ヒント: テキストが指定されていない場合、FILLRULEWIDTH=によってテキスト周辺のスペースがハイフン記号で埋められます。例: --テキスト--またはテキスト-----。

参照項目: [寸法属性値 \(1006 ページ\)](#)

FLYOVER="*string*"

セルのデータチップで表示するテキストを指定します。

string

データチップのテキスト。

要件 *string* は引用符で囲む必要があります。

参照項目: [文字列属性値 \(1008 ページ\)](#)

制限事項: FLYOVER=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先と PDF 出力先内のみです。

FONT=*font-definition*

テーブル、セル、グラフ内で使用するフォント定義を指定します。

制限事項: FONT=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、プリンタファミリ出力先、RTF 出力先内のみです。

ヒント:

テーブルの場合、FONT=属性によって影響を受けるのは、PRETEXT=、POSTTEXT=、PREHTML=、POSTHTML=属性を使用して指定されるテキストのみです。テーブル内に表示されるテキストのフォントを変更するには、セルの属性を設定します。

指定したフォントがシステムで認識されない場合、システムのデフォルトフォントが参照されます。この属性では、連結フォントは受け入れられません。SAS グラフスタイルが指定できるのは 1 つのフォントです。

参照項目: [font-definition 属性値 \(1006 ページ\)](#)

例: “[例 3: CLASS ステートメントの使用](#)” (1024 ページ)

FONTFAMILY="*string-1*<..., *string-n*>"

セルとグラフ内で使用するフォントを指定します。複数のフォントがある場合、出力先デバイスでは、システムに最初にインストールされたフォントが使用されます。

string

フォント名。

要件 *string* は引用符で囲む必要があります。

参照項目: [文字列属性値 \(1008 ページ\)](#)

別名: FONT_FACE=

制限事項: FONTFAMILY=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、プリンタファミリ出力先、RTF 出力先内のみです。

ヒント:

テーブルの場合、FONTFAMILY=属性によって影響を受けるのは、PRETEXT=、POSTTEXT=、PREHTML=、POSTHTML=属性を使用して指定されるテキストのみです。テーブル内に表示されるテキストのフォントを変更するには、セルの属性を設定します。

ユーザーがブラウザで出力を表示する場合または高解像度プリンタで印刷する場合に、どのフォントが使用できるかはわかりません。大半のデバイスでは、Times、Courier、Arial、Helvetica のフォントがサポートされています。

例: “[例 1: スタンドアロンスタイルの作成](#)” (1008 ページ)

FONTSIZE=*dimension* | *size*

テーブル、セル、グラフのフォントサイズを指定します。

dimension

負以外の数値。

別名: FONT_SIZE=

制限事項: *dimension* を指定する場合、測定単位を指定してください。測定単位がない場合、数値は相対サイズになります。

参照項目: [寸法属性値 \(1006 ページ\)](#)

size

size の値は、HTML ドキュメント内のその他のフォントサイズすべてに関連します。

範囲: 1~7

制限事項: FONTSIZE=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、プリンタファミリ出力先、RTF 出力先内のみです。

ヒント: テーブルの場合、FONTSIZE=属性によって影響を受けるのは、PRETEXT=、POSTTEXT=、PREHTML=、POSTHTML=属性を使用して指定されるテキストのみです。テーブル内に表示されるテキストのフォントを変更するには、セルの属性を設定します。

例: “例 1: スタンドアロンスタイルの作成” (1008 ページ)

FONTSTYLE= ITALIC | ROMAN | SLANT

テーブル、セル、グラフのフォントスタイルを指定します。多くの場合、斜体とスラントマップは同じフォントになります。

別名: FONT_STYLE=

制限事項: FONTSTYLE=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、プリンタファミリ出力先、RTF 出力先内のみです。

ヒント: テーブルの場合、FONTSTYLE=属性によって影響を受けるのは、PRETEXT=、POSTTEXT=、PREHTML=、POSTHTML=属性を使用して指定されるテキストのみです。テーブル内に表示されるテキストのフォントを変更するには、セルの属性を設定します。

例:

“例 1: スタンドアロンスタイルの作成” (1008 ページ)

“例 3: CLASS ステートメントの使用” (1024 ページ)

FONTWEIGHT= *weight*

テーブル、セル、グラフのフォントウェイトを指定します。*weight* は次のいずれかになります。

- MEDIUM
- BOLD
- DEMI_BOLD
- EXTRA_BOLD
- LIGHT
- DEMI_LIGHT
- EXTRA_LIGHT

別名: FONT_WEIGHT=

制限事項:

ユーザーがブラウザで出力を表示する場合または高解像度プリンタで印刷する場合に、どのフォントウェイトが使用できるかはわかりません。大半のデバイスでサポートされるのは MEDIUM と BOLD のみで、場合によっては LIGHT がサポートされます。

FONTWEIGHT=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、プリンタファミリ出力先、RTF 出力先内のみです。

ヒント: テーブルの場合、FONTWEIGHT=属性によって影響を受けるのは、PRETEXT=、POSTTEXT=、PREHTML=、POSTHTML=属性を使用して指定されるテキストのみです。テーブル内に表示されるテキストのフォントを変更するには、セルの属性を設定します。

例: “例 1: スタンドアロンスタイルの作成” (1008 ページ)

FONTWIDTH=*relative-width*

テーブル、セル、グラフの通常デザイン幅と比較した、テーブル、セル、グラフのフォント幅を指定します。*relative-width* は次のいずれかになります。

- NORMAL

- COMPRESSED
- EXTRA_COMPRESSED
- NARROW
- WIDE
- EXPANDED

別名: FONT_WIDTH=

制限事項:

この値が尊重されるフォントはほとんどありません。

FONTWIDTH=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、プリンタファミリ出力先、RTF 出力先内のみです。

ヒント: テーブルの場合、FONTWIDTH=属性によって影響を受けるのは、PRETEXT=、POSTTEXT=、PREHTML=、POSTHTML=属性を使用して指定されるテキストのみです。テーブル内に表示されるテキストのフォントを変更するには、セルの属性を設定します。

例: “例 1: スタンドアロンスタイルの作成” (1008 ページ)

FRAME=frame-type

テーブルで使用するフレームの種類を指定します。次の表では、*frame-type* の値とその意味を示します。

表 13.4 *Frame-type* の値

<i>frame-type</i> の値	フレームタイプ
ABOVE	上部罫線
BELOW	下部罫線
BOX	上下左右の罫線
HSIDES	上下罫線
LHS	左側の罫線
RHS	右側の罫線
VOID	罫線なし
VSIDES	左右罫線

制限事項: FRAME=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、プリンタファミリ出力先、RTF 出力先内のみです。

例: “例 3: CLASS ステートメントの使用” (1024 ページ)

FRAMEBORDER=ON | OFF

フレームを使用する HTML ファイルのフレームの周りに罫線を付けるかどうかを指定します。

ON

フレームを使用する HTML ファイルのフレームの周りに罫線を付けます。

OFF

フレームを使用する HTML ファイルのフレームの周りに罫線を付けないよう指定します。

制限事項: FRAMEBORDER=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先内のみです。

FRAMEBORDERWIDTH=dimension

フレームを使用する HTML ファイルのフレームの周りの罫線幅を指定します。

制限事項: FRAMEBORDERWIDTH=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先内のみです。

参照項目: [寸法属性値 \(1006 ページ\)](#)

FRAMESPACING=dimension

フレームを使用する HTML のフレーム間のスペース幅を指定します。

制限事項: FRAMESPACING=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先内のみです。

参照項目: [寸法属性値 \(1006 ページ\)](#)

GRADIENT_DIRECTION= “YAXIS” | “XAXIS ”

グラデーションの方向を指定します。

“YAXIS”

縦のグラデーションを指定します。

“XAXIS”

横のグラデーションを指定します。

HEIGHT=dimension

HTML ドキュメント内のセル、グラフ、グラフィックの高さを指定します。

dimension

負以外の数値。

参照項目: [寸法属性値 \(1006 ページ\)](#)

別名:

CELLHEIGHT=

OUTPUTHEIGHT=

制限事項:

HEIGHT=オプションは、GRSEG (グラフセグメント)出力の結果として生成される出力には適用されません。

HEIGHT=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、プリンタファミリ出力先、RTF 出力先内のみです。

操作: SAS/GRAPH GOPTIONS ステートメント内の YPIXELS=オプションによって、HEIGHT=属性が上書きされます。

ヒント: HTML によって自動的に適切なセルの高さが設定されます。HTML 出力先でこの属性を指定する必要はほとんどありません。

HREFTARGET=target

リンクのターゲットを開く場所のウィンドウまたはフレームを指定します。*target* は次のいずれかになります。

_blank

ターゲットを新しい空のウィンドウで開きます。ウィンドウに名前はありません。

制限事項: HREFTARGET の値を指定する際には、小文字を使用してください。

_parent

現在のウィンドウを開いた元のウィンドウでターゲットを開きます。

制限事項: HREFTARGET の値を指定する際には、小文字を使用してください。

`_search`

ブラウザの検索ペインでターゲットを開きます。

制限事項:

対応しているのは、Internet Explorer 5.0 以降のみです。

HREFTARGET の値を指定する際には、小文字を使用してください。

`_self`

現在のウィンドウでターゲットを開きます。

制限事項: HREFTARGET の値を指定する際には、小文字を使用してください。

`_top`

最上位のウィンドウでターゲットを開きます。

制限事項: HREFTARGET の値を指定する際には、小文字を使用してください。

`"name"`

指定したウィンドウまたはフレームでターゲットを開きます。

デフォルト: `_self`

制限事項:

HREFTARGET=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先内のみです。

HREFTARGET の値を指定する際には、小文字を使用してください。

HTMLID="string"

テーブルまたはセルの ID を指定します。ID は Java スクリプトで使用されます。

string

ID テキスト。

要件 *string* は引用符で囲む必要があります。

参照項目: [文字列属性値 \(1008 ページ\)](#)

制限事項: HTMLID=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先内のみです。

HTMLSTYLE="string"

HTML ドキュメント内のテーブルまたはセルの個別の属性と値を指定します。

string

属性または値の名前。

要件 *string* は引用符で囲む必要があります。

参照項目: [文字列属性値 \(1008 ページ\)](#)

制限事項: HTMLSTYLE=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先内のみです。

IMAGE="string"

グラフに表示する画像を指定します。この画像は配置または並べて表示されず。

string

画像名。

要件 *string* は引用符で囲む必要があります。

参照項目: [文字列属性値 \(1008 ページ\)](#)

制限事項: IMAGE=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、プリンタファミリ出力先、PDF 出力先内のみです。

操作: SAS/GRAPH GOPTIONS ステートメント内の BACK=および
IMAGESTYLE=TILE オプションによって、IMAGE=属性は上書きされます。

LINESTYLE=*pattern-number*

ラインのパターンを指定します。有効なパターン数値の範囲は 1~46 です。すべてのパターン数値に名前があるとは限りません。ラインパターンは、その数値ごとに指定する必要があります。*pattern-number* は次のいずれかになります。

図 13.2 ラインパターン表

Solid	—————	1
ShortDash	- - - - -	2
MediumDash	- - - - -	4
LongDash	- - - - -	5
MediumDashShortDash	- - - - -	8
DashDashDot	- - - - -	14
DashDotDot	- - - - -	15
Dash	- - - - -	20
LongDashShortDash	- - - - -	26
Dot	34
ThinDot	35
ShortDashDot	- - - - -	41
MediumDashDotDot	- - - - -	42

LINETHICKNESS=*dimension*

ラインの太さを指定します。

参照項目: [寸法属性値 \(1006 ページ\)](#)

LINKCOLOR=*color*

未アクセスの HTML ドキュメント内のリンクの色を指定します。

制限事項: LINKCOLOR=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、プリンタファミリ出力先、RTF 出力先内のみです。

参照項目: [色スタイル属性値 \(1004 ページ\)](#)

LISTENTRYANCHOR=ON | OFF

HTML ドキュメントで、LISTENTRYANCHOR=属性は目次内のエントリをボディファイルへのリンクにするよう指定します。

ON

目次内の当該エントリをボディファイルへのリンクにするよう指定します。

OFF

目次内の当該エントリをボディファイルへのリンクにしないよう指定します。

制限事項: LISTENTRYANCHOR=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先内のみです。

LISTSTYLETYPE=*string*

コンテンツファイル内の箇条書きに使用する文字列を指定します。ODS では、コンテンツファイルで箇条書きが使用されます。

string

は次のいずれかになります。

- circle
- DECIMAL
- disc

- lower_alpha
- lower_roman
- none
- square
- upper_alpha
- upper_roman

別名: BULLET

参照項目: [文字列属性値 \(1008 ページ\)](#)

制限事項: LISTSTYLETYPE=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先内のみです。

MARGINBOTTOM=*dimension*

HTML ドキュメントの下余白を指定します。

別名: BOTTOMMARGIN=

制限事項: MARGINBOTTOM=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、プリンタファミリ出力先、RTF 出力先内のみです。

参照項目: [寸法属性値 \(1006 ページ\)](#)

MARGINLEFT=*dimension*

HTML ドキュメントの左余白を指定します。

別名: LEFTMARGIN=

制限事項: MARGINLEFT=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、プリンタファミリ出力先、RTF 出力先内のみです。

参照項目: [寸法属性値 \(1006 ページ\)](#)

MARGINRIGHT=*dimension*

HTML ドキュメントの右余白を指定します。

別名: RIGHTMARGIN=

制限事項: MARGINRIGHT=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、プリンタファミリ出力先、RTF 出力先内のみです。

参照項目: [寸法属性値 \(1006 ページ\)](#)

MARGINTOP=*dimension*

HTML ドキュメントの上余白を指定します。

別名: TOPMARGIN=

制限事項: MARGINTOP=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、プリンタファミリ出力先、RTF 出力先内のみです。

参照項目: [寸法属性値 \(1006 ページ\)](#)

MARKERSIZE=*dimension*

マーカーサイズ(幅と高さの両方)を指定します。

参照項目: [寸法属性値 \(1006 ページ\)](#)

MARKERSYMBOL=*marker-symbol*

マーカー記号を指定します。*marker-symbol* は次のいずれかになります。

図 13.3 マーカー記号表

↓	ArrowDown	▽	HomeDown	~	Tilde	●	CircleFilled
*	Asterisk	⊥	Ibeam	△	Triangle	◆	DiamondFilled
○	Circle	+	Plus	∪	Union	▼	HomeDownFilled
◇	Diamond	□	Square	×	X	■	SquareFilled
>	GreaterThan	☆	Star	Υ	Y	★	StarFilled
#	Hash	⊥	Tack	Ζ	Z	▲	TriangleFilled

NEUTRALCOLOR=*color*

3 色ランプの中間色を指定します。

参照項目: [色スタイル属性値 \(1004 ページ\)](#)

NOBREAKSPACE= ON | OFF

セル内のスペース文字を処理する方法を指定します。

ON

SAS によってスペース文字の場所で改行しないようにします。

OFF

該当する場合は、SAS によってスペース文字の場所で改行します。

制限事項: NOBREAKSPACE=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、プリンタファミリ出力先、RTF 出力先内のみです。

OUTPUTHEIGHT=*dimension*

グラフの高さを指定します。

参照項目: [寸法属性値 \(1006 ページ\)](#)

OUTPUTWIDTH=*dimension*

グラフの幅を指定します。

参照項目: [寸法属性値 \(1006 ページ\)](#)

OVERHANGFACTOR= *nonnegative-number*

HTML ドキュメント内の列幅の拡張上限を指定します。

制限事項: OVERHANGFACTOR=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先とプリンタファミリ出力先内のみです。

ヒント:

通常、1~2 の張り出し係数がうまく機能します。

ODS によって生成される HTML では、列内のテキストが要求された列幅に達すると必ず折り返すように試みられます。張り出し係数が 1 を超える場合、テキストは指定した幅を超えて延長します。

PADDING=*dimension* | *dimension*%

セルコンテンツと罫線間のホワイトスペースの数を指定します。

制限事項: PADDING=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、プリンタファミリ出力先、RTF 出力先内のみです。

参照項目: [寸法属性値 \(1006 ページ\)](#)

PADDINGBOTTOM=*dimension* | *dimension*%

テーブル内のセルコンテンツの下部について、ホワイトスペースの数を指定します。

デフォルト: 0

制限事項: PADDINGBOTTOM=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、プリンタファミリ出力先、RTF 出力先内のみです。

参照項目: [寸法属性値 \(1006 ページ\)](#)

PADDINGLEFT=dimension | dimension%

テーブル内のセルコンテンツの左側について、ホワイトスペースの数を指定します。

デフォルト: 0

制限事項: PADDINGLEFT=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、プリンタファミリ出力先、RTF 出力先内のみです。

参照項目: [寸法属性値 \(1006 ページ\)](#)

PADDINGRIGHT=dimension | dimension%

テーブル内のセルコンテンツの右側について、ホワイトスペースの数を指定します。

デフォルト: 0

制限事項: PADDINGRIGHT=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、プリンタファミリ出力先、RTF 出力先内のみです。

参照項目: [寸法属性値 \(1006 ページ\)](#)

PADDINGTOP=dimension | dimension%

テーブル内のセルコンテンツの上部について、ホワイトスペースの数を指定します。

デフォルト: 0

制限事項: PADDINGTOP=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、プリンタファミリ出力先、RTF 出力先内のみです。

参照項目: [寸法属性値 \(1006 ページ\)](#)

PAGEBREAKHTML="string"

HTML ドキュメント内の改ページに配置する HTML を指定します。

string

改ページ場所の配置に使用する HTML コード。

要件 *string* は引用符で囲む必要があります。

参照項目: [文字列属性値 \(1008 ページ\)](#)

制限事項: PAGEBREAKHTML=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先内のみです。

POSTHTML="string"

テーブルまたはセルの後に配置する HTML コードを指定します。

string

テーブルまたはセルの後に配置する HTML コード。

要件 *string* は引用符で囲む必要があります。

参照項目: [文字列属性値 \(1008 ページ\)](#)

制限事項: POSTHTML=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先内のみです。

例: [“例 3: CLASS ステートメントの使用” \(1024 ページ\)](#)

POSTIMAGE="string" | fileref

テーブルまたはセルの前に配置する画像を指定します。

string

GIF または JPEG ファイルに名前を付けます。短いファイル名、完全パス、URL。

要件 *string* は引用符で囲む必要があります。

参照項目: [文字列属性値 \(1008 ページ\)](#)

fileref

外部ファイルに割り当てられた参照。fileref を割り当てるには、FILENAME ステートメントを使用します。

参照項目: ステートメント(SAS ステートメント: リファレンス)に FILENAME ステートメントの詳細があります。

制限事項: POSTIMAGE=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、プリンタファミリ出力先、RTF 出力先内のみです。

POSTTEXT="string"

セルまたはテーブルの後に配置するテキストを指定します。

制限事項: POSTTEXT=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、プリンタファミリ出力先、RTF 出力先内のみです。

要件 *string* は引用符で囲む必要があります。

参照項目: [文字列属性値 \(1008 ページ\)](#)

PREHTML="string"

テーブルまたはセルの前に配置する HTML コードを指定します。

制限事項: PREHTML=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先内のみです。

参照項目: [文字列属性値 \(1008 ページ\)](#)

PREIMAGE="string" | fileref

テーブルまたはセルの前に配置する画像を指定します。

string

GIF または JPEG ファイルに名前を付けます。短いファイル名、完全パス、URL。

制限事項: PREIMAGE=スタイル属性を PRINTER 出力先と共に使用する場合、ページ数、時刻、日付、タイトルを表示するには、PRINTER ファミリステートメントで STARTPAGE=NO を指定する必要があります。

STARTPAGE=NO オプションを指定しない場合、プレ画像はグラフのように処理され、ページ数、時刻、日付、タイトルは表示されません。

要件 *string* は引用符で囲んでください。

参照項目: [文字列属性値 \(1008 ページ\)](#)

fileref

外部ファイルに割り当てられた参照。fileref を割り当てるには、FILENAME ステートメントを使用します。(FILENAME ステートメントの詳細は SAS ステートメント: リファレンスの“ステートメント”を参照してください)

制限事項: PREIMAGE=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、プリンタファミリ出力先、RTF 出力先内のみです。

PRETEXT="string"

セルまたはテーブルの前に配置するテキストを指定します。

string

セルまたはテーブルの前に配置するテキスト。

要件 *string* は引用符で囲んでください。

参照項目: [文字列属性値 \(1008 ページ\)](#)

制限事項: PRETEXT=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、プリンタファミリ出力先、PDF 出力先内のみです。

PROTECTSPECIALCHARS=ON | OFF | AUTO

より小記号(<)、より大記号(>)、アンパサンド(&)がどのようにセル内で解釈されるかを指定します。HTML およびその他のマークアップ言語では、これらの文字はマークアップタグの開始、マークアップタグの終了、ファイルまたは文字エンティティの名前の開始を示します。

ON

特殊文字を文字そのものとして解釈します。つまり、ON が有効の場合、文字がマークアップ言語の一部として解釈されないように、文字は HTML またはその他のマークアップ言語の出力先に渡される前に保護されます。ON に指定すると、HTML ドキュメント内でマークアップ言語タグを表示できます。

OFF

特殊文字をマークアップ言語タグとして解釈します。つまり、OFF が有効の場合、特殊文字がマークアップ言語の一部として解釈されるように、文字は HTML またはその他のマークアップ言語に保護されずに渡されます。

AUTO

<で始まり>で終わる任意の文字列をマークアップ言語タグとして解釈します(<の直前のスペース、>の直後のスペース、文字列の開始および終了のスペースは無視されます)。その他の文字列では、AUTO によって特殊文字はそれぞれのマークアップ言語の意味として解釈されないよう保護されます。

制限事項: PROTECTSPECIALCHARS=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、プリンタファミリ出力先、RTF 出力先内のみです。

RULES=*rule-type*

テーブル内で使用するルールの種類を指定します。次の表では、RULES=属性の値とその意味を示します。

表 13.5 RULES=属性値

RULES=属性の値	ルールの場所
ALL	すべての行と列の間
COLS	すべての列の間
GROUPS	テーブルヘッダーとテーブルの間およびテーブルとテーブルフッターの間(いずれか該当する方)
NONE	どの場所にもルールなし
ROWS	すべての行の間

制限事項: RULES=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、プリンタファミリ出力先、RTF 出力先内のみです。

例: “例 4: テーブルスタイルとグラフィックスタイルの定義” (1032 ページ)

STARTCOLOR=*color*

グラフィックの塗りつぶし開始色を指定します。グラデーション効果を作成する場合に使用します。

注: 開始/終了グラデーション効果またはグラデーション効果なしのいずれかを選択できます。TRANSPARENCY レベルを指定し、STARTCOLOR のみを指定

する場合、終了色は指定した開始色に向かってグラデーション状に透明になります。

制限事項: STARTCOLOR=属性が有効になるのは、HTML 出力先内のみです。

参照項目: [色スタイル属性値 \(1004 ページ\)](#)

TAGATTR="string"

HTML に挿入するテキストを指定します。

string

HTML タグに挿入されるテキスト。

要件:

string は引用符で囲む必要があります。

string は、スタイル要素が作成される場所のコンテンツに対して有効な HTML にしてください。

ヒント: 多くのスタイル要素は、<TD>タグと</TD>タグの間に作成されます。スタイル要素の作成方法を決めるには、出力のソースを確認してください。

参照項目: [文字列属性値 \(1008 ページ\)](#)

制限事項: TAGATTR=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先内のみです。

TEXTALIGN=*alignment*

テーブル、セル、グラフ内の両端揃えを指定します。グラフでは、このオプションによって IMAGE=ステートメントで指定された画像の両端揃えが指定されます。たとえば、次のステートメントでは、ページ下部にセンタリングされたページ数が生成されます。style PageNo from TitleAndFooters / textalign=c verticalalign=b; 次のステートメントでは、ページ上部で左寄せされたボディファイル内の日付が生成されます。style BodyDate from Date / textalign=l; *alignment* は次のいずれかになります。

CENTER

中央寄せを指定します。

別名: C

DEC

小数点による値の位置揃えを指定します。

別名: D

制限事項: 小数点の位置揃えがサポートされているのは、プリンタファミリと RTF 出力先です。

LEFT

左寄せを指定します。

別名: L

RIGHT

右寄せを指定します。

別名: R

制限事項: すべてのコンテキストで RIGHT がサポートされているとは限りません。RIGHT がサポートされていない場合は、CENTER として解釈されます。

別名: JUST=

制限事項: TEXTALIGN=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、プリンタファミリ出力先、RTF 出力先内のみです。

ヒント:

プリンタファミリ出力先および MARKUP 出力先の場合、ページ数の配置を制御するには、スタイル属性 TEXTALIGN=をスタイル要素 PAGENO 内のスタイル属性 VERTICALALIGN=と共に使用してください。

プリンタファミリ出力先および MARKUP 出力先の場合、スタイル属性 TEXTALIGN=を BODYDATE または DATE スタイル要素内のスタイル属性 VERTICALALIGN=と共に使用し、日付の配置を制御してください。

TEXTDECORATION=*presentation-options*

テキストの表示を変更します。*presentation-options* は次のいずれかになります。

BLINK

テキストの表示が表示/非表示で切り替わるように指定します。

制限事項: TEXTDECORATION=BLINK が有効になるのは、HTML および RTF 出力先内のみです。

LINE_THROUGH

ラインがテキストを通るように描画されるよう指定します。

制限事項: TEXTDECORATION=LINE_THROUGH が有効になるのは、HTML 出力先、プリンタファミリ出力先、測定 RTF 出力先、RTF 出力先内のみです。

OVERLINE

ラインがテキストの上に描画されるよう指定します。

制限事項: TEXTDECORATION=OVERLINE が有効になるのは、HTML 出力先とプリンタファミリ出力先内のみです。

UNDERLINE

ラインがテキストの下に描画されるよう指定します。

制限事項: TEXTDECORATION=UNDERLINE が有効になるのは、HTML 出力先、プリンタファミリ出力先、測定 RTF 出力先、RTF 出力先内のみです。

ヒント: TEXTDECORATION=を使用できるのは、インラインフォーマットと、PDF ファイルを強化する ODS PDF ステートメントと一緒に使用する場合があります。

TEXTINDENT=*n*

出力の最初の行がインデントされる場合のスペースの数を指定します。

n

出力をインデントする場合のスペースの数を指定します。

別名: INDENT=

デフォルト: XML のデフォルト値は 2 です。その他すべての ODS 出力先の場合、デフォルト値は 0 です。

制限事項: TEXTINDENT=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、プリンタファミリ出力先、RTF 出力先内のみです。

TICKDISPLAY= "INSIDE" | "OUTSIDE" | "ACROSS"

すべての主/副軸の目盛りの配置を指定します。

TEXTJUSTIFY= INTER_WORD | INTER_CHARACTER

テキストを均等に分割する方法を指定します。

INTER_WORD

ページをまたがる場合に単語が均等に分割されるよう指定します。

INTER_CHARACTER

ページをまたがる場合にすべての文字が均等に分割されるよう指定します。

ヒント: TEXTJUSTIFY=スタイル属性は TEXTALIGN=J (エイリアス JUST=)スタイル要素と共に使用してください。

TRANSPARENCY=dimension

グラフの透明度を指定します。値は 0.0 (不透明)~1.0 (透明)です。

制限事項: TRANSPARENCY=属性が有効になるのは、HTML 出力先内のみです。

参照項目: [寸法属性値 \(1006 ページ\)](#)

URL="uniform-resource-locator"

現在のセルからのリンク先 URL を指定します。

制限事項: URL=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、プリンタファミリ出力先、RTF 出力先内のみです。

要件 *uniform-resource-locator* は引用符で囲む必要があります。

VERTICALALIGN= BOTTOM | MIDDLE | TOP

グラフとセルの縦方向の両端揃えを指定します。グラフでは、このオプションによって IMAGE=で指定された画像の縦方向の両端揃えが指定されます。たとえば、次のステートメントでは、ページ下部にセンタリングされたページ数が生成されます。

```
style PageNo from TitleAndFooters / textalign=c
verticalalign=b; 次のステートメントでは、ページ上部で左寄せされたボディ
ファイル内の日付が生成されます。style BodyDate from Date /
textalign=l verticalalign=t;
```

BOTTOM

下部の両端揃えを指定します。

別名: B

MIDDLE

中央寄せを指定します。

別名: M

TOP

上部の両端揃えを指定します。

別名: T

別名: VJUST=

制限事項: The VERTICALALIGN= attribute is valid only in markup family destinations, printer family destinations, and the RTF destination.

ヒント:

プリンタおよびマークアップファミリ出力先の場合、ページ数の配置を制御するには、スタイル属性 VERTICALALIGN=をスタイル要素 PAGENO 内のスタイル属性 TEXTALIGN=と共に使用してください。

プリンタおよびマークアップファミリ出力先の場合、スタイル属性 VERTICALALIGN=を BODYDATE または DATE スタイル要素内のスタイル属性 TEXTALIGN=と共に使用し、日付の配置を制御してください。

VISITEDLINKCOLOR= color

HTML ドキュメント内のアクセス済みリンクの色を指定します。

制限事項: VISITEDLINKCOLOR=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先内のみです。

参照項目: [色スタイル属性値 \(1004 ページ\)](#)

WATERMARK= ON | OFF

BACKGROUNDIMAGE=によって指定される画像をウォーターマークにするかどうかを指定するウォーターマークは、ウィンドウのスクロールに合わせて固定位置に表示されます。

ON

BACKGROUNDIMAGE=によって指定される画像をウォーターマークにするよう指定します。

OFF

BACKGROUNDIMAGE=によって指定される画像をウォーターマークにしないよう指定します。

制限事項: WATERMARK=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先内のみです。

参照項目: “BACKGROUNDIMAGE=“string”” (979 ページ)

WHITESPACE=*options*

ブラウザでの複数のホワイトスペース文字と改行の処理方法を指定します。
options は次のいずれかになります。

NORMAL	ホワイトスペースが圧縮され、テキストが通常どおりに折り返されるよう指定します。
NOWRAP	ホワイトスペースが圧縮され、テキストに改行が含まれないよう指定します。
PRE	ホワイトスペースが無圧縮で残され、テキストに改行が含まれないよう指定します。
PRE_LINE	ホワイトスペースが圧縮され、テキスト内の改行を保持し、必要に応じて改行を追加するよう指定します。
PRE_WRAP	ホワイトスペースが無圧縮で残され、改行を許可するよう指定します。

デフォルト: NORMAL

WIDTH= *dimension*

セル、テーブル、ライン、グラフの幅を指定します。

グラフで使用する場合、WITH=*dimension* はピクセルまたはパーセント値として指定する必要があります。測定単位が *dimension* で指定されていない場合、値はピクセル単位になります。ピクセルまたはパーセント以外の測定単位が *dimension* で指定されている場合、HEIGHT=*dimension* はグラフに適用されません。

dimension

負以外の数値。

参照項目: 寸法属性値 (1006 ページ)

別名:

CELLWIDTH=

OUTPUTWIDTH=

制限事項:

WIDTH=オプションは、GRSEG (グラフセグメント)出力の結果として生成された出力には適用されません。

WIDTH=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先、プリンタファミリ出力先、RTF 出力先内のみです。

操作: SAS/GRAPH GOPTIONS ステートメント内の XPIXELS=オプションによって、WIDTH=属性が上書きされます。

ヒント:

セルの列には、列内で最も幅が広いセルの幅が含まれます。

テーブルまたはグラフの幅を開いているウィンドウ幅と同じにするには、WIDTH=100%を使用してください。

スタイル属性値

color

色を識別する文字列。色は次のように定義されます。

- SAS/GRAPH によってサポートされる大半の色名。これらの名前には次の値が含まれます。
 - あらかじめ定義された SAS 色(blue または VIYG など)
 - 赤/緑/青(RGB)値(CX0023FF など)
 - 色相/明度/彩度(HLS)値(HI4E162D など)
 - グレースケール値(GRAYBB など)
 - 赤/緑/青の透過度(RGBA)値(a98FB9880 など)
 - シアン/マゼンタ/イエロー/ブラック(CMYK)値(FFFFFF00 など)

注: RGBA カラーモードは Java デバイスではサポートされていません。RGBA カラーモードは、出力が Microsoft アプリケーションで使用される場合、ActiveX デバイスによってサポートされます。

- RGB 値の前には CX ではなくポンド記号(#)を付けます(#0023FF など)。
- スタイルを使用する際には、SAS セッション内に次の色のいずれかが存在しません。
 - DMSBLUE
 - DMSRED
 - DMSPINK
 - DMSGREEN
 - DMSCYAN
 - DMSYELLOW
 - DMSWHITE
 - DMSORANGE
 - DMSBLACK
 - DMSMAGENTA
 - DMSGRAY
 - DMSBROWN
 - SYSBACK
 - SYSSECB
 - SYSFORE

注: これらの色は、ウィンドウ環境で SAS を実行する場合にのみ使用してください。

- HLS の英語説明。このような説明では、明度、彩度、色相(この順番)を説明するに当たり単語の組み合わせがしようされます。カラーネーミングシステムを使用して次の方法で色を形成してください。
 - 有彩色の色相を明度と彩度またはその両方と組み合わせる

- 無彩色の色相 Gray と明度を組み合わせる
- 無彩色の色相 Black または White を修飾子なしで組み合わせる

次の表の単語を使用してください。

表 13.6 色相/明度/彩度(HLS)値

明度	彩度	有彩色の色相	無彩色の色相
		Blue	Black*
Very dark	Grayish	Purple	
Dark	Moderate	Red	
Medium	Strong	Orange brown	Gray**
Light	Vivid	Yellow	
Very light		Green	
			White*

* Black と White は明度または彩度の値と組み合わせることはできません。

** Gray は彩度の値と組み合わせることはできません。

これらの単語を組み合わせることで幅広い種類の色を形成してください。次に例を示します。

- light vivid green
- dark vivid orange
- light yellow

注: Output Delivery System では、最初に SAS/GRAPH カラーとの色の一致が試みられます。次に、表では Brown と Orange が交換可能とされていますが、未変更の色相としてそれらの色を使用する場合、それぞれ異なります。この原因は、ODS ではそれらの色が SAS カラーとして解釈され、別々の色にマッピングされるからです。

また、隣り合う2つの色の中間の色相を指定することもできます。これを実行するには、次の形容詞を隣り合う色のいずれかと組み合わせてください。

- reddish
- orangish
- brownish
- yellowish
- greenish
- bluish
- purplish
- bluish purple
- reddish orange
- yellowish green

参照項目: RGB カラーコード、HLS カラーコード、グレースケールカラーコード in *SAS/GRAPH: Reference* を、SAS/GRAPH カラーの詳細について参照してください。

dimension

整数、パーセンテージ、または負以外の数値で、後ろには次のいずれかの測定単位が付きます。

表 13.7 寸法の測定単位

cm	センチメートル
em	幅の標準形式設定の測定単位
ex	高さの標準形式設定の測定単位
in	インチ
mm	ミリメートル
pt	プリンタのポイント

デフォルト: PRINTER 出力先の場合、インチの 1/150 の単位

font-definition

フォント、フォントサイズ、フォントキーワードの名前。フォント定義には次の一般的な形式が含まれます。

(“*font-face-1* <... , *font-face-n*>”, *font-size*, *keyword-list*)

“*font-face*”

フォント名を指定します。

ODS スタイルでは新しい TrueType フォントが使用されます。すべてのユニバーサルプリンタおよび多数の SAS/GRAPH デバイスでは、SAS ソフトウェアによってサポートされるすべてのオペレーティング環境における出力に TrueType フォントをレンダリングするに当たり、FreeType ライブラリが使用されます。また、多くの SAS/GRAPH デバイスドライバおよびすべてのユニバーサルプリンタでは、デフォルトで ODS スタイルを使用して出力が生成され、その ODS スタイルでは TrueType フォントが使用されます。SAS をインストールすると、SAS Monospace および SAS Monospace Bold のほか、21 種類の新しい TrueType フォントが使用できるようになります。

- Microsoft 製品との互換性がある 5 種類のラテン文字フォント
- 8 種類の多言語用ユニコードフォント
- 8 種類の単一言語用アジア系フォント

TrueType フォントの詳細は、*SAS 言語リファレンス: 解説編*の“SAS による印刷”の項を参照してください。

制限事項: 複数の *font-face* は、引用符で囲む必要があります。フォントを 1 つのみ指定し、その名前にスペース文字が含まれない場合、引用符は無視してください。

ヒント: 複数のフォントを指定する場合、出力先デバイスではシステムにインストールされた際の最初のフォントが使用されます。

font-size

フォントのサイズを指定します。*font-size* は測定単位を含まない寸法または数値です。寸法を指定する場合、測定単位を指定してください。測定単位がない

場合、数値は HTML ドキュメント内の他のすべてのフォントサイズに関連するサイズになります。詳細は、[寸法属性値 \(1006 ページ\)](#)を参照してください。

keyword-list

フォントウェイト、フォントスタイル、フォント幅を指定します。それぞれには値が 1 つ含まれますが、順番は任意です。次の表では、使用するキーワードを示します。

表 13.8 フォントキーワード

フォントウェイトのキーワード	フォントスタイルのキーワード	フォント幅のキーワード
MEDIUM	ITALIC	NORMAL*
BOLD	ROMAN	COMPRESSED*
DEMI_BOLD*	SLANT	EXTRA_COMPRESSED*
EXTRA_BOLD*		NARROW*
LIGHT		WIDE*
DEMI_LIGHT*		EXPANDED*
EXTRA_LIGHT*		

* これらの値が尊重されるフォントはほとんどありません。

例: “例 2: ユーザー定義の属性の使用” (1015 ページ)

format

SAS 形式またはユーザー定義形式。

integer | integer-list | integer-column-list

整数値を含む列変数、またはその列変数を参照する動的変数を指定します。

integer

単一の整数を指定します。

integer-list

整数値のシーケンス、整数値を含む列変数、その列変数または文字列を参照する動的変数を指定します。

integer-column-list

列変数のシーケンス、列変数を含む列変数、その列変数を参照する動的変数、列変数のリストを含む文字列を参照する動的変数を指定します。列内の値は必ず整数にしてください。

style-reference

現在のスタイルまたは親スタイル(以上)で定義される属性への参照。使用される値はスタイル要素の名前で、後ろにはその要素内の属性名に丸かっこが付きま。スタイル参照には次のいずれかの形式が含まれます。

```
style-attribute=target-style-element("target-style-attribute")
```

style-attribute

スタイル属性の名前を指定します。

target-style-element

参照するスタイル属性を含むスタイル要素の名前を指定します。

target-style-attribute

使用する値を含むスタイル属性を指定します。

要件 *target-style-attribute* がユーザー定義スタイル属性の場合、引用符で囲む必要があります。

参照項目: “スタイル参照について” (951 ページ)

例: “例 2: ユーザー定義の属性の使用” (1015 ページ)

"string"

引用文字列。

user-defined-format

FORMAT プロシジャを使用して作成される形式を指定します。

制限事項: *user-defined-format* によって指定されるのはデータセルのみです。

例: TEMPLATE プロシジャ: スタイルテンプレートの作成

例 1: スタンドアロンスタイルの作成

要素: STYLE ステートメント内の BACKGROUNDCOLOR=
 STYLE ステートメント内の BORDERWIDTH=
 STYLE ステートメント内の BORDERSPACING=
 STYLE ステートメント内の FONTFAMILY=
 STYLE ステートメント内の FONTSIZE=
 STYLE ステートメント内の FONTSTYLE=
 STYLE ステートメント内の FONTWEIGHT=
 STYLE ステートメント内の COLOR=
 DEFINE TABLE ステートメント内の CLASSLEVELS=テーブル属性
 DEFINE TABLE ステートメント内の DYNAMIC ステートメント
 DEFINE TABLE ステートメント内の MVAR ステートメント
 DEFINE COLUMN ステートメント内の BLANK_DUPS=
 DEFINE COLUMN ステートメント内の GENERIC=
 DEFINE COLUMN ステートメント内の HEADER=
 DEFINE COLUMN ステートメント内の STYLE=
 DEFINE FOOTER ステートメント内の TEXT ステートメント

他の要素: その他の ODS 機能:
 ODS HTML ステートメント
 FILE ステートメント(ODS=オプション指定)
 PUT ステートメント(_ODS_引数指定)

データセット: [Grain_Production](#)

出力形式: \$CNTRY.

詳細

この例では、その他のスタイルを基本としないスタイルが作成されます。スタイルを作成するとき、通常は SAS によって提供されるスタイルのいずれかを基本とします(“例 3: CLASS ステートメントの使用”(1024 ページ)を参照)。ただし、この例ではスタイルを作成する基本的な方法の一部を示します。

デフォルトで特定のテーブル要素が特定のスタイル要素を使用して作成されることを理解することが重要です。たとえば、STYLE=属性を使用して様々なスタイル要素を指定しない場合、ODS によって SystemTitle スタイル要素を使用して SAS タイトルが生成されます。同様に、別に指定しない場合、ODS によって Header スタイル要素を使用してヘッダーが生成されます。(各スタイル要素の詳細は、“ODS スタイル要素”(1387 ページ)を参照してください)

プログラム

```
proc template;
  define style newstyle;
    style cellcontents /
      fontfamily="arial, helvetica"
      fontweight=medium
      backgroundcolor=blue
      fontstyle=roman
      fontsize=5
      color=white;

    style header /
      backgroundcolor=very light blue
      fontfamily="arial, helvetica"
      fontweight=medium
      fontstyle=roman
      fontsize=5
      color=white;

    style systemtitle /
      fontfamily="arial, helvetica"
      fontweight=medium
      backgroundcolor=white
      fontstyle=italic
      fontsize=6
      color=red;

    style footer from systemtitle /
      fontsize=3;

    style table /
      borderspacing=5
      borderwidth=10;

  end;
run;

proc template;
  define table table1;

    mvar sysdate9;

    dynamic colhd;

    classlevels=on;
```

```

        define column char_var;
generic=on;
blank_dups=on;
header=colhd;
style=cellcontents;
end;

        define column num_var;
generic=on;
header=colhd;
style=cellcontents;
end;

        define footer table_footer;
text "Prepared on " sysdate9;
end;

end;
run;

ods html file="newstyle-body.htm"
style=newstyle;

title "Leading Grain Producers";
title2 "in 1996";

data _null_;
set grain_production;
where type in ("Rice", "Corn") and year=1996;

file print ods=(
template="table1"

columns=(
char_var=country(generic=on format=$cntry.
dynamic=(colhd="Country"))
char_var=type(generic dynamic=(colhd="Year"))
num_var=kilotons(generic=on format=comma12.
dynamic=(colhd="Kilotons"))
)
);

put _ods_;
run;

ods html close;
ods html;

```

プログラムの説明

スタイル要素 **CellContents** を使用し、**NewStyle** という名前の新しいスタイルを作成します。PROC TEMPLATE ステートメントによって、TEMPLATE プロシジャが開始されます。DEFINE STYLE ステートメントによって、NewStyle という新しいスタイルが作成されます。この STYLE ステートメントによって、スタイル要素 CellContents が定義されます。このスタイル要素は、STYLE ステートメントに表示されるスタイル属性から構成されます。FONTFAMILY=属性によって、ブラウザで Arial フォントが使用できる場合にはこのフォントを使用し、Arial フォントが使用できない場合には Helvetica フォントが検索されるように命令されます。

```
proc template;
define style newstyle;
style cellcontents /
fontfamily="arial, helvetica"
fontweight=medium
backgroundcolor=blue
fontstyle=roman
fontsize=5
color=white;
```

スタイル要素 Header を作成します。この STYLE ステートメントによって、スタイル要素 Header が作成されます。デフォルトでは、ODS では Header を使用してスパンヘッダーと列ヘッダーが生成されます。このスタイル要素では、CellContents から異なる背景色が使用されます。CellContents と同じフォント(Arial または Helvetica)、同じフォントスタイル(ローマン)、同じフォントカラー(白)、同じフォントサイズ(5)が使用されます。

```
style header /
backgroundcolor=very light blue
fontfamily="arial, helvetica"
fontweight=medium
fontstyle=roman
fontsize=5
color=white;
```

スタイル要素 SystemTitle を作成します。この STYLE ステートメントによって、スタイル要素 SystemTitle が作成されます。デフォルトでは、ODS では SAS タイトルの生成に SystemTitle が使用されます。このスタイル要素では、白の背景色に赤の前景色のカラースキームが使用されます。Header および CellContents と同じフォントとフォントウェイトが使用されますが、イタリックフォントスタイルが追加され、大き目のフォントサイズが使用されます。

```
style systemtitle /
fontfamily="arial, helvetica"
fontweight=medium
backgroundcolor=white
fontstyle=italic
fontsize=6
color=red;
```

スタイル要素 Footer が作成されます。この STYLE ステートメントによって、スタイル要素 Footer が作成されます。このスタイル要素では、SystemTitle のすべての属性が継承されます。ただし、継承されるフォントサイズはそのテンプレート内の FONTSIZE=属性によって上書きされます。

```
style footer from systemtitle /
fontsize=3;
```

スタイル要素 Table が作成されます。この STYLE ステートメントによって、スタイル要素 Table が作成されます。デフォルトでは、ODS によってテーブルの表示にこのスタイル要素が使用されます。

```
style table /
borderspacing=5
borderwidth=10;
```

スタイルを終了します。END ステートメントによってスタイルテンプレートが終了されます。RUN ステートメントによって、TEMPLATE プロシジャが実行されます。

```
end;
run;
```

テーブルテンプレート Table1 を作成します。 PROC TEMPLATE ステートメントによって、TEMPLATE プロシジャが開始されます。DEFINE TABLE ステートメントによって、Table1 という新しいテーブルテンプレートが作成されます。

```
proc template;
define table table1;
```

1つのマクロ変数を参照する記号を指定します。 MVAR ステートメントによって、マクロ変数を参照する記号、SysDate9 が定義されます。ODS では、このマクロ変数の値が文字列として使用されます。マクロ変数への参照は、ODS によってテーブルテンプレートがデータコンポーネントにバインドされ出力オブジェクトが生成される場合に解決されます。SYSDATE9 は自動マクロ変数で、その値は常に使用可能です。

```
mvar sysdate9;
```

データコンポーネントによって提供される値を参照する記号を指定します。 ODS によってテンプレートとデータコンポーネントがバインドされ出力オブジェクトが生成される場合、DYNAMIC ステートメントによって、データコンポーネントによって提供される値を参照する記号、Colhd が定義されます。Colhd の値は、プログラムの後で表示される DATA ステップ内の FILE ステートメントで提供されます。動的列ヘッダーを使用すると、ハードコーディングによるテーブルテンプレート内のヘッダーよりも柔軟性が高くなります。

```
dynamic colhd;
```

行ごとに変化しない値の繰り返しを制御します。 CLASSLEVELS=属性によって、BLANK_DUPS=ON でマーキングされている前列内の値が変わると、BLANK_DUPS=ON でマーキングされている列内の値の表示が非表示にされます。BLANK_DUPS=が汎用列内で設定されているため、この属性も設定してください。

```
classlevels=on;
```

列 Char_Var を作成します。 この DEFINE ステートメントとその属性によって、列テンプレート Char_Var が作成されます。GENERIC=によって、複数の値で同じ列テンプレートを使用できるように指定されます。BLANK_DUPS=によって、列ごとに値が変化しない場合(また、テーブルの CLASSLEVELS=ON のため、BLANK_DUPS=ON でマーキングされる前列内の値が変わらない場合)、列内の値の表示が非表示にされます。HEADER=によって、列のヘッダーが動的変数 Colhd のテキストになるよう指定されます。この変数の値は、データコンポーネントによって設定されます。STYLE=属性によって、この列テンプレートのスタイル要素が CellContents になるよう指定されます。END ステートメントによってテンプレートは終了します。

```
define column char_var;
generic=on;
blank_dups=on;
header=colhd;
style=cellcontents;
end;
```

列テンプレート Num_Var を作成します。 この DEFINE ステートメントとその属性によって、列テンプレート Num_Var が作成されます。GENERIC=によって、複数の値で同じ列テンプレートを使用できるように指定されます。HEADER=によって、列のヘッダーが動的変数 Colhd のテキストになるよう指定されます。この変数の値は、データコンポーネントによって設定されます。STYLE=属性によって、この列テンプレートのスタイル

要素が CellContents になるよう指定されます。END ステートメントによってテンプレートは終了します。

```
define column num_var;
generic=on;
header=colhd;
style=cellcontents;
end;
```

フッター要素 Table_Footer を作成します。 DEFINE ステートメントとそのサブステートメントによって、テーブル要素 Table_Footer が定義されます。FOOTER 引数によって、Table_Footer がフッターとして宣言されます。TEXT ステートメントによって、フッターのテキストが指定されます。ODS によってデータコンポーネントが(後続の DATA ステップ内の)テーブルテンプレートにバインドされる場合、マクロ変数 SYSDATE9 の値が解決されます。

```
define footer table_footer;
text "Prepared on " sysdate9;
end;
```

テーブルテンプレートを終了します。 この END ステートメントによって、テーブルテンプレートは終了します。RUN ステートメントによって、PROC TEMPLATE ステップが実行されます。

```
end;
run;
```

HTML 出力を作成し、HTML 出力保存用の場所を指定します。 出力に使用するスタイルを指定します。HTML 出力先はデフォルトで開いています。ただし、スタイルを指定する場合、開いている STYLE=を指定し、ODS HTML ステートメントを使用してください。STYLE=オプションによって、ODS で NewStyle が出力をフォーマットする場合にスタイルとして使用されるよう指示されます。

```
ods html file="newstyle-body.htm"
style=newstyle;
```

レポートのタイトルを指定します。 TITLE ステートメントによって、出力のタイトルが 2 つ指定されます。

```
title "Leading Grain Producers";
title2 "in 1996";
```

データコンポーネントを作成します。 この DATA ステップによってデータセットは作成されません。代わりに、データコンポーネントが作成され、最終的に出力オブジェクトが作成されます。SET ステートメントによって、データセット Grain_Production が読み取られます。WHERE ステートメントによって、1996 年の米とコーンの生産のみの情報が出力オブジェクトに含まれるように、データセットがサブセット化されます。

```
data _null_;
set grain_production;
where type in ("Rice", "Corn") and year=1996;
```

DATA ステップ結果を ODS にルーティングし、Table1 テーブルテンプレートを使用します。 fileref PRINT と、FILE ステートメント内の ODS オプションを組み合わせると、DATA ステップの結果が ODS にルーティングされます。TEMPLATE=サブオプションによって、ODS で Table1 という名前のテーブルテンプレート PHONELIST (PROC TEMPLATE で前に作成済み)が使用されるよう指示されます。

ODS での DATA ステップの使用に関する詳細は、4章, “DATA ステップでの ODS の使用” (57 ページ)を参照してください。

```
file print ods=(
  template="table1"
```

各変数に使用する列テンプレートを指定します。 COLUMNS=サブオプションによって、DATA ステップ変数がテーブルテンプレートで定義される列内に配置されます。たとえば、最初の *column-specification* によって、出力オブジェクトの最初の列に変数 COUNTRY の値が含まれ、Char_Var という名前の列テンプレートが使用されるよう指定されます。複数の変数が同じ列テンプレートを使用するため、GENERIC=は、テーブルテンプレートと各列の割り当ての両方で ON に設定する必要があります。FORMAT=サブオプションによって、列の形式が指定されます。DYNAMIC=サブオプションによって、現在の列の動的変数 Colhd の値が指定されます。最初の列の列ヘッダーは Country、2 番目の列(同じ列テンプレートを使用する)の列ヘッダーは Year になっていることを確認してください。

```
columns=(
  char_var=country(generic=on format=$cntry.
  dynamic=(colhd="Country"))
  char_var=type(generic dynamic=(colhd="Year"))
  num_var=kilotons(generic=on format=comma12.
  dynamic=(colhd="Kilotons"))
);
```

データ値をデータコンポーネントに書き込みます。 _ODS_ オプションと PUT ステートメントによって、全列のデータ値がデータコンポーネントに書き込まれます。RUN ステートメントによって、DATA ステップが実行されます。

```
put _ods_;
run;
```

HTML 出力の作成を停止します。 ODS HTML ステートメントによって、HTML 出力先と、それに関連付けられる全ファイルが閉じられます。出力をブラウザで表示できるように、出力先を閉じます。ODS HTML ステートメントによって、HTML 出力先が開き、ODS がデフォルト設定に戻されます。

```
ods html close;
ods html;
```

HTML 出力: ユーザー定義属性を使用した色とフォントの指定

フォントを使用し、SAS タイトルで SystemTitle スタイル要素が使用され、列ヘッダーで Header スタイル要素が使用され、フッターで Table-Footer スタイル要素が使用され、文字と数値のセル両方のコンテンツで CellContents スタイル要素が使用されることを

確認します。テーブル罫線の幅とセル間のスペースを使用し、テーブル自体が Table スタイル要素を使用して生成されていることを確認します。

アウトプット 13.1 HTML 出力

The screenshot shows a window titled "Results Viewer - SAS Output" containing a table with the following data:

Country	Year	Kilotons
Brazil	Rice	10,035
	Corn	31,975
China	Rice	190,100
	Corn	119,350
India	Rice	120,012
	Corn	8,660
Indonesia	Rice	51,165
	Corn	8,925
United States	Rice	7,771
	Corn	236,064

Prepared on 11FEB2011

例 2: ユーザー定義の属性の使用

要素: DEFINE STYLE ステートメント:
 STYLE ステートメント(ユーザー定義属性指定)
 DEFINE TABLE ステートメント: CLASSLEVELS=テーブル属性
 DEFINE TABLE ステートメント: DYNAMIC ステートメント
 DEFINE TABLE ステートメント: MVAR ステートメント
 DEFINE COLUMN ステートメント: BLANK_DUPS=
 DEFINE COLUMN ステートメント: GENERIC=
 DEFINE COLUMN ステートメント: HEADER=
 DEFINE COLUMN ステートメント: STYLE=
 DEFINE COLUMN ステートメント:
 BLANK_DUPS=属性
 CELLSTYLE-AS ステートメント
 GENERIC=属性

DEFINE FOOTER ステートメント:
TEXT ステートメント

他の要素: その他の ODS 機能:
ODS HTML ステートメント
FILE ステートメント(ODS=オプション指定)
PUT ステートメント(_ODS_引数指定)

データセット: Grain_Production

出力形式: \$CNTRY.

プログラム 1: 説明

この例では、“例 1: スタンドアロンスタイルの作成” (1008 ページ) によって作成されるスタイルに相当するスタイルが作成されます。ただし、このスタイルでは色とフォントの指定にユーザ一定義属性が使用されます。次のテクニックを使用すると、出力内の複数の場所で簡単に変更を加えることができます。

プログラム 1: スタイルの作成

```
proc template;
define style newstyle2;
style fonts /
"cellfont"=("arial, helvetica", 4, medium roman)
"headingfont"=("arial, helvetica", 5, bold roman)
"titlefont"=("arial, helvetica", 6, bold italic);

style colors /
"light"=white
"medium"=cxaaaaaff
"dark"=cx0000ff
"bright"=red;

style cellcontents /
backgroundcolor=colors("dark")
color=colors("light")
font=fonts("cellfont");
style header /
backgroundcolor=colors("medium")
color=colors("dark")
font=fonts("headingfont");
style systemtitle /
backgroundcolor=colors("light")
color=colors("bright")
font=fonts("titlefont");
style footer from systemtitle /
fontsize=3;
style table /
borderspacing=5
borderwidth=10;

end;
run;

proc template;
define table table1;

mvar sysdate9;
```

```

dynamic colhd;

classlevels=on;

define column char_var;
generic=on;
blank_dups=on;
header=colhd;
style=cellcontents;
end;

define column num_var;
generic=on;
header=colhd;
style=cellcontents;
end;

define footer table_footer;
text "Prepared on" sysdate9;
end;

end;
run;

ods html body="newstyle2-body.htm"
style=newstyle2;

title "Leading Grain Producers";
title2 "in 1996";

data _null_;
set grain_production;
where type in ("Rice", "Corn") and year=1996;

file print ods=(
template="table1"

columns=(
char_var=country(generic=on format=$centry.
dynamic=(colhd="Country"))
char_var=type(generic dynamic=(colhd="Year"))
num_var=kilotons(generic=on format=comma12.
dynamic=(colhd="Kilotons"))
)
);

put _ods_;
run;

ods html close;
ods html;

```

プログラムの説明

スタイル NewStyle2 を作成します。 PROC TEMPLATE ステートメントによって、TEMPLATE プロシジャが開始されます。DEFINE STYLE ステートメントによって、NewStyle2 という新しいスタイルが作成されます。この STYLE ステートメントによって、スタイル要素 Fonts が定義されます。このスタイル要素は、CellFont、HeadingFont、TitleFont という 3 つのユーザー定義属性から構成されます。これらの属性のそれぞれによって、フォントが記述されます。次のスタイルによって、3 つの属

性それぞれにフォントサイズ、フォントウェイト、フォントスタイルが指定されます。フォントとフォント幅の属性がデフォルトスタイルによって定義されています。

```
proc template;
define style newstyle2;
style fonts /
"cellfont"=("arial, helvetica", 4, medium roman)
"headingfont"=("arial, helvetica", 5, bold roman)
"titlefont"=("arial, helvetica", 6, bold italic);
```

スタイル要素 Colors を作成します。この STYLE ステートメントによって、スタイル要素 Colors が定義されます。このスタイル要素は、light、medium、dark、bright という4つのユーザー定義属性から構成されます。medium と dark の値は、very light blue と blue に相当する RGB 値です。

```
style colors /
"light"=white
"medium"=cxaaaaaff
"dark"=cx0000ff
"bright"=red;
```

3つのスタイル要素 CellContents、Header、SystemTitle を作成します。継承を使用してスタイル要素 Footer を作成します。システム属性は、スタイル内に以前作成されたユーザー定義属性の条件によって定義されます。たとえば、CellContents の前景色は colors("light") に設定されます。Colors のテンプレートに注目すると、色は白に見えます。ただし、ユーザー定義属性を使用してスタイル要素内で colors を設定すると、スタイル要素 Colors 内の単一の値を変更することで、特定の色を使用するオブジェクトの色を変更できます。

```
style cellcontents /
backgroundcolor=colors("dark")
color=colors("light")
font=fonts("cellfont");
style header /
backgroundcolor=colors("medium")
color=colors("dark")
font=fonts("headingfont");
style systemtitle /
backgroundcolor=colors("light")
color=colors("bright")
font=fonts("titlefont");
style footer from systemtitle /
fontsize=3;
style table /
borderspacing=5
borderwidth=10;
```

スタイルを終了します。END ステートメントによってスタイルが終了されます。RUN ステートメントによって、PROC TEMPLATE が実行されます。

```
end;
run;
```

テーブルテンプレート Table1 を作成します。PROC TEMPLATE ステートメントによって、TEMPLATE プロシジャが開始されます。DEFINE TABLE ステートメントによって、Table1 という新しいテーブルテンプレートが作成されます。

```
proc template;
  define table table1;
```

1つのマクロ変数を参照する記号を指定します。 MVAR ステートメントによって、マクロ変数を参照する記号、Sysdate9 が定義されます。ODS では、このマクロ変数の値が文字列として使用されます。マクロ変数への参照は、ODS によってテーブルテンプレートがデータコンポーネントにバインドされ出力オブジェクトが生成される場合に解決されず、SYSDATE9 は自動マクロ変数で、その値は常に使用可能です。

```
  mvar sysdate9;
```

データコンポーネントによって提供される値を参照する記号を指定します。 ODS によってテンプレートとデータコンポーネントがバインドされ出力オブジェクトが生成される場合、DYNAMIC ステートメントによって、データコンポーネントによって提供される値を参照する記号、Colhd が定義されます。Colhd の値は、プログラムの後で表示される DATA ステップ内の FILE ステートメントで提供されます。動的列ヘッダーを使用すると、ハードコーディングによるテーブルテンプレート内のヘッダーよりも柔軟性が高くなります。

```
  dynamic colhd;
```

行ごとに変化しない値の繰り返しを制御します。 CLASSLEVELS=属性によって、BLANK_DUPS=ON でマーキングされている前列内の値が変わると、BLANK_DUPS=ON でマーキングされている列内の値の表示が非表示にされます。BLANK_DUPS=が汎用列内で設定されているため、この属性も設定してください。

```
  classlevels=on;
```

列 Char_Var を作成します。 この DEFINE ステートメントとその属性によって、列テンプレート Char_Var が作成されます。GENERIC=によって、複数の値で同じ列テンプレートを使用できるように指定されます。BLANK_DUPS=によって、列ごとに値が変化しない場合(また、テーブルの CLASSLEVELS=ON のため、BLANK_DUPS=ON でマーキングされる前列内の値が変わらない場合)、列内の値の表示が非表示にされます。HEADER=によって、列のヘッダーが動的変数 Colhd のテキストになるよう指定されます。この変数の値は、データコンポーネントによって設定されます。STYLE=属性によって、この列テンプレートのスタイル要素が CellContents になるよう指定されます。END ステートメントによってテンプレートは終了します。

```
  define column char_var;
    generic=on;
    blank_dups=on;
    header=colhd;
    style=cellcontents;
  end;
```

列 Num_Var を作成します。 この DEFINE ステートメントとその属性によって、列テンプレート Num_Var が作成されます。GENERIC=によって、複数の値で同じ列テンプレートを使用できるように指定されます。HEADER=によって、列のヘッダーが動的変数 Colhd のテキストになるよう指定されます。この変数の値は、データコンポーネントによって設定されます。STYLE=属性によって、この列テンプレートのスタイル要素が CellContents になるよう指定されます。END ステートメントによってテンプレートは終了します。

```
  define column num_var;
    generic=on;
    header=colhd;
    style=cellcontents;
  end;
```

フッター要素 Table_Footer を作成します。 DEFINE ステートメントとそのサブステートメントによって、テーブル要素 Table_Footer が定義されます。FOOTER 引数によって、Table_Footer がフッターとして宣言されます。TEXT ステートメントによって、フッターのテキストが指定されます。ODS によってデータコンポーネントが(後続の DATA ステップ内の)テーブルテンプレートにバインドされる場合、マクロ変数 SYSDATE9 の値が解決されます。

```
define footer table_footer;
text "Prepared on" sysdate9;
end;
```

テーブルテンプレートを終了します。 この END ステートメントによって、テーブルテンプレートは終了します。RUN ステートメントによって、PROC TEMPLATE ステップが実行されます。

```
end;
run;
```

HTML 出力を作成し、HTML 出力保存用の場所を指定します。 出力に使用するスタイルを指定します。HTML 出力はデフォルトで開いています。ただし、スタイルを指定する場合、開いている STYLE=を指定し、ODS HTML ステートメントを使用してください。STYLE=オプションによって、ODS で NewStyle2 が出力をフォーマットする場合にスタイルとして使用されるよう指示されます。

```
ods html body="newstyle2-body.htm"
style=newstyle2;
```

レポートのタイトルを指定します。 TITLE ステートメントによって、出力のタイトルが 2 つ指定されます。

```
title "Leading Grain Producers";
title2 "in 1996";
```

データコンポーネントを作成します。 この DATA ステップによってデータセットは作成されません。代わりに、データコンポーネントが作成され、最終的に出力オブジェクトが作成されます。SET ステートメントによって、データセット Grain_Production が読み取られます。WHERE ステートメントによって、1996 年の米とコーンの生産のみの情報が出力オブジェクトに含まれるように、データセットがサブセット化されます。

```
data _null_;
set grain_production;
where type in ("Rice", "Corn") and year=1996;
```

DATA ステップ結果を ODS にルーティングし、Table1 テーブルテンプレートを使用します。 fileref PRINT と、FILE ステートメント内の ODS オプションを組み合わせると、DATA ステップの結果が ODS にルーティングされます。TEMPLATE=サブオプションによって、ODS で Table1 という名前のテーブルテンプレート PHONELIST (PROC TEMPLATE で前に作成済み)が使用されるよう指示されます。

ODS での DATA ステップの使用に関する詳細は、4 章、[“DATA ステップでの ODS の使用” \(57 ページ\)](#)を参照してください。

```
file print ods=(
template="table1"
```

各変数に使用する列テンプレートを指定します。 COLUMNS=サブオプションによって、DATA ステップ変数がテーブルテンプレートで定義される列内に配置されます。たとえば、最初の *column-specification* によって、出力オブジェクトの最初の列に変数

COUNTRY の値が含まれ、Char_Var という名前の列テンプレートが使用されるよう指定されます。複数の変数が同じ列テンプレートを使用するため、GENERIC=は、テーブルテンプレートと各列の割り当ての両方で ON に設定する必要があります。FORMAT=サブオプションによって、列の形式が指定されます。DYNAMIC=サブオプションによって、現在の列の動的変数 Colhd の値が指定されます。最初の列の列ヘッダーは Country、2 番目の列(同じ列テンプレートを使用する)の列ヘッダーは year になっていることを確認してください。

```
columns=(
char_var=country(generic=on format=$cntry.
dynamic=(colhd="Country"))
char_var=type(generic dynamic=(colhd="Year"))
num_var=kilotons(generic=on format=comma12.
dynamic=(colhd="Kilotons"))
)
);
```

データ値をデータコンポーネントに書き込みます。 _ODS_ オプションと PUT ステートメントによって、全列のデータ値がデータコンポーネントに書き込まれます。RUN ステートメントによって、DATA ステップが実行されます。

```
put _ods_;
run;
```

HTML 出力先を閉じます。 ODS HTML ステートメントによって、HTML 出力先とその関連ファイルすべてが閉じられます。ODS HTML ステートメントによって、HTML 出力先が開き、ODS がデフォルト設定に戻されます。

```
ods html close;
ods html;
```

元の HTML 出力

この HTML 出力は、セクション“HTML 出力: ユーザー定義属性を使用した色とフォントの指定”(1014 ページ)内の出力と同じで、これはあらかじめ定義されたぞ k 末井を使用したスタイルによって生成されたものです。フォントを使用すると、SAS タイトルで SystemTitle スタイル要素が使用され、列ヘッダーで Header スタイル要素が使用され、フッターで Table-Footer スタイル要素が使用され、文字と数値のセル両方のコンテンツで CellContents スタイル要素が使用されることを確認できます。テーブル罫線の幅とセル間のスペースを使用し、テーブルが Table スタイル要素を使用して生成されていることを確認します。

**Leading Grain Producers
in 1996**

Country	Year	Kilotons
Brazil	Rice	10,035
	Corn	31,975
China	Rice	190,100
	Corn	119,350
India	Rice	120,012
	Corn	8,660
Indonesia	Rice	51,165
	Corn	8,925
United States	Rice	7,771
	Corn	236,064

Prepared on 11FEB2011

プログラム 2: 説明

プログラム“例 1: スタンドアロンスタイルの作成”(1008 ページ)では、青が桃色と赤に置き換えられるようにカラースキームを変更するには、“blue”と“very light blue”が出現するたびに更新してください。このプログラムでは、色はユーザー定義属性によって定義されるので、更新を加えるのは 1 回のみに行ってください。

プログラム 2: ユーザー定義属性の変更

```

style colors /
"light"=white
"medium"=cxaaaaaff
"dark"=cx0000ff
"bright"=red;

style colors /
"light"=white
"medium"=pink
"dark"=red
"bright"=red;

```

```
"cellfont"=("arial, helvetica", 4, medium roman)

"cellfont"=("courier, arial, helvetica", 4, medium roman)
```

プログラムの説明

カラースキームを変更するには、コードの次のセクションのみを変更します。

次のコードは、“プログラム 1: スタイルの作成” (1016 ページ)からのコード状の元の部分です。

```
style colors /
"light"=white
"medium"=cxaaaaff
"dark"=cx0000ff
"bright"=red;
```

属性を次のように変更します。

```
style colors /
"light"=white
"medium"=pink
"dark"=red
"bright"=red;
```

同様に、CellFont を使用するスタイル要素でフォントを変更するには、コードの次のセクションを変更します。

```
"cellfont"=("arial, helvetica", 4, medium roman)
```

次は、コードの変更方法の一例です。

```
"cellfont"=("courier, arial, helvetica", 4, medium roman)
```

HTML 出力: ユーザー定義属性の色とフォントの変更

この HTML 出力は、これらの変更と同じプログラムを実行した結果を示します。

セル内のフォントは Courier です。この変更は、フォントのコードに加えた変更が 1 つ のみの場合でも、複数の場所で発生します。

アウトプット 13.3 色とフォントが変更された HTML 出力

**Leading Grain Producers
in 1996**

Country	Year	Kilotons
Brazil	Rice	10,035
	Corn	31,975
China	Rice	190,100
	Corn	119,350
India	Rice	120,012
	Corn	8,660
Indonesia	Rice	51,165
	Corn	8,925
United States	Rice	7,771
	Corn	236,064

Prepared on 11 FEB 2011

例 3: CLASS ステートメントの使用

要素: DEFINE STYLE ステートメント:
 ユーザー定義属性
 BACKGROUND-COLOR=スタイル属性
 BORDER-WIDTH=スタイル属性
 CELL-PADDING=スタイル属性
 BORDER-SPACING=スタイル属性
 COLOR=スタイル属性
 FONT=スタイル属性
 FONT-STYLE=スタイル属性

FRAME=スタイル属性
 POSTHTML=スタイル属性
 RULES=スタイル属性
 VISITEDLINKCOLOR=スタイル属性

CLASS ステートメント

PARENT=ステートメント

他の要素: その他の ODS 機能:
 ODS HTML ステートメント: STYLE=オプション
 ODS PATH ステートメント

データセット: [Energy](#)

出力形式: [DIVFMT](#).および [USETYPE](#).

プログラム 1: 詳細

スタイルを取り扱う際には、完全に新しいスタイルを記述するのではなく、SAS によって提供されるスタイルを変更する機会の方が多いためにあります。この例では、HTML 出力先のデフォルトスタイルに変更を加えます。新しいスタイルによって、HTML 出力内のコンテンツファイルとボディファイルの両方が影響を受けます。コンテンツファイルでは、変更されたスタイルによって次に対する変更が加えられます。

- ヘッダーのテキストおよび出力を生成したプロシジャを識別するテキスト
- テキストの一部の部分の色
- テキストの一部の部分のフォントサイズ
- 目次のエントリリスト内のスペース

ボディファイルでは、変更されたスタイルによって次に対する変更が加えられます。

- カラーリスト内の 2 つの色。これらの色の Style1 は、目次、BY ライン、列見出しの前景色として使用されます。他方の色は、SAS タイトルやフットノートを含む、ボディファイルの多数のパートの前景に使用されます。
- タイトルとフットノートのフォントサイズ。
- ヘッダーのフォントスタイル。
- 罫線のスペース、ルール、罫線の幅などの属性変更によるテーブル内のデータの表示。

親スタイル内で似ている名前のスタイル要素を含む新しいスタイル内でスタイル要素を変更すると、FROM オプションを指定して CLASS ステートメントまたは STYLE ステートメントを使用する必要があります。この例では、読み取りが簡単な短いプログラムを生成するため、CLASS ステートメントを使用します。

プログラム 1: PROC PRINT でのデフォルトスタイルの使用

```
ods path sasuser.templat(update) sashelp.tmplmst(read);

ods html body="sasdefaultstyle-body.htm"
contents="sasdefaultstyle-content.htm"
frame="sasdefaultstyle-frame.htm";

title "Energy Expenditures for Each Region";
title2 "(millions of dollars)";

proc print data=energy noobs;
var state type expenditures;
```

```

format division divfmt. type usetype. expenditures comma12.;
by division;
where division=2 or division=3;
run;

ods html close;
ods html;

```

プログラムの説明

テーブルテンプレートを配置するため、検索パスを指定します。このステートメントでは、PROC TEMPLATE によって作成されたテンプレートをどの場所から検索するか、およびその検索順序が指定されます。このステートメントは、サンプルが正常に機能することを保証するために含まれます。ただし、パスを変更しなかった場合、このステートメントによってデフォルトパスが指定されるため、これを含める必要はありません。

```
ods path sasuser.templat(update) sashelp.templmst(read);
```

HTML 出力を作成し、HTML ファイルの名前を指定します。ODS HTML ステートメントによって、HTML 出力先が開かれ、HTML 出力が作成されます。PROC PRINT からの出力はボディファイルに送信されます。FRAME=および CONTENTS=によって、ボディファイルのコンテンツにリンクする目次を含むフレームが作成されます。また、ボディファイルはフレーム内にも表示されます。スタイルは指定されないため、出力のフォーマットにはデフォルトスタイル、HTMLBlue が使用されます。

```
ods html body="sasdefaultstyle-body.htm"
contents="sasdefaultstyle-content.htm"
frame="sasdefaultstyle-frame.htm";
```

レポートのタイトルと脚注を指定します。TITLE および FOOTNOTE ステートメントによって、2 つのタイトルと 1 つの脚注がレポートに提供されます。

```
title "Energy Expenditures for Each Region";
title2 "(millions of dollars)";
```

レポートを出力します。PROC PRINT によって、3 つの変数を含むレポートが作成されます。ODS によってレポートがボディファイルに書き込まれます。

```
proc print data=energy noobs;
var state type expenditures;
format division divfmt. type usetype. expenditures comma12.;
by division;
where division=2 or division=3;
run;
```

HTML 出力の作成を停止します。ODS HTML ステートメントによって、HTML 出力先とその関連ファイルすべてが閉じられます。ODS HTML ステートメントによって、HTML 出力先が開き、ODS がデフォルト設定に戻されます。

```
ods html close;
ods html;
```

出力: デフォルトスタイルを使用した PROC PRINT からの HTML 出力

アウトプット 13.4 デフォルトスタイルを使用した PROC PRINT からの HTML 出力

Table of Contents		Energy Expenditures for Each Region (millions of dollars)		
1. Print		Division=Middle Atlantic		
· Division=Middle Atlantic				
· Data Set WORK.ENERGY				
· Division=Mountain				
· Data Set WORK.ENERGY				
		Division=Middle Atlantic		
		State	Type	Expenditures
		NY	Residential Customers	8,786
		NY	Business Customers	7,825
		NJ	Residential Customers	4,115
		NJ	Business Customers	3,558
		PA	Residential Customers	6,478
		PA	Business Customers	3,695
		Division=Mountain		
		State	Type	Expenditures
		MT	Residential Customers	322
		MT	Business Customers	232
		ID	Residential Customers	392
		ID	Business Customers	298
		WY	Residential Customers	194
		WY	Business Customers	184
		CO	Residential Customers	1,215
		CO	Business Customers	1,173
		NM	Residential Customers	545
		NM	Business Customers	578
		AZ	Residential Customers	1,694
		AZ	Business Customers	1,448
		UT	Residential Customers	621
		UT	Business Customers	438
		NV	Residential Customers	493
		NV	Business Customers	378

プログラム 2: CLASS ステートメントを使用したデフォルトスタイルの変更

```
proc template;
define style customdefault;
parent=styles.htmlblue;

class contents /
background=cxffffcc;

class contenttitle /
background=cxffffcc;

class data /
```

```

background=cxcccccc;
style IndexProcName from Index /

backgroundcolor = cxffffcc;

class colors /
'link2' = cx0000FF
'link1' = cx800080
'docbg' = cx99ccff
'contentbg' = cxFAFBFE
'systitlebg' = cx99ccff
'titlebg' = cxFAFBFE
'proctitlebg' = cxFAFBFE
'headerbg' = cxEDF2F9
'captionbg' = cxFAFBFE
'captionfg' = cx112277
'bylinebg' = cx99ccff
'notebg' = cxFAFBFE
'tablebg' = cxFAFBFE
'batchbg' = cxFAFBFE
'systitlefg' = cx112277
'titlefg' = cx112277
'proctitlefg' = cx112277
'bylinefg' = cx112277
'notefg' = cx112277;

class Header /
bordercolor = cxEDF2F9
backgroundcolor = cxEDF2F9
color = cx112277;

class text /
"prefix1" = "PROC "
"suffix1" = ":"
"Content Title" = "Contents"
"Pages Title" = "Pages"
;

end;
run;

ods html body="customdefaultstyle-body.htm"
contents="customdefaultstyle-content.htm"
frame="customdefaultstyle-frame.htm"
style=customdefault;

title "Energy Expenditures for Each Region";
title2 "(millions of dollars)";

proc print data=energy noobs;
var state type expenditures;
format

division divfmt. type usetype. expenditures comma12.;
by division;
where division=2 or division=3;
run;

```



```
ods html close;

ods html;
```

プログラムの説明

スタイル CustomDefault を作成します。 PROC TEMPLATE ステートメントによって、TEMPLATE プロシジャが開始されます。DEFINE STYLE ステートメントによって、CustomDefault という新しいスタイルが作成されます。

```
proc template;
define style customdefault;
```

CustomDefault スタイルがその属性を継承する元の親スタイルを指定します。 PARENT=属性によって、現在のスタイルの継承元として Styles.HTMLBlue が指定されます。親のスタイルテンプレートで指定されるすべてのスタイル要素、属性、ステートメントは、子スタイルテンプレートによって上書きされないかぎり、子スタイルテンプレートで使用されます。

```
parent=styles.htmlblue;
```

コンテンツスタイル要素とデータセルをカスタマイズします。 スタイル要素 Contents、ContentTitle、IndexProcName 内の BACKGROUND=スタイル属性を変更すると、コンテンツの背景は黄色になります。

```
class contents /
background=cxffffcc;

class contenttitle /
background=cxffffcc;

class data /
background=cxcccccc;
style IndexProcName from Index /

backgroundcolor = cxffffcc;
```

スタイル要素 Colors の属性を変更します。 この CLASS ステートメントによって、子スタイルにスタイル要素 Colors が追加されます。この要素は、親スタイル(HTMLBlue)内にも存在します。CLASS ステートメントによって、Colorsstyle 要素の元インスタンスにあるすべてのスタイル属性は、Colors の新しいインスタンスに追加されます。ただし、Colors の新しいインスタンスによって y 和書きされる場合は除きます。CLASS ステートメントを使用すると、FROM オプションを指定する必要はありません。CLASS ステートメントまたは FROM オプションを使用しなかった場合、Colors の元インスタンスからの属性は Colors の新しいインスタンスに追加されません。CustomDefault 内の Colors スタイル要素には、具体的に指定されるスタイルステートメントのみが含まれます。Colors によって定義されるユーザー定義属性を使用するすべてのスタイル要素 (fgB2、fgB1 など)では、Styles.HTMLBlue によって指定されるスタイル属性ではなく、Custom.Default で指定されるスタイル属性が使用されます。そのため、ここで色を変更する場合は、HTML 出力で色が出現するたびに更新してください。この CLASS ステートメントによって、3 つのユーザー定義スタイル属性 Docbg=、Systitlebg=、Bylinebg=の値が変更されます。

```
class colors /
'link2' = cx0000FF
'link1' = cx800080
'docbg' = cx99ccff
```

```

'contentbg' = cxFAFBFE
'systitlebg' = cx99ccff
'titlebg' = cxFAFBFE
'proctitlebg' = cxFAFBFE
'headerbg' = cxEDF2F9
'captionbg' = cxFAFBFE
'captionfg' = cx112277
'bylinebg' = cx99ccff
'notebg' = cxFAFBFE
'tablebg' = cxFAFBFE
'batchbg' = cxFAFBFE
'systitlefg' = cx112277
'titlefg' = cx112277
'proctitlefg' = cx112277
'bylinefg' = cx112277
'notefg' = cx112277;

```

スタイル要素 Header 内のスタイル属性を変更します。この STYLE ステートメントによって、イタリックフォントスタイルが、親スタイル内で定義される Header スタイル要素から Gader によって継承される属性に追加されます。また、FROM オプションを指定して STYLE ステートメントを指定した場合もあります。この変更は 2 つのスタイルが最初に結合した後に発生するため、変更内容によって HeaderFixed と、親スタイル内で Header から継承されるその他のスタイル要素が影響を受けます。

デフォルトスタイルでは、BY ラインの背景色はドキュメントの背景色とは異なるため、[デフォルトスタイルを使用した PROC PRINT からの HTML 出力 \(1027 ページ\)](#)でグレーストライプとして表示されます。このカスタマイズされたスタイルでは、BY ラインとドキュメントの背景色が同じであるため、ストライプは表示されません。

```

class Header /
bordercolor = cxEDF2F9
backgroundcolor = cxEDF2F9
color = cx112277;

```

出力の一部で使用されるテキストをカスタマイズします。カスタマイズされたスタイルでは、出力を識別するテキストによって“1. PROC PRINT”が読み取られます。コンテンツファイルの上部に表示されるヘッダーは、“Table of Contents”から“Contents”に変更され、ページのテーブルの上部に表示されるヘッダーは、“Table of Pages”から“Pages”に変更されます。バナーは大文字と小文字が混じって使用されるように変更されました。(バナーもページのテーブルも両方ともこの例の HTML 出力では表示されませんが、スタイルを様々な状況で使用できるように属性が含まれますのでご注意ください)

この CLASS ステートメントによって、HTML 出力の一部で使用されるテキストが変更されます。コンテンツファイルでは、デフォルトスタイルによって、“The”が prefix1 の値として使用され、“Procedure”が suffix1 の値として使用されます。そのため、デフォルトスタイルを使用する HTML 出力で、PROC PRINT からの出力は“1. The PRINT Procedure”によって識別されます([デフォルトスタイルを使用した PROC PRINT からの HTML 出力 \(1027 ページ\)](#))。

```

class text /
"prefix1" = "PROC "
"suffix1" = ":"
"Content Title" = "Contents"
"Pages Title" = "Pages"
;

```

カスタマイズしたスタイルの作成を停止します。END ステートメントによってスタイルが終了されます。RUN ステートメントによって、PROC TEMPLATE ステップが実行されま

```
end;
run;
```

HTML 出力を作成し、出力に使用するスタイルを指定します。ODS HTML ステートメントによって、HTML 出力先が開かれ、HTML 出力が作成されます。PROC PRINT からの出力はボディファイルに送信されます。FRAME=および CONTENTS=によって、ボディファイルのコンテンツにリンクする目次を含むフレームが作成されます。また、ボディファイルはフレーム内にも表示されます。STYLE=オプションによって、ODS で CustomDefault が出力をフォーマットする場合にスタイルとして使用されるよう指示されます。

```
ods html body="customdefaultstyle-body.htm"
contents="customdefaultstyle-content.htm"
frame="customdefaultstyle-frame.htm"
style=customdefault;
```

レポートのタイトルと脚注を指定します。TITLE および FOOTNOTE ステートメントによって、2つのタイトルと1つの脚注がレポートに提供されます。

```
title "Energy Expenditures for Each Region";
title2 "(millions of dollars)";
```

カスタマイズされたレポートを出力します。PROC PRINT によって、3つの変数を含むレポートが作成されます。ODS によってレポートがボディファイルに書き込まれます。この PROC PRINT ステップは、以前にデフォルトスタイルで使用されたものと同じステップです。

```
proc print data=energy noobs;
var state type expenditures;
format

division divfmt. type usetype. expenditures comma12.;
by division;
where division=2 or division=3;
run;
```

HTML 出力先を閉じます。ODS HTML ステートメントによって、HTML 出力先とその関連ファイルすべてが閉じられます。ODS HTML ステートメントによって、HTML 出力先が開き、ODS がデフォルト設定に戻されます。

```
ods html close;

ods html;
```

アウトプット 13.5 カスタマイズされたスタイルを使用した PROC PRINT からの HTML 出力

Energy Expenditures for Each Region (millions of dollars)		
Division=Middle Atlantic		
State	Type	Expenditures
NY	Residential Customers	8,786
NY	Business Customers	7,825
NJ	Residential Customers	4,115
NJ	Business Customers	3,558
PA	Residential Customers	6,478
PA	Business Customers	3,695
Division=Mountain		
State	Type	Expenditures
MT	Residential Customers	322
MT	Business Customers	232
ID	Residential Customers	392
ID	Business Customers	298
WY	Residential Customers	194
WY	Business Customers	184
CO	Residential Customers	1,215
CO	Business Customers	1,173

例 4: テーブルスタイルとグラフスタイルの定義

要素: DEFINE STYLE ステートメントのスタイル属性:

ユーザー定義属性

スタイル属性: BACKGROUNDCOLOR=

スタイル属性: BORDERCOLORDARK=

スタイル属性: BORDERCOLORLIGHT=

スタイル属性: BORDERWIDTH=

スタイル属性: CELLPADDING=

スタイル属性: BORDERSPACING=

スタイル属性: DROPSHADOW=

スタイル属性: ENDCOLOR=

スタイル属性: FONT=

スタイル属性: COLOR=

スタイル属性: FRAME=

スタイル属性: GRADIENTDIRECTION=

スタイル属性: IMAGE=

スタイル属性: TEXTALIGN=

スタイル属性: スタイル属性:WIDTH=

スタイル属性: RULES=

スタイル属性: TRANSPARENCY=

スタイル属性: VERTICALALIGN=

DEFINE STYLE ステートメントのスタイル要素:

スタイル要素: GraphAxisLines

スタイル要素: GraphBackground

スタイル要素: GraphBorderLines

スタイル要素: GraphCharts

スタイル要素: GraphLabelText
 スタイル要素: GraphWalls
 PARENT=ステートメント
 STYLE ステートメント

詳細

スタイルを取り扱う際には、完全に新しいスタイルを記述するのではなく、SAS によって提供されるスタイルを変更する機会の方が多いためにあります。この例は、SAS によって定義されたグラフスタイル `Science` がどのように作成されたかを示します。

注: STYLE ステートメントによって新しいスタイル内にスタイル要素が作成されると、新しいスタイル内の当該スタイル要素から明示的に継承されるスタイル要素のみが変更内容を継承しますのでご注意ください。STYLE ステートメントによって新しいスタイル内にスタイル要素が作成されると、当該要素から継承されるすべてのスタイル要素によって、新しいスタイル内にある定義が継承されるため、変更内容はすべての子要素に表示されます。

プログラム

```
proc template;
define style Styles.Science;

  parent = styles.default;

  style fonts /
  "TitleFont2" = ("Verdana, Verdana, Helvetica, sans-serif",14pt,Bold)
  "TitleFont" = ("Verdana, Verdana, Helvetica, sans-serif",18pt,Bold)
  "StrongFont" = ("Verdana, Verdana, Helvetica, sans-serif",14pt,Bold)
  "EmphasisFont" = ("Verdana, Verdana, Helvetica, sans-serif",10pt,
  Italic)
  "FixedEmphasisFont" = ("Courier New", Courier, monospace",10pt,
  Italic)
  "FixedStrongFont" = ("Courier New", Courier, monospace",10pt,Bold)
  "FixedHeadingFont" = ("Courier New", Courier, monospace",10pt)
  "BatchFixedFont" = ("Courier New", Courier, monospace",10pt)
  "FixedFont" = ("Courier New", Courier, monospace",10pt)
  "headingEmphasisFont" = ("Verdana, Verdana, Helvetica, sans-serif",14
  pt,Bold Italic)
  "headingFont" = ("Verdana, Verdana, Helvetica, sans-serif",14pt,Bold)

  "docFont" = ("Verdana, Verdana, Helvetica, sans-serif",8pt,Bold);

  style GraphFonts from _self_/
  "GraphValueFont" = ("Verdana",10pt)
  "GraphLabelFont" = ("Verdana",14pt,Bold);

  style colors /
  "headerfgemph" = cx31035E
  "headerbgemph" = cxFFFFFF
  "headerfgstrong" = cx31035E
  "headerbgstrong" = cxFFFFFF
  "headerfg" = cx31035E
  "headerbg" = cxFFFFFF
  "datafgemph" = cx31035E
  "databgemph" = cxDFECE1
  "datafgstrong" = cx31035E
```

```
"databgstrong" = cxDFECE1
"datafg" = cx31035E
"databg" = cxDFECE1
"batchfg" = cx31035E
"batchbg" = cxDFECE1
"tablebg" = cx31035E
"tableborderdark" = cx909090
"tableborderlight" = cxFFFFFF
"tableborder" = cxFFFFFF
"notefg" = cx31035E
"notebg" = cxDFECE1
"bylinefg" = cx31035E
"bylinebg" = cxDFECE1
"captionfg" = cx31035E
"captionbg" = cxDFECE1
"proctitlefg" = cx31035E
"proctitlebg" = cxDFECE1
"titlefg" = cx31035E
"titlebg" = cxDFECE1
"systitlefg" = cx31035E
"systitlebg" = cxDFECE1
"Conentryfg" = cx31035E
"Confolderfg" = cx31035E
"Contitlefg" = cx31035E
"link2" = cx800080
"link1" = cx0000FF
"contentfg" = cx31035E
"contentbg" = cxDFECE1
"docfg" = cx31035E
"docbg" = cxDFECE1;

style GraphColors /
"gconramp3cend" = cxDD6060
"gconramp3cneutral" = cxFFFFFF
"gconramp3cstart" = cx6497EB
"gramp3cend" = cxBED8D3
"gramp3cneutral" = cxFFFFFF
"gramp3cstart" = cxAAB6DF
"gconramp2cend" = cx6497EB
"gconramp2cstart" = cxFFFFFF
"gramp2cend" = cx548287
"gramp2cstart" = cxFFFFFF
"gtext" = CX31035E
"glabel" = CX31035E
"gborderlines" = CX31035E
"goutlines" = CX31035E
"ggrid" = CX31035E
"gaxis" = CX31035E
"gshadow" = CX707671
"glegend" = CXFFFFFF
"gfloor" = CXDFECE1
"gwalls" = CXFFFFFF
"gcdata12" = cxFF667F
"gcdata11" = cx5050CC
"gcdata10" = cxE100BF
"gcdata9" = cx007F00
```

```

"gcdata8" = cxB99600
"gcdata7" = cx7F7F7F
"gcdata6" = cx984EA3
"gcdata5" = cx4DAF4A
"gcdata4" = cxA65628
"gcdata3" = cxFF7F00
"gcdata2" = cx377DB8
"gcdata1" = cxE31A1C
"gdata12" = CX4A5573
"gdata11" = CXCFB1E2
"gdata10" = CX8E829D
"gdata9" = CX2952B1
"gdata8" = CXAAB6DF
"gdata7" = CX6771C2
"gdata6" = CXBED8D3
"gdata5" = CX8B65A3
"gdata4" = CXBCD3AB
"gdata3" = CX548287
"gdata2" = CX7DC1C9
"gdata1" = CX9580D5;

style Table from Output /
cellpadding = 5
borderspacing = 2
bordercolordark = colors("tableborderdark")
bordercolorlight = colors("tableborderlight")
borderwidth = 2;

style GraphLabelText from GraphLabelText
"Label attributes" /
dropshadow = on;

style GraphBackground
"Graph backgroundcolor attributes" /
backgroundcolor = colors("docbg")
image = "!sasroot\common\textures\Science.gif"
textalign = L
verticalalign = B;

style GraphAxisLines from GraphAxisLines
"Axis line attributes" /
width = 2;

style GraphBorderLines from GraphBorderLines
"Border attributes" /
width = 2
color=colors("gaxis");

style GraphCharts from GraphCharts
"Chart Attributes" /
transparency = 0.25;

style GraphWalls from GraphWalls
"Wall Attributes" /
gradientdirection = "Xaxis"
endcolor = colors("gwalls")
transparency = 1.0;

end;
run;

```

プログラムの説明

スタイル Science を作成します。 PROC TEMPLATE ステートメントによって、TEMPLATE プロシジャが開始されます。DEFINE STYLE ステートメントによって、Science という新しいスタイルが作成されます。

```
proc template;
  define style Styles.Science;
```

Science スタイルがその属性を継承する元の親スタイルを指定します。 PARENT=属性によって、現在のスタイルの継承元として Styles.Default が指定されます。親のスタイルで指定されるすべてのスタイル要素は、現在のスタイルによって上書きされないかぎり、現在のスタイル内で使用されます。

```
  parent = styles.default;
```

子スタイル Science 内で Fonts を置換し、親スタイル内の Fonts スタイル要素のスタイル属性を変更します。 STYLE ステートメントによって、スタイル要素 Fonts が子スタイルに追加されます。このスタイル要素は親スタイル内にも存在します。Fonts によって定義されるユーザー定義属性を使用するすべてのスタイル要素では、Styles.Default スタイル内に指定される属性ではなく、STYLE ステートメント内で指定される属性が使用されます。FROM オプションは指定されないため、Science スタイル内の Fonts インスタンスによって、Styles.Default スタイルからのインスタンスが完全に置換されます。スタイル要素の継承は発生しません。

```
  style fonts /
  "TitleFont2" = ("Verdana, Verdana, Helvetica, sans-serif",14pt,Bold)
  "TitleFont" = ("Verdana, Verdana, Helvetica, sans-serif",18pt,Bold)
  "StrongFont" = ("Verdana, Verdana, Helvetica, sans-serif",14pt,Bold)
  "EmphasisFont" = ("Verdana, Verdana, Helvetica, sans-serif",10pt,
  Italic)
  "FixedEmphasisFont" = ("Courier New", Courier, monospace",10pt,
  Italic)
  "FixedStrongFont" = ("Courier New", Courier, monospace",10pt,Bold)
  "FixedHeadingFont" = ("Courier New", Courier, monospace",10pt)
  "BatchFixedFont" = ("Courier New", Courier, monospace",10pt)
  "FixedFont" = ("Courier New", Courier, monospace",10pt)
  "headingEmphasisFont" = ("Verdana, Verdana, Helvetica, sans-serif",14
  pt,Bold Italic)
  "headingFont" = ("Verdana, Verdana, Helvetica, sans-serif",14pt,Bold)

  "docFont" = ("Verdana, Verdana, Helvetica, sans-serif",8pt,Bold);
```

グラフスタイル専用フォントの属性を変更します。 STYLE ステートメントによって、スタイル要素 GraphFonts が子スタイルに追加されます。このスタイル要素は親スタイル内にも存在します。GraphFonts によって定義されるユーザー定義属性を使用するすべてのスタイル要素では、Styles.Default スタイル内に指定される属性ではなく、STYLE ステートメント内で指定される属性が使用されます。FROM オプションが指定されるため、Science スタイル内の GraphFonts によって、Styles.Default 内の GraphFonts からのすべてのスタイル属性が継承されます。ただし、Science で具体的に指定される場合を除きます。

このプログラムで使用されるものではなく、次の STYLE ステートメントが使用された場合もあります。`style graphfaonts from graphfonts;`

```
  style GraphFonts from _self_/
  "GraphValueFont" = ("Verdana",10pt)
  "GraphLabelFont" = ("Verdana",14pt,Bold);
```


スタイル **Science** 内で **Colors** を置換し、親スタイル内の **Colors** スタイル要素のスタイル属性を変更します。STYLE ステートメントによって、スタイル要素 **Colors** が子スタイルに追加されます。このスタイル要素は親スタイル内にも存在します。Colors によって定義されるユーザー定義属性を使用するすべてのスタイル要素では、Styles.Default スタイル内に指定される属性ではなく、STYLE ステートメント内で指定される属性が使用されます。FROM オプションは指定されないため、Science スタイル内の Colors インスタンスによって、Styles.Default スタイルからのインスタンスが完全に置換されます。スタイル要素の継承は発生しません。

```

style colors /
"headerfgemph" = cx31035E
"headerbgemph" = cxFFFFFF
"headerfgstrong" = cx31035E
"headerbgstrong" = cxFFFFFF
"headerfg" = cx31035E
"headerbg" = cxFFFFFF
"datafgemph" = cx31035E
"databgemph" = cxDFECE1
"datafgstrong" = cx31035E
"databgstrong" = cxDFECE1
"datafg" = cx31035E
"databg" = cxDFECE1
"batchfg" = cx31035E
"batchbg" = cxDFECE1
"tablebg" = cx31035E
"tableborderdark" = cx909090
"tableborderlight" = cxFFFFFF
"tableborder" = cxFFFFFF
"notefg" = cx31035E
"notebg" = cxDFECE1
"bylinefg" = cx31035E
"bylinebg" = cxDFECE1
"captionfg" = cx31035E
"captionbg" = cxDFECE1
"proctitlefg" = cx31035E
"proctitlebg" = cxDFECE1
"titlefg" = cx31035E
"titlebg" = cxDFECE1
"systitlefg" = cx31035E
"systitlebg" = cxDFECE1
"Conentryfg" = cx31035E
"Confolderfg" = cx31035E
"Contitlefg" = cx31035E
"link2" = cx800080
"link1" = cx0000FF
"contentfg" = cx31035E
"contentbg" = cxDFECE1
"docfg" = cx31035E
"docbg" = cxDFECE1;

```

GraphColors スタイル要素のスタイル属性を変更します。STYLE ステートメントによって、スタイル要素 **GraphColors** が子スタイルに追加されます。このスタイル要素は親スタイル内にも存在します。GraphColors によって定義されるユーザー定義属性を使用するすべてのスタイル要素では、Styles.Default スタイル内で指定される属性ではなく、Science スタイル内で指定される属性が使用されます。FROM オプションは指定されな

いため、Science スタイル内の GraphColors インスタンスによって、Styles.Default スタイルからのインスタンスが完全に置換されます。スタイル要素の継承は発生しません。

```

style GraphColors /
"gconramp3cend" = cxDD6060
"gconramp3cneutral" = cxFFFFFFF
"gconramp3cstart" = cx6497EB
"gramp3cend" = cxBED8D3
"gramp3cneutral" = cxFFFFFFF
"gramp3cstart" = cxAAB6DF
"gconramp2cend" = cx6497EB
"gconramp2cstart" = cxFFFFFFF
"gramp2cend" = cx548287
"gramp2cstart" = cxFFFFFFF
"gtext" = CX31035E
"glabel" = CX31035E
"gborderlines" = CX31035E
"goutlines" = CX31035E
"ggrid" = CX31035E
"gaxis" = CX31035E
"gshadow" = CX707671
"glegend" = CXFFFFFFF
"gfloor" = CXDFECE1
"gwalls" = CXFFFFFFF
"gcdata12" = cxFF667F
"gcdata11" = cx5050CC
"gcdata10" = cxE100BF
"gcdata9" = cx007F00
"gcdata8" = cxB99600
"gcdata7" = cx7F7F7F
"gcdata6" = cx984EA3
"gcdata5" = cx4DAF4A
"gcdata4" = cxA65628
"gcdata3" = cxFF7F00
"gcdata2" = cx377DB8
"gcdata1" = cxE31A1C
"gdata12" = CX4A5573
"gdata11" = CXCFB1E2
"gdata10" = CX8E829D
"gdata9" = CX2952B1
"gdata8" = CXAAB6DF
"gdata7" = CX6771C2
"gdata6" = CXBED8D3
"gdata5" = CX8B65A3
"gdata4" = CXBCD3AB
"gdata3" = CX548287
"gdata2" = CX7DC1C9
"gdata1" = CX9580D5;

```

テーブルの属性を指定します。この STYLE ステートメントはテーブルに適用されます。これらの特定の属性はこの STYLE ステートメントを使用して設定されますが、その他のすべてのテーブル属性は、親スタイル内で定義されるスタイル要素から継承されません。

```

style Table from Output /
cellpadding = 5

```

```

borderspacing = 2
bordercolordark = colors("tableborderdark")
bordercolorlight = colors("tableborderlight")
borderwidth = 2;

```

GraphLabelText 要素の属性を指定します。この STYLE ステートメントはグラフのラベルテキストに適用されます。DROPSHADOW 属性が適用されます。

```

style GraphLabelText from GraphLabelText
"Label attributes" /
dropshadow = on;

```

Graph の背景を置換します。この STYLE ステートメントはグラフの背景に適用されます。DOCBG は背景色として指定され、SCIENCE.GIF が背景画像として左下寄せになります。

```

style GraphBackground
"Graph backgroundcolor attributes" /
backgroundcolor = colors("docbg")
image = "!sasroot\common\textures\Science.gif"
textalign = L
verticalalign = B;

```

GraphAxisLines 要素の属性を指定します。この STYLE ステートメントはグラフの軸に適用されます。WIDTH は 2 です。

```

style GraphAxisLines from GraphAxisLines
"Axis line attributes" /
width = 2;

```

GraphBorderLines 要素の属性を指定します。この STYLE ステートメントはグラフの罫線に適用されます。幅は 2 で、Gaxis で定義された前景色(CX31035E)が使用されます。

```

style GraphBorderLines from GraphBorderLines
"Border attributes" /
width = 2
color=colors("gaxis");

```

GraphCharts 要素の属性を指定します。この STYLE ステートメントはグラフのチャートに適用されます。グラフのデータ要素の TRANSPARENCY は 25%になります。

```

style GraphCharts from GraphCharts
"Chart Attributes" /
transparency = 0.25;

```

GraphWalls 要素の属性を指定します。この STYLE ステートメントはグラフ軸内部のウォールに適用されます。GRADIENTDIRECTION は X 軸に設定され、左から右にグラデーションされます。ENDCOLOR (CXFFFFFF)は Gwalls 内で定義され、グラデーションで使用される最終色になります。グラフのデータ要素の TRANSPARENCY は 100%になります。STARTCOLOR は指定されないため、グラデーションの開始色は完全に透明になります。

```

style GraphWalls from GraphWalls
"Wall Attributes" /
gradientdirection = "Xaxis"
endcolor = colors("gwalls")
transparency = 1.0;

```

スタイルを指定カタログに追加します。END ステートメントによってスタイルが終了され
ず。RUN ステートメントによって、PROC TEMPLATE ステップが実行されます。

```
end;
run;
```

例 5: 1 つの STYLE ステートメントで複数のスタイル要素を定義する

要素: STYLE ステートメント:
FROM オプション
スタイル属性: BACKGROUNDCOLOR=
スタイル属性: BORDERWIDTH=
スタイル属性: BORDERSPACING=
スタイル属性: FONTFAMILY=
スタイル属性: FONTSIZE=
スタイル属性: FONTSTYLE=
スタイル属性: FONTWEIGHT=
スタイル属性: COLOR=

DEFINE TABLE ステートメント:
CLASSLEVELS=テーブル属性
DYNAMIC ステートメント
MVAR ステートメント

DEFINE COLUMN ステートメント:
BLANK_DUPS=
GENERIC=
HEADER=
STYLE=

DEFINE FOOTER ステートメント:
TEXT ステートメント

他の要素: その他の ODS 機能:
ODS HTML ステートメント
FILE ステートメント(ODS=オプション指定)
PUT ステートメント(_ODS_引数指定)

データセット: [Grain_Production](#)

出力形式: [\\$CNTRY.](#)

詳細

この例では、複数のスタイル要素を同時に定義するスタイルが作成されます。スタイル要素名が複数回指定される場合、スタイル属性の最終設定を作成するため、その名前前の全インスタンスからの全属性が収集されます。1 つの STYLE ステートメント内で複数のスタイル要素を定義すると、読み取りやすい短いプログラムを作成できるようになり、多数の STYLE ステートメントではなく 1 つの STYLE ステートメント内でスタイル属性に変更を加えることができます。

たとえば、スタイル要素 `BorderColor=black` を次のプログラム内のスタイル要素 `CellContents`、`Header`、`SystemTitle` に追加する場合、各 STYLE ステートメントに個別に 3 回追加しなくても、最初の STYLE ステートメントに 1 回追加します。

プログラム

```

proc template;
define style newstyle;

  style cellcontents, header, systemtitle /
fontfamily="arial, helvetica"
fontweight=medium
backgroundcolor=blue
fontstyle=roman
fontsize=5
color=white;

  class header /
backgroundcolor=very light blue;

  class systemtitle /
backgroundcolor=white
color=red
fontstyle=italic
fontsize=6;

  style footer from systemtitle /
fontsize=3;

  class table /
borderspacing=5
borderwidth=10;
end;
run;

ods html body="newstyle-body.htm"
style=newstyle;

  title "Leading Grain Producers";
title2 "in 1996";

data _null_;
set grain_production;
where type in ("Rice", "Corn") and year=1996;

  file print ods=(
template="table1"

  columns=(
char_var=country(generic=on format=$centry.
dynamic=(colhd="Country"))
char_var=type(generic dynamic=(colhd="Year"))
num_var=kilotons(generic=on format=comma12.
dynamic=(colhd="Kilotons"))
)
);

  put _ods_;
run;

ods html close;
ods html;

```

プログラムの説明

新しいスタイル NewStyle を作成します。 PROC TEMPLATE ステートメントによって、TEMPLATE プロシジャが開始されます。DEFINE STYLE ステートメントによって、NewStyle という新しいスタイルが作成されます。

```
proc template;
  define style newstyle;
```

CellContents、Header、SystemTitle スタイル要素を作成します。 この STYLE ステートメントによって、3つのスタイル要素 CellContents、Header、SystemTitle が定義されます。これらのスタイル要素はすべて、STYLE ステートメントに表示されるスタイル属性から構成されます。FONTFAMILY=属性によって、ブラウザで Arial フォントが使用できる場合にはこのフォントを使用し、Arial フォントが使用できない場合には Helvetica フォントが検索されるように命令されます。これらの3つのスタイル要素では、青の背景に対して白の前景のカラースキームが使用され、3つの要素すべてのフォントはサイズが5の medium roman になります。

```
  style cellcontents, header, systemtitle /
  fontfamily="arial, helvetica"
  fontweight=medium
  backgroundcolor=blue
  fontstyle=roman
  fontsize=5
  color=white;
```

Header スタイル要素を変更します。 FROM オプションを指定した STYLE ステートメントによって、Header の前のインスタンスから Header の新しいインスタンスが作成されますが、背景色は白から極めて明るい青に変わります。デフォルトでは、ODS では Header を使用してスパンヘッダーと列ヘッダーが生成されます。

```
  class header /
  backgroundcolor=very light blue;
```

SystemTitle スタイル要素を変更します。 デフォルトでは、ODS では SAS タイトルの生成に SystemTitle が使用されます。

```
  class systemtitle /
  backgroundcolor=white
  color=red
  fontstyle=italic
  fontsize=6;
```

スタイル要素 Footer が作成されます。 この STYLE ステートメントによって、スタイル要素 Footer が作成されます。このスタイル要素では、SystemTitle のすべての属性が継承されます。ただし、継承されるフォントサイズはそのテンプレート内の FONTSIZE=属性によって上書きされます。

```
  style footer from systemtitle /
  fontsize=3;
```

スタイル要素 Table を作成します。 この STYLE ステートメントによって、スタイル要素 Table が作成されます。デフォルトでは、ODS によってテーブルの表示にこのスタイル要素が使用されます。

```
  class table /
  borderspacing=5
  borderwidth=10;
```

```
end;
run;
```

HTML 出力を作成し、HTML 出力保存用の場所を指定します。出力に使用するスタイルを指定します。 ODS HTML ステートメントによって、HTML 出力先が開かれ、HTML 出力が作成されます。すべての出力オブジェクトは、現在のディレクトリ内の外部ファイル NewStyle-Body に送信されます。STYLE=オプションによって、ODS で NewStyle が出力をフォーマットする場合にスタイルとして使用されるよう指示されます。

```
ods html body="newstyle-body.htm"
style=newstyle;
```

レポートのタイトルを指定します。 TITLE ステートメントによって、出力のタイトルが 2 つ指定されます。

```
title "Leading Grain Producers";
title2 "in 1996";
```

データコンポーネントを作成します。 この DATA ステップによってデータセットは作成されません。代わりに、データコンポーネントが作成され、最終的に出力オブジェクトが作成されます。SET ステートメントによって、データセット Grain_Production が読み取られます。WHERE ステートメントによって、1996 年の米とコーンの生産のみの情報が出力オブジェクトに含まれるように、データセットがサブセット化されます。

```
data _null_;
set grain_production;
where type in ("Rice", "Corn") and year=1996;
```

DATA ステップ結果を ODS にルーティングし、Table1 テーブルテンプレートを使用します。 fileref PRINT と、FILE ステートメント内の ODS オプションを組み合わせると、DATA ステップの結果が ODS にルーティングされます。TEMPLATE=サブオプションによって、ODS で Table1 という名前のテーブルテンプレート PHONELIST (PROC TEMPLATE で前に作成済み)が使用されるよう指示されます。

ODS での DATA ステップの使用に関する詳細は、4 章、[“DATA ステップでの ODS の使用” \(57 ページ\)](#)を参照してください。テーブルテンプレート Table1 を作成するプログラムの場合、[“Table1 テーブル定義の作成” \(1365 ページ\)](#)を参照してください。

```
file print ods=(
template="table1"
```

各変数に使用する列テンプレートを指定します。 COLUMNS=サブオプションによって、DATA ステップ変数がテーブルテンプレートで定義される列内に配置されます。たとえば、最初の *column-specification* によって、出力オブジェクトの最初の列に変数 COUNTRY の値が含まれ、Char_Var という名前の列テンプレートが使用されるよう指定されます。複数の変数が同じ列テンプレートを使用するため、GENERIC=は、テーブルテンプレートと各列の割り当ての両方で ON に設定する必要があります。FORMAT=サブオプションによって、列の形式が指定されます。DYNAMIC=サブオプションによって、現在の列の動的変数 Colhd の値が指定されます。最初の列の列ヘッダーは Country、2 番目の列(同じ列テンプレートを使用する)の列ヘッダーは Year になっていることを確認してください。

```
columns=(
char_var=country(generic=on format=$cntry.
dynamic=(colhd="Country"))
char_var=type(generic dynamic=(colhd="Year"))
num_var=kilotons(generic=on format=comma12.
dynamic=(colhd="Kilotons"))
```

```
)  
);
```

データ値をデータコンポーネントに書き込みます。 `_ODS_` オプションと `PUT` ステートメントによって、全列のデータ値がデータコンポーネントに書き込まれます。 `RUN` ステートメントによって、`DATA` ステップが実行されます。

```
put _ods_;  
run;
```

HTML 出力先を閉じます。 `ODS HTML` ステートメントによって、HTML 出力先とその関連ファイルすべてが閉じられます。 `ODS HTML` ステートメントをもう一度指定し、`ODS` をそのデフォルト設定に戻します。

```
ods html close;  
ods html;
```

HTML 出力: 色とフォントの指定

フォントを使用すると、SAS タイトルで `SystemTitle` スタイル要素が使用され、列ヘッダーで `Header` スタイル要素が使用され、フッターで `Table-Footer` スタイル要素が使用され、文字と数値のセル両方のコンテンツで `CellContents` スタイル要素が使用されるこ

とを確認できます。テーブル罫線の幅とセル間のスペースを使用し、テーブル自体が Table スタイル要素を使用して生成されていることを確認します。

アウトプット 13.6 HTML 出力

The screenshot shows a window titled "Results Viewer - SAS Output" containing a table with the following data:

Country	Year	Kilotons
Brazil	Rice	10,035
	Corn	31,975
China	Rice	190,100
	Corn	119,350
India	Rice	120,012
	Corn	8,660
Indonesia	Rice	51,165
	Corn	8,925
United States	Rice	7,771
	Corn	236,064

Prepared on 11FEB2011

例 6: CSS ファイルのインポート

要素: DEFINE STYLE ステートメント:
 CLASS ステートメント
 IMPORT ステートメント: *media-type*
 PARENT=ステートメント

他の要素: その他の ODS 機能:
 ODS HTML ステートメント
 ODS PDF ステートメント
 ODS _ALL_ CLOSE ステートメント

詳細

次のプログラムによって、外部 CSS ファイル `StyleSheet.css` がインポートされ、CSS コードがスタイル要素とスタイル属性に変換されます。次に、これらのスタイル要素と属性はスタイルの一部になります。

CSS ファイルには、出力のレンダリング場所となるメディアの種類に対応するメディアブロックが含まれます。IMPORT ステートメントを使用すると、残りの CSS コードと共に複数のメディアブロックがインポートされるよう指定できます。この例では、Print メディアブロックは、PDF 出力に適用されるスタイル内に含まれます。

次のコードは、外部 CSS ファイル `StyleSheet.css` のサンプルです。このプログラムでは、Print および Screen という 2 種類のメディアタイプブロックがあります。このコードをテキストエディタにコピーアンドペーストし、`StyleSheet.css` と名前を付けて保存します。

```
.body {
background-color: white;
color: black;
font-family: times, serif;
}
.header, .rowheader, .footer, .rowfooter, .data {
border: 1px black solid;
color: black;
cellpadding: 5px;
font-family: times, serif;
}
.header, .rowheader, .footer, .rowfooter {
background-color: #a0a0a0;
}
.table {
background-color: #dddddd;
border-spacing: 0;
border: 1px black solid;
}
.proctitle {
font-family: helvetica, sans-serif;
font-size: x-large;
font-weight: normal;
}

@media screen {

.header, .rowheader, .footer, .rowfooter, {
color: white;
background-color: green;}
.table {
background-color: yellow;
border-spacing: 0;
font-size: small
border: 1px black solid;

}
}
@media print {

.header, .rowheader, .footer, .rowfooter, {
color: white;
background-color: Blue;
cellpadding: 5px;
```

```

}
.data {
font-size: small;
}
}

```

プログラム

```

options nodate pageno=1 linesize=80 pagesize=40 obs=10;

proc template;
define style styles.mycsstyle;
import "StyleSheet.css";
class data /
color = red;
end;

define style styles.mycsstyleprinter;
parent=styles.mycsstyle;
import "StyleSheet.css" print;
end;
run;

ods html file="css.html" style=styles.mycsstyle;
ods pdf file="css.pdf" style=styles.mycsstyleprinter;

proc contents data=sashelp.class;
run;

ods _all_ close;
ods html;

```

プログラムの説明

SAS システムオプションを設定します。

```
options nodate pageno=1 linesize=80 pagesize=40 obs=10;
```

CSS ファイルをインポートし、スタイル要素も定義するスタイルを定義します。 PROC TEMPLATE ステートメントによって、TEMPLATE プロシジャが開始されます。DEFINE STYLE ステートメントによって、MyCssStyle という新しいスタイルが作成されます。IMPORT ステートメントによって、CSS ファイル StyleSheet.css がインポートされ、CSS コードが ODS スタイル要素とスタイル属性に変換されます。*media-type* オプションが指定されていないため、メディアブロック内に存在しない CSS コードと共に Screen メディアブロックがインポートされます。Print メディアブロックはインポートされません。CLASS ステートメントによって、Data スタイル要素で赤のフォントカラーが指定されま

class data / color=red;を指定すると、**style data from data / color=red;**を指定する場合と同じ効果があります。

```

proc template;
define style styles.mycsstyle;
import "StyleSheet.css";
class data /
color = red;
end;

```

特定のメディアタイプテンプレートを含む CSS ファイルをインポートするスタイルを定義します。 DEFINE STYLE ステートメントによって、MyCssStylePrinter という新しいスタイルが作成されます。IMPORT ステートメントによって、CSS ファイル StyleSheet.css がインポートされ、CSS コードが ODS スタイル要素とスタイル属性に変換されます。Print オプションによって、メディアブロック内に存在しない CSS コードと共に、Print メディアブロックがインポートされるよう指定されます。Screen メディアブロック内のコードはインポートされません。

```
define style styles.mycsstyleprinter;
parent=styles.mycsstyle;
import "StyleSheet.css" print;
end;
run;
```

HTML および PDF 出力を作成し、SAS データセットのコンテンツを表示します。 ODS HTML および ODS PDF ステートメントによって、書き込み先の出力先、出力のファイル名、使用するスタイルが指定されます。CONTENTS プロシジャによって、SAS データセット SasHelp.Class のコンテンツが表示されます。

```
ods html file="css.html" style=styles.mycsstyle;
ods pdf file="css.pdf" style=styles.mycsstyleprinter;

proc contents data=sashelp.class;
run;
```

開いている出力先を閉じます。 ODS _ALL_ CLOSE ステートメントによって、開いている出力先のすべてと、それに関連付けられたファイルのすべてが閉じられます。出力先を閉じない場合、ファイルを表示することはできません。ODS をそのデフォルト設定に戻すには、ODS HTML ステートメントを指定します。

```
ods _all_ close;
ods html;
```

出力

アウトプット 13.7 MyCssStyle スタイル

```
proc template;
define style Styles.Mycsstyle / store = Sasuser.Templat;
class body /
fontfamily = "times, serif"
color = #000000
backgroundcolor = #FFFFFF;
class header /
backgroundcolor = #008000
fontfamily = "times, serif"
paddingleft = 5px
paddingbottom = 5px
paddingright = 5px
paddingtop = 5px
color = #FFFFFF
borderleftstyle = solid
borderleftcolor = #000000
borderleftwidth = 1px
borderbottomstyle = solid
borderbottomcolor = #000000
borderbottomwidth = 1px
borderrightstyle = solid
borderrightcolor = #000000
borderrightwidth = 1px
bordertopstyle = solid
bordertopcolor = #000000
bordertopwidth = 1px;
class rowheader /
backgroundcolor = #008000
fontfamily = "times, serif"
paddingleft = 5px
paddingbottom = 5px
paddingright = 5px
paddingtop = 5px
color = #FFFFFF
borderleftstyle = solid
borderleftcolor = #000000
borderleftwidth = 1px
borderbottomstyle = solid
borderbottomcolor = #000000
borderbottomwidth = 1px
borderrightstyle = solid
borderrightcolor = #000000
borderrightwidth = 1px
bordertopstyle = solid
bordertopcolor = #000000
bordertopwidth = 1px;
class footer /
backgroundcolor = #008000
fontfamily = "times, serif"
paddingleft = 5px
paddingbottom = 5px
paddingright = 5px
paddingtop = 5px
color = #FFFFFF
borderleftstyle = solid
borderleftcolor = #000000
borderleftwidth = 1px
borderbottomstyle = solid
borderbottomcolor = #000000
borderbottomwidth = 1px
borderrightstyle = solid
borderrightcolor = #000000
borderrightwidth = 1px
bordertopstyle = solid
bordertopcolor = #000000
bordertopwidth = 1px;
```

```
class rowfooter /
backgroundcolor = #A0A0A0
fontfamily = "times, serif"
paddingleft = 5px
paddingbottom = 5px
paddingright = 5px
paddingtop = 5px
color = #000000
borderleftstyle = solid
borderleftcolor = #000000
borderleftwidth = 1px
borderbottomstyle = solid
borderbottomcolor = #000000
borderbottomwidth = 1px
borderrightstyle = solid
borderrightcolor = #000000
borderrightwidth = 1px
bordertopstyle = solid
bordertopcolor = #000000
bordertopwidth = 1px;
class data /
fontfamily = "times, serif"
paddingleft = 5px
paddingbottom = 5px
paddingright = 5px
paddingtop = 5px
color = red
borderleftstyle = solid
borderleftcolor = #000000
borderleftwidth = 1px
borderbottomstyle = solid
borderbottomcolor = #000000
borderbottomwidth = 1px
borderrightstyle = solid
borderrightcolor = #000000
borderrightwidth = 1px
bordertopstyle = solid
bordertopcolor = #000000
bordertopwidth = 1px;
class table /
fontsize = 3
borderleftstyle = solid
borderleftcolor = #000000
borderleftwidth = 1px
borderbottomstyle = solid
borderbottomcolor = #000000
borderbottomwidth = 1px
borderrightstyle = solid
borderrightcolor = #000000
borderrightwidth = 1px
bordertopstyle = solid
bordertopcolor = #000000
bordertopwidth = 1px
borderspacing = 0
backgroundcolor = #FFFF00;
class proctitle /
fontweight = medium
fontsize = 6
fontfamily = "helvetica, sans-serif";
end;
run;
```

黄色と緑の背景色、白のフォントカラー、フォントサイズ、罫線情報はすべて、Screen メディアブロックに由来します。赤のフォントカラーは CLASS ステートメントに由来しま

す。その他すべてのスタイル情報は、メディアブロックの外側のコードに由来します。
Print メディアブロックからの情報は使用されません。

アウトプット 13.8 HTML 出力に適用される MyCssStyle スタイル

The CONTENTS Procedure			
Data Set Name	SASHELP.CLASS	Observations	19
Member Type	DATA	Variables	5
Engine	V9	Indexes	0
Created	Wed, Dec 01, 2010 02:44:15 PM	Observation Length	40
Last Modified	Wed, Dec 01, 2010 02:44:15 PM	Deleted Observations	0
Protection		Compressed	NO
Data Set Type		Sorted	NO
Label	Student Data		
Data Representation	WINDOWS_32		
Encoding	us-ascii ASCII (ANSI)		
Engine/Host Dependent Information			
Data Set Page Size	4096		
Number of Data Set Pages	1		
First Data Page	1		
Max Obs per Page	101		
Obs in First Data Page	19		
Number of Data Set Repairs	0		
Filename	C:\SASv9\sasgen\dev\mva-v930\sas_dvd\src\dntno\en\sashelp\class.sas7bdat		
Release Created	9.0301B0		
Host Created	NET_SRV		
Alphabetic List of Variables and Attributes			
#	Variable	Type	Len
3	Age	Num	8
4	Height	Num	8
1	Name	Char	8
2	Sex	Char	1
5	Weight	Num	8

アウトプット 13.9 MyCssStylePrinter スタイル

```
proc template;
define style Styles.Mycsstyleprinter / store = Sasuser.Templat;
parent = styles.mycsstyle;
class body /
fontfamily = "times, serif"
color = #000000
backgroundcolor = #FFFFFF;
class header /
backgroundcolor = #0000FF
fontfamily = "times, serif"
paddingleft = 5px
paddingbottom = 5px
paddingright = 5px
paddingtop = 5px
color = #FFFFFF
borderleftstyle = solid
borderleftcolor = #000000
borderleftwidth = 1px
borderbottomstyle = solid
borderbottomcolor = #000000
borderbottomwidth = 1px
borderrightstyle = solid
borderrightcolor = #000000
borderrightwidth = 1px
bordertopstyle = solid
bordertopcolor = #000000
bordertopwidth = 1px;
class rowheader /
backgroundcolor = #0000FF
fontfamily = "times, serif"
paddingleft = 5px
paddingbottom = 5px
paddingright = 5px
paddingtop = 5px
color = #FFFFFF
borderleftstyle = solid
borderleftcolor = #000000
borderleftwidth = 1px
borderbottomstyle = solid
borderbottomcolor = #000000
borderbottomwidth = 1px
borderrightstyle = solid
borderrightcolor = #000000
borderrightwidth = 1px
bordertopstyle = solid
bordertopcolor = #000000
bordertopwidth = 1px;
class footer /
backgroundcolor = #0000FF
fontfamily = "times, serif"
paddingleft = 5px
paddingbottom = 5px
paddingright = 5px
paddingtop = 5px
color = #FFFFFF
borderleftstyle = solid
borderleftcolor = #000000
borderleftwidth = 1px
borderbottomstyle = solid
borderbottomcolor = #000000
borderbottomwidth = 1px
borderrightstyle = solid
borderrightcolor = #000000
borderrightwidth = 1px
bordertopstyle = solid
bordertopcolor = #000000
bordertopwidth = 1px;
```



```
class rowfooter /
backgroundcolor = #A0A0A0
fontfamily = "times, serif"
paddingleft = 5px
paddingbottom = 5px
paddingright = 5px
paddingtop = 5px
color = #000000
borderleftstyle = solid
borderleftcolor = #000000
borderleftwidth = 1px
borderbottomstyle = solid
borderbottomcolor = #000000
borderbottomwidth = 1px
borderrightstyle = solid
borderrightcolor = #000000
borderrightwidth = 1px
bordertopstyle = solid
bordertopcolor = #000000
bordertopwidth = 1px;
class data /
fontsize = 3
fontfamily = "times, serif"
paddingleft = 5px
paddingbottom = 5px
paddingright = 5px
paddingtop = 5px
color = #000000
borderleftstyle = solid
borderleftcolor = #000000
borderleftwidth = 1px
borderbottomstyle = solid
borderbottomcolor = #000000
borderbottomwidth = 1px
borderrightstyle = solid
borderrightcolor = #000000
borderrightwidth = 1px
bordertopstyle = solid
bordertopcolor = #000000
bordertopwidth = 1px;
class table /
borderleftstyle = solid
borderleftcolor = #000000
borderleftwidth = 1px
borderbottomstyle = solid
borderbottomcolor = #000000
borderbottomwidth = 1px
borderrightstyle = solid
borderrightcolor = #000000
borderrightwidth = 1px
bordertopstyle = solid
bordertopcolor = #000000
bordertopwidth = 1px
borderspacing = 0
backgroundcolor = #DDDDDD;
class proctitle /
fontweight = medium
fontsize = 6
fontfamily = "helvetica, sans-serif";
end;
run;
```

白いフォント、フォントサイズ小、セル内のスペース、青の背景色はすべて、Print メディアブロックに由来します。その他すべてのスタイル情報は、メディアブロックの外側のコードに由来します。Screen メディアブロックからの情報は使用されません。

アウトプット 13.10 PDF 出力に適用される MyCssStylePrinter スタイル

例 7: テーブルヘッダーおよびフッターの境界線のフォーマット

要素: 罫線スタイル制御属性:
 BORDERBOTTOMCOLOR=
 BORDERBOTTOMSTYLE=
 BORDERBOTTOMWIDTH=
 BORDERTOPCOLOR=
 BORDERTOPSTYLE=
 BORDERTOPWIDTH=
 DEFINE ステートメント
 DEFINE STYLE ステートメント
 EDIT ステートメント
 FOOTER ステートメント
 HEADER ステートメント

PARENT=ステートメント
 PREFORMATTED=ヘッダー属性
 STYLE ステートメント
 WIDTH=ヘッダー属性

他の要素: その他の ODS 機能:
 ODS RTF
 ODS SELECT

データセット: [Stats](#) および [Stats2](#)

詳細

TableHeaderContainer および TableFooterContainer スタイル要素を境界制御スタイル要素と共に使用すると、テーブルヘッダーとフッターを囲む領域の境界を変更できます。

注: TableHeaderContainer および TableFooterContainer スタイル要素が有効になるのは、RTF 出力先内のみです。

プログラム

```
options nodate nonumber;

title "TableHeaderContainer, TableFooterContainer, and Border Control Style
Attributes";
title2 "Allows Control of Borders Between the Header, Body, and Footer of a
Table";

ods html close;

proc template;
define style HeadersFootersBorders;
parent=styles.rtf;

style TableHeaderContainer from TableHeaderContainer /
borderbottomwidth=12
borderbottomcolor=blue
borderbottomstyle=dotted;

style TableFooterContainer from TableFooterContainer /
bordertopwidth=6
bordertopcolor=red
bordertopstyle=double;

style table from table /
borderspacing=0 rules=groups frame=void;
end;
run;

proc template;
edit Base.Datasets.Members;
header hd1;
footer ft1;
define hd1;
preformatted=on;
just=1;
text " Table Header with Leading and Trailing Blanks ";
end;
```

```

define ft1;
preformatted=on;
just=l;
text " Table Footer with Leading and Trailing Blanks ";
end;
edit name;
define header myheader;
just=l;
preformatted=on;
text " My new header";
end;
header=myheader;
width=memname_width width_max=memname_width_max;
preformatted=on;
end;
end;
run;

ods rtf file="headerfooters.rtf" style=HeadersFootersBorders;
ods select members;
proc datasets lib=work;
run;
quit;

ods rtf close;
ods html;

```

プログラムの説明

SAS システムオプションを設定し、タイトルを指定します。 OPTIONS ステートメントによって、SAS システムオプションが設定され、TITLE ステートメントによって、出力のタイトルが指定されます。

```

options nodate nonumber;

title "TableHeaderContainer, TableFooterContainer, and Border Control Style
Attributes";
title2 "Allows Control of Borders Between the Header, Body, and Footer of a
Table";

```

HTML 出力先を閉じます。 ODS HTML CLOSE ステートメントによって、リソースを保存するために HTML 出力が閉じられます。

```
ods html close;
```

新しいスタイル HeadersFootersBorders を作成します。 PROC TEMPLATE ステートメントによって、TEMPLATE プロシジャが開始されます。DEFINE STYLE ステートメントによって、HeadersFootersBorders という新しいスタイルが作成されます。PARENT=ステートメントによって、新しいスタイルでそのスタイル要素とスタイル属性のすべてが Styles.RTF スタイルから継承されるよう指定されます。

```

proc template;
define style HeadersFootersBorders;
parent=styles.rtf;

```

TableHeaderContainer スタイル要素を変更します。 FROM オプションを指定した STYLE ステートメントによって、スタイル要素 TableHeaderContainer が作成されます。

この要素によって、そのスタイル要素とスタイル属性のすべてが Styles.RTF スタイル内の TableHeaderContainer のインスタンスから継承されます。BORDERBOTTOMWIDTH=、BORDERBOTTOMCOLOR=、BORDERBOTTOMSTYLE=スタイル属性によって、テーブルヘッダーの下罫線の幅、色、ラインスタイルが指定されます。

```
style TableHeaderContainer from TableHeaderContainer /
borderbottomwidth=12
borderbottomcolor=blue
borderbottomstyle=dotted;
```

TableFooterContainer スタイル要素を変更します。 FROM オプションを指定した STYLE ステートメントによって、スタイル要素 TableFooterContainer が作成されます。この要素によって、そのスタイル要素とスタイル属性のすべてが Styles.RTF スタイル内の TableFooterContainer のインスタンスから継承されます。BORDERTOPWIDTH=、BORDERTOPCOLOR=、BORDERTOPSTYLE=スタイル属性によって、テーブルフッターの上罫線の幅、色、ラインスタイルが指定されます。

```
style TableFooterContainer from TableFooterContainer /
bordertopwidth=6
bordertopcolor=red
bordertopstyle=double;
```

Table スタイル要素を変更します。 FROM オプションを指定した STYLE ステートメントによって、スタイル要素 Table が作成されます。この要素によって、そのスタイル要素とスタイル属性のすべてが Styles.RTF スタイル内の Table のインスタンスから継承されます。BORDERSPACING=、RULES=、FRAME=属性によって、テーブルの罫線のスペース、ルール、フレームが変更されます。

```
style table from table /
borderspacing=0 rules=groups frame=void;
end;
run;
```

Base.Datasets.Members テーブルテンプレートを編集します。 テーブルテンプレートの DEFINE ステートメントおよび属性と共に、EDIT ステートメントによって、Base.Datasets.Members テーブルテンプレートが変更されます。

テーブルテンプレートの作成および変更に関する詳細は、[Chapter 14, “TEMPLATE プロシジャ: テーブルテンプレートの作成,” \(1060 ページ\)](#)を参照してください。

```
proc template;
edit Base.Datasets.Members;
header hdl;
footer ft1;
define hdl;
preformatted=on;
just=l;
text" Table Header with Leading and Trailing Blanks ";
end;
define ft1;
preformatted=on;
just=l;
text" Table Footer with Leading and Trailing Blanks ";
end;
edit name;
define header myheader;
just=l;
```

```

preformatted=on;
text " My new header";
end;
header=myheader;
width=memname_width width_max=memname_width_max;
preformatted=on;
end;
end;
run;

```

RTF ファイルを作成し、出力オブジェクトを選択して PROC DATASETS を実行します。 ODS RTF ステートメントによって、RTF 出力が含まれるファイルが指定されます。STYLE= オプションによって、出力に適用するスタイルが指定されます。ODS SELECT ステートメントでは、開いている出力先に送信される出力オブジェクト Members が選択されま

```

ods rtf file="headerfooters.rtf" style=HeadersFootersBorders;
ods select members;
proc datasets lib=work;
run;
quit;

```

RTF 出力先を閉じ、HTML 出力先を開きます。 ODS RTF CLOSE ステートメントによって、RTF 出力先とその関連ファイルすべてが閉じられます。出力先を閉じないと、ファイルを表示することができなくなります。ODS HTML ステートメントを指定し、ODS をそのデフォルト設定に戻します。

```

ods rtf close;
ods html;

```

RTF 出力

アウトプット 13.11 カスタムヘッダーとフッターを含む RTF 出力

*TableHeaderContainer, TableFooterContainer, and Border Control Style Attributes
Allows Control of Borders Between the Header, Body, and Footer of a Table*

Table Header with Leading and Trailing Blanks					
#	My new header	Member	Type	File Size	Last Modified
1	STATS		DATA	5120	19Oct10:14:31:34
2	STATS2		DATA	5120	19Oct10:14:31:34
Table Footer with Leading and Trailing Blanks					

14 章

TEMPLATE プロシジャ: テーブルテンプレートの作成

概要: ODS テーブルテンプレート	1060
TEMPLATE プロシジャを使用したテーブル出力の作成またはカスタマイズ	1060
テーブルテンプレートを使用して実行可能な操作	1060
概念: テーブル出力および TEMPLATE プロシジャ	1063
新しいテーブルテンプレートの作成を、既存のテーブルテンプレートの編集と比較	1063
テーブルテンプレートのコンテンツの表示	1063
構文: TEMPLATE プロシジャ: テーブルテンプレートの作成	1064
CELLSTYLE AS ステートメント	1066
COLUMN ステートメント	1068
COMPUTE AS ステートメント	1069
DEFINE ステートメント	1071
DEFINE COLUMN ステートメント	1072
DEFINE FOOTER ステートメント	1087
DEFINE HEADER ステートメント	1087
DEFINE TABLE ステートメント	1098
DYNAMIC ステートメント	1110
EDIT ステートメント	1111
END ステートメント	1112
FOOTER ステートメント	1112
HEADER ステートメント	1113
MVAR ステートメント	1114
NMVAR ステートメント	1115
NOTES ステートメント	1115
TEXT ステートメント	1116
TEXT2 ステートメント	1117
TEXT3 ステートメント	1117
TRANSLATE INTO ステートメント	1118
TEMPLATE プロシジャを使用したテーブル出力の作成	1122
テーブル列の値と位置調整法	1122
テーブル列の値のフォーマット	1123
3つ以上の変数のスタック値	1124
例: TEMPLATE プロシジャ: テーブルテンプレートの作成	1125
例 1: SAS プロシジャで使用するテーブルテンプレートの編集	1125
例 2: EDIT ステートメントと DEFINE TABLE ステートメントとの比較	1130
例 3: テーブルテンプレートの新規作成	1136
例 4: セルの値に基づき、セルにスタイル要素を設定する	1144
例 5: 特定の列、行およびセルにスタイル要素を設定する	1150
例 6: マスタテンプレートの作成	1156

概要: ODS テーブルテンプレート

TEMPLATE プロシジャを使用したテーブル出力の作成またはカスタマイズ

TEMPLATE プロシジャによって、SAS 出力のテーブルの表示設定がカスタマイズできるようになります。TEMPLATE プロシジャで、テーブルテンプレート、列テンプレート、ヘッダーテンプレート、フッターテンプレートを作成または修正できます。テンプレートを使用することにより、デフォルトの SAS 出力よりも Output Delivery System において、データ値とレポートをより良くカスタマイズされたテーブル出力が可能になります。テンプレートを使用して、独自のマスターテーブルも作成できます。

デフォルトでは、ODS 出力は、プロシジャあるいは DATA ステップから指定されるさまざまな定義あるいはテンプレートに従って、フォーマットされています。ただし、これらのステートメントが付いた TEMPLATE プロシジャを使用して、テーブル出力テンプレートをカスタマイズできるか、または、独自の新しいテーブル出力テンプレートを作成できます。

Table 14.1 PROC TEMPLATE ステートメント

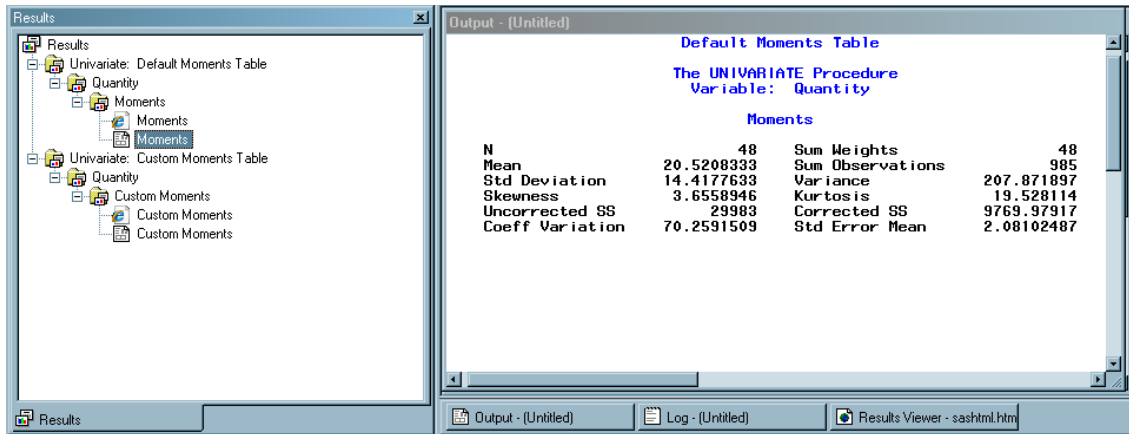
カスタマイゼーション	修正要素	ステートメント
列プレゼンテーション	列テンプレート	“DEFINE COLUMN Statement” on page 1072
テーブルフッター	フッターテンプレート	“DEFINE FOOTER Statement” on page 1087
テーブルヘッダー	ヘッダーテンプレート	“DEFINE HEADER Statement” on page 1087
単一出力オブジェクト	テーブルテンプレート	“DEFINE TABLE Statement” on page 1098
テーブル、列、ヘッダー、フッターなどの既存テンプレート	テーブル、列、ヘッダー、フッター	“EDIT Statement” on page 1111

テーブルテンプレートを使用して実行可能な操作

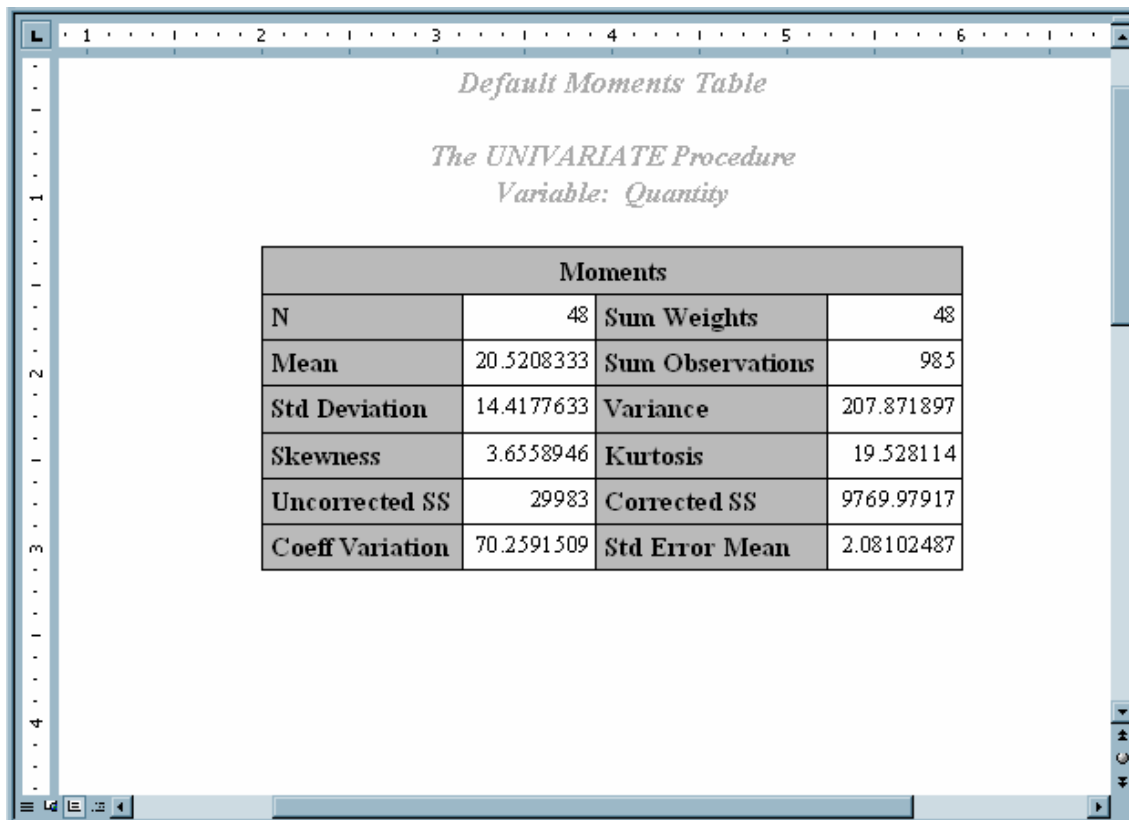
デフォルトのリストと出力オブジェクトの RTF 表示

デフォルトでは、ODS によって、ODS 出力を作成するためにプロシジャあるいは ODS ステップから指定されるテーブルテンプレートが、使用できます。たとえば、次の表示に、PROC UNIVARIATE によって作成されたモーメント出力オブジェクトのデフォルトリスト出力が、表示されます。2 番目のディスプレイには、同じ出力オブジェクトのデフォルト RTF 出力が表示されます。

Display 14.1 PROC UNIVARIATE(デフォルトモーメントテーブル)からのリスト出力



Display 14.2 PROC UNIVARIATE(デフォルトモーメントテーブル)からの販売統計 RTF 出力



出力オブジェクトのリストおよびRTF ディスプレーのカスタマイズバージョン
 PROC TEMPLATE で、多くのテーブル要素を変更し、出力オブジェクトのカスタマイズフォーマットを取得できます。次は、変更できる要素の一部です

- 最初のテーブルヘッダーのテキストの色とフォント
- 最初のテーブルヘッダーのジャスティフィケーション
- テーブル属性 UNDERLINE および OVERLINE の設定
- 行の間隔

Note: すべてのテンプレートの変更がすべての宛先に 効果があるわけではありません。たとえば、リスト宛先では、フォントの変更は無視されます。

次の表示では、最初のヘッダー属性を変更し、テーブル内の下線と上線を 設定し、行間の大きさを変更できるカスタマイズしたテンプレートの使用結果が表示されます。

Display 14.3 PROC UNIVARIATE (カスタマイズしたモーメントテーブル)からのリスト出力

The screenshot shows two windows from SAS. The 'Results' window on the left displays a tree view of the analysis, including 'Univariate: Default Moments Table' and 'Univariate: Custom Moments Table'. The 'Output - (Untitled)' window on the right displays the following table:

Custom Moments Table			
The UNIVARIATE Procedure			
Variable: Quantity			
Moments			
N	48	Sum Weights	48
Mean	20.5208333	Sum Observations	985
Std Deviation	14.4177633	Variance	207.871897
Skewness	3.6558946	Kurtosis	19.528114
Uncorrected SS	29983	Corrected SS	9769.97917
Coeff Variation	70.2591509	Std Error Mean	2.08102487

Display 14.4 PROC UNIVARIATE (カスタマイズしたモーメントテーブル)からの 販売統計リスト出力

The screenshot shows a customized SAS output window titled 'The UNIVARIATE Procedure' for 'Variable: Quantity'. The report features a table with alternating green and blue headers and a serif font. The data is as follows:

<i>Moments</i>			
<i>N</i>	<i>48</i>	<i>Sum Weights</i>	<i>48</i>
<i>Mean</i>	<i>20.5208333</i>	<i>Sum Observations</i>	<i>985</i>
<i>Std Deviation</i>	<i>14.4177633</i>	<i>Variance</i>	<i>207.871897</i>
<i>Skewness</i>	<i>3.6558946</i>	<i>Kurtosis</i>	<i>19.528114</i>
<i>Uncorrected SS</i>	<i>29983</i>	<i>Corrected SS</i>	<i>9769.97917</i>
<i>Coeff Variation</i>	<i>70.2591509</i>	<i>Std Error Mean</i>	<i>2.08102487</i>

概念: テーブル出力および TEMPLATE プロシジャ

新しいテーブルテンプレートの作成を、既存のテーブルテンプレートの編集と比較

再定義しないでテーブルテンプレートを変更するには、EDIT ステートメントを使用します。EDIT ステートメントを使用する j ことにより、テーブルテンプレートにもともと存在するすべてのテンプレートと属性を保存でき、また、EDIT ステートメントで指定されたテンプレートと属性のみを変更できます。デフォルトでは、修正テーブルテンプレートは、EDIT ステートメントで指定されたテーブルテンプレートと同じ名前です。Sasuser.Templat に保存されます。

新しいテーブルテンプレートを作成するには、DEFINE TABLE ステートメントを使用します。テーブルテンプレートは、インヘリタンスを通してテーブルを作成するとエラーの原因になり、テンプレートを削除する必要があるため、それ自体親になることはできません。新しいテーブルテンプレートを作成するとき、定義する列、ヘッダー、フッター、テーブル属性のみが新しいテーブルテンプレートの中にあります。

Note: 既存のテーブルを編集し、あるいは既存のテーブルと同じ名前新しいテーブルを定義するとき、テーブルテンプレートは Sasuser.Templat アイテムストアに保存されます。デフォルトでは、Sashelp.Tmplmst パスを最初に探すように指定しない限り、このテーブルテンプレートが使用されます。しかし、テンプレートを他のどこかに保存して別の方法でアクセスするためには、ODS PATH ステートメントを使用できます。詳細は“ODS PATH ステートメント” on page 477 次を参照。

テーブルテンプレートのコンテンツの表示

テーブルテンプレートのコンテンツを表示するには、SAS ウィンドウ環境、コマンドラインまたは TEMPLATE プロシジャを使用します。

- SAS ウィンドウ環境の使用
 1. メニューから、表示 ⇒ 結果を選びます。
 2. 結果のウィンドウにおいて、結果フォルダを選びます。右クリックして、テンプレートを選び、テンプレートウィンドウを開きます。
 3. アイテムストアまたはディレクトリのコンテンツを表示するには、Sashelp.Tmplmst をダブルクリックします。
 4. 表示したいサブディレクトリ およびテーブルテンプレートのリストを表示するには、ディレクトリをダブルクリックします。たとえば、ベース SAS テーブルテンプレートサマリーは、MEANS および SUMMARY プロシジャにおいて作成されたサマリーテーブル用のデフォルトのテンプレートストアです。ベース ディレクトリをダブルクリックし、次いでサマリーテーブルをダブルクリックします。
- コマンドラインの使用
 1. テンプレートウィンドウを表示するには、次のコマンドを発行します。


```
odstemplates
```

 テンプレート ウィンドウには、アイテムストア Sasuser.Templat および Sashelp.Tmplmst が含まれています。

2. **Sashelp.Tmplmst** などの アイテムストアをダブルクリックすると、そのアイテムストアは、ODS テンプレートが保存されているディレクトリのリストを作成するために 拡張します。SAS によって提供されるテンプレートは、アイテムストア **Sashelp.Tmplmst** にあります。
 3. SAS によって提供される テーブルテンプレートを表示するには、**Base** などの テーブルテンプレートが含まれるアイテムストアを **ダブルクリック**します。
 4. **サマリー**などの テーブルテンプレートを右クリックして、**開く**を選びます。テーブルテンプレートはテンプレートブラウザウィンドウに表示されます。
- **TEMPLATE** プロシジャの使用。SOURCE ステートメントによって、SAS ログに指定されたテンプレートのソースコードが 書き込まれます。たとえば、ベース SAS のすべてのオブジェクトを表示する場合、このコードを送信します。

```
proc template;
source base;
run;
```

Syntax: TEMPLATE プロシジャ: テーブルテンプレートの作成

PROC TEMPLATE;

EDIT テンプレートパス1 <AS テンプレートパス2> </ STORE=ライブラリ参照テンプレートストア>;
ステートメントおよび属性

END;

DEFINE COLUMN 列パス | Base.Template(Column

</ STORE=ライブラリ参照テンプレートストア>;

ステートメントおよび属性

END;

DEFINE FOOTER フッターパス | Base.Template.Footer

</ STORE=ライブラリ参照テンプレートストア>;

ステートメントおよび属性

END;

DEFINE HEADER テンプレート名 | Base.Template.Header;

ステートメントおよび属性

END;

DEFINE TABLE テーブルパス | Base.Template.Table

</ STORE=ライブラリ参照テンプレートストア>;

ステートメントおよび属性

END;

Statement	Task	Example
CELLSTYLE AS	テーブルまたは列におけるセルのスタイル 要素を、変数の値に従って設定します	Ex. 5, Ex. 6
“ COLUMN ステートメント ”	テーブルの列に記号を設定し、列の順序を指定します	Ex. 2

Statement	Task	Example
COMPUTE AS	データコンポーネントにない列の値を計算するか、あるいはデータコンポーネントにある列の値を修正します	
DEFINE	テーブルテンプレート内で、テンプレートを作成します	Ex. 2, Ex. 3, Ex. 7
DEFINE COLUMN	列のテンプレートを作成します	Ex. 4, Ex. 5, Ex. 6
DEFINE FOOTER	テーブルフッターのテンプレートを作成します	Ex. 3
DEFINE HEADER	テーブルヘッダーまたは列テンプレート内のヘッダー用のテンプレートを作成します。	Ex. 5, Ex. 6
DEFINE TABLE	テーブルテンプレートを作成します	Ex. 4, Ex. 5, Ex. 6
DYNAMIC	データコンポーネントによってプロシジャまたは DATA ステップから供給される値を参照する記号を、定義します	Ex. 2
EDIT	テーブル、列、ヘッダー、フッターのいずれかのための既存テンプレートを編集します	Ex. 1, Ex. 2, Ex. 7
END	テーブルテンプレート、ヘッダーテンプレート、列テンプレート、フッターテンプレートのいずれかを終了します	
FOOTER	テーブル内のフッターに記号を設定し、フッターの順序を宣言します	Ex. 7
HEADER	テーブル内のヘッダーに記号を設定し、ヘッダーの順序を指定します	Ex. 3, Ex. 7
MVAR	文字列として扱われる値のマクロ変数を参照する記号を、定義します	Ex. 3
NMVAR	番号として扱われる値のマクロ変数を参照する記号を、定義します	
NOTES	テーブル、ヘッダー、列、フッターなどのいずれかの情報を提供します	Ex. 2
TEXT	ヘッダー、フッターあるいは出力データセットにおける変数のラベルのテキストを指定します	Ex. 5
TEXT2	TEXT ステートメントによって提供されるヘッダーまたはフッターが長すぎる場合、リスト出力において使用するための代替ヘッダーまたはフッターを提供します	
TEXT3	TEXT2 ステートメントによって提供されるヘッダーまたはフッターが長すぎる場合、リスト出力において使用するための別のヘッダーまたはフッターを提供します	
TRANSLATE INTO	指定の数値を他の値に変換します。	

CELLSTYLE AS Statement

テーブル内または列内のセルの スタイル要素を、偏数値に従って設定します。個々のセルの (文字表示色またはフォント表示などの)表示文字を設定するには、このステートメントを使用します。

Restriction: CELLSTYLE AS ステートメントは、列テンプレートまたはテーブルテンプレート内でのみ使用できます。

Example: “Example 4: セルの値に基づき、セルにスタイル要素を設定する” on page 1144

Syntax

```
CELLSTYLE 式1 AS <スタイル要素名><[スタイル属性仕様]>
<, 式 n AS <スタイル要素名><[スタイル属性仕様]>>;
```

Required Arguments

式

変数が含まれる 各テーブルまたは列のセルに求められる式です。

式が TRUE (非ゼロ値)の解である場合、指定されるスタイル要素は現在のセルに使用されます。式が FALSE (ゼロ)の場合、ステートメントにおける次の式が求められるものです。このように、条件付きでセルをフォーマットするために、複数の式を一行に並べられます。

式には次のフォームがあります。

式1 <比較演算子式 n>

式

連続した 演算子またはオペランドからなる演算式または論理式です。演算子は、比較、論理式または演算が 必要な記号です。オペランドは、次のうちの1つです。

定数

現在のテンプレートの DYNAMIC、MVAR あるいは NMVAR ステートメントにおいて 設定される列名または記号などの固定値です。

SAS 機能

SAS 機能を指定します。SAS 機能についての詳細は、次を参照 *SAS 関数と CALL ルーチン: リファレンス*

ビルトイン変数

テーブルまたは 列テンプレートで共通値を見つけるのに役立つ特殊な WHERE 式オペランドです。ビルトイン変数は、次のうちの 1つ以上のものです。

COLUMN

列の番号です。列の番号は1から始まります。

Alias: COL

Example: “Example 5: 特定の列、行およびセルにスタイル要素を設定する” on page 1150

DATANAME

データ列名です。

DATATYPE

データタイプの列変数です。データタイプは、数字("num")か文字("char")かのどちらかです。

Example: 次の CELLSTYLE AS ステートメントによって、数字列変数が赤のフォント色になり、文字列変数が青のフォント色になるように指定されます。

```
cellstyle _datatype_ = "num" as {color=red},
   _datatype_ = "char" as {color=blue};
```

LABEL

列のラベルです。

Example: “[Example 5: 特定の列、行およびセルにスタイル要素を設定する](#)” on page 1150

ROW

行の番号です。行番号は1から始まります。

Example: “[Example 5: 特定の列、行およびセルにスタイル要素を設定する](#)” on page 1150

STYLE

スタイル要素名です。

See: スタイル要素名のテーブルの詳細は、次を参照。“[ODS スタイル要素](#)” on page 1387

Example: “[Example 6: マスタテンプレートの作成](#)” on page 1156

VAL

セルのデータ値です。

Tip: 現在の列の値を表すには、_VAL_を使用します。

Example: “[Example 6: マスタテンプレートの作成](#)” on page 1156

比較演算子

変数を値あるいは他の変数と比較します。次のテーブルは、比較演算子をリストで表しています。

Table 14.2 比較演算子

記号	ニーモニック同値	定義
=	EQ	に等しい
^= or ~= or != or <>	NE	に等しくない
>	GT	より大
<	LT	より小
>=	GE	より大または等しい
<=	LE	より小または等しい
	IN	リストの値の1つに等しい

Tip: 1の式を CELLSTYLE AS ステートメントの最後の式として使用すると、初期条件に合わなかったセルのスタイル要素が設定されます。スタイル要素名のテーブルの詳細は、次を参照。“[ODS スタイル要素](#)” on page 1387

See: WHERE=データセットオプションで使用できる式であれば、いずれも使用できます。WHERE データセットオプションで使用できる式についての詳細は、次を参照。WHERE データセットオプション in *SAS データセットオプション: リファレンス and セクション WHERE 式処理 in SAS 言語リファレンス: 解説編*

Example: “[Example 5: 特定の列、行およびセルにスタイル要素を設定する](#)” on page 1150

スタイル属性仕様

設定するスタイル属性を説明します。各スタイル属性仕様には一般フォームがあります。

スタイル属性名=スタイル属性値

テーブルテンプレートで設定できるスタイル属性に関する詳細は、次を参照。“[スタイル属性の概要](#)” on page 968

Optional Argument

スタイル要素名

Output Delivery System に登録されるスタイルの一部であるスタイル要素の名前です。SAS によって、いくつかのスタイルが提供されます。“[DEFINE STYLE ステートメント](#)” on page 958 を使用して、PROC TEMPLATE のカスタマイズしたスタイルとスタイル要素を作成できます。スタイル要素名の詳細は、次を参照。“[ODS スタイル要素](#)” on page 1387

CELLSTYLE AS ステートメントで最も使用したいスタイル要素は、次のものです。

- Data
- DataFixed
- DataEmpty
- DataEmphasis
- DataEmphasisFixed
- DataStrong
- DataStrongFixed

スタイル要素によって、セル表示の基礎が提供されます。追加的スタイル属性によって、ディスプレイが修正されます。

Default: データ

See:

13 章, “[TEMPLATE プロシジャ: スタイルテンプレートの作成](#)” on page 942

スタイル要素名のテーブルについての詳細は、“[ODS スタイル要素](#)” on page 1387 を参照してください。

COLUMN ステートメント

テーブルの列に記号が宣言され、列の順序が指定されます。

制限事項: COLUMN ステートメントは、テーブルテンプレート内でのみ使用できます。

例: “[Example 3: テーブルテンプレートの新規作成](#)” (1136 ページ)

構文

COLUMN *列*;

必須引数

列

1つ以上の列。列が現在のテーブルテンプレート外で定義されている場合、テンプレートストアのパスで参照します。テンプレートの列は、COLUMN ステートメントで指定された順序と同じく、左から右へ 配置されます。

デフォルト: COLUMN ステートメントを除外する場合、ODS によって、各列テンプレート(DEFINE COLUMN ステートメント)のための列が作成され、テーブルテンプレートにある列テンプレートと同じ順序で 配置されます。

どの列も、COLUMN ステートメントを使用するが DEFINE COLUMN ステートメントを除外する場合、ODS によって、列のデータタイプをベースとする デフォルトの列テンプレートが使用されます。

操作: 列属性を PRINT=OFF に指定した場合、列がスタック列の一部であれば、列の値は 消去されます。スタック列のすべての列が PRINT=OFF に設定されている場合、列全体がテーブルから除去されます。

ヒント: 複数の変数を指定するには、DAY1-DAY10 などの 変数名リストを使用します。

参照項目: “3つ以上の変数のスタック値” (1124 ページ)

COMPUTE AS Statement

によって、データコンポーネントにない列の値が計算され、データコンポーネントにある列の値が 修正されます。

Restriction: COMPUTE AS ステートメントは、列テンプレート内でのみ 使用できます。

Syntax

COMPUTE AS *式*

Required Argument

式

列の各テーブル セルに値を割り当てる式です。

式にはこのフォームがあります。

式 1 <比較演算子式 n>

式

演算子および オペランドの演算または論理数式です。演算子は、比較、論理演算子または演算が必要な 記号です。オペランドは、次のうちの 1 つです。

定数

現在のテンプレートにおける DYNAMIC、MVAR または NMVAR ステートメントで宣言される列の 名前や記号などの固定値です。

COMPUTE AS ステートメントの他の列を参照するには、列の名前を使用します。さらに、列の値がデータコンポーネントにない場合は、式の列 そのものを参照できます。

たとえば、この DEFINE COLUMN ブロックによって、ソースと呼ばれる列の値の平方根を含む 列を定義できます。

```

define column sqroot;
compute as sqrt(source);
header="Square Root";
format=6.4;
end;

```

関数

SAS 関数を指定します。SAS 関数についての詳細は、次を参照 [SAS 関数とCALL ルーチン: リファレンス](#)

ビルトイン変数

列テンプレートで 共通値を見つけるのに役立つ特殊タイプの WHERE 式オペランドです。ビルトイン変数は、次のうちの 1 つ以上です。

__COLUMN__

列の番号です。列の番号は 1 から始まります。

Alias: __COL__

Example: “[Example 5: 特定の列、行およびセルにスタイル要素を設定する](#)” on page 1150

__DATANAME__

データ列の名前です。

__LABEL__

列のラベルです。

Example: “[Example 5: 特定の列、行およびセルにスタイル要素を設定する](#)” on page 1150

__ROW__

行の番号です。行の番号は 1 から始まります。

Example: “[Example 5: 特定の列、行およびセルにスタイル要素を設定する](#)” on page 1150

__STYLE__

スタイル要素の名前です。

Example: “[Example 6: マスタテンプレートの作成](#)” on page 1156

__VAL__

セルのデータ値です。

Tip: 現在の列の値を表示するには、__VAL__を使用します。

Example: “[Example 6: マスタテンプレートの作成](#)” on page 1156

比較演算子

変数を値または他の変数と比較します。

Table 14.3 比較演算子

記号	ニーモニック同値	定義
=	EQ	に等しい
^= or ~= or != or <>	NE	に等しくない
>	GT	より大
<	LT	より小
>=	GE	より大または等しい

記号	ニーモニック同値	定義
<=	LE	より小または等しい
	IN	リストの 値の 1 つに等しい

Tip: COMPUTE AS ステートメントによって、出力オブジェクトの値を変更できます。SAS によって提供されるどのテンプレートも、値を修正しません。SAS によって提供されるかどうかを決定するには、次を使用します。“[ODS VERIFY ステートメント](#)” on page 704 テンプレートが SAS のものでない場合、テンプレートを使用する SAS プログラムが実行されると、SAS ステートメントから警告が発せられます。そのような警告を受けた場合、テンプレートを見て、COMPUTE AS ステートメントで値を変更するかどうかを決定するために、SOURCE ステートメントを使用します。(次を参照 “[SOURCE ステートメント](#)” on page 866)

See: WHERE=データセットオプションで使用可能な 式を使用できます。WHERE=データセットオプションで使用可能な 式についての詳細次を参照。WHERE データセットオプション in *SAS データセットオプション: リファレンス* およびセクション WHERE 式処理 in *SAS 言語リファレンス: 解説編*

Example: “[Example 5: 特定の列、行およびセルにスタイル要素を設定する](#)” on page 1150

DEFINE Statement

テーブルテンプレート内でテンプレートを作成します。

Restriction: DEFINE ステートメントは、テーブルテンプレート内のみで 使用可能です。

See: “[DEFINE COLUMN Statement](#)” on page 1072
“[DEFINE FOOTER Statement](#)” on page 1087
“[DEFINE HEADER Statement](#)” on page 1087

Syntax

```
DEFINE テンプレートタイプ テンプレート名<| オプション>;
    ステートメントおよび属性;
END
```

Required Arguments

テンプレートタイプ

テンプレートタイプが次の 1 つの場合、作成するテンプレートの タイプを指定します。

- COLUMN
- FOOTER
- HEADER

テンプレートタイプによって、他のどのステートメントとどの属性が テンプレートにおいて実行できるかを、決定できます。詳細については、対応する DEFINE ステートメントのドキュメンテーションを参照。

テンプレート名

新しいオブジェクトの 名前を指定します。

Restriction: テンプレート名は、単一レベルの 名前である必要があります。

Tip: 他のテンプレートから作成しているテンプレートを参照するには、テーブルテンプレート外でテンプレートを作成します。

Optional Argument**NOLIST**

他のテーブルテンプレートから継承する場合、テンプレートタイプを 保存します。

Tip: NOLIST オプションを使用せずに既存の テンプレート名を指定する場合、テンプレートは上書きされます。

DEFINE COLUMN Statement

列のテンプレートを作成します。

Requirement: END ステートメントは、テンプレート内で最後のステートメントになる必要があります。

Interaction: 列テンプレートには、1 つ以上のヘッダーテンプレートを含められます。

See: [“DEFINE HEADER Statement” on page 1087](#)

Examples: [“Example 4: セルの値に基づき、セルにスタイル要素を設定する” on page 1144](#)

[“Example 5: 特定の列、行およびセルにスタイル要素を設定する” on page 1150](#)

[“Example 6: マスタテンプレートの作成” on page 1156](#)

Syntax

DEFINE COLUMN *列パス* | *Base.Template.Column*

< / STORE=*ライブラリ参照テンプレートストア*; >

< *列属性 1*; < *列属性 n*; >>

CELLSTYLE *式 1* AS < *スタイル要素名* > < [*スタイル属性仕様*] >

< , *式 n* AS < *スタイル要素名* > < [*スタイル属性仕様*] >>;

COMPUTE AS *式*

DEFINE HEADER | *Base.Template.Header* *テンプレートパス*

スタイルおよび属性

END;

DYNAMIC *変数 1* <=*デフォルト変数 1*>

< *テキスト 1* >

< ... *変数 n* <=*デフォルト変数 n*> < '*テキスト n*' >>;

MVAR *変数 1* <=*デフォルト変数 1*> < '*テキスト 1*' >

< ... *変数 n* <=*デフォルト変数 n*> < '*テキスト n*' >>;

NMVAR *変数 1* <=*デフォルト変数 1*> < '*テキスト 1*' >

< ... *変数 n* <=*デフォルト変数 n*> < '*テキスト n*' >>;

NOTES "*テキスト*";

TRANSLATE *式 1* INTO *式 2*

< , *式 n* INTO *式 m* >;

END;

Required Arguments

列パス

列テンプレートの保存場所を指定します。列パスは期間によって区分された1つ以上の名前からなります。それぞれの名前は、SAS ファイルのタイプであるテンプレートストアのディレクトリを表しています。PROC TEMPLATE によって、現在のパスの最初の書き込み可能なテンプレートストアに、テンプレートが書き込まれます。

Restrictions:

テンプレートが他のテンプレートの中にネストしている場合、ネストしたテンプレートは元のテンプレートと同じ場所に保存されるので、テンプレートパスは単一レベル名である必要があります。

他のテンプレートから作成しているテンプレートを参照するには、テンプレートを他のテンプレートにネストさせないでください。たとえば、複数のテーブルから列テンプレートを参照する場合、テーブルテンプレート内で列を定義しないでください。

Base.Template.Column

すべてのテーブル出力に普遍的に適用されるマスター列テンプレートを作成します。このテンプレートを作成した後、SAS プログラムで明示的にそれを指定する必要はありません。アイテムストアからテンプレートを明確に除去するまでは、それは自動的にテーブル出力に適用されます。

Interaction: Base.Template.Column マスターテンプレート属性は、他のテーブルテンプレートによって無効になります。

Example: “[Example 6: マスタテンプレートの作成](#)” on page 1156

Optional Argument

STORE=ライブラリ参照テンプレートストア

テンプレートを保存するテンプレートストアを指定します。テンプレートストアが存在しない場合、それを作成します。

Restrictions:

テンプレートが他のテンプレートにネストしている場合、元のテンプレートと同じ場所に保存されますので、ネストしているテンプレートのために STORE=オプションを使用しないでください。

STORE=オプションはテンプレートの一部にはなりません。

列属性ステートメント

このセクションには、列テンプレートで使用するすべての属性がリストされています。ON の値をサポートしているすべての属性にとって、これらのフォームは同値です。

ATTRIBUTE-NAME

ATTRIBUTE-NAME=ON

変数の値をサポートしているすべての属性にとって、変数は DYNAMIC、MVAR または NMVAR ステートメントで列テンプレートに宣言しているいずれかの変数です。属性がブールの場合、変数の値はこのテーブルで示されるように正または誤のどちらかに分かれるはずですが。

Table 14.4 ブール値

正	誤
ON	OFF

正	誤
ON	_OFF_
1	0
TRUE	FALSE
YES	NO
YES	_NO_

Table 14.5 列属性

タスク	属性	出力先
セルコンテンツの出現に 効果があります		
値がフォーマットされた 変数値をベースに変化しない場合、変数値を一行ずつ削除するかどうかを指定します	BLANK_DUPS= on page 1077	OUTPUT を除くすべて
値が元の変数値をベースに変化しない場合、変数値を一行ずつ削除するかどうかを指定します	BLANK_INTERNAL_DU PS= on page 1077	OUTPUT を除くすべて
テーブルの列のため、最良のフォーマットを選びます	CHOOSE_FORMAT= on page 1077	すべて
現在の列のテキストを終了するかどうかを指定します	FLOW= on page 1078	リスト
列用のフォーマットを指定します	FORMAT= on page 1079	すべて
列の十進法の番号が FORMAT= 列属性で指定されていない場合、列の十進法の番号を指定します	FORMAT_NDEC= on page 1079	すべて
フォーマットの列幅が FORMAT= 列属性で指定されていない場合、フォーマットの列幅を指定します	FORMAT_WIDTH= on page 1079	すべて
列の値が印刷からわずかに除外されるように、数値を供給します	FUZZ= on page 1079	OUTPUT を除くすべて
列(そしてヘッダーのテンプレートに JUST=が含まれていない場合、列のヘッダー用)の中のフォーマットフィールドの水平位置調整を指定します	JUST= on page 1081	OUTPUT を除くすべて
フォーマットフィールドに限らず、列内のフォーマットフィールドをジャスティファイするかどうか、あるいは列内の値をジャスティファイするかどうかを指定します	JUSTIFY= on page 1081	リストを除くすべての出力先は、JUSTIFY=ON のように機能します

タスク	属性	出力先
列内のテキストで1行以上 使われる場合、テキストをすべての行に等しく分けようとするかどうか、あるいはテキストの量を各行の最大値にするかどうかを 指定します	MAXIMIZE= on page 1082	リスト
最初のテーブルフッターの 上の現在の列の中に、またはテーブルフッターがない場合、列の最後の行の下に、実線を引くかどうかを 指定します	OVERLINE= on page 1083	リスト
テキストを整形済みテキストとして扱うかどうかを 指定します	PREFORMATTED= on page 1083	ファミリ、プリンタファミリおよび RTF をマークアップします
列の印刷をするかどうかを 指定します	PRINT= on page 1084	OUTPUT を除くすべて
列の各値に 加える分離記号文字を 指定します	SEPARATOR= on page 1084	リスト
列に使用するスタイル要素およびスタイル属性を、 指定します	STYLE= on page 1084	ファミリ、プリンタファミリおよび RTF をマークアップします
プロシジャがグラフを 出力しようとするとき、テキストグラフィックの列が 消去されるように 指定します	TEXT_GRAPHIC= on page 1085	OUTPUT および DOCUMENT を除くすべて
列のデータ用に、区切り 文字を 指定します。	TEXT_SPLIT= on page 1085	OUTPUT を除くすべて
列のヘッダーの 下の現在の列の中に、またはテーブルヘッダーがない場合、列の最初の行の上に、実線を引くかどうかを 指定します	UNDERLINE= on page 1086	リスト
列の垂直ジャスティフィケーションを 指定します	VJUST= on page 1086	ファミリ、プリンタファミリおよび RTF をマークアップします
文字の 列幅を 指定します	WIDTH= on page 1086	リスト
列の最大幅を 指定します	WIDTH_MAX= on page 1086	リスト
列ヘッダーをカスタマイズ します		
列ヘッダーのテキスト、またはヘッダーテンプレートの名前を 指定します	HEADER= on page 1080	すべて
列ヘッダーを印刷するかどうかを 指定します	PRINT_HEADERS= on page 1084	OUTPUT を除くすべて
他の列との関係に 影響を与えます		

タスク	属性	出力先
列のテンプレートが一般的なものかどうか(すなわち、複数の変数によってテンプレートが使用されるかどうか)を指定します	GENERIC= on page 1079	OUTPUT を除くすべて
列が ID 列か どうかを指定します	ID= on page 1080	リストおよびプリンタ ファミ リ
現在の列をすぐ右隣の 列とマージさせるかどうかを、指定します	MERGE= on page 1082	OUTPUT を除くすべて
現在の列をすぐ左隣の 列とマージさせるかどうかを、指定します	PRE_MERGE= on page 1083	OUTPUT を除くすべて
現在の列と すぐ左隣の列との間を空けるために、空白文字数を 指定します	PRE_SPACE= on page 1083	リスト
現在の列と すぐ右隣の列との間を空けるために、空白文字数を 指定します	SPACE= on page 1084	リスト
データパネルの表示に 影響を与えます		
ODS によって複数データ パネルが作成されるとき、ODS によってテーブルが分離される場所に影響を与えます	GLUE= on page 1080	リスト、プリンタファミリおよび RTF
テーブルを複数データ パネルに分離せずに提供される残りのすべての列がスペース に収まる場合、現在の列を出力オブジェクトから削除するかどうかを、指定します	OPTIONAL= on page 1082	リスト
他の列属性		
列テンプレートおよび データコンポーネントの両方によってフォーマットが指定される場合、どのフォーマットを使用するかを指定します	DATA_FORMAT_OVERRIDE= on page 1078	すべて
現在の列と関連 づけるデータコンポーネントにおける列の名前を、指定します	DATANAME= on page 1078	すべて
一般的列の ヘッダーのどの特殊文字を区切り文字として使用するかを、指定します	DEF_SPLIT on page 1078	すべて
列を出力データセットに 含めるかどうかを指定します	DROP= on page 1078	OUTPUT
列のラベルを 指定します	LABEL= on page 1082	OUTPUT
現在のテンプレートが継承 する列テンプレートを指定します	PAREN= on page 1083	すべて

タスク	属性	出力先
出力データセットにおける関連した変数に使用する名前を指定します	VARNAME= “VARNAME=変数名 変数;” on page 1086	OUTPUT

BLANK_DUPS<=ON | OFF | 変数>;

値がフォーマットされた変数の値に従って変化しない場合、1行ずつ変数の値を削除するかどうかを指定します。

Default: OFF

Interaction: CLASSLEVELS=テーブル属性が有効である場合、BLANK_DUPS=ON でマークされた前の列において値が変化すると、BLANK_DUPS=ON は ODS によって無視されます。

Tips:

BLANK_DUPS 属性は、OUTPUT 出力先を除くすべての出力先で有効です。PRINTER 出力先によって変数の値が削除されると、空白セルの上の水平罫線も削除されます。

See: CLASSLEVELS=テーブル属性 on page 1104

Example: “Example 4: セルの値に基づき、セルにスタイル要素を設定する” on page 1144

BLANK_INTERNAL_DUPS<=ON | OFF | 変数>;

値が元の変数の値に従って変化しない場合、1行ずつ変数の値を削除するかどうかを指定します。

Default: OFF

Interaction: CLASSLEVELS=テーブル属性が有効である場合、BLANK_INTERNAL_DUPS=ON でマークされた前の列において値が変化すると、BLANK_INTERNAL_DUPS=ON は ODS によって無視されます。

Tips:

BLANK_INTERNAL_DUPS 属性は、OUTPUT 出力先を除くすべての出力先で有効です。PRINTER 出力先によって変数の値が削除されると、空白セルの上の罫線も削除されます。

See: CLASSLEVELS=テーブル属性 on page 1104

CHOOSE_FORMAT= COMPROMISE | MAX | MAX_ABS | MIN_MAX;

テーブルの列における 実際値をベースにしたフォーマットを選びます。

COMPROMISE

列のすべての値を見て、大部分の値に合う中庸のフォーマットを選びますが、極端な値は BEST フォーマットに移動する可能性があります。

Tips:

FORMAT_NDEC=d によって、正確な桁が指定されます。

FORMAT_WIDTH=ODS によって、最大幅が示唆されます。実際のフォーマット幅は小さい場合も、大きい場合もあります。

MAX

列の最大値をベースにしたフォーマットを選びます。値はすべてプラスであり、したがってマイナスの符号がつくスペースはありません。

Default: データでは、FORMAT_WIDTH=10 および FORMAT_NDEC=は無視されます。

MAX_ABS

列の最大絶対値をベースにしたフォーマットを選びます。フォーマットには、必要であるか否かに限らず、マイナス符号のためのスペースが用意されています。

MIN_MAX

列の最小値と最大値をベースにしたフォーマットを選びます。フォーマットには、実際に必要なときのみ、マイナス符号のためのスペースが用意されます。

Interaction: If `FORMAT_NDEC=d` が指定されている場合、`d` の最大の少数位が使用されます。

Default: `CHOOSE_FORMAT` 列属性を除外する場合、デフォルトのフォーマットは、データコンポーネントまたは他の属性によって決定されます。

Restriction: `CHOOSE_FORMAT` では、その列の値がデータオブジェクト外で計算されるので、計算された列のサポートはされません。

Tips:

`FORMAT_WIDTH`=オプションに小さな値を指定する場合、`CHOOSE_FORMAT` によって `dw.3` フォーマットが作成されることもあります。
`CHOOSE_FORMAT`=属性は、すべての出力先で有効です。

See: 列フォーマットについての詳細は、次を参照。“[テーブル列の値のフォーマット](#)” on page 1123

DATA_FORMAT_OVERRIDE<=ON | OFF | 変数>;

列テンプレートとデータ構成要素の両方によってフォーマットが指定される場合、どちらのフォーマットを使うかを指定します。

ON

データコンポーネントのフォーマットを使用します。

OFF

列構成要素のフォーマットを使用します。

変数

指定された変数のフォーマットを使用します。

Default: OFF

Tip: `DATA_FORMAT_OVERRIDE` 属性は、すべての出力先で有効です。

DATANAME=列の名前;

現在の列に関連づけるデータコンポーネントの列の名前を、指定します。

Default: デフォルトでは、ODS によって、現在の列はデータ構成要素の同じ名前の列に関連づけられています。

Tip: `DATANAME`=属性は、すべての出力先で有効です。

DEF_SPLIT;

一般列のヘッダーの特殊文字が区分文字として使用されるように指定します。

Tip: `DEF_SPLIT` 出力先は、すべての出力先で有効です。

DROP<=ON | OFF | 変数>;

出力データセットに列を含めるかどうかを指定します。

Default: OFF

Tip: `DROP` 属性は `OUTPUT` 出力先でのみ有効です。

FLOW<=ON | OFF | 変数>;

提供されるスペースでは長すぎて合わない場合、現在の列のテキストを終了するかどうかを指定します。

Default: `ON` は、列のフォーマットの幅が列幅より広い場合です。`OFF` は、列のフォーマットの幅が列幅より広くない場合です。

Tips:

FLOW 属性は、リスト出力先のみで有効です。

提供されるスペースでは長すぎて合わない場合、HTML および PRINTER 出力先によって、テキストは常に終了します。

See: [MAXIMIZE=](#) on page 1082

FORMAT=フォーマットの名前<フォーマットの幅<桁の幅>> | 変数;

列のフォーマットを指定します。

Default: FORMAT=オプションを除外する場合、データコンポーネントによって提供されるフォーマットが使用されます。データコンポーネントによってフォーマットが提供されない場合、ODS によって次のうちの1つが使用されます。整数には BEST8.、全角には D12.3、または文字変数には変数の長さ。

Restriction: 数値列のフォーマット幅を指定する場合、その値は 32 を超えられません。

Tip: FORMAT=属性はすべての出力先で有効です。

FORMAT_NDEC=番号 | 変数;

列の小数を指定します。

Default: FORMAT=列属性で指定された小数の幅

Range: 番号は、0 から 32 までの番号全部です

Interaction: FORMAT=および FORMAT_NDEC=属性の両方を使用して小数の幅を指定する場合、ODS では FORMAT=属性によって指定される幅が使用されます。

Tip: FORMAT_NDEC=属性は、すべての属性において有効です。

FORMAT_WIDTH=正の整数 | 変数;

列のフォーマット幅を指定します。

Default: 列属性 FORMAT_WIDTH=を除外する場合、ODS では、FORMAT=属性で指定されたフォーマットが使用されます。

Range: 1 から 32 までの数値変数; 文字変数のオペレーティングシステム制限

Interaction: FORMAT=および FORMAT_WIDTH=属性の両方を使用してフォーマット幅を指定する場合、FORMAT=属性で指定する幅が使用されます。

Tip: FORMAT_WIDTH=属性は、すべての出力先で有効です。

FUZZ=番号 | 変数;

印刷からわずかな値を除去するために、列の値を比較する数値を供給します。絶対値が FUZZ=値より小さいか等しい番号は、0として印刷されます。しかし、番号の実際値は、その番号をベースにした計算において使用されます。

Default: これは、お使いのコンピュータ上で表示可能な最小の浮動小数点の数です。

Tip: FUZZ=属性は、OUTPUT 出力先を除くすべての出力先で有効です。

GENERIC<=ON | OFF | 変数>;

列テンプレートが複数の列で使用できるかどうかを、指定します。一般列は、多くの類似列のあるテーブルにおいて役に立ちます。たとえば、PROC SQL および DATA ステップ両方のためのテーブルテンプレートでは、2つの列のみが定義されます。1つは文字変数用で、もう1つは数値変数用です。プログラムが実行中のときは、それは、どの列テンプレートをデータコンポーネントで使用されるべきかを各列に対して決定します。

Default: OFF

Tip: GENERIC 属性は、OUTPUT 出力先を除くすべての出力先で有効です。

Examples:

“[Example 3: テーブルテンプレートの新規作成](#)” on page 1136

“[Example 4: セルの値に基づき、セルにスタイル要素を設定する](#)” on page 1144

GLUE=整数 | 変数;

ODS によって複数のデータパネルが作成される時、テーブルが分離される場所に影響を及ぼします。ODS によって、複数のデータパネルが配置されたスペースには広すぎて合わないテーブルから作成されます。ODS では、GLUE=の値が高ければ高いほど、現在の列とすぐ右隣の列との間の空白部分が少なくなります。

Default: 1

Range: -1 から 327 まで

Tips:

-1 の値で、テーブルは現在の列と右隣の列に空白が生じます。

GLUE=属性は、リスト、プリンタファミリおよび RTF 出力先のみで有効です。

HEADER=ヘッダー仕様

列ヘッダーのテキストまたはヘッダーテンプレートの名前を指定します。ヘッダー仕様は次のうちの 1 つです。

"テキスト"

ヘッダーの実際のテキストを指定します。

Requirement: テキストは引用符で括る必要があります。

ヘッダー名

使用するヘッダーテンプレートの名前を指定します。DEFINE HEADER ステートメントでヘッダーテンプレートを作成します。(次を参照。“[DEFINE HEADER Statement](#)” on page 1087) ヘッダー名が単一レベルの名前の場合、ヘッダーテンプレートは現在の列テンプレートの中で生じるはずですが。

変数

DYNAMIC、MVAR または NMVAR ステートメントで宣言された変数の名前を、指定します。変数の値は、列ヘッダーになります。

LABEL

列ヘッダーのデータ構成要素で指定されたラベルを、使用します。

Default: _LABEL_

Interaction: OUTPUT 出力先を使用している場合、データセットにおける変数のラベルは、HEADER=属性によって変更されません。データセットにおけるラベルを変更するには、LABEL=属性を使用します。

Tips:

HEADER=オプションによって、列ヘッダーのテキストを指定する単純な方法が提供されます。ヘッダーをさらにカスタマイズするには、適切なヘッダー属性のある DEFINE HEADER ステートメントを使用します。(次を参照してください。“[DEFINE HEADER Statement](#)” on page 1087)

テキストを新しい行にするには、ヘッダーのテキストで区分文字を使用します。

HEADER=属性は、すべての出力先で有効です。

See: “[LABEL="テキスト" | 変数;](#)” on page 1082 および “[TEXT_SPLIT="文字" | 変数;](#)” on page 1085

Examples:

“[Example 3: テーブルテンプレートの新規作成](#)” on page 1136

“[例 1: スタンドアロンスタイルの作成](#)” on page 1008

ID<=ON | OFF | 変数>;

列が ID 列であるか どうかを指定します。ID 列は各データパネルでリポートされます。(テーブルが広すぎて配置スペースに合わないとき、ODS によって複数のデータパネルが作成されます。)

Default: OFF

Tips:

ODS では、すべての列が ID=ON でマークされる列まで、または列を含めて IID 列として扱われます。

ID 属性は、リストおよびプリンタファミリ出力先 のみで有効です。

Example: “[Example 3: テーブルテンプレートの新規作成](#)” on page 1136

JUST=位置調整 | 変数;

列内のフォーマット フィールドの(およびヘッダーのテンプレートに JUST=が含まれない場合、ヘッダーの)水平位置調整を指定します。

位置調整は次のうちの 1 つです。

CENTER

中央揃えを指定します。

Alias: C

Interaction: プリンタファミリおよび RTF 出力先で中央 寄せを使用するには、JUSTIFY=ON も指定します。

DEC

小数点で値を 揃えることを指定します。

Alias: D

Restriction: 小数点揃えは、プリンタファミリおよび RTF 出力先のみでサポートされています。

LEFT

左揃えを指定します。

Alias: L

RIGHT

右揃えを指定します。

Alias: R

Default: 文字値を含む列は LEFT; 数値 を含む列は RIGHT

Interactions:

この [TEXTALIGN=スタイル属性](#) on page 1000JUST=の値を無効にします。

リスト出力先は、ODS では、フォーマットフィールドが 列の幅以内に位置調整されます。時には、お望みの結果を 得るために JUSTIFY=属性を指定できます。次の議論を参照。 [JUSTIFY 属性](#) on page 1081

Tip: JUST=属性は、OUTPUT 出力先 を除くすべての出力先 で有効です。

See:

“[テーブル列の値と位置調整法](#)” on page 1122

[FORMAT=](#) on page 1079 および [WIDTH=](#) on page 1079

Example: “[Example 1: SAS プロシジャで使用するテーブルテンプレートの編集](#)” on page 1125

JUSTIFY<=ON | OFF | 変数>;

列内のフォーマットフィールドを 調整するか、あるいはフォーマットフィールドを 無視して列内の値を調整するかを指定します。

Default: OFF

Interaction: JUSTIFY=ON はリスト出力先において小数点の 揃えを妨害することもあります。

Tips:

数値を文字データに翻訳する場合、データ調整に JUSTIFY=の 使用が必要になることもあります。

リスト出力先を除くすべての出力先は、JUSTIFY=ON と同じように値をジャスティファイします。

See: “テーブル列の値と位置調整法” on page 1122

Example: “Example 4: セルの値に基づき、セルにスタイル要素を設定する” on page 1144

LABEL="テキスト" | 変数;

出力データセットにおける列のラベルを指定します。

Default: ラベルを除外する場合、ODS によってデータコンポーネントで指定されたラベルが使用できます。データコンポーネントでラベルが指定されていない場合、ODS では列のヘッダーをラベルとして使用できます。

Tips:

LABEL=属性は、OUTPUT 出力先のみで有効です。

OUTPUT 出力先が開いている場合、LABEL=属性によって、出力データセットにおいて対応する変数のラベルが提供されます。このラベルを使用すると、データコンポーネントで指定されたどのラベルも無効になります。

MAXIMIZE<=ON | OFF | 変数>;

列のテキストが複数行になるとき、テキストをすべての行で均等に分割するか、あるいは各行のテキストの量を最大化するかを指定します。たとえば、テキストが3行にまたがるとき、MAXIMIZE=ON にすると、1行目のテキストを45%、2行目のテキストを45%、そして3行目のテキストを10%にできます。

MAXIMIZE=OFF にすると、各行のテキストはそれぞれ33%ずつにできます。

MAXIMIZE=ON では、長さが大きく変化するテキストの行が書けます。

MAXIMIZE=OFF では、列の幅全体よりも少ない行を使用できます。

Default: OFF

Interaction: この属性は、列が FLOW=ON で定義されている場合のみ有効です。(FLOW=列属性 on page 1078 の説明を参照)

Tip: MAXIMIZE=属性は、リスト出力先でのみ有効です。

MERGE<=ON | OFF | 変数>;

現在の列をすぐ右隣の列とマージさせるかどうかを、指定します。現在の列に MERGE=ON を設定すると、列の各行のデータは、隣の列の同じ行のデータとマージされます。ODS では、フォーマット、位置調整、スペーシング、プレススペーシングの属性が各列にそれぞれ独立して適用されます。次に、列が連結されます。最後に、MERGE=設定のない列で指定されているその他のすべての属性が、連結データに適用されます。

Default: OFF

Restriction: 同じ列テンプレートにおいて、MERGE=ON と PRE_MERGE=ON の両方は、使用できません。MERGE=ON か PRE_MERGE=ON かのどちらかがある他の列とのマージまたはプレマージは、できません。3つの列に対して、最初の列に MERGE=ON を設定し、2番目の列にマージまたはプレマージの属性を設定せず、3番目の列に PRE_MERGE=ON を設定するという方法で、マージができることには注意してください。

Tip: MERGE=属性は、OUTPUT 出力先を除くすべての出力先で有効です。

See: PRE_MERGE=列属性 on page 1083

OPTIONAL<=ON | OFF | 変数>;

他のすべての列が複数のデータパネルに分離せずスペースに収まる場合、現在の列を出力オブジェクトから削除するかどうかを指定します。

Default: OFF

Interaction: 複数の列テンプレートに OPTIONAL=ON が含まれる場合、出力オブジェクトにこれらの列のすべてが含まれるか、あるいはまったく含まれないかのどちらかです。

Tip: OPTIONAL 属性は、リスト出力先でのみ有効です。

OVERLINE=<=ON | OFF | 変数>;

現在の列において、最初のテーブルフッターの上に(あるいは、テーブルフッターがない場合、列の最終行の下に)、実線を引くかどうかを指定します。2番目のフォーマット文字は、線を引くのに使用されます。

Default: OFF

Tip: OVERLINE=属性は、リスト出力先でのみ有効です。

See: フォーマット文字の詳細については、[FORMCHAR=テーブル属性 on page 1105](#) を参照。

PARENT=変数;

現在のテンプレートが属性およびステートメントを継承している列テンプレートを指定します。列/パスは、期間で区分された1つ以上の名前からなります。それぞれの名前は、SAS ファイルタイプのテンプレートストアにおけるディレクトリを表示します。現在のテンプレートは、現在のパスの最初の読み込み可能テンプレートストアで指定された列から継承されています。

親を指定する場合、親のテンプレートで指定されたすべての属性およびステートメントは、現在のテンプレートによって特にそれらが削除されていない限り、現在のテンプレートで使用されます。

Tip: PARENT=属性はすべての出力先で有効です。

PREFORMATTED=<=ON | OFF | 変数>;

テキストをプレフォーマットテキストとして扱うかどうかを指定します。テキストがプレフォーマットされているとき、ODS では、余白、末尾スペースおよび内部スペースと同様に、改行が実行されます。さらに、テキストは固定スペースフォントで表示されます。

Default: OFF

Interaction: PREFORMATTED=ON のとき、ODS では、STYLE=列属性で他のスタイル要素を指定しない限り、DataFixed スタイル要素が使用されます。

Tip: PREFORMATTED 属性は、マークアップファイル、プリンタファミリおよび RTF 出力先で有効です。

PRE_MERGE=<=ON | OFF | 変数>;

現在の列をすぐ左隣の列とマージさせるかどうかを指定します。現在の列に PRE_MERGE=ON を設定すると、列の各行は前列の同じ行のデータとマージします。ODS では、フォーマット、位置調整、スペーシング、プレスぺーシングなどが独立に各行に適用されます。次に、列が連結されます。最後に、PRE_MERGE=設定のない列に指定された他のすべての属性が、連結データに適用されます。

Default: OFF

Restriction: 同じ列テンプレートにおいて、MERGE=ON と PRE_MERGE=ON の両方は使用できません。MERGE=ON あるいは PRE_MERGE=ON のいずれかがある他の列に、列をマージまたはプレマージすることはできません。3つの列に対して、最初の列に MERGE=ON を設定し、2番目の列にマージまたはプレマージの属性を設定せず、3番目の列に PRE_MERGE=ON を設定するという方法で、マージができることには注意してください。

Tip: PRE_IMAGE 属性は、OUTPUT 出力先を除くすべての出力先で有効です。

See: [MERGE=列属性 on page 1082](#)

PRE_SPACE=負でない整数;

現在の列とすぐ左隣の列との間をあける空白文字の数を指定します。

Default: COL_SPACE_MIN および COL_SPACE_MAX テーブル属性によって境界を付けられる範囲の値。

Interaction: PRE_SPACE=および SPACE=が同じ列間スペースのために指定される場合、ODS では PRE_SPACE=が実行されます。

Tip: PRE_SPACE=属性は、リスト出力先のみで有効です。

See: SPACE=列属性 on page 1084, COL_SPACE_MIN テーブル属性 on page 1104, and COL_SPACE_MIN テーブル属性 on page 1104

PRINT<=ON | OFF | 変数>;

列を印刷するかどうかを指定します。

Default: ON

Interaction: 列属性に PRINT=OFF を指定する 場合、スタック列の一部のときは列の値を 消去します。スタック列のすべての列に PRINT=OFF 設定がされている場合、列全体はテーブルから除去されます。

Tips:

スタック列のすべての列に PRINT=OFF が指定されている場合、列全体はテーブルから除去されます。

PRINT 属性は、OUTPUT 出力先を除くすべての出力先で有効です。

See: OPTIONAL 列属性 on page 1082 および DROP=列属性 on page 1078

PRINT_HEADERS<=ON | OFF | 変数>;

列ヘッダーおよび 下線と上線を印刷するかどうかを、指定します。

Default: ON

Tip: PRINT_HEADERS 属性は、OUTPUT 出力先を除くすべての出力先で有効です。

See: UNDERLINE=列属性 on page 1086 and OVERLINE=列属性 on page 1083

SEPARATOR="文字" | 変数;

列のそれぞれの 値に加える区切り文字を、指定します。

Default: なし

Restriction: SEPARATOR=列属性は、文字変数のみに 有効です。

Tips:

区切り文字として 16 進文字を指定するには、引用符のすぐ後に x を書きます。たとえば、このオプションでは、区切り文字として、16 進文字の 2-D が割り当てられています。区切り文字="2D"x

SEPARATOR=属性は、リスト出力先でのみ有効です。

SPACE=正の整数 | 変数;

現在の列と すぐ右隣の列との間をあける空白文字の 数を指定します。

Default: COL_SPACE_MIN および COL_SPACE_MAX テーブル属性によって境界を付けられる範囲の値。

Interaction: PRE_SPACE=および SPACE=が同じ列間スペースのために指定される場合、ODS では PRE_SPACE=が実行されます。

Tip: SPACE=属性は、リスト出力先でのみ有効です。

See: PRE_SPACE=列属性 on page 1083, COL_SPACE_MAX=属性 on page 1104 および“COL_SPACE_MIN= 正の整数 | 変数;” on page 1104

STYLE=<スタイル要素名><[スタイル属性仕様]>;

現在の列を使用するために、スタイル要素を指定し、その属性へ変更します。スタイル属性仕様あるいは スタイル要素名のどちらも必要としません。しかし、少なくともそのうちの 1 つを使用する必要があります。

Note: カギ括弧([および]) の代わりに、中括弧({および})を使用できます。

スタイル要素名

列におけるデータを 表示するのに使用するスタイル要素の名前です。スタイル要素は、Output Delivery System で登録されるスタイルの一部である必要があります。SAS によって、いくつかのスタイルが提供されます。PROC

TEMPLATE でカスタマイズされたスタイルを作成できます。(次を参照 13 章, “TEMPLATE プロシジャ: スタイルテンプレートの作成” on page 942)

デフォルトでは、ODS には、ODS 出力の異なるパーツに異なるスタイル要素が表示されます。たとえば、デフォルトでは、列のデータセルにはスタイル要素データが表示されます。STYLE=列属性で、次のスタイル要素を使用するのが好ましいでしょう。

- Data
- DataFixed
- DataEmpty
- DataEmphasis
- DataEphasisFixed
- DataStrong
- DataStrongFixed

スタイル要素では、列表示の基礎が提供されています。提供できる追加スタイル属性で、表示を修正できます。

利用可能なスタイル要素を見るためのスタイル表示についての詳細は、次を参照。“スタイルのコンテンツの表示” on page 945 ODS で使用されるデフォルトのスタイルについての詳細は、次を参照。“HTML およびマークアップ言語用のデフォルトスタイル内のスタイル要素の変更” on page 946

スタイル要素名は、スタイル要素の名前、あるいはその値がスタイル要素である変数のいずれかです。スタイル要素名のテーブルについては、次を参照。“ODS スタイル要素” on page 1387

Default: データ

スタイル属性仕様

変更するスタイル属性について説明します。各スタイル属性仕様には、一般フォームがあります。

スタイル属性名=スタイル属性値

指定できるスタイル属性についての詳細は、次を参照。“スタイル属性の概要” on page 968

Tips:

STYLE=属性は、マークアップファミリ、プリンタファミリ および RTF 出力先でのみ有効です。

引用文字列内の STYLE=属性を使用する場合、エラー防止のため、キャリッジリターンの前か後にスペースを加えます。SAS では、キャリッジリターンはスペースとして解釈されません。引用文字列において、スペースを明確に指定します。

Example: “Example 3: テーブルテンプレートの新規作成” on page 1136

TEXT_GRAPHIC= ON | OFF;

プロシジャがグラフを出力しようとするとき、テキストグラフィック列がオンになるかオフになるかを指定します。

Default: OFF

TEXT_SPLIT="文字" | 変数;

列のデータ用に区分文字を指定します。列における値は、その文字に達すると中断し、その値は次の行に続きます。区分文字自体は、データの一部ではなく、列には現れません。

Default: None

Tip: TEXT_SPLIT=属性は、OUTPUT 出力先を除くすべての出力先で有効です。

UNDERLINE=<ON | OFF | 変数>;

現在の列で、列ヘッダーの下に(あるいは、列ヘッダーがない場合は、列の最初の行の上に)実線を引くかどうかを指定します。第 2 のフォーマット文字は、線を引くのに使用されます。

Default: OFF

Tip: UNDERLINE=属性は、リスト出力先でのみ有効です。

See: フォーマット文字についての詳細は、[FORMCHAR=テキスト属性 on page 1105](#) を参照。

VARNAME=変数名 | 変数;

出力データセットにおいて対応する変数のために使用する名前を、指定します。

Default: VARNAME=を除外する場合、DATANAME=属性の値が使用されます。DATANAME=を除外する場合、列の名前が使用されます。

Tips:

異なる列に同じ名前を指定するために VARNAME=を使用する場合、その名前を使用するたびにその名前に番号を追加します。

VARNAME=属性は、OUTPUT 出力先でのみ有効です。

VJUST=位置調整 | 変数;

列の垂直位置調整を指定します。位置調整は次のうちの 1 つです。

TOP

テキストの 1 行目をできるだけ高い位置にします。

Alias: T

CENTER

テキストを垂直にセンタリングします。

Alias: C

BOTTOM

テキストの最後の行をできるだけ低い位置にします。

Alias: B

Default: TOP

Tip: VJUST=属性は、マークアップファミリ、プリンタファミリ および RTF 出力先のみで有効です。

Example: “[Example 3: テーブルテンプレートの新規作成](#)” on page 1136

WIDTH=正の整数 | 変数;

文字で列の幅を指定します。

Default: 幅を除外する場合、フォーマットの幅が使用されます。列に関連したフォーマットがない場合、ODS では、次の幅のうちの 1 つが使用されます。整数で 8、全角で 12 または文字変数でデータの長さ。

Interaction: 列ヘッダー長さは、列の幅に影響を与えます。

Tip: WIDTH=属性は、リスト出力先でのみ有効です。

WIDTH_MAX=正の整数 | 変数;

列の許容最大幅を指定します。デフォルトでは、ヘッダーがデータより幅が広い場合、PROC TEMPLATE で列の幅を広げられます。列の幅は、WIDTH=と WIDTH_MAX=の間のどこでも取れます。

Default: 列のフォーマットの幅

Tip: WIDTH_MAX=属性は、リスト出力先でのみ有効です。

DEFINE FOOTER Statement

テーブルフッターのテンプレートを作成します。

Requirement: END ステートメントは、テンプレートにおいて最後のステートメントにする必要があります。

See: [“DEFINE HEADER Statement” on page 1087](#)

Examples: [“Example 3: テーブルテンプレートの新規作成 ” on page 1136](#)
[“例 1: スタンドアロンスタイルの作成” on page 1008](#)

Syntax

DEFINE FOOTER フッターパス | **Base.Template.Footer**

```
</STORE=ライブラリ参照テンプレートストア>;
<フッター属性 1; <フッター属性 n; >>
DYNAMIC 変数 1 <= デフォルト変数 1>
  <'テキスト 1'>
    <... 変数 n<= デフォルト変数 n><'テキスト n'>>;
MVAR 変数 1 <= デフォルト変数 1><'テキスト 1'>
  <... 変数 n<= デフォルト変数 n><'テキスト n'>>;
NMVAR 変数 1 <= デフォルト変数 1><'テキスト 1'>
  <... 変数 n<= デフォルト変数 n><'テキスト n'>>;
NOTES "テキスト";
TEXT フッター仕様,
TEXT2 フッター仕様,
TEXT3 フッター仕様,
END;
```

サブステートメントと属性

DEFINE FOOTER ステートメントにおけるサブステートメントとフッターの属性は、次の [“DEFINE HEADER Statement” on page 1087](#) と [“ヘッダー属性” on page 1089](#) のステートメントと同じです。

DEFINE HEADER Statement

テーブルヘッダー用のテンプレートまたは列テンプレート 内のヘッダーを作成します。

Restriction: DEFINE HEADER ステートメントは、列テンプレートまたは テーブルテンプレートの中でのみ使用できます。

Requirement: END ステートメントは、テンプレートにおける最後のステートメントになる必要があります。

See: [“Example 3: テーブルテンプレートの新規作成 ” on page 1136](#)

Syntax

DEFINE HEADER ヘッダーパス | Base.Template.Header

```

</STORE=ライブラリ参照テンプレートストア>;
<ヘッダー属性 1; <ヘッダー属性 n; >>
DYNAMIC 変数 1 <= デフォルト変数 1 >
  <テキスト 1 >
  <... 変数 n <= デフォルト変数 n > <'テキスト n' >>;
MVAR 変数 1 <= デフォルト変数 1 > <'テキスト 1' >
  <... 変数 n <= デフォルト変数 n > <'テキスト n' >>;
NMVAR 変数 1 <= デフォルト変数 1 > <'テキスト 1' >
  <... 変数 n <= デフォルト変数 n > <'テキスト n' >>;
NOTES "テキスト";
TEXT ヘッダー仕様,
TEXT2 ヘッダー仕様,
TEXT3 ヘッダー仕様,
END;

```

Required Arguments

ヘッダーパス

ヘッダーテンプレートをどこに保存するかを指定します。ヘッダーパスは、期間で区分された 1 つ以上の名前からなります。それぞれの名前は、テンプレートストアにおけるディレクトリを表します。(テンプレートストアは一種の SAS ファイルです) PROC TEMPLATE では、現在のパスの 1 回目書き込み可能テンプレートにテンプレートが書き込まれます。

Restrictions:

テンプレートが他のテンプレートの中にネストしている場合、ヘッダーパスは単一レベルの名前である必要があります。

他のテンプレートから作成しているテンプレートを参照するには、他のテンプレートの中にテンプレートをネストさせないでください。たとえば、複数の列からヘッダーテンプレートを参照するには、列テンプレート内でヘッダーを定義しないでください。

Base.Template.Header | Base.Template.Footer

すべてのテーブル出力に広く適用するマスターヘッダーテンプレートを作成します。このテンプレートの作成後は、SAS プログラムにおいていちいち指定する必要はありません。それがアイテムストアから特に除去されない限り、すべてのテーブル出力で自動的に適用されます。

Interaction: Base.Template.Header または Base.Template.Footer マスターテンプレート属性は、他のテンプレートによって無効にされます。

Example: “[Example 6: マスタテンプレートの作成](#)” on page 1156

Optional Argument

STORE=ライブラリ参照テンプレートストア

テンプレートを保存するテンプレートストアを指定します。テンプレートストアが存在しない場合は、それを作成します。

Restrictions:

テンプレートが他のテンプレートにネストしている場合、ネストしているテンプレートの STORE=オプションを使用しないでください。オリジナルなテンプレートが保存されている場所に保存することになるからです。

STORE=オプションは、テンプレートの一部にはなりません。

ヘッダー属性

このセクションでは、ヘッダーテンプレートで利用できるすべての属性がリストされています。列ヘッダーは単一列のスパンです。スパンヘッダーは複数の列にまたがります。これら2つのタイプのヘッダーは、スパンヘッダーでSTART=またはEND=属性、あるいは両方が使用されている場合を除いて、同じように定義されています。ONの値をサポートするすべての属性では、これらのフォームは同値です。

ATTRIBUTE-NAME
ATTRIBUTE-NAME=ON

変数の値をサポートするすべての属性では、変数はDYNAMIC、MVARあるいはNMVARステートメントを使用してテーブルテンプレートで宣言した変数です。属性がブールの場合、変数値は、このテーブルで示されているように、正か誤のどちらかの解になるはずはです。

Table 14.6 ブール値

正	誤
ON	OFF
ON	_OFF_
TRUE	FALSE
YES	NO
YES	_NO_

Table 14.7 ヘッダー属性

タスク	属性	出力先
ヘッダーのコンテンツの外観に影響します		
一般列のヘッダーの特殊文字が 区別文字として使用されるように、 指定します	DEF_SPLIT on page 1078	すべて
列のヘッダーに最長の単語が入 るように、列の幅を広げるかどうか を指定します	FORCE= on page 1092	リスト
列ヘッダーの水平位置調整を指 定します	JUST= on page 1093	OUTPUTを除くすべて
ヘッダーのテキストで複数の行が 使用されるとき、テキストをすべ ての行で均等に分割するか、ある いは各行のテキストの分量を最大 にするかを指定します	MAXIMIZE= on page 1093	リスト
ヘッダーの上に実線を引くかど うかを指定します	OVERLINE= on page 1094	リスト

タスク	属性	出力先
テキストをプレフォーマット テキストとして扱うかどうかを、指定します	PREFORMATTED= on page 1094	マークアップファミリ、プリンタファミリおよび RTF
ヘッダーを印刷するかどうかを指定します。	PRINT= on page 1084	すべて
現在のヘッダーと次のヘッダーの間、あるいは現在のフッターと前のフッターの間に置く空白行の数を、指定します	SPACE= on page 1095	リスト
ヘッダーの区分文字を指定します。	SPLIT= on page 1095	OUTPUT を除くすべて
ヘッダーを使用するために、スタイル要素とその属性への変更を指定します	STYLE= on page 1084	マークアップファミリ、プリンタファミリおよび RTF
単語の途中で新しいヘッダーを開始するかどうかを、指定します	TRUNCATE= on page 1097	リスト
ヘッダーの下に実線を引くかどうかを、指定します	UNDERLINE= on page 1086	リスト
ヘッダーに垂直位置調整を、指定します	VJUST= on page 1098	マークアップファミリ、プリンタファミリおよび RTF
ヘッダーの幅を文字で指定します	WIDTH= on page 1086	リスト
ヘッダーのコンテンツに影響します		
ヘッダーがまたがる列のスペースを埋めるために、ヘッダーを広げるのに使用する文字を指定します	EXPAND= on page 1092	リスト
ヘッダーに配置されたスペースが埋まるまで、ヘッダーのテキストをリピートするかどうかを、指定します	REPEAT= on page 1094	リスト
ヘッダーの配置に影響します		
スパニングヘッダーによってカバーされる最後の列を、指定します	END= on page 1092	OUTPUT を除くすべて
スパニングヘッダーによってカバーされる最初の列を、指定します	START= on page 1096	OUTPUT を除くすべて
ページの両端に達するまでヘッダーを広げるかどうかを、指定します	EXPAND_PAGE= on page 1092	リスト

タスク	属性	出力先
テーブルが広すぎて提供されたスペースに合わない場合、スパンニングヘッダーが最初のデータパネルにのみ現れるかどうかを、指定します	FIRST_PANEL= on page 1092	リスト、プリンタファミリ、RTF
テーブルが広すぎて提供されたスペースに合わない場合、テーブルフッターが最後のデータパネルにのみ現れるかどうかを、指定します	LAST_PANEL= on page 1093	リスト、プリンタファミリ、RTF
ヘッダーのテキストを隣接した列のヘッダースペースにまで拡張するかどうかを、指定します	SPILL_ADJ= on page 1095	リスト
ヘッダーのテキストを隣接の余白にまで拡張するかどうかを、指定します	SPILL_MARGIN= on page 1095	リスト
他のヘッダー属性		
ヘッダーの略記を指定します*	ABBR= on page 1091	MARKUP
ヘッダーの頭字語を指定します*	ACRONYM= on page 1091	MARKUP
ヘッダーの別の説明を指定します*	ALT= on page 1092	MARKUP
複数の列でヘッダーが使用できるかどうかを指定します	GENERIC= on page 1093	OUTPUT を除くすべて
ヘッダーの長い説明を指定します*	LONGDESC= on page 1093	MARKUP
現在のテンプレートが引き継ぐヘッダーテンプレートを指定します	PARENT= on page 1094	すべて

* SAS では、障害者のユーザーに対して、SAS のユーザビリティが改善されたユーザー補助機能や互換性機能が、含まれています。これらの機能は、1973 年改正のリハビリテーション法第 508 条に基づき、合衆国政府が採用した電子情報技術のアクセスビリティ基準に関連しています。

ABBR= "テキスト" | 変数;

ヘッダーの略語を指定します。SAS では、障害者のユーザーに対して、SAS のユーザビリティが改善されたユーザー補助機能や互換性機能が、含まれています。この機能は、1973 年改正のリハビリテーション法第 508 条に基づき、合衆国政府が採用した電子情報技術のアクセスビリティ基準に関連しています。

Requirement: テキストは引用符で括る必要があります。

Tip: ABBR 属性は、MARKUP 出力先でのみ有効です。

ACRONYM= "テキスト" | 変数;

ヘッダーの頭字語を指定します。SAS では、障害者のユーザーに対して、SAS のユーザビリティが改善されたユーザー補助機能や互換性機能が、含まれています。これらの機能は、1973 年改正のリハビリテーション法第 508 条に基づき、合衆国政府が採用した電子情報技術のアクセスビリティ基準に関連しています。

Requirement: テキストは引用符で括る必要があります。

Tip: ACRONYM=属性は、MARKUP 出力先のみで有効です。

ALT="テキスト" | 変数;

ヘッダーの別の説明を指定します。SAS では、障害者のユーザーに対して、SAS のユーザビリティが改善されたユーザー補助機能や互換性機能が、含まれていません。この機能は、1973 年改正のリハビリテーション法第 508 条に基づき、合衆国政府が採用した電子情報技術のアクセシビリティ基準に関連しています。

Requirement: テキストは引用符で括弧する必要があります。

Tip: ALT=属性は、MARKUP 出力先のみで有効です。

DEF_SPLIT;

一般列のヘッダーにおける特殊文字が区別文字として使用されるように、指定します。

Tip: DEF_SPLIT 属性は、すべての出力先で有効です。

END=列名 | 変数;

スパンニングヘッダーによってカバーされる最後の列を、指定します。

Default: 最後の列

Tip: END=属性は、OUTPUT 出力先を除くすべての出力先で有効です。

See: [START=ヘッダー属性 on page 1096](#)

EXPAND="文字列" | 変数;

列いっぱいスペースを埋めるまで、あるいはヘッダーがまたがる複数列にまでヘッダーを拡張するために、使用する文字を指定します。

Default: なし

Interaction: REPEAT=ON と EXPAND=ON 属性の両方を指定する場合、EXPAND=属性が使用されます。

Tips:

指定する文字列または変数に複数の文字が含まれる場合、最初の文字だけが使用されます。

EXPAND=属性は、リスト出力先でのみ有効です。

See:

[REPEAT=ヘッダー属性 on page 1094](#)

EXPAND_PAGE=

EXPAND_PAGE<= ON | OFF | 変数>;

ページの両端に達するまでヘッダーを拡張するかどうかを、指定します。

Default: OFF

Tip: EXPAND_PAGE 属性は、リスト出力先でのみ有効です。

See: EXPAND=

FIRST_PANEL<= ON | OFF | 変数>;

テーブルの幅が広すぎて提供されたスペースに合わない場合、スパンニングヘッダーが最初のデータパネルのみに現れるようにするかどうかを、指定します。

Default: OFF

Restriction: ヘッダーのみに適用し、フッターには適用しません。

Tip: FIRST_PANEL 属性は、リスト、プリンタファミリおよび RTF 出力先でのみ有効です。

See: [LAST_PANEL ヘッダー属性 on page 1093](#)

FORCE<= ON | OFF | 変数>;

列ヘッダーで最も長い単語に合わせて列の幅を拡張しようとするかどうかを、指定します。列の幅は、WIDTH=と WIDTH_MAX=列属性の間の値であれば何でもかまいません。

Default: ON

Tip: FORCE=属性は、リスト出力先でのみ有効です。

See: WIDTH=列属性 on page 1086 と WIDTH_MAX=列属性 on page 1086

GENERIC<= ON | OFF | 変数>;

複数の列でヘッダーを使用できるかどうかを指定します。

Default: OFF

Restriction: この属性は、主に SAS プロシジャのライターおよび DATA ステッププログラマーのためのものです。

Tip: GENERIC=属性は、OUTPUT 出力先を除くすべての出力先で有効です。

JUST=位置調整 | 変数;

列ヘッダーの水平位置調整を指定します。ここで、位置調整とは、次のうちの 1 つです。

LEFT

左揃えを指定します。

Alias: L

RIGHT

右揃えを指定します。

Alias: R

CENTER

中央寄せを指定します。

Alias: C

Default: 列の位置調整

Tip: JUST=属性は、OUTPUT 出力先を除くすべての出力先で有効です。

Example: “[Example 1: SAS プロシジャで使用するテーブルテンプレートの編集](#)” on page 1125

LAST_PANEL<= ON | OFF | 変数>;

テーブルの幅が広すぎて提供されたスペースに合わない場合、テーブルフッターが最後のデータパネルのみに現れるようにするかどうかを、指定します。

Default: OFF

Restriction: フッターのみに適用し、ヘッダーには適用しません。

Tip: LAST_PANEL=属性は、リスト、プリンタファミリおよび RTF 出力先のみで有効です。

See: FIRST_PANEL=ヘッダー属性 on page 1092

LONGDESC= "文字列" | 変数;

ヘッダーの長い説明を指定します。SAS では、障害者のユーザーに対して、SAS のユーザビリティが改善されたユーザー補助機能や互換性機能が、含まれています。この機能は、1973 年改正のリハビリテーション法第 508 条に基づき、合衆国政府が採用した電子情報技術のアクセスビリティ基準に関連しています。

Requirement: テキストは引用符で括られる必要があります。

Tip: LONGDESC=属性は、マークアップファミリ出力先でのみ有効です。

MAXIMIZE<=ON | OFF | 変数>;

ヘッダーのテキストで複数の行が使用されるとき、テキストをすべての行で均等に分割するか、あるいは各行のテキストの分量を最大にするかを指定します。たとえば、テキストが 3 行にまたがるとき、MAXIMIZE=ON にすると、1 行目のテキストを 45%、2 行目のテキストを 45%、そして 3 行目のテキストを 10%にできます。MAXIMIZE=OFF では、各行 33%という結果になります。MAXIMIZE=ON では、

長さがかなり変化する行を書けます。MAXIMIZE=OFF では、列幅全体以下を使用することになります。

Default: OFF

Tip: MAXIMIZE=属性は、リスト出力先でのみ有効です。

OVERLINE<=ON | OFF | 変数>;

ヘッダーの上に 実線を引くかどうかを指定します。2 番目のフォーマット文字は、線を引くのに使用されます。次の議論を参照。“FORMCHAR= "文字列" | 変数;” on page 1105

Default: OFF

Tip: OVERLINE=属性は、リスト出力先でのみ有効です。

PARENT=ヘッダーパス;

現在のテンプレートが 引き継ぐヘッダーテンプレートを、指定します。ヘッダーパスは、期間で区分された 1 つ以上の名前 からなります。それぞれの名前は、テンプレートストアのディレクトリを表しています。(テンプレートストアは一種の SAS ファイル です)現在のテンプレートは、現在のパスで最初に読み込み可能なテンプレートストアで指定されたヘッダーテンプレート から、引き継ぎます。

親を指定するとき、親のテンプレートで指定されたすべての属性とステートメントは、現在のテンプレートによって特に無効にされない限り、現在の テンプレートで使用されます。

Tip: PARENT=属性は、すべての出力先で有効です。

PREFORMATTED<=ON | OFF | 変数>;

テキストをプレフォーマット テキストとして扱うかどうかを、指定します。テキストがプレフォーマットされているとき、ODS では、余白、末尾スペースおよび内部スペースと同様に、改行が実行されます。また、テキストも、固定スペースフォントで表示されます。

Default: OFF

Interactions:

PREFORMATTED=ON のとき、そしてテーブルのヘッダーまたはフッターを定義しているとき、ODS では、STYLE=列属性で他のスタイル 要素を指定しない限り、HeaderFixed または FooterFixed スタイル要素が 使用されます。

PREFORMATTED=ON のとき、そして列のヘッダーを定義しているとき、ODS では、STYLE=列属性で他のスタイル要素を指定しない限り、RowHeaderFixed スタイル要素が使用されます。

Tip: PREFORMATTED 属性は、マークアップファミリ、プリンタファミリおよび RTF 出力先でのみ有効です。

PRINT<=ON | OFF | 変数>;

ヘッダーを印刷するかどうかを指定します。

Default: ON

Tips:

PRINT=ON のとき、列ヘッダーは、列テンプレートあるいは データコンポーネントのいずれによってもラベルが提供されない場合、OUTPUT 出力先によって作成されるどの出力データセットにおいても、対応する変数の ラベルになります。

PRINT=属性は、すべての出力先で有効です。

REPEAT<=ON | OFF | 変数>;

ヘッダーに 割り当てられたスペースが埋まるまで、ヘッダーのテキストをリピートするかどうかを、指定します。

Default: OFF

Interaction: REPEAT=ON と EXPAND=ON 両方の属性を指定する場合、EXPAND=属性が使用されます。

Tip: REPEAT 属性は、リスト出力先でのみ有効です。

See: EXPAND=ヘッダー属性 on page 1092

SPACE=正の整数 | 変数;

現在のヘッダーと次のヘッダーとの間、あるいは現在のフッターと前のフッターとの間に置く空白行の数を、指定します。

Default: 0

Tips:

下線または上線の行は、ヘッダーまたはフッターと見なされます。

SPACE=属性は、リスト出力先でのみ有効です。

Example: “Example 3: テーブルテンプレートの新規作成” on page 1136

SPILL_ADJ<=ON | OFF | 変数>;

ヘッダーのテキストを隣接する列のヘッダースペースまで拡張するかどうかを、指定します。

Default: OFF

Interaction: FORCE=、SPILL_MARGIN=、SPILL_ADJ=および TRUNCATE=は、相互に排他的です。これらの属性の複数を指定する場合、そのうちの1つだけが使用されます。FORCE=は、SPILL_MARGIN=、SPILL_ADJ=および TRUNCATE=などの他の3つの属性に対して、優先権があります。

Tip: SPILL_ADJ 属性は、リスト出力先でのみ有効です。

See: FORCE=ヘッダー属性 on page 1092, SPILL_MARGIN= on page 1095 および TRUNCATE=ヘッダー属性 on page 1097

SPILL_MARGIN<=ON | OFF | 変数>;

ヘッダーのテキストを隣接する余白にまで拡張するかどうかを、指定します。

Default: ON

Restriction: SPILL_MARGIN=は、データパネルのすべての列にまたがるスパンニングヘッダーにのみ適用されます。

Interaction: FORCE=、SPILL_MARGIN=、SPILL_ADJ=および TRUNCATE=の属性は、相互に排他的です。これらの属性の複数を指定する場合、これら属性のうち1つのみを使用されます。FORCE=属性は、SPILL_MARGIN=、SPILL_ADJ=および TRUNCATE=などの他の3つの属性に対して、優先権があります。

Tip: SPILL_MARGIN 属性は、リスト出力先でのみ有効です。

See: FORCE=ヘッダー属性 on page 1092, SPILL_ADJ=ヘッダー属性 on page 1095 および TRUNCATE=ヘッダー属性 on page 1097

SPLIT="文字" | 変数;

ヘッダーの区切り文字を指定します。PROC TEMPLATE では、その文字に到達すると新しい行が始まり、次の行でヘッダーが続きます。区切り文字そのものは、区切り文字が生ずるたびにラベルの最大値に向かってカウントされますが、ヘッダーの一部ではありません。

ヘッダーの最初の文字が次のうちの1つでない場合、区切り文字が定義されます。

- 英数字
- 空白
- アンダーライン(_)
- ハイフン(-)

Note: 区切り文字がテキストの後に現れるまで、区切りは起きません。

Tip: SPLIT=属性は、OUTPUT 出力先を除くすべての出力先で有効です。

START=列の名前 | 変数;

スパニングヘッダーによってカバーされる最初の列を、指定します。

Default: 最初の列

Tip: START=属性は、OUTPUT 出力先を除くすべての出力先で有効です。

STYLE=<スタイル要素名><[スタイル属性仕様]>;

スタイル要素と、ヘッダーのために使用する属性への変更を指定します。

スタイル要素名

ヘッダー作成のために使用するスタイル要素の名前です。スタイル要素は、Output Delivery System で登録されたスタイルの一部である必要があります。SAS によって、いくつかのスタイルが提供されています。PROC TEMPLATE を使用して、カスタマイズされたスタイルを作成できます。(次を参照。

“[DEFINE STYLE ステートメント](#)” on page 958)

デフォルトでは、ODS によって、異なる要素のある ODS 出力の異なる部分が作成されます。たとえば、デフォルトでは、テーブルヘッダーはスタイル要素の Header で表示されます。テーブルヘッダー用の STYLE=属性で使いたいと思うスタイル要素は、次のとおりです。

- Header
- HeaderFixed
- HeaderEmpty
- HeaderEmphasis
- HeaderEmphasisFixed
- HeaderStrong
- HeaderStrongFixed

テーブルフッター用の STYLE=属性で使いたいと思うスタイル要素は、次のとおりです。

- Footer
- FooterFixed
- FooterEmpty
- FooterEmphasis
- FooterEmphasisFixed
- FooterStrong
- FooterStrongFixed

列ヘッダー用の STYLE=属性で使いたいと思うスタイル要素は、次のとおりです。

- Rowheader
- RowheaderFixed
- RowheaderEmpty
- RowheaderEmphasis
- RowheaderEmphasisFixed
- RowheaderStrong
- RowheaderStrongFixed

スタイル要素によって、ヘッダー表示の基礎が提供されます。あなたが提供する追加的スタイル属性で、表示を修正できます。

スタイル要素名は、値がスタイル要素であるスタイル要素または変数の名前です。

Default: Header

See:

“スタイルのコンテンツの表示” on page 945

“ODS 出力先のデフォルトスタイルの検索および表示” on page 945

スタイル要素名のテーブルについては、次を参照。“ODS スタイル要素” on page 1387

スタイル属性仕様

変更するスタイル属性を説明します。各スタイル属性仕様にはこの一般フォームがあります。

スタイル属性名=スタイル属性値

Requirement: STYLE=ODS には、スタイル属性仕様またはスタイル要素名が必要です。

Tips:

角カッコ([および])の代わりに、中カッコ({および})を使用できます。

引用文字列の中で STYLE=属性を使用する場合、エラー防止のために、キャリッジリターンの前または後でスペースを加えます。SAS では、キャリッジリターンをスペースとしては理解されていません。引用文字列のスペースは、明確に指定する必要があります。

STYLE=属性は、マークアップファミリ、プリンタファミリ および RTF 出力先でのみ有効です。

See: “スタイル属性値” on page 1004

Examples:

“Example 1: SAS プロシジャで使用するテーブルテンプレートの編集” on page 1125

“Example 3: テーブルテンプレートの新規作成” on page 1136

TRUNCATE<=ON | OFF | 変数>;

単語の途中で新しいヘッダーを開始するかどうかを、指定します。

ON

テキストが指定の列幅いっぱいになったとき、ヘッダーの新しい行を始めます。

OFF

できれば、列ヘッダーに最も長い単語を収めるために、列の幅を拡張します。TRUNCATE=OFF は FORCE=ON と同じです。

Default: OFF

Interaction: FORCE=、SPILL_MARGIN=または SPILL_ADJ=を指定する場合、TRUNCATE=属性は無視されます。

Tip: TRUNCATE=属性はリスト出力先でのみ有効です。

See: FORCE=ヘッダー属性 on page 1092, SPILL_MARGIN=ヘッダー属性 on page 1095 および SPILL_ADJ ヘッダー属性 on page 1095

UNDERLINE<=ON | OFF | 変数>;

ヘッダーの下に実線を引くかどうかを、指定します。2 番目のフォーマット文字は、線を引くのに使用されます。

Default: OFF

Tip: UNDERLINE 属性は、リスト出力先でのみ有効です。

See: 文字についての詳細は、次の議論を参照。f [FORMCHAR=テーブル属性 on page 1105](#)

VJUST=位置調整 | 変数;

ヘッダーの垂直 位置調整を指定します。位置調整は次のうちの 1 つです。

TOP

ヘッダーをできるだけ 高く配置します。

Alias: T

CENTER

ヘッダーを垂直に中央 寄せします。

Alias: C

BOTTOM

ヘッダーをできるだけ 低く配置します。

Alias: B

Default: BOTTOM

Tip: VJUST=属性は、MARKUP および PRINTER ファミリの出力先 においてのみ有効です。

WIDTH=正の整数 | 変数;

ヘッダーの幅を 文字で指定します。

Default: 幅を除外する場合、列幅が使用されます。

Tips:

垂直ヘッダーを作成するには、幅を 1 に指定します。

WIDTH=属性は、リスト出力先でのみ有効です。

DEFINE TABLE Statement

テーブルテンプレートを作成します。

Requirement: END ステートメントは、テンプレートにおける最後のステートメントになる必要があります。

Interaction: テーブルテンプレートには、1 つ以上の列、ヘッダーまたはフッターテンプレートのいずれかが含まれる場合もあります。

Examples: “[Example 3: テーブルテンプレートの新規作成](#)” on page 1136
 “[Example 4: セルの値に基づき、セルにスタイル要素を設定する](#)” on page 1144

Syntax

```

DEFINE TABLE テーブルパス | Base.Template.Table
  </STORE=ライブラリ参照テンプレートストア>;
  <テーブル属性 1; <テーブル属性 n; >>
  CELLSTYLE 式 1 AS <スタイル要素名><[スタイル属性仕様]>
    <, 式 n AS <スタイル要素名><[スタイル属性仕様]>>;
  COLUMN 列;
  DEFINE テンプレートタイプ テンプレート名 </ オプション>;
    ステートメントおよび属性
  END;
  DYNAMIC 変数 1 <=デフォルト変数 1>
    <'テキスト 1'> <... 変数 n<=デフォルト変数 n><'テキスト n'>>;
  FOOTER フッター名;
  HEADER ヘッダー名;
  MVAR 変数 1 <=デフォルト変数 1><'テキスト 1'>
    <... 変数 n<=デフォルト変数 n><'テキスト n'>>;
  NMVAR 変数 1 <=デフォルト変数 1><'テキスト 1'>
    <... 変数 n<=デフォルト変数 n><'テキスト n'>>;
  NOTES "テキスト";
  TRANSLATE 式 1 INTO 式 2 <, 式 n INTO 式 m;>
  END;

```

Required Arguments

テーブルパス

テーブルテンプレートを保存する場所を指定します。テーブルパスは、期間で区分された 1 つ以上の名前からなります。それぞれの名前は、一種の SAS ファイルであるテンプレートストアのディレクトリを表します。PROC TEMPLATE では、現在のパスで書き込み可能なテンプレートストアに、テンプレートが書き込まれています。

Base.Template.Table

すべてのテーブル出力に広く適用されるマスターテーブルテンプレートを、作成します。ひとたびこのテンプレートが作成されると、SAS プログラムにおいてそれを明確に指定する必要はありません。このアイテムストアから特にそれを除去しない限り、それはすべてのテーブル出力に自動的に適用されます。

Interaction: Base.Template.Table マスターテンプレート属性は、他のテーブルテンプレートによって無効にされます。

Tip: Base.Template.Table マスターテンプレートは、テーブル出力において別の色を作成する CELLSTYLE AS ステートメントによって使用されるとき、最も役に立ちます。

Example: “Example 6: マスタテンプレートの作成” on page 1156

Optional Argument

STORE=ライブラリ参照テンプレートストア

テンプレートを保存するテンプレートストアを、指定します。テンプレートストアが存在しない場合、それは作成されます。

Restriction: STORE=オプションは、テンプレートの一部にはなりません。

テーブル属性ステートメント

このセクションでは、テーブルテンプレートデータで使用できるすべての属性がリストされています。ON の値をサポートするすべての属性で、これらのフォームは同値です。

```
ATTRIBUTE-NAME;
ATTRIBUTE-NAME=ON;
```

変数の値をサポートするすべての属性では、変数とは、テーブルテンプレートにおいて DYNAMIC、MVAR あるいは NMVAR ステートメントで宣言する変数です。属性がブールの場合、変数の値は、このテーブルで示されるように、正か誤のどちらかに分かります。

Table 14.8 ブール値

正	誤
ON	OFF
ON	_OFF_
1	0
TRUE	FALSE
YES	NO
YES	_NO_

Table 14.9 テーブル属性

タスク	属性	出力先
テーブルのレイアウトに影響します。		
テーブル全体が1つのデータパネルに合わない場合、各データパネルと同じ数の列を配置しようとするかどうかを、指定します。	BALANCE on page 1103	リスト、プリンタファミリ、RTF
テーブル全体が1つのデータパネルに合わない場合、各データパネルを独立に中央寄せするかどうかを、指定します。	CENTER on page 1103	リスト、プリンタファミリ、RTF
テーブルを印刷する前に、新しいページにするかどうかを指定します。	NEWPAGE on page 1106	OUTPUT を除くすべて
ページに設置する列のセット数を、指定します。	PANELS= on page 1107	リストおよびプリンタファミリ
PANELS=が有効であるとき、列セット間に配置する空白文字の数を指定します。	PANEL_SPACE= on page 1107	リスト
テーブル本体を印刷するために、ページ上で使用可能となるはずの行数を、指定します。	REQUIRED_SPACE= on page 1108	リストおよびプリンタファミリ

タスク	属性	出力先
以前の出力 オブジェクトと現在のそれとの間に配置する行数を、指定します。	TOP_SPACE= on page 1109	リストおよびプリンタファミリ
広すぎて提供されたスペースに合わないか、またはテーブルの各行が途切れてしまうテーブルを分割するかどうかを、指定します。	WRAP on page 1110	リストおよびプリンタファミリ
行が途切れたとき、単一行の最後の行の後にダブルスペースを加えるかどうかを、指定します。	WRAP+SPACE on page 1110	リストおよびプリンタファミリ
行と列のレイアウトに影響します。		
列間に配置する 空白文字の最大数を、指定します。	COL_SPACE_MAX= on page 1104	リスト
列間に配置する 空白文字の最小数を、指定します。	COL_SPACE_MIN= on page 1104	リスト
その値によってテンプレートの各列の前のスペースに関するフォーマット情報が提供された列の名前を、指定します。	CONTROL= on page 1104	OUTPUT を除くすべて
テーブルの行間をダブル スペースにするかどうかを、指定します。	DOUBLE_SPACE on page 1105	リスト
テーブルのすべての 列の間で、余分のスペースを均等に分割するかどうかを、指定します。	EVEN on page 1105	リスト
ページ境界にまたがる 長いスタック列を区切るかどうかを、指定します。	SPLIT_STACK on page 1108	リスト
ヘッダーセルとデータセルの値の表示に影響します。		
BLANK_DUPS 属性で 同じマークされた以前の列において値が変化する場合、BLANK_DUPS 列属性でマークされた列の値の削除を 止めるかどうかを、指定します。	CLASSLEVELS= on page 1104	リストおよびプリンタファミリ
列テンプレートとデータコンポーネントの両方によってフォーマットが指定されている場合、どちらのフォーマットを使用するかを、指定します。	DATA_FORMAT_OVERRIDE on page 1105	すべて
列内のフォーマットフィールドを ジャスティファイするか、あるいはフォーマットフィールドを考慮せずに 列内の値をジャスティファイするかを、指定します。	JUSTIFY on page 1106	リスト
データコンポーネントの順序によって列の順序を決めるかどうかを、指定します。	ORDER_DATA on page 1106	OUTPUT を除くすべて

タスク	属性	出力先
まだ指定されていない場合、フォーマットの幅と小数点の幅の値のソースを指定します。	USE_FORMAT_DEFAULT S on page 1109	すべて
列のテンプレートあるいはデータコンポーネントのいずれによってもヘッダーが指定されていない場合、列の名前を列のヘッダーとして使用します。	USE_NAME on page 1109	すべて
ヘッダーとフッターのレイアウトに影響します。		
データの最後の行と出力の最初の行との間に配置する空白行の数を、指定します。	FOOTER_SPACE= on page 1105	リスト
ヘッダーの最後の行とデータの最初の行との間に配置する空白行の数を、指定します。	HEADER_SPACE= on page 1105	リスト
最初のテーブルフッターの上に、あるいはテーブルフッターがない場合はページ上のデータの最後の行の下に、実線を引くかどうかを、指定します。	OVERLINE on page 1106	リスト
テーブルフッターおよびテーブルフッターの上線を印刷するかどうかを、指定します。	PRINT_FOOTERS on page 1107	OUTPUT を除くすべて
テーブルヘッダーおよびテーブルヘッダーの上線を印刷するかどうかを、指定します。	PRINT_HEADERS on page 1107	OUTPUT を除くすべて
最初のテーブルヘッダーの下に、あるいはテーブルヘッダーがない場合はページ上のデータの最後の行の上に、実線を引くかどうかを、指定します。	UNDERLINE on page 1109	リスト
非リスト出力に影響します。		
目次を作成する場合、目次の出力オブジェクトを配置するかどうかを、指定します。	CONTENTS on page 1104	HTML
コンテンツファイル、結果ウィンドウ、および追跡記録などにおける出力オブジェクト用に使用するラベルを、指定します。	CONTENTS_LABEL= on page 1104	HTML, PDF, PRINTER, PS, PDFMARK
他のテーブル 属性		
テーブルについての別の説明を、指定します。*	ALT= on page 1092	MARKUP
BY ラインが各 BY グループの上に印刷されるかどうかを、制御します。	BYLINE= on page 1103	OUTPUT を除くすべて

タスク	属性	出力先
テーブルにおいて、線引き文字として使用する文字を定義します。	FORMCHAR= on page 1105	リスト
テーブルのラベルを 指定します。	LABEL= on page 1106	すべて
テーブルの長い説明を指定します。*	LONGDESC= on page 1106	MARKUP
現在のテンプレートが引き継ぐテーブルを、指定します。	PARENT= on page 1107	すべて
テーブルで使用する スタイル要素および属性への変更を、指定します。	“STYLE=<スタイル要素名><[スタイル属性仕様]>” on page 1108STYLE=	マークアップファミリー、プリンタ ファミリおよび RTF
SAS データセットの特別データセットタイプを、指定します。	“TYPE=文字列 変数;” on page 1109TYPE=	OUTPUT

* SAS には、障害者のユーザーに対して、SAS のユーザビリティを改善したユーザー補助機能や互換性機能が、含まれています。これらの機能は、1973 年改正のリハビリテーション法第 508 条に基づき、合衆国政府が採用した 電子情報技術のアクセシビリティ基準に関連しています。

ALT= "テキスト";

テキストについての別の説明を、指定します。SAS には、障害者のユーザーに対して、SAS のユーザビリティを改善したユーザー補助機能や互換性機能が、含まれています。この機能は、1973 年改正のリハビリテーション法第 508 条に基づき、合衆国政府が採用した 電子情報技術のアクセシビリティ基準に関連しています。

Requirement: テキストは、引用符で括られる必要があります。

Tip: ALT=属性は、マークアップファミリー出力先 でのみ有効です。

BALANCE <=ON | OFF | 変数>;

1 つのデータパネルで テーブル全体が合わない場合、各データパネルで同じ列数を配置しようとするかどうかを、指定します。

Default: OFF

Tip: BALANCE 属性は、リスト、プリンタファミリーおよび RTF でのみ有効です。

BYLINE <=ON | OFF | 変数>;

環境設定ファイル、SAS 呼び出し、OPTIONS ステートメント、あるいはシステムオプション ウィンドウのいずれかにおいて、各 BY グループの上に BY ラインが印刷されるかどうかを制御します。

Category: PROC OPTIONS GROUP= LISTCONTROL

Default: OFF

Restriction: この属性は、テーブルがページで最初のものでない 場合のみ適用されます。BY グループ処理が有効な場合、バイラインは自動的に先行して ページの最初のテーブルになります。

Tip: BYLINE 属性は OUTPUT 出力先 を除くすべての 出力先 で有効です。

CENTER <=ON | OFF | 変数>;

テーブル全体が 提供されたスペースに合わない場合、各データパネルを独立に中央に 置くかどうかを指定します。

Default: ON

Tip: CENTER 属性は、リスト、プリンタファミリーおよび RTF 出力先でのみ有効です。

CLASSLEVELS <=ON | OFF | 変数>;

BLANK_DUPS 属性で 同じくマークされた以前の列において値が変化する場合、BLANK_DUPS 列属性でマークされた列の値の削除を 止めるかどうかを、指定します。

Default: OFF

Tip: CLASSLEVELS 属性は、OUTPUT 出力先 を除くすべての出力先 で有効です。

Example: “例 1: スタンドアロンスタイルの作成” on page 1008

COL_SPACE_MAX= 正の整数 | 変数;

列間に配置する 空白文字数の最大値を、指定します。

Default: 4

Tip: COL_SPACE_MAX=テーブル属性リスト出力先で のみ有効です。

COL_SPACE_MIN= 正の整数 | 変数;

列間に配置する 空白文字数の最小値を、指定します。

Default: 2

Tip: COL_SPACE_MIN=属性は、リスト出力先でのみ 有効です。

CONTENTS <=ON | OFF | 変数>;

目次を作成する場合、目次に出カオブジェクトを配置するかどうかを、指定します。

Default: ON

Tip: CONTENTS 属性は、マークアップファミリとプリンタファミリ 出力先でのみ有効です。

CONTENTS_LABEL= "文字列" | 変数;

コンテンツファイル、結果ウィンドウおよび追跡記録における出力オブジェクトのために使用するラベルを、指定します。

Default: SAS システムオプション LABEL が有効の場合、デフォルトのラベルはオブジェクトのラベルです。LABEL が有効でない場合、デフォルトの ラベルはオブジェクトの名前です。

Tip: CONTENTS_LABEL=属性は、マークアップファミリおよびプリンタファミリ出力先 でのみ有効です。

CONTROL=列名 | 変数;

テンプレートの各行の 前のスペースに関するフォーマット情報を提供する 列の名前を、指定します。CONTROL=の値は、1 に等しい長さのタイプ文字の列の名前である必要があります。

Table 14.10 制御列の値

列制御値	結果
1 から 9 までの桁	指定された空白 行数は、現在の行に先行します。
ハイフン(-)	下線部の行は、現在の行に先行します。
"b"または"B"	ODS では、テーブル 全体が提供されたスペースに合わない場合、パネルの中断が試行されます。

Default: なし

Tip: CONTROL=属性は、OUTPUT 出力先 を除くすべての出力先 で有効です。

DATA_FORMAT_OVERRIDE<=ON | OFF | 変数>;

列テンプレートとデータコンポーネントによってフォーマットが指定されている場合、どちらのフォーマットを使用するかを指定します。

ON

データコンポーネントによって指定されるフォーマットを使用します。

OFF

列テンプレートによって指定されるフォーマットを使用します。

Default: OFF

Tip: DATA_FORMAT_OVERRIDE 属性は、すべての出力先で有効です。

DOUBLE_SPACE<=ON | OFF | 変数>;

テーブルの行間をダブルスペースにするかどうかを、指定します。

Default: OFF

Tip: DOUBLE_SPACE 属性は、リスト出力先でのみ有効です。

Examples:

“Example 1: SAS プロシジャで使用するテーブルテンプレートの編集” on page 1125

“Example 3: テーブルテンプレートの新規作成” on page 1136

EVEN<=ON | OFF | 変数>;

余分な空白をテーブルのすべての列に均等に配分するかどうかを、指定します。

Default: OFF

Tip: EVEN 属性は、リスト出力先でのみ有効です。リスト

FOOTER_SPACE=0 | 1 | 2 | 変数;

データの最後の行とテーブルフッターの最初の行の間の空白行の数を、指定します。

Default: 1

Tip: FOOTER_SPACE=属性は、リスト出力先でのみ有効です。

FORMCHAR= "文字列" | 変数;

テーブルで線引き文字として使用する文字を、定義します。現在、ODS では、20 の可能なフォーマット文字のうち 2 番目のみが使用されています。このフォーマット文字は、下線および上線を引くのに使用されます。2 番目のフォーマット文字を変更するには、最初と 2 番目のフォーマット文字両方を指定します。たとえば、このオプションでは、アスタリスク(*)が最初の文字に割り当てられ、プラスの記号(+)が 2 番目の文字にオプション割り当てられ、そして残りの文字は変更されません。formchar="*+"

Default: SAS システムオプション FORMCHAR=によって、デフォルトのフォーマット文字が指定されます。

Tips:

16 進文字を含めて、フォーマット文字のいずれかを使用します。16 進文字を使用する場合、引用符の閉じ記号の後に x を付けます。たとえば、このオプションでは、16 進文字の 2-D が最初のフォーマット文字に、16 進文字の 7C が 2 番目の文字に割り当てられ、そして残りの文字は変更されません。

formchar="2D7C"x

FORMCHAR=属性は、リスト出力先でのみ有効です。

HEADER_SPACE=0 | 1 | 2 | 変数;

ヘッダーの最後の行とデータの最初の行の間に配置する空白行の数を、指定します。下線のある行はヘッダーです。

Default: 1

Tip: HEADER_SPACE=属性は、リスト出力先でのみ有効です。

JUSTIFY<=ON | OFF | 変数>;

列内のフォーマット フィールドをジャスティファイするか、あるいはフォーマットフィールドを考慮 せずに列内の値をジャスティファイするか、いずれかを指定します。

Default: OFF

Interactions:

JUSTIFY=ON によって、小数点の桁合わせが妨害されることがあります。

列が数値の場合、JUSTIFY=OFF および JUST=C に指定すれば、値は右に合わせられます。

リスト出力先を除くすべての出力先では、列の値は、JUST=R と JUST=L で JUSTIFY=ON であるかのようにジャスティファイされます。

Tips:

数値を文字データに翻訳する場合、データを割り当てるのに JUSTIFY=を使用する必要があることもあります。

JUSTIFY 属性は、リスト出力先でのみ有効です。

See: “テーブル列の値と位置調整法” on page 1122

LABEL= "テキスト" | 変数;

テキストのラベルを 指定します。

Default: ODS では、次のうちの最初のものが使用されます。テーブルテンプレートによって提供されるラベル、データコンポーネントによって提供される ラベル、あるいはテーブルの最初のスパニングヘッダー。

Tip: LABEL=属性は、すべての出力先で有効です。

LONGDESC= "文字列";

テーブルの長い説明を指定します。SAS には、障害者のユーザーに対して、SAS のユーザビリティを改善したアクセシビリティとコンパティビリティの機能が、含まれています。この機能は、1973 年改正のリハビリテーション法第 508 条に基づき、合衆国政府が採用した 電子情報技術のアクセシビリティ基準に関連しています。

Requirement: テキストは引用符で括る必要があります。

Tip: LONGDESC=属性は、マークアップファミリ出力先でのみ 有効です。

NEWPAGE<=ON | OFF | 変数>;

テーブルを印刷する前に新しいページにするかどうかを、指定します。

Default: OFF

Restriction: ページにおいてテーブルが最初のアイテムである場合、ODS ではこの属性が無視されます。

Tip: NEWPAGE 属性は、OUTPUT 出力先を除くすべての 出力先で有効です。

ORDER_DATA<=ON | OFF | 変数>;

データコンポーネントの 順序に従って列の順序を組むかどうかを、指定します。

Default: OFF

ORDER_DATA=OFF の場合、デフォルトの列の順序は、COLUMN ステートメントで指定されている順序です。COLUMN ステートメントが除外されている場合、デフォルトの列の順序は、テンプレートで定義する順序となります。

Interaction: ORDER_DATA は一般列の順序立てに大変役立ちます。

Tip: ORDER_DATA 属性は、OUTPUT 出力先を除くすべての出力先で有効です。OUTPUT 出力先では、出力データセットが 作成されているときは、常に、データコンポーネントの列順序が 使用されます。

OVERLINE<=ON | OFF | 変数>;

最初のテーブルフッターの上に、あるいはテーブルフッターがない場合はページデータの最後の 行の下に実線を引くか、いずれかを指定します。2 番目の フォーマット文字は、線を引くのに使用されます。

Default: OFF

Tip: OVERLINE 属性は、リスト出力先でのみ有効です。

See:

フォーマット文字についての詳細は、次の議論を参照。“FORMCHAR= "文字列" | 変数;” on page 1105

UNDERLINE=テーブル属性 on page 1109, UNDERLINE=列属性 on page 1086 および OVERLINE=列属性 on page 1083

Example: “Example 1: SAS プロシジャで使用するテーブルテンプレートの編集” on page 1125

PANELS=正の整数 | 変数;

ページに配置する列セットの数を指定します。すべての列の幅が行の大きさの半分に満たない場合、そのままでは複数ページにまたがってしまう行を同じページに収めるために、データを複数セットの列に表示します。

Tips:

指定されたパネル数がページに合うパネル数よりも多い場合、テンプレートによって、できるだけ多くのパネルを作成できます。テーブルテンプレートで、多数(たとえば 99)のパネルを指定してページに合う最大数のパネルにデータを書き込んでください。

PANELS=属性は、リストおよびプリンタファミリ出力先でのみ有効です。

PANEL_SPACE=正の整数 | 変数;

PANELS=が有効であるとき、列セット間に配置する空白文字の数を指定します。

Default: 2

Tip: PANEL_SPACE=属性は、リスト出力先でのみ有効です。

PARENT=テーブルパス;

現在のテンプレートが引き継ぐテーブルを、指定します。テーブルパスは期間で区別された 1 つ以上の名前からなります。それぞれの名前は、テンプレートストアのディレクトリを表します。(テンプレートストアは、一種の SAS ファイルです)現在のテンプレートは、読み込める現在のパスの最初のテンプレートストアで指定されたテーブルから、引き継がれています。

親を指定するとき、親のテンプレートで指定されるすべての属性とステートメントは、現在のテンプレートによって無効にされない限り、現在のテンプレートで使用されます。

Tip: PARENT=属性は、すべての出力先で有効です。

PRINT_FOOTERS<=ON | OFF | 変数>;

テーブルフッターおよび上線部のテーブルフッターを印刷するかどうかを、指定します。

Default: ON

Tip: PRINT_FOOTERS 属性は、OUTPUT 出力先を除くすべての出力先で有効です。

See: OVERLINE=テーブル属性 on page 1106

PRINT_HEADERS<=ON | OFF | 変数>;

テーブルヘッダーおよび下線部のテーブルヘッダーを印刷するかどうかを、指定します。

Default: ON

Interaction: PRINT_HEADERS がテーブルテンプレートで使用されるとき、テーブルのヘッダーのみが影響を受け、個々の列のヘッダーは影響を受けません。個々の列では、次の列属性が使用されます。“PRINT_HEADERS<=ON | OFF | 変数;” on page 1084

Tip: PRINT_HEADERS 属性は、OUTPUT 出力先を除くすべての出力先で有効です。

See: “[UNDERLINE<=ON | OFF | 変数>;](#)” on page 1109

REQUIRED_SPACE=正の整数 | 変数;

テーブル本体の印刷をするために、ページ上で利用可能な行数を指定します。テーブル本体は、データを含むテーブルの一部です。それにはヘッダーおよびフッターは含まれません。

Default: 3

Tip: REQUIRED_SPACE=属性は、リストおよびプリンタファミリ 出力先でのみ有効です。

SPLIT_STACK<=ON | OFF | 変数>;

ページ境界をまたがる長いスタック列を区切るかどうかを、指定します。

Default: OFF

Tip: SPLIT_STACK 属性は、リスト出力先でのみ有効です。

STYLE=<スタイル要素名><[スタイル属性仕様]>;

スタイル要素および テーブルへ使用するためその属性への変更を、指定します。

スタイル要素名

テーブルを表示するために使用するスタイル要素の名前です。スタイル要素は、Output Delivery System で登録されたスタイルの一部である必要があります。SAS では、同じスタイルが提供されます。PROC TEMPLATE を使用してカスタマイズされたスタイルを作成できます。(次を参照。“[DEFINE STYLE ステートメント](#)” on page 958) デフォルトでは、ODS では、異なる要素で ODS 出力の一部が作成されます。たとえば、デフォルトでは、テーブルはスタイル要素テーブルで作成されます。SAS によって提供されるスタイルから、テーブルの代わりに使用したいと思う他のスタイル要素は提供されません。しかし、指定するのに適当なサイトで、ユーザー定義のスタイル要素が得られる場合もあります。

スタイル要素から、テーブル表示の基礎が提供されます。あなたが提供する追加的なスタイル 属性によって、表示の修正も可能です。

スタイル要素名は、スタイル要素の名前であるか、または値がスタイル要素である変数のいずれかです。

See:

“[スタイルのコンテンツの表示](#)” on page 945

“[ODS 出力先のデフォルトスタイルの検索および表示](#)” on page 945

スタイル要素名のテーブルについては、次を参照。“[ODS スタイル要素](#)” on page 1387

スタイル属性仕様

変更するスタイル属性について説明します。各スタイル属性仕様には、この一般フォームがあります。

スタイル属性名=スタイル属性値

See: “[スタイル属性の概要](#)” on page 968

Default: テーブル

Requirement: STYLE=オプションで、スタイル属性仕様か、あるいはスタイル要素名のいずれかを指定します。

Tips:

角カッコ([および])の代わりに、中カッコ({および})を使用 できます。

引用文字列の中で、STYLE=属性を使用する場合、エラー防止のためにキャリッジリターンの前か後にスペースを加えます。SAS では、キャリッジリターンはスペースとは考えられていません。引用文字列の中のスペースを指定する必要があります。

STYLE=属性は、マークアップファミリ、プリンタファミリ および RTF 出力先でのみ有効です。

TOP_SPACE=正の整数 | 変数;

前の出力オブジェクトと現在の出力オブジェクトの間に配置する行数を、指定します。

Default: 1

Tip: TOP_SPACE=属性は、リストおよびプリンタファミリ出力先でのみ有効です。

TYPE=文字列 | 変数;

特殊なタイプの SAS データセットを指定します。

Restriction: PROC TEMPLATE では、あなたが指定する SAS データセットタイプが有効なデータセットタイプであること、あるいはあなたが作成するデータセットの構造がご指定のタイプに適切であることが、確認できません。

Tips:

ほとんどの SAS データセットには、特殊なタイプはありません。しかし、CORR プロシジャのような、一定の SAS プロシジャでは、多くの SAS データセットを作成できます。さらに、SAS/STAT ソフトウェアおよび SAS/EIS ソフトウェアでは、特殊なデータセットタイプがサポートされています。

TYPE=属性は、OUTPUT 出力先でのみ有効です。

UNDERLINE<=ON | OFF | 変数>;

最後のテーブルヘッダーの下に(あるいは、テーブルヘッダーがなければページの最初のデータ行の上に)実線を引くかどうかを、指定します。2 番目のフォーマット文字は線を引くのに使用されます。

Default: OFF

Tip: UNDERLINE 属性は、リスト出力先でのみ有効です。

See:

フォーマット文字についての詳細は、次を参照。“FORMCHAR= "文字列" | 変数;” on page 1105

UNDERLINE=列属性 on page 1086 and OVERLINE=列属性 on page 1083

次も参照。OVERLINE テーブル属性 on page 1106

Examples:

“Example 1: SAS プロシジャで使用するテーブルテンプレートの編集” on page 1125

“Example 3: テーブルテンプレートの新規作成 ” on page 1136

USE_FORMAT_DEFAULTS<=ON | OFF | 変数>;

指定されていない場合、フォーマット幅および 10 進法幅の値のソースを指定します。

ON

もしあれば、フォーマットの 名前に関連するデフォルト値を使用します。

OFF

PROC TEMPLATE のデフォルトを使用します。

Default: OFF

Tip: USE_FORMAT_DEFAULTS 属性は、OUTPUT 出力先を除くすべての出力先で有効です。

USE_NAME<=ON | OFF | 変数>;

列テンプレートあるいはデータコンポーネントのいずれかがヘッダーを指定していない場合、列ヘッダーとして列名を使用します。

Default: OFF

Tips:

列名がデータセットから引き出され、列が一般である場合、この属性を使用します。

USE_NAME 属性は、OUTPUT 出力先を除くすべての出力先で有効です。

WRAP<=ON | OFF | 変数>;

広いテーブルを複数のデータパネルに分離するか、あるいは、次の行が始まる前に行全体を印刷するためにテーブルの各行をラップするかのいずれかを、指定します。

Default: OFF

Interaction: ODS によってテーブルの行がラップされると、ID 列が含まれない列に複数の値は配置されません。

Tip: WRAP 属性は、リストおよびプリンタファミリ出力先でのみ有効です。

See: [WRAP_SPACE テーブル属性 on page 1110](#) および [ID=列属性 on page 1080](#)

WRAP_SPACE<=ON | OFF | 変数>

行が複数行にラップされているとき、テーブルの単一行の最後の行の後ろをダブルスペースにするかどうかを、指定します。

Default: OFF

Tip: WRAP_SPACE 属性は、リスト、プリンタファミリおよび RTF 出力先でのみ有効です。

See: [WRAP=テーブル属性 on page 1110](#)

DYNAMIC Statement

データコンポーネントによってプロシジャまたは DATA ステップから供給されている値を参照する記号を、定義します。

Restriction: DYNAMIC ステートメントは、テーブル、列、ヘッダーまたはフッターのいずれかのテンプレートでのみ使用できます。テンプレートに定義されている 動的変数は、そのテンプレートとそれに含まれるすべてのテンプレートに 利用可能です。

See: “例 1: スタンドアロンスタイルの作成” on page 1008 “例 2: ユーザ一定義の属性の使用” on page 1015

Syntax

```
DYNAMIC 変数 1 <= デフォルト変数 1 > <'テキスト 1'>
<... 変数 n <= デフォルト変数 n > <'テキスト n'>>;
```

Required Argument

変数

データコンポーネントによって 供給される変数に、名前を付けます。ODS によってテンプレートとデータ 構成要素が結合するとき、変数の値が解明します。

Tip: 動的変数は、SAS の著者および DATA ステップ プログラマーにとって、大変役立ちます。

Optional Arguments

デフォルト変数

デフォルト変数を設定します。

テキスト

動変数の使用を説明するために、テンプレートに配置されるテキストです。このタイプのテキストは、SOURCE ステートメントで表示できるが SAS コメントでは表示できないまとまったテンプレートの一部となります。

EDIT Statement

既存のテンプレートを編集します。EDIT ステートメントによって、編集時にテンプレートブロックの DEFINE ステートメントが置換されます。EDIT ステートメントが DEFINE ステートメントの代わりになっているのがわかります。

Restriction: リンクされているテンプレートを編集する場合、リンクは解除され、分離したテンプレートが作成されます。

Requirement: END ステートメントは、EDIT ステートメントおよびすべての編集説明の後に来るようにする必要があります。

Interaction: 場合によっては、1式の編集説明の中で、EDIT ステートメントを使用できます。テーブルテンプレートを編集するとき、テーブルで定義される 1 つ以上の列、ヘッダーあるいはフッターテンプレートも編集できます。列テンプレートを編集するとき、その列で定義される 1 つ以上のヘッダーテンプレートも編集できます。!

Example: [“Example 1: SAS プロシジャで使用されるテーブルテンプレートの編集” on page 1125](#)

Syntax

```
EDIT テンプレートパス1 <AS テンプレートパス2> </ STORE=ライブラリ参照テンプレートストア>;
    テンプレートステートメント;
END;
```

Required Argument

テンプレートパス 1

編集するには、テンプレートを指定します。テンプレートパス 1 は、期間によって区分された 1 つ以上の名前からなります。それぞれの名前は、一種の SAS ファイルであるテンプレートストアのディレクトリを表します。

Interaction: STORE=オプションによって、読み込みと書き込みをするために、あるテンプレートストアが指定されます。

Tip: プロシジャまたは DATA ステップによって使用されるテンプレートを決定するには、SAS プログラムを操作する前に、ODS TRACE ON ステートメントを提出します。(次を参照。“ODS TRACE ステートメント” on page 696)

Optional Arguments

AS テンプレートパス 2

編集されたテンプレートを保存する場所を指定します。ここで、テンプレートパス 2 は、期間で区分された 1 つ以上の名前からなります。それぞれの名前は、SAS ファイルであるテンプレートストアのディレクトリを表します。デフォルトでは、PROC TEMPLATE によって、編集されたテンプレートは、現在のパスの最初の書き込み可能テンプレートストアに、書き込まれます。

Default: AS テンプレートパス 2 を除外する場合、PROC TEMPLATE によって、編集されたテンプレートが最初の書き込み可能テンプレートストアのテンプレートパス 1 に書き込まれます。

Restriction: 現在の EDIT ステートメントが一連の編集説明の中にある場合、AS テンプレートパス 2 オプションを使用しないでください。

STORE=ライブラリ参照テンプレートストア

テンプレートパス 1 を読み込み、テンプレートパス 2 を保存するテンプレートストアを指定します。

テンプレートステートメント

テンプレートステートメントは、DEFINE ステートメントと END ステートメントの間で有効なステートメントまたは属性です。

既存テンプレートの編集

EDIT ステートメントを使用するとき、次のことが起きます。

- デフォルトでは、PATH ステートメントで定義されるテンプレートストアのリストで、テンプレートパス 1 が PROC TEMPLATE によって探されます。(次を参照してください。“PATH ステートメント” on page 865) それによって、読み込みアクセスのあるテンプレートストアで見つかる最初のテンプレートのコピーが、開かれます。
- PROC TEMPLATE によって、修正されたテンプレートが現在のパスの最初のテンプレートストアにアップデートアクセスで、書き込まれます。書き込み先のテンプレートパスを除外する場合、PROC TEMPLATE によって、テンプレートパス 1 が使用できます。したがって、テンプレートパス 1 が読み込まれるテンプレートストアにアップデートアクセスがある場合、実際は、元のテンプレートを修正していることとなります。そうでない場合、修正されたファイルは、実際にアップデートアクセスするテンプレートストアに書き込まれています。

2 番目のテンプレートパスを指定する場合、編集されたテンプレートが、書き込みアクセスできる最初のテンプレートストアの指定されたパスに、PROC TEMPLATE によって書き込まれます。

END Statement

テーブル テンプレート、ヘッダーテンプレート、列テンプレート、あるいはフッター テンプレートのいずれかを、終了します。

Syntax

END;

FOOTER Statement

記号をテーブルのフッターとして宣言し、フッターの順序を指定します。

Restriction: FOOTER ストアは、DEFINE TABLE ステートメントでのみ使用できます。

Syntax

FOOTER *フッター仕様*,

Required Argument**フッター仕様**

1 つ以上のフッターです。フッターが現在のテーブルテンプレート外で定義されている場合、テンプレートストアのそのパスで参照します。テンプレートのフッター

は、FOOTER ステートメントで指定されているのと同じ順序で、上から下へ並んでいます。各フッター仕様は次のうちの 1 つです。

"文字列"

フッターを使用するために、テキストを指定します。文字列を指定する場合、DEFINE FOOTER ステートメントを使用する必要はありません。しかし、区切り文字を除いて、いかなるフッター属性も指定することはできません。SPLIT=属性が有効でない場合、そして指定するフッターの最初の文字が空白文字あるいは英数字のどちらでもない場合、それは PROC TEMPLATE によって、区切り文字として扱われます。

See: "SPLIT= "文字" | 変数;" on page 1095

フッターパス

使用するフッター テンプレートのパスです。フッターパスは、期間によって区分された 1 つ以上の名前からなります。それぞれの名前は、一種の SAS ファイルであるテンプレートストアのディレクトリを表します。

LABEL

出力オブジェクトのラベルをフッターとして使用します。各 SAS プロシジャによって、作成される各出力 オブジェクトのラベルが指定されます。DATA ステップによって、OBJECTLABEL=オプションの値が出力オブジェクトのラベルとして使用されます。OBJECTLABEL=が指定されていない場合、最初の TITLE ステートメントがラベルとして使用されます。

Default: FOOTER ステートメントが除外されている場合、ODS によって、各フッターテンプレート(DEFINE FOOTER ステートメント)のテンプレートが作成され、テーブルテンプレートのフッターテンプレートと同じ順序でフッターが配置されます。

HEADER Statement

記号をテーブルのヘッダーとして宣言し、ヘッダーの順序を指定します。

Restriction: HEADER ステートメントは、DEFINE TABLE によってのみ使用できます。

Syntax

HEADER [ヘッダー仕様](#),

Required Argument

ヘッダー仕様

1 つ以上のヘッダーです。ヘッダーが現在のテーブルテンプレート外で定義されている場合、テンプレートストアのそのパスで参照します。テンプレートのヘッダーは、HEADER ステートメントで指定されているのと同じ順序で、上から下へ並んでいます。各ヘッダー仕様は次のうちの 1 つです。

"文字列"

ヘッダーを使用するために、テキストを指定します。文字列を指定する場合、DEFINE HEADER ステートメントを使用する必要はありません。しかし、区切り文字を除いて、いかなるヘッダー属性も指定することはできません。SPLIT=属性が有効でない場合、そして指定するヘッダーの最初の文字が空白文字あるいは英数字のどちらでもない場合、それは PROC TEMPLATE によって、区切り文字として扱われます。

See: "SPLIT= "文字" | 変数;" on page 1095

header-path

使用するヘッダー テンプレートのパスです。ヘッダーパスは、期間によって区分された 1 つ 以上の名前からなります。それぞれの名前は、テンプレートストアのディレクトリを表します。(テンプレートストアは、一種の SAS ファイルです)

LABEL

出力オブジェクトのラベルをヘッダーとして使用します。各 SAS プロシジャによって、作成される各出力 オブジェクトのラベルが指定されます。DATA ステップによって、OBJECTLABEL=オプションの値が出力オブジェクトのラベルとして使用されます。OBJECTLABEL=が 指定されていない場合、最初の TITLE ステートメントがラベルとして 使用されます。

Default: HEADER ステートメントが除外されている場合、ODS によって、各ヘッダーテンプレート(DEFINE HEADER ステートメント)の テンプレートが作成され、テーブルテンプレートのヘッダーテンプレートと同じ順序で ヘッダーが配置されます。

Example: “[Example 3: テーブルテンプレートの新規作成](#)” on page 1136

MVAR Statement

マクロ変数を参照する記号を、定義します。ODS では、変数の値は文字列として使用されます。マクロ変数への参照は、出力オブジェクトを作成するために、ODS によってテンプレートと データコンポーネントが結びつくときに決定されます。

- Tip:** テーブル、列、ヘッダー、フッターのいずれかのテンプレートにおける MVAR ステートメントを、使用できます。テンプレートで定義されるマクロ変数は、そのテンプレートおよびそれに含まれるすべてのテンプレートで利用可能です。
- See:** “[Example 3: テーブルテンプレートの新規作成](#)” on page 1136 および“[例 1: スタンドアロンスタイルの作成](#)” on page 1008

Syntax

MVAR *変数*₁ [<=デフォルト変数*l*>]<'テキスト'*l*> <... 変数*n* [<=デフォルト変数*n*>]<'テキスト'*n*>>;

Required Argument

変数

テンプレートで参照する マクロ変数に名前をつけます。ODS では、マクロ変数の値は文字列として使用されます。ODS では、テンプレートとデータ構成 要素が結びつくまで、マクロ変数の値が決定されません。

Tip: テンプレートでh、マクロ変数をこのように宣言します。たとえば、自動マクロ変数 SYSDATE9 をテンプレートで使用するには、MVAR ステートメントでそれを宣言し、PROC TEMPLATE ステートメントでアンバサンドなしで、それを SYSDATE9 として参照します。アンバサンドを使用する場合、マクロ変数は、ODS でテンプレートがデータコンポーネントに結びつけられるときの代わりに、テンプレートがまとめられるときに、決定されます。

Optional Arguments

デフォルト変数

デフォルト変数を設定します。

text

マクロ変数の使用を説明するために、テンプレートに配置されるテキストです。このタイプのテキストは、まとめられたテンプレートの一部になります。これは、SOURCE ステートメントで表示できますが、SAS コメントでは表示できません。

NMVAR Statement

マクロ変数を参照する記号を定義します。ODS では、使用する前に、変数値が番号(二重に保存)に変換されます。マクロ変数への参照は、出力オブジェクトを作成するために、ODS でテンプレートとデータコンポーネントが結びつくときに決定されます。

Restriction: NMVAR ステートメントは、テーブル、列、ヘッダー、フッターなどのいずれかのテンプレートにおいてのみ使用できます。テンプレートで定義されるマクロ変数は、そのテンプレートおよびそれに含まれるすべてのテンプレートに利用可能です。

See: “[Example 4: セルの値に基づき、セルにスタイル要素を設定する](#)” on page 1144

Syntax

```
NMVAR 変数1 <= デフォルト変数1 > <' テキスト1 ' > <... 変数n <= デフォルト変数n > <' テキストn ' >;
```

Required Argument

変数

テンプレートで参照するマクロ変数に名前を付けます。ODS では、使用する前に、変数値が番号(二重に保存)に変換されます。ODS では、テンプレートとデータコンポーネントが結びつくまで、マクロ変数は決定されません。

Tip: テンプレートでは、マクロ変数をこのように宣言します。たとえば、マクロ変数を番号として使用するには、NMVAR ステートメントでそれを宣言し、アンパサンドなしで参照します。アンパサンドを使用する場合、マクロ変数は、ODS でテンプレートがデータコンポーネントに結びつけられるときの代わりに、テンプレートがまとめられるときに、決定されます。

Optional Arguments

デフォルト変数

デフォルト変数を設定します。

テキスト

マクロ変数の使用を説明するために、テンプレートに配置されるテキストです。このタイプのテキストは、まとめられたテンプレートの一部になります。これは、SOURCE ステートメントで表示できますが、SAS コメントでは表示できません。

NOTES Statement

テーブル、ヘッダー、列、フッターなどいずれかについての情報を提供します。

Restriction: NOTES ステートメントは、テーブル、列、ヘッダー、フッターなどいずれかのテンプレートでのみ使用できます。

Tip: NOTES ステートメントは、まとめられたテンプレートの一部になります。これは、SOURCE ステートメントで表示できますが、SAS コメントでは表示できません。

See: “[Example 4: セルの値に基づき、セルにスタイル要素を設定する](#)” on page 1144

Syntax

NOTES *'text'*;

Required Argument

text

テーブルについての情報を 提供します。

TEXT Statement

出力データセットにおいて、変数のヘッダー、フッター、またはラベルのテキストを指定します。

Restriction: TEX ステートメントは、ヘッダーまたはフッターの内部でのみ使用できます。

See: “[Example 3: テーブルテンプレートの新規作成](#)” on page 1136

Syntax

TEXT [ヘッダー/フッター仕様](#),

Required Argument

ヘッダー/フッター仕様

ヘッダーまたはフッターのテキストを、指定します。各ヘッダー/フッター仕様は、次のうちの 1 つです。

LABEL

ヘッダーのテキストとして、ヘッダーによって適用されるオブジェクトのラベルを使用します。たとえば、ヘッダーまたはフッターが列用の場合、列に関連する変数のラベルは LABEL によって指定されます。ヘッダーまたはフッターがテーブル用の場合、テーブルに関連するデータセットのラベルは LABEL によって指定されます。

テキスト仕様

ヘッダーまたはフッターで使用するテキストを、指定します。各テキスト仕様は次のうちの 1 つです。

- 引用文字列
- オプションフォーマットに 先行する変数変数とは、DYNAMIC、MVAR または NMVAR ステートメントで 宣言される変数です。

Note: 引用文字列の最初の文字が 空白文字または英数字のどちらでもなく、さらに SPLIT が有効でない場合、TEXT ステートメントでは、その文字は区切り文字として扱われます。SPLIT=オプションの議論については次を参照。“[DEFINE HEADER Statement](#)” on page 1087

Default: TEXT ステートメントを除外する場合、ヘッダーのテキストは、ヘッダーによって適用されるオブジェクトのラベルです。

Tip: 引用文字列が空白で、それがヘッダーまたはフッター仕様における唯一のアイテムである場合、ヘッダーまたはフッターは空白行となります。

Example: “[Example 3: テーブルテンプレートの新規作成](#)” on page 1136

TEXT2 Statement

TEXT ステートメントによって提供されるヘッダーまたはフッターが長すぎる場合、リスト出力で使用する別のヘッダーまたはフッターを提供します。

Restriction: TEXT2 ステートメントは、ヘッダーまたはフッターのテンプレートの中でのみ使用できます。

See: [“TEXT Statement” on page 1116](#)

Syntax

TEXT2 [ヘッダー/フッター仕様](#)

Required Argument

ヘッダー/フッター仕様

ヘッダーまたはフッターのテキストを指定します。各ヘッダー/フッター仕様 *b* は次のうちの 1 つです。

`_LABEL_`

ヘッダーによってヘッダーのテキストとして適用されるオブジェクトのラベルを使用します。たとえば、ヘッダーまたはフッターが列用の場合、列に関連する変数のラベルは、`_LABEL_` によって指定されます。ヘッダーまたはフッターがテーブル用の場合、テーブルに関連するデータセットのラベルは、`_LABEL_` によって指定されます。

テキスト仕様

ヘッダーまたはフッターで使用するテキストを、指定します。各テキスト仕様は次のうちの 1 つです。

- 引用文字列
- オプションフォーマットに先行する変数。変数とは、DYNAMIC、MVAR または NMVAR ステートメントで宣言される変数です。

Note: 引用文字列の最初の文字が空白文字または英数字のどちらでもなく、さらに SPLIT が有効でない場合、TEXT ステートメントでは、その文字は区切り文字として扱われます。SPLIT=オプションの議論については次を参照。[“DEFINE HEADER Statement” on page 1087](#)

TEXT3 Statement

TEXT2 ステートメントによって提供されるヘッダーまたはフッターが長すぎる場合、リスト出力で使用する別のヘッダーまたはフッターを提供します。

Restriction: TEXT3 ステートメントは、ヘッダーまたはフッターのテンプレートの中でのみ使用できません。

See: [“TEXT Statement” on page 1116](#)

Syntax

TEXT3 [ヘッダー/フッター仕様](#)

Required Argument

ヘッダー/フッター仕様

ヘッダーまたはフッターのテキストを、指定します。各ヘッダー/フッター仕様は次のうち 1 つです。

LABEL

ヘッダーによってヘッダーのテキストとして適用されるオブジェクトのラベルを、使用します。たとえば、ヘッダーまたはフッターが列用の場合、列に関連する変数のラベルは、LABELによって指定されます。ヘッダーまたはフッターがテーブル用の場合、テーブルに関連するデータセットのラベルは、LABELによって指定されます。

テキスト仕様

ヘッダーまたはフッターで使用するテキストを、指定します。各テキスト仕様は次のうちの 1 つです。

- 引用文字列
- オプションフォーマットに先行する変数変数とは、DYNAMIC、MVAR または NMVAR ステートメントで宣言される変数です。

Note: 引用文字列の最初の文字が空白文字または英数字のどちらでもなく、さらに SPLIT が有効でない場合、TEXT ステートメントでは、その文字は区切り文字として扱われます。SPLIT=オプションの議論については次を参照。“[DEFINE HEADER Statement](#)” on page 1087

TRANSLATE INTO Statement

指定された数値を、他の値に変換します。

Restrictions: TRANSLATE INTO ステートメントは、テキストテンプレートまたは列テンプレートにおいてのみ使用できます。

テキストテンプレートの TRANSLATE INTO ステートメントは、数値の変数にのみ適用されます。文字変数の値を変換するには、その列のテンプレートの TRANSLATE INTO を使用します。

See: “[Example 4: セルの値に基づき、セルにスタイル要素を設定する](#)” on page 1144

Syntax

TRANSLATE *expression-1* INTO *式 2* <, *式 n* INTO *式 m*>;

Required Arguments

式 1

数値変数が含まれる各テーブルまたは列のセルの値が求められる式です。

式 1 が TRUE(ゼロでない値)の解の場合、指定された変換は現在のセルに使用されます。式 1 が FALSE(ゼロ)の解の場合、ステートメントの次の式が値を求められます。このように、セルを条件に合わせてフォーマットするために、複数の式と一緒に並べられます。

式には次のフォームがあります。

式 1 <比較演算子式 n>

式

連続する演算子とオペランドからなる演算または論理的式です。演算子は、比較、論理演算または算術計算が必要な記号です。オペランドは次のうちの1つです。

定数

現在のテンプレートで、DYNAMIC、MVAR または NMVAR ステートメントで宣言される列または記号の名前などの固定値です。

SAS 機能

SAS 機能を指定します。SAS 機能についての詳細は、次を参照。*SAS 関数と CALL ルーチン: リファレンス*

ビルトイン変数

テキストまたは列 テンプレートで共通値を見つけるのに役立つ特殊タイプの WHERE 式オペランドです。ビルトイン変数は次のうちの1つ以上のものです。

COLUMN

列の番号です。列の番号は1から始まります。

Alias: _COL_

Example: “Example 5: 特定の列、行およびセルにスタイル要素を設定する” on page 1150

DATANAME

列の名前です。

DATATYPE

データタイプの列変数です。データタイプは、数字("num")または文字("char")です。

LABEL

行のラベルです。

Example: “Example 5: 特定の列、行およびセルにスタイル要素を設定する” on page 1150

ROW

行の番号です。行の番号は1から始まります。

Example: “Example 5: 特定の列、行およびセルにスタイル要素を設定する” on page 1150

STYLE

スタイル要素名です。

Example: “Example 6: マスタテンプレートの作成” on page 1156

VAL

セルのデータ値です。

Tip: 現在の列の値を表すのに、_VAL_を使用します。

Example: “Example 6: マスタテンプレートの作成” on page 1156

比較演算子

変数を値または他の変数と比較します。次のテーブルには、比較演算子のリストがあります。

Table 14.11 比較演算子

記号	ニーモニック同値	定義
=	EQ	等しい

記号	ニーモニック同値	定義
^=または~=または^= または<> または<>	NE	等しくない
>	GT	より大きい
<	LT	未満
>=	GE	より大きいか等しい
<=	LE	より小さいか等しい
	IN	からの 1 つに等しい 値のリスト

Restriction: 式 1 における他の列の値を参照できません。

Tip: TRANSLATE-INTO ステートメントにおいて 最終式として式 1 を使用し、初期の条件を満たさなかったセルの変換を指定します。

See: WHERE=データセットオプションで使用できるいずれの式も、使用できます。WHERE データセットオプションで使用できる式の詳細については、次を参照。WHERE データセットオプション in SAS データセットオプション: リファレンスおよびセクション WHERE 式処理 in SAS 言語リファレンス: 解説編

Example: “Example 5: 特定の列、行およびセルにスタイル要素を設定する” on page 1150

式 2

変数の実際値の代わりに、セルで使用する値が指定される式です。

式にはフォームがあります。

式 1 <比較演算子式 n>

式

一連の演算子とオペランドからなる算術式または論理式です。演算子は、比較、論理演算または算術計算を必要とする記号です。オペランドは、次のうちの 1 つです。

定数

現在のテンプレートの DYNAMIC、MVAR または NMVAR ステートメントで宣言される列の名前または記号などの固定値です。

SAS 機能

SAS 機能を指定します。SAS 機能についての詳細は、次を参照。SAS 関数と CALL ルーチン: リファレンス

ビルトイン変数

テーブルテンプレートで 共通値を見つけるのに役立つ特殊タイプの WHERE 式オペランドビルトイン変数は、次の 1 つ以上です。

__COLUMN__

列番号です。列番号は 1 から始まります。

Alias: __COL__

Example: “Example 5: 特定の列、行およびセルにスタイル要素を設定する” on page 1150

__DATANAME__

データの列名です。

DATATYPE

データタイプ の共通変数です。データタイプは、数字("num")または文字("char")です。

LABEL

列のラベルです。

Example: “Example 5: 特定の列、行およびセルにスタイル要素を設定する” on page 1150

ROW

行番号です。行番号は 1 から始まります。

Example: “Example 5: 特定の列、行およびセルにスタイル要素を設定する” on page 1150

STYLE

スタイル要素名です。

See: スタイル要素名については、次を参照。“ODS スタイル要素” on page 1387

Example: “Example 6: マスタテンプレートの作成” on page 1156

VAL

セルのデータ値です。

Tip: 現在の列の値を表すには、_VAL_を使用します。

Example: “Example 6: マスタテンプレートの作成” on page 1156

比較演算子

変数を値または他の変数と比較します。次のテーブルには、比較演算子のリストがあります。

Table 14.12 比較演算子

記号	ニーモニック同値	定義
=	EQ	に等しい
^=または~=または≠ または<>	NE	に等しくない
>	GT	より大きい
<	LT	未満
>=	GE	より大きいか 等しい
<=	LE	より小さいか 等しい
	IN	値のリストからの 1 つに等しい

Restriction: 式 2 は、文字値に決定される必要があり、数値に決定されてはなりません。

Tip: 数値を文字値に変換する場合、テーブルテンプレートまたは列テンプレートでは、列に関連する数値フォーマットが適用される試みはありません。その代わりに、文字値がフォーマットフィールドに、左から書き込まれます。値を正しく位置調整するには、JUSTIFY=ON 属性を使用します。

See:

“JUSTIFY<=ON | OFF | 変数>;” on page 1081 列属性

WHERE=データセットオプションで使用できるいずれの式も、使用できます。
 WHERE データセットオプションで使用できる式の詳細については、次を参照。
 WHERE データセットオプション in SAS データセットオプション: リファレンスおよびセクション WHERE 式処理 in SAS 言語リファレンス: 解説編

Example: “Example 5: 特定の列、行およびセルにスタイル要素を設定する” on page 1150

TEMPLATE プロシジャを使用したテーブル出力の作成

テーブル列の値と位置調整法

リスト出力の列の値の位置調整 プロセスは、変数のフォーマットおよび 2 つの属性、JUST=および JUSTIFY=の値によって、決定されます。それは、3 段階のプロセスです。

1. ODS によって、列の フォーマットに値が書き込まれます。文字変数はフォーマットフィールド内で左揃えされ、数字変数は右揃えされます。
2. ODS では、列の JUST=属性の 値に従って、あるいは属性が設定されていない場合、テーブルの JUST=の値に従って、列内のフォーマット全体が位置 調整されます。たとえば、列を右揃えする場合、フォーマットフィールドはできるだけ右に配置されます。しかし、フィールド内の個々の数字と文字の配置は、変更されません。同じく、小数点も一列に並びます。列とフォーマットフィールドが同じ幅の場合、フォーマットフィールド が列全体を占めているので、JUST=は見かけ上効果がありません。
3. 列とテーブルに JUSTIFY=ON を指定する場合、ODS では、フォーマットフィールドに関わりなく、列内の値が位置調整されます。デフォルトでは、JUSTIFY=OFF です。

たとえば、この一式の 値を考えます。

```
123.45
234.5
.
987.654
```

値が 6.2 のフォーマットでフォーマットされ、6 の幅の列に表示される場合、それは JUST=(アスタリスクは列の幅を示します)の値を無視して、次のように表れます。

```
*****
123.45
234.50
.
987.65
```

列の幅が 8 まで 増えると、列内でフォーマットフィールドに動く余裕 ができるので、JUST=の値が値の配置に有効になります。小数点は並んだままですが、数字は列の幅に関連して移動することに、注意してください。

```
just=left just=center just=right
```

```
***** ***** *****
123.45 123.45 123.45
234.50 234.50 234.50
```

```

. . .
987.65 987.65 987.65

```

ここで、JUSTIFY=ON を加えると、フォーマットの幅が無視されて、列の中で値がフォーマットされます。その結果は次のとおりです。

```

justify=on justify=on justify=on
just=left just=center just=right

```

```

*****
123.45 123.45 123.45
234.50 234.50 234.50
. . .
987.65 987.65 987.65

```

リストを除くすべての出力先によって、列の値は JUSTIFY=ON のように位置調整されます。

テーブル列の値のフォーマット

リスト出力における列の値のフォーマットプロセスは、変数のフォーマット および FORMAT=、FORMAT_WIDTH=と FORMAT_NDEC=という3つのオプションによって、決定されます。それは4段階のプロセスです。

1. FORMAT=オプションを除外する場合、データコンポーネントによって提供されるフォーマットが使用されます。データコンポーネントによってフォーマットが提供されない場合、ODS では次のうちの1つが使用されます。
 - 整数の best8.
 - ダブルの D12.3
 - 文字変数の 変数の長さ
2. フォーマットの幅が FORMAT=オプションで指定される場合、それは、FORMAT_WIDTH= および FORMAT_NDEC=オプションより優先されます。
3. FORMAT=および FORMAT_NDEC=オプションで10進法の幅を指定する場合、FORMAT= オプションで指定されたフォーマットが使用されます。
4. FORMAT=および FORMAT_WIDTH=オプションでフォーマットを指定する場合、FORMAT= オプションで指定されたフォーマットが使用されます。

列のフォーマット属性は、データコンポーネントまたは列テンプレートによって決定されます。このテーブルで、列テンプレートによって提供される属性をベースにした列フォーマット属性の動きが、要約されています。

Table 14.13 列フォーマット属性の要約

列テンプレートによって 提供される仕様	結果
なし	フォーマット名、幅および小数位の数、データコンポーネントによって決定されます。
フォーマット名	フォーマット名と幅は、列テンプレートによって決定され、小数位数はデータ構成要素によって決定されます。
フォーマット名と幅	フォーマット名と幅は、列テンプレートによって決定されます。

列テンプレートによって 提供される仕様	結果
フォーマット名、幅および小数位の数	3 つすべては、列テンプレートによって決定されます。
幅	名前が指定されていません。幅は、列テンプレートによって決定されます。小数位の数、データコンポーネントによって決定されます。
小数位の数	名前が指定されていません。幅は、データコンポーネントによって決定されます。小数位の数、列テンプレートによって決定されます。

3つ以上の変数のスタック値

同じ列で 3 つ以上の 変数の値を並べるには、スタック変数の回りに 括弧を付けます。その場合、括弧内の最初の列の 列ヘッダーは、括弧内のすべての変数が含まれる列のヘッダーになります。たとえば、この COLUMN ステートメントによって、次の特徴を持つテンプレートが作成されます。

- NAME の値は、最初の列にそれだけ 存在しています。
- CITY および STATE の値は、STATE の 上に CITY という形で 2 番目の列に現れます。この列のヘッダーは、CITY に関連するヘッダーです。
- HOMEPHONE および WORKPHONE の値は、WORKPHONE の上に HOMEPHONE という形で 3 番目の列に現れます。この列の ヘッダーは、HOMEPHONE に関連するヘッダーです。

```
column name (city state) (homephone workphone);
```

スタッキング変数のレイアウトを変更するには、COLUMN ステートメントのアスタリスク(*)を使用します。括弧内の変数グループ間のアスタリスクは、最初のセットの 括弧内の最初のアイテムを次のセットの括弧内の最初の アイテムの上に重ね、それを最後のグループの括弧に達するまで 繰り返します。次に、最初のグループの 2 番目のアイテムを 2 番目のグループの 2 番目のアイテムの上に重ね、それを繰り返します。たとえば、この COLUMN ステートメントで、次の特徴を持つ報告が作成されます。

- NAME の値は列の中にそれだけで 存在します。
- CITY と HOMEPHONE の値は、HOMEPHONE の上に CITY という形で、2 番目の列に現れます。この列の ヘッダーは、CITY に関連するヘッダーです。
- STATE と WORKPHONE の値は、WORKPHONE の上に STATE という形で、3 番目の列に現れます。この列の ヘッダーは、STATE に関連するヘッダーです。

```
column name (city state) * (homephone workphone);
```

Examples: TEMPLATE プロシジャ: テーブルテンプレートの作成

Example 1: SAS プロシジャで使用するテーブルテンプレートの編集

Features:	EDIT ステートメント ヘッダー属性 JUST= STYLE= テーブル属性 DOUBLE_SPACE= OVERLINE= UNDERLINE=
Other features:	他の ODS 機能 ODS リストステートメント ODS SELECT ステートメント DELETE ステートメント
Data set:	Exprev

詳細

この例では、PROC UNIVARIATE からのモーメント出力オブジェクトのテーブルテンプレートが、カスタマイズされます。最初のプログラムでは、モーメントオブジェクトのリスト出力と HTML 出力を作成するために、SAS によって供給されるテーブルテンプレートが使用されます。

Note: この例では、すべての動作環境で有効とはいえない場合もあるファイル名が、使用されます。あなたの動作環境でうまく操作するには、ファイル仕様の変更が必要になる場合もあります。次を参照。付録 4, “異なる動作環境で例を実行する ODS HTML ステートメント” on page 1385

2 番目のプログラムでは、次のことが行われます。

- デフォルトのテーブルテンプレートのコピーを作成し、編集します。
- テーブルテンプレート内のヘッダーを編集します。
- HTML とリストの両方の出力の出現を強化するために、列属性を設定します。

プログラム: SAS によって提供されるデフォルトのテーブルテンプレートを使用

```
options nodate pageno=1 pagesize=60 linesize=72;

ods listing;

ods select moments;

proc univariate data=exprev mu0=3.5;
var Quantity;
title "Default Moments Table";
run;
```

```
ods listing close;
```

Program Description

SAS システムオプションを設定します。 OPTIONS ステートメントで リストシステムのいくつかの面を制御します。

```
options nodate pageno=1 pagesize=60 linesize=72;
```

リスト出力を作成します。 ODS リストステートメントで、リスト出力先を開き、リスト 出力を作成します。

```
ods listing;
```

報告用の出力オブジェクトを選びます。 ODS SELECT ステートメントで、1 つの出力オブジェクト、モーメントをオープン の ODS 出力先に送ります。リストと HTML の両方の出力先が開きます。

出力オブジェクトの名前を学ぶには、有効な ODS TRACE ON ステートメントでプロシジャを実行します。詳細は次を参照。“[ODS TRACE ステートメント](#)” on page 696

```
ods select moments;
```

1 つの変数の記述的統計を計算します。 PROC UNIVARIATE によって、1 つの変数、量の単変量統計を計算します。テンプレートストアの Sashelp.Tmplmst からデフォルトのテーブル テンプレート、Base.Univariate.Moments が使用されます。

```
proc univariate data=exprev mu0=3.5;
var Quantity;
title "Default Moments Table";
run;
```

リスト出力の作成を停止します。 ODS リスト CLOSE ステートメントで、リスト出力先 およびそれに関連するすべてのファイルが閉じます。出力が見られる前に、出力先を閉じる必要があります。

```
ods listing close;
```

プログラム 1 からの出力

Output 14.1 PROC UNIVARIATE(デフォルトモーメントテーブル)からのリスト出力

The screenshot shows the SAS Results Viewer interface. On the left, a tree view shows the results structure: Results > Univariate: Default Moments Table > Quantity > Moments. The main window displays the following output:

```

Default Moments Table
The UNIVARIATE Procedure
Variable: Quantity

Moments
N          48      Sum Weights      48
Mean       20.5208333  Sum Observations 985
Std Deviation 14.4177633  Variance         207.871897
Skewness   3.6558946  Kurtosis         19.528114
Uncorrected SS 29983    Corrected SS     9769.37917
Coeff Variation 70.2591509 Std Error Mean   2.08102487

```

Output 14.2 PROC UNIVARIATE (デフォルトモーメントテーブル)からの HTML 出力

Moments			
N	48	Sum Weights	48
Mean	20.5208333	Sum Observations	985
Std Deviation	14.4177633	Variance	207.871897
Skewness	3.6558946	Kurtosis	19.528114
Uncorrected SS	29983	Corrected SS	9769.97917
Coeff Variation	70.2591509	Std Error Mean	2.08102487

プログラム 2: カスタマイズされたテーブルテンプレートを使用

```
ods path sasuser.templat(update) sashelp.tmplmst(read);

proc template;
edit base.univariate.moments;

double_space=on;
underline=on;
overline=on;

label="Custom Moments";
double_space=on;
style=data{color=orange fontstyle=italic};

edit head;

style=header{color=green fontstyle=italic};

just=left;

end;
end;
run;

ods listing;

ods select moments;

proc univariate data=exprev mu0=3.5;
var Quantity;
title "Custom Moments Table";
run;

ods listing close;

proc template;
delete base.univariate.moments;
end;
title;
```

Program Description

テーブルテンプレートを設置するために、検索パスを指定します。ODS PATH ステートメントで、検索する順序と同様に、PROC TEMPLATE によって作成された定義とテンプレートを検索する場所を指定します。例が正しく作動するのを確認するために、ステートメントが含まれます。しかし、パスを変更していない場合、デフォルトパスが指定されているので、このステートメントを含める必要はありません。

```
ods path sasuser.templat(update) sashelp.tmplmst(read);
```

変更されたテーブルテンプレート、**Base.Univariate.Moments** を作成します。EDIT ステートメントで、Base.Univariate.Moments と呼ばれるテーブルテンプレートの利用可能なテンプレートストアが見えます。デフォルトでは、Sasuser.Templat が見えますが、何も見つかりません。次に、SAS によって提供されるテーブルテンプレートが含まれる Sashelp.Tmplmst が見えます。EDIT ステートメントでこのテンプレートは読めますので、これは使用されるものです。プログラムによって編集されたテンプレートの出力先は指定されないで、PROC TEMPLATE によって、Sasuser.Templat というパスの最初のテンプレートストアに書き込まれます。したがって、Sasuser.Templat には、オリジナルなものと同じ名前のテーブルテンプレートが作成されます。

プロシジャによって使用されるテーブルテンプレートの名前を学ぶには、ODS TRACE ON ステートメントでプロシジャを効果的に実行させます。詳細は次を参照。[“ODS TRACE ステートメント” on page 696](#)

```
proc template;
edit base.univariate.moments;
```

リスト出力で、モーメント出力オブジェクトへの変更を指定します。これら 3 つのテーブル属性は、リスト出力でモーメント出力オブジェクトの表示に影響します。これらは、HTML 出力の表示にはまったく影響しません。DOUBLE_SPACE=によって、出力オブジェクトの行間にダブルスペースが作成されます。OVERLINE=と UNDERLINE=によって、テーブルの最初の行の前と、テーブルの最後の行の後に、実線が引かれます。

```
double_space=on;
underline=on;
overline=on;
```

HTML 出力先で、モーメント出力オブジェクトへの変更を指定します。これら 3 つのテーブル属性は、HTML 出力でモーメント出力オブジェクトの表示に影響します。DOUBLE_SPACE=ON によって、テーブルの行間にダブルスペースの作成が指定されます。STYLE=スペースによって、セルデータの色とフォントスタイルが指定されます。LABEL=属性によって、結果ウィンドウに現れるラベルが“モーメント”から“カスタムモーメント”へ変更されます。

```
label="Custom Moments";
double_space=on;
style=data{color=orange fontstyle=italic};
```

テーブル要素を変更します。次の EDIT ステートメントによって、テーブルテンプレート内のテーブル要素ヘッドが編集されます。

```
edit head;
```

ヘッダーの外観を変更します。STYLE=属性によって、ヘッドテーブル要素を作成するスタイル要素が変更されます。スタイル要素ヘッダーは、デフォルトのスタイル、Styles.HTMLBlue で定義されます。PROC UNIVARIATE を含む多くのプロシジャによって、テーブルと列のヘッダーを作成するこのスタイル要素が使用されます。この場

合、STYLE=属性によって、文字表示色の緑とフォントスタイルのイタリックが指定されます。ヘッダーに含まれる他のすべての属性は、そのまま有効です。STYLE=属性は、HTML 出力にのみ影響します。

スタイルの表示についての詳細は、次を参照。“SAS 提供のスタイル” on page 42 スタイル要素名のテーブルについては、次を参照。“ODS スタイル要素” on page 1387

```
style=header{color=green fontstyle=italic};
```

ヘッダーテキストを左揃えします。JUST=属性で、リスティング出力と HTML 出力の両方において、ヘッダーのテキストが左揃えします。

```
just=left;
```

テーブル要素とテーブルテンプレートの編集を、停止します。最初の END ステートメントによって、テーブル要素ヘッダの編集が終了します。2 番目の END ステートメントによって、テーブル Base.Univariate.Moments の編集が終了します。

```
end;
end;
run;
```

リスト出力を作成します。ODS リストステートメントによって、リスト出力先が開かれ、リスト出力が作成されます。

```
ods listing;
```

報告用の出力オブジェクトを、選びます。ODS SELECT ステートメントによって、1 つの出力オブジェクト、モーメントがオープンな ODS 出力先に送られます。リストと HTML 出力先の両方ともオープンです。出力先オブジェクトの名前を知るには、ODS TRACE ON ステートメントでプロシジャを実行します。

```
ods select moments;
```

1 つの変数の記述的統計を計算します。PROC UNIVARIATE によって、1 つの変数、量の一変量統計が計算されます。プロシジャ段階の実際の結果はこの場合と同じですが、プロシジャによって編集されたテーブルテンプレートが使用されているので、表示が異なります。それは、Base.Univariate.Moments を探すと、パス、Sasuser.Templat に最初のテンプレートストアが見られるからです。SAS によって供給されているテーブルテンプレートを使用したいのであれば、ODS PATH ステートメントでパスを変更する必要があるでしょう。

次も参照のこと。“ODS PATH ステートメント” on page 477

```
proc univariate data=exprev mu0=3.5;
var Quantity;
title "Custom Moments Table";
run;
```

リスト出力の作成を停止します。ODS リスト CLOSE ステートメントによって、リスト出力先 およびそれに関連するすべてのファイルを閉じます。出力を見る前に、出力先を閉じる必要があります。

```
ods listing close;
```

カスタマイズされたモーメントテーブルテンプレートを Sasuser.Templat から除去します。DELETE ステートメントによって、この例で作成したカスタマイズされたモーメントテーブルが除去されます。DELETE ステートメントを使用するとき、最初に、Sasuser.Templat において、base.univariate.moments が ODS によって探し出さ

れます。そこにある場合、それは削除されます。そこがない場合、Sashelp.Tmplmst が検索されます。

```
proc template;
delete base.univariate.moments;
end;
title;
```

プログラム 2 の出力

Output 14.3 PROC UNIVARIATE からのリスト出力(カスタマイズされたモーメントテーブル)

The screenshot shows the SAS Results window with a tree view on the left and a table on the right. The table is titled 'Custom Moments Table' and 'The UNIVARIATE Procedure Variable: Quantity'. It lists various statistical moments for the variable 'Quantity'.

Custom Moments Table			
The UNIVARIATE Procedure			
Variable: Quantity			
Moments			
N	48	Sum Weights	48
Mean	20.5208333	Sum Observations	985
Std Deviation	14.4177633	Variance	207.871897
Skewness	3.6558946	Kurtosis	19.528114
Uncorrected SS	29983	Corrected SS	9769.97917
Coeff Variation	70.2591509	Std Error Mean	2.08102487

Output 14.4 PROC UNIVARIATE(Microsoft Internet Explorer で表示)からのカスタマイズされた HTML 出力(カスタマイズされたモーメントテーブル)

The screenshot shows the SAS Results Viewer window displaying the same data as Output 14.3, but in a more visually styled HTML format. The table is titled 'Custom Moments Table' and 'The UNIVARIATE Procedure Variable: Quantity'.

Custom Moments Table			
The UNIVARIATE Procedure			
Variable: Quantity			
Moments			
N	48	Sum Weights	48
Mean	20.5208333	Sum Observations	985
Std Deviation	14.4177633	Variance	207.871897
Skewness	3.6558946	Kurtosis	19.528114
Uncorrected SS	29983	Corrected SS	9769.97917
Coeff Variation	70.2591509	Std Error Mean	2.08102487

Example 2: EDIT ステートメントと DEFINE TABLE ステートメントとの比較

Features: EDIT ステートメント
COLUMN ステートメント
DEFINE ステートメント
STYLE=属性
NOTES ステートメント
DYNAMIC ステートメント

Other features: その他の ODS 機能

ODS PATH ステートメント
 ODS HTML ステートメント
 DELETE ステートメント

Data set: [Exprev](#)

詳細

この例では、同じテーブルテンプレートとして、EDIT ステートメントの使用が DEFINE TABLE ステートメントと比較されます。最初のプログラムでは、Base.Summary テーブルテンプレートを変更するために、EDIT ステートメントが使用されます。NOBS 列の文字表示色が オレンジに変更されます。Base.Summary テーブルテンプレートの他のテンプレートと属性は、同じままです。2 番目のプログラムでは、同じ名前の Base.Summary を使用して新しいテーブルを定義するために、DEFINE TABLE ステートメントが使用されています。NOBS 列は、新しいテーブルテンプレートで定義された唯一の列です。PROC SUMMARY ステップが実行されると、NOBS 列のみが印刷されます。列がフォーマットされた唯一のスタイル属性は、色=オレンジ属性です。

プログラム 1

```
ods path work.templat (update) sashelp.tmplmst (read);
proc template;
edit Base.Summary;
edit nob;
style={color=orange background=white};
end;

end;
run;

proc summary data=exprev print;
class Sale_Type;
run;

proc template;
delete base.Summary;
run;
```

Program Description

既存のテーブルテンプレート Base.Summary を編集します。 ODS PATH ステートメントによって、テーブルテンプレート用に、どのアイテムストアを検索するかが指定されます。EDIT ステートメントでは、テーブルテンプレート Base.Summary が編集されます。変更されたテーブルテンプレート Base.Summary は、Work.Templat アイテムストアに書き込まれます。

```
ods path work.templat (update) sashelp.tmplmst (read);
proc template;
edit Base.Summary;
edit nob;
style={color=orange background=white};
end;

end;
run;
```

```
proc summary data=exprev print;
class Sale_Type;
run;
```

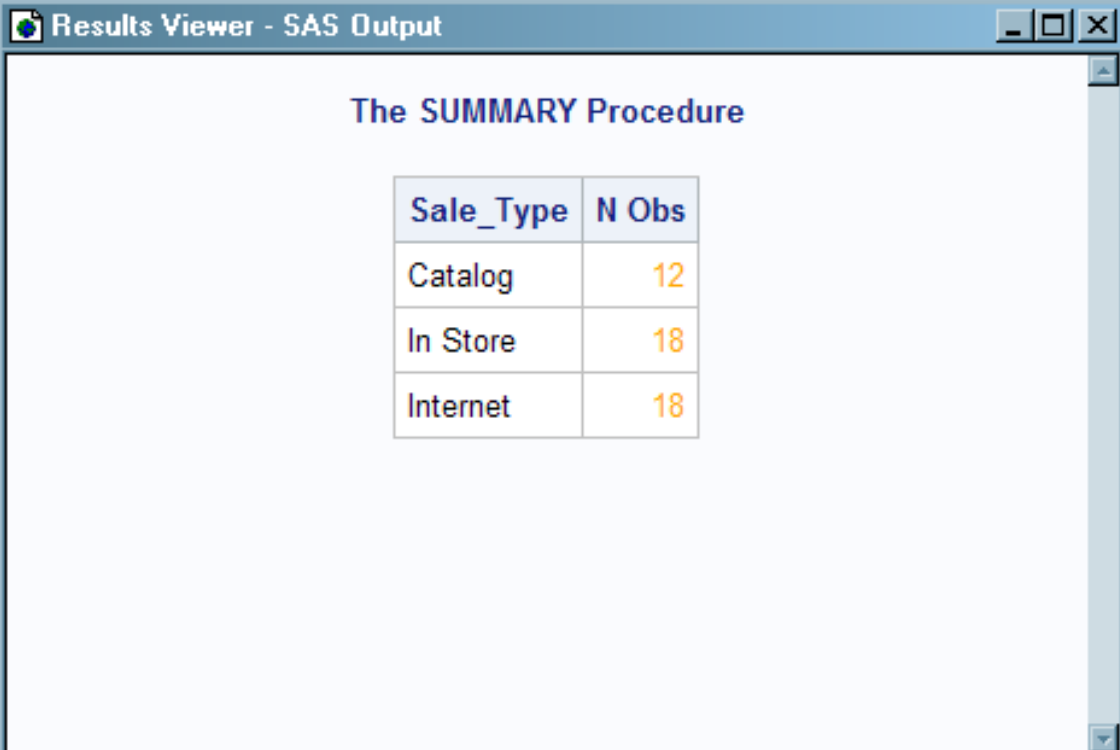
カスタマイズされたサマリーテーブルテンプレートを **Work.Templat** から除去します。DELETE ステートメントによって、この例で作成したカスタマイズされたサマリーテーブルが除去されます。DELETE ステートメントを使用するとき、ODS では、まず **Sasuser.Templat** および **Work.Templat** において **base.summary** が検索されます。そこにある場合、それは削除されます。そこがない場合、**Sashelp.Tmplmst** が検索されます。

```
proc template;
delete base.Summary;
run;
```

Program 1 の出力

Age というラベルの列は、出力に残されません。その理由は、Age が元の **Base.Summary** テーブルテンプレートにまで通過する動的変数として定義されており、また Age が CLASS 変数として指定されているからです。NOBS 列の属性は、NOBS 列が定義される EDIT ステートメントの中に変更されます。

Output 14.5 Base.Summary 用の編集されたテーブルテンプレートを使用する HTML 出力

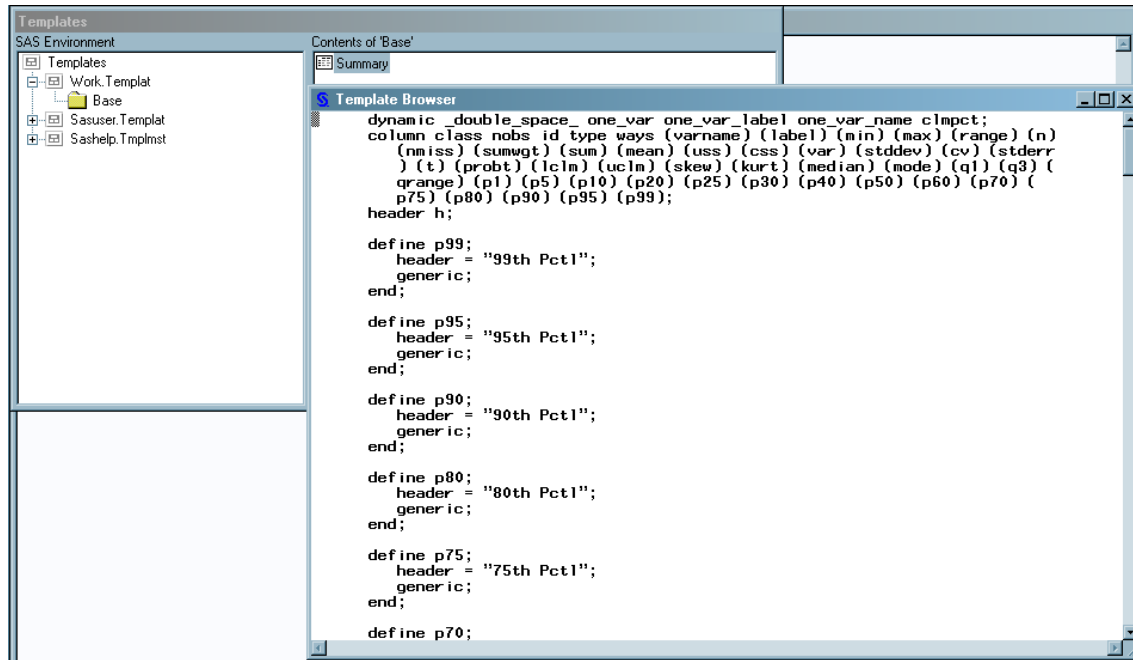


Sale_Type	N Obs
Catalog	12
In Store	18
Internet	18

変更された **Base.Summary** テーブルテンプレートによって、NOBS 列の文字表示色はオレンジに変更されます。垂直配列と NOBS 列のヘッディングおよび他のテーブル属性は、デフォルトのテーブルテンプレートが保留され、同じままです。プログラム 1 によって作成された **Base.Summary** テーブルテンプレートを見るには、コマンドバーの **odstemplates** を提出します。次に **Work.Templat** ⇨ **Base** を選びます。テーブル

テンプレート サマリーを右クリックして、開くを選びます。テーブル テンプレート Base.Summary が Template Browser ウィンドウに表示されます。

Output 14.6 EDIT ステートメントによって変更された Base.Summary テーブルテンプレート



プログラム 2

```
ods path work.templat (update) sashelp.tmplmst (read);
proc template;
define table Base.Summary;
notes "Summary table for MEANS and SUMMARY";
dynamic clmpct one_var_name one_var_label one_var;
column class nobis id type ways (varname) (label) (min) (max) (range)
(n) (nmiss) (sumwgt) (sum) (mean) (uss) (css) (var) (stddev) (cv)
(stderr) (t) (probt) (lclm) (uclm) (skew) (kurt) (median) (mode) (q1)
(q3) (qrange) (p1) (p5) (p10) (p25) (p50) (p75) (p90) (p95) (p99);

define nobis;
style={color=orange backgroundcolor=white};
end;

end;
run;

proc summary data=exprev print;
class Sale_Type;
run;

proc template;
delete base.Summary;
run;
```

Program Description

テーブル **Base.Summary** を定義します。まず、ODS PATH ステートメントによって、テーブルテンプレートを検索するためのアイテムストアをどれにするかが指定されます。DEFINE TABLE ステートメントによって、新しいテーブルテンプレート **Base.Summary** が作成されます。新しいテーブルテンプレート **Base.Summary** は、**Work.Templat** アイテムストアに書き込まれます。

```
ods path work.templat (update) sashelp.tmplmst (read);
proc template;
define table Base.Summary;
notes "Summary table for MEANS and SUMMARY";
dynamic clmpct one_var_name one_var_label one_var;
column class nobis id type ways (varname) (label) (min) (max) (range)
(n) (nmiss) (sumwgt) (sum) (mean) (uss) (css) (var) (stddev) (cv)
(stderr) (t) (probt) (lclm) (uclm) (skew) (kurt) (median) (mode) (q1)
(q3) (qrange) (p1) (p5) (p10) (p25) (p50) (p75) (p90) (p95) (p99);

define nobis;
style={color=orange backgroundcolor=white};

end;

end;
run;

proc summary data=expres print;
class Sale_Type;
run;
```

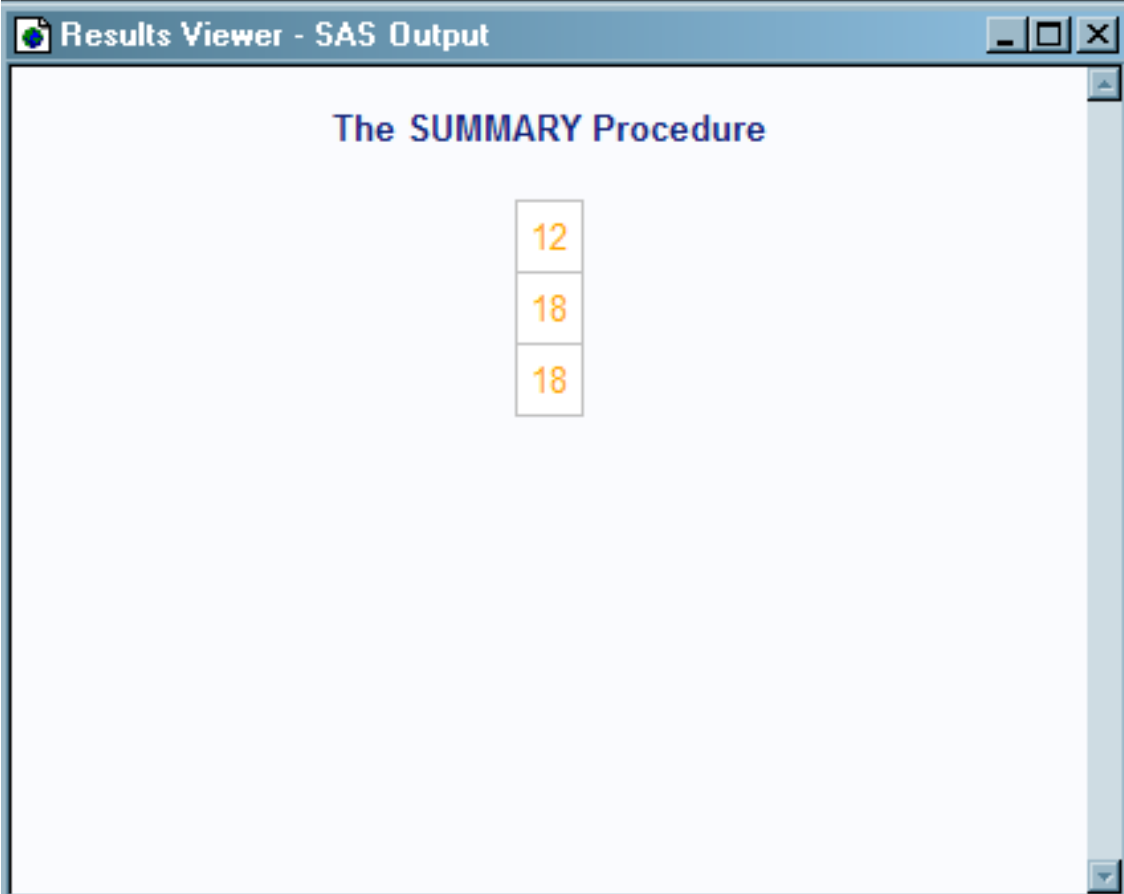
Work.Templat から、カスタマイズされたサマリーテーブルテンプレートを除去します。DELETE ステートメントによって、この例で作成したカスタマイズされたサマリーテーブルが除去されます。DELETE ステートメントを使用するとき、ODS では、まず **Sasuser.Templat** および **Work.Templat** において、**base.summary** が検索されます。それがそこにある場合、それは削除されます。それがいない場合、**Sashelp.Tmplmst** が検索されます。

```
proc template;
delete base.Summary;
run;
```

Program 2 の出力

列ラベルの Age は、新しいテーブルテンプレート Base.Summary で定義されていないため、見あたらなくなります。新しいテーブルテンプレートで定義されたのは、オレンジの文字表示色のある NOBS 列のみで、列ヘディングはありません。

Output 14.7 テーブルテンプレート Base.Summary を使用する HTML 出力

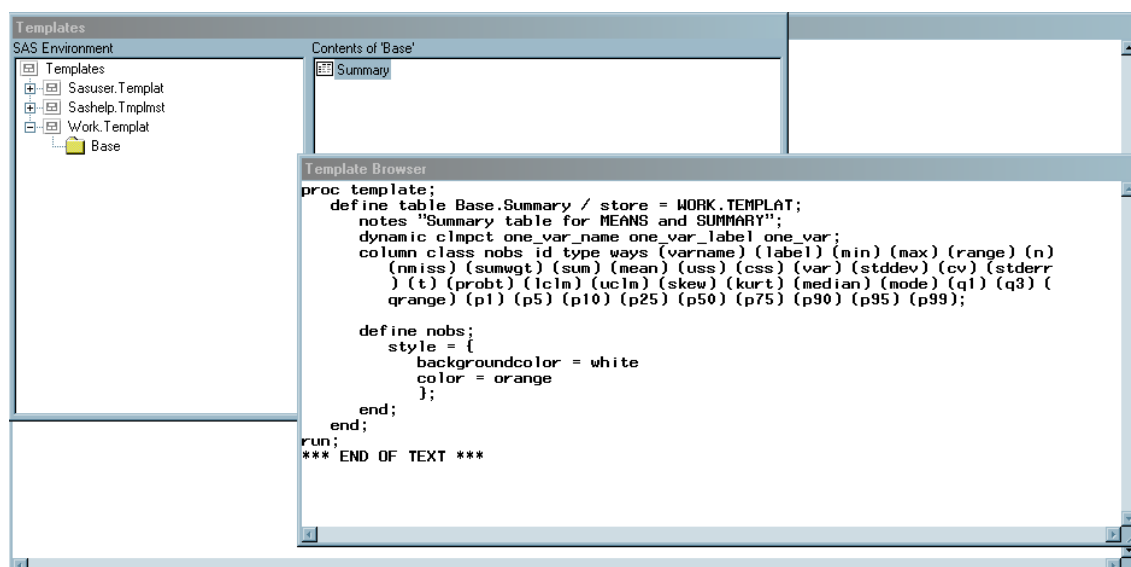


The SUMMARY Procedure	
	12
	18
	18

Base.Summary テーブルテンプレートによって、NOBS 列の文字表示色はオレンジに定義されています。NOBS の垂直配列とヘディングおよび他のテーブル属性は定義されていないので、それらはもはや、Base.Summary テーブルテンプレートの一部ではありません。プログラム2によって作成されたテーブルテンプレート Base.Summary を見るには、次のことをします。コマンドバーで申込み `odstemplates`。つぎに、**Work.Templat** ⇒ **Base** を選びます。テーブルテンプレートサマリーを右クリックして、

開くを選びます。テーブルテンプレート Base.Summary がテンプレートブラウザウィンドウに表示されます。

Output 14.8 DEFINE TABLE ステートメントによって作成された Base.Summary テーブルテンプレート



Example 3: テーブルテンプレートの新規作成

Features: テーブル属性
 DOUBLE_SPACE=
 OVERLINE=
 UNDERLINE=
 DEFINE ステートメント(列用)
 GENERIC=属性
 HEADER=属性
 ID=属性
 STYLE=属性
 VJUST=属性
 DEFINE ステートメント(ヘッダー用)
 TEXT ステートメント
 STYLE=属性
 SPACE=属性
 DEFINE FOOTER ステートメント
 HEADER ステートメント
 MVAR ステートメント

Other features: 他の ODS 機能
 ODS=オプションを使用する FILE ステートメント
 _ODS_引数を使用する PUT ステートメント

Data set: チャリティ

詳細

この例では、PROC MEANS によって作られる出力データセットのためのカスタムテーブルテンプレートが作成されます。

Note: この例では、すべての動作環境で有効というわけではないファイル名が使用されます。あなたの動作環境でこの例をうまく操作するには、ファイル仕様を変更する必要がある場合もあります。次を参照 [付録 4, “異なる動作環境で例を実行する ODS HTML ステートメント” on page 1385](#)

プログラム 1: PROC MEANS を使用して出力データセットを作成

```
options nodate pageno=1 pagesize=60 linesize=72;

proc means data=Charity descendTypes charType noprint;
class School Year;
var moneyRaised;
types () School year;
output out=top3list sum= mean=
idgroup ( max(moneyRaised) out [3] (moneyRaised name school year)= )
/ autoname;
run;

proc print data=top3list noobs;
title "Simple PROC PRINT of the Output Data Set";
run;
```

Program Description

SAS システムオプションを設定します。 OPTIONS ステートメントがリスト出力のいくつかの面を制御します。これらのオプションは、いずれも HTML 出力には影響しません。

```
options nodate pageno=1 pagesize=60 linesize=72;
```

記述的統計を計算し、分析用のオプションとサブグループを指定します。 この PROC MEANS ステップにおいて、クラス変数の一方的結合とあらゆる観察によるデータが分析されます。それによって、調達資金の総額と平均額の変数を含む出力データセットが、作成されます。データセットには、上位 3 位までの調達資金額、資金を調達した 3 人の学生の名前、学生が資金調達した年数、そして学生が所属した学校などの新しい変数も含まれます。

```
proc means data=Charity descendTypes charType noprint;
class School Year;
var moneyRaised;
types () School year;
output out=top3list sum= mean=
idgroup ( max(moneyRaised) out [3] (moneyRaised name school year)= )
/ autoname;
run;
```

報告を印刷します。 この PROC PRINT ステップでは、PROC MEANS によって作成された HTML 出力データセットが作られます。

```
proc print data=top3list noobs;
title "Simple PROC PRINT of the Output Data Set";
run;
```

Output 14.9 デフォルト PROC PRINT 出力

Results Viewer - SAS Output

Simple PROC PRINT of the Output Data Set

School	Year	_TYPE_	_FREQ_	moneyRaised_Sum	moneyRaised_Mean	moneyRaised_1	moneyRaised_2	moneyRaised_3	Name_1	Name_2	Name_3	School_1	School_2	School_3	Year_1	Year_2	Year_3
Kennedy	All	10	53	\$1575.95	\$29.73	\$72.22	\$52.63	\$43.89	Luther	Thelma	Jenny	Kennedy	Kennedy	Kennedy	1994	1992	1992
Monroe	All	10	56	\$1606.80	\$28.69	\$78.65	\$65.44	\$56.87	Willard	Cameron	L.T.	Monroe	Monroe	Monroe	1994	1993	1994
All	1992	01	31	\$802.92	\$28.48	\$55.16	\$53.76	\$52.63	Tonya	Edward	Thelma	Monroe	Monroe	Kennedy	1992	1992	1992
All	1993	01	32	\$907.92	\$28.37	\$65.44	\$47.33	\$42.23	Cameron	Myrtle	Bill	Monroe	Monroe	Kennedy	1993	1993	1993
All	1994	01	46	\$1391.91	\$30.26	\$78.65	\$72.22	\$56.87	Willard	Luther	L.T.	Monroe	Kennedy	Monroe	1994	1994	1994
All	All	00	109	\$3182.75	\$29.20	\$78.65	\$72.22	\$65.44	Willard	Luther	Cameron	Monroe	Kennedy	Monroe	1994	1994	1993

プログラム 2: TopN Report 用のカスタムテーブルテンプレートを作成

```

options nodate pageno=1 pagesize=60 linesize=72;

proc template;
define table means.topn;

mvar first_year last_year sysdate9;

column class sum mean (raised) (name) (school) (year);

double_space=on;
overline=on;
underline=on;

header table_header_1 table_header_2;

define table_header_1;
text "Top Three Fund Raisers";
style=header{fontsize=6};
end;

define table_header_2;
text "from " first_year " to " last_year;
space=1;
end;

define footer table_footer;
text "(report generated on " sysdate9 ")";
split="*";
style=header{fontsize=2};
end;

define class;
generic=on;
id=on;
vjust=top;
style=data;
end;

define sum;
generic=on;
header="Total Dollars Raised";
vjust=top;
end;

define mean;

```

```
generic=on;
header="Average Dollars per Student";
vjust=top;
end;

define raised;
generic=on;
header="Individual Dollars";
end;

define name;
generic=on;
header="Student";
end;

define school;
generic=on;
header="School";
end;

define year;
generic=on;
header="Year";
end;

end;
run;

data _null_;
set top3list;

file print ods = (
template="means.topn"

columns=(
class=school (generic=on)
class=year (generic=on)
sum=moneyRaised_sum (generic=on)
mean=moneyRaised_mean (generic=on)
raised=moneyRaised_1 (generic=on)
raised=moneyRaised_2 (generic=on)
raised=moneyRaised_3 (generic=on)
name=name_1 (generic=on)
name=name_2 (generic=on)
name=name_3 (generic=on)
school=school_1 (generic=on)
school=school_2 (generic=on)
school=school_3 (generic=on)
year=year_1 (generic=on)
year=year_2 (generic=on)
year=year_3 (generic=on)
)
);

put _ods_;
run;
```

```
proc template;
delete means.topn;
run;
```

Program Description

SAS システムオプションを設定します。 OPTIONS ステートメントによって、リストシステムのいくつかの面が制御されます。

```
options nodate pageno=1 pagesize=60 linesize=72;
```

テーブルテンプレート Means.Topn を作成します。 DEFINE ステートメントによって、書き込みアクセスのあるパスの最初のテンプレートストアにおいて、テーブルテンプレート Means.Topn が作成されます。デフォルトでは、このテンプレートストアは、Sasuser.Templat です。

```
proc template;
define table means.topn;
```

3つのマクロ変数を参照する記号を指定します。 MVAR ステートメントでは、マクロ変数を参照する3つの記号が定義されます。ODS では、これらの変数の値は文字列として使用されます。マクロ変数への参照は、出力オブジェクトを作るために ODS によってテンプレートとデータコンポーネントが結合するとき、決定されます。First_Year と Last_Year には、データがある最初の年と最後の年の値が含まれます。その値は、DATA ステップの SYMPUT ステートメントによって割り当てられます。SYSDATE9 は、値が常に利用できる自動マクロ変数です。

```
mvar first_year last_year sysdate9;
```

列の名前とそれらが報告に現れる順序を、指定します。 COLUMN ステートメントでは、これらの変数がテーブルの列として宣言され、テーブル内のその順序が指定されます。列名が括弧内に現れる場合、列テンプレートが出力オブジェクトにおいて重なって使用されるすべての値が PROC TEMPLATE によって、スタックされます。変数は、後にプログラムに現れる DATA ステップで、列テンプレートに割り当てられます。

```
column class sum mean (raised) (name) (school) (year);
```

テーブルテンプレートへの3つのカスタマイズされた変更を、指定します。 これらの3つのテーブル属性は、リスト出力の出力オブジェクトの表示に有効です。それらは、HTML 出力での表示にはまったく影響しません。DOUBLE_SPACE=によって、出力オブジェクトの行間にダブルスペースが作成されます。OVERLINE=と UNDERLINE=によって、テーブルの最初の行の前とテーブルの最後の行の後に、実線が引かれます。

```
double_space=on;
overline=on;
underline=on;
```

2つのテーブルヘッダーと報告に現れる順序を、指定します。 HEADER ステートメントでは、Table_Header_1 と Table_Header_2 がテーブルのヘッダーとして宣言され、出力オブジェクトに現れる順序が指定されます。

```
header table_header_1 table_header_2;
```

テーブル要素 Table_Header_1 を作成します。 DEFINE ステートメントとそのサブステートメント、および属性によって、Table_Header_1 が定義されます。TEXT ステートメントによって、ヘッダーのテキストが指定されます。STYLE=属性によって、テキストへが表示されるスタイル要素が変更されます。スタイル要素ヘッダーは、デフォルトのスタイルでは、Styles.HTMLBlue と定義されます。この場合、STYLE=属性によって、大

きなフォント サイズが指定されます。ヘッダーに含まれる他のすべての属性は、有効のままです。この属性は、HTML 出力にのみ有効です。END ステートメントによって、ヘッダーテンプレートが終了します。

```
define table_header_1;
text "Top Three Fund Raisers";
style=header{fontsize=6};
end;
```

テーブル要素 Table_Header_2 を作成します。 DEFINE ステートメントとそのサブステートメント、および属性によって、Table_Header_2 が定義されます。TEXT ステートメントでは、ヘッダーのコンテンツを指定するために、テキストとマクロ変数 First_Year と Last_Year が使用されます。ODS によってデータコンポーネントがテーブルテンプレート (次に続く DATA ステップにおいて) に結合するとき、マクロ変数 First_Year と Last_Year が決定されます。テーブルテンプレートそのものには、マクロ変数への参照が含まれます。SPACE=属性によって、ヘッダーの後に空白行が挿入されます(リスト出力においてのみ)。END ステートメントによって、ヘッダーテンプレートが終了します。

```
define table_header_2;
text "from " first_year " to " last_year;
space=1;
end;
```

テーブルテンプレート Table_Footer を作成します。 DEFINE ステートメントとそのサブステートメント、および属性によって、Table_Footer が定義されます。FOOTER 引数によって、Table_Footer がフッターとして宣言されます。(このアプローチをヘッダーの作成と比較します。DEFINE ステートメントにおいて、FOOTER ステートメントを FOOTER 引数の代わりに使用できます。) TEXT ステートメントによって、フッターのテキストが指定されます。ODS でデータコンポーネントがテーブルテンプレートに結合するとき(続く DATA ステップにおいて)、マクロ変数 SYSDATE9 が決定されます。テキストテンプレートそのものには、マクロ変数への参照が含まれます。SPLIT=属性によって、アスタリスクが区切り文字として指定されます。これによって、ヘッダーが開括弧で区切られることが防止できます。区切り文字が指定されている場合、ODS では、非アルファベットの頭文字が区切り文字と解釈されます。その代わりに、開括弧の前にスペースを置きます。STYLE=属性によって、テキストフッターを表示するスペース要素が変更されます。スペース要素ヘッダーは、デフォルトのスタイル、Styles.Default で定義されます。この場合、STYLE=属性によって、小さなフォントサイズが指定されます。フッターに含まれる他のすべての属性は、そのまま有効です。この属性は、HTML 出力にのみ有効です。END ステートメントによって、フッターテンプレートが終了します。

```
define footer table_footer;
text "(report generated on " sysdate9 ")";
split="*";
style=header{fontsize=2};
end;
```

列テンプレートのクラスを作成します。 DEFINE ステートメントとその属性によって、列テンプレートのクラスが作成されます。(COLUMN ステートメントでは、プログラムの初期にクラスが列として宣言されています。) GENERIC=によって、複数の変数によって同じ列テンプレートが使用できるように、指定されます。GENERIC=は、出力先に固有のものではありません。ID=によって、報告に複数データパネルが使用されている場合、この列が各パネルにリピートするように、指定されます。ID=は、リスト出力にのみ有効です。VJUST=によって、テキストが HTML テキストセルの最上部に現れるように、指定されます。VJUST=は、HTML 出力にのみ有効です。STYLE=によって、DATA テキスト要素が列で使用されるように、指定されます。このテキスト This table 要素は、デフォルトのスタイルでは、使用中のスタイルとして定義されています。

STYLE=は、HTML 出力にのみ有効です。END ステートメントによってテンプレートが終了します。後続のある列テンプレートと違って、この列テンプレートにはヘッダーが含まれないことに、注意してください。これは、同じヘッダーは、この列テンプレートで使用されるすべての変数にとって、適切でないからです。ここで、あるいは FILE ステートメントで指定されたヘッダーはないので、ヘッダーは DATA ステップで変数に割り当てられたラベルから出てきます。

```
define class;
generic=on;
id=on;
vjust=top;
style=data;
end;
```

6つの追加列を作成します。各 DEFINE ステートメントとその属性によって、列テンプレートが作成されます。GENERIC=では、複数の変数によって列テンプレートが使用できるように指定されます(合計と平均の場合、テンプレートは1つの変数だけで使用されるが)。HEADER=によって、列ヘッダーのテキストが指定されます。VJUST=によって、テキストが HTML テキストの最上部に現れるように指定されます。END ステートメントによって、テンプレートが終了します。

```
define sum;
generic=on;
header="Total Dollars Raised";
vjust=top;
end;

define mean;
generic=on;
header="Average Dollars per Student";
vjust=top;
end;

define raised;
generic=on;
header="Individual Dollars";
end;

define name;
generic=on;
header="Student";
end;

define school;
generic=on;
header="School";
end;

define year;
generic=on;
header="Year";
end;
```

テーブルテンプレートを終了します。この END ステートメントによって、テーブルテンプレートが終了します。RUN ステートメントによって、PROC TEMPLATE ステップが終了します。

```
end;
run;
```

データコンポーネントを作成します。この DATA ステップでは、データセットが作成できません。その代わりに、データコンポーネントと、最終的には、出力オブジェクトが作成できます。SET ステートメントによって、PROC MEANS で作成されたデータセット TOP3LIST が、読み込まれます。

```
data _null_;
set top3list;
```

DATA ステップを経過して ODS まで行き、そして Means.Topn テーブル テンプレートを使用します。FILE ステートメントにおける ファイルレフ PRINT と ODS オプションの組合せで、DATA ステップから ODS までたどりつきます。TEMPLATE=サブオプションによると、ODS では、以前は PROC TEMPLATE で作成された Means.Topn という名のテーブル テンプレートが、使用されます。

```
file print ods = (
template="means.topn"
```

各変数用に使用する列テンプレートを、指定します。COLUMNS=サブオプションによって、DATA ステップ変数が、テーブルテンプレートで定義された列の中に配置されます。たとえば、最初の列仕様によって、出力オブジェクトの最初の列に、変数 SCHOOL の値が含まれ、次にクラスという名の列テンプレートが使用されるように、指定されます。GENERIC=は、複数の変数によって同じ列テンプレートが使用されるように、テーブルテンプレートと各列割り当ての両方において、ON に設定されている必要があります。

```
columns=(
class=school (generic=on)
class=year (generic=on)
sum=moneyRaised_sum (generic=on)
mean=moneyRaised_mean (generic=on)
raised=moneyRaised_1 (generic=on)
raised=moneyRaised_2 (generic=on)
raised=moneyRaised_3 (generic=on)
name=name_1 (generic=on)
name=name_2 (generic=on)
name=name_3 (generic=on)
school=school_1 (generic=on)
school=school_2 (generic=on)
school=school_3 (generic=on)
year=year_1 (generic=on)
year=year_2 (generic=on)
year=year_3 (generic=on)
)
);
```

データ値をデータコンポーネントに書き込みます。_ODS_ オプションと PUT ステートメントによって、すべての列のデータ値がデータコンポーネントに書き込まれます。

```
put _ods_;
run;
```

カスタマイズされた平均表テンプレートを削除します。DELETE ステートメントによって、この例で作成されたカスタマイズされた平均表が削除されます。DELETE ステートメントを使用するとき、ODS では、Sasuser.Templat と Work.Templat の means.topn が、

まず検索されます。それがそこにある場合、それは削除されます。それがそこがない場合、Sashelp.Tmplmst が検索されます。

```
proc template;
delete means.topn;
run;
```

HTML 出力: TopN Report 用にカスタマイズされたテーブルを使用

Output 14.10 HTML 出力: TopN Report 用にカスタマイズされたテーブルを使用(Microsoft Internet Explore で表示)

Customized PROC PRINT of the Output Data Set

Top Three Fund Raisers

from 1992 to 1994

Schools	Years	Total Dollars Raised	Average Dollars per Student	Individual Dollars	Student	School	Year
Kennedy	All	\$1575.95	\$29.73	\$72.22	Luther	Kennedy	1994
				\$52.63	Thelma	Kennedy	1992
				\$43.89	Jenny	Kennedy	1992
Monroe	All	\$1606.80	\$28.69	\$78.65	Willard	Monroe	1994
				\$65.44	Cameron	Monroe	1993
				\$56.87	L.T.	Monroe	1994
All	1992	\$882.92	\$28.48	\$55.16	Tonya	Monroe	1992
				\$53.76	Edward	Monroe	1992
				\$52.63	Thelma	Kennedy	1992
All	1993	\$907.92	\$28.37	\$65.44	Cameron	Monroe	1993
				\$47.33	Myrtle	Monroe	1993
				\$42.23	Bill	Kennedy	1993
All	1994	\$1391.91	\$30.26	\$78.65	Willard	Monroe	1994
				\$72.22	Luther	Kennedy	1994
				\$56.87	L.T.	Monroe	1994
All	All	\$3182.75	\$29.20	\$78.65	Willard	Monroe	1994
				\$72.22	Luther	Kennedy	1994
				\$65.44	Cameron	Monroe	1993

(report generated on 03FEB2011)

Example 4: セルの値に基づき、セルにスタイル要素を設定する

Features: DEFINE TABLE ステートメント
 NMVAR ステートメント
 NOTES ステートメント
 TRANSLATE INTO ステートメント
 DEFINE COLUMN ステートメント
 BLANK_DUPS=属性
 CELLSTYLE AS ステートメント
 GENERIC=属性

Other features: その他の ODS 機能
 DELETE ステートメント
 ODS=オプションを使用した FILE ステートメント
 _ODS_引数のある PUT ステートメント

Data set: [Grain_Production](#)Format: [\\$CNTRY](#)

詳細

この例では、セルの 中のテキストで、値によって異なる色とフォント属性が 使用される テンプレートが、作成されます。

Note: この例では、動作環境によっては すべて有効とはいえない可能性のあるファイル名が、使用されます。あなたの動作環境で この例をうまく操作するには、ファイル仕様を変更する必要がある 場合もあります。次を参照。[付録 4, “異なる動作環境で例を実行する ODS HTML ステートメント” on page 1385](#)

プログラム

```
options nodate pageno=1 pagesize=60 linesize=72;
title "Leading Grain Producers";

proc template;
define table shared.cellstyle;

  translate _val_=. into "No data";

  notes "NMVAR defines symbols that will be used to determine the colors
of the cells.";

  nmvar low "Use default style."
medium "Use yellow foreground color and bold font weight"
high "Use red foreground color and a bold, italic font.";

  classlevels=on;

  define column char_var;
generic=on;
blank_dups=on;
end;

  define column num_var;
generic=on;

  justify=on;

  cellstyle _val_ <= low as data,
_val_ <= medium as data
{color=green fontstyle=italic},
_val_ <= high as data
{color=yellow fontweight=bold},
1 as data
{color=red fontstyle=italic
fontweight=bold};
end;

  end;
run;

%let low=10000;
%let medium=50000;
%let high=100000;

data _null_;
set grain_production;
```

```

file print ods=(
template="shared.cellstyle"

columns=(
char_var=year(generic=on)
char_var=country(generic=on format=$cntry.)
char_var=type(generic=on)
num_var=kilotons(generic=on format=comma12.)
)
);

put _ods_;
run;

proc template;
delete shared.cellstyle;
run;

```

Program Description

SAS システムオプションを設定します。 OPTIONS ステートメントによって、リスト出力のいくつかの面が制御されます。これらのオプションのいずれも、HTML 出力に影響しません。TITLE ステートメントによって、タイトルが指定されます。

```

options nodate pageno=1 pagesize=60 linesize=72;
title "Leading Grain Producers";

```

テーブルテンプレート Shared.Cellstyle を作成します。 DEFINE ステートメントによって、テーブルテンプレート Shared.Cellstyle が書き込み可能なパスの最初のテンプレートストアに、作成されます。デフォルトでは、このテンプレートストアは Sasuser.Templat です。

```

proc template;
define table shared.cellstyle;

```

欠損値は、報告でテキスト"データなし"で表示されるように、指定します。 TRANSLATE INTO ステートメントによって、欠損値(.)が文字列データなしに変換されます。

```

translate _val_=. into "No data";

```

テーブルテンプレートのテーブルについての情報を、保存します。 NOTES ステートメントによって、テーブルに関する情報が提供されます。NOTES ステートメントは、コンパイルされたテーブルテンプレートの一部として残りますが、SAS コメントは残りません。

```

notes "NMVAR defines symbols that will be used to determine the colors
of the cells.";

```

3つのマクロ変数を参照する記号を、指定します。 NMVAR ステートメントによって、マクロ変数を参照する3つの記号が定義されます。ODS によって、変数の値が、使用前に番号に変換されます(二重に保存)。マクロ変数への参照は、出力オブジェクトを作り出すために、ODS によってテンプレートとデータコンポーネントがバインドされたとき、決定されます。引用符の中のテキストによって、記号に関する情報が提供されます。この情報はコンパイルされたテーブルテンプレートの一部となりますが、SAS ではなりません。LOW、MEDIUM および HIGH には、セルを表示するスタイル要素の決定要因として使用する値が、含まれます。値は、報告を作成する DATA ステップの直前に、提供されます。

```

nmvar low "Use default style."
medium "Use yellow foreground color and bold font weight"
high "Use red foreground color and a bold, italic font.";

```

行ごとに変化しない値の繰り返しを、制御します。CLASSLEVELS=属性によって、やはり BLANK_DUPS=ON でマークされた前の列の値が変化した場合、BLANK_DUPS=ON でマークされた列の値の表示が止められます。BLANK_DUPS=は一般列で設定されるので、この属性も同じく設定します。

```

classlevels=on;

```

列テンプレート Char_Var を作成します。DEFINE ステートメントとその属性によって、列テンプレート Char_Var が作成されます。GENERIC=によって、同じ列テンプレートが複数の変数によって使用できるように、指定します。BLANK_DUPS=によって、列の値が行ごとに変わらない場合、(そして、BLANK_DUPS=ON でマークされた前の列に変化がない場合、テーブルの CLASSLEVELS=ON が変化するので) その表示を止めさせます。

```

define column char_var;
generic=on;
blank_dups=on;
end;

```

列テンプレート Num_Var を、作成します。DEFINE ステートメントおよびその属性によって、列テンプレート Num_Var が作成されます。GENERIC=によって、同じ列テンプレートが複数の変数によって使用できるように、指定します。

```

define column num_var;
generic=on;

```

フォーマットフィールドを無視して、列に値を配列します。JUSTIFY=によって、フォーマットフィールドを無視して、値が列に位置調整されます。数字変数の場合、デフォルトの位置調整は RIGHT で、欠損値として使用される変換された文字値データなしも右揃えされます。この列テンプレートで JUSTIFY=ON がない場合、No data の値は、列と同じ幅のあるフォーマットフィールドの中で、文字変数(左揃え)としてフォーマットされています。

```

justify=on;

```

列において異なる値に対して、どのスタイル要素とスタイル属性を使用するかを、指定します。CELLSTYLE AS ステートメントによって、この列で異なる値に対して、使用するスタイル要素とスタイル属性を、指定します。値が変数 LOW 値より少ないかあるいは等しい場合、無変更のデータスタイル要素がセルで使用されます。値が LOW より大きい、MEDIUM の値より小さいか、あるいは等しい場合、セルデータは、緑の文字表示色とイタリックのフォントがあるスタイル要素 データがセルで使用されます。同様に、他の値では、黄色または赤の文字表示色とボールドフォントとイタリックフォントスタイルが使用されます。CELLSTYLE AS ステートメントは、HTML 出力先にのみ有効です。END ステートメントで、列テンプレートは終了します。

```

cellstyle _val_ <= low as data,
_val_ <= medium as data
{color=green fontstyle=italic},
_val_ <= high as data
{color=yellow fontweight=bold},
1 as data
{color=red fontstyle=italic
fontweight=bold};
end;

```

テーブルテンプレートを終了します。この END ステートメントで、テーブルテンプレートは終了します。RUN ステートメントで、PROC TEMPLATE ステップが終了します。

```
end;
run;
```

3つのマクロ変数に値を指定します。%LET ステートメントで、マクロ変数 LOW、MEDIUM および HIGH に値が割り当てられます。

```
%let low=10000;
%let medium=50000;
%let high=100000;
```

データコンポーネントを作成します。このデータステップでは、データセットは作成できません。その代わりに、データ構成要素、そして最終的には出力オブジェクトが作成されます。SET ステートメントで、データセット Grain_Production が読み込まれます。

```
data _null_;
set grain_production;
```

DATA ステップを経由して ODS に至ります。そして、Shared.CellStyle テーブルテンプレートを使用します。FILE ステートメントにおけるファイルレフ PRINT と ODSODS の組合せで、DATA ステップから ODS までとどります。TEMPLATE=サブオプションによると、ODS では、以前に PROC TEMPLATE で作成された Shared.CellStyle という名のテーブルテンプレートが、使用されます。

```
file print ods=(
template="shared.cellstyle"
```

各変数用に使用する列テンプレートを、指定します。COLUMNS=サブオプションによって、DATA ステップ変数が テーブルテンプレートで定義された列の中に置かれます。たとえば、最初の列仕様によって、出力オブジェクトの最初の列に変数 YEAR の値が含まれ、Char_Var という名の列テンプレートが使用されるように、指定されます。GENERIC=は、複数の変数によって同じ列のテンプレートが使用されるために、テーブルテンプレートと各列の割り当ての両方において、ON に設定される必要があります。

```
columns=(
char_var=year(generic=on)
char_var=country(generic=on format=$centry.)
char_var=type(generic=on)
num_var=kilotons(generic=on format=comma12.)
)
);
```

データ値をデータコンポーネントに書き込みます。_ODS_ オプションと PUT ステップによって、すべての列のデータ値がデータコンポーネントに書き込まれます。

```
put _ods_;
run;
```

次を除去しますカスタマイズされたテーブルテンプレート。DELETE ステートメントによって、この例で作成されたカスタマイズされたテーブルを除去します。DELETE ステートメントを使用するとき、ODS では、まず Sasuser.Templat および Work.Templat において shared.cellstyle が検索されます。それがそこにある場合、それは削除されません。そこがない場合、Sashelp.Tmplmst が検索されます。


```
proc template;
delete shared.cellstyle;
run;
```

カスタマイズされたテーブルの HTML 出力

テーブルのカスタマイゼーションとスタイルのカスタマイズゼーションの両方が、HTML 出力に現れます。テーブルカスタマイゼーションには、列ごとに変化しない値の抑制および欠損値の変換が、含まれます。No data スタイルカスタマイゼーションには、CELLSTYLE AS ステートメントで指定される色とフォントスタイルが、含まれます。

Output 14.11 HTML 出力(Microsoft Internet Explorer で表示)

Year	Country	Type	Kilotons
1995	Brazil	Wheat	1,516
		Rice	11,236
		Corn	36,276
	China	Wheat	102,207
		Rice	185,226
		Corn	112,331
	India	Wheat	63,007
		Rice	122,372
		Corn	9,800
Indonesia	Wheat	No data	
	Rice	49,860	
	Corn	8,223	
United States	Wheat	59,494	
	Rice	7,888	
	Corn	187,300	
1996	Brazil	Wheat	3,302
		Rice	10,035
		Corn	31,975
	China	Wheat	109,000
		Rice	190,100
		Corn	119,350
	India	Wheat	62,620
		Rice	120,012
		Corn	8,660
Indonesia	Wheat	No data	
	Rice	51,165	

Example 5: 特定の列、行およびセルにスタイル要素を設定する

Features: DEFINE STYLE ステートメント
 REPLACE ステートメント t
 DEFINE TABLE ステートメント
 CELLSTYLE AS ステートメント
 DEFINE COLUMN ステートメント
 DEFINE HEADER ステートメント TEXT ステートメント
 DEFINE HEADER ステートメント
 TEXT ステートメント

Other features: 他の ODS 機能
 ODS= option のある FILE ステートメント
 ODS HTML ステートメント: STYLE=オプション
 ODS PDF ステートメント: STYLE=オプション
 PUT ステートメント: _ODS_ 引数
 ODS TRACE ステートメント

Data set: [Exprev](#)

詳細

この例では、テーブルセルの 格子状パタンで出力を作成するために、カスタマイズされたスタイルにカスタマイズされたテーブルテンプレートを組み合わせています。

プログラム

```
options obs=20;
title;

proc template;
define style greenbar;

  parent=styles.printer;

  replace headersandfooters from cell /
backgroundcolor=light green
color=black
fontsize=3
fontweight=bold
;

end;
run;

ods html body="greenbar.html" style=greenbar;
ods pdf file="greenbar.pdf" style=greenbar;

ods trace on;

proc template;
define table Checkerboard;

cellstyle mod(_row_,2) && mod(_col_,2) as
data{backgroundcolor=yellow fontweight=bold },
not(mod(_row_,2)) && not(mod(_col_,2)) as
```

```

data{backgroundcolor=yellow fontweight=bold },
1 as data;

define header top;
text "Checkerboard Table Template";
end;

  define column country;
dataname=country;
define header bar;
text "Country";
end;
header=bar;
end;

  define column OrderDate;
dataname=Order_Date;
define header bar;
text "Order Date";
end;
header=bar;
end;

  define column ShipDate;
dataname=Ship_Date;
define header bar;
text "Ship Date";
end;
header=bar;
end;

  define column SaleType;
dataname=Sale_Type;
define header bar;
text "Sale Type";
end;
header=bar;
end;

end;
run;

data _null_;
set work.exprev;

file print ods=(template="Checkerboard");
put _ods_;
run;

ods html close;
ods pdf close;
ods html;

```

Program Description

SAS システムオプションを設定します。

```

options obs=20;
title;

```

新規スタイル Greenbar を作成します。 PROC TEMPLATE ステートメントで、TEMPLATE プログラムが開始します。DEFINE STYLE ステートメントで、新規スタイル Greenbar が作成されます。

```
proc template;
  define style greenbar;
```

Greenbar スタイルが属性を継承する親スタイルを、指定します。 PARENT=属性によって、Greenbar 定義がそのスタイル要素と属性を引き継ぐスタイルが、指定されます。親の定義で指定されるすべてのスタイル要素とその属性は、現在の定義がそれを無効にしない限り、現在の定義で使用されます。

```
  parent=styles.printer;
```

ヘッダーとフッターで使用される色を変更します。 REPLACE スタイルによって、スタイル要素が親スタイルからの Greenbar スタイルに加えられますが、背景はライトグリーン、文字表示色は黒、そしてフォントはボールドで、サイズは 3 です。

```
  replace headersandfooters from cell /
  backgroundcolor=light green
  color=black
  fontsize=3
  fontweight=bold
  ;
```

スタイルを終了します。 END ステートメントで、スタイルを終了します。RUN ステートメントで、PROC TEMPLATE ステップを実行します。

```
  end;
run;
```

PDF 出力を作成し、出力で使いたいスタイルを指定します。 ODS HTML ステートメントによって、すべての出力オブジェクトがファイル greenbar.html へ送られます。STYLE=オプションでは、出力をフォーマットするとき、ODS によって、Greenbar がスタイルとして使用されます。ODS PDF ステートメントによって、PDF 出力先が開かれ、PDF 出力が作成されます。すべての出力オブジェクトが、現在のディレクトリのファイル greenbar.pdf に送られます。STYLE=オプションでは、出力をフォーマットするとき、ODS によって、Greenbar がスタイルとして使用されます。

```
ods html body="greenbar.html" style=greenbar;
ods pdf file="greenbar.pdf" style=greenbar;

ods trace on;
```

テーブルテンプレート Checkerboard を作成します。 DEFINE スタイルによって、テーブルテンプレート Checkerboard が書き込み可能なパスの最初のテンプレートストアに作成されます。デフォルトでは、このテンプレートストアは Sasuser.Templat です。

```
proc template;
  define table Checkerboard;
```

異なるセルに使用するために、どのスタイル要素とスタイル属性にするかを指定します。 CELLSTYLE-AS ステートメントによって、各行と列のセルに使用するためのスタイル要素とスタイル属性が、指定されます。CELLSTYLE-AS ステートメントによって、出力にチェッカーボード盤効果が作成されます。行と列の両方が奇数番号の場合、セルは黄色です。同様に、行と列の両方が偶数番号の場合、セルは黄色です。

```
  cellstyle mod(_row_,2) && mod(_col_,2) as
  data{backgroundcolor=yellow fontweight=bold },
```

```
not(mod(_row_,2)) && not(mod(_col_,2)) as
data{backgroundcolor=yellow fontweight=bold },
1 as data;
```

ヘッダーテンプレート Top を作成します。 DEFINE HEADER ステートメントによって、テーブルヘッダー Top が定義されます。TEXT ステートメントによって、ヘッダーのテキスト“Checkerboard Table Template”が指定されます。END ステートメントで、ヘッダーテンプレートが終了します。

```
define header top;
text "Checkerboard Table Template";
end;
```

列テンプレート Country を作成します。 DEFINE COLUMN ステートメントによって、列テンプレート Country が作成されます。DEFINE HEADER ステートメントによって、ヘッダーテンプレート Bar が作成されます。DATANAME=列属性によって、列テンプレート Country に関連するデータコンポーネントの列 Country の名前が指定されます。TEXT ステートメントによって、ヘッダーに使用するテキストが指定されます。最初の END ステートメントによって、ヘッダーテンプレートが終了します。HEADER ステートメントによって、Bar がテキストのヘッダーとして宣言されます。2 番目の END ステートメントによって、列テンプレートが終了します。

```
define column country;
dataname=country;
define header bar;
text "Country";
end;
header=bar;
end;
```

列テンプレート OrderDate を作成します。 DEFINE COLUMN ステートメントによって、列テンプレート OrderDate が作成されます。DATANAME=列属性によって、列テンプレート OrderDate に関連するデータコンポーネントにおける列 OrderDate の名前が、指定されます。DEFINE HEADER ステートメントによって、ヘッダーテンプレート Bar が作成されます。TEXT ステートメントによって、ヘッダーで使用するテキスト“Order Date”が、指定されます。最初の END ステートメントによって、ヘッダーテンプレートが終了します。HEADER ステートメントによって、Bar がテーブルのヘッダーとして宣言されます。2 番目の END ステートメントによって、列テンプレートが終了します。

```
define column OrderDate;
dataname=Order_Date;
define header bar;
text "Order Date";
end;
header=bar;
end;
```

列テンプレート ShipDate を作成します。 DEFINE COLUMN ステートメントによって、列テンプレート ShipDate が作成されます。DATANAME=列属性によって、列テンプレート ShipDate に関連するデータコンポーネントにおける列テンプレート ShipDate の名前が、指定されます。DEFINE HEADER ステートメントによって、ヘッダーテンプレート Bar が作成されます。TEXT ステートメントによって、ヘッダーで使用するテキスト“Ship Date”が、指定されます。END ステートメントで、ヘッダーテンプレートが終了します。HEADER ステートメントによって、Bar がテーブルのヘッダーとして宣言されます。2 番目の END ステートメントによって、列テンプレートが終了します。

```
define column ShipDate;
dataname=Ship_Date;
```

```

define header bar;
text "Ship Date";
end;
header=bar;
end;

```

列テンプレート SaleType を作成します。 DEFINE COLUMN ステートメントによって、列テンプレート SaleType が作成されます。DATANAME=列属性によって、列テンプレート SaleType に 関連するデータコンポーネントにおける列テンプレート SaleType の名前が、指定されます。DEFINE HEADER ステートメントによって、ヘッダーテンプレート Bar が作成されます。TEXT ステートメントによって、ヘッダーで使用するテキスト“Sale Type”が、指定されます。最初の END ステートメントによって、ヘッダーテンプレートが 終了します。HEADER ステートメントによって、Bar がテーブルのヘッダーとして宣言されます。2 番目の END ステートメントによって、列テンプレートが終了します。

```

define column SaleType;
dataname=Sale_Type;
define header bar;
text "Sale Type";
end;
header=bar;
end;

```

テーブルテンプレートを終了します。 END ステートメントによって、テーブルテンプレートが終了します。RUN ステートメントによって、TEMPLATE プロシジャが実行されま

```

end;
run;

```

データコンポーネントを作成します。 この DATA ステップでは、データセットは作成されません。その代わりに、出力オブジェクトを作るのに使用されるデータコンポーネントが、作成されます。SET ステートメントによって、データセット Work.Exprev が読み込まれま

```

data _null_;
set work.exprev;

```

DATA ステップを経由して ODS にたどりつき、そして Checkerboard テーブルテンプレートを使用します。 FILE ステートメントにおける ファイルレフ PRINT と ODS オプションの組み合わせによって、DATA ステップを経由して ODS にたどりつきます。TEMPLATE=サブオプションでは、ODS によって、Checkerboard という名前のテーブルテンプレートが使用されます。

```

file print ods=(template="Checkerboard");
put _ods_;
run;

```

PDF 出力の作成を停止します。 ODS HTML CLOSE ステートメントによって、HTML 出力先とそれに関連するすべてのファイルが閉じます。ODS PDF CLOSE ステートメントによって、PDF 出力先とそれに関連するすべてのファイルが 閉じます。出力を見る前に、PDF 出力先を閉じる必要があります。

```

ods html close;
ods pdf close;
ods html;

```

出力

Output 14.12 HTML 出力(Internet Explorer 6.0 で表示)

The screenshot shows a window titled "Results Viewer - SAS Output" containing a table with a checkerboard background. The table has a green header row and alternating yellow and white rows. The columns are Country, Order Date, Ship Date, and Sale Type. The data rows list various countries and their corresponding dates and sale types.

Checkerboard Table Template			
Country	Order Date	Ship Date	Sale Type
Antarctica	1/1/05	1/7/05	Internet
Puerto Rico	1/1/05	1/5/05	Catalog
Virgin Islands (U.S.)	1/1/05	1/4/05	In Store
Aruba	1/1/05	1/4/05	Catalog
Bahamas	1/1/05	1/4/05	Catalog
Bermuda	1/1/05	1/4/05	Catalog
Belize	1/2/05	1/2/05	In Store
British Virgin Islands	1/2/05	1/5/05	Catalog
Canada	1/2/05	1/5/05	Catalog
Cayman Islands	1/2/05	1/2/05	In Store
Costa Rica	1/2/05	1/6/05	Internet
Cuba	1/2/05	1/2/05	Internet
Dominican Republic	1/2/05	1/2/05	Internet
El Salvador	1/2/05	1/6/05	Catalog
Guatemala	1/2/05	1/2/05	In Store
Haiti	1/2/05	1/2/05	Internet
Honduras	1/2/05	1/2/05	Internet
Jamaica	1/2/05	1/4/05	In Store
Mexico	1/2/05	1/2/05	In Store
Montserrat	1/2/05	1/2/05	In Store

Output 14.13 PDF 出力(Acrobat Reader 5.0 で表示)

Checkerboard Table Template			
Country	Order Date	Ship Date	Sale Type
Antarctica	1/1/05	1/7/05	Internet
Puerto Rico	1/1/05	1/5/05	Catalog
Virgin Islands (U.S.)	1/1/05	1/4/05	In Store
Aruba	1/1/05	1/4/05	Catalog
Bahamas	1/1/05	1/4/05	Catalog
Bermuda	1/1/05	1/4/05	Catalog
Belize	1/2/05	1/2/05	In Store
British Virgin Islands	1/2/05	1/5/05	Catalog
Canada	1/2/05	1/5/05	Catalog
Cayman Islands	1/2/05	1/2/05	In Store
Costa Rica	1/2/05	1/6/05	Internet
Cuba	1/2/05	1/2/05	Internet
Dominican Republic	1/2/05	1/2/05	Internet
El Salvador	1/2/05	1/6/05	Catalog
Guatemala	1/2/05	1/2/05	In Store
Haiti	1/2/05	1/2/05	Internet
Honduras	1/2/05	1/2/05	Internet
Jamaica	1/2/05	1/4/05	In Store
Mexico	1/2/05	1/2/05	In Store
Montserrat	1/2/05	1/2/05	In Store

Example 6: マスタテンプレートの作成

Features: DEFINE TABLE ステートメント
 CELLSTYLE AS ステートメント: STYLE_変数
 CELLSTYLE AS ステートメント: _ROW_変数
 DEFINE COLUMN ステートメント
 CELLSTYLE AS ステートメント: _VAL_変数
 STYLE=列属性ステートメント
 DEFINE HEADER ステートメント

STYLE=列属性ステートメント
LINK ステートメント

詳細

次のプログラムによって、Base.Template.Table、Base.Template.Column、Base.Template.Header、Base.Template.Footer という4つのテーブル用マスターテンプレートが作成されます。これらのテンプレートには、青と緑の交互の色、およびヘッダーとフッター用の特定スタイルを作成するスタイル情報が、含まれています。マスターテンプレートは、ひとたび作成されると、マスターテンプレートを意図的に除去したり、PROC TEMPLATE で作成された他のテーブルテンプレートで無効にしたりしない限り、SAS で作成されたあらゆるテーブルに適用されます。

プログラム

```

title;
options nodate nostimer LS=78 PS=60;

proc template;
define table base.template.table;
cellstyle mod(_row_, 2) and _style_ ^= "RowHeader" as {background=blue
color=white},
mod(_row_, 2) and _style_ = "RowHeader" as {background=green
color=white};
end;

define column base.template.column;
style={fontstyle=italic};
cellstyle _val_ > 5 as {fontsize=15pt},
_val_ = "Num" as {fontsize=20pt};
end;

define header base.template.header;
style={fontsize=20pt color=purple};
end;
link base.template.footer to base.template.header;
run;

ods select variables;
proc contents data=sashelp.class;
run;

proc template;
delete base.template.table;
delete base.template.column;
delete base.template.header;
delete base.template.footer;

run;

```

Program Description

SAS システムオプションを設定します。

```

title;
options nodate nostimer LS=78 PS=60;

```

マスター親 Base.Template.Table を作成し、**行の異なるセルに使用するスタイル要素とスタイル属性をどれにするかを、指定します。** DEFINE TABLE スタイルによって、マスター親 Base.Template.Table が作成されます。このテンプレートは、PROC TEMPLATE で作成された他のテンプレートによって無効にされたり、DELETE ステートメントで削除されたり、あるいはアイテムストアから手動で除外されたりしない限り、SAS で作成されたあらゆるテンプレートに適用されます。CELLSTYLE-AS ステートメントによって、テーブルの各行のセルで使用できるスタイル要素とステートメント属性が指定されます。これはシステムにおける行の色を交互に作成するものです。行が偶数の番号で、RowHeader という名のスタイル要素が含まれていない場合、セルは背景色が緑で、フォント色が白になります。同様に、行が偶数番号で、RowHeader という名のスタイル要素が含まれている場合、セルは青の背景色と白のフォント色になります。

```
proc template;
define table base.template.table;
cellstyle mod(_row_, 2) and _style_ ^= "RowHeader" as {background=blue
color=white},
mod(_row_, 2) and _style_ = "RowHeader" as {background=green
color=white};
end;
```

マスター親 Base.Template.Column を作成し、**列の異なるセルで使用できるスタイル要素とスタイル属性をどれにするかを、指定します。** DEFINE TABLE スタイルによって、マスター親 Base.Template.Column が作成されます。このテンプレートは、PROC TEMPLATE で作成された他のテンプレートによって無効にされたり、DELETE ステートメントで削除されたり、あるいはアイテムストアから手動で除外されたりしない限り、SAS で作成されたあらゆるテンプレートに適用されます。STYLE=列属性 ステートメントによって、列のフォントがイタリックになるように指定されます。最初の CELLSTYLE-AS ステートメントによって、セルの値が 5 より大きい場合はフォントサイズを 15pt に、セルが "Num"、と同じ場合はフォントサイズが 20pt になるように、指定されます。

```
define column base.template.column;
style={fontstyle=italic};
cellstyle _val_ > 5 as {fontsize=15pt},
_val_ = "Num" as {fontsize=20pt};
end;
```

マスター親 Base.Template.Header を作成し、**ヘッダーとフッターのフォントサイズとフォント色を指定します。** DEFINE TABLE ステートメントによって、マスター親 Base.Template.Header が作成されます。STYLE=ヘッダー属性ステートメントによって、ヘッダーのフォントが 20pt と紫色に指定されます。LINK ステートメントによって、Base.Template.Footer マスターテンプレートが作成され、文字が引き継がれる Base.Template.Header テンプレートにリンクされます。Base.Template.Header および Base.Template.Footer は、PROC TEMPLATE で作成された他のテンプレートによって無効にされたり、DELETE ステートメントで削除されたり、あるいはアイテムストアから手動で除外されたりしない限り、SAS で作成されたあらゆるテンプレートに適用されます。

```
define header base.template.header;
style={fontsize=20pt color=purple};
end;
link base.template.footer to base.template.header;
run;
```

SAS データセットのコンテンツを見ます。CONTENTS プロシジャによって、SAS データセット SasHelp.Class のコンテンツが表示されます。

```
ods select variables;
proc contents data=sashelp.class;
run;
```

マスタテンプレートを削除します。DELETE ステートメントで、各マスタテンプレートが削除できます。それを削除しない場合、削除するまでは、すべてのテーブル出力に適用されます。

```
proc template;
delete base.template.table;
delete base.template.column;
delete base.template.header;
delete base.template.footer;

run;
```

出力

Output 14.14 HTML 出力のマスタテンプレートを使用

#	Variable	Type	Len
3	Age	Num	8
4	Height	Num	8
1	Name	Char	8
2	Sex	Char	1
5	Weight	Num	8

Example 7: テーブルヘッダーおよびフッターの境界線のフォーマット

Features: 境界線でスタイル属性が制御されます。

BORDERBOTTOMCOLOR=
 BORDERBOTTOMSTYLE=
 BORDERBOTTOMWIDTH=
 BORDERTOPCOLOR=
 BORDERTOPSTYLE=
 BORDERTOPWIDTH=

DEFINE ステートメント

DEFINE STYLE ステートメント

EDIT ステートメント

FOOTER ステートメント

HEADER ステートメント

PARENT=ステートメント

PREFORMATTED=ヘッダー属性

STYLE ステートメント

WIDTH=ヘッダー属性

Other features: その他の ODS 機能

ODS RTF
 ODS SELECT

Data set: [Stats](#) および [Stats2](#)

詳細

テーブルヘッダーとフッターのまわりの領域の境界線を変更するために、境界線制御スタイル属性とともに、TableHeaderContainer および TableFooterContainer スタイル要素を使用できます。

Note: TableHeaderContainer および TableFooterContainer スタイル要素は、RTF 出力先においてのみ有効です。

プログラム

```
options nodate nonumber;

title "TableHeaderContainer, TableFooterContainer, and Border Control Style
Attributes";
title2 "Allows Control of Borders Between the Header, Body, and Footer of a
Table";

ods html close;

proc template;
define style HeadersFootersBorders;
parent=styles.rtf;

style TableHeaderContainer from TableHeaderContainer /
borderbottomwidth=12
borderbottomcolor=blue
borderbottomstyle=dotted;
```

```

style TableFooterContainer from TableFooterContainer /
bordertopwidth=6
bordertopcolor=red
bordertopstyle=double;

style table from table /
cellspacing=0 rules=groups frame=void;
end;
run;

proc template;
edit Base.Datasets.Members;
header hdl;
footer ftl;
define hdl;
preformatted=on;
just=l;
text " Table Header with Leading and Trailing Blanks ";
end;
define ftl;
preformatted=on;
just=l;
text " Table Footer with Leading and Trailing Blanks ";
end;
edit name;
define header myheader;
just=l;
preformatted=on;
text " My new header";
end;
header=myheader;
width=memname_width width_max=memname_width_max;
preformatted=on;
end;
end;
run;

ods rtf file="headerfooters.rtf" style=HeadersFootersBorders;
ods select members;
proc datasets lib=work;
run;
quit;

ods rtf close;

```

Program Description

SAS システムオプションを設定し、タイトルを指定します。 OPTIONS ステートメントによって SAS システムオプションが設定され、TITLE ステートメントによって出力のタイトルが指定されます。

```

options nodate nonumber;

title "TableHeaderContainer, TableFooterContainer, and Border Control Style
Attributes";
title2 "Allows Control of Borders Between the Header, Body, and Footer of a
Table";

```

HTML 出力先を閉じます。 ODS HTML CLOSE ステートメントによって、システムリソースを保存するために、HTML 出力先が閉じます。

```
ods html close;
```

新しいスタイル HeadersFootersBorders を作成します。 PROC TEMPLATE によって、TEMPLATE プロシジャが開始します。DEFINE STYLE ステートメントによって、スタイル HeadersFootersBorders が作成されます。PARENT=ステートメントによって、新しいスタイルが、Styles.RTF スタイルから そのすべてのスタイル要素とスタイル属性を引き継ぐように、指定されます。

```
proc template;
define style HeadersFootersBorders;
parent=styles.rtf;
```

TableHeaderContainer スタイル要素を変更します。 指定された FROM オプションを使用する STYLE ステートメントによって、Styles.RTF スタイルにおける TableHeaderContainer の例からすべてのスタイル要素とスタイル属性を引き継いだスタイル要素 TableHeaderContainer が、作成されます。BORDERBOTTOMWIDTH=、BORDERBOTTOMCOLOR=および BORDERBOTTOMSTYLE=スタイル属性によって、テーブルヘッダーの 底部境界線の幅、色および線のスタイルが、指定されます。

```
style TableHeaderContainer from TableHeaderContainer /
borderbottomwidth=12
borderbottomcolor=blue
borderbottomstyle=dotted;
```

TableFooterContainer スタイル要素を変更します。 指定された FROM オプションを使用する STYLE ステートメント によって、Styles.RTF スタイルにおける TableFooterContainer の例から すべてのスタイル要素とスタイル属性を引き継いだスタイル要素 TableFooterContainer が 作成されます。BORDERTOPWIDTH=、BORDERTOPCOLOR=および BORDERTOPSTYLE=スタイル属性によって、テーブルフッターの 上部境界線の幅、色および線のスタイルが、指定されます。

```
style TableFooterContainer from TableFooterContainer /
bordertopwidth=6
bordertopcolor=red
bordertopstyle=double;
```

テーブルスタイル要素を変更します。 指定された FROM オプションを使用する STYLE ステートメント によって、Styles.RTF スタイルにおける Table の例からすべての スタイル要素とスタイル属性を引き継いだスタイル要素 Table が 作成されます。CELLSPACING=、RULES=および FRAME=属性によって、セルスペーシング、ルールおよびテーブルのフレームが変更されます。

```
style table from table /
cellspacing=0 rules=groups frame=void;
end;
run;
```

Base.Datasets.Members テーブルテンプレートを編集します。 テーブルテンプレート DEFINE ステートメントおよび 属性とともに、EDIT ステートメントによって、Base.Datasets.Members テーブルテンプレートが 変更されます。

```
proc template;
edit Base.Datasets.Members;
header hdl;
footer ftl;
```

```

define hdl;
preformatted=on;
just=l;
text" Table Header with Leading and Trailing Blanks ";
end;
define ftl;
preformatted=on;
just=l;
text" Table Footer with Leading and Trailing Blanks ";
end;
edit name;
define header myheader;
just=l;
preformatted=on;
text " My new header";
end;
header=myheader;
width=memname_width width_max=memname_width_max;
preformatted=on;
end;
end;
run;

```

RTF ファイルを作成し、出力オブジェクトを選び、PROC DATASETS を実行します。 ODS RTF ステートメントによって、RTF 出力を含むファイルが指定されます。STYLE=オプションによって、出力に適用されるスタイルが指定されます。ODS SELECT ステートメントによって、オープン出力先に送られる出力オブジェクト Members が、選択されま

```

ods rtf file="headerfooters.rtf" style=HeadersFootersBorders;
ods select members;
proc datasets lib=work;
run;
quit;

```

オープン出力先を閉じ、リスト出力先を開きます。 ODS _ALL_ CLOSE ステートメントによって、すべてのオープン出力先とそれに関連するファイルが閉じられます。出力先を閉じない場合、ファイルを見ることはできません。ODS リストステートメントによって、リスト出力先が開かれます。

```
ods rtf close;
```

RTF 出力

Output 14.15 カスタムヘッダーとフッターのある RTF 出力

*TableHeaderContainer, TableFooterContainer, and Border Control Style Attributes
Allows Control of Borders Between the Header, Body, and Footer of a Table*

Table Header with Leading and Trailing Blanks				
		Member		
#	My new header	Type	File Size	Last Modified
1	STATS	DATA	5120	19Oct10:14:31:34
2	STATS2	DATA	5120	19Oct10:14:31:34
Table Footer with Leading and Trailing Blanks				

15 章

TEMPLATE プロシジャ: マークアップ言語のタグセットの作成

概要: ODS タグセットと TEMPLATE プロシジャ	1166
概念: マークアップ言語と TEMPLATE プロシジャ	1166
タグセットについて	1166
カスタムタグセットの作成	1170
構文: TEMPLATE プロシジャ: マークアップ言語のタグセットの作成	1174
DEFINE TAGSET ステートメント	1177
DEFINE EVENT ステートメント	1184
BLOCK ステートメント	1186
BREAK ステートメント	1187
CLOSE ステートメント	1187
CONTINUE ステートメント	1188
DELSTREAM ステートメント	1188
DO ステートメント	1188
DONE ステートメント	1189
ELSE ステートメント	1189
END ステートメント	1190
EVAL ステートメント	1190
FLUSH ステートメント	1191
ITERATE ステートメント	1192
NDENT ステートメント	1193
NEXT ステートメント	1193
NOTES ステートメント	1194
OPEN ステートメント	1194
PUT ステートメント	1195
PUTL ステートメント	1197
PUTLOG ステートメント	1198
PUTQ ステートメント	1199
PUTSTREAM ステートメント	1201
PUTVARS ステートメント	1201
SET ステートメント	1203
STOP ステートメント	1207
TRIGGER ステートメント	1207
UNBLOCK ステートメント	1208
UNSET ステートメント	1208
XDENT ステートメント	1210
イベント変数	1211
イベントステートメントの条件	1216
例: TEMPLATE プロシジャ: マークアップ言語のタグセットの作成	1218
例 1: 継承からのタグセットの作成	1218

例 2: タグセットのソースをコピーしてタグセットを作成します。.....	1224
例 3: タグセットの新規作成.....	1228
例 4: TRIGGER=ステートメントを使用したイベントの実行.....	1232
例 5: 出力のインデント.....	1234
例 6: イベントに対する複数のスタイルを使用.....	1237
例 7: 他のスタイルシートを含むように、イベントの変更.....	1240
例 8: タグセットでの STACKED_COLUMNS 属性の使用.....	1240

概要: ODS タグセットと TEMPLATE プロシジャ

TEMPLATE プロシジャを使用すると、タグセットを作成できます。タグセットとは、SAS 出力からマークアップ言語の出力タイプを生成する方法を定義するテンプレートです。タグセットを指定すると、ODS からマークアップ言語出力を作成できます。SAS では、各種マークアップ言語出力にタグセットを提供しています。たとえば、SAS では XML 出力、HTML 出力、XSL などに数種類のタグセットが提供されます。TEMPLATE プロシジャを使用すると、任意の SAS タグセットを変更したり、カスタムマークアップ言語のタグセットを作成したりすることができます。

Output Delivery System では、SAS 出力のマーキングに指定タグセットが使用されます。この出力はオンラインブラウザやビューアを使用して表示できます。

TEMPLATE プロシジャで使用される用語の詳細は、“[TEMPLATE プロシジャの使用](#)” (846 ページ)を参照してください。

概念: マークアップ言語と TEMPLATE プロシジャ

タグセットについて

タグセット名のリスト

SAS 提供の一連のタグセット。SAS 提供のタグセットおよびユーザーが作成して Sashelp.Tmplmst テンプレートストアに保存したタグセットのリストを取得するには、次の SAS ステートメントを送信してください。

```
proc template;
list tagsets;
run;
```

デフォルトでは、PROC TEMPLATE によって、Sashelp.Tmplmst および Sasuser.Templat 内のタグセットがリストで表示されます。通常、SAS タグセットディレクトリが保存されている Sashelp.Tmplmst アイテムストアには、読み取り専用アクセス権が設定されています。Sasuser.Templat は、ユーザーが作成またはカスタマイズするタグセットがデフォルトで保存されるアイテムストアです。

タグセット名の指定

Sashelp.Tmplmst に保存された SAS タグセットや、ユーザーが作成して Sasuser.Templat に保存したタグセットを指定するには、2 レベルの名前 (Tagsets.tagset-name)を使用します。たとえば、Tagsets.Chtml または Tagsets.Mytagset は、2 レベルのタグセット名として有効です。デフォルトでは、SAS によって、指定したタグセットが Sashelp.Tmplmst または Sasuser.Templat に保存されることが認識されません。

ユーザーが作成し、Sasuser.Templat 以外のアイテムストアに保存したタグセットを指定するには、ODS PATH ステートメントを使用して ODS 検索パスにアイテムストアを割り当てます。ODS PATH ステートメントの詳細は、“ODS PATH ステートメント” (477 ページ)を参照してください。

タグセットのコンテンツの表示

タグセットのコンテンツを表示するには、SAS ウィンドウ環境または TEMPLATE プロシジャを使用します。

- SAS ウィンドウ環境
 1. メニューから、**表示** ⇒ **結果**を選択します。
 2. **結果**ウィンドウで、**Results** フォルダを選択します。右クリックして**テンプレート**を選択し、**テンプレート**ウィンドウを開きます。
 3. **タグセット**をダブルクリックし、当該アイテムストアまたはディレクトリのコンテンツを表示します。
 4. 表示するタグセットをダブルクリックします。たとえば、CHTML タグセットは CHTML 出力用テンプレートストアです。
- SAS ウィンドウコマンド
 1. **テンプレート**ウィンドウを表示するには、コマンドバーに次のコマンドを送信します。

```
odstemplates
```

テンプレートウィンドウには、アイテムストア Sasuser.Templat および Sashelp.Tmplmst が含まれます。

2. Sashelp.Tmplmst などのアイテムストアをダブルクリックすると、そのアイテムストアが展開し、ODS テンプレートの保存先のディレクトリがリストで表示されます。SAS によって提供されるテンプレートは、アイテムストア Sashelp.Tmplmst 内にあります。
 3. SAS によって提供されるタグセットを表示するには、**タグセット**アイテムストアをダブルクリックします。
 4. Rtf などのタグセットを右クリックし、**開く**を選択します。タグセットが**テンプレートブラウザ**ウィンドウに表示されます。
- TEMPLATE プロシジャ

タグセットのソースを確認するには、PROC TEMPLATE を使用して 2 レベルのタグセット名を指定します。たとえば、CHTML 出力を生成する SAS タグセットのソースを表示するには、次の SAS ステートメントを送信します。

```
proc template;
source tagsets.chtml;
```

Tagsets.Chtml のソースは、次の要素から構成されます。

- タグセットに名前を付ける DEFINE TAGSET ステートメント
- 出力ファイルに書き込むコンテンツを定義するイベント
- 改行に使用する出力タイプや文字などのタグセット属性

イベントについて

タグセットは、一連のイベントと変数を用いて出力生成を制御します。イベントは出力ファイルに書き込むコンテンツを定義します。次はイベントに関するキーポイントの一部です。

- イベントには固有の名前があります。ODS 出力を生成する SAS プロシジャでは、イベントの標準セットが使用されます。これは、カスタマイズしたタグセットで再定義するとカスタマイズできます。また、カスタムイベントを定義できます。
- DEFINE EVENT ステートメントによって、名前がイベントに割り当てられます。
- イベントには、開始セクション、終了セクション、またはその両方が含まれます。これらのセクションによって、さまざまなアクションが指定されます。イベントに開始セクションも終了セクションも含まれない場合、イベントでは処理状態が認識されません。いかなる方法でイベントを呼び出しても、イベント内の全アクションが実行されます。イベントに終了セクションが含まれる場合、終了セクションの上にステートメントがある場合、開始セクションがあると仮定されます。
- イベントでは、TRIGGER ステートメントを使用することで別のイベントを実行できます。イベントの開始セクションから、トリガされた任意のイベントもその開始セクションを実行します。終了セクションから、トリガされたイベントはその終了セクションを実行します。トリガされたイベントに開始セクションも終了セクションも含まれない場合、イベントは含まれるステートメントを実行します。また、トリガはイベントの特定セクションを明示的にリクエストできます。“例 4: TRIGGER=ステートメントを使用したイベントの実行” (1232 ページ)を参照してください。
- イベントは条件に基づいてアクションを実行できます。
- イベントは、PUT ステートメント、テキスト、イベント変数から構成されます。

たとえば、次は HTML テーブル出力のシンプルなイベントです。

```
define event table; 1
start: 2
put '<table>' nl;
finish:
put '</table>' nl;
end;
```

イベントでは、

- 1 DEFINE EVENT ステートメントによってイベントが開始され、名前 TABLE が割り当てられます。
- 2 START セクションによってイベントの開始部が定義され、FINISH セクションによってイベントの終了部が定義されます。ODS は開始と終了を定義する方法を認識する必要があるため、テーブルのイベントには START および FINISH セクションが必要になります。また、ODS は、他のイベントが表の行と列をフォーマットする方法を定義することを予想します。PUT ステートメントによって、タグ<table>および</table>が出力ファイルに書き込まれるよう指定されると共に、各タグの後に新しい行を追加するよう指定されます。

次のイベントには、開始および終了セクションが含まれません。PUT ステートメントによって、タグ<TD>および</TD>が出力ファイルに書き込まれるよう指定されます。また、SAS プロシジャまたはデータからデータ値が出力ファイルに書き込まれるよう、イベント変数 VALUE が使用されます。データ値は<TD>および</TD>タグで囲まれます。

```
define event data;
put '<TD>';
put VALUE;
put '</TD>';
end;
```

変数について

変数とは、データの保持に使用されるプログラミング構造です。変数では、新しい値を割り当てるかプログラムを終了するまで、割り当てられたデータが保持されます。各変数には固有の値が含まれ、リクエストされた出力を処理するための内部情報(ODS または XML LIBNAME エンジンによって使用されるメタデータ)か、または出力自体に直接関連する情報のいずれかが保持されます。たとえば、変数 COLCOUNT には出力内の列数の値が保持され、変数 DATE には日付が保持されます。

タグセットによって使用される変数は、内部生成型とユーザー定義型の 2 つのグループに分類されます。

内部生成変数の論理的区分は次の 3 種類です。

イベント変数

テキスト、フォーマット、データ値を含む変数。この変数の送信元は、テーブルプレート、プロシジャ、タイトル、BYLINE 処理などのさまざまな場所になります。

スタイル変数

1 つの表示部分の値を指定する変数。スタイル変数は、現在使用中の ODS スタイル属性によって指定されます。スタイル変数がその他のイベント変数と異なる点は、その送信元の場所が正確に把握できるということです。スタイル属性の詳細は、13 章、「TEMPLATE プロシジャ: スタイルテンプレートの作成」(942 ページ)を参照してください。

動的変数

SAS 内で動的に作成される変数。この変数は動的に作成されるため、その名前または作成方法は不明です。この変数が動的なのは、ODS ではなく、SAS/GRAPH や XML LIBNAME エンジンなどのアプリケーションによって定義されるためです。動的変数は、前に付く@記号によって指定されます。動的変数のリスト表示は、DYNAMIC ステートメントによって行われます。SAS/GRAPH の詳細は、*SAS/GRAPH: Reference* を参照してください。

ユーザーが作成する変数には次の 5 種類があります。

ディクショナリ変数

キーごとに識別可能な数値やテキスト文字列のリストが含まれる配列。ディクショナリ変数には、その名前の一部として、前に '\$' 記号とサブスクリプト(テキスト文字列または文字値を持つ変数を含む)が含まれます。サブスクリプト内のテキスト文字列または変数はキーと呼ばれます。キーは大文字と小文字が区別されます。ディクショナリ変数が作成されると、すべてのイベントで全体的に使用できるようになり、UNSET ステートメントで設定を解除するまで保持されます。

たとえば、次のディクショナリ変数は、テキスト'dog': \$MyDictionary['dog']を含む \$MyDictionary 変数内のエントリを示します。この例では、キーは'dog'です。ディクショナリ変数には、ITERATE および NEXT ステートメントを使用すると連続アクセスできます。

リスト変数

インデックス付きの数値やテキスト文字列のリストが含まれる配列。リスト変数には、その名前的一部分として、前に '\$' 記号とサブスクリプト(空白または数値や数値変数が含まれる)が含まれます。サブスクリプト内の数値はインデックスと呼ばれます。この変数が作成されると、すべてのイベントでリスト変数が全体的に使用できるようになり、UNSET ステートメントで設定を解除するまで保持されます。

リストエントリには、正または負のインデックスを使用してアクセスできます。正のインデックスは、リストの先頭から開始されます。負のインデックスは、リストの最後から開始されます。たとえば、リスト変数 \$Mylist[2] は、リスト変数 \$Mylist 内の 2 番目のエントリを示します。この場合、インデックスは 2 です。リスト変数 \$Mylist[-2] は、リスト変数 \$Mylist の終了から 2 番目のエントリを示します。この場合、インデックスは [-2] です。リスト変数には、ITERATE および NEXT ステートメントを使用すると連続アクセスできます。

マクロ変数

SAS マクロプログラミング言語の一部となる変数。マクロ変数は、MVAR または NMVAR ステートメントを使用して指定する必要があります。宣言後、マクロ変数はイベント内のどこでも使用できるようになります。詳細は、“[MVAR Statement](#)” (1114 ページ)を参照してください。“[NMVAR Statement](#)” (1115 ページ)も参照してください。

メモリ変数

数値データ、文字データ、または数値/文字データを含むメモリー領域。メモリ変数は、キーを含むサブスクリプトを使用して作成する場合にはディクショナリ変数として分類されます。メモリ変数は、空白またはインデックスを含むサブスクリプトを使用して作成する場合にはリスト変数として分類されます。キー/インデックスを指定しない場合、変数の値に応じてメモリ変数は数値または文字スカラー変数になります。

スカラー変数

数値/文字データを含むメモリー領域。スカラー変数は、前に '\$' 記号を付ける必要があります。スカラー変数が作成されると、すべてのイベントで全体的に使用できるようになり、UNSET ステートメントで設定を解除するまで保持されます。

ストリーム変数

出力を含む一時アイテムストア。ストリーム変数が開放されている間、PUT ステートメントからの全出力は閉鎖されるまで直接移動されます。ストリーム変数は、OPEN または PUTSTREAM ステートメントを使用する場合を除き、前に '\$\$' 記号を付ける必要があります。ストリーム変数は、SET、EVAL、OPEN ステートメントを使用して、DEFINE EVENT ステートメント内に作成されます。ストリーム変数がその他の変数と異なる点は、非常に膨大な量のデータを保持できることです。非常に膨大な量のデータを保持できる理由は、ストリーム変数のサイズが大きくなると、必要に応じてディスクに書き込まれていくからです。

イベント変数とその値の表示

変数によってデータが表示されるため、その値は SAS プロシジャやジョブに応じて表示される場合もあれば、表示されない場合もあります。たとえば、一部の変数に値が含まれるのは、プロシジャオプションまたはスタイルオプションによって指定される場合に限ります。その他の変数では、出力内の列数などの内部情報が必要になるため、値が含まれます。たとえば、Tagsets.Chtml にはイベント COLSPECS が含まれ、出力内の列数が ODS によって認識されるようイベント変数 COLCOUNT が使用されません。

```
define event colspecs;
put '<p>' nl '<table>';
putq ' columns=' COLCOUNT;
put ' cellpadding=2 border=1>' nl;
end;
```

どの変数が値を持ち、その値が何であるかを判定するには、EVENT_MAP ステートメントを使用して SAS プログラムに送信します。詳細は、“[Event Map タグセットを使用したタグセットの定義](#)” (1171 ページ)を参照してください。イベント変数とその説明のリストは、“[イベント変数](#)” (1211 ページ)を参照してください。

カスタムタグセットの作成

カスタムタグセットの作成方法

タグセットを作成するには、TEMPLATE プロシジャを使用してタグセットを定義します。通常、カスタムタグセットを作成する場合には次の 3 つの方法を使用できます。

- 継承からタグセットの作成。

- 既存タグセットをコピーしてから変更。
- カスタムタグセットの定義。

タグセットにおけるイベントの継承

タグセットは相互にイベントのを継承できます。たとえば、SAS タグセット Tagsets.Wmlolist では、Tagsets.Wml からそのイベントの大半が継承され、Tagsets.Imode では Tagsets.Chtml からそのイベントの大半が取得されます。新しいタグセットを定義する場合は、既存タグセットからイベントを継承するのが最も簡単な方法です。

イベントを継承するには、タグセットで DEFINE TAGSET ステートメント内の PARENT=属性を使用し、継承元のタグセットの名前を指定します。タグセットに親を指定する場合、親のテンプレートで指定されるタグセットオプション、属性、ステートメントのすべてが新しいテンプレートで使用されます(ただし、新しいテンプレートによって上書きされない場合に限ります)。つまり、新しいタグセットでは、親タグセットで定義されるイベントと同じ名前のイベントの処理はイベントで上書きできます。たとえば、親タグセットで TABLE という名前のイベントが定義される場合、TABLE という名前のイベントを再定義すると、新しいタグセット内で処理を変更できます。

タグセットにおけるイベントの継承に関する例は、“[例 1: 継承からのタグセットの作成](#)” (1218 ページ)を参照してください。

Event_Map タグセットを使用したタグセットの定義

ODS 出力を生成する SAS プロシジャでは、イベントおよび変数の標準セットが使用されます。カスタマイズされた出力を生成するには、カスタマイズされたイベントを使用してカスタマイズされたタグセットを作成します。ただし、イベントをカスタマイズするためには、ODS によって使用されるイベントの名前を認識する必要があります。

カスタマイズされたタグセットの定義を始めるに当たっては、SAS によって提供される Event_Map タグセットを使用することをお勧めします。この方法を用いると、SAS プロセスから出力ファイルを送信する上で、どのイベントがトリガされ、どの変数がイベントによって使用されるかを判定できます。Tagsets.Event_Map を使用して SAS プロセスを実行すると、ODS によって XML マークアップが出力ファイルに書き込まれます。この出力ファイルでは、タグとしてすべてのイベント名と変数名が表示されます。出力では、タグ名はイベント名になります。タグ属性は、当該イベントの値を持つ変数です。

たとえば、次のステートメントによって TYPE=Event_Map を用いて ODS MARKUP が実行され、PROC PRINT 出力のさまざまなパートにどのイベントと変数が ODS によって使用されるかが表示されます。

```
ods listing;
ods markup type=event_map file='custom-tagset-filename.xml';

proc print data=sashelp.class;
where Height gt 60;
run;

ods markup close;
ods listing close;
```

次は LISTING 出力とその結果の XML ファイルです。

アウトプット 15.1 LISTING 出力

```
The SAS System 1

Obs Name Sex Age Height Weight

1 Alfred M 14 69.0 112.5
3 Barbara F 13 65.3 98.0
4 Carol F 14 62.8 102.5
5 Henry M 14 63.5 102.5
8 Janet F 15 62.5 112.5
9 Jeffrey M 13 62.5 84.0
12 Judy F 14 64.3 90.0
14 Mary F 15 66.5 112.0
15 Philip M 16 72.0 150.0
16 Robert M 12 64.8 128.0
17 Ronald M 15 67.0 133.0
19 William M 15 66.5
112.0
```


アウトプット 15.2 XML ファイル

```

<?xml version='1.0' encoding='windows-1252'?>

<doc operator='user' sasversion='9.1' saslongversion='9.01.01B0D06102003'
date='2003-06-11' time='15:55:02' encoding='windows-1252' event_name='doc'
trigger_name='attr_out' class='Body' index='IDX' just='c'>
<doc_head event_name='doc_head' trigger_name='attr_out' class='Body'
index='IDX' just='c'>
<doc_meta event_name='doc_meta' trigger_name='attr_out' class='Body'
index='IDX' just='c' />
<auth_oper event_name='auth_oper' trigger_name='attr_out' class='Body'
index='IDX' just='c' />
<doc_title event_name='doc_title' trigger_name='attr_out' class='Body'
index='IDX' just='c' />
<stylesheet_link event_name='stylesheet_link' trigger_name='attr_out'
index='IDX' just='c' />
<javascript event_name='javascript' trigger_name='attr_out' class='Body'
index='IDX' just='c'>
<startup_function event_name='startup_function' trigger_name='attr_out'
class='StartupFunction' index='IDX' just='c'>
</startup_function>
<shutdown_function event_name='shutdown_function'
trigger_name='attr_out'
class='ShutdownFunction' index='IDX' just='c'>
</shutdown_function>
</javascript>
</doc_head>
<doc_body event_name='doc_body' trigger_name='attr_out' class='Body'
index='IDX' just='c'>
<proc event_name='proc' trigger_name='attr_out' name='Print'
index='IDX' just='c'>
<anchor event_name='anchor' trigger_name='attr_out' class='Body'
name='IDX'
index='IDX' just='c' />
<page_setup event_name='page_setup' trigger_name='attr_out'
class='Body'
index='IDX' just='c'>
<system_title_setup_group event_name='system_title_setup_group'
trigger_name='attr_out'
class='Body' colcount='1' index='IDX' just='c'>
<title_setup_container event_name='title_setup_container'
trigger_name='attr_out'
class='SysTitleAndFooterContainer' colcount='1' index='IDX'
just='c'>
<title_setup_container_specs
event_name='title_setup_container_specs' trigger_name='attr_out'
class='SysTitleAndFooterContainer' colcount='1' index='IDX'
just='c'>
<title_setup_container_spec
event_name='title_setup_container_spec' trigger_name='attr_out'
colcount='1' type='string' index='IDX' just='c' width='100%' />
</title_setup_container_specs>
<title_setup_container_row event_name='title_setup_container_row'
trigger_name='attr_out'
colcount='1' index='IDX' just='c'>
<system_title_setup event_name='system_title_setup'
trigger_name='attr_out'
class='SystemTitle' value='The SAS System' colcount='1'
index='IDX' just='c'>
</system_title_setup>
</title_setup_container_row>
</title_setup_container>
</system_title_setup_group>
</page_setup>

...more xml tagged output...

</table_body>
</table>
</output>

```

Event_Map によって生成される XML 出力では、PROC PRINT によって DOC_HEAD、PROC、TABLE などの名前のイベントが使用されます。TABLE イベントでは、イベント変数 STATE、CLASS、TYPE などからのデータが使用されます。出力を生成するイベントと変数を確認したら、タグセットを定義し、イベントをカスタマイズします。たとえば、TABLE イベントを再定義すると、カスタマイズされた出力を生成できます。

出力のカスタマイズに使用するタグセットを定義するには、最初に Tagsets.Event_Map を親タグセットとして指定します。イベントを再定義して出力をカスタマイズすると、当該イベントによって、Event_Map タグセットで定義されたデフォルトイベントが置き換えられます。また、デフォルトイベントの処理を削除するには、それをタグセット内で空のイベントとして再定義します。カスタマイズされた出力に問題がなければ、Event_Map 継承と空イベントを削除します。次に、出力によって定義したイベントのみが反映されます。

注: 最初に SAS プロセスを実行し、TYPE=Event_Map を指定する際、ボディファイルと共にスタイルシートを生成することもできます。スタイルシートでは、使用するスタイル属性が表示されます。

Event_Map の代替

他の種類の出力を作成するには、次のタグセットのいずれかを代替として使用できます。

- Text_Map タグセットを使用すると、LISTING 出力に類似した出力が生成されません。
- Tpl_Style_List タグセットを使用すると HTML が生成され、Tpl_Style_Map タグセットを使用すると XML が生成されます。ただし、これらのタグセットでは、使用可能な属性のサブセットのみがリストで表示されます。
- Style_Popup タグセットを使用すると、HTML CSS に類似した HTML が生成されます。ただし、Internet Explorer では、Style_Popup によってウィンドウが表示され、任意のアイテムをクリックした場合の解決済み ODS スタイル定義が示されます。
- Style_Display タグセットは Style_Popup タグセットに類似していますが、生成されるのはユーザーがクリックできるシンプルなページ出力です。
- NamedHtml タグセットを使用すると、Style_Popup タグセットに類似した HTML 出力が生成されますが、すべてのオブジェクトは ODS TRACE を使用する場合と同じラベルになります。

SAS DATA ステップ関数を使用したタグセットの定義

SAS DATA ステップ関数によって、引数に関する演算またはシステム操作が実行され、値が返されます。Base SAS ソフトウェアで SAS 関数を使用できるのは、DATA ステッププログラミングステートメント、WHERE 式、マクロ言語ステートメント、REPORT プロシジャ、SQL (Structured Query Language)、カスタムタグセットの作成時に使用されるステートメントの中です。関数はタグセット言語内の任意のステートメントで使用できます。DATA ステップ関数およびステートメントの詳細は、*SAS 関数と CALL ルーチン: リファレンス*、*SAS ステートメント: リファレンス*、および *SAS 言語リファレンス: 解説編* を参照してください。

構文: TEMPLATE プロシジャ: マークアップ言語のタグセットの作成

PROC TEMPLATE;

```

DEFINE TAGSET tagset-path </ STORE=ライブラリ参照 .template-store>;
<tagset-attribute-1; <... tagset-attribute-n>>
DEFINE EVENT event-name;
  <event-attribute-1; <event-attribute-n>>
  BLOCK event-name </ event-statement-condition(s)>;
  BREAK </ event-statement-condition(s)>;
  CLOSE </ event-statement-condition(s)>;
  CONTINUE </ event-statement-condition(s)>;
  DELSTREAM $$stream-variable-name </ event-statement-condition(s)>;
  DO </ event-statement-condition(s)>;
  DONE;
  ELSE </ event-statement-condition(s)>;
  Eval $<$>user-defined-variable where-expression </ event-statement-condition(s)>;
  FLUSH </event-statement-condition(s)>;
  ITERATE $dictionary-variable | $list-variable </ event-statement-condition(s)>;
  NDENT </ event-statement-condition(s)>;
  NEXT $dictionary-variable | $list-variable </ event-statement-condition(s)>;
  OPEN $$stream-variable-name </ event-statement-condition(s)>;
  PUT <function> <NL> <variable> <'text' > </ event-statement-condition(s)>;
  PUTL (<variable> | <'text' > | <function> | <NL>) </ event-statement-condition(s)>;
  PUTLOG (<variable> <'text' > <function>) </ event-statement-condition(s)>;
  PUTQ (<variable> | <'text' > | <function> | <NL>) </ event-statement-condition(s)>;
  PUTSTREAM $$stream-variable-name </ event-statement-condition(s)>;
  PUTVARS variable-group variable-group-value </ event-statement-condition(s)>;
  SET $<$>user-defined-variable-name user-defined-variable-value
    </ event-statement-condition(s)>;
  STOP </ event-statement-condition(s)>;
  TRIGGER event-name <START | FINISH> </ event-statement-condition(s)>;
  UNBLOCK event-name </ event-statement-condition(s)>;
  UNSET ALL | $memory-variable | $$stream-variable </ event-statement-condition(s)>;
  XDENT </ event-statement-condition(s)>;
END;
NOTES;
END;

```

ステートメント	タスク	例
“DEFINE TAGSET ステートメント”	タグセットを作成します。	Ex. 1, Ex. 2, Ex. 3, Ex. 4, Ex. 5, Ex. 8
“DEFINE EVENT ステートメント”	出力ファイルに書き込むコンテンツを定義します。	Ex. 1, Ex. 2, Ex. 3, Ex. 4, Ex. 5, Ex. 6, Ex. 7
“BLOCK ステートメント”	イベントを無効にします。	

ステートメント	タスク	例
“BREAK ステートメント”	現在のイベントの実行を停止します。	
“CLOSE ステートメント”	現在のストリーム変数を閉じ、今後の出力をすべて出力ファイルに向けます。	
“CONTINUE ステートメント”	IF イベントステートメント条件を再評価するため、対応する DO ステートメントに DO ループの実行を戻します。	
“DELSTREAM ステートメント”	指定したストリーム変数を削除します。	
“DO ステートメント”	必須条件が true の場合に実行されるステートメントブロックを開始します。	
“DONE ステートメント”	DO または ELSE ステートメントブロックを終了します。	
“ELSE ステートメント”	対応する DO ステートメントが false の場合に実行されるステートメントブロックを開始します。	
“イベントステートメントの条件”	DEFINE EVENT ステートメントを実行するために true にする必要がある複数の条件を指定します。	
“イベント変数”	複数のイベント属性を設定します。	
“END ステートメント”	イベントを終了します。	
“EVAL ステートメント”	ユーザー定義変数を作成または更新します。	
“FLUSH ステートメント”	バッファリングされた出力を現在の出力ファイルまたは現在のストリーム変数に書き込みます。	
“ITERATE ステートメント”	ディクショナリ変数またはリスト変数を通して繰り返し、その値を各繰り返しの _NAME_ および _VALUE_ イベント変数に割り当てます。	
“NDENT ステートメント”	INDENT=属性によって指定されたレベルよりも出力を 1 レベル増やしてインデントします。	Ex. 3, Ex. 5
“NEXT ステートメント”	ディクショナリ変数またはリスト変数を次の値に増分し、イベント変数を再設定します。	
“NOTES ステートメント”	タグセットに関する情報を提供します。	Ex. 3
“OPEN ステートメント”	ストリーム変数を開くまたは作成します。	
“PUT ステートメント”	テキスト、新しい行、変数値、DATA ステップ関数の戻り値を出力ファイルに書き込みます。	Ex. 1, Ex. 3, Ex. 4, Ex. 5, Ex. 6

ステートメント	タスク	例
“PUTL ステートメント”	テキスト、新しい行、変数値、DATA ステップ関数の戻り値を出力ファイルに書き込み、新しい行を出力の最後に追加します。	
“PUTLOG ステートメント”	テキスト、新しい行、変数値、DATA ステップ関数の戻り値をログに書き込みます。	
“PUTQ ステートメント”	テキスト、新しい行、変数値、DATA ステップ関数の戻り値を出力ファイルに書き込み、引用符で囲みます。	Ex. 7
“PUTSTREAM ステートメント”	指定したストリーム変数のコンテンツを出力ファイルに書き込みます。	
“PUTVARS ステートメント”	テキスト、新しい行、変数値、DATA ステップ関数の戻り値を、変数グループ、リスト、ディクショナリ内の各値の出力ファイルに書き込みます。	
“SET ステートメント”	ユーザー定義変数とその値を作成または更新します。	
“STOP ステートメント”	実行場所を現在のステートメントブロックの最後に移動します。	
“TRIGGER ステートメント”	イベントを実行します。	Ex. 3, Ex. 4, Ex. 5, Ex. 6
“UNBLOCK ステートメント”	無効にされたイベントを有効にします。	
“UNSET ステートメント”	ユーザー定義変数とその値を削除します。	
“XDENT ステートメント”	出力のインデントレベルを 1 レベル下げます。	Ex. 3, Ex. 5

DEFINE TAGSET ステートメント

タグセットを作成します。

要件 テンプレート内の最後のステートメントは、END ステートメントにする必要があります。

構文

```

DEFINE TAGSET tagset-path | Base.Template.Tagset
  </ STORE=ライブラリ参照.template-store<(READ | WRITE | UPDATE)>>;
  <tagset-attribute-1; <tagset-attribute-n>>
  DEFINE EVENT event-name;
statements and attributes
  NOTES 'text';
  END;

```

オプション引数の要約

STORE=[ライブラリ参照](#).template-store

必須引数

tagset-path

タグセットの保存場所を指定します。

デフォルト: PROC TEMPLATE によって、書き込みアクセス権を持つ現在のパス内にある最初のテンプレートストアにテンプレートが書き込まれます。

要件 tagset-path は複数の名前から構成され、ピリオドで区切られます。それぞれの名前は、テンプレートストア内のディレクトリまたはレベルを表します。

ヒント:

ODS PATH ステートメントを使用すると、タグセットの保存場所のアイテムストアを制御できます。

名前は大文字と小文字が区別されません。ただし、PROC TEMPLATE によって、読み取りやすくするために最初の文字は大文字にされます。

Base.Template.Tagset

明示的に親を指定しないタグセットのすべての親となるタグセットを作成します。このテンプレートを作成すると、SAS プログラムで明示的にタグセットを指定する必要はありません。ユーザーがアイテムストアから具体的に削除するまで、テンプレートはすべての出力に自動的に適用されます。

注意:

SAS によって提供される Base.Template.Tagset には、多数のタグセットによって使用される情報が含まれます。この情報が保持されない場合、予期しない動作が発生する可能性があります。独自の Base.Template.Tagset を確実に作成するには、テンプレートを外部ファイルに書き込み、既存のテンプレートコンテンツを編集して、既存の Base.Template.Tagset テンプレートからまず開始します。

操作: Base.Template.Tagset マスタテンプレート属性は、他のタグセットによって上書きされます。

ヒント: 独自の Base.Template.Tagset のベースとなる既存タグセットを表示するには、“[タグセットのコンテンツの表示](#)” (1167 ページ)を参照してください。

オプション引数

STORE=[ライブラリ参照](#).template-store

次の形式でテンプレートが保存されるテンプレートストアを指定します。

[ライブラリ参照](#).template-store <access-option(s)>

[ライブラリ参照](#).template-store

現在のテンプレートストアを指定します。

デフォルト: access-option を省略した場合、読み取り専用アクセスになっていない場合に限り、UPDATE アクセス権を使用して template-store にアクセスできます。

ヒント: 指定したテンプレートストアが存在しない場合は、作成されます。

access-option(s)

指定したテンプレートストアのアクセスモードを指定します。

READ

読み取り専用のアクセスを提供します。

WRITE

書き込みアクセス権と読み取りアクセス権を提供します。タグセットが存在しない場合、書き込みアクセス権によって新しいタグセットが作成されます。タグセットが存在する場合、書き込みアクセス権によって既存タグセットは置き換えられません。

UPDATE

更新アクセス権と読み取りアクセス権を提供します。タグセットが存在しない場合、更新アクセス権によって新しいタグセットは作成されません。タグセットが存在する場合、更新アクセス権によって置き換えられます。

制限事項: STORE=オプション構文は、コンパイルしたテンプレートの一部になりません。

操作: STORE=オプションによって、PATH ステートメントで指定された検索リストが上書きされます。

タグセット属性

表 15.1 タスク別タグセット属性

タスク	属性
ODS によって強制改行とみなされる最大文字数を指定します。	BREAKTEXT_LENGTH= (p. 1180)
テキストエントリに使用可能なスペース幅の最大比率を、そのスペースに適合すると予想されるテキスト長に指定します。	BREAKTEXT_RATIO= (p. 1180)
ODS によって自動改行の配置とみなされるテキストエントリに使用可能なスペースの最大幅を指定します。	BREAKTEXT_WIDTH= (p. 1180)
コピーライトに使用するテキストを指定します。	COPYRIGHT= (p. 1180)
デフォルトで使用するイベントの名前を指定します。	DEFAULT_EVENT= (p. 1181)
タグセットで埋め込み型のスタイルシートをサポートするかどうかを指定します。	EMBEDDED_STYLESHEET= (p. 1181)
出力先に有効な画像タイプまたはファイル拡張子のカンマ区切りのリストを指定します。	IMAGE_FORMATS= (p. 1181)
NDENT および XDENT イベントステートメントによって出力がインデントされるスペースの数を指定します。	INDENT= (p. 1181)
タグセットの使用時に SAS ログに出力される文字列を指定します。	LOG_NOTE= (p. 1181)
特殊文字とその変換を指定します。	MAP= (p. 1182)
特殊文字の代替文字列を指定します。	MAPSUB= (p. 1182)
出力のカテゴリを設定します。	OUTPUT_TYPE= (p. 1182)
UTF 文字セットの使用時に出力ファイルに書き込まれるバイトオーダーマークを指定します。	NO_BYTE_ORDER_MARK= (p. 1182)

タスク	属性
マークアップ出力に改行をしないスペースを定義します。	NOBREAKSPACE= (p. 1182)
現在のテンプレートの継承元のタグセットを指定します。	PARENT= (p. 1182)
すべてのスタイル属性をいつでも使用できるようにするかどうかを指定します。	PURE_STYLE= (p. 1183)
登録商標に使用するテキストを指定します。	REGISTERED_TM= (p. 1183)
マークアップ出力で改行に使用する文字列を定義します。	SPLIT= (p. 1183)
タグセットを使用したときに、プロシジャによって列がそれぞれのトップか、または横に並べて配置されるかどうかを指定します。	STACKED_COLUMNS= (p. 1183)
商標に使用するテキストを指定します。	TRADEMARK= (p. 1184)

BREAKTEXT_LENGTH=number

ODS によって強制改行とみなされる最大文字数を指定します。テキスト内の文字数が BREAKTEXT_LENGTH=オプションによって指定された数値を超過する場合、出力を表示するアプリケーションによって改行が挿入されます。テキスト内の文字数が BREAKTEXT_LENGTH=オプションによって指定された数値以下の場合、ODS によって必要な改行が挿入されます。改行の配置は、使用可能な合計テキスト幅に基づきます。

例: ODS から 80 文字を超えるテキスト内で改行を挿入しないように命令するには、次を指定します。

```
BreakText_Length=80;
```

BREAKTEXT_RATIO=number

テキストエントリに使用可能なスペース幅の最大比率を、そのスペースに適合すると予想されるテキスト長に指定します。テキスト長に対するスペース幅の比率が BREAKTEXT_RATIO=オプションによって指定された比率を超える場合、出力を表示するアプリケーションによって必要な改行が挿入されます。テキスト長に対するスペース幅の比率が BREAKTEXT_RATIO=オプションによって指定された比率以下の場合、ODS によって必要な改行が挿入されます。

例: 適合するスペース幅の 1.5 倍を超えるテキストに改行を挿入しない場合は、次を指定します。

```
BreakText_Ratio=1.5;
```

BREAKTEXT_WIDTH=number

ODS によって自動改行の配置とみなされるテキストエントリに使用可能なスペースの最大幅を指定します。スペース幅が BREAKTEXT_WIDTH=オプションによって指定された数値を超える場合、出力を表示するアプリケーションによって必要な改行が挿入されます。スペース幅が BREAKTEXT_WIDTH=オプションによって指定された数値以下の場合、ODS によって必要な改行が挿入されます。

例: ODS から幅が 40 文字以上のテキスト内で改行を挿入しないように命令するには、次を指定します。

```
BreakText_Width=40;
```

COPYRIGHT= '(text)'

コピーライトに使用するテキストを指定します。

要件 *text* を指定する場合、テキストを丸かっこで囲み、その前後に引用符を付けます。

DEFAULT_EVENT= 'event-name'

リクエストされたイベントがタグセット内で見つからない場合にデフォルトで実行するイベントの名前を指定します。

要件 *event-name* を指定する場合、イベント名を引用符で囲みます。

例: “例 3: タグセットの新規作成” (1228 ページ)

EMBEDDED_STYLESHEET= YES | ON | NO | OFF

タグセットで埋め込み型のスタイルシートをサポートするかどうかを指定します。

YES

埋め込み型のスタイルシートをサポートします。

別名: ON

ON

埋め込み型のスタイルシートをサポートします。

別名: YES

NO

埋め込み型のスタイルシートをサポートしません。

別名: OFF

OFF

埋め込み型のスタイルシートをサポートしません。

別名: NO

デフォルト: デフォルト値は YES または ON です。これは、埋め込み型のスタイルシートがサポートされることを示します。

ヒント: 埋め込み型のスタイルシートがサポートされ、ODS ステートメントでスタイルシートを指定しない場合、スタイルシートは出力ファイルのトップに書き込まれます。

IMAGE_FORMATS= 'image-type(s)'

出力先に有効な画像タイプまたはファイル拡張子のカンマ区切りのリストを指定します。画像タイプは、SAS/GRAPH によってサポートされる任意のものになります。優先順位でリスト表示します。

例: 次の IMAGE_FORMATS=ステートメントでは、HTML 出力先に有効な画像タイプがリストで表示されます。

```
image_formats='gif, jpeg, png';
```

INDENT=*n*

NDENT および XDENT イベントステートメントによって出力がインデントされるスペースの数を指定します。

n

出力でインデントするスペースの数値を指定します。

デフォルト: 0

ヒント: INDENT=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先内のみです。

例:

“例 3: タグセットの新規作成” (1228 ページ)

“例 5: 出力のインデント” (1234 ページ)

LOG_NOTE= 'string'

タグセットの使用時に SAS ログに出力される文字列を定義します。

string

SAS ログに出力されるテキストを指定します。

要件 指定する文字列は、一度に1つのみにしてください。

MAP= 'characters'

変換が必要な特殊文字を指定します。

characters

複数の特殊文字を指定します。

要件:

特殊文字を MAP=ステートメントでリスト表示する場合、その文字間の空白スペースを省略します。

特殊文字を指定する場合、特殊文字のリストを引用符で囲みます。

MAP=ステートメントを MAPSUB ステートメントと共に使用してください。

例: “例 3: タグセットの新規作成” (1228 ページ)

MAPSUB= 'strings'

MAP=ステートメントで指定される文字の代替テキストを指定します。

strings

MAP=ステートメントで指定される文字の代替テキスト文字列を指定します。

要件:

複数の文字列を指定する場合、スラッシュ(/)を使用してテキスト文字列を区切ります。

文字列を指定する際には、文字列リスト全体を引用符で囲みます。

MAPSUB=ステートメントを MAP=ステートメントと共に使用してください。

例: “例 3: タグセットの新規作成” (1228 ページ)

NOBREAKSPACE= 'string'

マークアップ出力に改行をしないスペースを定義します。

string

改行をしないスペースを定義する文字を指定します。

制限事項: 指定する文字列は、一度に1つのみにしてください。

要件 文字列を指定する際には、文字列を引用符で囲みます。

例: “例 3: タグセットの新規作成” (1228 ページ)

NO_BYTE_ORDER_MARK=YES | ON | NO | OFF

UTF 文字セットの使用時に出力ファイルに書き込まれるバイトオーダーマークを指定します。

OUTPUT_TYPE= CSV | HTML | LATEX | WML | XML

出力のカテゴリを設定します。

CSV カンマ区切りの値を持つ出力を生成します。

HTML ハイパーテキストマークアップ言語出力を生成します。

LATEX LaTeX (高品質のタイプセット用ドキュメント準備システム)で出力を生成します。

WML WAP(ワイヤレスアプリケーションプロトコル)を使用し、ワイヤレスマークアップ言語を生成します。

XML 拡張マークアップ言語で出力を生成します。

例: “例 3: タグセットの新規作成” (1228 ページ)

PARENT= tagset-path

現在のテンプレートの継承元のタグセットを指定します。

tagset-path

テンプレートストア内のディレクトリの名前を指定します。

デフォルト: 現在のテンプレートは、ユーザーが読み取りアクセス権を持つ最初のテンプレートストアで指定したテンプレートから承継されます。PATH ステートメントでは、PROC TEMPLATE によって作成されたテンプレートをどの場所から検索するか、およびその検索順序が指定されます。

要件 親を指定する場合、親のテンプレートで指定されるテンプレートオプション、属性、ステートメントのすべてが現在のテンプレートで使用されます(ただし、現在のテンプレートによって上書きされない場合に限りです)。

ヒント:

SAS によって提供されるタグセットまたはカスタマイズされたタグセットを指定します。

ODS PATH ステートメントを使用すると、タグセットの読み取り場所のアイテムストアを制御できます。

例:

“例 1: 継承からのタグセットの作成” (1218 ページ)

“例 8: タグセットでの STACKED_COLUMNS 属性の使用” (1240 ページ)

PURE_STYLE=YES | ON | NO | OFF

すべてのスタイル属性をいつでも使用できるようにするかどうかを指定します。

REGISTERED_TM= 'text'

登録商標に使用するテキストを指定します。

要件 *text* を指定する場合、テキストを丸かっこで囲み、その前後に引用符を付けます。

SPLIT= 'string'

マークアップ出力で改行に使用する文字列を定義します。

制限事項: 指定する文字列は、一度に 1 つにしてください。

要件 文字列を指定する際には、文字列を引用符で囲みます。

例: “例 3: タグセットの新規作成” (1228 ページ)

STACKED_COLUMNS= YES | ON | NO | OFF

タグセットを使用したときに、プロシジャによって列を上下にスタックするか、または横に並べて配置するかどうかを指定します。

YES

列を上下にスタックします。

別名: ON

ON

列を上下にスタックします。

別名: YES

NO

列を横に並べてスタックします。

別名: OFF

OFF

列を横に並べてスタックします。

別名: NO

デフォルト: デフォルト値は YES または ON です。これは、列がスタックされることを示します。

ヒント: 列を横に並べて配置するには、値を NO または OFF に指定します。

例:

“例 3: タグセットの新規作成” (1228 ページ)

“例 8: タグセットでの STACKED_COLUMNS 属性の使用” (1240 ページ)

TRADEMARK= '(text)'

商標に使用するテキストを指定します。

要件 *text* を指定する場合、テキストを丸かっこで囲み、その前後に引用符を付けます。

DEFINE EVENT ステートメント

出力ファイルに書き込むコンテンツを定義します。

操作: 任意の DEFINE EVENT ステートメントにイベントステートメント条件を追加できます。イベントステートメント条件の詳細は、“[イベントステートメントの条件](#)” (1216 ページ)を参照してください。

例: “例 6: イベントに対する複数のスタイルを使用” (1237 ページ)

“例 7: 他のスタイルシートを含むように、イベントの変更” (1240 ページ)

構文

```

DEFINE EVENT event-name;
    <event-attribute-1; <event-attribute-n; >>
BLOCK event-name < / event-statement-condition(s)>;
BREAK </ event-statement-condition(s)>;
CLOSE </ event-statement-condition(s)>;
CONTINUE </ event-statement-condition(s)>;
DELSTREAM $$stream-variable-name </ event-statement-condition(s)>;
DO </ event-statement-condition(s)>;
DONE;
ELSE </ event-statement-condition(s)>;
EVAL $<$>user-defined-variable where-expression </ event-statement-condition(s)>;
FLUSH </event-statement-condition(s)>;
ITERATE $dictionary-variable | $list-variable </ event-statement-condition(s)>;
NDENT </ event-statement-condition(s)>;
NEXT $dictionary-variable | $list-variable </ event-statement-condition(s)>;
OPEN $$stream-variable-name </ event-statement-condition(s)>;
PUT <function> <NL> <variable> <'text' > </ event-statement-condition(s)>;
PUTL (<variable> | <'text' > | <function> | <NL>) </ event-statement-condition(s)>;
PUTLOG (<variable> <'text' > <function>) </ event-statement-condition(s)>;
PUTQ (<variable> | <'text' > | <function> | <NL>) </ event-statement-condition(s)>;
PUTSTREAM $$stream-variable-name </ event-statement-condition(s)>;
PUTVARS variable-group variable-group-value </ event-statement-condition(s)>;
SET $<$>user-defined-variable-name user-defined-variable-value </ event-statement-condition(s)>;
STOP </ event-statement-condition(s)>;
TRIGGER event-name <START | FINISH> </ event-statement-condition(s)>;
UNBLOCK event-name </ event-statement-condition(s)>;
UNSET ALL | $memory-variable | $$stream-variable </ event-statement-condition(s)>;
XDENT </ event-statement-condition(s)>;
END;

```

オプション引数の要約

FILE= BODY | CODE | CONTENTS | DATA | FRAME | PAGES | STYLESHEET;
 開放されている認識済みの出力タイプにイベント出力をリダイレクトします。

PURE_STYLE= YES | NO;
 イベントで定義済みのスタイル要素を使用できるようにします。

STYLE= *style-element*;
 スタイル要素を指定します。

必須引数

event-name
 イベント名を指定します。

イベント属性

FILE= BODY | CODE | CONTENTS | DATA | FRAME | PAGES | STYLESHEET;
開放されている認識済みの出力タイプにイベント出力をリダイレクトします。

制限事項: FILE=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先内のみです。

操作: 出力ファイルの名前は、BODY=、CODE=、CONTENTS=、FRAME=、PAGES=、STYLESHEET=オプションを使用して指定される ODS MARKUP ステートメント内の出力ファイル名に対応します。これらのオプションの詳細は、“[ODS MARKUP ステートメント](#)” (404 ページ)を参照してください。

参照項目: FILE=属性の詳細は、“[ODS MARKUP ステートメント](#)” (404 ページ)の BODY=オプション。

PURE_STYLE= YES | NO;

イベントで定義済みのスタイル要素を使用できるようにするかどうかを指定します。

YES

イベントで定義済みのスタイル要素を使用できるようにします。

別名: ON

NO

イベントで定義済みのスタイル要素を使用できるようにしません。

別名: OFF

デフォルト: NO

制限事項: PURE_STYLE=属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先内のみです。

参照項目: “[DEFINE STYLE ステートメント](#)” (958 ページ)

STYLE= style-element;

出力の特定のパートに適用されるスタイル属性を指定します。

制限事項: STYLE= 属性が有効になるのは、マークアップファミリ出力先内のみです。

ヒント: キャリッジリターンによってスタイル属性が分割される場合、構文エラーが発生しないようにキャリッジリターンの前後にスペースを追加します。SAS では、キャリッジリターンがスペースとして解釈されません。

参照項目: “[DEFINE STYLE ステートメント](#)” (958 ページ)

例: “[例 6: イベントに対する複数のスタイルを使用](#)” (1237 ページ)

BLOCK ステートメント

指定したイベントを無効にします。

ヒント: ブロックしたイベントを有効にするには、UNBLOCK ステートメントを使用します。同じイベントを複数回ブロックできますが、イベントを有効にするには、同じ数の UNBLOCK ステートメントを使用してください。

構文

BLOCK *event* </ *event-statement-condition(s)*>;

必須引数

event

イベントを指定します。

オプション引数

event-statement-condition(s)

イベントステートメントを実行するために true にする必要がある複数の条件を指定します。

要件 *event-statement-condition(s)*は前にスラッシュ(/)を付ける必要があります。

参照項目: これらの条件の詳細は、“[イベントステートメントの条件](#)” (1216 ページ)を参照してください。

BREAK ステートメント

現在のイベントの実行を停止します。BREAK ステートメント以降のステートメントは実行されません。

ヒント: イベントステートメント条件と組み合わせる場合、最も有効なものは BREAK ステートメントです。

構文

```
BREAK < / event-statement-condition(s)>;
```

オプション引数

event-statement-condition(s)

イベントステートメントを実行するために true にする必要がある複数の条件を指定します。

要件 *event-statement-condition(s)*は前にスラッシュ(/)を付ける必要があります。

参照項目: これらの条件の詳細は、“[イベントステートメントの条件](#)” (1216 ページ)を参照してください。

CLOSE ステートメント

現在のストリーム変数を閉じ、今後の出力をすべて出力ファイルに向けます。

構文

```
CLOSE < / event-statement-condition(s)>;
```

オプション引数

event-statement-condition(s)

イベントステートメントを実行するために true にする必要がある複数の条件を指定します。

要件 *event-statement-condition(s)*は前にスラッシュ(/)を付ける必要があります。

参照項目: これらの条件の詳細は、“[イベントステートメントの条件](#)” (1216 ページ)を参照してください。

CONTINUE ステートメント

IF イベントステートメント条件を再評価するため、対応する DO ステートメントに DO ループの実行を返します。

参照項目: [“DO ステートメント” \(1188 ページ\)](#)

構文

```
CONTINUE </ event-statement-condition(s)>;
```

オプション引数

event-statement-condition(s)

イベントステートメントを実行するために true にする必要がある複数の条件を指定します。

要件 *event-statement-condition(s)*は前にスラッシュ(/)を付ける必要があります。

参照項目: これらの条件の詳細は、[“イベントステートメントの条件” \(1216 ページ\)](#)を参照してください。

DELSTREAM ステートメント

指定したストリーム変数を削除します。

構文

```
DELSTREAM stream-variable </ event-statement-condition(s)>;
```

必須引数

stream-variable

削除する指定したストリーム変数を指定します。

参照項目: [“OPEN ステートメント” \(1194 ページ\)](#)

オプション引数

event-statement-condition(s)

イベントステートメントを実行するために true にする必要がある複数の条件を指定します。

要件 *event-statement-condition(s)*は前にスラッシュ(/)を付ける必要があります。

参照項目: これらの条件の詳細は、[“イベントステートメントの条件” \(1216 ページ\)](#)を参照してください。

DO ステートメント

必須条件が true の場合に実行されるステートメントブロックを開始します。

構文

DO / *event-statement-condition(s)*;

必須引数

event-statement-condition(s)

イベントステートメントを実行するために true にする必要がある複数の条件を指定します。

要件 *event-statement-condition(s)*は前にスラッシュ(/)を付ける必要があります。

参照項目: これらの条件の詳細は、“[イベントステートメントの条件](#)” (1216 ページ) を参照してください。

DONE ステートメント

DO または ELSE ステートメントブロックを終了します。

参照項目: “[DO ステートメント](#)” (1188 ページ)
“[ELSE ステートメント](#)” (1189 ページ)

構文

DONE;

ELSE ステートメント

対応する DO ステートメントが false の場合に実行されるステートメントブロックを開始します。

ヒント: DO ステートメントに WHILE 条件を使用して ELSE ステートメントを指定する場合、ELSE ステートメントが実行されるのは、最初の評価時に WHILE 条件が false の場合のみです。

参照項目: “[DO ステートメント](#)” (1188 ページ)

構文

ELSE </ *event-statement-condition(s)*>;

オプション引数

event-statement-condition(s)

イベントステートメントを実行するために true にする必要がある複数の条件を指定します。

要件 *event-statement-condition(s)*は前にスラッシュ(/)を付ける必要があります。

参照項目: これらの条件の詳細は、“[イベントステートメントの条件](#)” (1216 ページ) を参照してください。

END ステートメント

タグセットまたはイベントを終了します。

構文

```
END;
```

EVAL ステートメント

変数値を WHERE 式の戻り値に設定することで、ユーザ一定義変数を作成または更新します。

構文

```
EVAL $<$>user-defined-variable where-expression < / event-statement-condition(s)>;
```

必須引数

user-defined-variable

作成または更新するユーザ一定義変数を指定します。*user-defined-variable* は次のいずれかの形式になります。

- *\$dictionary-variable*['key']
- *\$list-variable*[<index>]
- *\$scalar-variable*
- *\$\$stream-variable*

dictionary-variable

where-expression 戻り値を割り当てるためのディクショナリ変数を指定します。ディクショナリ変数とは、キーごとに識別可能な数値やテキスト文字列のリストが含まれる配列のことです。

['key']

WHERE 式の戻り値を追加する市区書なり変数内の場所を識別するテキストが含まれるサブスクリプトを指定します。

要件 *key* は引用符と角かっこで囲んでください。

ヒント: *key* は大文字と小文字が区別されます。

要件 *dictionary-variable* は、前に“\$”記号を付ける必要があります。

ヒント: ディクショナリ変数を作成したら、[UNSET ステートメント \(1208 ページ\)](#)を使用して削除するまで、すべてのイベントで全体的に使用できます。

参照項目: 詳細は、“[変数について](#)” (1169 ページ)を参照してください。

list-variable

where-expression 戻り値の割り当て先のリスト変数を指定します。リスト変数とは、インデックス付きの数値やテキスト文字列のリストが含まれる配列のことです。

[<index>]

数値または数値変数が含まれるサブスクリプトを指定します。

index によって、WHERE 式の戻り値を追加するためのリスト内の場所が識別されます。*index* を省略して空の角カッコのみを指定する場合、または *index* の値が *index* の最大数を超える場合、EVAL ステートメントによって戻り値がリストの最後に付加されます。

要件:

インデックスを省略する場合でも、角カッコ[]は指定してください。
index はカッコで囲んでください。

参照項目: 詳細は、“[変数について](#)” (1169 ページ)を参照してください。

要件 *list-variable* は前に'\$'記号を付ける必要があります。

ヒント:

リスト変数は、“[ITERATE ステートメント](#)” (1192 ページ)および“[NEXT ステートメント](#)” (1193 ページ)を使用すると、連続アクセスできます。

リスト変数を作成したら、“[UNSET ステートメント](#)” (1208 ページ)を使用して削除するまで、すべてのイベントで全体的に使用できます。

scalar variable

where-expression 戻り値の割り当て先のスカラー変数を指定します。

要件:

スカラー変数は、前に'\$'記号を付ける必要があります。
スカラー変数を作成したら、UNSET ステートメントを使用して削除するまで、すべてのイベントで全体的に使用できます。

stream-variable

where-expression 戻り値の割り当て先のストリーム変数を指定します。ストリーム変数とは、出力を含む一時アイテムストアのことです。

ストリーム変数が開放されている間、PUT ステートメントからの全出力は閉鎖されるまでストリーム変数に移動されます。

要件 *stream-variable* は、前に“\$\$”記号を付ける必要があります。

参照項目: ストリーム変数の詳細は、“[変数について](#)” (1169 ページ)を参照してください。

where-expression

WHERE=データセットオプションで使用可能な式。

参照項目: WHERE=データセットオプションで使用可能な式の詳細は、“WHERE=Data Set Option” in *SAS Data Set Options: Reference* を参照してください。
“WHERE 式の処理” (*SAS 言語リファレンス: 解説編* 11 章)も参照してください。

オプション引数

event-statement-condition(s)

イベントステートメントを実行するために true にする必要がある複数の条件を指定します。

要件 *event-statement-condition(s)*は前にスラッシュ(/)を付ける必要があります。

参照項目: これらの条件の詳細は、“[イベントステートメントの条件](#)” (1216 ページ)を参照してください。

FLUSH ステートメント

バッファリングされた出力を現在の出力ファイルまたは現在のストリーム変数に書き込みます。

構文

```
FLUSH </ event-statement-condition(s)>;
```

オプション引数

event-statement-condition(s)

イベントステートメントを実行するために true にする必要がある複数の条件を指定します。

要件 *event-statement-condition(s)*は前にスラッシュ(/)を付ける必要があります。

参照項目: これらの条件の詳細は、“[イベントステートメントの条件](#)” (1216 ページ) を参照してください。

ITERATE ステートメント

ループするディクショナリ変数またはリスト変数を指定し、変数の値を各繰り返しの `_NAME_` および `_VALUE_` イベント変数に割り当てます。

要件 `_VALUE_` または `_NAME_` イベント変数を指定して ITERATE ステートメントを使用する必要があります。ディクショナリ変数またはリスト変数の最初の値は、`_VALUE_` イベント変数に配置されます。ディクショナリ変数の場合、`key` は `_NAME_` イベント変数に配置されません。

参照項目: `_VALUE_` および `_NAME_` は、[表 15.3 \(1211 ページ\)](#) になります。

構文

```
ITERATE dictionary-variable | list-variable </ event-statement-condition(s)>;
```

必須引数

dictionary-variable

ディクショナリ変数を指定します。

要件 *dictionary-variable* は、前に“\$”記号を付ける必要があります。

ヒント: ユーザー定義変数は大文字と小文字が区別されません。

参照項目: ディクショナリ変数の詳細は、“[EVAL ステートメント](#)” (1190 ページ) または “[SET ステートメント](#)” (1203 ページ) を参照してください

list-variable

リスト変数を指定します。

要件 *list-variable* は、前に“\$”記号を付ける必要があります。

ヒント: ユーザー定義変数は大文字と小文字が区別されません。

参照項目: リスト変数の詳細は、“[EVAL ステートメント](#)” (1190 ページ) または “[SET ステートメント](#)” (1203 ページ) を参照してください。

オプション引数

event-statement-condition(s)

イベントステートメントを実行するために true にする必要がある複数の条件を指定します。

要件 *event-statement-condition(s)*は前にスラッシュ(/)を付ける必要があります。

参照項目: これらの条件の詳細は、“イベントステートメントの条件”(1216 ページ)を参照してください。

NDENT ステートメント

INDENT=属性によって指定されるスペース数より 1 レベル下げて出力をインデントします。

操作: インデントレベルの開始位置は、INDENT=属性によって設定されます。

例: “例 3: タグセットの新規作成”(1228 ページ)
 “例 5: 出力のインデント”(1234 ページ)

構文

```
NDENT </ event-statement-condition(s)>;
```

オプション引数

event-statement-condition(s)

イベントステートメントを実行するために true にする必要がある複数の条件を指定します。

要件 *event-statement-condition(s)*は前にスラッシュ(/)を付ける必要があります。

参照項目: これらの条件の詳細は、“イベントステートメントの条件”(1216 ページ)を参照してください。

NEXT ステートメント

ディクショナリ変数またはリスト変数を次の値に増分するよう指定し、必要に応じてイベント変数_VALUE_および_NAME_を再設定します。

要件 ITERATE ステートメントと共に NEXT ステートメントを使用します。

参照項目: の_VALUE_および_NAME_表 15.3 (1211 ページ)。

構文

```
NEXT $dictionary-variable | $list-variable </ event-statement-condition(s)>;
```

必須引数

dictionary-variable

ITERATE ステートメントによって反復子として指定されるディクショナリ変数を指定します。

要件 *dictionary-variable* は、前に“\$”記号を付ける必要があります。

ヒント: ユーザー定義変数は大文字と小文字が区別されません。

参照項目:

“ITERATE ステートメント”(1192 ページ)

ディクショナリ変数の詳細は、“EVAL ステートメント”(1190 ページ)または“SET ステートメント”(1203 ページ)を参照してください。

list-variable

ITERATE ステートメントによって反復子として指定されるリスト変数を指定します。

要件 *list-variable* は、前に“\$”記号を付ける必要があります。

ヒント: ユーザー定義変数は大文字と小文字が区別されません。

参照項目:

“ITERATE ステートメント” (1192 ページ)

リスト変数の詳細は、“EVAL ステートメント” (1190 ページ) または “SET ステートメント” (1203 ページ)を参照してください。

オプション引数***event-statement-condition(s)***

イベントステートメントを実行するために true にする必要がある複数の条件を指定します。

要件 *event-statement-condition(s)*は前にスラッシュ(/)を付ける必要があります。

参照項目: これらの条件の詳細は、“イベントステートメントの条件” (1216 ページ)を参照してください。

NOTES ステートメント

タグセットに関する情報を提供します。

ヒント: NOTES ステートメントは、コンパイル済みタグセットの一部となります。これは、SOURCE ステートメントを使用して表示できます。

参照項目: “例 3: タグセットの新規作成” (1228 ページ)

“例 8: タグセットでの STACKED_COLUMNS 属性の使用” (1240 ページ)

構文

NOTES *'text'*;

必須引数

text

タグセットに関する情報を提供します。

要件 *text* を指定する際は、テキストを引用符で囲みます。

OPEN ステートメント

ストリーム変数を開くかまたは作成します。OPEN ステートメントの後に PUT ステートメントが実行される場合、PUT ステートメントによって指定されるすべてのテキストまたは変数は、出力ファイルではなくストリーム変数に付加されます。

操作: 開いているストリーム変数は、新しいストリーム変数が開放されると閉じます。

構文

OPEN *stream-variable* </ *event-statement-condition(s)*>;

必須引数

stream-variable

ストリーム変数(出力を含む一時アイテムストア)を指定します。

ヒント:

ユーザー定義変数は大文字と小文字が区別されません。

メモリ変数の名前を *stream-variable* に割り当てる場合、ストリーム変数はメモリ変数の値として解決されます。たとえば、次のプログラムでは、メモリ変数 `$MyStream` がストリーム変数として使用されます。

```
set $mystream 'test';
open $mystream;
put 'The memory variable $mystream is being used as a stream variable';
close;
```

そのため、次のステートメントに相当します。

```
put $$test;
putstream $mystream;
putstream test;
```

また、次のステートメントにも相当します。

```
unset $$test;
delstream $mystream;
delstream test;
```

次を参照してください“[メモリ変数](#)” (1170 ページ)。

オプション引数

event-statement-condition(s)

イベントステートメントを実行するために true にする必要がある複数の条件を指定します。

要件 *event-statement-condition(s)* は前にスラッシュ(/)を付ける必要があります。

参照項目: これらの条件の詳細は、“[イベントステートメントの条件](#)” (1216 ページ) を参照してください。

PUT ステートメント

テキスト、新しい行、変数値、DATA ステップ関数の戻り値を出力ファイルに書き込みます。

- 例: “[例 1: 継承からのタグセットの作成](#)” (1218 ページ)
“[例 3: タグセットの新規作成](#)” (1228 ページ)
“[例 4: TRIGGER=ステートメントを使用したイベントの実行](#)” (1232 ページ)
“[例 5: 出力のインデント](#)” (1234 ページ)
“[例 6: イベントに対する複数のスタイルを使用](#)” (1237 ページ)

構文

```
PUT <'text'> <NL(s)> <value(s)> </ event-statement-condition(s)>;
```

オプション引数

NL

新しい行を指定します。

別名:

CR

LF

text

文字列またはテキストを指定します。

要件 *text* は引用符で囲む必要があります。

操作:

PUT ステートメントによって、テキスト文字列が変数と対応付けられます。変数の前にあるテキスト文字列によって、変数に値が含まれる場合は、文字列と値が対応付けられます。たとえば、次の PUT ステートメントでは、イベント変数 ForeGround に blue の値が含まれる場合、出力は color=blue となります。

```
put 'color=' foreground;
```

変数に値が含まれない場合は、テキストが書き込まれず、テキストまたは変数には出力されません。たとえば、次の PUT ステートメントでは、変数 BackGround、ForeGround、CellPadding に値が含まれない場合、出力は <table> となり、次に新しい行が続きます。

```
put '<table' 'background=' background 'foreground=' foreground
'cellpadding=' cellpadding '>' nl;
```

value

出力する値を含む任意のイベント変数、スタイル変数、動的変数、ユーザー定義変数、DATA ステップ関数を指定します。

制限事項: DATA ステップ関数はネストできません。

要件 ユーザー定義変数は、前に '\$' または '\$\$' 文字を付ける必要があります。

操作:

PUT ステートメントによって、テキスト文字列が変数と対応付けられます。変数の前にあるテキスト文字列によって、変数に値が含まれる場合は、文字列と値が対応付けられます。たとえば、次の PUT ステートメントでは、イベント変数 ForeGround に blue の値が含まれる場合、出力は color=blue となります。

```
put 'color=' foreground;
```

変数に値が含まれない場合は、テキストが書き込まれず、テキストまたは変数には出力されません。たとえば、次の PUT ステートメントでは、変数 BackGround、ForeGround、CellPadding に値が含まれない場合、出力は <table> となり、次に新しい行が続きます。

```
put '<table' 'background=' background 'foreground=' foreground
'cellpadding=' cellpadding '>' nl;
```

ヒント: ユーザー定義変数は、大文字と小文字が区別されません。

参照項目:

DATA ステップ関数の詳細は、*SAS 関数と CALL ルーチン: リファレンス* を参照してください。

変数の詳細は、“[変数について](#)” (1169 ページ) を参照してください。

“[イベント変数](#)” (1211 ページ) イベント変数のリスト

event-statement-condition(s)

イベントステートメントを実行するために true にする必要がある複数の条件を指定します。

要件 *event-statement-condition(s)* は前にスラッシュ(/)を付ける必要があります。

参照項目: これらの条件の詳細は、“[イベントステートメントの条件](#)” (1216 ページ) を参照してください。

PUTL ステートメント

テキスト、新しい行、変数値、DATA ステップ関数の戻り値を出力ファイルに書き込み、新しい行を出力の最後に自動的に追加します。

ヒント: 出力サイズが大きい場合、PUTL ステートメントを使用すると新しい行が出力の最後に追加されるため、このステートメントの使用をお勧めします。

構文

```
PUTL <'text'> <NL(s)> <value(s)> </ event-statement-condition(s)>;
```

オプション引数

NL

新しい行を指定します。

別名:

CR

LF

text

文字列またはテキストを指定します。

要件 *text* は引用符で囲む必要があります。

操作:

PUTL ステートメントによって、テキスト文字列と変数がペアになります。変数の前にあるテキスト文字列によって、変数に値が含まれる場合は、文字列と値のペアが作成されます。たとえば、次の PUTL ステートメントでは、イベント変数 `Foreground` に `blue` の値が含まれる場合、出力は `color=blue` となります。

```
putl 'color=' foreground;
```

変数に値が含まれない場合は、テキストが書き込まれず、テキストまたは変数には出力されません。たとえば、次の PUTL ステートメントでは、変数 `BackGround`、`ForeGround`、`CellPadding` に値が含まれない場合、出力は `<table>` となり、次に新しい行が続きます。

```
putl '<table' 'background=' background 'foreground=' foreground
'cellpadding=' cellpadding '>' nl;
```

value

出力する値を含む任意のイベント変数、スタイル変数、動的変数、ユーザー定義変数、DATA ステップ関数を指定します。

制限事項: DATA ステップ関数はネストできません。

要件 ユーザー定義変数は、前に '\$' または '\$\$' 文字を付ける必要があります。

操作:

PUTL ステートメントによって、文字列と変数がペアになります。変数の前にあるテキスト文字列によって、変数に値が含まれる場合は、文字列と値のペアが作成されます。たとえば、次の PUTL ステートメントでは、イベント変数 `Foreground` に `blue` の値が含まれる場合、出力は `color=blue` となります。

```
putl 'color=' foreground;
```

変数に値が含まれない場合は、テキストが書き込まれず、テキストまたは変数には出力されません。たとえば、次の PUTL ステートメントでは、変数 `BackGround`、`ForeGround`、`CellPadding` に値が含まれない場合、出力は

<table>となり、次に 2 つの新しい行が続きます。1 行目は指定行、2 行目は自動生成行です。

```
putl '<table' 'background=' background 'foreground=' foreground
'cellpadding=' cellpadding '>' nl;
```

ヒント: ユーザー定義変数は、大文字と小文字が区別されません。

参照項目:

DATA ステップ関数の詳細は、*SAS 関数と CALL ルーチン: リファレンス*を参照してください。

変数の詳細は、“[変数について](#)” (1169 ページ)を参照してください。

“[イベント変数](#)” (1211 ページ)イベント変数のリスト

event-statement-condition(s)

イベントステートメントを実行するために true にする必要がある複数の条件を指定します。

要件 *event-statement-condition(s)*は前にスラッシュ(/)を付ける必要があります。

参照項目: これらの条件の詳細は、“[イベントステートメントの条件](#)” (1216 ページ)を参照してください。

PUTLOG ステートメント

テキスト、新しい行、変数値、DATA ステップ関数の戻り値をログに書き込みます。

制限事項: 他の PUT ステートメントとは異なり、PUTLOG ステートメントによって新しい行は指定されません。

構文

```
PUTLOG <text> <value(s)> </ event-statement-condition(s)>;
```

オプション引数

event-statement-condition(s)

イベントステートメントを実行するために true にする必要がある複数の条件を指定します。

要件 *event-statement-condition(s)*は前にスラッシュ(/)を付ける必要があります。

参照項目: これらの条件の詳細は、“[イベントステートメントの条件](#)” (1216 ページ)を参照してください。

text

文字列またはテキストを指定します。

要件 *text* は引用符で囲む必要があります。

操作:

PUTLOG ステートメントによって、テキスト文字列と変数がペアになります。変数の前にあるテキスト文字列によって、変数に値が含まれる場合は、文字列と値のペアが作成されます。たとえば、次の PUTLOG ステートメントでは、イベント変数 ForeGround に blue の値が含まれる場合、ログに書き込まれる出力は color=blue となります。

```
putlog 'color=' foreground;
```

変数に値が含まれない場合は、テキストが書き込まれず、テキストまたは変数には出力されません。たとえば、次の PUT ステートメントでは、変数

BackGround、ForeGround、CellPadding に値が含まれない場合、ログに書き込まれる出力は<table>となります。

```
putlog '<table' 'background=' background 'foreground=' foreground
'cellpadding=' cellpadding '>';
```

value

出力する値を含む任意のイベント変数、スタイル変数、動的変数、ユーザー定義変数、DATA ステップ関数を指定します。

制限事項: DATA ステップ関数はネストできません。

要件 ユーザー定義変数は、前に'\$'または '\$\$'文字を付ける必要があります。

操作:

PUTLOG ステートメントによって、テキスト文字列と変数がペアになります。変数の前にあるテキスト文字列によって、変数に値が含まれる場合は、文字列と値のペアが作成されます。たとえば、次の PUTLOG ステートメントでは、イベント変数 ForeGround に blue の値が含まれる場合、ログに書き込まれる出力は color=blue となります。

```
putlog 'color=' foreground;
```

変数に値が含まれない場合は、テキストが書き込まれず、テキストまたは変数には出力されません。たとえば、次の PUTLOG ステートメントでは、変数 BackGround、ForeGround、CellPadding に値が含まれない場合、ログに書き込まれる出力は<table>となります。

```
putlog '<table' 'background=' background 'foreground=' foreground
'cellpadding=' cellpadding '>';
```

ヒント: ユーザー定義変数は、大文字と小文字が区別されません。

参照項目:

DATA ステップ関数の詳細は、*SAS 関数と CALL ルーチン: リファレンス*を参照してください。

変数の詳細は、“[変数について](#)” (1169 ページ)を参照してください。

“[イベント変数](#)” (1211 ページ)イベント変数のリスト

PUTQ ステートメント

テキスト、新しい行、変数値、DATA ステップ関数の戻り値を出力ファイルに書き込み、変数値の前後に引用符を付けます。

例: “[例 7: 他のスタイルシートを含むように、イベントの変更](#)” (1240 ページ)

構文

```
PUTQ <text'> <NL(s)> <value(s)> </ event-statement-condition(s)>;
```

オプション引数

NL

新しい行を指定します。

別名:

CR

LF

text

文字列またはテキストを指定します。

要件 *text* は引用符で囲む必要があります。

操作:

PUTQ ステートメントによって、文字列と変数がペアになります。変数の前にあるテキスト文字列によって、変数に値が含まれる場合は、文字列と値のペアが作成されます。たとえば、次の PUTQ ステートメントでは、イベント変数 ForeGround に blue の値が含まれる場合、出力は color='blue' となります。

```
putq 'color=' foreground;
```

変数に値が含まれない場合は、テキストが書き込まれず、テキストまたは変数には出力されません。たとえば、次の PUTQ ステートメントでは、変数 BackGround、ForeGround、CellPadding に値が含まれない場合、出力は <table> となり、次に新しい行が続きます。

```
putq '<table' 'background=' background 'foreground=' foreground
'cellpadding=' cellpadding '>' nl;
```

value

出力する値を含む任意のイベント変数、スタイル変数、動的変数、ユーザー定義変数、DATA ステップ関数を指定します。

制限事項: DATA ステップ関数はネストできません。

要件 ユーザー定義変数は、前に '\$' または '\$\$' 文字を付ける必要があります。

操作:

PUTQ ステートメントによって、テキスト文字列と変数がペアになります。変数の前にあるテキスト文字列によって、変数に値が含まれる場合は、文字列と値のペアが作成されます。たとえば、次の PUTQ ステートメントでは、イベント変数 ForeGround に blue の値が含まれる場合、出力は color=blue となります。

```
putq 'color=' foreground;
```

変数に値が含まれない場合は、テキストが書き込まれず、テキストまたは変数には出力されません。たとえば、次の PUTQ ステートメントでは、変数 BackGround、ForeGround、CellPadding に値が含まれない場合、出力は <table> となり、次に新しい行が続きます。

```
putq '<table' 'background=' background 'foreground=' foreground
'cellpadding=' cellpadding '>' nl;
```

ヒント: ユーザー定義変数は、大文字と小文字が区別されません。

参照項目:

DATA ステップ関数の詳細は、*SAS 関数と CALL ルーチン: リファレンス* を参照してください。

変数の詳細は、“[変数について](#)” (1169 ページ) を参照してください。

“[イベント変数](#)” (1211 ページ) イベント変数のリスト

event-statement-condition(s)

イベントステートメントを実行するために true にする必要がある複数の条件を指定します。

要件 *event-statement-condition(s)* は前にスラッシュ(/)を付ける必要があります。

参照項目: これらの条件の詳細は、“[イベントステートメントの条件](#)” (1216 ページ) を参照してください。

PUTSTREAM ステートメント

指定したストリーム変数のコンテンツを出力ファイルに書き込みます。

構文

PUTSTREAM *stream-variable* < / *event-statement-condition(s)*>;

必須引数

stream-variable

ストリーム変数(出力を含む一時アイテムストア)を指定します。

ヒント: メモリ変数の名前を *stream-variable-name* に割り当てる場合、ストリーム変数はメモリ変数の値として解決されます。たとえば、次のプログラムでは、メモリ変数 `$MyStream` がストリーム変数として使用されます。

```
set $mystream 'test';
open $mystream;
put 'The memory variable $mystream is being used as a stream variable';
close;
```

そのため、次のステートメントに相当します。

```
put $$test;
putstream $mystream;
putstream test;
```

また、次のステートメントにも相当します。

```
unset $$test;
delstream $mystream;
delstream test;
```

“メモリ変数” (1170 ページ)を参照してください。

オプション引数

event-statement-condition(s)

イベントステートメントを実行するために true にする必要がある複数の条件を指定します。

要件 *event-statement-condition(s)*は前にスラッシュ(/)を付ける必要があります。

参照項目: これらの条件の詳細は、“イベントステートメントの条件” (1216 ページ)を参照してください。

PUTVARS ステートメント

変数グループ、リスト、ディクショナリ内の各値を繰り返し、テキスト、新しい行、変数値、DATA ステップ関数の戻り値を出力ファイルに書き込みます。繰り返しごとに特殊変数 `_VALUE_` および `_NAME_` が自動的に設定されます。PUTVARS によって、検出された変数または値のそれぞれに対して 1 回出力されます。

ヒント: 変数 `_NAME_` には変数名が含まれます。変数 `_VALUE_` には変数値が含まれます。

参照項目: 表 15.3 (1211 ページ)の `_VALUE_` および `_NAME_`。

構文

PUTVARS (*variable-group* | *dictionary-variable* | *list-variable*)<NL(s)> <'text'> <value(s)>
</ *event-statement-condition*(s)>;

必須引数

variable-group

変数に名前または値を指定する場合に繰り返しごとに使用する変数の種類を指定します。たとえば、EVENT オプションを指定する場合、PUTVARS ステートメントによってプログラム内ですべてのイベント変数がループされます。*variable-group* は次のいずれかとなります。

EVENT

すべてのイベント変数をループするように指定します。

参照項目: “イベント変数” (1211 ページ)

STYLE

すべてのスタイル変数をループするように指定します。

DYNAMIC

すべての動的変数をループするように指定します。

MEMORY

すべてのメモリ変数をループするように指定します。メモリ変数は、キーを含むサブスクリプトを使用して作成する場合にはディクショナリ変数として分類されます。メモリ変数は、空白またはインデックスを含むサブスクリプトを使用して作成する場合にはリスト変数として分類されます。キー/インデックスを指定しない場合、変数の値に応じてメモリ変数は数値または文字スカラー変数になります。

制限事項: PUTVARS ステートメントでは、リスト/ディクショナリメモリ変数は無視されます。

STREAM

すべてのストリーム変数をループするように指定します。

操作: PUTVARS ステートメントによって、テキスト文字列と変数がペアになります。文字列の次が変数の場合、ペアになります。変数に値が含まれる場合、ペアが出力となります。変数に値が含まれない場合は、ペアのどちらも出力になりません。

dictionary-variable

ディクショナリ変数を指定します。

要件 *dictionary-variable* は、前に '\$' 記号を付ける必要があります。

ヒント: ユーザー定義変数は大文字と小文字が区別されません。

参照項目: リスト変数の詳細は、“EVAL ステートメント” (1190 ページ)、“SET ステートメント” (1203 ページ)、“変数について” (1169 ページ)を参照してください。

list-variable

リスト変数を指定します。

要件 *list-variable* は、前に “\$” 記号を付ける必要があります。

ヒント: ユーザー定義変数は大文字と小文字が区別されません。

参照項目: リスト変数の詳細は、次の項 (“EVAL ステートメント” (1190 ページ)、“SET ステートメント” (1203 ページ)、“変数について” (1169 ページ)。

オプション引数

NL

新しい行を指定します。

別名:

CR

LF

text

文字列またはテキストを指定します。

要件 *text* は引用符で囲む必要があります。

value

出力する値を含む任意のイベント変数、スタイル変数、動的変数、ユーザー定義変数、DATA ステップ関数を指定します。

制限事項: DATA ステップ関数はネストできません。

要件 ユーザー定義変数は、前に '\$' または '\$\$' 文字を付ける必要があります。

ヒント: ユーザー定義変数は大文字と小文字が区別されません。

参照項目:

DATA ステップ関数の詳細は、*SAS 関数と CALL ルーチン: リファレンス* を参照してください。

変数の詳細は、“[変数について](#)” (1169 ページ) を参照してください。

イベント変数のリストは、“[イベント変数](#)” (1211 ページ) を参照してください。

event-statement-condition(s)

イベントステートメントを実行するために true にする必要がある複数の条件を指定します。

要件 *event-statement-condition(s)* は前にスラッシュ(/)を付ける必要があります。

参照項目: これらの条件の詳細は、“[イベントステートメントの条件](#)” (1216 ページ) を参照してください。

SET ステートメント

ユーザー定義変数とその値を作成または更新します。

構文

```
SET $dictionary-variable entry </ event-statement-condition(s)>;
```

```
SET $list-variable entry </ event-statement-condition(s)>;
```

```
SET $scalar-variable | $$stream-variable entry </ event-statement-condition(s)>;
```

必須引数

dictionary-variable

キーごとに識別可能な数値やテキスト文字列のリストが含まれる配列を指定します。*dictionary-variable* は次の形式となります。

```
$dictionary-variable['key']
```

```
['key']
```

文字値を持つテキストまたは変数を含むサブスクリプトを指定します。

要件 *key* は引用符と角かっこで囲んでください。

ヒント: *key* は大文字と小文字が区別されます。

例: 次の例では、2つのキー値のペアがディクショナリ変数 `MyDictionary` に配置されています。

```
set $mydictionary['URL1'] 'links internally';
set $mydictionary['URL2'] 'links externally';
```

要件 *dictionary-variable* は、前に '\$' 記号を付ける必要があります。

ヒント:

ディクショナリ変数には、`ITERATE` および `NEXT` ステートメントを使用すると連続アクセスできます。“[ITERATE ステートメント](#)” (1192 ページ)を参照してください。また、“[NEXT ステートメント](#)” (1193 ページ)も参照してください。

ディクショナリ変数を作成したら、を使用して削除するまで、すべてのイベントで全体的に使用できます“[UNSET ステートメント](#)” (1208 ページ)。

entry

ディクショナリ変数、リスト変数、スカラー変数、ストリーム変数の値を指定します。*entry* は次のいずれかです。

function

DATA ステップ関数を指定します。

制限事項: 関数はネストできません。

参照項目: *SAS 関数と CALL ルーチン: リファレンス SAS 関数の詳細*

text

文字列またはテキストを指定します。

要件 *text* は引用符で囲む必要があります。

variable

出力する値を含む任意のイベント変数、スタイル変数、動的変数、ユーザー定義変数、DATA ステップ関数を指定します。

制限事項: *variable* はストリーム変数にできません。

要件 ユーザー定義変数は、前に '\$' 文字を付ける必要があります。

ヒント:

メモリ変数の名前である *variable* エントリをストリーム変数に割り当てる場合、ストリーム変数はメモリ変数の値として解決されます。たとえば、次のプログラムでは、メモリ変数 `$MyStream` がストリーム変数として使用されません。

```
set $mystream 'test';
open $mystream;
put 'The memory variable $mystream is being used as a stream variable';
close;
```

そのため、次のステートメントに相当します。

```
put $$test;
putstream $mystream;
putstream test;
```

また、次のステートメントにも相当します。

```
unset $$test;
delstream $mystream;
delstream test;
```

ユーザー定義変数は、大文字と小文字が区別されません。

参照項目:

“[メモリ変数](#)” (1170 ページ)

変数の詳細は、“[変数について](#)” (1169 ページ)を参照してください。

“[イベント変数](#)” (1211 ページ) イベント変数のリスト

list-variable

インデックス付きの数値やテキスト文字列のリストが含まれる配列を指定します。
list-variable は次の形式となります。

```
$list-variable[<index>]
```

```
[<index>]
```

数値または数値変数が含まれるサブスクリプトを指定します。インデックスによって、エントリを追加するリスト内の場所が識別されます。index を省略して空の角かっこのみを指定する場合、または index の値が index の最大数を超える場合、SET ステートメントによってエントリがリストの最後に付加されます。

要件:

インデックスを省略する場合でも、角かっこ[]は指定してください。

index は角かっこで囲んでください。

ヒント: リストエントリには、正または負のインデックスを使用してアクセスできます。正のインデックスは、リストの先頭から開始されます。負のインデックスは、リストの最後から開始されます。たとえば、次のリスト変数 `$Mylist[2]` は、リスト変数 `$Mylist` 内の 2 番目のエントリを示します。この場合、インデックスは 2 です。リスト変数 `$Mylist[-2]` は、リスト変数 `$Mylist` の終了から 2 番目のエントリを示します。この場合、インデックスは `[-2]` です。

例: 次の例では、3 つの値がリスト変数 `MyList` の最後に追加され、2 番目のエントリの値が変更されています。

```
set $mylist[] 'one';
   set $mylist[] 'two';
   set $mylist[] 'hello';
   set $mylist[2] 'This is Really two';
```

要件 *list-variable* は、前に '\$' 記号を付ける必要があります。

ヒント:

ディクショナリ変数には、ITERATE および NEXT ステートメントを使用すると連続アクセスできます。“[ITERATE ステートメント](#)” (1192 ページ) および “[NEXT ステートメント](#)” (1193 ページ) を参照してください。

リスト変数を作成したら、を使用して削除するまで、すべてのイベントで全体的に使用できません“[UNSET ステートメント](#)” (1208 ページ)。

scalar-variable

数値/文字データを含むメモリー領域。

要件 スカラー変数は、前に '\$' 記号を付ける必要があります。

ヒント: リスト変数を作成したら、“[UNSET ステートメント](#)” (1208 ページ)を使用して削除するまで、すべてのイベントで全体的に使用できます。

stream-variable

ストリーム変数(出力を含む一時アイテムストア)を指定します。

ストリーム変数が開放されている間、PUT ステートメントからの全出力は閉鎖されるまでストリーム変数に移動されます。

要件 *user-defined-variable-name* は、前に '\$\$' 記号を付ける必要があります。

ヒント: メモリ変数の名前である変数エントリを *stream-variable* に割り当てる場合、ストリーム変数はメモリ変数の値として解決されます。たとえば、次のプログラムでは、メモリ変数 `$MyStream` がストリーム変数として使用されます。

```
set $mystream 'test';
open $mystream;
put 'The memory variable $mystream is being used as a stream variable';
close;
```

そのため、次のステートメントに相当します。

```
put $$test;
putstream $mystream;
putstream test;
```

また、次のステートメントにも相当します。

```
unset $$test;
delstream $mystream;
delstream test;
```

参照項目:

“variable” (1204 ページ)

“メモリ変数” (1170 ページ)

オプション引数

event-statement-condition(s)

イベントステートメントを実行するために true にする必要がある複数の条件を指定します。

要件 *event-statement-condition(s)* は前にスラッシュ(/)を付ける必要があります。

参照項目: これらの条件の詳細は、“イベントステートメントの条件” (1216 ページ) を参照してください。

ディクショナリ変数へのエントリの追加

次の SET ステートメントの形式を使用すると、エントリをディクショナリ変数に追加できます。

```
SET $dictionary-variable entry </ event-statement-condition(s)>;
```

ディクショナリ変数とは、キーごとに識別可能な数値やテキスト文字列のリストが含まれる配列のことです。ディクショナリ変数には、その名前の一部として、前に '\$' 記号とサブスクリプト(テキスト文字列または文字値を持つ変数を含む)が含まれます。サブスクリプト内のテキストまたは変数はキーと呼ばれます。キーは大文字と小文字が区別されます。ディクショナリ変数が作成されると、すべてのイベントで全体的に使用できるようになり、UNSET ステートメントで設定を解除するまで保持されます。

エントリとは、変数、テキスト文字列、関数のいずれかです。テスト文字列がディクショナリ変数に従う場合、エントリはキーと値のペアになります。たとえば、次のプログラムでは、2 つのキーと値のペアがディクショナリに追加されます。

```
set $mydictionary['URL1'] 'links internally';
set $mydictionary['URL2'] 'links externally';
```

リスト変数へのエントリの追加

次の SET ステートメントの形式を使用すると、エントリをリスト変数に追加できます。

```
SET $list-variable entry </ event-statement-condition(s)>;
```

リスト変数とは、インデックス付きの数値やテキスト文字列のリストが含まれる配列のことです。リスト変数には、その名前の一部として、前に '\$' 記号とサブスクリプト(空白または数値や数値変数が含まれる)が含まれます。サブスクリプト内の数値はインデックスと呼ばれます。この変数が作成されると、すべてのイベントでリスト変数が全体的に使用できるようになり、UNSET ステートメントで設定を解除するまで保持されます。リストエントリには、正または負のインデックスを使用してアクセスできます。正のインデックスは、リストの先頭から開始されます。負のインデックスは、リストの最後から開始されます。

たとえば、次のリスト変数 \$Mylist[2] は、リスト変数 \$Mylist 内の 2 番目のエントリを示します。この場合、インデックスは 2 です。リスト変数 \$Mylist[-2] は、リスト変数 \$Mylist の終了から 2 番目のエントリを示します。この場合、インデックスは [-2] です。

STOP ステートメント

実行が現在のステートメントブロックの最後に移動するよう指定します。

構文

```
STOP </ event-statement-condition(s)>;
```

オプション引数

event-statement-condition(s)

イベントステートメントを実行するために true にする必要がある複数の条件を指定します。

要件 *event-statement-condition(s)*は前にスラッシュ(/)を付ける必要があります。

参照項目: これらの条件の詳細は、“[イベントステートメントの条件](#)” (1216 ページ) を参照してください。

TRIGGER ステートメント

イベントを実行します。

ヒント: TRIGGER ステートメントによって、イベントの特殊アクションが明示的にリクエストされません。

- 例:** “[例 3: タグセットの新規作成](#)” (1228 ページ)
“[例 4: TRIGGER=ステートメントを使用したイベントの実行](#)” (1232 ページ)
“[例 5: 出力のインデント](#)” (1234 ページ)
“[例 6: イベントに対する複数のスタイルを使用](#)” (1237 ページ)
-

構文

```
TRIGGER event-name <START | FINISH> </ event-statement-condition(s)>;
```

引数なし

トリガされたイベントに開始セクションも終了セクションも含まれない場合、現在のイベントステートメントが実行されます。

必須引数

event-name

イベント名を指定します。

オプション引数

START

イベントの開始セクションを指定します。

操作: プログラムがイベントの開始セクション内にある場合、トリガされるイベントによってその開始セクションが実行されます。

FINISH

イベントの終了セクションを指定します。

操作: プログラムがイベントの終了セクション内にある場合、トリガされるイベントによってその終了セクションが実行されます。

event-statement-condition(s)

イベントステートメントを実行するために true にする必要がある複数の条件を指定します。

要件 *event-statement-condition* は前にスラッシュ(/)を付ける必要があります。

参照項目: これらの条件の詳細は、“[イベントステートメントの条件](#)” (1216 ページ) を参照してください。

UNBLOCK ステートメント

無効にされたイベントを有効にします。

要件 同じイベントを複数回ブロックできるため、イベントを有効にするには、BLOCK ステートメントと同じ数の UNBLOCK ステートメントを使用してください。

操作: イベントを無効にするには、BLOCK ステートメントを使用します。

構文

```
UNBLOCK event-name </ event-statement-condition(s)>;
```

必須引数***event-name***

イベント名を指定します。

オプション引数***event-statement-condition(s)***

イベントステートメントを実行するために true にする必要がある複数の条件を指定します。

要件 *event-statement-condition* は前にスラッシュ(/)を付ける必要があります。

参照項目: これらの条件の詳細は、“[イベントステートメントの条件](#)” (1216 ページ) を参照してください。

UNSET ステートメント

ユーザー定義変数とその値を削除します。

構文

```
UNSET ALL | dictionary-variable | list-variable | scalar-variable | stream-variable  
</ event-statement-condition(s)>;
```

必須引数

ALL

ディクショナリ変数、リスト変数、スカラー変数のすべてを削除します。

ヒント: ストリーム変数は、個別に削除する必要があります。

dictionary-variable

キーごとに識別可能な数値やテキスト文字列のリストが含まれる配列を指定します。*dictionary-variable* は次の形式となります。

```
$dictionary-variable['key']
```

```
['key']
```

削除する値のディクショナリ変数内の場所を指定します。

要件:

key は引用符と角かっこで囲んでください。

key はテキスト文字列または文字変数にする必要があります。

ヒント: *key* は大文字と小文字が区別されます。

要件 *dictionary-variable* は、前に '\$' 記号を付ける必要があります。

list-variable

インデックス付きの数値やテキスト文字列のリストが含まれる配列を指定します。*list-variable* は次の形式となります。

```
$list-variable[<index>]
```

```
[<index>]
```

削除する値のリスト変数内の場所を指定します。*index* を省略して空の角かっこを指定する場合、リスト変数全体が削除されます。

要件:

インデックスを省略する場合でも、角かっこ [] は指定してください。

index は数値または数値変数にする必要があります。

index は角かっこで囲んでください。

ヒント: リストエントリには、正または負のインデックスを使用してアクセスできません。正のインデックスは、リストの先頭から開始されます。負のインデックスは、リストの最後から開始されます。たとえば、次のコードでは、1 番目の UNSET ステートメントによって、1 番目のエントリがリスト変数 *MyList* の開始から削除されます。2 番目の UNSET ステートメントによって、*MyList* リスト変数での最後のエントリが削除されます。

```
unset $mylist[-1];
unset $mylist[1];
```

要件 また、*list-variable* は前に '\$' 記号を付ける必要があります。

scalar-variable

削除するスカラー変数を指定します。

要件 スカラー変数は、前に '\$' 記号を付ける必要があります。

参照項目: “SET ステートメント” (1203 ページ) または “変数について” (1169 ページ) (スカラー変数に関する詳細)

stream-variable

削除するストリーム変数を指定します。

要件 *user-defined-variable-name* は、前に '\$\$' 記号を付ける必要があります。

ヒント: メモリ変数の名前である変数エントリを *stream-variable* に割り当てる場合、ストリーム変数はメモリ変数の値として解決されます。たとえば、次のプログラムでは、メモリ変数 *\$MyStream* がストリーム変数として使用されます。

```

set $mystream 'test';
open $mystream;
put 'The memory variable $mystream is being used as a stream variable';
close;

```

そのため、次のステートメントに相当します。

```

put $$test;
putstream $mystream;
putstream test;

```

また、次のステートメントにも相当します。

```

unset $$test;
delstream $mystream;
delstream test;

```

参照項目: “SET ステートメント” (1203 ページ) または “変数について” (1169 ページ) (メモリ変数の詳細)

オプション引数

event-statement-condition(s)

イベントステートメントを実行するために true にする必要がある複数の条件を指定します。

要件 また、*event-statement-condition* は前にスラッシュ(/)を付ける必要があります。

参照項目: これらの条件の詳細は、“イベントステートメントの条件” (1216 ページ) を参照してください。

XDENT ステートメント

INDENT=属性によって指定されるスペース数を使用し、1 レベル下げて出力をインデントします。

操作: インデントの開始レベルは、NDENT=ステートメントによって設定されます。

例: “例 3: タグセットの新規作成” (1228 ページ)
“例 5: 出力のインデント” (1234 ページ)

構文

```
XDENT </ event-statement-condition(s)>;
```

オプション引数

event-statement-condition(s)

イベントステートメントを実行するために true にする必要がある複数の条件を指定します。

要件 *event-statement-condition* は前にスラッシュ(/)を付ける必要があります。

参照項目: これらの条件の詳細は、“イベントステートメントの条件” (1216 ページ) を参照してください。

イベント変数

イベント変数には、イベントに関連付けられるテキスト、フォーマット、データ値が含まれます。これらの変数の送信元は、テーブルテンプレート、プロシジャ、タイトル、BYLINE、処理などの多くの場所になります。また、イベント変数には、プログラムで使用されるスタイル属性が含まれます。次の表は、PROC TEMPLATE の DEFINE EVENT ステートメントで使用される内部生成イベント変数の一覧です。

SAS には、障害があるユーザー向けに SAS ユーザーを向上するための次のアクセシビリティおよび互換性機能が含まれます。次の機能は、米国政府が 1973 年リハビリテーション法の第 508 条(修正あり)で採用されている電子情報技術のアクセシビリティ規格に関連します。

表 15.2 508 アクセシビリティ変数

イベント変数	説明
ABBR	イベント変数の短縮形を指定します。
ACRONYM	イベント変数の頭字語を指定します。
ALT	イベント変数の代替説明を指定します。
CAPTION	表のキャプションを指定します。
LONGDESC	イベント変数の長い説明を指定します。
SUMMARY	表の要約を指定します。

表 15.3 データ変数

イベント変数	説明
NAME	現在の変数の名前が含まれます。
VALUE	現在の変数の値が含まれます。
DNAME	現在の列に関連付けるデータコンポーネント内の列の名前を指定します。DNAME は、カラムテンプレート内の DATANAME=属性によって指定されます。詳細は、“ DATANAME=列の名前; ” (1078 ページ)を参照してください。
LABEL	変数のラベルを指定します。LABEL イベント変数は、カラムテンプレート内の LABEL=属性を使用して設定されます。詳細は、“ LABEL="テキスト" 変数; ” (1082 ページ)を参照してください。
NAME	変数名を指定します。NAME は、カラムテンプレート内の VARNAME=属性によって設定されます。詳細は、“ VARNAME=変数名 変数; ” (1086 ページ)を参照してください。

イベント変数	説明
VALUE	現在の値を指定します。
VALUECOUNT	変数の数を指定します。

表 15.4 イベントメタ変数

イベントメタ変数	説明
EMPTY	イベントが空のタグとして呼び出されるかどうかを判定するフラグを設定します。
EVENT_NAME	リクエストされたイベント名を指定します。
STATE	イベントの現在の状態(START または FINISH)を指定します。
TRIGGER_NAME	トリガされるイベントの名前を指定します。

表 15.5 フォーマットデータ

イベント変数	説明
CLOSURE	フォーマット範囲のエンドポイントを含むまたは除外するかどうかを指定します(<-、-, -<, <<-など)。
COL_ID	列を識別するための列 ID を指定します。XML LIBNAME エンジンによって OIMDBM 形式タイプに使用されます。
DATAENCODING	生の値にエンコードタイプを指定します。これは常に Base64 です。
MISSING	データ値が保存されないことを示す値を指定します。デフォルトでは、数値がない場合にはシングルピリオド(.)、文字値がない場合には空白スペースが SAS によって使用されます。また、数値がない場合、値がないことを示す特殊なインジケータは、A~Z のいずれかの文字またはアンダースコアを割り当てることで、各種カテゴリーの見つからないデータを表します。
NO_WRAP	現在のセルでテキストが折り返さないか、またはハイフンを挿入しないように指定します。
PRECISION	小数の右側の数字の位置を指定します。PRECISION 変数は、XML LIBNAME エンジンによって使用されます。
RANGEEND	形式内の範囲の終了値を指定します。
RANGESTART	形式内の範囲の開始値を指定します。
RAWVALUE	元の値の保存されたマシン表示の base64 エンコードを指定します。

イベント変数	説明
SASFORMAT	値のフォーマットに使用される SAS 形式を指定します。
SCALE	浮動小数内の位置の合計数を指定します。SCALE イベント変数は、XML LIBNAME エンジンによって使用されます。
TYPE	STRING、DOUBLE、CHAR、BOOL、INT データ型を指定します。
UNFORMATTEDTYPE	フォーマットする前にデータ型を指定します。
UNFORMATTEDVALUE	フォーマットする前に値を指定します。
UNFORMATTEDWIDTH	フォーマットする前に幅を指定します。

表 15.6 一般使用変数

変数	説明
ANCHOR	現在のアンカ(IDX などのアンカタグの最後の値)を指定します。
DATA_VIEWER	表、バッチ、ツリー、グラフ、レポート、印刷などのデータビューアの名前を指定します。
DATE	日付を指定します。
DEST_FILE	現在の出力先(ボディ、コンテンツ、ページ、フレーム、コード、スタイルシートのいずれか)を指定します。
FIRSTPAGE	出力ファイルの最初のページを指定します。
LANGUAGE	現在の出力の言語を指定します。LANGUAGE イベント変数が設定されるのは、アジア言語の場合のみです。
OUTPUT_LABEL	現在の出力オブジェクトのラベルを指定します。
OUTPUT_NAME	現在の出力オブジェクトの名前を指定します。
OUTPUT_TYPE	タグセットで指定された出力タイプを指定します。
PAGE_COUNT	ファイルが開いてからのページ数を指定します。
PROC_COUNT	ファイルが開いてから実行されたプロシジャの回数を指定します。
PROC_NAME	現在のプロシジャ名を指定します。
SASLONGVERSION	SAS バージョンのロング形式を指定します。
SASVERSION	SAS バージョンのショート形式を指定します。

変数	説明
SPACE	タグセットによって改行をしないスペースに使用される文字列を指定します。
SPLIT	タグセットによって改行に使用される文字列を指定します。
STYLE	使用中の現在のスタイルを指定します。
STYLE_ELEMENT	現在のスタイル要素名を指定します。
SUPPRESS_CHARSET	Suppress Charset Registry 設定を指定します。
TIME	時刻を指定します。
TOCLEVEL	コンテンツレベルのテーブルを指定します。
TOTAL_PAGE_COUNT	ODS が開いてからの総ページ数を指定します。
TOTAL_PROC_COUNT	ODS が開いてから実行されたプロシジャ数を指定します。

表 15.7 ODS ステートメント変数: タグセットを呼び出した ODS ステートメントによる送信元の変数

イベント変数	説明
AUTHOR	出力の作成者を指定します。AUTHOR イベント変数の値は、ODS ステートメントから設定され、デフォルトでは SAS を実行しているユーザーになります。
BASENAME	ODS ステートメントで設定される BASE=オプションの名前を指定します。
BODY_NAME	ボディファイル名を指定します。
BODY_TITLE	ボディファイルのタイトルを指定します。
BODY_URL	ボディファイルの URL を指定します。
CODE_NAME	コードファイル名を指定します。
CODE_TITLE	コードファイルのタイトルを指定します。
CODE_URL	コードファイルの URL を指定します。
CONTENTS_NAME	コンテンツファイル名を指定します。
CONTENTS_TITLE	コンテンツファイルのタイトルを指定します。
CONTENTS_URL	コンテンツファイルの URL を指定します。
DATA_NAME	データファイル名を指定します。
DATA_TITLE	データファイルのタイトルを指定します。
DATA_URL	データファイルの URL を指定します。

イベント変数	説明
ENCODING	テキストデータをコンピュータが認識できるナンバリングシステムに変換するための出力エンコードを指定します。
FRAME_NAME	フレームファイル名を指定します。
FRAME_TITLE	フレームファイルのタイトルを指定します。
FRAME_URL	フレームファイルの URL を指定します。
GRAPH_PATH_NAME	ODS PATH ステートメントによって指定されるグラフのパスを指定します。
GRAPH_PATH_URL	グラフの URL を指定します。
NO_BOTTOM	ODS MARKUP ステートメントで NO_BOTTOM_MATTER オプションを指定した場合は非ゼロ値になります。
NO_TOP	ODS MARKUP ステートメントで NO_TOP_MATTER オプションを指定した場合は非ゼロ値になります。
OPERATOR	演算子を指定します。OPERATOR イベント変数の値は、ODS ステートメントから設定され、デフォルトでは SAS を実行しているユーザーになります。
PAGES_NAME	ページファイル名を指定します。
PAGES_TITLE	ページファイルのタイトルを指定します。
PAGES_URL	ページファイルの URL を指定します。
PATH	ODS ステートメントによって設定されるパスを指定します。
PATH_NAME	パス名を指定します。
PATH_URL	パスの場所を指定します。
STYLESHEET_NAME	スタイルシートファイル名を指定します。
STYLESHEET_TITLE	スタイルシートファイルのタイトルを指定します。
STYLESHEET_URL	スタイルシートファイルの URL を指定します。
TAGSET	現在のタグセット名を指定します。
TAGSET_ALIAS	ODS MARKUP ステートメントによって提供される現在のタグセットのエイリアスを指定します。
TITLE	ODS ステートメントからタイトルを指定します。
TRANTAB	文字変換用の変換テーブル名を指定します。

表 15.8 テーブル変数

イベント変数	説明
CLABEL	コンテンツファイル、結果ウィンドウ、トレースレコード内の出力オブジェクト用ラベルを指定します。テーブルテンプレート内の CONTENTS_LABEL=属性を使用して設定してください。詳細は、“CONTENTS_LABEL= "文字列" 変数;” (1104 ページ)を参照してください。
COLCOUNT	現在のテーブル内の列数を指定します。
COLEND_EA	終了列の番号を指定します。
COLSPAN	セルがまたがる列番号を指定します。
COLSTART	セルの開始列番号を指定します。
DATA_ROW	現在の行がデータ行であるように指定します。
IS_STACKED	列がスタックされるように指定します。
ROW	ヘッダーを含む現在のテーブル行を指定します。
ROWSPAN	現在のセルがまたがる行の番号を指定します。
SECTION	テーブルのヘッダー、ボディ、フッターを指定します。
WIDTH	幅を指定します。COLSPECS で最も使用頻度が高いのは WIDTH です。

表 15.9 URL 変数

イベント変数	説明
NOBASE	BASE=オプションを URL パートとして使用するかどうかを判定するフラグを設定します。0 では BASE=オプションが使用され、1 では BASE=オプションが使用されません。
TARGET	URL に関連付けられるターゲットを指定します。
URL	完全形式の URL を指定します。

イベントステートメントの条件

イベントステートメントの条件によって、DEFINE EVENT ステートメントを実行するために true にする必要がある複数の条件が指定されます。イベントステートメントの条件は前にスラッシュ(/)を付ける必要があります。

イベントステートメントの条件は次の形式になります。

define-event-statement </ *event-statement-condition(s)*>;

define-event-statement

DEFINE EVENT ステートメントを指定します。

event-statement-condition

評価条件を指定します。

event-statement-condition は次のいずれかになります。

ANY (*variable-1*,<...>, *variable-n*>)

カンマ区切り変数リストに値があるかチェックします。変数のいずれかに値が含まれる場合、条件は true となります。

例:

```
put 'One of our variables has a value!'
  nl/if any(background, foreground, cellpadding, cellspacing);
```

BREAKIF *event*

実行中のイベントを停止します。現在のステートメントが実行され、イベントは終了します。

ヒント: BREAKIF 条件を使用すると、PUT/BREAK イベントステートメントと IF 条件を一緒に使用するよりも効率が高まります。たとえば、次のステートメントに相当します。

```
put 'Foreground has a value!' /breakif exists(foreground);
put 'Foreground has a value!' /if exists(foreground);
  break /if exists(foreground);
```

CMP (“*string*”, *variable* | *variable-list*)

均等にするため、文字列を変数リストの変数と比較します。

例:

```
put 'The foreground is blue!' nl/if cmp('blue',foreground);
```

CONTAINS (*argument-1*, *argument-2*)

第 2 引数に対する第 1 引数を検索します。

例:

```
set $myvariable 'some random text';
put 'myvariable contains 'ran' nl/if contains($myvariable, 'ran');
```

EXIST | EXISTS (*variable* | *variable-list*)

変数または変数リストに値が含まれるかどうかを判定します。すべての変数に値が含まれる場合、条件は true になります。変数にデータ長 0 の空の文字列が含まれる場合、変数には値が含まれず、条件は false となります。

ヒント: MISSING イベント変数に EXIST 条件を指定して使用すると、値がないかどうかを判定できます。

例:

```
put 'All of our variables have a value!'
  nl/if exists(background, foreground, cellpadding, cellspacing);
```

IF | WHEN | WHERE (<*value*><'*string*'><*variable*>)

存在または均等性をテストします。IF、WHEN、WHERE は任意で、交換可能です。IF、WHEN、WHERE 条件によって、値と文字列が比較されるか、または変数に値があるかチェックされます。

制限事項: IF 条件を単体のユーザー定義変数と共に指定すると、変数の種類に従って値が含まれるかどうかを判定するために変数が評価されます。文字列変数タイプでは、存在の判定にデータ長が使用され、数値変数タイプでは値、ディクショナリ配列変数タイプではキーが使用されます(指定されたキーがある場合、変数の種類は true となります)。

例: 次はすべて同じ結果を出力します。

```

put 'Foreground has a value!' nl/if (foreground);
put 'Foreground has a value!' nl/if exists(foreground);
put 'Foreground has a value!' nl/when exists(foreground);
put 'Foreground has a value!' nl/exists(foreground);
put 'Foreground has a value!' nl/where existsforeground);

```

NOT `!!|^<string><variable>`

条件を否定します。キーワード NOT、文字 '!','^'を使用できます。

制限事項: 文字'!' は、条件内の最初の文字としてのみ機能します。後続の文字には、標準の WHERE 処理構文が必要です。

例:

```

put 'The foreground is not red!' nl/if not cmp('red', foreground);
put 'The foreground is not red or blue' /if !cmp('red', foreground)
and ^cmp('blue', foreground);
put 'The foreground is not red or blue' /if ^cmp('red', foreground)
and ^cmp('blue', foreground);

```

WHILE *condition-expression*

対応するステートメントブロックが、WHILE 値が false になるまでループすることを示します。

制限事項: WHILE 条件を使用できるのは、DO ステートメントと共に使用する場合のみです。

例:

```

eval $count 0;

do /while $count < 10;
eval $i $count+1;
continue /if $count eq 5;
stop /if $count eq 8;
put 'Count is ' $i nl;
else;
put 'Count was never less than 10' nl;
done;

```

例: TEMPLATE プロシジャ: マークアップ言語のタグセットの作成

例 1: 継承からのタグセットの作成

要素: DEFINE TAGSET ステートメント:
 DEFINE EVENT ステートメント:
 PUT ステートメント
 PARENT=属性
 その他の ODS 機能:
 ODS PATH ステートメント
 ODS MARKUP ステートメント

詳細

この例では、カスタマイズされた HTML 出力を作成する Tagsets.MyTags という新しいタグセットを定義します。新しいタグセットは継承によって作成されます。必要なフォーマットの大半は、SAS によって提供されるタグセット Tagsets.Chtml で使用できます。

プログラム

```
ods path sasuser.templat (update)
sashelp.tmplmst (read);

proc template;
define tagset tagsets.mytags /store=sasuser.templat;
parent=tagsets.chtml;

define event colspecs;
put 'These are my new colspecs' nl;
end;

define event table;
put '<p>' nl '<table>';
finish:
put '</table>';
end;

define event system_title;
end;

end;
run;

ods tagsets.mytags body='custom-tagset-filename.html';

proc print data=sashelp.class;
run;

ods tagsets.mytags close;
```

プログラムの説明

新しいタグセットを定義します。 DEFINE TAGSET ステートメントによって、Tagsets.Mytags という新しいタグセットが作成されます。新しいタグセット Tagsets.Mytags が Tagsets.Chtml からイベントを継承するように、PARENT=属性が使用されます。検索パスを確立するため、ODS PATH ステートメントが開始時に指定されます。

```
ods path sasuser.templat (update)
sashelp.tmplmst (read);

proc template;
define tagset tagsets.mytags /store=sasuser.templat;
parent=tagsets.chtml;
```

3つのイベントを定義します。 DEFINE EVENT ステートメントによって、COLSPECS、TABLE、SYSTEM_TITLE という3つのイベントが作成されます。COLSPECS イベント

トによって、テキストが指定されます。TABLE イベントによって、テンプレートに含むタグが指定されます。SYSTEM_TITLE イベントによって、タイトルが削除されます。

```
define event colspecs;
put 'These are my new colspecs' nl;
end;

define event table;
put '<p>' nl '<table>';
finish;
put '</table>';
end;

define event system_title;
end;
```

タグセットを終了します。この END ステートメントによって、タグセットは終了されます。RUN ステートメントによって、PROC TEMPLATE ステップが実行されます。

```
end;
run;
```

ユーザー定義タグセットを指定します。次のコードによって、ユーザー定義タグセット Tagsets.Mytags が出力のターゲットとして指定されます。

```
ods tagsets.mytags body='custom-tagset-filename.html';
```

データセットを出力します。PROC PRINT によってレポートが作成されます。ODS によってレポートがボディファイルに書き込まれます。

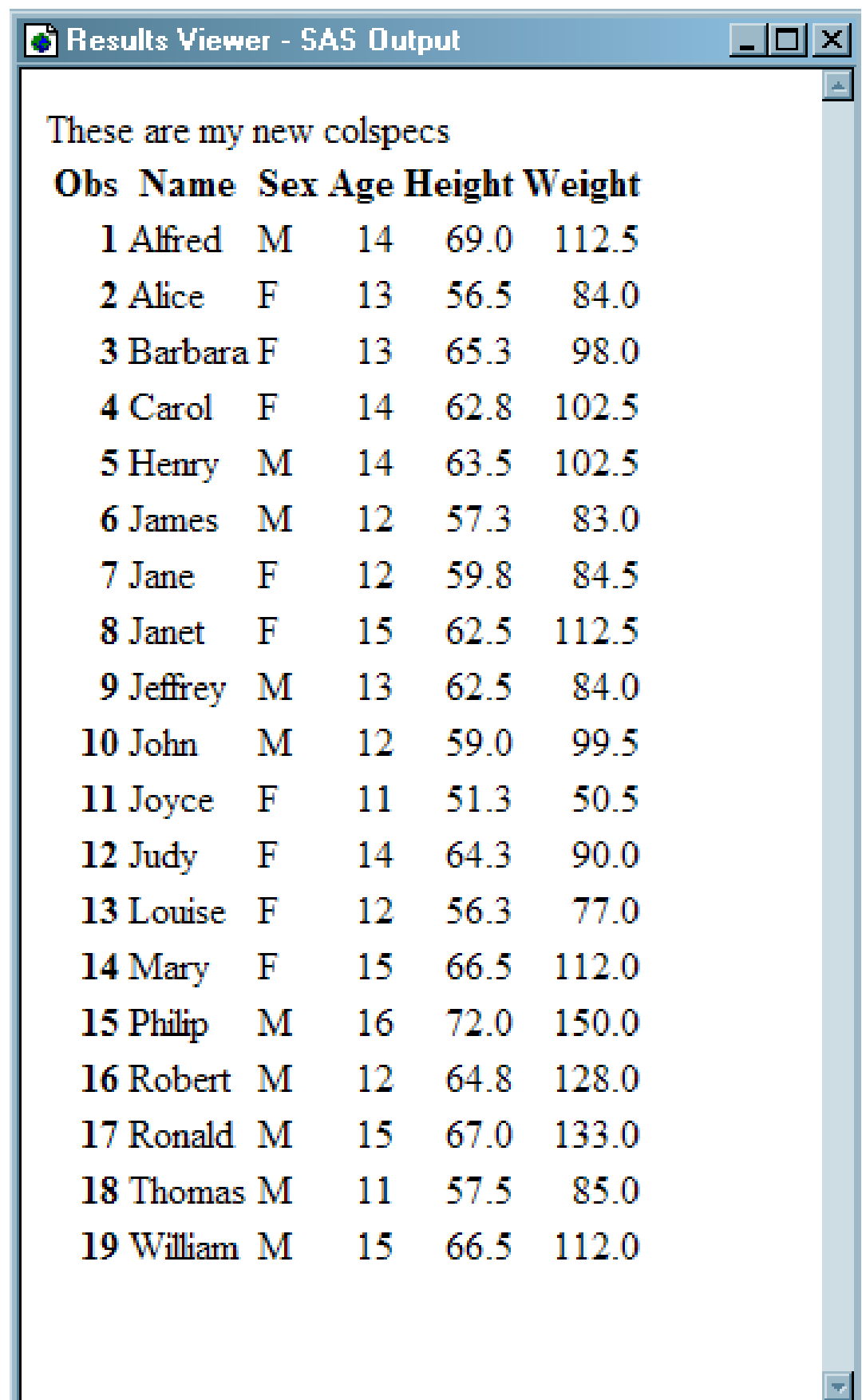
```
proc print data=sashelp.class;
run;
```

タグセットの作成を停止します。ODS TAGSET, MYTAGS CLOSE ステートメントによって、MARKUP 出力先とその関連ファイルがすべて閉じられます。出力をブラウザで表示できるように、出力先を閉じます。

```
ods tagsets.mytags close;
```

カスタマイズされた CHTML タグを表示するには、Web ブラウザでソースを表示します。ブラウザのツールバーで、**表示** ⇨ **ソース**を選択します。

アウトプット 15.3 生成された出力: Mytags.Chtml (Microsoft Internet Explorer で表示)



The image shows a screenshot of a web browser window titled "Results Viewer - SAS Output". The window contains a table of data with the following columns: Obs, Name, Sex, Age, Height, and Weight. The data is presented in a list format with each row starting with an observation number. The text "These are my new colspecs" is displayed above the table header.

Obs	Name	Sex	Age	Height	Weight
1	Alfred	M	14	69.0	112.5
2	Alice	F	13	56.5	84.0
3	Barbara	F	13	65.3	98.0
4	Carol	F	14	62.8	102.5
5	Henry	M	14	63.5	102.5
6	James	M	12	57.3	83.0
7	Jane	F	12	59.8	84.5
8	Janet	F	15	62.5	112.5
9	Jeffrey	M	13	62.5	84.0
10	John	M	12	59.0	99.5
11	Joyce	F	11	51.3	50.5
12	Judy	F	14	64.3	90.0
13	Louise	F	12	56.3	77.0
14	Mary	F	15	66.5	112.0
15	Philip	M	16	72.0	150.0
16	Robert	M	12	64.8	128.0
17	Ronald	M	15	67.0	133.0
18	Thomas	M	11	57.5	85.0
19	William	M	15	66.5	112.0

SAS によって提供されるタグセット **Tagsets.Chtml** を使用します。Tagsets.Mytags からの出力を Tagsets.Chtml からの出力(SAS によって提供される)と比較します。次の ODS コードを使用し、SAS タグセットを指定します。ODS MARKUP ステートメントで TYPE= を使用すると、任意のタグセットを指定できます。

```
ods markup tagset=tagsets.chtml body='default-tagset-filename.html';

proc print data=sashelp.class;
run;

ods markup close;
```

デフォルトの CHTML タグを表示するには、Web ブラウザでソースを表示します。ブラウザのツールバーで、**表示** ⇨ **ソース** を選択します。

アウトプット 15.4 デフォルトの HTML タグセットを使用する表示(Microsoft Internet Explorer で表示)

The SAS System

Obs	Name	Sex	Age	Height	Weight
1	Alfred	M	14	69.0	112.5
2	Alice	F	13	56.5	84.0
3	Barbara	F	13	65.3	98.0
4	Carol	F	14	62.8	102.5
5	Henry	M	14	63.5	102.5
6	James	M	12	57.3	83.0
7	Jane	F	12	59.8	84.5
8	Janet	F	15	62.5	112.5
9	Jeffrey	M	13	62.5	84.0
10	John	M	12	59.0	99.5
11	Joyce	F	11	51.3	50.5
12	Judy	F	14	64.3	90.0
13	Louise	F	12	56.3	77.0
14	Mary	F	15	66.5	112.0
15	Philip	M	16	72.0	150.0
16	Robert	M	12	64.8	128.0
17	Ronald	M	15	67.0	133.0
18	Thomas	M	11	57.5	85.0
19	William	M	15	66.5	112.0

例 2: タグセットのソースをコピーしてタグセットを作成します。

要素: SOURCE ステートメント
DEFINE TAGSET ステートメント:
DEFINE EVENT ステートメント

詳細

この例では、SAS によって提供されるタグセットのソースをコピーし、テンプレートを変更し、カスタム出力用の新しいタグセットを構築します。新しいタグセットを作成するには、PROC TEMPLATE で SOURCE ステートメントを使用し、タグセットのソースをコピーします。その後、必要に応じてテンプレートをカスタマイズできます。

プログラム

```
proc template;  
  source tagsets.csv;  
run;
```

プログラムの説明

SAS タグセットを外部ファイルにコピーします。 次のステートメントによって、タグセットのソースが SAS タグセット Tagsets.CSV から SAS ログにコピーされます。

```
proc template;  
  source tagsets.csv;  
run;
```

部分ログ: SAS によって提供されるデフォルトの CSV タグセット

```

1 proc template;
NOTE: Writing HTML Body file: sashtml.htm
2 source tagsets.csv;
define tagset Tagsets.Csv;
notes "This is the CSV definition";
mvar _CURRENCY_SYMBOL _DECIMAL_SEPARATOR _THOUSANDS_SEPARATOR _CURRENCY_AS_NUMBER
_PERCENTAGE_AS_NUMBER _DELIMITER;

define event initialize;

trigger set_options;

trigger documentation;

trigger compile_regexp;
end;

define event options_set;

trigger set_options;

trigger documentation;

trigger compile_regexp;
end;

define event documentation;

trigger help /if cmp( $options["DOC"], "help");

trigger quick_reference /if cmp( $options["DOC"], "quick");
end;

define event help;
putlog
"=====";
putlog "The CSV Tagset Help Text.";
putlog " ";
putlog "This Tagset/Destination creates output in comma separated value format.";
putlog " ";
putlog
"Numbers, Currency and percentages are correctly detected and show as numeric

...more lines of log...

define event warning;
break /if ^$notes;
put VALUE NL;
end;
mapsub = "/""/"/";
map = """/";
registered_tm = "(r)";
trademark = "(tm)";
copyright = "(c)";
output_type = "csv";
stacked_columns = OFF;
end;
NOTE: Path 'Tagsets.Csv' is in: SASHELP.TMPLMST.
3 run;
NOTE: PROCEDURE TEMPLATE used (Total process time):
real time 13.14 seconds
cpu time 0.63 seconds

```

カスタマイズされたタグセットを作成します。次の PROC TEMPLATE コードを送信しカスタマイズされたタグセット Tagsets.Mycsv を作成します。DEFINE EVENT TABLE ステートメントでは、PUT NL ステートメントが使用され、出力ファイルに2つの空白行が追加されます。空白行はそれぞれテーブルの前後に配置されます。

```
proc template;
define tagset Tagsets.mycsv;
notes 'This is the My CSV template';
define event table;
start:
put nl;
finish:
put nl;
end;
define event put_value;
put VALUE;
end;
define event put_value_cr;
put VALUE NL;
end;
define event row;
finish:
put NL;
end;
define event header;
start:
put ',' /if ^cmp( COLSTART, '1');
put ' ';
put VALUE;
finish:
put ' ';
end;
define event data;
start:
put ',' /if ^cmp( COLSTART, '1');
put ' ';
put VALUE;
finish:
put ' ';
end;
define event colspanfill;
put ',';
end;
define event rowspanfill;
put ',' /if ^exists( VALUE);
end;
define event breakline;
put NL;
end;
define event splitline;
put NL;
end;
registered_tm = '(r)';
trademark = '(tm)';
copyright = '(c)';
```

```
output_type = 'csv';  
stacked_columns = OFF;  
end;  
end;
```

カスタマイズされたタグセットを CSV タグセット Tagsets.Mycsv を表示するには、次のコードを送信します。

```
proc template;  
source tagsets.mycsv;  
run;
```

ログ出力: カスタマイズされた CSV タグセット Tagsets.Mycsv

結果 ⇒ ⇒ テンプレート ⇒ Sasuser.Templat ⇒ ⇒ Mycsv にアクセスすると、タグセットを表示できます。

```
proc template;
define tagset Tagsets.Mycsv / store = Sasuser.Templat;
notes 'This is the My CSV template';
define event table;
start:
put NL;
finish:
put NL;
end;
define event put_value;
put VALUE;
end;
define event put_value_cr;
put VALUE NL;
end;
define event row;
finish:
put NL;
end;
define event header;
start:
put ',' /if ^cmp( COLSTART, '1');
put ''';
put VALUE;
finish:
put ''';
end;
define event data;
start:
put ',' /if ^cmp( COLSTART, '1');
put ''';
put VALUE;
finish:
put ''';
end;
define event colspanfill;
put ',';
end;
define event rowspanfill;
put ',' /if ^exists( VALUE);
end;
define event breakline;
put NL;
end;
define event splitline;
put NL;
end;
output_type = 'csv';
copyright = '(c)';
trademark = '(tm)';
registered_tm = '(r)';
stacked_columns = OFF;
end;
run;
```

例 3: タグセットの新規作成

要素: PROC TEMPLATE 機能:
DEFINE TAGSET ステートメント:
NOTES ステートメント
DEFINE EVENT ステートメント:

NDENT ステートメント
 PUT ステートメント
 TRIGGER ステートメント
 XDENT ステートメント

タグセット属性:

DEFAULT_EVENT 属性
 INDENT=属性
 OUTPUT_TYPE 属性
 MAP=属性
 MAPSUB=属性
 NOBREAKSPACE=属性
 SPLIT=属性
 STACKED_COLUMNS=属性

詳細

この例は、別のタグセットからイベントを継承しないタイプの新しいタグセットを示します。これは、特定の PROC FREQ 出力用にカスタマイズされた新しいタグセットです。

プログラム

```
proc template;
  define tagset Tagsets.newloc / store = Sasuser.Templat;
  notes 'This is the Location Report Template';

  define event basic;
  end;

  define event doc;
  start:
  put ' ' nl nl;
  put ' ' nl;
  put ' ' nl;
  put ' ' nl;
  ndent;
  finish:
  xdent;
  put nl;
  put ' ';
  end;

  define event system_title;
  put ' ';
  put VALUE;
  put ' ';
  put nl nl;
  end;
  define event header;
  start:
  trigger country /if cmp(LABEL, 'EmpCountry');
  end;

  define event data;
  start:
```

```

trigger frequency /if cmp(name, 'Frequency');
end;

define event country;
put ' ' nl ;
ndent ;
put ' ' ;
put VALUE ;
put ' ' nl ;
end;

define event frequency;
put ' ' ;
put VALUE ;
put ' ' nl ;
xdent ;
put ' ' nl ;
end;

output_type = 'xml';
default_event = 'basic';
indent = 2;
split = ' ';
nobreakspace = ' ';
mapsub = '/</>/&/' ;
map = '<>&';
stacked_columns=off;
end;
run;

```

プログラムの説明

新しいタグセット Tagsets.Newloc を作成します。 DEFINE TAGSET ステートメントによって、新しいタグセット Tagsets.Newloc が作成され、タグセットの保存場所が指定されません。

```

proc template;
define tagset Tagsets.newloc / store = Sasuser.Templat;
notes 'This is the Location Report Template';

```

7つのイベントを定義します。 7つの DEFINE ステートメントによって、BASIC、DOC、SYSTEM_TITLE、HEADER、DATA、COUNTRY、FREQUENCY という名前のイベントが作成されます。

```

define event basic;
end;

define event doc;
start:
put ' ' nl nl;
put ' ' nl;
put ' ' nl;
put ' ' nl;
ndent;
finish:

```

```

xdent;
put nl;
put '';
end;

define event system_title;
put '';
put VALUE;
put '';
put nl nl;
end;
define event header;
start:
trigger country /if cmp(LABEL, 'EmpCountry');
end;

define event data;
start:
trigger frequency /if cmp(name, 'Frequency');
end;

define event country;
put '' nl ;
ndent ;
put '' ;
put VALUE ;
put '' nl ;
end;

define event frequency;
put '' ;
put VALUE ;
put '' nl ;
xdent ;
put '' nl ;
end;

output_type = 'xml';
default_event = 'basic';
indent = 2;
split = '';
nobreakspace = '';
mapsub = '/</>/&/' ;
map = '<>&';
stacked_columns=off;
end;
run;

```

新しい Tagsets.NewlocTemplate のソース

結果 ⇒ ⇒ テンプレート ⇒ Sasuser.Templat ⇒ ⇒ Newloc にアクセスすると、タグセットを表示できます。

```
proc template;
define tagset Tagsets.newloc / store = Sasuser.Templat;
notes 'This is the Location Report Template';
define event basic;
end;
define event doc;
start:
put ' ' NL NL;
put ' ' NL;
put ' ' NL;
put ' ' NL;
ndent;
finish:
xdent;
put NL;
put ' ';
end;
define event system_title;
put ' ';
put VALUE;
put ' ';
put NL NL;
end;
define event header;
start:
trigger country /if cmp( LABEL, 'EmpCountry');
end;
define event data;
start:
trigger frequency /if cmp( name, 'Frequency');
end;
define event country;
put ' ' NL;
ndent;
put ' ';
put VALUE;
put ' ' NL;
end;
define event frequency;
put ' ';
put VALUE;
put ' ' NL;
xdent;
put ' ' NL;
end;
map = %nrstr('<>');
mapsub = %nrstr('//&');
nobreakspace = ' ';
split = ' ';
indent = 2;
default_event = 'basic';
output_type = 'xml';
stacked_columns = OFF;
end;
run;
```

例 4: TRIGGER=ステートメントを使用したイベントの実行

要素: DEFINE TAGSET ステートメント:
DEFINE EVENT ステートメント:
PUT ステートメント

TRIGGER ステートメント

その他の ODS 機能:

ODS *directory.tagset-name* ステートメント**詳細**

この例は、イベントの実行方法を示します。

プログラム

```

proc template;
  define tagset tagsets.mytagset;
  define event doc;
  start:
  put 'start of doc' nl;
  trigger mytest;
  trigger otherevent;
  finish:
  trigger mytest;
  put 'finish of doc' nl;
  trigger mytest start;
  trigger otherevent;
  trigger mytest finish;
  end;

  define event mytest;
  start:
  put 'start of mytest' nl;
  finish:
  put 'finish of mytest' nl;
  end;

  define event otherevent;
  put 'This is my other event' nl;
  end;
end;
run;

ods tagsets.mytagset file='custom-tagset-filename.txt';
ods tagsets.mytagset close;

```

プログラムの説明

各種イベントを実行します。TRIGGER ステートメントによって、別のイベントが実行されます。たとえば、DOC の開始セクションによって、MYTEST および OTHEREVENT の開始セクションがトリガされます。MYTEST には開始セクションが含まれるため、出力が生成されます。OTHEREVENT は処理状態が認識されません(開始/終了セクションが含まれない)が、出力は生成されます。

```

proc template;
  define tagset tagsets.mytagset;
  define event doc;
  start:
  put 'start of doc' nl;

```

```
trigger mytest;
trigger otherevent;
finish:
trigger mytest;
put 'finish of doc' nl;
trigger mytest start;
trigger otherevent;
trigger mytest finish;
end;

define event mytest;
start:
put 'start of mytest' nl;
finish:
put 'finish of mytest' nl;
end;

define event otherevent;
put 'This is my other event' nl;
end;
end;
run;

ods tagsets.mytagset file='custom-tagset-filename.txt';
ods tagsets.mytagset close;
```

出力

出力 Tagsets.Mytagset を表示するには、テキストエディタでファイルを開きます。

アウトプット 15.5 イベントおよび Tagsets.Mytagset テンプレートから作成された出力

```
start of doc
start of mytest
This is my other event
finish of mytest
finish of doc
start of mytest
This is my other event
finish of mytest
```

例 5: 出力のインデント

要素: PROC TEMPLATE 機能:

DEFINE TAGSET ステートメント:
 DEFINE EVENT ステートメント:
 PUT ステートメント
 INDENT ステートメント
 TRIGGER ステートメント
 XDENT ステートメント
 TAGSET 属性:
 INDENT=属性
 その他の ODS 機能:
 ODS directory.tagset-name ステートメント

詳細

この例は、タグセットを使用して出力をインデントする方法を示します。拡張子が.xml のファイルを XML 対応ブラウザで表示する場合、ブラウザでは独自のインデントアルゴリズムが優先されるため、ファイル内のインデントは無視されます。

プログラム

```

proc template;
  define tagset tagsets.mytagset2;
    indent = 4;

    define event doc;
      start:
        put 'start of doc' nl;
        ndent;
        trigger mytest;
        trigger otherevent;
      finish:
        trigger mytest;
        xdent;
        put 'finish of doc' nl;
        trigger mytest start;
        trigger otherevent;
        trigger mytest finish;
      end;

    define event mytest;
      start:
        put 'start of mytest' nl;
        ndent;
      finish:
        xdent;
        put 'finish of mytest' nl;
      end;

    define event otherevent;
      put 'This is my other event' nl;
    end;
  end;
run;
ods tagsets.mytagset2 file='custom-tagset-filename2.txt';
ods tagsets.mytagset2 close;

```

プログラムの説明

開始インデントレベルを設定し、インデントレベルを徐々に上げます。INDENT=タグセット属性によって、NDENT および XDENT イベントステートメントによる出力のインデントレベルが決定されます。

```
proc template;
define tagset tagsets.mytagset2;
indent = 4;

define event doc;
start:
put 'start of doc' nl;
ndent;
trigger mytest;
trigger otherevent;
finish:
trigger mytest;
xdent;
put 'finish of doc' nl;
trigger mytest start;
trigger otherevent;
trigger mytest finish;
end;

define event mytest;
start:
put 'start of mytest' nl;
ndent;
finish:
xdent;
put 'finish of mytest' nl;
end;

define event otherevent;
put 'This is my other event' nl;
end;
end;
run;
ods tagsets.mytagset2 file='custom-tagset-filename2.txt';
ods tagsets.mytagset2 close;
```


出力

アウトプット 15.6 イベントおよび Tagsets.Mytagset2 テンプレートのソースを使用して作成された出力

```

custom-tagset-filename2.txt - Notepad
File Edit Format View Help
start of doc
    start of mytest
        This is my other event
    finish of mytest
finish of doc
start of mytest
    This is my other event
finish of mytest
  
```

例 6: イベントに対する複数のスタイルを使用

要素: DEFINE EVENT ステートメント:
 PUT ステートメント
 TRIGGER ステートメント
 STYLE=イベント属性

詳細

この例では、イベントに各種スタイルを使用します。

プログラム

```

define event Gnote;
start:
put '<div>';
trigger align;
put '>';
put '<table>';
put '<tr>' nl;
finish:
put '</tr>' nl;
put '</table>' nl;
  
```

```
put '</div>';
end;

define event GBanner;
put ' nl;
trigger pre_post;
put ' nl;
end;

define event GNContent;
put '';
trigger pre_post start;
put VALUE;
trigger pre_post finish;
put '';
end;

define event noteBanner;
style=NoteBanner;
trigger GBanner;
end;

define event NoteContent;
style=NoteContent;
trigger GNContent;
end;

define event note;
trigger Gnote start;
trigger noteBanner;
trigger noteContent;
trigger Gnote finish;
end;

define event WarnBanner;
style=WarnBanner;
trigger GBanner;
end;

define event WarnContent;
style=WarnContent;
trigger GNContent;
end;

define event Warning;
trigger Gnote start;
trigger WarnBanner;
trigger WarnContent;
trigger Gnote finish;
end;
```

プログラムの説明

イベントを指定します。次のイベントは、SAS タグセット Tagsets.Htmlless に由来し、ODS によるノートの作成方法を示します。GNOTE イベントを定義して適切なスタイルを適

切な場所に設定すると、ODS によって 2 つのセルを含むテーブルが作成されます。このテーブルには、適切なバナースタイルを使用するバナーと、適切なコンテンツスタイルを使用するコンテンツセルが含まれます。

```

define event Gnote;
start:
put '<div>';
trigger align;
put '>';
put '<table>';
put '<tr>' nl;
finish:
put '</tr>' nl;
put '</table>' nl;
put '</div>';
end;

define event GBanner;
put '' nl;
trigger pre_post;
put '' nl;
end;

define event GNContent;
put '';
trigger pre_post start;
put VALUE;
trigger pre_post finish;
put '';
end;

define event noteBanner;
style=NoteBanner;
trigger GBanner;
end;

define event NoteContent;
style=NoteContent;
trigger GNContent;
end;

define event note;
trigger Gnote start;
trigger noteBanner;
trigger noteContent;
trigger Gnote finish;
end;

define event WarnBanner;
style=WarnBanner;
trigger GBanner;
end;

define event WarnContent;
style=WarnContent;
trigger GNContent;

```

```

end;

define event Warning;
trigger Gnote start;
trigger WarnBanner;
trigger WarnContent;
trigger Gnote finish;
end;

```

例 7: 他のスタイルシートを含むように、イベントの変更

要素: PROC TEMPLATE 機能:
 DEFINE EVENT ステートメント:
 PUTQ ステートメント

詳細

次のプログラムは、以前作成したスタイルシートをユーザーが定義するイベントにリンクするために使用可能なサンプルコードを示します。

プログラム

```

define event stylesheet_link;
putq '<link rel= 'STYLESHEET' type='text/css'
href=' URL '>' nl / if exists(url);
putq '<link rel= 'STYLESHEET' type='text/css'
href='http://your/stylesheet/url/goes/here!>' nl;
putq '<link rel= 'STYLESHEET' type='text/css'
href='http://your/stylesheet/url/goes/here!>' nl;
end;

```

プログラムの説明

スタイルシートにリンクするイベントを定義します。このコードによって、SAS が生成したスタイルシートではなく、以前作成したスタイルシートへのリンクを作成するイベントが定義されます。

```

define event stylesheet_link;
putq '<link rel= 'STYLESHEET' type='text/css'
href=' URL '>' nl / if exists(url);
putq '<link rel= 'STYLESHEET' type='text/css'
href='http://your/stylesheet/url/goes/here!>' nl;
putq '<link rel= 'STYLESHEET' type='text/css'
href='http://your/stylesheet/url/goes/here!>' nl;
end;

```

例 8: タグセットでの STACKED_COLUMNS 属性の使用

要素: DEFINE TABLE ステートメント:
 NOTES ステートメント
 COLUMN ステートメント

```

DEFINE ステートメント(列用)
DEFINE TAGSET ステートメント:
  タグセット属性:
    PARENT=属性
    STACKED_COLUMNS=属性
その他の ODS 機能
  ODS directory.tagset-name ステートメント
  ODS PHTML ステートメント
  ODS _ALL_ CLOSE ステートメント

```

詳細

この例は、データを列の上下に積み上げる方法と、データを横に並べて配置する方法の違いを示します。(積み上げられた列の詳細は、“[DEFINE TABLE Statement](#)” (1098 ページ)を参照してください)。

プログラム

```

proc template;
  define table Base.Standard;
  notes 'Table template for PROC Standard.';
  column name (mean std) n label;
  define name; header='Name' varname='Name' style=RowHeader;
  end;
  define mean; header='Mean/Std Dev' varname='Mean' format=D12.;
  end;
  define std; header='/Standard/Deviation'
  varname='stdDev' format=D12.;
  end;
  define n; header='N' format=best.;
  end;
  define label; header='Label' varname='Label';
  end;
  byline wrap required_space=3;
  end;
run;

proc template;
  define tagset tagsets.myhtml;
  parent=tagsets.phtml;
  stacked_columns=no;
  end;
run;

proc template;
  define tagset tagsets.myhtml;
  parent=tagsets.phtml;
  stacked_columns=no;
  end;
run;

ods tagsets.myhtml file='not_stacked.html';
proc standard print data=sashelp.class;
run;

ods _all_ close;

```

プログラムの説明

テーブルテンプレートを作成します。 DEFINE TABLE ステートメントによって、テーブルテンプレートが作成されます。

```
proc template;
  define table Base.Standard;
  notes 'Table template for PROC Standard.';
  column name (mean std) n label;
  define name; header='Name' varname='Name' style=RowHeader;
  end;
  define mean; header='Mean/Std Dev' varname='Mean' format=D12.;
  end;
  define std; header='/Standard/Deviation'
  varname='stdDev' format=D12.;
  end;
  define n; header='N' format=best.;
  end;
  define label; header='Label' varname='Label';
  end;
  byline wrap required_space=3;
  end;
run;
proc template;
  define tagset tagsets.myhtml;
  parent=tagsets.phtml;
  stacked_columns=no;
  end;
run;
```

値を横に並べてスタックし、タグセットをカスタマイズします。 このカスタマイズされたタグセットには、STACKED_COLUMNS= NO が含まれます。SAS タグセット(Tagsets.Phtml)の場合、STACKED_COLUMNS=YES が含まれるためご注意ください。

```
proc template;
  define tagset tagsets.myhtml;
  parent=tagsets.phtml;
  stacked_columns=no;
  end;
run;
```

HTML 出力を作成し、HTML 出力保存用の場所を指定します。 ODS TAGSETS.MYHTML ステートメントによって、マークアップ言語の出力先が開かれ、HTML 出力が作成されます。出力オブジェクトは、現在のディレクトリ内の外部ファイル not_stacked.html に送信されます。PROC STANDARD ステートメントによって、sashelp.class データセットの統計が生成されます。PRINT オプションによってレポートが出力されます。

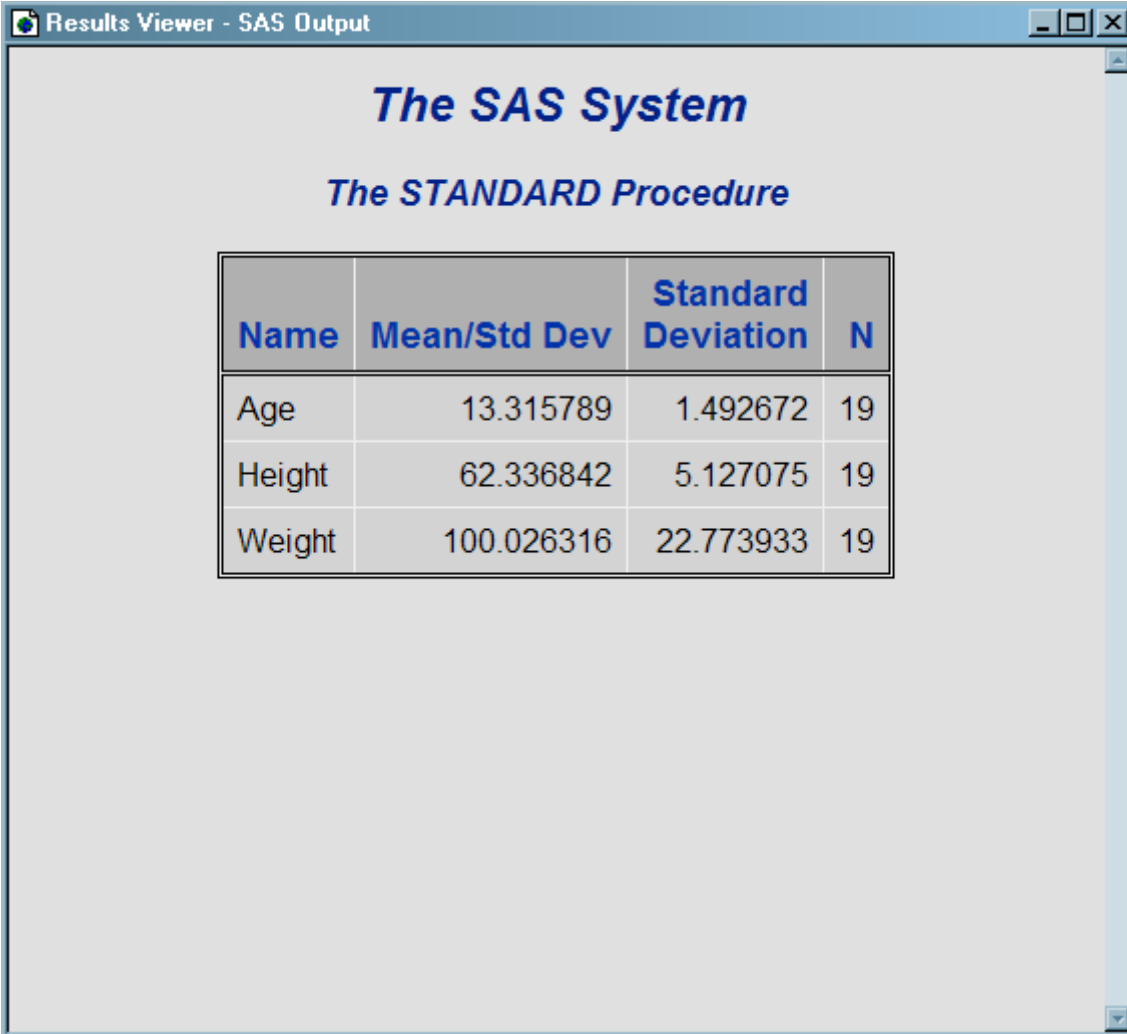
```
ods tagsets.myhtml file='not_stacked.html';
proc standard print data=sashelp.class;
run;
```

HTML 出力の作成を停止します。 ODS _ALL_ CLOSE ステートメントによって、開いている出力先のすべてと、それに関連付けられたファイルのすべてが閉じられます。HTML 出力の場合、出力をブラウザで表示できるように、HTML 出力先を閉じます。

```
ods _all_ close;
```

出力

アウトプット 15.7 値を横に並べた場合の出力



Name	Mean/Std Dev	Standard Deviation	N
Age	13.315789	1.492672	19
Height	62.336842	5.127075	19
Weight	100.026316	22.773933	19

プログラム

```
ods phtml file='stacked.html';
proc standard print data=sashelp.class;
run;
ods _all_ close;
```

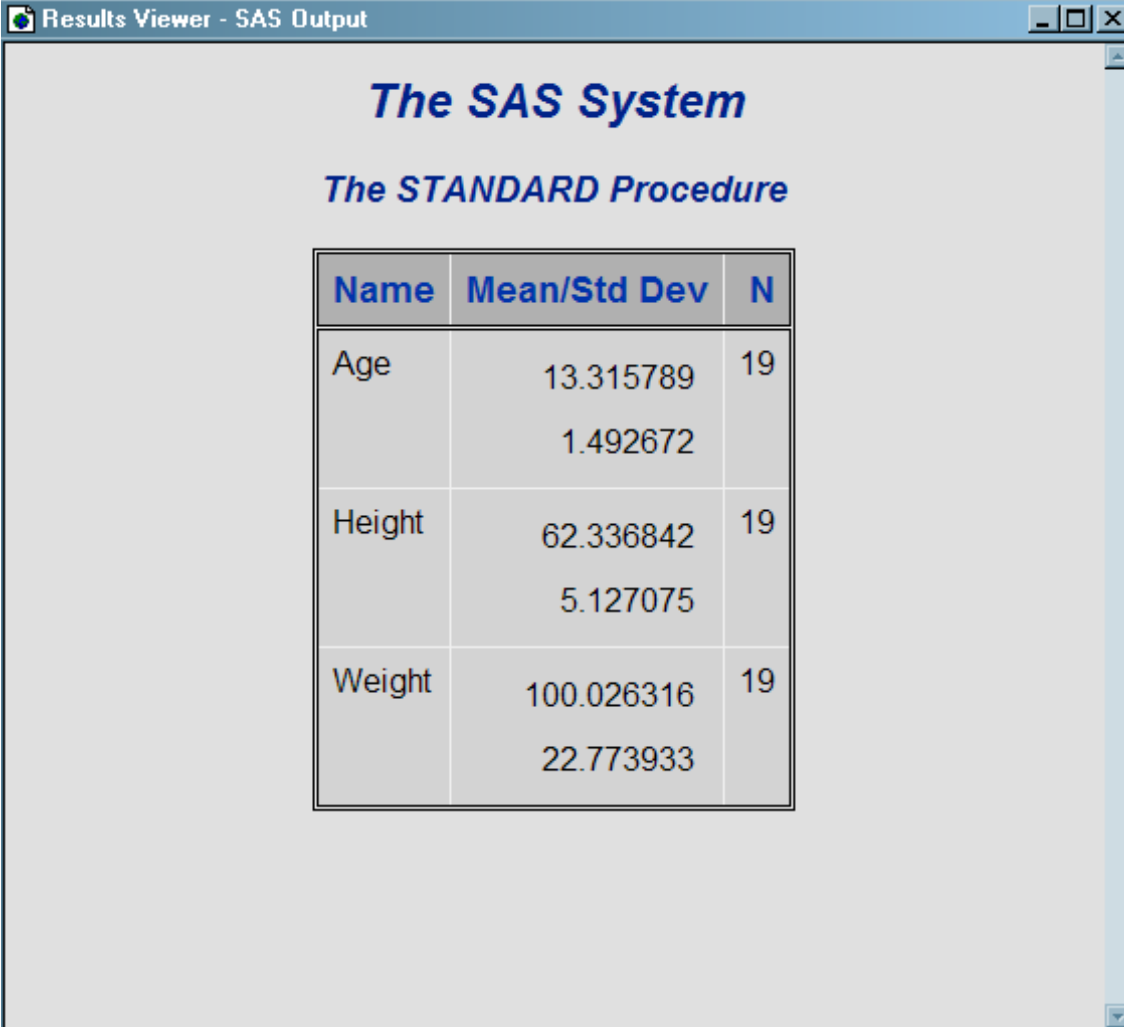
プログラムの説明

積み上げ値を用いて同じファイルを作成します。STACKED_COLUMNS=YES ステートメントによって、SAS タグセット PHTML で積み上げられた同一の値が表示されます。

```
ods phtml file='stacked.html';
proc standard print data=sashelp.class;
run;
ods _all_ close;
```

出力

アウトプット 15.8 上下に値が積み上げられた出力



Name	Mean/Std Dev	N
Age	13.315789	19
	1.492672	
Height	62.336842	19
	5.127075	
Weight	100.026316	19
	22.773933	

8 部

付録

付録 1	
出力オブジェクトのテーブル名	1247
付録 2	
サンプルプログラム	1345
付録 3	
ODS 出力先および HTML 出力先	1373
付録 4	
異なる動作環境で例を実行する ODS HTML ステートメント	1385
付録 5	
ODS スタイル要素	1387

付録 1

出力オブジェクトのテーブル名

ODS テーブル名とこれらのテーブルを作成する SAS プロシジャ	1247
ODS テーブル名とこれらのテーブルを作成する Base SAS プロシジャ	1247
ODS テーブル名とこれらのテーブルを作成する SAS/STAT プロシジャ	1257
ODS テーブル名とこれらのテーブルを作成する SAS/ETS プロシジャ	1319

ODS テーブル名とこれらのテーブルを作成する SAS プロシジャ

一部の SAS プロシジャは、それが作成するテーブルに名前を割り当てます。ODS を使用するとき、これらの名前を参照することによって、テーブルを選択し、出力データセットを作成できます。次のテーブルには、Base SAS、SAS/STAT および SAS/ETS プロシジャが作成する出力オブジェクトのテーブル名が表示されます。

- “ODS テーブル名とこれらのテーブルを作成する Base SAS プロシジャ” (1247 ページ)
- “ODS テーブル名とこれらのテーブルを作成する SAS/STAT プロシジャ” (1257 ページ)
- “ODS テーブル名とこれらのテーブルを作成する SAS/ETS プロシジャ” (1319 ページ)

ODS テーブル名とこれらのテーブルを作成する Base SAS プロシジャ

このテーブルには、Base SAS プロシジャが作成する出力オブジェクトのテーブル名が表示されます。このテーブルには、各テーブルの名前、テーブルの内容の説明および出力オブジェクトテーブルを作成するためのオプションが含まれています。

表 A1.1 CALENDAR プロシジャで作成した ODS テーブル名

テーブル名	説明

テーブル名	説明
Calendar	カレンダー

表 A1.2 CATALOG プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明
Catalog_Random	ランダムアクセスデータライブラリ内にカタログがあるときに生成されるテーブル
Catalog_Sequential	シーケンシャルアクセスデータライブラリ内にカタログがあるときに生成されるテーブル

表 A1.3 CHART プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明
Block	ブロックチャート
Hbar	水平棒グラフ
Pie	円グラフ
Star	スターチャート
Vbar	縦棒グラフ

表 A1.4 COMPARE プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
CompareDatasets	データセット(複数も可能)の情報	NOSUMMARY を省略または NOVALUE オプション
CompareDetails (オブザベーションの比較結果)	ベースデータセットと比較データセットが共有しないオブザベーションのリスト	PRINTALL
CompareDifferences	変数値の差のレポート	NOVALUES を省略オプション

テーブル名	説明	オプション
CompareSummary	オブザベーション、値と不等な値の変数の要約レポート	
CompareVariables	ベースデータセットと比較データセットの間の、変数型または属性の相違のリスト	変数が類似していない場合、NOSUMMARY を省略オプションを使用。
ID ステートメントによって作成される ODS テーブル		
CompareDetails	重複した ID 変数値がいずれかのデータセット内に存在する場合の、重複した ID 変数値に関するメモと警告のリスト	

表 A1.5 CORR プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
Cov	共分散テーブル 行/列分散 DF (欠損値)	COV
CronbachAlpha	アルファ係数	ALPHA
CronbachAlphaDel	変数が削除されたアルファ係数	ALPHA
Csscp	修正済平方和と積和 行/列変数の修正済平方和 (欠損値)	CSSCP
HoeffdingCorr	Hoeffding の D 統計量 p 値(NOPROB は指定なし) オブザベーション(欠損値)	HOEFFDING
KendallCorr	Kendall の tau-b 係数 p 値(NOPROB は指定なし) オブザベーション(欠損値)	Pearson または NOCORR を省略オプション
SimpleStats	単純な記述統計量	NOSIMPLE を省略オプション
SpearmanCorr	Spearman の記述統計量	SPEARMAN
Sscp	平方和と関和 行/列変数の関和(欠損値)	SSCP

テーブル名	説明	オプション
VarInformation	変数情報	
PARTIAL ステートメントによって作成される ODS テーブル		
PartialCscsp	部分修正済平方和と関和	CSSCP
PartialCov	部分的な共分散	COV
PartialKendallCorr	部分的な Kendall の tau-b 係数	KENDALL
PartialPearsonCorr	部分的な Kendall の tau-b 係数 p 値(NOPROB オプションは指定なし)	
PartialSpearmanCorr	部分的な Spearman の相関 p 値(NOPROB オプションは指定なし)	SPEARMAN

表 A1.6 DATASETS プロシジャおよび CONTENTS プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
Directory	一般的なライブラリ情報	NOLIST を省略オプション
Members	ライブラリメンバの情報	NOLIST を省略オプション

表 A1.7 CONTENTS ステートメントで、CONTENTS プロシジャまたは DATASETS プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
Attributes	データセット属性	SHORT を省略オプション
Directory	一般的なライブラリ情報	DATA=<ライブラリ参照>_ALL_または the DIRECTORY オプション*
EngineHost	エンジンおよび動作環境の情報	SHORT を省略オプション
IntegrityConstraints	整合性制約ののリスト	SHORT を省略オプションとデータには整合性制約があります。

テーブル名	説明	オプション
IntegrityConstraintsShort	整合性制約の簡潔なリスト	指定された SHORT オプションとデータは整合性制約がありません。
Indexes	インデックスのリスト	SHORT を省略オプションとデータセットはインデックスが付けられます。
IndexesShort	インデックスの簡潔なリスト	指定された SHORT オプションとデータセットにインデックスが付けられます。
Members	ライブラリメンバの情報	DATA=<ライブラリ参照>_ALL_または DIRECTORY オプション*
Position	データセット内の論理位置別に分類した変数のリスト	SHORT を省略オプションと VARNUM オプションを指定。
PositionShort	データセット内の論理位置別に分類した変数の簡潔なリスト	SHORT オプションおよび VARNUM オプション
Sortedby	情報のソート	SHORT を省略オプションとデータセットがソートされます。
SortedbyShort	縮約されたソートの情報	SHORT オプションとデータセットがソート済みです。
Variables	変数のアルファベット順リスト	SHORT を省略オプション
VariablesShort	変数のアルファベット順簡潔なリスト	SHORT

* PROC DATASETS で、NOLIST オプションと、DIRECTORY オプションまたは DATA=<ライブラリ参照>_ALL_ のいずれか一方が指定された場合は、NOLIST オプションが無視されます。

表 A1.8 FREQ プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
BinomialCLs	二項分布の信頼限界	BINOMIAL(AC J W)
BinomialEquiv	二項分布の同等性の分析	BINOMIAL(EQUIV)
BinomialEquivLimits	二項分布の同等性の限界	BINOMIAL(EQUIV)
BinomialEquivTest	二項分布の同等性の検定	BINOMIAL(EQUIV)
BinomialNoninf	二項分布の非劣性の検定	BINOMIAL(NONINF)

テーブル名	説明	オプション
BinomialPropTest	二項分布の比率に対する検定	BINOMIAL (一元表)
BinomialProp	二項分布の比率	BINOMIAL (一元表)
BinomialSup	二項分布の優越性の検定	BINOMIAL(SUP)
BreslowDayTest	Breslow-day 検定	CMH (hx2x2 テーブル)
CMH	Cochran-Mantel-Haenszel 統計量	CMH
ChiSq	カイ2乗検定およびメジャー	CHISQ
CochransQ	Cochran の Q 検定	AGREE (hx2x2 テーブル)
ColScores	列スコア	SCOROUT
CommonOddsRatioCL	共通オッズ比の正確な信頼限界	COMOR (hx2x2 テーブル)
CommonOddsRatioTest	共通オッズ比の正確検定	(hx2x2 テーブル)
CommonRelRisks	共通の相対リスク	CMH (hx2x2 テーブル)
Crosslist	クロスリスト	CROSSLIST (n 元表要求、n>1)
CrossTabFreqs	クロス集計表	(n 元表要求、n>1)
EqualKappaTest	単純カッパ係数の等質性検定	AGREE (hx2x2 テーブル)
EqualKappaTests	カッパ係数の等質性に対する検定	AGREE (hxr _{xr} テーブル、r>2)
EqualOddsRatios	等しいオッズ比の検定	EQOR (hx2x2 テーブル)
FishersExact	Fisher の正確検定	FISHER または EXACT または CHISQ (2x2 テーブル)
FishersExactMC	Fisher の正確検定のモンテカルロ推定	FISHER / MC
Gamma	ガンマ	GAMMA
GammaTest	ガンマ検定	GAMMA
JTTest	Jonckheere-Terpstra 検定	JT
JTTestMC	Jonckheere-Terpstra 正確検定のモンテカルロ推定	JT / MC

テーブル名	説明	オプション
KappaStatistics	カッパ統計量	AGREE (rxr テーブル、 $r > 2$ 、カッパに対する TEST 要求または EXACT 要求はなし)
KappaWeight	重み付きカッパ係数	AGREE および PRINTKWT
List	List 度数	LIST
LRChiSq	尤度のカイ 2 乗正確検定	LRCHI
LRChiSqMC	尤度比のカイ 2 乗検定のためのモンテカルロ正確検定	LRCHI / MC
McNemarsTest	McNemar の検定	AGREE (2x2 テーブル)
Measures	関連の測定	MEASURES
MHChiSq	Mantel-Haenszel のカイ 2 乗正確検定	MHCHI
MHChiSqMC	Mantel-Haenszel のカイ 2 乗検定のためのモンテカルロ正確検定	MHCHI / MC
NLevels	変数水準の数	NLEVELS
OddsRatioCL	オッズ比の正確な信頼限界	OR (2x2 テーブル)
OneWayChiSq	一元表に対するカイ 2 乗検定	CHISQ (一元表)
OneWayChiSqMC	1 通りカイ 2 乗のためのモンテカルロ正確検定	CHISQ / MC (一元表)
OneWayFreqs	1 通り度数	一元表要求)
OverallKappa	全体の単純カッパ係数	AGREE (hx2x2 テーブル)
OverallKappas	全体のカッパ係数	AGREE (hxr _{xr} テーブル、 $r > 2$)
PdiffEquiv	比例差の同等性の分析	RISKDIFF(EQUIV) (2x2 テーブル)
PdiffEquivLimits	比例差の同等性限界	RISKDIFF(EQUIV) (2x2 テーブル)
PdiffEquivTest	比例差の同等性の検定	RISKDIFF(EQUIV) (2x2 テーブル)
PdiffNoninf	比例差の非劣性の検定	RISKDIFF(NONINF) (2x2 テーブル)
PdiffSup	比例差の優越性の検定	RISKDIFF(SUP) (2x2 テーブル)

テーブル名	説明	オプション
PdiffTest	比率差の検定	RISKDIFF(EQUAL) (2x2 テーブル)
PearsonChiSq	Pearson のカイ 2 乗正確検定	PCHI
PearsonChiSqMC	Pearson のカイ 2 乗正確検定のためのモンテカルロ正確検定	PCHI / MC
PearsonCorr	Pearson 相関	PCORR
PearsonCorrMC	Pearson 相関のモンテカルロ正確検定	PCORR / MC
PearsonCorrTest	Pearson の相関検定	PCORR
RelativeRisks	相対リスクの推定	RELRISK または MEASURES (2x2 テーブル)
RiskDiffCol1	列 1 のリスク推定	RISKDIFF (2x2 テーブル)
RiskDiffCol2	列 2 リスク推定	RISKDIFF (2x2 テーブル)
RowScores	行スコア	SCOROUT
SimpleKappa	単純カッパ係数	KAPPA
SimpleKappaMC	モンテカルロ正確検定 単純カッパ係数	KAPPA / MC
SimpleKappaTest	単純カッパ検定	KAPPA
SomersDCR	Somers の D(C R)	SMDCR
SomersDCRTest	Somers の D(C R)検定	SMDCR
SomersDRC	Somers の D(R C)	SMDRC
SomersDRCTest	Somers の D(R C)検定	SMDRC
SpearmanCorr	Spearman の相関	SCORR
SpearmanCorrMC	モンテカルロ正確検定 Spearman 相関	SCORR / MC
SpearmanCorrTest	Spearman の相関検定	SCORR
SymmetryTest	TEST	AGREE
TauB	Kendall の tau-b	KENTB
TauBTest	Kendall の tau-b 検定	KENTB
TauC	Stuart の tau-c	STUTC
TauCTest	Stuart の tau-c 検定	STUTC

テーブル名	説明	オプション
TrendTest	傾向に対する Cochran-Armitage 検定	TREND
TrendTestMC	傾向に対するモンテカルロ正確検定	TREND / MC
WeightKappa	重み付きカッパ係数	AGREE (rxr テーブル、 $r > 2$)
WeightedKappaMC	重み付きカッパ係数のモンテカルロ正確検定	WTKAP / MC
WeightedKappaTest	重み付きカッパ検定	WTKAP

表 A1.9 MEANS プロシジャおよび SUMMARY プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明
概要	すべてのオブザベーションにわたる、ならびにオブザベーションのグループ内での、記述的統計の要約

表 A1.10 PLOT プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
Plot	シングルプロットのグラフ	
Overlaid	単一の軸での複数のプロット	OVERLAY

表 A1.11 REPORT プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明
Report	詳細レポート、要約レポート、または詳細情報と要約情報の両方を組み合わせたもの。

表 A1.12 SQL プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明
SQL_Results	SAS データファイルまたは SAS データビュー

表 A1.13 TABULATE プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明
テーブル	データセット内の変数の一部または全部を使用する、表形式での記述的統計

表 A1.14 TIMEPLOT プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
Plot	シングルプロットのグラフ	OVERLAY を省略オプション
OverlaidPlot	単独の軸セット上の複数のプロット	OVERLAY

表 A1.15 UNIVARIATE プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
PROC UNIVARIATE ステートメントによって作成される ODS テーブル		
BasicIntervals	平均、標準偏差、分散の信頼区間	CIBASIC
BasicMeasures	位置とばらつきの測定	デフォルト
ExtremeObs	極値のオブザベーション	デフォルト
ExtremeValues	極値	NEXTRAVAL=
Frequencies	度数	FREQ
LocationCounts	符号検定および符号付き順位検定に使用する数	LOCCOUNT

テーブル名	説明	オプション
欠損値	欠損値	欠損値がある場合はデフォルト
Modes	モード	MODES
Moments	サンプルのモーメント	デフォルト
Plots	ラインプリンタ図	PLOTS
Quantiles	分位数	デフォルト
RobustScale	尺度のロバスト推定	ROBUSTSCALE
SSPlots	ラインプリンタの箱ひげ図	BY ステートメントの PLOTS
TestsForLocation	位置の検定	デフォルト
TestsForNormality	正規性の検定	NORMALTEST
TrimmedMeans	トリム平均	TRIMMED=
WinsorizedMeans	ウィンザー化平均	WINSORIZED=
HISTOGRAM ステートメントによって作成される ODS テーブル		
Bins	ヒストグラムのビン	MIDPERCENTS のサブオプション
FitQuantiles	当てはめた分布の分位数	任意の分布オプション
GoodnessOfFit	当てはめた分布の適合度検定	任意の分布オプション
HistogramBins	ヒストグラムのビン	MIDPERCENTS オプション
ParameterEstimates	当てはめた分布用のパラメータ推定	任意の分布オプション

ODS テーブル名とこれらのテーブルを作成する SAS/STAT プロシジャ

このテーブルには、SAS/STAT プロシジャが作成する出力オブジェクトのテーブル名が表示されます。これらの出力オブジェクトを作成するには、SAS/STAT ソフトウェアのライセンス契約を結ぶ必要があります。このテーブルには、各テーブルの名前、テーブルの内容の説明および出力オブジェクトテーブルを作成するためのオプションが含まれています。SAS/STAT プロシジャについては、*SAS/STAT(R) 9.3 ユーザーガイド*を参照してください。

表 A1.16 ACECLUS プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
PROC ステートメントによって作成される ODS テーブル		
ConvergenceStatus	収束状態	
DataOptionInfo	データおよびオプションの情報	
Eigenvalues	Inv(ACE)*(COV-ACE)の固有値	
Eigenvectors	固有ベクトル(非標準化正準係数)	
InitWithin	初期クラスタ内共分散推定	INITIAL=INPUT
IterHistory	反復履歴	
SimpleStatistics	基本統計量	
StdCanCoef	標準化正準係数	
Threshold	いき値	PROPORTION=
TotSampleCov	全標本の共分散	
Within	クラスタ内近似共分散推定	

表 A1.17 ANOVA プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
DependentInfo	同時に分析された従属変数	さまざまなパターンの欠損値を伴う複数の従属変数がある場合は、デフォルト
FitStatistics	R ² 乗値、変動係数、平均平方誤差の平方根、および従属変数の平均	
ModelANOVA	モデルの項の分散分析	
NObs	オブザベーション	
OverallANOVA	全体の分散分析	
CLASS ステートメントによって作成される ODS テーブル		

テーブル名	説明	オプション
ClassLevels	分類変数の水準	
MANOVA ステートメントによって作成される ODS テーブル		
MANOVATransform	多変量解析変換行列	M=
MultStat	多変量検定	
検定	指定された MANOVA H=効果の要約分散分析	H=SUMMARY
MANOVA ステートメントまたは REPEATED ステートメントによって作成される ODS テーブル		
CanAnalysis	正準分析	CANONICAL
CanCoef	正準係数	CANONICAL
CanStructure	正準構造	CANONICAL
CharStruct	固有のルートおよびベクトル	MANOVA (CANONICAL ではない)、REPEATED PRINTRV
ErrorSSCP	誤差 SSCP 行列	PRINTE
HypothesisSSCP	仮説 SSCP 行列	PRINTE; MANOVA M=
PartialCorr	偏相関行列	PRINTE、REPEATED (CONTRAST、HELMERT、MEAN、POLYNOMIAL または PROFILE)
MEANS ステートメントによって作成される ODS テーブル		
Bartlett	Bartlett の分散の等分散性の検定	HOVTEST=BARTLETT
CLDiff	対比較の多重比較	CLDIFF または DUNNETT または(等しくないセルであり LINES ではない)
CLDiffInfo	対比較の多重比較に関する情報	CLDIFF または DUNNETT または(等しくないセルであり LINES ではない)
CLMeans	信頼区間/比較区間を伴う平均の多重比較	CLM と(BON、GABRIEL、SCHEFFE、SIDAL.SMM、T または LSD)
CLMeansInfo	信頼区間/比較区間を伴う平均の多重比較の情報	CLM
HOVFTest	等分散性の検定(分散分析)	HOVTEST

テーブル名	説明	オプション
MCLines	多重比較 LINES 出力	LINES、((DUNCAN または WALLER または SNK または REGWQ)であって、(CLDIFF または CLM)ではない、あるいは(等しいセルであり CLDIFF ではない)
MCLinesInfo	多重比較 LINES 出力の情報	LINES、((DUNCAN、WALLER、SNK または REGWQ)であって、(CLDIFF または CLM)ではない)、あるいは(等しいセルであり CLDIFF ではない)
MCLinesRange	複数の範囲 MC 検定の範囲	LINES、((DUNCAN、WALLER、SNK または REGWQ)であって、(CLDIFF または CLM)ではない)、あるいは(等しいセルであり CLDIFF ではない)
Means	グループの平均	
Welch	Welch の分散分析	WELCH
REPEATED ステートメントによって作成される ODS テーブル		
Epsilons	Greenhouse-Geisser のイプシロンと Huynh-Feldt のイプシロン	
RepTransform	変換行列の反復	CONTRAST、HELMERT、MEAN、POLYNOMIAL または PROFILE
RepeatedLevelInfo	従属変数と反復測定の水準との対応関係	
Sphericity	球面性検定	PRINTE
TEST ステートメントによって作成される ODS テーブル		
AltErrTests	MSE 以外の誤差を伴う分散分析検定	E=

表 A1.18 CALIS プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
-------	----	-------

テーブル名	説明	オプション
COSAN、FACTOR、LINEQS および RAM の各モデルにによって作成される ODS テーブル		
AddParms	PARAMETERS ステートメントの追加パラメータ	PINITIAL またはデフォルト
AsymStdRes	漸近標準化残差行列	RESIDUAL=または PRINT
AveAsymStdRes	平均絶対漸近標準化残差	RESIDUAL=または PRINT
AveNormRes	平均絶対正規化残差	RESIDUAL=または PRINT
AveRawRes	平均絶対非標準化残差	RESIDUAL=または PRINT
AveVarStdRes	平均絶対分散標準化残差	RESIDUAL=または PRINT
ContKurtosis	尖度への寄与率	KURTOSIS または PRINT
ConvergenceStatus	収束状態	PSHORT
CorrParm	パラメータ推定間の相関	PCOVES およびデフォルト
CovMat	分類された cov 行列	PCOVES およびデフォルト
DependParms	従属パラメータ(プログラムのステートメントによって指定された場合)	PRIVEC およびデフォルト
DistAsymStdRes	漸近標準化残差の分布	RESIDUAL=または PRINT
DistNormRes	正規化残差の分布	RESIDUAL=または PRINT
DistVarStdRes	分散標準化残差の分布	RESIDUAL=または PRINT
Estimates	推定のベクトル	PRIVEC
Fit	当てはまりに関する統計量	PSUMMARY
GenModInfo	一般的なモデリング情報	PSIMPLE またはデフォルト
Gradient	一次偏導関数(Gradient)	PRIVEC およびデフォルト
InCorr	入力された偏相関行列	PCORR または PALL
InCorrDet	入力された偏相関行列の行列式	PCORR または PALL
InCov	入力された共分散行列	PCORR または PALL
InCovDet	入力された共分散行解の行列式	PCORR または PALL
Information	情報の行列	PCOVES およびデフォルト
InitEstimates	パラメータ推定の初期ベクトル	PINITIAL またはデフォルト

テーブル名	説明	オプション
InSymmetric	入力された対称行列 (SYMATRIX データタイプ)	PCORR または PALL
IterHist	反復履歴	PSHORT
IterStart	反復の開始	PSHORT
IterStop	反復の停止	PSHORT
Jacobian	Jacobi のカラムパターン	PJACPAT
Kurtosis	尖度 (生データの入力あり)	KURTOSIS または PRINT
LagrangeBoundary	ラグランジュ、アクティブな範囲制約の解除	MODIFICATION または PALL
LagrangeEquality	ラグランジュ、等式制約の解除	MODIFICATION または PALL
ModelStatement	モデルの要約	PSHORT
ModIndices	ラグランジュ乗数および Wald 検定の統計量	MODIFICATION または PALL
NormRes	正規化残差行列	RESIDUAL=または PRINT
PredetElements	事前に定義された要素	PREDET または PALL
PredModel	予測されるモデル行列	PCORR または PALL
PredModelDet	予測されるモデル行列式	PCORR または PALL
ProblemDescription	問題の詳細	PSHORT
RankAsymStdRes	漸近標準化残差の最大値のランキング	RESIDUAL=または PRINT
RankLagrange	ラグランジュインデックスの最大値のランキング	RESIDUAL=または PRINT
RankNormRes	正規化残差の最大値のランキング	RESIDUAL=または PRINT
RankRawRes	非標準化残差の最大値のランキング	RESIDUAL=または PRINT
RankVarStdRes	分散標準化残差の最大値のランキング	RESIDUAL=または PRINT
RawRes	非標準化残差行列	RESIDUAL=または PRINT
SimpleStatistics	基本統計量(生データの入力あり)	SIMPLE またはデフォルト
StdErrs	標準誤差のベクトル	PRIVEC およびデフォルト

テーブル名	説明	オプション
SumSqDif	事前に定義された要素の平方差の合計	PREDET または PALL
tValues	t 値のベクトル	PRIVVEC およびデフォルト
VarStdRes	標準化の残差行列の分散	RESIDUAL=または PRINT
WaldTest	Wald 検定	MODIFICATION または PALL
Weights	重み行列	PWEIGHT または PALL
WeightsDet	重み行列の行列式	PWEIGHT または PALL
FACTOR、LINEQS および RAM の各モデルによって作成される ODS テーブル		
決定	決定係数	PDETERM およびデフォルト
SqMultCorr	2 乗重相関	PESTIM または PSHORT
COSAN モデルおよび FACTOR モデルによって作成される ODS テーブル		
EstParms	推定パラメータ行列	PESTIM または PSHORT
InitParms	パラメータ推定の初期行列	PINITIAL またはデフォルト
LINEQS モデルおよび RAM モデルによって作成される ODS テーブル		
Indirect Effects	間接効果	TOTEFF または PRINT
InitParms	パラメータ推定の初期行列	PRIMAT およびデフォルト
LatentScoreCoef	潜在的な変数回帰スコア係数	PLATCOV または PRINT
PredMomentLatent	予想される潜在変数モーメント	PLATCOV または PRINT
PredMomentManLat	予測されるマニフェストおよび潜在変数モーメント	PLATCOV または PRINT
SetCovExog	設定された、マニフェスト外生変数の共分散パラメータ	PINITIAL またはデフォルト
Stability	相互因果関係の安定性	PDETERM およびデフォルト
StructEq	構造方程式の変数	PDETERM デフォルト
TotalEffects	総合効果	TOTEFF または PRINT
VarSelection	モデリング用に選択されるマニフェスト変数(一部のみ使用する場合もあり)	

テーブル名	説明	オプション
FACTOR モデルによって作成される ODS テーブル		
FactCorrExog	因子間の相関	PESTIM または PSHORT
FactScoreCoef	因子のスコアの回帰係数	PESTIM または PSHORT
RotatedLoadings	回転負荷(FACTOR ステートメントの ROTATE=オプションを使用)	PESTIM または PSHORT
Rotation	回転行列(FACTOR ステートメントの ROTATE=オプションを使用)	PESTIM または PSHORT
StdLoadings	標準化因子荷重	PESTIM または PSHORT
LINEQS モデルによって作成される ODS テーブル		
CorrExog	外生変数間の相関	PESTIM または PSHORT
EndogenousVar	内生変数	PESTIM または PSHORT
EstCovExog	外生変数間の推定共分散	PESTIM または PSHORT
EstLatentEq	推定潜在変数式	PESTIM または PSHORT
EstManifestEq	推定マニフェスト変数方程式	PESTIM または PSHORT
EstVarExog	外生変数の推定分散	PESTIM または PSHORT
ExogenousVar	外生変数のリスト	PESTIM または PSHORT
InCovExog	入力された外生変数間の共分散	PESTIM または PSHORT
InLatentEq	入力された潜在変数方程式	PESTIM または PSHORT
InManifestEq	入力されたマニフェスト変数方程式	PESTIM または PSHORT
InVarExog	入力された外生変数の分散	PESTIM または PSHORT
StdLatentEq	標準化潜在変数方程式	PESTIM または PSHORT
StdManifestEq	標準化マニフェスト変数方程式	PESTIM または PSHORT
RAM モデルによって作成される ODS テーブル		
InitRAMEstimates	初期 RAM 推定	PESTIM または PSHORT
RAMCorrExog	外生変数間の相関	PESTIM または PSHORT

テーブル名	説明	オプション
RAMEstimates	RAM 最終推定	PESTIM または PSHORT
RAMStdEstimates	標準化推定	PESTIM または PSHORT

表 A1.19 CANCECORR プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
MultStat	多変量統計量	
PROC CANCECORR によって作成される ODS テーブル		
AvgRSquare	平均 R2 乗値(重みあり/なし)	VDEP (または WDEP)ある いは SMC (または ALL)
CanCorr	正準相関	
CanStructureVCan	VAR 正準変数と VAR 変数 および WITH 変数との相関	デフォルト(SHORT でない場 合)
CanStructureWCan	WITH 正準変数と WITH 変 数および VAR 変数との相 関	デフォルト(SHORT でない場 合)
ConfidenceLimits	回帰係数の 95%信頼限界	VDEP (または WDEP)ある いは CLB (または ALL)
Corr	元の変数間の相関	CORR (または ALL)
CorrRegCoefEst	回帰係数の推定間の相関	VDEP (または WDEP)ある いは CORRB (または ALL)
NObsNVar	オブザベーションおよび変数 の数	SIMPLE (または ALL)
ParCorr	偏相関	VDEP (または WDEP)ある いは PCORR (または ALL)
ProbtRegCoef	回帰係数用の Prob > t	VDEP (または WDEP)ある いは PROBT (または ALL)
RawCanCoefV	VAR 変数の非標準化正準 係数	デフォルト(SHORT でない場 合)
RawCanCoefW	WITH 変数の非標準化正準 係数	デフォルト(SHORT でない場 合)
RawRegCoef	非標準化回帰係数	VDEP (または WDEP)ある いは B (または ALL)

テーブル名	説明	オプション
Redundancy	正準冗長性分析	REDUNDANCY (または ALL)
回帰	2 乗重相関と F 検定	VDEP (または WDEP)ある いは SMC (または ALL)
SemiParCorr	半偏相関	VDEP (または WDEP)ある いは SPCORR (または ALL)
SimpleStatistics	単純統計量	SIMPLE (または ALL)
SqMultCorr	正準冗長性分析: 2 乗重相 関	REDUNDANCY (または ALL)
SqParCorr	2 乗偏相関	VDEP (または WDEP)ある いは SQPCORR (または ALL)
SqSemiParCorr	2 乗半偏相関	VDEP (または WDEP)ある いは SQSPCORR (または ALL)
StdCanCoefV	VAR 変数の標準化正準係 数	デフォルト(SHORT でない場 合)
StdCanCoefW	WITH 変数の標準化正準係 数	デフォルト(SHORT でない場 合)
StdErrRawRegCoef	非標準化回帰係数の標準誤 差	VDEP (または WDEP)ある いは SEB (または ALL)
StdRegCoef	標準化回帰係数	VDEP (または WDEP)ある いは STB (または ALL)
tValueRegCoef	回帰係数の t 値	VDEP (または WDEP)ある いは T (または ALL)
PARTIAL ステートメントによって作成される ODS テーブル		
CorrOnPartial	偏相関	CORR (または ALL)
RSquareRMSEOnPartial	PARTIAL の R2 乗値および RMSE	CORR (または ALL)
StdRegCoefOnPartial	PARTIAL の標準化回帰係 数	CORR (または ALL)

表 A1.20 CANDISC プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
-------	----	-------

テーブル名	説明	オプション
分散分析	単変量統計量	分散分析
AveRSquare	平均 R2 乗値	分散分析
BCorr	区分間相関	BCORR
BCov	区分間共分散	BCOV
BSSCP	区分間 SSCP 行列	BSSCP
BStruc	正準構造間	
CanCorr	正準相関	
CanonicalMeans	正準変数の区分平均	
Counts	オブザベーション、変数、区分、DF の数	
CovDF	共分散行列の DF (印刷なし)	任意の*COV オプション
Dist	平方距離	MAHALANOBIS
DistFValues	平方距離に基づいた F 統計量	MAHALANOBIS
DistProb	平方距離に基づく F 統計量の確率	MAHALANOBIS
Levels	区分の水準の情報	
MultStat	MANOVA	
PCoef	プールした標準正準係数	
PCorr	プールした区分内相関	PCORR
PCov	プールした区分内共分散	PCOV
PSSCP	プールした区分内 SSCP 行列	PSSCP
PStdMeans	プールした標準化区分平均	STDMEAN
PStruc	正準構造内にプール	
RCoef	非標準化正準係数	
SimpleStatistics	単純統計量	SIMPLE
TCoef	全標本標準正準係数	
TCorr	全標本相関	TCORR
TCov	全標本共分散	TCOV

テーブル名	説明	オプション
TSSCP	全標本 SSCP 行列	TSSCP
TSTDMean	全標準化区分平均	STDMEAN
TStruc	全正準構造	
WCorr	区分内相関	WCorr
WCov	区分内共分散	WCov
WSSCP	区分内 SSCP 行列	WSSCP

表 A1.21 CATMOD プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
MODEL ステートメントによって作成される ODS テーブル		
分散分析	分散の分析	
ConvergenceStatus	収束状態	ML
CorrB	推定の相関行列	CORRB
CovB	推定の共分散行列	COVB
推定	推定の分析	デフォルト(NOPARM でない場合)
MaxLikelihood	最大尤度分析	ML
OneWayFreqs	1 通り度数表	ONEWAY
PopProfiles	母集団プロファイル	デフォルト(NOPROFILE でない場合)
PredictedFreqs	予測度数	PRED=FREQ
PredictedProbs	予測確率	PREDICT または PRED=PROB
PredictedValues	予測値	PREDICT または PRED=
ResponseCov	応答関数、共分散行列	COV
ResponseDesign	応答関数、計画行列	WLS (NODESIGN でない場合)
ResponseFreqs	応答度数	FREQ
ResponseProbs	応答確率	PROB

テーブル名	説明	オプション
ResponseProfiles	応答プロファイル	デフォルト(NOPROFILE でない場合)
XPX	$X \cdot \text{Inv}(S) \cdot X$ 行列	XPX (WLS の場合)
CONTRAST ステートメントによって作成される ODS テーブル		
Contrasts	対比	
ContrastEstimates	対比の分析	ESTIMATE=
PROC ステートメントによって作成される ODS テーブル		
DataSummary	データの要約	
MODEL ステートメントおよび LOGLIN ステートメントによって作成される ODS テーブル		
ResponseMatrix	<u>RESPONSE</u> 行列	NORESPONSE でない場合

表 A1.22 CLUSTER プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
PROC ステートメントによって作成される ODS テーブル		
ClusterHistory	結合されたオブザベーション またはクラスタ、度数および その他のクラスタ統計量	
SimpleStatistics	単純統計量、トリミングの前/ 後	SIMPLE
EigenvalueTable	CORR または COV 行列の 固有値	

表 A1.23 CORRESP プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
AdjInGreenacre	Greenacre 慣性調整	GREENACRE
AdjInBenzecri	Benzecri 慣性調整	BENZECRI

テーブル名	説明	オプション
Binary	二項表	OBSERVED または BINARY
BinaryPct	二項表のパーセント	OBSERVED または BINARY
Burt	Burt テーブル	OBSERVED または MCA
BurtPct	Burt テーブルのパーセント	OBSERVED または MCA
CellChiSq	カイ2乗への寄与率	CELLCHI2
CellChiSqPct	寄与率、パーセント	CELLCHI2
ColBest	列のベストインジケータ	
ColContr	慣性への列の寄与率	
ColCoors	列座標	
ColProfiles	カラムプロファイル	CP
ColProfilesPct	カラムプロファイル、パーセント	CP
ColQualMassIn	列品質、質量、慣性	
ColSqCos	列平方余弦	
DF	DF、カイ2乗(表示なし)	
偏差	観測-期待度数	DEVIATIONS
DeviationsPct	観測-期待パーセンテージ	DEVIATIONS
Expected	期待度数	EXPECTED
ExpectedPct	期待パーセント	EXPECTED
慣性	慣性分解テーブル	
Observed	観測度数	OBSERVED
ObservedPct	観測パーセント	OBSERVED
RowBest	行のベストインジケータ	
RowContr	慣性への行の寄与率	
RowCoors	行座標	
RowProfiles	行プロファイル	RP
RowProfilesPct	行プロファイル、パーセント	RP
RowQualMassIn	行品質、質量、慣性	

テーブル名	説明	オプション
RowSqCos	行平方余弦	
SupColCoors	補助列座標	
SupColProfiles	補助カラムプロファイル	CP
SupColProfilesPct	補助カラムプロファイル、パーセント	CP
SupColQuality	補助カラムクオリティ	
SupCols	補助列度数	OBSERVED
SupColsPct	補助カラムパーセント	OBSERVED
SupColSqCos	補助列平方余弦	
SupRows	補助行度数	OBSERVED
SupRowCoors	補助行座標	
SupRowProfiles	補助行プロファイル	RP
SupRowProfilesPct	補助行プロファイル、パーセント	RP
SupRowQuality	補助行品質	
SupRowsPct	補助行パーセント	OBSERVED
SupRowSqCos	補助行平方余弦	

表 A1.24 DISCRIM プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
分散分析	単変量統計量	分散分析
AvePostCrossVal	平均事後確率、相互検証	POSTERR および CROSSVALIDATE
AvePostResub	平均事後確率、再置換法	POSTERR
AvePostTestClass	平均事後確率、検定の分類	POSTERR および TEST=
AveRSquare	平均 R2 乗値	分散分析
BCorr	区分間相関	BCORR
BCov	区分間共分散	BCOV

テーブル名	説明	オプション
BSSCP	区分間 SSCP 行列	BSSCP
BStruc	正準構造間	CANONICAL
CanCorr	正準相関	CANONICAL
CanonicalMeans	正準変数の区分平均	CANONICAL
ChiSq	カイ 2 乗情報	2TEST
ClassifiedCrossVal	オブザベーションと判別比率、相互検証	CROSSVALIDATE
ClassifiedResub	オブザベーションと判別比率、再置換法	
ClassifiedTestClass	オブザベーションと判別比率、検定の分類	TEST=
Counts	オブザベーション、変数、区分、DF の数	
CovDF	共分散行列の DF、表示なし	任意の*COV オプション
Dist	平方距離	MAHALONOBIS
DistFValues	平方距離に基づいた F 値	MAHALONOBIS
DistGeneralized	一般化平方距離	
DistProb	平方距離に基づく F 値の確率	MAHALONOBIS
ErrorCrossVal	誤差数推定、相互検証	CROSSVALIDATE
ErrorResub	誤差数推定、再置換法	
ErrorTestClass	誤差数推定、検定の分類	TEST=
Levels	区分の水準の情報	
LinearDiscFunc	線形判別関数	POOL=YES
LogDet	共分散行列の行列式の対数	
MultStat	MANOVA	MANOVA
PCoef	プールした標準正準係数	CANONICAL
PCorr	プールした区分内相関	PCORR
PCov	プールした区分内共分散	PCOV
PSSCP	プールした区分内 SSCP 行列	PSSCP

テーブル名	説明	オプション
PStdMeans	プールした標準化区分平均	STDMEAN
PStruc	正準構造内にプール	CANONICAL
PostCrossVal	平均事後確率、相互検証	CROSSLIST または CROSSLISTERR
PostErrCrossVal	誤差数推定、相互検証	POSTERR および CROSSVALIDATE
PostErrResub	事後誤差推定、再置換法	POSTERR
PostErrTestClass	誤差数推定、検定の分類	POSTERR および TEST=
PostResub	事後確率、再置換法	LIST または LISTERR
PostTestClass	事後確率、検定の分類	TESTLIST または TESTLISTERR
RCoef	非標準化正準係数	CANONICAL
SimpleStatistics	単純統計量	SIMPLE
TCoef	全標本標準正準係数	CANONICAL
TCorr	全標本相関	TCORR
TCov	全標本共分散	TCOV
TSSCP	全標本 SSCP 行列	TSSCP
TStdMeans	全標準化区分平均	STDMEAN
TStruc	全正準構造	CANONICAL
WCorr	区分内相関	WCORR
WCov	区分内共分散	WCOV
WSSCP	区分内 SSCP 行列	WSSCP

表 A1.25 FACTOR プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
AlphaCoef	各因子のアルファ係数	METHOD=ALPHA
CanCorr	2 乗正準相関	METHOD=ML
CondStdDev	条件付標準偏差	SIMPLE w/PARTIAL

テーブル名	説明	オプション
ConvergenceStatus	収束状態	METHOD=PRINIT、 =ALPHA、=ML または =ULS
Corr	相関	CORR
Eigenvalues	固有値	デフォルトまたは SCREE
Eigenvectors	固有ベクトル	EIGENVECTORS
FactorWeightRotate	回転に対する因子の重み	HKPOWER=
FactorPattern	因子パターン	
FactorStructure	因子構造	ROTATE=任意の斜交回転
FinalCommun	最終的な共通性	デフォルト
FinalCommunWgt	重み付きの最終的な共通性	METHOD=ML または METHOD=ALPHA
FitMeasures	当てはめの指標	METHOD=ML
ImageCoef	画像係数	METHOD=IMAGE
ImageCov	画像共分散行列	METHOD=IMAGE
ImageFactors	画像因子行列	METHOD=IMAGE
InputFactorPattern	入力因子パターン	METHOD=PATTERN (PRINT または ALL を使用)
InputScoreCoef	標準化入力スコア係数	METHOD=SCORE (PRINT または ALL を使用)
InterFactorCorr	因子間の相関	ROTATE=任意の斜交回転
InvCorr	逆相関行列	ALL
IterHistory	反復履歴	METHOD=PRINIT、 ALPHA、=ML または=ULS
MultipleCorr	2 乗重相関	METHOD=IMAGE または METHOD=HARRIS
NormObliqueTrans	標準化斜交変換行列	ROTATE=任意の斜交回転
ObliqueRotFactPat	回転因子パターン	ROTATE=任意の斜交回転
ObliqueTrans	斜交変換行列	HKPOWER=
OrthRotFactPat	回転因子パターン	ROTATE=任意の直交回転
OrthTrans	直交変換行列	ROTATE=任意の直交回転
ParCorrControlFactor	因子を制御した偏相関行列	RESIDUAL

テーブル名	説明	オプション
ParCorrControlVar	他の変数を制御した偏相関行列	MSA
PartialCorr	偏相関	MSA または CORR w/ PARTIAL
PriorCommunalEst	事前共通性の推定	PRIORS=、METHOD=ML または METHOD=ALPHA
ProcrustesTarget	プロクラステス変換に対するターゲット行列	ROTATE=PROCRUSTES または ROTATE=PROMAX
ProcrustesTrans	プロクラステス変換行列	ROTATE=PROCRUSTES または ROTATE=PROMAX
RMSOffDiagPartial	非対角偏相関係数の平均平方の平方根	RESIDUAL
RMSOffDiagResids	非対角残差の平均平方の平方根	RESIDUAL
ReferenceAxisCorr	参考軸の相関	ROTATE=任意の斜交回転
ReferenceStructure	参考構造	ROTATE=任意の斜交回転
ResCorrUniqueDiag	対角成分に一意性がある残差相関行列	RESIDUAL
SamplingAdequacy	カイザーの標本抽出妥当性指標	MSA
SignifTests	有意性検定	METHOD=ML
SimpleStatistics	単純統計量	SIMPLE
StdScoreCoef	標準化スコア係数	SCORE
VarExplain	説明される分散	
VarExplainWgt	重みで説明される分散	METHOD=ML または METHOD=ALPHA
VarFactorCorr	変数群と各因子の重相関係数の 2 乗	SCORE
VarWeightRotate	回転に対する変数の重み	NORM=WEIGHT または ROTATE=

表 A1.26 FASTCLUS プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
-------	----	-------

テーブル名	説明	オプション
PROC ステートメントによって作成される ODS テーブル		
ApproxExpOverAllRSq	R2 乗の近似総期待値、単数	
CCC	3 次クラスタリング基準、単数	
ClusterList	クラスター一覧、オブザベーション、ID および距離	LIST
ClusterSum	クラスタの要約、クラスタ数、距離	PRINTALL
ClusterCenters	クラスタ中心	
ClusterDispersion	クラスタのばらつき	
ConvergenceStatus	収束状態	PRINTALL
基準	単数、最終シードによる評価基準	
DistBetweenClust	クラスタ間の距離	
InitialSeeds	初期シード	
IterHistory	反復履歴、各反復のさまざまな統計量	PRINTALL
MinDist	初期シード間の最小距離、単数	PRINTALL
NumberOfBins	ビン数	
ObsOverAllRSquare	観測された総 R2 乗値、単数	SUMMARY
PrelScaleEst	予備の L(1)尺度推定、単数	PRINTALL
PseudoFStat	擬似 F 統計量、単数	
SimpleStatistics	入力変数の単純統計量	
VariableStat	クラスタ内の変数の統計量	

表 A1.27 GAM プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
PROC ステートメントによって作成される ODS テーブル		

テーブル名	説明	オプション
ANODEV	平滑化変数のデビアン分析表の分析	
ClassSummary	区分変数の要約	
InputSummary	データの要約	
IterSummary	反復の要約	
FitSummary	当てはめパラメータと当てはめの要約	
ParameterEstimates	回帰変数のパラメータの推定	
MODEL ステートメントによって作成される ODS テーブル		
Iteration	反復履歴テーブル	ITPRINT

表 A1.28 GENMOD プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	Description	オプション
CLASS ステートメントによって作成される ODS テーブル		
ClassLevels	区分変数の水準	
CONTRAST ステートメントによって作成される ODS テーブル		
Contrasts	対比の検定	
ContrastCoef	対比係数	E
LinDep	対比の線形従属行	
NonEst	対比の推定不能行	
MODEL ステートメントによって作成される ODS テーブル		
ConvergenceStatus	収束状態	
CorrB	パラメータ推定相関行列	CORRB
CovB	パラメータ推定共分散行列	COVB
IterLRCI	尤度比の信頼区間の反復履歴	LRCI ITPRINT
IterParms	パラメータ推定の反復履歴	ITPRINT

テーブル名	Description	オプション
IterType3	タイプ 3 統計量の反復履歴	TYPE3 ITPRINT
LRCI	尤度比の信頼区間	LRCI ITPRINT
LagrangeStatistics	ラグランジュ統計量	NOINT または NOSCALE
LastGradHess	グラデーションとヘシアン の最終評価	ITPRINT
ModelInfo	モデル情報	
Modelfit	適合度統計量	
ObStats	オブザベーションに対する統 計量	OBSTATS、CL、 PREDICTED、RESIDUALS または XVARs
ParameterEstimates	パラメータ推定	
ParmInfo	パラメータインデックス	
ResponseProfiles	多項モデルの度数カウント	DIST=MULTINOMIAL
Type1	タイプ 1 のテスト	TYPE1
Type3	タイプ 3 のテスト	TYPE3
ESTIMATE ステートメントによって作成される ODS テーブル		
推定	対比の推定	
EstimateCoef	対比係数	E
REPEATED ステートメントによって作成される ODS テーブル		
GEEEmpPEst	経験的標準誤差を伴う GEE パラメータ推定	
GEELogORInfo	GEE 対数のオッズ比モデル 情報	LOGOR=
GEEModInfo	GEE モデル情報	
GEEModPEst	モデルベースの標準誤差を 伴う GEE パラメータ推定	MODELSE
GEENCorr	GEE モデルベース相関行列	MCORRB
GEENCov	GEE モデルベース共分散行 列	MCOVB
GEERCorr	GEE 経験的相関行列	ECORRB
GEERCov	GeE 経験的共分散行列	ECOVb

テーブル名	Description	オプション
GEEWCorr	GEE ワーキング相関行列	CORRW
CONTRAST ステートメントによって作成される ODS テーブル		
IterContrasts	対比の反復履歴	ITPRINT
MODEL ステートメントによって作成される ODS テーブル		
IterParmsGEE	GEE パラメータ推定の反復履歴	ITPRINT
LastGEEGrad	一般化されたグラデーションとヘシアン最終評価	ITPRINT
LSMEANS ステートメントによって作成される ODS テーブル		
LSMeanCoef	最小 2 乗平均の係数	E
LSMeanDiffs	最小 2 乗平均の差	DIFF
LSMeans	最小 2 乗平均	

表 A1.29 GLM プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
DependentInfo	同時に分析した従属変数	さまざまなパターンの欠損値を伴う複数の従属変数がある場合は、デフォルト
FitStatistics	R ² 乗値、変動係数、平均平方誤差の平方根、および従属変数の平均	
MatrixRepresentation	X 行列の要素の表示	別のオプションが必要な場合
ModelANOVA	モデルの項の分散分析	
NObs	オブザベーション	
OverallANOVA	全体の分散分析	
CLASS ステートメントによって作成される ODS テーブル		
ClassLevels	分類変数の水準	
CONTRAST ステートメントによって作成される ODS テーブル		

テーブル名	説明	オプション
AltErrContrasts	代替誤差を伴う対比の分散分析テーブル	E=
ContrastCoef	対比の L 行列	EST
対比	対比の分散分析テーブル	
ESTIMATE ステートメントによって作成される ODS テーブル		
推定	ESTIMATE ステートメントの結果	
LSMEANS ステートメントによって作成される ODS テーブル		
Diff	最小 2 乗平均の PDiff 行列	PDIFF
LSMeanCL	LS 平均の信頼区間	CL
LSMeanCoef	最小 2 乗平均の係数	E
LSMeanDiffCL	LS 平均の差の信頼区間	PDIFF および CL
LSMeans	最小 2 乗平均	
SimDetails	差の分位数シミュレーションの詳細	ADJUST=SIMULATE(REPORT)
SimResults	差の分位数シミュレーションの評価	ADJUST=SIMULATE(REPORT)
SlicedANOVA	スライス効果分散分析テーブル	SLICE
MEANS ステートメントによって作成される ODS テーブル		
Bartlett	バートレットの分散の等分散性の検定	HOVTEST=BARTLETT
CLDiffs	対比較の多重比較	CLDIFF、DUNNETT、または(等しくないセルであり LINES ではない)
CLDiffsInfo	対比較の多重比較に関する情報	CLDIFF、DUNNETT、または(等しくないセルであり LINES ではない)
CLMeans	信頼区間/比較区間を伴う平均の多重比較	CLM
CLMeansInfo	信頼区間/比較区間を伴う平均の多重比較の情報	CLM
HOVFTest	分散の分散分析の等分散性	HOVTEST

テーブル名	説明	オプション
MCLines	多重比較 LINES 出力	LINES、((DUNCAN、WALLER、SNK または REGWQ)であって、(CLDIFF または CLM)ではない)、あるいは(等しいセルであり CLDIFF ではない)
MCLinesInfo	多重比較 LINES 出力の情報	LINES、((DUNCAN、WALLER、SNK または REGWQ)であって、(CLDIFF または CLM)ではない)、あるいは(等しいセルであり CLDIFF ではない)
MCLinesRange	複数の範囲 MC 検定の範囲	LINES、((DUNCAN、WALLER、SNK または REGWQ)であって、(CLDIFF または CLM)ではない)、あるいは(等しいセルであり CLDIFF ではない)
Means	グループの平均	
Welch	Welch の分散分析	WELCH
MODEL ステートメントによって作成される ODS テーブル		
Aliasing	タイプ 1、2、3、4 のエイリアス構造	(E1、E2、E3 または E4)および ALIASING
EstFunc	タイプ 1、2、3、4 の推定可能関数	E1、E2、E3 または E4
GAliasing	エイリアス構造の一般化形式	E および ALIASING
GEstFunc	推定可能関数の一般形	E
InvXPX	Inv(X"X)行列	INVERSE
ParameterEstimates	推定線形モデル係数	SOLUTION
PredictedInfo	予測値の情報	PREDICTED、CLM または CLI
PredictedValues	予測値	PREDICTED、CLM または CLI
Tolerances	X"X トレランス	TOLERANCE
XPX	X"X 行列	XPX
MANOVA ステートメントまたは REPEATED ステートメントによって作成される ODS テーブル		

テーブル名	説明	オプション
CanAnalysis	正準分析	CANONICAL
CanCoef	正準係数	CANONICAL
CanStructure	正準構造	CANONICAL
ErrorSSCP	誤差 SSCP 行列	PRINTE
HypothesisSSCP	仮説 SSCP 行列	PRINTH
PartialCorr	偏相関行列	PRINTE
MANOVA ステートメントによって作成される ODS テーブル		
CharStruct	固有のルートおよびベクトル	CANONICAL
MANOVATransform	多変量解析変換行列	M=
MultStat	多変量検定	
検定	指定された MANOVA H=効果の要約分散分析	H=SUMMARY
RANDOM ステートメントによって作成される ODS テーブル		
ExpectedMeanSquares	期待平均平方	
QForm	期待平均平方の 2 次形式	Q
RandomModelANOVA	変量効果検定	TEST
REPEATED ステートメントによって作成される ODS テーブル		
CharStruct	固有のルートおよびベクトル	PRINTRV
Epsilons	Greenhouse-Geisser のイプシロンと Huynh-Feldt のイプシロン	
RepeatedLevelInfo	従属変数と反復測定の水準との対応関係	
RepeatedTransform	反復測定変換行列	PRINTM
Sphericity	球面性検定	PRINTE
TEST ステートメントによって作成される ODS テーブル		
AltErrTests	代替誤差を伴う検定の分散分析テーブル	E=

表 A1.30 GLMMOD プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
DependentInfo	同時に分析した従属変数	複数の従属変数がある場合はデフォルト
DesignPoints	計画行列	
NObs	オブザベーション	
Parameters	パラメータおよび関連付けられた列番号	
CLASS ステートメントによって作成される ODS テーブル		
ClassLevels	区分の水準のテーブル	

表 A1.31 GLMPOWER プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
FixedElements	単一値分析パラメータを伴うファクトイド	デフォルト
Output	入力・計算された、各シナリオのすべての分析パラメータ、誤差メッセージおよび情報メッセージ	デフォルト
PlotContent	プロットに含まれているデータ(プロット関数を識別する分析パラメータおよびインデックスを含む)(注: このテーブルはデータセットとして保存され、PROC GLMPOWER 出力には表示されません。)	PLOT

表 A1.32 INBREED プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
GENDER ステートメントによって作成される ODS テーブル		
AvgCovCoef	共分散係数行列の平均	COVAR および AVERAGE

テーブル名	説明	オプション
AvgInbreedingCoef	近交係数行列の平均	AVERAGE
MATINGS ステートメントによって作成される ODS テーブル		
MatingCovCoef	交配の共分散係数	COVAR
MatingInbreedingCoef	交配の近交係数	
PROC ステートメントによって作成される ODS テーブル		
CovarianceCoefficient	共分散係数テーブル	COVAR
InbreedingCoefficient	近交係数テーブル	
IndividualCovCoef	個々値の近交係数	IND および COVAR
IndividualInbreedingCoef	個々値の近交係数	IND
NumberOfObservations	オブザベーション	

表 A1.33 KDE プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明
BivariateStatistics	2 変量統計量
Controls	制御変数
Inputs	入力情報
Levels	密度推定のレベル
Percentiles	データの百分位数
Statistics	基本統計量

表 A1.34 LATTICE プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明
分散分析	分散の分析
AdjTreatmentMeans	調整済みの処理の平均

テーブル名	説明
Statistics	追加統計量

表 A1.35 LIFEREG プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	Description	オプション
CLASS ステートメントによって作成される ODS テーブル		
ClassLevels	区分変数の水準	
MODEL ステートメントによって作成される ODS テーブル		
ConvergenceStatus	収束状態	
CorrB	パラメータ推定相関行列	CORRB
CovB	パラメータ推定共分散行列	COVB
IterHistory	反復履歴	ITPRINT
LagrangeStatistics	ラグランジュ統計量	NOINT または NOSCALE
LastGrad	グラデーシヨンの最終評価	ITPRINT
LastHess	ヘシ안의最終評価	ITPRINT
ModelInfo	モデル情報	
ParameterEstimates	パラメータ推定	
ParmInfo	パラメータインデックス	
Type3Analysis	タイプ 3 のテスト	
PROBPLOT ステートメントによって作成される ODS テーブル		
EMIterHistory	Turnbull アルゴリズムの反復履歴	ITPRINTEM
ProbEstimates	ノンパラメトリック CDF 推定	PPOUT
Turnbull	Turnbull アルゴリズムに基づく確率推定	ITPRINTEM

表 A1.36 LIFETEST プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
PROC ステートメントによって作成される ODS テーブル		
CensorPlot	打ち切りオブザベーションの、ラインプリンタのプロット	PLOT=(C、S、LS または LLS)、METHOD=PL および LINEPRINTER
CensoredSummary	イベントおよび打ち切りオブザベーションの数	METHOD=PL
DensityPlot	密度のプロット	PLOT=(D)および METHOD=LT
HazardPlot	ハザード関数のプロット	PLOT=(H)および METHOD=LT
LifetableEstimates	生命表生存関数の推定	METHOD=LT
LogLogSurvivalPlot	負の対数生存関数のログのプロット	PLOT=(LLS)
LogSurvivalPlot	対数生存関数のプロット	PLOT=(LS)
Means	生存時間の平均値と標準誤差	METHOD=PL
ProductLimitEstimates	積極限法(product-limit)による生存推定	METHOD=PL
Quartiles	生存分布の4分位数	METHOD=PL
SurvivalPlot	生存関数のプロット	PLOT=(S)
STRATA ステートメントによって作成される ODS テーブル		
HomStats	層の同等性の検定の順位統計量	
HomTests	層の同等性の検定	
LogHomCov	層の同等性のログランク検定の共分散行列	
WilHomCov	層の同等性の Wilcoxon 検定の共分散行列	
TEST ステートメントによって作成される ODS テーブル		
LogForStepSeq	関連付けのログランク検定の変数増加法シーケンス	

テーブル名	説明	オプション
LogTestCov	関連付けのログランク検定用の共分散行列	
LogUniChisq	関連付けのログランク検定用の単変量カイ2乗	
WilForStepSeq	関連付けのログランク検定用の変数増加法シーケンス	
WilTestCov	関連付けのログランク検定用の共分散行列	
WilUniChiSq	関連付けの Wilcoxon 検定用の単変量カイ2乗	

表 A1.37 LOESS プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
FitSummary	指定された当てはめパラメータと当てはめの要約	
ScaleDetails	従属変数の領域と拡大縮小	
MODEL ステートメントによって作成される ODS テーブル		
kdTree	使用する kd 本の構造	DETAILS(kdTree)
ModelSummary	評価される全モデルの要約	DETAILS(ModelSummary)
OutputStatistics	入力データポイントでの座標と当てはめの結果	OutputStatistics
PredAtVertices	kd 本の頂点での座標と当てはめ値	DETAILS(PredAtVertices)
SmoothingCriterion	判断値および選択した平滑化パラメータ	SELECT
SCORE ステートメントによって作成される ODS テーブル		
ScoreResults	スコアリングポイントでの座標と当てはめの結果	PRINT

表 A1.38 LOGISTIC プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
CONTRAST ステートメントによって作成される ODS テーブル		
ContrastCoeff	CONTRAST からの L 行列	E
ContrastEstimate	CONTRAST からの推定	ESTIMATE=
ContrastTest	CONTRAST の Wald 検定	
EXACT ステートメントによって作成される ODS テーブル		
ExactOddsRatio	正確なオッズ比	ESTIMATE=ODDS または ESTIMATE=BOTH
ExactParmEst	パラメータ推定	ESTIMATE、 ESTIMATE=PARAM または ESTIMATE=BOTH
ExactTests	条件付正確検定	
SuffStats	十分な統計量	OUTDIST=
MODEL ステートメントによって作成される ODS テーブル		
Association	予測確率と観測データの応答との関連付け	デフォルト
BestSubsets	総当たり法	SELECTION=SCORE
ClassLevelInfo	CLASS 変数の水準とデザイン変数	デフォルト(CLASS 変数の場合)
Classification	分類テーブル	CTABLE
COddsPL	オッズ比のプロファイル尤度に基づく信頼限界	CLODDS=PL
COddsWald	オッズ比の Wald 信頼限界	CLODDS=WALD
CLParmPL	パラメータのプロファイル尤度に基づく信頼限界	CLPARAM=PL
CLParmWald	パラメータの Wald 信頼限界	CLPARAM=WALD
ConvergenceStatus	収束状態	デフォルト
CorrB	パラメータ推定量の推定相関行列	CORRB
CovB	パラメータ推定量の推定共分散行列	COVB

テーブル名	説明	オプション
CumulativeModelTest	累積モデルの仮定の検定	(通常の応答)
EffectNotInModel	モデル内にはない効果の検定	SELECTION=S または F
FastElimination	高速化変数減少	SELECTION=B、FAST
FitStatistics	モデルの当てはまりに関する統計量	デフォルト
GlobalScore	グローバルスコア検定	NOFIT
GlobalTests	グローバルな帰無仮説検定	デフォルト
GoodnessOfFit	Pearson とデビアンズの適合度検定	SCALE
IndexPlots	インデックスプロットのバッチキャプチャ	IPLOTS
Influence	回帰診断	INFLUENCE
IterHistory	反復履歴	ITPRINT
LackFitChiSq	Hosmer-Lemeshow カイ 2 乗検定の結果	LACKFIT
LackFitPartition	Hosmer-Lemeshow 検定のための分割	LACKFIT
LastGradient	グラデーションの最終評価	ITPRINT
LogLikeChange	対数尤度の最終変更	ITPRINT
ModelBuildingSummary	モデル構築の要約	SELECTION=B、F または S
OddsRatios	オッズ比	デフォルト
ParameterEstimates	モデルパラメータの最尤推定	デフォルト
RSquare	R ² 乗値	RSQUARE
ResidualChiSq	残差カイ 2 乗	SELECTION=F または B
Type3	タイプ 3 の効果テスト	デフォルト(CLASS 変数の場合)
ODSRATIOS ステートメントによって作成される ODS テーブル		
OddsRatiosWald	Wald 信頼限界のオッズ比	CL=WALD
OddsRatiosPL	PL 信頼限界のオッズ比	CL=PL
PROC ステートメントによって作成される ODS テーブル		

テーブル名	説明	オプション
ClassFreq	CLASS 変数の度数の詳細	SIMPLE
ClassWgt	CLASS 変数の重みの詳細	SIMPLE
ModelInfo	モデル情報	デフォルト
ResponseProfile	応答プロファイル	デフォルト
SimpleStatistics	説明変数の要約統計量	SIMPLE
STRATA ステートメントによって作成される ODS テーブル		
StrataSummary	特定の応答度数の層の数	デフォルト
StrataInfo	各層の事象または非事象の 度数	INFO
TEST ステートメントによって作成される ODS テーブル		
TestPrint1	L[cov(b)]L"および Lb-c	PRINT
TestPrint2	Ginv(L[cov(b)]L")および Ginv(L[cov(b)]L")(Lb-c)	PRINT
TestStmts	線形仮説検定の結果	デフォルト
WEIGHT ステートメントによって作成される ODS テーブル		
ClassWgt	CLASS 変数の重みの詳細	SIMPLE

表 A1.39 MDS プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
ConvergenceStatus	収束状態	
DimensionCoef	ディメンション係数	PCOEF w/COEF= not IDENTITY
FitMeasures	当てはめの指標	PFIT
IterHistory	反復履歴	
PConfig	構成内のオブジェクトの推定 座標	PCONFIG
PData	データ行列	PDATA

テーブル名	説明	オプション
PInAvData	初期の重みの合計とデータ行列(INAV=DATA)の加重平均	PINAVDATA
PInEigval	初期固有値	PINEIGVAL
PInEigvec	初期固有ベクトル	PINEIGVEC
PInWeight	初期化の重み	PINWEIGHT
Transformations	変換パラメータ	PTRANS w/ LEVEL=RATIO、 INTERVAL または LOGINTERVAL

表 A1.40 MI プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
Corr	ペアワイズ相関	SIMPLE
MissPattern	欠損データパターン	
ModelInfo	モデル情報	
ParameterEstimates	パラメータ推定	
Univariate	単変量統計量	SIMPLE
VarianceInfo	分散間、分散内および分散の合計	
EM ステートメントによって作成される ODS テーブル		
EMEstimates	EM (MLE)推定	
EMInitEstimates	EM 初期推定	
EMIterHistory	EM (MLE)反復履歴	ITPRINT
MCMC ステートメントによって作成される ODS テーブル		
EMPostEstimates	EM (事後モード)推定	INITIAL=EM
EMPostIterHistory	EM (事後モード)反復履歴	INITIAL=EM (ITPRINT)
EMWLF	最悪線形関数	WLF
MCMCInitEstimates	MCMC 初期推定	DISPLAYINIT

テーブル名	説明	オプション
MONOTONE ステートメントによって作成される ODS テーブル		
MonoDiscrim	判別モデルグループの平均	DISCRIM (/DETAILS)
MonoLogistic	ロジスティックモデル	LOGISTIC (/DETAILS)
MonoModel	複数のモノトーンモデル	
MonoPropensity	傾向スコアロジスティック関数	PROPENSITY (/DETAILS)
MonoReg	回帰モデル	REG (/DETAILS)
MonoRegPPM	予測される平均一致モデル	REGPPM (/DETAILS)
TRANSFORM ステートメントによって作成される ODS テーブル		
Transform	変数変換	

表 A1.41 MIANALYZE プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
BCov	補完間共分散行列	BCOV
ModelInfo	モデル情報	
MultStat	多変量推定	MULT
ParameterEstimates	パラメータ推定	
TCov	共分散行列の合計	TCOV
VarianceInfo	分散の情報	
WCov	補完内共分散行列	WCOV
TEST ステートメントによって作成される ODS テーブル		
TestBCov	L の補完間共分散行列 β	BCOV
TestMultStat	L の多変量推定 β	MULT
TestParameterEstimates	L のパラメータ推定 β	
TestSpec	テスト仕様、L および c	
TestTCov	L の共分散行列の合計 β	TCOV

テーブル名	説明	オプション
TestVarianceInfo	L の分散の情報 β	
TestWCov	補完内共分散行列 β	WCOV

表 A1.42 MIXED プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
AccRates	事後サンプリングの採用率	PRIOR
AsyCorr	共分散パラメータの漸近相関行列	PROC MIXED ASYCORR
AsyCov	共分散パラメータの漸近共分散行列	PROC MIXED ASYCOV
Base	事後サンプリングに使用するベース密度	PRIOR
Bound	算出された事後棄却サンプリング下限	PRIOR
CholG	推定 G 行列の Cholesky 根	RANDOM / GC
CholR	推定 R 行列のブロックの Cholesky 根	REPEATED / RC
CholV	推定 V 行列のブロックの Cholesky 根	RANDOM / VC
ClassLevels	CLASS ステートメントの水準の情報	デフォルト出力
Coef	L 行列係数	MODEL、CONTRAST、ESTIMATE または LSMEANS の E オプション
対比	CONTRAST ステートメントの結果	CONTRAST
ConvergenceStatus	収束状態	デフォルト
CorrB	固定効果パラメータ推定の近似相関行列	MODEL / CORRB
CovB	固定効果パラメータ推定の近似共分散行列	MODEL / COVB
CovParms	推定共分散パラメータ	デフォルト出力

テーブル名	説明	オプション
DiffS	LS 平均の差	LSMEANS / DIFF (または PDIFF)
ディメンション	モデルのディメンション	デフォルト出力
推定	ESTIMATE ステートメントの結果	ESTIMATE
FitStatistics	適合統計量	デフォルト
G	推定 G 行列	RANDOM / G
GCorr	推定 G 行列の相関行列	RANDOM / GCORR
HLM1	タイプ 1 の、Hotelling-Lawley-McKeon の固定効果の検定	MODEL / HTYPE=1 および REPEATED / HLM TYPE=UN
HLM2	タイプ 2 の、Hotelling-Lawley-McKeon の固定効果の検定	MODEL / HTYPE=2 および REPEATED / HLM TYPE=UN
HLM3	タイプ 3 の、Hotelling-Lawley-McKeon の固定効果の検定	REPEATED / HLM TYPE=UN
HLPS1	タイプ 1 の、Hotelling-Lawley-Pillai-Samson の固定効果の検定	MODEL / HTYPE=1 および REPEATED / HLPS TYPE=UN
HLPS2	タイプ 2 の、Hotelling-Lawley-Pillai-Samson の固定効果の検定	MODEL / HTYPE=1 および REPEATED / HLPS TYPE=UN
HLPS3	タイプ 3 の、Hotelling-Lawley-Pillai-Samson の固定効果の検定	REPEATED / HLPS TYPE=UN
Influence	影響度の診断	MODEL / INFLUENCE
InfoCrit	情報量規準	PROC MIXED IC
InvCholG	推定 G 行列の逆 Cholesky 根	RANDOM / GCI
InvCholR	推定 R 行列のブロックの逆 Cholesky 根	REPEATED / RCI
InvCholV	推定 V 行列のブロックの逆 Cholesky 根	RANDOM / VCI
InvCovB	固定効果パラメータ推定の近似共分散行列の逆数	MODEL / COVBI
InvG	推定 G 行列の逆数	RANDOM / GI

テーブル名	説明	オプション
InvR	推定 R 行列のブロックの逆数	REPEATED / RI
InvV	推定 V 行列のブロックの逆数	RANDOM / VI
IterHistory	反復履歴	デフォルト出力
LComponents	固定効果の L 行列の行に対応する一自由度の推定	MODEL / LCOMPONENTS
LRT	尤度率検定	デフォルト出力
LSMeans	LS 平均	LSMEANS
MMEq	混合モデルの方程式	PROC MIXED MMEQ
MMEqSol	混合モデルの方程式の解	PROC MIXED MMEQSOL
ModelInfo	モデル情報	デフォルト出力
NObs	読み取られ使用されるオブザベーション	デフォルト出力
ParmSearch	パラメータ検索値	PARMS
Posterior	事後サンプリングの情報	PRIOR
R	推定 R 行列のブロック	REPEATED / R
RCorr	推定 R 行列のブロックの相関行列	REPEATED / RCORR
Search	事後密度検索テーブル	PRIOR / PSEARCH
Slices	LS 平均スライスのテスト	LSMEANS / SLICE=
SolutionF	固定効果の解のベクトル	MODEL / S
SolutionR	ランダム効果の解のベクトル	RANDOM / S
Tests1	固定効果のタイプ 1 のテスト	MODEL / HTYPE=1
Tests2	固定効果のタイプ 1 のテスト	MODEL / HTYPE=2
Tests3	固定効果のタイプ 1 のテスト	デフォルト出力
Type1	分散のタイプ 1 の分析	PROC MIXED METHOD=TYPE1
Type2	分散のタイプ 2 の分析	PROC MIXED METHOD=TYPE2
Type3	分散のタイプ 3 の分析	PROC MIXED METHOD=TYPE3

テーブル名	説明	オプション
Trans	共分散パラメータの変換	PRIOR / PTRANS
V	推定 V 行列のブロック	RANDOM / V
VCorr	推定 V 行列のブロックの相関行列	RANDOM / VCORR

表 A1.43 MODECLUS プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
PROC ステートメントによって作成される ODS テーブル		
BoundaryFreq	境界オブジェクト情報	BOUNDARY (または ALL)
ClusterList	クラスター一覧、クラスター ID、度数、密度など	LIST (または ALL)
ClusterStats	クラスター統計量	
ClusterStats	クラスター統計量、有意性検定の統計量	TEST または JOIN (または ALL)
ClusterSummary	クラスターの要約	
ClusterSummary	クラスターの要約、相互検証規準	CROSS または CROSSLIST (または ALL)
ClusterSummary	クラスターの要約、結合されたクラスターの情報	JOIN (または ALL)
CrossList	相互検証法された対数密度	CROSSLIST
ListLocal	ローカルディメンション推定	LOCAL
Neighbor	近傍リスト	NEIGHBOR (または ALL)
SimpleStatistics	単純統計量	SIMPLE (または ALL)
Trace	アルゴリズムのクラスターリングのトレース(METHOD=6のみ)	METHOD=6 を使用した TRACE (または ALL)
UnassignObjects	割り当てられていないオブジェクトの情報	LIST (または ALL)

表 A1.44 MULTTEST プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
Continuous	連続変数集計表	TEST と MEAN
Contrasts	対比係数	
Discrete	不連続変数集計表	TEST と CA、FT、PETO または FISHER
ModelInfo	モデル情報	
pValues	検定の p 値	

表 A1.45 NESTED プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	Description
ANCOVA	共分散の分析
分散分析	分散の分析
EMSCoef	期待平均平方の係数
Statistics	当てはまりに関する全体の統計量

表 A1.46 NLIN プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明
分散分析	分散の分析
ConvergenceStatus	収束状態
CorrB	パラメータの相関
EstSummary	推定の要約
IterHistory	反復の出力
MissingValues	プログラムによって生成される欠損値
ParameterEstimates	パラメータ推定

LIST ステートメントによって作成される ODS テーブル

テーブル名	説明
ProgList	コンパイル済みプログラムのリスト
	LISTCODE ステートメントによって作成される ODS テーブル
CodeList	プログラムステートメントのリスト
	LISTDEP ステートメントによって作成される ODS テーブル
CodeDependency	変数のクロスリファレンス
	LISTDER ステートメントによって作成される ODS テーブル
FirstDerivatives	最初の導関数テーブル

表 A1.47 NLMIXED プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
AdditionalEstimates	ESTIMATE ステートメントの結果	ESTIMATE
ConvergenceStatus	Convergence status	
CorrMatAddEst	追加推定の相関行列	ECORR
CorrMatParmEst	パラメータ推定の相関行列	CORR
CovMatAddEst	追加推定の共分散行列	ECOV
CovMatParmEst	パラメータ推定の共分散	COV
DerAddEst	追加推定の導関数	EDER
ディメンション	問題のディメンション	
FitStatistics	当てはまりに関する統計量	
Hessian	2 次導関数行列	HESS
IterHistory	反復履歴	
パラメータ	パラメータ	
ParameterEstimates	パラメータ推定	
仕様	モデルの仕様	
StartingHessian	ヘシアン行列の開始	START HESS

テーブル名	説明	オプション
StartingValues	開始値およびグラデーション	START

表 A1.48 NPAR1WAY プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
EXACT ステートメントによって作成される ODS テーブル		
ABMC	Ansari-Bradley 正確検定用のモンテカルロ推定	AB または MC
DataScoresMC	データスコアに基づく正確検定用のモンテカルロ推定	SCORES=DATA または MC
KlotzMC	Klotz 正確検定用のモンテカルロ推定	KLOTZ または MC
KolSmirExactTest	Kolmogorov-Smirnov 正確検定	KS
KruskalWallisMC	Kruskal-Wallis 正確検定用のモンテカルロ推定	WILCOXON または MC
KSMC	Kolmogorov-Smirnov 正確検定用のモンテカルロ推定	KS または MC
MedianMC	中央値正確検定用のモンテカルロ推定	MEDIAN または MC
MoodMC	Mood 正確検定用のモンテカルロ推定	MOOD または MC
SavageMC	Savage 正確検定用のモンテカルロ推定	SAVAGE または MC
STMC	Siegel-Tukey 検定(1 通り配置分散分析)用のモンテカルロ推定	ST または MC
VWMC	Van der Waerden 正確検定用のモンテカルロ推定	VW または MC
WilcoxonMC	Wilcoxon の順位和検定(2 標本)用のモンテカルロ推定	WILCOXON または MC
PROC ステートメントによって作成される ODS テーブル		
分散分析	分散の分析	分散分析

テーブル名	説明	オプション
ABAnalysis	Ansari-Bradley の検定(1 通り配置分散分析)	AB
ABScores	Ansari-Bradley スコア	AB
ABTest	Ansari-Bradley の検定(2 標本)	AB
ClassMeans	群平均	分散分析
CVMStats	Cramer-von Mises 統計量	EDF
CVMTest	Cramer-von Mises 検定	EDF
DataScores	データスコア	SCORES=DATA
DataScoresAnalysis	Data Scores 検定(1 通り配置分散分析)	SCORES=DATA
DataScoresTest	Data Scores 検定(2 標本)	SCORES=DATA
KlotzAnalysis	Klotz 検定(1 通り配置分散分析)	KLOTZ
KlotzScores	Klotz スコア	KLOTZ
KlotzTest	Klotz 検定(2 標本)	KLOTZ
KolSmir2Stats	Kolmogorov-Smirnov 統計量(2 標本)	EDF
KolSmirStats	Kolmogorov-Smirnov 統計量	EDF
KolSmirTest	Kolmogorov-Smirnov 検定	EDF
KruskalWallisTest	Kruskal-Wallis 検定	WILCOXON
KuiperStats	Kuiper 統計量(2 標本)	EDF
KuiperTest	TEST	EDF
MedianAnalysis	中央値検定(1 通り配置分散分析)	MEDIAN
MedianScores	中央値スコア	MEDIAN
MedianTest	中央値検定(2 標本)	MEDIAN
MoodAnalysis	Mood 検定(1 通り配置分散分析)	MOOD
MoodScores	Mood スコア	MOOD
MoodTest	Mood 検定(2 標本)	MOOD

テーブル名	説明	オプション
SavageAnalysis	Savage 検定(1 通り配置分散分析)	SAVAGE
SavageScores	Savage スコア	SAVAGE
SavageTest	Savage 検定(2 標本)	SAVAGE
STAnalysis	Siegel-Tukey 検定(1 通り配置分散分析)	ST
STScores	Siegel-Tukey スコア	ST
STTest	Siegel-Tukey 検定(2 標本)	ST
VWAnalysis	Van der Waerden 検定(1 通り配置分散分析)	VW
VWScores	Van der Waerden スコア	VW
VWTest	Van der Waerden 検定(2 標本)	VW
WilcoxonScores	Wilcoxon スコア	WILCOXON
WilcoxonTest	Wilcoxon の順位和検定(2 標本)	WILCOXON

表 A1.49 ORTHOREG プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明
ANOVA	分散の分析
FitStatistics	当てはまりに関する全体の統計量
ParameterEstimates	パラメータ推定
CLASS ステートメントによって作成される ODS テーブル	
Levels	区分の水準のテーブル

表 A1.50 PHREG プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
-------	----	-------

テーブル名	説明	オプション
MODEL ステートメントによって作成される ODS テーブル		
BestSubsets	総当たり法	SELECTION=SCORE
CensoredSummary	イベントおよび打ち切りオブザベーションの要約	
ConvergenceStatus	収束状態	
CorrB	パラメータ推定量の推定相関行列	CORRB
CovB	パラメータ推定量の推定共分散行列	COVB
FitStatistics	モデルの当てはまりに関する統計量	
GlobalScore	グローバルカイ2乗検定	NOFIT
GlobalTests	グローバルな帰無仮説検定	
IterHistory	反復履歴	ITPRINT
LastGradient	グラデーションの最終評価	ITPRINT
ModelBuildingSummary	モデル構築の要約	SELECTION=B、F または S
ParameterEstimates	モデルパラメータの最尤推定	
ResidualChiSq	残差カイ2乗	SELECTION=F または B
VariablesNotInModel	モデル内にはない変数の分析	SELECTION=F または S
PROC ステートメントによって作成される ODS テーブル		
ModelInfo	モデル情報	
SimpleStatistics	説明変数の要約統計量	SIMPLE
TEST ステートメントによって作成される ODS テーブル		
TestAverage	検定に対する平均効果	AVERAGE
TestCoeff	線形仮説の係数	E
TestPrint1	L[cov(b)]L"および Lb-c	PRINT
TestPrint2	Ginv(L[cov(b)]L")および Ginv(L[cov(b)]L")(Lb-c)	PRINT
TestStmts	線形仮説検定の結果	

表 A1.51 PLAN プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明
Plan	計算されたプラン
FACTOR ステートメントおよび TREATMENT ステートメントによって作成される ODS テーブル	
PFInfo	プロット因子の情報
TFInfo	処理因子の情報
FACTOR ステートメントによって作成され TREATMENT ステートメントによっては作成されない ODS テーブル	
FInfo	一般因子の情報

表 A1.52 PLS プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
MODEL ステートメントによって作成される ODS テーブル		
CenScaleParms	中心化されたデータおよび調整されたデータのパラメータ推定	SOLUTION
ParameterEstimates	非標準化データのパラメータ推定	SOLUTION
PROC ステートメントによって作成される ODS テーブル		
CVResults	相互検証の結果	CV
CodedCoef	コード化された係数	DETAILS
PercentVariation	各因子に占める Y 変動	
ResidualSummary	相互検証の残差の要約	CV
XEffectCenScale	予測子効果の情報の中心化と調整	CENSCALE
XLoadings	独立変数の負荷量	DETAILS
XVariableCenScale	予測子効果の情報の中心化と調整	CENSCALE および VARSCALE

テーブル名	説明	オプション
XWeights	独立変数の重み	DETAILS
YVariableCenScale	応答の情報の中心化と調整	CENSACLE
YWeights	従属変数の重み	DETAILS

表 A1.53 POWER プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
FixedElements	単一値分析パラメータを伴う ファクトイド	デフォルト
出力	入力・計算された、各シナリオのすべての分析パラメータ、誤差メッセージおよび情報メッセージ	デフォルト
PlotContent	プロットに含まれているデータ(プロット関数を識別する分析パラメータおよびインデックスを含む)(注: このテーブルはデータセットとして保存され、PROC POWER 出力には表示されません。)	PLOT

表 A1.54 PRINCOMP プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
Corr	相関行列	デフォルト(COV が指定されない場合)
Cov	共分散行列	デフォルト(COV が指定される場合)
Eigenvalues	固有値	
Eigenvectors	固有ベクトル	
NObsNVar	オブザベーション、変数および部分変数の数	
SimpleStatistics	単純統計量	
TotalVariance	分散の合計	COV

テーブル名	説明	オプション
PARTIAL ステートメントによって作成される ODS テーブル		
ParCorr	偏相関行列	
ParCov	無修正偏共分散行列	COV
RegCoef	回帰係数	COV
RSquareRMSE	回帰統計量: R2 乗値および RMSE	
StdRegCoef	標準化回帰係数	

表 A1.55 PRINQUAL プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
ConvergenceStatus	収束状態	
脚注	反復履歴の脚注	
PROC ステートメントによって作成される ODS テーブル		
MAC	MAC 反復履歴	METHOD=MAC
MGV	MGV 反復履歴	METHOD=MAC
MTV	MTV 反復履歴	METHOD=MAC

表 A1.56 PROBIT プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
CLASS ステートメントによって作成される ODS テーブル		
ClassLevels	区分変数の水準	
MODEL ステートメントによって作成される ODS テーブル		
ConvergenceStatus	収束状態	
CorrB	パラメータ推定相関行列	CORRB

テーブル名	説明	オプション
CovB	パラメータ推定共分散行列	COVB
CovTolerance	場所および尺度の共分散行列	
GoodnessOfFit	適合度のテスト	LACKFIT
IterHistory	反復履歴	ITPRINT
LagrangeStatistics	ラグランジュ統計量	NOINT
LastGrad	グラデーシヨンの最終評価	ITPRINT
LastHess	ヘシアン最終評価	ITPRINT
LogProbitAnalysis	対数用量のプロビット分析	INVERSECL
ModelInfo	モデル情報	
MuSigma	場所と尺度	
ParameterEstimates	パラメータ推定	
ParmInfo	パラメータインデックス	
ProbitAnalysis	直線容量のプロビット分析	INVERSECL
ResponseLevels	応答共変量プロファイル	LACKFIT
ResponseProfiles	順序データの数	
Type3Analysis	タイプ 3 のテスト	

表 A1.57 REG プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
MODEL ステートメントによって作成される ODS テーブル		
ACovEst	推定行列の一定共分散	ALL または ACOV
ANOVA	モデル分散分析テーブル	
CollinDiag	共線性診断テーブル	COLLIN
CollinDiagNoInt	切片なしモデル用の共線性診断	COLLINOINT

テーブル名	説明	オプション
ConditionBounds	条件数における境界	(SELECTION=BACKWARD、FORWARD、STEPWISE、MAXR または MINR)および DETAILS
CorrB	推定の相関	CORRB
CovB	推定の共分散	COVB
CrossProducts	隣接するモデル X"X 行列	ALL または XPX
DWStatistic	Durbin-Watson 統計量	ALL または DW
DependenceEquations	線形の従属関係を表す式	
EntryStatistics	選択法のエン트리統計量	(SELECTION=BACKWARD、FORWARD、STEPWISE、MAXR または MINR)および DETAILS
FitStatistics	モデルの当てはまりに関する統計量	
InvXPX	隣接する X"X 逆行列	I
OutputStatistics	出力統計量テーブル	ALL、CLI、CLM、INFLUENCE、P または R
ParameterEstimates	モデルパラメータ推定	
RemovalStatistics	選択法の削除の統計量	(SELECTION=BACKWARD、STEPWISE、MAXR または MINR)および DETAILS
ResidualStatistics	残差統計量と PRESS 統計量	ALL、CLI、CLM、INFLUENCE、P または R
SelParmEst	選択法のパラメータ推定	SELECTION=BACKWARD、FORWARD、STEPWISE、MAXR または MINR
SelectionSummary	増加法、減少法およびステップワイズ法の選択の内容	SELECTION=BACKWARD、FORWARD または STEPWISE
SeqParmEst	逐次パラメータ推定	SEQB
SpecTest	White の不等分散性の検定	ALL または SPEC
SubsetSelSummary	R ² 乗値、調整済み R ² 乗値、および C _p 法の選択の内容	SELECTION=RSQUARE、ADJRSQ または CP
MTEST ステートメントによって作成される ODS テーブル		

テーブル名	説明	オプション
CanCorr	仮説の組み合わせの正準相関	CANPRINT
Eigenvalues	MTest の固有値	CANPRINT
Eigenvectors	MTest の固有ベクトル	CANPRINT
ErrorPlusHypothesis	MTest の誤差および仮説行列 H+E	PRINT
ErrorSSCP	MTest の誤差行列 E	PRINT
HypothesisSSCP	MTest の仮説行列	PRINT
InvMTestCov	Inv(L Ginv(X"X)L")および Inv(Lb-c)	DETAILS
MTestCov	L Ginv(X"X) L"および Lb-c	DETAILS
MTransform	MTest の行列 M、従属変数全体	DETAILS
MultStat	多変量検定の統計量	
PROC ステートメントによって作成される ODS テーブル		
Corr	分析変数の相関行列	ALL または CORR
SimpleStatistics	分析変数の単純統計量	ALL または SIMPLE
USSCP	分析変数の無修正 SSCP 行列	ALL または USSCP
TEST ステートメントによって作成される ODS テーブル		
ACovTestANOVA	ACOV 推定を使用するテスト分散分析	ACOV (MODEL ステートメント)
InvTestCov	Inv(L Ginv(X"X)L")および Inv(Lb-c)	PRINT
TestANOVA	テスト分散分析テーブル	
TestCov	L Ginv(X"X) L"および Lb-c	PRINT

表 A1.58 ROBUSTREG プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
-------	----	-------

テーブル名	説明	オプション
CLASS ステートメントによって作成される ODS テーブル		
ClassLevels	区分変数の水準	
MODEL ステートメントによって作成される ODS テーブル		
CorrB	パラメータ推定相関行列	CORRB
CovB	パラメータ推定共分散行列	COVB
Diagnostics	外れ値診断	DIAGNOSTICS
DiagSummary	外れ値診断の要約	
GoodFit	R ² 、デビアンズ、AIC および BIC	
ModelInfo	モデル情報	
ParameterEstimates	パラメータ推定	
ParmInfo	パラメータインデックス	
SummaryStatistics	モデル変数の要約統計量	
PROC ステートメントによって作成される ODS テーブル		
BestEstimates	LTS の最良の最終推定	SUBANALYSIS
BestSubEstimates	各サブグループの最良の推定	SUBANALYSIS
BiasTest	MM 推定のバイアステスト	BIATEST
CStep	LTS の当てはめの C-Step	SUBANALYSIS
Groups	LTS の当てはめのグループ	SUBANALYSIS
InitLTSPROFILE	初期 LTS 推定のプロファイル	METHOD
InitSProfile	初期 S 推定のプロファイル	METHOD
LTSEstimates	LTS パラメータ推定	METHOD
LTSLocationScale	LTS の場所と尺度	METHOD
LTSProfile	LTS 推定のプロファイル	METHOD
LTSRSquare	LTS 推定の R ²	METHOD
MMProfile	MM 推定のプロファイル	METHOD

テーブル名	説明	オプション
ParameterEstimatesF	最終的な重み付き LS 推定	FWLS
SProfile	S 推定のプロファイル	METHOD
TEST ステートメントによって作成される ODS テーブル		
ParameterEstimatesR	減少したパラメータ推定	
TestsProfile	検定の結果	

表 A1.59 RSREG プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明
Coding	従属変数のコード係数
ErrorANOVA	分散の誤差分析
FactorANOVA	分散の因子分析
FitStatistics	当てはまりに関する全体の統計量
ModelANOVA	分散のモデル分析
ParameterEstimates	推定線形パラメータ
Spectral	スペクトル分析
StationaryPoint	応答曲面の定常点
RIDGE ステートメントによって作成される ODS テーブル	
Ridge	最適応答のリッジ分析

表 A1.60 STDIZE プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
Statistics	場所と尺度の測定値	PSTAT

表 A1.61 STEPDISC プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
BCorr	区分間相関	BCORR
BCov	区分間共分散	BCOV
BSSCP	区分間 SSCP 行列	BSSCP
Counts	オブザベーション、変数、区分および DF の数	
CovDF	共分散行列の DF (印刷なし)	任意の*COV オプション
Levels	区分の水準の情報	
Messages	エントリ/削除メッセージ	
Multivariate	多変量統計量	
PCorr	プールした区分内相関	PCORR
PCov	プールした区分内共分散	PCOV
PSSCP	プールした区分内 SSCP 行列	PSSCP
PStdMeans	プールした標準化区分平均	STDMEAN
SimpleStatistics	単純統計量	SIMPLE
Steps	変数増減法のエントリ/削除	
Summary	変数増減法(ステップワイズ法)の要約	
TCorr	全標本相関	TCORR
TCov	全標本共分散	TCOV
TSSCP	全標本 SSCP 行列	TSSCP
TStdMeans	全標準化区分平均	STDMEAN
Variables	変数リスト	
WCorr	区分内相関	WCORR
WCov	区分内共分散	WCOV
WSSCP	区分内 SSCP 行列	WSSCP

表 A1.62 SURVEYFREQ プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	ステートメント	オプション
ChiSq	カイ 2 乗検定	TABLES	CHISQ
ChiSq1	変更されたカイ 2 乗検定	TABLES	CHISQ1
CrossTabs	クロス集計表	TABLES	(n 元表要求、n>1)
LRChiSq	尤度率検定	TABLES	LRCHISQ
LRChiSq1	変更された尤度率検定	TABLES	LRCHISQ1
OneWay	1 通り度数テーブル	PROC または TABLES	(TABLES ステートメントなし) (一元表要求)
StrataInfo	各層の情報	STRATA	LIST
要約	データの要約	PROC	デフォルト
TableSummary	表の要約(表示なし)	TABLES	デフォルト
WChiSq	Wald カイ 2 乗検定	TABLES	WCHISQ
WLLChiSq	Wald 対数線形カイ 2 乗検定	TABLES	WLLCHISQ

表 A1.63 SURVEYLOGISTIC プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	ステートメント	オプション
ClassLevelInfo	CLASS 変数の水準とデザイン変数	MODEL	デフォルト(CLASS 変数あり)
CLOdds	オッズ比の Wald 信頼限界	MODEL	CLODDS
CLparmWald	パラメータの Wald 信頼限界	MODEL	CLPARM
ContrastCoeff	CONTRAST の L 行列	CONTRAST	E
ContrastEstimate	CONTRAST の推定	CONTRAST	ESTIMATE=
ContrastTest	CONTRAST の Wald 検定	CONTRAST	デフォルト

テーブル名	説明	ステートメント	オプション
ConvergenceStatus	収束状態	MODEL	デフォルト
CorrB	パラメータ推定量の推定相関行列	MODEL	CORRB
CovB	パラメータ推定量の推定共分散行列	MODEL	CovB
CumulativeModelTest	累積モデルの仮定のテスト	MODEL	(通常の応答)
DesignSummary	デザインの要約	STRATA CLUSTER	デフォルト
FitStatistics	モデルの当てはまりに関する統計量	MODEL	デフォルト
GlobalTests	グローバルな帰無仮説検定	MODEL	デフォルト
IterHistory	反復履歴	MODEL	ITPRINT
LastGradient	グラデーションの最終評価	MODEL	ITPRINT
LogLikeChange	対数尤度の最終変更	MODEL	ITPRINT
ModelInfo	モデル情報	PROC	デフォルト
NObs	オブザベーション	PROC	デフォルト
OddsRatios	オッズ比	MODEL	デフォルト
ParameterEstimates	モデルパラメータの最尤推定	MODEL	デフォルト
RSquare	R ² 乗値	MODEL	RSQUARE
ResponseProfile	応答プロファイル	PROC	デフォルト
SimpleStatistics	説明変数の要約統計量	PROC	SIMPLE
StrataInfo	各層の情報	STRATA	LIST
TestPrint1	L[cov(b)]L"および Lb-c	TEST	PRINT
TestPrint2	Ginv(L[cov(b)]L")および Ginv(L[cov(b)]L") (Lb-c)	TEST	PRINT
TestStmts	線形仮説検定の結果	TEST	デフォルト

テーブル名	説明	ステートメント	オプション
TypeIII	タイプ III の効果テスト	MODEL	デフォルト(CLASS 変数の場合)

表 A1.64 SURVEYMEANS プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
CLASS ステートメントによって作成される ODS テーブル		
ClassVarInfo	区分の水準の情報	
DOMAIN ステートメントによって作成される ODS テーブル		
Domain	ドメインの統計量	
PROC ステートメントによって作成される ODS テーブル		
Statistics	統計量	
Summary	データの要約	
RATIO ステートメントによって作成される ODS テーブル		
Ratio	比率の統計量	
STRATA ステートメントによって作成される ODS テーブル		
StrataInfo	各層の情報	LIST

表 A1.65 SURVEYREG プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
CLASS ステートメントによって作成される ODS テーブル		
ClassVarInfo	区分の水準の情報	
CLUSTER ステートメントによって作成される ODS テーブル		
DesignSummary	デザインの要約	

テーブル名	説明	オプション
CONTRAST ステートメントによって作成される ODS テーブル		
ContrastCoef	対比の係数	E
Contrasts	対比の分析	
ESTIMATE ステートメントによって作成される ODS テーブル		
EstimateCoef	推定の係数	E
推定	推定可能関数の分析	
MODEL ステートメントによって作成される ODS テーブル		
ANOVA	従属変数の分散分析	ANOVA
CovB	推定回帰係数の共分散	COVB
DataSummary	データの要約	
Effects	モデルの効果のテスト	
FitStatistics	当てはまりに関する統計量	
InvXPX	$X'X$ の逆行列	INV
ParameterEstimates	推定回帰係数	
XPX	$X'X$ 行列	XPX
STRATA ステートメントによって作成される ODS テーブル		
DesignSummary	データの要約	
StrataInfo	各層の情報	LIST

表 A1.66 SURVEYSELECT プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明
PROC ステートメントによって作成される ODS テーブル	
Method	選択法の例
Summary	選択の内容の例

表 A1.67 TPSPLINE プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
MODEL ステートメントによって作成される ODS テーブル		
GCVFunction	GCV テーブル	LOGNLAMBDA または LAMBDA
PROC ステートメントによって作成される ODS テーブル		
DataSummary	データの要約	
FitStatistics	モデルの当てはまりに関する統計量	
FitSummary	当てはめパラメータと当てはめの要約	

表 A1.68 TRANSREG プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
ConvergenceStatus	収束状態	
Equation	線形の従属関係を表す式	最大ランク未満のモデル
Footnotes	反復履歴の脚注	
MODEL ステートメントによって作成される ODS テーブル		
BoxCox	Box-Cox 変換の結果	BOXCOX
SplineCoef	スプライン係数	SPLINE または MSPLINE
PROC ステートメントおよび LOGLIN ステートメントによって作成される ODS テーブル		
NObs	分散分析	TEST または SS2
ClassLevels	分散分析	TEST または SS2
ANOVA	分散分析	TEST または SS2
LiberalANOVA	分散分析	TEST または SS2
ConservANOVA	分散分析	TEST または SS2
FitStatistics	R ² 乗値と同様の当てはまりに関する統計量	TEST または SS2

テーブル名	説明	オプション
LiberalFitStatistics	当てはまりに関する統計量	TEST または SS2
ConservFitStatistics	当てはまりに関する統計量	TEST または SS2
MVANOVA	多変量分散分析	TEST または SS2
LiberalMVANOVA	多変量分散分析	TEST または SS2
ConservANOVA	多変量分散分析	TEST または SS2
Coef	回帰分析の結果	SS2
LiberalCoef	回帰分析の結果	SS2
ConservCoef	回帰分析の結果	SS2
MVCoef	多変量回帰分析の結果	SS2
LiberalMVCoef	多変量回帰分析の結果	SS2
ConservMVCoef	多変量回帰分析の結果	SS2
Utilities	コンジョイント分析のユーティリティ	UTILITY
LiberalUtilities	コンジョイント分析のユーティリティ	UTILITY
ConservUtilities	コンジョイント分析のユーティリティ	UTILITY
Details	モデルの詳細	DETAIL
Univariate	単変量反復履歴	METHOD=UNIVARIATE
MORALS	MORALS 反復履歴	METHOD=MORALS
CANALS	CANALS 反復履歴	METHOD=CANALS
Redundancy	冗長性反復履歴	METHOD=REDUNDANCY
TestIterations	仮説検定の反復の履歴	SS2

表 A1.69 TREE プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
PROC ステートメントによって作成される ODS テーブル		
Tree	ツリーのラインプリンタのプロット	LINEPRINTER

テーブル名	説明	オプション
TreeListing	ツリーの全ノードのラインプリンター一覧	LIST

表 A1.70 TTEST プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明
統計量	単変量要約統計量
TTests	<i>t</i> -tests
CLASS ステートメントによって作成される ODS テーブル	
Equality	等分散性のテスト

表 A1.71 VARCLUS プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
ClusterQuality	クラスタ品質	
ClusterStructure	クラスタ構造	
ClusterSummary	クラスタの要約	
ConvergenceStatus	収束状態	
Corr	相関	CORR
DataOptSummary	データとオプションの要約テーブル	
InterClusterCorr	クラスタ間の相関	
IterHistory	反復履歴	TRACE
RSquare	クラスタの R ² 乗値	
SimpleStatistics	単純統計量	SIMPLE
StdScoreCoef	標準化スコア係数	

表 A1.72 VARCOMP プロシジャによって作成される ODS テーブル名

テーブル名	説明	オプション
ClassLevels	区分の水準の情報	
ConvergenceStatus	収束状態	
Estimates	分散成分の推定(1 つの変数)	
<i>推定</i>	分散成分の推定(複数の変数)	
NObs	オブザベーション	
METHOD ステートメントによって作成される ODS テーブル		
ANOVA	分散のタイプ 1 の分析	TYPE1
AsyCov	推定の漸近共分散行列	ML または REML
DepVar	従属変数(1 つの変数)	TYPE1、REML または ML
DepVarn	従属変数 n (複数の変数)	TYPE1、REML または ML
DependentInfo	従属変数情報(複数の変数)	MIVQUE0
IterHistory	反復履歴	ML または REML
SCCP	2 乗和行列(1 つの変数)	MIVQUE0
SCCPn	2 乗和行列(複数の変数)	MIVQUE0

ODS テーブル名とこれらのテーブルを作成する SAS/ETS プロシジャ

このテーブルには、SAS/ETS プロシジャが作成する出力オブジェクトのテーブル名が表示されます。これらの出力オブジェクトを作成するには、SAS/ETS ソフトウェアのライセンス契約を結ぶ必要があります。このテーブルには、各テーブルの名前、テーブルの内容の説明および出力オブジェクトテーブルを作成するためのオプションが含まれています。SAS/ETS プロシジャの詳細については、*SAS/ETS (R) 9.3 ユーザーガイド*を参照してください。

表 A1.73 ARIMA プロシジャによって作成される ODS テーブル名

詳細については、SAS/ETS(R) 9.3 ユーザーガイドの ARIMA プロシジャを参照してください。		
テーブル名	説明	オプション
IDENTIFY ステートメントによって作成される ODS テーブル		
DescStats	記述統計量	
InputDescStats	入力された記述統計量	
CorrGraph	相関グラフ	
StationarityTest	定常性テスト	STATIONARITY
TentativeOrders	次数選択	MINIC、ESACF または SCAN
PACFGraph	偏自己相関グラフ	
IACFGraph	逆自己相関グラフ	
ChiSqAuto	自己相関のカイ 2 乗統計量 テーブル	
ChiSqCross	相互相関のカイ 2 乗統計量 テーブル	CROSSCORR=
MINIC	最小情報量規準	MINIC
ESACF	拡張された標本自己相関関 数	ESACF
ESACFPValues	ESACF 確率値	ESACF
SCAN	正準相関係数の 2 乗の推定	SCAN
SCANValues	SCAN カイ 2 乗[1]確率値	
ESTIMATE ステートメントによって作成される ODS テーブル		
FitStatistics	当てはまりに関する統計量	
ARPolynomial	フィルタ方程式	
MAPolynomial	フィルタ方程式	
NumPolynomial	フィルタ方程式	
DenPolynomial	フィルタ方程式	
ParameterEstimates	パラメータ推定	
ChiSqAuto	自己相関のカイ 2 乗統計量 テーブル	

詳細については、SAS/ETS(R) 9.3 ユーザーガイドの ARIMA プロシジャを参照してください。

テーブル名	説明	オプション
ChiSqCross	相互相関のカイ 2 乗統計量 テーブル	
InitialAREstimates	初期自己回帰パラメータの 推定	
InitialMAEstimates	初期移動平均パラメータの 推定	
PrelimEstimates	予備推定	
IterHistory	条件付最小 2 乗推定	METHOD=CLS
OptSummary	ARIMA 推定最適化	PRINTALL
ModelDescription	モデルの説明	
InputDescription	入力の説明	
ObjectiveGrid	目的関数格子行列	GRID
CorrB	推定の相関	
OUTLIER ステートメントによって作成される ODS テーブル		
OutlierDetails	検出された外れ値	
FORECAST ステートメントによって作成される ODS テーブル		
Forecasts	当てはまりに関する統計量	

表 A1.74 AUTOREG プロシジャによって作成される ODS テーブル名

詳細については、SAS/ETS(R) 9.3 ユーザーガイドの AUTOREG プロシジャを参照してください。

テーブル名	説明	オプション
MODEL ステートメントによって作成される ODS テーブル		
FitSummary	回帰の要約	
SummaryDepVarCen	回帰の要約(中心化された従 属変数)	CENTER
SummaryNoIntercept	回帰の要約(切片項なし)	NOINT
YWIterSSE	Yule-Walker の平方誤差の 反復の要約	METHOD=ITYW

詳細については、SAS/ETS(R) 9.3 ユーザーガイドの AUTOREG プロシジャを参照してください。		
テーブル名	説明	オプション
PreMSE	MSE の初期値	NLAG=
Dependent	従属変数	
DependenceEquations	線形の従属関係を表す式	
ARCHTest	ARCH 型分散変動に対する Q と LM 検定	ARCHTEST
ChowTest	Chow の検定と Chow の予測誤差検定	CHOW=または PCHOW=
Godfrey	Godfrey の系列相関性の検定	PREDICT または PRED=
PhilPerron	Phillips-Perron の単位根検定	STATIONARITY=、(PHILLIPS<=()>)、(回帰変数なし)
PhilOul	Phillips-Ouliaris 共和分検定	STATIONARITY=、(PHILLIPS<=()>)、(回帰変数あり)
ResetTest	Ramsey の RESET 検定	RESET
ARParameterEstimates	自己回帰モデルパラメータの推定	NLAG=
CorrGraph	自己相関の推定	NLAG=
BackStep	自己回帰モデルの項の減少法	BACKSTEP
ExpAutocorr	期待自己相関	NLAG=
IterHistory	反復履歴	ITPRINT
ParameterEstimates	パラメータ推定	
ParameterEstimatesGivenAR	AR パラメータが指定されていることを前提としたパラメータの推定	NLAG=
PartialAutoCorr	偏自己相関	PARTIAL
CovB	パラメータ推定の共分散	COVB
CorrB	パラメータ推定の相関	CORRB
CholeskyFactor	ガンマの Cholesky 根	ALL
係数	初回 NLAG オブザベーションの係数	COEF
GammaInverse	ガンマ分布関数の逆関数	GINV

詳細については、SAS/ETS(R) 9.3 ユーザーガイドの AUTOREG プロシジャを参照してください。

テーブル名	説明	オプション
ConvergenceStatus	収束状態テーブル	
DWTest	Durbin-Watson 統計量	DW=
RESTRICT ステートメントによって作成される ODS テーブル		
Restrict	制限テーブル	
TEST ステートメントによって作成される ODS テーブル		
FTest	F 検定	
WaldTest	Wald 検定	TYPE=WALD

表 A1.75 ENTROPY プロシジャによって作成される ODS テーブル名

詳細については、SAS/ETS(R) 9.3 ユーザーガイドの ENTROPY プロシジャを参照してください。

テーブル名	説明
ConvCrit	推定の収束規準
ConvergenceStatus	収束状態
DatasetOptions	使用されるデータセット
MinSummary	パラメータの数、推定の種類
ObsUsed	読み込まれる、使用されるおよび欠損しているオブザベーション
ParameterEstimates	パラメータ推定
ResidSummary	SSE の要約、方程式の MSE
TestResults	テストステートメントテーブル

表 A1.76 LOAN プロシジャによって作成される ODS テーブル名

詳細については、SAS/ETS(R) 9.3 ユーザーガイドの LOAN プロシジャを参照してください。

テーブル名	説明	オプション
PROC LOAN、FIXED、ARM、BALLOON および BUYDOWN の各ステートメントによって作成される ODS テーブル		

詳細については、SAS/ETS(R) 9.3 ユーザーガイドの LOAN プロシジャを参照してください。		
テーブル名	説明	オプション
Repayment	借入金返済スケジュール	SCHEDULE
FIXED、ARM、BALLOON および BUYDOWN の各ステートメントによって作成される ODS テーブル		
LoanSummary	ローンの要約	
RateList	レートと支払	
PrepayList	前払金と期間	=
BALLOON ステートメントによって作成される ODS テーブル		
BalloonList	バルーン型返済と期間	
COMPARE ステートメントによって作成される ODS テーブル		
Comparison	ローンの比較レポート	

表 A1.77 MDC プロシジャによって作成される ODS テーブル名

詳細については、SAS/ETS(R) 9.3 ユーザーガイドの MDC プロシジャを参照してください。		
テーブル名	説明	オプション
MODEL ステートメントによって作成される ODS テーブル		
FitSummary	非線形推定の要約	
ResponseProfile	応答プロファイル	
GoodnessOfFit	擬似 R ² 測定	
ParameterEstimates	パラメータ推定	
LinConSol	線形独立有効線形制約	
CovB	パラメータ推定の共分散	COVB
CorrB	パラメータ推定の相関	CORRB

表 A1.78 MODEL プロシジャによって作成される ODS テーブル名

詳細については、SAS/ETS(R) 9.3 ユーザーガイドの MODEL プロシジャを参照してください。		
テーブル名	説明	オプション
FIT ステートメントによって作成される ODS テーブル		
AugGMMCovariance	クロス積行列	GMM
ChowTest	構造変化の検定	CHOW=
CollinDiagnostics	共線性診断	
ConfInterval	プロファイル尤度信頼区間	PRL=
ConvCrit	推定の収束規準	
ConvergenceStatus	収束状態	
CorrB	パラメータの相関	COVB または CORRB
CorrResiduals	残差の相関	CORRS または COVS
CovB	パラメータの共分散	COVB または CORRB
CovResiduals	残差の共分散	CORRS または COVS
CrossProducts	クロス積行列	ITALL または ITPRINT
DatasetOptions	使用されるデータセット	
DetResidCov	残差の行列式	DETAILS
DWTest	Durbin-Watson 検定	DW=
Equations	推定に対する方程式のリスト	
EstSummaryMiss	PAIRWISE のモデル要約統計量	MISSING=
EstSummaryStats	目的、目的* N	
GMMCovariance	クロス積行列	GMM
Godfrey	Godfrey の系列相関性の検定	GF=
HausmanTest	Hausman 検定のテーブル	HAUSMAN
HeteroTest	不等分散性の検定のテーブル	BREUSCH または PAGEN
InvXPXMat	システム用の X"X 逆数	I
IterInfo	反復の印刷	ITALL または ITPRINT
LagLength	モデルのラグ長さ	

詳細については、SAS/ETS(R) 9.3 ユーザーガイドの MODEL プロシジャを参照してください。		
テーブル名	説明	オプション
MinSummary	パラメータの数、推定の種類	
MissingValues	プログラムによって生成される欠損値	
ModSummary	分類されたすべての値のリスト	
ModVars	モデル変数とパラメータのリスト	
NormalityTest	正規性の検定のテーブル	NORMAL
ObsSummary	誤差のあるオブザベーションを識別	
ObsUsed	読み込まれる、使用されるおよび欠損しているオブザベーション	デフォルト
ParameterEstimates	パラメータ推定	
ParmChange	パラメータ変更ベクトル	
ResidSummary	方程式の SSE、MSE の要約	
SizeInfo	推定で使うストレージ要件情報	DETAILS
TermEstimates	非線形 OLS/ITOLS 推定	OLS または ITOLS
TestResults	テストステートメントテーブル	
WgtVar	重み変数の名前	
XPXMat	システム用の $X'X$	XPX
SOLVE ステートメントによって作成される ODS テーブル		
DatasetOptions	使用されるデータセット	
DescriptiveStatistics	記述統計量	STATS
FitStatistics	シミュレーションの当てはまりに関する統計量	STATS
LagLength	モデルのラグ長さ	
ModSummary	分類されたすべての変数のリスト	
ObsSummary	シミュレーショントレース出力	SOLVEPRINT

詳細については、SAS/ETS(R) 9.3 ユーザーガイドの MODEL プロシジャを参照してください。

テーブル名	説明	オプション
ObsUsed	読み込まれる、使用されるおよび欠損しているオブザベーション	
SimulationSummary	解決された変数の数	
SolutionVarList	解の変数のリスト	
TheilRelStats	Theil の相対変化誤差統計量	THEIL
TheilStats	Theil の予測誤差統計量	THEIL
FIT ステートメントおよび SOLVE ステートメントによって作成される ODS テーブル		
AdjacencyMatrix	隣接グラフ	GRAPH
BlockAnalysis	ブロック分析	BLOCK
CodeDependency	変数のクロスリファレンス	LISTDEP
CodeList	プログラムステートメントのリスト	LISTCODE
CrossReference	プログラム用のクロスリファレンス一覧	
DepStructure	システム用の従属関係構造	BLOCK
DerList	導関数変数	LISTDER
InterIntg	統合反復出力	INTGPRINT
MemUsage	メモリ使用の統計量	MEMORYUSE
ParmReadIn	読み込まれたパラメータ推定	ESTDATA=
ProgList	コンパイル済みプログラムのデータのリスト	
RangeInfo	RANGE ステートメントの様	
SortAdjacencyMatrix	保存された隣接グラフ	GRAPH
TransitiveClosure	可遷的クローズのグラフ	GRAPH

表 A1.79 PDLREG プロシジャによって作成される ODS テーブル名

詳細については、SAS/ETS(R) 9.3 ユーザーガイドの PDLREG プロシジャを参照してください。		
テーブル名	説明	オプション
MODEL ステートメントによって作成される ODS テーブル		
ARParameterEstimates	自己回帰モデルパラメータの推定	NLAG=
CholeskyFactor	ガンマの Cholesky 根	
係数	初回 NLAG オブザベーションの係数	NLAG=
ConvergenceStatus	収束状態テーブル	
CorrB	パラメータ推定の相関	CorrB
CorrGraph	自己相関の推定	NLAG=
CovB	パラメータ推定の共分散	CovB
DependenceEquations	線形の従属関係を表す式	
Dependent	従属変数	
DWTest	Durbin-Watson 統計量	DW=
ExpAutocorr	期待自己相関係数	NLAG=
FitSummary	回帰の要約	
GammaInverse	ガンマ分布関数の逆関数	
IterHistory	反復履歴	ITPRINT
LagDist	ラグの分布	ALL
ParameterEstimates	パラメータ推定	
ParameterEstimatesGivenAR	AR パラメータが指定されていることを前提としたパラメータの推定	NLAG=
PartialAutoCorr	偏自己相関	PARTIAL
PreMSE	MSE の初期値	NLAG=
XPXIMatrix	逆 X"X 行列	XPX
XPXMatrix	X"X 行列	XPX
YWIterSSE	Yule-Walker の平方誤差の反復の要約	METHOD=ITYW

詳細については、SAS/ETS(R) 9.3 ユーザーガイドの PDLREG プロシジャを参照してください。

テーブル名	説明	オプション
RESTRICT ステートメントによって作成される ODS テーブル		
Restrict	制限テーブル	

表 A1.80 SIMLIN プロシジャによって作成される ODS テーブル名

詳細については、SAS/ETS(R) 9.3 ユーザーガイドの SIMLIN プロシジャを参照してください。

テーブル名	説明	オプション
Endogenous	内生変数の構造係数	
LaggedEndogenous	ラグされた内生変数の構造係数	
Exogenous Structural	外生変数の係数	
InverseCoeff	内生変数の逆係数行列	
RedFormLagEndo	ラグされた内生変数の誘導形	
RedFormExog	外生変数の誘導形	
InterimMult	暫定乗数	INTERIM=オプション
TotalMult	乗数の合計	TOTAL=オプション
FitStatistics	当てはまりに関する統計量	

表 A1.81 SPECTRA プロシジャによって作成される ODS テーブル名

詳細については、SAS/ETS(R) 9.3 ユーザーガイドの SPECTRA プロシジャを参照してください。

テーブル名	説明	オプション
WhiteNoiseTest	ホワイトノイズ検定	WHITETEST
Kappa	Fisher のカッパ	WHITETEST
Bartlett	Bartlett's Kolmogorov-Smirnov 統計量	WHITETEST

表 A1.82 STATESPACE プロシジャによって作成される ODS テーブル名

詳細については、SAS/ETS(R) 9.3 ユーザーガイドの STATESPACE プロシジャを参照してください。		
テーブル名	説明	オプション
NObs	オブザベーション	
Summary	単純な要約統計量のテーブル	
InfoCriterion	情報量規準テーブル	
CovLags	入力系列の共分散行列	PRINTOUT=LONG
CorrLags	入力系列の相関行列	PRINTOUT=LONG
PartialAR	偏自己回帰行列	PRINTOUT=LONG
YWEstimates	最小 AIC の Yule-Walker 推定	
CovResiduals	残差の共分散	PRINTOUT=LONG
CorrResiduals	AR モデルからの残差相関	PRINTOUT=LONG
StateVector	状態ベクトルテーブル	
CorrGraph	相関の概要図	
TransitionMatrix	変換行列	
InputMatrix	入力行列	
VarInnov	イノベーションの分散行列	
CovB	パラメータ推定の共分散	COVB
CorrB	パラメータ推定の相関	COVB
CanCorr	正準相関分析	CANCORR
IterHistory	反復当てはめテーブル	ITPRINT
ParameterEstimates	パラメータ推定テーブル	
Forecasts	予測値テーブル	PRINT
ConvergenceStatus	収束状態テーブル	

表 A1.83 SYSLIN プロシジャによって作成される ODS テーブル名

詳細については、SAS/ETS(R) 9.3 ユーザーガイドの SYSLIN プロシジャを参照してください。		
テーブル名	説明	オプション
ANOVA	方程式の SSE、MSE の要約	
AugXPXMat	モデルクロス積	XPX
AutoCorrStat	自己相関統計量	
ConvCrit	推定の収束規準	
ConvergenceStatus	収束状態	
CorrB	パラメータの相関	CORRB
CorrResiduals	残差の相関	CORRS
CovB	パラメータの共分散	COVB
CovResiduals	残差の共分散	COVS
Endomat	内生変数	
Equations	推定に対する方程式のリスト	
ExogMat	外生変数	
FitStatistics	当てはまりに関する統計量	
InvCorrResiduals	残差の逆相関	CORRS
InvCovResiduals	残差の逆共分散	COVS
InvEndoMat	逆内生変数	
InvXPX	システム用の逆 X"X 行列	I
IterHistory	反復の印刷	ITALL または ITPRINT
MissingValues	プログラムによって生成される欠損値	
ModelVars	モデルの名前とラベル	
ParameterEstimates	パラメータ推定	
RedMat	誘導形	REDUCED
SimpleStatistics	記述統計量	SIMPLE
SSCP	モデルクロス積	
TestResults	制限の過剰設定	

詳細については、SAS/ETS(R) 9.3 ユーザーガイドの SYSLIN プロシジャを参照してください。		
テーブル名	説明	オプション
Weight	モデルの重みに関する統計量	
YPY	Y"Y 行列	USSCP2

表 A1.84 TSCSREG プロシジャによって作成される ODS テーブル名

詳細については、SAS/ETS(R) 9.3 ユーザーガイドの TSCSREG プロシジャを参照してください。		
テーブル名	説明	オプション
MODEL ステートメントによって作成される ODS テーブル		
ModelDescription	モデルの説明	
FitStatistics	当てはまりに関する統計量	
FixedEffectsTest	固定テストを行わない F 検定	
ParameterEstimates	パラメータ推定	
CovB	パラメータ推定の共分散	
CorrB	パラメータ推定の相関	
VarianceComponents	分散成分の推定	
RandomEffectsTest	変量効果に対する Hausman 検定	
AR1Estimates	1 次の自己回帰パラメータの推定	
EstimatedPhiMatrix	推定ファイ行列	PARKS
EstimatedAutocovariances	自己共分散の推定	PARKS
TEST ステートメントによって作成される ODS テーブル		
TestResults	テスト結果	

表 A1.85 TIMESERIES プロシジャによって作成される ODS テーブル名

詳細については、SAS/ETS(R) 9.3 ユーザーガイドの TIMESERIES プロシジャを参照してください。	
テーブル名	説明
DECOMP オプションによって作成される ODS テーブル	
SeasonalDecomposition	季節分解
PRINT=DESCSTATS オプションによって作成される ODS テーブル	
DescStats	記述統計量
SEASONS オプションによって作成される ODS テーブル	
SeasonStatistics	季節統計量
TRENDS オプションによって作成される ODS テーブル	
TrendStatistics	傾向統計量

表 A1.86 VARMAX プロシジャによって作成される ODS テーブル名

詳細については、SAS/ETS(R) 9.3 ユーザーガイドの VARMAX プロシジャを参照してください。		
テーブル名	説明	オプション
MODEL ステートメントによって作成される ODS テーブル		
AccumImpulse	累計インパルス応答行列	IMPULSE=(ACCUM)または IMPULSE=(ALL)
AccumImpulsX	累計伝達関数行列	IMPULSX=(ACCUM)または IMPULSX=(ALL)
Alpha	α 係数	JOHANSEN=
AlphaInECM	α 係数	ECM=
AlphaOnDrift	α 確定語の制限の係数	JOHANSEN=
AlphaBetaInECM	$\pi=\alpha\beta$ 係数	ECM=
ArchCoef	ARCH 係数	GARCH=
ARCoef	AR 係数	P=を伴う DYNAMIC または P=
ARRoots	AR 特性多項式の根	ROOTS

詳細については、SAS/ETS(R) 9.3 ユーザーガイドの VARMAX プロシジャを参照してください。		
テーブル名	説明	オプション
Beta	β 係数	JOHANSEN=
BetaInECM	β 係数	ECM=
BetaOnDrift	β 決定語の制限の係数	JOHANSEN=
Constant	定数の推定	NOINT なし
CorrB	パラメータ推定の相関	CORRB
CorrResiduals	残差の相互相関	
CorrResidualsGraph	残差相互相関の概要図	
CorrGraph	標本相互相関の概要図	CORRX または CORRY
CorrXLags	独立系列の相互相関行列	CORRX
CorrYLags	従属系列の相互相関行列	CORRY
CovB	パラメータ推定の共分散	COVB
CovInnov	イノベーションの共分散行列	
CovPredError	予測誤差の共分散行列	COVPE
CovResiduals	残差の相互共分散行列	
CovXLags	独立系列の相互共分散行列	COVX
CovYLags	従属系列の相互相関行列	COVY
DecompCovPredError	予測誤差共分散の分解	DECOMPOSE
DFTest	Dickey-Fuller 検定	DFTEST
DriftHypo	共和分ランク検定における、異なる決定語の仮説	JOHANSEN=
DrifyHypoTest	共和分ランク検定における、異なる決定語のテスト仮説	JOHANSEN=
EigenvalueI2	2 次の共和分の固有値	JOHANSEN= (IORDER=2)
Eta	η 係数	JOHANSEN= (IORDER=2)
GARCHParameterEstimates	GARCH パラメータ推定テーブル	GARCH=
GARCHParameterGraph	GARCH パラメータの概要図	
GARCHRoots	GARCH 特性多項式の根	GARCH=
GARCHCoef	GARCH 係数	GARCH=

詳細については、SAS/ETS(R) 9.3 ユーザーガイドの VARMAX プロシジャを参照してください。

テーブル名	説明	オプション
GARCHConstant	GARCH 定数の推定	GARCH=
InfiniteARRepresent	無限次元 AR 表現	IARR
InfoCriterion	情報量規準	
LinearTrend	線形トレンドの推定	TREND=
MACoef	MA 係数	Q=
MARoots	MA 特性多項式の根	Q=
MaxTest	最大固有値を使用する共和分ランク検定	JOHANSEN= (TYPE=MAX)
MaxTestOnDrift	決定語の制限を受けた最大固有値を使用する、共和分ランク検定	JOHANSEN= (TYPE=MAX)
ModelType	モデルのタイプ	
NObs	オブザベーション	
OrthoImpulse	直交化インパルス応答行列	IMPULSE=(ORTH)または IMPULSE=(ALL)
ParameterEstimates	パラメータ推定テーブル	
ParameterGraph	パラメータの概要図	
PartialAR	偏自己回帰行列	PARCOEF
PartialARGraph	偏自己回帰の概要図	PARCOEF
PartialCanCorr	偏正準相関分析	PCANCORR
PartialCorr	偏相互共分散行列	PCORR
PartialCorrGraph	偏相互相関の概要図	PCORR
PortmanteauTest	残差相互相関のカイ 2 乗検定テーブル	
ProportionDecomp	予測誤差共分散分解の比率	DECOMPOSE
RankTestI2	2 次の共和分の共和分ランク検定	JOHANSEN= (IORDER=2)
QuadTrend	2 次トレンドの推定	TREND=QUAD
SConstant	季節定数の推定	NSEASON=
SimpleImpulse	インパルス応答行列	IMPULSE、 IMPULSE=SIMPLE または IMPULSE=(ALL)

詳細については、SAS/ETS(R) 9.3 ユーザーガイドの VARMAX プロシジャを参照してください。		
テーブル名	説明	オプション
SimpleImpulsX	伝達関数のインパルス応答行列	IMPULSX、 IMPULSX=(SIMPLE)または IMPULSX=(ALL)
Summary	単純要約統計量	
SWTest	共通傾向検定	SW または SW=
TentativeOrders	次数選択	SW または SW=
TraceTest	トレースを使用する共和分ランク検定	JOHANSEN= (TYPE=TRACE)
TraceTestOnDrift	決定語の制限を受けたトレースを使用する、共和分ランク検定	JOHANSEN= (TYPE=TRACE)
UnivarDiagnostAR	残差の AR 分散変動をチェック	
UnivarDiagnostCheck	単変量モデルの診断チェック	
UnivarDiagnostTest	残差の ARCH 分散変動と正規性をチェック	
Xi	ξ 係数行列	JOHANSEN= (IORDER=2)
XLagCoef	従属係数	XLAG=
YWEstimates	Yule-Walker 推定	YW
ByVariable	変数ごとに印刷	PRINTFORM=
COINTEG ステートメントによって作成される ODS テーブル		
AlphaInECM	α 係数	
AlphaBetaInECM	$\pi = \alpha\beta'$ 係数	
BetaInECM	β 係数	
AlphaOnTest	制限されている β 係数	H=または J=
BetaOnTest	制限されている β 係数	H=または J=
RestrictMatrix	α または β の制限行列	H=または J=
RestrictTest	α または β の仮説検定	H=または J=
WeakExogeneity	ベータに対する各従属変数の弱い外生性のテスト	EXOGENEITY

詳細については、SAS/ETS(R) 9.3 ユーザーガイドの VARMAX プロシジャを参照してください。

テーブル名	説明	オプション
CAUSAL ステートメントによって作成される ODS テーブル		
Causality	Granger の因果性検定	
RESTRICT ステートメントによって作成される ODS テーブル		
Restrict	制限テーブル	
TEST ステートメントによって作成される ODS テーブル		
Test	Wald 検定	
OUTPUT ステートメントによって作成される ODS テーブル		
Forecasts	予測値テーブル	NOPRINT なし

表 A1.87 X11 プロシジャによって作成される ODS テーブル名

詳細については、SAS/ETS(R) 9.3 ユーザーガイドの X11 プロシジャを参照してください。

テーブル名	説明	オプション
MONTHLY ステートメントおよび QUARTERLY ステートメントによって作成される ODS テーブル		
Preface	入金、日付などを知らせる季節調整プログラム情報	NOPRINT でない場合は常に印刷
A1	元の系列	
A2	過去の月ごと	
A3	過去の月ごとの因子に合わせて調整された元の系列	
A4	過去の売買の日調整因子 (月の長さの調整あり/なし)	
A5	過去に合わせて調整された元の系列	
B1	元の系列、または過去に合わせて調整された元の系列	
B2	トレンド循環-中心化された nn 語移動平均	
B3	未変更の SI 比	

詳細については、SAS/ETS(R) 9.3 ユーザーガイドの X11 プロシジャを参照してください。		
テーブル名	説明	オプション
B4	極 SI 比の置換値	
B5	季節因子	
B6	季節に応じて調整された系列	
B7	トレンド循環—Henderson 曲線	
B8	未変更の SI 比	
B9	極 SI 比の置換値	
B10	季節因子	
B11	季節に応じて調整された系列	
B13	不規則系列	
B15	予備売買の日回帰	
B16	回帰から得られる売買の日調整因子	
B17	不規則な構成要素の予備の重み	
B18	組み合わせた重みから得られる売買の日調整因子	
B19	予備の組み合わせた TD 重みに合わせて調整された元の系列	
C1	予備の重みに合わせて調整された元の系列	
C2	トレンド循環—中心化された nn 語移動平均	
C4	変更された SI 比	
C5	季節因子	
C6	季節に応じて調整された因子	
C7	トレンド循環—Henderson 曲線	
C9	変更された CI 比	
C10	季節因子	

詳細については、SAS/ETS(R) 9.3 ユーザーガイドの X11 プロシジャを参照してください。

テーブル名	説明	オプション
C11	季節に応じて調整された系列	
C13	不規則系列	
C15	最終売買の日回帰	
C16	回帰から得られる売買の日調整因子	
C17	不規則な構成要素の最終的な重み	
C18	組み合わせた重みから得られる売買の日調整因子	
C19	組み合わせた最終的な TD 重みに合わせて調整された元の系列	
D1	nn 語移動平均の最終的な重みに合わせて調整された元の系列	
D4	変更された SI 比	
D5	季節因子	
D6	季節に応じて調整された系列	
D7	トレンド循環—Henderson 曲線	
D8	最終的な変更された SI 比	
D10	最終的な季節因子	
D11	季節に応じて調整された最終的な系列	
D12	最終的なトレンド循環—Henderson 曲線	
D13	最終的な不規則系列	
E1	極値に合わせて変更された元の系列	
E2	季節に応じて調整された変更済みの系列	
E3	変更された不規則系列	
E5	元の系列の月次の変化	

詳細については、SAS/ETS(R) 9.3 ユーザーガイドの X11 プロシジャを参照してください。		
テーブル名	説明	オプション
E6	季節に応じて調整された最終的な系列の月次の変化	
F1	MCD 移動平均	
A13	ARIMA 予測値	ARIMA ステートメント
A14	ARIMA バックキャスト	ARIMA ステートメント
A15	ARIMA 外挿	ARIMA ステートメント
B14	売買の日回帰から除外される不規則な値	
C14	売買の日回帰から除外される不規則な値	
D9	最終的な置換値	
PriorDailyWgts	調整された前日の重み	
TDR_0	最終/予備売買の日回帰、パート1	MONTHLY のみ、 TDREGR=ADJUST、TEST
TDR_1	最終/予備売買の日回帰、パート2	MONTHLY のみ、 TDREGR=ADJUST、TEST
StandErrors	売買の日調整因子の標準誤差	MONTHLY のみ、 TDREGR=ADJUST、TEST
D9A	不規則および季節的な構成要素と季節性移動比率の、年次の変化	
StableSeasTest	安定した季節性のテスト	MONTHLY のみ
StableSeasFTest	安定した季節性のテスト	MONTHLY のみ
f2a	F2 要約測定、パート1	
f2b	F2 要約測定、パート2	
f2c	F2 要約測定、パート3	
f2d	月間/四半期間の I/C 比	
f2f	スパン中の符合と基準に対するパーセントの変化の平均	
E4	年間合計、元の系列および調整された系列の、差または比率	
ChartG1	Chart G1	

詳細については、SAS/ETS(R) 9.3 ユーザーガイドの X11 プロシジャを参照してください。

テーブル名	説明	オプション
ChartG2	Chart G2	
ARIMA ステートメントによって作成される ODS テーブル		
CriteriaSummary	規準要約	ARIMA ステートメント
ConvergeSummary	収束の要約	
ArimaEst	ARIMA 推定の結果、パート 1	
ArimaEst2	ARIMA 推定の結果、パート 2	
Model_Summary	モデルの要約	
Ljung_BoxQ	Ljung-Box Q 統計量のテー ブル	
A13	ARIMA 予測値	
A14	ARIMA バックキャスト	
A15	ARIMA 外挿	
SSPAN ステートメントによって作成される ODS テーブル		
SPR0A_1	S 0.A スライディングスパン 分析、数、およびスパンの長 さ	
SpanDates	S 0.A スライディングスパン 分析: スパンの日付	
SPR0B	S 0.B 安定した移動季節性 の、F 検定の要約	
SPR1_1	S 1.A 季節因子の範囲分析	
SPR1_b	S 1.B 範囲測定の要約	
SPRXA	2XA.1 月または四半期単位 での差の詳細	
SPRXB_2	S X.B フラグ付きオブザベー ションのヒストグラム	
SPRXA_2	S X.A.2 年単位での差の詳 細	
MpdStats	S X.C: パーセントの最大差 の統計量	

詳細については、SAS/ETS(R) 9.3 ユーザーガイドの X11 プロシジャを参照してください。		
テーブル名	説明	オプション
S_X_A_3	S 2.X.3 フラグ付きオブザベーションの詳細の要約	
SPR7_X	S 7.X スライディングスパン分析	PRINTALL

表 A1.88 X12 プロシジャによって作成される ODS テーブル名

詳細については、SAS/ETS(R) 9.3 ユーザーガイドの X12 プロシジャを参照してください。	
テーブル名	説明
A1	元の系列
A2	事前調整因子
RegParameterEstimates	回帰モデルパラメータの推定
ACF	自己相関因子
PACF	偏自己回帰因子
ARMAIterationTolerances	ARMA 尤度正確推定の反復トレランス
IterHistory	ARMA 反復履歴
ARMAIterationSummary	ARMA 尤度正確推定の反復の要約
RegressorGroupChiSq	回帰変数のグループのカイ ² 乗検定
ARMAParameterEstimates	ARMA 最尤正確推定の反復トレランス
AvgFcstErr	予測値/バックキャストの範囲内/範囲外の、平均絶対パーセント誤差
根	(非)季節性(AR)MA 根
MLESummary	推定の要約
ForecastCL	予測値、標準誤差および信頼限界
MV1	欠損値回帰変数に合わせて調整された元の系列
A6	RegARIMA 売買の日の構成要素
A8	RegARIMA 組み合わせられた外れ値の構成要素
A8AO	RegARIMA AO 外れ値の構成要素

詳細については、SAS/ETS(R) 9.3 ユーザーガイドの X12 プロシジャを参照してください。

テーブル名	説明
A8LS	RegARIMA AO 水準変更外れ値の構成要素
A8TC	RegARIMA AO 一時変更外れ値の構成要素
B1	事前に調整された系列、または元の系列
C17	不規則な構成要素の最終的な重み
C20	最終的な極値調整済み因子
D1	変更された元のデータ、D 反復
D7	予備トレンド循環、D 反復
D8	最終的な変更された S-I 比
D8A	季節性テスト
D9	極 SI 比の最終置換値
D9A	季節性移動比率
D10	最終季節因子
D10D	最終季節差
D11	季節に応じて調整された最終的な系列
D12	最終トレンド循環
D13	最終的な不規則系列
D16	組み合わせられた調整因子
D16B	最終調整差
D18	組み合わせられたカレンダー調整因子
E4	年間合計の比率
E5	元の系列のパーセントの変化
E6	季節に応じて調整された最終的な系列の、パーセントの変化
E7	最終トレンド循環の差
F2A-I	要約の測定
F3	品質評価統計量
F4	曜日売買の日構成要素因子

1344 付録1 ・ 出力オブジェクトのテーブル名

詳細については、SAS/ETS(R) 9.3 ユーザーガイドの X12 プロシジャを参照してください。

テーブル名	説明
G	スペクトル分析

付録 2

サンプルプログラム

ODS サンプルのギャラリーからの例	1346
HTML 出力	1346
PostScript 出力	1348
PDF 出力	1350
\$CNTRY 出力形式の作成	1352
Charity データセットの作成	1352
DIVFMT.出力形式と USETYPE.出力形式の作成出力形式	1354
DistrData データセットの作成	1355
単変量の ODS ドキュメントの作成	1355
Employee_Data データセットの作成	1355
Energy データセットの作成	1357
Exprev データセットの作成	1358
Gov データセットの作成	1359
Grain_Production データセットの作成	1359
Iron データセットの作成	1360
Model データセットの作成	1361
Neuralgia データセットの作成	1362
Plants データセットの作成	1362
Plant_Stat データセットの作成	1363
StatePop データセットの作成	1363
Stats データセットと Stats2 データセットの作成	1364
Table1 テーブル定義の作成	1365
継承を表すプログラム	1365
概要	1365
FROM オプションの使用	1365
SAS の各バージョン間の継承互換性	1369

ODS サンプルのギャラリーからの例

HTML 出力

```
options nocenter;

ods html style=barrettsblue;
title;
data;
input region $ citysize $ pop product $ saletype $
quantity amount;
datalines;
Brazil S 25000 A100 R 150 3750.00
Canada S 37000 A100 R 200 5000.00
France S 48000 A100 R 410 10250.00
Mexico S 32000 A100 R 180 4500.00
Brazil M 125000 A100 R 350 8750.00
Canada M 237000 A100 R 600 15000.00
France M 348000 A100 R 710 17750.00
Mexico M 432000 A100 R 780 19500.00
Canada L 837000 A100 R 800 20000.00
France L 748000 A100 R 760 19000.00
Mexico L 932000 A100 R 880 22000.00
Brazil S 25000 A100 W 150 3000.00
Canada S 37000 A100 W 200 4000.00
Mexico S 32000 A100 W 180 3600.00
Brazil M 125000 A100 W 350 7000.00
Canada M 237000 A100 W 600 12000.00
France M 348000 A100 W 710 14200.00
Mexico M 432000 A100 W 780 15600.00
Brazil L 625000 A100 W 750 15000.00
Canada L 837000 A100 W 800 16000.00
France L 748000 A100 W 760 15200.00
Mexico L 932000 A100 W 880 17600.00
Brazil S 25000 A200 R 165 4125.00
Canada S 37000 A200 R 215 5375.00
France S 48000 A200 R 425 10425.00
Mexico S 32000 A200 R 195 4875.00
Brazil M 125000 A200 R 365 9125.00
Canada M 237000 A200 R 615 15375.00
France M 348000 A200 R 725 19125.00
Mexico M 432000 A200 R 795 19875.00
Canada L 837000 A200 R 815 20375.00
France L 748000 A200 R 775 19375.00
Mexico L 932000 A200 R 895 22375.00
Brazil S 25000 A200 W 165 3300.00
Canada S 37000 A200 W 215 4300.00
Mexico S 32000 A200 W 195 3900.00
Brazil M 125000 A200 W 365 7300.00
Canada M 237000 A200 W 615 12300.00
France M 348000 A200 W 725 14500.00
Mexico M 432000 A200 W 795 15900.00
```

```

Brazil L 625000 A200 W 765 15300.00
Canada L 837000 A200 W 815 16300.00
France L 748000 A200 W 775 15500.00
Mexico L 932000 A200 W 895 17900.00
Brazil S 25000 A300 R 157 3925.00
Canada S 37000 A300 R 208 5200.00
France S 48000 A300 R 419 10475.00
Mexico S 32000 A300 R 186 4650.00
Brazil M 125000 A300 R 351 8725.00
Canada M 237000 A300 R 610 15250.00
France M 348000 A300 R 714 17850.00
Mexico M 432000 A300 R 785 19625.00
Canada L 837000 A300 R 806 20150.00
France L 748000 A300 R 768 19200.00
Mexico L 932000 A300 R 880 22000.00
Brazil S 25000 A300 W 157 3140.00
Canada S 37000 A300 W 208 4160.00
Mexico S 32000 A300 W 186 3720.00
Brazil M 125000 A300 W 351 7020.00
Canada M 237000 A300 W 610 12200.00
France M 348000 A300 W 714 14280.00
Mexico M 432000 A300 W 785 15700.00
Brazil L 625000 A300 W 757 15140.00
Canada L 837000 A300 W 806 16120.00
France L 748000 A300 W 768 15360.00
Mexico L 932000 A300 W 880 17600.00

```

```

proc format;
value $salefmt 'R'='Retail'
'W'='Wholesale';

```

```

proc tabulate s={foreground=green background=white};
class region citysize saletype / s={foreground=black};
classlev region citysize saletype / s={foreground=cxe8edd5};
var quantity amount / s={foreground=black};
keyword all sum / s={foreground=white };
format saletype $salefmt.;
label region="Region" citysize="Citysize" saletype="Saletype";
label quantity="Quantity" amount="Amount";
keylabel all="Total";

```

```

table all={label = "All Products" s={foreground=orange font_weight=bold}},
(region all )*(citysize all*s={foreground=CX002288 font_weight=bold}},
(saletype all)*(quantity*f=COMMA6. amount*f=dollar10.) /
s={background=red}
misstext={label="Missing" s={foreground=brown font_weight=bold }}
box={label="Region by Citysize by Saletype"
s={foreground=brown background=cxebdded}};
run;
ods html close;

```

PostScript 出力

```

/*Code for Output*/

data grocery;
input Sector $ Manager $ Department $ Sales @@;
datalines;
se 1 np1 50 se 1 p1 100 se 1 np2 120 se 1 p2 80
se 2 np1 40 se 2 p1 300 se 2 np2 220 se 2 p2 70
nw 3 np1 60 nw 3 p1 600 nw 3 np2 420 nw 3 p2 30
nw 4 np1 45 nw 4 p1 250 nw 4 np2 230 nw 4 p2 73
nw 9 np1 45 nw 9 p1 205 nw 9 np2 420 nw 9 p2 76
sw 5 np1 53 sw 5 p1 130 sw 5 np2 120 sw 5 p2 50
sw 6 np1 40 sw 6 p1 350 sw 6 np2 225 sw 6 p2 80
ne 7 np1 90 ne 7 p1 190 ne 7 np2 420 ne 7 p2 86
ne 8 np1 200 ne 8 p1 300 ne 8 np2 420 ne 8 p2 125
;
proc format;
value $sctrfmt 'se' = 'Southeast'
'ne' = 'Northeast'
'nw' = 'Northwest'
'sw' = 'Southwest';

value $mgrfmt '1' = 'Malik' '2' = 'Chang'
'3' = 'Reveiz' '4' = 'Brown'
'5' = 'Taylor' '6' = 'Adams'
'7' = 'Alomar' '8' = 'Andrews'
'9' = 'Pelfrey';

value $deptfmt 'np1' = 'Paper'
'np2' = 'Canned'
'p1' = 'Meat/Dairy'
'p2' = 'Produce';
run;

libname proclib 'SAS-library';

options nodate pageno=1 fmtsearch=(proclib);

ods html body='external-HTML-file.html';
ods ps file='sales-ps-file.ps';

proc report data=grocery nowd headline headskip

style(report)=[cellspacing=5 borderwidth=10 bordercolor=blue]

style(column)=[foreground=moderate brown fontweight=bold
fontface=helvetica fontsize=4]

style(lines)=[foreground=white background=black

```



```

fontstyle=italic fontweight=bold fontsize=5]

style(summary)=[foreground=white background=cxaeadd9
fontstyle=bold fontface=helvetica fontsize=3 just=r];

column manager department sales;

define manager / order
order=formatted
format=$mgrfmt.
'Manager'

style(header)=[foreground=cyan
background=black];

define department / order
order=internal
format=$deptfmt.
'Department'

style(column)=[fontstyle=italic];

break after manager / summarize;

compute after manager
/ style=[fontstyle=roman fontsize=3 fontweight=bold
background=white foreground=black];

line 'Subtotal for ' manager $mgrfmt. 'is '
sales.sum dollar7.2 '.';
endcomp;

compute sales;
if sales.sum>100 and _break_=' ' then
call define(_col_, "style",
"style=[background=#CCFF00
fontface=helvetica
fontweight=bold]");
endcomp;

compute after;
line 'Total for all departments: '
sales.sum dollar7.2 '.';
endcomp;

where sector='se';

title 'Sales for Malik and Chang';
run;

ods html close;
ods ps close;

```

PDF 出力

```
ods pdf body="b.pdf" style=barrettsblue;

title1 'TABULATE With Custom ODS Styles';

options center nodate;

data tabulate;
input dept acct qtr mon expense @@;
cards;
1 1345 1 1 12980 1 1674 1 3 13135 3 4138 1 1 29930
1 1345 1 1 9475 1 1674 1 3 21672 3 4138 1 2 22530
1 1345 1 1 15633 1 1674 1 3 3847 3 4138 1 2 16446
1 1345 1 2 14009 1 1674 1 3 2808 3 4138 1 2 27135
1 1345 1 2 10226 1 1674 1 3 4633 3 4138 1 3 24399
1 1345 1 2 16872 2 2134 1 1 34520 3 4138 1 3 17811
1 1345 1 2 17800 2 2134 1 1 25199 3 4138 1 3 29388
1 1345 1 2 12994 2 2134 1 1 41578 3 4138 1 3 16592
1 1345 1 2 21440 2 2134 1 2 26560 3 4138 1 3 12112
1 1345 1 3 35300 2 2134 1 2 19388 3 4138 1 3 19984
1 1345 1 3 25769 2 2134 1 2 31990 3 4279 1 1 9984
1 1345 1 3 42518 2 2134 1 3 24399 3 4279 1 1 7288
1 1578 1 1 8000 2 2134 1 3 17811 3 4279 1 1 12025
1 1578 1 1 5840 2 2134 1 3 29388 3 4279 1 2 14209
1 1578 1 1 9636 2 2403 1 1 25464 3 4279 1 2 10372
1 1578 1 2 7900 2 2403 1 1 18588 3 4279 1 2 17113
1 1578 1 2 5767 2 2403 1 1 30670 3 4279 1 3 13500
1 1578 1 2 9515 2 2403 1 2 15494 3 4279 1 3 9855
1 1578 1 3 4500 2 2403 1 2 11310 3 4279 1 3 16260
1 1578 1 3 3285 2 2403 1 2 18661 3 4290 1 1 10948
1 1578 1 3 5420 2 2403 1 2 1482 3 4290 1 1 7992
1 1674 1 1 11950 2 2403 1 2 1081 3 4290 1 1 13186
1 1674 1 1 8723 2 2403 1 2 1783 3 4290 1 2 14539
1 1674 1 1 14392 2 2403 1 3 10009 3 4290 1 2 10613
1 1674 1 2 13534 2 2403 1 3 7306 3 4290 1 2 17511
1 1674 1 2 9879 2 2403 1 3 12054 3 4290 1 3 11459
1 1674 1 2 16300 3 4138 1 1 24850 3 4290 1 3 8365
1 1674 1 3 17994 3 4138 1 1 18140 3 4290 1 3 13802
;

proc format;
value qtrfmt 1 = 'FIRST QUARTER'
2 = 'SECOND QUARTER'
3 = 'THIRD QUARTER'
4 = 'FOURTH QUARTER';

value monfmt 1 = 'January'
2 = 'February'
3 = 'March'
4 = 'April'
5 = 'May'
```

```

6 = 'June'
7 = 'July'
8 = 'August'
9 = 'September'
10 = 'October'
11 = 'November'
12 = 'December';

value dept 1 = 'Accounting'
2 = 'Human Resources'
3 = 'Systems';

proc tabulate format=dollar11.2;

class mon qtr acct dept;

classlev mon qtr acct dept / style={fontstyle=italic color=yellow};
var expense;

format qtr qtrfmt.;
format mon monfmt.;
format dept dept.;
label expense = "Expenses" dept = "Department";

table dept (all="All Departments"

/* Highlight row totals with a red background and white font. */

*{style={background=red color=white}}},

(mon=' ' (all="First Quarter"

/* Highlight column totals with a red background and white font. */

*{style={background=red color=white}}))

*expense*sum=' ' /

style={background=CX9aac7
}

/* Display a graphic image in the box above the row headings. */

box={style={backgroundimage="your image"}};
run;

ods pdf close;

```

\$CNTRY 出力形式の作成

```
proc format;
value $cntry 'BRZ'='Brazil'
'CHN'='China'
'IND'='India'
'INS'='Indonesia'
'USA'='United States';
run;
```

Charity データセットの作成

```
proc format;
value yrFmt . = " All";
value $schFmt " " = "All ";
run;

data Charity;
input School $ 1-7 Year 9-12 Name $ 14-20 moneyRaised 22-26
hoursVolunteered 28-29;
format moneyRaised dollar8.2;
format hoursVolunteered f3.0;
format Year yrFmt.;
format School schFmt.;
label School = "Schools";
label Year = "Years";
retain yearmin yearmax;
yearmin=min(yearmin,year);
yearmax=max(yearmax,year);
call symput('first_year',put(yearmin,4.));
call symput('last_year', put(yearmax,4.));
datalines;
Monroe 1992 Allison 31.65 19
Monroe 1992 Barry 23.76 16
Monroe 1992 Candace 21.11 5
Monroe 1992 Danny 6.89 23
Monroe 1992 Edward 53.76 31
Monroe 1992 Fiona 48.55 13
Monroe 1992 Gert 24.00 16
Monroe 1992 Harold 27.55 17
Monroe 1992 Ima 5.98 9
Monroe 1992 Jack 20.00 23
Monroe 1992 Katie 22.11 2
Monroe 1992 Lisa 18.34 17
Monroe 1992 Tonya 55.16 40
Monroe 1992 Max 26.77 34
Monroe 1992 Ned 28.43 22
Monroe 1992 Opal 32.66 14
Monroe 1993 Patsy 18.33 18
```

Monroe 1993 Quentin 16.89 15
Monroe 1993 Randall 12.98 17
Monroe 1993 Sam 15.88 5
Monroe 1993 Tyra 21.88 23
Monroe 1993 Myrtle 47.33 26
Monroe 1993 Frank 41.11 22
Monroe 1993 Cameron 65.44 14
Monroe 1993 Vern 17.89 11
Monroe 1993 Wendell 23.00 10
Monroe 1993 Bob 26.88 6
Monroe 1993 Leah 28.99 23
Monroe 1994 Becky 30.33 26
Monroe 1994 Sally 35.75 27
Monroe 1994 Edgar 27.11 12
Monroe 1994 Dawson 17.24 16
Monroe 1994 Lou 5.12 16
Monroe 1994 Damien 18.74 17
Monroe 1994 Mona 27.43 7
Monroe 1994 Della 56.78 15
Monroe 1994 Monique 29.88 19
Monroe 1994 Carl 31.12 25
Monroe 1994 Reba 35.16 22
Monroe 1994 Dax 27.65 23
Monroe 1994 Gary 23.11 15
Monroe 1994 Suzie 26.65 11
Monroe 1994 Benito 47.44 18
Monroe 1994 Thomas 21.99 23
Monroe 1994 Annie 24.99 27
Monroe 1994 Paul 27.98 22
Monroe 1994 Alex 24.00 16
Monroe 1994 Lauren 15.00 17
Monroe 1994 Julia 12.98 15
Monroe 1994 Keith 11.89 19
Monroe 1994 Jackie 26.88 22
Monroe 1994 Pablo 13.98 28
Monroe 1994 L.T. 56.87 33
Monroe 1994 Willard 78.65 24
Monroe 1994 Kathy 32.88 11
Monroe 1994 Abby 35.88 10
Kennedy 1992 Arturo 34.98 14
Kennedy 1992 Grace 27.55 25
Kennedy 1992 Winston 23.88 22
Kennedy 1992 Vince 12.88 21
Kennedy 1992 Claude 15.62 5
Kennedy 1992 Mary 28.99 34
Kennedy 1992 Abner 25.89 22
Kennedy 1992 Jay 35.89 35
Kennedy 1992 Alicia 28.77 26
Kennedy 1992 Freddy 29.00 27
Kennedy 1992 Eloise 31.67 25
Kennedy 1992 Jenny 43.89 22
Kennedy 1992 Thelma 52.63 21
Kennedy 1992 Tina 19.67 21
Kennedy 1992 Eric 24.89 12
Kennedy 1993 Bubba 37.88 12
Kennedy 1993 G.L. 25.89 21

```
Kennedy 1993 Bert 28.89 21
Kennedy 1993 Clay 26.44 21
Kennedy 1993 Leeann 27.17 17
Kennedy 1993 Georgia 38.90 11
Kennedy 1993 Bill 42.23 25
Kennedy 1993 Holly 18.67 27
Kennedy 1993 Benny 19.09 25
Kennedy 1993 Cammie 28.77 28
Kennedy 1993 Amy 27.08 31
Kennedy 1993 Doris 22.22 24
Kennedy 1993 Robbie 19.80 24
Kennedy 1993 Ted 27.07 25
Kennedy 1993 Sarah 24.44 12
Kennedy 1993 Megan 28.89 11
Kennedy 1993 Jeff 31.11 12
Kennedy 1993 Taz 30.55 11
Kennedy 1993 George 27.56 11
Kennedy 1993 Heather 38.67 15
Kennedy 1994 Nancy 29.90 26
Kennedy 1994 Rusty 30.55 28
Kennedy 1994 Mimi 37.67 22
Kennedy 1994 J.C. 23.33 27
Kennedy 1994 Clark 27.90 25
Kennedy 1994 Rudy 27.78 23
Kennedy 1994 Samuel 34.44 18
Kennedy 1994 Forrest 28.89 26
Kennedy 1994 Luther 72.22 24
Kennedy 1994 Trey 6.78 18
Kennedy 1994 Albert 23.33 19
Kennedy 1994 Che-Min 26.66 33
Kennedy 1994 Preston 32.22 23
Kennedy 1994 Larry 40.00 26
Kennedy 1994 Anton 35.99 28
Kennedy 1994 Sid 27.45 25
Kennedy 1994 Will 28.88 21
Kennedy 1994 Morty 34.44 25
;
run;
```

DIVFMT.出力形式と USETYPE.出力形式の作成出力形式

```
proc format;
value divfmt 1='New England'
2='Middle Atlantic'
3='Mountain'
4='Pacific';
value usetype 1='Residential Customers'
2='Business Customers';
run;
```

DistrData データセットの作成

```
data distrdata;
drop n;
label Normal_x='Normal Random Variable'
Exponential_x='Exponential Random Variable';
do n=1 to 100;
Normal_x=10*rannor(53124)+50;
Exponential_x=ranexp(18746363);
output;
end;
run;
```

単変量の ODS ドキュメントの作成

```
ods document name=univ;

title '100 Obs Sampled from a Normal Distribution';
proc univariate data=distrdata noprint;
var Normal_x;

histogram Normal_x /normal(noprint) cbarline=grey name='normal';
run;

title '100 Obs Sampled from an Exponential Distribution';

proc univariate data=distrdata noprint;
var Exponential_x;

histogram /exp(fill l=3) cfill=yellow midpoints=.05 to 5.55 by .25
name='exp';
run;

ods document close;
title;

quit;
```

Employee_Data データセットの作成

```
options source pagesize=60 linesize=80 nodate;

data employee_data;
input IdNumber $ 1-4 LastName $ 9-19 FirstName $ 20-29
City $ 30-42 State $ 43-44 /
Gender $ 1 JobCode $ 9-11 Salary 20-29 @30 Birth date9.
@43 Hired date9. HomePhone $ 54-65;
```

```
format birth hired date9. ;

datalines;
1919 Adams Gerald Stamford CT
M TA2 34376 15SEP48 07JUN75 203/781-1255
1653 Alexander Susan Bridgeport CT
F ME2 35108 18OCT52 12AUG78 203/675-7715
1400 Apple Troy New York NY
M ME1 29769 08NOV55 19OCT78 212/586-0808
1350 Arthur Barbara New York NY
F FA3 32886 03SEP53 01AUG78 718/383-1549
1401 Avery Jerry Paterson NJ
M TA3 38822 16DEC38 20NOV73 201/732-8787
1499 Barefoot Joseph Princeton NJ
M ME3 43025 29APR42 10JUN68 201/812-5665
1101 Baucom Walter New York NY
M SCP 18723 09JUN50 04OCT78 212/586-8060
1333 Blair Justin Stamford CT
M PT2 88606 02APR49 13FEB69 203/781-1777
1402 Blalock Ralph New York NY
M TA2 32615 20JAN51 05DEC78 718/384-2849
1479 Bostic Marie New York NY
F TA3 38785 25DEC56 08OCT77 718/384-8816
1403 Bowden Earl Bridgeport CT
M ME1 28072 31JAN57 24DEC79 203/675-3434
1739 Boyce Jonathan New York NY
M PT1 66517 28DEC52 30JAN79 212/587-1247
1658 Bradley Jeremy New York NY
M SCP 17943 11APR55 03MAR80 212/587-3622
1428 Brady Christine Stamford CT
F PT1 68767 07APR58 19NOV79 203/781-1212
1782 Brown Jason Stamford CT
M ME2 35345 07DEC58 25FEB80 203/781-0019
1244 Bryant Leonard New York NY
M ME2 36925 03SEP51 20JAN76 718/383-3334
1383 Burnette Thomas New York NY
M BCK 25823 28JAN56 23OCT80 718/384-3569
1574 Cahill Marshall New York NY
M FA2 28572 30APR48 23DEC80 718/383-2338
1789 Caraway Davis New York NY
M SCP 18326 28JAN45 14APR66 212/587-9000
1404 Carter Donald New York NY
M PT2 91376 27FEB41 04JAN68 718/384-2946
1437 Carter Dorothy Bridgeport CT
F A3 33104 23SEP48 03SEP72 203/675-4117
1639 Carter Karen Stamford CT
F A3 40260 29JUN45 31JAN72 203/781-8839
1269 Caston Franklin Stamford CT
M NA1 41690 06MAY60 01DEC80 203/781-3335
1065 Chapman Neil New York NY
M ME2 35090 29JAN32 10JAN75 718/384-5618
1876 Chin Jack New York NY
M TA3 39675 23MAY46 30APR73 212/588-5634
1037 Chow Jane Stamford CT
F TA1 28558 13APR52 16SEP80 203/781-8868
1129 Cook Brenda New York NY
```



```

F ME2 34929 11DEC49 20AUG79 718/383-2313
1988 Cooper Anthony New York NY
M FA3 32217 03DEC47 21SEP72 212/587-1228
1405 Davidson Jason Paterson NJ
M SCP 18056 08MAR54 29JAN80 201/732-2323
1430 Dean Sandra Bridgeport CT
F TA2 32925 03MAR50 30APR75 203/675-1647
1983 Dean Sharon New York NY
F FA3 33419 03MAR50 30APR75 718/384-1647
1134 Delgado Maria Stamford CT
F TA2 33462 08MAR57 24DEC76 203/781-1528
1118 Dennis Roger New York NY
M PT3 111379 19JAN32 21DEC68 718/383-1122
1438 Donaldson Karen Stamford CT
F TA3 39223 18MAR53 21NOV75 203/781-2229
1125 Dunlap Donna New York NY
F FA2 28888 11NOV56 14DEC75 718/383-2094
1475 Eaton Alicia New York NY
F FA2 27787 18DEC49 16JUL78 718/383-2828
1117 Edgerton Joshua New York NY
M TA3 39771 08JUN51 16AUG80 212/588-1239
1935 Fernandez Katrina Bridgeport CT
F NA2 51081 31MAR42 19OCT69 203/675-2962
1124 Fields Diana White Plains NY
F FA1 23177 13JUL46 04OCT78 914/455-2998
1422 Fletcher Marie Princeton NJ
F FA1 22454 07JUN52 09APR79 201/812-0902
1616 Flowers Annette New York NY
F TA2 34137 04MAR58 07JUN81 718/384-3329
1406 Foster Gerald Bridgeport CT
M ME2 35185 11MAR49 20FEB75 203/675-6363
1120 Garcia Jack New York NY
M ME1 28619 14SEP60 10OCT81 718/384-4930
1094 Gomez Alan Bridgeport CT
M FA1 22268 05APR58 20APR79 203/675-7181
1389 Gordon Levi New York NY
M BCK 25028 18JUL47 21AUG78 718/384-9326
1905 Graham Alvin New York NY
M PT1 65111 19APR60 01JUN80 212/586-8815
1407 Grant Daniel Mt. Vernon NY
M PT1 68096 26MAR57 21MAR78 914/468-1616
1114 Green Janice New York NY
F TA2 32928 21SEP57 30JUN75 212/588-1092
;
run;

```

Energy データセットの作成

```

data energy;
length State $2;
input Region Division state $ Type Expenditures @@;
datalines;
1 1 ME 1 708 1 1 ME 2 379 1 1 NH 1 597 1 1 NH 2 301

```

```

1 1 VT 1 353 1 1 VT 2 188 1 1 MA 1 3264 1 1 MA 2 2498
1 1 RI 1 531 1 1 RI 2 358 1 1 CT 1 2024 1 1 CT 2 1405
1 2 NY 1 8786 1 2 NY 2 7825 1 2 NJ 1 4115 1 2 NJ 2 3558
1 2 PA 1 6478 1 2 PA 2 3695 4 3 MT 1 322 4 3 MT 2 232
4 3 ID 1 392 4 3 ID 2 298 4 3 WY 1 194 4 3 WY 2 184
4 3 CO 1 1215 4 3 CO 2 1173 4 3 NM 1 545 4 3 NM 2 578
4 3 AZ 1 1694 4 3 AZ 2 1448 4 3 UT 1 621 4 3 UT 2 438
4 3 NV 1 493 4 3 NV 2 378 4 4 WA 1 1680 4 4 WA 2 1122
4 4 OR 1 1014 4 4 OR 2 756 4 4 CA 1 10643 4 4 CA 2 10114
4 4 AK 1 349 4 4 AK 2 329 4 4 HI 1 273 4 4 HI 2 298
;
run;

```

Expdev データセットの作成

```

data expdev;
input Country $ 1-24 Emp_ID $ 25-32 Order_Date $ Ship_Date $ Sale_Type $ &
Quantity Price Cost;

datalines;
Antarctica 99999999 1/1/05 1/7/05 Internet 2 92.60 20.70
Puerto Rico 99999999 1/1/05 1/5/05 Catalog 14 51.20 12.10
Virgin Islands (U.S.) 99999999 1/1/05 1/4/05 In Store 25 31.10 15.65
Aruba 99999999 1/1/05 1/4/05 Catalog 30 123.70 59.00
Bahamas 99999999 1/1/05 1/4/05 Catalog 8 113.40 28.45
Bermuda 99999999 1/1/05 1/4/05 Catalog 7 41.00 9.25
Belize 120458 1/2/05 1/2/05 In Store 2 146.40 36.70
British Virgin Islands 99999999 1/2/05 1/5/05 Catalog 11 40.20 20.20
Canada 99999999 1/2/05 1/5/05 Catalog 100 11.80 5.00
Cayman Islands 120454 1/2/05 1/2/05 In Store 20 71.00 32.30
Costa Rica 99999999 1/2/05 1/6/05 Internet 31 53.00 26.60
Cuba 121044 1/2/05 1/2/05 Internet 12 42.40 19.35
Dominican Republic 121040 1/2/05 1/2/05 Internet 13 48.00 23.95
El Salvador 99999999 1/2/05 1/6/05 Catalog 21 266.40 66.70
Guatemala 120931 1/2/05 1/2/05 In Store 13 144.40 65.70
Haiti 121059 1/2/05 1/2/05 Internet 5 47.90 23.45
Honduras 120455 1/2/05 1/2/05 Internet 20 66.40 30.25
Jamaica 99999999 1/2/05 1/4/05 In Store 23 169.80 38.70
Mexico 120127 1/2/05 1/2/05 In Store 30 211.80 33.65
Montserrat 120127 1/2/05 1/2/05 In Store 19 184.20 36.90
Nicaragua 120932 1/2/05 1/2/05 Internet 16 122.00 28.75
Panama 99999999 1/2/05 1/6/05 Internet 20 88.20 38.40
Saint Kitts/Nevis 99999999 1/2/05 1/6/05 Internet 20 41.40 18.00
St. Helena 120360 1/2/05 1/2/05 Internet 19 94.70 47.45
St. Pierre/Miquelon 120842 1/2/05 1/16/05 Internet 16 103.80 47.25
Turks/Caicos Islands 120372 1/2/05 1/2/05 Internet 10 57.70 28.95
United States 120372 1/2/05 1/2/05 Internet 20 88.20 38.40
Anguilla 99999999 1/2/05 1/6/05 In Store 15 233.50 22.25
Antigua/Barbuda 120458 1/2/05 1/2/05 In Store 31 99.60 45.35
Argentina 99999999 1/2/05 1/6/05 In Store 42 408.80 87.15
Barbados 99999999 1/2/05 1/6/05 In Store 26 94.80 42.60
Bolivia 120127 1/2/05 1/2/05 In Store 26 66.00 16.60
Brazil 120127 1/2/05 1/2/05 Catalog 12 73.40 18.45

```

```

Chile 120447 1/2/05 1/2/05 In Store 20 19.10 8.75
Colombia 121059 1/2/05 1/2/05 Internet 28 361.40 90.45
Dominica 121043 1/2/05 1/2/05 Internet 35 121.30 57.80
Ecuador 121042 1/2/05 1/2/05 In Store 11 100.90 50.55
Falkland Islands 120932 1/2/05 1/2/05 In Store 15 61.40 30.80
French Guiana 120935 1/2/05 1/2/05 Catalog 15 96.40 43.85
Grenada 120931 1/2/05 1/2/05 Catalog 19 56.30 25.05
Guadeloupe 120445 1/2/05 1/2/05 Internet 21 231.60 48.70
Guyana 120455 1/2/05 1/2/05 In Store 25 132.80 30.25
Martinique 120841 1/2/05 1/3/05 In Store 16 56.30 31.05
Netherlands Antilles 99999999 1/2/05 1/6/05 In Store 31 41.80 19.45
Paraguay 120603 1/2/05 1/2/05 Catalog 17 117.60 58.90
Peru 120845 1/2/05 1/2/05 Catalog 12 93.80 41.75
St. Lucia 120845 1/2/05 1/2/05 Internet 19 64.30 28.65
Suriname 120538 1/3/05 1/3/05 Internet 22 110.80 29.35
;
run;

```

Gov データセットの作成

```

data gov;
Label Citygovt='City Government Form'
Robgrp='Number of Citizens Robbed';
Input Citygovt Robgrp Weight; Missing N;
Format Citygovt Govtfmt. Robgrp Robfmt.;
LOOP: OUTPUT; WEIGHT=WEIGHT-1; IF WEIGHT>0 THEN GOTO LOOP;
DROP WEIGHT;
datalines;
0 1 6
0 3 3
0 2 7
0 4 5
N N 10
-3 1 47
-3 3 49
-3 2 63
-3 4 52
. 2 1
3 1 31
3 2 37
3 3 27
3 4 55
3 . 1
;
run;

```

Grain_Production データセットの作成

```

data grain_production;
length Country $ 3 Type $ 5;

```

```

input Year country $ type $ Kilotons;
datalines;
1995 BRZ Wheat 1516
1995 BRZ Rice 11236
1995 BRZ Corn 36276
1995 CHN Wheat 102207
1995 CHN Rice 185226
1995 CHN Corn 112331
1995 IND Wheat 63007
1995 IND Rice 122372
1995 IND Corn 9800
1995 INS Wheat .
1995 INS Rice 49860
1995 INS Corn 8223
1995 USA Wheat 59494
1995 USA Rice 7888
1995 USA Corn 187300
1996 BRZ Wheat 3302
1996 BRZ Rice 10035
1996 BRZ Corn 31975
1996 CHN Wheat 109000
1996 CHN Rice 190100
1996 CHN Corn 119350
1996 IND Wheat 62620
1996 IND Rice 120012
1996 IND Corn 8660
1996 INS Wheat .
1996 INS Rice 51165
1996 INS Corn 8925
1996 USA Wheat 62099
1996 USA Rice 7771
1996 USA Corn 236064
;
run;

```

Iron データセットの作成

データセット Iron には、Draper および Smith のデータが含まれています。

```

data iron;
input Fe Loss @@;
datalines;
0.01 127.6 0.48 124.0 0.71 110.8 0.95 103.9
1.19 101.5 0.01 130.1 0.48 122.0 1.44 92.3
0.71 113.1 1.96 83.7 0.01 128.0 1.44 91.4
1.96 86.2
;
run;

```

Draper, N. and Smith, H. 1998. *Applied Regression Analysis, Second Edition*. New York, New York: John Wiley & Sons, 98.

Model データセットの作成

```
data one;
input year import doprod stock consum;
datalines;
49 15.9 149.3 4.2 108.1
50 16.4 161.2 4.1 114.8
51 19.0 171.5 3.1 123.2
52 19.1 175.5 3.1 126.9
53 18.8 180.8 1.1 132.1
54 20.4 190.7 2.2 137.7
55 22.7 202.1 2.1 146.0
56 26.5 212.4 5.6 154.1
57 28.1 226.1 5.0 162.3
58 27.6 231.9 5.1 164.3
59 26.3 239.0 0.7 167.6
60 31.1 258.0 5.6 176.8
61 33.3 269.8 3.9 186.6
62 37.0 288.4 3.1 199.7
63 43.3 304.5 4.6 213.9
64 49.0 323.4 7.0 223.8
65 50.3 336.8 1.2 232.0
66 56.6 353.9 4.5 242.9
;
run;

data model;
input year 1-2 a 3-9 .3 b 10-17 .3 r4 18-24 .3 r8 25-31 .3
c 32-38 .3 d 39-45 .3 e 46-51 .3 r23 52-58 .3
r24 59-64 .3 r29 65-70 .3 r33 71-77 .3 ;
datalines;
60 994534 53552371656049 9362944261250 8921423631971140299106045 8780 335066
611253576 5580643177015110671424650930 9933453874651217360151507 36871 49192
621318885 621448018932921075688469573610686654502881317293178014 66671 566079
631507969 666125121046261533088511701311673695162821579148179797106485 -4568
641811051 731945021737841454106554095914677245822921945534206255145948 -10940
652532026 816707123363201962785640926221155676314091906268218759195733-145568
661845213 889039326806342223395649307215331186055041732948288322275400 132143
671745867 982910727559092191906712443321301786392551689676279632372882 206952
6814081131090291230880343031234790954515318236634751664396339031560931-197937
69 80333110648748347703228895587637176 7799776552461672718368625546377 521929
70123456789012345678901234567890123456789012345678901234567890123456789012345
719876543210987654321098765432109876543210987654321098765432109876543210987654
72543210987654321543210987654321098765432109876543210987654321098765432109876
run;

data model;
set model;
r4=r4/10;
r8=r8/10;
d=d/10;
e=e/10;
r23=r23/10;
```

```

r33=r33/10;
a=a/10;
b=b/10;
c=c/10;
r24=r24/10;
r29=r29/10;
run;

```

Neuralgia データセットの作成

```

Data Neuralgia;
length Discomfort $ 2;
input Treatment $ Gender $ Age Duration Discomfort $ @@;
label Treatment='Treatment Regimen'
Gender='Gender of Patient'
Age='Age of Patient'
Discomfort='Amount of Discomfort Experienced';
datalines;
A M 71 17 P A F 63 27 PF A F 69 18 P
P F 68 1 PF B M 74 16 PF P F 67 30 PF
P M 66 26 P B F 67 28 PF B F 77 16 PF
A F 71 12 PF B F 72 50 PF B F 76 9 P
B F 66 12 PF A M 62 42 PF P F 64 1 P
A F 64 17 PF P M 74 4 PF A F 72 25 PF
P M 70 1 P B M 66 19 PF B M 59 29 PF
A F 64 30 PF A M 70 28 PF A M 69 1 PF
B F 78 1 PF P M 83 1 P B F 69 42 PF
B M 75 30 P P M 77 29 P P F 79 20 P
A M 70 12 PF A F 69 12 PF B F 65 14 PF
B M 70 1 PF B M 67 23 PF A M 76 25 P
P M 78 12 P B M 77 1 P B F 69 24 PF
P M 66 4 P P F 65 29 PF P M 60 26 P
A M 78 15 P B M 75 21 P A F 67 11 PF
P F 72 27 PF P F 70 13 P A M 75 6 P
B F 65 7 PF P F 68 27 P P M 68 11 P
P M 67 17 P B M 70 22 PF A M 65 15 PF
P F 67 1 P A M 67 10 PF P F 72 11 P
A F 74 1 PF B M 80 21 P A F 69 3 PF
;
run;

```

Plants データセットの作成

```

data plants;
input type $ @;
do block=1 to 3;
input stempleng @;
output;
end;
datalines;

```

```

clarion 32.7 32.3 31.5
clinton 32.1 29.7 29.1
knox 35.7 35.9 33.1
o'neill 36.0 34.2 31.2
compost 31.8 28.0 29.2
wabash 38.2 37.8 31.9
webster 32.5 31.1 29.7
;
run;

```

Plant_Stat データセットの作成

```

data plant_stats;
do month = 1 to 12;
age = 2 + 0.3*rannor(345467);
age2 = 3 + 0.3*rannor(345467);
age3 = 4 + 0.4*rannor(345467);
output;
end;
run;

```

StatePop データセットの作成

```

data statepop;
input State $ CityPop_80 CityPop_90
NonCityPop_80 NonCityPop_90 Region;
format region 1.;
label citypop_80= '1980 metropolitan pop in millions'
noncitypop_80='1980 nonmetropolitan pop in millions'
citypop_90= '1990 metropolitan pop in millions'
noncitypop_90='1990 nonmetropolitan pop in million'
region='Geographic region';
datalines;
ME .405 .443 .721 .785 1
NH .535 .659 .386 .450 1
VT .133 .152 .378 .411 1
MA 5.530 5.788 .207 .229 1
RI .886 .938 .061 .065 1
CT 2.982 3.148 .126 .140 1
NY 16.144 16.515 1.414 1.475 1
NJ 7.365 7.730 .A .A 1
PA 10.067 10.083 1.798 1.799 1
DE .496 .553 .098 .113 2
MD 3.920 4.439 .297 .343 2
DC .638 .607 . . 2
VA 3.966 4.773 1.381 1.414 2
WV .796 .748 1.155 1.045 2
NC 3.749 4.376 2.131 2.253 2
SC 2.114 2.423 1.006 1.064 2
GA 3.507 4.352 1.956 2.127 2
FL 9.039 12.023 .708 .915 2

```

```

KY 1.735 1.780 1.925 1.906 2
TN 3.045 3.298 1.546 1.579 2
AL 2.560 2.710 1.334 1.331 2
MS .716 .776 1.805 1.798 2
AR .963 1.040 1.323 1.311 2
LA 3.125 3.160 1.082 1.060 2
OK 1.724 1.870 1.301 1.276 2
TX 11.539 14.166 2.686 2.821 2
OH 8.791 8.826 2.007 2.021 3
IN 3.885 3.962 1.605 1.582 3
IL 9.461 9.574 1.967 1.857 3
MI 7.719 7.698 1.543 1.598 3
WI 3.176 3.331 1.530 1.561 3
MN 2.674 3.011 1.402 1.364 3
IA 1.198 1.200 1.716 1.577 3
MO 3.314 3.491 1.603 1.626 3
ND .234 .257 .418 .381 3
SD .194 .221 .497 .475 3
NE .728 .787 .842 .791 3
KS 1.184 1.333 1.180 1.145 3
MT .189 .191 .598 .608 4
ID .257 .296 .687 .711 4
WY .141 .134 .329 .319 4
CO 2.326 2.686 .563 .608 4
NM .675 .842 .628 .673 4
AZ 2.264 3.106 .453 .559 4
UT 1.128 1.336 .333 .387 4
NV .666 1.014 .135 .183 4
WA 3.366 4.036 .776 .830 4
OR 1.799 1.985 .834 .858 4
CA 22.907 28.799 .760 .961 4
AK .174 .226 .227 .324 4
HI .763 .836 .202 .272 4
;
run;

```

Stats データセットと Stats2 データセットの作成

```

data Stats;
input Price Quantity City $;
datalines;
3750 150 Brazil
5000 200 Canada
10250 410 France
;

data Stats2;
input Price Quantity City $;
datalines;
3750 150 Brazil
5000 200 Canada
10250 410 France

```



```
;
run;
```

Table1 テーブル定義の作成

```
proc template;
define table table1;
mvar sysdate9;
dynamic colhd;
classlevels=on;

define column char_var;
generic=on;
blank_dups=on;
header=colhd;
style=cellcontents;
end;

define column num_var;
generic=on;
header=colhd;
style=cellcontents;
end;

define footer table_footer;
text 'Prepared on ' sysdate9;
end;

end;
run;
```

継承を表すプログラム

概要

このセクションのプログラムでは、“[スタイル、スタイル要素、スタイル属性について](#)” on [page 947](#) でスタイル定義における継承を説明するために使用した PROC TEMPLATE ステップを示しています。これらのプログラムでは、スタイル定義を使用する SAS コードも示しています。

FROM オプションの使用

このプログラムによって、セクション“[FROM オプションについて](#)” (953 ページ)で、HTML 出力が生成されます。

- コードの次のバージョンでは、Concepts.Style2 スタイル定義で Colours スタイル要素を作成するため、STYLE ステートメントの FROM オプションが使用されています。

```
ods path sashelp.tmplmst(read) sasuser.templat(update);
title;
```

```
options nodate pageno=1 linesize=72 pagesize=60;
data test;
input country $ 1-13 grain $ 15-18 kilotons;
datalines;
Brazil Rice 10035
China Rice 190100
India Rice 120012
Indonesia Rice 51165
United States Rice 7771
;

proc template;
define table mytable;
column x y z w;
define x;
style=celldatasimple;
dataname=country;
header='Country';
end;
define y;
style=celldataemphasis;
dataname=grain;
header='Grain';
end;
define z;
style=celldatalarge;
dataname=kilotons;
header='Kilotons';
end;
define w;
style=celldatasmall;
dataname=kilotons;
header='Kilotons';
end;
end;
run;

proc template;
/* to ensure a fresh start with the styles */
delete concepts.style1;
delete concepts.style2;
run;

proc template;
define style concepts.style1;
style colors /
'default'=white
'fancy'=very light vivid blue
'medium'=red ;
style celldatasimple /
fontfamily=arial
backgroundcolor=colors('fancy')
color=colors('default');
style celldataemphasis from celldatasimple /
color=colors('medium')
fontstyle=italic;
```

```

style celldatalarge from celldataemphasis /
fontweight=bold
fontsize=3;
end;
run;

proc template;
define style concepts.style2;
parent=concepts.style1;
style colors from colors/
'dark'=dark blue;
style celldataemphasis from celldataemphasis /
backgroundcolor=white;
style celldatasmall from celldatalarge /
fontsize=5
color=colors('dark')
backgroundcolor=colors('medium');
end;
run;
ods html body='display1-body.htm'
style=concepts.style2;
data _null_;
set test;
file print ods=(template='mytable');
put _ods_;
run;
ods html close;

```

- コードの次のバージョンでは、Concepts.Style2 スタイル定義で Colours スタイル要素を作成するため、STYLE ステートメントの FROM オプションは使用されていません。

```

ods path sashelp.tmplmst(read) sasuser.templat(update);
title;
options nodate pageno=1 linesize=72 pagesize=60;
data test;
input country $ 1-13 grain $ 15-18 kilotons;
datalines;
Brazil Rice 10035
China Rice 190100
India Rice 120012
Indonesia Rice 51165
United States Rice 7771
;

proc template;
define table mytable;
column x y z w;
define x;
style=celldatasimple;
dataname=country;
header='Country';
end;
define y;
style=celldataemphasis;
dataname=grain;
header='Grain';

```

```
end;
define z;
style=celldatalarge;
dataname=kilotons;
header='Kilotons';
end;
define w;
style=celldatasmall;
dataname=kilotons;
header='Kilotons';
end;
end;
run;

proc template;
/* to ensure a fresh start with the styles */
delete concepts.style1;
delete concepts.style2;
run;

proc template;
define style concepts.style1;
style colors /
'default'=white
'fancy'=very light vivid blue
'medium'=red ;
style celldatasimple /
fontfamily=arial
backgroundcolor=colors('fancy')
color=colors('default');
style celldataemphasis from celldatasimple /
color=colors('medium')
fontstyle=italic;
style celldatalarge from celldataemphasis /
fontweight=bold
fontsize=3;
end;
run;

proc template;
define style concepts.style2;
parent=concepts.style1;
style colors /
'dark'=dark blue;
style celldataemphasis from celldataemphasis /
backgroundcolor=white;
style celldatasmall from celldatalarge /
fontsize=5
color=colors('dark')
backgroundcolor=colors('medium');
end;
run;
ods html body='display1-body.htm'
style=concepts.style2;
data _null_;
set test;
```

```

file print ods=(template='mytable');
put _ods_;
run;
ods html close;

```

SAS の各バージョン間の継承互換性

このプログラムによって、セクション“バージョン間の継承の互換性” (955 ページ)で、HTML 出力が生成されます。

- コードの次のバージョンでは、SAS によって提供されたスタイル属性に SAS 9.2 の名前が使用されています。

```

ods path sashelp.tmplmst(read) sasuser.templat(update);
title;
options nodate pageno=1 linesize=72 pagesize=60;
data test;
input country $ 1-13 grain $ 15-18 kilotons;
datalines;
Brazil Rice 10035
China Rice 190100
India Rice 120012
Indonesia Rice 51165
United States Rice 7771
;

proc template;
define table mytable;
column x y z w;
define x;
style=celldatasimple;
dataname=country;
header='Country';
end;
define y;
style=celldataemphasis;
dataname=grain;
header='Grain';
end;
define z;
style=celldatalarge;
dataname=kilotons;
header='Kilotons';
end;
define w;
style=celldatasmall;
dataname=kilotons;
header='Kilotons';
end;
end;
run;

proc template;
/* to ensure a fresh start with the styles */
delete concepts.style1;
delete concepts.style2;

```

```

run;

proc template;
define style concepts.style1;
style celldatasimple /
fontfamily=arial
backgroundcolor=very light vivid blue
color=white;
style celldataemphasis from celldatasimple /
color=red
fontstyle=italic;
style celldatalarge from celldataemphasis /
fontweight=bold
fontsize=5;
end;
run;

proc template;
define style concepts.style2;
parent=concepts.style1;
style celldataemphasis from celldataemphasis /
backgroundcolor=yellow;
style celldatasmall from celldatalarge /
fontsize=2;
end;

ods html body='display1-body.htm'
style=concepts.style2;
data _null_;
set test;
file print ods=(template='mytable');
put _ods_;
run;
ods html close;

```

- コードの次のバージョンでは、SAS によって提供されたスタイル属性に SAS 9.1 の名前が使用されています。

```

ods path sashelp.tmplmst(read) sasuser.templat(update);
title;
options nodate pageno=1 linesize=72 pagesize=60;
data test;
input country $ 1-13 grain $ 15-18 kilotons;
datalines;
Brazil Rice 10035
China Rice 190100
India Rice 120012
Indonesia Rice 51165
United States Rice 7771
;

proc template;
define table mytable;
column x y z w;
define x;
style=celldatasimple;
dataname=country;

```

```
header='Country';
end;
define y;
style=celldataemphasis;
dataname=grain;
header='Grain';
end;
define z;
style=celldatalarge;
dataname=kilotons;
header='Kilotons';
end;
define w;
style=celldatasmall;
dataname=kilotons;
header='Kilotons';
end;
end;
run;

proc template;
/* to ensure a fresh start with the styles */
delete concepts.style1;
delete concepts.style2;
run;

proc template;
define style concepts.style1;
style celldatasimple /
fontface=arial
background=very light vivid blue
foreground=white;
style celldataemphasis from celldatasimple /
foreground=red
fontstyle=italic;
style celldatalarge from celldataemphasis /
fontweight=bold
fontsize=5;
end;
run;

proc template;
define style concepts.style2;
parent=concepts.style1;
style celldataemphasis from celldataemphasis /
background=yellow;
style celldatasmall from celldatalarge /
fontsize=2;
end;

ods html body='display1-body.htm'
style=concepts.style2;
data _null_;
set test;
file print ods=(template='mytable');
put _ods_;
```

1372 付録2 ・ サンプルプログラム

```
run;  
ods html close;
```


付録 3

ODS 出力先および HTML 出力先

HTML 出力先で作成される HTML リンクと参照	1373
リンクと参照について	1373
HTML リンクと参照の実装	1373
ODS でのリンクと参照の作成法	1375
HTML 出力先で作成されるファイル	1378
概要	1378
ボディファイル	1378
コンテンツファイル	1381
ページファイル	1381
フレームファイル	1381

HTML 出力先で作成される HTML リンクと参照

リンクと参照について

HTML リンクとは、同一のドキュメントまたは別のドキュメントの特定の場所へとジャンプできる、ドキュメント内の場所のことです。通常は、そのリンクの開始位置と終了位置を決めるタグに挟まれたテキストが、ブラウザ上で強調表示されます。強調表示されたテキストをクリックすると、リンク先のテキストがブラウザに表示されます。リンク先の内容は、ブラウザのアクティブウィンドウに表示されることもあれば、別のブラウザ画面が開いてそこに表示されることもあります。

HTML 参照は、ブラウザが表示するファイルを示します。参照されたファイルは、ブラウザで現在表示されているファイルの一部であるかのようにブラウザで表示されず、ブラウザの画面を見ただけでは、もともと表示されているファイルの内容なのか、それとも参照されている内容が表示されているかを区別できません。

ODS では、必要なリンクと参照が自動的に作成されます。これらのリンクは、ユーザーによるカスタマイズがある程度可能です。カスタマイズするには、HTML でリンクと参照を実装する方法を理解している必要があります。

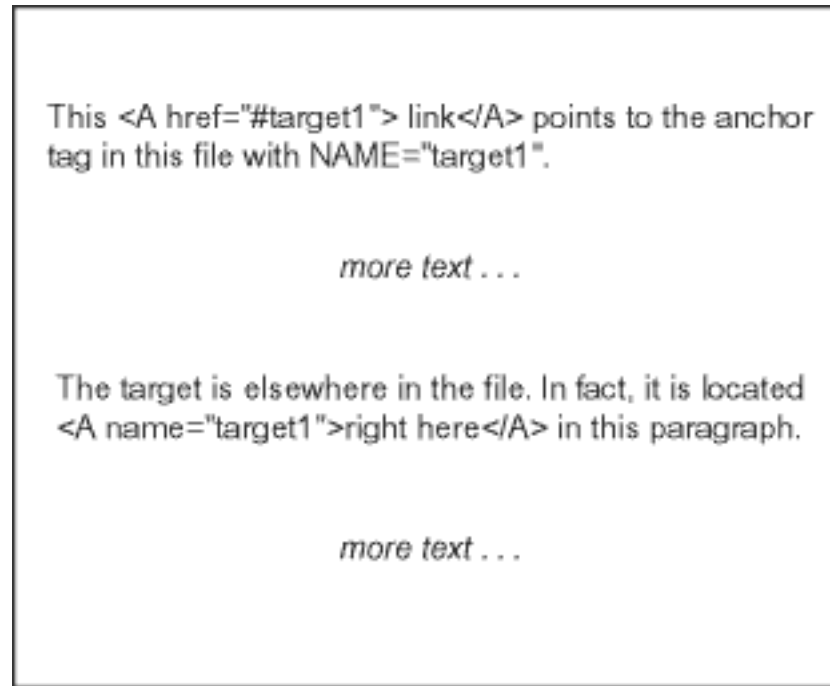
HTML リンクと参照の実装

注: ここでは、ODS がリンクおよび参照を作成するときの動作についての理解を助ける目的で、HTML リンクおよび参照について簡単に説明します。HTML のタグに関する詳細な情報は、市販の参考書を参照してください。

HTML の各リンクは <A> (アンカー) タグの 2 つのセットの組み合わせによって実装されます。片方のアンカータグはリンクの開始位置を指定するもので、リンク先のアンカ

一タグを識別する HREF 属性を伴います。もう一方のアンカータグはリンク先位置を指定するもので、NAME 属性を伴います。この NAME 属性は、最初のアンカータグに含まれる HREF 属性が指定する位置を示します。ファイル内の各 NAME 属性は、HREF のそれぞれの値が1つの特定のリンク先にジャンプできるように、一意である必要があります。次の図はファイル内のリンクの様子を示しています。ブラウザで link という言葉が強調表示されます。link をクリックすると、right here というリンク先がアクティブウィンドウ内に表示されます。

図 A3.1 ファイル内でのリンク

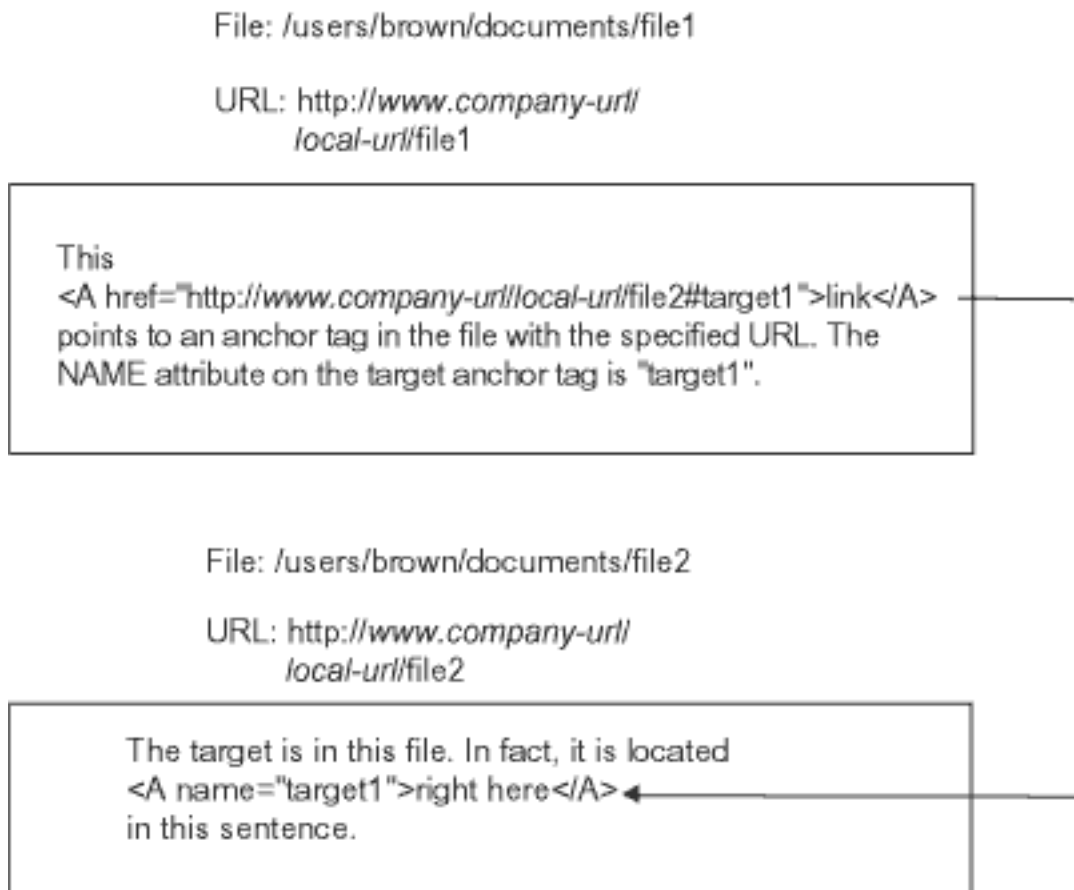


次の機能は、このリンクの開始位置で重要です。

- <A>およびタグは、ブラウザで強調表示されるテキストを囲みます。
- HREF 属性はリンク先を指定します。リンク先となるのは、その NAME 属性が HREF 属性のシャープ記号に後くテキストと一致しているアンカータグです。シャープ記号 (#)に先行するテキストはないため、ブラウザではリンク先がアンカーと同一のファイル内に存在すると判断されます。

表示されるリンク先がファイル外にある場合は、HREF 属性にそのファイルのパスを含める必要があります。このパスには、ファイルシステム内のパス、またはファイルの URL (uniform resource locator)が使用できます。次の図は、あるファイルから、URL で指定された別のファイルへのリンクを示しています。ブラウザで link という語が強調表示されます。link をクリックすると、アクティブウィンドウ内でリンク先である right here にジャンプするか、リンク先を表示するための別のウィンドウが開きます。

図 A3.2 他のファイルへのリンク



次の機能は、リンクの開始位置(アンカー)で重要です。

- `<A>`および``タグは、ブラウザで強調表示されるテキストを囲みます。
- `HREF` 属性はリンク先を指定します。シャープ記号(#)に先行するテキストは、リンク先を含むファイルを特定します。

ODS は、シャープ記号に先行するテキストおよびシャープ記号に続くテキストを、カスタマイズする機能を備えています。詳しいカスタマイズ方法については、“ODS HTML ステートメント” (283 ページ)および“ODS でのリンクと参照の作成法” (1375 ページ) で、ファイルの仕様、`ANCHOR=`、`BASE=`、`PATH=`および `GPATH=`に関する説明を参照してください。

HTML で参照を実装する方法は、リンクを実装する場合とほぼ同じです。大きな違いは、リンクがファイル内の特定の場所を指定するのに対し、参照はファイルそのものを指定するという点です。HTML では、参照先ファイルの指定に `SRC` 属性を使用します。`SRC` 属性の値の構造は、`HREF` 属性の値の構造と同じですが、シャープ記号もテキストも後続しないという点が異なります。

ODS でのリンクと参照の作成法

ODS HTML ステートメントのいくつかのオプションは、ODS のリンクおよび参照の構築方法(フレームからコンテンツのテーブル、ページのテーブルおよびボディファイルへのジャンプ、ならびにコンテンツのテーブルまたはページのテーブルからボディファイルへのジャンプ)に影響します。リンクは、HTML ファイル内の`<A>` (アンカー) タグの `HREF` 属性として作成されます。各 `HREF` 属性は、もう 1 つの`<A>` タグの `NAME` 属性を指定します。`HREF` は、リンク先を含むファイルと、そのファイル内のアンカーの名前の

両方を識別する必要があります。HREF の値は、有効な URL における有効なリンク先とする必要があります。次の形式を用います。

```
<A href="URL#アンカー名">
```

ODS は、ユーザーが ODS HTML ステートメントに記した情報に基づいて、HREF 属性の値を構築します。

注: ファイルへの HTML 参照には他のタグを使用しますが、ファイルを特定するための文字列の作成のロジックは、HREF 属性と同じです(“ODS でのリンクと参照の作成法”(1375 ページ)を参照)。

HREF 属性の URL には、ODS HTML ステートメントの 3 つのオプションの情報が含まれています。

- BASE オプション
 - GPATH=オプションまたは PATH=オプション
 - BODY=オプション、CONTENTS=オプションまたは PAGE=オプション
1. BASE=オプションを指定した場合、その値は、ODS が書き込むすべての HREF 属性の URL の最初の部分となります。
 2. GPATH=または PATH=を指定した場合、HREF 属性の URL の次の部分は、そのオプションに由来します。

リンク先のファイルが高解像度グラフィックの場合、ODS は HREF の次の部分として GPATH=オプションの情報を利用します。これらのオプションの詳細については、“ODS HTML ステートメント”(283 ページ)の GPATH=の説明および PATH=の説明を参照してください。次の表は、ODS が HREF 属性でどのように URL の GPATH=オプションを使用するのかを示しています。

表 A3.1 GPATH=オプションからの HREF 属性の構築

GPATH=のファイル仕様	URL=サブオプション	HREF 属性の後半で ODS が使用する情報*
<i>external-file</i> または <i>libref.catalog</i>	指定なし	ファイルの名前
<i>external-file</i> または <i>libref.catalog</i>	指定あり(NONE 以外)	URL=サブオプションの値
<i>external-file</i> または <i>libref.catalog</i>	NONE	GPATH=の情報なし
ファイル参照	指定ありまたは指定なし	GPATH=の情報なし

* GPATH=を指定しない場合、ODS は PATH=の値を使用して HREF の当該部分を作成します。

リンク先のファイルが高解像度グラフィックでない場合、ODS は HREF の次の部分として PATH=オプションの情報を利用します。次の表は、ODS が HREF 属性でどのように URL の PATH=オプションを使用するのかを示しています。

表 A3.2 PATH=オプションからの HREF 属性の構築

ファイルの仕様	URL=サブオプション	HREF 属性の後半で ODS が使用する情報
<i>external-file</i> または <i>libref.catalog</i>	指定なし	ファイルの名前

ファイルの仕様	URL=サブオプション	HREF 属性の後半で ODS が使用する情報
<i>external-file</i> または <i>libref.catalog</i>	指定あり(NONE 以外)	URL=サブオプションの値
<i>external-file</i> または <i>libref.catalog</i>	NONE	PATH=の情報なし
ファイル参照	指定あり、または指定なし	PATH=の情報なし

注: ODS HTML ステートメントの BODY=、CONTENTS=または PAGE=のいずれかのオプションでファイル参照をファイルの仕様として使用し、かつそのオプションで URL=サブオプションを使用しない場合、ODS は、対応するいずれかの HREF 属性の完全な URL を作成するときに GPATH=または PATH=の情報を使用しません。

3. HREF 属性で使用される URL の最後の部分は、デフォルトでは、リンク先が含まれているファイルの名前になります。ODS は、BODY=、CONTENTS=または PAGE=の各オプションで使用するファイルの仕様を元にしてファイル名を決定します(ODS はフレームファイルへのリンクまたは参照は作成しません)。これらのオプションの詳細については、“ODS MARKUP ステートメント” (404 ページ)を参照してください。

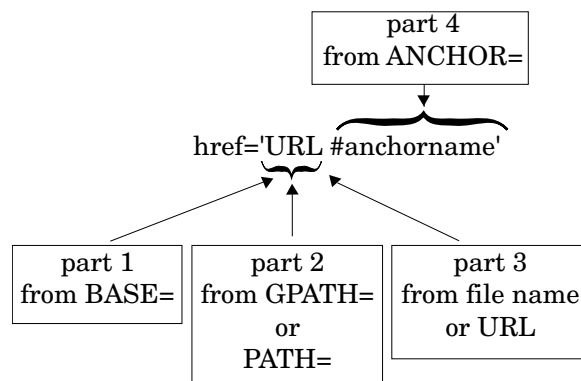
前述のオプションのいずれかで URL=サブオプションを指定した場合、ODS はファイル名のかわりに指定された文字列を使用します。

注: ファイル参照をファイルの仕様として使用し、かつ URL=サブオプションを使用しない場合、ODS は、HREF 属性の完全な URL を作成するときに、GPATH=または PATH=の情報を使用しません。

アンカー名は、ANCHOR=オプションに由来します。

次の図は、HREF の作成を示しています。

図 A3.3 HREF 属性の値の作成



HTML 出力先で作成されるファイル

概要

HTML 出力先は、4 種類のファイル(ボディ、コンテンツ、フレームおよびページの各ファイル)を作成できます。これらのファイルは、ODS HTML ステートメントのオプションを使用して作成できます(詳細については“ODS HTML ステートメント”(283 ページ)を参照)。

ボディファイル

ボディファイルには、SAS ジョブで作成される出力オブジェクトから生成される、HTML 出力が含まれています。ジョブで使用されるスタイルおよびテーブルのテンプレートによって、テーブルおよびそのセルの外観と内容が指定されます。

通常、グラフィックが含まれていない出力オブジェクトを HTML 出力先ヘルパーティングするときは、ODS が結果を<TABLE>タグ内に配置して、1 つ以上の結果 HTML テーブルを生成します。

グラフィック出力は、それを生成する SAS コードに従って作成されます。<TABLE>タグを使用するかわりに、グラフィックを参照する (イメージ)タグがボディファイルに含まれます。ボディファイルをブラウザで表示するとき、グラフィックがボディファイルの一部であるかどうかはユーザーにはわかりません。なぜなら、ブラウザではタグによってグラフィックが表示されるからです。

注: テーブルでもグラフィックでもない出力オブジェクトをプロシジャが作成することは、ほとんどありません。作成する場合には、出力が HTML テーブルとしてタグ付けされません。

ボディファイル内のタイトルと脚注は、自動的に HTML テーブルとして、HTML 出力の各ページの上端と下端の近くに生成されます。

注: グラフィック出力の場合は、タイトルおよび脚注は、デフォルトでグラフィックファイルの一部です。NOGTITLE オプションおよび NOGFOOTNOTE オプションを使用して、かわりにボディファイル内にそれらを配置することができます。GTITLE および GFOOTNOTE の詳しい説明は、“ODS HTML ステートメント”(283 ページ)を参照してください。

すべての<TABLE>タグおよびすべてのタグは、リンクまたは参照のジャンプ先となり得ます(“ODS でのリンクと参照の作成法”(1375 ページ)を参照)。したがって、ODS は、ジャンプ先となるリンクおよび参照に対して、各<TABLE>タグおよびタグの近くにある、NAME 属性を伴う<A>タグを提供する必要があります。アンカータグの NAME 属性は、テーブルへの参照またはリンクの最後の部分になります。ODS は次に示すとおり、その HTML 出力にアンカータグを挿入します。

- ODS は、ページの最上に、またすべてのテーブル(タイトルを保持しているテーブルを含む)の手前およびすべてのイメージの手前にアンカータグを配置します。このアンカーは、最初のテーブル(タイトルは除く)またはページ上の最初のイメージへのリンクのジャンプ先となります。

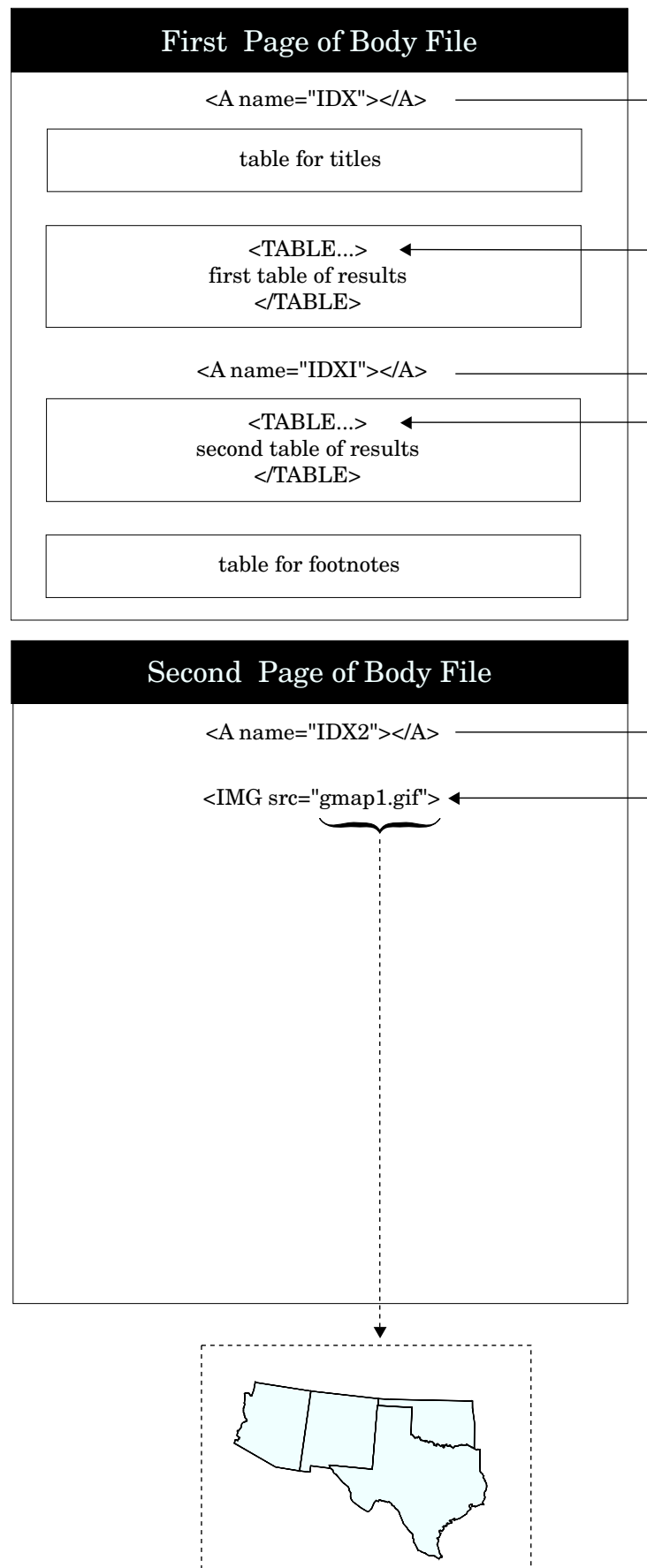
注: 各プロシジャまたは DATA ステップが、新規のページを作成します。さらに、SAS プログラムにより新規のページが明示的に要求されたときはいつでも、ODS は出力の新規のページを作成します。たとえば、ユーザーが PROC TABULATE でページの寸法を使用する場合、ユーザーはページを定義する

変数のそれぞれの値についてページを作成します。ここで言う"ページ"とは、SAS セッションの PAGESIZE=設定とは関係がありません。

- テーブルが結果(タイトルまたは脚注ではなく)を含んでいて、またテーブルがページ上の最初のテーブルまたはイメージではない場合、ODS は、各<TABLE>タグの少し手前にアンカータグを配置します。
- ページ上の最初のテーブルまたはイメージでない場合は、ODS はアンカータグを、各タグのやや手前に配置します。

次の図は、2つのプロシジャを実行する SAS ジョブの、アンカータグの配置を示しています。最初のプロシジャは、単独のページ上で、結果の HTML テーブルを2つ作成します。このページには、タイトル用の HTML テーブルと脚注用の HTML テーブルも含まれます。実線の矢印は、ODS が各テーブルのジャンプ先として使用する<A>タグを示しています。2番目のプロシジャは GIF ファイルを作成します。このプロシジャのタイトルは、GIF ファイルの一部です(デフォルトの動作)。やはり実線の矢印は、ODS がイメージへのリンクを作成するときジャンプ先として使用するアンカータグを示しています。点線の矢印は、タグが参照するファイルを示しています。

図 A3.4 HTML 出力の<A> (アンカー)タグの配置



ブラウザでこのファイルを表示するには、[画面 A3.1 \(1384 ページ\)](#)を参照してください。

コンテンツファイル

コンテンツファイルには、ODS がプロシジャまたは DATA ステップの結果から作成するそれぞれの HTML テーブルのボディファイルへのリンクが含まれています。これらのリンクのジャンプ先はボディファイル内にあるアンカータグの **NAME** 属性です(“[ボディファイル](#)” (1378 ページ)を参照)。たとえば、[図 A3.4 \(1380 ページ\)](#) で 2 番目の結果の HTML テーブルへリンクするアンカータグは、次のようになります。

```
<A href="pop-body.htm#IDX1">
```

このアンカータグでは、

- pop-body.htm は、ジャンプ先が含まれているファイルを識別します。
- #IDX1 はジャンプ先の名前を指定します。

コンテンツファイルはブラウザで直接表示できます。また、フレームファイルを作成すれば、コンテンツファイルをフレームファイルの一部として表示できます(“[フレームファイル](#)” (1381 ページ)を参照)。

ページファイル

ページファイルには、ODS がプロシジャまたは DATA ステップの結果から作成するそれぞれの HTML 出力のページのボディファイルへのリンクが含まれています。これらのリンクのジャンプ先はボディファイル内にあるアンカータグの **NAME** 属性です(“[ボディファイル](#)” (1378 ページ)を参照)。たとえば、[図 A3.4 \(1380 ページ\)](#) で 2 番目の結果のページへリンクするアンカータグは、次のようになります。

```
<A href="pop-body.htm#IDX2">
```

このアンカータグでは、

- pop-body.htm は、ジャンプ先が含まれているファイルを識別します。
- #IDX2 はジャンプ先の名前を指定します。

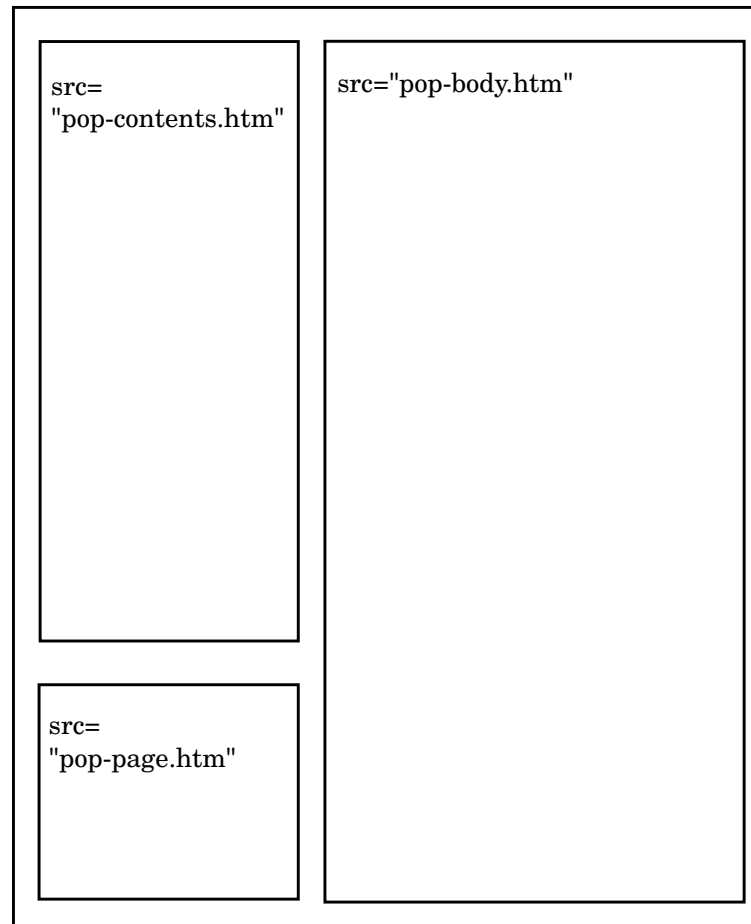
ページファイルはブラウザで直接表示できます。また、フレームファイルを作成すれば、ページファイルをフレームファイルの一部として表示できます(“[フレームファイル](#)” (1381 ページ)を参照)。

フレームファイル

フレームファイルは、ボディファイルと、コンテンツファイルまたはページファイル(あるいはその両方)を、同時に表示できます。次の図は、コンテンツファイルとページファイルの両方を参照するフレームが、ASCII エディタではどのように(部分的に)表示されるかを示しています。SRC 属性は、ブラウザで表示するファイルを識別します。ODS は、ページファイルまたはコンテンツファイルで **HREF** 属性の値を構築するのと同じ方法で、SRC 属性の値を構築します([図 A3.5 \(1382 ページ\)](#)を参照)。

図 A3.5 HTML フレームファイルの概要

HTML Frame File: pop-frame.htm



画面 A3.1 (1384 ページ)は、同じファイルをブラウザで表示した様子を示しています。

```
options nodate pageno=1 linesize=80 pagesize=72;
data statepop;
input State $ CityPop_80 CityPop_90 NonCityPop_80 NonCityPop_90 Region @@;
label citypop_80= '1980 metropolitan pop in millions'
noncitypop_80='1980 nonmetropolitan pop in millions'
citypop_90= '1990 metropolitan pop in millions'
noncitypop_90='1990 nonmetropolitan pop in million'
region='Geographic region';
datalines;
ME .405 .443 .721 .785 1 NH .535 .659 .386 .450 1
VT .133 .152 .378 .411 1 MA 5.530 5.788 .207 .229 1
RI .886 .938 .061 .065 1 CT 2.982 3.148 .126 .140 1
NY 16.144 16.515 1.414 1.475 1 NJ 7.365 7.730 .A .A 1
PA 10.067 10.083 1.798 1.799 1 DE .496 .553 .098 .113 2
MD 3.920 4.439 .297 .343 2 DC .638 .607 . . 2
VA 3.966 4.773 1.381 1.414 2 WV .796 .748 1.155 1.045 2
NC 3.749 4.376 2.131 2.253 2 SC 2.114 2.423 1.006 1.064 2
GA 3.507 4.352 1.956 2.127 2 FL 9.039 12.023 .708 .915 2
KY 1.735 1.780 1.925 1.906 2 TN 3.045 3.298 1.546 1.579 2
AL 2.560 2.710 1.334 1.331 2 MS .716 .776 1.805 1.798 2
```

```

AR .963 1.040 1.323 1.311 2 LA 3.125 3.160 1.082 1.060 2
OK 1.724 1.870 1.301 1.276 2 TX 11.539 14.166 2.686 2.821 2
OH 8.791 8.826 2.007 2.021 3 IN 3.885 3.962 1.605 1.582 3
IL 9.461 9.574 1.967 1.857 3 MI 7.719 7.698 1.543 1.598 3
WI 3.176 3.331 1.530 1.561 3 MN 2.674 3.011 1.402 1.364 3
IA 1.198 1.200 1.716 1.577 3 MO 3.314 3.491 1.603 1.626 3
ND .234 .257 .418 .381 3 SD .194 .221 .497 .475 3
NE .728 .787 .842 .791 3 KS 1.184 1.333 1.180 1.145 3
MT .189 .191 .598 .608 4 ID .257 .296 .687 .711 4
WY .141 .134 .329 .319 4 CO 2.326 2.686 .563 .608 4
NM .675 .842 .628 .673 4 AZ 2.264 3.106 .453 .559 4
UT 1.128 1.336 .333 .387 4 NV .666 1.014 .135 .183 4
WA 3.366 4.036 .776 .830 4 OR 1.799 1.985 .834 .858 4
CA 22.907 28.799 .760 .961 4 AK .174 .226 .227 .324 4
HI .763 .836 .202 .272 4
;
run;

data statepop2 (drop=tempvar);
length state 4;
set statepop (rename=(state=tempvar));
where tempvar in('AZ', 'NM', 'TX', 'OK');
state=stfips(tempvar);
run;

ods html body='pop-body.htm'
contents='pop-contents.htm'
page='pop-page.htm'
frame='pop-frame.htm'
path='../ods'
(url=none);
ods select basicmeasures testsforlocation;
proc univariate data=statepop2 mu0=3.5;
var citypop_90;
title 'United States Census of Population and Housing';
footnote 'Data from 1990';
run;

ods listing close;
goptions reset=global gunit=pct cback=white
colors=(black blue green red)
ftext=swiss ftitle=swissb htitle=6 htext=4;
data states;
set maps.us;
where state in(04, 35, 40, 48);
run;
goptions target=gif transparency noborder;
title '1990 Metropolitan Population';
title2 f=swissb '(Arizona, New Mexico, Texas, and Oklahoma)';
proc gmap map=states data=statepop2;
format citypop_90 comma9.;
id state;
prism citypop_90 / discrete;
run;
quit;

```

```
ods html close;
ods listing;
```

画面 A3.1 HTML フレームファイルのブラウザ表示

The screenshot shows a web browser window displaying SAS output. The main content area is titled "United States Census of Population and Housing" and "The UNIVARIATE Procedure". Below this, it specifies the variable: "Variable: CityPop_90 (1990 metropolitan pop in millions)".

There are two tables displayed:

Basic Statistical Measures			
Location		Variability	
Mean	4.996000	Std Deviation	6.18300
Median	2.488000	Variance	38.22963
Mode	.	Range	13.32400
		Interquartile Range	7.28000

Tests for Location: Mu0=3.5			
Test	Statistic		p Value
Student's t	t	0.483907	Pr > t 0.6616
Sign	M	-1	Pr >= M 0.6250
Signed Rank	S	-1	Pr >= S 0.8750

Below the tables, it says "Data from 1990". At the bottom of the main content area, there is a heading: "1990 Metropolitan Popu (Arizona, New Mexico, Texas, and O".

On the left side of the browser window, there is a "Table of Contents" and "Table of Pages" pane. The "Table of Contents" lists:

- 1. The Univariate Procedure
 - CityPop_90
 - Basic Measures of Location and Variability
 - Tests For Location
- 2. The Gmap Procedure
 - PRISM Map From PROC GMAP

The "Table of Pages" pane lists:

- 1. The Univariate Procedure
 - Page 1
- 2. The Gmap Procedure
 - Page 2

付録 4

異なる動作環境で例を実行する
ODS HTML ステートメント

HTML 出力に z/OS UNIX System Services HFS ディレクトリを使用	1385
EBCDIC HTML 出力に z/OS PDSE を使用	1385
ASCII HTML 出力に z/OS PDSE を使用	1386

HTML 出力に z/OS UNIX System Services HFS ディ
レクトリを使用

```

/* Specify the files to create for the HTML output. */
/* The PATH= option specifies the location for all */
/* the HTML files. The URL= suboption prevents */
/* information from PATH= from appearing in the */
/* links and references that ODS creates. The URLs */
/* will be the same as the file specifications. */
ods html body='odsexample-body.htm'
contents='odsexample-contents.htm'
page='odsexample-page.htm'
frame='odsexample-frame.htm'
path='~'(url=none);

```

EBCDIC HTML 出力に z/OS PDSE を使用

```

/* Allocate a PDSE for the HTML Output. */
filename pdsehtml '.example.htm'
dsntype=library dsorg=po
disp=(new, catlg, delete);

/* Specify the files to create for the HTML output. */
/* These files are PDSE members. */
/* The PATH= option specifies the location for all */
/* the HTML files. The URL= suboption prevents */
/* information from PATH= from appearing in the */
/* links and references that ODS creates. The URLs */
/* will be the same as the file specifications. */
/* The RS= option creates HTML that you can work */

```

```

/* with in an editor and use on a z/OS Web server. */

ods html body='odsexb'
contents='odsexc'
page='odsexp'
frame='odsexf'
path='.example.htm'(url=none)
rs=none;

```

ASCII HTML 出力に z/OS PDSE を使用

```

/* Allocate a PDSE for the HTML Output. */
filename pdsehtml '.example.htm'
dsntype=library dsorg=po
disp=(new, catlg, delete);

/* Specify the files to create for the HTML output. */
/* These files are PDSE members. */
/* The URL= suboption in the HTML-file */
/* specifications provides a URL that will be valid */
/* after the PDSE members have been moved to an */
/* ASCII file system. When the files are */
/* transferred, they must retain their member names */
/* and have the ".htm" extension added in order for */
/* these URLs to be correct. */
/* The PATH= option specifies the location for all */
/* the HTML files. The URL= suboption in the PATH= */
/* option prevents information from PATH= from */
/* appearing in the links and references that ODS */
/* creates because it will not be a valid URL for */
/* the ASCII file system. */
/* The TRANTAB= option creates ASCII HTML that */
/* you can send to an ASCII-based Web server. */

ods html body='odsexb' (url='odsexb.htm')
contents='odsexc' (url='odsexc.htm')
page='odsexp' (url='odsexp.htm')
frame='odsexf'
path='.example.htm'(url=none)
trantab=ascii;

```

注: バイナリ転送を実行し、ファイルを Web サーバーに移動します。

付録 5

ODS スタイル要素

一般的な ODS スタイル要素	1387
テンプレートベースのグラフィックに影響するスタイル要素	1398
デバイスベースのグラフィックに影響するスタイル要素	1405

一般的な ODS スタイル要素

次の表は、ODS スタイル定義に使用可能なすべてのスタイル要素の一覧です。この表では、各スタイル要素の簡単な説明に加え、その属性からの継承元のスタイル要素についても説明します。抽象スタイル要素は、スタイル要素の生成には使用されませんが、継承する 1 つ以上のスタイル要素の親を指定します。

表 A5.1 各種スタイル要素

スタイル要素	説明	継承元
各種		
Container *	すべてのコンテナ指向要素を制御します	
Continued	テーブルが次のページにまたがる場合、継続フラグを制御します(改ページ先のみ)	TitlesAndFooters
ExtendedPage	ページがフィットしない場合のメッセージ(プリンタのみ)	TitlesAndFooters
PageNo	改ページ先のページ番号を制御します	TitlesAndFooters
Parskip	テーブル間のスペースを制御します	TitlesAndFooters
PrePage	ODS RTF/MEASURED PREPAGE=スタイルを制御します	

スタイル要素	説明	継承元
各種		
StartUpFunction	HTML 出力に追加される Javascript 関数です。ページの読み込み時に TAGATTR=属性内の Javascript コードが実行されます。	
ShutDownFunction	Shut-Down 関数を制御します。HTML 出力に追加される Javascript 関数です。ページ読み込み終了時に TAGATTR=属性内の Javascript コードが実行されます。	
UserText	ODS TEXT=スタイルを制御します	Note

* 抽象スタイル要素。抽象要素は、ODS 出力において明示的に使用されません。その使用用途は、継承のみとなります。このため、抽象スタイルはスタイルシートを生成する出力の送信先に表示されません。

表 A5.2 ドキュメントに影響するスタイル要素

スタイル要素	説明	継承元
ドキュメント		
Document	各種ドキュメントの本文を制御します。通常は、ページ背景色やページ余白などの項目が含まれます。	Container *
Body	ボディファイルを制御します	Document
Frame	HTML のフレームファイルを制御します	Document
Contents	コンテンツファイルを制御します	Document
Pages	ページファイルを制御します	Document

* 抽象スタイル要素。抽象要素は、ODS 出力において明示的に使用されません。その使用用途は、継承のみとなります。このため、抽象スタイルはスタイルシートを生成する出力の送信先に表示されません。

表 A5.3 日付に影響するスタイル要素

スタイル要素	説明	継承元
日付		
BodyDate	コンテンツファイルの日付フィールドを制御します	ContentsDate

スタイル要素	説明	継承元
日付		
Date	日付フィールドの外観を制御します	Container*
PagesDate	ページファイルの日付フィールドを制御します	Date

* 抽象スタイル要素。抽象要素は、ODS 出力において明示的に使用されません。その使用用途は、継承のみとなります。このため、抽象スタイルはスタイルシートを生成する出力の送信先に表示されません。

表 A5.4 目次およびページテーブルに影響するスタイル要素

スタイル要素	説明	継承元
目次およびページテーブル		
IndexItem	コンテンツとページのリストアイテムとフォルダを制御します	Container*
ContentFolder	コンテンツファイルのフォルダを制御します	IndexItem
ByContentFolder	コンテンツファイルの Byline フォルダを制御します	ContentFolder
ContentItem	コンテンツファイルのアイテムを制御します	IndexItem
PagesItem	ページファイルのアイテムを制御します	IndexItem
Index	各種コンテンツとページコンポーネントを制御します	Container*
IndexProcName	コンテンツとページファイルの PROC 名を制御します	Index*
ContentProcName	コンテンツファイルの PROC 名を制御します	IndexProcName
ContentProcLabel	コンテンツファイルの PROC ラベルを制御します	ContentProcName
PagesProcName	ページファイルの PROC 名を制御します	IndexProcName
PagesProcLabel	ページファイルの PROC ラベルを制御します	PagesProcName
IndexAction	フォルダとアイテムの上にマウスカーソルを置いたときのイベントの種類を決定します (HTML 専用)	IndexItem

スタイル要素	説明	継承元
目次およびページテーブル		
FolderAction	フォルダの上にマウスカーソルを置いたときのイベントの種類を決定します(HTML 専用)	IndexAction
IndexTitle	コンテンツとページファイルのタイトルを制御します	Index *
ContentTitle	コンテンツファイルのタイトルを制御します	IndexTitle

* 抽象スタイル要素。抽象要素は、ODS 出力において明示的に使用されません。その使用用途は、継承のみとなります。このため、抽象スタイルはスタイルシートを生成する出力の送信先に表示されません。

表 A5.5 タイトルおよびフッターに影響するスタイル要素

スタイル要素	説明	継承元
システムタイトルおよびフッター		
SysTitleAndFooterContainer	システムページタイトルおよびシステムページフッターのコンテナを制御します。通常、この要素はタイトル周囲のボーダーを追加するために使用されます。	Container
TitlesAndFooters	システムページタイトルテキストおよびシステムページフッターテキストを制御します	Container*
SystemTitle	システムタイトルテキストを制御します	TitlesAndFooters
SystemTitle2	システムタイトル 2 テキストを制御します	SystemTitle
SystemTitle3	システムタイトル 3 テキストを制御します	SystemTitle2
SystemTitle4	システムタイトル 4 テキストを制御します	SystemTitle3
SystemTitle5	システムタイトル 5 テキストを制御します	SystemTitle4
SystemTitle6	システムタイトル 6 テキストを制御します	SystemTitle5
SystemTitle7	システムタイトル 7 テキストを制御します	SystemTitle6
SystemTitle8	システムタイトル 8 テキストを制御します	SystemTitle7

スタイル要素	説明	継承元
システムタイトルおよびフッター		
SystemTitle9	システムタイトル 9 テキストを制御します	SystemTitle8
SystemTitle10	システムタイトル 10 テキストを制御します	SystemTitle9
SystemFooter	システムフッターテキストを制御します	TitlesAndFooters
SystemFooter2	システムフッター 2 テキストを制御します	SystemFooter
SystemFooter3	システムフッター 3 テキストを制御します	SystemFooter2
SystemFooter4	システムフッター 4 テキストを制御します	SystemFooter3
SystemFooter5	システムフッター 5 テキストを制御します	SystemFooter4
SystemFooter6	システムフッター 6 テキストを制御します	SystemFooter5
SystemFooter7	システムフッター 7 テキストを制御します	SystemFooter6
SystemFooter8	システムフッター 8 テキストを制御します	SystemFooter7
SystemFooter8	システムフッター 8 テキストを制御します	SystemFooter7
SystemFooter9	システムフッター 9 テキストを制御します	SystemFooter8
SystemFooter10	システムフッター 10 テキストを制御します	SystemFooter9

* 抽象スタイル要素。抽象要素は、ODS 出力において明示的に使用されません。その使用用途は、継承のみとなります。このため、抽象スタイルはスタイルシートを生成する出力の送信先に表示されません。

表 A5.6 プロシジャタイトルに影響するスタイル要素

スタイル要素	説明	継承元
PROC タイトル		
TitleAndNoteContainer	プロシジャ定義タイトルおよび注意事項のコンテナを制御します	Container

スタイル要素	説明	継承元
PROC タイトル		
ProcTitle	プロシジャタイトルテキストを制御します	TitlesAndFooters
ProcTitleFixed	固定フォントをリクエストするプロシジャタイトルテキストを制御します	ProcTitle

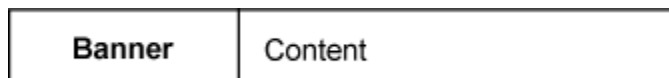
表 A5.7 Byline に影響するスタイル要素

スタイル要素	説明	継承元
Byline		
BylineContainer	Byline のコンテナを制御します 通常、Byline にボーダーを追加するために使用されます。	Container
Byline	Byline テキストを制御します	TitlesAndFooters

表 A5.8 注意事項、警告、エラー表示に影響するスタイル要素

スタイル要素	説明	継承元
注意事項、警告、エラー表示		

注意事項、警告、エラー表示は、次の図で示すように、バナー領域とコンテンツ領域の2つの領域から構成されます。通常、PRETEXT=属性を使用してバナー要素によってバナーコンテンツ(つまり、“NOTE:”、“WARNING:”など)が出力されます。



Note	注意事項バナーおよび注意事項コンテンツのコンテナを制御します	Container*
NoteBanner	NOTE:のバナーを制御します	Note
NoteContent	NOTE:のコンテンツを制御します	Note
NoteContentFixed	NOTE:のコンテンツを制御します 固定フォント。	NoteContent
WarnBanner	WARNING:のバナーを制御します	Note
WarnContent	WARNING:のコンテンツを制御します	Note

スタイル要素	説明	継承元
注意事項、警告、エラー表示		
WarnContentFixed	WARNING:のコンテンツを制御します固定フォント。	WarnContent
ErrorBanner	ERROR:のバナーを制御します	Note
ErrorContent	ERROR:のコンテンツを制御します	Note
ErrorContentFixed	ERROR:のコンテンツを制御します固定フォント。	ErrorContent
FatalBanner	FATAL:のバナーを制御します	Note
FatalContent	FATAL:のコンテンツを制御します	Note
FatalContentFixed	FATAL:のコンテンツを制御します固定フォント。	FatalContent

* 抽象スタイル要素。抽象要素は、ODS 出力において明示的に使用されません。その使用用途は、継承のみとなります。このため、抽象スタイルはスタイルシートを生成する出力の送信先に表示されません。

表 A5.9 テーブルおよびバッチ出力に影響するスタイル要素

スタイル要素	説明	継承元
テーブルおよびバッチ出力		
Output	基本出力フォームを制御します。通常、(FRAME=、RULES=、個別のボーダー制御属性を使用する)ボーダー、cell spacing、cell padding、背景色の制御に使用されます。	Container*
Table	全体のテーブルスタイルを制御します	Output
Batch	バッチモード出力を制御します	Output
TableHeaderContainer	すべての列ヘッダーの周囲にボックスを配置して制御します (RTF のみ)	Container*

スタイル要素	説明	継承元
テーブルおよびバッチ出力		

TableFooterContainer	すべての列フッターの周囲にボックスを配置して制御します (RTF のみ)	Container*
----------------------	--------------------------------------	------------

ColumnGroup	列グループの周囲にボックスを配置して制御します (RTF のみ)	Container*
-------------	----------------------------------	------------

* 抽象スタイル要素。抽象要素は、ODS 出力において明示的に使用されません。その使用用途は、継承のみとなります。このため、抽象スタイルはスタイルシートを生成する出力の送信先に表示されません。

表 A5.10 テーブル内のデータセルに影響するスタイル要素

スタイル要素	説明	継承元
テーブルデータセル		
Cell	データ、ヘッダー、フッターの各セルを制御します	Container*

スタイル要素	説明	継承元
テーブルデータセル		
Data	データセルのデフォルトスタイル	Cell
DataFixed	固定フォントをリクエストするデータセルのデフォルトスタイル	Data
DataEmpty	強調表示されたデータセルを制御します	Data
DataEmphasis	強調表示されたデータセルを制御します	Data
DataEmphasisFixed	固定フォントをリクエストする強調表示されたデータセルを制御します	DataEmphasis
DataStrong	ストロング形式の(より強調表示された)データセルを制御します	Data
DataStrongFixed	固定フォントをリクエストするストロング形式の(より強調表示された)データセルを制御します	DataStrong

* 抽象スタイル要素。抽象要素は、ODS 出力において明示的に使用されません。その使用用途は、継承のみとなります。このため、抽象スタイルはスタイルシートを生成する出力の送信先に表示されません。

表 A5.11 ヘッダーセルおよびフッターセルに影響するスタイル要素

スタイル要素	説明	継承元
テーブルのヘッダーセルおよびフッターセル		
HeadersAndFooters	テーブルのヘッダーおよびフッターを制御します	Cell*
Header	テーブルヘッダーを制御します	HeadersAndFooters
HeaderFixed	固定フォントをリクエストするテーブルヘッダーを制御します	Header
HeaderEmpty	空のテーブルヘッダーセルを制御します	Header
HeaderEmphasis	固定フォントをリクエストする強調表示されたテーブルヘッダーセルを制御します	Header
HeaderEmphasisFixed	固定フォントをリクエストする強調表示されたテーブルヘッダーセルを制御します	HeaderEmphasis

スタイル要素	説明	継承元
テーブルのヘッダーセルおよびフッターセル		
HeaderStrong	ストロング形式の(より強調表示された)テーブルヘッダーセルを制御します	Header
HeaderStrongFixed	ストロング形式の(より強調表示された)テーブルヘッダーセルを制御します	HeaderStrong
RowHeader	行ヘッダーを制御します	Header
RowHeaderFixed	固定フォントをリクエストする行ヘッダーを制御します	RowHeader
RowHeaderEmpty	空の行ヘッダーを制御します	RowHeader
RowHeaderEmphasis	強調表示された行ヘッダーを制御します	RowHeader
RowHeaderEmphasisFixed	固定フォントをリクエストする強調表示された行ヘッダーを制御します	RowHeaderEmphasis
RowHeaderStrong	ストロング形式の(より強調表示された)行ヘッダーを制御します	RowHeader
RowHeaderStrongFixed	固定フォントをリクエストするストロング形式の(強調表示された)行ヘッダーを制御します	RowHeaderStrong
FOOTER	テーブルフッターを制御します	HeadersAndFooters
FooterFixed	固定フォントをリクエストするテーブルフッターを制御します	Footer
FooterEmpty	空のテーブルフッターを制御します	Footer
FooterEmphasis	強調表示されたテーブルフッターを制御します	Footer
FooterEmphasisFixed	固定フォントをリクエストする強調表示されたテーブルフッターを制御します	FooterEmphasis
FooterStrong	ストロング形式の(より強調表示された)テーブルフッターを制御します	Footer
FooterStrongFixed	固定フォントをリクエストするストロング形式の(より強調表示された)テーブルフッターを制御します	FooterStrong

スタイル要素	説明	継承元
テーブルのヘッダーセルおよびフッターセル		
RowFooter	行フッター(ラベル)を制御します	Footer
RowFooterFixed	固定フォントをリクエストする行フッター(ラベル)を制御します	RowFooter
RowFooterEmpty	空の行フッター(ラベル)を制御します	RowFooter
RowFooterEmphasis	強調表示された行フッター(ラベル)を制御します	RowFooter
RowFooterEmphasisFixed	固定フォントをリクエストする強調表示された行フッター(ラベル)を制御します	RowFooterEmphasis
RowFooterStrong	ストロング形式の(より強調表示された)行フッター(ラベル)を制御します	RowFooter
RowFooterStrongFixed	固定フォントをリクエストするストロング形式の(より強調表示された)行フッター(ラベル)を制御します	RowFooterStrong

* 抽象スタイル要素。抽象要素は、ODS 出力において明示的に使用されません。その使用用途は、継承のみとなります。このため、抽象スタイルはスタイルシートを生成する出力の送信先に表示されません。

表 A5.12 PROC TABULATE キャプションに影響するスタイル要素

スタイル要素	説明	継承元
PROC TABULATE キャプション		
Caption	PROC TABULATE のキャプションを制御します	HeadersAndFooters*
BeforeCaption	テーブルの前に表示されるキャプションを制御します	Caption
AfterCaption	テーブルの後に表示されるキャプションを制御します	Caption

* 抽象スタイル要素。抽象要素は、ODS 出力において明示的に使用されません。その使用用途は、継承のみとなります。このため、抽象スタイルはスタイルシートを生成する出力の送信先に表示されません。

テンプレートベースのグラフィックに影響するスタイル要素

次のスタイル要素は、テンプレートベースのグラフィックに影響を及ぼし、Graph Template Language 表示設定オプションによって指定され、あるいはスタイル内で使用することもできます。テンプレートベースのグラフィックには、すべての SAS/GRAPH 出力が含まれ、この出力では、グラフィック出力を生成する上で STATGRAPH 型のコンパイル済み ODS テンプレートが使用されます。提供されるテンプレートは、Sashelp.Tmplmst に保存されます。デバイスドライバと、SYMBOL、PATTERN、AXIS、LEGEND などの一部のグローバルステートメントは、この形式のグラフィックに何の影響も及ぼしません。テンプレートベースのグラフィックを生成する共通の SAS/GRAPH プロシジャは、多数の SAS/STAT、SAS/ETS、SAS/QC プロシジャの他にも、SGPLOT、SGPANEL、SGRENDER があります。ODS グラフィックは、常に画像ファイルとして出力を生成し、ODS GRAPHICS ステートメントを使用してグラフィック環境を制御します。

特定のプロットやグラフで使用するため、特定のスタイル要素が作成されました。たとえば、スタイル要素 GraphFit2 は、2 つ目の直線のあてはめを変更する場合に最もよく使用されます。スタイル要素 GraphConfidence2 は、2 つ目の信頼区間を変更するために作成されました。次の表は、各スタイル要素によって影響を受けるか、または各スタイル要素と共に使用するよう作成されたグラフの一部、デフォルト属性値の一覧です。前述のように、属性値は PROC TEMPLATE に変更することも可能です。

各スタイル要素で指定可能なスタイル属性に関する詳細については、[\(968 ページ\)](#)を参照してください。

表 A5.13 グラフスタイル要素: 一般的なグラフの表示設定

スタイル要素	影響を受けるグラフの部分	認識される属性
Graph	グラフサイズと外側の境界線の表示設定	OutputWidth OutputHeight BorderColor BorderWidth CellPadding CellSpacing
GraphAnnoLine	注釈行	ContrastColor LineStyle LineThickness
GraphAnnoShape	円や正方形などの閉じた形の注釈	Color ContrastColor LineThickness LineStyle Transparency

スタイル要素	影響を受けるグラフの部分	認識される属性
GraphAnnoText	注釈テキスト	Font または <i>font-attributes</i> * Color MarkerSize MarkerSymbol
GraphAxisLines	X、Y、Z 軸の線	ContrastColor LineStyle LineThickness TickDisplay
GraphBackground	グラフの背景	Color Transparency
GraphBorderLines	グラフ周囲の境界線、キャプションの境界、軸の枠組みを囲む境界線	ContrastColor LineThickness LineStyle
GraphDataText	点ラベルと線ラベルのテキストフォントおよび色	Font または <i>font-attributes</i> * Color
GraphFootnoteText	脚注のテキストフォントおよび色	Font または <i>font-attributes</i> * Color
GraphLabelText	軸ラベルとキャプションタイトルのテキストフォントおよび色	Font または <i>font-attributes</i> * Color
GraphOutlines	バー、円グラフ、ボックスプロット、楕円、ヒストグラムなどの塗りつぶし領域のアウトラインプロパティ	Color ContrastColor LineStyle LineThickness
GraphReference	縦横の参照線およびドロップライン	ContrastColor LineStyle LineThickness
GraphTitleText	タイトルのテキストフォントおよび色	Font または <i>font-attributes</i> * Color
GraphUnicodeText	unicode 値のテキストフォント	Font または <i>font-attributes</i> * Color

スタイル要素	影響を受けるグラフの部分	認識される属性
GraphValueText	軸目盛り値と凡例値のテキストフォントおよび色	Font または <i>font-attributes</i> [*] Color

* *Font-attributes* は、FONTFAMILY=、FONTSIZE=、FONTSTYLE=、FONTWEIGHT=のいずれかになります。

Table A5.14 グラフィカルデータ表示に影響を与えるスタイル要素

スタイル要素	影響を受けたグラフ箇所	認識された属性
GraphBoxMean	平均値のマーカー	ContrastColor MarkerSize MarkerSymbol
GraphBoxMedian	平均値の線	ContrastColor LineStyle LineThickness
GraphBoxWhisker	Box whisker および serif	ContrastColor LineStyle LineThickness
GraphConfidence	主要な信頼線および区間、区間や線用色	ContrastColor Color MarkerSize MarkerSymbol LineStyle LineThickness
GraphConfidence2	2次信頼線および区間、区間用の色、線用の対照色	ContrastColor Color MarkerSize MarkerSymbol LineStyle LineThickness
GraphConnectLine	ボックスまたはバーを結合するためのライン	ContrastColor LineStyle LineThickness
GraphCutLine	デンドログラム用のカットライン属性	Color LineStyle

スタイル要素	影響を受けたグラフ箇所	認識された属性
GraphDataDefault	満たされた領域、マーカーおよびライン用の非グループデータアイテム、カラーに関連した関数	Color ContrastColor MarkerSymbol MarkerSize LineStyle LineThickness StartColor NeutralColor EndColor
GraphError	エラーラインまたはエラーバー、線用の対照色、バー塗りつぶし用色	ContrastColor Color LineStyle Transparency
GraphFit	一般濃度曲線などの 1 次フィットライン	ContrastColor Color MarkerSize MarkerSymbol LineStyle LineThickness
GraphFit2	カーネル型濃度曲線などの 2 次フィットライン	ContrastColor Color MarkerSize MarkerSymbol LineStyle LineThickness
GraphFinal	ウォーターフォールチャート用の最終データカラーは塗りつぶし領域に適用される。	Color ContrastColor LineStyle LineThickness MarkerSize MarkerSymbol TextColor

スタイル要素	影響を受けたグラフ箇所	認識された属性
GraphInitial	ウォーターフォールチャート用のインシヤルデータカラーは塗りつぶし領域に適用される。	Color ContrastColor LineStyle LineThickness MarkerSize MarkerSymbol TextColor
GraphMissing	欠損値を代表するグラフアイテム用のプロパティ	ContrastColor Color MarkerSymbol MarkerSize LineStyle LineThickness Transparency
GraphOther	グラフ用の他データカラーは塗りつぶし領域に適用される。	Color ContrastColor LineStyle LineThickness MarkerSize MarkerSymbol TextColor
GraphOverflow	グラフ用のオーバーフローデータカラーは塗りつぶし領域に適用される。ContrastColor は、マーカーとラインに適用される。	Color ContrastColor LineStyle LineThickness MarkerSize MarkerSymbol TextColor
GraphOutlier	グラフ用のアウトライアーデータ	ContrastColor Color MarkerSize MarkerSymbol LineStyle LineThickness

スタイル要素	影響を受けたグラフ箇所	認識された属性
GraphPrediction	プリディクション・ライン	ContrastColor Color LineStyle LineThickness MarkerSize MarkerSymbol
GraphPredictionLimits	プリディクション・ライン用のフィル	ContrastColor Color MarkerSize MarkerSymbol
GraphUnderflow	グラフ用のアンダーフローデータカラーは塗りつぶし領域に適用される。ContrastColor は、マーカーとラインに適用される。	Color ContrastColor LineStyle LineThickness MarkerSize MarkerSymbol TextColor
GraphSelection	インタラクティブグラフ、ビジュアルプロパティ用の選択されたアイテム選択された埋め込み領域用のカラー、選択されたマーカーまたはライン用の ContrastColor	ContrastColor Color MarkerSymbol MarkerSize LineStyle LineThickness
ThreeColorAltRamp	セグメント化されたレンジカラーレスポンスを伴うラインコンター、マーカーおよびデータラベル	StartColor NeutralColor EndColor
ThreeColorAltRamp	連続カラーレスポンスを伴う傾斜コンター、表面、マーカーおよびデータラベル	StartColor NeutralColor EndColor
TwoColorRamp	セグメント化されたレンジカラーレスポンスを伴うラインコンター、マーカーおよびデータラベル	StartColor EndColor
TwoColorRamp	連続カラーレスポンスを伴う傾斜コンター、表面、マーカーおよびデータラベル	StartColor EndColor

表 A5.15 グラフィカルスタイル要素: 関連データ(グループ化された)

スタイル要素	影響を受けるグラフの部分	認識される属性
GraphData1	1 番目のグループ化されたデータ項目に関するプリミティブです。Color が塗りつぶし部分に適用されます。ContrastColor がマーカーと線に適用されます。	Color ContrastColor MarkerSymbol LineStyle
GraphData2	2 番目のグループ化されたデータ項目に関するプリミティブです。	Color ContrastColor MarkerSymbol LineStyle
GraphData3	3 番目のグループ化されたデータ項目に関するプリミティブです。	Color ContrastColor MarkerSymbol LineStyle
GraphData4	4 番目のグループ化されたデータ項目に関するプリミティブです。	Color ContrastColor MarkerSymbol LineStyle
GraphData5	5 番目のグループ化されたデータ項目に関するプリミティブです。	Color ContrastColor MarkerSymbol LineStyle
GraphData6	6 番目のグループ化されたデータ項目に関するプリミティブです。	Color ContrastColor MarkerSymbol LineStyle
GraphData7	7 番目のグループ化されたデータ項目に関するプリミティブです。	Color ContrastColor MarkerSymbol LineStyle
GraphData8	8 番目のグループ化されたデータ項目に関するプリミティブです。	Color ContrastColor LineStyle
GraphData9	9 番目のグループ化されたデータ項目に関するプリミティブです。	Color ContrastColor LineStyle

スタイル要素	影響を受けるグラフの部分	認識される属性
GraphData10	10 番目のグループ化されたデータ項目に関するプリミティブです。	Color ContrastColor LineStyle
GraphData11	11 番目のグループ化されたデータ項目に関するプリミティブです。	Color ContrastColor LineStyle
GraphData12	12 番目のグループ化されたデータ項目に関するプリミティブです。	Color ContrastColor

表 A5.16 スタイル要素の表示

スタイル要素	影響を受けるグラフの部分	認識される属性	可能性のある値
GraphAltBlock	ブロックプロット用の塗りつぶし代替色	色	GraphColors("gablock")
GraphBand	信頼帯の表示オプション	DisplayOpts	"Fill"
GraphBar	棒グラフの表示オプション	DisplayOpts	"Fill outline"
GraphBox	ボックスプロットの表示オプション	DisplayOpts CapStyle Connect	"Fill caps mean Median outliers" "SERIF" "MEAN"
GraphBlock	ブロックプロットの塗りつぶし色	Color	GraphColors("gblock")
GraphEllipse	信頼楕円の表示オプション	DisplayOpts	"Outline"
GraphHistogram	ヒストグラムの表示オプション	DisplayOpts	"Fill outline"

デバイスベースのグラフィックに影響するスタイル要素

デバイスベースのグラフィックはすべての SAS/GRAPH 出力で、この出力には、グラフィック出力の特定のアスペクトを制御するユーザー指定またはデフォルトのデバイス (DEVICE=オプション) があります。提供されるデバイスドライバは、Sashelp.Devices カタログに保存されます。デバイスドライバの例としては、SASPRTC、GIF、WIN、ACTIVEX、PDF、SVG があります。デバイスベースのグラフィックを生成する共通の SAS/GRAPH プロシジャは、GPLOT、GCHART、GMAP です。大半のデバイスベースのグラフィックは、出力として GRSEG カタログエントリを生成し、GOPTIONS ステートメントを使用してグラフィック環境を制御します。

各スタイル要素で指定可能なスタイル属性に関する詳細については、(968 ページ)を参照してください。

注: これらのスタイル要素がデバイスベースのグラフィックに影響を及ぼすのは、GSTYLE システムオプションが有効な場合のみです(SAS 9.2 のデフォルト設定)。NOGSTYLE システムオプションが指定されている場合、グラフでは一切のスタイル情報が使用されません。GSTYLE システムオプションの詳細については *XisError: PIERS Cross Reference Title not yet defined for alias = "lesysoptsref, ", locale = "ja", and source file = "sas.xis.doc.xml://odsug/xml/styleElements_append.xml". This crossProjectReferenceBookTitle is being referenced by project odsug(ja):dev/mva-v940.* を参照してください。

表 A5.17 デバイスベースのグラフスタイル要素: 一般的なグラフの表示設定

スタイル要素	影響を受けるグラフ	認識される属性
DropShadowStyle	テキストタイプで使用	Color
Graph	グラフのサイズと外縁の表示設定	OutputWidth OutputHeight BORDERCOLOR BORDERWIDTH CELLPADDING CELLSPACING
GraphAxisLines	X、Y および Z 軸の線	Color LineStyle LineThickness
GraphBackground	グラフの背景	Transparency BackgroundColor Gradient_Direction StartColor EndColor BackGroundImage Image VerticalAlign TextAlign
GraphBorderLines	グラフの壁、凡例の境界線、軸フレームを決める境界線	Color LineThickness LineStyle

スタイル要素	影響を受けるグラフ	認識される属性
GraphCharts	グラフ内のすべての図	Transparency BackgroundColor Gradient_Direction StartColor EndColor BackGroundImage Image VerticalAlign TextAlign
GraphDataText	点ラベルおよび線ラベルのテキストのフォントと色	フォントまたはフォント属性 Color
GraphFloor	3D フロア	BackgroundColor Transparency Gradient_Direction StartColor EndColor BackGroundImage Image VerticalAlign TextAlign
GraphFootnoteText	フットノートのテキストのフォントと色	フォントまたはフォント属性 Color
GraphGridLines	主要な目盛り位置に描かれる水平/ 垂直グリッド線	Color LineStyle LineThickness Transparency displayopts
GraphGridLines	主要な目盛り位置に描かれる水平/ 垂直グリッド線	Color LineStyle LineThickness Transparency displayopts
GraphLegendBackground	凡例の背景色	Color Transparency
GraphOutlines	塗りつぶし領域(棒、円スライス、箱ひげ図など)のアウトラインプロパティ	Color LineStyle LineThickness

スタイル要素	影響を受けるグラフ	認識される属性
GraphTitleText	タイトルのテキストのフォントと色	フォントまたはフォント属性 Color
GraphValueText	軸の目盛りおよび凡例の値の、テキストのフォントと色	フォントまたはフォント属性 Color
GraphWalls	軸で囲まれた垂直の壁	Transparency BackgroundColor Gradient_Direction StartColor EndColor BackGroundImage Image

* フォント属性は、FONTFAMILY=、FONTSIZE=、FONTSTYLE=、FONTWEIGHT=のいずれかになります。

表 A5.18 デバイスベースのノングループグラフィカルデータ表示に影響するスタイル要素

スタイル要素	影響を受けるグラフの部分	デフォルトの属性
GraphCutLine	デンドログラム用のカットライン属性	Color LineStyle
GraphFinal	ウォーターフォールチャート用の最終データ Color が塗りつぶし部分に適用されます。	Color ContrastColor LineStyle LineThickness MarkerSize MarkerSymbol TextColor
GraphInitial	ウォーターフォールチャート用の初期データ Color が塗りつぶし部分に適用されます。	Color ContrastColor LineStyle LineThickness MarkerSize MarkerSymbol TextColor

スタイル要素	影響を受けるグラフの部分	デフォルトの属性
GraphOther	グラフ用のその他データ Color が塗りつぶし部分に適用されます。	Color ContrastColor LineStyle LineThickness MarkerSize MarkerSymbol TextColor
GraphOverflow	グラフ用のオーバーフローデータ Color が塗りつぶし部分に適用されます。ContrastColor がマーカーと線に適用されます。	Color ContrastColor LineStyle LineThickness MarkerSize MarkerSymbol TextColor
GraphUnderflow	グラフ用のアンダーフローデータ Color が塗りつぶし部分に適用されます。ContrastColor がマーカーと線に適用されます。	Color ContrastColor LineStyle LineThickness MarkerSize MarkerSymbol TextColor
ThreeColorAltRamp	輪郭、マーカーおよびデータラベルの断片的な色表示	StartColor NeutralColor EndColor
ThreeColorRamp	勾配線、表面、マーカーおよびデータラベルの連続的な色表示	StartColor NeutralColor EndColor
TwoColorAltRamp	輪郭、マーカーおよびデータラベルの断片的な色表示	StartColor EndColor
TwoColorRamp	勾配線、表面、マーカーおよびデータラベルの連続的な色表示	StartColor EndColor

表 A5.19 デバイスベースのグループ化されたグラフデータの表示に影響するスタイル要素

スタイル要素	影響を受けるグラフの部分	デフォルトの属性
GraphData1	1 番目のグループ化されたデータ項目に関するプリミティブです。Color が塗りつぶし部分に適用されます。ContrastColor がマーカーと線に適用されます。	Color ContrastColor MarkerSymbol LineStyle MarkerSize LineThickness Gradient_Direction StartColor EndColor BackGroundImage Image
GraphData2	2 番目のグループ化されたデータ項目に関するプリミティブです。	Color ContrastColor MarkerSymbol LineStyle MarkerSize LineThickness Gradient_Direction StartColor EndColor BackGroundImage Image
GraphData3	3 番目のグループ化されたデータ項目に関するプリミティブです。	Color ContrastColor MarkerSymbol LineStyle MarkerSize LineThickness Gradient_Direction StartColor EndColor BackGroundImage Image

スタイル要素	影響を受けるグラフの部分	デフォルトの属性
GraphData4	4 番目のグループ化されたデータ項目に関するプリミティブです。	Color ContrastColor MarkerSymbol LineStyle MarkerSize LineThickness Gradient_Direction StartColor EndColor BackGroundImage Image
GraphData5	5 番目のグループ化されたデータ項目に関するプリミティブです。	Color ContrastColor MarkerSymbol LineStyle MarkerSize LineThickness Gradient_Direction StartColor EndColor BackGroundImage Image
GraphData6	6 番目のグループ化されたデータ項目に関するプリミティブです。	Color ContrastColor MarkerSymbol LineStyle MarkerSize LineThickness Gradient_Direction StartColor EndColor BackGroundImage Image

スタイル要素	影響を受けるグラフの部分	デフォルトの属性
GraphData7	7 番目のグループ化されたデータ項目に関するプリミティブです。	Color ContrastColor MarkerSymbol LineStyle MarkerSize LineThickness Gradient_Direction StartColor EndColor BackGroundImage Image
GraphData8	8 番目のグループ化されたデータ項目に関するプリミティブです。	Color ContrastColor MarkerSymbol LineStyle MarkerSize LineThickness Gradient_Direction StartColor EndColor BackGroundImage Image
GraphData9	9 番目のグループ化されたデータ項目に関するプリミティブです。	Color ContrastColor MarkerSymbol LineStyle MarkerSize LineThickness Gradient_Direction StartColor EndColor BackGroundImage Image

スタイル要素	影響を受けるグラフの部分	デフォルトの属性
GraphData10	10 番目のグループ化されたデータ項目に関するプリミティブです。	Color ContrastColor MarkerSymbol LineStyle MarkerSize LineThickness Gradient_Direction StartColor EndColor BackGroundImage Image
GraphData11	11 番目のグループ化されたデータ項目に関するプリミティブです。	Color ContrastColor MarkerSymbol LineStyle MarkerSize LineThickness Gradient_Direction StartColor EndColor BackGroundImage Image
GraphData12	12 番目のグループ化されたデータ項目に関するプリミティブです。	Color ContrastColor MarkerSymbol LineStyle MarkerSize LineThickness Gradient_Direction StartColor EndColor BackGroundImage Image

用語集

ActiveX

Microsoft によって開発されたテクノロジーで、Web ページに対話機能を追加するために使用されます。

ActiveX コントロール

Windows オペレーティング環境用に特別に開発された Web アプリケーションのタイプ。ActiveX コントロールによって、Web ユーザーは対話機能を利用できます。

cellvalue

PROC FREQ によってクロス集計表用に生成される値の 1 つ。Cellvalues は、クロス集計表テンプレート内の DEFINE CELLVALUE ステートメントによって定義されます。

DOCUMENT 出力先

出力オブジェクトの階層を生成する SAS Output Delivery System (ODS) の出力先。DOCUMENT 出力先によって、PROC ステップまたは DATA ステップを再実行しなくても、複数の ODS 出力フォーマットをレンダリングすることができると共に、出力構造全体をさらに制御できるようになります。

HTML

HyperText Markup Language を参照してください。

HyperText Markup Language

コードによってテキストファイル内のレイアウトとテキストのスタイルが指定されるコーディングシステム。その他の HTML コードによって、画像、サウンド、動画ストリーム、アプレット(小型のソフトウェアアプリケーション)などの電子オブジェクトを HTML ドキュメントに埋め込むことができます。すべての Web ブラウザは、HTML ドキュメントを処理できます。短い形式は HTML です。

ODS

Output Delivery System を参照してください。

ODS イベント

出力を生成する原因となるタグセット定義内の操作。通常、イベントのトリガーは SAS ですが、その他のイベントによってトリガーすることも可能です。

ODS エントリ

ODS ドキュメント内のアイテム。ODS エントリには、リンク、出力オブジェクト、ファイル、パーティション化されたデータセットがあります。

ODS グラフ

ODS の拡張機能で、Graph Template Language を使用して分析用グラフを作成するために使用されます。

ODS 出力

任意の ODS 出力先によって生成される書式設定済みの出力。たとえば、OUTPUT 出力先によって SAS データセットが生成され、リスト出力先によってリスト出力が生成され、HTML 出力先によってハイパーテキストマークアップ言語で書式設定された出力が生成されます。

ODS 出力先

特定の種類の出力を生成するために Output Delivery System によって使用される指定。ODS 出力先の種類には、HTML、XML、リスト、PostScript、RTF、SAS データセットなどが含まれます。

ODS スタイル

スタイル定義を参照してください。

ODS テンプレート

書式を設定するときに出力の表示される方法に関する説明。ODS テンプレートは、テンプレートストア(別名アイテムストア)でコンパイルされたエントリとして保存されます。共通テンプレートタイプには、STATGRAPH、STYLE、CROSSTABS、TAGSET、TABLE が含まれます。

ODS ドキュメント

DOCUMENT プロシジャによって作成される出力オブジェクトの階層。これらのオブジェクトは、書式設定されない形式で SAS アイテムストア内に配置されます。

ODS ドキュメントのパス

ODS ドキュメント内のエントリの場所。

ODS パッケージ

パッケージは、消費者へのデリバリ用に生成または収集される、デジタルコンテンツのコンテナです。ODS パッケージにより、ODS 出力先は SAS Publishing Framework を使用できるようになります。

ODS プリンタファミリ

ODS ステートメントのグループで、高解像度プリンタでの印刷に適した PostScript (PS)、PDF、PCL などの形式で出力を生成します。

ODS マークアップファミリ

ODS ステートメントのグループで、HTML (ハイパーテキストマークアップ言語)、XML (拡張マークアップ言語)、LaTeX などのマークアップ言語を使用して書式設定される SAS 出力を生成します。SAS では、DOCBOOK から TROFF に至るマークアップ言語が提供されています。SAS 提供のマークアップ言語を指定するか、独自の言語を作成し、ユーザー定義のマークアップ言語として保存できます。

Output Delivery System

マークアップ言語(HTML/XML)、PDF、リスト、RTF、PostScript、SAS データセットなどの各種フォーマットで出力を生成できる SAS ソフトウェアのコンポーネント。短縮名は ODS です。

Publishing Framework

SAS Integration Technologies のコンポーネント。これを使用すると、ユーザーとアプリケーションの両方が SAS ファイル(データセット、カタログ、データベース表示)、他のデジタルコンテンツ、システム生成イベントをさまざまな出力先にパブリッシュ

できます。また、Publishing Framework では、ユーザーとアプリケーションの両方が、パブリッシュされた情報を取得および処理できるツールを利用できます。

SASEDOC エンジン

SAS libref (ライブラリ参照)を、ODS ドキュメントに保存される 1 つ以上の ODS 出力オブジェクトに関連付ける SAS エンジンです。

アイテムストア

単独でアクセス可能な情報の集合から構成される SAS データセット。アイテムストアのコンテンツは、ディレクトリツリー構造で整理されますが、これは UNIX システムサービスや Windows で使用されるディレクトリ構造に類似しています。たとえば、特定の値はディレクトリパス(root_dir/sub_dir/value)を使用して保存および配置できます。アイテムストアの一例として、SAS レジストリがあります。

アクセスモード

ユーザーが持つアイテムストアへのアクセスレベル。使用可能なアクセスモードは、読み取り、書き込み、更新です。

アフターノート

出力オブジェクトが表示されるたびに、ODS で出力オブジェクトの後に表示される説明。テキストは、オブジェクトを生成したプロシジャによって出力オブジェクトに割り当てられます。

アンチエイリアシング

通常はギザギザの縁が表示されるグラフ内のテキストや曲線の輪郭をぼかすことで、それらの見映えを良くするためのレンダリング手法。画質向上の度合いは、グラフィックコンテンツの性質に関連します(たとえば、縦横の線にはアンチエイリアシングが効きません)。アンチエイリアシングを実行するには、追加処理が必要になります。

インラインフォーマット

Output Delivery System (ODS)の機能で、ODS ESCAPECHAR ステートメントを使用すると、シンプル形式テキストを ODS 出力に挿入できます。

エイリアシング

コンピュータによって生成される画像における視覚効果で、いくつかの種類のリレンダリングの問題(直線やポリゴンに沿ったギザギザの縁など)が生まれます。エイリアシングが発生するのは、ピクセルサイズより小さいオブジェクトや極めて狭小なオブジェクトをレンダリングしようとするときです。複雑な背景では、細かい詳細が損なわれたり、エイリアシングによって解像度を超えて変形したりする場合があります。

グラフィックテンプレート

ODS テンプレートを参照してください。

グラフセグメント

ODS において、グラフを含むファイルタイプまたは出力オブジェクト。グラフは、SAS/GRAPH 内のものを含め、一部の SAS プロシジャで作成されます。グラフ出力オブジェクトは、GRSEG として参照されます。

クロス集計

クロス集計表を参照してください。

クロス集計表

2 つ以上のカテゴリデータアイテムのインターセクションに関する頻度分布やその他の総統計を表示する 2 次元の表。クロス集計表では、カテゴリは列と行の両方

に表示され、各セル値は特定の行と列におけるカテゴリの共通部分からのデータ結果を示します。

再生

ODS における、分析やデータクエリを再実行せずに、同一または異なるフォーマットの DOCUMENT プロシジャによる出力の再生成。

集計保存場所

オペレーティングシステム内の場所で、個別ファイルのグループを含めることができます。この場所の正確な名前は、ディレクトリ、フォルダ、パーティション化されたデータセットなど、オペレーティングシステムごとに異なります。

出力オブジェクト

DATA ステップまたは PROC ステップによって生成されるデータを含むプログラミングオブジェクト。また、そのデータの書式を設定する方法に関する情報を提供するテーブル定義も含まれます。

出力先

ODS 出力先を参照してください。

除外リスト

指定した ODS 出力先からどの出力オブジェクトを除外するかを ODS に通知するリスト。

スカラー変数

1 次元の数値または文字データを含むメモリ変数の種類。作成すると、スカラー変数はすべてのイベントでグローバルに使用できるようになります。

スタイル

スタイル定義を参照してください。

スタイル属性

色、フォントプロパティ、ライン特性などの資格プロパティで、予約名と ODS で定義される値が含まれます。スタイル属性は、スタイル定義内のスタイル要素によって集合的に参照されます。

スタイル定義

SAS 出力のプレゼンテーション特徴(色、フォントフェイス、フォントサイズなど)の指示を指定するテンプレート。このテンプレートによって、スタイルを使用するドキュメントの全体の表示設定が決定します。各スタイル定義はスタイル要素によって構成されます。

スタイル定義の継承

子スタイル定義が、その親スタイル定義で指定されるすべてのスタイル要素、属性、ステートメントを受け取る概念(子スタイル定義によって優先されない場合)。

スタイル要素

ODS 出力の特定パートに影響を与えるスタイル属性の名前付きの集合。たとえば、スタイル要素によって、テーブルやグラフ内のタイトルテキストとフォントプロパティが指定されます。

スタイル要素の継承

子スタイル要素が、その親スタイル要素で指定されるすべてのスタイル属性を受け取る概念(子スタイル要素によって優先されない場合)。

ストリーム変数

ODS イベント内の出力を含む一時アイテムストア。ストリーム変数が開放されている間は、全出力は閉鎖されるまで直接移動されます。

タグセット

SAS 形式からマークアップ言語の出力タイプを作成する方法を定義するテンプレート。タグセットによって、Hypertext Markup Language(HTML)、拡張マークアップ言語(XML)、LaTeX などのマークアップ出力が生成されます。

タグセット定義

SAS 出力のマークアップ言語作成用の命令を指定するテンプレート。結果の出力には、レイアウトと一部のコンテンツを定義するための埋め込み型命令が含まれます。各タグセット定義には、イベント定義と、出力の生成を制御するイベント属性が含まれます。SAS によって、各種マークアップ言語のタグセット定義が提供されます。TEMPLATE プロシジャを使用すると、これらの SAS タグセットのいずれかを変更したり、独自のタグセットを作成したりすることができます。

注釈

データから取得されないラベル、マーカー、説明。ただし、グラフには単独で配置されます。このような注釈は、プロット内のデータ値にリンクされる場合もあればリンクされない場合もあります。

データコンポーネント

SAS データセットに類似する形式で、DATA ステップまたは ODS をサポートする PROC ステップの結果(数値と文字)が含まれます。

テーブル属性

ヘッダーのレイアウト、ラインスペーシング、行や列のレイアウトなどの書式設定プロパティ。予約名と ODS で定義される値が含まれます。

テーブル定義

Output Delivery System (ODS)で出力の書式を設定する方法を記述する手順の集合。

テーブルテンプレート

表形式出力オブジェクトの出力を表示する方法を記述するテンプレート。テーブルテンプレートによって、表のヘッダーとフッターの順序、列の順序、テンプレートで使用される出力オブジェクトの全体の表示設定が決まります。各テーブルテンプレートは、テーブル要素を含むか、または参照します。

テーブル要素

テーブル属性の集合で、各属性は ODS 出力のテーブル内の特定の列、ヘッダー、フッターに関連します。

ディクショナリ変数

メモリ変数の一種で、キーごとに識別可能な数値やテキスト文字列のリストが含まれる配列によって構成されます。ディクショナリ変数には、その名前の一部として、前に '\$' 記号とサブスクリプト(テキスト文字列を含む)が含まれます。サブスクリプト内のテキスト文字列はキーと呼ばれます。たとえば、\$MyDictionary['dog'] というディクショナリ変数は、テキスト文字列 'dog' を含む \$MyDictionary 変数内のエントリを示します。

デバイススペースのグラフィック

SAS/GRAPH ソフトウェアを使用して作成されたグラフで、ユーザーが作成したデバイスまたはデフォルトのデバイス(DVICE=オプション)によって特定のグラフィック出力特徴が制御されます。

テンプレートストア

TEMPLATE プロシジャによって作成済みの定義を含むアイテムストア。SAS によって生成される定義は、アイテムストア Sashelp.Tmplmst 内にあります。ユーザーが作成する定義をユーザーが書き込みアクセスを持つあらゆるテンプレートストア内に保管できます。

ビフォアノート

出力オブジェクトが表示されるたびに、ODS で出力オブジェクトの前に表示される説明。テキストは、オブジェクトを生成したプロシジャによって出力オブジェクトに割り当てられます。

頻度テーブル

SAS データセットにおける全オブザベーション内で変数に含まれる重複しない値を一覧表示するテーブル。各値について、テーブルでは、その値を含む変数のオブザベーションの数も一覧で表示されます。

フッター属性

フッターコンテンツの表示設定やフッターの配置などのフッターの特徴を制御する書式設定プロパティ。フッター属性には、予約名と ODS で定義される値が含まれます。

プリンタファミリ

ODS プリンタファミリを参照してください。

ヘッダー属性

ヘッダーコンテンツの表示設定やヘッダーの配置などのヘッダーの特徴を制御する書式設定プロパティ。ヘッダー属性には、予約名と ODS で定義される値が含まれます。

マーカー

ひし形、円形、四角形などの記号で、プロットまたはグラフ内のデータポイントについて場所を指定したり、注釈を付けたりする際に使用されます。

マークアップ言語

レイアウトや特定のコンテンツを定義するためにテキスト内に埋め込まれるコードセット。

マークアップファミリ

ODS マークアップファミリを参照してください。

メモリ変数

数値データ、文字データ、または数値/文字データのリストを含む ODS イベント内のメモリー領域。メモリ変数は、キーを含むサブスクリプトを使用して作成する場合にはディクショナリ変数として分類され、空白またはインデックスを含むサブスクリプトを使用して作成する場合にはリスト変数として分類されます。キー/インデックスを指定しない場合、変数の値に応じてメモリ変数は数値または文字スカラー変数になります。

リスト出力

モノスペースフォント内の SAS プロシジャ出力。リスト出力内の全テキストのサイズは同一で、特別なフォントスタイルは適用されません。

リスト出力先

従来の SAS 出力(モノスペース形式)を生成する ODS 出力先。

リスト変数

メモリ変数の一種で、インデックス付きの数値やテキスト文字列のリストが含まれる配列によって構成されます。リスト変数には、その名前の一部として、前に'\$'記号とサブスクリプト(空白または数値や数値変数が含まれる)が含まれます。サブスクリプト内の数値はインデックスと呼ばれます。たとえば、リスト変数\$Mylist[2]は、リスト変数\$Mylist 内の 2 番目のエントリを示します。この場合、インデックスは 2 です。

ルートファイルの場所

ODS ドキュメントにおけるファイルの場所の最上位レベル。ルートファイルの場所は、別のファイルの場所内には含まれず、名前も割り当てられません。ルートファイルの場所は、Windows オペレーティング環境のルートディレクトリに類似しています。

列属性

列の特徴(セルコンテンツの表示設定、データパネルの表示、列ヘッダーのカスタマイゼーションなど)を制御する書式設定プロパティ。列属性には、予約名と ODS で定義された値が含まれます。

キーワード

ODS オプション
 PUT ステートメント 60, 739
 SELF オプション
 STYLE ステートメント(TEMPLATE)
 967

|
 |スタイル属性 961

A

ABBR=ヘッダー属性 1091
 ABSTRACT=オプション
 ODS PACKAGE ステートメント 472
 ABSTRACT=スタイル属性 978
 ACECLUS プロシジャ
 ODS テーブル名 1257
 Acrobat Distiller 547, 570
 ACRONYM=ヘッダー属性 1091
 ACTIVEFOOTN オプション
 REPLAY ステートメント(DOCUMENT)
 795
 ACTIVELINKCOLOR=スタイル属性
 978
 ACTIVETITLE オプション
 REPLAY ステートメント(DOCUMENT)
 795
 ActiveX デバイス
 CODEBASE ファイルパス 128
 AFTER=オプション 788
 COPY TO ステートメント
 (DOCUMENT) 761
 IMPORT TO ステートメント
 (DOCUMENT) 773
 LINK ステートメント(DOCUMENT)
 774
 MAKE ステートメント(DOCUMENT)
 782

MOVE TO ステートメント
 (DOCUMENT) 782
 NOTE ステートメント(DOCUMENT)
 788
 OBPAGE ステートメント(DOCUMENT)
 791
 ALT=ヘッダー属性 1092
 ANCHOR=オプション
 ODS MARKUP ステートメント 407
 ODS PDF ステートメント 489
 ODS PRINTER ステートメント 539
 ODS PS ステートメント 563
 ODS RTF ステートメント 576
 ANCHOR オプション
 ODS CHTML ステートメント 120
 ODS CSVALL ステートメント 153
 ODS DOCBOOK ステートメント 186
 ODS HTML3 ステートメント 253
 ODS HTMLCSS ステートメント 337
 ODS HTML ステートメント 287
 ODS IMODE ステートメント 370
 ODS PHTML ステートメント 506
 ODS TAGSETS.RTF ステートメント
 655
 ODS WML ステートメント 708
 ODS タグセットステートメント 620
 ANOVA プロシジャ
 ODS テーブル名 1258
 ANTIALIAS=オプション
 ODS GRAPHICS ステートメント 241
 ANTIALIASMAX=オプション
 ODS GRAPHICS ステートメント 242
 ANTIALIAS オプション
 ODS GRAPHICS ステートメント 241
 APPEND オプション
 ODS PATH ステートメント 478
 PATH ステートメント(TEMPLATE)
 866
 ARCHIVE=オプション
 ODS MARKUP ステートメント 408
 ARCHIVE オプション

- ODS CHTML ステートメント 121
 - ODS CSVALL ステートメント 154
 - ODS DOCBOOK ステートメント 187
 - ODS HTML3 ステートメント 254
 - ODS HTMLCSS ステートメント 337
 - ODS HTML ステートメント 287
 - ODS IMODE ステートメント 370
 - ODS PHTML ステートメント 507
 - ODS WML ステートメント 709
 - ODS タグセットステートメント 620
 - ARIMA プロシジャ
 - ODS テーブル名 1319
 - ASIS=スタイル属性 979
 - AS オプション
 - EDIT ステートメント(TEMPLATE) 962, 1111
 - ATTRIBUTES=オプション
 - ODS MARKUP ステートメント 408
 - ATTRIBUTES オプション
 - ODS CHTML ステートメント 122
 - ODS CSVALL ステートメント 154
 - ODS DOCBOOK ステートメント 187
 - ODS HTML3 ステートメント 254
 - ODS HTMLCSS ステートメント 338
 - ODS HTML ステートメント 288
 - ODS IMODE ステートメント 371
 - ODS PHTML ステートメント 508
 - ODS WML ステートメント 710
 - ODS タグセットステートメント 621
 - AUTHOR=オプション
 - ODS PDF ステートメント 490
 - ODS PRINTER ステートメント 540
 - ODS PS ステートメント 564
 - ODS RTF ステートメント 577
 - AUTHOR オプション
 - ODS TAGSETS.RTF ステートメント 656
 - AUTOREG プロシジャ
 - ODS テーブル名 1321
- B**
- BACKGROUNDCOLOR=スタイル属性 979
 - BACKGROUNDIMAGE=スタイル属性 979
 - BACKGROUNDREPEAT=スタイル属性 980
 - BALANCE テーブル属性 1103
 - BASE=オプション
 - ODS MARKUP ステートメント 409
 - ODS PDF ステートメント 490
 - ODS PRINTER ステートメント 540
 - ODS PS ステートメント 564
 - ODS RTF ステートメント 577
 - BASE オプション
 - ODS CHTML ステートメント 122
 - ODS CSVALL ステートメント 155
 - ODS DOCBOOK ステートメント 188
 - ODS HTML3 ステートメント 255
 - ODS HTMLCSS ステートメント 339
 - ODS HTML ステートメント 289
 - ODS IMODE ステートメント 372
 - ODS PHTML ステートメント 508
 - ODS WML ステートメント 710
 - ODS タグセットステートメント 622
 - BOOKMARKGEN=オプション
 - ODS PDF ステートメント 491
 - ODS PRINTER ステートメント 541
 - ODS PS ステートメント 565
 - BOOKMARKLIST=オプション
 - ODS PDF ステートメント 490
 - ODS PRINTER ステートメント 540
 - ODS CHTML ステートメント 122
 - ODS CSVALL ステートメント 155
 - ODS DOCBOOK ステートメント 188
 - ODS HTML3 ステートメント 255
 - ODS HTMLCSS ステートメント 338
 - ODS HTML ステートメント 288
 - ODS IMODE ステートメント 371
 - ODS PHTML ステートメント 508
 - ODS TAGSETS.RTF ステートメント 656
 - ODS WML ステートメント 710
 - ODS タグセットステートメント 621
 - BEFORE=オプション
 - COPY TO ステートメント (DOCUMENT) 761
 - IMPORT TO ステートメント (DOCUMENT) 773
 - LINK ステートメント(DOCUMENT) 774
 - MAKE ステートメント(DOCUMENT) 782
 - MOVE TO ステートメント (DOCUMENT) 782
 - NOTE ステートメント(DOCUMENT) 788
 - BLANK_DUPS 列属性 1077
 - BLANK_INTERNAL_DUPS 列属性 1077
 - BLOCK ステートメント
 - TEMPLATE プロシジャ 1186
 - BODY=オプション
 - ODS MARKUP ステートメント 409
 - BODYSCROLLBAR=スタイル属性 980
 - BODYSIZE=スタイル属性 981
 - BODYTITLE_AUX オプション
 - ODS RTF ステートメント 578
 - BODYTITLE オプション
 - ODS RTF ステートメント 577
 - BODY オプション
 - ODS CHTML ステートメント 122
 - ODS CSVALL ステートメント 155
 - ODS DOCBOOK ステートメント 188
 - ODS HTML3 ステートメント 255
 - ODS HTMLCSS ステートメント 339
 - ODS HTML ステートメント 289
 - ODS IMODE ステートメント 372
 - ODS PHTML ステートメント 508
 - ODS WML ステートメント 710
 - ODS タグセットステートメント 622
 - BOOKMARKGEN=オプション
 - ODS PDF ステートメント 491
 - ODS PRINTER ステートメント 541
 - ODS PS ステートメント 565
 - BOOKMARKLIST=オプション
 - ODS PDF ステートメント 490
 - ODS PRINTER ステートメント 540

- ODS PS ステートメント 564
 - BORDER=オプション
 - ODS GRAPHICS ステートメント 242
 - BORDERBOTTOMCOLOR=スタイル属性 981
 - BORDERBOTTOMSTYLE=スタイル属性 981
 - BORDERBOTTOMWIDTH=スタイル属性 981
 - BORDERCOLOR=スタイル属性 982
 - BORDERCOLORDARK=スタイル属性 982
 - BORDERCOLORLIGHT=スタイル属性 982
 - BORDERLEFTCOLOR=スタイル属性 982
 - BORDERLEFTSTYLE=スタイル属性 982
 - BORDERRIGHTCOLOR=スタイル属性 983
 - BORDERRIGHTSTYLE=スタイル属性 983
 - BORDERRIGHTWIDTH=スタイル属性 983
 - BORDERSPACING=スタイル属性 983
 - BORDERTOPCOLOR=スタイル属性 984
 - BORDERTOPSTYLE=スタイル属性 984
 - BORDERTOPWIDTH=スタイル属性 984
 - BORDERWIDTH=スタイル属性 984
 - BORDER オプション
 - ODS GRAPHICS ステートメント 242
 - BREAK ステートメント
 - TEMPLATE プロシジャ 1187
 - BYGROUPS オプション
 - LIST ステートメント(DOCUMENT) 776
 - BYLINE=テーブル属性 1103
 - BY 行 802
 - BY グループ
 - DOCUMENT プロシジャ 801
 - BY グループのエントリ
 - リスト表示 827
 - BY 変数値 801
 - BY 変数名 802
- C**
- CALENDAR プロシジャ
 - ODS テーブル名 1247
 - CALIS プロシジャ
 - ODS テーブル名 1260
 - CANCORR プロシジャ
 - ODS テーブル名 1265
 - CANDISC プロシジャ
 - ODS テーブル名 1266
 - CATALOG オプション
 - ODS DOCUMENT ステートメント 217
 - CATALOG プロシジャ
 - ODS テーブル名 1248
 - CATMOD プロシジャ
 - ODS テーブル名 1268
 - CELLHEIGHT=スタイル属性 992
 - CELLPADDING=スタイル属性 985
 - CELLSTYLE AS ステートメント 884
 - CELLSTYLE-AS ステートメント、
TEMPLATE プロシジャ
テーブル定義 1066
 - CELLSTYLE-AS ステートメント、
TEMPLATE プロシジャ
列定義 884
 - CELLVALUE ステートメント 886
 - CENTER テーブル属性 1103
 - CHARSET=オプション
 - ODS MARKUP ステートメント 412
 - CHARSET オプション
 - ODS CHTML ステートメント 125
 - ODS CSVALL ステートメント 158
 - ODS DOCBOOK ステートメント 191
 - ODS HTML3 ステートメント 258
 - ODS HTMLCSS ステートメント 341
 - ODS HTML ステートメント 291
 - ODS IMODE ステートメント 374
 - ODS PHTML ステートメント 511
 - ODS WML ステートメント 713
 - ODS タグセットステートメント 624
 - CHART プロシジャ
 - ODS テーブル名 1248
 - CHOOSE_FORMAT=列属性 1077
 - CHTML 出力先 117
 - CHTML タグセット 618
 - CLASS=スタイル属性 985
 - CLASSLEVELS=テーブル属性 1104
 - CLASS ステートメント
 - TEMPLATE プロシジャ 960
 - CLEAR オプション
 - ODS PACKAGE ステートメント 472
 - CLEAR 操作
 - ODS OUTPUT ステートメント 455
 - CLOSE アクション
 - ODS PS ステートメント 563
 - CLOSE オプション
 - ODS CHTML ステートメント 120
 - ODS DOCBOOK ステートメント 186
 - ODS HTML3 ステートメント 253
 - ODS HTMLCSS ステートメント 336
 - ODS HTML ステートメント 286
 - ODS IMODE ステートメント 369
 - ODS PHTML ステートメント 506

- ODS TAGSETS.RTF ステートメント 655
- ODS WML ステートメント 708
- ODS タグセットステートメント 617
- CLOSE ステートメント
 - TEMPLATE プロシジャ 1187
- CLOSE 操作
 - ODS CSVALL ステートメント 153
 - ODS DOCUMENT ステートメント 216
 - ODS LISTING ステートメント 400
 - ODS MARKUP ステートメント 404, 407
 - ODS OUTPUT ステートメント 455
 - ODS PCL ステートメント 480
 - ODS PDF ステートメント 489
 - ODS PRINTER ステートメント 539
 - ODS RTF ステートメント 576
- CLUSTER プロシジャ
 - ODS テーブル名 1269
- CODE=オプション
 - ODS MARKUP ステートメント 412
- CODEBASE=オプション
 - ODS MARKUP ステートメント 414
- CODEBASE オプション
 - ODS CHTML ステートメント 128
 - ODS CSVALL ステートメント 161
 - ODS DOCBOOK ステートメント 194
 - ODS HTML3 ステートメント 261
 - ODS HTMLCSS ステートメント 344
 - ODS HTML ステートメント 294
 - ODS IMODE ステートメント 377
 - ODS PHTML ステートメント 514
 - ODS WML ステートメント 716
 - ODS タグセットステートメント 627
- CODEBASE ファイルパス 128, 161, 194, 261, 294, 344, 377, 414, 514, 627, 716
- CODE オプション
 - ODS CHTML ステートメント 125
 - ODS CSVALL ステートメント 158
 - ODS DOCBOOK ステートメント 191
 - ODS HTML3 ステートメント 258
 - ODS HTMLCSS ステートメント 342
 - ODS HTML ステートメント 292
 - ODS IMODE ステートメント 375
 - ODS PHTML ステートメント 511
 - ODS WML ステートメント 713
 - ODS タグセットステートメント 624
- COL_SPACE_MAX=テーブル属性 1104
- COL_SPACE_MIN=テーブル属性 1104
- COLOR=オプション
 - ODS PCL ステートメント 480
 - ODS PDF ステートメント 491
 - ODS PRINTER ステートメント 541
 - ODS PS ステートメント 565
- COLUMNS=オプション
 - FILE PRINT ODS ステートメント 64, 105
- COLUMNS オプション
 - ODS TAGSETS.RTF ステートメント 656
- COLUMN ステートメント
 - TEMPLATE プロシジャ 1068
- COMPARE プロシジャ
 - ODS テーブル名 1248
- COMPRESS=オプション
 - ODS PRINTER ステートメント 492, 542
- COMPUTE AS ステートメント
 - TEMPLATE プロシジャ 1069
- CONTENTPOSITION=スタイル属性 986
- CONTENTS_LABEL=テーブル属性 1104
- CONTENTS=オプション
 - ODS MARKUP ステートメント 415
 - ODS PDF ステートメント 493
 - ODS PRINTER ステートメント 543
- CONTENTSCROLLBAR=スタイル属性 986
- CONTENTS_SIZE=スタイル属性 987
- CONTENTS オプション
 - ODS CHTML ステートメント 128
 - ODS CSVALL ステートメント 161
 - ODS DOCBOOK ステートメント 194
 - ODS HTML3 ステートメント 261
 - ODS HTMLCSS ステートメント 345
 - ODS HTML ステートメント 295
 - ODS IMODE ステートメント 378
 - ODS PHTML ステートメント 515
 - ODS RTF ステートメント 579
 - ODS WML ステートメント 717
 - ODS タグセットステートメント 628
- CONTENTS テーブル属性 1104
- CONTENTS プロシジャ
 - ODS テーブル名 1250
- CONTENTTYPE=スタイル属性 987
- CONTINUE ステートメント
 - TEMPLATE プロシジャ 1188
- CONTRASTCOLOR=スタイル属性 987
- CONTROL=テーブル属性 1104
- COPY TO ステートメント
 - DOCUMENT プロシジャ 760
- COPYRIGHT=タグセット属性 1180
- CORRESP プロシジャ
 - ODS テーブル名 1269
- CORR プロシジャ
- ODS PCL ステートメント 481
- ODS PDF ステートメント 492
- ODS PRINTER ステートメント 542
- ODS PS ステートメント 566
- ODS RTF ステートメント 578

- ODS テーブル名 1249
- COSAN モデル 1260
- CSSSTYLE=オプション
 - ODS MARKUP ステートメント 418
 - ODS PCL ステートメント 481
 - ODS PDF ステートメント 493
 - ODS PRINTER ステートメント 543
 - ODS PS ステートメント 566
 - ODS RTF ステートメント 579
- CSSSTYLE オプション
 - ODS CHTML ステートメント 131
 - ODS CSVALL ステートメント 164
 - ODS DOCBOOK ステートメント 197
 - ODS HTML3 ステートメント 264
 - ODS HTMLCSS ステートメント 347
 - ODS HTML ステートメント 298
 - ODS IMODE ステートメント 381
 - ODS PHTML ステートメント 517
 - ODS TAGSETS.RTF ステートメント 657
 - ODS WML ステートメント 719
 - ODS タグセットステートメント 630
- CSVALL 出力先 150
- CSVALL タグセット 618
- CSVBYLINE タグセット 618
- CSV タグセット 618

- D**
- DAGGER 関数 224
- DATA_FORMAT_OVERRIDE テーブル属性 1105
- DATA_FORMAT_OVERRIDE 列属性 1078
- DATA=引数
 - IMPORT TO ステートメント (DOCUMENT) 773
 - TEST ステートメント(TEMPLATE) 870
- DATANAME=列属性 1078
- DATAPANEL=オプション
 - ODS LISTING ステートメント 401
- DATASETS プロシジャ
 - ODS テーブル名 1250
- DATA オプション
 - ODS LISTING ステートメント 401
- DATA ステップ
 - ODS 57
 - ODS 拡張機能 59
 - ODS の例 72
 - ODS レポート 58
 - 複数の変数の列定義 66, 69, 107, 110
- DATA ステップステートメント
 - ODS 95
- DATE 関数 224
- DEF_SPLIT ヘッダー属性 1092
- DEF_SPLIT 列属性 1078
- DEFAULT_EVENT=タグセット属性 1181
- DEFINE_EVENT ステートメント
 - TEMPLATE プロシジャ 1185
- DEFINE CELLVALUE ステートメント
 - TEMPLATE プロシジャ 887
- DEFINE COLUMN ステートメント
 - TEMPLATE プロシジャ 1072
- DEFINE CROSSTABS ステートメント 889
- DEFINE EVENT ステートメント,
 - TEMPLATE プロシジャ
 - イベントステートメントの条件 1217
 - イベント属性 1185
 - イベント変数 1184
- DEFINE FOOTER ステートメント 894
 - TEMPLATE プロシジャ 1087
- DEFINE HEADER ステートメント 894
 - TEMPLATE プロシジャ 1087
- DEFINE STYLE ステートメント
 - TEMPLATE プロシジャ 959
- DEFINE TABLE ステートメント
 - TEMPLATE プロシジャ 1098
 - vs. EDIT ステートメント 1130
- DEFINE TAGSET ステートメント
 - TEMPLATE プロシジャ 1177
- DEFINE ステートメント
 - TEMPLATE プロシジャ 1071
- DEFINTE FOOTER
 - TEMPLATE プロシジャ 1087
- DELETE オプション
 - OBPAGE ステートメント(DOCUMENT) 792
- DELETE ステートメント
 - DOCUMENT プロシジャ 765
 - TEMPLATE プロシジャ 859
- DELSTREAM ステートメント
 - TEMPLATE プロシジャ 1188
- DESCRIPTION=オプション
 - ODS PACKAGE ステートメント 472
- DEST=オプション
 - REPLAY ステートメント(DOCUMENT) 795
- DETAILS オプション
 - LIST ステートメント(DOCUMENT) 776
- DEVICD オプション
 - ODS TAGSETS.RTF ステートメント 658
- DEVICE=
 - ODS MARKUP ステートメント 419
 - ODS RTF ステートメント 401, 580
- DEVICE オプション
 - ODS HTML ステートメント 299
- DIR=オプション
 - ODS DOCUMENT ステートメント 217

- DIR ステートメント
DOCUMENT プロシジャ 770
- DISCRETEMAX=オプション
ODS GRAPHICS ステートメント 242
- DISCRIM プロシジャ
ODS テーブル名 1271
- DOC_SEQNO=オプション
LIBNAME ステートメント, SASDOC 113
- DOC CLOSE ステートメント
DOCUMENT プロシジャ 772
- DOCBOOK 出力先 183
- DOCBOOK タグセット 618
- DOCTYPE=スタイル属性 988
- DOCUMENT 出力先 35, 216
終了 216
出力オブジェクトの除外 216
出力オブジェクトの選択 217
ログへの選択リストと除外リストの書き込み 217
- DOCUMENT プロシジャ 757
BY グループ 801
WHERE 式 761, 766, 777, 783, 796
概念 753
結果 803
構文 757
タスクテーブル 757, 804
ドキュメントウィンドウ 809
例 810
- DOC ステートメント
DOCUMENT プロシジャ 771
- DONE ステートメント
TEMPLATE プロシジャ 1189
- DOUBLE_SPACE テーブル属性 1105
- DO ステートメント
TEMPLATE プロシジャ 1188
- DPI=オプション
ODS PCL ステートメント 482
ODS PDF ステートメント 494
ODS PRINTER ステートメント 544
ODS PS ステートメント 567
- DROP 列属性 1078
- DTD
Wireless Markup Language (WML) 705
XML ファイルで作成 442
- DYNAMIC
TEMPLATE プロシジャ 1110
- DYNAMIC=サブオプション
FILE PRINT ODS ステートメント 65, 106
- DYNAMIC=属性のサブオプション
FILE PRINT ODS ステートメント 69, 110
- DYNAMIC ステートメント 897
- DYNAMIC ステートメント, TEMPLATE プロシジャ
テーブル定義 1110
- DYNAMIC ステートメント, TEMPLATE プロシジャ
テーブル定義 897
- E**
- EDIT ステートメント
TEMPLATE プロシジャ 961, 1111
vs. DEFINE TABLE ステートメント 1130
- ELSE ステートメント
TEMPLATE プロシジャ 1189
- EMBEDDED_STYLESHEET タグセット
属性 1181
- ENCODING=オプション
ODS MARKUP ステートメント 420
ODS RTF ステートメント 581
- ENCODING オプション
ODS CHTML ステートメント 132
ODS CSVALL ステートメント 165
ODS DOCBOOK ステートメント 198
ODS HTML3 ステートメント 265
ODS HTMLCSS ステートメント 349
ODS HTML ステートメント 299
ODS IMODE ステートメント 382
ODS PHTML ステートメント 518
ODS TAGSETS.RTF ステートメント 658
ODS WML ステートメント 720
ODS タグセットステートメント 631
- END=ヘッダー属性 1092
- END ステートメント 898
- END ステートメント, TEMPLATE プロシジャ 962
タグセット定義 1190
定義 1112
- END ステートメント, TEMPLATE プロシジャ
定義 898
- ENTROPY プロシジャ
ODS テーブル名 1323
- EPSI 形式 249
- EVAL ステートメント
TEMPLATE プロシジャ 1190
- EVENT_MAP タグセット 647, 1171
- EVENT=オプション
ODS MARKUP ステートメント 420
- EVENT オプション
ODS CHTML ステートメント 132
ODS CSVALL ステートメント 165
ODS DOCBOOK ステートメント 198
ODS HTML3 ステートメント 265
ODS HTMLCSS ステートメント 349

- ODS HTML ステートメント 299
 - ODS IMODE ステートメント 382
 - ODS PHTML ステートメント 518
 - ODS WML ステートメント 720
 - ODS タグセットステートメント 631
 - EVEN テーブル属性 1105
 - EXCLUDED オプション
 - ODS TRACE ステートメント 697
 - EXCLUDE アクション
 - ODS PS ステートメント 563
 - EXCLUDE オプション
 - ODS CHTML ステートメント 120
 - ODS DOCBOOK ステートメント 186
 - ODS HTML3 ステートメント 253
 - ODS HTMLCSS ステートメント 336
 - ODS HTML ステートメント 286
 - ODS IMODE ステートメント 369
 - ODS PHTML ステートメント 506
 - ODS TAGSETS.RTF ステートメント 655
 - ODS WML ステートメント 708
 - ODS タグセットステートメント 617
 - EXCLUDE 操作
 - ODS CSVALL ステートメント 153
 - ODS DOCUMENT ステートメント 216
 - ODS LISTING ステートメント 400
 - ODS MARKUP ステートメント 407
 - ODS PCL ステートメント 480
 - ODS PDF ステートメント 489
 - ODS PRINTER ステートメント 539
 - ODS RTF ステートメント 576
 - EXPAND_PAGE ヘッダー属性 1092
 - EXPAND=ヘッダー属性 1092
- F**
- FACTOR プロシジャ
 - ODS テーブル名 1273
 - FACTOR モデル 1260
 - FASTCLUS プロシジャ
 - ODS テーブル名 1275
 - FILE PRINT ODS ステートメント 59
 - ODS サブオプションを使用しない 71, 112
 - 構文 62, 103
 - 制限 70, 111
 - FILE=イベント属性 1186
 - FILE=オプション
 - ODS LISTING ステートメント 402
 - ODS PCL ステートメント 482
 - ODS PDF ステートメント 494
 - ODS PRINTER ステートメント 544
 - ODS PS ステートメント 567
 - ODS RTF ステートメント 581
 - SOURCE ステートメント(TEMPLATE) 867
 - FILE オプション
 - ODS TAGSETS.RTF ステートメント 658
 - FILLRULEWIDTH=スタイル属性 988
 - FINISH オプション
 - TRIGGER ステートメント(TEMPLATE) 1208
 - FIRST_PANEL ヘッダー属性 1092
 - FIRST オプション
 - COPY TO ステートメント (DOCUMENT) 761
 - IMPORT TO ステートメント (DOCUMENT) 774
 - LINK ステートメント(DOCUMENT) 775
 - MAKE ステートメント(DOCUMENT) 782
 - MOVE TO ステートメント (DOCUMENT) 783
 - NOTE ステートメント(DOCUMENT) 788
 - FLOW 列属性 1078
 - FLUSH ステートメント
 - TEMPLATE プロシジャ 1191
 - FLYOVER=スタイル属性 988
 - FOLLOW オプション
 - LIST ステートメント(DOCUMENT) 776
 - FONT=スタイル属性 989
 - FONTFAMILY=スタイル属性 989
 - FONTSIZE=スタイル属性 989
 - FONTSTYLE=スタイル属性 990
 - FONTWEIGHT=スタイル属性 990
 - FONTWIDTH=スタイル属性 990
 - FOOTER_SPACE=テーブル属性 1105
 - FOOTER ステートメント 899
 - TEMPLATE プロシジャ 884, 1112
 - FORCE ヘッダー属性 1092
 - FOREGROUND_COLOR=スタイル属性 985
 - FORMAT_NDEC=列属性 1079
 - FORMAT_WIDTH=列属性 1079
 - FORMAT=属性のサブオプション
 - FILE PRINT ODS ステートメント 69, 110
 - FORMAT=列属性 1079
 - FORMCHAR=テーブル属性 1105
 - FRAME=オプション
 - ODS MARKUP ステートメント 421
 - FRAME=スタイル属性 991
 - FRAMEBORDER=スタイル属性 991
 - FRAMEBORDERWIDTH=スタイル属性 992
 - FRAMESPACING=スタイル属性 992
 - FRAME オプション
 - ODS CHTML ステートメント 133

- ODS CSVALL ステートメント 166
- ODS DOCBOOK ステートメント 199
- ODS HTML3 ステートメント 266
- ODS HTMLCSS ステートメント 350
- ODS HTML ステートメント 300
- ODS IMODE ステートメント 383
- ODS PHTML ステートメント 519
- ODS WML ステートメント 721
- ODS タグセットステートメント 632
- FREQ プロシジャ
 - ODS テーブル名 1251
- FROM オプション
 - STYLE ステートメント(TEMPLATE) 966
- FUZZ=列属性 1079

- G**
- GAM プロシジャ
 - ODS テーブル名 1276
- GENERIC=サブオプション
 - FILE PRINT ODS ステートメント 66, 107
- GENERIC=属性のサブオプション
 - FILE PRINT ODS ステートメント 69, 110
- GENERIC ヘッダー属性 1093
- GENERIC 列属性 1079
- GENMOD プロシジャ
 - ODS テーブル名 1277
- GFOOTNOTE=オプション
 - ODS PRINTER ステートメント 544
 - ODS RTF ステートメント 581
- GFOOTNOTE オプション
 - ODS CHTML ステートメント 136
 - ODS CSVALL ステートメント 169
 - ODS DOCBOOK ステートメント 202
 - ODS HTML3 ステートメント 269
 - ODS HTMLCSS ステートメント 352
 - ODS HTML ステートメント 303
 - ODS IMODE ステートメント 385
 - ODS MARKUP ステートメント 423
 - ODS PCL ステートメント 483
 - ODS PDF ステートメント 494
 - ODS PHTML ステートメント 522
 - ODS PS ステートメント 568
 - ODS TAGSETS.RTF ステートメント 659
 - ODS WML ステートメント 724
 - ODS タグセットステートメント 635
- GIF 形式 249
- GLMMOD プロシジャ
 - ODS テーブル名 1282
- GLMPOWER プロシジャ
 - ODS テーブル名 1283
- GLM プロシジャ
 - ODS テーブル名 1279
- GLUE=列属性 1080
- GPATH=オプション
 - ODS LISTING ステートメント 402
 - ODS MARKUP ステートメント 424
- GPATH オプション
 - ODS CHTML ステートメント 136
 - ODS CSVALL ステートメント 169
 - ODS DOCBOOK ステートメント 202
 - ODS HTML3 ステートメント 269
 - ODS HTMLCSS ステートメント 353
 - ODS HTML ステートメント 304
 - ODS IMODE ステートメント 386
 - ODS PHTML ステートメント 522
 - ODS WML ステートメント 724
 - ODS タグセットステートメント 636
- GROUPMAX=オプション
 - ODS GRAPHICS ステートメント 242
- GRSEG
 - カタログへのコピー 217
 - 現在のディレクトリにインポートする 773
- GRSEG=引数
 - IMPORT TO ステートメント (DOCUMENT) 773
- GTITLE=オプション
 - ODS PRINTER ステートメント 545
 - ODS RTF ステートメント 582
- GTITLE オプション
 - ODS CHTML ステートメント 137
 - ODS CSVALL ステートメント 170
 - ODS DOCBOOK ステートメント 203
 - ODS HTML3 ステートメント 270
 - ODS HTMLCSS ステートメント 354
 - ODS HTML ステートメント 304
 - ODS IMODE ステートメント 387
 - ODS MARKUP ステートメント 425
 - ODS PCL ステートメント 483
 - ODS PDF ステートメント 495
 - ODS PHTML ステートメント 523
 - ODS PS ステートメント 568
 - ODS TAGSETS.RTF ステートメント 659
 - ODS WML ステートメント 725
 - ODS タグセットステートメント 636

- H**
- HARD オプション
 - LINK ステートメント(DOCUMENT) 775
- HEADER_SPACE=テーブル属性 1105
- HEADER=列属性 1080
- HEADER ステートメント
 - TEMPLATE プロシジャ 899, 1113
- HEADTEXT=オプション

- ODS MARKUP ステートメント 425
 - HEADTEXT オプション
 - ODS CHTML ステートメント 138
 - ODS CSVALL ステートメント 170
 - ODS DOCBOOK ステートメント 203
 - ODS HTML3 ステートメント 270
 - ODS HTMLCSS ステートメント 354
 - ODS HTML ステートメント 305
 - ODS IMODE ステートメント 387
 - ODS PHTML ステートメント 524
 - ODS WML ステートメント 726
 - ODS タグセットステートメント 637
 - HEAD タグ 138, 170, 203, 270, 305, 354, 387, 425, 524, 637, 726
 - HEIGHT=オプション
 - ODS GRAPHICS ステートメント 243
 - HIDE ステートメント
 - DOCUMENT プロシジャ 772
 - HOST オプション
 - ODS PRINTER ステートメント 545
 - HREFTARGET=スタイル属性 992
 - HTML3 出力先 250
 - HTML4 タグセット 618
 - HTMLCONTENTTYPE=スタイル属性 987
 - HTMLCSS 334
 - HTMLCSS 出力先 334
 - HTMLCSS タグセット 618
 - HTMLID=スタイル属性 993
 - HTMLSTYLE=スタイル属性 993
 - HTML 参照 1373
 - ODS 構造 1375
 - 実装 1373
 - 定義 1373
 - HTML 出力
 - 3.2 250
 - IMODE 出力先 367
 - META 宣言の文字セット 125, 158, 191, 258, 291, 341, 374, 412, 511, 624, 713
 - カスケードスタイルシート 334
 - 簡易形式 503
 - 作成 10
 - サンプル 23
 - 出力のページごとにボディファイルを別にする 321
 - 表示するためのアプレット 121, 154, 187, 254, 287, 337, 370, 408, 507, 620, 709
 - ベーステキスト 122, 155, 188, 255, 288, 338, 371, 409, 508, 621, 710
 - レコードセパレータ 144, 176, 210, 277, 311, 360, 393, 431, 530, 643, 732
 - HTML 出力先 35
 - コンテンツファイル 1381
 - 作成される参照 1373
 - 作成されるファイル 1378
 - 作成されるリンク 1373
 - 出力 555
 - フレームファイル 1381
 - ページファイル 1381
 - ボディファイル 1378
 - HTML スタイル定義 942, 945
 - カスタマイズ済み 943
 - 変更 1024
 - HTML タグセット 283
 - HTML バージョン設定 45
 - HTML ファイル
 - 追加 325
 - HTML ファイルへの追加 325
 - HTML リンク 1373
 - ODS 構造 1375
 - 実装 1373
 - 定義 1373
- I**
- ID=オプション
 - ODS MARKUP ステートメント 425
 - ODS PCL ステートメント 483
 - ODS PDF ステートメント 495
 - ODS PRINTER ステートメント 545
 - ODS PS ステートメント 569
 - ODS RTF ステートメント 582
 - ID オプション
 - ODS CHTML ステートメント 138
 - ODS CSVALL ステートメント 171
 - ODS DOCBOOK ステートメント 204
 - ODS HTML3 ステートメント 271
 - ODS HTMLCSS ステートメント 354
 - ODS HTML ステートメント 305
 - ODS IMODE ステートメント 387
 - ODS PHTML ステートメント 524
 - ODS TAGSETS.RTF ステートメント 659
 - ODS WML ステートメント 726
 - ODS タグセットステートメント 637
 - ID 列属性 1080
 - IMAGE_DPI=オプション
 - ODS LISTING ステートメント 403
 - ODS MARKUP ステートメント 426
 - ODS RTF ステートメント 582
 - IMAGE_DPI オプション
 - ODS TAGSETS.RTF ステートメント 660
 - IMAGE=スタイル属性 993
 - IMAGEMAP=オプション
 - ODS GRAPHICS ステートメント 243
 - IMAGEMAP オプション
 - ODS GRAPHICS ステートメント 243
 - IMAGENAME=オプション
 - ODS GRAPHICS ステートメント 243

- IMODE 出力先 367
 IMODE タグセット 619
 IMPORT TO ステートメント
 DOCUMENT プロシジャ 773
 IMPORT ステートメント
 TEMPLATE プロシジャ 963
 INBREED プロシジャ
 ODS テーブル名 1283
 INDENT=タグセット属性 1181
 ITERATE ステートメント
 TEMPLATE プロシジャ 1192
- J**
- Java デバイス
 CODEBASE ファイルパス 128
 JFIF 形式 249
 JUST=オプション
 NOTE ステートメント(DOCUMENT)
 788
 OBANOTE ステートメント
 (DOCUMENT) 788
 OBBNOTE ステートメント
 (DOCUMENT) 789
 OBSTITLE ステートメント
 (DOCUMENT) 792
 JUST=ヘッダー属性 1093
 JUST=列属性 1081
 JUSTIFY テーブル属性 1106
 JUSTIFY 列属性 1081
- K**
- KDE プロシジャ
 ODS テーブル名 1284
 KEEPEN オプション
 ODS RTF ステートメント 582
 ODS TAGSETS.RTF ステートメント
 660
 KEYWORDS=オプション
 ODS PDF ステートメント 495
 ODS PRINTER ステートメント 545
 ODS PS ステートメント 569
- L**
- LABEL=オプション
 DOC ステートメント(DOCUMENT)
 771
 ODS TRACE ステートメント 456, 697
 PROC DOCUMENT ステートメント
 760
 LABEL=サブオプション
 FILE PRINT ODS ステートメント 66,
 107
 LABEL=属性のサブオプション
 FILE PRINT ODS ステートメント 69,
 110
 LABEL=テーブル属性 1106
 LABEL=列属性 1082
 LABELMAX=オプション
 ODS GRAPHICS ステートメント 244
 LABEL オプション
 LINK ステートメント(DOCUMENT)
 775
 LAST PANEL ヘッダー属性 1093
 LASTPAGE 関数 225
 LAST オプション
 COPY TO ステートメント
 (DOCUMENT) 761
 IMPORT TO ステートメント
 (DOCUMENT) 774
 LINK ステートメント(DOCUMENT)
 775
 MAKE ステートメント(DOCUMENT)
 782
 MOVE TO ステートメント
 (DOCUMENT) 783
 NOTE ステートメント(DOCUMENT)
 788
 LATTICE プロシジャ
 ODS テーブル名 1284
 LEADERS 関数 225
 LEVELS=オプション
 COPY TO ステートメント
 (DOCUMENT) 761
 DELETE ステートメント(DOCUMENT)
 766
 LIST ステートメント(DOCUMENT)
 776
 MOVE TO ステートメント
 (DOCUMENT) 783
 REPLAY ステートメント(DOCUMENT)
 795
 LIBNAME ステートメント、SASEDOC
 113
 LIBRARY=オプション
 DOC ステートメント(DOCUMENT)
 771
 LIFEREG プロシジャ
 ODS テーブル名 1285
 LIFETEST プロシジャ
 ODS テーブル名 1285
 LINEQS モデル 1260
 LINKCOLOR=スタイル属性 994
 LINK ステートメント
 DOCUMENT プロシジャ 774
 TEMPLATE プロシジャ 859
 LISTENTRYANCHOR=スタイル属性
 994
 LISTING オプション
 ODS TRACE ステートメント 697

- LISTING 出力先
 管理 400
 終了 400
 出力オブジェクトの除外 400
 出力オブジェクトの選択 400
 開く 400
 ログへの選択リストと除外リストの書き込み 401
 LISTSTYLETYPE=スタイル属性 994
 LIST ステートメント
 DOCUMENT プロシジャ 775
 TEMPLATE プロシジャ 860
 LOAN プロシジャ
 ODS テーブル名 1323
 LOESS プロシジャ
 ODS テーブル名 1287
 LOG_NOTE タグセット属性 1181
 LOGISTIC プロシジャ
 ODS テーブル名 1287
 LONGDESC=テーブル属性 1106
 LONGDESC=ヘッダー属性 1093
- M**
- MAKE ステートメント
 DOCUMENT プロシジャ 781
 MAP=タグセット属性 1182
 MAPSUB=タグセット属性 1182
 MARGINBOTTOM=スタイル属性 995
 MARGINLEFT=スタイル属性 995
 MARGINRIGHT=スタイル属性 995
 MARGINTOP=スタイル属性 995
 MARKUP 出力先 36, 404
 終了 120, 153, 186, 253, 286, 336, 369, 404, 407, 438, 480, 489, 506, 539, 563, 576, 617, 655, 708
 出力オブジェクトの除外 120, 153, 186, 253, 286, 336, 369, 407, 480, 489, 506, 539, 563, 576, 617, 655, 708
 出力オブジェクトの選択 407
 開く 438
 MATCH_ALL オプション
 ODS OUTPUT ステートメント 456, 465
 MAXIMIZE ヘッダー属性 1093
 MAXIMIZE 列属性 1082
 MAXLEGENDAREA=オプション
 ODS GRAPHICS ステートメント 244
 MDC プロシジャ
 ODS テーブル名 1324
 MDS プロシジャ
 ODS テーブル名 1290
 MEANS プロシジャ
 ODS テーブル名 1255
 MEAS_EVENT_MAP tagsets.rtf 668
 MEAS_SHORT_MAP tagsets.rtf 669
 MEAS_TEXT_MAP tagsets.rtf 669
- MERGE 列属性 1082
 METATEXT=オプション
 ODS MARKUP ステートメント 426
 METATEXT オプション
 ODS CHTML ステートメント 138
 ODS DOCBOOK ステートメント 204
 ODS HTML3 ステートメント 271
 ODS HTMLCSS ステートメント 355
 ODS HTML ステートメント 305
 ODS IMODE ステートメント 388
 ODS PHTML ステートメント 524
 ODS WML ステートメント 726
 ODS タグセットステートメント 637
 META 宣言
 文字セット 125, 158, 191, 258, 291, 341, 374, 412, 511, 624, 713
 META タグ 138, 204, 271, 305, 355, 388, 426, 524, 637, 726
 MIANALYZE プロシジャ
 ODS テーブル名 1292
 MIXED プロシジャ
 ODS テーブル名 1293
 MI プロシジャ
 ODS テーブル名 1291
 MODECLUS プロシジャ
 ODS テーブル名 1296
 MODEL プロシジャ
 ODS テーブル名 1324
 MOVE TO ステートメント
 DOCUMENT プロシジャ 782
 MULTTEST プロシジャ
 ODS テーブル名 1296
 MVAR ステートメント, TEMPLATE プロシジャ
 列定義 1114
 MVSHTML タグセット 619
- N**
- N=オプション
 FILE PRINT ODS ステートメント 63, 104
 NAME=オプション
 DOC ステートメント(DOCUMENT) 771
 ODS DOCUMENT ステートメント 218
 PROC DOCUMENT ステートメント 759
 NAMEDHTML タグセット 647
 NAMEVALUE=オプション
 ODS PACKAGE ステートメント 472
 NBSpace 関数 225
 NDENT ステートメント
 TEMPLATE プロシジャ 1193
 NESTED プロシジャ
 ODS テーブル名 1297

- NEWFILE=オプション
 ODS MARKUP ステートメント 426
 ODS PCL ステートメント 484
 ODS PDF ステートメント 496
 ODS PRINTER ステートメント 546
 ODS PS ステートメント 569
 ODS RTF ステートメント 582
 ODS TAGSETS-RTF ステートメント 660
- NEWFILE オプション
 ODS CHTML ステートメント 139
 ODS CSVALL ステートメント 171
 ODS DOCBOOK ステートメント 204
 ODS HTML3 ステートメント 271
 ODS HTMLCSS ステートメント 355
 ODS HTML ステートメント 306
 ODS IMODE ステートメント 388
 ODS PHTML ステートメント 524
 ODS WML ステートメント 726
 ODS タグセットステートメント 638
- NEWLINE 関数 225
- NEWPAGE テーブル属性 1106
- NEXT ステートメント
 TEMPLATE プロシジャ 1193
- NLIN プロシジャ
 ODS テーブル名 1297
- NLMIXED プロシジャ
 ODS テーブル名 1298
- NMVAR ステートメント、TEMPLATE プロシジャ
 列定義 1115
- NOANTIALIAS オプション
 ODS GRAPHICS ステートメント 241
- NOBORDER オプション
 ODS GRAPHICS ステートメント 242
- NOBREAKSPACE=スタイル属性 996
- NOBREAKSPACE=タグセット属性 1182
- NOFLOW オプション
 SOURCE ステートメント(TEMPLATE) 867
- NOIMAGEMAP オプション
 ODS GRAPHICS ステートメント 243
- NOLIST オプション
 DEFINE ステートメント(TEMPLATE) 1072
- NOSCALE オプション
 ODS GRAPHICS ステートメント 245
- NOTES=オプション
 LINK ステートメント(TEMPLATE) 860
- NOTES ステートメント 899, 1115
 TEMPLATE プロシジャ 964, 1194
- NOTES ステートメント、TEMPLATE プロシジャ
 タグセット定義 1194
 テーブル定義 1116
- NOTES ステートメント、TEMPLATE プロシジャ
 テーブル定義 900
- NOTE ステートメント
 DOCUMENT プロシジャ 787
- NOTOC オプション
 ODS PRINTER ステートメント 546
- NPART1WAY プロシジャ
 ODS テーブル名 1299
- NTT 619
- O**
- OBANOTE ステートメント
 DOCUMENT プロシジャ 788
- OBBNOTE ステートメント
 DOCUMENT プロシジャ 789
- OBFOOTN ステートメント
 DOCUMENT プロシジャ 790
- OBJECT=サブオプション
 FILE PRINT ODS ステートメント 66, 107
- OBJECTLABEL=サブオプション
 FILE PRINT ODS ステートメント 67, 108
- OBPAGE ステートメント
 DOCUMENT プロシジャ 791
- OBSTITLE ステートメント
 DOCUMENT プロシジャ 792
- OBTEMPL ステートメント
 DOCUMENT プロシジャ 793
- OBTITLE ステートメント
 DOCUMENT プロシジャ 793
- ODS _ALL_ CLOSE ステートメント 117
- ODS (Output Delivery System) 9, 20
 DATA ステップ 57
 DATA ステップの例 72
 DATA ステップを使用したレポート 58
 概要 52
 カスタマイズされた出力 49
 機能 31
 クイックスタート 9
 サンプル 20
 処理 31
 複数の出力形式 12
 レジストリ 44
- ODS CHTML ステートメント 117
 オプション 120
 操作 120
- ODS CSVALL ステートメント 150
 オプション 153
 操作 153
- ODS DECIMAL_ALIGN ステートメント 182
- ODS DOCBOOK ステートメント 183
 オプション 186

- 操作 186
- ODS DOCUMENT ステートメント 216
- ODS ESCAPECHAR=ステートメント
インラインフォーマット関数 223
- ODS GRAPHICS ステートメント
バッチジョブ 247
ファイルの種類 248
- ODS HTML3 ステートメント 250
オプション 253
操作 253
- ODS HTMLCSS ステートメント 334
オプション 337
操作 336
- ODS HTML ステートメント 283
- ODS IMODE ステートメント 367
アクション 369
オプション 370
- ODS LISTING ステートメント 400
オプション 401
操作 400
デフォルトのデバイス 401
- ODS MARKUP ステートメント 404
ODS 出力先としてのタグセット名 446
XML ファイルと DTD の作成 442
XML ファイルの作成 440
オプション 407
詳細 438
操作 404, 407
デフォルトのデバイス 419
複数のマークアップ出力 444
例 404
- ODS NO_DECIMAL_ALIGN ステートメント 454
- ODS OUTPUT ステートメント 455
引数 455
出力オブジェクトをデータセットにマージする 458
操作 455
データセットの作成 458, 462, 465
例 455
- ODS PACKAGE ステートメント 469
オプション 472
- ODS PATH ステートメント 477
- ODS PCL ステートメント
同じ出力先の複数のインスタンス 483
- ODS PDF ステートメント
PDF 出力先を開く/閉じる 499
同じ出力先のインスタンスを複数開く 500
同じ出力先の複数のインスタンス 495
- ODS PHTML ステートメント 503
オプション 506
操作 506
- ODS PRINTER ステートメント
HTML 出力先の出力 555
PRINTER 出力先の出力 555
PRINTER 出力先を開く/閉じる 551
Windows 553
同じ出力先の複数のインスタンス 545
オプション 539
詳細 551
操作 539
操作やオプションを指定しない場合 538
プリンタに直接出力する場合 552
ホスト情報 554
- ODS PROCLABEL ステートメント 559
- ODS PROCTITLE ステートメント 560
- ODS PS ステートメント
同じ出力先の複数のインスタンス 569
- ODS RESULTS ステートメント 573
- ODS RTF ステートメント 573
RTF 出力 587
RTF 出力先を開く/閉じる 587
オプション 576
グラフィック 588
操作 576
デフォルトのデバイス 580
- ODS SELECT ステートメント 598
- ODS SHOW ステートメント 614
- ODS TAGSET.RTF ステートメント
グラフィック 670
- ODS TAGSETS.RTF サブオプション 661
- ODS TAGSETS.RTF ステートメント 653
- ODS TEXT=ステートメント 692
- ODS TRACE ステートメント 696
LABEL=オプション 456
出力オブジェクトの指定 698
トレースレコードのコンテンツ 697
例 699
- ODS USEGOPT ステートメント 701
- ODS VERIFY ステートメント 704
- ODS WML ステートメント 705
アクション 708
オプション 708
- ODSDEST=システムオプション
デフォルトの復元 745
- ODSGRAPHICS=システムオプション
デフォルトの復元 746
- ODSSTYLE=システムオプション
デフォルトの復元 747
- ODS 引数
FILE PRINT ODS ステートメント 63, 104
- ODS 出力
DATA ステップ拡張機能 59
新しい行の追加 1195
結果ウィンドウでのトラッキング 573
選択した値 75
挿入する変数のリスト表示 62, 103
テキストの挿入 692
複数の形式 216

- 変数のフォーマット 62, 103
- 列への属性の割り当て 80
- ODS 出力先
 - SAS 出力形式が使用される出力先 34
 - エントリの表示 794
 - カテゴリ 33
 - サードパーティフォーマットの出力先 35
 - サポートされるファイルの種類 248
 - システムリソース 38
 - 終了 117
 - 出力オブジェクトの除外 232
 - 出力オブジェクトの選択 598
 - 出力先固有の入力 34
 - 除外リスト 49
 - 選択リスト 49
 - タグセット名 446
 - タグセットの 2 レベル名 439
 - タグセットのキーワード 439
 - デフォルト設定の変更 46
 - デフォルト値の変更 47
 - デフォルトのデバイス 299, 401, 419, 580
 - 複数指定 438
 - 複数のインスタンスの実行 138, 171, 204, 271, 305, 354, 387, 425, 524, 637, 726
- ODS スタイル
 - グラフィックスタイル情報 947
- ODS ステートメント
 - DATA ステップステートメント 95
 - SAS 出力形式が使用されるステートメント 96
 - カテゴリ説明 98
 - グローバルステートメント 95
 - サードパーティ製の出力形式が使用されるステートメント 96
 - 出力を制御するステートメント 96
 - 定義 95
 - プロシジャステートメント 96
- ODS タグセットステートメント
 - アクション 617
 - 引数 617
 - オプション 620
- ODS テーブル名
 - ACECLUS プロシジャ 1257
 - ANOVA プロシジャ 1258
 - ARIMA プロシジャ 1319
 - AUTOREG プロシジャ 1321
 - Base SAS プロシジャ 1247
 - CALENDAR プロシジャ 1247
 - CALIS プロシジャ 1260
 - CANCORR プロシジャ 1265
 - CANDISC プロシジャ 1266
 - CATALOG プロシジャ 1248
 - CATMOD プロシジャ 1268
 - CHART プロシジャ 1248
 - CLUSTER プロシジャ 1269
 - COMPARE プロシジャ 1248
 - CONTENTS プロシジャ 1250
 - CORRESP プロシジャ 1269
 - CORR プロシジャ 1249
 - DATASETS プロシジャ 1250
 - DISCRIM プロシジャ 1271
 - ENTROPY プロシジャ 1323
 - FACTOR プロシジャ 1273
 - FASTCLUS プロシジャ 1275
 - FREQ プロシジャ 1251
 - GAM プロシジャ 1276
 - GENMOD プロシジャ 1277
 - GLMMOD プロシジャ 1282
 - GLMPOWER プロシジャ 1283
 - GLM プロシジャ 1279
 - INBREED プロシジャ 1283
 - KDE プロシジャ 1284
 - LATTICE プロシジャ 1284
 - LIFEREG プロシジャ 1285
 - LIFETEST プロシジャ 1285
 - LOAN プロシジャ 1323
 - LOESS プロシジャ 1287
 - LOGISTIC プロシジャ 1287
 - MDC プロシジャ 1324
 - MDS プロシジャ 1290
 - MEANS プロシジャ 1255
 - MIANALYZE プロシジャ 1292
 - MIXED プロシジャ 1293
 - MI プロシジャ 1291
 - MODECLUS プロシジャ 1296
 - MODEL プロシジャ 1324
 - MULTTEST プロシジャ 1296
 - NESTED プロシジャ 1297
 - NLIN プロシジャ 1297
 - NLMIXED プロシジャ 1298
 - NPARTIWAY プロシジャ 1299
 - ORTHOREG プロシジャ 1301
 - PDLREG プロシジャ 1327
 - PLAN プロシジャ 1303
 - PLOT プロシジャ 1255
 - PLS プロシジャ 1303
 - POWER プロシジャ 1304
 - PPHREG プロシジャ 1301
 - PRINCOMP プロシジャ 1304
 - PRINQUAL プロシジャ 1305
 - PROBIT プロシジャ 1305
 - REG プロシジャ 1306
 - REPORT プロシジャ 1255
 - ROBUSTREG プロシジャ 1308
 - RSREG プロシジャ 1310
 - SAS/ETS プロシジャ 1319
 - SAS/STAT プロシジャ 1257
 - SIMLIN プロシジャ 1329
 - SPECTRA プロシジャ 1329

- SQL プロシジャ 1255
 - STATESPACE プロシジャ 1329
 - STDIZE プロシジャ 1310
 - STEPDISC プロシジャ 1310
 - SUMMARY プロシジャ 1255
 - SURVEYFREQ プロシジャ 1311
 - SURVEYLOGISTIC プロシジャ 1312
 - SURVEYMEANS プロシジャ 1314
 - SURVEYREG プロシジャ 1314
 - SURVEYSELECT プロシジャ 1315
 - SYSLIN プロシジャ 1330
 - TABULATE プロシジャ 1256
 - TIMEPLOT プロシジャ 1256
 - TIMESERIES プロシジャ 1332
 - TPSPLINE プロシジャ 1315
 - TRANSREG プロシジャ 1316
 - TREE プロシジャ 1317
 - TSCSREG プロシジャ 1332
 - TTEST プロシジャ 1318
 - UNIVARIATE プロシジャ 1256
 - VARCLUS プロシジャ 1318
 - VARCOMP プロシジャ 1318
 - VARMAX プロシジャ 1333
 - X11 プロシジャ 1337
 - X12 プロシジャ 1342
 - ODS ドキュメント 753
 - Base プロシジャ 755
 - アクセスモードの名前 759, 771
 - 結果ウィンドウ 806
 - 互換性 756
 - 終了 772
 - 出力に表示しない 772
 - タイトル 793
 - ドキュメントウィンドウ 803
 - 名前 759, 771
 - パーシスタンス 754
 - 開く 771, 815
 - ライブラリ参照名 114
 - ラベル 760
 - リスト表示 815
 - ODS ドキュメントのアイコン 804
 - ODS ドキュメントのパス 754
 - ODS のラインポインタコントロール 61, 740
 - ODS の列ポインタコントロール 60, 739
 - OPEN ステートメント
 - TEMPLATE プロシジャ 1194
 - OPERATOR=オプション
 - ODS RTF ステートメント 583
 - OPERATOR オプション
 - ODS TAGSETS.RTF ステートメント 660
 - OPTIONAL 列属性 1082
 - OPTIONS オプション
 - ODS CHTML ステートメント 139
 - ODS CSVALL ステートメント 172
 - ODS DOCBOOK ステートメント 205
 - ODS HTML3 ステートメント 272
 - ODS HTMLCSS ステートメント 356
 - ODS HTML ステートメント 307
 - ODS IMODE ステートメント 389
 - ODS MARKUP ステートメント 427
 - ODS PHTML ステートメント 525
 - ODS RTF ステートメント 661
 - ODS TAGSETS.RTF ステートメント 661
 - ODS WML ステートメント 727
 - ODS タグセットステートメント 638
 - ORDER_DATA テーブル属性 1106
 - ORDER=オプション
 - LIST ステートメント(DOCUMENT) 777
 - ORTHOREG プロシジャ
 - ODS テーブル名 1301
 - OUTPUT_TYPE=タグセット属性 1182
 - OUTPUTFMT=オプション
 - ODS GRAPHICS ステートメント 243
 - OUTPUT 出力先 35
 - 終了 455
 - 選択リスト 455
 - OVERHANGFACTOR=スタイル属性 996
 - OVERLINE テーブル属性 1106
 - OVERLINE ヘッダー属性 1094
 - OVERLINE 列属性 1083
- P**
- PACKAGE オプション
 - MARKUP ステートメント 427
 - ODS CHTML ステートメント 140
 - ODS CSVALL ステートメント 172
 - ODS DOCBOOK ステートメント 206
 - ODS HTML3 ステートメント 273
 - ODS HTMLCSS ステートメント 356
 - ODS HTML ステートメント 307
 - ODS IMODE ステートメント 389
 - ODS PHTML ステートメント 526
 - ODS PRINTER ステートメント 547
 - ODS RTF ステートメント 583
 - ODS TAGSETS.RTF ステートメント 664
 - ODS WML ステートメント 728
 - PAGEBREAKHTML=スタイル属性 997
 - PAGEOF 関数 225
 - PAGEPANELS オプション
 - ODS TAGSETS.RTF ステートメント 664
 - PAGE オプション
 - ODS CHTML ステートメント 140
 - ODS CSVALL ステートメント 173
 - ODS DOCBOOK ステートメント 206

- ODS HTML3 ステートメント 273
- ODS HTMLCSS ステートメント 357
- ODS HTML ステートメント 307
- ODS IMODE ステートメント 390
- ODS LISTING ステートメント 401
- ODS MARKUP ステートメント 428
- ODS PHTML ステートメント 526
- ODS WML ステートメント 728
- ODS タグセットステートメント 639
- PANEL_SPACE=テーブル属性 1107
- PANELCELLMAX=オプション
 - ODS GRAPHICS ステートメント 244
- PANELS=テーブル属性 1107
- PARAMETERS=オプション
 - ODS MARKUP ステートメント 143
- PARAMETERS オプション
 - ODS CHTML ステートメント 143
 - ODS CSVALL ステートメント 175
 - ODS DOCBOOK ステートメント 209
 - ODS HTML3 ステートメント 276
 - ODS HTMLCSS ステートメント 359
 - ODS HTML ステートメント 310
 - ODS IMODE ステートメント 392
 - ODS MARKUP ステートメント 430
 - ODS PHTML ステートメント 529
 - ODS WML ステートメント 731
 - ODS タグセットステートメント 642
- PARENT=
 - TEMPLATE プロシジャ 964
- PARENT=オプション
 - DEFINE STYLE ステートメント (TEMPLATE) 964
- PARENT=タグセット属性 1182
- PARENT=テーブル属性 1107
- PARENT=ヘッダー属性 1094
- PARENT=列属性 1083
- PATH=オプション
 - ODS MARKUP ステートメント 431
 - ODS PACKAGE ステートメント 472
 - ODS RTF ステートメント 583
- PATH オプション
 - ODS CHTML ステートメント 143
 - ODS CSVALL ステートメント 176
 - ODS DOCBOOK ステートメント 209
 - ODS HTML3 ステートメント 276
 - ODS HTMLCSS ステートメント 360
 - ODS HTML ステートメント 310
 - ODS IMODE ステートメント 393
 - ODS PHTML ステートメント 529
 - ODS TAGSETS.RTF ステートメント 664
 - ODS WML ステートメント 731
 - ODS タグセットステートメント 642
- PATH ステートメント
 - TEMPLATE プロシジャ 865
- PCL オプション
 - ODS PRINTER ステートメント 547
- PCL 出力 547
- PCL 出力先
 - 閉じる 486
 - 開く 486
- PDFMARK オプション
 - ODS PRINTER ステートメント 547
 - ODS PS ステートメント 570
- PDFNOTE オプション
 - ODS PDF ステートメント 496
 - ODS PRINTER ステートメント 548
 - ODS PS ステートメント 570
- PDFTOC=オプション
 - ODS PDF ステートメント 497
 - ODS PRINTER ステートメント 548
- PDF オプション
 - ODS PRINTER ステートメント 547
- PDF 出力 547
 - サンプル 25
- PDF 出力先
 - 終了 499
 - 開く 499
 - 複数のインスタンスを開く 500
- PDF ファイル
 - 圧縮 492
 - 圧縮する 542
 - ブックマークのリスト 490, 491, 540, 541, 564, 565
 - メモの追加 496, 548, 570
- PDLREG プロシジャ
 - ODS テーブル名 1327
- PHTML 出力 503
- PHTML 出力先 503
- PHTML タグセット 619
- PLAN プロシジャ
 - ODS テーブル名 1303
- PLOT プロシジャ
 - ODS テーブル名 1255
- PLS プロシジャ
 - ODS テーブル名 1303
- PNG 形式 249
- POSTHTML=スタイル属性 997
- POSTIMAGE=スタイル属性 997
- PostScript 出力 549
 - サンプル 22
- PostScript ファイル
 - Acrobat Distiller のタグ 547, 570
- POSTTEXT=スタイル属性 998
- POWER プロシジャ
 - ODS テーブル名 1304
- PPHREG プロシジャ
 - ODS テーブル名 1301
- PRE_MERGE 列属性 1083
- PRE_SPACE=列属性 1083
- PREFORMATTED ヘッダー属性 1094
- PREFORMATTED 列属性 1083

- PREHTML=スタイル属性 998
 PREIMAGE=スタイル属性 998
 PREPAGE=オプション
 ODS RTF ステートメント 584
 ODS TAGSETS.RTF ステートメント 665
 PREPEND オプション
 ODS PATH ステートメント 478
 PATH ステートメント(TEMPLATE) 866
 PRETEXT=スタイル属性 998
 PRINCOMP プロシジャ
 ODS テーブル名 1304
 PRINQUAL プロシジャ
 ODS テーブル名 1305
 PRINT_FOOTERS テーブル属性 1107
 PRINT_HEADERS テーブル属性 1107
 PRINT_HEADERS 列属性 1084
 PRINTER=オプション
 ODS PRINTER ステートメント 548
 PRINTER 出力先 36
 終了 539, 551
 出力 555
 出力オブジェクトの除外 539
 出力オブジェクトの選択 480, 489, 539, 563
 開く 551
 ログへの選択リスト、または除外リストの書き込み 539
 PRINT 引数
 FILE PRINT ODS ステートメント 62, 103
 PRINT プロシジャ
 スタイル定義 43
 PRINT ヘッダー属性 1094
 PRINT 列属性 1084
 PROBIT プロシジャ
 ODS テーブル名 1305
 PROC DOCUMENT ステートメント 759
 PROC TEMPLATE ステートメント 883
 スタイル定義 958
 テンプレートストア 858
 PROTECTSPECIALCHARS=スタイル属性 999
 PS オプション
 ODS PRINTER ステートメント 549
 PS 形式 249
 PS 出力先
 閉じる 572
 開く 572
 PURE_STYLE=イベント属性 1186
 PUTLOG ステートメント
 TEMPLATE プロシジャ 1198
 PUTL ステートメント
 TEMPLATE プロシジャ 1197
 PUTQ ステートメント
 TEMPLATE プロシジャ 1199
 PUTSTREAM ステートメント
 TEMPLATE プロシジャ 1201
 PUTVARS ステートメント
 TEMPLATE プロシジャ 1201
 PUT ステートメント
 ODS 59, 738
 TEMPLATE プロシジャ 1195
 PYX タグセット 619
- ## R
- RAM モデル 1260
 RAW 関数 226
 RECORD_SEPARATOR=オプション
 ODS MARKUP ステートメント 431
 ODS RTF ステートメント 584
 RECORD_SEPARATOR オプション
 ODS CHTML ステートメント 144
 ODS CSVALL ステートメント 176
 ODS DOCBOOK ステートメント 210
 ODS HTML3 ステートメント 277
 ODS HTMLCSS ステートメント 360
 ODS HTML ステートメント 311
 ODS IMODE ステートメント 393
 ODS PHTML ステートメント 530
 ODS TAGSETS.RTF ステートメント 665
 ODS WML ステートメント 732
 ODS タグセットステートメント 643
 REGISTERED_TM=タグセット属性 1183
 REG プロシジャ
 ODS テーブル名 1306
 REMOVE オプション
 ODS PATH ステートメント 478
 PATH ステートメント(TEMPLATE) 866
 RENAME TO ステートメント
 DOCUMENT プロシジャ 794
 REPEAT ヘッダー属性 1094
 REPLAY ステートメント
 DOCUMENT プロシジャ 794
 REPORT プロシジャ
 ODS テーブル名 1255
 スタイル定義 43
 REQUIRED_SPACE=テーブル属性 1108
 RESET=オプション
 ODS GRAPHICS ステートメント 244
 RESET オプション
 ODS GRAPHICS ステートメント 244
 ROBUSTREG プロシジャ
 ODS テーブル名 1308
 RSREG プロシジャ
 ODS テーブル名 1310

- RTF 出力 573, 587, 669, 1060
 - 改ページ 585, 666
 - 改ページでテーブルを分割する 582, 660
 - グラフィック 588
 - サンプル 24
 - タイトル 582, 659
 - テキストの挿入 586, 668
 - フットノート 581, 582, 659, 660
 - 変換表 587, 668
 - RTF 出力先 37, 573
 - 開始 653
 - 管理 653
 - 終了 576, 587, 653
 - 出力オブジェクトの除外 576
 - 出力オブジェクトの選択 576
 - 開く 587
 - ログへの選択リストと除外リストの書き込み 576
 - RTF ファイル
 - SAS プログラムの日時 585
 - 作成 582, 660
 - スタイル定義 586, 667
 - レコードセパレータ 584, 665
 - RULES=スタイル属性 999
- S**
- SAS/ETS プロシジャ
 - ODS テーブル名 1319
 - SAS/STAT プロシジャ
 - ODS テーブル名 1257
 - SASDATE オプション
 - ODS RTF ステートメント 585
 - SASEDOC エンジン
 - LIBNAME ステートメント 113
 - SASEDOC 引数
 - LIBNAME ステートメント 113
 - SAS エクスプローラウィンドウ
 - 利用可能なスタイルのリスト 42, 650
 - SAS 出力形式が使用される出力先 34
 - SAS 出力形式が使用されるステートメント 96
 - SCALE=オプション
 - ODS GRAPHICS ステートメント 245
 - SCALEMARKERS=オプション
 - ODS GRAPHICS ステートメント 246
 - SCALE オプション
 - ODS GRAPHICS ステートメント 245
 - SELECT アクション
 - ODS PS ステートメント 563
 - SELECT オプション
 - ODS CHTML ステートメント 120
 - ODS DOCBOOK ステートメント 186
 - ODS HTML3 ステートメント 253
 - ODS HTMLCSS ステートメント 336
 - ODS HTML ステートメント 287
 - ODS IMODE ステートメント 370
 - ODS PHTML ステートメント 506
 - ODS TAGSETS.RTF ステートメント 655
 - ODS WML ステートメント 708
 - ODS タグセットステートメント 617
 - SELECT 操作
 - ODS CSVALL ステートメント 153
 - ODS DOCUMENT ステートメント 217
 - ODS LISTING ステートメント 400
 - ODS MARKUP ステートメント 407
 - ODS PCL ステートメント 480
 - ODS PDF ステートメント 489
 - ODS PRINTER ステートメント 539
 - ODS RTF ステートメント 576
 - SEPARATOR=列属性 1084
 - SETLABEL ステートメント
 - DOCUMENT プロシジャ 800
 - SET ステートメント
 - TEMPLATE プロシジャ 1203
 - SGE=オプション
 - ODS LISTING ステートメント 403
 - SHORT_MAP タグセット 647
 - SHOW アクション
 - ODS PS ステートメント 563
 - SHOW 引数
 - ODS OUTPUT ステートメント 457
 - SHOW オプション
 - ODS CHTML ステートメント 120
 - ODS DOCBOOK ステートメント 186
 - ODS HTML3 ステートメント 253
 - ODS HTMLCSS ステートメント 337
 - ODS HTML ステートメント 287
 - ODS IMODE ステートメント 370
 - ODS PHTML ステートメント 506
 - ODS TAGSETS.RTF ステートメント 655
 - ODS WML ステートメント 708
 - ODS タグセットステートメント 617
 - SHOW 操作
 - ODS CSVALL ステートメント 153
 - ODS DOCUMENT ステートメント 217
 - ODS LISTING ステートメント 401
 - ODS MARKUP ステートメント 407
 - ODS OUTPUT ステートメント 455
 - ODS PCL ステートメント 480
 - ODS PDF ステートメント 489
 - ODS PRINTER ステートメント 539
 - ODS RTF ステートメント 576
 - SIGMA 関数 226
 - SIMLIN プロシジャ
 - ODS テーブル名 1329
 - SORT=オプション
 - LIST ステートメント(TEMPLATE) 861
 - SOURCE ステートメント

- TEMPLATE プロシジャ 866
- SPACE=ヘッダー属性 1095
- SPACE=列属性 1084
- SPECTRA プロシジャ
 - ODS テーブル名 1329
- SPILL_ADJ ヘッダー属性 1095
- SPILL_MARGIN ヘッダー属性 1095
- SPLIT_STACK テーブル属性 1108
- SPLIT=タグセット属性 1183
- SPLIT=ヘッダー属性 1095
- SQL プロシジャ
 - ODS テーブル名 1255
 - 利用可能なスタイルのリスト 42
- STACKED_COLUMNS=タグセット属性 1183, 1240
- START=ヘッダー属性 1096
- STARTCOLOR=スタイル属性 999
- STARTPAGE=オプション
 - ODS PCL ステートメント 485
 - ODS PDF ステートメント 497
 - ODS PRINTER ステートメント 549
 - ODS PS ステートメント 571
 - ODS RTF ステートメント 585
- STARTPAGE オプション
 - ODS TAGSETS.RTF ステートメント 666
- START オプション
 - TRIGGER ステートメント(TEMPLATE) 1207
- STATESPACE プロシジャ
 - ODS テーブル名 1329
- STATIC オプション
 - ODS GRAPHICS ステートメント 243
- STATS=オプション
 - LIST ステートメント(TEMPLATE) 861
- STDIZE プロシジャ
 - ODS テーブル名 1310
- STEPPDISC プロシジャ
 - ODS テーブル名 1310
- STOP ステートメント
 - TEMPLATE プロシジャ 1207
- STORE=オプション
 - DEFINE COLUMN ステートメント (TEMPLATE) 1073
 - DEFINE CROSSTABS ステートメント (TEMPLATE) 891
 - DEFINE HEADER ステートメント (TEMPLATE) 1088
 - DEFINE STYLE ステートメント (TEMPLATE) 959
 - DEFINE TABLE ステートメント (TEMPLATE) 1099
 - DEFINE TAGSET ステートメント (TEMPLATE) 1178
 - EDIT ステートメント(TEMPLATE) 962, 1112
 - LINK ステートメント(TEMPLATE) 860
 - LIST ステートメント(TEMPLATE) 862
 - SOURCE ステートメント(TEMPLATE) 867
 - TEST ステートメント(TEMPLATE) 870
- STYLE_DISPLAY タグセット 647
- STYLE_POPUP タグセット 647
- STYLE=イベント属性 1186
- STYLE=オプション
 - ODS MARKUP ステートメント 432
 - ODS PCL ステートメント 485
 - ODS PDF ステートメント 498
 - ODS PRINTER ステートメント 550
 - ODS PS ステートメント 571
 - ODS RTF ステートメント 586
- STYLE=テーブル属性 1108
- STYLE=ヘッダー属性 1096
- STYLE=列属性 1084
- STYLESHEET=オプション
 - ODS MARKUP ステートメント 432
- STYLESHEET オプション
 - ODS CHTML ステートメント 145
 - ODS CSVALL ステートメント 177
 - ODS DOCBOOK ステートメント 211
 - ODS HTML3 ステートメント 278
 - ODS HTMLCSS ステートメント 361
 - ODS HTML ステートメント 312
 - ODS IMODE ステートメント 395
 - ODS PHTML ステートメント 531
 - ODS WML ステートメント 733
 - ODS タグセットステートメント 644
- STYLE オプション
 - ODS CHTML ステートメント 145
 - ODS CSVALL ステートメント 177
 - ODS DOCBOOK ステートメント 210
 - ODS HTML3 ステートメント 277
 - ODS HTMLCSS ステートメント 361
 - ODS HTML ステートメント 312
 - ODS IMODE ステートメント 394
 - ODS PHTML ステートメント 531
 - ODS TAGSETS.RTF ステートメント 667
 - ODS WML ステートメント 733
 - ODS タグセットステートメント 643
- STYLE 関数 226
- STYLE ステートメント
 - TEMPLATE プロシジャ 958, 965
- SUBJECT=オプション
 - ODS PDF ステートメント 498
 - ODS PRINTER ステートメント 550
- SUB 関数 227
- SUMMARY プロシジャ
 - ODS テーブル名 1255
- SUPER 関数 227
- SURVEYFREQ プロシジャ
 - ODS テーブル名 1311

- SURVEYLOGISTIC プロシジャ
 ODS テーブル名 1312
 SURVEYMEANS プロシジャ
 ODS テーブル名 1314
 SURVEYREG プロシジャ
 ODS テーブル名 1314
 SURVEYSELECT プロシジャ
 ODS テーブル名 1315
 SYSLIN プロシジャ
 ODS テーブル名 1330
- T**
- TABLEROWS オプション
 ODS TAGSETS.RTF ステートメント
 667
 TABULATE プロシジャ
 ODS テーブル名 1256
 スタイル定義 43
 TAGATTR=スタイル属性 1000
 TAGSET.RTF 出力
 グラフィック 670
 TAGSET=オプション
 ODS MARKUP ステートメント 435
 tagsets.rtf
 MEAS_EVENT_MAP 668
 MEAS_SHORT_MAP 669
 MEAS_TEXT_MAP 669
 TEMPLATE=オプション
 ODS PACKAGE ステートメント 472
 TEMPLATE=サブオプション
 FILE PRINT ODS ステートメント 67,
 108
 TEMPLATE プロシジャ 845
 カテゴリ別のステートメント 852
 クロス集計表出力の構文 882
 構文 845
 スタイル定義 944
 スタイル定義の構文 957
 スタイル定義の作成 942
 スタイル定義の変更 847
 タグセットの作成 848, 1166
 タスクテーブル 845, 852, 858
 テーブル出力 1060, 1073
 テーブル定義の変更 846
 定義ステートメント 1060
 定義の検索順序 477
 定義の保存場所 477
 テンプレートストア 856
 テンプレートストアの管理 856
 テンプレートストアの構文 858
 マークアップ言語 1166
 ユーザー定義のテーブル定義テンプレ
 ート 87
 用語 842
 利用可能なスタイルのリスト 42, 650
- 例 1008
 TEST ステートメント
 TEMPLATE プロシジャ 870
 TEXT_MAP タグセット 647
 TEXT_SPLIT=列属性 1085
 TEXT=オプション
 ODS MARKUP ステートメント 420
 ODS PCL ステートメント 486
 ODS PDF ステートメント 498
 ODS PRINTER ステートメント 550
 ODS PS ステートメント 572
 ODS RTF ステートメント 586
 TEXT2 ステートメント
 TEMPLATE プロシジャ 1117
 TEXT3 ステートメント
 TEMPLATE プロシジャ 1117, 1118
 TEXTALIGN=スタイル属性 1000
 TEXTDECORATION=スタイル属性
 1001
 TEXTINDENT=スタイル属性 1001
 TEXTJUSTIFY=スタイル属性 1001
 TEXT オプション
 ODS CHTML ステートメント 148
 ODS DOCBOOK ステートメント 213
 ODS HTML3 ステートメント 280
 ODS HTMLCSS ステートメント 364
 ODS HTML ステートメント 315
 ODS IMODE ステートメント 397
 ODS MARKUP ステートメント 436
 ODS PHTML ステートメント 534
 ODS TAGSETS.RTF ステートメント
 668
 ODS WML ステートメント 736
 ODS タグセットステートメント 647
 TEXT ステートメント 900
 TEMPLATE プロシジャ 900, 1116
 THISPAGE 関数 227
 TIMEPLOT プロシジャ
 ODS テーブル名 1256
 TIMESERIES プロシジャ
 ODS テーブル名 1332
 TIPMAX=オプション
 ODS GRAPHICS ステートメント 246
 TITLE=オプション
 ODS PDF ステートメント 498
 ODS PRINTER ステートメント 551
 ODS RTF ステートメント 586
 TITLE オプション
 ODS TAGSETS.RTF ステートメント
 668
 TOC_DATA=オプション
 ODS RTF ステートメント 587
 TOCENTRYINDENT 関数 227
 TOCENTRYPAGE 関数 227
 TOP_SPACE=テーブル属性 1109
 TPL_STYLE_LIST タグセット 647

- TPL_STYLE_MAP タグセット 648
 TPSPLINE プロシジャ
 ODS テーブル名 1315
 TRADEMARK=タグセット属性 1184
 TRANSLATE INTO ステートメント
 TEMPLATE プロシジャ 1118
 TRANSLATE-INTO ステートメント,
 TEMPLATE プロシジャ
 テーブル定義 1118
 TRANSPARENCY=スタイル属性 1002
 TRANSREG プロシジャ
 ODS テーブル名 1316
 TRANTAB=オプション
 ODS MARKUP ステートメント 436
 ODS RTF ステートメント 587
 TRANTAB オプション
 ODS CHTML ステートメント 148, 180,
 214
 ODS HTML3 ステートメント 281
 ODS HTMLCSS ステートメント 364
 ODS HTML ステートメント 315
 ODS IMODE ステートメント 397
 ODS PHTML ステートメント 534
 ODS TAGSETS.RTF ステートメント
 668
 ODS WML ステートメント 736
 ODS タグセットステートメント 647
 TREE プロシジャ
 ODS テーブル名 1317
 TRIGGER=ステートメント
 TEMPLATE プロシジャ 1232
 TRIGGER ステートメント
 TEMPLATE プロシジャ 1207
 TRUNCATE ヘッダー属性 1097
 TSCSREG プロシジャ
 ODS テーブル名 1332
 TTEST プロシジャ
 ODS テーブル名 1318
 TYPE=テーブル属性 1109
- U**
 UNBLOCK ステートメント
 TEMPLATE プロシジャ 1208
 UNDERLINE テーブル属性 1109
 UNDERLINE ヘッダー属性 1097
 UNDERLINE 列属性 1086
 UNHIDE ステートメント
 DOCUMENT プロシジャ 800
 UNICODE 関数 228
 Unicode 記号 221
 UNIFORM オプション
 ODS PCL ステートメント 486
 ODS PDF ステートメント 499
 ODS PRINTER ステートメント 551
 ODS PS ステートメント 572
- ODS TAGSETS.RTF ステートメント
 668
 UNIVARIATE プロシジャ
 ODS テーブル名 1256
 UNIX
 プリンタで出力を直接印刷する 552
 UNSET ステートメント
 TEMPLATE プロシジャ 1208
 URL=オプション
 ODS LISTING ステートメント 403
 URL=スタイル属性 1002
 USE_FORMAT_DEFAULTS テーブル
 属性 1109
 USE_NAME テーブル属性 1109
- V**
 VARCLUS プロシジャ
 ODS テーブル名 1318
 VARCOMP プロシジャ
 ODS テーブル名 1318
 VARIABLES=サブオプション
 FILE PRINT ODS ステートメント 67,
 108
 VARMAX プロシジャ
 ODS テーブル名 1333
 VARNAME=列属性 1086
 VERTICALALIGN=スタイル属性 1002
 VISITEDLINKCOLOR=スタイル属性
 1002
 VJUST=ヘッダー属性 1098
 VJUST=列属性 1086
 VMS
 プリンタで出力を直接印刷する 552
- W**
 WAP (Wireless Application Protocol)
 705
 WATERMARK=スタイル属性 1002
 WHERE 式
 DOCUMENT プロシジャ 761, 766,
 777, 783, 796
 WIDTH_MAX=列属性 1086
 WIDTH=オプション
 ODS GRAPHICS ステートメント 246
 WIDTH=スタイル属性 1003
 WIDTH=ヘッダー属性 1098
 WIDTH=列属性 1086
 Windows
 ODS PRINTER ステートメント 553
 プリンタで出力を直接印刷する 552
 Wireless Application[1]Protocol (WAP)
 705
 Wireless Markup Language DTD 705
 WMLOLIST タグセット 619

WML 出力先 705
 WML タグセット 619
 WRAP_SPACE テーブル属性 1110
 WRAP テーブル属性 1110

X

X11 プロシジャ
 ODS テーブル名 1337
 X12 プロシジャ
 ODS テーブル名 1342
 XDENT ステートメント
 TEMPLATE プロシジャ 1210
 XML 出力
 DocBook DTD 183
 サンプル 26
 XML タグセット 618
 XML ファイル
 DTD で作成 442
 作成 440

Z

z/OS
 プリントで出力を直接印刷する 552

あ

アイテムストア
 定義 842
 アクション
 ODS CHTML ステートメント 120
 ODS DOCBOOK ステートメント 186
 ODS HTMLCSS ステートメント 336
 ODS IMODE ステートメント 369
 ODS WML ステートメント 708
 ODS タグセットステートメント 617
 圧縮
 PDF ファイル 492, 542
 アプレット
 HTML 出力の表示 121, 154, 187,
 254, 287, 337, 370, 408, 507, 620,
 709
 アンカータグ
 ベース名 120, 153, 186, 253, 287, 337,
 370, 407, 506, 576, 620, 655, 708
 用のルート名 563
 ルート名 489, 539
 イベント 1167
 DEFINE EVENT ステートメント 1185
 実行 1207, 1232
 実行を中断します。 1187
 スタイルシートを含む 1240
 タグセット定義での継承 1171
 定義 842
 複数のスタイル 1237

無効化 1186
 無効化されたイベントを有効化します。
 1208

イベントステートメントの条件 1217
 イベント属性 1185
 イベント定義 1168
 イベントの継承 1171
 イベント変数
 引用 1198
 出力ファイルへの書き込み 1195, 1201
 定義 1169
 表示 1170
 リスト 1211
 ログへの書き込み 1198

色

ODS PCL ステートメント 480
 ODS PDF ステートメント 491
 ODS PRINTER ステートメント 541
 ODS PS ステートメント 565

引数

ODS OUTPUT ステートメント 455
 インデックスカウンタ

リセット 244

インデント 1234

引用符

イベント変数 1199
 スタイル変数 1199

インラインスタイル属性

ネスト 220

インラインフォーマット 220, 222

Unicode 記号 221
 エスケープ文字 219
 ネストした 220

インラインフォーマット関数 223**エスケープ文字**

インラインフォーマット 219

エントリ

BY グループのエントリの表示 827

ODS 出力先に表示する 794

移動 782

管理 818

結果ウィンドウに表示する 806

削除 765

指定したパスへのコピー 760

名前 754

非表示エントリを出力に表示する 800

プロパティの表示 808

リスト表示 775, 810

連番 754

オーバーフローコントロールオプション

FILE PRINT ODS ステートメント 63,
 104

オプション

ODS CHTML ステートメント 120

ODS CSVALL ステートメント 153

ODS DOCBOOK ステートメント 186

- ODS HTML3 ステートメント 253
 - ODS HTMLCSS ステートメント 337
 - ODS IMODE ステートメント 370
 - ODS LISTING ステートメント 401
 - ODS MARKUP ステートメント 407
 - ODS PHTML ステートメント 506
 - ODS RTF ステートメント 576
 - ODS WML ステートメント 708
- か**
- 改ページ 485, 497, 549, 571
 - RTF 出力 585, 666
 - 出力オブジェクト 791
 - テーブルの分割 582, 660
 - カスケードスタイルシート 334
 - ODS 出力に適用する 448
 - 情報をスタイル定義にインポートする 963
 - 複数, 1 つの HTML ドキュメント 447
 - カスタマイズされた出力 49
 - 出力オブジェクト 50
 - カスタム凡例を含むクロス集計のテーブルテンプレート 917
 - 画像形式 243
 - 画像ファイル
 - インデックスカウンタのリセット 244
 - 画像ファイル名 243
 - カタログ
 - GSREG のコピー 217
 - 関数
 - タグセットの定義 1174
 - カンマ区切りの出力 150
 - グラフ
 - テンプレートベース 239
 - 平滑化 241
 - グラフィック
 - ODS RTF ステートメント 588
 - ODS TAGSET.RTF ステートメント 670
 - 再表示 801
 - グラフィック出力
 - タイトル 137, 170, 203, 270, 304, 354, 387, 425, 523, 636, 725
 - フットノート 136, 169, 202, 269, 303, 352, 385, 423, 522, 635, 724
 - 保存場所 136, 169, 202, 269, 304, 353, 386, 402, 424, 522, 636, 724
 - グラフィックの再表示 801
 - グラフオプション
 - ODS に対して有効化 702, 703
 - ODS の設定 701
 - グラフスタイル 947, 1032
 - グラフセグメント(GRSEG)
 - カタログへのコピー 217
 - 現在のディレクトリにインポートする 773
 - グラフ定義
 - 定義 842
 - グラフの平滑化 241
 - グローバルステートメント
 - ODS 95
 - カテゴリ説明 98
 - クロス集計表のテンプレートの使用 903
 - 継承 949
 - サンプルプログラム 1365
 - スタイル要素 1387
 - タグセットの作成 1218
 - 結果ウィンドウ 806
 - ODS 出力のトラッキング 573
 - エントリの表示 806
 - とドキュメントウィンドウ 807
 - 現在のディレクトリ
 - GRSEG のインポート 773
 - データセットのインポート 773
 - 文字列の作成 787
 - 現在のドキュメント
 - 終了 772
 - 互換性
 - ODS ドキュメント 756
 - コンテンツファイル 1381
- さ**
- サードパーティ製の出力形式が使用されるステートメント 96
 - サードパーティフォーマットの出力先 35
 - 定義 34
 - フォーマットコントロール 37
 - 参照
 - 参照項目: HTML 参照
 - サンプル
 - オペレーティング環境 1385
 - 集計保存場所
 - 定義 842
 - 出力オブジェクト 755
 - LISTING 出力先から除外する 400
 - LISTING 出力先に選択する 400
 - ODS 出力先から除外する 232
 - RTF 出力 1060
 - 階層 216
 - 改ページ 791
 - カスタマイズされた出力 50
 - 作成 62, 103
 - 指定 698
 - 出力先の指定 50, 455
 - シンボリックリンク 774
 - 属性 755
 - データセット 455, 462
 - トレース 696
 - 名前 66, 107
 - 名前の変更 794
 - フットノート 790

- ライブラリ参照名 113
- ラベル 67, 108
- リスト出力 1060
- 類似しないオブジェクトをデータセットにマージする 458
- 連番 113
- ログのレコード 696
- を ODS 出力先として選択する 598
- 出力形式
 - 列 69, 110
- 出力先
 - 除外リスト 455
- 出力先固有の入力 34
- 出力ポインタ
 - 行数 63, 104
- 出力文字列
 - 解釈 223
- 出力を制御するステートメント 96
- 小数点
 - 数値列 182
- 除外リスト 49
 - OUTPUT 出力先 455
 - 出力オブジェクトの出力先 50
 - ログへの書き込み 614
- シンボリックリンク
 - 出力オブジェクト 774
- 数値
 - 変換 1118
- 数値列
 - 位置揃え 182
- 数値を変換する 1118
- スタイルシート
 - イベントに含める 1240
 - カスケード 334
- スタイル属性 38
 - 値 968
 - 色 1004
 - 参照 1007
 - 出力形式 1007
 - 寸法 1006
 - データ値 968
 - テーブル 968
 - 定義 39
 - フォント定義 1006
- スタイル定義 944
 - CSS 情報をインポートする 963
 - HTML 942, 943, 945
 - ODS MARKUP ステートメント 145, 177, 210, 277, 312, 361, 394, 432, 531, 643, 733
 - ODS PCL ステートメント 485
 - ODS PDF ステートメント 498
 - ODS PRINTER ステートメント 550
 - ODS PS ステートメント 571
 - RTF ファイル 586, 667
 - SAS 提供 42
 - TEMPLATE プロシジャを使用した作成 942
- 値の検証 704
- コンテンツの表示 945
- 作成 959
- 終了 962
- 情報 958
- スタンドアロンの作成 1008, 1040
- 定義 39, 842
- デフォルトマークアップ言語 945
- プロシジャ 43
- 変更 847
- ユーザー定義の属性を使用した作成 1015
- スタイル定義属性 964
- スタイル変数
 - 引用 1199
 - 定義 1169
- スタイル要素
 - 継承 1387
 - 作成 958
 - 設定 1144, 1150
 - テーブルのセル 1064
 - 定義 39, 842
 - 似ている名前のスタイル要素から作成する 960
 - 変更 946
 - 列 セル 884
- ストリーム
 - 削除 1188
 - 作成 1194
 - 終了 1187
 - 出力ファイルにコンテンツの書き込み 1201
 - バッファ出力の書き込み 1191
 - 開く 1194
- ストリーム変数
 - 出力ファイルへの書き込み 1201
 - 定義 1170
- セルの値にカスタム形式を追加 929
- 選択リスト 49
 - OUTPUT 出力先 455
 - 出力オブジェクトの出力先 50
 - 複数のプロシジャステップ 601
 - ログへの書き込み 614
- ソースコード
 - テンプレートストア定義 866
 - ログへの書き込み 866
- 操作
 - ODS CSVALL ステートメント 153
 - ODS DOCUMENT ステートメント 216
 - ODS HTML3 ステートメント 253
 - ODS LISTING ステートメント 400
 - ODS MARKUP ステートメント 404
 - ODS OUTPUT ステートメント 455
 - ODS PHTML ステートメント 506

- ODS PRINTER ステートメント 539
- ODS RTF ステートメント 576
- た**
- 代替ヘッダーテキスト 1117, 1118
- 代替ラベルテキスト 1117, 1118
- タイトル
 - ODS ドキュメント 793
 - RTF 出力 582, 659
 - カスタマイズ 801
 - グラフィック出力 137, 170, 203, 270, 304, 354, 387, 425, 523, 636, 725
 - 出力のプロシジャタイトル 560
 - ファイルのメタデータ 498, 551, 586, 668
 - プリンタ出力 483, 495, 545, 568
- タグセット 36, 1166
 - CHTML 618
 - CSV 618
 - CSVALL 618
 - CSVBYLINE 618
 - DOCBOOK 618
 - Event_Map 1171
 - EVENT_MAP 647
 - EVENT_MAP タグセットを使用して定義。 1171
 - HTML 283
 - HTML4 618
 - HTMLCSS 618
 - IMODE 619
 - MVSHTML 619
 - NAMEDHTML 647
 - ODS 出力先としての 2 レベル名 439
 - ODS 出力先としてのキーワード 439
 - ODS 出力先としての名前 446
 - PHTML 619
 - PYX 619
 - SHORT_MAP 647
 - STYLE_DISPLAY 647
 - STYLE_POPUP 647
 - TEMPLATE プロシジャを使用した作成 1166
 - TEXT_MAP 647
 - TPL_STYLE_LIST 647
 - TPL_STYLE_MAP 648
 - WML 619
 - WMLOLIST 619
 - XML 618
 - 関数を使用して定義 1174
 - キーワード値 435
 - 継承からの作成 1218
 - 作成 848, 1170, 1228
 - ステートメント 614
 - ソースをコピーして作成 1224
 - 定義 1174
 - 名前の指定 1166
 - 名前のリスト 1166
 - 変数 1169
 - ユーザー定義 619
 - リスト 31
- タグセットステートメント 614
- タグセット定義
 - STACKED_COLUMNS 属性 1240
 - イベント 1167
 - イベントの継承 1171
 - コンテンツの表示 1167
 - 作成 1177
 - 終了 1190
 - 定義 843
 - メモ 1194
- タグ属性
 - 動的グラフィック 122, 154, 187, 254, 288, 338, 371, 408, 508, 621, 710
- ダブルトレーリング@
 - PUT_ODS ステートメント 60, 739
- データコンポーネント
 - テーブル定義にバインド 62, 103
 - 列 64, 105
 - 列属性の値 69, 110
 - 列の数 61, 741
- データセット
 - MATCH_ALL オプションを使用した作成、使用しない作成 465
 - 現在のディレクトリにインポートする 773
 - 出力オブジェクト 455
 - 出力データセットの結合 458
 - 類似しない出力オブジェクトのマージ 458
 - 類似する出力オブジェクト 462
- データパネル 401
- テーブル
 - 改ページで分割する 582, 660
 - セルスタイル 1064
 - ページ間で統一 486, 499, 572
 - ページ間で統一する 551
 - メモ 900, 1116
 - 列の位置揃え 1122
- テーブル出力 150, 1060
 - TEMPLATE プロシジャ 1073
 - 変更 1125
 - 例 1125
- テーブル属性 1100
 - 定義 38
- テーブル定義 1060
 - 値の検証 704
 - コンテンツの表示 1063
 - 作成 1063, 1098, 1136
 - 指定 67, 108
 - 終了 898, 1112
 - 属性 1100

データコンポーネントのバインド 62,
 103
 定義 38, 842
 定義の作成 1071
 変更 846
 編集 961, 1063, 1111, 1125
 編集と作成 1063
 ユーザー定義のテンプレート 87
 テーブルテンプレートの作成 1071
 テーブルのフッター 1087
 テーブル要素
 定義 38, 843
 テーブル列
 フォーマット 1123
 両端揃え 1122
 ディレクトリ
 移動 810
 作成 781
 名前の変更 794
 テキスト
 ODS 出力に挿入する 692
 デフォルトのデバイス 299, 401, 419, 580
 テンプレートストア 855, 856
 アイテムのリスト表示 860
 管理 856
 定義 843
 定義のリスト表示 871, 872
 テンプレートストア定義
 コンテンツ 856
 コンテンツの表示 856
 削除 859
 ソースコードをログに書き込む 866
 ソースの表示 874
 テスト 870
 リスト表示 871, 872
 リンク 859
 動的グラフィック出力
 タグ間の属性 122, 154, 187, 254, 288,
 338, 371, 408, 508, 621, 710
 タグ間のパラメータ 143
 動的属性
 デフォルト値 65, 106
 動的変数 897, 1110
 出力ファイルへの書き込み 1201
 定義 1169
 ドキュメントウィンドウ 803
 DOCUMENT プロシジャ 809
 結果ウィンドウ 807
 ショートカットの作成 809
 ポップアップメニュー 804
 トレースレコード 696, 697
 トレーリング@
 PUT_ODS_ステートメント 60, 739

な

ネスト
 インラインスタイル属性 220
 ネストしたインラインフォーマット 220

は

パーシスタンス
 ODS ドキュメント 754
 パッケージオブジェクト
 終了 469
 追加 469
 パブリッシュ 469
 開く 469
 バッチジョブ
 ODS GRAPHICS ステートメント 247
 バッファ
 列の数 61, 741
 凡例を含まないクロス集計のカスタムテ
 ーブルテンプレートの作成 905
 ファイルの種類 248
 サポートされる種類 249
 ブックマーク
 PDF ファイル 490, 491, 540, 541, 564,
 565
 フッター
 宣言された記号 1112
 として宣言されたシンボル 884
 フッター定義
 作成 1087
 編集 961, 1111
 フッターテンプレートの作成 1087
 フットノート
 RTF 出力 581, 659
 カスタマイズ 801
 グラフィック出力 136, 169, 202, 269,
 303, 352, 385, 423, 522, 635, 724
 出力オブジェクト 790
 プリンタ出力 483, 494, 544, 568
 プリンタ出力
 タイトル 483, 495, 545, 568
 フットノート 483, 494, 544, 568
 プリンタドライバ
 ODS PRINTER ステートメント 545
 フレームファイル 1381
 プロシジャ
 ODS テーブル名、Base SAS 1247
 ODS テーブル名、SAS/ETS 1319
 ODS テーブル名、SAS/STAT 1257
 ODS ドキュメントと Base プロシジャ
 755
 出力オブジェクトからデータセットを作
 成する 462
 出力のタイトル 560
 スタイル定義 43
 テーブル定義の編集 1125

- プロシジャステートメント 96
 - プロパティウィンドウ 808
 - ページファイル 1381
 - ベーステキスト 490, 540, 564, 577, 656
 - HTML 出力 122, 155, 188, 255, 288, 338, 371, 409, 508, 621, 710
 - ヘッダー
 - 記号 1113
 - シンボル 884
 - 代替 1064
 - ヘッダー属性 1089
 - ヘッダー定義
 - 作成 1087
 - 属性 1089
 - 編集 961, 1111
 - ヘッダーテキスト 900, 1116
 - 変換表
 - RTF 出力 587, 668
 - 変換テーブル
 - ODS MARKUP ステートメント 436
 - 変数
 - イベント変数 1184
 - タグセット 1169
 - ポインタ
 - 行端を超える 61, 741
 - ボディファイル 1378
 - 作成 139, 171, 204, 271, 306, 355, 388, 426, 484, 496, 524, 546, 569, 638, 726
 - 出力のページごとにファイルを別にする 321
- ま**
- マークアップ言語 404, 1166
 - デフォルトのスタイル定義 945
 - デフォルトのスタイル定義の変更 1024
 - マークアップファイル
 - 保存場所 143, 176, 209, 276, 310, 360, 393, 431, 529, 583, 642, 664, 731
 - マクロ変数
 - 記号を使用した参照(MVAR) 1114
 - 記号を使用した参照(NMVAR) 1115
 - メタデータ 583, 660
 - キーワードの文字列 495, 545, 569
 - 作成者 490, 540, 564, 577, 656
 - サブジェクト 498, 550
 - タイトル 498, 551, 586, 668
 - メモリ変数
 - 出力ファイルへの書き込み 1201
 - 目次
 - ODS PDF ステートメント 493
 - ODS PRINTER ステートメント 543, 546
 - 文字セット
 - HTML 出力の META 宣言 125, 158, 191, 258, 291, 341, 374, 412, 511, 624, 713
 - 文字列
 - 現在のディレクトリに作成する 787
 - モバイルメディア(日本) 619
- や**
- ユーザー定義のタグセット 619
 - ユーザー定義の変数 1169
 - 削除 1208
 - 指定 1203
- ら**
- ライブラリ参照名
 - ODS ドキュメントに割り当てる 114
 - 出力オブジェクトに関連付ける 113
 - ラインポインタコントロール
 - ODS 61, 740
 - ラベル
 - ODS ドキュメント 760, 771
 - カスタマイズ 801
 - 指定したパスに割り当てる 800
 - 出力オブジェクト 67, 108
 - 列 66, 69, 107, 110
 - ラベルテキスト 900, 1116
 - リスト出力 1060
 - 作成 11
 - サンプル 20
 - リスト出力先 35
 - トレースレコードの書き込み 697
 - 両端揃え
 - 数値列 182
 - テーブル列 1122
 - リンク
 - 関連項目*: HTML リンク
 - テンプレートストア定義 859
- 例**
- プログラム 1355
- レジストリ**
- ODS 44
 - ODS 出力先のデフォルト設定の変更 46
 - デフォルトの HTML バージョン設定の変更 45
 - デフォルトプリンタ値の変更 47
- 列**
- ODS PCL ステートメント 481
 - ODS PDF ステートメント 492
 - ODS PRINTER ステートメント 542
 - ODS PS ステートメント 566
 - ODS RTF ステートメント 578
 - 指定 67, 108
 - 出力形式 69, 110

- セルスタイル 884
- 宣言された記号 1068
- 属性の割り当て 80
- データコンポーネント 64, 105
- データコンポーネント内の数 61, 741
- バッファ内の数 61, 741
- フォーマット 1123
- ラベル 66, 69, 107, 110
- 両端揃え 182, 1122
- 列属性 1073
 - データコンポーネントの値 69, 110
- 列定義
 - 属性 1073
 - 複数の変数 66, 69, 107, 110
 - 編集 961, 1111
 - 列テンプレートの作成 1072
 - 列ポインタコントロール
 - ODS 60, 739
 - 連番 754
 - ログ
 - イベント変数の書き込み 1198
 - 出力オブジェクトのレコード 696
 - 選択リストと除外リストの書き込み 614
 - ソースコードの書き込み 866